

9.3

IBM MQ リファレンス

IBM

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[1433 ページの『特記事項』](#)に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM® MQ バージョン 9 リリース 3、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様が IBM に情報を送信する場合、お客様は IBM に対し、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で情報を使用または配布する非独占的な権利を付与します。

© Copyright International Business Machines Corporation 2007 年, 2024.

目次

参照	5
構成リファレンス PDF.....	5
管理リファレンス PDF.....	5
アプリケーションの開発のリファレンス PDF.....	5
MQ Telemetry リファレンス.....	5
IBM MQ Telemetry Transport のフォーマットおよびプロトコル.....	5
MQXR プロパティ.....	5
AuthCallback MQXR クラス.....	6
セキュリティに関する参照情報.....	7
API 出口.....	8
API 交差出口.....	9
AIX, Linux, and Windows システム上での証明書の妥当性検査およびトラスト・ポリシーの設計... 10	
Managed File Transfer セキュリティー・リファレンス.....	23
暗号ハードウェア.....	42
SSLPEER 値の IBM MQ 規則.....	43
GSKit: FIPS 140-2 に準拠したデジタル証明書署名アルゴリズム.....	44
AMS メッセージで使用される GSKit 戻りコード.....	45
モニター・リファレンス.....	49
構造データ型.....	49
イベント・データのオブジェクト属性.....	74
イベント・メッセージ参照.....	120
メッセージおよび理由コード.....	234
AMQ メッセージ (Multiplatforms).....	235
IBM MQ Bridge to blockchain の診断メッセージ.....	236
IBM MQ Bridge to Salesforce の診断メッセージ.....	237
IBM MQ Console メッセージ.....	237
IBM MQ Internet Pass-Thru メッセージ.....	238
JSON 形式診断メッセージ.....	259
MFT メッセージ.....	261
REST API メッセージ.....	261
Telemetry メッセージ.....	262
IBM MQ for z/OS のメッセージ・コード、完了コード、および理由コード.....	266
API 完了コードと理由コード.....	1129
PCF 理由コード.....	1342
トークン認証エラー・コード.....	1413
Transport Layer Security (TLS) の戻りコード.....	1418
WCF カスタム・チャンネル例外.....	1423
特記事項	1433
プログラミング・インターフェース情報.....	1434
商標.....	1434

IBM MQ リファレンス

このセクションにある参照情報を使用して、ビジネスの必要に対処するタスクを実行します。

構成リファレンス PDF

2021年5月以降、構成参照情報は別のPDFに移動しました。

[mq93.refconfig.pdf](#) は、[mq93.reference.pdf](#) と同じディレクトリーにあります。

管理リファレンス PDF

2021年5月以降、管理参照情報は別のPDFに移動しました。

[mq93.refadmin.pdf](#) は、[mq93.reference.pdf](#) と同じディレクトリーにあります。

アプリケーションの開発のリファレンス PDF

2021年5月以降、開発中のアプリケーション参照情報は別のPDFに移動しました。

[mq93.refdev.pdf](#) は、[mq93.reference.pdf](#) と同じディレクトリーにあります。

Windows

Linux

AIX

MQ Telemetry リファレンス

MQTT の形式とプロトコル、MQXR プロパティー、および AuthCallback MQXR クラスに関する情報。

Windows

Linux

AIX

IBM MQ Telemetry Transport のフォーマットおよびプロトコル

IBM MQ Telemetry Transport (MQTT) は、多数のリモート・センサーと制御デバイスを接続するための、TCP/IP 上で動作する軽量のパブリッシュ/サブスクライブ・プロトコルです。MQTT は、帯域幅が低く、信頼性のない通信を許容しなければならないフットプリントの小さなデバイス上で、特殊なアプリケーションによって使用されます。ビジネス・パートナーの MQTT クライアント・アプリを使用するか、独自のクライアント・アプリを作成して公開済みプロトコルを使用することができます。Eclipse Paho プロジェクトから、サンプル・クライアント・アプリおよびサポート・ライブラリーを入手できます。

IBM MQ の MQ Telemetry は、MQTT protocol を使用するクライアント・アプリケーションをサポートします。現在、このプロトコルには次の2つの仕様があります。

- MQTT 3.1.1 Oasis 規格
- [mqtt.org](#) からの MQTT.org プロトコル仕様

Oasis の方が新しい規格です。この機能は、[mqtt.org](#) の仕様とほとんど同じです。MQTT 3.1.1 Oasis 規格は IBM MQ 8.0.0 Fix Pack 3 およびそれ以降のバージョンでサポートされています。

MQTT クライアントが Eclipse Paho プロジェクト、または (入手は不可) IBM Messaging Telemetry Clients SupportPac 以外のソースからのものである場合は、クライアントがサポートしている MQTT protocol のバージョンを確認してください。異なるレベルの MQTT protocol がクライアントでサポートされ、MQ Telemetry サービスでクライアントが正しく機能しない場合には、シン変換レイヤーが必要です。クライアントのソースを調べて、使用予定のクライアントに対する更新として変換レイヤーを入手可能かどうか確認してください。

Windows

Linux

AIX

MQXR プロパティー

MQXR プロパティー設定は、プラットフォーム固有のプロパティー・ファイル ([mqxr_win.properties](#) または [mqxr_unix.properties](#)) に保管されます。これらのプロパティーは通常、MQSC 管理コマンドまたは IBM MQ Explorer を使用して構成します。

キュー・マネージャーを初めて開始するときに、ご使用のプラットフォーム用の MQXR プロパティ・ファイルのテンプレート・バージョンが `mqinstall/mqxr/config` ディレクトリーから `mqinstall/qmgrs/qmgr_name/mqxr/config` ディレクトリーにコピーされます。

通常、MQXR プロパティ・ファイルを直接編集する必要はありません。1つの例外を除き、プロパティはすべて MQSC 管理コマンドまたは IBM MQ Explorer で構成できます。ファイルを直接編集する場合、変更を行う前にキュー・マネージャーを停止してください。

ファイルを直接編集することによってのみ設定できるプロパティは、**webcontentpath** です。テレメトリー・クライアント・アプリケーションが Web アプリケーションである場合は、Web アプリケーション実行可能 JavaScript をブラウザーに提供する必要もあります。この要件については、[JavaScript\(tm\) および Web アプリケーション用の MQTT メッセージング・クライアント](#)で説明されています。

webcontentpath プロパティを使用して、Web アプリケーション実行可能ファイルが提供されるディレクトリーを指定します。

- デフォルトでは、**webcontentpath** は MQXR プロパティ・ファイルに存在しません。**webcontentpath** が存在しない場合、MQ テレメトリー・サーバーは、デフォルト・ロケーション `mqinstall/qmgrs/qmgr_name/mqxr/WebContent/your_client_app` から Web アプリケーション実行可能ファイルを提供します。
- **webcontentpath** にパスが指定されている場合、MQ テレメトリー・サーバーは、その場所から Web アプリケーション実行可能ファイルを提供します。
- **webcontentpath** が存在し、ブランクの場合、MQ テレメトリー・サーバーは Web アプリケーション実行可能ファイルを提供しません。

関連概念

[遠隔測定 \(MQXR\) サービス](#)

関連資料

6 ページの『AuthCallback MQXR クラス』

AuthCallback は、パッケージ `com.ibm.mq.mqxr` 内の唯一のクラスです。これは、テレメトリー・サーバー管理者が MQXR サーバーで AuthCallback を作成するときに必要なインターフェース定義を指定します。

Windows

Linux

AIX

AuthCallback MQXR クラス

AuthCallback は、パッケージ `com.ibm.mq.mqxr` 内の唯一のクラスです。これは、テレメトリー・サーバー管理者が MQXR サーバーで AuthCallback を作成するときに必要なインターフェース定義を指定します。

クラス AuthCallback

```
java.lang.Object
└─ com.ibm.mq.mqxr.AuthCallback
```

実装されているインターフェースは次のとおりです。

```
javax.security.auth.callback.Callback
```

```
public class AuthCallback
    extends java.lang.Object
    implements javax.security.auth.callback.Callback
```

これは、JAAS ログイン・モジュール (`javax.security.auth.spi.LoginModule`) による IBM MQ Server オブジェクトへのアクセスを可能にします。

方法

getSSLSession

```
public javax.net.ssl.SSLSession getSSLSession()
```

クライアント接続に関連付けられた `javax.net.ssl.SSLSession` を返します。クライアントがプレーン・テキスト接続を使用して接続されている場合は `NULL` を返します。

setSSLSession

```
public void setSSLSession(javax.net.ssl.SSLSession sslSession)
```

sslSession パラメーターは、サーバーによってクライアント接続に関連付けられた `sslSession` に設定されます。クライアントがプレーン・テキスト接続を使用して接続されている場合は `NULL` に設定されます。

コンストラクター

```
public AuthCallback()
```

関連概念

[遠隔測定 \(MQXR\) サービス](#)

[テレメトリー・チャンネルの JAAS 構成](#)

関連タスク

[問題の解決: JAAS ログイン・モジュールがテレメトリー・サービスによって呼び出されない](#)

関連資料

[5 ページの『MQXR プロパティー』](#)

MQXR プロパティー設定は、プラットフォーム固有のプロパティー・ファイル (`mqxr_win.properties` または `mqxr_unix.properties`) に保管されます。これらのプロパティーは通常、MQSC 管理コマンドまたは IBM MQ Explorer を使用して構成します。

セキュリティーに関する参照情報

IBM MQ のセキュリティーを構成する際には、このセクションの参照情報を使用してください。

関連概念

[8 ページの『API 出口』](#)

API 出口とは、MQI 呼び出しの機能をモニターまたは変更するプログラム・モジュールです。API 出口は、複数の API 出口機能から構成されており、モジュール内の各出口は独自の入り口点を持っています。

[9 ページの『API 交差出口』](#)

API 交差出口は、z/OS 上の CICS アプリケーションによって発行される MQI 呼び出しの機能をモニターまたは変更するプログラムです。

[10 ページの『AIX, Linux, and Windows システム上での証明書の妥当性検査およびトラスト・ポリシーの設計』](#)

IBM MQ は、2 種類のポリシー (基本および標準) に応じて TLS 証明書の妥当性検査を実行します。標準ポリシーの検査は、RFC 5280 に準拠して行われます。

[42 ページの『暗号ハードウェア』](#)

IBM MQ が暗号化ハードウェアをサポートする方法は、使用しているプラットフォームによって異なります。

[43 ページの『SSLPEER 値の IBM MQ 規則』](#)

SSLPEER 属性は、IBM MQ チャンネルの相手側にあるピア・キュー・マネージャーまたはピア・クライアントから送られてくる証明書の識別名 (DN) を検査するときに使用される属性です。IBM MQ は、一定の規則に基づいてその値を比較します。

[CipherSpec のミスマッチ](#)

[認証の失敗](#)

[メッセージ・チャンネルでの Advanced Message Security インターセプトの概要](#)

関連資料

44 ページの『GSKit: FIPS 140-2 に準拠したデジタル証明書署名アルゴリズム』

FIPS 140-2 に準拠した IBM Global Security Kit (GSKit) のデジタル証明書署名アルゴリズムのリスト

API 出口

API 出口とは、MQI 呼び出しの機能をモニターまたは変更するプログラム・モジュールです。API 出口は、複数の API 出口機能から構成されており、モジュール内の各出口は独自の入り口点を持っています。

注：このセクションの情報は、IBM MQ for z/OS には適用されません。

出口機能には、次の 2 つのカテゴリーがあります。

MQI 呼び出しに関連付けられている出口機能

このカテゴリーには MQI 呼び出しごとの 2 つの出口機能、および MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出し用の追加の出口機能があります。MQCONN および MQCONNX 呼び出しは、同じ出口機能を共有します。

MQI 呼び出しごとに、キュー・マネージャーが呼び出しの処理を開始する前に、2 つの出口機能の一方が起動され、キュー・マネージャーが呼び出しの処理を完了した後に、もう一方の出口機能が起動されます。MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しの出口機能は、キュー・マネージャーによってメッセージがキューから取り出された後から、任意のデータ変換が行われる前までの間に、MQGET 呼び出し中に起動されます。例えば、これによって、データ変換前にメッセージを復号できます。

出口機能は、MQI 呼び出し上の任意のパラメーターを検査し、変更することができます。例えば、MQPUT 呼び出し時に、呼び出しの処理前に起動される出口機能は、次のことを行うことができます。

- キューに入れられるメッセージ内のアプリケーション・データのコンテンツを検査し、変更する
- メッセージ内のアプリケーション・データの長さを変更する
- メッセージ記述子構造 MQMD 内のフィールドのコンテンツを変更する
- put message options 構造 MQPMO 内のフィールドのコンテンツを変更する

MQI 呼び出しの処理が開始する前に起動される出口機能は、その呼び出しを完全に抑止することができます。MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しの出口機能は、取り出されるメッセージのデータ変換を抑止することができます。

初期化と終了の出口機能

このカテゴリーには、初期化出口機能と終了出口機能の 2 つの出口機能があります。

アプリケーションがキュー・マネージャーに接続すると、初期化出口機能が、キュー・マネージャーによって起動されます。初期化出口機能の主な目的は、出口機能とその入り口点をキュー・マネージャーに登録し、初期化処理を実行することです。登録する必要があるのは、すべての出口機能ではなく、この接続に必要な出口機能だけです。アプリケーションがキュー・マネージャーから切り離されると、登録は自動的に削除されます。

また、初期化出口機能は、その出口によって要求されるストレージを取得し、環境変数の値を調べるのにも使用できます。

アプリケーションがキュー・マネージャーから切り離されると、終了出口機能が、キュー・マネージャーによって起動されます。終了出口機能の目的は、出口が使用するストレージを解放し、必要なクリーンアップ操作を実行することです。

API 出口は、MQI への呼び出しを発行することができますが、この呼び出しを発行すると、その API 出口は、再度繰り返して起動されることはありません。ただし、後続の出口機能は、それらの出口機能が起動される時点で正しい環境が存在しないために、MQI 呼び出しを発行できません。

- 初期化出口機能
- キュー・マネージャーが呼び出しの処理を開始する前に起動される、MQCONN および MQCONNX 呼び出しの出口機能
- キュー・マネージャーが呼び出しの処理を完了した後で起動される、MQDISC 呼び出しの出口機能

- 終了出口機能

また、API 出口は、使用可能な他の API も使用できます。例えば、Db2® に対する呼び出しを発行できます。

API 出口は、IBM MQ クライアント・アプリケーションと一緒に使用できますが、出口は、MQI チャンネルのサーバー側で起動することに注意してください。詳細については、[リンク・レベル・セキュリティーとアプリケーション・レベル・セキュリティーの比較](#)を参照してください。

API 出口は、C プログラミング言語を使用して作成されます。

API 出口を使用可能にするには、その出口を構成する必要があります。IBM MQ for Multiplatforms でこれを行うには、IBM MQ の構成ファイル mqs.ini と、各キュー・マネージャーのキュー・マネージャー構成ファイル qm.ini を編集します。

クライアントの場合、mqclient.ini ファイルの ApiExitLocal スタンザを変更して、キュー・マネージャーの API 出口ルーチンを特定します。

API 出口を構成するには、次の情報を提供します。

- API 出口の記述名
- モジュールの名前とその位置。例えば、絶対パス名。
- 初期化出口機能用の入り口点の名前
- API 出口が、他の API 出口と相対的に起動される順序。1つのキュー・マネージャーには複数の API 出口を構成できます。
- オプションとして、API 出口に渡される任意のデータ

注：

- 以下への書き込みのために API 出口が呼び出されることはありません。
 1. ストリーミング・キュー。元のキューに書き込まれた API 出口変更メッセージは、関連するストリーミング・キューにも書き込まれます。
 2. サブスクリプションの宛先キューです。元のトピックへの API 出口変更メッセージ・パブリケーションは、該当するサブスクリプション宛先に書き込まれます。
- 配布リストへの書き込みの場合、API 出口は、メッセージをキューのリストに書き込む前後に 1 回だけ呼び出されます。

API 出口の構成方法の詳細については、[API 出口の構成](#)を参照してください。

API 出口の作成方法については、『[API 出口の使用と作成](#)』を参照してください。

API 交差出口

API 交差出口は、z/OS 上の CICS アプリケーションによって発行される MQI 呼び出しの機能をモニターまたは変更するプログラムです。

注：このセクションの情報は、z/OS 上の CICS アプリケーションにのみ適用されます。

API 交差出口プログラムは、CICS アダプターによって呼び出され、CICS アドレス・スペースで実行されます。

API 交差出口は、次の MQI 呼び出しに対してのみ起動されます。

```
MQBUFMH
MQCB
MQCB_FUNCTION
MQCLOSE
MQCRTMH
MQCTL
MQDLTMH
MQGET
```

MQINQ
MQOPEN
MQPUT
MQPUT1
MQSET
MQSTAT
MQSUB
MQSUBRQ

MQI 呼び出しごとに、呼び出しの処理が開始する前に 1 回、呼び出しの処理が完了した後で 1 回、API 交差出口が起動されます。

出口プログラムは、MQI 呼び出しの名前を判別することができ、その呼び出し上の任意のパラメーターを検査し、変更することができます。MQI 呼び出しの処理前に起動される場合、その呼び出しを完全に抑止することができます。

出口プログラムは、CICS タスク関連のユーザー出口が使用できる任意の API を使用できます。例えば、IMS、Db2、および CICS API です。また、MQCONN、MQCONNX、および MQDISC を除くすべての MQI 呼び出しを使用できます。しかし、出口プログラムによって発行される MQI 呼び出しは、出口プログラムをもう一度起動することはありません。

API 交差出口は、IBM MQ for z/OS によってサポートされる任意のプログラム言語で作成できます。

CICS アダプターがキュー・マネージャーに接続する場合、API 交差出口が使用できるようになる前に、出口プログラムのロード・モジュールが使用可能でなければなりません。このロード・モジュールは、CSQCAPX という名前を持ち、DFHRPL 連結シーケンス内のライブラリーに置かれる CICS プログラムです。CSQCAPX は、CICS システム定義ファイル (CSD) 内で定義される必要があり、プログラムが使用可能でなければなりません。

API 交差出口は、CICS アダプター制御パネル CKQC を使用して管理することができます。CSQCAPX がロードされると、アダプター制御パネルまたはシステム・コンソールに確認メッセージが書き込まれます。アダプター制御パネルは、出口プログラムを使用可能または使用不可にするのにも使用できます。

API 交差出口を作成して実装する方法については、CICS Transaction Server For z/OS4.1 製品資料の"CICS-IBM MQ アダプター"のセクションを参照してください。[CICS Transaction Server for z/OS 4.1](#)、[CICS-IBM MQ アダプター](#)を参照してください。

ALW AIX, Linux, and Windows システム上での証明書の妥当性検査および トラスト・ポリシーの設計

IBM MQ は、2 種類のポリシー (基本および標準) に応じて TLS 証明書の妥当性検査を実行します。標準ポリシーの検査は、RFC 5280 に準拠して行われます。

これらのトピックの情報は、以下のシステムに適用されます。

- IBM MQ for AIX® or Linux® システム
- IBM MQ for Windows システム

このセクションでは以下の用語が使用されます。

証明書ポリシー

証明書のどのフィールドを認識し、処理するかを決定します。

OCSP ポリシー

OCSP 要求または応答のどのフィールドを認識し、処理するかを決定します。

CRL ポリシー

証明書取り消しリストのどのフィールドを認識し、処理するかを決定します。

パスの妥当性検査ポリシー

証明書チェーン (トラスト・ポイント「RootCA」からエンド・エンタリー「EE」まで) が有効であるかどうかを判別するために、証明書、OCSP、および CRL の各ポリシー・タイプが相互に対話する方法を決定します。

パス妥当性検査の基本ポリシーと標準ポリシーについては、IBM MQ for UNIX、Linux、および Windows システム内での実装を反映するものであるため、別々に説明します。しかし、OCSP および CRL の標準ポリシーは基本ポリシーと同じであり、証明書の標準ポリシーは基本ポリシーの拡張バージョンなので、それらのポリシーは個別には記述しません。

IBM MQ では、デフォルトで基本妥当性検査ポリシーが最初に適用されます。基本ポリシー検証が失敗すると、IBM MQ は標準ポリシー (RFC 5280) 検証を適用します。基本ポリシー検証が成功した場合には、標準ポリシー検証は適用されません。したがって、検証の失敗とは、基本ポリシー検証と標準ポリシー検証の両方が、さまざまな理由で失敗したことを意味します。妥当性検査の成功とは、基本ポリシー検証が成功したために標準ポリシー検証が適用されなかったか、基本ポリシー検証が失敗して標準ポリシー検証が成功したかのいずれかを意味します。

RFC 5280 準拠の厳格な適用

RFC 5280 準拠を厳格に適用するには、証明書妥当性検査ポリシーの構成設定値を使用します。この設定値により、基本ポリシーを無効にして RFC 5280 の標準ポリシーのみ使用されるようにすることができます。証明書妥当性検査ポリシーの構成設定値について詳しくは、[IBM MQ における証明書妥当性検査ポリシーを参照してください](#)。

以下の例では、証明書妥当性検査の基本ポリシーでは受け入れられるものの、RFC 5280 準拠の標準ポリシーによって拒否されるデジタル証明書について示します。デジタル証明書チェーンが信頼できるものとされるためには、構成されている妥当性検査ポリシーがチェーン全体で満たされていなければなりません。

デジタル証明書の全詳細を表示するには、**runmqakm** コマンドを使用します。

```
runmqakm -cert -details -db key.kdb -pw password -label certificate_label
```

runmqakm の出力で証明書の信頼状況が有効になっていても、TLS ハンドシェイクで使用される場合には必ずしもトラステッドとは限りません。信頼状況が有効となっているということは、その証明書が、さらに証明書妥当性検査ポリシーのルールも満たしているなら、その証明書が他の証明書を検証するための CA 証明書として使用する上で適格であるということを示しています。RFC 5280 準拠の標準証明書妥当性検査ポリシーについては、[19 ページの『標準パスの妥当性検査ポリシー』](#)を参照してください。

証明書の例 1 - 鍵使用法が間違っている場合

この例では、鍵使用法フィールドが、CA 証明書に関する標準証明書妥当性検査ポリシーの規則に準拠していない証明書について示します。証明書が CA 証明書としての使用について有効であるための要件の 1 つは、keyCertSign フラグを使用して他の証明書に署名することが許可されていることが鍵使用法フィールドに示されていなければならないということです。このフラグのない証明書を CA 証明書として使用することはできません。

```
Label : root
Key Size : 1024
Version : X509 V3
Serial : 54cb6f740c7ee410
Issuer : CN=Example Root CA,O=Example,C=GB
Subject : CN=Example Root CA,O=Example,C=GB
Not Before : 9 February 2012 17:19:00 GMT
Not After : 1 October 2019 18:19:00 GMT+01:00
Public Key
 30 81 9F 30 0D 06 09 2A 86 48 86 F7 0D 01 01 01
 05 00 03 81 8D 00 30 81 89 02 81 81 00 CC 44 D9
 25 6D 26 1C 9D B9 FF DE B8 AC 44 AB E3 64 80 44
 AF BE E0 00 93 53 92 33 F8 7E BD D7 71 ED 21 52
 24 75 DF D6 EE 3C 54 97 84 29 EA 93 4C 4A D1 19
 5D C1 A0 82 F5 74 E1 AD D9 87 10 D5 6A 2B 6F 90
 04 0F 7E 6E 85 6D 32 99 33 9C D9 BB 57 86 DE 68
 23 C9 F2 6D 53 E3 F5 FF D1 0B E7 23 19 3A F6 70
 6B C8 C7 EB DB 78 8E 8C 9E 55 58 66 B6 31 DB 40
 5F 6A 97 AB 12 D7 E2 3E 2E 79 EE 78 7B 02 03 01
 00 01
Public Key Type : RSA (1.2.840.113549.1.1.1)
Fingerprint : SHA1 :
 EE 68 D4 4F 73 4F F4 21 DE 1A 01 11 5E DE B1 B8
 DF 40 AA D8
Fingerprint : MD5 :
 50 B5 E9 B2 D7 35 05 6A DC 6D 4B 1E B2 F2 DF A4
```

```

Fingerprint : SHA256 :
  B4 D7 6E C4 47 26 24 C7 4F 41 C3 83 03 6F 5C C7
  07 11 61 E0 0E 36 59 1F 1C E6 69 39 2D 18 05 D2
Extensions
  basicConstraints
    ca = true
    pathLen = 1239876
    critical
  key usage: encipherOnly
Signature Algorithm : SHA256WithRSASignature (1.2.840.113549.1.1.11)
Value
  9D AE 54 A9 9D 68 01 68 15 B5 53 9F 96 C9 5B D1
  52 40 DB CB 33 AF FD B9 26 D5 90 3F 1E 0B FC A6
  D9 8C 04 90 EB AA FD A8 7A 3C AB 60 5F 20 4F 0D
  7B 73 41 27 6A 2B BF 8C 99 91 B6 49 96 82 6A 24
  0A E8 B9 A5 AF 69 3D 2C A3 3C C8 12 39 FB 56 58
  4E 2A FE AC AC 10 89 53 B1 8F 0F C0 50 BF 5E 00
  91 64 B4 A1 4C 9A 4E D5 1F 38 7C AD 32 A9 8A E1
  91 16 2C 6D 1E 4A CA 99 8D CC 22 CD BF 90 49 FC
Trust Status : Enabled

```

この例の場合、鍵使用法フィールドに含まれているのは encipherOnly フラグのみです。keyCertSign フラグはセットされていないため、この証明書で他の証明書を署名することは許可されません。したがって、CA 証明書として使用することはできません。

証明書の例 2 - 基本制約拡張が欠落している場合

この例では、基本制約拡張が欠落している証明書について示します。基本制約拡張は、この証明書が CA としての使用を許可されているかどうかを示すために使用されます。また、この証明書によって署名されることが可能な証明書チェーンの最大長を示すためにも使用されます。標準証明書妥当性検査ポリシーでは、CA として使用するために証明書の基本制約拡張で isCA フラグがセットされていることが必要です。

```

Label : root
Key Size : 1024
Version : X509 V3
Serial : 1c7dfea316570bf6
Issuer : CN=Second Example Root CA,O=Example,C=GB
Subject : CN=Second Example Root CA,O=Example,C=GB
Not Before : 9 February 2012 17:18:22 GMT
Not After : 1 October 2019 18:18:22 GMT+01:00
Public Key
  30 81 9F 30 0D 06 09 2A 86 48 86 F7 0D 01 01 01
  05 00 03 81 8D 00 30 81 89 02 81 81 00 B2 70 49
  7C AE 1B A7 B3 06 49 6C 99 19 BC A8 77 BE 86 33
  21 6B C9 26 CC A6 28 52 9F 7B CF 03 A4 37 A7 4D
  6B 06 AA ED 7D 58 E3 70 F3 F7 C1 06 DA E8 27 C6
  3D 1B AC FA EF AA 59 7A 9A AB C1 14 4E AF 13 14
  4B 71 CA 8D FE C3 F5 2F E8 AC AD EF 21 80 6D 12
  89 4A 2A 84 AA 9D E0 4F C1 93 B1 3E 16 E8 3C 75
  39 2A 74 1E 90 CC B1 C3 2B 1D 55 26 76 D2 65 C1
  06 47 2A BF 79 96 42 76 A9 6E 65 88 5F 02 03 01
  00 01
Public Key Type : RSA (1.2.840.113549.1.1.1)
Fingerprint : SHA1 :
  33 9F A1 81 43 F1 43 95 48 A5 66 B4 CD 98 E8 15
  9C B3 CA 90
Fingerprint : MD5 :
  91 EA D9 C0 2C 05 5B E2 CD 0B F6 DD 8A 11 44 23
Fingerprint : SHA256 :
  62 46 35 0B 0E A1 A7 2A D5 74 70 0F AA 47 9A 9C
  6B 80 1B F1 0B 4C 81 05 85 0E 91 11 A4 21 D2 34
Extensions
  key usage: digitalSignature, keyCertSign
Signature Algorithm : SHA256WithRSASignature (1.2.840.113549.1.1.11)
Value
  79 34 BA 5B 6F DC 06 A3 99 24 4E 8A 2B 27 05 47
  0D 4D BE 6A 77 D1 1D 5F 54 82 9D CC F6 92 D4 9A
  AB 4D B6 DD 6E AD 86 C3 6A A3 32 E3 B3 ED E0 62
  4A EB 51 08 AC BE 49 9E 9C D7 FE AE C8 9D 17 16
  68 31 6B F4 BA 74 1E 4F 5F 05 48 9F E7 46 BA DC
  17 7A 60 88 F8 5B DB 3C 51 D4 98 97 28 82 CF 36
  47 DA D2 0F 47 FF 70 EA 45 3A 49 66 E6 E2 F9 67
  2C C8 3E 24 A2 3B EC 76 1F D6 31 2B BD A9 B5 08
Trust Status : Enabled

```

この例では、証明書に基礎制約フィールド全体が欠落しています。したがって、この証明書を CA 証明書として使用することはできません。

証明書の例 3 - X.509 の旧バージョンによる中間 CA

この例は、X.509 バージョン 1 の中間 CA 証明書を示しています。標準の証明書妥当性検査ポリシーでは、すべての中間 CA 証明書が少なくとも X.509 バージョン 3 でなければなりません。ルート CA 証明書は、存在する場合、一般的に使用されるバージョン 1 ルート CA 証明書が存在するため、この要件から除外されます。しかし、これは将来変更される可能性があります。

```
Label : intermediate
Key Size : 1024
Version : X509 V1
Serial : 02
Issuer : CN=Test Root CA,O=Example,C=GB
Subject : CN=Test Intermediate CA,O=Example,C=GB
Not Before : 10 February 2012 17:33:45 GMT
Not After : 11 April 2018 18:33:45 GMT+01:00
Public Key
 30 81 9F 30 0D 06 09 2A 86 48 86 F7 0D 01 01 01
 05 00 03 81 8D 00 30 81 89 02 81 81 00 C0 07 C2
 D0 9F 84 DB 7C 20 8F 51 F9 C2 1A 3F CF E2 D7 F2
 F1 56 F2 A4 8F 8F 06 B7 3B 01 31 DE 7C CC 03 63
 AA D3 2F 1C 50 15 E3 56 80 40 7D FF 75 87 D3 F3
 00 89 9A 26 F5 57 05 FA 4F ED 3B DD 93 FA F2 DF
 38 26 D4 3A 92 51 CC F3 70 27 42 7A 9F AD 51 45
 67 B7 AE 11 AD 4F 2D AB D2 CF 73 E6 F0 45 92 F0
 47 16 66 7E 01 C7 76 A3 7B EC D2 76 3F E5 15 EC
 D7 72 2C FE 14 F5 78 83 AA C4 20 AB F7 02 03 01
 00 01
Public Key Type : RSA (1.2.840.113549.1.1.1)
Fingerprint : SHA1 :
 DE BB 75 4B 14 E1 44 B9 B6 44 33 97 49 D0 82 6D
 81 F2 2F DE
Fingerprint : MD5 :
 72 49 44 42 E2 E6 89 F1 CC 37 C9 F6 B5 8F F3 AE
Fingerprint : SHA256 :
 83 A4 52 AF 49 34 F1 DC 49 E6 95 AE 93 67 80 13
 C2 64 D9 26 22 A0 E8 0A 5A A9 71 EC E8 33 E1 D1
Signature Algorithm : SHA256WithRSASignature (1.2.840.113549.1.1.11)
Value
 40 4A 09 94 A0 18 07 5E 96 D7 A6 52 6B 8D 20 50
 E8 91 F7 7E EA 76 B4 08 DF 76 66 1F FA FF 91 79
 2E E0 66 8B 9F 40 FA 14 13 79 81 DB 31 A5 55 1D
 44 67 41 F4 EA 1A F7 83 4F 21 F4 43 78 4E F8 5E
 6F B2 B8 3A F7 6B B4 F5 C6 F8 EB 4C BF 62 6F 3E
 C7 20 EC 53 B3 40 51 36 C1 0A 4E 73 ED 74 D1 93
 02 C5 FB 61 F7 87 64 A5 94 06 7D 25 7C E3 73 DD
 08 D4 07 D0 A4 3F 77 88 12 59 DB A4 DB 68 8F C1
Trust Status : Enabled
```

この例において、バージョン・フィールドは X.509 V1 となっています。この証明書は X.509 バージョン 1 の証明書であるため、中間 CA として使用することはできません。

ALW 基本および標準証明書ポリシー

基本証明書ポリシーと標準証明書ポリシーは、同じフィールドをサポートします。標準ポリシーは追加の証明書拡張をサポートします。

基本および標準ポリシーの両方でサポートされるフィールドは、以下のとおりです。

- OuterSigAlgID¹
- Signature²
- バージョン
- SerialNumber
- InnerSigAlgID³

¹ このフィールドは、RFC 5280 では *signatureAlgorithm* と呼ばれます。

² このフィールドは、RFC 5280 では *signatureValue* と呼ばれます。

³ このフィールドは、RFC 5280 では *signature* と呼ばれます。

- Issuer
- Validity
- SubjectName
- SubjectPublicKeyInfo
- IssuerUniqueID
- SubjectUniqueID

基本ポリシーでサポートされる拡張は、以下のとおりです。項目に「サポートされていない」というマークが付けられている場合、IBM MQはその特定タイプのフィールドを含む拡張の処理を試みず、同じ拡張の別のタイプを処理します。

- AuthorityKeyID
- AuthorityInfoAccess
- SubjectKeyID
- IssuerAltName
- SubjectAltName
- KeyUsage
- BasicConstraints
- PrivateKeyUsage
- CRLDistributionPoints
 - DistributionPoint
 - DistributionPointName (X.500 名および LDAP 形式の URI のみ)
 - NameRelativeToCRLIssuer (サポートされていない)
 - Reasons (無視される)
 - CRLIssuer フィールド (サポートされていない)

標準ポリシーでサポートされる拡張は、基本ポリシーについてリストされたすべての拡張、および以下のリストに含まれる拡張です。項目に「サポートされていない」というマークが付けられている場合、IBM MQはその特定タイプのフィールドを含む拡張の処理を試みず、同じ拡張の別のタイプを処理します。

- NameConstraints
- ExtendedKeyUsage
- CertificatePolicies
 - PolicyInformation
 - PolicyIdentifier
 - PolicyQualifiers (サポートされていない)
- PolicyMappings
- PolicyConstraints

基本 OCSP ポリシーと標準 OCSP ポリシー

基本 OCSP ポリシーと標準 OCSP ポリシーは、同じフィールドをサポートします。

要求でサポートされるフィールドは、以下のとおりです。項目に「サポートされていない」というマークが付けられている場合、IBM MQはその特定タイプのフィールドを含む要求の処理を試みませんが、それより高いレベルのフィールドを含む他の要求を処理します。

- Signature (オプション)
- Version (バージョン 1 のみ)
- RequesterName (オプション)
- RequestList (単一要求のみ)

- CertID⁴
- singleRequestExtensions (サポートされていない)
- RequestExtensions
 - Nonce (使用可能になっている場合)

応答でサポートされるフィールドは、以下のとおりです。

- ResponseStatus
- 応答
 - responseType (id-pkix-ocsp-basic)
 - BasicOCSPResponse
 - Signature
 - Certs
 - Extensions
 - extendedKeyUsage
 - id-kp-OCSPSigning
 - id-pkix-ocsp-nocheck
 - ResponseData
 - Version (バージョン 1 のみ)
 - ResponderID (名前またはハッシュで指定)
 - ProducedAt (無視される)
 - Responses (複数応答がサポートされる)
 - SingleResponse
 - certID
 - certStatus
 - RevokedInfo (無視される)
 - thisUpdate (無視される)
 - nextUpdate
 - singleExtensions (無視される)
 - responseExtensions
 - Nonce (使用可能になっている場合)

基本および標準 CRL ポリシー

基本 CRL ポリシーと標準 CRL ポリシーは、同じフィールドおよび拡張をサポートします。

これらのポリシーでサポートされるフィールドは、以下のとおりです。

- OuterSigAlgID⁵
- Signature⁶
- バージョン
- InnerSigAlgID⁷
- Issuer

⁴ このフィールドは RFC 2560 では reqCert と呼ばれています。

⁵ このフィールドは、RFC 5280 では *signatureAlgorithm* と呼ばれます。

⁶ このフィールドは、RFC 5280 では *signatureValue* と呼ばれます。

⁷ このフィールドは、RFC 5280 では *signature* と呼ばれます。

- ThisUpdate
- NextUpdate
- RevokedCertificate
 - UserCertificate
 - RevocationDate

サポートされている CRLEntry 拡張はありません。

これらのポリシーでサポートされる CRL 拡張は、以下のとおりです。項目に「サポートされていない」というマークが付けられている場合、IBM MQ はその特定タイプのフィールドを含む拡張の処理を試みず、同じ拡張の別のタイプを処理します。

- AuthorityKeyID
- IssuerAltName
- CRLNumber
- IssuingDistributionPoint
 - DistributionPoint
 - DistributionPointName
 - FullName (X.500 名および LDAP 形式の URI のみ)
 - NameRelativeToCRLIssuer (サポートされていない)
 - Reasons (無視される)
 - CRLIssuer
 - OnlyContainsUserCerts (サポートされていない)
 - OnlyContainsCACerts (サポートされていない)
 - OnlySomeReasons (サポートされていない)
 - IndirectCRL⁸(拒否される)

ALW 基本パスの妥当性検査ポリシー

基本パスの妥当性検査ポリシーは、証明書チェーンが有効であるかどうかを判別するために証明書、OCSP、および CRL の各ポリシー・タイプが相互にどのように対話するのかを決定します。

チェーンの妥当性検査は、以下の方法で実行されます (ただし、必ずしも以下の順序で行われるとは限りません)。

1. 証明書の発行者の名前が以前の証明書の所有者の名前に等しいこと、およびこの証明書に空の発行者の名前、または以前の証明書所有者の名前がないことを確認します。パスに以前の証明書が存在しない場合に、これがチェーン内の最初の証明書である場合は、発行者名とサブジェクト名が同一であることと、証明書に対してトラスト状況が設定されていることを確認してください。⁹

注: IBM MQ for UNIX, Linux and Windows システムでは、パスの前の証明書に現在の証明書と同じ所有者の名前が指定されていると、パスの妥当性検査が失敗します。

2. 証明書の発行者の署名アルゴリズム ID が署名データのアルゴリズム ID に一致することを確認して、証明書に実際に署名するのに使用される署名アルゴリズムが証明書内で示される署名アルゴリズムに一致することを確認します。

⁸ IndirectCRL 拡張機能により、CRL の検証が失敗します。IndirectCRL 拡張機能は、同一の証明書が拒否されない原因となるため、使用しないでください。

⁹ トラスト状況は、鍵データベース・ファイル内の管理設定です。 **strmqikm** を使用して、特定の署名者証明書のトラスト状況にアクセスし、変更することができます。署名者リストから必要な証明書を選択し、「表示/編集」をクリックします。結果のパネルの「証明書をトラステッド・ルートとして設定」チェック・ボックスは、トラスト状況を示します。また、**-cert -modify** コマンドに **-trust** フラグを指定し、**runmqckm** コマンドまたは **runmqakm** コマンドを使用して、トラスト状況を設定することもできます。このコマンドの詳細については、鍵および証明書の管理を参照してください。

3. 証明書の署名を検証するために、パスにある以前の証明書から所有者の公開鍵を使用して、証明書が発行者によって署名済みであることを確認します。以前の証明書が存在せず、これが最初の証明書である場合は、証明書の所有者の公開鍵を使用して、その証明書の署名を検証します。IBM MQ は DSA および RSA 署名アルゴリズムをサポートしますが、DSA パラメーター継承はサポートしません。
4. 証明書が既知の X509 バージョンであり、バージョン 1 の証明書用の固有 ID が存在せず、バージョン 1 およびバージョン 2 の証明書に拡張が存在しないことを確認します。
5. 証明書の有効期限が切れていないか、まだ有効化されていないこと、および有効期間が良好であることを確認してください¹⁰。
6. 不明でクリティカルな拡張や重複した拡張がないことを確認します。
7. 証明書が取り消されていないことを確認します。以下の操作が適用されます。

- a. OCSP 接続が使用可能になっていて、応答側アドレスが構成されているか、または HTTP 形式の GENERALNAME_uniformResourceID が指定された有効な AuthorityInfoAccess 拡張が証明書に含まれている場合には、OCSP を使用して失効状況を確認します。
- b. 上の 17 ページの『7.a』で調べた失効状況が不明な場合には、CRLDistributionPoints 拡張に X.500 識別名 GENERALNAME_directoryname および URI GENERALNAME_uniformResourceID のリストが含まれているかどうか検査されます。LDAP、HTTP および FILE 形式の URI のみがサポートされます。この拡張が存在しない場合、または CRLDistributionPoints 拡張を使用しても状況が不明で、この拡張がクリティカルでない場合、証明書の発行者名を使用して失効状況が照会されます。CRL データベース (LDAP) で CRL が照会されます。証明書が最後の証明書ではないか、または最後の証明書が「isCA」フラグをオンに設定した基本制約拡張を持つ場合、データベースでは代わりに ARL および CRL が照会されます。CRL 検査が有効であり、CRL データベースを照会できない場合に、証明書は取り消し済みとして扱われます。現在、X500 ディレクトリー名の形式と LDAP/HTTP/FILE URI フォームは、CRL および ARL を検索するために使用される唯一の名前形式です。¹¹

注: RelativeDistinguishedNames はサポートされていません。

- c. 17 ページの『7.a』と 17 ページの『7.b』のどちらにおいても失効状況が不明な場合、IBM MQ は、OCSPAuthentication 構成設定を検査して、接続を許可するかどうかを決定します。¹²
8. issuerAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。
 - rfc822
 - DNS
 - directory
 - URI
 - IPAddress(v4/v6)
 9. subjectAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。
 - rfc822
 - DNS
 - directory
 - URI
 - IPAddress(v4/v6)

¹⁰ 対象の妥当性が発行者の妥当性の範囲内にあることを確認するための検査は行われません。これは必須ではありませんが、一部の CA の証明書はそのような検査をパスしないことが示されています。

¹¹ データベースから取得されると、ARL は CRL とまったく同じ方法で評価されます。多くの CA は ARL を発行しません。ただし、取り消し状況について CA 証明書を検査する場合、IBM MQ は ARL および CRL を検索します。

¹² OCSPAuthentication が WARN に設定されている場合、IBM MQ は不明な取り消し状況をログに記録し、接続を続行できるようにします。

10. KeyUsage 拡張が EE 以外の証明書でクリティカルである場合、keyCertSign フラグがオンになっていること、および BasicConstraints 拡張が存在する場合は、「isCA」フラグが true であることを確認します。
11. BasicConstraints 拡張が存在する場合は、次の検査が行われます。
 - 「isCA」フラグが false である場合、証明書がチェーン内の最後の証明書であり、pathLength フィールドが存在しないことを確認します。
 - 「isCA」フラグが true であり、証明書がチェーン内の最後の証明書ではない場合、チェーンの最後の証明書までの証明書の数が pathLength フィールドよりも大きくないことを確認します。
12. AuthorityKeyID 拡張はパスの妥当性検査には使用されませんが、証明書チェーンを作成するときに使用されます。
13. SubjectKeyID 拡張はパスの妥当性検査には使用されませんが、証明書チェーンを作成するときに使用されます。
14. PrivateKeyUsagePeriod 拡張は、CA が証明書に実際に署名した時を判別できないので、妥当性検査エンジンによって無視されます。この拡張は常に非クリティカルなので、無視することができます。

OCSP 応答についても妥当性検査が行われ、応答自体が有効であることが確認されます。妥当性検査は、以下の方法で実行されます(ただし、必ずしも以下の順序で行われるとは限りません)。

1. 応答状況が成功で、応答タイプが PKIX_AD_OCSP_basic.r であることを確認します。
 2. 応答バージョン・データが存在すること、および応答が正しいバージョン(バージョン 1)のものであることを確認します。
 3. 応答が正しく署名されていることを確認します。署名者が以下の基準の少なくとも 1 つを満たさない場合、その署名は拒否されます。
 - 署名者は、OCSP 署名権限のローカル構成に一致します。¹³
 - 署名者は、公開鍵が CA 証明書に含まれている CA 鍵を使用しています。つまり、CA 自体が応答に直接署名します。
 - 署名者は、失効情報が検査されている証明書に署名した CA の直接副順序であり、ExtendedKeyUsage エクステンションに id-ad-ocspSigning の値を組み込むことによって、CA によって許可されます。
- 注: id-pkix-ocsp-nocheck 拡張が存在する場合には、応答署名者証明書の失効検査は実行されません。
4. 応答のハッシュ・アルゴリズム serialNumber、issuerNameHash、および issuerKeyHash が要求のハッシュ・アルゴリズムに一致していることを確認します。
 5. 応答の有効期限が切れていないこと、つまり、nextUpdate 時刻が現行時刻よりも後になっていることを確認します。¹⁴
 6. 証明書の失効状況が有効になっていることを確認します。

CRL の妥当性検査も実行され、CRL 自体が有効であり、以下の方法で実行されることが確認されます(ただし、必ずしも以下の順序で行われるとは限りません)。

1. CRL の発行者の署名アルゴリズム ID が署名データのアルゴリズム ID に一致することを確認して、CRL に実際に署名するのに使用される署名アルゴリズムが CRL 内で示される署名アルゴリズムに一致することを確認します。
2. CRL が証明書発行者の鍵を使用して署名されたことを検証し、CRL が該当する証明書の発行者によって署名されたことを確認します。
3. CRL が有効期限切れでないことを確認¹⁵ または、まだアクティブにされていないこと、および有効期間内にあることを確認します。

¹³ これは、ユーザーがインストール済みで、トラスト状況が設定されている鍵ストア内の証明書です。

¹⁴ 現在の OCSP 応答がレスポンスから返されない場合、IBM MQ は、証明書の失効状況を判別する際に古い応答を使用しようとします。IBM MQ は、セキュリティーのレベルが下がらないように、有効期限切れの応答の使用を試みます。

¹⁵ 最新の CRL が見つからない場合、IBM MQ for UNIX、Linux、および Windows システムは、証明書の失効ステータスを決定するために、期限切れの CRL の使用を試みます。現行 CRL がない場合に実行するアクション

4. バージョン・フィールドが存在している場合は、それがバージョン 2であることを確認してください。それ以外の場合、CRL はバージョン 1で、拡張子を持つことはできません。ただし、IBM MQ for UNIX、Linux、および Windows システムは、バージョン 1 の CRL について、クリティカルな拡張機能が存在しないことを検証するだけです。
5. 該当する証明書が revokedCertificates フィールド・リストにあり、取り消し日付が将来の日付ではないことを確認します。
6. 重複した拡張がないことを確認します。
7. クリティカルなエントリー拡張機能を含む不明な重要な拡張機能が CRL で検出された場合は、これにより、識別された証明書が取り消されたものとして扱われます。¹⁶(CRL がそれ以外のすべてのチェックにパスする場合)。
8. CRL の authorityKeyID 拡張および CA 証明書の subjectKeyID が存在し、keyIdentifier フィールドが CRL の authorityKeyID 内に存在する場合、それを CACertificate の subjectKeyID に突き合わせます。
9. issuerAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。
 - rfc822
 - DNS
 - directory
 - URI
 - IPAddress(v4/v6)
10. issuingDistributionPoint 拡張が CRL に存在する場合、以下のように処理します。
 - issuingDistributionPoint で InDirectCRL が指定されている場合、CRL 妥当性検査に失敗します。
 - issuingDistributionPoint が CRLDistributionPoint は存在するが DistributionPointName が見つからないことを示している場合、CRL 妥当性検査に失敗します。
 - issuingDistributionPoint で、CRLDistributionPoint が存在することが示され、DistributionPointName が指定されている場合、証明書の CRLDistributionPoint によって指定された名前または証明書の発行者の名前に一致する GeneralName または LDAP 形式の URI であることを確認します。DistributionPointName が GeneralName でない場合は、CRL 妥当性検査が失敗します。

注 : RelativeDistinguishedNames はサポートされておらず、これが検出された場合には CRL 妥当性検査は失敗します。

ALW 標準パスの妥当性検査ポリシー

標準パスの妥当性検査ポリシーは、証明書チェーンが有効であるかどうかを判別するために証明書、OCSP、および CRL の各ポリシー・タイプが相互にどのように対話するのかを決定します。標準ポリシーの検査は、RFC 5280 に準拠して行われます。

パスの妥当性検査では、以下の概念が使用されます。

ンは、RFC 5280 で明確に指定されていません。IBM MQ for UNIX Linux および Windows システムは、セキュリティが低下しないように、古い CRL を使用しようとします。

- ¹⁶ ITU X.509 および RFC 5280 は、この場合は競合しています。RFC には、クリティカルな拡張機能が不明な CRL は検証に失敗する必要があるためです。ただし、ITU X.509 では、CRL が他のすべての検査に合格した場合は、識別された証明書を取り消し済みとして扱う必要があります。IBM MQ for UNIX、Linux および Windows システムでは、セキュリティが低下しないように、ITU X.509 ガイダンスが採用されています。

CRL を発行する CA が不明かつクリティカルな拡張を設定する場合に、それ以外のすべての妥当性検査のチェックが正常に実行されても、識別される証明書が取り消し済みとして見なされないためアプリケーションによって拒否されないことを示すという潜在的なシナリオが存在します。このシナリオでは、X.509 に従い、IBM MQ for UNIX、Linux、および Windows システムが操作のフェールセキュア (fail-secure) モードで機能します。つまり、それらは CA が拒否しようとしなかった証明書を拒否し、一部の有効なユーザーに対するサービスを否認する可能性があります。フェールインセキュア (fail-insecure) モードは、CRL には不明でクリティカルな拡張があるため CRL を無視し、CA が取り消そうとする証明書が受け入れられます。システムの管理者は、発行側 CA でこの動作を照会します。

- 長さ n の認証パス。ここでトラスト・ポイントまたはルート証明書は証明書 1 で、EE は n です。
 - 一連の初期ポリシー ID (それぞれは一連のポリシー・エレメント ID から成る)。これは、1 つ以上の証明書ポリシー、証明書パスの処理用に受け入れ可能なポリシーのいずれか 1 つ、または特殊値「any-policy」を識別します。現在、これは「any-policy」に常に設定されています。
- 注：IBM MQ for UNIX、Linux、および Windows システムは、IBM MQ for UNIX、Linux、および Windows システムによって作成されたポリシー ID のみをサポートします。
- 受け入れ可能なポリシー・セット: ポリシー・マッピングにより同等と見なされるポリシーと共に、公開鍵ユーザーによって認識されるポリシー (複数の場合あり) からなる一連の証明書ポリシー ID。受け入れ可能なポリシー・セットの初期値は、特殊値「any-policy」です。
 - 制約されたサブツリー: 証明書パス内の後続の証明書にあるすべてのサブジェクト名が入る一連のサブツリーを定義する一連のルート名。初期値は「unbounded」です。
 - 除外されたサブツリー: 証明書パス内の後続の証明書にあるサブジェクト名が入らない一連のサブツリーを定義する一連のルート名。初期値は「empty」です。
 - 明示的なポリシー: 明示的なポリシー ID が必要であるかどうかを示す整数。この整数は、この要件が課されるパスの最初の証明書を示します。設定されている場合、この変数を減らすことはできますが増やすことはできません。(つまり、パス内の証明書に明示的なポリシー ID が必要な場合、その後の証明書はこの要件を除外することはできません。) 初期値は $n+1$ です。
 - ポリシー・マッピング: ポリシー・マッピングが許可されているかどうかを示す整数。整数は、ポリシー・マッピングが適用される可能性のある最後の証明書を示します。設定されている場合、この変数を減らすことはできますが増やすことはできません。(つまり、パス内の証明書でポリシー・マッピングを許可しないように指定されている場合、それをその後の証明書によって指定変更することはできません。) 初期値は $n+1$ です。

チェーンの妥当性検査は、以下の方法で実行されます (ただし、必ずしも以下の順序で行われるとは限りません)。

1. 次の段落の情報は、16 ページの『[基本パスの妥当性検査ポリシー](#)』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書の発行者の名前が以前の証明書の所有者の名前に等しいこと、およびこの証明書に空の発行者の名前、または以前の証明書所有者の名前がないことを確認します。パスに以前の証明書が存在しない場合に、これがチェーン内の最初の証明書である場合は、発行者名とサブジェクト名が同一であることと、証明書に対してトラスト状況が設定されていることを確認してください。¹⁷

証明書に所有者の名前がない場合、subjectAltName 拡張は存在しなければならず、クリティカルである必要があります。

2. 次の段落の情報は、16 ページの『[基本パスの妥当性検査ポリシー](#)』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書の発行者の署名アルゴリズム ID が署名データのアルゴリズム ID に一致することを確認して、証明書に実際に署名するのに使用される署名アルゴリズムが証明書内で示される署名アルゴリズムに一致することを確認します。

証明書の issuersUniqueID および発行者の subjectUniqueID が存在する場合、それが一致することを確認します。

3. 次の情報は、16 ページの『[基本パスの妥当性検査ポリシー](#)』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書の署名を検証するために、パスにある以前の証明書から所有者の公開鍵を使用して、証明書が発行者によって署名済みであることを確認します。以前の証明書が存在せず、これが最初の証明書である場合は、証明書の所有者の公開鍵を使用して、その証明書の署名を検証します。

¹⁷ トラスト状況は、鍵データベース・ファイル内の管理設定です。 **strmqikm** で、特定の署名者証明書のトラスト状況にアクセスし、変更することができます。署名者リストから必要な証明書を選択し、「表示/編集」をクリックします。結果のパネルの「**証明書をトラステッド・ルートとして設定**」チェック・ボックスは、トラスト状況を示します。また、**-cert -modify** コマンドに **-trust** フラグを指定し、**runmqckm** コマンドまたは **runmqakm** コマンドを使用して、トラスト状況を設定することもできます。このコマンドの詳細については、[鍵および証明書の管理](#)を参照してください。

4. 次の情報は、[16 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書が既知の X509 バージョンであり、バージョン 1 の証明書用の固有 ID が存在せず、バージョン 1 およびバージョン 2 の証明書に拡張が存在しないことを確認します。

5. 次の情報は、[16 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書の有効期限が切れていないか、まだ有効化されていないこと、および有効期間が良好であることを確認してください¹⁸

6. 次の情報は、[16 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

不明でクリティカルな拡張や重複した拡張がないことを確認します。

7. 次の情報は、[16 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書が取り消されていないことを確認します。以下の操作が適用されます。

- a. OCSP 接続が使用可能になっていて、応答側アドレスが構成されているか、または HTTP 形式の GENERALNAME_uniformResourceID が指定された有効な AuthorityInfoAccess 拡張が証明書に含まれている場合には、OCSP を使用して失効状況を確認します。
 - i) IBM MQ for UNIX および Windows システムを使用すると、OCSP 要求は、事前構成された応答側に対してオプションで署名することができますが、それ以外の場合は、OCSP 応答処理には影響がありません。
- b. [7a](#) で調べた失効状況が不明な場合には、X.500 識別名 GENERALNAME_directoryname および URI GENERALNAME_uniformResourceID のリストに CRLDistributionPoints 拡張が含まれているかどうか検査されます。拡張が存在しない場合、証明書の発行者の名前が使用されます。CRL データベース (LDAP) で CRL が照会されます。証明書が最後の証明書ではない場合、または「isCA」フラグをオンに設定した基本制約拡張が最後の証明書に含まれる場合、データベースでは代わりに ARL および CRL が照会されます。CRL 検査が有効であり、CRL データベースを照会できない場合に、証明書は取り消し済みとして扱われます。現在、CRL および ARL の検索に使用するためにサポートされている名前形式は、X500 ディレクトリー名の形式と LDAP/HTTP/FILE の URI 形式のみです。

注: RelativeDistinguishedNames はサポートされていません。

8. 次の情報は、[16 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

subjectAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。

- rfc822
- DNS
- directory
- URI
- IPAddress(v4/v6)

9. サブジェクト名および subjectAltName エクステンション (クリティカルまたは非クリティカル) が、制約条件および除外されたサブツリーの状態変数と整合していることを確認してください。

10. EmailAddress OID が IA5 文字列として所有者名のフィールドに存在し subjectAltName 拡張がない場合、EmailAddress は、制約され、除外されたサブツリーの状態変数と整合していなければなりません。

11. ポリシー情報が初期ポリシー・セットと整合していることを確認します。

- a. 明示的なポリシーの状態変数が現在の証明書の数値シーケンス値より小さいか等しい場合、証明書のポリシー ID は初期のポリシー設定に入れられます。

¹⁸ 対象の妥当性が発行者の妥当性の範囲内にあることを確認するための検査は行われません。これは必須ではありません。また、一部の CA からの証明書がこのようなチェックをパスしないことが示されています。

- b. ポリシー・マッピング変数が現在の証明書の数値シーケンス値より小さいか等しい場合、ポリシー ID をマッピングすることはできません。
12. ポリシー情報が受け入れ可能なポリシー・セットと整合していることを確認します。
- a. 証明書ポリシー拡張にクリティカルのマークが付いている場合¹⁹ ポリシー拡張と受け入れ可能なポリシー・セットの共通部分がヌル以外です。
- b. 受け入れ可能なポリシー・セットに、結果の交点が新規の値として割り当てられます。
13. 受け入れ可能なポリシー・セットと初期のポリシー・セットの交点がヌル以外であることを確認します。anyPolicy の特殊ポリシーが存在するときには、このチェーン位置で inhibitAnyPolicy 拡張によって使用禁止にされていない場合にのみ、そのポリシーを許可します。
14. inhibitAnyPolicy 拡張が存在する場合、それに「クリティカル」のマークが付いていることを確認し、そのマークが付いている場合には、inhibitAnyPolicy 状態を設定し、チェーン位置を拡張の整数値に設定します(拡張の整数値が現行値を超えていない場合)。これは、anyPolicy ポリシーを設定して発行できる証明書の数で、この数値に達すると anyPolicy ポリシーは許可されなくなります。
15. 以下のステップは、最後のステップを除き、すべての証明書に対して実行されます。
- a. issuerAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。
- rfc822
 - DNS
 - directory
 - URI
 - IPAddress(v4/v6)
- b. i) BasicConstraints 拡張が存在しない場合、証明書は EE 証明書としてのみ有効です。
- ii) BasicConstraints 拡張が存在する場合、「isCA」フラグが true になっていることを確認します。チェーン作成自体に含まれるよう、「isCA」が true であるかどうか常にチェックされますが、この特定のテストが依然として行われます。pathLength フィールドが存在する場合、最後の証明書までの証明書の数が pathLength フィールドよりも大きくないことを確認します。
- c. KeyUsage エクステンションがクリティカルである場合は、keyCertSign フラグがオンになっていることを確認し、BasicConstraints 拡張が存在するかどうかを確認し、「isCA」フラグが true であることを確認してください。²⁰
- d. ポリシー制約拡張が証明書に含まれる場合、以下のように明示的なポリシーおよびポリシー・マッピング状態変数を変更します。
- i. requireExplicitPolicy が存在し、その値が r である場合、明示的なポリシー状態変数が、その現行値と、 r と i (シーケンス内の現行の証明書) の和の、いずれか小さい方の値に設定されます。
 - ii. inhibitPolicyMapping が存在し、その値が q である場合、ポリシー・マッピング状態変数が、その現行値と、 q と i (シーケンス内の現行の証明書) の和の、いずれか小さい方の値に設定されます。
- e. policyMappings 拡張が存在する場合 (12(b) を参照)、これがクリティカルではなく、ポリシー・マッピングが許容される場合、これらのマッピングが証明書のポリシーと署名者のポリシー間のマッピングを行うために使用されることを確認します。
- f. nameConstraints 拡張がの場合、それがクリティカルであることを確認し、許可および除外されたサブツリーが、RFC 5280 セクション 6.1.4 パート (g) に記述されているアルゴリズムに従って、チェーンのサブツリーの状態を更新する前に、以下の規則に従っていることを確認してください。
- i) 最小フィールドはゼロに設定されます。
 - ii) 最大フィールドは存在しません。
 - iii) 基本フィールド名の形式は認識されています。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。

¹⁹ これは、RFC2459 (6.1 (e)(1)) からのレガシー要件として維持されます。

²⁰ このチェックは、ステップ (b) のために冗長になっていますが、チェックはまだ行われています。

- rfc822
- DNS
- directory
- URI
- IPAddress(v4/v6)

16. ExtendedKeyUsage 拡張は IBM MQ では検査されません。

17. 次の情報は、16 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

AuthorityKeyID 拡張はパスの妥当性検査には使用されませんが、証明書チェーンを作成するときに使用されます。

18. 次の情報は、16 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

SubjectKeyID 拡張はパスの妥当性検査には使用されませんが、証明書チェーンを作成するときに使用されます。

19. 次の情報は、16 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

PrivateKeyUsagePeriod 拡張は、CA が証明書に実際に署名した時を判別できないので、妥当性検査エンジンによって無視されます。この拡張は常に非クリティカルなので、無視することができます。

Managed File Transfer セキュリティー・リファレンス

Managed File Transfer のセキュリティーを構成するために役立つ参照情報。

IBM MQ での MFT のファイル・システム許可

IBM MQ の Managed File Transfer コンポーネントをインストールして構成する場合、configuration ディレクトリー、installations ディレクトリー、および logs ディレクトリーは、以下の許可を使用して作成されます。

AIX and Linux

Linux → AIX

ディレクトリー	権限
/var/mqm/mqft/config	<ul style="list-style-type: none"> • mqm グループによる書き込みが可能 • すべてのユーザーが読み取り可能 <p>mqm グループのユーザーにはこれらのディレクトリーおよびファイルに対する書き込み権限があります。</p> <p>ディレクトリーには、SetGroupID ビット「s」が設定されています。これは、ディレクトリー内で作成されたすべてのファイルが mqm のグループ所有権を持っていることを意味します。</p>
/var/mqm/mqft/installations	<ul style="list-style-type: none"> • mqm グループによる書き込みが可能 • すべてのユーザーが読み取り可能 <p>ディレクトリーには、SetGroupID ビット「s」が設定されています。これは、ディレクトリー内で作成されたすべてのファイルが mqm のグループ所有権を持っていることを意味します。</p>

表 1. AIX and Linux でのディレクトリーの権限の要約 (続き)	
ディレクトリー	権限
/var/mqm/mqft/logs	すべてのユーザーが読み取り可能および書き込み可能 ディレクトリーには、SetGroupID ビット「s」が設定されています。これは、ディレクトリー内で作成されたすべてのファイルがmqmのグループ所有権を持っていることを意味します。

Windows

Windows

表 2. Windows でのディレクトリーの権限の要約	
ディレクトリー	権限
MQ_DATA_PATH\mqft\config	以下のユーザーには読み取りおよび書き込みの全アクセス権限があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理者 • システム・アカウント • mqm グループ その他のユーザーには読み取り権限があります。
MQ_DATA_PATH\mqft\installations	以下のユーザーには読み取りおよび書き込みの全アクセス権限があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理者 • システム・アカウント • mqm グループ その他のユーザーには読み取り権限があります。
MQ_DATA_PATH\mqft\logs	以下のユーザーには読み取りおよび書き込みの全アクセス権限があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理者 • システム・アカウント • mqm グループ その他のユーザーには読み取り権限および書き込み権限があります。

z/OS

z/OS

表 3. z/OS でのディレクトリーの権限の要約	
ディレクトリー	権限
DATA_PATH/mqft/config	<ul style="list-style-type: none"> mqm グループ、または環境変数 BFG_GROUP_NAME で名前を指定されたグループは書き込み可能 すべてのユーザーが読み取り可能 <p>mqm グループ内のユーザー、または環境変数 BFG_GROUP_NAME の値で指定されるグループは、これらのディレクトリーおよびファイルに対する書き込み権限があります。</p>
DATA_PATH/mqft/installations	<ul style="list-style-type: none"> mqm グループ、または環境変数 BFG_GROUP_NAME で名前を指定されたグループは書き込み可能 すべてのユーザーが読み取り可能
DATA_PATH/mqft/logs	すべてのユーザーが読み取り可能および書き込み可能

注: DATA_PATH は、環境変数 BFG_DATA から導出されます。

MFT 固有リソースの権限の管理

どのファイル転送要求でも、Managed File Transfer エージェント・プロセスでは、ローカル・ファイル・システムに対する一定レベルのアクセス権限が必要になります。さらに、エージェント・プロセスと関連付けられているユーザー ID と、ファイル転送操作を実行しているユーザーと関連付けられているユーザー ID の両方は、特定の IBM MQ オブジェクトを使用する権限を持つ必要があります。

コマンドは、ユーザーによって発行されます。ユーザーは操作ロールで、通常、ファイル転送を開始します。あるいは、管理ロールのユーザーであれば、エージェントの作成、開始、削除、またはクリア（つまり、すべてのエージェント・システム・キューからのメッセージ除去）などの追加管理が可能です。コマンド要求を含むメッセージは、ユーザーがコマンドを発行するときにエージェントの SYSTEM.FTE.COMMAND キューに置かれます。エージェント・プロセスは、コマンド要求を含むメッセージを SYSTEM.FTE.COMMAND キューから取り出します。また、エージェント・プロセスは、他に、以下の 4 つのシステム・キューも使用します。

- SYSTEM.FTE.DATA.agent_name
- SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name
- SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name
- SYSTEM.FTE.STATE.agent_name

コマンドを発行するユーザーは、上記のキューをエージェント・プロセスにおいてさまざまな方法で使用するため、ユーザー ID または各 ID に関連付けられたユーザー・グループには、異なる IBM MQ 権限を割り当てます。詳しくは、26 ページの『[MFT 固有リソースのグループ権限の制限](#)』を参照してください。

さらに、エージェントは、特定のアクションの実行権限をユーザーに付与するために使用できるキューを持っています。権限キューの使用方法については、『[32 ページの『MFT エージェント・アクションのユーザー権限の制限』](#)』を参照してください。エージェントは、これらのキューに対してメッセージの PUT または GET を行いません。ただし、エージェント・プロセスの実行に使用されるユーザー ID と、特定のアクションの実行が許可されているユーザーと関連付けられているユーザー ID の両方に、キューに対する正しい IBM MQ 権限が割り当てられていることを確認する必要があります。権限キューは以下のとおりです。

- SYSTEM.FTE.AUTHADM1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHAGT1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHMON1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.agent_name

- SYSTEM.FTE.AUTHSCH1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHTRN1.agent_name

バージョン 7.0.2 より前のバージョンの Managed File Transfer から IBM WebSphere® MQ 7.5 以降にマイグレーションし、既存のエージェント構成を保持する場合は、権限キューを手動で作成する必要があります。このキューを作成するには以下の MQSC コマンドを使用します。

```
DEFINE QLOCAL(authority_queue_name) DEFPRTY(0) DEFSOPT(SHARED) GET(ENABLED) MAXDEPTH(0) +
  MAXMSGL(0) MSGDLVSQ(PRIORITY) PUT(ENABLED) RETINTVL(99999999) SHARE NOTRIGGER +
  USAGE(NORMAL) REPLACE
```

さらに、エージェント・プロセスは、SYSTEM.FTE キューを使用して、調整キュー・マネージャーの SYSTEM.FTE トピックにメッセージをパブリッシュします。エージェント・プロセスが、ソース・エージェントまたは宛先エージェントのいずれのロールであるかにより、エージェント・プロセスでは、ファイルの読み取り、書き込み、更新、および削除権限が必要となる可能性があります。

IBM MQ Explorer を使用して、IBM MQ オブジェクトの権限レコードを作成および変更できます。オブジェクトを右クリックして、次に「オブジェクト権限」>「権限レコードの管理」をクリックします。さらに、**setmqaut** コマンドを使用して、権限レコードを作成することもできます。これは『[setmqaut \(権限の付与または取り消し\) コマンド](#)』で説明されています。

関連資料

26 ページの『MFT 固有リソースのグループ権限の制限』

関連する可能性のあるさまざまなオブジェクトのすべてについて、個々のユーザーに権限を付与する代わりに、Managed File Transfer のアクセス制御を管理する目的で、2つのセキュリティー・グループ FTEUSER と FTEAGENT を構成します。これらのグループの作成と埋め込みは、IBM MQ 管理者が行う責任があります。管理者は、ここで説明される構成の提案を拡大または変更する選択ができます。

32 ページの『MFT エージェント・アクションのユーザー権限の制限』

グループを使用してリソースに対するアクセスを管理することに加えて、追加レベルのセキュリティーを使用可能にして、ユーザーが実行できる Managed File Transfer エージェント・アクションを制限することができます。エージェントの権限キューに対する権限をユーザーに付与して、ユーザーが特定のエージェント・アクションを実行できるようにします。

MFT ロガーの権限

MFT 固有リソースのグループ権限の制限

関連する可能性のあるさまざまなオブジェクトのすべてについて、個々のユーザーに権限を付与する代わりに、Managed File Transfer のアクセス制御を管理する目的で、2つのセキュリティー・グループ FTEUSER と FTEAGENT を構成します。これらのグループの作成と埋め込みは、IBM MQ 管理者が行う責任があります。管理者は、ここで説明される構成の提案を拡大または変更する選択ができます。

キュー・マネージャーに接続する権限

操作権限を持つユーザー、管理権限を持つユーザー、および IBM MQ エクスプローラーによって実行されるコマンドは、コマンド・キュー・マネージャーおよび調整キュー・マネージャーに接続できなければなりません。エージェント・プロセス、およびエージェントの作成、変更、または削除のために実行されるコマンドは、エージェント・キュー・マネージャーに接続できなければなりません。

- コマンド・キュー・マネージャーおよび調整キュー・マネージャーに接続する権限を FTEUSER グループに付与します。以下に例を示します。

ALW AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m command_queue_manager -t qmgr -g FTEUSER +connect
setmqaut -m coordination_queue_manager -t qmgr -g FTEUSER +connect
```

IBM i IBM i の場合:

```
GRTMQMAUT OBJ('command_queue_manager') OBJTYPE(*MQM) USER(FTEUSER) AUT(*CONNECT)
GRTMQMAUT OBJ('coordination_queue_manager') OBJTYPE(*MQM) USER(FTEUSER) AUT(*CONNECT)
```

▶ z/OS z/OS の場合:

```
RDEFINE MQCONN command_queue_manager.BATCH UACC(NONE)
PERMIT command_queue_manager.BATCH CLASS(MQCONN) ID(FTEUSER) ACCESS(READ)
RDEFINE MQCONN coordination_queue_manager.BATCH UACC(NONE)
PERMIT coordination_queue_manager.BATCH CLASS(MQCONN) ID(FTEUSER) ACCESS(READ)
```

- エージェント・キュー・マネージャーに接続および照会する権限を FTEAGENT グループに付与します。以下に例を示します。

▶ ALW AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m agent_queue_manager -t qmgr -g FTEAGENT +connect +inq +setid
```

▶ IBM i IBM i の場合:

```
GRTMQMAUT OBJ('agent_queue_manager') OBJTYPE(*MQM) USER(FTEAGENT) AUT(*CONNECT)
```

▶ z/OS z/OS の場合:

```
RDEFINE MQCONN agent_queue_manager.BATCH UACC(NONE)
PERMIT agent_queue_manager.BATCH CLASS(MQCONN) ID(FTEAGENT) ACCESS(READ)
```

どのコマンドがどのキュー・マネージャーに直接接続するかについては、[MFT コマンドとその接続先のキュー・マネージャー](#)を参照してください

エージェントに属する COMMAND キューにメッセージを PUT するための権限

エージェントのコマンド・キューは、エージェントによるアクションの実行を要求する権限が与えられた、すべてのユーザーが使用できる必要があります。この要件を満たすには、次のようにします。

- FTEUSER グループに SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name キューへの PUT 権限のみを付与します。以下に例を示します。

▶ ALW AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name -t queue -g FTEUSER +put
```

▶ IBM i IBM i の場合:

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(FTEUSER) AUT(*PUT)
MQMNAME('QM1')
```

▶ z/OS z/OS の場合:

```
RDEFINE MQQUEUE QM1.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name UACC(NONE)
PERMIT QM1.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(FTEUSER) ACCESS(UPDATE)
```

- FTEAGENT グループに、SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name キューへの PUT、GET、および setid アクセス権限を付与します。以下に例を示します。

▶ ALW AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name -t queue -g FTEAGENT +browse +put +get
+setid
```

▶ IBM i IBM i の場合:

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(FTEAGENT) AUT(*PUT)
MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(FTEAGENT) AUT(*GET)
MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(FTEAGENT) AUT(*SETID)
MQMNAME('QM1')
```

z/OS**z/OS の場合:**

```
RDEFINE MQQUEUE QM1.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name UACC(NONE)
PERMIT QM1.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(FTEAGENT) ACCESS(UPDATE)
RDEFINE MQADMIN QM1.CONTEXT.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name UACC(NONE)
PERMIT QM1.CONTEXT.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name CLASS(MQADMIN) ID(FTEAGENT)
ACCESS(UPDATE)
```

エージェントには、他のエージェントのコマンド・キューにメッセージを書き込むためのアクセス権限が必要です。リモート・キュー・マネージャーに接続しているエージェントがあれば、チャンネルからそのキューにメッセージを書き込むために追加の権限を付与しなければならない場合があります。

エージェントに属する DATA、STATE、EVENT、および REPLY キューにメッセージを PUT するための権限

Managed File Transfer エージェントのみがこれらのシステム・キューを使用できるようにする必要があります。そのため、グループ FTEAGENT に PUT、GET、および INQUIRE 権限を付与します。これらのシステム・キューの名前は以下のとおりです。

- DATA - SYSTEM.FTE.DATA.agent_name
- STATE - SYSTEM.FTE.STATE.agent_name
- EVENT - SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name
- REPLY - SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name

例えば、SYSTEM.FTE.DATA.agent_name キューに対して、次のようなコマンドを使用します。

ALW**AIX, Linux, and Windows システムの場合:**

```
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.FTE.DATA.agent_name -t queue -g FTEAGENT +put +get +inq
```

IBM i**IBM i の場合:**

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE.DATA.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(FTEAGENT) AUT(*PUT)
MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE.DATA.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(FTEAGENT) AUT(*GET)
MQMNAME('QM1')
```

z/OS**z/OS の場合:**

```
RDEFINE MQQUEUE QM1.SYSTEM.FTE.DATA.agent_name UACC(NONE)
PERMIT QM1.SYSTEM.FTE.DATA.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(FTEAGENT) ACCESS(UPDATE)
```

エージェントには、他のエージェントのデータ・キューと応答キューにメッセージを書き込むためのアクセス権限が必要です。リモート・キュー・マネージャーに接続しているエージェントがあれば、チャンネルからそれらのキューにメッセージを書き込むために追加の権限を付与しなければならない場合があります。

エージェント・プロセスが実行される権限

エージェント・プロセスが実行される 権限は、エージェントがファイル・システムからの読み取りと書き込みができるファイルと、エージェントがアクセスできるキューおよびトピックに影響します。権限がどのように構成されるかは、システムに依存しています。エージェント・プロセスが実行されるユーザー ID を FTEAGENT グループに追加します。グループへのユーザー ID の追加の詳細については、「[セキュリティのセットアップ](#)」を参照し、ご使用のオペレーティング・システムに関する情報までナビゲートしてください。

コマンドと IBM MQ Explorer が実行される権限

fteStartAgent コマンドなどの管理コマンド、および IBM MQ Explorer の Managed File Transfer プラグインは、SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name キューに入れられ、そのキューからパブリッシュされた情報を取得します。コマンドまたは IBM MQ Explorer を実行する権限を付与されたユーザー ID を FTEUSER

グループに追加します。この発信元ユーザー ID は、転送ログに記録されます。グループへのユーザー ID の追加の詳細については、「[セキュリティのセットアップ](#)」を参照し、ご使用のオペレーティング・システムに関する情報までナビゲートしてください。

SYSTEM.FTE キューおよび SYSTEM.FTE トピックにメッセージを PUT する権限

エージェント・プロセスのみが SYSTEM.FTE キューおよび SYSTEM.FTE トピックにメッセージを PUT できなければなりません。SYSTEM.FTE キューに対する PUT、GET、および INQUIRE 権限を FTEAGENT グループに付与し、SYSTEM.FTE トピックに対するパブリッシュおよびサブスクライブ権限を FTEAGENT グループに付与します。以下に例を示します。

ALW

AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.FTE -t queue -g FTEAGENT +put +inq
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.FTE -t topic -g FTEAGENT +pub +sub +resume
```

IBM i

IBM i の場合:

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*Q) USER(FTEAGENT) AUT(*PUT) MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*TOPIC) USER(FTEAGENT) AUT(*PUB) MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*TOPIC) USER(FTEAGENT) AUT(*SUB) MQMNAME('QM1')
```

z/OS

z/OS の場合:

```
RDEFINE MQQUEUE QM1.SYSTEM.FTE UACC(NONE)
PERMIT QM1.SYSTEM.FTE CLASS(MQQUEUE) ID(FTEAGENT) ACCESS(UPDATE)
RDEFINE MXTOPIC QM1.PUBLISH.SYSTEM.FTE UACC(NONE)
PERMIT QM1.PUBLISH.SYSTEM.FTE CLASS(MXTOPIC) ID(FTEAGENT) ACCESS(UPDATE)
```

リモート・キュー・マネージャーに接続しているエージェントがあれば、チャンネルから SYSTEM.FTE キューにメッセージを書き込むために追加の権限を付与しなければならない場合もあります。

メッセージが SYSTEM.FTE トピックにパブリッシュされるには、SYSTEM.FTE トピックの権限レコードによって、メッセージのメッセージ記述子構造 (MQMD) に含まれるユーザー ID によるパブリケーションを許可する必要があります。これについては、[39 ページの『MFT エージェント・ログ・メッセージおよび状況メッセージをパブリッシュする権限』](#)で説明されています。

z/OS 上の SYSTEM.FTE トピックにパブリッシュする許可をユーザーに与えるには、SYSTEM.FTE トピックにパブリッシュするアクセス権限をチャンネル・イニシエーターのユーザー ID に付与する必要があります。RESLEVEL セキュリティー・プロファイルに基づいて、チャンネル・イニシエーター接続に関して 2 つのユーザー ID が検査される場合、メッセージのメッセージ記述子構造 (MQMD) に含まれているユーザー ID にもアクセス権限を付与する必要があります。詳しくは、[RESLEVEL セキュリティー・プロファイル](#)を参照してください。

SYSTEM.FTE トピックでパブリケーションを受信する権限

ログ・メッセージ、進行メッセージ、および状況メッセージの転送は、一般的な用途を目的としているため、FTEUSER グループに SYSTEM.FTE トピックのサブスクライブ権限を付与します。以下に例を示します。

ALW

AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.FTE -t topic -g FTEUSER +sub
```

IBM i

IBM i の場合:

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*TOPIC) USER(FTEUSER) AUT(*SUB) MQMNAME('QM1')
```

z/OS

z/OS の場合:

```
RDEFINE MXTOPIC QM1.SUBSCRIBE.SYSTEM.FTE UACC(NONE)
PERMIT QM1.SUBSCRIBE.SYSTEM.FTE CLASS(MXTOPIC) ID(FTEUSER) ACCESS(ALTER)
```

伝送キューを使用してリモート・キュー・マネージャーに接続する権限

複数キュー・マネージャーのトポロジーでは、エージェントは、リモート・キュー・マネージャーへの接続に使用する伝送キューに対して PUT 権限を必要とします。

ファイル転送のために一時応答キューを作成する権限

ファイル転送要求は、転送の完了を待機し、作成されて埋め込まれる一時応答キューに依存します。FTEUSER グループに、一時モデル・キュー定義に対する DISPLAY、PUT、GET、および BROWSE 権限を付与します。以下に例を示します。

ALW **AIX, Linux, and Windows** システムの場合:

```
setmqaut -m QM1 -n SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE -t queue -g FTEUSER +dsp +put +get +browse
```

IBM i **IBM i** の場合:

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(FTEUSER) AUT(*ADMSP)
MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(FTEUSER) AUT(*PUT)
MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(FTEUSER) AUT(*GET)
MQMNAME('QM1')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(FTEUSER) AUT(*BROWSE)
MQMNAME('QM1')
```

z/OS **z/OS** の場合:

```
RDEFINE MQQUEUE QM1.SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE UACC(NONE)
PERMIT QM1.SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE CLASS(MQQUEUE) ID(FTEUSER) ACCESS(UPDATE)
```

デフォルトでは、このキューは SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE ですが、command.properties ファイル内のプロパティ「modelQueueName」および「dynamicQueuePrefix」の値を設定することにより、名前を構成できます。

z/OS では、一時キューにアクセスする権限を FTEUSER に付与することも必要です。以下に例を示します。

```
RDEFINE MQQUEUE QM1.WMQFTE.** UACC(NONE)
PERMIT QM1.WMQFTE.** CLASS(MQQUEUE) ID(FTEUSER) ACCESS(UPDATE)
```

デフォルトでは、z/OS 上の各一時キューの名前の先頭に WMQFTE が付きます。

以下の表は、セキュリティ・スキームで説明した FTEUSER と FTEAGENT のアクセス制御構成を要約しています。

オブジェクト	オブジェクト・タイプ	FTEUSER	FTEAGENT
エージェント・キュー・マネージャー	キュー・マネージャー		CONNECT、INQ、および SETID。また、32 ページの『MFT エージェント・アクションのユーザー権限の制限』を使用可能にするために、ALT_USER が必要です。
調整キュー・マネージャー	キュー・マネージャー		

表 4. FTEUSER および FTEAGENT のアクセス制御構成の要約 (続き)			
オブジェクト	オブジェクト・タイプ	FTEUSER	FTEAGENT
コマンド・キュー・マネージャー	キュー・マネージャー	CONNECT	CONNECT
SYSTEM.FTE	ローカル・キュー		GET および PUT
SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name	ローカル・キュー	PUT	BROWSE、GET、PUT、および SETID
SYSTEM.FTE.DATA.agent_name	ローカル・キュー		GET および PUT
SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name	ローカル・キュー		BROWSE、GET および PUT
SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name	ローカル・キュー		GET および PUT
SYSTEM.FTE.STATE.agent_name	ローカル・キュー		BROWSE、GET、INQ、および PUT
SYSTEM.FTE	ローカル・トピック	SUBSCRIBE	PUBLISH および SUBSCRIBE
SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE (または一時応答キューを作成するために使用される Managed File Transfer で定義したモデル・キュー。)	モデル・キュー	BROWSE、DISPLAY、GET、および PUT	BROWSE、DISPLAY、GET、および PUT
リモート・キュー・マネージャーと通信するための伝送キュー	ローカル・キュー		PUT

IBM MQ Explorer を使用して転送を管理するための権限

このページで既に言及されている状況でユーザーに MFT 権限を付与することに加えて、IBM MQ Explorer を介してすべての MFT 操作を管理および実行する MFT エージェント・ユーザーに追加の権限を付与する必要があります。IBM MQ Explorer ユーザーがファイル転送の作成、キャンセル、スケジュールや、リソース・モニターの作成や削除、さらに転送テンプレートの作成などのコマンドを実行するには、以下の権限が必要です。

- 調整キュー・マネージャー: connect、inquire、display
- コマンド・キュー・マネージャー: connect、inquire、display
- SYSTEM.FTE トピック: publish、subscribe
- SYSTEM.MQEXPLORER.REPLY.MODEL: display、inquire、get、browse、put
- SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE: inquire、put、display
- SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE: get、put、inquire、display、browse

MFT コマンドとその接続先のキュー・マネージャーも参照してください。

関連資料

32 ページの『[MFT エージェント・アクションのユーザー権限の制限](#)』

グループを使用してリソースに対するアクセスを管理することに加えて、追加レベルのセキュリティーを使用可能にして、ユーザーが実行できる Managed File Transfer エージェント・アクションを制限することができます。エージェントの権限キューに対する権限をユーザーに付与して、ユーザーが特定のエージェント・アクションを実行できるようにします。

MFT ロガーの権限

MFT エージェント・アクションのユーザー権限の制限

グループを使用してリソースに対するアクセスを管理することに加えて、追加レベルのセキュリティーを使用可能にして、ユーザーが実行できる Managed File Transfer エージェント・アクションを制限することができます。エージェントの権限キューに対する権限をユーザーに付与して、ユーザーが特定のエージェント・アクションを実行できるようにします。

ユーザー権限管理の使用可能化

エージェント・アクションに対するユーザー権限検査を有効にするには、以下のステップを実行します。

1. `agent.properties` ファイルで、`authorityChecking` 値を `true` に設定します。詳しくは、[MFT agent.properties ファイル](#) を参照してください。
2. エージェントを実行するユーザーが、エージェント・キュー・マネージャーに対して IBM MQ 代替ユーザー (ALT_USER) 権限を持っていることを確認してください。

z/OS z/OS プラットフォームでは、エージェントを実行するユーザーに、エージェント・アクションを実行する許可を要求できるユーザー ID に対する ALT_USER 権限が付与されていなければならないことに注意してください。

転送に関与する両方のエージェントで同じレベルのセキュリティーが有効になっている必要があります。つまり、両方のエージェントのプロパティー・ファイルで `authorityChecking` が同じ値に設定されている必要があります。 `authorityChecking` プロパティーの値が異なるエージェント間の転送は失敗します。

エージェント権限キュー

エージェントには、どのユーザーが特定のエージェント・アクションを実行するための権限を持つのかを管理する権限キューがあります。エージェントは、これらのキューに対してメッセージの PUT または GET を行いません。エージェント権限キューは以下のとおりです。

- SYSTEM.FTE.AUTHADM1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHAGT1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHMON1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHSCH1.agent_name
- SYSTEM.FTE.AUTHTRN1.agent_name

エージェント・プロパティー **authorityChecking=true** を設定してユーザー権限管理を有効にすると、ユーザーがエージェント権限キューに対して持つ権限によって、ユーザーが実行を許可されるアクションが指定されます。

重要: `inquire` 許可は、すべてのエージェント権限キューに対する必須権限です。

以下の表は、ユーザーまたはグループが特定のアクションを実行するためにエージェント権限キューに対して `inquire` 権限に加えて必要とする IBM MQ アクセス権限を要約したものです。

表 5. ユーザーまたはグループがエージェントの権限キューに対して特定のアクションを実行する必要がある IBM MQ アクセス権限のレベル				
ユーザー処置	Managed File Transfer のアクセス権限	権限キュー	IBM MQ のアクセス権限 (Multiplatforms)	RACF® のアクセス・レベル (z/OS のみ)
-m オプションを指定した <code>fteStopAgent</code> コマンドによるエージェントのシャットダウン	管理	SYSTEM.FTE.AUTHADM1.agent_name	BROWSE	READ

表 5. ユーザーまたはグループがエージェントの権限キューに対して特定のアクションを実行する必要がある IBM MQ アクセス権限のレベル (続き)				
ユーザー処置	Managed File Transfer のアクセス権限	権限キュー	IBM MQ のアクセス権限 (Multiplatforms)	RACF® のアクセスレベル (z/OS のみ)
このエージェントからのファイル転送の開始	転送ソース	SYSTEM.FTE.AUTHTRN1.source_agent_name	BROWSE	READ
このエージェントで管理対象呼び出しを実行します				
同じユーザーが開始したこのエージェントからのファイル転送の取り消し				
このエージェントへのファイル転送の開始	転送宛先	SYSTEM.FTE.AUTHTRN1.destination_agent_name	PUT	UPDATE
同じユーザーが開始したこのエージェントへのファイル転送の取り消し				
リソース・モニターの作成	モニター	SYSTEM.FTE.AUTHMON1.monitor_agent_name	BROWSE	READ
同じユーザーが作成したリソース・モニターの削除				
任意のユーザーが作成したリソース・モニターの削除	モニター操作	SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.agent_name	SET	ALTER
スケジュール済み転送の作成	スケジュール	SYSTEM.FTE.AUTHSCH1.source_agent_name	BROWSE	READ
同じユーザーによって作成されたスケジュール済み転送を削除する				
任意のユーザーまたはグループによって作成されたスケジュール済み転送の削除	スケジュール操作	SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.agent_name	PUT	UPDATE
転送を開始したのと同じユーザーやグループ、または別のユーザーやグループによって作成された転送のキャンセル	転送操作	SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.source_agent_name SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.destination_agent_name	BROWSE	READ



注：ユーザーまたはグループに、転送を開始するリソース・モニターまたはスケジュール済み転送をセットアップする権限を付与するには、モニターまたはスケジュール権限と、転送ソースおよび転送宛先の両方の権限が必要です。

エージェントは、ファイル転送を取り消す要求を受け取ると、取り消しを要求しているユーザーが転送を開始したユーザーと同じかどうかをまず検査します。転送をキャンセルするユーザーと転送を要求したユーザーが同じでない場合、エージェントはキャンセルするユーザーに、SYSTEM.FTE.AUTHOPS1.agent_name キューの browse 権限があるかどうかを検査します。この順序で

権限を検査することで、ファイル転送を要求したユーザーと取り消しを要求したユーザーが同じである場合に、エージェントとキュー・マネージャーのエラー・ログ内の予期しないエラーが回避されます。

ユーザーは1つのエージェントを開始でき、そのエージェントから別のエージェントとの対話を行うことができます。2つのエージェントの対話方法は、ユーザーがもう一方のエージェント権限キューに対して持っているアクセス権限のレベルに応じて異なります。

表 6. エージェントを開始するユーザーが、エージェント間でファイルを転送できるように、別のエージェントの権限キューに対して必要な IBM MQ アクセス権限のレベル


エージェント・アクション	Managed File Transfer のアクセス権限	権限キュー	IBM MQ のアクセス権限 (Multiplatforms)	RACF のアクセス・レベル (z/OS のみ)
転送の受信 <i>source_agent</i>	エージェント・ソース	SYSTEM.FTE.AUTHAGT1. <i>source_agent_name</i>	BROWSE	READ
転送の送信先 <i>destination_agent</i>	エージェント宛先	SYSTEM.FTE.AUTHAGT1. <i>destination_agent_name</i>	PUT	UPDATE
  エージェントからの管理対象呼び出しの開始	エージェント・ソース	SYSTEM.FTE.AUTHTRN1. <i>agent_name</i>	BROWSE	READ


ユーザー権限管理の構成

ユーザーにエージェントに対するアクションの実行権限を与えるには、関係する権限キューに対する適切な権限をユーザーに付与します。ユーザーに権限を付与するには、以下のステップを実行します。

1. エージェント・キュー・マネージャーがあるシステムに、エージェント・アクションの実行権限を与えるユーザーと同じ名前のユーザーを作成します。このユーザーはアクティブでなくても構いません。
2. 関係する権限キューに対する適切な権限をユーザーに付与します。AIX、Linux、または Windows を使用している場合は、`setmqaut` コマンドを使用できます。
3. キュー・マネージャーのセキュリティ構成をリフレッシュします。 `REFRESH SECURITY MQSC` コマンドを使用できます。

例

 `setmqaut` コマンドは、z/OS システムでは使用されません。z/OS では、代わりに RACF を使用してください。詳しくは、[z/OS でのセキュリティのセットアップ](#)を参照してください。

 `setmqaut` コマンドは、IBM i システムでは使用されません。IBM i の場合は、『[IBM MQ オブジェクトに対するアクセス権限](#)』を参照してください。このトピックでは、IBM MQ オブジェクトの許可を実行する方法を説明しています。IBM i では、**Grant MQ Object Authority (GRMQMAUT)**、**Revoke MQ Object Authority (RVKMQMAUT)**、および **Refresh MQ Authority (RFRMQMAUT)** の 3 つの関連 CL コマンドを使用できます。

グループ `requestor_group` のメンバーであるユーザーが、グループ `user1_group` のメンバーであるユーザー `user1` の下で実行されている AGENT1 から、グループ `user2_group` のメンバーであるユーザー `user2` の下で実行されている AGENT2 にファイルを転送する、AGENT1 上のリソース・モニターをセットアップしようとしています。AGENT1 は QM1 に接続し、AGENT2 は QM2 に接続します。両方のエージェントで権限検査が有効になっています。これを実現するには、以下のステップを実行します。

1. `requestor` には、AGENT1 に対する **モニター** 権限が必要です。この権限を設定するには、QM1 が稼働中のシステムで次のコマンドを実行します。

```
setmqaut -m QM1 -t queue -n SYSTEM.FTE.AUTHMON1.AGENT1 -g requestor_group +browse
```

2. `requestor` には、AGENT1 に対する転送元権限が必要です。この権限を設定するには、QM1 が稼働中のシステムで次のコマンドを実行します。

```
setmqaut -m QM1 -t queue -n SYSTEM.FTE.AUTHTRN1.AGENT1 -g requestor_group +browse
```

3. `requestor` には、AGENT2 に対する転送先権限が必要です。この権限を設定するには、QM2 が稼働中のシステムで次のコマンドを実行します。

```
setmqaut -m QM2 -t queue -n SYSTEM.FTE.AUTHTRN1.AGENT2 -g requestor_group +put
```

4. `user2` には、AGENT1 に対するエージェント・ソース権限が必要です。この権限を設定するには、QM1 が稼働中のシステムで次のコマンドを実行します。

```
setmqaut -m QM1 -t queue -n SYSTEM.FTE.AUTHAGT1.AGENT1 -g user2_group +browse
```

5. `user1` には、AGENT2 に対するエージェント宛先権限が必要です。この権限を設定するには、QM2 が稼働中のシステムで次のコマンドを実行します。

```
setmqaut -m QM2 -t queue -n SYSTEM.FTE.AUTHAGT1.AGENT2 -g user1_group +put
```

ロギング

ユーザー権限検査が有効である場合、権限検査が失敗すると、非許可ログ・メッセージが調整キュー・マネージャーに対してパブリッシュされます。詳細については、[セキュリティーの MFT メッセージ・フォーマット](#)を参照してください。

ユーザー権限に関するメッセージはエージェント・イベント・ログへ書き込みます。エージェント・イベント・ログに書き込まれる情報の量を構成するには、エージェント・プロパティー・ファイルで `logAuthorityChecks` プロパティーを設定します。デフォルトでは、権限検査ロギングのレベルは `None` です。また、`logAuthorityChecks` の値を `Failures` に設定することもできます。これは、失敗した許可検査のみを報告することを指定するか、または `All` 失敗した許可検査と成功した許可検査を報告することを指定します。

詳しくは、[MFT agent.properties](#) ファイルを参照してください。

関連資料

26 ページの『[MFT 固有リソースのグループ権限の制限](#)』

関連する可能性のあるさまざまなオブジェクトのすべてについて、個々のユーザーに権限を付与する代わりに、Managed File Transfer のアクセス制御を管理する目的で、2つのセキュリティー・グループ `FTEUSER` と `FTEAGENT` を構成します。これらのグループの作成と埋め込みは、IBM MQ 管理者が行う責任があります。管理者は、ここで説明される構成の提案を拡大または変更する選択ができます。

[MFT ロガーの権限](#)

[fteStopAgent](#)

機密構成情報にアクセスするための MFT アクセス権

機密構成情報を保管するために使用するファイル (つまり IBM MQ 構成ツリーから参照されるファイル) に対する読み取り権限、書き込み権限、または削除権限 (可能な場合) は、システム全体に対して付与してはなりません。この制限は、トラストストア・ファイルと鍵ストア・ファイルにも当てはまります。

構成ファイルに機密情報が含まれていて、構成ファイルが鍵ストア・ファイルまたはトラストストア・ファイルであり、構成ファイルに対する読み取り権限、書き込み権限、または削除権限がシステム全体に付与されている状態を Managed File Transfer プロセスが検出すると、プロセスは以下のいずれかのアクションを実行します。

- 状態が起動時に検出された場合は、開始に失敗する。

- 状態が実行時に検出された場合は、警告メッセージを生成し、構成ファイルの内容を無視する。これは、プロセスの実行中に構成が変更された場合に構成を再ロードする、プロトコル・ブリッジおよび Connect:Direct® ブリッジに関係します。

ファイル・システムが UNIX タイプのシステムの場合

ファイルに対して許容できないシステム全体にわたる権限が設定されているかどうかを判別するための基準は以下のとおりです。

- その他クラスに、ファイルに対する読み取り権限が付与されている
- その他クラスに、ファイルに対する書き込み権限が付与されている
- その他クラスに、ファイルが含まれているディレクトリーに対する書き込み権限が付与されている

Windows システムの場合:

ファイルに対して許容できないシステム全体にわたる権限が設定されているかどうかを判別するための基準は以下のとおりです。

- 全員グループ、ゲスト・グループ、またはユーザー・グループには以下の権限を付与できます。
 - ファイルに対するデータ読み取り権限
 - ファイルに対するデータ追加権限
 - ファイルに対するデータ書き込み権限
- 全員グループ、ゲスト・グループ、またはユーザー・グループには、ファイルが含まれているフォルダーに対するファイル作成権限が付与されており、以下の権限も付与できます。
 - ファイルが含まれているフォルダーに対するサブフォルダーおよびファイルの削除権限
 - ファイルに対する削除権限

ユーザーへの MFT 固有リソースに対する権限の付与

クライアント・トランスポート内のキュー・マネージャーに接続する際に、さまざまなオブジェクトのすべてについて、個々のユーザーに提供する必要がある権限。

以下の例では、Bob は接続しようとしているユーザーの名前であり、キュー・マネージャー MQ2 は調整、コマンド、およびエージェント・キュー・マネージャーとして機能することに注意してください。

キュー・マネージャーに接続する権限

操作権限を持つユーザー、管理権限を持つユーザー、および IBM MQ Explorer によって実行されるコマンドは、コマンド・キュー・マネージャーおよび調整キュー・マネージャーに接続できなければなりません。エージェント・プロセス、およびエージェントの作成、変更、または削除のために実行されるコマンドは、エージェント・キュー・マネージャーに接続できなければなりません。詳しくは、[どの MFT コマンドおよびプロセスがどのキュー・マネージャーに接続するか](#)を参照してください。

コマンドを実行しているユーザー、およびエージェント・プロセスを開始するユーザーには、関連するキュー・マネージャーに接続するための権限が必要です。

ALW **AIX, Linux, and Windows システムの場合:**

```
setmqaut -m MQ2 -t qmgr -p Bob +connect +inq +setid
```

IBM i **IBM i の場合:**

```
GRTMQMAUT OBJ('MQ2') OBJTYPE(*MQM) USER(Bob) AUT(*CONNECT)
GRTMQMAUT OBJ('MQ2') OBJTYPE(*MQM) USER(Bob) AUT(*INQ)
GRTMQMAUT OBJ('MQ2') OBJTYPE(*MQM) USER(Bob) AUT(*SETID)
```

z/OS**z/OS の場合:**

```
RDEFINE MQCONN MQ2.BATCH UACC(NONE)
PERMIT MQ2.BATCH CLASS(MQCONN) ID(Bob) ACCESS(READ)
```

エージェントに属するコマンド・キューに対する権限

エージェント・プロセスを実行しているユーザー、およびエージェントと対話するコマンドを実行しているユーザーは、SYSTEM.FTE.COMMAND。エージェント・キュー・マネージャー上の agent_name キュー。

注: 以下の例では、agent_name を、システム・キューに使用しているエージェントの実際の名前に置き換える必要があります。

ALW**AIX, Linux, and Windows システムの場合:**

```
setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name -m MQ2 -p Bob
+put +get +setid +browse
```

IBM i**IBM i の場合:**

```
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob)
AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob)
AUT(*GET) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob)
AUT(*SETID) MQMNAME('MQ2')
```

z/OS**z/OS の場合:**

```
RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)
RDEFINE MQADMIN MQ2.CONTEXT.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name UACC(NONE)
PERMIT MQ2.CONTEXT.SYSTEM.FTE.COMMAND.agent_name CLASS(MQADMIN) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)
```

エージェントに属する DATA、STATE、EVENT、および REPLY キューにメッセージを PUT するための権限

エージェント・キュー・マネージャーでは、状態キューに対する put、get、および inquire の各アクセス権限と、その他のキューに対する put および get の各アクセス権限が必要です。

注: 以下の例では、agent_name を、システム・キューに使用しているエージェントの実際の名前に置き換える必要があります。

ALW**AIX, Linux, and Windows システムの場合:**

```
setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name -m MQ2 -p Bob +put +get
setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name -m MQ2 -p Bob +put +get +browse
setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.FTE.DATA.agent_name -m MQ2 -p Bob +put +get
setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.FTE.STATE.agent_name -m MQ2 -p Bob +put +get +inq
```

IBM i**IBM i の場合:**

```
AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.DATA.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*GET) MQMNAME('MQ2')

GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*GET) MQMNAME('MQ2')

GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
```

```

GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*GET) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*BROWSE) MQMNAME('MQ2')

GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.STATE.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.STATE.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*GET) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE.STATE.agent_name') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*INQ) MQMNAME('MQ2')

```

z/OS の場合:

```

RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.FTE.REPLY.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)

RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.FTE.DATA.agent_name UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.FTE.DATA.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)

RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.FTE.EVENT.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)

RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.FTE.STATE.agent_name UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.FTE.STATE.agent_name CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)

```

ファイル転送のために一時応答キューを作成する権限

コマンド・キュー・マネージャーに接続するコマンドは、そのキュー・マネージャー上に一時キューを作成します。コマンドは、その要求を実行依頼すると、応答が一時応答キューに戻されるのを待ちます。

ユーザー Bob には、一時モデル・キュー定義に対する display、put、get、および browse 権限が必要です。

ALW AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```
setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE -m MQ2 -p Bob +put +dsp +get +browse
```

IBM i の場合:

```

GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*ADMSP) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*GET) MQMNAME('MQ2')
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*BROWSE) MQMNAME('MQ2')

```

z/OS の場合:

```

RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)

```

SYSTEM.FTE キューおよび SYSTEM.FTE トピックにメッセージを PUT する権限

SYSTEM.FTE キューに対する Put 許可、および SYSTEM.FTE トピックに対する publish 許可と subscribe 許可 (両方とも調整キュー・マネージャーでホストされます) が必要です。

ALW AIX, Linux, and Windows システムの場合:

```

setmqaut -m MQ2 -t queue -n SYSTEM.FTE -m MQ2 -p Bob +put

setmqaut -m MQ2 -t topic -n SYSTEM.FTE -m MQ2 -p Bob +pub
setmqaut -m MQ2 -t topic -n SYSTEM.FTE -m MQ2 -p Bob +sub

```

IBM i の場合:

```
GRTRMQAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*Q) USER(Bob) AUT(*PUT) MQMNAME('MQ2')
```

```
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*TOPIC) USER(Bob) AUT(*PUB) MQMNAME('MQ2')
GRTMQMAUT OBJ('SYSTEM.FTE') OBJTYPE(*TOPIC) USER(Bob) AUT(*SUB) MQMNAME('MQ2')
```

z/OS

z/OS の場合:

```
RDEFINE MQQUEUE MQ2.SYSTEM.FTE UACC(NONE)
PERMIT MQ2.SYSTEM.FTE CLASS(MQQUEUE) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)
```

```
RDEFINE MXTOPIC MQ2.PUBLISH.SYSTEM.FTE UACC(NONE)
PERMIT MQ2.PUBLISH.SYSTEM.FTE CLASS(MXTOPIC) ID(Bob) ACCESS(UPDATE)
```

関連資料

26 ページの『MFT 固有リソースのグループ権限の制限』

関連する可能性のあるさまざまなオブジェクトのすべてについて、個々のユーザーに権限を付与する代わりに、Managed File Transfer のアクセス制御を管理する目的で、2つのセキュリティー・グループ FTEUSER と FTEAGENT を構成します。これらのグループの作成と埋め込みは、IBM MQ 管理者が行う責任があります。管理者は、ここで説明される構成の提案を拡大または変更する選択ができます。

32 ページの『MFT エージェント・アクションのユーザー権限の制限』

グループを使用してリソースに対するアクセスを管理することに加えて、追加レベルのセキュリティーを使用可能にして、ユーザーが実行できる Managed File Transfer エージェント・アクションを制限することができます。エージェントの権限キューに対する権限をユーザーに付与して、ユーザーが特定のエージェント・アクションを実行できるようにします。

MFT ロガーの権限

MFT エージェント・ログ・メッセージおよび状況メッセージをパブリッシュする権限

Managed File Transfer エージェントは、調整キュー・マネージャーにパブリッシュされるさまざまな ログ・メッセージ、進行メッセージ、および状況メッセージを発行します。これらのメッセージのパブリケーションは、IBM MQ セキュリティー・モデルの影響を受け、場合によっては、パブリケーションを可能にするために、さらに構成が必要になることがあります。

IBM MQ のセキュリティーの詳細については、[保護 IBM MQ](#) から始まるセクションを参照してください。

Managed File Transfer エージェントは、SYSTEM.FTE キュー。個々のメッセージは、メッセージ記述子 (MQMD) にユーザー ID を含みます。メッセージは SYSTEM.FTE と呼ばれるトピック・オブジェクトを使用してパブリッシュされます。指定されたメッセージのパブリケーションを実行するには、SYSTEM.FTE トピックの権限レコードが、メッセージの MQMD に含まれるユーザー ID によるパブリケーションを許可する必要があります。

z/OS では、チャンネル・イニシエーターのユーザー ID に、SYSTEM.FTE トピックにパブリッシュするためのアクセス権限が必要です。RESLEVEL セキュリティー・プロファイルにより 2つのユーザー ID でチャンネル・イニシエーター接続の検査が行われる場合、メッセージの MQMD に含まれるユーザー ID にもこのトピックにパブリッシュするためのアクセス権限が必要になります。

当初メッセージに含まれるユーザー ID は、エージェントが自身のキュー・マネージャーにどのように接続しているかにより異なります。バインディング接続エージェントからのメッセージには、エージェントが動作する際のユーザー ID が含まれます。クライアント接続エージェントからのメッセージには、IBM MQ の内部ユーザー ID が含まれます。

メッセージ内のユーザー ID は変更することができます。クライアント接続エージェントとバインディング接続エージェントの両方について、プロパティー publicationMDUser (agent.properties ファイル内) を使用して、そのエージェントからのすべてのログおよび状況メッセージで使用されるユーザー ID を指定することができます。この代替ユーザー ID を使用するには、自身のキュー・マネージャーによってエージェントに権限が付与されなければなりません。この権限を付与するには、エージェントが動作する際のユーザー ID に setid 権限を付与します。

さらに、エージェントが自身のキュー・マネージャーに接続するために使用するチャンネルで、MCAUSER プロパティを使用して、クライアント接続エージェントからのすべてのメッセージに含まれるユーザー ID を変更することもできます。


調整キュー・マネージャーにメッセージを組み込む受信側チャンネルなどのチャンネル出口を使用して、メッセージ内のユーザー ID を変更することができます。

IBM MQ トポロジーおよびポリシーによっては、IBM MQ 管理者がこのトピックの情報を使用して、状況メッセージとログ・メッセージのパブリケーションを確実に実行する方法が数多くあります。以下に 2 つの例を示します。

- エージェントで使用されるすべてのユーザー ID をネットワークで決定します。これらの ID にそれぞれ権限レコードを明示的に付与します。
- ログ・メッセージと状況メッセージをパブリッシュするための 1 つ以上の共通ユーザー名を作成します。調整キュー・マネージャーに、これらのユーザー名の権限レコードを作成します。各エージェントの `publicationMDUser` プロパティを共通ユーザー名に設定します。各エージェントのキュー・マネージャーで、`publicationMDUser` プロパティを受け入れることができるように、エージェント実行時に使用するユーザー ID に `setid` 権限を付与します。

ファイル・システムにアクセスするための MFT 権限

どのファイル転送要求でも、Managed File Transfer エージェント・プロセスでは、ローカル・ファイル・システムに対する一定レベルのアクセス権限が必要になります。

- ソース・ファイルから転送するには、ソース・エージェントが動作する際のユーザー ID に、ソース・ファイルへの読み取り権限が必要です。さらに、ソースの後処理属性によっては、ソース・エージェントに削除または書き込み権限を付与する必要がある場合もあります。
- ファイルまたはディレクトリーへの転送では、宛先エージェントを実行するユーザー ID に、指定のパスへの書き込み権限が必要です。さらに、宛先出口属性によっては、宛先エージェントに更新権限を付与する必要がある場合もあります。
- エージェント・プロセスに付与するファイル・アクセス権限に加えて、サンドボックスを使用して、制限付きファイル・パス領域を指定してこれを実施することも可能です。詳しくは、[MFT のサンドボックス](#) を参照してください。
- 転送先または転送元のファイルが、エージェントからアクセスできる場所がない場合 (例えば、 VSAM データ・セットである場合や、サンドボックス機能によって制限されている場所にある場合) は、Managed File Transfer のユーザー出口を使用して、エージェントがアクセスできる場所にそのファイルを移動できます。詳しくは、[ユーザー出口での MFT のカスタマイズ](#) を参照してください。

commandPath MFT プロパティ

`commandPath` プロパティを使用して、Managed File Transfer がコマンドを実行できる場所を指定します。指定された `commandPath` にある任意のコマンドは、エージェントにコマンドを送信できるリモート・クライアント・システムから事実上呼び出すことができるため、このプロパティを設定するときは十分な注意を払ってください。

エージェントが実行されているシステム上で、Managed File Transfer の管理対象転送および管理対象呼び出し機能から実行するコマンドを指定できます。詳しくは、[プログラム呼び出しのネスト・エレメント](#) を参照してください。ただし、コマンドは、`commandPath` エージェント・プロパティで参照されるパス上にある必要があります。

指定されたコマンドが完全修飾されていない場合、Managed File Transfer はコマンド・パス上で一致するコマンドを見つけようとします。コマンド・パス上に一致するコマンドが 2 つ以上ある場合、最初の一致が使用されます。

デフォルトでは、`commandPath` プロパティは空であるため、エージェントはどのコマンドも呼び出すことができません。

`commandPath` エージェント・プロパティを以下のように指定します。


```
commandPath=command_directory_name
separator...command_directory_name
```

z/OS

また、z/OS の場合のみ、次のように指定します。

```
commandPath=command_directory_name_or_data_set_name_prefix
separator...command_directory_name_or_data_set_name_prefix
```

ここで、

- `command_directory_name` は、実行できるコマンドのディレクトリー・パスです。
- **z/OS** `command_directory_name_or_data_set_name_prefix` は、実行できるコマンドの z/OS UNIX System Services・ディレクトリー・パス、またはデータ・セット名接頭部です (先頭に // を付けます)。データ・セット名接頭部では、完全修飾の形式を使用するか、非修飾の形式を使用するか (つまり、// 'HLQ...' という形式にするか、//HLQ... という形式にするか) を選択できます。区分データ・セットを // 'HLQ()...' または //HLQ()... の形式で指定します。データ・セットを使用するのは、JCL スクリプト・コマンドを指定する場合のみです。
- `separator` は、プラットフォーム固有の分離文字です。

Linux

AIX

例えば、AIX and Linux システムで、ディレクトリー /home/user/cmds1 および /home/user/cmds2 にあるコマンドを実行する場合は、**commandPath** エージェント・プロパティを以下のように設定します。

```
commandPath=/home/user/cmds1:/home/user/cmds2
```

括弧、コンマ (,)、および円記号 (¥) は MFT コマンドの特殊文字であり、円記号 (¥) 文字でエスケープする必要があります。 **Windows** File paths on Windows can be specified either using double backslashes (\\) as a separator, or using single forward slashes (/).

Windows

例えば、Windows システムで、ディレクトリー C:\File Transfer\commands および C:\File Transfer\agent commands にあるコマンドを実行する場合は、**commandPath** エージェント・プロパティを以下のように設定します。

```
commandPath=C:\\File Transfer\\commands;C:\\File Transfer\\agent commands
```

z/OS

例えば、z/OS で、次のようなコマンドを実行する場合、

- ディレクトリー /home/user/cmds1 および /home/user/cmds2 内
- // 'USER.CMD1' , //CMD2, で始まるデータ・セット内
- // 'USER.CMDS' という名前の完全修飾 PDS のメンバー

次のようにして、**commandPath** エージェント・プロパティを設定します。

```
commandPath=/home/user/cmds1:/home/user/cmds2:// 'USER.CMD1' ://CMD2:// 'USER.CMDS()'
```

重要: このプロパティを設定するときは細心の注意を払う必要があります。指定されたいずれかの **commandPath** にあるコマンドはどれも、エージェントにコマンドを送信できるリモート・クライアント・システムから呼び出し可能になるからです。このため、デフォルトでは、**commandPath** を指定すると、すべての **commandPath** ディレクトリー (およびそれらのサブディレクトリー) における転送のためのアクセスが自動拒否されるように、サンドボックスが構成されます。

- エージェント・サンドボックスを使用するようにエージェントが構成されている場合、エージェントの開始時に、**commandPath** ディレクトリーが拒否ディレクトリーのリストに自動的に追加されます。
- 1つ以上のユーザー・サンドボックスを使用するようにエージェントが構成されている場合、エージェントの開始時に、各ユーザー・サンドボックスの <read> エlement および <write> Element に **commandPath** ディレクトリーが <exclude> Element として追加されます。

- エージェントがエージェント・サンドボックスとユーザー・サンドボックスのいずれかを使用するように構成されていない場合、エージェントの開始時に、新しいエージェント・サンドボックスが作成され、その中で `commandPath` ディレクトリーが拒否ディレクトリーとして指定されます。

この動作をオーバーライドするには、以下のプロパティを `agent.properties` ファイルに追加します。

```
addCommandPathToSandbox=false
```

`addCommandPathToSandbox` プロパティが存在し、`false` に設定されている場合、以下の動作が発生します。

- エージェント・サンドボックスを使用するようにエージェントが構成されていて、サンドボックスに許可ディレクトリーが指定されていない場合、エージェントが開始すると、`commandPath` ディレクトリーが拒否ディレクトリーのリストに自動的に追加されます。
- エージェント・サンドボックスを使用するようにエージェントが構成されていて、サンドボックスに許可ディレクトリーが1つ以上指定されている場合、エージェントが開始しても、`commandPath` ディレクトリーは拒否ディレクトリーのリストに追加されません。
- エージェントが1つ以上のユーザー・サンドボックスを使用して構成されている場合、ユーザー・サンドボックスは変更されず、`commandPath` ディレクトリーは、`<exclude>` エlementとして、各ユーザー・サンドボックスの`<read>` Elementおよび`<write>` Elementに追加されません。
- エージェントがエージェント・サンドボックスとユーザー・サンドボックスのいずれかを使用するように構成されていない場合、エージェントの開始時に、新しいエージェント・サンドボックスが作成され、その中で `commandPath` ディレクトリーが拒否ディレクトリーとして指定されます。

関連資料

[MFT agent.properties ファイル](#)

暗号ハードウェア

IBM MQ が暗号化ハードウェアをサポートする方法は、使用しているプラットフォームによって異なります。

ALW AIX, Linux, and Windows システムでは、IBM MQ は、PKCS #11 インターフェースを使用するさまざまな暗号ハードウェアに対するサポートを提供します。

z/OS **IBM i** IBM i および z/OS では、オペレーティング・システムが、暗号ハードウェアのサポートを提供します。

現在サポートされている暗号化カードのリストについては、[IBM MQ 用の暗号化カードのリスト](#)を参照してください。

すべてのプラットフォーム上では、暗号ハードウェアは TLS ハンドシェイク段階および秘密鍵のリセット時に使用されます。

IBM i IBM i では、DCM を使用して証明書の作成または更新を行う場合に、コプロセッサに鍵を直接格納することも、コプロセッサのマスター鍵を使用し、秘密鍵を暗号化してから特別な鍵ストア・ファイルに格納することもできます。

z/OS z/OS では、RACF を使用して証明書を作成する場合に、ICSF (Integrated Cryptographic Service Facility) を使用して鍵を格納し、パフォーマンスを向上させ、鍵を安全に保管することができます。TLS ハンドシェイクおよび秘密鍵のネゴシエーションの際、Crypto Express カード (使用可能な場合) を使用して RSA 操作が行われます。ハンドシェイクが完了してデータが流れ始めた後、データは CPACF で暗号化解除され、Crypto Express カードは使用されません。

ALW AIX, Linux, and Windows システムでは、TLS 暗号ハードウェア対称暗号操作のための IBM MQ サポートも提供されています。TLS 暗号ハードウェア対称暗号操作を使用した場合、TLS 接続で送信されたデータは暗号ハードウェア製品によって暗号化/暗号化解除されます。

キュー・マネージャーでこの設定を使用可能にするには、`SSLCryptoHardware` キュー・マネージャー属性を適宜設定します (`ALTER QMGR` と `Change Queue Manager` を参照してください)。WebSphere MQ MQI

クライアントでは、これに相当する変数が提供されています ([クライアント構成ファイルの SSL スタンザを参照](#))。デフォルト設定はオフです。

この属性を使用可能にすると、IBM MQ は、対称暗号操作を使用しようとします。これは、現在の CipherSpec で指定されている暗号化アルゴリズムにおいて暗号ハードウェア製品が対称暗号操作をサポートしているかどうかとは無関係に行われます。暗号ハードウェア製品がこれをサポートしていない場合、IBM MQ はデータ自体の暗号化および暗号化解除を実行し、エラーは報告されません。現在の CipherSpec で指定されている暗号化アルゴリズムに対して暗号ハードウェア製品が対称暗号操作をサポートしている場合は、この機能がアクティブになり、送信されたデータの暗号化および暗号化解除が暗号ハードウェア製品によって実行されます。

プロセッサの使用量が少ない状況では、多くの場合、データをカードにコピーしてからそれを暗号化/暗号化解除して TLS プロトコル・ソフトウェアに再びコピーするよりも、ソフトウェアで暗号化/暗号化解除を実行する方が時間がかかりません。ハードウェア対称暗号操作は、プロセッサの使用量が多い場合には大変便利です。

z/OS 暗号ハードウェアを備えた z/OS では、対称暗号操作がサポートされています。つまり、ハードウェアが、選択されている CipherSpec に対してこの機能を備え、データの暗号化および暗号化解除をサポートするよう構成されている場合、ユーザーのデータはハードウェアによって暗号化および暗号化解除されます。

IBM i IBM i では、現在の CipherSpec で指定されている暗号化アルゴリズムに対してハードウェアがそのような暗号化を実行する機能を備えていても、ユーザーのデータの暗号化や暗号化解除に暗号ハードウェアは使用されません。

SSLPEER 値の IBM MQ 規則

SSLPEER 属性は、IBM MQ チャンネルの相手側にあるピア・キュー・マネージャーまたはピア・クライアントから送られてくる証明書の識別名 (DN) を検査するとき使用される属性です。IBM MQ は、一定の規則に基づいてその値を比較します。



重要: SSLPEER フィルターで使用できるピア値は、[識別名の表](#)に示されているピア値のみです。

SSLPEER 値が DN と比較されるときに、属性値を指定して突き合わせる場合の規則は、次のとおりです。

1. コンマかセミコロンのどちらかを、区切り文字として使用することができます。
2. 区切り文字の前または後のスペースは無視されます。以下に例を示します。

```
CN=John Smith, O=IBM ,OU=Test , C=GB
```

3. 属性タイプ SERIALNUMBER, MAIL, E, UID OR USERID, CN, T, OU, DC, O, STREET, L, ST, SP, S, PC, C, UNSTRUCTUREDNAME, UNSTRUCTUREDADDRESS, DNQ の値は、通常、以下のみを含むテキスト・ストリングです。

- アルファベットの A から Z まで、および a から z まで
- 数字の 0 から 9
- スペース文字
- 文字, . ; ' " () / -

異なるプラットフォーム間の変換の問題を避けるために、属性値に上記以外の文字を使用しないでください。属性タイプ (CN など) は、大文字でなければなりません。

4. 同じ英字が入っているストリングは、大文字小文字の区別なく、一致します。
5. 属性タイプと = 文字の間にスペースを使用することはできません。
6. オプションで、属性値を二重引用符で囲むことができます。例えば、CN="John Smith"などです。この引用符は、値を突き合わせるときは破棄されます。
7. ストリングの前と後のスペースは、ストリングが二重引用符で囲まれていない場合は無視されます。

8. 二重引用符で囲まれているか、円記号 (¥) のエスケープ文字が先頭に付いていると、コンマとセミコロンの属性区切り文字は、ストリングの一部と見なされます。
9. 属性タイプの名前 (例えば、CN または OU) は、二重引用符で囲まれたときにストリングの一部と見なされます。
10. 州・県名には、属性タイプ ST、SP、および S のいずれかを使用することができます。
11. 任意の属性値には、先頭、末尾、または両方の場所で、パターン・マッチング文字としてアスタリスク (*) を指定できます。このアスタリスク文字は、突き合わせるストリングの先頭または末尾の任意の数の文字の代わりに使用されます。この文字は、SSLPEER の指定が、一連の識別名と一致することができます。例えば、OU=IBM* は、IBM で始まるすべての組織単位 (例えば、「IBM Corporation) と一致します。
アスタリスク文字は、識別名の有効文字としても使用できます。ストリングの先頭または末尾にアスタリスクがある完全一致を取得するには、アスタリスクの前に円記号エスケープ文字 (\) を付ける必要があります:*。ストリングの中央にあるアスタリスクは、ストリングの一部と見なされ、エスケープ文字は必要ありません。
12. 識別名には、複数の OU 属性および複数の DC 属性を含めることができます。
13. 複数の OU 属性を指定する場合は、すべての属性が存在し、降順の階層になっている必要があります。例については、[DEFINE CHANNEL](#) を参照してください。
14. デジタル証明書の所有者の識別名には、OU および DC 以外の同じタイプの複数の属性を追加できます。ただし、これを行うことができるのは、繰り返される属性タイプで SSLPEER 値によるフィルタリングが行われない場合のみです。例えば、証明書に以下の所有者の識別名が含まれている場合を考えてみます。

```
CN=First, CN=Second, O=IBM, C=US
```

O=IBM, C=US の SSLPEER 値は CN ではフィルターに掛けられないため、この証明書に一致し、接続を許可します。証明書に複数の CN 属性が含まれているため、SSLPEER 値 CN=First, O=IBM, C=US はこの証明書との突き合わせに失敗します。複数の CN 値と突き合わせることはできません。

15. SERIALNUMBER 属性の値は、コロンで区切られたバイト (16 進数) で構成されます。例えば、A1:B2:C3 のようになります。

関連概念

識別名

[チャンネル認証レコード](#)

関連タスク

[MCAUSER ユーザー ID への TLS 識別名のマッピング](#)

Multi GSKit: FIPS 140-2 に準拠したデジタル証明書署名アルゴリズム

FIPS 140-2 に準拠した IBM Global Security Kit (GSKit) のデジタル証明書署名アルゴリズムのリスト

注: AIX, Linux, and Windows では、IBM MQ は IBM Crypto for C (ICC) 暗号モジュールを介して FIPS 140-2 準拠を提供します。このモジュールの証明書は「履歴」ステータスに移動されました。お客様は、[IBM Crypto for C \(ICC\) 証明書](#) を表示し、NIST から提供されたアドバイスに注意する必要があります。交換用の FIPS 140-3 モジュールが現在進行中であり、その状況を表示するには、「[NIST CMVP modules in process list](#)」でそのモジュールを検索します。

- RSA + SHA-1
- RSA + SHA-224
- RSA + SHA-256
- RSA + SHA-384
- RSA + SHA-512
- DSA + SHA-1
- ECDSA + SHA-1

- ECDSA + SHA-224
- ECDSA と SHA-256
- ECDSA と SHA-384
- ECDSA + SHA-512
- 曲線 P-192
- 曲線 P-224
- 曲線 P-256
- 曲線 P-384
- 曲線 P-521
- 曲線 K-163
- 曲線 K-233
- 曲線 K-283
- 曲線 K-409
- 曲線 K-571
- 曲線 B-163
- 曲線 B-233
- 曲線 B-283
- 曲線 B-409
- 曲線 B-571

関連概念

[IBM MQ におけるデジタル証明書と CipherSpec の互換性](#)

AMS メッセージで使用される GSKit 戻りコード

このトピックでは、一部の Advanced Message Security (AMS) メッセージに表示される IBM Global Security Kit (GSKit) 戻りコードについて説明します。

GSKit によって生成された数値の戻りコードを受け取った場合は、以下の表を参照して、メッセージ・コードまたは説明を判別してください。

10 進戻 りコ ード	メッセージ・コード	説明
0	GSS_S_MINOR_OK	OK。エラーはありません。
0	GSS_S_MINOR_SUCCESS	OK。エラーはありません。
1	GSS_S_MINOR_MEMORY_ALLOCATION_FAILURE	汎用メモリー割り振り失敗が発生しました。
1	GSS_S_MINOR_INSUFFICIENT_STORAGE	汎用メモリー割り振り失敗が発生しました。
2	GSS_S_MINOR_NOT_MECHANISM_NAME	名前がメカニズム名ではありません。
3	GSS_S_MINOR_INVALID_NAME	指定された名前は無効です。
4	GSS_S_MINOR_GSK_ERROR	GSKit がエラーを戻しました。
5	GSS_S_MINOR_NO_MORE_NAME	名前オブジェクトにはこれ以上解析する名前がありません。

表 7.10 進数の戻りコードでソートされた GSKit エラー・メッセージ (続き)

10 進戻 りコ ード	メッセージ・コード	説明
6	GSS_S_MINOR_MEMBER_NOT_FOUND	オブジェクトが1つのセットから参照されましたが、要求されたオブジェクトは見つかりませんでした。
7	GSS_S_MINOR_BAD_QUALITY_OF_PROTECTION_ALGORITHM	保護品質アルゴリズムに誤りがあります。
8	GSS_S_MINOR_BAD_QUALITY_OF_SIGNING_ALGORITHM	署名品質アルゴリズムに誤りがあります。
9	GSS_S_MINOR_BAD_DIGEST_ENCRYPTION_ALGORITHM	ダイジェスト暗号化アルゴリズムに誤りがあります。
10	GSS_S_MINOR_BAD_INPUT	1つ以上の必須の入力パラメーターが NULL です。
11	GSS_S_MINOR_HANDLE_INVALID	オブジェクト・ハンドルが無効です。
12	GSS_S_MINOR_NO_PRIVKEY_IN_KEYRING	データベースに秘密鍵を持つエントリーがありません。
12	GSS_S_MINOR_NO_PRIVKEY_IN_DB	データベースに秘密鍵を持つエントリーがありません。
13	GSS_S_MINOR_BAD_KEYRING_TYPE	データベースのエントリー・タイプに誤りがあります。
14	GSS_S_MINOR_KEYRING_ACCESS_EXCEPTION	データベースへのアクセスで例外が発生しました。 追加情報: すべての GSKit ライブラリーがアクセス可能であり、破損していないことを確認してください。また、HP-UX 上で使用している場合は、SHLIB_PATH がプログラムに対して正しく有効化されていることを確認してください。
15	GSS_S_MINOR_API_NOT_SUPPORTED	このアプリケーション・インターフェース (API) はサポートされていません。
16	GSS_S_MINOR_CREDENTIAL_STILL_EXISTS	この資格情報はすでに存在します。
17	GSS_S_MINOR_ENV_STILL_EXISTS	環境はすでに存在しています。
18	GSS_S_MINOR_EXPIRED_CREDENTIAL	資格情報の有効期限が切れています。
19	GSS_S_MINOR_NO_SIGNER	指定された資格情報に使用できる署名者がいません。
20	GSS_S_MINOR_PIDU_HAD_INVALID_CONTENT_TYPE	この保護独立データ単位 (Protected Independent Data Unit (PIDU)) のコンテンツ・タイプが無効です。
21	GSS_S_MINOR_PIDU_HAD_INVALID_CONTENT_ENCRYPTION_ALGORITHM	この保護独立データ単位 (PIDU) のコンテンツ暗号化アルゴリズムは無効です。
22	GSS_S_MINOR_BLOB_ALREADY_EXISTS	この blob はすでに存在しています。
23	GSS_S_MINOR_INVALID_MECH	メカニズム・タイプのオブジェクト ID が構文的に無効です。

表 7.10 進数の戻りコードでソートされた GSKit エラー・メッセージ (続き)

10 進戻 りコ ード	メッセージ・コード	説明
24	GSS_S_MINOR_MECH_NOT_SUPPORTED	示されたメカニズム・タイプはこの実装環境ではサポートされていません。
25	GSS_S_MINOR_STATIC_OID	静的なオブジェクト ID (OID) を解放しようとする試みがありましたが、解放できません。
26	GSS_S_MINOR_PIDU_INVALID_SESSION_KEY	この保護独立データ単位 (PIDU) のセッション鍵は、そのデータの復号に使用できません。
27	GSS_S_MINOR_PIDU_RECIPIENT_INFO_INVALID	この保護独立データ単位 (PIDU) が参照している証明書は、そのセッション鍵の復号に使用できません。
28	GSS_S_MINOR_PIDU_HAS_UNSUPPORTED_DIGEST_ALGORITHM	この保護独立データ単位 (PIDU) のダイジェスト・アルゴリズムはサポートされていません。
29	GSS_S_MINOR_PIDU_HAS_UNSUPPORTED_DIGEST_ENCRYPTION	この保護独立データ単位 (PIDU) のダイジェスト暗号化アルゴリズムはサポートされていません。
30	GSS_S_MINOR_SIGNING_NOT_ALLOWED_BY_ENV	この環境は、署名操作を実行するためにセットアップされていません。 追加情報: 証明書内のキー使用ビットが、指定された操作を許可していない可能性があります。
31	GSS_S_MINOR_ENCRYPTION_NOT_ALLOWED_BY_ENV	この環境は、暗号化操作を実行するためにセットアップされていません。 追加情報: 証明書内のキー使用ビットが、指定された操作を許可していない可能性があります。
32	GSS_S_MINOR_NO_VALID_TARGET_NAMES_IN_DATABASE	指定された名前がいずれもデータベース内で見つかりませんでした。
33	GSS_S_MINOR_NO_VALID_SIGNERS	署名済み保護独立データ単位 (PIDU) の保護解除中に、どの署名者も検証できませんでした。
34	GSS_S_MINOR_MULTIPLE_SIGNERS	署名済み保護独立データ単位 (PIDU) に複数の署名者が含まれていますが、最初の署名者だけが返されています。
35	GSS_S_MINOR_BAD_SEQUENCE	マルチバッファが正しくない順序で呼び出されました (例えば、end_unprotect が start_protect の後に呼び出されます)。
36	GSS_S_MINOR_INVALID_NAMETYPE	指定された nametype 引数は無効です。
37	GSS_S_MINOR_FAILURE	一般的な内部障害が発生しました。
38	GSS_S_MINOR_BAD_OID	指定されたオブジェクト ID は構文的に無効です。
39	GSS_S_MINOR_INVALID_CREDENTIAL	資格情報が無効です。
40	GSS_S_MINOR_INVALID_ENVIRONMENT	環境が無効です。

表 7.10 進数の戻りコードでソートされた GSKit エラー・メッセージ (続き)

10 進戻 りコ ード	メッセージ・コード	説明
41	GSS_S_MINOR_VERIFY_NOT_ALLOWED_BY_ENV	この環境は、その操作を検証するためにセットアップされていません。この環境は、その操作を検証するためにセットアップされていません。 追加情報: 証明書内のキー使用ビットが、指定された操作を許可していない可能性があります。
42	GSS_S_MINOR_DECRYPTION_NOT_ALLOWED_BY_ENV	この環境は、復号操作を実行するためにセットアップされていません。 追加情報: 証明書内のキー使用ビットが、指定された操作を許可していない可能性があります。
43	GSS_S_MINOR_UNABLE_TO_DECRYPT_PIDU	この保護独立データ単位 (PIDU) は復号できません。 追加情報: プライバシー保護されたキュー上の受信側拡張属性に、メッセージの実際の受信側の証明書 DN が含まれていることを確認してください。また、送信側がその受信側 DN 用に持っている公開鍵が、受信側の鍵ストア内の秘密鍵に対応していることを確認してください。
44	GSS_S_MINOR_INVALID_PKCS7_MESSAGE	無効な PKCS7 メッセージを受信しました。
45	GSS_S_MINOR_USAGE_VALIDATION_FAILED	アプリケーションが正しいレベルの GSKit/ACME で作成されていないか、ACME API インターフェースの使用が許可されていません。
46	GSS_S_MINOR_DIGEST_ERROR	メッセージ・ダイジェスト中にエラーが発生し、メッセージが破損している可能性があります。
47	GSS_S_MINOR_ENCRYPTION_ERROR	データ暗号化中にエラーが発生し、メッセージが破損している可能性があります。
48	GSS_S_MINOR_DECRYPTION_ERROR	データ復号中にエラーが発生し、メッセージが破損している可能性があります。
49	GSS_S_MINOR_ACCELERATOR_NOT_SUPPORTED	指定されたカードはサポートされていないか、または正しくインストールされていません。
50	GSS_S_MINOR_PKCS11_TOKEN_NOTPRESENT	PKCS #11 トークンが見つかりませんでした。
51	GSS_S_MINOR_PKCS11_TOKEN__LABEL_MISMATCH	PKCS #11 トークン・ラベルが正しく入力されませんでした。
52	GSS_S_MINOR_PKCS11_TOKEN_INVALID_PIN	PKCS #11 トークン用に入力されたユーザー PIN が無効です。
53	GSS_S_MINOR_PKCS11_LIBRARY_NOT_LOADED	システムは PKCS #11 ライブラリーをロードできませんでした。
54	GSS_S_MINOR_DECODING_ERROR	証明書または識別名のいずれかの Base 64 または ASN.1 デコード中にエラーが発生しました。
55	GSS_S_MINOR_SIGN_ERROR	署名処理中にエラーが発生しました。
56	GSS_S_MINOR_VERIFY_ERROR	署名検証プロセス中にエラーが発生しました。

表 7.10 進数の戻りコードでソートされた GSKit エラー・メッセージ (続き)

10 進戻 りコ ード	メッセージ・コード	説明
57	GSS_S_MINOR_RECIPIENT_CERT_NOT_FOUND	アプリケーションは受信側の証明書を見つけることができませんでした。
58	GSS_S_MINOR_CERT_HpAS_NO_PRIVATE_KEY	証明書に秘密暗号鍵がありません。
59	GSS_S_MINOR_CERT_HAS_BAD_VALIDITY_DATE	証明書の有効期限に誤りがあります。
60	GSS_S_MINOR_BAD_CERTIFICATE	証明書が無効です。
61	GSS_S_MINOR_FIPS_NOT_SUPPORTED	このバージョンでは FIPS モードはサポートされていません。
62	GSS_S_MINOR_SIGNER_CERT_BAD	署名者証明書が信頼されていません。
63	GSS_S_MINOR_SIGNER_CERT_BAD_DATE	署名者証明書の有効期限に誤りがあります。

モニター・リファレンス

IBM MQ をモニターするには、このセクションの参照情報を使用してください。

- [49 ページの『構造データ型』](#)
- [74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)
- [120 ページの『イベント・メッセージ参照』](#)

関連タスク

[モニターおよびパフォーマンス](#)

構造データ型

このトピックでは、IBM MQ のモニター技法によって生成されるメッセージ・データで使用される構造データ型について知ることができます。

サブトピックでは、モニター・メッセージ・データで使用される構造データ型について、言語に依存しない形式で説明しています。

- [50 ページの『MQCFBS - バイト・ストリング・パラメーター』](#)
- [52 ページの『MQCFGR - グループ・パラメーター』](#)
- [53 ページの『MQCFH - PCF ヘッダー』](#)
- [57 ページの『MQCFIL - 整数リスト・パラメーター』](#)
- [59 ページの『MQCFIL64 - 64 ビット整数リスト・パラメーター』](#)
- [61 ページの『MQCFIN - 整数パラメーター』](#)
- [63 ページの『MQCFIN64 - 64 ビット整数パラメーター』](#)
- [65 ページの『MQCFSL - ストリング・リスト・パラメーター』](#)
- [67 ページの『MQCFST - ストリング・パラメーター』](#)
- [70 ページの『MQEPH - 組み込み PCF ヘッダー』](#)

宣言については、以下のプログラミング言語で示します。

- C
- COBOL
- PL/I

- ▶ **IBM i** RPG (ILE) (IBM i のみ)
- ▶ **z/OS** S/390 アセンブラー (z/OS のみ)
- ▶ **Windows** Visual Basic (Windows のみ)

MQCFBS - バイト・ストリング・パラメーター

このページを使用して、MQCFBS パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、および S/390 アセンブラー) 用の宣言を確認します。

MQCFBS 構造は、バイト・ストリング・パラメーターについて記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFBS 構造を構成する各フィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [S/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)

Type

説明: これは、バイト・ストリング・パラメーターを記述する MQCFBS 構造であることを示します。

データ型: MQLONG

値: **MQCFT_BYTE_STRING**
バイト・ストリングを定義する構造。

StrucLength

説明: これは、MQCFBS 構造の長さ (バイト単位) で、構造の末尾にある可変長ストリングを含みます (*String* フィールド)。

データ型: MQLONG

Parameter

説明: これは、その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。

データ型: MQLONG

StringLength

説明: これは *String* フィールド内のデータ長さ (バイト) で、値は 0 以上です。

データ型: MQLONG

String

説明: これは、*Parameter* フィールドによって識別されるパラメーターの値です。ストリングはバイト・ストリングであるため、異なるシステム間で送信されるときに文字セット変換は行われません。

注: ストリング内のヌル・バイトは通常の変換として扱われ、ストリングの区切り文字としては機能しません。

データ型: MQBYTE x *StringLength*.

C 言語宣言

```
struct tagMQCFBS {
    MQLONG  Type;          /* Structure type */
    MQLONG  StructLength; /* Structure length */
    MQLONG  Parameter;    /* Parameter identifier */
    MQLONG  StringLength; /* Length of string */
    MQBYTE  String[1];    /* String value -- first character */
} MQCFBS;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFBS structure
10 MQCFBS.
** Structure type
15 MQCFBS-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFBS-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFBS-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Length of string
15 MQCFBS-STRINGLENGTH PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS のみ)

```
dcl
1 MQCFBS based,
3 Type fixed bin(31), /* Structure type */
3 StructLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 StringLength fixed bin(31); /* Length of string */
```

RPG/ILE 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFBS Structure
D*
D* Structure type
D BSTYP 1 4I 0 INZ(9)
D* Structure length
D BSLEN 5 8I 0 INZ(16)
D* Parameter identifier
D BSPRM 9 12I 0 INZ(0)
D* Length of string
D BSSTL 13 16I 0 INZ(0)
D* String value -- first byte
D BSSRA 17 17 INZ
```

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```
MQCFBS DSECT
MQCFBS_TYPE DS F Structure type
MQCFBS_STRUCLength DS F Structure length
MQCFBS_PARAMETER DS F Parameter identifier
MQCFBS_STRINGLENGTH DS F Length of string
*
MQCFBS_LENGTH EQU *-MQCFBS
MQCFBS_AREA DS CL(MQCFBS_LENGTH)
```

MQCFGR - グループ・パラメーター

このページを使用して、MQCFGR パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFGR 構造は、グループ・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFGR 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

MQCFGR 構造は、グループ・パラメーターです。このグループ・パラメーターは、後に続くパラメーター構造を、単一の論理装置としてグループ化します。組み込まれる後続の構造の数は、*ParameterCount* で指定されます。この構造と、構造に含まれるパラメーター構造は、PCF ヘッダー (MQCFH) の *ParameterCount* パラメーターおよびグループ・パラメーター (MQCFGR) 内で、1 構造としてのみカウントされます。

Type

説明:	構造タイプが、このグループにあるパラメーターについて記述する MQCFGR 構造タイプであることを示します。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFT_GROUP パラメーターのグループを定義する構造。

StrucLength

説明:	MQCFGR 構造の長さ (バイト)。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFGR_STRUC_LENGTH コマンド・フォーマットのグループ・パラメーター構造の長さ。

Parameter

説明:	グループ・パラメーターのタイプを識別します。
データ型:	MQLONG

ParameterCount

説明:	<i>Parameter</i> フィールドで識別されるグループ内に含まれる MQCFGR 構造の後に続くパラメーター構造の数。グループ自体に 1 つ以上のグループが含まれる場合、各グループとそのパラメーターは、1 構造としてのみカウントされます。
データ型:	MQLONG

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFGR {
    MQLONG    Type;           /* Structure type */
    MQLONG    StrucLength;    /* Structure length */
    MQLONG    Parameter;     /* Parameter identifier */
    MQLONG    ParameterCount; /* Count of the grouped parameter structures */
} MQCFGR;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFGR structure
 10 MQCFGR.
** Structure type
 15 MQCFGR-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
 15 MQCFGR-STRUCLength  PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
 15 MQCFGR-PARAMETER     PIC S9(9) BINARY.
** Count of grouped parameter structures
 15 MQCFGR-PARAMETERCOUNT PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS および Windows のみ)

```
dcl
 1 MQCFGR based,
 3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
 3 StrucLength   fixed bin(31), /* Structure length */
 3 Parameter      fixed bin(31), /* Parameter identifier */
 3 ParameterCount fixed bin(31), /* Count of grouped parameter structures */
```

RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
  D* MQCFGR Structure
  D*
  D* Structure type
  D GRYP          1      4I INZ(20)
  D* Structure length
  D GRLEN         5      8I INZ(16)
  D* Parameter identifier
  D GRPRM         9      12I INZ(0)
  D* Count of grouped parameter structures
  D GRCNT        13     16I INZ(0)
  D*
```

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```
MQCFGR          DSECT
MQCFGR_TYPE     DS   F      Structure type
MQCFGR_STRUCLength DS   F      Structure length
MQCFGR_PARAMETER DS   F      Parameter identifier
MQCFGR_PARAMETERCOUNT DS   F      Count of grouped parameter structures
MQCFGR_LENGTH   EQU  *-MQCFGR Length of structure
MQCFGR          ORG   MQCFGR
MQCFGR_AREA     DS   CL(MQCFGR_LENGTH)
```

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```
Type MQCFGR
  Type As Long          ' Structure type
  StrucLength As Long   ' Structure length
  Parameter As Long     ' Parameter identifier
  ParameterCount As Long ' Count of grouped parameter structures
End Type
```

MQCFH - PCF ヘッダー

このページを使用して、MQCFH ヘッダーの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFH 構造は、モニター・メッセージのメッセージ・データの開始点に存在する情報について記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFH 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [S/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

Type

説明:	メッセージの内容を示す構造タイプ。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFT_ACCOUNTING メッセージはアカウントティング・メッセージです。
	MQCFT_EVENT メッセージは、イベントのレポートです。
	MQCFT_REPORT メッセージはアクティビティ・レポートです。
	MQCFT_RESPONSE メッセージはコマンドへの応答です。
	MQCFT_STATISTICS メッセージは統計メッセージです。
	MQCFT_TRACE_ROUTE メッセージは経路トレース・メッセージです。

StrucLength

説明:	MQCFH 構造の長さ (バイト) です。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFH_STRUC_LENGTH コマンド・フォーマットのヘッダー構造の長さ。

Version

説明:	構造体のバージョン番号。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFH_VERSION_1 構成イベントおよびコマンド・イベント以外のすべてのイベントのバージョン番号。
	MQCFH_VERSION_2 構成イベントのバージョン番号。
	MQCFH_VERSION_3 コマンド・イベント、アクティビティ・レポート、経路トレース・メッセージ、アカウントティング・メッセージ、および統計メッセージのバージョン番号。

Command

説明:	メッセージのカテゴリを指定します。
-----	-------------------

データ型: MQLONG
値: 以下の構造記述内の *Command* の値を参照してください。
• [127 ページの『イベント・メッセージ MQCFH \(PCF ヘッダー\)』](#)。
• [アクティビティ・レポート MQCFH \(PCF ヘッダー\)](#)。
• [経路トレース・メッセージ MQCFH \(PCF ヘッダー\)](#)。
• [アカウントिंग・メッセージと統計メッセージのメッセージ・データ](#)。

MsgSeqNumber

説明: メッセージ順序番号 これは、関連メッセージのセット内のメッセージの順序番号です。
データ型: MQLONG

Control

説明: 制御オプション。
データ型: MQLONG
値: **MQCFC_LAST**
セット内の最後のメッセージ。
MQCFC_NOT_LAST
セット内の最後のメッセージ以外のメッセージ。

CompCode

説明: 完了コード。
データ型: MQLONG
値: **MQCC_OK**
OK 条件、アクティビティ・レポート、経路トレース・メッセージ、アカウントिंग・メッセージ、または統計メッセージを報告するイベント。
MQCC_WARNING
イベントは警告条件をレポートします。

Reason

説明: 完了コードを修飾する理由コード。
データ型: MQLONG
値: イベント・メッセージの場合:
MQRC_*
レポートされるイベントによって異なります。
注: 理由コードが同じイベント同士の識別は、さらに、イベント・データの中の **ReasonQualifier** パラメーターを使用して行われます。
アクティビティ・レポート、経路トレース・メッセージ、アカウントिंग・メッセージ、および統計メッセージの場合:
MQRC_NONE

ParameterCount

説明: パラメーター構造のカウント。これは、MQCFH 構造に続くパラメーター構造の数です。

データ型: MQLONG
値: 0 以上。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFH {  
    MQLONG   Type;           /* Structure type */  
    MQLONG   StructLength;   /* Structure length */  
    MQLONG   Version;        /* Structure version number */  
    MQLONG   Command;        /* Command identifier */  
    MQLONG   MsgSeqNumber;   /* Message sequence number */  
    MQLONG   Control;        /* Control options */  
    MQLONG   CompCode;       /* Completion code */  
    MQLONG   Reason;         /* Reason code qualifying completion code */  
    MQLONG   ParameterCount; /* Count of parameter structures */  
} MQCFH;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFH structure  
10 MQCFH.  
** Structure type  
15 MQCFH-TYPE PIC S9(9) BINARY.  
** Structure length  
15 MQCFH-STRUCLENGTH PIC S9(9) BINARY.  
** Structure version number  
15 MQCFH-VERSION PIC S9(9) BINARY.  
** Command identifier  
15 MQCFH-COMMAND PIC S9(9) BINARY.  
** Message sequence number  
15 MQCFH-MSGSEQNUMBER PIC S9(9) BINARY.  
** Control options  
15 MQCFH-CONTROL PIC S9(9) BINARY.  
** Completion code  
15 MQCFH-COMPCODE PIC S9(9) BINARY.  
** Reason code qualifying completion code  
15 MQCFH-REASON PIC S9(9) BINARY.  
** Count of parameter structures  
15 MQCFH-PARAMETERCOUNT PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS および Windows)

```
dcl  
1 MQCFH based,  
3 Type fixed bin(31), /* Structure type */  
3 StructLength fixed bin(31), /* Structure length */  
3 Version fixed bin(31), /* Structure version number */  
3 Command fixed bin(31), /* Command identifier */  
3 MsgSeqNumber fixed bin(31), /* Message sequence number */  
3 Control fixed bin(31), /* Control options */  
3 CompCode fixed bin(31), /* Completion code */  
3 Reason fixed bin(31), /* Reason code qualifying completion  
code */  
3 ParameterCount fixed bin(31); /* Count of parameter structures */
```

RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1....:....2....:....3....:....4....:....5....:....6....:....7..  
D* MQCFH Structure  
D*  
D* Structure type  
D FHTYP 1 4I 0 INZ(1)  
D* Structure length  
D FHLEN 5 8I 0 INZ(36)  
D* Structure version number  
D FHVER 9 12I 0 INZ(1)
```



```

D* Command identifier
D FHCMD          13      16I 0 INZ(0)
D* Message sequence number
D FHSEQ          17      20I 0 INZ(1)
D* Control options
D FHCTL          21      24I 0 INZ(1)
D* Completion code
D FHCMP          25      28I 0 INZ(0)
D* Reason code qualifying completion code
D FHREA          29      32I 0 INZ(0)
D* Count of parameter structures
D FHCNT          33      36I 0 INZ(0)
D*

```

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```

MQCFH              DSECT
MQCFH_TYPE         DS    F      Structure type
MQCFH_STRULENGTH   DS    F      Structure length
MQCFH_VERSION      DS    F      Structure version number
MQCFH_COMMAND      DS    F      Command identifier
MQCFH_MSGSEQUENCE DS    F      Message sequence number
MQCFH_CONTROL      DS    F      Control options
MQCFH_COMPCODE     DS    F      Completion code
MQCFH_REASON       DS    F      Reason code qualifying
*                  completion code
MQCFH_PARAMETERCOUNT DS    F      Count of parameter
*                  structures
MQCFH_LENGTH       EQU    *-MQCFH Length of structure
*                  ORG    MQCFH
MQCFH_AREA         DS    CL(MQCFH_LENGTH)

```

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```

Type MQCFH
  Type As Long      'Structure type
  StrucLength As Long 'Structure length
  Version As Long   'Structure version number
  Command As Long   'Command identifier
  MsgSeqNumber As Long 'Message sequence number
  Control As Long   'Control options
  CompCode As Long  'Completion code
  Reason As Long    'Reason code qualifying completion code
  ParameterCount As Long 'Count of parameter structures
End Type

```

MQCFIL - 整数リスト・パラメーター

このページを使用して、MQCFIL パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFIL 構造は、整数リスト・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFIL 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

Type

説明: 構造タイプが MQCFIL であり、整数リスト・パラメーターについて記述していることを示します。

データ型: MQLONG
値: **MQCFT_INTEGER_LIST**
整数リストを定義する構造。

StrucLength

説明: 構造の末尾 (*values* フィールド) にある整数の配列を含む、MQCFIL 構造の長さ (バイト) です。
データ型: MQLONG

Parameter

説明: その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。
データ型: MQLONG

Count

説明: *Values* 配列内の要素の数。
データ型: MQLONG
値: 0 以上。

Values

説明: *Parameter* フィールドで識別されたパラメーターの値の配列。
データ型: MQLONG x *Count*

このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があり、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- COBOL、PL/I、RPG、および System/390 アセンブラーの各プログラミング言語では、このフィールドが構造体宣言から省略されています。構造のインスタンスを宣言するときに、より大きな構造体に MQCFIL を組み込み、MQCFIL の後に、*Values* フィールドを表す追加フィールドを必要なだけ宣言する必要があります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIL {  
    MQLONG  Type;          /* Structure type */  
    MQLONG  StrucLength;  /* Structure length */  
    MQLONG  Parameter;    /* Parameter identifier */  
    MQLONG  Count;        /* Count of parameter values */  
    MQLONG  Values[1];    /* Parameter values - first element */  
} MQCFIL;
```

COBOL 言語宣言

```
**  MQCFIL structure  
10  MQCFIL.  
**  Structure type  
15  MQCFIL-TYPE          PIC S9(9) BINARY.  
**  Structure length  
15  MQCFIL-STRUCLNGTH  PIC S9(9) BINARY.
```

```

**      Parameter identifier
**      15 MQCFIL-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
**      Count of parameter values
**      15 MQCFIL-COUNT      PIC S9(9) BINARY.

```

PL/I 言語宣言

```

dcl
  1 MQCFIL based,
  3 Type      fixed bin(31), /* Structure type */
  3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
  3 Parameter  fixed bin(31), /* Parameter identifier */
  3 Count     fixed bin(31); /* Count of parameter values */

```

RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```

D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFIL Structure
D*
D* Structure type
D  ILTYP          1      4I 0
D* Structure length
D  ILLEN          5      8I 0
D* Parameter identifier
D  ILPRM          9     12I 0
D* Count of paramter valuee
D  ILCNT         13     16I 0

```

S/390 アセンブラー言語宣言

MQCFIL	DSECT	
MQCFIL_TYPE	DS F	Structure type
MQCFIL_STRULENGTH	DS F	Structure length
MQCFIL_PARAMETER	DS F	Parameter identifier
MQCFIL_COUNT	DS F	Count of parameter values
MQCFIL_LENGTH	EQU	*-MQCFIL Length of structure
	ORG	MQCFIL
MQCFIL_AREA	DS	CL(MQCFIL_LENGTH)

Visual Basic 言語宣言

```

Type MQCFIL
  Type As Long      ' Structure type
  StrucLength As Long ' Structure length
  Parameter As Long ' Parameter identifier
  Count As Long     ' Count of parameter value
End Type

```

MQCFIL64 - 64 ビット整数リスト・パラメーター

このページを使用して、MQCFIL64 パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、および S/390 アセンブラー) 用の宣言を確認します。

MQCFIL64 構造は、64 ビット整数リスト・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFIL64 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)

Type

説明:	構造が 64 ビット整数リスト・パラメーターを記述する MQCFIL64 構造であることを示します。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFT_INTEGER64_LIST 64 ビット整数リストを定義する構造。

StrucLength

説明:	構造の末尾 (<i>Values</i> フィールド) にある整数の配列を含む、MQCFIL64 構造の長さ (バイト)。
データ型:	MQLONG

Parameter

説明:	その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。
データ型:	MQLONG

Count

説明:	<i>Values</i> 配列内の要素の数。
データ型:	MQLONG
値:	0 以上。

Values

説明:	<i>Parameter</i> フィールドで識別されたパラメーターの値の配列。
データ型:	(MQINT64 x <i>Count</i>)

このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があり、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- COBOL、PL/I、RPG、および System/390 アセンブラーの各プログラミング言語では、このフィールドが構造体宣言から省略されています。構造のインスタンスを宣言するとき、より大きな構造体に MQCFIL64 を組み込み、MQCFIL64 の後に、*Values* フィールドを表す追加フィールドを必要なだけ宣言する必要があります。

COBOL の場合、追加フィールドは次のように宣言します。

```
PIC S9(18)
```

PL/I の場合、追加フィールドは精度 63 の FIXED BINARY SIGNED として宣言する必要があります。

System/390 アセンブラーの場合、追加フィールドは DS 宣言に D (ダブルワード) として宣言する必要があります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIN64 {  
    MQLONG    Type;           /* Structure type */  
    MQLONG    StrucLength;    /* Structure length */  
    MQLONG    Parameter;     /* Parameter identifier */  
    MQLONG    Count;         /* Count of parameter values */  
};
```

```
MQINT64 Values[1];      /* Parameter value */
} MQCFIL64;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFIL64 structure
10 MQCFIL64.
** Structure type
15 MQCFIL64-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFIL64-STRUCLENGTH PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFIL64-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Count of parameter values
15 MQCFIL64-COUNT PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言

```
dcl
1 MQCFIL64 based,
3 Type fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 Count fixed bin(31) /* Count of parameter values */
```

RPG/ILE 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFIL64 Structure
D*
D* Structure type
D IL64TYP 1 4I 0 INZ(25)
D* Structure length
D IL64LEN 5 8I 0 INZ(16)
D* Parameter identifier
D IL64PRM 9 12I 0 INZ(0)
D* Count of parameter values
D IL64CNT 13 16I 0 INZ(0)
D* Parameter values -- first element
D IL64VAL 17 16 INZ(0)
```

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```
MQCFIL64 DSECT
MQCFIL64_TYPE DS F Structure type
MQCFIL64_STRUCLENGTH DS F Structure length
MQCFIL64_PARAMETER DS F Parameter identifier
MQCFIL64_COUNT DS F Parameter value high
MQCFIL64_LENGTH EQU *-MQCFIL64 Length of structure
MQCFIL64_ORG ORG MQCFIL64
MQCFIL64_AREA DS CL(MQCFIL64_LENGTH)
```

MQCFIN - 整数パラメーター

このページを使用して、MQCFIN パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFIN 構造は、整数パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFIN 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)

- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [S/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

Type

説明: 構造タイプが、整数パラメーターについて記述する MQCFIN 構造タイプであることを示します。

データ型: MQLONG

値: **MQCFT_INTEGER**
整数を定義する構造。

StrucLength

説明: MQCFIN 構造のバイト単位の長さ。

データ型: MQLONG

値: **MQCFIN_STRUC_LENGTH**
MQCFIN 構造体の長さ。

Parameter

説明: その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。

データ型: MQLONG

Value

説明: *Parameter* フィールドによって識別されたパラメーターの値。

データ型: MQLONG

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIN {
    MQLONG Type;          /* Structure type */
    MQLONG StrucLength;   /* Structure length */
    MQLONG Parameter;    /* Parameter identifier */
    MQLONG Value;        /* Parameter value */
} MQCFIN;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFIN structure
10 MQCFIN.
** Structure type
15 MQCFIN-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFIN-STRUCLNGTH PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFIN-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Parameter value
15 MQCFIN-VALUE PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言

```
dcl
1 MQCFIN based,
```

```

3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
3 StructLength  fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter     fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 Value        fixed bin(31); /* Parameter value */

```

RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```

D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFIN Structure
D*
D* Structure type
D INTYP          1          4I 0
D* Structure length
D INLEN         5          8I 0
D* Parameter identifier
D INPRM        9          12I 0
D* Parameter value
D INVAL       13          16I 0

```

S/390 アセンブラー言語宣言

MQCFIN	DSECT	
MQCFIN_TYPE	DS F	Structure type
MQCFIN_STRUCLNGTH	DS F	Structure length
MQCFIN_PARAMETER	DS F	Parameter identifier
MQCFIN_VALUE	DS F	Parameter value
MQCFIN_LENGTH	EQU *-MQCFIN	Length of structure
	ORG MQCFIN	
MQCFIN_AREA	DS CL(MQCFIN_LENGTH)	

Visual Basic 言語宣言

```

Type MQCFIN
  Type As Long      ' Structure type
  StructLength As Long ' Structure length
  Parameter As Long ' Parameter identifier
  Value As Long     ' Parameter value
End Type

```

MQCFIN64 - 64 ビット整数パラメーター

このページを使用して、MQCFIN64 パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、および S/390 アセンブラー) 用の宣言を確認します。

MQCFIN64 構造は、64 ビット整数パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFIN64 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)

Type

説明: 構造が 64 ビット整数パラメーターを記述する MQCFIN64 構造であることを示します。

データ型: MQLONG

値: **MQCFT_INTEGER64**
64 ビット整数を定義する構造。

StrucLength

説明: MQCFIN64 構造の長さ (バイト)。
データ型: MQLONG
値: **MQCFIN64_STRUC_LENGTH**
64 ビット整数パラメーター構造の長さ。

Parameter

説明: その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。
データ型: MQLONG

Values

説明: これは、*Parameter* フィールドによって識別されるパラメーターの値です。
データ型: (MQINT64)

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIN64 {
    MQLONG Type; /* Structure type */
    MQLONG StrucLength; /* Structure length */
    MQLONG Parameter; /* Parameter identifier */
    MQLONG Reserved; /* Reserved */
    MQINT64 Value; /* Parameter value */
} MQCFIN64;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFIN64 structure
10 MQCFIN64.
** Structure type
15 MQCFIN64-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFIN64-STRUCLENGTH PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFIN64-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Reserved
15 MQCFIN64-RESERVED PIC S9(9) BINARY.
** Parameter value
15 MQCFIN64-VALUE PIC S9(18) BINARY.
```

PL/I 言語宣言

```
dcl
1 MQCFIN64 based,
3 Type fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 Reserved fixed bin(31) /* Reserved */
3 Value fixed bin(63); /* Parameter value */
```

RPG/ILE 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFIN64 Structure
D*
D* Structure type
D IN64TYP 1 4I 0 INZ(23)
```


D*	Structure length			
D	IN64LEN	5	8I 0	INZ(24)
D*	Parameter identifier			
D	IN64PRM	9	12I 0	INZ(0)
D*	Reserved field			
D	IN64RSV	13	16I 0	INZ(0)
D*	Parameter value			
D	IN64VAL	17	16	INZ(0)

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFIN64	DSECT		
MQCFIN64_TYPE	DS	F	Structure type
MQCFIN64_STRUCLength	DS	F	Structure length
MQCFIN64_PARAMETER	DS	F	Parameter identifier
MQCFIN64_RESERVED	DS	F	Reserved
MQCFIN64_VALUE	DS	D	Parameter value
MQCFIN64_LENGTH	EQU	*	MQCFIN64 Length of structure
	ORG		MQCFIN64
MQCFIN64_AREA	DS		CL(MQCFIN64_LENGTH)

MQCFSL - スtring・リスト・パラメーター

このページを使用して、MQCFSL パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFSL 構造は、String・リスト・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFSL 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

Type

説明: このフィールドは、構造が String・リスト・パラメーターについて記述する MQCFSL 構造であることを示します。

データ型: MQLONG

値: **MQCFT_STRING_LIST**
String・リストを定義する構造。

StruLength

説明: 構造の末尾 (*Strings* フィールド) にある String の配列を含む、MQCFSL 構造の長さ (バイト) です。

データ型: MQLONG

Parameter

説明: これは、その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。

データ型: MQLONG

CodedCharSetId

説明: これは、*Strings* フィールド内のデータのコード化文字セット ID を指定します。

データ型: MQLONG

Count

説明: *Strings* フィールドにあるストリングの数で、値は 0 以上です。

データ型: MQLONG

StringLength

説明: これは、1つのパラメーター値のバイト単位の長さです。つまり、*Strings* フィールドの 1 ストリングの長さです。ストリングのすべてがこの長さです。

データ型: MQLONG

String

説明: これは、*Parameter* フィールドによって識別されるパラメーターのストリング値のセットです。ストリングの数は *Count* フィールドによって指定され、各ストリングの長さは *StringLength* フィールドによって指定されます。複数のストリングが連結され、隣接するストリング相互間で 1 バイトもスキップされません。ストリングの全長は、1つのストリングの長さに、存在するストリングの数を乗算したもの (つまり、*StringLength* x *Count*) になります。

MQFMT_EVENT メッセージでは、ストリング・パラメーターから末尾空白を省略できます (つまり、定義されているパラメーターの長さより短いストリングになる場合があります)。 *StringLength* は、メッセージ内に実際に存在するストリングの長さを示します。

注: MQCFSL 構造では、ストリング内のヌル文字は通常の変換データとして扱われ、ストリングの区切り文字としては機能しません。つまり、受信側アプリケーションが MQFMT_EVENT メッセージを読み込むときには、送信側アプリケーションで指定したすべてのデータを受信側アプリケーションが受信します。したがって、データは (例えば、受信側アプリケーションが MQGET 呼び出し時に、MQGMO_CONVERT オプションを指定することにより) 文字セット間で変換されている場合があります。

データ型: MQCHAR x *StringLength* x *Count*

COBOL 言語宣言

```
** MQCFSL structure
10 MQCFSL.
** Structure type
15 MQCFSL-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFSL-STRUCLNGTH   PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFSL-PARAMETER    PIC S9(9) BINARY.
** Coded character set identifier
15 MQCFSL-CODEDCHARSETID PIC S9(9) BINARY.
** Count of parameter values
15 MQCFSL-COUNT        PIC S9(9) BINARY.
** Length of one string
15 MQCFSL-STRINGLENGTH PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言

```
dcl
  1 MQCFSL based,
  3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
```

```

3 StrucLength    fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter      fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 CodedCharSetId fixed bin(31), /* Coded character set identifier */
3 Count          fixed bin(31), /* Count of parameter values */
3 StringLength   fixed bin(31); /* Length of one string */

```

RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```

D*.1....:....2....:....3....:....4....:....5....:....6....:....7..
D* MQCFSL Structure
D*
D* Structure type
D SLTYP                1          4I 0
D* Structure length
D SLEEN                5          8I 0
D* Parameter identifier
D SLPRM                9         12I 0
D* Coded character set identifier
D SLCSI               13         16I 0
D* Count of parameter values
D SLCNT               17         20I 0
D* Length of one string
D SLSTL               21         24I 0

```

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```

MQCFSL                DSECT
MQCFSL_TYPE           DS    F    Structure type
MQCFSL_STRUCLNGTH    DS    F    Structure length
MQCFSL_PARAMETER     DS    F    Parameter identifier
MQCFSL_CODEDCHARSETID DS    F    Coded character set identifier
MQCFSL_COUNT         DS    F    Count of parameter values
MQCFSL_STRINGLENGTH  DS    F    Length of one string
*
MQCFSL_LENGTH        EQU    *-MQCFSL
ORG    MQCFSL
MQCFSL_AREA          DS    CL(MQCFSL_LENGTH)

```

Visual Basic 言語宣言 (Windows システムのみ)

```

Type MQCFSL
  Type           As Long 'Structure type'
  StrucLength    As Long 'Structure length'
  Parameter      As Long 'Parameter identifier'
  CodedCharSetId As Long 'Coded character set identifier'
  Count         As Long 'Count of parameter values'
  StringLength   As Long 'Length of one string'
End Type

```

MQCFST - スtring・パラメーター

このページを使用して、MQCFST パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFST 構造は、String・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFST 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

MQCFST 構造は、可変長文字ストリングで終了します。詳細については、*String* フィールドの説明を参照してください。

Type

説明:	構造タイプが、ストリング・パラメーターについて記述する MQCFST 構造タイプであることを示します。
データ型:	MQLONG
値:	MQCFT_STRING ストリングを定義する構造。

StrucLength

説明:	構造の末尾 (<i>String</i> フィールド) にあるストリングを含む、MQCFST 構造の長さ (バイト) です。
データ型:	MQLONG

Parameter

説明:	その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。
データ型:	MQLONG
値:	イベント・メッセージによって異なります。

CodedCharSetId

説明:	<i>String</i> フィールドのデータのコード化文字セット ID。
データ型:	MQLONG

StringLength

説明:	<i>String</i> フィールド内のデータの長さ (バイト) で、値は 0 以上です。
データ型:	MQLONG

String

説明:	<i>Parameter</i> フィールドで識別されたパラメーターの値。 MQFMT_EVENT メッセージでは、ストリング・パラメーターから末尾ブランクを省略できます (つまり、定義されているパラメーターの長さより短いストリングになる場合があります)。 <i>StringLength</i> は、メッセージ内に実際に存在するストリングの長さを示します。
データ型:	MQCHAR x <i>StringLength</i>
値:	ストリングには、 <i>CodedCharSetId</i> によって定義された文字セットに含まれる文字のうち、 <i>Parameter</i> によって識別されるパラメーターに有効な文字を含めることができます。

言語に関する考慮事項: このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があります、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- COBOL、PL/I、System/390 アセンブラー、および Visual Basic の各プログラミング言語では、このフィールドは構造体宣言から省略されます。構造のインスタンスを宣言するときに、より大きな構造体に MQCFST を組み込み、MQCFST の後に *String* フィールドを表す追加フィールドを必要なだけ宣言する必要があります。

ストリング内のヌル文字は通常データとして扱われ、ストリングの区切り文字としては機能しません。つまり、受信側アプリケーションが MQFMT_EVENT メッセージを読み込むときには、送信側アプリケーションで指定したすべてのデータを受信側アプリケーションが受信します。したがって、データは (例えば、受信側アプリケーションが MQGET 呼び出し時に、MQGMO_CONVERT オプションを指定することにより) 文字セット間で変換されている場合があります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFST {
    MQLONG  Type;           /* Structure type */
    MQLONG  StrucLength;    /* Structure length */
    MQLONG  Parameter;     /* Parameter identifier */
    MQLONG  CodedCharSetId; /* Coded character set identifier */
    MQLONG  StringLength;  /* Length of string */
    MQCHAR  String[1];     /* String value - first
                           character */
} MQCFST;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFST structure
10 MQCFST.
** Structure type
15 MQCFST-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFST-STRULENGTH PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFST-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Coded character set identifier
15 MQCFST-CODEDCHARSETID PIC S9(9) BINARY.
** Length of string
15 MQCFST-STRINGLENGTH PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言

```
dcl
1 MQCFST based,
3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength   fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter     fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 CodedCharSetId fixed bin(31), /* Coded character set identifier */
3 StringLength  fixed bin(31); /* Length of string */
```

RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFST Structure
D*
```

```

D* Structure type
D STTYP          1      4I 0
D* Structure length
D STLEN         5      8I 0
D* Parameter identifier
D STPRM         9     12I 0
D* Coded character set identifier
D STCSI        13     16I 0
D* Length of string
D STSTL        17     20I 0

```

S/390 アセンブラー言語宣言

```

MQCFST          DSECT
MQCFST_TYPE     DS F      Structure type
MQCFST_STRUCLNGTH DS F      Structure length
MQCFST_PARAMETER DS F      Parameter identifier
MQCFST_CODEDCHARSETID DS F      Coded character set
*              identifier
MQCFST_STRINGLENGTH DS F      Length of string
MQCFST_LENGTH   EQU *-MQCFST Length of structure
                ORG MQCFST
MQCFST_AREA     DS CL(MQCFST_LENGTH)

```

Visual Basic 言語宣言

```

Type MQCFST
  Type As Long          ' Structure type
  StruLength As Long    ' Structure length
  Parameter As Long     ' Parameter identifier
  CodedCharSetId As Long ' Coded character set identifier
  StringLength As Long  ' Length of string
End Type

```

MQEPH - 組み込み PCF ヘッダー

このページを使用して、MQEPH ヘッダーの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQEPH 構造体は、メッセージがプログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) メッセージである場合に、そのメッセージ内の追加データを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQEPH 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [S/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

追加データは、MQEPH 構造と、その後続く PCF パラメーター構造の配列からなります。MQEPH 構造をメッセージに組み込むには、メッセージ記述子内の **Format** パラメーターを MQFMT_EMBEDDED に設定します。

StrucId

説明: 構造体 ID

データ型: MQCHAR4.

値: **MQEPH_STRUC_ID**
配布ヘッダー構造の ID。

Version

説明:	構造体のバージョン番号。
データ型:	MQLONG
値:	MQEPH_VERSION_1 組み込み PCF ヘッダー構造のバージョン番号。

StrucLength

説明:	構造の長さ。これは MQEPH 構造の長さ (バイト) で、次のヘッダー構造に先行するデータ量を設定します。
データ型:	MQLONG

Encoding

説明:	数値エンコード。最後の PCF パラメーター構造に続くデータの数値エンコードを指定します。
データ型:	MQLONG

CodedCharSetId

説明:	コード化文字セット ID。最後の PCF パラメーター構造に続くデータのコード化文字セット ID を指定します。
データ型:	MQLONG

Format

説明:	形式。最後の PCF パラメーター構造に続くデータの形式名を指定します。
データ型:	MQCHAR8.

Flags

説明:	フラグ。これは予約フィールドです。
データ型:	MQLONG
値:	MQEPH_NONE フラグは指定されていません。 MQEPH_CCSSID_EMBEDDED 文字データを含むパラメーターの文字セットが、各構造の CodedCharSetId フィールド内に個々に指定されています。StrucId フィールドと Format フィールドの文字セットは、MQEPH 構造の前にあるヘッダー構造内の CodedCharSetId フィールドで定義されるか、または MQEPH がメッセージの開始点である場合には MQMD 内の CodedCharSetId フィールドで定義されます。

PCFHeader

説明:	コマンド・フォーマット・ヘッダー。
データ型:	MQCFH

C 言語宣言

```

struct tagMQEPH {
    MQCHAR4 StrucId;          /* Structure identifier */
    MQLONG  Version;         /* Structure version number */
    MQLONG  StrucLength      /* Structure length */
    MQLONG  Encoding;       /* Numeric encoding */
    MQLONG  CodedCharSetId; /* Coded character set identifier */
    MQCHAR8 Format;         /* Data format */
    MQLONG  Flags;         /* Flags */
    MQCFH   PCFHeader;     /* PCF header */
} MQEPH;

```

COBOL 言語宣言

```

** MQEPH structure
10 MQEPH.
** Structure identifier
15 MQEPH-STRUCID PIC X(4).
** Structure version number
15 MQEPH-VERSION PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQEPH-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
** Numeric encoding
15 MQEPH-ENCODING PIC S9(9) BINARY.
** Coded character set identifier
15 MQEPH-CODEDCHARSETID PIC S9(9) BINARY.
** Data format
15 MQEPH-FORMAT PIC X(8).
** Flags
15 MQEPH-FLAGS PIC S9(9) BINARY.
** PCF header
15 MQEPH-PCFHEADER.
** Structure type
20 MQEPH-PCFHEADER-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
20 MQEPH-PCFHEADER-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
** Structure version number
20 MQEPH-PCFHEADER-VERSION PIC S9(9) BINARY.
** Command identifier
20 MQEPH-PCFHEADER-COMMAND PIC S9(9) BINARY.
** Message sequence number
20 MQEPH-PCFHEADER-MSGSEQNUMBER PIC S9(9) BINARY.
** Control options
20 MQEPH-PCFHEADER-CONTROL PIC S9(9) BINARY.
** Completion code
20 MQEPH-PCFHEADER-COMPCODE PIC S9(9) BINARY.
** Reason code qualifying completion code
20 MQEPH-PCFHEADER-REASON PIC S9(9) BINARY.
** Count of parameter structures
20 MQEPH-PCFHEADER-PARAMETERCOUNT PIC S9(9) BINARY.

```

PL/I 言語宣言 (z/OS および Windows)

```

dcl
1 MQEPH based,
3 StrucId char(4), /* Structure identifier */
3 Version fixed bin(31), /* Structure version number */
3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Encoding fixed bin(31), /* Numeric encoding */
3 CodedCharSetId fixed bin(31), /* Coded character set identifier */
3 Format char(8), /* Data format */
3 Flags fixed bin(31), /* Flags */
3 PCFHeader, /* PCF header */
5 Type fixed bin(31), /* Structure type */
5 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
5 Version fixed bin(31), /* Structure version number */
5 Command fixed bin(31), /* Command identifier */
5 MsgSeqNumber fixed bin(31), /* Message sequence number */
5 Control fixed bin(31), /* Control options */
5 CompCode fixed bin(31), /* Completion code */
5 Reason fixed bin(31), /* Reason code qualifying completion
code */
5 ParameterCount fixed bin(31); /* Count of parameter structures */

```


RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```

D*..1....:....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQEPH Structure
D*
D* Structure identifier
D  EPSID          1      4    INZ('EPH ')
D* Structure version number
D  EPVER          5      8I 0 INZ(1)
D* Structure length
D  EPLEN          9      12I 0 INZ(68)
D* Numeric encoding
D  EPENC          13     16I 0 INZ(0)
D* Coded character set identifier
D  EPCSI          17     20I 0 INZ(0)
D* Format name
D  EPFMT          21     28I 0 INZ(' ')
D* Flags
D  EPFLG          29     32I 0 INZ(0)
D* Programmable Command Format Header
D*
D* Structure type
D  EP1TYPE        33     36I 0 INZ(0)
D* Structure length
D  EP1LEN         37     40I 0 INZ(36)
D* Structure version number
D  EP1VER         41     44I 0 INZ(3)
D* Command identifier
D  EP1CMD         45     48I 0 INZ(0)
D* Message sequence number
D  EP1SEQ         49     52I 0 INZ(1)
D* Control options
D  EP1CTL         53     56I 0 INZ(1)
D* Completion code
D  EP1CMP         57     60I 0 INZ(0)
D* Reason code qualifying completion code
D  EP1REA         61     64I 0 INZ(0)
D* Count of parameter structures
D  EP1CNT         65     68I 0 INZ(0)

```

S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```

MQEPH          DSECT
MQEPH_STRUCID  DS  CL4      Structure identifier
MQEPH_VERSION  DS  F        Structure version number
MQEPH_STRUCLNGTH  DS  F        Structure length
MQEPH_ENCODING  DS  F        Numeric encoding
MQEPH_CODEDCHARSETID  DS  F        Coded character set identifier
MQEPH_FORMAT    DS  CL8      Data format
MQEPH_FLAGS     DS  F        Flags
MQEPH_PCFHEADER  DS  0F      Force fullword alignment
MQEPH_PCFHEADER_TYPE  DS  F        Structure type
MQEPH_PCFHEADER_STRUCLNGTH  DS  F        Structure length
MQEPH_PCFHEADER_VERSION  DS  F        Structure version number
MQEPH_PCFHEADER_COMMAND  DS  F        Command identifier
MQEPH_PCFHEADER_MSGSEQNUMBER  DS  F        Message sequence number
MQEPH_PCFHEADER_CONTROL  DS  F        Control options
MQEPH_PCFHEADER_COMPCODE  DS  F        Completion code
MQEPH_PCFHEADER_REASON  DS  F        Reason code qualifying completion code
MQEPH_PCFHEADER_PARAMETERCOUNT  DS  F        Count of parameter structures
MQEPH_PCFHEADER_LENGTH  EQU  *-MQEPH_PCFHEADER
MQEPH_PCFHEADER_AREA  DS  CL(MQEPH_PCFHEADER_LENGTH)
*
MQEPH_LENGTH  EQU  *-MQEPH
MQEPH_AREA    DS  CL(MQEPH_LENGTH)

```

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```

Type MQEPH
  StrucId As String*4      'Structure identifier
  Version As Long          'Structure version number

```

StrucLength As Long	'Structure length
Encoding As Long	'Numeric encoding
CodedCharSetId As Long	'Coded characetr set identifier
Format As String*8	'Format name
Flags As Long	'Flags
Reason As Long	'Reason code qualifying completion code
PCFHeader As MQCFH	'PCF header
End Type	

イベント・データのオブジェクト属性

IBM MQ のモニター手法でイベント・メッセージ内に記録された構成イベント・データに組み込めるオブジェクト属性についての情報。 イベント・データの量は、構成イベントが関連付けられるオブジェクトのタイプによって異なります。

認証構成の属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、認証構成属性を組み込むことができます。

AuthorityRecordType (MQCFIN)

オブジェクト・タイプ (パラメーター ID: `MQIACF_AUTH_REC_TYPE`)。

プロファイルを更新する対象となるオブジェクト・タイプを記述します (例えば `MQOT_Q`)。

AuthorizationList (MQCFIL)

権限リスト (パラメーター ID: `MQIACF_AUTHORIZATION_LIST`)。

`MQAUTH_*` 値を表示します。 [Inquire Authority Records \(応答\)](#) を参照してください。

EntityName (MQCFST)

エンティティ名 (パラメーター ID: `MQCACF_ENTITY_NAME`)。

エンティティ名はプリンシパル名またはグループ名のいずれかです。

ストリングの最大長は `MQ_ENTITY_NAME_LENGTH` です。

EntityType (MQCFIN)

エンティティ・タイプ (パラメーター ID: `MQIACF_ENTITY_TYPE`)。

`MQZAET_*` 値を表示します。 [Inquire Authority Records \(応答\)](#) を参照してください。

認証情報の属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、認証情報属性を組み込むことができます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: `MQCA_ALTERATION_DATE`)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: `MQCA_ALTERATION_TIME`)。

情報が最後に変更された時刻。

AuthInfoConnName (MQCFST)

認証情報接続名 (パラメーター ID: `MQCA_AUTH_INFO_CONN_NAME`)。

ストリングの最大長は 48 です。

AuthInfoDesc (MQCFST)

認証情報記述 (パラメーター ID: `MQCA_AUTH_INFO_DESC`)。

ストリングの最大長は `MQ_AUTH_INFO_DESC_LENGTH` です。

AuthInfoType (MQCFIN)

認証情報タイプ (パラメーター ID: `MQIA_AUTH_INFO_TYPE`)。

値は `MQAIT_CRL_LDAP` です。

LDAPPassword (MQCFST)

LDAP パスワード (パラメーター ID: MQCA_LDAP_PASSWORD)。

ストリングの最大長は MQ_LDAP_PASSWORD_LENGTH です。

LDAPUserName (MQCFST)

LDAP ユーザー名 (パラメーター ID: MQCA_LDAP_USER_NAME)。

ストリングの最大長は 256 です。

CF 構造の属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、CF 構造属性を組み込むことができます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

CFLevel (MQCFIN)

CF レベル (パラメーター ID: MQIA_CF_LEVEL)。

CFStrucDesc (MQCFST)

CF 構造記述 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_DESC)。

ストリングの最大長は MQCA_CF_STRUC_DESC_LENGTH です。

Recovery (MQCFIN)

リカバリー (パラメーター ID: MQIA_CF_RECOVER)。

通信情報の属性**AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

Bridge (MQCFIN)

ブリッジ (パラメーター ID: MQIA_MCAST_BRIDGE)。

マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションが、マルチキャストを使用するアプリケーションにブリッジされるかどうかを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMCB_DISABLED

ブリッジングは無効です。

MQMCB_ENABLED

ブリッジングは有効です。

CCSID (MQCFIN)

コード化文字セット ID (パラメーター ID: MQIA_CODED_CHAR_SET_ID)。

メッセージ送信で使用される CCSID。

CommEvent (MQCFIN)

通信イベント (パラメーター ID: MQIA_COMM_EVENT)。

この COMMINFO オブジェクトで作成されたマルチキャスト・ハンドルのイベント・メッセージを生成するかどうかを制御します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント・メッセージは生成されません。

MQEVR_ENABLED

イベント・メッセージが生成されます。

MQEVR_EXCEPTION

メッセージ信頼性が信頼性しきい値を下回ると、イベント・メッセージが生成されます。

ComminfoName (MQCFST)

通信情報名 (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_NAME)。

返される情報の対象となる管理通信情報定義の名前。

Description (MQCFST)

説明 (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_DESC)。

通信情報オブジェクトに関する記述情報を提供するプレーン・テキストのコメント。

Encoding (MQCFIN)

エンコード (パラメーター ID: MQIACF_ENCODING)。

メッセージ送信のエンコード。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQENC_AS_PUBLISHED

MQENC_NORMAL

MQENC_REVERSED

MQENC_S390

MQENC_TNS

GrpAddress (MQCFST)

グループ・アドレス (パラメーター ID: MQCACH_GROUP_ADDRESS)。

グループの IP アドレスまたは DNS 名。

MonitorInterval (MQCFIN)

モニターの頻度 (パラメーター ID: MQIA_MONITOR_INTERVAL)。

モニター情報の更新およびイベント・メッセージ生成の頻度。

MulticastHeartbeat (MQCFIN)

マルチキャスト・ハートビート (パラメーター ID: MQIACH_MC_HB_INTERVAL)。

ハートビート・インターバル (ミリ秒)。

MulticastPropControl (MQCFIN)

マルチキャスト・プロパティ制御 (パラメーター ID: MQIACH_MULTICAST_PROPERTIES)。

どれだけの MQMD プロパティおよびユーザー・プロパティが、メッセージと共に流れるかを制御します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMCP_ALL

すべてのプロパティが送信されます。

MQMCP_REPLY

メッセージへの応答を処理するユーザー・プロパティおよび MQMD フィールドのみ送信されます。

MQMCP_USER

ユーザー・プロパティのみ送信されます。

MQMCP_NONE

プロパティは送信されません。

MQMCP_COMPAT

プロパティは、以前の IBM MQ マルチキャスト・クライアントと互換性のある形式で送信されます。

MsgHistory (MQCFIN)

メッセージ・ヒストリー (パラメーター ID: **MQIACH_MSG_HISTORY**)。

NACK の場合の再送信を処理するためにシステムで保持されるメッセージ・ヒストリーの量 (キロバイト)。

NewSubHistory (MQCFIN)

新しいサブスクライバー・ヒストリー (パラメーター ID: **MQIACH_NEW_SUBSCRIBER_HISTORY**)。

新しいサブスクライバーが受け取る履歴データの量を制御します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQNSH_NONE

サブスクリプションの時点以降のパブリケーションのみ送信されます。

MQNSH_ALL

認識されている限りのヒストリーが再送されます。

PortNumber (MQCFIN)

ポート番号 (パラメーター ID: **MQIACH_PORT**)。

送信のポート番号。

Type (MQCFIN)

タイプ (パラメーター ID: **MQIA_COMM_INFO_TYPE**)。

通信情報オブジェクトのタイプ。

チャネルの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、チャネル属性を組み込むことができます。

該当するチャネルのタイプに適用する属性のみがイベント・データに入れます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_DATE**)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_TIME**)。

情報が最後に変更された時刻。

BatchHeartbeat (MQCFIN)

バッチ・ハートビートに使用される値 (パラメーター ID: **MQIACH_BATCH_HB**)。

値は 0 から 999999 の範囲で指定できます。値 0 は、ハートビートが使用中でないことを示します。

BatchInterval (MQCFIN)

バッチ間隔 (パラメーター ID: **MQIACH_BATCH_INTERVAL**)。

BatchSize (MQCFIN)

バッチ・サイズ (パラメーター ID: **MQIACH_BATCH_SIZE**)。

ChannelDesc (MQCFST)

チャネル記述 (パラメーター ID: **MQCACH_DESC**)。

ストリングの最大長は **MQ_CHANNEL_DESC_LENGTH** です。

ChannelMonitoring (MQCFIN)

チャネルのモニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: **MQIA_MONITORING_CHANNEL**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

モニター・データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_MEDIUM

モニター・データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_Q_MGR

収集されるモニター・データのレベルは、キュー・マネージャー属性 **ChannelMonitoring** に基づきます。

ChannelName (MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: **MQCACH_CHANNEL_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH** です。

ChannelStatistics(MQCFIN)

チャンネルの統計データ収集のレベル (パラメーター ID: **MQIA_STATISTICS_CHANNEL**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

統計データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

統計データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_MEDIUM

統計データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

統計データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_Q_MGR

収集される統計データのレベルは、キュー・マネージャー属性 **ChannelStatistics** に基づきます。

この属性に関するプラットフォーム固有の詳細については、[ALTER QMGR](#) コマンドの **STATCHL** 属性の説明を参照してください。

ChannelType (MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: **MQIACH_CHANNEL_TYPE**)。

値は次のいずれかです。

MQCHT_SENDER

送信側。

MQCHT_SERVER

サーバー。

MQCHT_RECEIVER

受信側。

MQCHT_REQUESTER

要求側。

MQCHT_SVRCONN

サーバー接続 (クライアントが使用)。

MQCHT_CLNTCONN

クライアント接続。

MQCHT_CLUSRCVR

クラスター受信側。

MQCHT_CLUSSDR

クラスター送信側。

CipherSpec (MQCFST)

SSL 暗号仕様 (パラメーター ID: MQCACH_SSL_CIPHER_SPEC)。

ストリングの最大長は MQ_SSL_CIPHER_SPEC_LENGTH です。

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

ClusterNamelist (MQCFST)

クラスター名前リスト (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAMELIST)。

CLWLChannelPriority (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・チャンネル優先順位 (パラメーター ID:

MQIACH_CLWL_CHANNEL_PRIORITY)。

CLWLChannelRank (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・チャンネル・ランク (パラメーター ID: MQIACH_CLWL_CHANNEL_RANK)。

CLWLChannelWeight (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・チャンネル・ウェイト (パラメーター ID:

MQIACH_CLWL_CHANNEL_WEIGHT)。

ConnectionName (MQCFST)

接続名 (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

DataConversion (MQCFIN)

送信側がアプリケーション・データを変換する必要があるかどうか (パラメーター ID:

MQIACH_DATA_CONVERSION)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCDC_NO_SENDER_CONVERSION

送信側による変換なし。

MQCDC_SENDER_CONVERSION

送信側による変換。

DiscInterval (MQCFIN)

切断間隔 (パラメーター ID: MQIACH_DISC_INTERVAL)。

HeaderCompression (MQCFIL)

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法 (パラメーター ID:

MQIACH_HDR_COMPRESSION)。

送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、クラスター送信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、およびクライアント接続チャンネルの場合、望ましい順に値が指定されます。

値は以下のいずれかです (複数可)。

MQCOMPRESS_NONE

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。

MQCOMPRESS_SYSTEM

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

HeartbeatInterval (MQCFIN)

ハートビート間隔 (パラメーター ID: MQIACH_HB_INTERVAL)。

KeepAliveInterval (MQCFIN)

キープアライブ間隔 (パラメーター ID: MQIACH_KEEP_ALIVE_INTERVAL)。

LocalAddress (MQCFST)

チャンネルのローカル通信アドレス (パラメーター ID: MQCACH_LOCAL_ADDRESS)。

ストリングの最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

LongRetryCount (MQCFIN)

長期再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_LONG_RETRY)。

LongRetryInterval (MQCFIN)

長時間タイマー (パラメーター ID: MQIACH_LONG_TIMER)。

MaxMsgLength (MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIACH_MAX_MSG_LENGTH)。

MCAName (MQCFST)

メッセージ・チャンネル・エージェント名 (パラメーター ID: MQCACH_MCA_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_MCA_NAME_LENGTH です。

MCAType (MQCFIN)

メッセージ・チャンネル・エージェント・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_MCA_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMCAT_PROCESS

プロセス

MQMCAT_THREAD

スレッド

MCAUserIdentifier (MQCFST)

メッセージ・チャンネル・エージェントのユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_MCA_USER_ID)。

MCA ユーザー ID のストリングの最大長は MQ_MCA_USER_ID_LENGTH です。

MessageCompression (MQCFIL)

チャンネルでサポートされるメッセージ・データ圧縮技法 (パラメーター ID: MQIACH_MSG_COMPRESSION)。

送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、クラスター送信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、およびクライアント接続チャンネルの場合、望ましい順に値が指定されます。

値は以下のいずれかです (複数可)。

MQCOMPRESS_NONE

メッセージ・データ圧縮は実行されません。これがデフォルト値です。

MQCOMPRESS_RLE

ラン・レングス・エンコードを使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

MQCOMPRESS_ZLIBFAST

メッセージ・データ圧縮は、速度優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

MQCOMPRESS_ZLIBHIGH

メッセージ・データ圧縮は、圧縮優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

MQCOMPRESS_ANY

キュー・マネージャーでサポートされるすべての圧縮技法を使用できます。受信側、要求側、およびサーバー接続チャンネルの場合にのみ有効です。

ModeName (MQCFST)

モード名 (パラメーター ID: MQCACH_MODE_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_MODE_NAME_LENGTH です。

MsgExit (MQCFSL)

メッセージ出口名 (パラメーター ID: MQCACH_MSG_EXIT_NAME)。

リスト内の名前のは数は、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。これは、**MsgUserData** のカウントと同じです。これは、チャンネルに指定された出口名を超えます。この場合、余分の名前はブランクになります。最小値は 1 です。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。

出口名の最大長は MQ_EXIT_NAME_LENGTH です。

MsgRetryCount (MQCFIN)

メッセージ再試行カウント (パラメーター ID: **MQIACH_MR_COUNT**)。

失敗メッセージが再試行される回数を指定します。

このパラメーターは、受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、および要求側チャンネルにのみ有効です。

MsgRetryExit (MQCFST)

メッセージ再試行出口名 (パラメーター ID: **MQCACH_MR_EXIT_NAME**)。

このパラメーターは、受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、および要求側チャンネルにのみ有効です。

ストリングの最大長は **MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH** です。

MsgRetryInterval (MQCFIN)

メッセージ再試行間隔 (パラメーター ID: **MQIACH_MR_INTERVAL**)。

失敗メッセージの再試行を行う最小時間間隔をミリ秒単位で指定します。

このパラメーターは、受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、および要求側チャンネルにのみ有効です。

MsgRetryUserData (MQCFST)

メッセージ再試行出口ユーザー・データ (パラメーター ID: **MQCACH_MR_EXIT_USER_DATA**)。

メッセージ再試行出口に渡されるユーザー・データを指定します。

このパラメーターは、受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、および要求側チャンネルにのみ有効です。

ストリングの最大長は **MQ_EXIT_DATA_LENGTH** です。

MsgUserData (MQCFSL)

メッセージ出口ユーザー・データ (パラメーター ID: **MQCACH_MSG_EXIT_USER_DATA**)。

リスト内の名前のは数は、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。これは、**MsgExit** のカウントと同じです。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。

ストリングの最大長は **MQ_EXIT_DATA_LENGTH** です。

NetworkPriority (MQCFIN)

ネットワーク優先順位 (パラメーター ID: **MQIACH_NETWORK_PRIORITY**)。

NonPersistentMsgSpeed (MQCFIN)

非永続メッセージが送信される速度 (パラメーター ID: **MQIACH_NPM_SPEED**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQNPMS_NORMAL

通常速度。

MQNPMS_FAST

高速。

Password (MQCFST)

パスワード (パラメーター ID: **MQCACH_PASSWORD**)。

ストリングの最大長は **MQ_PASSWORD_LENGTH** です。

PeerName (MQCFST)

SSL ピア名 (パラメーター ID: **MQCACH_SSL_PEER_NAME**)。

ストリングの最大長は 256 です。

PutAuthority (MQCFIN)

書き込み権限 (パラメーター ID: **MQIACH_PUT_AUTHORITY**)。

値は次のいずれかです。

MQPA_DEFAULT

デフォルト・ユーザー ID が使用されます。

MQPA_CONTEXT

コンテキスト・ユーザー ID が使用されます。

MQPA_ALTERNATE_OR_MCA

代替または MCA ユーザー ID が使用されます。

MQPA_ONLY_MCA

MCA ユーザー ID だけが使用されます。

QMgrName (MQCFST)

キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: **MQCA_Q_MGR_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH** です。

ReceiveExit (MQCFSL)

受信出口名 (パラメーター ID: **MQCACH_RCV_EXIT_NAME**)。

リスト内の名前のは、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。これは、**ReceiveUserData** のカウントと同じです。これは、チャンネルに指定された出口名を超える場合があります。この場合、余分の名前はブランクになります。最小値は 1 です。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。

クライアント接続チャンネルの場合、出口名の最大長は **MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH** です。その他すべてのチャンネルの場合、出口名の最大長は **MQ_EXIT_NAME_LENGTH** です。

ReceiveUserData (MQCFSL)

受信出口ユーザー・データ (パラメーター ID: **MQCACH_RCV_EXIT_USER_DATA**)。

リスト内の名前のは、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。これは、**ReceiveExit** のカウントと同じです。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。

ストリングの最大長は **MQ_EXIT_DATA_LENGTH** です。

SecurityExit (MQCFST)

セキュリティ出口名 (パラメーター ID: **MQCACH_SEC_EXIT_NAME**)。

クライアント接続チャンネルの場合、出口名の最大長は **MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH** です。その他すべてのチャンネルの場合、出口名の最大長は **MQ_EXIT_NAME_LENGTH** です。

SecurityUserData (MQCFST)

セキュリティ出口ユーザー・データ (パラメーター ID: **MQCACH_SEC_EXIT_USER_DATA**)。

ストリングの最大長は **MQ_EXIT_DATA_LENGTH** です。

SendExit (MQCFSL)

送信出口名 (パラメーター ID: **MQCACH_SEND_EXIT_NAME**)。

リスト内の名前のは、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。これは、**SendUserData** のカウントと同じです。これは、チャンネルに指定された出口名を超える場合があります。この場合、余分の名前はブランクになります。最小値は 1 です。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。

クライアント接続チャンネルの場合、出口名の最大長は **MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH** です。その他すべてのチャンネルの場合、出口名の最大長は **MQ_EXIT_NAME_LENGTH** です。

SendUserData (MQCFSL)

送信出口ユーザー・データ (パラメーター ID: **MQCACH_SEND_EXIT_USER_DATA**)。

リスト内の名前のは、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。これは、**SendExit** のカウントと同じです。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

SeqNumberWrap (MQCFIN)

シーケンス折り返し番号 (パラメーター ID: MQIACH_SEQUENCE_NUMBER_WRAP)。

ShortRetryCount (MQCFIN)

短期再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_SHORT_RETRY)。

ShortRetryInterval (MQCFIN)

ショート・タイマー (パラメーター ID: MQIACH_SHORT_TIMER)。

SSLClientAuthentication (MQCFIN)

SSL クライアント認証 (パラメーター ID: MQIACH_SSL_CLIENT_AUTH)。

値は次のいずれかです。

MQSCA_REQUIRED

認証は必須です。

MQSCA_OPTIONAL

認証はオプションです。

TpName (MQCFST)

トランザクション・プログラム名 (パラメーター ID: MQCACH_TP_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_TP_NAME_LENGTH です。

TransportType (MQCFIN)

伝送プロトコル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

値は以下のとおりです。

MQXPT_LU62

LU 6.2。

MQXPT_TCP

TCP。

MQXPT_NETBIOS

NetBIOS。

MQXPT_SPX

SPX。

UserIdentifier (MQCFST)

タスク・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_USER_ID)。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

XmitQName (MQCFST)

伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

チャンネル認証属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、チャンネル認証属性を組み込むことができます。該当するチャンネルのタイプに適用する属性のみがイベント・データに入れます。

ChannelProfile (MQCFST)

チャンネル・プロファイル (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

戻り: 常時。

ChannelAuthType (MQCFIN)

チャンネル認証タイプ (パラメーター ID: MQIACF_CHLAUTH_TYPE)。

戻り: 常時。

Warning (MQCFIN)

警告 (パラメーター ID: **MQIACH_WARNING**)。

戻り: 常時。

connectionNameList (MQCFSL)

接続名リスト (パラメーター ID: **MQCACH_CONNECTION_NAME_LIST**)。

エレメントの長さ: **MQ_CONN_NAME_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** が **MQAUT_BLOCKADDR** の場合のみ。

MCAUserIdList (MQCFSL)

MCA ユーザー ID リスト (パラメーター ID: **MQCACH_MCA_USER_ID_LIST**)。

エレメントの長さ: **MQ_MCA_USER_ID_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** が **MQAUT_BLOCKUSER** の場合のみ。

MCAUser (MQCFST)

MCA ユーザー (パラメーター ID: **MQCACH_MCA_USER_ID**)。

最大長: **MQ_MCA_USER_ID_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** がマッピング・タイプ (**MQCAUT_SSLPEERMAP**、**MQCAUT_ADDRESSMAP**、**MQCAUT_USERMAP**、または **MQCAUT_QMGRMAP**) の場合のみ。

ConnectionName (MQCFST)

接続名 (パラメーター ID: **MQCACH_CONNECTION_NAME**)。

最大長: **MQ_CONN_NAME_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** がマッピング・タイプ (**MQCAUT_SSLPEERMAP**、**MQCAUT_ADDRESSMAP**、**MQCAUT_USERMAP**、または **MQCAUT_QMGRMAP**) の場合のみ。

UserSource (MQCFIN)

ユーザー・ソース (パラメーター ID: **MQIACH_USER_SOURCE**)。

戻り: **ChannelAuthType** がマッピング・タイプ (**MQCAUT_SSLPEERMAP**、**MQCAUT_ADDRESSMAP**、**MQCAUT_USERMAP**、または **MQCAUT_QMGRMAP**) の場合のみ。

SSLPeerName (MQCFST)

SSL ピア名 (パラメーター ID: **MQCACH_SSL_PEER_NAME**)。

最大長: **MQ_SSL_PEER_NAME_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** が **MQCAUT_SSLPEERMAP** の場合のみ。

ClientUserId (MQCFST)

クライアント・ユーザー ID (パラメーター ID: **MQCACH_CLIENT_USER_ID**)。

最大長: **MQ_MCA_USER_ID_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** が **MQCAUT_USERMAP** の場合のみ。

RemoteQueueManagerName (MQCFST)

リモート・キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: **MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME**)。

最大長: **MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH**。

戻り: **ChannelAuthType** が **MQCAUT_QMGRMAP** の場合のみ。

リスナーの属性

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

Windows Adapter (MQCIN)

アダプター番号 (パラメーター ID: MQIACH_ADAPTER)。

NetBIOS が listen するアダプター番号。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Backlog (MQCIN)

バックログ (パラメーター ID: MQIACH_BACKLOG)。

リスナーがサポートする並行接続要求の数。

Windows Commands (MQCIN)

アダプター番号 (パラメーター ID: MQIACH_COMMAND_COUNT)。

リスナーが使用できるコマンドの数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

IPAddress (MQCFST)

IP アドレス (パラメーター ID: MQCACH_IP_ADDRESS)。

リスナーの IP アドレス。IPv4 ドット 10 進表記、IPv6 16 進表記、または英数字ホスト名のいずれかの形式で指定します。

ListenerDesc (MQCFST)

リスナー定義の説明 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_DESC)。

ListenerName (MQCFST)

リスナー定義の名前 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_NAME)。

Windows LocalName (MQCFST)

NetBIOS ローカル名 (パラメーター ID: MQCACH_LOCAL_NAME)。

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Windows NetbiosNames (MQCFIN)

NetBIOS 名 (パラメーター ID: MQIACH_NAME_COUNT)。

リスナーでサポートされる名前数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Port (MQCFIN)

ポート番号 (パラメーター ID: MQIACH_PORT)。

TCP/IP のポート番号。このパラメーターは、**TransportType** の値が MQXPT_TCP の場合にのみ有効です。

Windows Sessions (MQCFIN)

NetBIOS セッション (パラメーター ID: MQIACH_SESSION_COUNT)。

リスナーが使用できるセッションの数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Socket (MQCFIN)

SPX ソケット番号 (パラメーター ID: MQIACH_SOCKET)。

listen する SPX ソケットです。このパラメーターは、**TransportType** の値が MQXPT_SPX の場合にのみ有効です。

StartMode (MQCFIN)

サービス・モード (パラメーター ID: MQIACH_LISTENER_CONTROL)。

リスナーの開始および停止の方法を指定します。値は次のいずれかです。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

リスナーは、ユーザー・コマンドにより手動で開始および停止されます。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

キュー・マネージャーが開始/停止されると、リスナーが開始/停止されます。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR_START

リスナーはキュー・マネージャーが開始すると開始しますが、キュー・マネージャーの停止時には停止しません。

Windows **TPName (MQCFST)**

トランザクション・プログラム名 (パラメーター ID: **MQCACH_TP_NAME**)。

LU 6.2 トランザクション・プログラム名。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

TransportType (MQCFIN)

伝送プロトコル (パラメーター ID: **MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQXPT_TCP

TCP

MQXPT_LU62

LU 6.2

MQXPT_NETBIOS

NetBIOS

MQXPT_SPX

SPX

名前リストの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、名前リスト属性を組み込むことができます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_DATE**)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_TIME**)。

情報が最後に変更された時刻。

NameCount (MQCFIN)

名前リスト内の名前の数 (パラメーター ID: **MQIA_NAME_COUNT**)。

名前リストに入っている名前の数。

NamelistDesc (MQCFST)

名前リスト定義の説明 (パラメーター ID: **MQCA_NAMELIST_DESC**)。

ストリングの最大長は **MQ_NAMELIST_DESC_LENGTH** です。

NamelistName (MQCFST)

名前リストの定義の名前 (パラメーター ID: **MQCA_NAMELIST_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH** です。

NamelistType (MQCFIN)

名前リスト・タイプ (パラメーター ID: **MQIA_NAMELIST_TYPE**)。

Names (MQCFSL)

名前リストに含まれる名前 (パラメーター ID: **MQCA_NAMES**)。

リスト内の名前の数は、MQCFSL 構造の **Count** フィールドで指定されます。各名前の長さは、その構造内の **StringLength** フィールドによって指定されます。名前の最大長は **MQ_OBJECT_NAME_LENGTH** です。

プロセスの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、プロセス属性を組み込むことができます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

ApplId (MQCFST)

アプリケーション ID (パラメーター ID: MQCA_APPL_ID)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_APPL_ID_LENGTH です。

ApplType (MQCFIN)

アプリケーション・タイプ (パラメーター ID: MQIA_APPL_TYPE)。

EnvData (MQCFST)

環境データ (パラメーター ID: MQCA_ENV_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_ENV_DATA_LENGTH です。

ProcessDesc (MQCFST)

プロセス定義の説明 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_DESC_LENGTH です。

ProcessName (MQCFST)

プロセス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_NAME_LENGTH です。

UserData (MQCFST)

ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCA_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_USER_DATA_LENGTH です。

キューの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、キュー属性を組み込むことができます。

該当するキューのタイプに適用する属性のみがイベント・データに入れられます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

BackoutRequeueName (MQCFST)

過剰なバックアウト・リキュー名 (パラメーター ID: MQCA_BACKOUT_REQ_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

BackoutThreshold (MQCFIN)

バックアウトしきい値 (パラメーター ID: MQIA_BACKOUT_THRESHOLD)。

BaseQName (MQCFST)

別名が解決されるキュー名 (パラメーター ID: MQCA_BASE_Q_NAME)。

ローカル・キュー・マネージャーに対して定義されるキューの名前です。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

CFstructure (MQCFST)

CF 構造名 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

ClusterNameList (MQCFST)

クラスター名前リスト (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAMELIST)。

CLWLQueuePriority (MQCFIN)

キュー優先順位 (パラメーター ID: MQIA_CLWL_Q_PRIORITY)。

CLWLQueueRank (MQCFIN)

キュー・ランク (パラメーター ID: MQIA_CLWL_Q_RANK)。

CLWLUseQ (MQCFIN)

これは、ターゲット・キューにローカル・インスタンスと少なくとも 1 つのリモート・クラスター・インスタンスの両方がある場合の MQPUT の動作を定義します (パラメーター ID: MQIA_CLWL_USEQ)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCLWL_USEQ_ANY

リモート・キューとローカル・キューを使用します。

MQCLWL_USEQ_LOCAL

リモート・キューを使用しません。

MQCLWL_USEQ_AS_Q_MGR

キュー・マネージャー属性 **CLWLUseQ** から定義を継承します。

CreationDate (MQCFST)

キュー作成日 (パラメーター ID: MQCA_CREATION_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_CREATION_DATE_LENGTH です。

CreationTime (MQCFST)

作成時刻 (パラメーター ID: MQCA_CREATION_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_CREATION_TIME_LENGTH です。

DefBind (MQCFIN)

デフォルト・バインディング (パラメーター ID: MQIA_DEF_BIND)。

値は次のいずれかです。

MQBND_BIND_ON_OPEN

MQOPEN 呼び出しで固定されたバインディング。

MQBND_BIND_NOT_FIXED

固定されていないバインディング。

MQBND_BIND_ON_GROUP

グループ内のメッセージすべてを同じ宛先のインスタンスに割り振る要求をアプリケーションが行えるようになります。

DefinitionType (MQCFIN)

キュー定義タイプ (パラメーター ID: MQIA_DEFINITION_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQDT_PREDEFINED

事前定義された永続キュー。

MQQDT_PERMANENT_DYNAMIC

動的に定義された永続キュー。

MQQDT_SHARED_DYNAMIC

共有される、動的に定義された永続キュー。

DefInputOpenOption (MQCFIN)

キューを共用できるかどうかを定義するためのデフォルトの入力オープン・オプション (パラメーター ID: MQIA_DEF_INPUT_OPEN_OPTION)。

値は次のいずれかです。

MQOO_INPUT_EXCLUSIVE

メッセージを読み取るためにキューを排他アクセス・モードでオープンする。

MQOO_INPUT_SHARED

共有アクセスによりメッセージを読み取るためにキューをオープンする。

DefPersistence (MQCFIN)

デフォルトの持続性 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PERSISTENCE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPER_PERSISTENT

メッセージは持続します。

MQPER_NOT_PERSISTENT

メッセージは持続しません。

DefPriority (MQCFIN)

デフォルトの優先順位 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PRIORITY)。

HardenGetBackout (MQCFIN)

バックアウトを強化するかどうか (パラメーター ID: MQIA_HARDEN_GET_BACKOUT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQA_BACKOUT_HARDENED

バックアウト・カウントが保管される。

MQQA_BACKOUT_NOT_HARDENED

バックアウト・カウントが保管されない。

IndexType (MQCFIN)

索引タイプ (パラメーター ID: MQIA_INDEX_TYPE)。

InhibitGet (MQCFIN)

取得操作が許可されるかどうか (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_GET)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQA_GET_ALLOWED

取得操作は許可されています。

MQQA_GET_INHIBITED

取得操作は禁止されています。

InhibitPut (MQCFIN)

PUT 操作が許可されるかどうか (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_PUT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQA_PUT_ALLOWED

書き込み操作が許可されています。

MQQA_PUT_INHIBITED

書き込み操作は使用禁止です。

InitiationQName (MQCFST)

開始キュー名 (パラメーター ID: MQCA_INITIATION_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

MaxMsgLength (MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIA_MAX_MSG_LENGTH)。

MaxQDepth (MQCFIN)

最大キュー項目数 (パラメーター ID: MQIA_MAX_Q_DEPTH)。

MsgDeliverySequence (MQCFIN)

優先順位が関連しているかどうか (パラメーター ID: MQIA_MSG_DELIVERY_SEQUENCE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMDS_PRIORITY

メッセージが優先順位順に戻されます。

MQMDS_FIFO

メッセージは FIFO (先入れ先出し法) の順に戻されます。

ProcessName (MQCFST)

キューのプロセス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_NAME_LENGTH です。

QDepthHiEvent (MQCFIN)

キュー・サイズ上限イベントを生成するかどうかを制御します。 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_HIGH_EVENT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

キュー・サイズ上限イベントが有効になります。

MQEVR_DISABLED

キュー・サイズ上限イベントが無効になります。

QDepthHighLimit (MQCFIN)

キュー項目数の上限 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_HIGH_LIMIT)。

キュー・サイズ上限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

QDepthLoEvent (MQCFIN)

キュー・サイズ下限イベントを生成するかどうかを制御します。 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_LOW_EVENT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

キュー・サイズ下限イベントが有効になります。

MQEVR_DISABLED

キュー・サイズ下限イベントが無効になります。

QDepthLowLimit (MQCFIN)

キュー項目数の下限 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_LOW_LIMIT)。

キュー・サイズ下限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

QDepthMaxEvent (MQCFIN)

キュー満杯イベントを生成するかどうかを制御します。 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_MAX_EVENT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

キュー・サイズ・イベントが有効になります。

MQEVR_DISABLED

キュー・サイズ・イベントが無効になります。

QDesc (MQCFST)

キュー記述 (パラメーター ID: MQCA_Q_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_Q_DESC_LENGTH です。

QName (MQCFST)

キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

QServiceInterval (MQCFIN)

キュー・サービス間隔のターゲット (パラメーター ID: MQIA_Q_SERVICE_INTERVAL)。

キュー・サービス間隔上限およびキュー・サービス間隔 OK イベントを生成する際に、比較に使用されるサービス間隔。

QType (MQCFIN)

キュー・タイプ (パラメーター ID: MQIA_Q_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQQT_ALIAS

別名キュー定義。

MQQT_LOCAL

ローカル・キュー。

MQQT_REMOTE

リモート・キューのローカル定義。

MQQT_MODEL

モデル・キュー定義。

QueueAccounting (MQCFIN)

アカウンティング情報を収集するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_ACCOUNTING_Q)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_ON

キューについてアカウンティング情報を収集します。

MQMON_OFF

キューについてアカウンティング情報を収集しません。

MQMON_Q_MGR

このキューのアカウンティング情報の収集は、キュー・マネージャー属性 **QueueAccounting** に基づいています。

QueueMonitoring (MQCFIN)

キューのモニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_Q)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

モニター・データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_MEDIUM

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

MQMON_HIGH

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_Q_MGR

収集されるモニター・データのレベルは、キュー・マネージャー属性 **QueueMonitoring** に基づきます。

RemoteQMgrName (MQCFST)

リモート・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

RemoteQName (MQCFST)

リモート・キュー・マネージャーでローカルに認識されているリモート・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA_REMOTE_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

RetentionInterval (MQCFIN)

保存間隔 (パラメーター ID: MQIA_RETENTION_INTERVAL)。

ServiceIntervalEvent (MQCFIN)

サービス間隔上限イベントまたはサービス間隔 OK イベントが生成されるかどうかを制御します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSIE_NONE

サービス・インターバル・イベントは生成されません。

MQQSIE_OK

「サービス・インターバル OK」 イベントが生成されます。

MQQSIE_HIGH

「サービス・インターバル高」 イベントが生成されます。

Shareability (MQCFIN)

キューを共用できるかどうか (パラメーター ID: MQIA_SHAREABILITY)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQA_SHAREABLE

キューは共有可能。

MQQA_NOT_SHAREABLE

キューは共有不可。

StorageClass (MQCFST)

ストレージ・クラス名 (パラメーター ID: MQCA_STORAGE_CLASS)。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_LENGTH です。

TriggerControl (MQCFIN)

トリガー制御 (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_CONTROL)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQTC_OFF

トリガー・メッセージは不要。

MQTC_ON

トリガー・メッセージは必要。

TriggerData (MQCFST)

トリガー・データ (パラメーター ID: MQCA_TRIGGER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_TRIGGER_DATA_LENGTH です。

TriggerDepth (MQCFIN)

トリガーの深さ (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_DEPTH)。

TriggerMsgPriority (MQCFIN)

トリガーのしきい値メッセージ優先順位 (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_MSG_PRIORITY)。

TriggerType (MQCFIN)

トリガー・タイプ (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQTT_NONE

トリガー・メッセージは書き込まれません。

MQTT_FIRST

トリガー・メッセージは、キューのサイズが 0 から 1 になったときに書き込まれます。

MQTT_EVERY

トリガー・メッセージは、すべてのメッセージについて書き込まれます。

MQTT_DEPTH

トリガー・メッセージは、サイズのしきい値を超えた場合に書き込まれます。

Usage (MQCFIN)

使用法 (パラメーター ID: **MQIA_USAGE**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQUS_NORMAL

通常の使用法。

MQUS_TRANSMISSION

伝送キュー。

XmitQName (MQCFST)

伝送キュー名 (パラメーター ID: **MQCA_XMIT_Q_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_NAME_LENGTH** です。

キュー・マネージャーの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、キュー・マネージャー属性を組み込むことができます。

Multi

AccountingConnOverride (MQCFIN)

アプリケーションが **QueueAccounting** および **MQIAccounting** キュー・マネージャー・パラメーターの設定をオーバーライドできるかどうかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_ACCOUNTING_CONN_OVERRIDE**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_DISABLED

アプリケーションは、**QueueAccounting** および **MQIAccounting** パラメーターの設定をオーバーライドできません。

この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_ENABLED

アプリケーションは、MQCONN API 呼び出しの **MQCNO** 構造体のオプション・フィールドを使用して、**QueueAccounting** および **MQIAccounting** パラメーターの設定をオーバーライドできます。

このパラメーターは、IBM i、AIX、Linux、and Windows でのみ有効です。

Multi

AccountingInterval (MQCFIN)

中間アカウント・レコードが書き込まれる時間間隔 (秒単位) (パラメーター ID: **MQIA_ACCOUNTING_INTERVAL**)。

1 から 604,000 の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、IBM i、AIX、Linux、and Windows でのみ有効です。

ActivityRecording (MQCFIN)

アクティビティ・レコーディングを使用可能にするか使用不可にするかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_ACTIVITY_RECORDING**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRECORDING_MSG

アクティビティ・レコーディングは有効です。アクティビティ・レポートは、メッセージのメッセージ記述子に指定した応答先キューに送信されます。

MQRECORDING_Q

アクティビティ・レコーディングは有効です。アクティビティ・レポートは、固定された名前のキューに送信されます。

MQRECORDING_DISABLED

アクティビティ・レコーディングは無効です。

AdoptNewMCACheck (MQCFIN)

同じ名前のインバウンド・チャンネルが検出されたときに、既存の受信側 MCA が採用されるかどうかを判別する手順 (パラメーター ID: **MQIA_ADOPTNEWMCA_CHECK**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQADOPT_CHECK_Q_MGR_NAME

受信側 MCA とインバウンド・チャンネルを比較します。キュー・マネージャー名が一致した場合、既存の受信側 MCA がアクティブであれば選択されます。一致しない場合は、既存の受信側 MCA が取り消され、新規 MCA が作成されます。

MQADOPT_CHECK_NET_ADDR

受信側 MCA とインバウンド・チャンネルを比較します。ネットワーク・アドレスが一致した場合、既存の受信側 MCA がアクティブであれば選択されます。一致しない場合は、既存の受信側 MCA が取り消され、新規 MCA が作成されます。

MQADOPT_CHECK_ALL

受信側 MCA とインバウンド・チャンネルを比較します。キュー・マネージャー名とネットワーク・アドレスの両方が一致した場合、既存の受信側 MCA がアクティブであれば選択されます。一致しない場合は、既存の受信側 MCA が取り消され、新規 MCA が作成されます。

MQADOPT_CHECK_NONE

既存の受信側 MCA がアクティブである場合、受信側 MCA は検査なしで選択されます。

AdoptNewMCAType (MQCFIN)

AdoptNewMCACheck プロシージャに一致するインバウンド・チャンネルが検出されたときに、孤立した受信側 MCA を再始動するかどうかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_ADOPTNEWMCA_TYPE**)。

値は次のいずれかです。

MQADOPT_TYPE_NO

再始動は行われず、受信側オーファン MCA は選択されません。

MQADOPT_TYPE_ALL

再始動が行われ、受信側オーファン MCA が選択されます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_DATE**)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_TIME**)。

情報が最後に変更された時刻。

AuthorityEvent (MQCFIN)

許可 (不許可) イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_AUTHORITY_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

許可イベント報告が有効です。

MQEVR_DISABLED

許可イベント報告が無効です。

BridgeEvent (MQCFIN)

IMS ブリッジ・イベントを生成するかどうかを決定します (パラメーター ID: **MQIA_BRIDGE_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

すべての IMS ブリッジ・イベントが有効です。

MQEVR_DISABLED

すべての IMS ブリッジ・イベントが無効です。

CertificateLabel (MQCFST)

このキュー・マネージャーが使用する証明書ラベルを指定します。このラベルは、鍵リポジトリ内のどの個人証明書が選択されたかを識別します (パラメーター ID: MQCA_CERT_LABEL)。

ALW

CertificateValPolicy (MQCFIN)

リモート・パートナー・システムから受信したデジタル証明書を妥当性検査するために、どの TLS 証明書妥当性検査ポリシーを使用するかを指定します (パラメーター ID: MQIA_CERT_VAL_POLICY)。

この属性を使用することにより、証明書チェーン妥当性検査においてセキュリティに関する業界の標準規格にどの程度厳密に準拠するかを制御することができます。詳しくは、[IBM MQ における証明書妥当性検査ポリシー](#)を参照してください。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQ_CERT_VAL_POLICY_ANY

セキュア・ソケット・ライブラリーでサポートされる証明書妥当性検査ポリシーのいずれかにおいて、その証明書チェーンが有効であると見なされる場合に、それらのポリシーのそれぞれを適用し、証明書チェーンを受け入れます。この設定は、最新の証明書標準に準拠しない旧式のデジタル証明書との後方互換性を最大にするために使用できます。

MQ_CERT_VAL_POLICY_RFC5280

RFC 5280 準拠の証明書妥当性検査ポリシーのみを適用します。この設定は、ANY 設定よりも厳密に妥当性検査しますが、一部の旧式のデジタル証明書を拒否します。

このパラメーターは AIX, Linux, and Windows でのみ有効であり、コマンド・レベルが 711 以上のキュー・マネージャーでのみ使用できます。

CertificateValPolicy に対する変更は、以下の場合に有効になります。

- 新しいチャネル・プロセスが開始される時。
- チャネル・イニシエーターのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、チャネル・イニシエーターが再始動される時。
- リスナーのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、リスナーが再始動される時。
- プロセス・プール・プロセスのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、プロセス・プール・プロセスが開始または再開始され、TLS チャネルを最初に実行したとき。プロセス・プーリング・プロセスが既に TLS チャネルを実行しており、変更を即時に有効にする場合は、MQSC コマンド **REFRESH SECURITY TYPE(SSL)** を実行します。プロセス・プーリング・プロセスは、AIX, Linux, and Windows 上では **amqrmppa** です。
- **REFRESH SECURITY TYPE(SSL)** コマンドが発行されたとき。

z/OS

CFConlos (MQCFIN)

キュー・マネージャーが管理構造体への接続を失った場合、または **CFConlos** が ASQMGR に設定されている CF 構造体への接続を失った場合に実行するアクションを指定します (パラメーター ID: MQIA_QMGR_CFCNLOS)。

値は次のいずれかです。

MQCFCONLOS_TERMINATE

CF 構造体への接続が失われると、キュー・マネージャーが終了します。

MQCFCONLOS_TOLERATE

キュー・マネージャーは CF 構造体への接続が失われてもそれを許容し、終了しません。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

ChannelAuthenticationRecords (MQCFIN)

チャネル認証レコードを使用するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_CHLAUTH_RECORDS)。

チャネル認証レコードは、この属性の値に関係なく設定および表示することができます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHLA_DISABLED

チャンネル認証レコードは検査されません。

MQCHLA_ENABLED

チャンネル認証レコードは検査されます。

Multi

ChannelAutoDef (MQCFIN)

受信側チャンネルおよびサーバー接続チャンネルを自動定義できるかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF**)。

クラスター送信側チャンネルの自動定義は常に使用可能にされます。

このパラメーターは、IBM i、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQCHAD_DISABLED

チャンネルの自動定義は無効です。

MQCHAD_ENABLED

チャンネルの自動定義は有効です。

Multi

ChannelAutoDefEvent (MQCFIN)

受信側チャンネル、サーバー接続チャンネル、またはクラスター送信側チャンネルが自動定義されるときに、チャンネル自動定義イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID:

MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF_EVENT)。

このパラメーターは、IBM i、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

ChannelAutoDefExit (MQCFST)

チャンネル自動定義出口名 (パラメーター ID: **MQCA_CHANNEL_AUTO_DEF_EXIT**)。

出口名の最大長は **MQ_EXIT_NAME_LENGTH** です。

このパラメーターは、MQSeries® 5.1 以降の製品が使用可能な環境でのみサポートされます。

ChannelEvent (MQCFIN)

チャンネル・イベントを生成するかどうかを決定します (パラメーター ID: **MQIA_CHANNEL_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

すべてのチャンネル・イベントが有効です。

MQEVR_EXCEPTION

以下のチャンネル・イベントのみが有効です。

- **MQRC_CHANNEL_ACTIVATED**
- **MQRC_CHANNEL_CONV_ERROR**
- **MQRC_CHANNEL_NOT_ACTIVATED**
- **MQRC_CHANNEL_STOPPED**

MQEVR_DISABLED

すべてのチャンネル・イベントが無効です。

ChannelInitiatorControl (MQCFIN)

キュー・マネージャーの開始時にチャンネル・イニシエーターを開始するかどうかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_CHINIT_CONTROL**)。

値は次のいずれかです。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

チャンネル・イニシエーターは自動的に開始されません。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

キュー・マネージャーの始動時にチャンネル・イニシエーターを自動的に開始します。

このパラメーターは、IBM i、AIX、Linux、and Windows でのみ有効です。

ChannelMonitoring (MQCFIN)

チャンネルのリアルタイム・モニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: **MQIA_MONITORING_CHANNEL**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_NONE

ChannelMonitoring チャンネル属性の設定に関係なく、モニター・データ収集は無効になります。

MQMON_OFF

ChannelMonitoring チャンネル属性に **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルのモニター・データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

ChannelMonitoring チャンネル属性に **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルのモニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

ChannelMonitoring チャンネル属性に **MQMON_Q_MGR** を指定したチャンネルの場合、モニター・データ収集は中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

ChannelMonitoring チャンネル属性に **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルのモニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンになります。

ChannelStatistics (MQCFIN)

チャンネルの統計データを収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_STATISTICS_CHANNEL**)。

値は次のいずれかです。

MQMON_NONE

チャンネルの **ChannelStatistics** パラメーターの設定に関係なく、チャンネルの統計データ収集はオフになります。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_OFF

ChannelStatistics パラメーターに値 **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルの統計データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

ChannelStatistics パラメーターに指定された値が **MQMON_Q_MGR** であるチャンネルに対して、統計データ収集が、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

ChannelStatistics パラメーターに値 **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルの統計データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

ChannelStatistics パラメーターに値 **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルの場合、統計データ収集は、高いデータ収集率でオンになります。

z/OS システムでは、このパラメーターを有効にすると、選択した値に関係なく、単に統計データの収集がオンになります。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いは

ありません。チャンネル・アカウントイング・レコードを収集するには、このパラメーターを有効にしなければなりません。

ChinitAdapters (MQCFIN)

IBM MQ 呼び出しの処理に使用するチャンネル・イニシエーター・アダプター・サブタスクの数 (パラメーター ID: **MQIA_CHINIT_ADAPTERS**)。

この値は 0 から 9999 の範囲でなければなりません。

ChinitDispatchers (MQCFIN)

チャンネル・イニシエーターに使用するディスパッチャーの数 (パラメーター ID: **MQIA_CHINIT_DISPATCHERS**)。

ChinitServiceParm (MQCFST)

この属性は、IBM で使用するために予約されています (パラメーター ID: **MQCA_CHINIT_SERVICE_PARM**)。

ChinitTraceAutoStart (MQCFIN)

チャンネル・イニシエーター・トレースを自動的に開始するかどうかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_CHINIT_TRACE_AUTO_START**)。

値は次のいずれかです。

MQTRAXSTR_YES

チャンネル・イニシエーター・トレースを自動的に開始します。

MQTRAXSTR_NO

チャンネル・イニシエーター・トレースを自動的に開始しません。

ChinitTraceTableSize (MQCFIN)

チャンネル・イニシエーターのトレース・データ・スペースのサイズ (MB) (パラメーター ID: **MQIA_CHINIT_TRACE_TABLE_SIZE**)。

ClusterSenderMonitoring (MQCFIN)

自動定義クラスター送信側チャンネルのリアルタイム・モニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: **MQIA_MONITORING_AUTO_CLUSSDR**)。

このパラメーターは、以下のいずれかの値になります。

MQMON_Q_MGR

モニター・データの収集は、キュー・マネージャー・オブジェクトの **ChannelMonitoring** 属性の設定から継承されます。

MQMON_OFF

モニター・データ収集は無効です。

MQMON_LOW

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_MEDIUM

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

MQMON_HIGH

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

ClusterSenderStatistics (MQCFIN)

自動定義クラスター送信側チャンネルの統計データを収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_STATISTICS_AUTO_CLUSSDR**)。

値は次のいずれかです。

MQMON_Q_MGR

統計データの収集は、キュー・マネージャーの **ChannelStatistics** パラメーターの設定から継承されます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_OFF

チャンネルの統計データ収集は使用不可になります。

MQMON_LOW

ChannelStatistics が MQMON_NONE でない場合、この値は、システム・パフォーマンスへの影響を最小にして低いデータ収集率を指定します。

MQMON_MEDIUM

ChannelStatistics が MQMON_NONE でない場合、この値は中程度のデータ収集率を指定します。

MQMON_HIGH

ChannelStatistics が MQMON_NONE でない限り、この値は高いデータ収集率を指定します。

z/OS z/OS システムでは、このパラメーターを有効にすると、選択した値に関係なく、単に統計データの収集がオンになります。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いはありません。チャンネル・アカウント・レコードを収集するには、このパラメーターを有効にしなければなりません。

ClusterWorkLoadData (MQCFST)

クラスター・ワークロード出口に渡されるデータ (パラメーター ID: **MQCA_CLUSTER_WORKLOAD_DATA**)。

ClusterWorkLoadExit (MQCFST)

クラスター・ワークロード出口の名前 (パラメーター ID: **MQCA_CLUSTER_WORKLOAD_EXIT**)。

出口名の最大長は **MQ_EXIT_NAME_LENGTH** です。

ClusterWorkLoadLength (MQCFIN)

クラスター・ワークロードの長さ (パラメーター ID: **MQIA_CLUSTER_WORKLOAD_LENGTH**)。

クラスター・ワークロード出口に渡されるメッセージの最大長。

CLWLMRUChannels (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・バランシング用に最近使用されたチャンネルの最大数 (パラメーター ID: **MQIA_CLWL_MRU_CHANNELS**)。

CLWLUseQ (MQCFIN)

これは、ターゲット・キューにローカル・インスタンスと少なくとも 1 つのリモート・クラスター・インスタンスの両方がある場合の MQPUT の動作を定義します (パラメーター ID: **MQIA_CLWL_USEQ**)。

このパラメーターは、以下のいずれかの値になります。

MQCLWL_USEQ_ANY

リモート・キューとローカル・キューを使用します。

MQCLWL_USEQ_LOCAL

リモート・キューを使用しません。

CodedCharSetId (MQCFIN)

コード化文字セット ID (パラメーター ID: **MQIA_CODED_CHAR_SET_ID**)。

CommandEvent (MQCFIN)

コマンド・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_COMMAND_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

コマンド・イベント生成は無効です。

MQEVR_ENABLED

コマンド・イベント生成は有効です。

MQEVR_NO_DISPLAY

MQSC DISPLAY コマンドおよび **PCF Inquire** コマンド以外のすべてのコマンドについて、コマンド・イベントが生成されます。

CommandEvent (MQCFIN)

コマンド・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_COMMAND_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

MQEVR_NO_DISPLAY

Inquire コマンドを除く成功したすべてのコマンドについてイベント報告は有効です。

CommandInputQName (MQCFST)

コマンド入力キュー名 (パラメーター ID: MQCA_COMMAND_INPUT_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

CommandLevel (MQCFIN)

キュー・マネージャーでサポートされるコマンド・レベル (パラメーター ID: MQIA_COMMAND_LEVEL)。

z/OS CommandScope (MQCFIN)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するかを指定します。以下の値のうちいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります。コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。このコマンドは、ローカル・キュー・マネージャー上で実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブ・キュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Multi CommandServerControl (MQCFIN)

キュー・マネージャーの始動時にコマンド・サーバーを始動するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_CMD_SERVER_CONTROL)。

値は次のいずれかです。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

コマンド・サーバーは自動的に開始されません。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

キュー・マネージャーの始動時にコマンド・サーバーを自動的に開始します。

このパラメーターは、IBM i、AIX、Linux、and Windows でのみ有効です。

ConfigurationEvent (MQCFIN)

構成イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_CONFIGURATION_EVENT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

構成イベント生成は無効です。



MQEVR_ENABLED

構成イベント生成は有効です。

ConnAuth (MQCFST)

ユーザー ID およびパスワード認証の場所を指定するために、使用される認証情報オブジェクトの名前 (パラメーター ID: MQCA_CONN_AUTH)。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_NAME_LENGTH です。タイプが IDPWOS または IDPWLDAP の認証情報オブジェクトのみ指定できます。その他のタイプの場合は、以下のものが構成を読み取る際にエラー・メッセージが表示されます。

-  OAM (AIX, Linux, and Windows の場合)。
-  セキュリティー・コンポーネント (z/OS の場合)

Custom (MQCFST)

新機能のカスタム属性 (パラメーター ID: MQCA_CUSTOM)。

この属性は、単独の属性が導入されるまでの間、新しい機能の構成用として予約されています。1つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性の値 (属性名と値のペアとして指定) を含むことができます。属性名と値のペアの形式は、NAME (VALUE) です。単一引用符は、別の単一引用符でエスケープする必要があります。

この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。Custom に指定できる値はありません。

ストリングの最大長は MQ_CUSTOM_LENGTH です。

CPILevel (MQCFIN)

CPI レベル (パラメーター ID: MQIA_CPI_LEVEL)。

DeadLetterQName (MQCFST)

送達不能 (未配布メッセージ) キュー名 (パラメーター ID: MQCA_DEAD_LETTER_Q_NAME)。

未配布メッセージに使用されるローカル・キューの名前を指定します。メッセージが正しい宛先に送られない場合は、メッセージはこのキューに書き込まれます。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

DefXmitQName (MQCFST)

デフォルト伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCA_DEF_XMIT_Q_NAME)。

これは、デフォルト伝送キュー以外の伝送キューを使用するよう指示しない場合、リモート・キュー・マネージャーにメッセージを伝送するために使用されるデフォルトの伝送キューの名前です。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

DNSGroup (MQCFST)

このパラメーターは、今後使用されません。IBM MQ for z/OS 8.0 以降、WLM/DNS は z/OS Communications Server でサポートされなくなったため、キュー・マネージャー属性 DNSWLM および DNSGROUP は使用されなくなりました。(パラメーター ID: MQCA_DNS_GROUP)。

この名前の最大長は、MQ_DNS_GROUP_NAME_LENGTH です。

DNSWLM (MQCFIN)

このパラメーターは、今後使用されません。IBM MQ for z/OS 8.0 以降、WLM/DNS は z/OS Communications Server でサポートされなくなったため、キュー・マネージャー属性 DNSWLM および DNSGROUP は使用されなくなりました。(パラメーター ID: MQIA_DNS_WLM)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQDNSWLM_YES

この値は、以前のリリースからマイグレーションされたキュー・マネージャーで使用される場合があります。値は無視されます。

MQDNSWLM_NO

この値だけが、キュー・マネージャーによってサポートされます。

EncryptionPolicySuiteB (MQCFIL)

スイート B 準拠の暗号方式を使用するかどうか、および使用する強度レベル (パラメーター ID MQIA_SUITE_B_STRENGTH) を指定します。

値は以下のいずれかです (複数可)。

MQ_SUITE_B_NONE

Suite B 準拠の暗号方式を使用しません。

MQ_SUITE_B_128_BIT

128 ビットの強度の Suite B セキュリティーを使用します。

MQ_SUITE_B_192_BIT

192 ビットの強度の Suite B セキュリティーを使用します。

無効なリスト (MQ_SUITE_B_NONE と MQ_SUITE_B_128_BIT など) が指定されると、エラー MQRCCF_SUITE_B_ERROR が発行されます。

ExpiryInterval (MQCFIN)

有効期限間隔 (パラメーター ID: MQIA_EXPIRY_INTERVAL)。

Force (MQCFIN)

変更を強制します (パラメーター ID: MQIACF_FORCE)。

次の 2 つの条件が両方とも満たされた場合にコマンドを強制的に完了するかどうかを指定します。

- DefXmitQName が指定され、および
- アプリケーションのリモート・キューがオープンされていて、この変更によってこの解決が影響を受ける。

GroupUR (MQCFIN)

XA クライアント・アプリケーションが GROUP リカバリー単位属性指定を使用してトランザクションを確立できるかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_GROUP_UR)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQGUR_DISABLED

XA クライアント・アプリケーションは、キュー・マネージャー名を使用して接続する必要があります。

MQGUR_ENABLED

XA クライアント・アプリケーションは、接続時にキュー共有グループ名を指定することにより、リカバリー単位属性指定を使用したトランザクションを確立できます。

z/OS IGQPutAuthority (MQCFIN)

IGQ 書き込み権限 (パラメーター ID: MQIA_IGQ_PUT_AUTHORITY)。

z/OS IGQUserId (MQCFST)

グループ内キューイング・エージェントのユーザー ID (パラメーター ID: MQCA_IGQ_USER_ID)。このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

ローカルのグループ内キューイング・エージェントに関連付けられたユーザー ID を指定します。この ID は IGQ エージェントによってメッセージがローカル・キューに書き込まれるときに、権限確認で検査される可能性のあるユーザー ID の 1 つです。検査される実際のユーザー ID は、**IGQPutAuthority** 属性の設定および外部セキュリティー・オプションによって異なります。

最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

Multi ImageInterval (MQCFIN)

キュー・マネージャーがメディア・イメージを自動的に書き込むターゲットの頻度 (オブジェクトの前のメディア・イメージ以降の分数) (パラメーター ID: MQIA_MEDIA_IMAGE_INTERVAL)。このパラメーターは、z/OS では無効です。

値は次のいずれかです。

時間間隔

キュー・マネージャーがメディア・イメージを自動で書き込む分単位の時間間隔 (1 から 999 999 999)。

デフォルト値は 60 分です。

MQMEDIMGINTVL_OFF

時間間隔に基づいたメディア・イメージの自動書き込みは実行されません。

Multi ImageLogLength (MQCFIN)

オブジェクトの前のメディア・イメージの取得以降で、キュー・マネージャーが次にメディア・イメージを自動で書き込むまでの、書き込まれるリカバリー・ログのターゲット・サイズ (メガバイト単位)。これにより、オブジェクトのリカバリー時に読み取られるログの量が制限されます (パラメーター ID: **MQIA_MEDIA_IMAGE_LOG_LENGTH**)。このパラメーターは、z/OS では無効です。

値は次のいずれかです。

ターゲット・ログ・サイズ

リカバリー・ログのターゲット・サイズ (1 から 999 999 999 までのメガバイト単位)。

MQMEDIMGLOGLN_OFF

自動メディア・イメージを、書き込まれたログのサイズに基づいて書き込みません。

MQMEDIMGLOGLN_OFF がデフォルト値です。

Multi ImageRecoverObject (MQCFST)

リニア・ロギングが使用されている場合に、認証情報、チャンネル、クライアント接続、リスナー、名前リスト、プロセス、別名キュー、リモート・キュー、およびサービス・オブジェクトをメディア・イメージからリカバリー可能にするかどうかを指定します (パラメーター ID:

MQIA_MEDIA_IMAGE_RECOVER_OBJ)。このパラメーターは、z/OS では無効です。

値は次のいずれかです。

MQIMGRCOV_NO

これらのオブジェクトには **rcdmqimg** コマンドおよび **rcrmqobj** コマンドは許可されません。自動メディア・イメージ (使用可能な場合) は、これらのオブジェクトには書き込まれません。

MQIMGRCOV_YES

これらのオブジェクトはリカバリー可能です。

MQIMGRCOV_YES がデフォルト値です。

Multi ImageRecoverObject (MQCFST)

リニア・ロギングが使用されている場合に、認証情報、チャンネル、クライアント接続、リスナー、名前リスト、プロセス、別名キュー、リモート・キュー、およびサービス・オブジェクトをメディア・イメージからリカバリー可能にするかどうかを指定します (パラメーター ID:

MQIA_MEDIA_IMAGE_RECOVER_OBJ)。このパラメーターは、z/OS では無効です。

値は次のいずれかです。

MQIMGRCOV_NO

これらのオブジェクトには **rcdmqimg** コマンドおよび **rcrmqobj** コマンドは許可されません。自動メディア・イメージ (使用可能な場合) は、これらのオブジェクトには書き込まれません。

MQIMGRCOV_YES

これらのオブジェクトはリカバリー可能です。

MQIMGRCOV_YES がデフォルト値です。

Multi ImageRecoverQueue (MQCFST)

ローカル動的キュー・オブジェクトおよび永続動的キュー・オブジェクトがこのパラメーターとともに使用される場合のデフォルトの **ImageRecoverQueue** 属性を指定します (パラメーター ID:

MQIA_MEDIA_IMAGE_RECOVER_Q)。このパラメーターは、z/OS では無効です。

値は次のいずれかです。

MQIMGRCOV_NO

ローカル動的キュー・オブジェクトおよび永続動的キュー・オブジェクトの **ImageRecoverQueue** 属性は、**MQIMGRCOV_NO** に設定されます。

MQIMGRCOV_YES

ローカル動的キュー・オブジェクトおよび永続動的キュー・オブジェクトの **ImageRecoverQueue** 属性は、MQIMGRCOV_YES に設定されます。

MQIMGRCOV_YES がデフォルト値です。

Multi ImageSchedule (MQCFST)

キュー・マネージャーが自動的にメディア・イメージを書き込むかどうか (パラメーター ID: **MQIA_MEDIA_IMAGE_SCHEDULING**)。このパラメーターは、z/OS では無効です。

値は次のいずれかです。

MQMEDIMGSCHED_AUTO

キュー・マネージャーは、オブジェクトのメディア・イメージが作成されてから **ImageInterval** 分経過する前、または **ImageLogLength** メガバイトのリカバリー・ログが書き込まれる前に、そのオブジェクトのメディア・イメージを自動的に書き込もうとします。

ImageInterval または **ImageLogLength** の設定に応じて、以前のメディア・イメージが手動または自動で取得された可能性があります。

MQMEDIMGSCHED_MANUAL

メディア・イメージの自動書き込みは実行されません。

MQMEDIMGSCHED_MANUAL がデフォルト値です。

InhibitEvent (MQCFIN)

禁止 (読み取り禁止および書き込み禁止) イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_INHIBIT_EVENT**)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

IntraGroupQueuing (MQCFIN)

グループ内キューイング (パラメーター ID: **MQIA_INTRA_GROUP_QUEUING**)。

IPAddressVersion (MQCFIN)

使用する IP バージョンを指定します (パラメーター ID: **MQIA_IP_ADDRESS_VERSION**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIPADDR_IPV4

IPv4 スタックが使用されます。

MQIPADDR_IPV6

IPv6 スタックが使用されます。

ListenerTimer (MQCFIN)

APPC または TCP/IP の障害後にリスナーの再始動を試行する時間間隔 (秒単位) (パラメーター ID: **MQCA_LISTENER_TIMER**)。

LocalEvent (MQCFIN)

ローカル・エラー・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_LOCAL_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

Multi **LoggerEvent (MQCFIN)**

リカバリー・ログ・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_LOGGER_EVENT**)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。この値は、リニア・ロギングを使用するキュー・マネージャーでのみ有効です。

このパラメーターは、IBM i、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

z/OS **LUGroupName (MQCFST)**

LU 6.2 リスナーの総称 LU 名 (パラメーター ID: **MQCA_LU_GROUP_NAME**)。

キュー共有グループのインバウンド伝送を処理する LU 6.2 リスナーに使用する総称 LU 名。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

ストリングの最大長は **MQ_LU_NAME_LENGTH** です。

z/OS **LUName (MQCFST)**

アウトバウンド LU 6.2 伝送に使用する LU 名 (パラメーター ID: **MQCA_LU_NAME**)。

アウトバウンド LU 6.2 伝送に使用する LU の名前。このパラメーターは、インバウンド伝送でリスナーによって使用される LU の名前と同じものに設定します。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

ストリングの最大長は **MQ_LU_NAME_LENGTH** です。

LU62ARMSuffix (MQCFST)

このチャンネル・イニシエーターの LUADD を指定する SYS1.PARMLIB メンバー APPCPMxx の接尾部 (パラメーター ID: **MQCA_LU62_ARM_SUFFIX**)。

この名前の最大長は **MQ_ARM_SUFFIX_LENGTH** です。

LU62Channels (MQCFIN)

サーバー接続チャンネルに接続されたクライアントを含む、LU 6.2 伝送プロトコルを使用する現行チャンネルの最大数 (パラメーター ID: **MQIA_LU62_CHANNELS**)。

LUGroupName (MQCFST)

キュー共有グループのインバウンド伝送を処理する LU 6.2 リスナーで使用される総称 LU 名。この名前は、**LUName** と同じでなければなりません (パラメーター ID: **MQCA_LU_GROUP_NAME**)。

この名前の最大長は、**MQ_LU_NAME_LENGTH** です。

LUName (MQCFST)

アウトバウンド伝送を処理する LU 6.2 リスナーで使用される LU 名。この名前は、**LUGroupName** と同じでなければなりません (パラメーター ID: **MQCA_LU_NAME**)。

この名前の最大長は、**MQ_LU_NAME_LENGTH** です。

MaxActiveChannels (MQCFIN)

同時にアクティブにすることのできるチャンネルの最大数 (パラメーター ID: **MQIA_ACTIVE_CHANNELS**)。

MaxChannels (MQCFIN)

現行チャンネルの最大数 (サーバー接続チャンネルに接続されたクライアントを含む) (パラメーター ID: **MQIA_MAX_CHANNELS**)。

MaxHandles (MQCFIN)

ハンドルの最大数 (パラメーター ID: **MQIA_MAX_HANDLES**)。

任意の1つのジョブが同時にオープンできるハンドルの最大数です。

MaxMsgLength (MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: **MQIA_MAX_MSG_LENGTH**)。

MaxPriority (MQCFIN)

最大優先度 (パラメーター ID: **MQIA_MAX_PRIORITY**)。

MaxUncommittedMsgs (MQCFIN)

作業単位内のコミットされていないメッセージの最大数 (パラメーター ID: **MQIA_MAX_UNCOMMITTED_MSGS**)。

具体的には、以下の数を示します。

- 検索可能なメッセージの数
- キューに書き出しできるメッセージの数
- この作業単位内で生成されたトリガー・メッセージの数

これらは、1つの同期点でのものです。この限界は、同期点の外で取り出したり書き込まれたりするメッセージには当てはまりません。

Multi MQIAccounting (MQCFIN)

MQI データのアカウントリング情報を収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_ACCOUNTING_MQI**)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

MQI アカウンティング・データ収集は無効です。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_ON

MQI アカウンティング・データ収集は有効です。

このパラメーターは、IBM i、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

Multi MQIStatistics (MQCFIN)

キュー・マネージャーの統計モニター・データを収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_STATISTICS_MQI**)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

MQI 統計のデータ収集を使用不可にします。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_ON

MQI 統計のデータ収集を使用可能にします。

このパラメーターは、IBM i、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

MsgMarkBrowseInterval(MQCFIN)

マーク・ブラウザ間隔 (パラメーター ID: **MQIA_MSG_MARK_BROWSE_INTERVAL**)。

キュー・マネージャーが自動的にメッセージをマーク解除する時間間隔をミリ秒単位で指定します。

このパラメーターに指定できるのは、0 から 999,999,999 の範囲の値、または特殊値 **MQMMBI_UNLIMITED** です。

0 の値を指定するとキュー・マネージャーがメッセージを即時にマーク解除します。

MQMMBI_UNLIMITED はキュー・マネージャーが自動的にメッセージをマーク解除しないことを示します。

OutboundPortMax (MQCFIN)

アウトバウンド・ポート範囲の最大値 (パラメーター ID: **MQIA_OUTBOUND_PORT_MAX**)。

発信チャネルの結合時に使用されるポート番号の範囲の上限です。

OutboundPortMin (MQCFIN)

最小アウトバウンド・ポート範囲 (パラメーター ID: MQIA_OUTBOUND_PORT_MIN)。

発信チャネルの結合時に使用されるポート番号の範囲の下限です。

Parent (MQCFST)

このキュー・マネージャーがその子として階層的に接続するキュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_PARENT)。

値が空白の場合は、このキュー・マネージャーが親のキュー・マネージャーを持たないことを示します。親キュー・マネージャーが既に存在する場合、それは切断されます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

注:

- IBM MQ 階層接続を使用するには、キュー・マネージャー属性 **PSMode** が MQPSM_ENABLED に設定されている必要があります。
- **PSMode** が MQPSM_DISABLED に設定されている場合は、**Parent** の値を空白値に設定できます。
- 階層的にその子としてキュー・マネージャーに接続する前に、親のキュー・マネージャーと子のキュー・マネージャーの間に両方向のチャネルが存在していなければなりません。
- 親が定義されている場合、**Change Queue Manager** コマンドはもとの親から切断し、新しい親のキュー・マネージャーに接続フローを送信します。
- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことも、これから正常に完了することも意味しません。**Inquire Pub/Sub Status** コマンドを使用して、要求された親関係の状況を追跡します。

PerformanceEvent (MQCFIN)

パフォーマンス関連イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_PERFORMANCE_EVENT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

Platform (MQCFIN)

キュー・マネージャーが存在するプラットフォーム (パラメーター ID: MQIA_PLATFORM)。

PubSubClus (MQCFIN)

キュー・マネージャーがパブリッシュ/サブスクライブ・クラスタリングに参加するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_CLUSTER)。

値は次のいずれかです。

MQPSCLUS_ENABLED

クラスター・トピック定義とクラスター・サブスクリプションの作成または受信が許可されます。

注: 大規模な IBM MQ クラスターにクラスター・トピックを導入すると、パフォーマンスが低下する場合があります。このパフォーマンス低下は、すべての部分リポジトリーに、クラスター内の他のすべてのメンバーが通知されることにより発生します。例えば、**proxysub(FORCE)** が指定されていると、他のすべてのノードで予期しないサブスクリプションが作成される可能性があります。キュー・マネージャーの障害後に再同期化する際には、キュー・マネージャーから多数のチャネルが開始される可能性もあります。

MQPSCLUS_DISABLED

クラスター・トピック定義とクラスター・サブスクリプションの作成または受信が禁止されます。作成または受信は、キュー・マネージャーのエラー・ログに警告として記録されます。

PubSubMaxMsgRetryCount (MQCFIN)

同期点で失敗したコマンド・メッセージを処理するときに、メッセージの再処理を試行する回数 (パラメーター ID: **MQIA_PUBSUB_MAXMSG_RETRY_COUNT**)。

このパラメーターの値の範囲は 0 から 999 999 999 です。初期値は 5 です。

PubSubMode (MQCFIN)

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが実行されているかどうかを指定します。パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは、アプリケーションがアプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブできるようにします。パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースを使用したキューをモニターします (パラメーター ID: **MQIA_PUBSUB_MODE**)。

値は次のいずれかです。

MQPSM_COMPAT

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンが実行中。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができます。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは実行されていません。したがって、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースがモニターするキューに書き込まれるメッセージは処理されません。MQPSM_COMPAT は、このキュー・マネージャーを使用するバージョン 7 より前のバージョンの IBM Integration Bus (以前の WebSphere Message Broker) との互換性のために使用します。

MQPSM_DISABLED

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されていません。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができません。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースがモニターするキューに書き込まれるパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージは処理されません。

MQPSM_ENABLED

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されています。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースおよびキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされるキューを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

PubSubNPInputMsg (MQCFIN)

配信されなかった入力メッセージを破棄 (または保持) するかどうか (パラメーター ID: **MQIA_PUBSUB_NP_MSG**)。

値は次のいずれかです。

MQUNDELIVERED_DISCARD

非永続入力メッセージは、処理できない場合は廃棄されます。

MQUNDELIVERED_KEEP

非永続入力メッセージは、処理できない場合でも廃棄されません。この場合、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは妥当な間隔で処理を再試行し、後続メッセージの処理は行いません。

PubSubNPResponse (MQCFIN)

配信されなかった応答メッセージの動作を制御します (パラメーター ID: **MQIA_PUBSUB_NP_RESP**)。

値は次のいずれかです。

MQUNDELIVERED_NORMAL

応答キューに入れることができない非持続応答は送達不能キューに入れられます。非永続応答が送達不能キューに入れられない場合、廃棄されます。

MQUNDELIVERED_SAFE

応答キューに入れることができない非持続応答は送達不能キューに入れられます。応答が送信できず、送達不能キューに入れられない場合、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェ

ースは現在の操作をロールバックします。この操作は適切な間隔で再試行され、後続メッセージの処理は行いません。

MQUNDELIVERED_DISCARD

応答キューに入れられない非永続応答は、廃棄されます。

MQUNDELIVERED_KEEP

非持続応答は送達不能キューに入れられず、廃棄はされない。代わりに、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは現在の操作をバックアウトし、適切な間隔で再試行します。

PubSubSyncPoint (MQCFIN)

持続メッセージのみ(またはすべてのメッセージ)を同期点で処理する必要があるかどうか(パラメーター ID: **MQIA_PUBSUB_SYNC_PT**)。

値は次のいずれかです。

MQSYNCPOINT_IFPER

この値を指定すると、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースに、非持続メッセージを同期点外で受信させます。インターフェースは同期点外でパブリケーションを受け取ると、そのパブリケーションを、同期点外の認識しているサブスクライバーに転送します。

MQSYNCPOINT_YES

キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースにより同期点下にあるすべてのメッセージが受信されます。

QMGrDesc (MQCFST)

キュー・マネージャー記述(パラメーター ID: **MQCA_Q_MGR_DESC**)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_MGR_DESC_LENGTH** です。

QMGrIdentifier (MQCFST)

キュー・マネージャー ID(パラメーター ID: **MQCA_Q_MGR_IDENTIFIER**)。

キュー・マネージャーの固有 ID。

QMGrName (MQCFST)

ローカル・キュー・マネージャーの名前(パラメーター ID: **MQCA_Q_MGR_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH** です。

QSGName (MQCFST)

キュー共有グループ名(パラメーター ID: **MQCA_QSG_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_QSG_NAME_LENGTH** です。

QSGCertificateLabel (MQCFST)

使用するキュー共有グループの証明書ラベルを指定します(パラメーター ID: **MQCA_QSG_CERT_LABEL**)。

QueueAccounting (MQCFIN)

キューのアカウントリング情報を収集するかどうかを指定します(パラメーター ID: **MQIA_ACCOUNTING_Q**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_ON

キュー・パラメーター **QueueAccounting** が **MQMON_Q_MGR** に指定されているすべてのキューについて、アカウントリング情報が収集されます。

MQMON_OFF

キュー・パラメーター **QueueAccounting** に **MQMON_Q_MGR** が指定されているすべてのキューについて、アカウントリング情報は収集されません。

MQMON_NONE

キューについてアカウントリング情報を収集しません。

QueueMonitoring (MQCFIN)

キューのリアルタイム・モニター・データ収集のレベル(パラメーター ID: **MQIA_MONITORING_Q**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_NONE

QueueMonitoring キュー属性の設定に関係なく、モニター・データ収集は無効になります。

MQMON_OFF

QueueMonitoring キュー属性に MQMON_Q_MGR が指定されているキューのモニター・データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

QueueMonitoring キュー属性に MQMON_Q_MGR が指定されているキューのモニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

QueueMonitoring キュー属性に MQMON_Q_MGR を指定したキューのモニター・データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

QueueMonitoring キュー属性に MQMON_Q_MGR が指定されているキューのモニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンになります。

Multi QueueStatistics (MQCFIN)

キューの統計データを収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_Q)。

値は次のいずれかです。

MQMON_NONE

キューの **QueueStatistics** パラメーターの設定に関係なく、キューの統計データ収集はオフになります。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_OFF

QueueStatistics パラメーターに値 MQMON_Q_MGR が指定されているキューの統計データ収集はオフになります。

MQMON_ON

QueueStatistics パラメーターに値 MQMON_Q_MGR が指定されているキューの統計データ収集がオンになります。

このパラメーターは、IBM i、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

ReceiveTimeout (MQCFIN)

ReceiveTimeoutType と組み合わせて使用すると、TCP/IP チャンネルが、非アクティブ状態に戻る前にパートナーからのデータ (ハートビートを含む) の受信を待機する時間を指定します (パラメーター ID: MQIA_RECEIVE_TIMEOUT)。

ReceiveTimeoutMin (MQCFIN)

非アクティブ状態に戻る前に、TCP/IP チャンネルがパートナーからのデータ (ハートビートを含む) の受信を待機する最小時間 (秒単位) (パラメーター ID: MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_MIN)。

ReceiveTimeoutType (MQCFIN)

ReceiveTimeout と組み合わせて使用すると、TCP/IP チャンネルが、非アクティブ状態に戻る前にパートナーからのデータ (ハートビートを含む) の受信を待機する時間を指定します (パラメーター ID: MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCVTIME_MULTIPLY

ReceiveTimeout 値は、チャンネルが待機する時間を決定するために **HeartbeatInterval** の折衝値に適用される乗数です。これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQRCVTIME_ADD

ReceiveTimeout は、チャンネルが待機する時間を決定するために **HeartbeatInterval** の折衝値に加算される値 (秒単位) です。

MQRCVTIME_EQUAL

ReceiveTimeout は、チャンネルが待機する時間を表す値 (秒単位) です。

RemoteEvent (MQCFIN)

リモート・エラー・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_REMOTE_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

RepositoryName (MQCFST)

リポジトリ名 (パラメーター ID: **MQCA_REPOSITORY_NAME**)。

このキュー・マネージャーがリポジトリ・サービスを提供するクラスターの名前。

RepositoryNamelist (MQCFST)

リポジトリ名リスト (パラメーター ID: **MQCA_REPOSITORY_NAMELIST**)。

このキュー・マネージャーがリポジトリ・サービスを提供するクラスターの名前のリスト。

RevDns (MQCFIN)

ドメイン・ネーム・サーバー (DNS) からのホスト名のリバース・ルックアップを行うかどうか。 (パラメーター ID: **MQIA_REVERSE_DNS_LOOKUP**)。

この属性は、TCP のトランスポート・タイプ (TRPTYPE) を使用するチャネルでのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQRDNS_DISABLED

インバウンド・チャネルの IP アドレスに関して DNS ホスト名は逆引きされません。これを設定すると、ホスト名を使用する CHLAUTH ルールはマッチングされません。

MQRDNS_ENABLED

インバウンド・チャネルの IP アドレスに関して DNS ホスト名の情報が必要な場合に、それが逆引きされます。この設定値は、ホスト名が含まれている CHLAUTH 規則に対してマッチングを行う場合、およびエラー・メッセージを書き出す場合は必須です。

SecurityCase (MQCFIN)

サポートされるセキュリティー・ケース (パラメーター ID: **MQIA_SECURITY_CASE**)。

キュー・マネージャーが大/小文字混合のセキュリティー・プロファイル名をサポートするか、または大文字のみのセキュリティー・プロファイル名をサポートするかを指定します。この値は、Refresh Security コマンドが **SecurityType (MQSECTYPE_CLASSES)** を指定して実行されている場合、アクティブ化されます。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQSCYC_UPPER

セキュリティー・プロファイル名は大文字でなければなりません。

MQSCYC_MIXED

セキュリティー・プロファイル名は大文字または大/小文字混合にすることができます。

SharedQueueQueueManagerName (MQCFIN)

キュー共有グループの別のキュー・マネージャーをオブジェクト・キュー・マネージャーとして指定する共有キューにメッセージを書き込む方法を指定します (パラメーター ID: **MQIA_SHARED_Q_Q_MGR_NAME**)。

値は次のいずれかです。

MQSQQM_USE

メッセージは、共有キューに入れられる前に、オブジェクト・キュー・マネージャーに送信されません。

MQSQQM_IGNORE

メッセージは、共有キューに直接入れられます。

SSLCRLNameList (MQCFST)

TLS CRL 名前リスト (パラメーター ID: **MQCA_SSL_CRL_NAMELIST**)。

ストリングの最大長は **MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH** です。

SSLEvent (MQCFIN)

IMS ブリッジ・イベントを生成するかどうかを決定します (パラメーター ID: **MQIA_SSL_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_ENABLED

すべての TLS イベントが有効です。

MQEVR_DISABLED

すべての TLS イベントが無効です。

ALW

SSLCryptoHardware (MQCFST)

TLS 暗号ハードウェア (パラメーター ID: **MQCA_SSL_CRYPTOHARDWARE**)。

ストリングの長さは **MQ_SSL_CRYPTOHARDWARE_LENGTH** です。

システム上に存在する暗号ハードウェアの構成に必要なパラメーター・ストリングを設定します。

このパラメーターは、AIX, Linux, and Windows でのみ有効です。

サポートされるすべての暗号ハードウェアは、PKCS #11 インターフェースをサポートします。以下の形式のストリングを指定します。

```
GSK_PKCS11=PKCS_#11_driver_path_and_filename;PKCS_#11_token_label;PKCS_#11_token_password;symmetric_cipher_setting;
```

PKCS #11 ドライバー・パスは、PKCS #11 カードに対するサポートを提供する共有ライブラリーの絶対パスです。PKCS #11 ドライバー・ファイル名は、共用ライブラリーの名前となります。PKCS #11 ドライバー・パスおよびファイル名に必要な値の例は、 `/usr/lib/pkcs11/PKCS11_API.so` です。

IBM Global Security Kit (GSKit)を介して対称暗号操作にアクセスするには、対称暗号設定パラメーターを指定します。このパラメーターの値は次のいずれかです。

SYMMETRIC_CIPHER_OFF

対称暗号操作を使用しません。

SYMMETRIC_CIPHER_ON

対称暗号操作を使用します。

対称暗号設定が指定されていない場合、この値は **SYMMETRIC_CIPHER_OFF** を指定しているときと同じように機能します。

ストリングの最大長は 256 文字です。デフォルト値はブランクです。

ストリングを誤った形式で指定すると、エラーが発生します。

SSLCryptoHardware (MQCFST) 値が変更されると、指定された暗号ハードウェア・パラメーターが新しい TLS 接続環境で使用されるパラメーターになります。以下の場合に、新しい情報が有効になります。

- 新しいチャンネル・プロセスが開始される時。
- チャンネル・イニシエーターのスレッドとして実行されるチャンネルの場合は、チャンネル・イニシエーターが再始動される時。
- リスナーのスレッドとして実行されるチャンネルの場合は、リスナーが再始動される時。
- Refresh Security コマンドが発行されて、TLS 鍵リポジトリの内容が最新表示された時。

SSLEvent (MQCFIN)

TLS イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_SSL_EVENT**)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

SSLFipsRequired (MQCFIN)

SSLFIPS は、暗号化が暗号ハードウェアではなく IBM MQ で実行される場合に、FIPS 認証アルゴリズムのみを使用するかどうかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_SSL_FIPS_REQUIRED**)。

暗号ハードウェアが構成されている場合、ハードウェア製品で提供される暗号モジュールが使用されます。それらのモジュールは、使用されているハードウェア製品によって一定レベルまで FIPS の認定を受けている場合もあれば、そうではない場合もあります。このパラメーターは、z/OS、AIX, Linux, and Windows プラットフォームのみに適用されます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSSL_FIPS_NO

IBM MQ は一部のプラットフォームで FIPS 認証モジュールを提供する TLS 暗号化の実装を提供します。 **SSLFIPSRequired** を MQSSL_FIPS_NO に設定すると、特定のプラットフォームでサポートされる CipherSpec を使用できます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。







キュー・マネージャーが暗号ハードウェアを使用せずに実行されている場合は、[CipherSpec の指定](#) にリストされている、FIPS 140-2 認証の暗号化を使用する CipherSpec を参照してください。

MQSSL_FIPS_YES

このキュー・マネージャーとの間のすべての TLS 接続で許可される CipherSpecs で、FIPS 証明されたアルゴリズムだけが使用されるように指定します。

該当する FIPS 140-2 認定済み CipherSpec のリストについては、[CipherSpec の指定](#)を参照してください。

SSLFIPS に対する変更は、以下の場合に有効になります。

-  **ALW** AIX, Linux, and Windows では、新しいチャンネル・プロセスが開始されたとき。
-  **ALW** AIX, Linux, and Windows のチャンネル・イニシエーターのスレッドとして実行されるチャンネルの場合は、チャンネル・イニシエーターが再始動されたとき。
-  **ALW** AIX, Linux, and Windows のリスナーのスレッドとして実行されるチャンネルの場合は、リスナーが再始動されたとき。
-  **ALW** プロセス・プール・プロセスのスレッドとして実行されるチャンネルの場合は、プロセス・プール・プロセスが開始または再開始され、TLS チャンネルを最初に実行したとき。プロセス・プーリング・プロセスが既に TLS チャンネルを実行しており、変更を即時に有効にする場合は、MQSC コマンド **REFRESH SECURITY TYPE(SSL)** を実行します。プロセス・プーリング・プロセスは、AIX, Linux, and Windows 上では **amqrmppa** です。
-  **z/OS** z/OS では、チャンネル・イニシエーターが再始動されたとき。
-  **z/OS** **REFRESH SECURITY TYPE(SSL)** コマンドが発行されたとき (z/OS の場合を除く)。

SSLKeyRepository (MQCFST)

TLS 鍵リポジトリ (パラメーター ID: **MQCA_SSL_KEY_REPOSITORY**)。

ストリングの最大長は MQ_SSL_KEY_REPOSITORY_LENGTH です。

SSLKeyResetCount (MQCFIN)

TLS 鍵リセット・カウント (パラメーター ID: **MQIA_SSL_RESET_COUNT**)。

ストリングの最大長は MQ_SSL_KEY_REPOSITORY_LENGTH です。

SSLTasks (MQCFIN)

TLS タスク (パラメーター ID: **MQIA_SSL_TASKS**)。

StartStopEvent (MQCFIN)

開始イベントと停止イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: **MQIA_START_STOP_EVENT**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

Multi StatisticsInterval (MQCFIN)

統計モニター・データがモニター・キューに書き込まれる時間間隔 (秒単位) (パラメーター ID: **MQIA_STATISTICS_INTERVAL**)。

1 から 604,000 の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、IBM i、AIX、Linux、and Windows でのみ有効です。

SyncPoint (MQCFIN)

同期点の可用性 (パラメーター ID: **MQIA_SYNCPOINT**)。

TCPChannels (MQCFIN)

サーバー接続チャンネルに接続されたクライアントを含む、TCP/IP 伝送プロトコルを使用する現行チャンネルの最大数 (パラメーター ID: **MQIA_TCP_CHANNELS**)。

TCPKeepAlive (MQCFIN)

TCP KEEPALIVE 機能を使用して、チャンネルの反対側にある MCA が使用可能かどうかを検査するかどうかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_TCP_KEEP_ALIVE**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQTCPKEEP_YES

TCP プロファイル構成データ・セットでの指定に従って TCP KEEPALIVE 機能を使用します。

MQTCPKEEP_NO

TCP KEEPALIVE 機能を使用しません。

TCPName (MQCFST)

TCP 名 (パラメーター ID: **MQIA_TCP_NAME**)。

使用中の現行 TCP/IP システムの名前です。

この値の最大長は MQ_TCP_NAME_LENGTH です。

TCPStackType (MQCFIN)

TCP スタック・タイプ (パラメーター ID: **MQIA_TCP_STACK_TYPE**)。

チャンネル・イニシエーターが TCPNAME で指定された TCP/IP アドレス・スペースだけを使用するかどうか、または選択した TCP/IP アドレスにバインドするかどうかを指定します。

値は次のいずれかです。

MQTCPSTACK_SINGLE

チャンネル・イニシエーターは、TCPNAME で指定された TCP/IP アドレス・スペースのみを使用します。

MQTCPSTACK_MULTIPLE

イニシエーターは、使用可能などの TCP/IP アドレス・スペースも使用できます。他に使用できるアドレス・スペースがない場合は、TCPNAME に指定されたアドレス・スペースが使用されます。

TraceRouteRecording (MQCFIN)

経路トレース・メッセージングを使用可能にするか使用不可にするかを指定します (パラメーター ID: **MQIA_TRACE_ROUTE_RECORDING**)。

値は次のいずれかです。

MQRECORDING_MSG

経路トレース・メッセージングは有効です。経路トレース応答メッセージは、メッセージのメッセージ記述子で指定された応答先キューに送信されます。

MQRECORDING_Q

経路トレース・メッセージングは有効です。経路トレース応答メッセージは、固定された名前のキューに送信されます。

MQRECORDING_DISABLED

経路トレース・メッセージングは無効です。

TreeLifeTime (MQCFIN)

非管理トピックの存続時間 (秒単位) (パラメーター ID: **MQIA_TREE_LIFE_TIME**)。

非管理トピックとは、アプリケーションが、管理ノードとして存在しないトピック・ストリングにパブリッシュするとき、またはそうしたストリングとしてサブスクライブするときに作成されるトピックのことです。この非管理ノードにアクティブなサブスクリプションがなくなった場合、このパラメーターは、キュー・マネージャーがそのノードを除去する前に待機する時間を決定します。キュー・マネージャーがリサイクルされた後は、永続サブスクリプションによって使用中の非管理トピックのみが残ります。

0 から 604,000 の範囲の値を指定します。値 0 は、非管理トピックがキュー・マネージャーによって削除されないことを意味します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 1800 です。

TriggerInterval (MQCFIN)

トリガー間隔 (パラメーター ID: **MQIA_TRIGGER_INTERVAL**)。

TriggerType の値が MQTT_FIRST であるキューのみに使用される、トリガー時間間隔をミリ秒で指定します。

ストレージ・クラスの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、ストレージ・クラス属性を組み込むことができます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_DATE**)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_TIME**)。

情報が最後に変更された時刻。

PageSetId (MQCFIN)

ページ・セット ID (パラメーター ID: **MQIA_PAGESET_ID**)。

PassTicketApplication (MQCFST)

IMS ブリッジ・パスチケットの認証に使用されるアプリケーションの名前 (パラメーター ID: **MQCA_PASS_TICKET_APPL**)。

ストリングの最大長は MQ_PASS_TICKET_APPL_LENGTH です。

StgClassDesc (MQCFST)

ストレージ・クラス記述 (パラメーター ID: **MQCA_STORAGE_CLASS_DESC**)。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_DESC_LENGTH です。

XCFGroupName (MQCFST)

XCF グループ名 (パラメーター ID: **MQCA_XCF_GROUP_NAME**)。

ストリングの最大長は MQ_XCF_GROUP_NAME_LENGTH です。

XCFMemberName (MQCFST)

XCF メンバー名 (パラメーター ID: **MQCA_XCF_MEMBER_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_XCF_MEMBER_NAME_LENGTH** です。

トピック属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、トピック属性を組み込むことができます。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_DATE**)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: **MQCA_ALTERATION_TIME**)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

ClusterName (MQCFST)

このトピックが属するクラスターの名前。 (パラメーター ID: **MQCA_CLUSTER_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH** です。このキュー・マネージャーがメンバーになっているクラスターにこのパラメーターを設定すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがこのトピックを認識します。このクラスター内の任意のキュー・マネージャーに書き込まれたこのトピックまたはその下位のトピック・ストリングのパブリケーションは、クラスター内のその他のキュー・マネージャーのサブスクリプションに伝搬されます。詳しくは、[分散パブリッシュ/サブスクライブのネットワーク](#)を参照してください。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

ブランク

トピック・ツリー内のこのトピックより上のトピック・オブジェクトで、このパラメーターがクラスター名に設定されているものがない場合、このトピックはクラスターに属しません。このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションは、クラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されません。トピック・ツリー内の上位トピック・ノードでクラスター名が設定されている場合は、このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションもクラスター全体に伝搬されます。

この値は、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

ストリング

トピックは、このクラスターに所属します。トピック・ツリー内のこのトピック・オブジェクトより上位のトピック・オブジェクトと異なるクラスターにこれを設定することは推奨されません。クラスター内の他のキュー・マネージャーでは、同じ名前のローカル定義がキュー・マネージャーに存在しない場合は、このオブジェクトの定義が使用されます。

また、**PublicationScope** または **SubscriptionScope** が **MQSCOPE_ALL** に設定されている場合、この値は、このトピックのパブリッシュ/サブスクライブ・クラスター接続キュー・マネージャーへのパブリケーションおよびサブスクリプションの伝搬に使用されるクラスターです。

DefPersistence (MQCFIN)

デフォルトの持続性 (パラメーター ID: **MQIA_TOPIC_DEF_PERSISTENCE**)。

値は次のいずれかです。

MQPER_PERSISTENCE_AS_PARENT

デフォルトの持続性は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

MQPER_PERSISTENT

メッセージは持続します。

MQPER_NOT_PERSISTENT

メッセージは持続しません。

DefPriority (MQCFIN)

デフォルトの優先順位 (パラメーター ID: **MQIA_DEF_PRIORITY**)。

DefPutResponse (MQCFIN)

デフォルト書き込み応答 (パラメーター ID: **MQIA_DEF_PUT_RESPONSE_TYPE**)。

値は次のいずれかです。

MQPRT_ASYNC_RESPONSE

PUT 操作は非同期的に実行され、MQMD フィールドのサブセットが返されます。

MQPRT_RESPONSE_AS_PARENT

デフォルトの書き込み応答は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて行われます。

MQPRT_SYNC_RESPONSE

PUT 操作は同期的に実行され、応答が返されます。

DurableModelQName (MQCFST)

永続管理サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 (パラメーター ID:

MQCA_MODEL_DURABLE_Q)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_NAME_LENGTH** です。

DurableSubscriptions (MQCFIN)

アプリケーションが永続サブスクリプションの作成を許可されるかどうか (パラメーター ID:

MQIA_DURABLE_SUB)。

値は次のいずれかです。

MQSUB_DURABLE_AS_PARENT

永続サブスクリプションが許可されるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQSUB_DURABLE_ALLOWED

永続サブスクリプションが許可されています。

MQSUB_DURABLE_INHIBITED

永続サブスクリプションは許可されていません。

InhibitPublications (MQCFIN)

このトピックに対してパブリケーションが許可されるかどうか (パラメーター ID:

MQIA_INHIBIT_PUB)。

値は次のいずれかです。

MQTA_PUB_AS_PARENT

メッセージをこのトピックでパブリッシュできるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQTA_PUB_INHIBITED

このトピックではパブリケーションは禁止されています。

MQTA_PUB_ALLOWED

このトピックではパブリケーションが許可されています。

InhibitSubscriptions (MQCFIN)

このトピックに対してサブスクリプションが許可されるかどうか (パラメーター ID:

MQIA_INHIBIT_SUB)。

値は次のいずれかです。

MQTA_SUB_AS_PARENT

アプリケーションがこのトピックにサブスクライブできるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQTA_SUB_INHIBITED

このトピックではサブスクリプションは禁止されています。

MQTA_SUB_ALLOWED

このトピックではサブスクリプションが許可されています。

NonDurableModelQName (MQCFST)

非永続管理サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 (パラメーター ID: **MQCA_MODEL_NON_DURABLE_Q**)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_NAME_LENGTH** です。

NonPersistentMsgDelivery (MQCFIN)

このトピックにパブリッシュされる非永続メッセージの配信メカニズム (パラメーター ID: **MQIA_NPM_DELIVERY**)。

値は次のいずれかです。

MQDLV_AS_PARENT

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

MQDLV_ALL

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に非持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_DUR

非持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの非永続メッセージの配信が失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの送達が失敗すると、他のすべてのサブスクライバーはメッセージを受信せず、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_AVAIL

非持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

PersistentMsgDelivery (MQCFIN)

このトピックにパブリッシュされる永続メッセージの配信メカニズム (パラメーター ID: **MQIA_PM_DELIVERY**)。

値は次のいずれかです。

MQDLV_AS_PARENT

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

MQDLV_ALL

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_DUR

持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの持続メッセージの配信が失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの送達が失敗すると、他のすべてのサブスクライバーはメッセージを受信せず、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_AVAIL

持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

ProxySubscriptions (MQCFIN)

ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、このトピックのプロキシ・サブスクリプションを直接接続されたキュー・マネージャーに送信するかどうか (パラメーター ID: **MQIA_PROXY_SUB**)。

値は次のいずれかです。

MQTA_PROXY_SUB_FORCE

ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、プロキシ・サブスクリプションは接続されているキュー・マネージャーに送信されます。

MQTA_PROXY_SUB_FIRSTUSE

ローカル・サブスクリプションが存在するときのみ、このトピックのプロキシ・サブスクリプションが送信されます。

PublicationScope (MQCFIN)

このキュー・マネージャーがパブリケーションを、階層の一部として、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてキュー・マネージャーに伝搬するかどうか (パラメーター ID: **MQIA_PUB_SCOPE**)。

値は次のいずれかです。

MQSCOPE_ALL

このトピックのパブリケーションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

MQSCOPE_AS_PARENT

このキュー・マネージャーがパブリケーションを、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づいて、階層の一部としての、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか。

これは、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

MQSCOPE_QMGR

このトピックのパブリケーションは、他のキュー・マネージャーには伝搬されません。

注: この動作は、書き込みメッセージ・オプションで **MQPMO_SCOPE_QMGR** を使用して、パブリケーションごとに指定変更できます。

QMgrName (MQCFST)

ローカル・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: **MQCA_CLUSTER_Q_MGR_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH** です。

SubscriptionScope (MQCFIN)

このキュー・マネージャーがサブスクリプションを、階層の一部として、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部として、キュー・マネージャーに伝搬するかどうか (パラメーター ID: **MQIA_SUB_SCOPE**)。

値は次のいずれかです。

MQSCOPE_ALL

このトピックに対するサブスクリプションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

MQSCOPE_AS_PARENT

このキュー・マネージャーがサブスクリプションを、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づいて、階層の一部としての、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか。

これは、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

MQSCOPE_QMGR

このトピックのサブスクリプションは、他のキュー・マネージャーには伝搬されません。

注: この動作は、サブスクリプション記述子で **MQSO_SCOPE_QMGR** を、または **DEFINE SUB** で **SUBSCOPE (QMGR)** を使用して、サブスクリプションごとに指定変更できます。

TopicDesc (MQCFST)

トピックの説明 (パラメーター ID: **MQCA_TOPIC_DESC**)。

最大長は **MQ_TOPIC_DESC_LENGTH** です。

TopicName (MQCFST)

トピック・オブジェクト名 (パラメーター ID: **MQCA_TOPIC_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_TOPIC_NAME_LENGTH** です。

TopicString (MQCFST)

トピック・ストリング (パラメーター ID: **MQCA_TOPIC_STRING**)。

このストリング内の「/」文字には、特別な意味があります。これは、トピック・ツリー内の要素を区切るために使用されます。トピック・ストリングの先頭は「/」文字にできますが、必須ではありません。「/」文字で始まるストリングは、「/」文字なしで始まるストリングとは異なります。トピック・ストリングの末尾に「/」文字を使用することはできません。

ストリングの最大長は **MQ_TOPIC_STR_LENGTH** です。

TopicType (MQCFIN)

このオブジェクトがローカル・トピックであるかクラスター・トピックであるか (パラメーター ID: **MQIA_TOPIC_TYPE**)。

値は次のいずれかです。

MQTOPT_LOCAL

このオブジェクトはローカル・トピックです。

MQTOPT_CLUSTER

このオブジェクトはクラスター・トピックです。

WildcardOperation (MQCFIN)

このトピックに対して行われたワイルドカードを含むサブスクリプションの動作 (パラメーター ID: **MQIA_WILDCARD_OPERATION**)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQTA_PASSTHRU

このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングより限定的でないワイルドカード・トピック名を使用して行われるサブスクリプションは、このトピックに対して、さらにこのトピックより限定的なトピック・ストリングに対して行われるパブリケーションを受け取ります。これは、IBM MQ で提供されているデフォルトです。

MQTA_BLOCK

このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングより限定的でないワイルドカード・トピック名を使用して行われるサブスクリプションは、このトピックに対して、さらにこのトピックより限定的なトピック・ストリングに対して行われるパブリケーションを受け取りません。

イベント・メッセージ参照

このページでは、イベント・メッセージの形式に関する情報の概要を説明します。

観測イベントごとに、イベント・メッセージのメッセージ記述子部分とメッセージ・データ部分の両方の情報が返されます。

関連概念

[129 ページの『イベント・メッセージ記述』](#)

イベント・メッセージ・データには、生成されたイベントに特有の情報が含まれています。このデータは、キュー・マネージャーの名前やキューの名前 (該当する場合) などです。

観測イベント**関連資料**

[121 ページの『イベント・メッセージの形式』](#)

イベント・メッセージは、メッセージ記述子とメッセージ・データを含む標準的な IBM MQ メッセージです。

[122 ページの『イベント・メッセージ MQMD \(メッセージ記述子\)』](#)

イベント・メッセージのメッセージ記述子には、メッセージ・タイプやメッセージ形式、およびメッセージがイベント・キューに書き込まれた日時など、システム・モニター・アプリケーションが使用できる情報が含まれています。

127 ページの『イベント・メッセージ MQCFH (PCF ヘッダー)』

イベント・メッセージのメッセージ・データの形式は、PCF コマンドの照会と応答に使用される プログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) です。メッセージ・データは、イベント・ヘッダーとイベント・データの 2 つの部分で構成されます。

イベント・メッセージの形式

イベント・メッセージは、メッセージ記述子とメッセージ・データを含む標準的な IBM MQ メッセージです。

121 ページの表 8 では、イベント・メッセージの基本的構造を示し、イベント・データ列に、キュー・サービス間隔イベントのイベント・メッセージにあるフィールドの名前を示します。

表 8. キュー・サービス間隔イベントのイベント・メッセージの構造		
メッセージ記述子	メッセージ・データ	
MQMD 構造	PCF ヘッダー MQCFH 構造	イベント・データ ¹
構造体 ID 構造バージョン レポート・オプション メッセージ・タイプ 満了時刻 フィードバック・コード Encoding コード化文字セット ID メッセージ形式 メッセージ優先順位 Persistence メッセージ ID 相関 ID バックアウト・カウント 応答先キュー 応答先キュー・マネージャー ユーザー ID アカウンティング・トークン アプリケーション識別データ アプリケーション・タイプ アプリケーション名 書き込み日付 書き込み時刻 発生元アプリケーション・データ グループ ID メッセージ順序番号 オフセット メッセージ・フラグ 元の長さ	構造タイプ 構造の長さ 構造バージョン コマンド ID メッセージ順序番号 制御オプション 完了コード 理由コード パラメーター数	キュー・マネージャー名 キュー名 前回のリセットからの時間の最大数 キュー上のメッセージ メッセージの数 キューに書き込む メッセージの数 キューから取り出された メッセージ数

表 8. キュー・サービス間隔イベントのイベント・メッセージの構造 (続き)

メッセージ記述子	メッセージ・データ	
MQMD 構造	PCF ヘッダー MQCFH 構造	イベント・データ ¹
<p>注:</p> <p>1. 示されるパラメーターは、キュー・サービス間隔イベントで戻るパラメーターです。実際のイベント・データは、個々のイベントによって異なります。</p>		

一般に、作成するシステム管理プログラムにとって必要なのは、この情報の一部のみです。例えば、アプリケーションにとって次のデータが必要な場合があります。

- イベントを引き起こしているアプリケーションの名前
- イベントが起きたキュー・マネージャーの名前
- イベントが生成されたキュー
- イベント統計

イベント・メッセージ MQMD (メッセージ記述子)

イベント・メッセージのメッセージ記述子には、メッセージ・タイプやメッセージ形式、およびメッセージがイベント・キューに書き込まれた日時など、システム・モニター・アプリケーションが使用できる情報が含まれています。

メッセージ・タイプは MQMT_DATAGRAM であり、メッセージの形式は MQFMT_EVENT であることが、記述子内の情報によってシステム管理アプリケーションに通知されます。

イベント・メッセージのフィールドの多くには、固定データが設定されています。このデータは、そのメッセージを生成したキュー・マネージャーが提供します。MQMD 構造はまた、メッセージを書き込んだキュー・マネージャーの名前 (28 文字に切り捨てられます) を指定します。

1 つのイベント・メッセージについて、MQMD 構造には次の値があります。

StrucId

説明:	構造体 ID
データ型:	MQCHAR4.
値:	MQMD_STRUC_ID

Version

説明:	構造体のバージョン番号。
データ型:	MQLONG

値: **MQMD_VERSION_1**
Version-1 メッセージ記述子構造。すべての環境でサポートされます。

MQMD_VERSION_2
Version-2 メッセージ記述子構造。以下の環境でサポートされます。

- ▶ **AIX** AIX
- ▶ **IBM i** IBM i
- ▶ **Linux** Linux
- ▶ **Windows** Windows
- ▶ **z/OS** z/OS

およびこれらのシステムに接続されるすべての IBM MQ MQI clients。

Report

説明: レポート・メッセージのオプション。
データ型: MQLONG
値: **MQRO_NONE**
レポートは必要ありません。

MsgType

説明: メッセージのタイプを示します。
データ型: MQLONG
値: MQMT_DATAGRAM

Expiry

説明: メッセージ存続期間。
データ型: MQLONG
値: **MQEI_UNLIMITED**
メッセージには有効期間がありません。

Feedback

説明: フィードバックまたは理由コード。
データ型: MQLONG
値: MQFB_NONE

Encoding

説明: メッセージ・データの数値エンコード。
データ型: MQLONG
値: MQENC_NATIVE

CodedCharSetId

説明: イベント・メッセージ・データの文字セット ID。
データ型: MQLONG

値: イベントを生成するキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID)。

Format

説明: メッセージ・データの形式名。

データ型: MQCHAR8.

値: **MQFMT_EVENT**
イベント・メッセージ。

Priority

説明: メッセージの優先度。

データ型: MQLONG

値: **MQPRI_PRIORITY_AS_Q_DEF**
優先度はイベント・キューの優先度です。

Persistence

説明: メッセージの持続性。

データ型: MQLONG

値: **MQPER_PERSISTENCE_AS_Q_DEF**
優先度はイベント・キューの優先度です。

MsgId

説明: メッセージ ID。

データ型: MQBYTE24.

値: キュー・マネージャーによって生成される固有値。

CorrelId

説明: 相関 ID。

データ型: MQBYTE24.

値: パフォーマンス、キュー・マネージャー、ロガー、チャネル、ブリッジ、および SSL の各イベントの場合:

MQCI_NONE

相関 ID は指定されません。これはプライベート・キュー専用です。

共有キュー上のイベントの場合、ゼロ以外の相関 ID が設定されます。このパラメーターは、さまざまなキュー・マネージャーからの複数のイベント・メッセージを追跡できるように設定されます。文字は次のように指定されます。

- 1 から 4 製品 ID ('CSQ')
- 5 から 8 キュー共有グループ名
- 9 キュー・マネージャー ID
- 10 から 17 タイム・スタンプ
- 18 から 24 NULL

構成イベントおよびコマンド・イベントの場合:

固有なゼロ以外の相関 ID

同じイベントに関連するメッセージはすべて、同じ CorrelId を持っています。

BackoutCount

説明: バックアウトのカウンター。
データ型: MQLONG
値: 0。

ReplyToQ

説明: 応答キューの名前。
データ型: MQCHAR48.
値: ブランク。

ReplyToQMGr

説明: 応答キュー・マネージャーの名前。
データ型: MQCHAR48.
値: 発生元のシステムのキュー・マネージャー名。

UserIdentifier

説明: メッセージ発生元のアプリケーションを識別します。
データ型: MQCHAR12.
値: ブランク。

AccountingToken

説明: メッセージの結果として行われる作業についてアプリケーションによる課金を可能にするためのアカウントिंग・トークン。
データ型: MQBYTE32.
値: MQACT_NONE

ApplIdentityData

説明: ID に関連するアプリケーション・データ。
データ型: MQCHAR32.
値: ブランク。

PutApplType

説明: メッセージを書き込むアプリケーションのタイプ。
データ型: MQLONG
値: **MQAT_QMGR**
キュー・マネージャーによって生成されたメッセージ。

PutApplName

説明: メッセージを書き込むアプリケーションの名前。

データ型: MQCHAR28.
値: 発生元のシステムのキュー・マネージャー名。

PutDate

説明: メッセージが書き込まれた日付。
データ型: MQCHAR8.
値: キュー・マネージャーによって生成された時点。

PutTime

説明: メッセージが書き込まれた時間。
データ型: MQCHAR8.
値: キュー・マネージャーによって生成された時点。

ApplOriginData

説明: 発生元に関するアプリケーション・データ。
データ型: MQCHAR4.
値: ブランク。

注: *Version* が MQMD_VERSION_2 である場合は、次の追加フィールドがあります。

GroupId

説明: 物理メッセージが属するメッセージ・グループ、または論理メッセージを識別します。
データ型: MQBYTE24.
値: **MQGI_NONE**
グループ ID は指定されません。

MsgSeqNumber

説明: グループ中の論理メッセージの順序番号。
データ型: MQLONG
値: 1 秒。

Offset

説明: 論理メッセージの先頭を起点とする、物理メッセージ中のデータのオフセット。
データ型: MQLONG
値: 0。

MsgFlags

説明: メッセージの属性を指定したり、その処理を制御したりするメッセージ・フラグ。
データ型: MQLONG
値: MQMF_NONE

OriginalLength

説明: 元のメッセージの長さ。
データ型: MQLONG
値: MQOL_UNDEFINED

イベント・メッセージ MQCFH (PCF ヘッダー)

イベント・メッセージのメッセージ・データの形式は、PCF コマンドの照会と応答に使用される プログラムブル・コマンド・フォーマット (PCF) です。メッセージ・データは、イベント・ヘッダーとイベント・データの 2 つの部分で構成されます。

MQCFH ヘッダーでは、以下の情報を指定します。

- イベントのカテゴリ: イベントはキュー・マネージャー・イベント、パフォーマンス・イベント、チャンネル・イベント、構成イベント、コマンド・イベント、またはロガー・イベントのいずれかです。
- イベントの原因を示す理由コード。MQI 呼び出しで引き起こされたイベントの場合、この理由コードは、MQI 呼び出しの理由コードと同様です。

理由コードには、文字 MQRC_ で始まる名前があります。例えば、理由コード MQRC_PUT_INHIBITED が生成されるのは、アプリケーションが書き込み用に使用可能になっていないキューにメッセージを書き込もうとしたときです。

イベントの場合、MQCFH 構造には以下の値が含まれます。

Type

説明: メッセージの内容を識別する構造タイプ。
データ型: MQLONG
値: **MQCFT_EVENT**
メッセージは、イベントのレポートです。

StrucLength

説明: 構造の長さ。
データ型: MQLONG
値: **MQCFH_STRUC_LENGTH**
MQCFH 構造のバイト単位の長さ。

Version

説明: 構造体のバージョン番号。
データ型: MQLONG
値: **MQCFH_VERSION_1**
Version-1 (構成イベントとコマンド・イベントを除くすべてのイベント)。
MQCFH_VERSION_2
Version-2 (構成イベントの場合)。
MQCFH_VERSION_3
Version-3 (コマンド・イベントの場合)。

Command

説明: コマンド ID。これはイベントのカテゴリを識別します。

データ型: MQLONG

値: **MQCMD_Q_MGR_EVENT**
キュー・マネージャー・イベント。

MQCMD_PERFM_EVENT
パフォーマンス・イベント。

MQCMD_CHANNEL_EVENT
チャンネル・イベント。

MQCMD_CONFIG_EVENT
構成イベント

MQCMD_COMMAND_EVENT
コマンド・イベント。

MQCMD_LOGGER_EVENT
ロガー・イベント。

MsgSeqNumber

説明: メッセージ順序番号 関連メッセージのグループ内のメッセージの順序番号です。

データ型: MQLONG

値: **1**
変更前の属性値を持つオブジェクトの変更の構成イベントの場合、および他のすべてのタイプのイベントの場合。

2
変更後の属性値を持つオブジェクトの変更の構成イベントの場合。

Control

説明: 制御オプション。

データ型: MQLONG

値: **MQCFC_LAST**
変更後の属性値を持つオブジェクトの変更の構成イベントの場合、および他のすべてのタイプのイベントの場合。

MQCFC_NOT_LAST
変更以前の属性値を持つオブジェクトの変更の構成イベントの場合のみ。

CompCode

説明: 完了コード。

データ型: MQLONG

値: **MQCC_OK**
イベントは OK 条件をレポートします。

MQCC_WARNING
イベントは警告条件をレポートします。特に指定しない限り、すべてのイベントはこの完了コードを持ちます。

Reason

説明: 完了コードを修飾する理由コード。
 データ型: MQLONG
 値: MQRC_* レポートされるイベントによって異なります。
 注: 理由コードが同じイベント同士の識別は、さらに、イベント・データの中の **ReasonQualifier** パラメーターを使用して行われます。

ParameterCount

説明: パラメーター構造のカウンタ。これは、MQCFH 構造に続くパラメーター構造の数です。グループ構造 (MQCFGR) とそれに含まれるパラメーター構造は、1つの構造としてカウンタされます。
 データ型: MQLONG
 値: 0 以上。

イベント・メッセージ記述

イベント・メッセージ・データには、生成されたイベントに特有の情報が含まれています。このデータは、キュー・マネージャーの名前やキューの名前 (該当する場合) などです。

戻されるデータ構造は、どのイベントが生成されたかによって異なります。また、一部のイベントでは、構造のパラメーターのいくつかはオプションであり、そのイベントを生成する原因となった状況に関連する情報が含まれている場合にのみ返されます。データ構造に設定されている値は、イベントが生成される原因となった状況によって異なります。

注:

1. メッセージ・データの PCF 構造は、定義した順序では返されません。説明の中に示されているパラメーター ID から、イベント構造を識別する必要があります。
2. イベント記述の最初に具体的な制限が示されていない限り、イベントはすべてのプラットフォームで使用可能です。

別名基本キュー・タイプ・エラー

イベント名:	別名基本キュー・タイプ・エラー。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1131 ページの『2001 (07D1) (RC2001): MQRC_ALIAS_BASE_Q_TYPE_ERROR』</u> 。 別名基本キューのタイプは無効です。
イベント記述:	宛先として別名キューを指定して MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、別名キュー定義内の <i>BaseObjectName</i> は、ローカル・キューでもリモート・キューのローカル定義でもないキューに解決されます。
イベント・タイプ:	ローカル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMGrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
 ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

BaseObjectName

説明: 別名が解決されるオブジェクト名。
ID: MQCA_BASE_OBJECT_NAME。既存アプリケーションとの互換性のために、MQCA_BASE_Q_NAME を引き続き使用できます。
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

QType

説明: 別名が解決されるキューのタイプ。
ID: MQIA_Q_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQQT_ALIAS**
別名キュー定義。
MQQT_MODEL
モデル・キュー定義。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ブリッジ開始

イベント名:	ブリッジ開始。
MQCFH 中の理由コード:	1188 ページの『2125 (084D) (RC2125): MQRC_BRIDGE_STARTED』 . ブリッジが開始しました。
イベント記述:	IMS ブリッジが開始しました。
イベント・タイプ:	IMS ブリッジ。
プラットフォーム:	IBM MQ for z/OS のみ。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

BridgeType

説明: ブリッジ・タイプ。
ID: MQIACF_BRIDGE_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQBT_OTMA**
OTMA ブリッジ。
戻り: 常時。

BridgeName

説明: ブリッジ名。タイプ MQBT_OTMA のブリッジの場合、名前の形式は XCFgroupXCFmember です。XCFgroup は、IMS と IBM MQ の両方が属する XCF グループ名です。XCFmember は、IMS システムの XCF メンバー名です。
ID: MQCACF_BRIDGE_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_BRIDGE_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ブリッジ停止

イベント名:	ブリッジ停止。
MQCFH 中の理由コード:	1188 ページの『2126 (084E) (RC2126): MQRC_BRIDGE_STOPPED』 . ブリッジが停止しました。
イベント記述:	IMS ブリッジが停止しました。
イベント・タイプ:	IMS ブリッジ。
プラットフォーム:	IBM MQ for z/OS のみ。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: MQCFH 中の、理由コードを修飾する ID。
ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN

値: **MQRQ_BRIDGE_STOPPED_OK**
ブリッジが、ゼロ戻りコードまたは警告戻りコードのいずれかを発行して終了しました。MQBT_OTMA ブリッジで、いずれかの側が正常な IXCLEAVE 要求を発行しました。

MQRQ_BRIDGE_STOPPED_ERROR
ブリッジは終了しましたが、エラーがレポートされています。

戻り: 常時。

BridgeType

説明: ブリッジ・タイプ。

ID: MQIACF_BRIDGE_TYPE

データ型: MQCFIN

値: **MQBT_OTMA**
OTMA ブリッジ。

戻り: 常時。

BridgeName

説明: ブリッジ名。タイプ MQBT_OTMA のブリッジの場合、名前の形式は XCFgroupXCFmember です。XCFgroup は、IMS と IBM MQ の両方が属する XCF グループ名です。XCFmember は、IMS システムの XCF メンバー名です。

ID: MQCACF_BRIDGE_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_BRIDGE_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ErrorIdentifier

説明: あるエラーのためにブリッジが停止した場合、このコードはそのエラーを識別します。イベントでブリッジ停止障害が報告された場合は、IMS センス・コードが設定されます。

ID: MQIACF_ERROR_IDENTIFIER

データ型: MQCFIN

戻り: *ReasonQualifier* が MQRQ_BRIDGE_STOPPED_ERROR の場合。

権限レコードの変更

イベント名: 権限レコードの変更

MQCFH 中の理由コード: [1267 ページの『2368 \(0940\) \(RC2368\): MQRC_CONFIG_CHANGE_OBJECT』](#).
オブジェクトが変更されました。

イベント記述: Set Authority Record コマンドが発行され、既存の権限レコードが正常に変更されました。

イベント・タイプ: 構成

プラットフォーム: すべて、ただし z/OS を除く。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

権限レコード変更イベントに関して2つのイベント・メッセージが生成されることに注意してください。最初のものには変更前の権限レコード属性値が含まれ、2番目のものには変更後の属性値が含まれます。

イベント・データ

EventQMgr

説明: コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。つまり、コマンドを処理してイベントを生成するキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。

ID: MQCACF_EVENT_Q_MGR

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

EventUserId

説明: コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。
これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使われるのと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージのメッセージ記述子からのユーザー ID (**UserIdentifier**) でもあります。

ID: MQCACF_EVENT_USER_ID

データ型: MQCFST

最大長: MQ_USER_ID_LENGTH

戻り: 常時。

EventOrigin

説明: イベントを引き起こしたアクションの発信元。

ID: MQIACF_EVENT_ORIGIN

データ型: MQCFIN

値: **MQEVO_CONSOLE**
コンソール・コマンド ([runmqsc](#) または [setmqaut](#))

MQEVO_INTERNAL
キュー・マネージャーによって直接

MQEVO_MSG
SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE でのコマンド・メッセージ

戻り: 常時

EventAccountingToken

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアカウントिंग・トークン (**AccountingToken**)。

ID: MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN

データ型: MQCFBS

最大長: MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション識別データ (**ApplIdentityData**)。

ID: MQMQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション・タイプ (**PutApplType**)。

ID: MQIACF_EVENT_APPL_TYPE

データ型: MQCFIN

値:

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション名 (**PutApplName**)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション発信元データ (**ApplOriginData**)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明: オブジェクト・タイプ

ID: MQIACF_OBJECT_TYPE

データ型: MQCFIN

値: MQOT_AUTH_REC

戻り: 常時

ProfileName

説明:	オブジェクトまたは総称プロファイル名
ID:	MQCACF_AUTH_PROFILE_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_AUTH_PROFILE_NAME_LENGTH
戻り:	常時

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

オブジェクトの変更

イベント名:	オブジェクトの変更。
MQCFH 中の理由コード:	1267 ページの『2368 (0940) (RC2368): MQRC_CONFIG_CHANGE_OBJECT』 . 既存のオブジェクトが変更されました。
イベント記述:	ALTER または DEFINE REPLACE コマンド、または MQSET 呼び出しが発行されて、既存のオブジェクトが正常に変更されました。
イベント・タイプ:	構成。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

注: オブジェクトの変更イベントについて 2 つのイベント・メッセージが生成されました。最初は、変更前のオブジェクト属性値が含まれており、2 番目のものには、変更後のオブジェクト属性値が含まれています。

イベント・データ

EventUserId

説明:	コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_USER_ID_LENGTH
戻り:	常時。

EventOrigin

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN

値:	MQEVO_CONSOLE コンソール・コマンド。
	MQEVO_INIT 初期設定入力データ・セット・コマンド。
	MQEVO_INTERNAL キュー・マネージャーによって直接。
	MQEVO_MQSET MQSET 呼び出し。
	MQEVO_MSG SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。
	MQEVO_OTHER 上記のいずれでもない。
戻り:	常時。

EventQMGr

説明:	コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

EventAccountingToken

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。
ID:	MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型:	MQCFBS
最大長:	MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。
ID:	MQIACF_EVENT_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明: オブジェクト・タイプ:

ID: MQIACF_OBJECT_TYPE

データ型: MQCFIN

値:

MQOT_CHANNEL
チャンネル。

MQOT_CHLAUTH
チャンネル認証レコード

MQOT_NAMELIST
名前リスト。

MQOT_NONE
オブジェクトなし。

MQOT_PROCESS
プロセス。

MQOT_Q
キュー。

MQOT_Q_MGR
キュー・マネージャー。

MQOT_STORAGE_CLASS
ストレージ・クラス。

MQOT_AUTH_INFO
認証情報

MQOT_CF_STRUC
CF 構造。

MQOT_TOPIC
トピック。

MQOT_COMM_INFO
通信情報。

MQOT_LISTENER
チャンネル・リスナー。

戻り: 常時。

ObjectName

説明: オブジェクト名:

ID: ID はオブジェクト・タイプに従ったものになります。

- MQCACH_CHANNEL_NAME
- MQCA_NAMELIST_NAME
- MQCA_PROCESS_NAME
- MQCA_Q_NAME
- MQCA_Q_MGR_NAME
- MQCA_STORAGE_CLASS
- MQCA_AUTH_INFO_NAME
- MQCA_CF_STRUC_NAME
- MQCA_TOPIC_NAME
- MQCA_COMM_INFO_NAME
- MQCACH_LISTENER_NAME

注: MQCACH_CHANNEL_NAME は、チャンネル認証にも使用できます。

データ型: MQCFST

最大長: MQ_OBJECT_NAME_LENGTH

戻り: 常時

Disposition

説明: オブジェクトの属性指定。

ID: MQIA_QSG_DISP

データ型: MQCFIN

値: **MQQSGD_Q_MGR**

オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあります。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは共有リポジトリ内にあり、メッセージがカップリング・ファシリティで共有されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは共有リポジトリにあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあり、GROUP オブジェクトのローカル・コピーです。

戻り: 常時 (キュー・マネージャーおよび CF 構造化オブジェクトは除く)。

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

チャンネル活動化

イベント名: チャンネル活動化。

MQCFH 中の理由コード: [1240 ページの『2295 \(08F7\) \(RC2295\): MQRC_CHANNEL_ACTIVATED』](#).
チャンネル活動化。

イベント記述: チャンネルがアクティブになるために待ち続けており、そのチャンネルについてチャンネル非活動化イベントが既に生成されている場合、アクティブ・スロットを別のチャンネルが解放したため、そのチャンネルがアクティブになることができたときに、この条件が検出されます。

このイベントは、アクティブ・スロットの解放を待たずにアクティブ状態になることができるチャンネルについては生成されません。

イベント・タイプ: チャンネル。

プラットフォーム: すべて。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。
ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

ConnectionName

説明: チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の *ConnectionName* フィールドの内容になります。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: 総称名を含まないコマンドの場合のみ。

チャンネル自動定義エラー

イベント名:	チャンネル自動定義エラー。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1220</u> ページの『 <u>2234 (08BA) (RC2234): MQRC_CHANNEL_AUTO_DEF_ERROR</u> 』。自動チャンネル定義に失敗しました。
イベント記述:	この条件が検出されるのは、チャンネルの自動定義に失敗した場合です。原因には、定義プロセス中にエラーが発生したこと、あるいはチャンネル自動定義出口によって定義が禁止されていることなどが考えられます。イベント・メッセージには、エラーの理由を示す追加情報が戻ります。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ChannelName

説明: 自動定義に失敗したチャンネルの名前。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ChannelType

説明: チャンネル・タイプ。これは、自動定義に失敗したチャンネルのタイプを指定します。
ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQCHT_RECEIVER**
受信側。
MQCHT_SVRCONN
サーバー接続 (クライアントが使用)。
MQCHT_CLUSSDR
クラスター送信側。
戻り: 常時。

ErrorIdentifier

説明: エラーの原因の ID。チャンネル定義を試みた結果の理由コード (MQRC_* または MQRCCF_*) か、または定義の作成が出口によって禁止されている場合には値 MQRCCF_SUPPRESSED_BY_EXIT が戻ります。
ID: MQIACF_ERROR_IDENTIFIER
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ConnectionName

説明: 接続を確立しようとする相手先の名前。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

AuxErrorDataInt1

説明: 補助エラー・データ。MQCXP の *Feedback* フィールドにある出口から値が戻され、自動定義により禁止されている理由が示されます。
ID: MQIACF_AUX_ERROR_DATA_INT_1.

データ型: MQCFIN
戻り: *ErrorIdentifier* に MQRCCF_SUPPRESSED_BY_EXIT が戻った場合のみ。

チャンネル自動定義 OK

イベント名:	チャンネル自動定義 OK。
MQCFH 中の理由コード:	1219 ページの『2233 (08B9) (RC2233): MQRChannelAutoDefOk』 . 自動チャンネル定義に成功しました。
イベント記述:	チャンネルの自動定義が正常に行われたときに、この状況が検出されます。チャンネルは MCA によって定義されました。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ChannelName

説明: 定義するチャンネルの名前。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ChannelType

説明: 定義するチャンネルのタイプ。
ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQCHT_RECEIVER**
受信側。
MQCHT_SVRCONN
サーバー接続 (クライアントが使用)。
MQCHT_CLUSSDR
クラスター送信側。
戻り: 常時。

ConnectionName

説明:	接続を確立しようとする相手先の名前。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

チャンネルのブロック

イベント名:	チャンネルのブロック。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1328 ページの『2577 (0A11) (RC2577): MQRC_CHANNEL_BLOCKED』</u> チャンネルのブロック。 <u>1329 ページの『2578 (0A12) (RC2578):</u> <u>MQRC_CHANNEL_BLOCKED_WARNING』</u> チャンネルのブロック - 警告モード。
イベント記述:	このイベントは、インバウンド・チャンネル開始の試みがブロックされた場合に発行されます。 MQRC_CHANNEL_BLOCKED_WARNING の場合、チャンネル認証レコードが WARN を YES に設定して定義されているため、このチャンネルには一時的なアクセスが認可されます。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

Reason qualifier

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN

値: **MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_ADDRESS**
チャンネルの IP アドレスが拒否リスト内に存在するため、チャンネルはブロックされました。

MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_USERID
チャンネルの表明ユーザー ID またはマップされるユーザー ID が拒否リスト内に存在するため、チャンネルはブロックされました。

MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_NOACCESS
チャンネルの IP アドレス、TLS ピア名、リモート・キュー・マネージャー名またはマップされるクライアント・ユーザー ID がアクセス権を持っていないため、チャンネルはブロックされました。

戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。

ID: MQCACH_CHANNEL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH

戻り: 理由修飾子が MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_ADDRESS ではない場合。この場合、チャンネル名が明らかになる前にインバウンド接続がブロックされます。

UserIdentifier

説明: ブロックされたユーザー ID。

ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER

データ型: MQCFST

最大長: MQ_USER_ID_LENGTH

戻り: 理由修飾子が MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_USERID の場合のみ

ConnectionName

説明: 接続の確立を試みる相手側のアドレス

ID: MQCACH_CONNECTION_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: 常時

RemoteQMgrName

説明: 接続の確立を試みる相手側キュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: インバウンド・キュー・マネージャー接続の場合のみ。

SSLPeerName

説明: リモート・システムから送信される証明書内の識別名。

ID: MQCACH_SSL_PEER_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_DISTINGUISHED_NAME_LENGTH
戻り: チャンネルが TLS を使用していて、クライアントが匿名接続していない場合は常時。

SSLIssuerName

説明: リモート・システムから送信される証明書内の発行元の名前。
ID: MQCA_SSL_CERT_ISSUER_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_DISTINGUISHED_NAME_LENGTH
戻り: チャンネルが TLS を使用していて、クライアントが匿名接続していない場合は常時。

ClientUserIdentifier

説明: 接続の確立を試みる相手側のクライアント・サイド・ユーザー ID。
ID: MQCACH_CLIENT_USER_ID
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 理由修飾子が MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_ADDRESS ではない場合、インバウンド・クライアント接続のみ。この場合、クライアントのユーザー ID 名が明らかになる前にインバウンド接続がブロックされます。

ApplType

説明: API 呼び出しを実行したアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: インバウンド・クライアント接続の場合のみ。理由修飾子が MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_ADDRESS ではない場合。この場合、アプリケーション名が明らかになる前にインバウンド接続がブロックされます。

ApplName

説明: API 呼び出しを実行したアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: インバウンド・クライアント接続の場合のみ。理由修飾子が MQRQ_CHANNEL_BLOCKED_ADDRESS ではない場合。この場合、アプリケーション名が明らかになる前にインバウンド接続がブロックされます。

チャンネル変換エラー

イベント名: チャンネル変換エラー。

MQCFH 中の理由コード: 1237 ページの『2284 (08EC) (RC2284): MQRC_CHANNEL_CONV_ERROR』.
チャンネル変換エラー。

イベント記述:	チャンネルがデータ変換を実行できず、伝送キューからメッセージを入手する MQGET 呼び出しの結果、データ変換エラーが生じたとき、この条件が検出されます。 <i>ConversionReasonCode</i> によって、障害の理由が識別されます。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ConversionReasonCode

説明:	変換エラーの原因の ID。
ID:	MQIACF_CONV_REASON_CODE
データ型:	MQCFIN
値:	MQRC_CONVERTED_MSG_TOO_BIG (2120, X'848') 変換されるメッセージは、アプリケーション・バッファーにとって大きすぎます。
	MQRC_FORMAT_ERROR (2110, X'83E') メッセージ形式が無効です。
	MQRC_NOT_CONVERTED (2119, X'847') アプリケーション・メッセージ・データが変換されません。
	MQRC_SOURCE_CCSID_ERROR (2111, X'83F') ソース・コード文字セット ID が無効です。
	MQRC_SOURCE_DECIMAL_ENC_ERROR (2113, X'841') メッセージのパック 10 進エンコードが認識されません。
	MQRC_SOURCE_FLOAT_ENC_ERROR (2114, X'842') メッセージの浮動小数点エンコードが認識されません。
	MQRC_SOURCE_INTEGER_ENC_ERROR (2112, X'840') メッセージの整数エンコードが認識されません。
	MQRC_TARGET_CCSID_ERROR (2115, X'843') ターゲット・コード文字セット ID が無効です。
	MQRC_TARGET_DECIMAL_ENC_ERROR (2117, X'845') 受信側が指定したパック 10 進エンコードが認識されません。

MQRC_TARGET_FLOAT_ENC_ERROR (2118、X'846')

受信側が指定した浮動小数点エンコードが認識されません。

MQRC_TARGET_INTEGER_ENC_ERROR (2116、X'844')

受信側が指定した整数エンコードが認識されません。

MQRC_TRUNCATED_MSG_ACCEPTED (2079、X'81F')

切り捨てられたメッセージが戻りました (処理は完了)。

MQRC_TRUNCATED_MSG_FAILED (2080、X'820')

切り捨てられたメッセージが戻りました (処理は未完了)。

戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。
 ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
 データ型: MQCFST
 最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
 戻り: 常時。

Format

説明: フォーマット名。
 ID: MQCACH_FORMAT_NAME
 データ型: MQCFST
 最大長: MQ_FORMAT_LENGTH
 戻り: 常時。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。
 ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME
 データ型: MQCFST
 最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
 戻り: 常時。

ConnectionName

説明: チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の *ConnectionName* フィールドの内容になります。
 ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
 データ型: MQCFST
 最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
 戻り: 常時。

チャンネル非活動化

イベント名: チャンネル非活動化。

MQCFH 中の理由コード:

1241 ページの『2296 (08F8) (RC2296): MQRC_CHANNEL_NOT_ACTIVATED』.
チャンネルを活動化できません。

イベント記述: チャンネルが始動しようとしているため、またはそのパートナーとの接続の確立を再試行しようとしているために、アクティブになるようチャンネルが要求されたとき、この条件が検出されます。しかし、アクティブ・チャンネルの制限数に達しているため、チャンネルをアクティブ状態にすることができません。以下を参照してください。

- **Linux** / **AIX** qm.ini ファイル内の **MaxActiveChannels** パラメーター (AIX および Linux の場合)。
- **Windows** Windows のレジストリーの **MaxActiveChannels** パラメーター。
- **z/OS** z/OS の場合、**ALTER QMGR** コマンドの **ACTCHL** パラメーター。

別のチャンネルがアクティブになり解放されたアクティブ・スロットを取得できるまで待機します。アクティブ・スロットを取得できたときに、Channel Activated イベントが生成されます。

イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ChannelName

説明:	チャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

XmitQName

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCACH_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネル・タイプの場合のみ。

ConnectionName

説明:	チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の ConnectionName フィールドの内容になります。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	総称名を含まないコマンドの場合のみ。

チャンネルが使用不可

イベント名:	チャンネルが使用不可。
MQCFH 中の理由コード:	1317 ページの『2537 (09E9) (RC2537): MQRC_CHANNEL_NOT_AVAILABLE』 . チャンネルが使用不可。
イベント記述:	これは、インバウンド・チャンネル開始の試みが拒否された場合に発行されます。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ReasonQualifier

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN

値: **MQRQ_MAX_ACTIVE_CHANNELS**
 キュー・マネージャーの最大アクティブ・チャンネル・インスタンス (マルチプラットフォームの MaxActiveChannels qm.ini スタンザまたは z/OS の ACTCHL MQSC キーワード) 限度に達したため、チャンネルは使用できませんでした。

MQRQ_MAX_CHANNELS
 キュー・マネージャーの最大チャンネル・インスタンス (Multiplatforms の MaxChannels qm.ini スタンザまたは z/OS の MAXCHL MQSC キーワード) 限度に達したため、チャンネルを使用できませんでした。

MQRQ_SVRCONN_INST_LIMIT
 チャンネルの最大アクティブ・チャンネル・インスタンス (MAXINST) 限度に達したため、チャンネルを使用できませんでした。

MQRQ_CLIENT_INST_LIMIT
 チャンネルのクライアントの最大アクティブ・チャンネル・インスタンス (MAXINSTC) 限度に達したため、チャンネルを使用できませんでした。

戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。

ID: MQCACH_CHANNEL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ConnectionName

説明: 接続の確立を試みる相手側のアドレス。

ID: MQCACH_CONNECTION_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

MaximumActiveChannels

説明: 最大アクティブ・チャンネル数。

ID: MQIA_ACTIVE_CHANNELS

データ型: MQCFIN

戻り: 理由修飾子 MQRQ_MAX_ACTIVE_CHANNELS の場合のみ。

MaximumChannels

説明: 最大チャンネル。

ID: MQIA_MAX_CHANNELS

データ型: MQCFIN

戻り: 理由修飾子 MQRQ_MAX_CHANNELS の場合のみ。

MaximumInstances

説明:	最大チャンネル・インスタンス。
ID:	MQIACH_MAX_INSTANCES
データ型:	MQCFIN
戻り:	理由修飾子 MQRQ_SVRCONN_INST_LIMIT の場合のみ。

MaximumClientInstances

説明:	クライアントあたりの最大チャンネル・インスタンス。
ID:	MQIACH_MAX_INSTS_PER_CLIENT
データ型:	MQCFIN
戻り:	理由修飾子 MQRQ_CLIENT_INST_LIMIT の場合のみ。

チャンネル SSL エラー

イベント名:	チャンネル SSL エラー。
MQCFH 中の理由コード:	1268 ページの『2371 (0943) (RC2371): MQRChannel SSL Error』 . チャンネル SSL エラー。
イベント記述:	この状態は、Transport Layer Security (TLS) を使用しているチャンネルが接続を確立できなかったときに検出されます。 <i>ReasonQualifier</i> はエラーの性質を示します。
イベント・タイプ:	SSL。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ReasonQualifier

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN

値: **MQRQ_SSL_HANDSHAKE_ERROR**
 TLS ハンドシェイク中に生じたキー交換/認証障害。

MQRQ_SSL_CIPHER_SPEC_ERROR
 このエラーは、次のいずれかを意味する場合があります。

- TLS クライアント CipherSpec が TLS サーバー・チャンネル定義上のものと一致しません。
- 無効な CipherSpec が指定されました。
- CipherSpec が、TLS チャンネルの一方の端でしか指定されていません。

MQRQ_SSL_PEER_NAME_ERROR
 TLS チャンネルの一方の終端によって送信された証明書内の識別名が、TLS チャンネルの他方の終端にあるチャンネル定義の末尾にある対等名と一致しません。

MQRQ_SSL_CLIENT_AUTH_ERROR
 TLS サーバー・チャンネル定義では、SSLCAUTH(REQUIRED) または SSLPEER にブランクでない値を指定しましたが、TLS クライアントは証明書を提供しませんでした。

戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。

ID: MQCACH_CHANNEL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH

戻り: チャンネルの開始プロセスがあまり進んでいない場合は、*ChannelName* を使用できないことがあります。この場合、チャンネル名は返されません。それ以外は常に戻されます。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。

ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME

データ型: MQCFST

戻り: 送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

ConnectionName

説明: チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の *ConnectionName* フィールドの内容になります。

ID: MQCACH_CONNECTION_NAME

データ型: MQCFST



最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: チャンネルの開始プロセスがあまり進んでいない場合、*ConnectionName* が使用可能にならないことがあります。この場合、接続名は戻されません。それ以外は常に戻されます。

SSLHandshakeStage

説明:	エラーの原因となっている TLS 関数呼び出しに関する情報。z/OS の場合、関数名の詳細は、「 System Secure Sockets Layer Programming Guide and Reference 」(SC24-5877)に記載されています。
ID:	MQCACH_SSL_HANDSHAKE_STAGE
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_SSL_HANDSHAKE_STAGE_LENGTH
戻り:	このフィールドは、 <i>ReasonQualifier</i> が MQRQ_SSL_HANDSHAKE_ERROR に設定される場合にのみ表示されます。

SSLReturnCode

説明:	失敗した TLS 呼び出しからの数値の戻りコード。 特定プラットフォームの TLS 戻りコードまたは TLS 戻りコードの詳細を調べる方法は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> z/OS については、1122 ページの『z/OS の場合の Transport Layer Security (TLS) の戻りコード』を参照してください。 Multiplatforms の場合は、Transport Layer Security (TLS) の戻りコードを参照してください。
ID:	MQIACH_SSL_RETURN_CODE
データ型:	MQCFIN
戻り:	このフィールドは、 <i>ReasonQualifier</i> が MQRQ_SSL_HANDSHAKE_ERROR に設定される場合にのみ表示されます。

SSLPeerName

説明:	リモート・システムから送信される証明書内の識別名。
ID:	MQCACH_SSL_PEER_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_DISTINGUISHED_NAME_LENGTH。
戻り:	このフィールドは、 <i>ReasonQualifier</i> が MQRQ_SSL_PEER_NAME_ERROR に設定される場合にのみ表示され、この理由修飾子について常に存在するわけではありません。

チャンネル SSL 警告

イベント名:	チャンネル SSL 警告。
MQCFH 中の理由コード:	1323 ページの『2552 (09F8) (RC2552): MQRC_CHANNEL_SSL_WARNING』 . チャンネル SSL 警告。
イベント記述:	この状態は、Transport Layer Security (TLS) を使用するチャンネルで、TLS 接続の確立を失敗させる原因とはならない問題が発生した場合に検出されます。 <i>ReasonQualifier</i> によってイベントの性質が示されます。
イベント・タイプ:	SSL。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ReasonQualifier

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN
値:	MQRQ_SSL_UNKNOWN_REVOCATION OCSP 応答側が、不明という応答を返しました。IBM MQ は警告を出すように構成されていますが、接続は続行できます。
戻り:	常時。

ChannelName

説明:	チャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	チャンネルの開始プロセスがあまり進んでいない場合は、 <i>ChannelName</i> を使用できないことがあります。この場合、チャンネル名は返されません。それ以外は常に返されます。

XmitQName

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCACH_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST
戻り:	送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

ConnectionName

説明:	チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の <i>ConnectionName</i> フィールドの内容になります。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	チャンネルの開始プロセスがあまり進んでいない場合、 <i>ConnectionName</i> が使用可能にならないことがあります。この場合、接続名は返されません。それ以外は常に返されます。

チャンネル開始

イベント名:	チャンネル開始。
MQCFH 中の理由コード:	1237 ページの『2282 (08EA) (RC2282): MQRC_CHANNEL_STARTED』 . チャンネルが開始されました。
イベント記述:	オペレーターがチャンネル開始コマンドを実行した場合、またはチャンネルのインスタンスが正常に確立されたかのいずれかの場合です。初期データ折衝が完了しているときに、メッセージ転送が続行できるよう必要に応じて再同期が実行された場合、この条件が検出されます。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。クライアント接続では、このイベントは生成されません。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ChannelName

説明:	チャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

XmitQName

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCACH_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

ConnectionName

説明:	チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の <i>ConnectionName</i> フィールドの内容になります。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST

最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: 総称名を含まないコマンドの場合のみ。

チャンネル停止

イベント名:	チャンネル停止。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1237</u> ページの『 <u>2283 (08EB) (RC2283): MQRC_CHANNEL_STOPPED</u> 』。 チャンネルが停止されました。
イベント記述:	これは、チャンネル・インスタンスが停止したときに発行されます。これが発行されるのは、チャンネル・インスタンスが以前にチャンネル開始イベントを発行した場合にのみです。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。クライアント接続では、このイベントは生成されません。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: 理由コードを修飾する ID。
ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN
値: **MQRQ_CHANNEL_STOPPED_OK**
チャンネルは、0 の戻りコードか警告の戻りコードのいずれかを伴ってクローズされました。
MQRQ_CHANNEL_STOPPED_ERROR
チャンネルはクローズされましたが、エラーがレポートされ、チャンネルは停止状態または再試行状態ではありません。
MQRQ_CHANNEL_STOPPED_RETRY
チャンネルはクローズされ、再試行状態になっています。
MQRQ_CHANNEL_STOPPED_DISABLED
チャンネルはクローズされ、停止状態になっています。
戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST

最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ErrorIdentifier

説明: エラーの原因の ID。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このコードによってエラーが識別されます。チャンネル停止障害が原因でイベント・メッセージが発行された場合には、次の各フィールドが設定されます。

1. *ReasonQualifier*。値として MQRQ_CHANNEL_STOPPED_ERROR が格納されます。
2. *ErrorIdentifier*。エラーの内容を説明するエラー・メッセージのコード番号が格納されます。
3. *AuxErrorDataInt1*。エラー・メッセージ整数挿入 1 が格納されます。
4. *AuxErrorDataInt2*。エラー・メッセージ整数挿入 2 が格納されます。
5. *AuxErrorDataStr1*。エラー・メッセージ・ストリング挿入 1 が格納されます。
6. *AuxErrorDataStr2*。エラー・メッセージ・ストリング挿入 2 が格納されます。
7. *AuxErrorDataStr3*。エラー・メッセージ・ストリング挿入 3 が格納されます。

エラー・メッセージ挿入の意味は、エラー・メッセージのコード番号によって異なります。特定のプラットフォームについてエラー・メッセージのコード番号および挿入の詳細を調べる方法は次のとおりです。

- ▶ **z/OS** z/OS の場合は、[分散キューイング・メッセージ・コード](#)を参照してください。
- ▶ **Multi** Multiplatforms の場合は、16 進表記で表示された *ErrorIdentifier* の末尾 4 桁が、エラー・メッセージの 10 進コード番号を示します。

例えば、*ErrorIdentifier* に X'xxxxyyyy' という値がある場合、そのエラーを説明するエラー・メッセージのメッセージ・コードは AMQyyyy です。これらのエラー・メッセージの説明については、[235 ページの『AMQ メッセージ \(Multiplatforms\)』](#)を参照してください。

ID: MQIACF_ERROR_IDENTIFIER
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

AuxErrorDataInt1

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの最初の整数。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このストリングは、エラーを規定する最初の整数パラメータです。この情報は、IBM サービス担当員のための情報です。このイベント・メッセージについて IBM に問題報告書を送信するときは、この情報を問題報告書に含めてください。

ID: MQIACF_AUX_ERROR_DATA_INT_1.
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

AuxErrorDataInt2

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの 2 番目の整数。エラーのためにチャンネルが停止した場合、この整数は、エラーを規定する 2 番目の整数パラメータです。この情報は、IBM サービス担当員のための情報です。このイベント・メッセージについて IBM に問題報告書を送信するときは、この情報を問題報告書に含めてください。

ID: MQIACF_AUX_ERROR_DATA_INT_2.

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

AuxErrorDataStr1

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの最初のストリング。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このストリングは、エラーを規定する最初のストリング・パラメータです。この情報は、IBM サービス担当員のための情報です。このイベント・メッセージについて IBM に問題報告書を送信するときは、この情報を問題報告書に含めてください。

ID: MQCACF_AUX_ERROR_DATA_STR_1.

データ型: MQCFST

戻り: 常時。

AuxErrorDataStr2

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの 2 番目のストリング。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このストリングは、エラーを規定する 2 番目のストリング・パラメータです。この情報は、IBM サービス担当員のための情報です。このイベント・メッセージについて IBM に問題報告書を送信するときは、この情報を問題報告書に含めてください。

ID: MQCACF_AUX_ERROR_DATA_STR_2.

データ型: MQCFST

戻り: 常時。

AuxErrorDataStr3

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの 3 番目のストリング。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このストリングは、エラーを規定する 3 番目のストリング・パラメータです。この情報は、IBM サービス担当員のための情報です。このイベント・メッセージについて IBM に問題報告書を送信するときは、この情報を問題報告書に含めてください。

ID: MQCACF_AUX_ERROR_DATA_STR_3.

データ型: MQCFST

戻り: 常時。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。

ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH.

戻り: 送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

ConnectionName

説明: チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の *ConnectionName* フィールドの内容になります。

ID: MQCACH_CONNECTION_NAME

データ型: MQCFST または MQCFSL。

最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: 総称名を含まないコマンドの場合のみ。

ユーザーによるチャンネル停止

イベント名: ユーザーによるチャンネル停止。

MQCFH 中の理由コード: 1236 ページの『2279 (08E7) (RC2279): MQRC CHANNEL STOPPED BY USER』.
ユーザーによりチャンネルが停止されました。

イベント記述: これは、ユーザーが STOP CHL コマンドを発行したときに発行されます。
ReasonQualifier によって停止の理由が識別されます。

イベント・タイプ: チャンネル。

プラットフォーム: すべて。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: 理由コードを修飾する ID。

ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER

データ型: MQCFIN

値: **MQRQ_CHANNEL_STOPPED_DISABLED**
チャンネルはクローズされ、停止状態になっています。

戻り: 常時。

ChannelName

説明: チャンネル名。

ID: MQCACH_CHANNEL_NAME

データ型: MQCFST
 最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
 戻り: 常時。

コマンド

イベント名:	コマンド。
MQCFH 中の理由コード:	1279 ページの『2412 (096C) (RC2412): MQRC_COMMAND_MQSC』. MQSC コマンドが正常に発行されました。または、 1280 ページの『2413 (096D) (RC2413): MQRC_COMMAND_PCF』. PCF コマンドが正常に発行されました。
イベント記述:	コマンドが正常に発行されました。
イベント・タイプ:	コマンド。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.COMMAND.EVENT.

イベント・データ

イベント・データは、*CommandContext* と *CommandData* の 2 つのグループから成ります。

CommandContext

説明: 発行されたコマンドのコンテキストに関連する要素を含む PCF グループ。

ID: MQGACF_COMMAND_CONTEXT.

データ型: MQCFGR

グループ内の PCF 要素:

- *EventUserId*
- *EventSecurityId*
- *EventOrigin*
- *EventQMgr*
- *EventAccountingToken*
- *EventIdentityData*
- *EventApplType*
- *EventApplName*
- *EventApplOrigin*
- コマンド

戻り: 常時。

EventUserId

説明: コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (*UserIdentifier*) でもあります。)

ID: MQCACF_EVENT_USER_ID

データ型: MQCFST

最大長: MQ_USER_ID_LENGTH

戻り: 常時。

Windows *EventSecurityId*

説明: イベントを生成したコマンドまたは呼び出しを発行したセキュリティー ID (ユーザー ID の拡張番号)。
ID: MQBACF_EVENT_SECURITY_ID.
データ型: MQCFBS
最大長: MQ_SECURITY_ID_LENGTH
戻り: Windows のみ。

EventOrigin

説明: イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID: MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型: MQCFIN
値: **MQEVO_CONSOLE**
コンソール・コマンド。
MQEVO_INIT
初期設定入力データ・セット・コマンド。
MQEVO_MSG
SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。
MQEVO_INTERNAL
キュー・マネージャーによって直接。
MQEVO_OTHER
上記のいずれでもない。
戻り: 常時。

EventQMgr

説明: コマンドが入力されたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります)
ID: MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

EventAccountingToken

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。
ID: MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型: MQCFBS
最大長: MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventIdentityData

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。
ID:	MQIACF_EVENT_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

Command

説明:	コマンド・コード。
ID:	MQIACF_COMMAND
データ型:	MQCFIN
値:	<ul style="list-style-type: none">• イベントが PCF コマンドに関連している場合、値はコマンド・メッセージの MQCFH 構造にある Command パラメーターの値です。• イベントが MQSC コマンドに関連している場合、値は以下のいずれかです。

MQCMD_ARCHIVE_LOG
ARCHIVE LOG

MQCMD_BACKUP_CF_STRUC
BACKUP CFSTRUCT

MQCMD_CHANGE_AUTH_INFO
ALTER AUTHINFO

MQCMD_CHANGE_BUFFER_POOL
ALTER BUFFPOOL

MQCMD_CHANGE_CF_STRUC
ALTER CFSTRUCT

MQCMD_CHANGE_CHANNEL
ALTER CHANNEL

MQCMD_CHANGE_COMM_INFO
ALTER COMMINFO

MQCMD_CHANGE_LISTENER
ALTER LISTENER

MQCMD_CHANGE_NAMELIST
ALTER NAMELIST

MQCMD_CHANGE_PAGE_SET
ALTER PSID

MQCMD_CHANGE_PROCESS
ALTER PROCESS

MQCMD_CHANGE_Q
ALTER QLOCAL/QREMOTE/QALIAS/QMODEL

MQCMD_CHANGE_Q_MGR
ALTER QMGR、 DEFINE MAXSMSGS

MQCMD_CHANGE_SECURITY
ALTER SECURITY

MQCMD_CHANGE_SERVICE
ALTER SERVICE

MQCMD_CHANGE_STG_CLASS
ALTER STGCLASS

MQCMD_CHANGE_SUBSCRIPTION
ALTER SUBSCRIPTION

MQCMD_CHANGE_TOPIC
ALTER TOPIC

MQCMD_CHANGE_TRACE
ALTER TRACE

MQCMD_CLEAR_Q
CLEAR QLOCAL

MQCMD_CLEAR_TOPIC_STRING
CLEAR TOPICSTR

MQCMD_CREATE_AUTH_INFO
DEFINE AUTHINFO

MQCMD_CREATE_BUFFER_POOL
DEFINE BUFFPOOL

MQCMD_CREATE_CF_STRUC
DEFINE CFSTRUCT

MQCMD_CREATE_CHANNEL
DEFINE CHANNEL

MQCMD_CREATE_COMM_INFO
DEFINE COMMINFO

MQCMD_CREATE_LISTENER
DEFINE LISTENER

MQCMD_CREATE_NAMELIST
DEFINE NAMELIST

MQCMD_CREATE_PAGE_SET
DEFINE PSID

MQCMD_CREATE_PROCESS
DEFINE PROCESS

MQCMD_CREATE_Q
DEFINE QLOCAL/QREMOTE/QALIAS/QMODEL

MQCMD_CREATE_SERVICE
DEFINE SERVICE

MQCMD_CREATE_STG_CLASS
DEFINE STGCLASS

MQCMD_CREATE_SUBSCRIPTION
DEFINE SUB

MQCMD_CREATE_TOPIC
DEFINE TOPIC

MQCMD_DELETE_AUTH_INFO
DELETE AUTHINFO

MQCMD_DELETE_CF_STRUC
DELETE CFSTRUCT

MQCMD_DELETE_CHANNEL
DELETE CHANNEL

MQCMD_DELETE_COMM_INFO
DELETE COMMINFO

MQCMD_DELETE_LISTENER
DELETE LISTENER

MQCMD_DELETE_NAMELIST
DELETE NAMELIST

MQCMD_DELETE_PAGE_SET
DELETE PSID

MQCMD_DELETE_PROCESS
DELETE PROCESS

MQCMD_DELETE_Q
DELETE QLOCAL/QREMOTE/QALIAS/QMODEL

MQCMD_DELETE_SERVICE
DELETE SERVICE

MQCMD_DELETE_STG_CLASS
DELETE STGCLASS

MQCMD_DELETE_SUBSCRIPTION
DELETE SUBSCRIPTION

MQCMD_DELETE_TOPIC
DELETE TOPIC

MQCMD_INQUIRE_ARCHIVE
DISPLAY ARCHIVE

MQCMD_INQUIRE_AUTH_INFO
DISPLAY AUTHINFO

MQCMD_INQUIRE_CF_STRUC
DISPLAY CFSTRUCT

MQCMD_INQUIRE_CF_STRUC_STATUS
DISPLAY CFSTATUS

MQCMD_INQUIRE_CHANNEL
DISPLAY CHANNEL

MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_INIT
DISPLAY CHINIT

MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_STATUS
DISPLAY CHSTATUS

MQCMD_INQUIRE_CHLAUTH_RECS
DISPLAY CHLAUTH

MQCMD_INQUIRE_CLUSTER_Q_MGR
DISPLAY CLUSQMGR

MQCMD_INQUIRE_CMD_SERVER
DISPLAY CMDSERV

MQCMD_INQUIRE_COMM_INFO
DISPLAY COMMINFO

MQCMD_INQUIRE_CONNECTION
DISPLAY CONN

MQCMD_INQUIRE_LISTENER
DISPLAY LISTENER

MQCMD_INQUIRE_LOG
DISPLAY LOG

MQCMD_INQUIRE_NAMELIST
DISPLAY NAMELIST

MQCMD_INQUIRE_PROCESS
DISPLAY PROCESS

MQCMD_INQUIRE_PUBSUB_STATUS
DISPLAY PUBSUB

MQCMD_INQUIRE_Q
DISPLAY QUEUE

MQCMD_INQUIRE_Q_MGR
DISPLAY QMGR、 DISPLAY MAXSMSGS

MQCMD_INQUIRE_QSG
DISPLAY GROUP

MQCMD_INQUIRE_Q_STATUS
DISPLAY QSTATUS

MQCMD_INQUIRE_SECURITY
DISPLAY SECURITY

MQCMD_INQUIRE_SERVICE
DISPLAY SERVICE

MQCMD_INQUIRE_STG_CLASS
DISPLAY STGCLASS

MQCMD_INQUIRE_SUBSCRIPTION
DISPLAY SUB

MQCMD_INQUIRE_SUB_STATUS
DISPLAY SBSTATUS

MQCMD_INQUIRE_SYSTEM
DISPLAY SYSTEM

MQCMD_INQUIRE_THREAD
DISPLAY THREAD

MQCMD_INQUIRE_TOPIC
DISPLAY TOPIC

MQCMD_INQUIRE_TOPIC_STATUS
DISPLAY TPSTATUS

MQCMD_INQUIRE_TRACE
DISPLAY TRACE

MQCMD_INQUIRE_USAGE
DISPLAY USAGE

MQCMD_MOVE_Q
MOVE QLOCAL

MQCMD_PING_CHANNEL
PING CHANNEL

MQCMD_RECOVER_BSDS
RECOVER BSDS

MQCMD_RECOVER_CF_STRUC
RECOVER CFSTRUCT

MQCMD_REFRESH_CLUSTER
REFRESH CLUSTER

MQCMD_REFRESH_Q_MGR
REFRESH QMGR

MQCMD_REFRESH_SECURITY
REFRESH SECURITY

MQCMD_RESET_CHANNEL
RESET CHANNEL

MQCMD_RESET_CLUSTER
RESET CLUSTER

MQCMD_RESET_Q_MGR
RESET QMGR

MQCMD_RESET_Q_STATS
RESET QSTATS

MQCMD_RESET_TPIPE
RESET TPIPE

MQCMD_RESOLVE_CHANNEL
RESOLVE CHANNEL

MQCMD_RESOLVE_INDOUBT
RESOLVE INDOUBT

MQCMD_RESUME_Q_MGR
RESUME QMGR (CLUSTER/CLUSNL 以外)

MQCMD_RESUME_Q_MGR_CLUSTER
RESUME QMGR CLUSTER/CLUSNL

MQCMD_REVERIFY_SECURITY
REVERIFY SECURITY

MQCMD_SET_ARCHIVE
SET ARCHIVE

MQCMD_SET_CHLAUTH_REC
SET CHLAUTH

MQCMD_SET_LOG
SET LOG

MQCMD_SET_SYSTEM
SET SYSTEM

MQCMD_START_CHANNEL
START CHANNEL

MQCMD_START_CHANNEL_INIT
START CHINIT

MQCMD_START_CHANNEL_LISTENER
START LISTENER

MQCMD_START_CMD_SERVER
START CMDSERV

MQCMD_START_SERVICE
START SERVICE

MQCMD_START_TRACE
START TRACE

MQCMD_STOP_CHANNEL
STOP CHANNEL

MQCMD_STOP_CHANNEL_INIT
STOP CHINIT

MQCMD_STOP_CHANNEL_LISTENER
STOP LISTENER

MQCMD_STOP_CMD_SERVER
STOP CMDSERV

MQCMD_STOP_CONNECTION
STOP CONN

MQCMD_STOP_SERVICE
STOP SERVICE

MQCMD_STOP_TRACE
STOP TRACE

MQCMD_SUSPEND_Q_MGR
SUSPEND QMGR (CLUSTER/CLUSNL 以外)

MQCMD_SUSPEND_Q_MGR_CLUSTER
SUSPEND QMGR CLUSTER/CLUSNL

戻り: 常時。

CommandData

説明: コマンド・データに関連する要素を含む PCF グループ。

ID: MQGACF_COMMAND_DATA

データ型: MQCFGR

グループ内の PCF 要素:

- MQSC コマンド用に生成された場合、このグループには PCF 要素 *CommandMQSC* のみが含まれます。
- PCF コマンド用に生成された場合、このグループには、コマンド・メッセージにあるとおりに、PCF コマンドを構成する PCF 要素が含まれます。

戻り: 常時。

CommandMQSC

説明: MQSC コマンドのテキスト。

ID: MQCACF_COMMAND_MQSC

データ型: MQCFST

最大長: MQ_COMMAND_MQSC_LENGTH

戻り: メッセージ記述子にある Reason が MQRC_COMMAND_MQSC である場合のみ。

オブジェクトの作成

イベント名: オブジェクトの作成。

MQCFH 中の理由コード: [1267 ページの『2367 \(093F\) \(RC2367\): MQRC_CONFIG_CREATE_OBJECT』](#).
新規オブジェクトが作成されました。

イベント記述: DEFINE または DEFINE REPLACE コマンドが発行され、新規オブジェクトが正常に作成されました。

イベント・タイプ: 構成。

プラットフォーム: すべて。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

イベント・データ

EventUserId

説明: コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)

ID: MQCACF_EVENT_USER_ID

データ型: MQCFST

最大長: MQ_USER_ID_LENGTH

戻り: 常時。

EventOrigin

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN
値:	MQEVO_CONSOLE コンソール・コマンド。 MQEVO_INIT 初期設定入力データ・セット・コマンド。 MQEVO_INTERNAL キュー・マネージャーによって直接。 MQEVO_MQSET MQSET 呼び出し。 MQEVO_MSG SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。 MQEVO_OTHER 上記のいずれでもない。
戻り:	常時。

EventQMGr

説明:	コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

EventAccountingToken

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントング・トークン (AccountingToken)。
ID:	MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型:	MQCFBS
最大長:	MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。

ID: MQIACF_EVENT_APPL_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明: オブジェクト・タイプ:

ID: MQIACF_OBJECT_TYPE

データ型: MQCFIN

値:

MQOT_CHANNEL
チャンネル。

MQOT_CHLAUTH
チャンネル認証レコード

MQOT_NAMELIST
名前リスト。

MQOT_NONE
オブジェクトなし。

MQOT_PROCESS
プロセス。

MQOT_Q
キュー。

MQOT_STORAGE_CLASS
ストレージ・クラス。

MQOT_AUTH_INFO
認証情報

MQOT_CF_STRUC
CF 構造。

MQOT_TOPIC
トピック。

MQOT_COMM_INFO
通信情報。

MQOT_LISTENER
チャンネル・リスナー。

戻り: 常時。

ObjectName

説明: オブジェクト名:

ID: ID はオブジェクト・タイプに従ったものになります。

- MQCACH_CHANNEL_NAME
- MQCA_NAMELIST_NAME
- MQCA_PROCESS_NAME
- MQCA_Q_NAME
- MQCA_STORAGE_CLASS
- MQCA_AUTH_INFO_NAME
- MQCA_CF_STRUC_NAME
- MQCA_TOPIC_NAME
- MQCA_COMM_INFO_NAME
- MQCACH_LISTENER_NAME

注: MQCACH_CHANNEL_NAME は、チャンネル認証にも使用できます。

データ型: MQCFST

最大長: MQ_OBJECT_NAME_LENGTH

戻り: 常時

Disposition

説明:	オブジェクトの属性指定。
ID:	MQIA_QSG_DISP
データ型:	MQCFIN
値:	MQQSGD_Q_MGR オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあります。 MQQSGD_SHARED オブジェクトは共有リポジトリ内にあり、メッセージがカップリング・ファシリティで共有されます。 MQQSGD_GROUP オブジェクトは共有リポジトリにあります。 MQQSGD_COPY オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあり、GROUP オブジェクトのローカル・コピーです。
戻り:	常時。ただし CF 構造オブジェクトの場合を除く。

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください

デフォルト伝送キュー・タイプ・エラー

イベント名:	デフォルト伝送キュー・タイプ・エラー。
MQCFH 中の理由コード:	1210 ページの『2198 (0896) (RC2198): MQRC_DEF_XMIT_Q_TYPE_ERROR』 . デフォルト伝送キューはローカルではありません。
イベント記述:	リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義が指定されたか、キュー・マネージャーの別名が解決される予定でしたが、いずれの場合でもローカル定義内の XmitQName 属性がブランクです。 宛先キュー・マネージャーと同じ名前でも伝送キューが定義されていないので、ローカル・キュー・マネージャーは、デフォルト伝送キューの使用を試みました。ただし、 DefXmitQName キュー・マネージャー属性で定義されたキューが存在しますが、ローカル・キューが存在しません。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。

ID: MQCA_Q_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。

戻り: 常時。

XmitQName

説明: デフォルト伝送キュー名。

ID: MQCA_XMIT_Q_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。

戻り: 常時。

QType

説明: デフォルト伝送キューのタイプ。

ID: MQIA_Q_TYPE

データ型: MQCFIN

値: **MQQT_ALIAS**
別名キュー定義。

MQQT_REMOTE
リモート・キューのローカル定義。

戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。

ID: MQIA_APPL_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。

ID: MQCACF_APPL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。

ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

関連タスク

[システム・オブジェクトの定義](#)

関連資料

[IBM MQ に用意されているサンプル定義](#)

[DefXmitQName \(MQCHAR48\)](#)

[DefXmitQName \(48 バイトの文字ストリング\)](#)

デフォルト伝送キュー使用エラー

イベント名:	デフォルト伝送キュー使用エラー。
MQCFH 中の理由コード:	1211 ページの『 2199 (0897) (RC2199): MQRC_DEF_XMIT_Q_USAGE_ERROR 』。デフォルト伝送キュー使用エラー。
イベント記述:	<p>リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義が指定されたか、キュー・マネージャーの別名が解決される予定でしたが、いずれの場合でもローカル定義内の XmitQName 属性がブランクです。</p> <p>宛先キュー・マネージャーと同じ名前で伝送キューが定義されていないので、ローカル・キュー・マネージャーは、デフォルト伝送キューの使用を試みしました。ただし、DefXmitQName キュー・マネージャー属性で定義されたキューには、MQUS_TRANSMISSION の Usage 属性はありません。</p>
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

XmitQName

説明: デフォルト伝送キュー名。
ID: MQCA_XMIT_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

関連タスク

[システム・オブジェクトの定義](#)

関連資料

[IBM MQ に用意されているサンプル定義](#)

[DefXmitQName \(MQCHAR48\)](#)

[DefXmitQName \(48 バイトの文字ストリング\)](#)

Delete Authority Record

イベント名:	Delete Authority Record
MQCFH 中の理由コード:	1267 ページの『2369 (0941) (RC2369): MQRC_CONFIG_DELETE_OBJECT』 . オブジェクトが削除されました。
イベント記述:	Delete Authority Record コマンドが発行されたか、オブジェクトが削除され、これにより権限レコードが正常に削除されました。
イベント・タイプ:	構成
プラットフォーム:	すべて、ただし z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

イベント・データ

EventQMGr

説明: コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。つまり、コマンドを処理してイベントを生成するキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。

ID: MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

EventUserId

説明: コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。
これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使われるのと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージのメッセージ記述子からのユーザー ID (**UserIdentifier**) でもあります。

ID: MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 常時。

EventOrigin

説明: イベントを引き起こしたアクションの発信元。

ID: MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型: MQCFIN
値: **MQEVO_CONSOLE**
コンソール・コマンド (`runmqsc` または `setmqaut`)
MQEVO_INTERNAL
キュー・マネージャーによって直接
MQEVO_MSG
SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE でのコマンド・メッセージ

戻り: 常時

EventAccountingToken

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアカウントिंग・トークン (**AccountingToken**)。

ID: MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型: MQCFBS
最大長: MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション識別データ (**ApplIdentityData**)。

ID: MQMQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY
データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH
戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション・タイプ (**PutApplType**)。
ID: MQIACF_EVENT_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
値:
戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション名 (**PutApplName**)。
ID: MQCACF_EVENT_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション発信元データ (**ApplOriginData**)。
ID: MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH
戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明: オブジェクト・タイプ
ID: MQIACF_OBJECT_TYPE
データ型: MQCFIN
値: MQOT_AUTH_REC
戻り: 常時

ProfileName

説明: オブジェクトまたは総称プロファイル名
ID: MQCACF_AUTH_PROFILE_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_AUTH_PROFILE_NAME_LENGTH
戻り: 常時

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

オブジェクトの削除

イベント名:	オブジェクトの削除。
MQCFH 中の理由コード:	1267 ページの『2369 (0941) (RC2369): MQRC CONFIG_DELETE_OBJECT』 . オブジェクトが削除されました。
イベント記述:	DELETE コマンドまたは MQCLOSE 呼び出しが発行され、オブジェクトが正常に削除されました。
イベント・タイプ:	構成。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

イベント・データ

EventUserId

説明:	コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_USER_ID_LENGTH
戻り:	常時。

EventOrigin

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN
値:	MQEVO_CONSOLE コンソール・コマンド。 MQEVO_INIT 初期設定入力データ・セット・コマンド。 MQEVO_INTERNAL キュー・マネージャーによって直接。 MQEVO_MSG SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。 MQEVO_OTHER 上記のいずれでもない。
戻り:	常時。

EventQMGr

説明: コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)

ID: MQCACF_EVENT_Q_MGR

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

EventAccountingToken

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。

ID: MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN

データ型: MQCFBS

最大長: MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。

ID: MQIACF_EVENT_APPL_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH
戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明: オブジェクト・タイプ:
ID: MQIACF_OBJECT_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQOT_CHANNEL**
チャンネル。
MQOT_CHLAUTH
チャンネル認証レコード
MQOT_NAMELIST
名前リスト。
MQOT_NONE
オブジェクトなし。
MQOT_PROCESS
プロセス。
MQOT_Q
キュー。
MQOT_STORAGE_CLASS
ストレージ・クラス。
MQOT_AUTH_INFO
認証情報
MQOT_CF_STRUC
CF 構造。
MQOT_TOPIC
トピック。
MQOT_COMM_INFO
通信情報。
MQOT_LISTENER
チャンネル・リスナー。
戻り: 常時。

ObjectName

説明: オブジェクト名。

ID:	ID はオブジェクト・タイプに従ったものになります。 <ul style="list-style-type: none"> • MQCACH_CHANNEL_NAME • MQCA_NAMELIST_NAME • MQCA_PROCESS_NAME • MQCA_Q_NAME • MQCA_STORAGE_CLASS • MQCA_AUTH_INFO_NAME • MQCA_CF_STRUC_NAME • MQCA_TOPIC_NAME • MQCA_COMM_INFO_NAME • MQCACH_LISTENER_NAME 注: MQCACH_CHANNEL_NAME は、チャンネル認証にも使用できます。
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_OBJECT_NAME_LENGTH
戻り:	常時

Disposition

説明:	オブジェクトの属性指定。
ID:	MQIA_QSG_DISP
データ型:	MQCFIN
値:	MQQSGD_Q_MGR オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあります。
	MQQSGD_SHARED オブジェクトは共有リポジトリ内にあり、メッセージがカップリング・ファシリティで共有されます。
	MQQSGD_GROUP オブジェクトは共有リポジトリにあります。
	MQQSGD_COPY オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあり、GROUP オブジェクトのローカル・コピーです。
戻り:	常時。ただし CF 構造オブジェクトの場合を除く。

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメータ構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

読み取り禁止

イベント名:	読み取り禁止。
MQCFH 中の理由コード:	1140 ページの『2016 (07E0) (RC2016): MQRC_GET_INHIBITED』 . このキューに関して読み取りが禁止されています。
イベント記述:	キューに対する MQGET 呼び出し (InhibitGet キュー属性については InhibitGet (MQLONG) を参照)、またはこのキューが解決されるキューに対する MQGET 呼び出しが現在禁止されています。

イベント・タイプ:	禁止。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

ApplType

説明:	読み取りを発行したアプリケーションのタイプ。
ID:	MQIA_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

ApplName

説明:	読み取りを発行したアプリケーションの名前。
ID:	MQCACF_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

関連タスク

[キュー属性の設定](#)

関連資料

IBM i InhibitGet (10 桁の符号付き整数)

ロガー

イベント名:	ロガー。
MQCFH 中の理由コード:	1279 ページの『2411 (096B) (RC2411): MQRC_LOGGER_STATUS』 . 新しいログ・エクステン트가開始されました。
イベント記述:	キュー・マネージャーが新しいログ・エクステン트 IBM i (または IBM i の場合は新しいジャーナル・レシーバー) に対して書き込みを開始したときに発行されます。
イベント・タイプ:	ロガー。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.LOGGER.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

CurrentLogExtent

説明:	イベント・メッセージが生成されたときのログ・エクステン트名 IBM i (または、IBM i の場合は書き込みが行われているジャーナル・レシーバー)。
ID:	MQCACF_CURRENT_LOG_EXTENT_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

RestartRecoveryLogExtent

説明:	最も古いログ・エクステンツの名前 IBM i (または、IBM i の場合は最も古いジャーナル・レシーバー)。再始動リカバリーを実行するためにキュー・マネージャーが必要となります。
ID:	MQCACF_RESTART_LOG_EXTENT_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

MediaRecoveryLogExtent

説明:	最も古いログ・エクステンツの名前 IBM i (または、IBM i の場合は最も古いジャーナル・レシーバー)。メディア・リカバリーを実行するためにキュー・マネージャーが必要となります。
ID:	MQCACF_MEDIA_LOG_EXTENT_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

LogPath

説明:	キュー・マネージャーによってログ・ファイルが作成されるディレクトリー。
ID:	MQCACF_LOG_PATH
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_LOG_PATH_LENGTH
戻り:	常時。

非許可 (タイプ 1)

イベント名:	非許可 (タイプ 1)。
MQCFH 中の理由コード:	1148 ページの『2035 (07F3) (RC2035): MQRC_NOT_AUTHORIZED』 . アクセスが許可されません。
イベント記述:	MQCONN 呼び出しましたまたはシステム接続呼び出しで、ユーザーはキュー・マネージャーへの接続を許可されていません。ReasonQualifier はエラーの性質を示します。
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMGrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: タイプ 1 権限イベントの ID。
ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN
値: **MQRQ_CONN_NOT_AUTHORIZED**
接続が許可されません。
MQRQ_SYS_CONN_NOT_AUTHORIZED
システム権限がありません。
MQRQ_CSP_NOT_AUTHORIZED
MQCSP 認証資格情報が許可されていません。
戻り: 常時。

UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。
ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 常時。

ApplType

説明: このイベントを引き起こしたアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: このイベントを引き起こしたアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

CSPUserIdentifier

説明: 接続セキュリティー・パラメーター (MQCSP) 構造からのユーザー ID。
V9.3.4 認証トークンが MQCSP 構造で指定されている場合、このパラメーターの値は *TOKEN です。
ID: MQCACF_CSP_USER_IDENTIFIER.
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CLIENT_USER_ID_LENGTH
戻り: イベントの原因となった MQI 呼び出しを行うアプリケーションが、MQCSP 構造でユーザー ID または認証トークンを提供した場合。

非許可 (タイプ 2)

イベント名:	非許可 (タイプ 2)。
MQCFH 中の理由コード:	1148 ページの『2035 (07F3) (RC2035): MQRC_NOT_AUTHORIZED』 . アクセスが許可されません。
イベント記述:	MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、ユーザーは、指定したオプションのオブジェクトをオープンすることを許可されません。
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: タイプ 2 権限イベントの ID。

ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN
値: MQRQ_OPEN_NOT_AUTHORIZED オープンを許可されません。
戻り: 常時。

Options

説明: MQOPEN 呼び出しで指定したオプション。
ID: MQIACF_OPEN_OPTIONS
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。
ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 常時。

ApplType

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくオブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) の *ObjectQMgrName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。

ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: オープンされているオブジェクトがキュー・オブジェクトである場合。

ProcessName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくプロセス・オブジェクト名。
ID: MQCA_PROCESS_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_PROCESS_NAME_LENGTH
戻り: オープンしているオブジェクトが、プロセス・オブジェクトである場合。

TopicString

説明: サブスクライブされた、またはオープンされたトピック・ストリング。
ID: MQCA_TOPIC_STRING
データ型: MQCFST
最大長: MQ_TOPIC_STR_LENGTH
戻り: オープンされているオブジェクトがトピック・オブジェクトである場合。

AdminTopicNames

説明: 権限が確認されたトピック管理オブジェクトのリスト。
ID: MQCA_ADMIN_TOPIC_NAME
データ型: MQCFSL
最大長: MQ_TOPIC_NAME_LENGTH
戻り: オープンされているオブジェクトがトピック・オブジェクトである場合。

ObjectType

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくオブジェクト・タイプ。
ID: MQIACF_OBJECT_TYPE
データ型: MQCFIN
値: MQOT_NAMELIST 名前リスト。
MQOT_PROCESS プロセス。
MQOT_Q キュー。
MQOT_Q_MGR キュー・マネージャー。
MQOT_TOPIC トピック。
戻り: 常時。

NameListName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_NAMELIST_NAME
データ型: MQCFST

最大長: MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH
戻り: オープンされているオブジェクトが名前リスト・オブジェクトである場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

非許可 (タイプ 3)

イベント名: 非許可 (タイプ 3)。

MQCFH 中の理由コード: [1148 ページの『2035 \(07F3\) \(RC2035\): MQRC_NOT_AUTHORIZED』](#).
アクセスが許可されません。

イベント記述: MQCLOSE 呼び出しを使用してキューをクローズするとき、ユーザーは、オブジェクトの削除を許可されません。そのオブジェクトは永続動的キューであり、MQCLOSE 呼び出しで指定された **Hobj** パラメーターは、そのキューを作成した MQOPEN 呼び出しによって返されたハンドルではありません。

MQCLOSE 呼び出しを使用してサブスクリプションをクローズするとき、ユーザーは MQCO_REMOVE_SUB オプションを使用してサブスクリプションを削除するように要求しましたが、ユーザーはサブスクリプションの作成者でないか、またはユーザーに、サブスクリプションに関連付けられたトピックに対する *sub* 権限がありません。

イベント・タイプ: 権限。

プラットフォーム: すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: タイプ 3 権限イベントの ID。
ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN
値: **MQRQ_CLOSE_NOT_AUTHORIZED**
クローズを許可されません。
戻り: 常時。

UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID
ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 常時。

ApplType

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: クローズされるハンドルがキューに対してのものである場合

SubName

説明: 除去されるサブスクリプションの名前。
ID: MQCACF_SUB_NAME
データ型: MQCFST

最大長: MQ_SUB_NAME_LENGTH
戻り: クローズされるハンドルがサブスクリプションに対してのものである場合。

TopicString

説明: サブスクリプションのトピック・ストリング。
ID: MQCA_TOPIC_STRING
データ型: MQCFST
最大長: MQ_TOPIC_STR_LENGTH
戻り: クローズされるハンドルがサブスクリプションに対してのものである場合。

AdminTopicNames

説明: 権限が確認されたトピック管理オブジェクトのリスト。
ID: MQCACF_ADMIN_TOPIC_NAMES.
データ型: MQCFSL
最大長: MQ_TOPIC_NAME_LENGTH
戻り: クローズされるハンドルがサブスクリプションに対してのものである場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

非許可 (タイプ 4)

イベント名:	非許可 (タイプ 4)。
MQCFH 中の理由コード:	1148 ページの『2035 (07F3) (RC2035): MQRC_NOT_AUTHORIZED』 . アクセスが許可されません。
イベント記述:	コマンドに指定したオブジェクトにアクセスすることを許可されないユーザー ID でコマンドが実行されたことを示しています。
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: タイプ 4 権限イベントの ID。
ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN
値: **MQRQ_CMD_NOT_AUTHORIZED**
コマンドが許可されません。
戻り: 常時。

Command

説明: コマンド ID。 [127 ページの『イベント・メッセージ MQCFH \(PCF ヘッダー\)』](#)で説明している MQCFH ヘッダー構造を参照してください。
ID: MQIACF_COMMAND
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。
ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 常時。

不許可 (タイプ 5)

イベント名:	不許可 (タイプ 5)。
MQCFH 中の理由コード:	1148 ページの『2035 (07F3) (RC2035): MQRC_NOT_AUTHORIZED』 . アクセスが許可されません。
イベント記述:	MQSUB 呼び出しで、ユーザーは、指定したトピックをサブスクライブすることを許可されていません。
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: タイプ 5 権限イベントの ID。
ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型: MQCFIN
値: **MQRQ_SUB_NOT_AUTHORIZED**
サブスクライブが許可されていません。
戻り: 常時。

Options

説明: MQSUB 呼び出しで指定されたオプション。
ID: MQIACF_SUB_OPTIONS
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。
ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER
データ型: MQCFST
最大長: MQ_USER_ID_LENGTH
戻り: 常時。

ApplType

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

TopicString

説明: オープンされたストリング、またはサブスクライブされたストリング。
ID: MQCA_TOPIC_STRING
データ型: MQCFST
最大長: MQ_TOPIC_STR_LENGTH
戻り: 常時。

AdminTopicNames

説明: 権限が確認されたトピック管理オブジェクトのリスト。
ID: MQCACF_ADMIN_TOPIC_NAMES.
データ型: MQCFSL
ストリング・リスト
の各メンバーの最
大長: MQ_TOPIC_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

不許可 (タイプ 6)

イベント名: 不許可 (タイプ 6)。

MQCFH 中の理由コード: [1148 ページの『2035 \(07F3\) \(RC2035\): MQRC_NOT_AUTHORIZED』](#).
アクセスが許可されません。

イベント記述: MQSUB 呼び出しで、ユーザーは、必要なアクセス・レベルで宛先キューを使用することを許可されていません。このイベントが返されるのは、管理対象ではない宛先キューを使用したサブスクリプションの場合のみです。

サブスクリプションを作成、変更、または再開しているとき、宛先キューに対するハンドルが要求で提供されている場合、ユーザーは指定された宛先キューに対する PUT 権限を持っていません。

サブスクリプションを再開または変更しているとき、宛先キューに対するハンドルが MQSUB 呼び出しで戻される場合、ユーザーは宛先キューに対する PUT、GET および BROWSE 権限を持っていません。

イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: タイプ 6 権限イベントの ID。

ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER

データ型: MQCFIN

値: **MQRQ_SUB_DEST_NOT_AUTHORIZED**
サブスクリプション宛先キューの使用は許可されていません。

戻り: 常時。

Options

説明: MQSUB 呼び出しで指定されたオプション。

ID: MQIACF_SUB_OPTIONS

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。

ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER

データ型: MQCFST

最大長: MQ_USER_ID_LENGTH

戻り: 常時。

ApplType

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

TopicString

説明: サブスクライブされたトピック・ストリング。
ID: MQCA_TOPIC_STRING
データ型: MQCFST
最大長: MQ_TOPIC_STR_LENGTH
戻り: 常時。

DestQMgrName

説明: サブスクリプションの宛先キューのホスティング・キュー・マネージャー名。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 宛先キューをホスティングするキュー・マネージャーが、アプリケーションが現在接続している キュー・マネージャーでない場合。

DestQName

説明: サブスクリプションの宛先キューの名前。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

DestOpenOptions

説明: 宛先キューについて要求されたオープン・オプション。
ID: MQIACF_OPEN_OPTIONS
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

書き込み禁止

イベント名:	書き込み禁止。
MQCFH 中の理由コード:	1157 ページの『2051 (0803) (RC2051): MQRC_PUT_INHIBITED』 . このキューまたはトピックに関して書き込みの呼び出しが禁止されています。
イベント記述:	キューまたはトピックに対する MQPUT 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しは、現在禁止されています (このキューが解決されるキューについては、 InhibitPut (MQLONG) の InhibitPut キュー属性、または 116 ページの『トピック属性』 の InhibitPublications トピック属性を参照してください)。
イベント・タイプ:	禁止。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST

最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: オープンされているオブジェクトがキュー・オブジェクトである場合。

ApplType

説明: 書き込みを発行したアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: 書き込みを発行したアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: このパラメーターの値が *QMgrName* の値と異なる場合のみ。これは、アプリケーションで MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しを発行するときに指定したオブジェクト記述子の *ObjectQMgrName* フィールドが、ブランクではなく、またそのアプリケーションの ローカル・キュー・マネージャーの名前でもない場合です。ただし、オブジェクト記述子の *ObjectQMgrName* がブランクであっても、ネーム・サービスから渡されたキュー・マネージャー名が、アプリケーションのローカル・キュー・マネージャーの名前でなければ、これと同じことが発生します。

TopicString

説明: オープンしているトピック・ストリング
ID: MQCA_TOPIC_STRING
データ型: MQCFST
最大長: MQ_TOPIC_STR_LENGTH
戻り: オープンしているオブジェクトがトピックである場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。


ID: MQCACH_CHANNEL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH

戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

関連資料

 [InhibitPut \(10 桁の符号付き整数\)](#)

[Inquire Queue \(応答\)](#)

[Inquire Topic \(応答\)](#)

[Inquire Topic Status \(応答\)](#)

[Change Topic、Copy Topic、および Create Topic](#)

キュー・サイズ上限

イベント名:	キュー・サイズ上限。
MQCFH 中の理由コード:	1217 ページの『2224 (08B0) (RC2224): MQRC Q_DEPTH_HIGH』 . キュー・サイズ上限に到達したか、それを超えました。
イベント記述:	MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが原因で、キュー・サイズは、 QDepthHighLimit 属性で指定した限度まで増加したか、その限度を超えました。
イベント・タイプ:	パフォーマンス。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注:

1. IBM MQ for z/OS は、共有キュー上のキュー・サイズ・イベントをサポートしています。共有キュー上でキュー・マネージャーによるアクティビティが実行されなかった場合に、その共有キューに関する NULL イベント・メッセージを受け取ることがあります。
2. 共有キューの場合、メッセージ記述子 (MQMD) 中で関連 ID の *CorrelId* が設定されます。詳細については、[122 ページの『イベント・メッセージ MQMD \(メッセージ記述子\)』](#)を参照してください。

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

QName

説明: 限度に達したキューの名前。
ID: MQCA_BASE_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

TimeSinceReset

説明: 統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。このタイマーで記録された値は、キュー・サービス間隔イベントの間隔の時間としても使用されます。
ID: MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

HighQDepth

説明: キュー統計が最後にリセットされてからのキュー上のメッセージの最大数。
ID: MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgEnqCount

説明: キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID: MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgDeqCount

説明: キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。
ID: MQIA_MSG_DEQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

キュー・サイズ下限

イベント名:	キュー・サイズ下限。
MQCFH 中の理由コード:	1217 ページの『2225 (08B1) (RC2225): MQRC_Q_DEPTH_LOW』 。 キュー・サイズ下限に到達したか、それを超えました。
イベント記述:	取得操作が原因で、キュー・サイズが、 QDepthLowLimit 属性で指定された限度まで減少したか、その限度を下回りました。
イベント・タイプ:	パフォーマンス。

プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注:

1. IBM MQ for z/OS は、共有キュー上のキュー・サイズ・イベントをサポートしています。共有キュー上でキュー・マネージャーによるアクティビティが実行されなかった場合に、その共有キューに関する NULL イベント・メッセージを受け取ることがあります。
2. 共有キューの場合、メッセージ記述子 (MQMD) 中で関連 ID の *CorrelId* が設定されます。詳細については、[122 ページの『イベント・メッセージ MQMD \(メッセージ記述子\)』](#)を参照してください。

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	限度に達したキューの名前。
ID:	MQCA_BASE_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

TimeSinceReset

説明:	統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。このタイマーで記録された値は、キュー・サービス間隔イベントの間隔の時間としても使用されます。
ID:	MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

HighQDepth

説明:	キュー統計が最後にリセットされてからのキュー上のメッセージの最大数。
ID:	MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

MsgEnqCount

説明:	キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID:	MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型:	MQCFIN

戻り: 常時。

MsgDeqCount

説明: キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。

ID: MQIA_MSG_DEQ_COUNT

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

キュー満杯

イベント名: キュー満杯。

MQCFH 中の理由コード: [1158 ページの『2053 \(0805\) \(RC2053\): MQRC_Q_FULL』](#).
キューには、既に最大数のメッセージが入っています。

イベント記述: キューが満杯であるため、MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが失敗しました。つまり、キューに入れることのできる最大数のメッセージが、既にキューに入っています (*MaxQDepth* ローカル・キュー属性を参照してください)。

イベント・タイプ: パフォーマンス。

プラットフォーム: すべて。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注:

1. IBM MQ for z/OS は、共有キュー上のキュー・サイズ・イベントをサポートしています。共有キュー上でキュー・マネージャーによるアクティビティが実行されなかった場合に、その共有キューに関する NULL イベント・メッセージを受け取ることがあります。
2. 共有キューの場合、メッセージ記述子 (MQMD) 中で関連 ID の *CorrelId* が設定されます。詳細については、[122 ページの『イベント・メッセージ MQMD \(メッセージ記述子\)』](#)を参照してください。

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

QName

説明: 書き込みが拒否されたキューの名前。

ID: MQCA_BASE_Q_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。

戻り: 常時。

TimeSinceReset

説明: 統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。
ID: MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

HighQDepth

説明: キュー上のメッセージの最大数。
ID: MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgEnqCount

説明: キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID: MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgDeqCount

説明: キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。
ID: MQIA_MSG_DEQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

キュー・マネージャーがアクティブ

イベント名:	キュー・マネージャーがアクティブ
MQCFH 中の理由コード:	<u>1217</u> ページの『 <u>2222 (08AE) (RC2222): MQRC_Q_MGR_ACTIVE</u> 』. キュー・マネージャーがアクティブです。
イベント記述:	キュー・マネージャーがアクティブになると、この状況が検出されます。
イベント・タイプ:	開始および停止。
プラットフォーム:	すべて。ただし、IBM MQ for z/OS キュー・マネージャーの初回始動時は除く。 2 回目以降の再始動時にのみ作成される。 <i>ReasonQualifier</i> および <i>HostName</i> フィールドは、複数インスタンスの可用性をサポートするプラットフォームにのみ適用される (つまり非 z/OS)
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ReasonQualifier

説明: この理由コードの原因の ID。これは、発生している始動の種類を指定する。

ID: MQIACF_REASON_QUALIFIER

データ型: MQCFIN

値: **MQRQ_FAILOVER_PERMITTED**

キュー・マネージャーは既に正常に始動し、スタンバイ・インスタンスを許可します。

MQRQ_FAILOVER_NOT_PERMITTED

キュー・マネージャーは正常に始動済みですが、スタンバイ・インスタンスを許可しません。

MQRQ_STANDBY_ACTIVATED

キュー・マネージャーが既に待機モードからアクティブ・モードに移行しました。

MQRQ_REPLICA_ACTIVATED

Native HA キュー・マネージャーのレプリカ・インスタンスはアクティブ・モードに移行しました。

戻り: 常時。

HostName

説明: キュー・マネージャーが実行されているマシンのホスト名。

ID: MQCACF_HOST_NAME

データ型: MQCFST

戻り: 常時。

キュー・マネージャーが非アクティブ

イベント名: キュー・マネージャーが非アクティブ。

MQCFH 中の理由コード: [1217 ページの『2223 \(08AF\) \(RC2223\): MQRC Q MGR NOT ACTIVE』](#).
キュー・マネージャーは利用できません。

イベント記述: キュー・マネージャーの停止または静止を要求すると、この状況が検出されません。

イベント・タイプ: 開始および停止。

プラットフォーム: すべて。ただし IBM MQ for z/OS を除く。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ReasonQualifier

説明:	この理由コードの原因の ID。これは、要求された停止のタイプを指定します。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN
値:	MQRQ_Q_MGR_STOPPING キュー・マネージャーが停止中です。 MQRQ_Q_MGR QUIESCING キュー・マネージャーが静止しています。
戻り:	常時。

キュー・サービス間隔上限

イベント名:	キュー・サービス間隔上限。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1218 ページの『2226 (08B2) (RC2226): MQRC_Q_SERVICE_INTERVAL_HIGH』</u> 。 キュー・サービス間隔上限。
イベント記述:	QServiceInterval 属性に指定された限度を超える間隔内で、正常に終了した取得操作または MQPUT 呼び出しが検出されていません。
イベント・タイプ:	パフォーマンス。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注: IBM MQ for z/OS は、共有キュー上のサービス間隔イベントをサポートしていません。

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	このキュー・サービス間隔上限イベントが生成される原因となったコマンドで指定しているキューの名前。
-----	--

ID: MQCA_BASE_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

TimeSinceReset

説明: 統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。 サービス間隔上限イベントの場合、この値は、サービス間隔より大きい値になります。
ID: MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

HighQDepth

説明: キュー統計が最後にリセットされてからのキュー上のメッセージの最大数。
ID: MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgEnqCount

説明: キューに入れられたメッセージの数。 これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID: MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgDeqCount

説明: キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。
ID: MQIA_MSG_DEQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

キュー・サービス間隔 OK

イベント名:	キュー・サービス間隔 OK。
MQCFH 中の理由コード:	1218 ページの『2227 (08B3) (RC2227): MQRC_Q_SERVICE_INTERVAL_OK』 . キュー・サービス間隔 OK。
イベント記述:	QServiceInterval 属性に指定された限度以下の間隔内で、正常に終了した取得操作が検出されました。
イベント・タイプ:	パフォーマンス。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注: IBM MQ for z/OS は、共有キュー上のサービス間隔イベントをサポートしていません。

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: このキュー・サービス間隔イベントが生成される原因となったコマンドで指定されているキューの名前。
ID: MQCA_BASE_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

TimeSinceReset

説明: 統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。
ID: MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

HighQDepth

説明: キュー統計が最後にリセットされてからのキュー上のメッセージの最大数。
ID: MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgEnqCount

説明: キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID: MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

MsgDeqCount

説明: キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。
ID: MQIA_MSG_DEQ_COUNT
データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

キュー・タイプ・エラー

イベント名:	キュー・タイプ・エラー。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1159 ページの『2057 (0809) (RC2057): MQRC_Q_TYPE_ERROR』</u> . キュー・タイプは無効です。
イベント記述:	MQOPEN 呼び出しで、オブジェクト記述子の <i>ObjectQMgrName</i> フィールドにリモート・キューのローカル定義の名前を指定しています (キュー・マネージャーの別名を指定するため)。そのローカル定義では、 RemoteQMgrName 属性は、ローカル・キュー・マネージャーの名前です。しかし、 <i>ObjectName</i> フィールドには、ローカル・キュー・マネージャーのモデル・キューの名前を指定しています。これは認められません。詳しくは、 <u>キュー・マネージャー・イベント</u> を参照してください。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME

データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

権限レコードのリフレッシュ

イベント名:	権限レコードのリフレッシュ
MQCFH 中の理由コード:	1268 ページの『2370 (0942) (RC2370): MQRC_CONFIG_REFRESH_OBJECT』 . キュー・マネージャー構成のリフレッシュ - 権限レコード
イベント記述:	TYPE(CONFIGEV) を指定した REFRESH QMGR コマンドが発行された。
イベント・タイプ:	構成
プラットフォーム:	すべて、ただし z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

REFRESH QMGR コマンドによって多数の構成イベントが作成される可能性があることに注意してください。コマンドで選択される権限レコードごとに 1 つのイベントが生成されます。

イベント・データ

EventQMgr

説明:	コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。つまり、コマンドを処理してイベントを生成するキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。
ID:	MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

EventUserId

説明:	コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。 これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使われるのと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージのメッセージ記述子からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。 .
ID:	MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_USER_ID_LENGTH
戻り:	常時。

EventOrigin

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN
値:	MQEVO_CONSOLE コンソール・コマンド (runmqsc または setmqaut) MQEVO_INTERNAL キュー・マネージャーによって直接 MQEVO_MSG SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE でのコマンド・メッセージ
戻り:	常時

EventAccountingToken

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。
ID:	MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型:	MQCFBS
最大長:	MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション識別データ (**ApplIdentityData**)。

ID: MQMQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション・タイプ (**PutApplType**)。

ID: MQIACF_EVENT_APPL_TYPE

データ型: MQCFIN

値:

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション名 (**PutApplName**)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受信されるコマンドの場合、コマンド・メッセージのメッセージ記述子からのアプリケーション発信元データ (**ApplOriginData**)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH

戻り: **EventOrigin** が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明: オブジェクト・タイプ

ID: MQIACF_OBJECT_TYPE

データ型: MQCFIN

値: MQOT_AUTH_REC

戻り: 常時

ProfileName

説明:	オブジェクトまたは総称プロファイル名
ID:	MQCACF_AUTH_PROFILE_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_AUTH_PROFILE_NAME_LENGTH
戻り:	常時

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』を参照してください。

オブジェクトのリフレッシュ

イベント名:	オブジェクトのリフレッシュ。
MQCFH 中の理由コード:	1268 ページの『2370 (0942) (RC2370): MQRC_CONFIG_REFRESH_OBJECT』 。 キュー・マネージャー構成のリフレッシュ。
イベント記述:	TYPE (CONFIGEV) を指定する REFRESH QMGR コマンドが発行されました。
イベント・タイプ:	構成。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

注: REFRESH QMGR コマンドは、多数の構成イベントを作成することができます。コマンドによって選択されるそれぞれのオブジェクトごとに1つのイベントが生成されます。

イベント・データ

EventUserId

説明:	コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_USER_ID_LENGTH
戻り:	常時。

EventOrigin

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN

値: **MQEVO_CONSOLE**
コンソール・コマンド。

MQEVO_INIT
初期設定入力データ・セット・コマンド。

MQEVO_INTERNAL
キュー・マネージャーによって直接。

MQEVO_MSG
SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。

MQEVO_OTHER
上記のいずれでもない。

戻り: 常時。

EventQMgr

説明: コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)

ID: MQCACF_EVENT_Q_MGR

データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

EventAccountingToken

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。

ID: MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN

データ型: MQCFBS

最大長: MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplIdentity

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。

ID: MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY

データ型: MQCFST

最大長: MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplType

説明: メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。

ID: MQIACF_EVENT_APPL_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplName

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

EventApplOrigin

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

ObjectType

説明:	オブジェクト・タイプ:
ID:	MQIACF_OBJECT_TYPE
データ型:	MQCFIN

値:

MQOT_CHANNEL
チャンネル。

MQOT_CHLAUTH
チャンネル認証レコード

MQOT_NAMELIST
名前リスト。

MQOT_NONE
オブジェクトなし。

MQOT_PROCESS
プロセス。

MQOT_Q
キュー。

MQOT_Q_MGR
キュー・マネージャー。

MQOT_STORAGE_CLASS
ストレージ・クラス。

MQOT_AUTH_INFO
認証情報

MQOT_CF_STRUC
CF 構造。

MQOT_TOPIC
トピック。

MQOT_COMM_INFO
通信情報。

MQOT_LISTENER
チャンネル・リスナー。

戻り: 常時。

ObjectName

説明: オブジェクト名:

ID: ID はオブジェクト・タイプに従ったものになります。

- MQCACH_CHANNEL_NAME
- MQCA_NAMELIST_NAME
- MQCA_PROCESS_NAME
- MQCA_Q_NAME
- MQCA_Q_MGR_NAME
- MQCA_STORAGE_CLASS
- MQCA_AUTH_INFO_NAME
- MQCA_CF_STRUC_NAME
- MQCA_TOPIC_NAME
- MQCA_COMM_INFO_NAME
- MQCACH_LISTENER_NAME

注: MQCACH_CHANNEL_NAME は、チャンネル認証にも使用できます。

データ型: MQCFST

最大長: MQ_OBJECT_NAME_LENGTH

戻り: 常時

Disposition

説明: オブジェクトの属性指定。

ID: MQIA_QSG_DISP

データ型: MQCFIN

値: **MQQSGD_Q_MGR**

オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあります。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは共有リポジトリ内にあり、メッセージがカップリング・ファシリティーで共有されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは共有リポジトリにあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあり、GROUP オブジェクトのローカル・コピーです。

戻り: 常時 (キュー・マネージャーおよび CF 構造化オブジェクトは除く)。

オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

リモート・キュー名エラー

イベント名:	リモート・キュー名エラー。
MQCFH 中の理由コード:	1204 ページの『2184 (0888) (RC2184): MQRC_REMOTE_Q_NAME_ERROR』 . リモート・キュー名が無効です。
イベント記述:	MQOPEN 呼び出しましたは MQPUT1 呼び出しで、次のいずれかの状況が発生しています。 <ul style="list-style-type: none">・リモート・キューのローカル定義 (またはその別名) が指定されましたが、リモート・キュー定義の RemoteQName 属性はブランクです。このエラーは、定義内の XmitQName がブランクでない場合でも発生することに注意してください。・オブジェクト記述子の ObjectQMgrName フィールドはブランクではなく、ローカル・キュー・マネージャーの名前ではありませんが、ObjectName フィールドはブランクです。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA_Q_MGR_NAME

データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

伝送キュー・タイプ・エラー

イベント名:	伝送キュー・タイプ・エラー。
MQCFH 中の理由コード:	1172 ページの『 2091 (082B) (RC2091): MQRC_XMIT_Q_TYPE_ERROR 』。 伝送キューはローカルではありません。
イベント記述:	<p>MQOPEN または MQPUT1 呼び出しでは、メッセージはリモート・キュー・マネージャーに送られます。オブジェクト記述子の <i>ObjectName</i> フィールドまたは <i>ObjectQMgrName</i> フィールドに、リモート・キューのローカル定義の名前を指定していますが、その定義の XmitQName 属性では次のいずれかの状況が発生しています。以下のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">• <i>XmitQName</i> がブランクではないが、ローカル・キューではないキューをこのフィールドに指定している。または、• <i>XmitQName</i> はブランクだが、<i>RemoteQMgrName</i> はローカル・キューでないキューを指定している。 <p>この状況は、キュー名がセル・ディレクトリーによって解決されるときに、セル・ディレクトリーから取得したリモート・キュー・マネージャー名としてキューの名前ですが、ローカル・キューではない場合にも発生します。</p>
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。

戻り: 常時。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。
ID: MQCA_XMIT_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

QType

説明: 伝送キューのタイプ。
ID: MQIA_Q_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQQT_ALIAS**
別名キュー定義。
MQQT_REMOTE
リモート・キューのローカル定義。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

伝送キュー使用エラー

イベント名:	伝送キュー使用エラー。
MQCFH 中の理由コード:	1173 ページの『2092 (082C) (RC2092): MQRC_XMIT_Q_USAGE_ERROR』 . 伝送キューの使用方法が正しくありません。
イベント記述:	<p>MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しでは、メッセージがリモート・キュー・マネージャーへ送信されようとしています。次のいずれかの状況が発生しています。以下のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">• <i>ObjectQMGrName</i> はローカル・キューの名前を指定していますが、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION ではありません。• オブジェクト記述子の <i>ObjectName</i> または <i>ObjectQMGrName</i> フィールドは、リモート・キューのローカル定義の名前を指定しますが、定義の XmitQName 属性には以下のいずれかが適用されます。<ul style="list-style-type: none">– <i>XmitQName</i> は空白ではないが、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION ではないキューが指定されている。– <i>XmitQName</i> は空白だが、<i>RemoteQMGrName</i> に、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION でないキューが指定されている。• キュー名がセル・ディレクトリーを介して解決され、セル・ディレクトリーから得られたリモート・キュー・マネージャー名はローカル・キューの名前になっていますが、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION ではありません。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMGrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
-----	-------------------------

ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

XmitQName

説明: 伝送キュー名。
ID: MQCA_XMIT_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

不明別名基本キュー

イベント名:	不明別名基本キュー。
MQCFH 中の理由コード:	1169 ページの『2082 (0822) (RC2082): MQRC_UNKNOWN_ALIAS_BASE_Q』 . 不明別名基本キューまたはトピック。
イベント記述:	別名キューを宛先として指定して MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、別名キュー属性にある <i>BaseObjectName</i> は、キュー名またはトピック名として認識されません。
イベント・タイプ:	ローカル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。

戻り: 常時。

BaseObjectName

説明: 別名が解決されるオブジェクト名。
ID: MQCA_BASE_OBJECT_NAME。既存アプリケーションとの互換性のために、MQCA_BASE_Q_NAME を引き続き使用できます。
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

BaseType

説明: 別名が解決されるオブジェクトのタイプ。
ID: MQIA_BASE_TYPE
データ型: MQCFIN
値: **MQOT_Q**
基本オブジェクト・タイプはキューです。
MQOT_TOPIC
基本オブジェクト・タイプはトピックです。
戻り: 常時。

ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

不明デフォルト伝送キュー

イベント名: 不明デフォルト伝送キュー。

MQCFH 中の理由コード: [1210 ページの『2197 \(0895\) \(RC2197\): MQRC_UNKNOWN_DEF_XMIT_Q』](#).
不明デフォルト伝送キュー。

イベント記述: リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義を指定したとき、またはキュー・マネージャーの別名が解決されようとしているときに、ローカル定義の **XmitQName** 属性はブランクです。

いずれのキューも宛先キュー・マネージャーと同じ名前では定義されていません。したがって、キュー・マネージャーは、デフォルト伝送キューを使用しようとしていました。ただし、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性で指定された名前は、ローカル定義されたキューの名前ではありません。

イベント・タイプ: リモート。

プラットフォーム: すべて。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

XmitQName

説明: デフォルト伝送キュー名。
ID: MQCA_XMIT_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: リモート・キューをオープンしようとしているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: リモート・キューをオープンしようとしているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH

戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

不明オブジェクト名

イベント名:	不明オブジェクト名。
MQCFH 中の理由コード:	1170 ページの『2085 (0825) (RC2085): MQRC_UNKNOWN_OBJECT_NAME』 . オブジェクト名が不明です。
イベント記述:	MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD の <i>ObjectQMgrName</i> フィールドは、次のいずれかのオプションに設定されます。 次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none">• ブランク• ローカル・キュー・マネージャーの名前• RemoteQMgrName 属性がローカル・キュー・マネージャーの名前になっているリモート・キューのローカル定義の名前 (キュー・マネージャー別名) ただし、オブジェクト記述子の <i>ObjectName</i> は、指定したオブジェクト・タイプに関して認識されません。
イベント・タイプ:	ローカル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ApplType

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

ApplName

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: オープンされているオブジェクトがキュー・オブジェクトである場合。 *QName* または *TopicName* が返されます。

ProcessName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくプロセス・オブジェクト名。
ID: MQCA_PROCESS_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_PROCESS_NAME_LENGTH
戻り: オープンしているオブジェクトが、プロセス・オブジェクトである場合。 *ProcessName*、*QName*、または *TopicName* のいずれかが返されます。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

TopicName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくトピック・オブジェクト名。
ID: MQCA_TOPIC_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_TOPIC_NAME_LENGTH
戻り: オープンされているオブジェクトがトピック・オブジェクトである場合。 *ProcessName*、*QName*、または *TopicName* のいずれかが返されます。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

不明リモート・キュー・マネージャー

イベント名: 不明リモート・キュー・マネージャー。

MQCFH 中の理由コード: [1171 ページの『2087 \(0827\) \(RC2087\): MQRC UNKNOWN REMOTE Q MGR』](#).
不明リモート・キュー・マネージャー。

イベント記述: MQOPEN 呼び出しましたは MQPUT1 呼び出しで、次のいずれかの理由でキュー名の解決時にエラーが発生しました。

- *ObjectQMGrName* は、ブランクまたはローカル・キュー・マネージャーの名前であり、*ObjectName* は、ブランクの *XmitQName* を持つリモート・キューのローカル定義の名前です。しかし、*RemoteQMGrName* の名前で定義された (伝送) キューはなく、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性はブランクです。
- *ObjectQMGrName* が、キュー・マネージャー別名定義 (リモート・キューのローカル定義として保持される) の名前であり、その定義では、*XmitQName* がブランクになっています。しかし、*RemoteQMGrName* の名前で定義された (伝送) キューはなく、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性はブランクです。
- 指定した *ObjectQMGrName* が次のいずれでもありません。
 - ブランク
 - ローカル・キュー・マネージャーの名前
 - ローカル・キューの名前
 - キュー・マネージャー別名定義 (*RemoteQName* がブランクのリモート・キューのローカル定義) の名前また、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性はブランクです。
- *ObjectQMGrName* がブランクまたはローカル・キュー・マネージャーの名前であり、*ObjectName* がリモート・キューのローカル定義の名前 (またはその別名)。その定義に関しても *RemoteQMGrName* はブランクであるか、ローカル・キュー・マネージャーの名前です。 *XmitQName* がブランクでない場合でも、このエラーが発生します。
- *ObjectQMGrName* がリモート・キューのローカル定義の名前。この場合、キュー・マネージャー別名定義でなければなりません。しかし、その定義の *RemoteQName* がブランクではありません。
- *ObjectQMGrName* がモデル・キューの名前。
- セル・ディレクトリーによって解決されるキューの名前。しかし、セル・ディレクトリーから取得したリモート・キュー・マネージャーと同じ名前で定義されているキューは存在しません。また、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性はブランクです。
- z/OS 上でのみ、メッセージがキュー共有グループのキュー・マネージャーに書き込まれて、*SQQMNAME* が *USE* に設定されます。これは、メッセージがキューに書き込まれるようにするために、指定されたキュー・マネージャーにメッセージを送付します。 *SQQMNAME* が *IGNORE* に設定されている場合、メッセージはキューに直接書き込まれます。

イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMGrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID: MQCA_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST

最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID: MQCA_Q_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り: 常時。

ApplType

説明: リモート・キューをオープンしようとしているアプリケーションのタイプ。
ID: MQIA_APPL_TYPE
データ型: MQCFIN
戻り: 常時。

ApplName

説明: リモート・キューをオープンしようとしているアプリケーションの名前。
ID: MQCACF_APPL_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り: 常時。

ObjectQMgrName

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID: MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明: クライアント接続の接続名。
ID: MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型: MQCFST
最大長: MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。
ID: MQCACH_CHANNEL_NAME

データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

不明伝送キュー

イベント名:	不明伝送キュー。
MQCFH 中の理由コード:	<u>1210 ページの『2196 (0894) (RC2196): MQRC_UNKNOWN_XMIT_Q』</u> . 不明伝送キュー。
イベント記述:	MQOPEN または MQPUT1 呼び出しでは、メッセージはリモート・キュー・マネージャーに送られます。オブジェクト記述子の <i>ObjectName</i> または <i>ObjectQMgrName</i> にリモート・キューのローカル定義の名前を指定しています (後者の場合、キュー・マネージャー別名化機能が使用されています)。しかし、その定義の XmitQName 属性は空白ではなく、また、ローカルに定義されたキューの名前でもありません。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

イベント・データ

QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

QName

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

XmitQName

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCA_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

ApplType

説明:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID:	MQIA_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

ApplName

説明:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID:	MQCACF_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

ObjectQMgrName

説明:	オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の <i>ObjectName</i> が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

メッセージおよび理由コード

以下のメッセージと理由コードを使用して、IBM MQ のコンポーネントまたはアプリケーションに関する問題の解決に役立てることができます。

このセクションには、AMQ シリーズの診断メッセージが番号順にリストされています。これらのメッセージは、発信元の IBM MQ の部分に従ってグループ化されています。

注: メッセージが単一プラットフォームに固有の場合は、メッセージ ID の後に、プラットフォーム名が示されます。何回かリストされているメッセージもありますが、それぞれ異なるプラットフォームに関連しています。その場合は、まず多くのプラットフォームに共通するバージョンがリストされ、その後に個別プラットフォームに対応したバージョンが続きます。該当するバージョンをお読みください。

これらのメッセージについて詳しくは、[IBM Documentation](#) を参照してください。

- [AMQ3xxx: ユーティリティーおよびツール](#)
- [AMQ4xxx: ユーザー・インターフェース・メッセージ \(Windows および Linux システム\)](#)
- [AMQ5xxx: インストール可能サービス](#)
- [AMQ6xxx: 共通サービス](#)
- [AMQ7xxx: IBM MQ 製品](#)
- [AMQ8xxx: 管理](#)
- [AMQ9xxx: リモート](#)

メッセージの読み取り

各メッセージには、次の情報が提供されています。

メッセージ ID

次の 3 つの部分から成るメッセージ識別子:

1. 「AMQ」という文字。これは、メッセージが IBM MQ からのものであることを示します。
2. 4 桁の 10 進コード。
3. [重大度リスト](#) に示されているように、メッセージの重大度を示す接尾部 (I、W、E、S、または T)。

接尾部文字はデフォルトで組み込まれます。接尾部文字を含まない以前のメッセージ形式に依存したスクリプトがある場合などは、[AMQ_DIAGNOSTIC_MSG_SEVERITY](#) 環境変数を 0 に設定することで、接尾部文字を無効にすることができます。

メッセージ・テキスト

メッセージの要約

重大度

- 0: 情報
- 10: 警告
- 20: エラー
- 30: エラー
- 40: 重大
- 50: 強制終了

説明

メッセージに関する詳細情報を示すための説明

応答

ユーザーによる必要な対応。場合によっては、特に情報メッセージの場合は、この部分は「アクションは不要です」となることがあります。

メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert_1>、<insert_2> などで表されています。

メッセージによっては、説明または対応の項に変数が含まれていることもあります。メッセージ変数の値を見つけるには、エラー・ログを調べてください。エラー・ログには、完全な形のメッセージと、説明および対応が含まれています。

関連概念

266 ページの『[IBM MQ for z/OS のメッセージ・コード、完了コード、および理由コード](#)』

このトピックでは、IBM MQ for z/OS で生成されるメッセージとコードの意味について取り上げます。

関連タスク

[エラー・ログの使用](#)

関連資料

1129 ページの『[API 完了コードと理由コード](#)』

呼び出しが行われるたびに、その呼び出しが成功したか失敗したかを示すための完了コードと理由コードが、キュー・マネージャーまたは出口ルーチンによって戻されます。

1342 ページの『[PCF 理由コード](#)』

PCF フォーマットのコマンド・メッセージ中で使用したパラメーターによっては、そのメッセージへの応答としてブローカーから理由コードが返される場合があります。

1418 ページの『[Transport Layer Security \(TLS\) の戻りコード](#)』

IBM MQ では、さまざまな通信プロトコルと一緒に TLS を使用できます。このトピックを使用して、TLS によって返される可能性があるエラー・コードを特定します。

1423 ページの『[WCF カスタム・チャンネル例外](#)』

このトピックでは、診断メッセージが、発信元の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャンネルの部分に従ってグループ化された番号順にリストされています。

Deprecated MQ Adv. Linux IBM MQ Bridge to blockchain の診断メッセージ

IBM MQ Bridge to blockchain の診断メッセージを識別して解釈するための参照情報。

これらのメッセージについて詳しくは、IBM Documentation を参照してください。

- [AMQBCxxx: IBM MQ Bridge to blockchain メッセージ](#)

注:

- **Deprecated** IBM MQ Bridge to blockchain は、2022 年 11 月 22 日以降のすべてのリリースで非推奨になりました (US Announcement letter 222-341 を参照)。Blockchain 接続は、IBM App Connect を使用して、または IBM Cloud Pak® for Integration で使用可能な App Connect 機能を介して実現できます。
- **V 9.3.2** **Removed** Continuous Delivery の場合、IBM MQ Bridge to blockchain は IBM MQ 9.3.2 で製品から削除されています。
- **LTS** IBM は、今後のフィックスパックで Long Term Support リリースから機能を削除する予定です。この変更の影響を受けるアプリケーションがある場合は、IBM サポートにお問い合わせください。

メッセージの読み取り

各メッセージには、次の情報が提供されています。

メッセージ ID

次の 3 つの部分から成るメッセージ識別子:

1. 「AMQBC」という文字 (メッセージの発信元が IBM MQ Bridge to blockchain であるという意味)
2. 3 桁の 10 進コード
3. メッセージの重大度を示す接尾部文字 (I、W、E、S、または T)。以下の重大度リストを参照してください。

メッセージ・テキスト

メッセージの要約

重大度

- 0: 情報
- 10: 警告
- 20: エラー
- 30: エラー
- 40: 重大
- 50: 強制終了

メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert_1>、<insert_2> など表されています。

Deprecated IBM MQ Bridge to Salesforce の診断メッセージ

IBM MQ Bridge to Salesforce の診断メッセージを識別して解釈するための参照情報。

これらのメッセージについて詳しくは、IBM Documentation を参照してください。

- [AMQSFxxx: IBM MQ Bridge to Salesforce メッセージ](#)

注: **Deprecated** IBM MQ Bridge to Salesforce は、2022 年 11 月 22 日以降のすべてのリリースで非推奨になりました ([US Announcement letter 222-341](#) を参照)。Salesforce 接続は、IBM App Connect を使用して、または IBM Cloud Pak for Integration で使用可能な App Connect 機能を使用して実現できます。

メッセージの読み取り

各メッセージには、次の情報が提供されています。

メッセージ ID

次の 2 つの部分から成るメッセージ識別子:

1. 「AMQSF」という文字 (メッセージの発信元が IBM MQ Bridge to Salesforce であるという意味)
2. 3 桁の 10 進コード
3. メッセージの重大度を示す接尾部文字 (I、W、E、S、または T)。以下の重大度リストを参照してください。

メッセージ・テキスト

メッセージの要約

重大度

- 0: 情報
- 10: 警告
- 20: エラー
- 30: エラー
- 40: 重大
- 50: 強制終了

メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert_1>、<insert_2> など表されています。

IBM MQ Console メッセージ

IBM MQ Console のメッセージを識別して解釈するための参照情報。

これらのメッセージについて詳しくは、IBM Documentation を参照してください。

- [MQWB20xx: IBM MQ Console メッセージ](#)

メッセージの読み取り

各メッセージには、次の情報が提供されています。

メッセージ ID

次の 3 つの部分から成るメッセージ識別子:

1. 「MQWB」という文字 (メッセージの発信元が IBM MQ Console であるという意味)
2. 4 桁の 10 進コード
3. メッセージの重大度を示す接尾部文字 (I、W、E、S、または T)。以下の重大度リストを参照してください。

メッセージ・テキスト

メッセージの要約

重大度

- 0: 情報
- 10: 警告
- 20: エラー
- 30: エラー
- 40: 重大
- 50: 強制終了

説明

メッセージに関する詳細情報を示すための説明

応答

ユーザーによる必要な対応。場合によっては、特に情報メッセージの場合は、この部分は「アクションは不要です」となることがあります。

メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert_1>、<insert_2> など表されています。

メッセージによっては、説明または対応の項に変数が含まれていることもあります。メッセージ変数の値を見つけるには、エラー・ログを調べてください。エラー・ログには、完全な形のメッセージと、説明および対応が含まれています。

IBM MQ Internet Pass-Thru メッセージ

IBM MQ Internet Pass-Thru のメッセージを識別して解釈するための参照情報。

コマンド行から実行する場合、IBM MQ Internet Pass-Thru (MQIPT) は、情報、警告、およびエラーの各メッセージをコンソールに表示します。

このセクションには、MQIPT 診断メッセージがその発信元になる MQIPT の部分ごとにまとめられ、それぞれ番号順にリストされています。

- [239 ページの『MQCAxxxx: 管理クライアント・メッセージ』](#)
- [241 ページの『MQCPxxxx: MQIPT メッセージ』](#)

メッセージの読み取り

すべてのメッセージ ID は、以下の形式に従います。

```
MQCpsnnn
```

ここで、

- *p* は、メッセージの生成元です。
 - A: **mqiptAdmin** コマンド
 - P: MQIPT
- *s* はメッセージの重大度です。
 - I: 情報
 - W: 警告
 - E: エラー
- *nnn* は、3桁のメッセージ番号です。

メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert_1>、<insert_2> などによって表されています。

MQCAxxxx: 管理クライアント・メッセージ

MQCAE001 不明なホスト: <insert_1>

説明:

MQIPT ホストが見つかりません。

ユーザーの処置:

ホスト名が正しく指定されていることを確認します。ホスト名の PING の実行かホストの IP アドレスの使用を試してください。

MQCAE002 以下のエラーがシステムから報告されました: <insert_1>

説明:

MQIPT との通信中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

エラー・メッセージのテキストを確認し、適切なアクションを実行してください。

MQCAE023 MQIPT がパスワードを認識しませんでした

説明:

管理コマンドを MQIPT に発行するときに、誤ったパスワードが指定されました。

ユーザーの処置:

管理コマンドを MQIPT に発行するとき、正しいパスワードを入力したことを確認してください。

MQCAE024 MQIPT <insert_1> がコマンドを認識しませんでした。

説明:

MQIPT との通信中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置:

mqiptAdmin コマンドが、管理対象の MQIPT のインスタンスと同じバージョン以上であることを確認してく

ださい。この状態が持続する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

MQCAE026 リモート・シャットダウンは MQIPT <insert_1> 上では使用不能です。

説明:

MQIPT はシャットダウン要求を受け取りましたが、リモート・シャットダウンが有効になっていないため、続行できません。

ユーザーの処置:

MQIPT のリモート・シャットダウンを有効にするには、構成ファイルを編集して、**RemoteShutDown** プロパティを真に設定します。

MQCAE057 指定されたポート番号が無効です

説明:

コマンドのパラメーターとして無効なポート番号が指定されました。

ユーザーの処置:

コマンド・パラメーターに有効なポート番号を指定してください。

MQCAE058 <insert_1> という名前を持つ MQIPT のローカル・インスタンスが見つかりません

説明:

示された名前の MQIPT のアクティブ・ローカル・インスタンスが **mqiptAdmin** コマンドによって検出されませんでした。

ユーザーの処置:

mqiptAdmin コマンドのパラメーターとして、MQIPT のアクティブ・インスタンスの名前を指定します。MQIPT のインスタンスは、**mqiptAdmin** と同じユーザー ID でローカル・マシン上で実行されている必要があ

ります。また、AIX and Linux の場合は、**mqiptAdmin** を **root** として実行することもできます。MQIPT のアクティブなローカル・インスタンスをリストするには、**mqiptAdmin** コマンドの **-list** オプションを使用します。

MQCAE059 **MQIPT <insert_1> は既にシャットダウン中です**

説明:

コマンドが MQIPT に送信されましたが、MQIPT インスタンスは既にシャットダウン中です。

MQCAE060 **ローカル管理は無効です**

説明:

コマンドが MQIPT のローカル・インスタンスに送信されましたが、ローカル管理は無効になっています。

ユーザーの処置:

LocalAdmin プロパティを使用してローカル管理を有効にするか、コマンド・ポートを使用して MQIPT を管理します。

MQCAE061 **MQIPT への TLS 接続を確立中にエラーが発生しました: <insert_1>**

説明:

mqiptAdmin コマンドが MQIPT への TLS 接続を確立しようとしたときに、エラーが発生しました。このメッセージの後に、スローされた例外の詳細が続きます。

ユーザーの処置

メッセージに含まれる例外の詳細を検討します。

mqiptAdmin コマンドの TLS 構成が正しいことを確認してください。

- プロパティ・ファイルには、**mqiptAdmin** がリモート MQIPT インスタンスの ID を検証するために使用するトラストストアの名前と、トラストストアにアクセスするためのパスワードが含まれている必要があります。
- **mqiptAdmin** によって使用されるトラストストアには、MQIPT サーバー証明書に署名した CA の CA 証明書が含まれている必要があります。

MQCAE062 **プロパティ <insert_2> に指定されているファイル <insert_1> が存在しないか、読み取ることができません。**

説明:

mqiptAdmin プロパティ・ファイル内のプロパティが、存在しないファイルまたはディレクトリを参照しています。

ユーザーの処置:

プロパティ・ファイルを編集して、ファイルまたはディレクトリの正しい場所を指定してください。

MQCAE063 **プロパティ・ファイル <insert_1> が存在しないか、読み取ることができません。**

説明:

-p パラメーターで **mqiptAdmin** に指定されたプロパティ・ファイルが存在しないか、読み取ることができません。

ユーザーの処置:

プロパティ・ファイルの名前が **-p** パラメーターで正しく指定されていること、および **mqiptAdmin** コマンドを実行しているユーザーがそのファイルを読み取ることができることを確認してください。

MQCAE064 **プロパティ・ファイル <insert_1> の読み取り中にエラーが発生しました。**

説明:

-p パラメーターで **mqiptAdmin** に指定されたプロパティ・ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

プロパティ・ファイルの名前が **-p** パラメーターで正しく指定されていること、および **mqiptAdmin** コマンドを実行しているユーザーがそのファイルを読み取ることができることを確認してください。

MQCAE065 **MQIPT <insert_1> がシャットダウンしました。**

説明:

MQIPT は、**mqiptAdmin** によって発行されたコマンドの処理中にシャットダウンしました。

MQCAE066 **MQIPT コマンド・レベル <insert_1> は mqiptAdmin バージョン <insert_2> によってサポートされていません。**

説明:

mqiptAdmin コマンドは、このバージョンの **mqiptAdmin** ではサポートされないコマンド・レベルの MQIPT のインスタンスに接続されています。

ユーザーの処置:

mqiptAdmin コマンドのバージョンが、常に接続先の MQIPT のインスタンスのバージョン以上になるようにしてください。

MQCAI025 **MQIPT <insert_1> がリフレッシュされました。**

説明:

MQIPT は、その構成ファイルを読み取ることによって更新されています。

MQCAI026 **MQIPT <insert_1> がシャットダウン要求を受信しました。**

説明:

MQIPT はシャットダウン要求の受信を確認しました。シャットダウンされます。

MQCAI105 <insert_1> コマンドを <insert_2> という名前前で MQIPT インスタンスに送信しています。

説明:
mqiptAdmin は、示されたコマンドを、示された名前を持つ MQIPT のローカル・インスタンスに送信しています。

MQCAI106 MQIPT のローカル・アクティブ・インスタンス:

説明:
このメッセージは、**mqiptAdmin** コマンドによって表示され、MQIPT のローカル・アクティブ・インスタンスをリストします。

MQCAI107 MQIPT のローカル・アクティブ・インスタンスがありません

説明:
mqiptAdmin コマンドは、**mqiptAdmin** コマンドと同じユーザー ID で実行されている MQIPT のローカル・アクティブ・インスタンスを検出できませんでした。

MQCAI108 コマンド・ポートが TLS で保護されている場合は、セキュア接続を有効

MQCPxxxx: MQIPT メッセージ

MQCPA104 <insert_1> の MQIPT サーバーからのコマンドが完了しました。

説明:
mqiptAdmin コマンドによって送信されたコマンドは、MQIPT によって受け入れられ、実行されます。

MQCPE001 ディレクトリが存在しないか、ディレクトリ <insert_1> ではありません。

説明:
MQIPT 初期化時に、必要なディレクトリが見つかりませんでした。このメッセージは、MQIPT 構成ファイル **mqipt.conf** 内、またはデフォルト・ディレクトリーの MQIPT コマンドライン始動オプションのどちらかに指定されたディレクトリを指しています。

ユーザーの処置:
正しいディレクトリを指定して、コマンドを再試行してください。

MQCPE004 経路の開始がポート <insert_1> 上で失敗しました。

説明:
指定された **ListenerPort** 番号で経路を開始することができませんでした。

ユーザーの処置:

にするために **-s** パラメーターを指定する必要があります。

説明:
mqiptAdmin コマンドは非セキュア接続を使用して MQIPT に接続されましたが、コマンド・ポートが TLS で保護されていることを示す応答を受け取りました。

ユーザーの処置:
TLS を使用して MQIPT に接続するには、**mqiptAdmin** コマンドに **-s** パラメーターを指定します。

MQCAI109 MQIPT への接続は <insert_1> で保護されています。

説明:
mqiptAdmin コマンドが MQIPT に接続されました。その接続は示されたプロトコルを使用して保護されません。

MQCAW001 MQIPT への接続は保護されていません。

説明:
mqiptAdmin コマンドが非セキュア接続を使用して MQIPT に接続されました。

ユーザーの処置:
処置は不要。TLS を使用して MQIPT に安全に接続するには、**mqiptAdmin** コマンドに **-s** パラメーターを指定します。

経路の開始中に I/O エラーが発生しました。この問題について詳細に説明している他の隣接エラー・メッセージおよびログ・レコードを確認してください。

MQCPE005 構成ファイル <insert_1> が見つかりません。

説明:
指定されたディレクトリに MQIPT 構成ファイル **mqipt.conf** が見つかりませんでした。

ユーザーの処置:
正しいディレクトリを指定して、コマンドを再試行してください。

MQCPE006 経路の数が <insert_1> を超えました。MQIPT は開始されますが、この構成はサポートされません

説明:
構成が、MQIPT の 1 つのインスタンスでサポートされる最大経路数を超過しています。操作は停止しませんが、結果としてシステムが不安定になったり、過負荷になったりする可能性があります。指定されている最大経路数を超えた構成はサポートされません。

ユーザーの処置:
インスタンスあたりの経路数が少ない追加の MQIPT インスタンスを開始することを検討してください。

MQCPE007 リスナー・ポート <insert_1> 上で経路が再始動していません。

説明:

リフレッシュ操作中に、指定された **ListenerPort** 上で作動していた経路が新しい構成で再始動されませんでした。

ユーザーの処置:

この問題について詳細に説明している他の隣接エラー・メッセージを確認してください。

MQCPE008 リスナー・ポート <insert_1> に重複する経路が定義されています。

説明:

複数の経路が同じ **ListenerPort** 値で定義されています。

ユーザーの処置:

重複している経路を構成ファイルから削除して、コマンドを再試行してください。

MQCPE009 ログ・ディレクトリー <insert_1> が無効です。

説明:

示されているログ・ディレクトリーが存在しないか、アクセスできません。

ユーザーの処置:

このディレクトリーが存在し、MQIPT からアクセス可能であることを確認してください。

MQCPE010 リスナーまたはコマンド・ポート番号 <insert_1> が無効です。

説明:

コマンド・ポート用に指定されたポート・アドレスまたはリスナー・ポート・パラメーターが無効です。

ユーザーの処置:

使用できる有効な空きポート・アドレス指定してください。ネットワーク内のポート・アドレスの使用方法については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

MQCPE012 値 <insert_1> はプロパティー <insert_2> には無効です。

説明:

無効なプロパティー値が指定されました。

ユーザーの処置:

各プロパティーの有効な値の詳細については、IBM MQ Internet Pass-Thru 構成に関する参照情報を参照してください。

MQCPE013 **ListenerPort** プロパティーが経路 <insert_1> の中に見つかりません。

説明:

MQIPT が、**ListenerPort** プロパティーを含まない経路を構成ファイル内で検出しました。 **ListenerPort**

プロパティーは、各経路の 1 次 ID と固有 ID であるため、必須です。

ユーザーの処置:

指定された経路に有効な **ListenerPort** プロパティーを指定してください。

MQCPE014 **ListenerPort** プロパティーの値 <insert_1> が無効です。

説明:

経路の **ListenerPort** プロパティーに無効なポート・アドレスが指定されました。

ユーザーの処置:

ポート・アドレスは、1024 から 65535 の範囲である必要があります。構成ファイル内の各 **ListenerPort** を確認します。

MQCPE015 メッセージ番号 <insert_1> のテキストが見つかりません。

説明:

内部エラーが発生しましたが、それに対する説明がありません。

ユーザーの処置:

mqipt.properties ファイルが破損している可能性があり、指定されたメッセージ番号が見つかりませんでした。mqipt.properties ファイルが com.ibm.mq.ipt.jar ファイルにあること、またメッセージ番号がmqipt.properties ファイルにあることを確認してください。MQIPT_PATH 環境変数を使用している場合は、正しく設定されていることを確認してください。

MQCPE016 接続スレッドの最大数は <insert_1> ですが、接続スレッドの最小数である <insert_2> より小さい値になっています。

説明:

構成ファイルで、接続スレッドの最小数が、接続スレッドの最大数より大きな値で指定されています。

ユーザーの処置:

これは、単一の経路、グローバル・プロパティーと経路プロパティーの競合、または経路プロパティーによるシステム・デフォルト値の指定変更のエラーである可能性があります。各プロパティーの有効な値および適用可能なデフォルトの詳細については、[IBM MQ Internet Pass-Thru 構成に関する参照情報を参照してください](#)。

MQCPE017 例外 <insert_1> がスローされたため、MQIPT がシャットダウンされました。

説明:

MQIPT が異常終了し、シャットダウンされました。これは、メモリー・オーバーフローなどのシステム環境の状態または制約により発生した可能性があります。

ユーザーの処置:

この状態が持続する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

MQCPE018 **ListenerPort** プロパティがブランクです。経路は開始されません。

説明:
経路で **ListenerPort** 番号が省略されています。

ユーザーの処置:
構成ファイルを編集して、有効な **ListenerPort** を追加してください。

MQCPE019 スタンザ **<insert_1>** が次のものの前に見つかりません: **<insert_2>**

説明:
構成ファイル内でシーケンス・エラーが発生しました。

ユーザーの処置:
構成ファイルを編集して、すべての [route] スタンザが [global] スタンザの後にあることを確認します。

MQCPE020 **MaxConnectionThreads** の新しい値は **<insert_1>** です。これは、現行値 **<insert_2>** よりも大きくなければなりません

説明:
経路の開始後は、**MaxConnectionThread** プロパティのみを増やすことができます。

ユーザーの処置:
構成ファイルを編集して、**MaxConnectionThread** プロパティを変更します。

MQCPE021 宛先プロパティが経路 **<insert_1>** に提供されていません。

説明:
Destination プロパティは経路には必須ですが、指定された経路で省略されました。

ユーザーの処置:
構成ファイルを編集し、指定された経路の **Destination** プロパティを追加します。

MQCPE022 **<insert_1>** の値 **<insert_2>** が、有効な **1** から **65535** の範囲にありません

説明:
CommandPort または **SSLCommandPort** プロパティの値が **1** から **65535** の範囲外です。

ユーザーの処置:
構成ファイルを編集し、示されたプロパティの値を有効なポート番号に変更してください。

MQCPE023 リモート・シャットダウンが無効になっているため、**<insert_1>** の管理クライアントから **MQIPT** をシャットダウンする要求は無視されました

説明:

構成ファイルでリモート・シャットダウンが使用可能になっていないため、リモートでの **MQIPT** のシャットダウン試行が失敗しました。

ユーザーの処置:
MQIPT のリモート・シャットダウンを有効にするには、構成ファイルを編集して、**RemoteShutDown** プロパティを真に設定します。

MQCPE024 **MQIPT** コントローラーが受信したコマンドが認識されていません。

説明:
MQIPT コマンド・ポートが、認識できないコマンドを受け取りました。

ユーザーの処置:
mqipt.log ファイルでコマンドの ID を確認してください。

MQCPE025 ホスト **<insert_1>**、ポート **<insert_2>**: **<insert_3>** 上のサーバーへの接続に失敗しました

説明:
mqiptAdmin コマンドが、示されたネットワーク・アドレスおよびポート番号で **MQIPT** に接続できませんでした。

ユーザーの処置:
示されたポートで **MQIPT** コマンド・ポートが listen するように構成されていること、および示されたホスト上で **MQIPT** が実行されていることを確認してください。**MQIPT** コンソール・ログで、コマンド・サーバーの開始時に発生したエラーがないか確認してください。

MQCPE026 ホスト **<insert_1>**、ポート **<insert_2>** 上のサーバーから応答がありません。

説明:
mqiptAdmin コマンドは、**MQIPT** からの応答を受信しませんでした。これは、要求がタイムアウトになった場合、または **MQIPT** に問題がある場合に発生する可能性があります。

ユーザーの処置:
MQIPT コンソール・ログと接続ログで、追加のエラー・メッセージがないか確認してください。

MQCPE027 **MQIPT** からの応答が認識されません。

説明:
mqiptAdmin コマンドが **MQIPT** からの応答を受信しましたが、それは認識されませんでした。

ユーザーの処置:
mqiptAdmin コマンドが、接続先の **MQIPT** のインスタンスと同じバージョン、またはそれより上位のバージョンであることを確認してください。

MQCPE028 無効なスタンザが検出されました: **<insert_1>**

説明:

示されている認識されないスタンザが構成ファイルで見つかりました。

ユーザーの処置:

構成ファイルでは、[global]と[route]スタンザのみが有効です。

MQCPE029 ログ出力をフラッシュすることができませんでした。

説明:

通信バッファをフラッシュできなかったため、一部のメッセージがログに書き込まれなかった可能性があります。

ユーザーの処置:

MQIPT ホーム・ディレクトリー・ファイル・システムがフルではないこと、また MQIPT に logs サブディレクトリーへの書き込みアクセス権限があることを確認してください。

MQCPE034 <insert_1> の管理クライアントが正しいパスワードを提供しませんでした。

説明:

構成ファイル内の **AccessPW** プロパティが、管理クライアントによって提供されたプロパティと一致しませんでした。

ユーザーの処置:

構成ファイル内の **AccessPW** プロパティを変更するか、管理クライアントに保存されているパスワードを変更してください。

MQCPE035 ポート <insert_1> 上のコマンド・リスナーの開始に失敗しました。

説明:

指定されたポート上のコマンド・ポート・リスナーの開始時に I/O エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

構成ファイルの **CommandPort** プロパティに使用されているポート番号を確認してください。

MQCPE042 経路 <insert_1> で以下のプロパティが競合しています。

説明:

一部のプロパティは、他のプロパティと同時に使用できません。このメッセージの後に、競合しているプロパティのリストが続きます。

ユーザーの処置:

以下のエラー・メッセージを確認し、適切なアクションを実行してください。

MQCPE043<insert_1> および <insert_2>

説明:

指定された 2 つのプロパティの両方を、同じ経路上で同時に設定することはできません。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、所定の経路において、指定されたプロパティのうちの 1 つを除去してください。

MQCPE045HTTP プロキシ名またはサーバー名が欠落しています

説明:

HTTP プロパティが真に設定されている場合は、**HTTProxy** プロパティまたは **HTTPServer** プロパティを設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の **HTTProxy** または **HTTPServer** を定義してください。

MQCPE048 経路の開始がポート <insert_1> 上で失敗しました。例外は <insert_2> です。

説明:

指定された **ListenerPort** 番号で経路を開始することができませんでした。

ユーザーの処置:

この問題について詳細に説明している他の隣接エラー・メッセージおよびログ・レコードを確認してください。

MQCPE049 Java security manager <insert_1> の開始中または停止中にエラー

説明:

Java security manager の開始または停止の試行中に例外がスローされました。

ユーザーの処置:

Java security manager は以前に使用可能になっていますが、実行時権限が使用可能になっていません。

RuntimePermission for setSecurityManager をローカル・ポリシー・ファイルに追加します。変更内容を有効にするには、MQIPT を再始動する必要があります。

MQCPE050 コマンド・ポート <insert_1> でセキュリティ例外が発生しました。必要な許可は <insert_2> です。

説明:

指定されたコマンド・ポートの MQIPT コマンド・サーバーはコマンド・ポート上で listen するか接続を受け入れようとしたが、指定された許可が Java security manager ポリシーで付与されていなかったため、セキュリティ例外がスローされました。この例外は、MQIPT には指定のコマンド・ポートで listen する許可がないこと、または MQIPT には指定のホストからの接続を受け入れる許可がないことを示している場合があります。

ユーザーの処置

以下のアクションの **java.net.SocketPermission** 許可が Java security manager ポリシーで付与されていることを確認します。

- コマンド・ポートのローカル・ポート番号上の `listen`。
- コマンド・ポートへの接続を許可する任意のホストからの `accept` 接続。

ポリシーの変更を有効にするには、MQIPT をリフレッシュまたは再始動して Java security manager を再始動する必要があります。

MQCPE051 経路 <insert_1> 上で接続を受け入れ中にセキュリティ例外が起きました。

説明:

指定された経路上で接続を受け入れ中にセキュリティ例外がスローされました。

ユーザーの処置:

Java security manager は以前に使用可能になっていますが、エラー・メッセージで特定されているホストに対する許可が付与されていません。ホストがこの経路で接続できるようにするには、**SocketPermission** を追加して、経路 **ListenerPort** プロパティーで指定されたポートの接続を受け入れ/解決します。変更を有効にするには、Java security manager を再始動する必要があります。

MQCPE052 経路 <insert_1> 上での接続要求が失敗しました : <insert_2>

説明:

このメッセージは、接続要求のセキュリティ例外を記録するために接続ログ内に出されます。

ユーザーの処置:

Java security manager は以前に使用可能になっていますが、エラー・メッセージで特定されているホストに対する許可が付与されていません。ホストがこの経路で接続できるようにするには、**SocketPermission** を追加して、経路 **ListenerPort** プロパティーで指定されたポートの接続を受け入れ/解決します。変更を有効にするには、Java security manager を再始動する必要があります。

MQCPE053 <insert_1><insert_2> への接続の確立中にセキュリティ例外が発生しました。

説明:

指定された経路上の接続の確立中にセキュリティ例外がスローされました。

ユーザーの処置:

Java security manager は以前に使用可能になっていますが、エラー・メッセージで特定されているターゲットに対する許可が付与されていません。MQIPT がこの経

路上のターゲットに接続できるようにするには、

SocketPermission を追加して、経路 **ListenerPort** プロパティーで指定されたポートの接続/解決接続を行います。変更を有効にするには、Java security manager を再始動する必要があります。

MQCPE054 <insert_1><insert_2> への接続要求が失敗しました : <insert_3>

説明:

このメッセージは、ターゲット・ホストへの接続要求のセキュリティ例外を記録するために接続ログ内に出されます。

ユーザーの処置:

Java security manager は以前に使用可能になっていますが、エラー・メッセージで特定されているターゲット・ホストへの接続を確立するための許可が付与されていません。MQIPT がターゲット・ホストに接続できるようにするには、**SocketPermission** を追加して、経路 **ListenerPort** プロパティーで指定されたポートの接続を接続/解決します。変更を有効にするには、Java security manager を再始動する必要があります。

MQCPE055Socks プロキシ名がありません

説明:

SocksClient プロパティーが `true` に設定されている場合は、**SocksProxy** プロパティーを設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の **SocksProxy** を定義します。

MQCPE056 経路のプロパティーと競合していません。

説明:

一部のプロパティーは、他のプロパティーと同時に使用できません。

ユーザーの処置:

エラーの詳細についてコンソール・メッセージを確認して、適切なアクションを実行してください。

MQCPE057 SSL プロトコル (<insert_1>) が認識されません。

説明:

経路は SSL/TLS プロキシ・モードに入っており、初期データ・フローが認識されません。

ユーザーの処置:

SSL/TLS 接続のみがこの経路に確立されていることを確認してください。

MQCPE058 <insert_1><insert_2> を介した <insert_3><insert_4> への **CONNECT** 要求が失敗しました

説明:

HTTP サーバーへの SSL トンネルを作成するための HTTP **CONNECT** 要求が HTTP プロキシに送信されま

した。HTTP プロキシはこの要求に対して「200 OK」応答を返しませんでした。

ユーザーの処置:

これは、さまざまな問題が原因となり得ます。経路上のトレースを使用可能にして、接続を再試行してください。トレース・ファイルに実際のエラーが示されます。

MQCPE059 鍵リング・ファイルが定義されていません。

説明:

SSL クライアントまたはサーバーが、少なくとも 1 つの鍵リング・ファイルを指定せずに定義されています。

ユーザーの処置:

クライアント・サイドの **SSLClientKeyRing** プロパティと **SSLClientCAKeyRing** プロパティ、またはサーバー・サイドの **SSLServerKeyRing** プロパティと **SSLServerCAKeyRing** プロパティを使用して、鍵リング・ファイルを定義してから、経路を再始動します。

MQCPE060 SSL クライアント接続タイムアウトを <insert_1> 秒に設定中に実行時エラーが起きました。

説明:

タイムアウト値の設定中に、クライアント・サイドで SSL 実行時エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

SSLClientConnectTimeout プロパティに指定された値が有効であることを確認してください。所定の経路でトレースを実行すると、詳細なエラー情報が示されます。

MQCPE061 使用可能な暗号スイートがありません。

説明:

SSL クライアントまたはサーバー接続は開始していますが、MQIPT は有効な暗号スイートを特定できません。

ユーザーの処置:

定義された鍵リング・ファイル内に有効な証明書が存在することを確認してください。証明書を生成するために使用される秘密鍵と公開鍵、および使用される暗号化アルゴリズムは、サポートされる暗号スイートのリストに準拠する必要があります。MQIPT でサポートされる暗号スイートのリストについては、[MQIPT でサポートされる CipherSuites](#) を参照してください。

MQCPE062 SSL 暗号スイート <insert_1> を設定中に実行時エラーが起きました。

説明:

クライアント・サイドまたはサーバー・サイドで、サポートされない SSL 暗号スイートが定義されています。

ユーザーの処置:

SSLClientCipherSuites または **SSLServerCipherSuites** に指定された値が有効で

あり、この接続でサポートされていることを確認してください。所定の経路でトレースを実行すると、使用可能な暗号スイートのリストが示されます。MQIPT でサポートされる暗号スイートのリストについては、[MQIPT でサポートされる CipherSuite](#) を参照してください。

MQCPE063 ファイル <insert_1> は既に存在します。replace オプションを使ってください。

説明:

mqiptPW コマンドに対して指定されたファイル名パラメーターが既に存在しています。

ユーザーの処置:

別のファイル名を選択するか、replace オプションを使用してください。

MQCPE064 暗号解除鍵の生成中に実行時エラーが起きました :%n <insert_1>

説明:

鍵リング・ファイルを開くために使用されるパスワードを暗号解除するための暗号鍵の生成中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

メッセージにリストされた実行時エラーを修正して、コマンドを再実行してください。

MQCPE065 LDAP サーバー名がありません

説明:

LDAP プロパティが真に設定されている場合は、**LDAPServer1** プロパティまたは **LDAPServer2** プロパティを設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の **LDAPServer*** を定義します。

MQCPE066 LDAP サーバー <insert_1> の LDAP パスワードがありません。

説明:

メインまたはバックアップ LDAP サーバーの LDAP ユーザー ID が、パスワードを指定せずに指定されています。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、所定の経路の LDAP パスワードを定義してください。 **LDAPServer1Password** プロパティはメイン・サーバー用で、 **LDAPServer2Password** プロパティはバックアップ・サーバー用です。

MQCPE067 LDAP サーバーの SSLClient または SSLServer がありません

説明:

LDAP プロパティが true に設定されている場合は、 **SSLClient** または **SSLServer** プロパティを設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の **SSLClient** または **SSLServer** を定義してください。

MQCPE068セキュリティー出口名がありません

説明:

SecurityExit プロパティが真に設定されている場合は、**SecurityExitName** プロパティを設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の **SecurityExitName** を定義します。

MQCPE071 <insert_1> への書き込みエラー

説明:

暗号化されたパスワードが含まれるファイルの作成または更新中にエラーが発生しました。このエラー・メッセージには、スローされた例外も含まれています。

ユーザーの処置:

このエラーは、**mqiptPW** コマンドから生成されます。例外にリストされたエラーを修正して、コマンドを再実行してください。

MQCPE072 セキュリティー出口 <insert_1> で不明のエラーが起きました。

説明:

接続要求の検証中に、ユーザー定義セキュリティー出口でエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

セキュリティー出口でトレースを使用可能にして、接続要求を再試行してください。セキュリティー出口トレース・ファイルにエラーが記録されます。

MQCPE073 セキュリティー出口 <insert_1> がタイムアウトしました。

説明:

接続要求の検証中に、ユーザー定義セキュリティー出口がタイムアウトしました。

ユーザーの処置:

セキュリティー出口のタイムアウト期間を延長して、接続要求を再試行してください。

MQCPE074証明書出口名がありません

説明:

SSLClientExit または **SSLServerExit** プロパティが真に設定されている場合は、**SSLExitName** プロパティを設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の **SSLExitName** を定義します。

MQCPE075SSLPlainConnections では、SSLServer または SSLProxyMode を有効にする必要があります。

説明:

SSLClientExit または **SSLServerExit** プロパティが真に設定されている場合は、**SSLExitName** プロパティを設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、指定された経路の **SSLExitName** を定義します。

MQCPE076 経路 <insert_1> のプロパティ <insert_2> にサポートされない CipherSuites が含まれています。次の CipherSuites はサポートされません: <insert_3>

説明:

少なくとも1つのサポートされない暗号スイートが **SSLClientCipherSuites** または **SSLServerCipherSuites** プロパティに含まれていました。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、サポートされない暗号スイートを経路構成から削除してください。

MQCPE077 経路 <insert_1> のプロパティ <insert_2> はファイル・ロケーション <insert_3> を指定していますが、これは存在しません。

説明:

経路のプロパティが存在しないファイルまたはディレクトリを参照しています。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、ファイルまたはディレクトリの正しい場所を指定してください。

MQCPE078 経路 <insert_1> のプロパティ <insert_2> はファイル・ロケーション <insert_3> を指定していますが、これを読み取ることができません。

説明:

経路のプロパティが、読み取ることができないファイルを参照しています。

ユーザーの処置:

MQIPT でそれを読み取る操作がファイル許可で許可されていることを確認してください。

MQCPE079 経路 <insert_1> のサイト証明書ラベル <insert_2> が鍵リング・ファイル <insert_3> 内に見つかりませんでした。

説明:

指定された経路の定義にサイト証明書ラベルが指定されましたが、そのラベルの個人証明書が鍵リング・ファイルに見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

正しいサイト証明書ラベルが指定されていること、およびそのラベルを持つ個人証明書が適切な鍵リングに存在することを確認してください。

MQCPE080 MQIPT インストール・ディレクトリを判別できません。
MQIPT_PATH 環境変数を最上位 MQIPT ディレクトリーの絶対パスに設定してください。

説明:

MQIPT コマンドはインストール・ディレクトリを判別できませんでした。

ユーザーの処置:

MQIPT_PATH 環境変数を最上位の MQIPT ディレクトリーの絶対パスに設定します。

MQCPE081 MQIPT_PATH <insert_1> は無効です。ディレクトリが存在しないか、または有効な MQIPT インストール済み環境が含まれていません。

説明:

MQIPT_PATH 環境変数が正しく設定されていません。ディレクトリが存在しないか、ディレクトリが MQIPT インストールではありません。

ユーザーの処置:

MQIPT_PATH 環境変数が正しく設定されていることを確認し、コマンドを再実行してください。

MQCPE082 サービスが既にインストールされているため、MQIPT サービスをインストールできません。同時にインストールできる MQIPT サービスは 1 つのみです。

説明:

ユーザーが MQIPT サービスをインストールしようとしたのですが、MQIPT サービスは既にインストールされています。システムに同時にインストールできる MQIPT サービスは 1 つのみです。

ユーザーの処置:

必要な経路を既存の MQIPT サービス構成にマージするか、既存のサービスを削除して代わりに新しいサービスをインストールしてください。

MQCPE083 インストールされているサービスは現在の MQIPT インストールによりインストールされたものではないため、MQIPT サービスを削除できません。このサービスをインストールした MQIPT インストールから mqiptService を実行してください。

説明:

MQIPT サービスは、そのサービスをインストールした本来の MQIPT インストールを使用した場合のみ削除できます。このエラーは、システム上に複数の MQIPT インストールがあり、対象となる MQIPT サービスをインストールした本来のインストールとは別のインストー

ルを使用してそのサービスを削除しようとした場合に発生します。

ユーザーの処置:

正しい MQIPT インストール済み環境からコマンド **mqiptService -remove** を実行します。

MQCPE084 MQIPT サービスはインストールされていません。

説明:

ユーザーは MQIPT サービスを削除しようとしたのですが、MQIPT サービスはインストールされていません。

MQCPE085 Java security manager policy\n<insert_1> のリフレッシュ中にエラー

説明:

Java security manager ポリシーのリフレッシュの試行中に例外がスローされました。

ユーザーの処置:

エラーの原因を調査して、更新されたポリシー・ファイルが正しい構文であることを確認してください。

MQCPE086 エラー <insert_3> のため、経路 <insert_2> のセキュリティー出口 <insert_1> の初期化に失敗しました。

説明:

セキュリティー出口初期化メソッドが予期しないエラーを返しました。これにより経路を開始できません。

ユーザーの処置:

エラーの原因を調査して、経路を再始動してください。

MQCPE087 エラー <insert_3> のため、経路 <insert_2> のセキュリティー出口 <insert_1> のロードに失敗しました。

説明:

セキュリティー出口をロードできませんでした。これにより経路を開始できません。

ユーザーの処置:

出口ロード・エラーの原因を調査して、経路を再始動してください。

MQCPE088 エラー <insert_3> のため、経路 <insert_2> の証明書出口 <insert_1> の初期化に失敗しました。

説明:

証明書出口初期化メソッドが予期しないエラーを返しました。これにより経路を開始できません。

ユーザーの処置:

エラーの原因を調査して、経路を再始動してください。

MQCPE089 エラー <insert_3> のため、経路 <insert_2> の証明書出口

<insert_1> のロードに失敗しました。

説明:

証明書出口をロードできませんでした。これにより経路を開始できません。

ユーザーの処置:

出口ロード・エラーの原因を調査して、経路を再始動してください。

MQCPE090 セキュリティー出口は、戻りコード
<insert_1> およびエラー
<insert_2> で接続を拒否しました。

説明:

セキュリティー出口が経路リスナー・ポートへの接続を拒否しました。

ユーザーの処置:

出口によって返されたエラーを調査してください。

MQCPE091 **SSLClient** 証明書出口は、戻りコード
<insert_1> およびエラー
<insert_2> で接続を拒否しました。

説明:

SSL クライアント証明書出口がリモート・サーバー証明書を拒否しました。

ユーザーの処置:

出口によって返されたエラーを調査してください。

MQCPE092 **SSLServer** 証明書出口は、戻りコード
<insert_1> およびエラー
<insert_2> で接続を拒否しました。

説明:

SSL サーバー証明書出口がリモート・クライアント証明書を拒否しました。

ユーザーの処置:

出口によって返されたエラーを調査してください。

MQCPE093 グローバル・プロパティー
<insert_1> はファイル・ロケーション
<insert_2> を指定していますが、
これは存在しません。

説明:

グローバル・プロパティーが存在しないファイルまたはディレクトリーを参照しています。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集して、ファイルまたはディレクトリーの正しい場所を指定してください。

MQCPE094 グローバル・プロパティー
<insert_1> はファイル・ロケーション
<insert_2> を指定していますが、
これは読み取ることができません。

説明:

グローバル・プロパティーが、読み取ることができないファイルを参照しています。

ユーザーの処置:

MQIPT でそれを読み取る操作がファイル許可で許可されていることを確認してください。

MQCPE095 **MQIPT** インストール・ディレクトリー
<insert_1> には、このプラットフォーム上のスペースを含めることはできません。

説明:

MQIPT インストール・ディレクトリーにスペース文字が含まれています。これは、AIX でも Linux でもサポートされていません。

ユーザーの処置:

インストール・ディレクトリーの名前を変更して、スペースが含まれないようにしてください。

MQCPE096 **TCP** キープアライブを使用可能にするときにエラーが発生しました。

説明:

TCP キープアライブ経路プロパティーが設定されていますが、MQIPT は TCP キープアライブを使用可能にできませんでした。

ユーザーの処置:

障害の原因を調査するか、TCP キープアライブを使用不可にしてください。

MQCPE097 **HTTPS** 通信の場合、**SSLClient** は
true でなければなりません。

説明:

HTTPS が真に設定されている場合は、**SSLClient** プロパティーを真に設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集し、指定された経路の真として **SSLClient** を定義します。

MQCPE098 **SSLClient** と **HTTP** の両方が **true**
に設定されている場合、**HTTPS** を
true にする必要があります。

説明:

HTTP および **SSLClient** が真に設定されている場合は、**HTTPS** プロパティーを真に設定する必要があります。

ユーザーの処置:

構成ファイルを編集し、指定された経路の真として **HTTPS** を定義します。

MQCPE099 経路 <insert_2> 上の <insert_1> では、**MQ Advanced** の機能が有効になっていることが必要です

説明:

経路に指定されたプロパティーの1つについて、IBM MQ Advanced の拡張機能が必要とされています。しかし、それらの機能が有効になっていません。

ユーザーの処置:

IBM MQ Advanced、IBM MQ Advanced for z/OS、IBM MQ Advanced for z/OS VUE、または IBM MQ Appliance のライセンスがある場合は、

EnableAdvancedCapabilities プロパティを使用して IBM MQ Advanced の拡張機能を有効にします。経路で IBM MQ Advanced 機能を使用するには、その経路を使用して接続されているローカル・キュー・マネージャーにも、IBM MQ Advanced、IBM MQ Advanced for z/OS、IBM MQ Advanced for z/OS VUE、または IBM MQ Appliance のライセンスが必要です。

MQCPE100 経路 <insert_1> のサイト証明書ラベル <insert_2> が、暗号化ハードウェア鍵ストア <insert_3> 内に見つかりませんでした。

説明:

指定された経路の定義にサイト証明書ラベルが指定されましたが、そのラベルの個人証明書が暗号ハードウェア鍵ストアに見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

正しいサイト証明書ラベルが指定されていること、およびそのラベルを持つ個人証明書が鍵ストアに存在することを確認してください。

MQCPE101 指定されたパスワード保護モードが無効です。

説明:

mqiptPW コマンドのパラメーターとして無効なパスワード保護モードが指定されました。

ユーザーの処置:

有効な保護モードを指定して、**mqiptPW** コマンドを再実行してください。

MQCPE102 暗号鍵ファイルはパスワード保護モード <insert_1> と共に指定できません。

説明:

パスワード暗号鍵ファイルが **mqiptPW** コマンドのパラメーターとして指定されましたが、指定されたパスワード保護モードと共に暗号鍵を使用することはできません。

ユーザーの処置:

有効なパラメーターの組み合わせを指定して、**mqiptPW** コマンドを再実行してください。

MQCPE103 暗号鍵ファイル <insert_1> が存在しないか、読み取ることができません

説明:

MQIPT または **mqiptPW** コマンドで使用するために暗号鍵ファイルが指定されましたが、そのファイルは存在していないか、またはそのファイルにアクセスできません。

ユーザーの処置:

暗号鍵ファイルが存在し、MQIPT または **mqiptPW** コマンドを実行しているユーザーにそのファイルの読み取り権限があり、正しい暗号鍵ファイルが指定されていることを確認してください。

MQCPE104 パスワード <insert_1> を暗号化中にエラーが発生しました

説明:

パスワードを暗号化中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

このメッセージに続く例外でエラーの原因を調査してください。

MQCPE105 暗号化鍵ファイル <insert_1> の読み取り中にエラーが発生しました

説明:

パスワード暗号化鍵ファイルを読み取り中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

正しい暗号鍵ファイルが指定されていること、およびそのファイルが MQIPT または **mqiptPW** コマンドを実行するユーザーによって読み取り可能であることを確認してください。

MQCPE106 プロパティ <insert_1> のパスワードを復号中にエラーが発生しました

説明:

指定されたプロパティの暗号化されたパスワードを復号できませんでした。

ユーザーの処置:

プロパティの値、またはプロパティが参照するファイルの内容が、このバージョンの MQIPT でサポートされるパスワード保護モードを指定して **mqiptPW** コマンドを実行した場合の出力であることを確認してください。

MQCPE107 暗号化パスワード・ファイル <insert_1> の読み取り中にエラーが発生しました

説明:

暗号化されたパスワードを含むファイルを読み取り中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

正しいパスワード・ファイルが指定されていること、およびそのファイルが MQIPT を実行するユーザーによって読み取り可能であることを確認してください。

MQCPE108 プロパティ <insert_1> はプロパティ <insert_2> と共に指定できません

説明:

ここに示されている 2 つのプロパティは、MQIPT 構成にその両方を指定することができません。

ユーザーの処置:

MQIPT 構成を編集して、示されているプロパティのいずれか1つのみ指定してください。

MQCPE109 暗号鍵ファイル <insert_1> が正しい形式ではありません。

説明:

指定されたパスワード暗号鍵ファイルの内容が正しい形式ではありません。

ユーザーの処置:

パスワード暗号鍵ファイルに少なくとも1文字が含まれ、1行のテキストしか含まれていないことを確認してください。

MQCPE110 名前が <insert_1> の MQIPT は既にアクティブです

説明:

MQIPT は、ローカル・マシン上で既にアクティブになっている同じ名前の MQIPT のインスタンスがあるため、開始できません。

ユーザーの処置:

開始する MQIPT のインスタンスに固有の名前を指定して、MQIPT を開始するコマンドを発行します。

MQCPE111 ローカル管理を使用できません

説明:

コマンド・ポートを使用しないで MQIPT のローカル・インスタンスを管理することができません。

ユーザーの処置:

MQIPT インストール済み環境が破損していないこと、および MQIPT または **mqiptAdmin** コマンドの開始時に使用された Java runtime environment が MQIPT で提供されているものであることを確認してください。問題が解決しない場合には、IBM サービス担当員に連絡してください。

MQCPE112 コマンド・ポート <insert_1> のサイト証明書ラベル <insert_2> が鍵リング・ファイル <insert_3> 内に見つかりませんでした。

説明:

指定されたポートで listen しているコマンド・サーバーに対してサイト証明書ラベルが指定されましたが、そのラベルの個人証明書が鍵リング・ファイルに見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

正しいサイト証明書ラベルが指定されていること、およびそのラベルを持つ個人証明書が適切な鍵リングに存在することを確認してください。

MQCPE113 コマンド・ポート <insert_1> のサイト証明書ラベル <insert_2> が暗号化ハードウェア鍵ストア <insert_3> 内に見つかりませんでした。

説明:

指定されたポートで listen しているコマンド・サーバーに対してサイト証明書ラベルが指定されましたが、そのラベルの個人証明書が暗号ハードウェア鍵ストアに見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

正しいサイト証明書ラベルが指定されていること、およびそのラベルを持つ個人証明書が鍵ストアに存在することを確認してください。

MQCPE114 <insert_1> では、MQ Advanced の機能が有効になっていることが必要です

説明:

指定されたプロパティの1つについて、IBM MQ Advanced の拡張機能が必要とされています。しかし、それらの機能が有効になっていません。

ユーザーの処置:

IBM MQ Advanced、IBM MQ Advanced for z/OS、IBM MQ Advanced for z/OS VUE、または IBM MQ Appliance のライセンスがある場合は、

EnableAdvancedCapabilities プロパティを使用して、IBM MQ Advanced の拡張機能を有効にします。

MQCPE115 ポート <insert_1> にあるコマンド・サーバーは、次のエラーのために開始しませんでした: <insert_2>

説明:

いずれかのコマンド・ポートにあるコマンド・サーバーは、示されたエラーのために開始しませんでした。

ユーザーの処置:

エラー・メッセージに示されている問題を修正してください。その後、リフレッシュ・コマンドを発行してコマンド・サーバーを再始動します。

MQCPE116 リフレッシュ中に構成エラーが検出されました

説明:

MQIPT は、リフレッシュ・プロセス中に、いくつかの構成プロパティの値でエラーを検出しました。このエラーの影響を受けるプロパティの有効な値が変更されていません。

ユーザーの処置:

先行するメッセージに示されている問題を修正してから、リフレッシュ・コマンドを再発行してください。

MQCPE117 無効なデータを受信しました

説明

MQIPT 経路が IBM MQ プロトコルに準拠していない無効データを受信しました。

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

ユーザーの処置:

MQIPT 経路リスナー・ポートへの接続が有効な IBM MQ 接続であることを確認してください。

MQCPE118 伝送長 <insert_1> が、最大伝送サイズ <insert_2> を超えています。

説明

MQIPT 経路によって受信されたデータの示す伝送長が、経路の最大伝送サイズを超えています。これは、データが無効であるか、IBM MQ プロトコルに準拠していないことを示している可能性があります。

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

ユーザーの処置:

IBM MQ のクライアントおよびキュー・マネージャーのみが MQIPT 経路リスナー・ポートに接続していることを確認してください。

MQCPE119 MQIPT サービスは、このオペレーティング・システムではサポートされていません。

説明:

MQIPT サービスは、オペレーティング・システムが System V init をサポートしていないため、このオペレーティング・システムではサポートされません。

ユーザーの処置:

MQIPT を自動的に開始するには、systemd on Linux などの別の方法を使用します。

MQCPE120 次のエラーのため、鍵リング <insert_1> をロードできませんでした: <insert_2>

説明:

示されたエラーのため、鍵リング・ファイルをロードできませんでした。

ユーザーの処置:

指定された鍵リングが PKCS #12 鍵リングであること、MQIPT を開始したユーザー ID がファイルへの読み取りアクセス権を持っていること、および MQIPT 構成が鍵リングの正しいパスワードを指定していることを確認してください。

MQCPE121 次のエラーのため、暗号ハードウェア鍵ストアをロードできませんでした: <insert_1>

説明:

示されたエラーのため、PKCS #11 暗号ハードウェア鍵ストアをロードできませんでした。

ユーザーの処置:

MQIPT を実行する Java runtime environment (JRE) が暗号ハードウェア鍵ストアにアクセスするように正しく構成されていること、および MQIPT 構成で暗号ハードウェア鍵ストアの正しいパスワードが指定されていることを確認してください。

MQCPI001 <insert_1> が開始しています

説明:

この MQIPT インスタンスが実行を開始しています。詳細な初期化メッセージが続きます。

MQCPI002 <insert_1> シャットダウン中

説明:

MQIPT がシャットダウンしようとしています。このシャットダウンは、**STOP** コマンドの結果生じる場合や、構成エラーのために正常な開始や **REFRESH** アクションが行われない場合に自動的に起こる場合もあります。

MQCPI003 <insert_1> シャットダウン完了

説明:

シャットダウン・プロセスが完了しました。すべての MQIPT プロセスが終了しています。

MQCPI004 <insert_1> から構成情報を読み取り中

説明:

MQIPT 構成ファイル **mqipt.conf** がこのメッセージに示されているディレクトリーから読み込まれていません。

MQCPI005 指定されたリスナー・ポートがアクティブではありません - <insert_1> -> <insert_2>(<insert_3>)

説明:

このメッセージで参照されている経路が非アクティブとしてマークされています。この経路では通信要求は一切受け入れられません。

MQCPI006 経路 <insert_1> が開始し、メッセージを次に転送します:

説明:

このポートで示されているリスナー・ポートで経路が開始されました。このメッセージの後に、この経路に関連するすべてのプロパティをリストした他のメッセージが続きます。経路が接続を受け入れることができる状態になると、メッセージ MQCPI078 が出されます。

MQCPI007 経路 <insert_1> は停止しました。

説明:

指定されたリスナー・ポートで作動していた経路がシャットダウンしようとしています。このアクションは、通常、**REFRESH** コマンドを MQIPT に発行し、経路構成が変更された場合に発生します。

MQCPI008 ローカル・アドレス <insert_2> 上のポート <insert_1> で制御コマンドを listen しています

説明:

この MQIPT インスタンスは、示されたポートでローカル・アドレスで制御コマンドを listen しています。アスタリスク (*) は、MQIPT がすべてのネットワーク・インターフェース上でコマンドを listen していることを示します。

MQCPI009 制御コマンドを受信しました:
<insert_1>

説明:

このメッセージは、制御コマンドがコマンド・ポートで受信されたことを示しています。該当する場合は、詳細がこのメッセージに含まれます。

MQCPI010 <insert_1> 上でコマンド・ポートを停止しています。

説明:

新しい構成では、**REFRESH** 操作時にこのコマンド・ポートは使用されません。コマンドは、指定されたポートで受信されません。

MQCPI011 ログ・ファイルの保管にパス
<insert_1> が使用されます。

説明:

現在の構成では、ロギング出力はこのメッセージに示されている場所へ送信されます。

ユーザーの処置:

構成が変更され、**REFRESH** 操作が要求された場合、これが変更される場合があります。

MQCPI012 経路の開始後は、
MinConnectionThreads の値を変えても効果はありません。

説明:

経路の開始時に接続スレッドの最小数が割り当てられます。この値は MQIPT が再始動するまで変更できません。

MQCPI013 <insert_1> からホスト <insert_2>
への接続がクローズされました。

説明:

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

MQCPI014 プロトコルの目印 (<insert_1>) は認識されません

説明:

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

MQCPI015 この経路ではクライアント・アクセスが使用できません。

説明:

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

MQCPI016 この経路ではキュー・マネージャー・アクセスが使用できません。

説明:

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

MQCPI017 <insert_1> 上のキュー・マネージャーがホスト <insert_2> に接続しました。

説明:

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

MQCPI018 <insert_1> 上のクライアントがホスト <insert_2> に接続しました。

説明:

このメッセージは、接続アクティビティを記録するために接続ログに出されます。

MQCPI019 <insert_1> 経路が作成されました。
これは、サポートされている経路の最大数である <insert_2> を超えています。

説明:

サポートされる最大経路数を超過しました。

ユーザーの処置:

MQIPT は引き続き作動しますが、2 番目の MQIPT インスタンスを作成して 2 つのインスタンス間で経路を分割することをお勧めします。

MQCPI021 コマンド・ポートでパスワード検査が使用可能になっています。

説明:

コマンド・ポートにアクセスするにはパスワードが必要です。

MQCPI022 コマンド・ポートでパスワード検査が使用不可にされています。

説明:

コマンド・ポートにアクセスするためにパスワードは必要ありません。コマンド・ポートでパスワード認証を構成するには、**RemoteCommandAuthentication** プロパティと **AccessPW** プロパティの両方を設定します。

MQCPI024および <insert_1>(<insert_2>) の HTTP プロキシ

説明:

このメッセージは、この経路の発信接続が HTTP プロキシを使用して確立されることを示しています。

MQCPI025 管理クライアント <insert_1> が要求したリフレッシュが終了しました。

説明:

REFRESH コマンドを受信した結果として、MQIPT は構成ファイルを読み取って再始動しています。

MQCPI026 管理クライアント <insert_1> がシャットダウンを要求しました。

説明:

STOP コマンドを受信した結果として、MQIPT はシャットダウンしています。

MQCPI027 <insert_1> コマンドがポート <insert_3> 上の <insert_2> の MQIPT に送信されました。

説明:

示されたコマンドは、管理クライアントによって、示されたネットワーク・アドレスおよびコマンド・ポートの MQIPT に送信されました。

MQCPI031暗号スイート <insert_1>

説明:

このメッセージは、この経路またはコマンド・ポートで使用されている暗号スイートをリストしています。

MQCPI032鍵リング・ファイル <insert_1>

説明:

このメッセージは、この経路またはコマンド・ポートの鍵リングのファイル名を示しています。

MQCPI033クライアント認証を <insert_1> に設定

説明:

このメッセージは、SSL サーバーがこの経路のクライアント認証を要求しているかどうかを定義します。

MQCPI034<insert_1>(<insert_2>)

説明:

このメッセージは、この経路の宛先および宛先ポート・アドレスを示しています。

MQCPI035 <insert_1> プロトコルの使用

説明:

このメッセージは、経路の宛先に対して使用されているプロトコルを示しています。

MQCPI036プロパティによる SSL クライアント・サイドの有効化:

説明:

このメッセージは、経路が SSL/TLS を使用してデータを宛先ホストに送信することを示しています。

MQCPI037SSL サーバー・サイドの有効化(プロパティあり):

説明:

このメッセージは、経路が SSL/TLS を使用して送信元ホストからデータを受信することを示しています。

MQCPI038ピア証明書は <insert_1> を使用

説明:

このメッセージは、ピア証明書の認証を制御するために使用される識別名をリストしています。

MQCPI039および <insert_1>(<insert_2>) の SOCKS プロキシ

説明:

このメッセージは、この経路の発信接続が、指定された SOCKS プロキシを使用して確立されることを示しています。

MQCPI040 コマンド・ポート <insert_1> は、管理クライアントによってネットワーク・アドレス <insert_2> からアクセスされました

説明:

示されたポートで listen している MQIPT コマンド・サーバーは、示されたりモート・ネットワーク・アドレスで、管理クライアントからの接続を受信しました。

MQCPI042 経路 <insert_1> で最大接続に達しました。これ以後の要求はブロックされます。

説明:

このメッセージは、所定の経路の接続が最大数に達した場合にシステム・コンソールに書き出されます。接続が解放されるか、**MaxConnectionThreads** 値が増やされるまで、以降の要求はブロックされます。

MQCPI043 経路 <insert_1> 上の接続がブロック解除されました。

説明:

このメッセージは、所定の経路で接続要求に対するブロックが解除されたときにシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI047CA 鍵リング・ファイル <insert_1>

説明:

このメッセージは、この経路の CA 鍵リングのファイル名を示しています。

MQCPI048 管理クライアント <insert_1> による PING が終了しました。

説明:

IPTController から管理クライアントへの応答メッセージ。

MQCPI050 システムの始動時に MQIPT が自動的に開始するように、**inittab** にエントリを追加しています。

説明:

ユーザーは **mqiptService** スクリプトを実行して、MQIPT をシステム・サービスとして開始しました。

MQCPI051 システムの始動時に MQIPT を自動的に開始する **inittab** からエントリを削除しています。

説明:

ユーザーは **mqiptService** スクリプトを実行して、MQIPT がシステム・サービスとして開始されないようにしました。

MQCPI052Socks サーバー・サイド使用可能

説明:

この経路は SOCKS サーバー (プロキシ) として機能し、SOCKS 化されたアプリケーションからの接続を受け入れます。

MQCPI053 Java security manager の開始**説明:**

SecurityManager プロパティーが true に設定されているため、デフォルトの Java security manager が開始されます。

MQCPI054 Java security manager の停止**説明:**

SecurityManager プロパティーが false に設定されているため、デフォルトの Java security manager は停止します。

MQCPI055 java.security.policy を <insert_1> に設定しています。**説明:**

デフォルトの Java security manager が間もなく開始され、提供されたポリシー・ファイルが使用されます。

MQCPI057 トレース・レベル <insert_1> 有効**説明:**

このメッセージは、この経路で有効にされているトレースのレベルを示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI058 および <insert_1> の URI 名**説明:**

このメッセージは、この経路の Uniform Resource Identifier 名を示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI060 システムの始動時に MQIPT が自動的に開始するように、ファイルをインストールしています。**説明:**

ユーザーは **mqiptService** スクリプトを実行して、MQIPT をシステム・サービスとして開始しました。

MQCPI061 システムの始動時に MQIPT を自動的に開始するファイルを削除しています。**説明:**

ユーザーは **mqiptService** スクリプトを実行して、MQIPT がシステム・サービスとして開始されないようにしました。

MQCPI064 このルートには、SSL 認証が存在しません**説明:**

このメッセージは、経路が開始したときにシステム・コンソールに書き出され、匿名暗号スイートが指定されているためにこの経路で使用されている SSL 認証がないことを示しています。

MQCPI066 および <insert_1>(<insert_2>) の HTTP サーバー**説明:**

このメッセージは、この経路の発信接続がこの HTTP サーバーを使用して確立されることを示しています。

MQCPI069 新規接続を作成するときにローカル・アドレス <insert_1> にバインド**説明:**

このメッセージは、各新規接続が宛先アドレスに対してバインドされるローカル IP アドレスを示しています。これは、マルチホーム・システムのみで使用する必要があります。

MQCPI070 新規接続を作成するときにローカル・ポート・アドレス範囲を <insert_1>-<insert_2> を使用**説明:**

このメッセージは、新規接続に使用されるローカル・ポート・アドレスを示しています。これにより、ファイアウォール管理者は MQIPT からの接続を制限できます。

MQCPI071 サイト証明書は <insert_1> を使用**説明:**

このメッセージは、サイト証明書の選択を制御するために使用される識別名をリストしています。

MQCPI072 および証明書ラベル <insert_1>**説明:**

このメッセージは、サイト証明書の選択を制御するために使用されるラベル名をリストしています。

MQCPI073 ファイル <insert_1> が更新されました。**説明:**

指定されたファイルは **mqiptPW** コマンドによって更新されました。

MQCPI074 ファイル <insert_1> が作成されました。**説明:**

指定されたファイルは **mqiptPW** コマンドによって作成されました。

MQCPI075 <insert_1>(<insert_2>) の LDAP メイン・サーバー**説明:**

このメッセージは、CRL サポートに使用されるメイン LDAP サーバーの名前をリストしています。

MQCPI076 <insert_1>(<insert_2>) の LDAP バックアップ・サーバー**説明:**

このメッセージは、CRL サポートに使用されるバックアップ LDAP サーバーの名前をリストしています。

MQCPI077LDAP エラーは無視されます**説明:**

このメッセージは、LDAP から受信したすべてのエラーが無視されることを意味しています。

MQCPI078 経路 <insert_1> は接続要求を受け入れます。**説明:**

このメッセージは、経路が接続要求を受け入れることができる状態になると表示されます。

MQCPI079セキュリティ出口 <insert_1> を使用**説明:**

このメッセージは、セキュリティ出口の完全修飾名を示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI080およびタイムアウト <insert_1> 秒**説明:**

このメッセージは、セキュリティ出口または証明書出口のタイムアウト値を示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI083最新表示コマンドはルートを再開しません**説明:**

このメッセージは、リフレッシュ・コマンドが発行されても経路が再始動しないことを示しています。

MQCPI084CRL キャッシュの有効期限タイムアウトは <insert_1> 時間です。**説明:**

このコンソール・メッセージは、CRL (または ARL) が MQIPT キャッシュ内に留まっている時間を表示します。

MQCPI085CRL は鍵リング・ファイルに保管されます。**説明:**

このコンソール・メッセージは、LDAP サーバーから取得されたすべての CRL (または ARL) が関連する CA 証明書に接続された鍵リング・ファイルに保存されることを意味します。

MQCPI086タイムアウト <insert_1> 秒**説明:**

このメッセージは、LDAP サーバーへの接続のためのタイムアウト値を示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI087ユーザー ID は <insert_1>**説明:**

このメッセージは、LDAP サーバーに接続するためのユーザー ID 名を示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI088バッファ・サイズ <insert_1>**説明:**

このメッセージは、使用されるバッファのサイズを示すため、その値が 65535 でない場合にのみ、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。この値は、デフォルトの 65535 の値より大きい場合のみ使用されます。

MQCPI090検索 baseDN は <insert_1> を使用**説明:**

このメッセージは、CRL (および ARL) を取り出すための LDAP baseDN キー名を示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI091単純接続を許可します**説明:**

このメッセージは、SSL サーバーとして機能している場合、または SSL プロキシ・モードで実行している場合に、非暗号化接続が許可されていることを示すため、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。

MQCPI092ソケット・タイムアウト <insert_1> ミリ秒**説明:**

このメッセージは、ソケット・タイムアウト値 (ミリ秒単位) を示しています。

MQCPI127全二重モード**説明:**

このメッセージは、宛先に対して使用されている HTTP プロトコルが全二重モードで作動していることを示しています。

MQCPI128半二重モード**説明:**

このメッセージは、宛先に対して使用されている HTTP プロトコルが半二重モードで作動していることを示しています。

MQCPI129証明書出口 <insert_1> を使用**説明:**

このメッセージは、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。証明書出口の完全修飾名を示すために使用されます。

MQCPI130 宛先への接続に失敗したため、発信者への接続はクローズされました。**説明:**

このメッセージは、MQIPT がターゲット宛先への接続に失敗したときに、呼び出し元へのクローズされた接続の接続ログに書き込まれます。

ユーザーの処置:

クローズの理由について、以前の接続失敗を参照してください。

MQCPI131および証明書出口データ
"<insert_1>"

説明:

このメッセージは、経路の開始時にシステム・コンソールに書き出されます。証明書出口のデータを示すために使用されます。

MQCPI132ローカル・アドレス <insert_1> で
listen

説明:

このメッセージは、経路が listen しているローカル IP アドレスを示しています。これは、マルチホーム・システムのみで使用する必要があります。

MQCPI138 **Java security manager** ポリシーが
リフレッシュされました。

説明:

Java security manager は使用可能なままで、ポリシーが再読み取りされました。これで、セキュリティー・ポリシーに対するすべての変更が有効になります。

MQCPI139セキュア・ソケット・プロトコル
<insert_1>

説明:

このメッセージは、この経路またはコマンド・ポートで有効になっているセキュア・ソケット・プロトコルのバージョンをリストします。

MQCPI140TCP キープアライブ有効

説明:

このメッセージは、TCP キープアライブ・パラメーターが使用可能であることを示しています。

MQCPI141暗号化ハードウェア鍵ストア

説明:

この経路またはコマンド・ポートは、サーバーまたはクライアントのいずれかの鍵ストアの PKCS #11 インターフェースをサポートする暗号化ハードウェアを使用します。

MQCPI142暗号化ハードウェア CA 鍵ストア

説明:

この経路は、サーバーまたはクライアントのいずれかの CA 鍵ストアの PKCS #11 インターフェースをサポートする暗号化ハードウェアを使用します。

MQCPI143 **MQ Advanced** の機能が有効になりました

説明:

IBM MQ Advanced の拡張機能が有効になりました。

MQCPI144 **MQ Advanced** の機能は有効になって
いません

説明:

IBM MQ Advanced の拡張機能は有効になっていません。

MQCPI145 パスワードの入力

説明:

mqiptPW コマンドによってパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。

MQCPI150 パスワードが指定されていません。

説明:

mqiptPW コマンドが暗号化を行うためのパスワードが指定されませんでした。プログラムは終了します。

MQCPI151 <insert_1> からパスワード暗号鍵を
読み取り中です

説明:

MQIPT によって保管されたパスワードの暗号鍵を指定されたファイルから読み取り中です。

MQCPI152 **MQIPT** 名は <insert_1> です

説明:

MQIPT のこのインスタンスの名前が表示されます。

MQCPI153 コマンド・ポートでのパスワード検
査はオプションです

説明:

コマンド・ポートに接続するとき、認証用のパスワードの指定がオプションで可能になります。パスワードが指定された場合は、それが検査されます。

MQCPI155 **TLS** を使用してローカル・アドレス
<insert_2> 上のポート <insert_1>
上で制御コマンドを listen 中です

説明:

この MQIPT インスタンスは、示されたポートでとローカル・アドレスで制御コマンドを listen しています。このポートへの接続は、TLS を使用して保護されます。アスタリスク (*) は、MQIPT がすべてのネットワーク・インターフェース上でコマンドを listen していることを示します。

MQCPW001 **CRL** は <insert_1> にわたって有効
期限切れです。

説明:

このメッセージは、CRL (または ARL) が LDAP サーバーから取得された場合に表示されます。

ユーザーの処置:

指定された CRL を LDAP サーバーで更新してください。

MQCPW003期限切れの CRL は無視されます

説明:

このコンソール・メッセージは、すべての有効期限切れ CRL (または ARL) が無視され、接続要求は許可される場合があることを意味します。

MQCPW004SSLServerAskClientAuth は使
用不可になり、証明書出口は呼び出
されない可能性があります。

説明:

このコンソール・メッセージは、**SSLServerExit** および **SSLServerAskClientAuth** プロパティとの競合を示すために始動時に表示されます。

ユーザーの処置:

SSLServerAskClientAuth を無効にすると、SSL クライアントは SSL 証明書を送信する必要がないため、証明書出口が呼び出されない場合があります。

MQCPW005 経路 <insert_1> <insert_2> 鍵リング・ファイル <insert_3> 証明書 <insert_4> シリアル番号 <insert_5> は、まだ有効ではありません。この証明書は <insert_6> より前には使用できません。

説明:

このコンソール・メッセージは、いずれかの鍵リング・ファイルに「次の日付以降」が将来の日付であるためにまだ有効ではない証明書が含まれている場合に、経路の開始時に表示されます。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。組織で独自の CA を運用している場合は、その CA システムのシステム・クロックを確認してください。

MQCPW006 経路 <insert_1> <insert_2> 鍵リング・ファイル <insert_3> 証明書 <insert_4> シリアル番号 <insert_5> は有効期限切れです。この証明書は <insert_6> より後では使用できません。

説明:

このコンソール・メッセージは、いずれかの鍵リング・ファイルに有効期限切れの証明書が含まれている場合に、経路の開始時に表示されます。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。クロックが正しく設定されている場合、代替の証明書を入手してください。

MQCPW007 経路 <insert_1> のプロパティ <insert_2> は無効です。

説明:

この経路に指定されているプロパティは、このバージョンの MQIPT では無効です。プロパティは無視され、経路は始動処理を続行します。

ユーザーの処置:

無効なプロパティを経路定義から除去してください。

MQCPW008 経路 <insert_1> 証明書 <insert_2> シリアル番号 <insert_3> は、まだ有効ではありません。この証明書は <insert_4> の前には使用できません。暗号ハードウェア鍵ストア <insert_5> に保管されています。

説明:

このコンソール・メッセージは、暗号化ハードウェア鍵ストアに、「次の日付以降」が将来の日付であるためにまだ有効ではない証明書が含まれている場合に、経路の開始時に表示されます。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。組織で独自の CA を運用している場合は、その CA システムのシステム・クロックを確認してください。

MQCPW009 経路 <insert_1> 証明書 <insert_2> シリアル番号 <insert_3> は期限切れです。この証明書は <insert_4> の後では使用できません。暗号ハードウェア鍵ストア <insert_5> に保管されています。

説明:

このコンソール・メッセージは、暗号化ハードウェア鍵ストアに有効期限切れの証明書が含まれている場合に、経路の開始時に表示されます。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。クロックが正しく設定されている場合、代替の証明書を入手してください。

MQCPW010 使用すべきでないコマンド構文が使用されました。

説明:

使用すべきでない構文を使用したコマンドが発行されました。この構文はコマンド・オプションの全範囲で提供していません。mqiptPW コマンドの使用すべきでない構文では、最もセキュアな方式を使用してパスワードを暗号化できません。

ユーザーの処置:

コマンド構文を見直し、今後、最新の構文を使用してコマンドを発行するようにします。

MQCPW011 プロパティ <insert_1> に無保護のパスワードまたは保護の弱いパスワードが指定されました

説明:

平文のパスワードまたは保護の弱いパスワードが示されたプロパティに指定されました。

ユーザーの処置:

パスワードを安全に保管するには、mqiptPW コマンドで最新の保護モードを使用してパスワードを暗号化してください。

MQCPW012 経路 <insert_2> のプロパティ <insert_1> に無保護のパスワードまたは保護の弱いパスワードが指定されました

説明:

平文のパスワードまたは保護の弱いパスワードが、示された経路の示されたプロパティに指定されました。

ユーザーの処置:

パスワードを安全に保管するには、**mqiptPW** コマンドで最新の保護モードを使用してパスワードを暗号化してください。

MQCPW013 コマンド・ポート <insert_1> は保護されていません

説明:

MQIPT は示されたポートでコマンドを listen するように構成されていますが、このポートは TLS によって保護されていません。**mqiptAdmin** コマンドでこのポートに送信されたデータ (MQIPT アクセス・パスワードなどの機密データを含む) が、ネットワーク上の他のシステムによって表示されてしまう可能性があります。

ユーザーの処置:

SSLCommandPort プロパティを使用して、TLS で保護されたコマンド・ポートを構成します。

MQCPW014 コマンド・ポート <insert_1> 証明書 <insert_2> シリアル番号 <insert_3> は、まだ有効になっていません。この証明書は <insert_4> の前には使用できません。鍵リング・ファイル <insert_5> に保管されています。

説明:

示されたコマンド・ポートのコマンド・サーバーによって使用される鍵リング・ファイルに、「次の日付以降」が将来の日付であるためにまだ有効ではない証明書が含まれています。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。組織で独自の CA を運用している場合は、その CA システムのシステム・クロックを確認してください。

MQCPW015 コマンド・ポート <insert_1> 証明書 <insert_2> シリアル番号 <insert_3> は期限切れです。この証明書は <insert_4> の後では使用

できません。鍵リング・ファイル <insert_5> に保管されています。

説明:

示されたコマンド・ポートのコマンド・サーバーによって使用される鍵リング・ファイルに、有効期限が切れた証明書が含まれています。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。クロックが正しく設定されている場合、代替の証明書を入手してください。

MQCPW016 コマンド・ポート <insert_1> 証明書 <insert_2> シリアル番号 <insert_3> は、まだ有効になっていません。この証明書は <insert_4> の前には使用できません。暗号ハードウェア鍵ストア <insert_5> に保管されています。

説明:

示されたコマンド・ポートのコマンド・サーバーによって使用される暗号化ハードウェア鍵ストアに、「次の日付以降」が将来の日付であるためにまだ有効ではない証明書が含まれています。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。組織で独自の CA を運用している場合は、その CA システムのシステム・クロックを確認してください。

MQCPW017 コマンド・ポート <insert_1> 証明書 <insert_2> シリアル番号 <insert_3> は期限切れです。この証明書は <insert_4> の後では使用できません。暗号ハードウェア鍵ストア <insert_5> に保管されていません。

説明:

示されたコマンド・ポートのコマンド・サーバーによって使用される暗号化ハードウェア鍵ストアに、有効期限が切れた証明書が含まれています。

ユーザーの処置:

システム・クロックが正確に設定されていることを確認してください。クロックが正しく設定されている場合、代替の証明書を入手してください。

JSON 形式診断メッセージ

各 JSON 形式の IBM MQ 診断メッセージを構成する名前/値のペアを表形式で説明します。

診断メッセージについて詳しくは、[QMErrorLog サービス](#)を参照してください。

エラー・ログ・ファイルを JSON 形式で書き出す場合、各エラー・メッセージには JSON の単一行が挿入されます。

表 9. メッセージ・オブジェクト内の名前/値のペア

名前	タイプ	説明
host	ストリング	ホスト名
ibm_arithInsert1	number	最初のメッセージ変数。
ibm_arithInsert2	number	2 番目のメッセージ変数。
ibm_commentInsert1	ストリング	必要な場合、3 番目のメッセージ変数。
ibm_commentInsert2	ストリング	必要な場合、4 番目のメッセージ変数。
ibm_commentInsert3	ストリング	必要な場合、5 番目のメッセージ変数。
ibm_datetime	ストリング	メッセージがいつ生成されたかを示す ISO 8601 形式のタイム・スタンプ。形式は YYYY-MM-DDTHH:MM:SS.mmmZ で、常に UTC で示します。
ibm_installationDir	ストリング	インストール・パス。これは、マシン上の構文解析プログラムが、インストール済み環境から適切なコマンドを実行できるようにするために組み込まれます。
ibm_installationName	ストリング	インストール名。
ibm_messageID	ストリング	重大度文字を含む診断メッセージ ID (例えば AMQ6209W)。
ibm_processID	number	プロセス ID。
ibm_processName	ストリング	IBM i のプロセスまたはジョブ名 (例えば amqzma0)。
ibm_qmgrId	ストリング	キュー・マネージャーの ID。
ibm_remoteHost	ストリング	関連付けられたクライアント・プログラムがある場合、その IP アドレス。
ibm_sequence	ストリング	同じ時に生成された複数のメッセージを区別するための、メッセージのシーケンス番号。
ibm_serverName	ストリング	キュー・マネージャーの名前。
ibm_threadId	number	プロセス内の IBM MQ スレッド ID。
ibm_userName	ストリング	プロセスが実行されているユーザーの実名。
ibm_version	ストリング	IBM MQ バージョン、リリース、モディフィケーション、フィックスパック (VRMF) の情報。
loglevel	ストリング	INFO、WARNING、または ERROR。
メッセージ	ストリング	挿入が拡張されたメッセージの要約 (ID を含む)。
module	ストリング	メッセージが生成されたソース・ファイルと行番号 (例えば amqxerrx.c:243)。
タイプ	ストリング	mq_log

メッセージの例

以下のメッセージは複数行に表示されますが、IBM MQ は通常、メッセージを単一行に書き込みます。

```
{
  "ibm_messageId": "AMQ9209E",
  "ibm_arithInsert1": 0,
  "ibm_arithInsert2": 0,
  "ibm_commentInsert1": "localhost (127.0.0.1)",
```

```
"ibm_commentInsert2":"TCP/IP",
"ibm_commentInsert3":"SYSTEM.DEF.SVRCONN",
"ibm_datetime":"2018-02-22T06:54:53.942Z",
"ibm_serverName":"QM1",
"type":"mq_log",
"host":"0df0ce19c711",
"loglevel":"ERROR",
"module":"amqccita.c:4214",
"ibm_sequence":"1519282493_947814358",
"ibm_remoteHost":"127.0.0.1",
"ibm_qmgrId":"QM1_2018-02-13_10.49.57",
"ibm_processId":4927,
"ibm_threadId":4,
"ibm_version":"9.0.5.0",
"ibm_processName":"amqrmppa",
"ibm_userName":"johndoe",
"ibm_installationName":"Installation1",
"ibm_installationDir":"/opt/mqm",
"message":"AMQ9209E: Connection to host 'localhost (127.0.0.1)' for channel
'SYSTEM.DEF.SVRCONN' closed."
}
```

MFT メッセージ

ここでは、診断メッセージがその発信元になる Managed File Transfer の部分ごとにまとめられ、それぞれ番号順にリストされています。

これらのメッセージについて詳しくは、IBM Documentation: https://www.ibm.com/docs/SSFKSJ_9.3.0/reference/mft_messages.html を参照してください。

REST API メッセージ

IBM MQ REST API のメッセージを識別して解釈するための参照情報。メッセージはその発信元になる API の部分ごとにまとめられ、それぞれ番号順にリストされています。

これらのメッセージについて詳しくは、IBM Documentation を参照してください。

- [MQWB00xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB01xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB02xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB03xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB04xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB09xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB10xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB11xx: REST API メッセージ](#)
- [MQWB20xx: REST API メッセージ](#)

メッセージの読み取り

各メッセージには、次の情報が提供されています。

メッセージ ID

次の 3 つの部分から成るメッセージ識別子:

1. 「MQWB」という文字 (メッセージの発信元が REST API であるという意味)
2. 4 桁の 10 進コード
3. メッセージの重大度を示す接尾部文字 (I、W、E、S、または T)。以下の重大度リストを参照してください。

メッセージ・テキスト

メッセージの要約

重大度

- 0: 情報
- 10: 警告
- 20: エラー
- 30: エラー
- 40: 重大
- 50: 強制終了

説明

メッセージに関する詳細情報を示すための説明

応答

ユーザーによる必要な対応。場合によっては、特に情報メッセージの場合は、この部分は「アクションは不要です」となることがあります。

メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert_1>、<insert_2> など表されています。

メッセージによっては、説明または対応の項に変数が含まれていることもあります。メッセージ変数の値を見つけるには、エラー・ログを調べてください。エラー・ログには、完全な形のメッセージと、説明および対応が含まれています。

ALW Telemetry メッセージ

IBM MQ Telemetry のメッセージの識別と解釈に役立つ参照情報。

- [Telemetry \(AMQAM\) メッセージ \(IBM Documentation 内\)](#)
- [263 ページの『テレメトリー \(AMQCO および AMQHT\) メッセージ』](#)
- [Telemetry \(AMQXR\) メッセージ \(IBM Documentation 内\)](#)

メッセージの読み取り

各メッセージには、次の情報が提供されています。

メッセージ ID

次の 3 つの部分から成るメッセージ識別子:

1. 5 文字: 「AMQAM」、「AMQCO」、「AMQHT」、または「AMQXR」。これらは、メッセージが IBM MQ Telemetry からのものであることを示します。
2. 4 桁の 10 進コード
3. メッセージの重大度を示す接尾部文字 (I、W、E、S、または T)。以下の重大度リストを参照してください。

メッセージ・テキスト

メッセージの要約

重大度

- 0: 情報
- 10: 警告
- 20: エラー
- 30: エラー
- 40: 重大
- 50: 強制終了

説明

メッセージに関する詳細情報を示すための説明

応答

ユーザーによる必要な対応。場合によっては、特に情報メッセージの場合は、この部分は「アクションは不要です」となることがあります。

メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert_1>、<insert_2> などで表されています。

メッセージによっては、説明または対応の項に変数が含まれていることもあります。メッセージ変数の値を見つけるには、エラー・ログを調べてください。エラー・ログには、完全な形のメッセージと、説明および対応が含まれています。

ALW テレメトリー (AMQCO および AMQHT) メッセージ

MQ Telemetry の AMQCO および AMQHT メッセージを識別して解釈するのに役立つ参照情報。

AMQCO1001E

MQXR サービスが予期せず通信 exception=<insert_0>(Exception) をキャッチしました。

説明

コミュニケーション・マネージャーが例外をキャッチし、例外の応答として、適切なアクションを取ることができませんでした。

ユーザー処置

根本的な例外の原因を調べて解決してください。

AMQCO1002E

予期しない状態で選択 key=<insert_0> が検出されました。

説明

予期していない状態で選択キーが見つかりました。

ユーザー処置

IBM サポートにお問い合わせください。

AMQCO1003E

Connection=<insert_0>(Connection) には、取得要求を満たすために十分なデータがありません。

説明

アプリケーションは、すぐに使用可能なデータよりも多くのデータを読み取ろうとしました。アプリケーションは使用可能な量の情報を処理した後、制御を解放し、さらにデータが使用可能になったときに再び呼び出されるのを待機する必要があります。

ユーザー処置

この例外を処理するようにアプリケーションを変更するか、または get() が成功するかどうかを判別するために get() メソッドが呼び出される前に Connection.available() を使用してください。

AMQCO1004E

接続クローズ・エラー: <insert_0>。

説明

接続をクローズする際にエラーが発生しました。セッションが正常に完了しなかった可能性があります。

ユーザー処置

セッションが正常に完了していることを確認してください。

AMQCO1005E

チャンネル"<insert_1>"の SSL 鍵リポジトリ・ファイルが無効であるか、見つかりません。次の例外がスローされました: <insert_0>

説明

チャンネルに指定された SSL 鍵リポジトリ・ファイルは無効です。

ユーザー処置

指定された SSL 鍵リポジトリ・ファイルの妥当性を調べてください。

AMQCO1006I

チャンネル "<insert_0>" が停止しました。

説明

チャンネルは停止されました。このチャンネルでは、これ以上クライアントとの通信は発生しません。

ユーザー処置

アクションは不要です。

AMQCO1007E

接続 "<insert_0>" は "<insert_1>" ミリ秒間データを送受信しなかったため、閉じられました。

説明

アプリケーションは接続のアイドル・タイマーを <insert_1> ミリ秒に設定しましたが、この時間内にデータを送受信しなかったため、接続はクローズされました。

ユーザー処置

接続でデータが送信または受信されなかった理由を判別して、適切な場合には idleTimer をより長い値に設定してください。

AMQCO1008E

"<insert_1>" のクライアントがチャンネル "<insert_0>": <insert_2>に接続しようとしたときに、SSL ハンドシェイク・エラーが発生しました。

説明

SSL ハンドシェイクをクライアント・アプリケーションで実行している際にエラーが発生しました。これは多くの場合、クライアントが MQXR サービスによって信頼されていない証明書を提示しているために発生します。

ユーザー処置

例外の情報を使用して、問題を診断および修正してください。

AMQCO1009E

無効な鍵ストア名 "<insert_1>" が指定されました。

説明

指定された鍵ストア名またはパスフレーズは無効です。

ユーザー処置

有効な鍵ストア・ファイル名とパスワードを指定してください。

AMQCO1010E

"<insert_1>" のクライアントがチャンネル "<insert_0>": <insert_2>に接続しようとしたときに、SSL 例外が発生しました。

説明

SSL 操作をクライアント・アプリケーションで実行している際にエラーが発生しました。

ユーザー処置

例外の情報を使用して、問題を診断および修正してください。

AMQCO2001E

エラー (プローブ: <insert_0>) が発生し、障害データ・キャプチャー機能 (FDC) ファイルが書き込まれました。

説明

問題が検出され、診断を補助するために FDC ファイルに書き込みが行われました。

ユーザー処置

FDC ファイルを参照して問題を解決してください。問題を解決できない場合には、IBM サポート・センターに連絡してください。

AMQCO2002I

トレースが使用不可です。

説明

MQXR サービスの (問題の診断のために使用される) トレースは現在実行されていません。

ユーザー処置

アクションは不要です。

AMQCO2003I

トレースが有効です。

説明

MQXR サービスの (問題の診断のために使用される) トレースは現在実行されています。

ユーザー処置

アクションは不要です。

AMQCO2004I

メッセージ「<insert_1>」の「<insert_0>」個のインスタンスが抑止されました。

説明

この ID を持つ最後のメッセージが書き込まれてから、メッセージ ID "<insert_1>" の番号 <insert_0> がログから抑止されました。

ユーザー処置

抑制されたメッセージに対してさらに必要な処置はありません。

AMQCO9999E

<insert_0>

説明

このメッセージで十分な情報が得られない場合には、さらに助けを得るため、前のメッセージを確認してください。

ユーザー処置

詳しくは、前のメッセージを参照してください。

AMQHT1001E

HTTP 要求または応答で無効な text=<insert_0>(String) が見つかりました。

説明

HTTP 要求または応答に、"<https://www.w3.org/Protocols/>" に記載されていない予期せぬデータが含まれていました。

ユーザー処置

HTTP 要求または応答の発信元またはソースが、有効な要求または応答を生成していることを確認してください。

AMQHT1002E

HTTP ヘッダー text=<insert_0>(String) が無効です。

説明

HTTP 要求または応答に、予期せぬテキストが含まれていました。

ユーザー処置

HTTP 要求または応答の発信元またはソースが、有効な要求または応答を生成していることを確認してください。

AMQHT1003E

string=<insert_1>(String) の location=<insert_0> に無効なテキストがあります。

説明

Java Script Object Notation (JSON) ストリングに、「<https://www.json.org/>」に記述されていない予期しないデータが含まれていました。

ユーザー処置

発信元 (JSON) が有効なデータを生成しているかを確認してください。

AMQHT2001E

WebSocket クローズ、状況コード = <insert_0>

説明

WebSocket はリモート・エンドによって閉じられました。

ユーザー処置

予期せず閉じられた場合は、WebSocket の状況コードを参照して、WebSocket が閉じられた理由を特定してください。

AMQHT9999E

<insert_0>

説明

このメッセージで十分な情報が得られない場合には、さらに助けを得るため、前のメッセージを確認してください。

ユーザー処置

詳しくは、前のメッセージを参照してください。

z/OS IBM MQ for z/OS のメッセージ・コード、完了コード、および理由コード

このトピックでは、IBM MQ for z/OS で生成されるメッセージとコードの意味について取り上げます。

このトピックの情報は、IBM MQ for z/OS 製品が生成するメッセージやコードを理解するために使用できる。このトピックは、以下の部分に分割されている。

268 ページの『IBM MQ for z/OS のメッセージ』

すべての IBM MQ メッセージを英数字順に説明する。

IBM MQ メッセージ ID の長さは、すべて 8 文字である。最初の 3 文字は必ず CSQ。接頭部が異なるメッセージを受け取った場合は、どの製品がそのメッセージを発行したかを確認してください。1128 ページの『他の製品からのメッセージ』を参照してください。

4 文字目はコンポーネント ID で、メッセージを発行した IBM MQ のコンポーネントを識別する。これについては、1109 ページの『IBM MQ コンポーネント ID』を参照。5 文字目から 7 文字目は数値 ID で、コンポーネント内で固有である。最後の文字はメッセージ・タイプ・コードで、メッセージが要求する応答のタイプを示す。266 ページの表 10 は、IBM MQ for z/OS が使用する 4 つのタイプ・コードを示しています。

タイプ・コード	応答タイプ	必要な応答
A	即時アクション	システム・オペレーターによるアクションがすぐに必要。要求されたアクションが実行されないと、関連するタスクは継続しない。
D	即時の決定	システム・オペレーターによる決定またはアクションがすぐに必要。オペレーターは、再試行または取り消しのような特定のオプションから選択することが要求される。要求された決定が下されるかアクションが実行されないと、関連するタスクは継続しない。
E	いずれ行うべきアクション	システム・オペレーターのアクションが必要になるが、システム・オペレーターのアクションとは無関係に関連タスクは継続する。
I	情報のみ	オペレーター・アクションは不要である。ただし、特定のメッセージは重要である可能性があります。詳しくは、 コンソール・メッセージのモニター を確認してください。

キュー・マネージャー自体およびムーバーが発行するメッセージにおいて、メッセージ ID の後には通常コマンド接頭部 (CPF) が続き、どの IBM MQ キュー・マネージャーがメッセージを発行したのかを示す。このようなメッセージには、CSQE、CSQH、CSQI、CSQM、CSQN、CSQP、CSQR、CSQV、CSQX、CSQY、CSQ2、CSQ3、CSQ5、および CSQ9 で始まる接頭部が付く。接頭部 CSQJ および CSQW のメッセージにも CPF があるものがある。一部の例外的な場合に、CPF はブランクで表示されることがある。

CICS 関連コンポーネント (CSQC) からのメッセージには、CICS アプリケーション ID とトランザクション ID が示される (該当する場合)。

他のコンポーネントからのメッセージ、つまり接頭部 CSQO、CSQQ、CSQU、および CSQ1 が付くメッセージ (および接頭部 CSQJ および CSQW が付く一部のメッセージ) には標識がない。

922 ページの『IBM MQ for z/OS コード』

すべての IBM MQ 異常終了理由コードおよびサブシステム終了の理由コードを英数字順に説明する。

このコードの長さは 4 バイトである。最初のバイトは常に 00 で、上位バイトという。2 バイト目は IBM MQ コンポーネントの 16 進 ID (Hex ID)。これについては、[1109 ページの『IBM MQ コンポーネント ID』](#) を参照。最後の 2 バイトは数値 ID で、コンポーネント内で固有である。

1109 ページの『IBM MQ CICS アダプター異常終了コード』 および **1109 ページの『IBM MQ CICS ブリッジ異常終了コード』**

IBM MQ CICS アダプターおよび IBM MQ CICS bridge によって発行される CICS 異常終了コードを記述します。

当てはまる場合に各メッセージおよびコードに付随するのが、以下の情報である。

Explanation:

このセクションはメッセージまたはコードの意味、なぜ表示されたか、原因は何かを示す。

重大度:

重大度値には以下の意味がある。

- 0:** 情報メッセージ。エラーは発生していない
- 4:** 警告メッセージ。ユーザーに知らせるべき条件が検出された。ユーザーはさらにアクションを実行する必要がある場合もある。
- 8:** エラー・メッセージ。エラーが検出され、処理は継続できない。
- 12:** 重大エラー・メッセージ。重大エラーが検出され、処理は継続できない。

システム・アクション:

この部分は、メッセージまたはコードの原因となった条件の結果として、何が起きているのかを示す。この情報がない場合、システムの処置はとられない。

ユーザーの応答:

ユーザーによる応答が必要な場合、このセクションに適切な応答とその結果が示される。この情報がない場合、ユーザーの応答は必要ない。

オペレーターの応答:

オペレーターの応答が必要な場合、このセクションに適切な応答とその結果が示される。この情報がない場合、オペレーターの応答は必要ない。

システム・プログラマーの応答:

システム・プログラマーによる応答が要求される場合、この部分に適切な応答とその結果が示される。この情報がない場合、システム・プログラマーの応答は必要ない。

プログラマー応答:

プログラマーの応答が必要な場合、この部分に適切な応答とその結果が示される。この情報がない場合、プログラマーの応答は必要ない。

問題判別:

このセクションには、サポート要員がエラーの原因を診断するのに必要なデータを取得するために実行できるアクションがリストされます。この情報がない場合、問題判別は必要ない。

関連資料

235 ページの『AMQ メッセージ (Multiplatforms)』

このセクションには、AMQ シリーズの診断メッセージが番号順にリストされています。これらのメッセージは、発信元の IBM MQ の部分に従ってグループ化されています。

1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』

IBM MQ for z/OS によって使用される通信プロトコルは、独自の戻りコードを発行できます。この表は、各プロトコルで使用される戻りコードを特定するために使用します。

1125 ページの『分散キューイング・メッセージ・コード』

分散キューイングは、IBM MQ for z/OS のコンポーネントの 1 つです。このトピックでは、分散キューイング・コンポーネントから出されるメッセージ・コードの意味について取り上げます。

1129 ページの『API 完了コードと理由コード』

呼び出しが行われるたびに、その呼び出しが成功したか失敗したかを示すための完了コードと理由コードが、キュー・マネージャーまたは出口ルーチンによって戻されます。

1342 ページの『PCF 理由コード』

PCF フォーマットのコマンド・メッセージ中で使用したパラメーターによっては、そのメッセージへの応答としてブローカーから理由コードが返される場合があります。

1418 ページの『Transport Layer Security (TLS) の戻りコード』

IBM MQ では、さまざまな通信プロトコルと一緒に TLS を使用できます。このトピックを使用して、TLS によって返される可能性があるエラー・コードを特定します。

1122 ページの『z/OS の場合の Transport Layer Security (TLS) の戻りコード』

IBM MQ for z/OS では、さまざまな通信プロトコルと一緒に TLS を使用できます。このトピックを使用して、TLS によって返される可能性があるエラー・コードを特定します。

1423 ページの『WCF カスタム・チャンネル例外』

このトピックでは、診断メッセージが、発信元の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャンネルの部分に従ってグループ化された番号順にリストされています。

▶ z/OS IBM MQ for z/OS のメッセージ

IBM MQ for z/OS の各コンポーネントはメッセージを出す場合があります、各コンポーネントはそのメッセージに固有の 4 文字の接頭部を使用します。このトピックでは、IBM MQ for z/OS コンポーネントのメッセージを識別して解釈することができます。

以下のメッセージ・タイプについて説明します。

▶ z/OS バッチ・アダプター・メッセージ (CSQB...)

CSQB001E

z/OS バッチまたは z/OS UNIX System Services で実行される言語環境プログラムでは、IBM MQ に対して DLL インターフェースを使用しなければなりません

重大度

4

説明

z/OS Batch または z/OS UNIX System Services から IBM MQ および Language Environment[®] サービスを使用するアプリケーション・プログラムは、IBM MQ への DLL インターフェースを使用する必要があります。このメッセージは接続につき 1 回発行される。このメッセージが発行される原因となったプログラムは、IBM MQ に対してスタブ・インターフェースを使用している。

システム・アクション

処理を続行する。IBM MQ の非同期コンシューム・フィーチャーは、IBM MQ に対して非 DLL のスタブ・インターフェースを使用している場合にはサポートされない。

▶ z/OS CICS アダプターとブリッジのメッセージ (CSQC...)

IBM MQ 9.0.0 でサポートされているすべての CICS バージョン、およびそれ以降は、CICS 提供のブリッジのバージョンを使用してください。これらのメッセージについては、CICS 資料の「[DFHMQnnnn メッセージ](#)」セクションを参照してください。

▶ z/OS カップリング・ファシリティ・マネージャー・メッセージ (CSQE...)

カップリング・ファシリティ・マネージャー・メッセージ内の *struc-name* で示されている値は、IBM MQ によって使用される 12 文字の名前です。z/OS によって使用されるそのような CF 構造体の外部名は、IBM MQ 名の前に、キュー・マネージャーの接続先のキュー共有グループの名前を付けたものです。

CSQE005I

構造体 *struc-name* は *conn-name* として接続されました。バージョン=*version*

説明

キュー・マネージャーが、構造体 *struc-name* に正常に接続された。

システム・アクション

処理を続行する。キュー・マネージャーは、CF 構造体にアクセスすることができる。

CSQE006I

構造体 *struc-name* 接続名 *conn-name* が切断されました。

説明

キュー・マネージャーが、CF 構造体 *struc-name* から切断された。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE007I

event-type 構造体 *struc-name* 接続名 *conn-name* のイベントを受信しました。

説明

キュー・マネージャーが、CF 構造体 *struc-name* の XES イベント *event-type* を受け取った。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

イベント・コードを調べて、どのイベントが発生したかを判別する。イベント・コードについては、「[z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#)」に説明があります。

CSQE008I

構造体 *struc-name* の回復イベントを *qmgr-name* から受信しました。

説明

キュー・マネージャーが、CF 構造体 *struc-name* のピア・レベルの回復イベントを発行した。

システム・アクション

処理を続行する。キュー・マネージャーがピア・レベル回復処理を開始する。

CSQE011I

構造体 *struc-name* 接続名 *conn-name* の回復フェーズ 1 が開始されました。

説明

キュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーの障害に続いて、ピア・レベル回復がその処理のフェーズ 1 を開始した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ内のキュー・マネージャーが失敗した理由を判別する。

CSQE012I

CSQE012I 構造体 *struc-name* 接続名 *conn-name* の回復フェーズ 2 が開始されました。

説明

ピア・レベル回復は、その処理のフェーズ 2 を開始した。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE013I

CSQE013I 構造体 *struc-name* 接続名 *conn-name* の回復フェーズ 1 が完了しました。

説明

ピア・レベル回復は、その処理のフェーズ 1 を完了した。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE014I

CSQE014I 構造体 *struc-name* 接続名 *conn-name* の回復フェーズ 2 が完了しました。

説明

ピア・レベル回復は、その処理のフェーズ 2 を完了した。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE015I

CSQE015I 構造体 *struc-name* 接続名 *conn-name* の回復フェーズ 2 は行われませんでした。

説明

ピア・レベル回復処理のフェーズ 2 は、関係するキュー・マネージャーの 1 つにおけるフェーズ 1 の直前のエラーのために行われなかった。

システム・アクション

処理を続行する。接続は、再始動時に失敗したキュー・マネージャーによって回復される。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージで報告されているように、エラーの原因を調べる。

CSQE016E

構造体 *struc-name* 接続名 *conn-name* が切断されました。RC=*return-code* 理由=*reason*

説明

キュー・マネージャーが、CF 構造体 *struc-name* から切断された。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

戻りコードおよび理由コードを調べ、CF 構造体が切断された理由を判別する。コードについては、「[z/OS MVS プログラミング: スプレックス・サービス解説書](#)」に説明があります。

CSQE018I

管理構造体データの作成が開始しました。

説明

キュー・マネージャーは、管理構造体の自身のデータを作成している。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE019I

管理構造体データの作成が完了しました。

説明

キュー・マネージャーは、管理構造体の自身のデータを作成した。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE020E

conn-name としての構造体 *struc-name* の接続が失敗しました。RC=*return-code* 理由=*reason* コード=*s1 s2 s3*

説明

キュー・マネージャーが、CF 構造体 *struc-name* への接続に失敗した。

システム・アクション

これは、接続要求を行ったコンポーネント (キュー・マネージャーまたはチャンネル・イニシエーター)、およびその CF 構造体に接続した理由に応じて異なる。コンポーネントが終了することもあれば、構造体を必要とする機能が禁止された状態でコンポーネントが処理を続行することもある。

システム・プログラマーの応答

戻りコードおよび理由コードを調べ、接続が失敗した理由を判別する。コード *s1 s2 s3* は XES IXLCONN 診断コードです。これについては、「[z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#)」に説明があります。

CSQE021I

conn-name としての構造体 *struc-name* 接続に警告が出ています。RC=*return-code* 理由=*reason* コード=*s1 s2 s3*

説明

キュー・マネージャーが CF 構造体 *struc-name* に正常に接続されたが、XES IXLCONN 呼び出しが警告とともに戻された。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

戻りコードおよび理由コードを調べ、接続警告メッセージが出された理由を判別する。コード *s1 s2 s3* は XES IXLCONN 診断コードです。これについては、「[z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#)」に説明があります。

CSQE022E

構造体 *struc-name* を使用できません。サイズが小さすぎます。

説明

キュー・マネージャーは、この構造体のサイズが、IBM MQ が必要とする最小サイズよりも小さいため、示されている (カップリング・ファシリティ) (CF) 構造体を使用できない。

システム・アクション

キュー・マネージャーはカップリング・ファシリティ (CF) 構造体から切断され、使用できなくなる。アプリケーション構造体の場合、その構造体を使用するキューは使用できない。管理構造体の場合、キュー・マネージャーは、完了コード X'6C6' および理由コード X'00C53000' で停止する。

システム・プログラマーの応答

CF 構造体のサイズを、少なくとも必要最小サイズまで大きくする。必要な構造体のサイズについては、[カップリング・ファシリティとオフロード・ストレージ環境の計画](#)を参照。

構造体が割り振られ、カップリング・ファシリティ資源マネージャーのポリシーがそのサイズを大きくすることを許可する場合には、z/OS コマンドの SETXCF START,ALTER,STRNAME=*ext-struct-name*,SIZE=*newsize* を使用する。カップリング・ファシリティ資源マネージャーのポリシーがそのサイズを大きくすることを許可しないか、または構造体のホストとなるカップリング・ファシリティ内に十分なスペースがない場合には、ポリシーを変更しなければならない。その後、z/OS コマンド SETXCF START,REBUILD,STRNAME=*ext-struct-name* を使用して構造体を再作成することができる。(これらのコマンド内の *ext-struct-name* は、*struc-name* 名の前に、キュー共有グループ名を付けたものである。)

構造体が割り振られない場合には、構造体により大きい INITSIZE を指定するようにポリシーを変更する。

CSQE024E

カップリング・ファシリティ・レベル *level1* が間違っています。 *level2* が必要です。

説明

使用されている z/OS のバージョンは CF レベル *level1* のみをサポートしているが、IBM MQ では少なくともレベル *level2* が必要であるため、キュー・マネージャーがキュー共有グループを結合できない。

システム・アクション

CF サポートが活動状態でない。

システム・プログラマーの応答

必要であれば、z/OS およびカップリング・ファシリティをアップグレードする。

CSQE025E

リスト *list-id* 内の *qmgr-name* の無効な UOW を回復できません。キー=*uow-key*

説明

作業単位記述子が回復処理中に読み取られたが、予期しないデータを含んでいた。記述子は示されたキュー・マネージャーのためのもので、カップリング・ファシリティ・リスト *list-id* 内にあり、キー *uow-key* (16 進数表示) を持っていた。

システム・アクション

エラーのある作業単位を処理することはできず、記述子はエラーがあるものとしてマークされる。処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー *qmgr-name* について、カップリング・ファシリティ管理構造体内の示されたリストのメモリー・ダンプをとり、IBM サポートに連絡する。

CSQE026E

構造体 *struc-name* を使用できません。カップリング・ファシリティ・レベル *level1* が間違っています。 *level2* が必要です。

説明

指定された CF 構造体は、レベル *level1* をサポートする CF 内で割り振られているが、MQ では少なくとも *level2* が必要であるため、キュー・マネージャーはその構造体を使用できない。

システム・アクション

その CF 構造体を使用するキューが使用できない。

システム・プログラマーの応答

カップリング・ファシリティをアップグレードするか、またはレベル *level2* 以上を実行している CF 内にある CF 構造体を使用する。

CSQE027E

構造体 *struc-name* を使用できません。ベクトル・サイズ *n1* が間違っています。 *n2* が必要です。

説明

指定された CF 構造体には、サイズ *n1* のリスト通知ベクトルが割り振られているが、IBM では少なくともサイズ *n2* が必要であるため、キュー・マネージャーはその CF 構造体を使用できない。おそらくこれは、ベクトルの使用可能なハードウェア・ストレージ域が十分ではないことが原因である。

システム・アクション

その CF 構造体を使用するキューが使用できない。

システム・プログラマーの応答

プロセッサ用に定義されている HSA の量は調整できない。代わりに、その共有キューのオープンを試行していたアプリケーション (または他のプロセス) を再試行する。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

CSQE028I

構造体 *struc-name* がリセットされ、すべてのメッセージが破棄されました。

説明

指定された CF 構造体に接続しようとしたとき、キュー・マネージャーは、構造体が削除されていることを検出した。したがって、新しい空の構造体を作成された。

システム・アクション

CF 構造体を使用するキュー上のすべてのメッセージが削除される。

CSQE029E

構造体 *struc-name* を使用できません。バージョン *v1* がグループ・バージョン *v2* と違います。

説明

CF 構造体のバージョン番号がキュー共有グループのバージョン番号と違うために、キュー・マネージャーは、指定された CF 構造体を使用できない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは CF 構造体から切断され、使用できなくなる。アプリケーション構造体の場合、その構造体を使用するキューは使用できない。管理構造体の場合、キュー・マネージャーは、完了コード X'6C6' および理由コード X'00C51057' で停止する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー、キュー共有グループ、データ共有グループの構成が正しいかどうかを調べる。その場合は、z/OS コマンド **SETXCF FORCE,CON** および **SETXCF FORCE,STRUCTURE** を使用して CF 構造体の割り振りを解除します。これらのコマンドを使用する場合は、*struc-name* の前にキュー共有グループ名を付けて構造体名を形成します。

キュー・マネージャーを停止してから再始動しなければならない場合もあります。

注:

また、**D XCF** コマンド (例えば、**D XCF,STR,STRNAME=MQ7@CSQ_ADMIN**) を使用して、構造および接続に関する情報を表示することもできます。

CSQE030I

逐次化アプリケーションを開始できません。管理構造体データが未完了です。

説明

キュー共有グループ内の 1 つまたは複数のキュー・マネージャーがその管理構造体のデータの作成を完了しなかったために、逐次化アプリケーションが開始しようとしたが、開始できなかった。そのようなキュー・マネージャーを識別するために、このメッセージの前にメッセージ CSQE031I および CSQE032I を含む。

システム・アクション

アプリケーションは開始されない。キュー・マネージャーに接続するために出された MQCONNX 呼び出しは、完了コード MQCC_FAILED および理由コード MQRC_CONN_TAG_NOT_USABLE で失敗する。(これらのコードについて詳しくは、1129 ページの『API 完了コードと理由コード』を参照してください。)

システム・プログラマーの応答

管理構造体は、自動的に再作成される。再作成は、QSG のどのメンバーでも行える。管理構造体が正常に再作成された後 (これについては、再作成を実行するシステム上のメッセージ CSQE037I に示される)、アプリケーションを再始動する。

CSQE031I

qmgr-name の管理構造体データが完了していません。

説明

示されたキュー・マネージャーがその管理構造体のデータの作成を完了していないために、一部の機能はまだ使用できない。

システム・アクション

処理を続行する。メッセージ CSQE031I および CSQE032I によって識別されるすべてのキュー・マネージャーがメッセージ CSQE019I を送出したときに、それらの機能が使用可能になる。

CSQE032I

qmgr-name の管理構造体データが使用できません。

説明

指定されたキュー・マネージャーが活動状態でないためにその管理構造体のデータが使用できないので、一部の機能はまだ使用できない。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

管理構造体の再作成は、QSG のどのメンバーでも行える。機能は、管理構造体が正常に再作成された後で使用可能になる。メッセージ CSQE036I および CSQE037I がないか、ログを調べる。管理構造体の再作成の開始と完了がこれらのメッセージに示されている。

CSQE033E

構造体 *struc-name* 接続名 *conn-name* の回復フェーズ 1 が失敗しました。RC=*return-code* 理由=*reason*

説明

ピア・レベルの回復処理のフェーズ 1 の際にエラーが発生した。回復の試みは終了する。*return-code* および *reason* は、XES IXL 呼び出しからの診断コード (16 進数) である。

システム・アクション

処理を続行する。接続は、再始動時に失敗したキュー・マネージャーによって回復される。

システム・プログラマーの応答

XES IXL 診断コードについては、「[z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#)」を参照。失敗したキュー・マネージャーを再始動する。回復できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQE034E

構造体 *struc-name* 接続名 *conn-name* の回復フェーズ 2 が失敗しました。RC=*return-code* 理由=*reason*

説明

ピア・レベルの回復処理のフェーズ 2 の際にエラーが発生した。回復の試みは終了する。*return-code* および *reason* は、XES IXL 呼び出しからの診断コード (16 進数) である。

システム・アクション

処理を続行する。接続は、再始動時に失敗したキュー・マネージャーによって回復される。

システム・プログラマーの応答

XES IXL 診断コードについては、「[z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#)」を参照。失敗したキュー・マネージャーを再始動する。回復できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQE035E

csect-name 構造体 *struc-name* が失敗しています。回復してください。

説明

キュー・マネージャーが CF 構造体 *struc-name* の使用を試みましたが、失敗した。障害がすでに発生しており、それはこの構造体の今回の使用によるものではない。

システム・アクション

処理は続行されるが、この CF 構造体を使用するキューにはアクセスできない。

システム・プログラマーの応答

以前の障害に関する XES からのメッセージのコンソールを検査し、原因を調査する。XES での問題の診断については、「[z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#)」を参照。

問題が解決されたら、この構造体と障害が発生している他のすべての CF 構造体に関して、TYPE(NORMAL) を指定して RECOVER CFSTRUCT コマンドを発行する。

CSQE036I

qmgr-name の管理構造体データの作成が開始しました。

説明

キュー・マネージャーは、管理構造体の、示されたキュー・マネージャーのデータを作成している。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE037I

qmgr-name の管理構造体データの作成が完了しました。

説明

キュー・マネージャーは、管理構造体の、示されたキュー・マネージャーのデータを作成した。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE038E

管理構造体がいっぱいです

説明

カップリング・ファシリティ (CF) の管理構造体がいっぱいであるため、キュー・マネージャーがその構造体書き込むことができない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、定期的書き込みを再試行する。何回か再試行した後も構造体がいっぱいの状態が続く場合、このメッセージが再発行され、キュー・マネージャーは完了コード X'5C6' および理由コード 00C53002 で終了する。

システム・プログラマーの応答

CF 構造体のサイズを、少なくとも必要最小サイズまで大きくする。構造体の必要サイズについては、[カップリング・ファシリティ資源の定義](#)を参照してください。

構造体が割り振られ、カップリング・ファシリティ資源マネージャーのポリシーがそのサイズを大きくすることを許可する場合には、z/OS コマンドの SETXCF START,ALTER,STRNAME=*ext-struct-name*,SIZE=*newsiz*e を使用する。ポリシーでこの変更が許可されていない場合、または構造体をホストするカップリング・ファシリティ内に十分なスペースがない場合は、ポリシーを変更する必要がある。その後、z/OS コマンドの SETXCF START,REBUILD,STRNAME=*ext-struct-name* を使用して、構造体を再作成できる (これらのコマンド内の *ext-struct-name* は、CSQ_ADMIN の前にキュー共有グループ名を付けたものである)。

構造体が割り振られない場合には、構造体により大きい INITSIZE を指定するようにポリシーを変更する。

CSQE040I

構造体 *struc-name* をバックアップする必要があります。

説明

指定された CF 構造体の最新のバックアップは、作成されてから 2 時間を超えている。バックアップが頻繁に行われないと、共有キューで持続メッセージを回復するときに時間がかかることがある。

最後にバックアップを行ったのがキュー・マネージャーであった場合、または最後にバックアップが行われてからキュー・マネージャーが構造体を使用した場合、チェックポイントでこのメッセージが発行される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

BACKUP CFSTRUCT コマンドを (キュー共有グループ内のキュー・マネージャーで) 使用して、新しい CF 構造体のバックアップを作成する。自動で頻繁にバックアップを行う場合は、手順をセットアップすることを推奨する。

CSQE041E

構造体 *struc-name* のバックアップは一日より古くなっています。

説明

指定された CF 構造体の最新のバックアップは、作成されてから 1 日を超えている。バックアップが頻繁に行われないと、共有キューで持続メッセージを回復するときに時間がかかることがある。

最後にバックアップを行ったのがキュー・マネージャーであった場合、または最後にバックアップが行われてからキュー・マネージャーが構造体を使用した場合、チェックポイントでこのメッセージが発行される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

BACKUP CFSTRUCT コマンドを (キュー共有グループ内のキュー・マネージャーで) 使用して、新しい CF 構造体のバックアップを作成する。自動で頻繁にバックアップを取るための手順をセットアップすることを推奨する。

CSQE042E

csect-name 構造体 *struc-name* を使用できません。使用可能な EMC 記憶域がありません。

説明

キュー・マネージャーは、IBM MQ が必要とする最小サイズよりも小さいため、指定された CF 構造体を使用できない。具体的には、カップリング・ファシリティ・割り振りアルゴリズムが、割り振り中に、イベント・モニター制御 (EMC) 記憶域を使用可能にできなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは CF 構造体から切断され、CF 構造体は使用できなくなる。アプリケーション構造体の場合、その構造体を使用するキューは使用できない。管理構造体の場合、キュー・マネージャーは、完了コード X'6C6' および理由コード X'00C53003' で停止する。

システム・プログラマーの応答

すべてのコネクターストラクチャーから切断してから、発行してください。

```
SETXCF FORCE,STR,STRNAMEname
```

ストラクチャーをサイズ変更する前に、CF から割り振り解除されたストラクチャーを入手する。

CF 構造体のサイズを、少なくとも必要最小サイズまで大きくする。詳しくは、『[カップリング・ファシリティとオフロード・ストレージ環境の計画](#)』を参照。

この構造体が割り振られており、カップリング・ファシリティ・資源マネージャーのポリシーでこの構造体のサイズを大きくすることが許可されている場合は、次に示す z/OS システム・コマンドを使用する。

```
SETXCF START,ALTER,STRNAME=ext-struct-name,SIZE=newsize
```

CFRM ポリシーでサイズを増加させることが許可されていない場合、またはこの構造体をホストしているカップリング・ファシリティでスペースが不足している場合は、ポリシーを変更する必要がある。次に示す z/OS システム・コマンドを使用してこの構造体を再構築できる。

```
SETXCF START,REBUILD,STRNAME=ext-struct-name
```

これらのコマンド内の *ext-struct-name* は、*struct-name* 名の前に、キュー共有グループ名を付けたものである。

構造体が割り振られない場合には、構造体により大きい INITSIZE を指定するように CFRM ポリシーを変更する。

CSQE101I

csect-name 構造体 *struct-name* をバックアップも回復もできません。使用中です。

説明

別のプロセスが使用している CF 構造体に関して、BACKUP または RECOVER CFSTRUCT コマンドが発行された、または自動リカバリーが開始された。ほとんどの場合、これは、別の BACKUP または RECOVER CFSTRUCT コマンド、または自動リカバリーが、キュー共有グループ内のアクティブなキュー・マネージャーのいずれかで既に進行中であることが原因である。

このメッセージは、CF 構造体との新しい接続がシステムによって妨げられた場合にも出されることがある。

システム・アクション

示されている構造体に対するコマンドの処理または自動リカバリーが終了する。

システム・プログラマーの応答

コマンドで正しい CF 構造体名が入力されているかどうか検査する。正しければ、現在のプロセスが終了するまで待ってから、必要に応じてコマンドを再発行する。

既に進行中の BACKUP または RECOVER CFSTRUCT が他にない場合は、CF 構造体との接続が妨げられている理由を示しているメッセージがこのメッセージの前に出されていないか確認する。

CSQE102E

csect-name 構造体 *struct-name* を回復できません。失敗状況ではありません。

説明

障害状態ではない CF 構造体に関して、RECOVER CFSTRUCT コマンドが発行された。回復できるのは、すでに障害が発生している CF 構造体だけである。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

コマンドで正しい CF 構造体名が入力されているかどうか検査する。

CSQE103E

csect-name 構造体を回復できません。管理構造体データが未完了です。

説明

キュー共有グループ内の 1 つまたは複数のキュー・マネージャーがその管理構造体のデータの作成を完了しなかったために、RECOVER CFSTRUCT コマンドが発行されたが、回復が実行されなかった。

システム・アクション

そのようなキュー・マネージャーを識別するために、メッセージ CSQE031I および CSQE032I が z/OS コンソールに送信される。コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

管理構造体は、自動的に再作成される。再作成は、QSG のどのメンバーでも行える。管理構造体が正常に再作成された後 (これについては、再作成を実行するシステム上のメッセージ CSQE037I に示される)、コマンドを再発行する。

CSQE104I

csect-name RECOVER タスクが構造体 *struc-name* で開始しました。

説明

指定された CF 構造体に関して RECOVER CFSTRUCT コマンドを処理するタスクを、キュー・マネージャーが正常に開始した。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE105I

csect-name BACKUP タスクが構造体 *struc-name* で開始しました。

説明

指定された CF 構造体に関して BACKUP CFSTRUCT コマンドを処理するタスクを、キュー・マネージャーが正常に開始した。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE106E

csect-name 構造体 *struc-name* はバックアップできません。理由=*reason*

説明

CF 構造体に関して BACKUP CFSTRUCT コマンドが発行されたが、バックアップが実行できなかった。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

理由コードを調べて、CF 構造体をバックアップできなかった理由を判別する。コードについては、「922 ページの『IBM MQ for z/OS コード』」および「[z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#)」に説明があります。

CSQE107E

csect-name Unable to back up or recover structure *struc-name*, structure has never been used

説明

一度も使用されたことがないためにメッセージもデータも含んでいない CF 構造体に関して、BACKUP または RECOVER CFSTRUCT コマンドが発行された、または自動リカバリーが開始された。

システム・アクション

示されている構造体に対するコマンドの処理または自動リカバリーが終了する。

システム・プログラマーの応答

コマンドで正しい CF 構造体名が入力されているかどうか検査する。

CSQE108E

csect-name 構造体 *struc-name* をバックアップも回復もできません。回復がサポートされていません。

説明

CF 構造体に対して BACKUP または RECOVER CFSTRUCT コマンドが実行された、または自動リカバリーが開始されたが、その構造体の機能は、このプロセスと互換性がなかった。例えば、CF 構造体のレベルが、回復をサポートするのに十分な高さではなかった、あるいは RECOVER 属性が NO に設定されていた。

システム・アクション

示されている構造体に対するコマンドの処理または自動リカバリーが終了する。

システム・プログラマーの応答

CF 構造体の機能が、BACKUP または RECOVER CFSTRUCT コマンドを使用できるレベルであるかどうか、また MQ RECOVER 属性が YES に設定されているかどうかを確認する。これらの値は DIS CFSTRUCT(*) ALL コマンドを使用して検査できる。コマンドで正しい CF 構造体名が入力されているかどうか検査する。

CSQE109E

csect-name 構造体 *struc-name* を回復できません。使用可能なバックアップ情報がありません。

説明

CF 構造体に対して、RECOVER CFSTRUCT コマンドが発行された、または自動リカバリーが開始されたが、バックアップ情報が見つからなかった。

システム・アクション

示されている構造体に対するコマンドの処理または自動リカバリーが終了する。

システム・プログラマーの応答

コマンドで正しい CF 構造体名が入力されているかどうか検査する。正しいければ、BACKUP CFSTRUCT コマンドを発行して、バックアップ情報が使用可能かどうかを確認する。

CSQE110E

csect-name 構造体 *struc-name* の PURGE は許可されていません。

説明

TYPE(PURGE) を使用して CF 構造体 *struc-name* に関して RECOVER CFSTRUCT コマンドが発行された。この CF 構造体は、システムのアプリケーション構造である。システム・キューでのメッセージの喪失を避けるために、システムのアプリケーション構造での TYPE(PURGE) は許可されていない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

TYPE(PURGE) オプションを使用せずにコマンドを再発行する。

構造体を回復できない場合、IBM サポートに連絡する。

CSQE111I

csect-name 失敗した SMDS データ・セットの回復を許可するため、構造体 *struct-name* を失敗した状態に設定します

重大度

0

説明

失敗した状態ではない構造体に対して **RECOVER CFSTRUCT** コマンドが発行されたが、関連した SMDS データ・セットのうち少なくとも 1 つが失敗として現在マーク付けされていて、回復させる必要がある。この構造体は、回復の処理を行うため、通常の使用ができないように失敗した状態に移行される。

システム・アクション

構造体は失敗としてマークが付けられ、回復の処理が続行される。

CSQE112E

csect-name 構造体 *struct-name* を回復できません。必要なログの読み込みに失敗しました。

説明

RECOVER CFSTRUCT コマンドまたは構造体の自動リカバリーが、構造体を回復するために必要なログを読み込むことができなかった。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

構造体の自動リカバリーは試行されない。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQE130I に示された RBA 範囲を含むログが存在することを確認し、コマンドを再発行する。

ログの使用に関する問題を報告するエラーまたは異常終了が過去に発生していないか確認する。

RECOVER CFSTRUCT(*struct-name*) を発行し、構造体のリカバリーを再試行する。

CSQE120I

RBA=*rba* で構造体 *struc-name* のバックアップが開始しました。

説明

BACKUP CFSTRUCT コマンドに対する応答として、その CF 構造体のバックアップが行われている。バックアップはその RBA から開始されている。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE121I

csect-name RBA=*rba* で構造体 *struc-name* のバックアップが完了しました。サイズ *n* MB

説明

その CF 構造体が正常にバックアップされた。示されている RBA でバックアップが終了し、サイズは約 *n* メガバイトである。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE130I

qmgr-name を使用して構造体 *struc-name* の回復を開始しました。ログの範囲は RBA=*from-rba* から RBA=*to-rba* です。

説明

RECOVER CFSTRUCT コマンドに対する応答として、CF 構造体の回復が開始されている。どのように回復が実行されるかを判別するために、示されているログの範囲を読み取らなければならない。ログは、回復する構造体の一番最近の障害時から、それらの構造体が正常にバックアップされた一番最近の時点まで、逆方向で読み取られる。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE131I

構造体 *struc-name* の *csect-name* 回復が完了しました。

説明

指定された CF 構造体が正常にリカバリーされました。その構造体は再び使用できる。

RECOVER CFSTRUCT コマンドに対する応答として、CF 構造体のリカバリーが開始された。ログ範囲により、リカバリーがどのように実行されるかが決まる。ログは、回復する構造体の一番最近の障害時から、それらの構造体が正常にバックアップされた一番最近の時点まで、逆方向で読み取られる。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE132I

構造体のリカバリーが開始されました。使用ログ範囲は LRSN=*from-lrsn* から LRSN=*to-lrsn* までです。

説明

RECOVER CFSTRUCT コマンドに対する応答として、CF 構造体の回復が開始されている。どのように回復が実行されるかを判別するために、示されているログの範囲を読み取らなければならない。ログは、回復する構造体の一番最近の障害時から、それらの構造体が正常にバックアップされた一番最近の時点まで、逆方向で読み取られる。

詳しくは、[CF 構造体の回復](#)を参照。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE133I

ログを後方に取り戻して構造体を回復します。LRSN=*lrsn*

説明

これは、進行を示すために、CF 構造体の回復によるログの読み取り中に定期的に発行される。読み取られる必要のあるログ範囲は、先行するメッセージ CSQE132I に表示される。

RECOVER CFSTRUCT コマンドに対する応答として、CF 構造体の回復が開始されている。どのように回復が実行されるかを判別するために、示されているログの範囲を読み取らなければならない。ログは、回復する構造体の一番最近の障害時から、それらの構造体が正常にバックアップされた一番最近の時点まで、逆方向で読み取られる。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージが同じ LRSN 値で繰り返し発行される場合は、その原因を調査する。例えば、IBM MQ は、保存ログ・データ・セットのテープがマウントされることを待っている場合がある。

CSQE134I

構造体の回復でログ読み取りが完了しました。

説明

RECOVER CFSTRUCT コマンドに対する応答として、CF 構造体のリカバリーが開始されている。どのように回復が実行されるかを判別するために、示されているログの範囲を読み取らなければならない。ログは、リカバリーする構造体の最後の障害時から、それらの構造体が正常にバックアップされた最も早い最後の時点まで、逆方向で読み取られる。

CF 構造体の回復で、ログの読み取りが完了した。個別の構造体を回復できるようになった。

システム・アクション

メッセージ CSQE130I および CSQE131I で示されているように、各 CF 構造体が個別に回復される。

CSQE135I

ログを読み取って構造体 *struc-name* を回復します。RBA=*rba*

説明

これは、進行を示すために、その CF 構造体の回復のためのログの読み取り中に定期的に発行される。読み取られる必要のあるログ範囲は、先行するメッセージ CSQE130I に表示される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージが同じ RBA 値で繰り返し発行される場合は、その原因を調査する。例えば、MQ は、保存ログ・データ・セットのテープがマウントされることを待っている場合がある。

CSQE136I

キュー *queue-name* のクリア時に Db2 によって返されたエラー。リスト・ヘッダー番号 =*list header number*、構造体番号 =*strucnum*

重大度

4

説明

サイズが 63 KB を超える共有キュー・メッセージが、メッセージ・データを 1 つ以上のバイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB) として Db2 表内に保持している。これらのメッセージをテーブルから消去しているときに、Db2 からエラーが返された。

リスト・ヘッダー番号および構造体番号は 16 進形式の出力であることに注意してください。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージはカップリング・ファシリティから削除されたが、メッセージ・データは Db2 内に孤立した BLOB として残っている可能性がある。通常はこのメッセージの前に、メッセージ CSQ5023E が出ている。Db2 ジョブ・ログを調べて、エラーが発生した理由を判別する。孤立メッセージは、24 時間後に「**DISPLAY GROUP OBSMSGS(YES)**」コマンドを発行して削除できる。

CSQE137E

csect-name Db2 および CF 構造体がキュー *queue-name* に対して同期していません。リスト・ヘッダー番号 =*list header number*、構造体番号 =*strucnum*。

重大度

4

説明

キュー・マネージャーが、カップリング・ファシリティ内に保管されている、キューに関する情報と、Db2 に保管されているそれに対応する情報の間に不一致あることを確認しました。

リスト・ヘッダー番号および構造体番号は 16 進形式の出力であることに注意してください。

システム・アクション

処理は続行されますが、システム・プログラマーがその不一致を解決するまで、アプリケーションは影響を受けたキューを開くことができません。

システム・プログラマーの応答

このキュー・マネージャーが最近バックアップからリカバリーされたものである場合は、そのリカバリー・プロセスを検討して、そのキュー・マネージャーに関連付けられている Db2 の表を含む、すべてのものが正しく復元されたことを確認してください。

この問題の原因を判別できない場合は、IBM サポート・センターに連絡して支援を受けてください。

CSQE138I

csect-name 構造体 *struc-name* は既に失敗状態です。

説明

すでに障害状態にある CF 構造体に対して **RESET CFSTRUCT ACTION(FAIL)** コマンドが発行された。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

CSQE139I

csect-name 構造体 *struc-name* に対する FAIL 処理ができませんでした。構造体は使用中です。

説明

別のプロセスが使用している CF 構造体に対して、**RESET CFSTRUCT ACTION(FAIL)** コマンドが発行された。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

コマンドで正しい CF 構造体名が入力されているかどうか検査する。正しければ、プロセスが終了するまで待ってから、必要に応じてコマンドを再発行する。

CSQE140I

csect-name 構造体 *structure-name* の ENF 35 イベントのリスニングを開始しました。

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは ENF 35 イベントを受信するよう登録されており、カップリング・ファシリティ・リソースが使用可能になったという通知を受け取ると、このメッセージで示されている構造体への再接続を試みます。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE141I

csect-name 構造体 *structure-name* の ENF 35 イベントのリスニングを停止しました

説明

キュー・マネージャーは、このメッセージで示されている構造体の ENF 35 イベントの受信を登録抹消されたため、カップリング・ファシリティ・リソースが使用可能になったという通知を受け取っても、再接続は試みません。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE142I

csect-name 構造体 *structure-name* に関して接続が完全に失われたことが報告されました

説明

シスプレックス内のどのシステムも、このメッセージで示されている構造体が割り振られているカップリング・ファシリティと接続していないことがキュー・マネージャーに通知されました。

システム・アクション

このメッセージで示されている構造体に対して自動復旧が有効になっている場合は、代替のカップリング・ファシリティが 1 つあれば、キュー共有グループ内のキュー・マネージャーの 1 つが、その代替のカップリング・ファシリティ内の構造体の復旧を試みます。

システム・プログラマーの応答

構造体が割り振られているカップリング・ファシリティとの接続が失われた原因を調査し、解決してください。

CSQE143I

csect-name 構造体 *structure-name* に関して接続が部分的に失われたことが報告されました

説明

キュー・マネージャーは、このメッセージで示されている構造体が割り振られているカップリング・ファシリティとの接続を失いましたが、カップリング・ファシリティはシスプレックス内の他のシステムでまだ使用可能であることが通知されました。

システム・アクション

代替のカップリング・ファシリティが使用可能であれば、そのカップリング・ファシリティ内の構造体を再作成するよう、システム管理の再作成がスケジュールに入れられます。

システム・プログラマーの応答

構造体が割り振られているカップリング・ファシリティとの接続が失われた原因を調査し、解決してください。

CSQE144I

csect-name 構造体 *structure-name* に対して、システム管理された再作成が開始されました

説明

キュー・マネージャーが、代替のカップリング・ファシリティで、このメッセージで示されている構造体に対してシステム管理された再作成を開始しました。

システム・アクション

処理は続行され、処理が完了した時点でメッセージ CSQE005I が発行される。

CSQE145E

csect-name 構造体 *structure-name* に対する自動回復を実行できません。代替の CF が CFRM ポリシーに定義されていません

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、このメッセージで示されている構造体が割り振られているカップリング・ファシリティとの接続を失いましたが、CFRM 設定リストに代替のカップリング・ファシリティが存在していないため、自動的にその構造体を復旧することができません。

システム・アクション

構造体との接続がないまま処理が続けられます。アプリケーション構造体にあるキューはすべて使用不可のままです。

システム・プログラマーの応答

構造体が割り振られているカップリング・ファシリティとの接続が失われた原因を調査し、解決してください。

CSQE146E

csect-name 構造体 *structure-name* に対するシステム管理された再作成が失敗しました。理由=*reason*

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、このメッセージで示されている構造体に対してシステム管理された再作成を開始しようとしたのですが、再作成を実行できませんでした。

システム・アクション

構造体との接続がないまま処理が続けられます。アプリケーション構造体にあるキューはすべて使用不可のままです。

システム・プログラマーの応答

理由コードを調べて、システム管理された再作成を完了できなかった理由を判別してください。コードについては、「[z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#)」に説明があります。

CSQE147I

csect-name 構造体 *structure-name* に対するシステム管理された再作成は既に進行中です

説明

キュー・マネージャーは、このメッセージで示されている構造体に対してシステム管理された再作成を開始しようとしたが、キュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーが既に再作成を開始したと判断しました。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE148I

csect-name 構造体 *structure-name* に対する接続喪失の処理は据え置かれました

説明

キュー・マネージャーは、示されている構造体が割り振られているカップリング・ファシリティへの接続を失いましたが、MVS™ は、後続の通知を受け取るまでキュー・マネージャーが処置を取らないように要求しました。

システム・アクション

構造体との接続がないまま処理が続けられます。アプリケーション構造体にあるキューはすべて使用不可のままです。

CSQE149I

csect-name 他のキュー・マネージャーが構造体 *structure-name* との接続を切断するのを待っています

説明

キュー・マネージャーが、このメッセージで示されている構造体が割り振られているカップリング・ファシリティとの接続を失いましたが、同様に接続を失った1つ以上のキュー・マネージャーがそのカップリング・ファシリティと接続したままであるため、その構造体を削除したり、システム管理された再作成を開始したりすることができません。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、すべてのキュー・マネージャーが切断されるまで、試行された操作を定期的に再試行します。

CSQE150I

csect-name 構造体 *structure-name* に対するシステム管理された再作成は既に完了しています

説明

このメッセージで示されている構造体に対する別の再作成要求が完了しているので、その構造体に対するシステム管理された再作成は不要です。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE151I

csect-name 管理構造体接続の喪失が許容されます

説明

キュー共有グループ内のいずれかのキュー・マネージャーが管理構造体との接続を失っても、代替のCFが使用できる場合は、その代替CF内に構造体が再作成されます。

この構造体を再作成できない場合、接続を失ったキュー・マネージャーの一部の共有キュー機能は、その構造体との接続が復元されるまで使用できなくなります。専用キューへのアクセスには影響しません。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE152I

csect-name 管理構造体接続の喪失は許容されません

説明

キュー・マネージャーが管理構造体との接続を失っても、その管理構造体の再作成は行われません。キュー・マネージャーは異常終了コード 5C6-00C510AB で終了します。

これが発生する可能性があるのは、CFCONLOS キュー・マネージャー属性が TERMINATE に設定されている場合です。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE153I

csect-name 構造体 *struct-name* に対する自動回復がスケジュールされています

説明

自動回復が有効になっている、このメッセージで示されている構造体が失敗したこと、またはその構造体との接続がシスプレックス内のすべてのシステムで失われたことをキュー・マネージャーが検出しました。

キュー・マネージャーは、この構造体の復旧試行をスケジュールしました。

システム・アクション

キュー共有グループ内のアクティブなキュー・マネージャーが、このメッセージで示されている構造体の復旧を試みます。

CSQE154I

csect-name 構造体 *struct-name* は削除されました

説明

キュー・マネージャーが、このメッセージで示されている構造体をカップリング・ファシリティから正常に削除しました。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE155I

csect-name 構造体 *struct-name* は既に削除されています

説明

キュー・マネージャーが、このメッセージで示されている構造体をカップリング・ファシリティから削除しようとしたときに、この構造体は割り振られていないため、削除できませんでした。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE156I

csect-name 構造体 *struct-name* は既に再割り振りされています

説明

キュー・マネージャーが、このメッセージで示されている構造体との接続を失いました。この構造体を削除しようとしたときに、キュー・マネージャーは、接続が失われてから以降にその構造体が再割り当てされたことを検出しました。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQE157E

csect-name 構造体 *struc-name* をリカバリーできません。適切な CF を使用できません。

重大度

8

説明

示されている構造体に対して RECOVER CFSTRUCT コマンドが実行された、または自動リカバリーが開始されたが、その構造体を割り振るのに適したカップリング・ファシリティがなかった。

システム・アクション

示されている構造体に対するコマンドの処理または自動リカバリーが終了する。

システム・プログラマーの応答

示されている構造体に適したカップリング・ファシリティが CFRM 設定リストで使用可能になっていることを確認し、コマンドを再実行する。

CSQE158E

csect-name 構造体 *struc-name* のリカバリーに失敗しました。理由=*reason*。

重大度

8

説明

示されている (カップリング・ファシリティ) CF 構造体のリカバリーが失敗しました。

システム・アクション

処理は続行されますが、示されている (カップリング・ファシリティ) CF 構造体を使用するキューにはアクセスできません。

システム・プログラマーの応答

理由コードについては、カップリング・ファシリティのコード (X'C5') を参照してください。この情報を使用してこの問題を解決し、次に自動リカバリーが有効になっていない構造体に対して RECOVER CFSTRUCT コマンドを再実行します。

CSQE159I

csect-name 構造体 *structure-name* の構造体の再作成が完了するのを待機しています

説明

キュー・マネージャーが、示されている構造体が割り振られているカップリング・ファシリティとの接続を失ったが、構造体の再作成が現在進行中であるため、その構造体を削除することも、システム管理による再作成を開始することもできない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、構造体の再作成が終了するまで、試行された操作を定期的に再試行する。

CSQE160I

csect-name 構造体 *struc-name* の自動リカバリーが中断されました

説明

キュー・マネージャーが、構造体 *struc-name* がリカバリー不可であることを検出した。構造体の自動リカバリーは中断された。

システム・アクション

構造体 *struc-name* の自動リカバリーが中断された。構造体への正常な接続が確立されると、自動リカバリーが再開される。

システム・プログラマーの応答

構造体のリカバリーに関する問題を報告するエラーまたは異常終了が過去に発生していないか確認する。

RECOVER CFSTRUCT(*struct-name*) を発行し、構造体のリカバリーを再試行する。

CSQE161E

csect-name キュー共有グループ状態が矛盾しています。キュー・マネージャー *qmgr-number* の XCF データがありません

説明

QSG のいずれかのキュー・マネージャーの XCF データが存在しなかったために、RECOVER CFSTRUCT コマンドまたは構造体の自動リカバリーが、リカバリーに必要なすべてのログ・データを読み込むことができなかった。*qmgr-number* は MQ Db2 表で影響を受けるキュー・マネージャーの番号を表す。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。構造体の自動リカバリーは試行されない。

システム・プログラマーの応答

MQ Db2 表内の番号 *qmgr-number* のキュー・マネージャーが、キュー共有グループから強制的に除去された後、QSG に再び追加された場合は、キュー・マネージャーを開始し、RECOVER CFSTRUCT コマンドを再発行する。そうでない場合は、RECOVER CFSTRUCT TYPE(PURGE) コマンドを発行して、構造体を空の状態にリセットする。

CSQE162E

csect-name 構造体 *struc-name* を削除できませんでした。RC=*return-code* 理由=*reason*

重大度

8

説明

DELETE CFSTRUCT コマンドの処理中に、キュー・マネージャーがカップリング・ファシリティから構造体 *struc-name* を削除しようとして失敗した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

戻りコードおよび理由コードを調べて、カップリング・ファシリティ構造体を IXLFORCE マクロで削除できなかった原因を判別する。コードについては、「[z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#)」に説明があります。

失敗の原因となった問題を修正した後、SETXCF FORCE,STRUCTURE z/OS コマンドを発行して構造体を削除する。

CSQE201E

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* の制御間隔 *rci* の *req* 要求を処理中に、メディア・マネージャーの要求が戻りコード *ccccffss* で失敗しました

重大度

8

説明

示されたメディア・マネージャーの要求 (READ、UPDATE、または FORMAT) をデータ・セットに対して試行するとエラーが発生する。

ccccffss

メディア・マネージャーの戻りコード (16 進表示)。末尾のバイト *ss* は、エラーの全体タイプを示す。

08

エクステント・エラー

0C

論理エラー

10

永続的な入出力エラー

14

未判別のエラー

cccc フィールドは特定のエラーを識別し、ff フィールドはエラーを返した関数を識別する。メディア・マネージャーの戻りコードの詳細については、「[z/OS DFSMSdfp Diagnosis](#)」を参照。

req

次に示す要求のタイプを指定する。

READ

1つ以上の制御間隔を読み取る。

UPDATE

1つ以上の制御間隔を再書き込みする。

FORMAT

1つ以上の制御間隔をフォーマットする。

rci

アクセスする制御間隔の Relative Control Interval (RCI) 数を 16 進表示で指定する。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

これにより、通常 **SMDS** 状況が **FAILED** に設定されるか (現行のキュー・マネージャーが所有するデータ・セットの場合)、**SMDSCONN** 状況が **ERROR** に設定されます (別のキュー・マネージャーが所有するデータ・セットの場合)。

システム・プログラマーの応答

問題がデータ・セットへの損傷によって引き起こされる永続的な入出力エラーであり、また回復ロギングが使用可能になっていた場合は、データ・セットをバックアップから再作成し、**RECOVER CFSTRUCT** コマンドを使用してログに記録された変更を再適用することにより、データ・セットを回復できる。

データ・セットが (例えば、装置接続の問題のために) 一時的に使用できないが、損傷していない場合は、データ・セットが再び使用可能になったときに、**RESET SMDS** コマンドを使用して状況を **RECOVERED** に設定することにより、データ・セットを通常の使用に戻すことができます。

CSQE202E

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* の *function* を処理中に、メディア・マネージャー・サービスが戻りコード *ret-code*、フィードバック・コード *feedback-code* で失敗しました

重大度

8

説明

メディア・マネージャー・サポート・サービス (MMGRSRV) 関数で予期しないエラーが発生した。

ret-code

MMGRSRV 戻りコード (16 進表示) を示す。

08

メディア・マネージャー・サービスのエラー。

14

不定のエラー

feedback-code

8 バイトの MMGRSRV 内部フィードバック・コード (16 進表示) を示す。

CONNECT 処理の場合、このフィードバック・コードの先頭バイトは、ACBERFLG で返される VSAM OPEN エラー情報と同じ。

function

以下のいずれかの、要求された関数のタイプを示す。

CONNECT

データ・セットをオープンする。

DISCONNECT

データ・セットをクローズする。

EXTEND

現行キュー・マネージャーによって書き込まれるデータ・セットを拡張するか、または、他のキュー・マネージャーによって拡張されたデータ・セットの最近追加されたエクステントへのアクセス権を取得する。

CATREAD

現行データ・セットのカatalog・エントリーから、制御間隔の最大割り振り数と最大使用数を取得する。

CATUPDT

新しいエクステントをフォーマットした後、現行データ・セットのカatalog・エントリー内の制御間隔の最大使用数を更新する。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

これにより、通常 **SMDS** 状況が **FAILED** に設定されるか (現行のキュー・マネージャーが所有するデータ・セットの場合)、**SMDSCONN** 状況が **ERROR** に設定されます (別のキュー・マネージャーが所有するデータ・セットの場合)。

システム・プログラマーの応答

通常、このメッセージの前に、エラーの性質を示す VSAM または DFP からの、IEC161I などのシステム・メッセージが先行する。

問題がデータ・セットへの損傷によって引き起こされる永続的な入出力エラーであり、また回復ロギングが使用可能になっていた場合は、データ・セットをバックアップから再作成し、**RECOVER CFSTRUCT** コマンドを使用してログに記録された変更を再適用することにより、データ・セットを回復できる。

データ・セットが (例えば、装置接続の問題のために) 一時的に使用できないが、損傷していない場合は、データ・セットが再び使用可能になったときに、**RESET SMDS** コマンドを使用して状況を **RECOVERED** に設定することにより、データ・セットを通常の使用に戻すことができます。

CSQE211I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* の *count* ページのフォーマット設定が進行中です

重大度

0

説明

現行の最大使用ページから最大割り振りページまでのデータ・セットをフォーマットしている。新しいエクステントが割り振られたとき、または完全にフォーマットされていない (つまり、最大使用ペー

ジが最大割り振りページよりも小さい) 既存のデータ・セットをオープンした直後にこのメッセージが出る。

count

フォーマットの必要なページ数 (10 進表示) を示す。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

フォーマット設定が続行される。

CSQE212I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* のフォーマット設定が完了しました

重大度

0

説明

データ・セットのフォーマット設定が完了し、カタログ内の最大使用ページが正常に更新された。

dsname

共有メッセージ・データ・セットを示す。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

システム・アクション

新しくフォーマットしたスペースが使用可能になる。

CSQE213I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* が *percentage%* までいっぱいです

重大度

0

説明

データ・セットがほぼいっぱいである。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

percentage

データ・セット内で現在使用しているデータ・ブロックのパーセンテージを示す。

このメッセージは、データ・セットが 90%、92% など (最大 100%)、あるパーセンテージまでいっぱいになった時点で発行される。このメッセージは、特定のパーセンテージで発行された後、使用量が少なくとも 2% 分上下しない限り発行されない。この場合は使用量が 88% 未満に下がると (メッセージが削除されたため、またはデータ・セットが拡張されたため)、新しい使用量を示す最終メッセージが発行される。

システム・アクション

拡張が許可されていれば、データ・セットが拡張される。データ・セットが 100% までいっぱいになると、データ・セットのスペースを要求する新しいメッセージの書き込み要求は、戻りコード MQRC_STORAGE_MEDIUM_FULL で拒否される。

システム・プログラマーの応答

SMDS キーワードを指定した **DISPLAY USAGE** コマンドを使用して、使用量を詳細に確認できる。

CSQE215I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* は、最大数のエクステントが割り振られているため、これ以上拡張できません

重大度

0

説明

データ・セットがエクステントの最大数に達し、これ以上拡張できないことをメディア・マネージャー・インターフェースが示している。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

このメッセージは、データ・セットがオープンされたとき、または拡張の試行後 (以前のメッセージで示されたように、正常に完了したことが考えられる) に発行されることがある。

システム・アクション

データ・セットの拡張オプションが **DSEXPAND(NO)** に変更され、それ以上の拡張が試行されないようにします。

システム・プログラマーの応答

データ・セットをさらに拡張する唯一の方法は、**RESET SMDS** コマンドを使用して状況を **FAILED** としてマークし、より大きいエクステントを使用して新しい場所にコピーし、**RESET SMDS** コマンドを使用して状況を **RECOVERED** としてマークすることにより、データ・セットを一時的に使用不可にすることです。

CSQE217I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* の拡張が成功しました。 *count* ページ追加、合計ページ *total*

重大度

0

説明

データ・セットが拡張され、1つ以上の新しいエクステントが正常に追加された。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

count

割り振られた新しいページ数 (10 進表示) を示す。

total

現在割り振られているページの総数 (10 進表示) を示す。

システム・アクション

キュー・マネージャーが新しく割り振られたスペースをフォーマットする。

CSQE218E

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* の拡張に失敗しました

重大度

8

説明

データ・セットを拡張しようとしたが、失敗した。一般的な原因は使用可能なスペースの不足である。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

データ・セットの拡張オプションが **DSEXPAND(NO)** に変更され、それ以上の拡張が試行されないようにします。

システム・プログラマーの応答

要求が失敗した理由を示す VSAM または DFP からのメッセージを確認して、必要な処置をとる。

後でスペースが用意できた場合に再試行するには、拡張を許可するように拡張オプションを戻す。

CSQE219I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* のエクステントをリフレッシュしました。 *count* ページ追加、合計ページ *total*

重大度

0

説明

データ・セットが他のキュー・マネージャーによって拡張された。現行キュー・マネージャーは、新しいエクステント内のメッセージ・データを読み取るために、メディア・マネージャー・サービスを使用して、オープン・データ・セットのエクステント情報を更新した。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

count

割り振られた新しいページ数 (10 進表示) を示す。

total

現在割り振られているページの総数 (10 進表示) を示す。

システム・アクション

新しいエクステントが現行キュー・マネージャーで表示可能になる。

CSQE222E

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* の動的割り振りが、戻りコード *ret-code*、理由コード *eeeeiiii* で失敗しました

重大度

8

説明

総称 **DSGROUP** 名をとり、キュー・マネージャー名を挿入することによって形成されたデータ・セット名を使用してデータ・セットを割り振ろうとしましたが、DYNALLOC マクロがエラーを戻しました。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

ret-code

DYNALLOC からの戻りコード (10 進表示) を示す。

eeeeiiii

DYNALLOC によって返されるエラー・コードおよび情報コードから成る理由コード (16 進表示) を示す。

システム・アクション

これにより、通常 **SMDS** 状況が **FAILED** に設定されるか (現行のキュー・マネージャーが所有するデータ・セットの場合)、**SMDSCONN** 状況が **ERROR** に設定されます (別のキュー・マネージャーが所有するデータ・セットの場合)。

システム・プログラマーの応答

問題に関する詳細を示す動的割り振りエラー・メッセージについて、ジョブ・ログを確認する。

何か変更を行った後には、**START SMDSCONN** コマンドを使用して、そのデータ・セットを使用する新しい試行を起動する。

理由コードが '02540000' (必要な ENQ が使用できないために割り振りが失敗したことを示す) である場合、キュー・マネージャーは、SMDS にアクセスする後続の試行で自動的に割り振り要求を再試行する。

理由コードが '02380000' (MVS タスク入出力テーブル (TIOT) に十分なスペースがなかったために割り振りが失敗したことを示す) の場合は、ALLOCxx PARMLIB メンバーを使用して TIOT のサイズを増やしてください。

V 9.3.2 あるいは、IBM MQ 9.3.2 から、拡張 TIOT の使用を許可する DEVSUPxx PARMLIB メンバーに NON_VSAM_XTIOT=YES を指定します。

CSQE223E

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* の動的割り振り解除が、戻りコード *ret-code*、理由コード *eeeeiiii* で失敗しました

重大度

8

説明

データ・セットの割り振りを解除しようとしたが、DYNALLOC マクロでエラーが返された。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

ret-code

DYNALLOC からの戻りコード (10 進表示) を示す。

eeeeiiii

DYNALLOC によって返されるエラー・コードおよび情報コードから成る理由コード (16 進表示) を示す。

システム・アクション

処理はこれ以上行われませんが、他のジョブまたは同じキュー・マネージャーからそのデータ・セットの使用を試行すると問題が発生する可能性がある。

システム・プログラマーの応答

問題に関する詳細を示す動的割り振りエラー・メッセージについて、ジョブ・ログを確認する。

CSQE230E

csect-name SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* によって保存されたスペース・マップを使用できません。タイム・スタンプ *time1* が、SMDS オブジェクト内の最終のクローズ・タイム・スタンプ *time2* に一致していません。

重大度

8

説明

このキュー・マネージャーが所有する共有メッセージ・データ・セットは、それが最後に使用されたときには保存済みのスペース・マップとともに正常に閉じられたように見えるが、そのデータ・セット内のタイム・スタンプが、このキュー・マネージャーがそのデータ・セットを最後に閉じたときに、Db2 内の SMDS オブジェクトに保管されたタイム・スタンプと一致しない。つまり、保存されたスペース・マップが、カップリング・ファシリティ内の現在のメッセージと整合していない可能性があるため、そのスペース・マップを再作成する必要がある。

このメッセージが出された最も可能性の高い原因は、このデータ・セットが、完全には最新の状態になっていなかったコピーからコピーされたか、復元されたことである。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

time1

データ・セット・ヘッダーで見つかったタイム・スタンプを示している。

time2

Db2 内の SMDS オブジェクトで見つかったタイム・スタンプを示している。

システム・アクション

既存の保存済みスペース・マップは無視され、カップリング・ファシリティ構造体内の、データ・セットを参照しているメッセージをスキャンして、スペース・マップが再作成される。

再作成のためのスキャン・プロセスは、カップリング・ファシリティ内の、データ・セットを参照している最新のメッセージを追跡し続け、スキャンの最後に、そのデータ・セット内で一致するメッセージ・データが見つかったかを確認する。見つかった場合は、少なくともその時点までのすべての変更はこのデータ・セット内に存在していると想定されるため、失われたデータはなく、データ・セットを正常に開くことができる。見つからなかった場合は、メッセージ CSQI034E が出され、そのデータ・セットは障害があるとしてマークされる。

CSQE231E

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* は、制御間隔サイズ 4096 と SHAREOPTIONS(2 3) が設定された VSAM 線形データ・セットではないため、使用できません

重大度

8

説明

指定されたデータ・セットが VSAM 線形データ・セットでないか、制御間隔サイズがデフォルト値の 4096 でないか、または誤った共有オプションが指定されている。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

データ・セットが最初に空であった場合、共有オプションは、そのデータ・セットが初期化されクローズされて、再オープンされるまでチェックされない。

システム・アクション

データ・セットはクローズされ、**SMDS** 状況は **FAILED** に設定されます。

システム・プログラマーの応答

誤りのあるデータ・セットを削除し、同じ名前のデータ・セットを正しい属性で作成する。

何か変更を行った後には、**START SMDSCONN** コマンドを使用して、そのデータ・セットを使用する新しい試行を起動する。

CSQE232E

csect-name SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* は、ヘッダー・レコードにある ID 情報 (*field-name*) が正しくないため、使用できません。

重大度

8

説明

データ・セットがオープンされたときに、ヘッダー・レコードに既存の情報があったが (データ・セットは新規にフォーマットされていなかった)、その情報は予期したデータ・セット ID と一致しなかった。識別情報には、共有メッセージ・データ・セットのマーカ "CSQESMDS"、キュー共有グループの名前、アプリケーション構造体、および共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーが含まれます。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

field-name

予期していた値を持っていなかった、最初のヘッダー ID フィールドを示している。

システム・アクション

データ・セットはクローズされ、接続は **AVAIL (ERROR)** としてマークされます。データ・セットの状況が **ACTIVE** または **RECOVERED** (現在使用中であることを示す) の場合、状況は **FAILED** に変更されます。

システム・プログラマーの応答

データ・セットが既に使用されていた場合は、何らかの方法で上書きされたことを示している可能性があります。その場合は、**RECOVER CFSTRUCT** コマンドを使用して永続メッセージをリカバリーできます。

データ・セットがまだ使用中でなかった場合、または現在空であった場合は、データ・セットがフォーマット済みであるか空であるかを確認してから再使用を試みる。何か変更を行った後は、**START SMDSCONN** コマンドを使用して、そのデータ・セットを使用する新しい試行を起動する。

データ・セット・ヘッダー・レコードを表示するには、アクセス方式サービス・プログラムの **PRINT** コマンドを次のように使用することができます。

```
PRINT INDATASET('dsname') TOADDRESS(4095)
```

データ・セットのヘッダー・レコード内の ID 情報のフォーマットは、以下のとおりである。

オフセット:10 進数	オフセット:16 進数	タイプ	長さ	フィールド	説明
8	8	文字	8	MARKER	マーカー 'CSQESMDS'
16	10	文字	4	キュー共有グループ	キュー共有グループ名
20	14	文字	12	CFSTRUCT	構造体名
3	20	文字	4	SMDS	所有キュー・マネージャー
36	24	整数	4	バージョン	ヘッダー・バージョン 1

CSQE233E

SMDS(qmgr-name) CFSTRUCT(struc-name) データ・セット dsname は、ヘッダー・レコードでは新規にフォーマットされたデータ・セットであることが示されているが、すでに使用されていたため、使用できません

重大度

8

説明

データ・セットがオープンされたときに、ヘッダー・レコードにある ID 情報がゼロであり、新しい空のデータ・セットを示していたが、データ・セットはすでに使用されていたため、空ではなくなっている。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

データ・セットはクローズされ、**FAILED** としてマークされます。

システム・プログラマーの応答

RECOVER CFSTRUCT コマンドを使用して、持続メッセージを回復できる。

CSQE234I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* が空であったため、フォーマット設定が必要です

重大度

0

説明

データ・セットがオープンされたときに、既存データもなく、事前フォーマットされたスペースもなく、空であることが判明した。この場合、VSAM は、データ・セットへの共有アクセスを許可しない。キュー・マネージャーは、データ・セットを初期化する必要がある。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

データ・セットは、既存のエクステンツの最後まで事前フォーマットされる。データ・セットが完全に使用できるようになるまで、短い遅延が発生する。

CSQE235I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* が完全にフォーマットされていないため、追加のフォーマット設定が必要です

重大度

0

説明

これは、データ・セットがオープンされたときに、既存のデータ・セットのエクステンツが完全にフォーマットされていない場合に発生する。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

データ・セットは、既存のエクステンツの最後までフォーマットされる。データ・セットが完全に使用できるようになるまで、短い遅延が発生する。

CSQE236I

スペース・マップを作成するために使用可能な主ストレージが十分でないため、SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* を使用できません

重大度

8

説明

キュー・マネージャーは、データ・セット内のフリー・スペースを管理するために、主ストレージにスペース・マップを作成する必要があるが、十分な主ストレージを取得できなかった。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

データ・セットはオープンされない。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーの MEMLIMIT を増やすことを検討する。

必要に応じて、START SMDSCONN コマンドを使用して、データ・セットをオープンする別の試行を要求する。

詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

CSQE237I

スペース・マップを作成するために使用可能な主ストレージが十分でないため、SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* を拡張できません

重大度

8

説明

キュー・マネージャーは、拡張されたデータ・セットの追加スペースを管理するために、主ストレージにスペース・マップ・ブロックを作成する必要があるが、十分な主ストレージを取得できなかった。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

データ・セットの新しいエクステンツは使用できない。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーの MEMLIMIT を増やすことを検討する。

必要に応じて、START SMDSCONN コマンドを使用して、データ・セットをオープンする別の試行を要求する。

詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

CSQE238I

初期スペース割り振りが論理ブロック 2 個未満であるため、SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* が小さすぎて使用できません

重大度

8

説明

サポートされるデータ・セットの最小サイズは、制御情報用に論理ブロックが少なくとも 1 つ、データ用に論理ブロックが少なくとも 1 つ必要であるが、データ・セットが 2 個の論理ブロックに満たない。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

データ・セットはオープンされない。

システム・プログラマーの応答

データ・セットを削除し、スペース割り振りを増やして再作成する。

変更を行った後は、**START SMDSCONN** コマンドを使用して、データ・セットをオープンする別の試行を要求する。

CSQE239I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* がいっぱいになったため、大きい新規メッセージはこれ以上保管できません

重大度

8

説明

共有キューに書き込まれるメッセージには、データ・セットへのオフロードが必要なほどの大きさのデータが含まれるが、データ・セットには十分なスペースがない。以降の要求は、既存のメッセージが読み取られ、データ・セットから削除されるまでは、失敗する可能性がある。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

この問題が発生する要求はいずれも、MQRC_STORAGE_MEDIUM_FULL により拒否される。このメッセージは、前回発行されて以降、データ・セットの使用量が 90% 未満に下がるまでは再度発行されない。

システム・プログラマーの応答

この問題は、未処理の大きな共有メッセージのバックログがデータ・セットのサイズを超えたものの、データ・セットの拡張が間に合わず、問題を回避できなかったことを示している。

共有キューから大きなメッセージを除去するアプリケーションが実行中であることを確認する。また、データ・セットの拡張に関連する以前の問題 (例えば、適切なボリューム上に十分なスペースがなかった場合など) も確認する。

CSQE241I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) が STATUS(*status*) になりました

重大度

0

説明

指定されたキュー・マネージャーおよびアプリケーション構造の共有メッセージ・データ・セットのステータスが、自動ステータス管理または **RESET SMDS** コマンドによって、示された値に変更された。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

状況

新しいステータス値を示す。特定の状況値について詳しくは、**TYPE(SMDS)** オプションを指定した **DISPLAY CFSTATUS** コマンドを参照してください。

システム・アクション

この構造体に接続するすべてのキュー・マネージャーは、ステータス変更の通知を受ける。キュー・マネージャーは、例えば、データ・セットをオープンしたりクローズしたりするなど、必要に応じて、適切なアクションを実行する。

CSQE242I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) が ACCESS(*access*) になりました

重大度

0

説明

指定されたキュー・マネージャーの共有メッセージ・データ・セットのアクセス可用性設定、およびアプリケーション構造が、自動ステータス管理または **RESET SMDS** コマンドによって、示された値に変更された。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

アクセス

新しいアクセス可用性設定を示す。具体的な設定の詳細については、**TYPE(SMDS)** オプションを指定して **DISPLAY CFSTATUS** コマンドを参照してください。

システム・アクション

この構造体に接続するすべてのキュー・マネージャーは、変更の通知を受ける。キュー・マネージャーは、例えば、データ・セットをオープンしたりクローズしたりするなど、必要に応じて、適切なアクションを実行する。

CSQE243I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) が DSBUFS(*value*) になりました

重大度

0

説明

指定されたキュー・マネージャーが使用する、このアプリケーション構造の共有メッセージ・データ・セットのバッファ数、示されている値に変更された。このメッセージは、**ALTER SMDS** コマンドの結果として、または以前指定した **DSBUFS** ターゲット値を達成できなかったとき (この場合は警告メッセージが発行される) のいずれかの場合に出され、**DSBUFS** オプションが実際に達成した値に自動的に設定される。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

値

新しい **DSBUFS** 設定を示します。これは、使用するバッファの数を示す 10 進数、またはアプリケーション構造の **CFSTRUCT** 定義で指定されたデフォルトの **DSBUFS** 値を使用することを示す **DEFAULT** のいずれかです。詳しくは、**ALTER SMDS** コマンドおよび **DISPLAY SMDS** コマンドを参照。

システム・アクション

SMDS キーワードによって識別されるキュー・マネージャーは、アクティブである場合は通知を受け、そのバッファ・プールのサイズを指示どおりに調整します。

CSQE244I

csect-name SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) が DEXPAND(*value*) になりました

重大度

0

説明

特定の共有メッセージ・データ・セットの自動拡張を許可するオプションが、示されているように変更された。このメッセージは、**ALTER SMDS** コマンドの結果として、または拡張しようとして失敗したときのいずれかの場合に出される。後者の場合は、それ以上拡張が行われないように、オプションが自動的に **DEXPAND(NO)** に変更される。後者の場合は、問題が修正されれば、**ALTER SMDS** コマンドを使用して、自動拡張を再度有効にできる。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

値

は、新しい **DEXPAND** 設定 (**DEFAULT**、**YES**、または **NO**) を示しています。詳しくは、**ALTER SMDS** および **DISPLAY SMDS** コマンドを参照してください。

システム・アクション

SMDS キーワードで識別されるキュー・マネージャーがアクティブである場合は、そのキュー・マネージャーに通知されます。この変更により拡張が有効になり、データ・セットがすでに拡張を必要としている状態である場合は、すぐに拡張が試行される。

CSQE245I

CFSTRUCT(*struc-name*) で OFFLDUSE(*offload-usage*) が使用可能になっています。

重大度

0

説明

アプリケーション構造体の **OFFLOAD** メソッドが最近変更され、キュー・マネージャーは古いオフロード・メソッドを使用して保管されたメッセージがこれ以上ないことを判別したため、古いオフロード・メソッドをアクティブのままにする必要がなくなりました。**DISPLAY CFSTATUS** コマンドの **OFFLDUSE** キーワードとして表示されるオフロード使用標識が更新され、新しいオフロード方式のみが現在使用中であることが示されるようになりました。

OFFLOAD(SMDS) から **OFFLOAD(DB2)** への遷移の場合、このメッセージは、すべてのアクティブ・データ・セットが **EMPTY** 状態に変更されたときに発生します。この状態は、データ・セットがメッセージを含まないときに正常にクローズされた場合に発生します。この場合、オフロード使用標識が **BOTH** から **DB2** に変更され、キュー・マネージャーは SMDS データ・セットを使用しなくなります。このデータ・セットは、不要になった場合は削除できます。

OFFLOAD(DB2) から **OFFLOAD(SMDS)** への移行の場合、このメッセージは、Db2 に保管されている構造体の大きなメッセージがないときに、キュー・マネージャーが構造体から正常に切断されたときに発生します。この場合、オフロード使用標識は **BOTH** から **SMDS** に変更されます。

struc-name

アプリケーション構造体を示す。

offload-usage

新しいオフロード使用インディケータを示す。

システム・アクション

この構造体に接続するすべてのキュー・マネージャーは、変更の通知を受ける。キュー・マネージャーは、必要に応じて、データ・セットを開くまたは閉じるなどの適切な処置を取る。

CSQE246I

csect-name SMDSCONN(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) が STATUS(*status*) になりました

重大度

0

説明

現在のキュー・マネージャーが共有メッセージ・データ・セットに接続できない。その理由は通常、このメッセージの前のメッセージに示されている。このデータ・セット接続のエラー状況は、発生した問題のタイプを示す値に設定される。この状況は、次回このデータ・セットを開こうとしたときにリセットされる。

このメッセージが発行されるのは、エラー状況値の場合だけである。これらの値は、エラーが原因でデータ・セットが閉じられた場合に、正常状況の代わりに表示される。通常の状況値 (**CLOSED**、**OPENING**、**OPEN**、または **CLOSING**) の場合は、メッセージは出されません。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

状況

新しいエラー状況を示す。可能な状況値について詳しくは、**DISPLAY SMDSCONN** コマンドの **STATUS** キーワードを参照してください。

システム・アクション

SMDSCONN 可用性が **AVAIL (ERROR)** に設定され、メッセージ CSQE247I が発行されます。

可用性の値が **AVAIL (NORMAL)** に戻されるまで、データ・セットへの接続は試行されません。これは、キュー・マネージャーの再始動、データ・セットの可用性の変更、または **START SMDSCONN** コマンドへの応答の結果として起こることがある。キュー・マネージャーの実行中にこれが発生した場合は、**AVAIL (NORMAL)** を示す別のメッセージ CSQE247I が発行されます。

CSQE247I

csect-name SMDSCONN(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) が AVAIL(*availability*) になりました

重大度

0

説明

現在のキュー・マネージャーと共有メッセージ・データ・セットの間の接続に対する可用性の設定が、示された値に変更された。この設定を変更できるのは、例えばキュー・マネージャーがデータ・セットを開くことができない場合の自動状況管理か、**STOP SMDSCONN** コマンドまたは **START SMDSCONN** コマンドのいずれかである。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

アベイラビリティ

新しい可用性の設定を示す。可能な値の詳細については、**DISPLAY SMDSCONN** コマンドの **AVAIL** キーワードを参照してください。

システム・アクション

必要に応じて、現在のキュー・マネージャーが、例えばデータ・セットを開くまたは閉じるなど、適切なアクションを取る。

CSQE252I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* のスペース・マップは、構造の走査により再作成されます

重大度

0

説明

データ・セットのスペース・マップは、キュー・マネージャーの異常終了後、またはデータ・セットの回復後に再構成する必要があるため、この走査の実行中に遅延が発生する。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、構造の内容を走査し、スペース・マップを再構成するためにデータ・セット内のどのブロックが参照されているかを判別する。

CSQE255I

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* のスペース・マップが再作成されました。メッセージ・カウント *msg-count*

重大度

0

説明

データ・セットのスペース・マップを再作成するための走査が完了した。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

msg-count

データ・セットに現在保管されている大きいメッセージの数を示す。

システム・アクション

データ・セットが使用可能になる。

CSQE256E

参照したメッセージ・データ・ブロックがデータ・セットの最後を超えたため、SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* のスペース・マップの再作成処理に失敗しました

重大度

8

説明

データ・セットのスペース・マップを再作成するための走査中に、制御間隔の数が現行データ・セットのサイズよりも大きいメッセージ・データ・ブロックを参照したメッセージが構造体で見つかった。データ・セットが切り捨てられた可能性がある。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

データ・セットはクローズされ、**FAILED** としてマークされます。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、データ・セットが破損したことを示す。例えば、データ・セットをより小さいデータ・セットにコピーしたために、1つ以上のメッセージ・データ・ブロックが失われた場合などである。

元のコピーがまだ使用できる場合は、元のサイズでデータ・セットを再割り振りして元のデータにコピーし、**RESET SMDS** コマンドを使用して、データ・セットを **RECOVERED** としてマーク付けることにより、データを失うことなく、問題を修正できる。

その他の方法として、元のサイズでデータ・セットを再作成し、**RECOVER CFSTRUCT** コマンドを使用して構造とデータ・セットを回復することにより、持続メッセージを回復できる。

CSQE257E

SMDS(*qmgr-name*) CFSTRUCT(*struc-name*) データ・セット *dsname* がスペース・マップに記録されたサイズよりも小さい。保存されたスペース・マップを使用できない

重大度

8

説明

データ・セットは保存されたスペース・マップを含むが、データ・セットの現行サイズは、スペース・マップに記録されたサイズよりも小さい。データ・セットが切り捨てられた可能性がある。

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

dsname

共有メッセージ・データ・セットのフルネームを示す。

システム・アクション

保存されたスペース・マップは無視され、切り捨てられたデータ・セットのスペース・マップを再作成しようとする。すべてのアクティブ・メッセージ・データがデータ・セットの現行エクステンツ内にある場合は、再作成の試みは成功します。そうでない場合は、メッセージ **CSQE256E** を出して失敗します。

CSQE274E

十分なストレージを使用できなかったため、CFSTRUCT(*struc-name*) の SMDS バッファ・プールを作成できませんでした

重大度

8

説明

構造に SMDS データ・バッファ・プールを割り振るための十分な主ストレージを使用できなかった。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

システム・アクション

この構造のデータ・セットはオープンできない。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーの MEMLIMIT を増やすことを検討する。

アドレス・スペース・ストレージについて詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照。

CSQE275E

十分なストレージを使用できなかったため、CFSTRUCT(*struc-name*) の SMDS バッファース・プールが、要求された *buffer-count* 個ではなく *actual-buffers* 個で作成されました

重大度

8

説明

要求されたバッファース数を構造の SMDS データ・バッファース・プールに割り振るための十分な主ストレージを使用できなかった。要求より少ない数のバッファースの割り振りが成功した。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

actual-buffers

割り振られたバッファースの数を示す。

buffer-count

要求されたバッファースの数を示す。

システム・アクション

バッファース・プールは、バッファース数を減らして作成される。

システム・プログラマーの応答

指定された数のバッファースで十分である場合は、要求した値をそれに合わせて変更して、今後同様の問題が起きないようにする。

キュー・マネージャーの MEMLIMIT を増やすことを検討する。

詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

CSQE276I

CFSTRUCT(*struc-name*) の SMDS バッファース・プールが *buffer-count* 個のバッファースに増えました

重大度

0

説明

SMDS バッファース・プール・サイズを変更する要求が正常に完了しました。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

buffer-count

要求されたバッファースの数を示す。

システム・アクション

追加のバッファースが使用可能になる。

CSQE277I

十分なストレージが使用できなかったため、CFSTRUCT(*struc-name*) の SMDS バッファース・プールが、要求された *buffer-count* 個ではなく *actual-buffers* 個のバッファースに増えました

重大度

0

説明

SMDS バッファース・プール・サイズを変更する要求が完了しましたが、使用可能な主ストレージが不足しているため、ターゲットのバッファース数に達しませんでした。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

actual-buffers

割り振られたバッファースの数を示す。

buffer-count

要求されたバッファースの数を示す。

システム・アクション

追加のバッファースが使用可能になる。

CSQE278I

CFSTRUCT(*struc-name*) の SMDS バッファース・プールが *buffer-count* 個のバッファースに減りました

重大度

0

説明

SMDS バッファース・プール・サイズを削減する要求が正常に完了しました。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

buffer-count

要求されたバッファースの数を示す。

システム・アクション

余分なバッファースのストレージを解放してシステムに戻す。

CSQE279I

CFSTRUCT(*struc-name*) の SMDS バッファース・プールは、残っているバッファースが使用中であるため、要求された *buffer-count* 個ではなく、*actual-buffers* 個のバッファースに減りました

重大度

0

説明

SMDS バッファース・プール・サイズを削減する要求は、使用中の現在のバッファース数とその数を超え、アクティブ・バッファースを解放できないため、ターゲットのバッファース数に達することができませんでした。

struc-name

共有メッセージ・データ・セットに関連付けられたアプリケーション構造を識別する。

actual-buffers

割り振られたバッファースの数を示す。

buffer-count

要求されたバッファースの数を示す。

システム・アクション

バッファース数の少なくとも一部でも削減されれば、余分なバッファースのストレージを解放してシステムに戻す。

CSQE280I

SMDS 使用量 ...

重大度

0

説明

このメッセージは、**TYPE(SMDS)** を指定した **DISPLAY USAGE** コマンドに対する応答で発行される。これは、現在 SMDS サポートを使用しているアプリケーション構造ごとに、現行キュー・マネージャーによって所有される共有メッセージ・データ・セットのデータ・セット・スペース使用情報を示す。情報は以下の形式である。

```
Application  Offloaded  Total  Total data  Used data  Used  Encr-
structure   messages  blocks  blocks      blocks    part  ypt
      n          n          n          n          n% :  n
End of SMDS report
```

情報の列は次のとおり。

アプリケーション構造

これは、アプリケーション構造の名前である。

オフロードされたメッセージ

これは、このキュー・マネージャーが所有するデータ・セット内のメッセージ・データが保管されている構造内の共有メッセージの数を示す。

合計ブロック数

これは、スペース・マップの保管に使用しているブロックを含め、論理ブロック内の所有されているデータ・セットの現在の合計サイズである。

合計データ・ブロック数

これは、スペース・マップの保管に使用しているブロックを除く、データの保管に使用可能な、所有されているデータ・セット内のブロックの数である。

使用済みデータ・ブロック数

これは、現在使用中の所有されているデータ・セット内のブロックの数である (つまり、アクティブ・メッセージ・データを含む 1 ページ以上のブロック)。

Used part (使用済み部分)

これは、合計データ・ブロック数に対する、使用済みデータ・ブロック数の比率で、パーセンテージで表される。

暗号化

SMDS データ・セットが暗号化されているかどうかを示す (YES または NO)。

CSQE285I

SMDS バッファ使用量 ...

重大度

0

説明

このメッセージは、**TYPE(SMDS)** を指定した **DISPLAY USAGE** コマンドに対する応答で発行される。これは、現在 SMDS サポートを使用しているアプリケーション構造ごとに、共有メッセージ・データ・セットのバッファ・プールの使用情報を示す。情報は以下の形式である。

```
Application  Block  -----  Buffers -----  Reads  Lowest  Wait
structure   size  Total  In use  Saved  Empty  saved  free  rate  _name
      nK      n          n          n          n          n%      n          n          n
End of SMDS buffer report
```

情報の列は次のとおり。

アプリケーション構造

これは、アプリケーション構造の名前である。

ブロック・サイズ

これは、各バッファのサイズを KB 単位で示す。これは、共有メッセージ・データ・セットの論理ブロック・サイズと同じである。

Buffers: Total (バッファ: 合計)

これは、プール内の実際のバッファの数である。

Buffers: In use (バッファ: 使用中)

これは、データ・セットに対するデータ転送のやり取りの要求で現在使用しているバッファの数である。

Buffers: Saved (バッファ: 保存)

これは、解放されているが、最近アクセスされたブロック用に保存したデータを現在含むバッファの数である。

Buffers: Empty (バッファ: 空)

これは、解放されていて空のバッファの数である。新しいバッファが要求されると、空のバッファを最初に使用するが、空のバッファがない場合は、最長未使用時間の保存バッファをリセットして空にし、代わりに使用する。

Reads saved (保存分からの読み取り)

これは、正しいブロックが保存バッファで見つかり、データ・セットからデータを読み取る必要がなかった (現行統計間隔での) 読み取り要求のパーセンテージである。

最小フリー

これは、現行統計間隔で解放されているバッファの最小数、または、すべてのバッファが使用されていたが、空のバッファを待機する要求がなかった場合はゼロ、あるいは、解放されるバッファを同時に待機していた要求の最大数を示す負の数値である。この値が負の場合は、解放されるバッファの待機を回避するために必要な追加バッファの数を示す。

Wait rate (待機率)

これは、解放されるバッファを待機していた要求がバッファを取得した割合であり、パーセンテージで表される。統計が収集されるときに数値がリセットされる。

z/OS セキュリティー・マネージャー・メッセージ (CSQH...)**CSQH001I**

Security using uppercase classes

重大度

0

説明

このメッセージは、セキュリティーが大文字クラス MQPROC、MQNLIST、MQQUEUE、および MQADMIN を現在使用していることを通知するために出される。

CSQH002I

Security using mixed case classes

重大度

0

説明

このメッセージは、セキュリティーが大/小文字混合クラス MXPROC、MXNLIST、MXQUEUE、および MXADMIN を現在使用していることを通知するために出される。

CSQH003I

クラス *class-name* に対してセキュリティーのリフレッシュは行われませんでした。

重大度

4

説明

このメッセージは、SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しからの戻りコードのために、クラス MQPROC、MQNLIST、または MQQUEUE をリフレッシュする試みが失敗に終わった場合に、メッセージ CSQH004I に続いて出される。戻りコードは、メッセージ CSQH004I で戻される。

システム・アクション

リフレッシュは行われません。

システム・プログラマーの応答

問題のクラス(class-name)が正しくセットアップされているかどうかを調べる。問題の理由については、メッセージ CSQH004I を参照。

CSQH004I

csect-name クラス *class-name* の STAT 呼び出しが失敗しました。SAF 戻りコード=*saf-rc*、ESM 戻りコード=*esm-rc*

重大度

8

説明

このメッセージは、次のいずれかの時点で、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しがゼロ以外の戻りコードを戻した結果として出される。

- 初期設定時、または REFRESH SECURITY コマンドに対する応答

SAF および ESM からの戻りコードがゼロでなく、予期しなかったものである場合は、次の理由コードのいずれかが出されて、異常終了が引き起こされる。

- X'00C8000D'
- X'00C80032'
- X'00C80038'

- REFRESH SECURITY コマンドに対する応答として。

SAF および ESM からの戻りコードがゼロでない場合は (例えば、使用しようとしていないので、そのクラスが活動状態でない場合)、このメッセージは、STAT 呼び出しが失敗したことを通知するために、コマンドの発行側に戻される。

この問題の考えられる原因は以下のとおりです。

- クラスが未インストール
- クラスが非アクティブ
- 外部セキュリティー・マネージャー (ESM) が非アクティブ
- RACF z/OS ルーター表が正しくない。

システム・プログラマーの応答

何らかの処置が必要かどうかを判別するには、「[Security Server 外部セキュリティー・インターフェース \(RACROUTE\) マクロ解説書](#)」で戻りコードの詳細を参照してください。

CSQH005I

csect-name resource-type ストレージ内プロファイルが正常にリストされました。

重大度

0

説明

このメッセージは、ストレージ内プロファイルを RACLIST (すなわち再作成) させる REFRESH SECURITY コマンドに対する応答として出される (再作成されるのは、例えば、資源のセキュリティー・スイッチがオンにセットされたとき、またはストレージ内表の再作成を必要とする特定のクラスのリフレッシュが要求されたときである)。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、キュー・マネージャーのセキュリティー構成を検査できるようにするために出される。

CSQH006I

CSQTTIME からエラーが戻されました。セキュリティー・タイマーが開始されていません。

重大度

8

説明

MQ タイマー・コンポーネントからエラーが戻されたため、セキュリティー・タイマーは開始されなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーが異常終了して、理由コード X'00C80042' が出される。

システム・プログラマーの応答

理由コードの説明については、[937 ページの『セキュリティー・マネージャー・コード \(X'C8\)』](#)を参照。

CSQH007I

Reverify flag not set for user-id *userid*, no entry found

重大度

0

説明

RVERIFY SECURITY コマンドに指定されたユーザー ID (*user-id*) は、それに関する項目が内部制御表になかったため無効である。これは、コマンドで入力された ID が誤っているか、テーブルに存在しないこと (タイムアウトなどにより) が原因である可能性があります。

システム・アクション

ユーザー ID (*user-id*) には再検査のフラグは立てられない。

システム・プログラマーの応答

その ID が正しく入力されたかどうかを確かめる。

CSQH008I

サブシステム・セキュリティーが活動状態ではありません。ユーザー ID は処理されません。

重大度

0

説明

RVERIFY SECURITY コマンドが実行されたが、サブシステム・セキュリティー・スイッチがオフになっているので、再検査のフラグを立てるための内部制御表がない。

CSQH009I

セキュリティー・タイムアウトの処理中にエラーが発生しました。

重大度

8

説明

このメッセージは、次のいずれかの場合に、システム・ログに送られる。

- ・セキュリティー・タイムアウト処理中にエラーが発生した場合 (例えば、削除処理中に外部セキュリティー・マネージャー (ESM) からゼロ以外の戻りコードが戻された場合)。
- ・セキュリティー・タイマーの再始動時にタイマー (CSQTTIME) からゼロ以外の戻りコードを受け取った場合は、メッセージ CSQH010I を出す前に、このメッセージがシステム・ログに送られる。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して問題を報告する。

CSQH010I

csect-name セキュリティー・タイムアウト・タイマーは再始動されませんでした。

重大度

8

説明

このメッセージは、セキュリティー・タイムアウト・タイマーが作動可能でないことを通知するために出される。この理由は、このメッセージの前に次のどのメッセージが出されたかによって異なる。

CSQH009I

タイムアウト処理中にエラーが発生した。

CSQH011I

タイムアウト時間間隔がゼロにセットされていた。

システム・アクション

このメッセージがメッセージ CSQH009I の後に出された場合、キュー・マネージャーが異常終了して、次の理由コードのいずれかが出される。

csect-name

理由コード

CSQH011I

X'00C80040'

CSQHPATC

X'00C80041'

システム・プログラマーの応答

理由コードについては、[937 ページの『セキュリティー・マネージャー・コード \(X'C8\)』](#)を参照。

CSQH011I

csect-name セキュリティー間隔は現在ゼロに設定されています。

重大度

0

説明

INTERVAL 属性が 0 に設定された ALTER SECURITY コマンドが入力されました。つまり、ユーザー・タイムアウトは発生しません。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、セキュリティー・タイムアウトが起こらないことを警告するために出される。これが目的に合っているかどうかを確認する。

CSQH012I

セキュリティー・タイムアウトの更新処理中にエラーが発生しました。

重大度

8

説明

このメッセージは、タイムアウト処理中にエラーが検出された (例えば、タイムアウト処理中に外部セキュリティー・マネージャー (ESM) からゼロ以外の戻りコードが戻された) 場合に、ALTER SECURITY コマンドに対する応答として出される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して問題を報告する。

CSQH013E

csect-name Case conflict for class *class-name*

重大度

8

説明

REFRESH SECURITY コマンドが発行されたが、クラス *class-name* に現在使用中の大/小文字がシステム設定と違うため、リフレッシュすると、異なる大/小文字設定がクラスのセットで使用されることになる。

システム・アクション

リフレッシュは行われぬ。

システム・プログラマーの応答

問題のクラス (*class-name*) が正しくセットアップされているかどうか、およびシステム設定が正しいかどうかを調べる。大/小文字の設定を変更する必要がある場合は、REFRESH SECURITY(*) コマンドを発行してすべてのクラスを変更してください。

CSQH015I

セキュリティ・タイムアウト = *number* 分

重大度

0

説明

このメッセージは、DISPLAY SECURITY TIMEOUT コマンドに対する応答として、または DISPLAY SECURITY ALL コマンドの一部として出される。

CSQH016I

セキュリティ間隔 = *number* 分

重大度

0

説明

このメッセージは、DISPLAY SECURITY INTERVAL コマンドに対する応答として、または DISPLAY SECURITY ALL コマンドの一部として出される。

CSQH017I

セキュリティのリフレッシュが、サインオフのエラーで完了しました。

重大度

8

説明

このメッセージは、リフレッシュ処理中にエラーが検出された (例えば、サインオフまたは削除処理中に、外部セキュリティ・マネージャー (ESM) からゼロ以外の戻りコードが戻された) 場合に出される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して問題を報告する。

CSQH018I

csect-name resource-type のセキュリティー・リフレッシュは処理されませんでした。セキュリティー・スイッチはオフに設定されました。

重大度

0

説明

資源タイプ *resource-type* に対して REFRESH SECURITY コマンドが出された。ただし、このタイプのセキュリティー・スイッチまたはサブシステムのセキュリティー・スイッチは現在オフになっている。

注：MQADMIN は常にリフレッシュが可能なので、このメッセージは、MQQUEUE、MQPROC、および MQNLIST の資源タイプに対してのみ出される。

システム・プログラマーの応答

REFRESH SECURITY 要求が正しい資源タイプに対して出されていたかどうかを確認する。

CSQH019I

Keyword values are incompatible

重大度

8

説明

REFRESH SECURITY コマンドが発行されたが、指定されているキーワード値が別のキーワードの値と競合するため、コマンド構文が正しくない。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

詳細については [REFRESH SECURITY](#) を参照。

CSQH021I

csect-name switch-type security switch set OFF, profile '*profile-type*' found

重大度

0

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの初期設定時に、指定されたセキュリティー・プロファイルが見つかったために OFF に設定されるそれぞれのセキュリティー・スイッチごとに、REFRESH SECURITY コマンドに対する応答として出される。

システム・アクション

サブシステムのセキュリティー・スイッチがオフに設定されている場合には、(そのスイッチに対する) 1つのメッセージのみを受け取ることになる。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQH021I から CSQH026I までは、キュー・マネージャーのセキュリティー構成を検査できるようにするために出される。セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。

CSQH022I

csect-name プロファイル '*profile-type*' が見つかり、セキュリティー・スイッチ *switch-type* がオンに設定されました。

重大度

0

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの初期設定時に、指定されたセキュリティ・プロファイルが見つかったために ON に設定されるそれぞれのセキュリティ・スイッチごとに、REFRESH SECURITY コマンドに対する応答として出される。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQH021I から CSQH026I までは、キュー・マネージャーのセキュリティ構成を検査できるようにするために出される。セキュリティ・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。

CSQH023I

csect-name switch-type セキュリティ・スイッチはオフに設定されました。プロファイル '*profile-type*' が見つかりません。

重大度

0

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの初期設定時に、指定されたセキュリティ・プロファイルが見つからなかったために OFF に設定されるそれぞれのセキュリティ・スイッチごとに、REFRESH SECURITY コマンドに対する応答として出される。

システム・アクション

サブシステムのセキュリティ・スイッチがオフに設定されている場合には、(そのスイッチに対する) 1つのメッセージのみを受け取ることになる。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQH021I から CSQH026I までは、キュー・マネージャーのセキュリティ構成を検査できるようにするために出される。セキュリティ・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。

CSQH024I

csect-name switch-type セキュリティ・スイッチはオンに設定されました。プロファイル '*profile-type*' が見つかりません。

重大度

0

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの初期設定時に、指定されたセキュリティ・プロファイルが見つからなかったために ON に設定されるそれぞれのセキュリティ・スイッチごとに、REFRESH SECURITY コマンドに対する応答として出される。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQH021I から CSQH026I までは、キュー・マネージャーのセキュリティ構成を検査できるようにするために出される。セキュリティ・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。

CSQH025I

csect-name switch-type セキュリティ・スイッチはオフに設定されました。内部エラーです。

重大度

0

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの初期設定時に、エラーが起こったために OFF に設定されるそれぞれのセキュリティ・スイッチごとに、REFRESH SECURITY コマンドに対する応答として出される。

システム・アクション

このメッセージは、スイッチに予期しない設定が見つかった場合に、メッセージ CSQH004I とともに出されることがある。

システム・プログラマーの応答

詳細については、メッセージ CSQH004I を参照。

メッセージ CSQH021I から CSQH026I までは、キュー・マネージャーのセキュリティー構成を検査できるようにするために出される。

CSQH026I

csect-name switch-type セキュリティー・スイッチはオンに強制されました。プロファイル '*profile-type*' はオーバーライドされました。

重大度

0

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの初期設定時に、強制的に ON に設定されたそれぞれのセキュリティー・スイッチごとに、REFRESH SECURITY コマンドに対する応答として出される。これは、指定されたプロファイルに関して、キュー・マネージャーおよびキュー共有グループのセキュリティー・スイッチを両方ともオフにしようと試みたときに発生する (この操作は許可されていない)。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーとキュー共有グループのセキュリティー・スイッチ用のプロファイルを訂正し、必要であれば、セキュリティーをリフレッシュする。

メッセージ CSQH021I から CSQH026I までは、キュー・マネージャーのセキュリティー構成を検査できるようにするために出される。セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。

CSQH030I

セキュリティー・スイッチ ...

重大度

0

説明

このメッセージは、DISPLAY SECURITY ALL または DISPLAY SECURITY SWITCHES コマンドに対する応答として出され、その設定およびその設定を確立するために使用されるセキュリティー・プロファイルを示すために、それぞれのセキュリティー・スイッチごとに、後にメッセージ CSQH031I から CSQH036I が続きます。

システム・アクション

サブシステムのセキュリティー・スイッチがオフに設定されている場合には、(そのスイッチに対する) 1つのメッセージのみを受け取ることになる。オンに設定されている場合には、オンに設定されているそれぞれのセキュリティー・スイッチごとにメッセージが出される。

CSQH031I

switch-type オフ。'*profile-type*' が見つかりました。

重大度

0

説明

このメッセージは、指定されたセキュリティー・プロファイルが見つかったために OFF に設定されるそれぞれのセキュリティー・スイッチごとに、DISPLAY SECURITY ALL または DISPLAY SECURITY SWITCHES コマンドに対する応答として出される。

システム・アクション

サブシステムのセキュリティー・スイッチがオフに設定されている場合には、(そのスイッチに対する) 1つのメッセージのみを受け取ることになる。

CSQH032I

switch-type オン。'*profile-type*' が見つかりました。

重大度

0

説明

このメッセージは、指定されたセキュリティー・プロファイルが見つかったために ON に設定されるそれぞれのセキュリティー・スイッチごとに、DISPLAY SECURITY ALL または DISPLAY SECURITY SWITCHES コマンドに対する応答として出される。

CSQH033I

switch-type オフ。'*profile-type*' が見つかりません。

重大度

0

説明

このメッセージは、指定されたセキュリティー・プロファイルが見つからなかったために OFF に設定されるそれぞれのセキュリティー・スイッチごとに、DISPLAY SECURITY ALL または DISPLAY SECURITY SWITCHES コマンドに対する応答として出される。

システム・アクション

サブシステムのセキュリティー・スイッチがオフに設定されている場合には、(そのスイッチに対する) 1つのメッセージのみを受け取ることになる。

CSQH034I

switch-type オン。'*profile-type*' が見つかりません。

重大度

0

説明

このメッセージは、指定されたセキュリティー・プロファイルが見つからなかったために ON に設定されるそれぞれのセキュリティー・スイッチごとに、DISPLAY SECURITY ALL または DISPLAY SECURITY SWITCHES コマンドに対する応答として出される。

CSQH035I

switch-type オフ。内部エラーです。

重大度

0

説明

このメッセージは、初期設定時またはセキュリティーのリフレッシュ時にエラーが起こったために OFF に設定されるそれぞれのセキュリティー・スイッチごとに、DISPLAY SECURITY ALL または DISPLAY SECURITY SWITCHES コマンドに対する応答として出される。

システム・アクション

このメッセージは、スイッチに予期しない設定が見つかった場合に出される。

システム・プログラマーの応答

セキュリティー・スイッチの設定すべてを調べる。IBM MQ の始動中または RUNMQSC セキュリティー・リフレッシュ・コマンドの実行中に発生したエラーについては、z/OS システム・ログ・ファイルで他の CSQH メッセージを調べる。

必要であれば、それらの設定を訂正し、セキュリティーをリフレッシュする。

CSQH036I

switch-type がオンになり、'*profile-type*' はオーバーライドされました。

重大度

0

説明

このメッセージは、強制的に ON に設定されたそれぞれのセキュリティー・スイッチごとに、DISPLAY SECURITY ALL または DISPLAY SECURITY SWITCHES コマンドに対する応答として出される。これは、指定されたプロファイルに関して、キュー・マネージャーおよびキュー共有グループのセキュリティー・スイッチを両方ともオフにしようと試みたときに発生する (この操作は許可されていない)。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーとキュー共有グループのセキュリティー・スイッチ用のプロファイルを訂正し、必要であれば、セキュリティーをリフレッシュする。

CSQH037I

Security using uppercase classes

重大度

0

説明

このメッセージは DISPLAY SECURITY ALL または DISPLAY SECURITY SWITCHES コマンドに回答して出され、セキュリティーが大文字クラス MQPROC、MQNLIST、MQQUEUE、および MQADMIN を現在使用していることを通知する。

CSQH038I

Security using mixed case classes

重大度

0

説明

このメッセージは DISPLAY SECURITY ALL または DISPLAY SECURITY SWITCHES コマンドに回答して出され、セキュリティーが大/小文字混合クラス MXPROC、MXNLIST、MXQUEUE および MXADMIN を現在使用していることを通知する。

CSQH040I

接続認証 ...

重大度

0

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの初期化中に、DISPLAY SECURITY コマンドに対する応答、および REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) コマンドに対する応答として発行される。この後にはメッセージ CSQH041I および CSQH042I が続き、接続認証の設定値が表示される。

CSQH041I

クライアント・チェック: *check-client-value*

重大度

0

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの初期化中に、DISPLAY SECURITY コマンドに対する応答、および REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) コマンドに対する応答として発行される。これには接続認証クライアント・チェックの現行値が示される。

表示される値が '???' の場合 これは、接続認証設定を読み取ることができなかったことを意味します。この前にあるエラー・メッセージに、その理由が説明されている。キュー・マネージャーがこの状態にある間、それに接続するすべてのアプリケーションはエラー・メッセージ CSQH045E を出すことになる。

CSQH042I

ローカル・バインディング・チェック: *check-local-value*

重大度

0

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの初期化中に、DISPLAY SECURITY コマンドに対する応答、および REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) コマンドに対する応答として発行される。これには、接続認証ローカル・バインディング・チェックの現行値が示される。

表示される値が '???' の場合 これは、接続認証設定を読み取ることができなかったことを意味します。この前にあるエラー・メッセージに、その理由が説明されている。キュー・マネージャーがこの状態にある間、それに接続するすべてのアプリケーションはエラー・メッセージ CSQH045E を出すことになる。

CSQH043E

csect-name オブジェクト AUTHINFO(*object-name*) が存在しないか、タイプが間違っています。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーの初期化中、または REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) コマンドの処理中に、キュー・マネージャーの CONNAUTH フィールドに名前を指定された認証情報オブジェクトが参照された。それは存在しないか、AUTHTYPE(IDPWOS) がない。

システム・アクション

このメッセージが REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) コマンドに対する応答として発行された場合、そのコマンドは失敗し、接続認証の設定は変更されないままになる。

キュー・マネージャーの初期化中にこのメッセージが発行された場合、接続の認証設定が訂正されるまで、すべての接続試行は理由 [1148 ページの『2035 \(07F3\) \(RC2035\): MQRC_NOT_AUTHORIZED』](#) に拒否されます。

システム・プログラマーの応答

認証情報オブジェクト *object-name* が正しく定義されたことを確認する。キュー・マネージャーの CONNAUTH フィールドで正しいオブジェクト名が参照されていることを確認する。構成を訂正した後、[REFRESH SECURITY TYPE\(CONNAUTH\)](#) コマンドを発行して変更をアクティブにする。

CSQH044E

csect-name AUTHINFO(*object-name*) オブジェクトへのアクセスが失敗しました。reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

キュー・マネージャーの初期化中、または REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) コマンドの処理中に、キュー・マネージャーの CONNAUTH フィールドに名前を指定された認証情報オブジェクトに、*mqrc* によって示された理由でアクセスできなかった (*mqrc-text* はテキスト形式の MQRC)。

システム・アクション

このメッセージが REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH) コマンドに対する応答として発行された場合、そのコマンドは失敗し、接続認証の設定は変更されないままになる。

キュー・マネージャーの初期化中にこのメッセージが発行された場合、接続の認証設定が訂正されるまで、すべての接続試行は理由 [1148 ページの『2035 \(07F3\) \(RC2035\): MQRC_NOT_AUTHORIZED』](#) に拒否されます。

システム・プログラマーの応答

認証情報オブジェクト *object-name* が正しく定義されたことを確認する。キュー・マネージャーの CONNAUTH フィールドで正しいオブジェクト名が参照されていることを確認する。mqrc については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)に関する情報を参照して、オブジェクトにアクセスできない理由を判別してください。構成を訂正した後、[REFRESH SECURITY TYPE\(CONNAUTH\)](#) コマンドを発行して変更をアクティブにする。

CSQH045E

csect-name application がパスワードを提供しませんでした。

重大度

8

説明

アプリケーションは認証のためのユーザー ID とパスワードを提供せずに接続したが、キュー・マネージャーはこのタイプのアプリケーションでユーザー ID とパスワードが必要とされるように構成されている。

これがクライアント・アプリケーションの場合、構成属性 CHCKCLNT は REQUIRED に設定される。*application* は *channel name/connection details* で識別される。

これがローカルにバインドされたアプリケーションの場合、構成属性 CHCKLOCL は REQUIRED に設定される。*application* は *user id/application name* で識別される。

接続認証構成を読み取れなかった場合にも、このメッセージが表示される。メッセージ [CSQH041I](#) および [CSQH042I](#) を参照。

システム・アクション

接続が失敗し、アプリケーションが [1148 ページの『2035 \(07F3\) \(RC2035\): MQRC_NOT_AUTHORIZED』](#) を戻します。

システム・プログラマーの応答

すべてのアプリケーションがユーザー ID とパスワードを提供するように更新する。または、接続認証構成を REQUIRED ではなく OPTIONAL に変更して、アプリケーションがユーザー ID とパスワードを提供しなくても接続できるようにする。

接続認証構成を読み取れなかった場合は、これより前のエラー・メッセージを確認し、報告されている内容に基づいて訂正する。

構成に変更を加えた後、[REFRESH SECURITY TYPE\(CONNAUTH\)](#) コマンドを発行して変更をアクティブにする。

アプリケーションがクライアント・アプリケーションである場合は、IBM MQ MQI client で提供される [mqccred](#) などのセキュリティー出口を使用して、アプリケーション・コードを変更せずにユーザー ID とパスワードを指定できます。

CSQH046E

csect-name application で、有効期限が切れたユーザー ID *userid* のパスワードが提供されました

重大度

8

説明

アプリケーションが接続し、認証するためにユーザー ID *userid* とパスワードを提供した。提供されたパスワードの有効期限が切れていた。

これがクライアント・アプリケーションの場合、*application* は 'チャンネル名/'接続の詳細' として示される。

これがローカルにバインドされたアプリケーションの場合、*application* は '実行しているユーザー ID'/'アプリケーション名' として示される。

システム・アクション

接続が失敗し、アプリケーションが [1148 ページの『2035 \(07F3\) \(RC2035\): MQRC_NOT_AUTHORIZED』](#) を戻します。

システム・プログラマーの応答

O/S の機能を使用して *userid* の新規パスワードを設定し、その新規パスワードを使用してアプリケーションから接続を再試行する。

データ・マネージャー・メッセージ (CSQI...)

CSQI002I

csect-name ページ・セット *psid* の値が範囲外です。

重大度

8

説明

次のいずれかのコマンドが実行された。

- DEFINE STGCLASS
- DISPLAY STGCLASS
- DISPLAY USAGE

ページ・セット ID に指定された値が、0 から 99 の範囲内ではなかった。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

正しい構文を使用して、コマンドを再発行する。(コマンドについては、[MQSC コマンド](#)を参照。)

CSQI003I

csect-name 'PSID' は TYPE (*usage-type*) では使用できません。

重大度

8

説明

PSID キーワードと一緒に TYPE(DATASET) または TYPE(SMDS) を指定して DISPLAY USAGE コマンドが出されたが、そのような指定は許可されていない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

正しい構文を使用してコマンドを再発行する (詳細については、[DISPLAY USAGE](#) を参照)。

CSQI004I

csect-name connection-type の接続 *connection-name* のために、キュー *queue-name* に索引タイプ *index-type* の索引を作成することを検討してください。 *num-msgs* 個のメッセージがスキップされました

重大度

0

説明

アプリケーションが、索引が定義されていないキューからメッセージ ID または相関 ID を使用してメッセージを受け取ったことを、キュー・マネージャーが検出しました。

キューに対して作成する必要がある索引のタイプは、*index-type* (MSGID または CORRELID のいずれか) に示される。影響を受けるアプリケーションのタイプは、*connection-type* (BATCH、CHIN、CICS、または IMS のいずれか) に示される。

- バッチ・アプリケーションの場合、*connection-name* にはジョブ名が含まれる。
- チャンネル・イニシエーターの場合、*connection-name* にはチャンネル名が含まれる。
- CICS アプリケーションの場合、*connection-name* には領域名およびトランザクション名が含まれる。
- IMS アプリケーションの場合、*connection-name* には IMS システム ID、PSTID、および PSB 名が含まれる。

要求されたメッセージの検索中にスキップされたメッセージの数 (*num-msgs* として示される) は、索引が定義されていないことの影響を示している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

アプリケーションを調査し、キューに索引が必要かどうかを判断する。

DEFINE QLOCAL または ALTER QLOCAL コマンドで使用するパラメーターは **INDXTYPE** です。このメッセージに関して受け取った出力に示されているとおり、これを *MSGID* または *CORRELID* に設定する。

メッセージ ID または相関 ID を使用してメッセージを受け取るアプリケーションのパフォーマンスは、キューの項目数が多いのに索引が定義されていないと、低下する可能性がある。

CSQI005I

csect-name ページ・セット *nn* がオフラインです。回復 RBA = *rba*

重大度

0

説明

このメッセージは、ページ・セット *nn* が現在キュー・マネージャーからはアクセスできないことを示している。これは、キュー・マネージャーに対して、DEFINE PSID コマンドによる定義がこのページ・セットについて行われていないためと考えられる。

このメッセージは、ページ・セットに中断のマークが付けられている場合にも、出されることがある。

注：*rba* は、ページ・セット *nn* の再始動 RBA である。

この状況は問題を引き起こす可能性があるため、可能な限り早くこの状況を訂正する処置が必要である。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

ページ・セットが必要な場合、オンラインにする。これは、キュー・マネージャーを停止せずに実行できる。TYPE(REPLACE) を指定して、ユーティリティ・プログラム CSQUTIL の FORMAT 機能を使用する。次に、DEFINE PSID コマンドを発行してページ・セットを使用できるようにする。オフラインのページ・セットに関連していたすべての回復単位 (未確定のものは除く) は、ページ・セットが最後に使用されたときにキュー・マネージャーによってバックアウトされているということに注意する。この未確定の回復単位は、ページ・セットがキュー・マネージャーによって再び使用中となると、解決される場合がある。

CSQI006I

csect-name がキュー *q-name* の記憶域内インデックスで完了しました。

重大度

0

説明

再始動時に、属性が INDXTYPE である非共有キューに対してストレージ内索引が作成され、そのために若干の時間がかかる場合がある。このメッセージは、指定したキューに関して索引作成が完了したことを記録する。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQI007I

csect-name キュー *q-name* のストレージ内索引を作成中です。

重大度

0

説明

再始動時に、属性が INDXTYPE である非共有キューに対してストレージ内索引が作成され、そのために若干の時間がかかる場合がある。このメッセージは、指定したキューに対して索引が作成されることを記録する。

システム・アクション

ストレージ内索引を作成する。

CSQI010I

ページ・セット使用...

重大度

0

説明

このメッセージは DISPLAY USAGE コマンドへの応答である。これは、以下のようなページ・セット使用に関する情報を提供する。

```
Page ...
set
- n page-set-information :
End of page set report
```

n はページ・セットの ID。 *page-set-information* の列は次の通り。

バッファ・プール

ページ・セットによって使用されるバッファ・プール。

合計ページ数

ページ・セット内の 4 KB ページの合計数 (これは、ページ・セットの VSAM 定義におけるレコード・パラメーターに関連する)。

未使用ページ

未使用のページ数 (すなわち、使用可能ページ・セット数)。

Persistent data pages

持続データを保持しているページ数 (これらのページは、オブジェクト定義および持続メッセージ・データの格納に使用されている)。

Nonpersistent data pages

非永続データを保持しているページ数 (これらのページは、非永続メッセージ・データの格納に使用されている)。

Expansion count

ページ・セットに使用された拡張のタイプ (SYSTEM、USER、または NONE)、および再始動以降にページ・セットが動的に拡張された回数。 (ページ・セットを拡張できる最大回数は、VSAM デー

タ・セット割り振りのタイプに使用できる最大エクステント数と使用中のオペレーティング・システムのバージョンにより制限される。) この数が大きい場合、ページ・セットの割り振りに誤りがあるか、メッセージ処理に問題があると考えられる。

暗号化

ページ・セットのデータ・セット暗号化状況 (YES または NO)。

注: このコマンドの処理中に、他のスレッドがこのページ・セット内のページの状況を変更する可能性があるため、ページの数値は近似値である。

ページ・セットが使用可能でない場合、*page-set-information* は以下のいずれかである。

has never been online

ページ・セットは定義されているが、一度も使用されたことがないことを示している場合。

OFFLINE, recovery RBA=rba

ページ・セットが現在キュー・マネージャーからはアクセスできない場合。例えば、キュー・マネージャーに対して、DEFINE PSID コマンドによる定義がこのページ・セットについて行われていないためなど。rba は、そのページ・セットでの再始動の RBA。

is not defined

キュー・マネージャーに定義されていない特定のページ・セットに関して、コマンドが出された場合。

is suspended, buffer pool buffer pool number, recovery RBA=rba

ページ・セットが中断される場合。rba は、そのページ・セットでの再始動の RBA。

例外的に、報告書の最終行が次のようになる可能性がある。

```
Page set report terminated
```

情報の取得の際にエラーが発生した場合に、このようになる。後続のメッセージでそのエラーが説明される。

CSQI012E

csect-name コマンドを完了できません。ストレージが足りません。

重大度

8

説明

ページ・セット使用状況の表示は、使用可能なすべてのストレージが使い尽くされたので、完了できない。

システム・アクション

出力はこの時点で終了する。表示されていない情報がまだある可能性がある。これが、PSID キーワードなしで DISPLAY USAGE コマンドに回答している場合、ページ・セット ID を指定して、それを再試行する。これにより、作成される情報量が減るので、すべてを表示できる。

CSQI020I

MAXSMSGS(*number*)

重大度

0

説明

このメッセージは、DISPLAY MAXSMSGS コマンドに対する応答として出され、1つの回復単位内でタスクが読み取りまたは書き込みできるメッセージの最大数を表示している。

CSQI021I

csect-name ページ・セット *psid* は空です。MEDIA RECOVERY STARTED

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは、回復 RBA がゼロのページ・セットを認識した。これは、ログ・データ・セット内の情報を使用して、ページ・セットを更新する。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、そのページ・セットを再作成する。

CSQI022I

csect-name ページ・セット *psid* が新たに追加されました。

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは、ページ・セット *psid* がシステムに対して新規のものであると認識した。

CSQI023I

csect-name ページ・セット *psid* が再びオンラインになりました。 MEDIA RECOVERY STARTED

重大度

0

説明

ある期間にわたりオフライン (または中断) 状態になった後で、ページ・セットがキュー・マネージャーに対して再定義された。

システム・アクション

ページ・セットへの必要なすべての更新を適用する。

CSQI024I

csect-name Restart RBA for system as configured = *restart-rba*

重大度

0

説明

このメッセージはキュー・マネージャーの再始動 RBA (相対バイト・アドレス) を示しますが、この再始動点の計算にはオフラインまたは中断状態のページ・セットが含まれません。

この値は、オフラインまたは中断状態のページ・セットがない場合に、どこでログを切り捨てるかを判別するために使用できます。

将来のある時点でシステムに追加したいオフラインまたは中断状態のページ・セットがある場合は、メッセージ CSQI025I で示される再始動 RBA を使用する必要があります。 *rba* でログを切り捨てると、オフラインまたは中断状態のページ・セットをシステムにまた戻して追加することができなくなる場合があります。

CSQI025I

csect-name Restart RBA including offline page sets = *restart-rba*

重大度

0

説明

このメッセージは、オフライン・ページ・セットまたは中断されたページ・セットをすべて含めた、キュー・マネージャー用の再始動 RBA (相対バイト・アドレス) を与えます。

この値を使用すると、システムに今後追加する予定のオフライン (または中断された) ページ・セットがある場合に、どこでログを切り捨てるかを判別できます。

CSQI026I

csect-name ページ・セット *nn* が定義されましたが、オンラインではありません。

重大度

0

説明

このメッセージは、ページ・セット *nn* は定義されているが、一度も使用されたことがないことを示している。したがって、このページ・セットの再始動 RBA はない。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQI027I

csect-name ページ・セット *nn* 新規ページ・セットとして処理されます。

重大度

0

説明

このメッセージは、ページ・セット *nn* が TYPE(NEW) を使用してフォーマットされていることを示している。これは、システムに新たに追加されたかのように処理されるため、このページ・セットに関連するすべての履歴情報が廃棄される。特に、このページ・セットを参照する記憶域クラスを使用するすべてのキューから、すべてのメッセージがクリアされる。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQI028E

csect-name キュー *queue* に対するページ・セット競合です。

重大度

8

説明

指定されたキューに入っているメッセージは、そのキューのストレージ・クラスに関連付けられたページ・セットとは異なるページ・セット上にあるものである。

システム・アクション

このメッセージは、別のキューが指定されるたびに何度も出されることがある。理由コード X'00C93800' で、キュー・マネージャーが異常終了する。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡する。

CSQI029I

csect-name ページ・セット *psid* は古いコピーです。 MEDIA RECOVERY STARTED

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは、ページ・セット内で行われるメディア回復 RBA がページ・セットのチェックポイントになっているメディア回復 RBA よりも古いことを認識した。これは、キュー・マネージャーがページ・セットの古いコピーを使って開始されたためである。

システム・アクション

ページ・セットへの必要なすべての更新を適用する。再始動処理が継続される。

CSQI030I

csect-name ページ・セット *nn* は置換ページ・セットとして処理されます。

重大度

0

説明

このメッセージは、ページ・セット *nn* が TYPE(REPLACE) を使用してフォーマットされていることを示している。ページ・セットでメディア回復が実行されない。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQI031I

csect-name ページ・セット *psid* の新規エクステントは正常にフォーマットされました。

重大度

0

説明

ページ・セット *psid* の動的拡張後に、新規エクステントが正常にフォーマットされた。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQI032I

csect-name ページ・セット *psid* 上に見つかったページ *nnn* の新規エクステントはフォーマットされません。

重大度

0

説明

再始動中にページ・セット *psid* が動的に拡張されたが、*nnn* ページはフォーマットされていないことが検出された。このフォーマット化はこれから行われる。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQI033E

csect-name CFSTRUCT(*struc-name*) の項目 ID が *entry-id* のメッセージ・データのブロック *block-number* が Db2 で見つかりませんでした。

重大度

8

説明

Db2 内のメッセージ・データを参照していた共有メッセージが読み取られたが、対応するデータが Db2 表に見つからなかった。

block-number

見つからなかったデータ・ブロックのメッセージ内のブロック番号を示す。

entry-id

共有メッセージのカップリング・ファシリティ項目を示す。

struc-name

アプリケーション構造体を示す。

システム・アクション

メッセージが持続メッセージであった場合、この構造体は、失敗、リカバリーの必要あり、としてマークされ、メッセージ CSQI036I および CSQE035E が出される。

このメッセージが非持続メッセージであった場合、損傷したメッセージは削除され、メッセージ CSQI037I が出される。

どちらの場合も、ダンプが作成される。

CSQI034E

csect-name CFSTRUCT(*struc-name*) 内の、項目 ID が *entry-id* のメッセージ・データのブロック *block-number* が、制御間隔 *rci* で SMDS(*qmgr-id*) を参照していますが、保管されているデータがその項目 ID に一致していません

重大度

8

説明

共有メッセージ・データ・セット (SMDS) に保管されているメッセージ・データを参照している共有メッセージが読み取られたが、そのデータ・セット内の参照されている場所からデータが読み取られたときに、ブロック接頭部に含まれている項目 ID がメッセージの項目 ID に一致していなかった。

block-number

見つからなかったデータ・ブロックのメッセージ内のブロック番号を示す。

entry-id

共有メッセージのカップリング・ファシリティ項目を示す。

struc-name

アプリケーション構造体を示す。

qmgr-id>

共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを識別する。

rci

メッセージ・ブロックが開始することが予期されていた、データ・セット内の相対制御間隔番号を示す。

システム・アクション

バックアップの目的でメッセージが取り出された場合は、ダンプが作成され、キュー・マネージャーが終了する。

それ以外の場合は、以下のアクションが取られる。

- メッセージが持続メッセージであった場合、共有メッセージ・データ・セットおよび構造体は、失敗、リカバリーの必要あり、としてマークされ、メッセージ CSQI036I および CSQE035E が出される。
- このメッセージが非持続メッセージであった場合、損傷したメッセージは削除され、メッセージ CSQI037I が出される。

どちらの場合も、ダンプが作成される。

CSQI035E

csect-name CFSTRUCT(*struc-name*) 内の、項目 ID が *entry-id* のメッセージ・データのブロック *block-number* は SMDS を参照していますが、そのデータ・セット ID は無効です。

重大度

8

説明

共有メッセージ・データ・セット (SMDS) に保管されているメッセージ・データを参照している共有メッセージが読み取られたが、(項目 ID の最後のバイトによって識別される) 関連するキュー・マネージャーが、現在共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャー ID ではなかった。

block-number

読み取ることができなかったデータ・ブロックのメッセージ内のブロック番号を示している。

entry-id

共有メッセージのカップリング・ファシリティ項目を示す。

struc-name

アプリケーション構造体を示す。

システム・アクション

メッセージが持続メッセージであった場合、この構造体は、失敗、リカバリーの必要あり、としてマークされ、メッセージ CSQI036I および CSQE035E が出される。

このメッセージが非持続メッセージであった場合、損傷したメッセージは削除され、メッセージ CSQI037I が出される。

どちらの場合も、ダンプが作成される。

CSQI036I

csect-name 項目 ID が *entry-id* の持続メッセージのデータを取り出すことができなかったため、CFSTRUCT(*struc-name*) が失敗としてマークされました。

重大度

0

説明

損傷した持続メッセージが検出されたため、構造体が、失敗、回復が必要、としてマークされた。

struc-name

アプリケーション構造体を示す。

entry-id

共有メッセージのカップリング・ファシリティ項目を示す。

システム・アクション

この構造体は失敗としてマークされ、メッセージ CSQE035E が出される。

CSQI037I

csect-name 項目 ID が *entry-id* の非持続メッセージを取り出せなかったため、このデータは CFSTRUCT(*struc-name*) から削除されました。

重大度

0

説明

損傷した非持続メッセージが検出されたが、それを取り出すことができなかったため、そのメッセージが削除された。

entry-id

共有メッセージのカップリング・ファシリティ項目を示す。

struc-name

アプリケーション構造体を示す。

システム・アクション

損傷したメッセージは削除される。関連する SMDS メッセージ・データは削除されない。

CSQI038I

csect-name CFSTRUCT(*struct-name*) 内の、項目 ID が *entry-id* の損傷したメッセージは、キュー *queue-name* に対応するものです。

重大度

0

説明

前のメッセージで示されている損傷した共有メッセージ項目が検出されたが、このメッセージは、その損傷したメッセージに対応するキュー名を示している。

struc-name

アプリケーション構造体を示す。

entry-id

共有メッセージのカップリング・ファシリティ項目を示す。

キュー名

メッセージを取り出すことができないキューを示している。

システム・アクション

処理を続行する。このメッセージの後にメッセージ CSQI036I または CSQI037I が出される。どちらが出されるかは、損傷したメッセージが永続的であるかそうでないかに依存する。

CSQI039E

csect-name 1 つ以上の CF 構造体の構造体リカバリーに必要な LRSN が存在しません

説明

1 つ以上の CF 構造体について、構造体リカバリーに必要な LRSN が、BSDS で索引付けされたログ内に見つからなかった。

過去の CSQE040I および CSQE041E のメッセージに、このエラーの発生原因の CF 構造体が表示されている可能性がある。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

BACKUP CFSTRUCT コマンドをキュー共有グループ内のキュー・マネージャーで使用して、新しい CF 構造体のバックアップを作成する。自動で頻繁にバックアップを行う手順をセットアップすることも検討する。

CSQI041I

csect-name ジョブ *jobname* ユーザー *userid* がページ・セット *psid* へのアクセス中にエラー。

重大度

0

説明

このメッセージは、ページ・セットにエラーがあるときに出される。このメッセージは、エラーに関連付けられたジョブ名、ユーザー ID、およびページ・セット ID を識別する。

CSQI042E

csect-name WLM IWMCONN 要求が失敗しました。 *rc=rc* 理由=*reason*

重大度

8

説明

ワークロード管理サービス (WLM) 接続呼び出しが失敗した。 *rc* と *reason* はそれぞれ、この呼び出しからの戻りコードと理由コードである (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

処理は続行されるが、WLM サービスは使用できない。

システム・プログラマーの応答

WLM 呼び出しからの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS MVS プログラミング: ワークロード管理サービス](#)」を参照。問題を解決したら、キュー・マネージャーを再始動する必要がある。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQI043E

csect-name プロセス *process-name* に要求された WLM *call-name* が失敗しました。 *rc=rc* 理由=*reason*

重大度

8

説明

ワークロード管理サービス (WLM) 呼び出しが失敗した。 *rc* と *reason* はそれぞれ、この呼び出しからの戻りコードと理由コードである (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

処理は続行されるが、WLM サービスは使用できない。

システム・プログラマーの応答

WLM 呼び出しからの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS MVS プログラミング: ワークロード管理サービス](#)」を参照。問題を解決したら、キュー・マネージャーを再始動する必要がある。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQI044I

csect-name キュー *q-name* に使用されているプロセス *process-name* が見つかりません。

重大度

0

説明

指定したキューには、メッセージ・トークンによって索引が付けられる。ワークロード管理サービス (WLM) IWMCLSFY サービスを使用する必要があったキューに対してのアクションが実行されていた。ただし、キューによって指定されたプロセスが存在しないので、WLM のサービス名を判別できない。

システム・アクション

ブランクのサービス名は、ワークロード管理サービス (WLM) IWMCLSFY サービスに渡される。

システム・プログラマーの応答

キューまたはプロセス定義を訂正する。

CSQI045I

csect-name ログ RBA が *rba* に達しました。ログのリセットを計画します。

重大度

4

説明

現行のログ RBA が、ログ RBA の終わりに近づいている。

システム・アクション

処理を続行するが、RBA が FFF800000000 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFFFFC0000000000 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) の値に達した時点で、キュー・マネージャーは理由コード [00D10257](#) で強制終了する。

システム・プログラマーの応答

適当なときにキュー・マネージャーを停止し、ログをリセットする。CSQUTIL ユーティリティ・プログラムを使用してログをリセットする方法、および [キュー・マネージャーのログをリセットする方法](#)については、[RESETPAGE](#) を参照してください。

キュー・マネージャーが 6 バイトのログ RBA を使用している場合は、8 バイトのログ RBA を使用するようキュー・マネージャーを変換することを検討してください。詳しくは、[アドレス指定可能な最大ログ範囲を広げる計画](#)を参照してください。

CSQI046E

csect-name ログ RBA が *rba* に達しました。ログのリセットを実行します。

重大度

8

説明

現行のログ RBA が、ログ RBA の終わりに近づいている。

システム・アクション

処理を続行するが、RBA が FFF800000000 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFFFFC000000000 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) の値に達した時点で、キュー・マネージャーは理由コード 00D10257 で強制終了する。

システム・プログラマーの応答

適当なときに (できるだけ早い時点で) キュー・マネージャーを停止し、ログをリセットする。CSQUTIL ユーティリティー・プログラムを使用してログをリセットする方法、および キュー・マネージャーのログをリセットする方法 については、RESETPAGE を参照してください。

キュー・マネージャーが 6 バイトのログ RBA を使用している場合は、8 バイトのログ RBA を使用するようキュー・マネージャーを変換することを検討してください。詳しくは、アドレス指定可能な最大ログ範囲を広げる計画を参照してください。

CSQI047E

csect-name ログ RBA が *rba* に達しました。キュー・マネージャーを停止しログをリセットします。

重大度

8

説明

現行のログ RBA が、ログ RBA 範囲のほとんど終わりに達した。

システム・アクション

処理を続行するが、RBA が FFF800000000 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFFFFC000000000 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) の値に達した時点で、キュー・マネージャーは理由コード 00D10257 で強制終了する。

システム・プログラマーの応答

即座にキュー・マネージャーを停止し、ログをリセットする。CSQUTIL ユーティリティー・プログラムを使用してログをリセットする方法、および キュー・マネージャーのログをリセットする方法 については、RESETPAGE を参照してください。

キュー・マネージャーが 6 バイトのログ RBA を使用している場合は、8 バイトのログ RBA を使用するようキュー・マネージャーを変換することを検討してください。詳しくは、アドレス指定可能な最大ログ範囲を広げる計画を参照してください。

CSQI048I

csect-name WLM はエンクレーブの最大限界に達しました。

重大度

4

説明

ワークロード管理サービス (WLM) は、これ以上のエンクレーブを作成できなかったため、メッセージを WLM に通知できなかったことを報告した。(IWMECREA 呼び出しは、理由コード X'xxxx0836' で戻りコード 8 を戻す。)

注: このメッセージは、WLM によって管理されたキューの索引を走査するときに繰り返し発行されることがある。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、WLM によって管理されたキューの索引を次に走査するときに再び WLM にメッセージを通知しようとする。これは、WLMTIME システム・パラメーターによって指定されている間隔の後に行われる。CSQ6SYSP マクロのシステム・パラメーターの詳細については、『CSQ6SYSP の使用』を参照。

システム・プログラマーの応答

WLM 呼び出しからの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS MVS プログラミング: ワークロード管理サービス](#)」を参照。

CSQI049I

ページ・セット *psid* にはメディア回復があります。RBA=*rcvry-rba*、チェックポイント RBA=*chkpt-rba*

重大度

0

説明

再始動時に、指定されたページ・セットをキュー・マネージャーがオープンした。ページ・セット自体からのメディア回復 RBA とログからのチェックポイント RBA は、表示されているとおりである。

2つの RBA が異なる場合には、ページ・セットの古いコピーが使用されていることを示している。メッセージ CSQR003I に示されているチェックポイント RBA と前のチェックポイント RBA が異なる場合には、ページ・セットがオフライン (または中断) 状態であることを示している。

システム・アクション

処理を続行する。ページ・セットを最新のものにするために、必要であれば、メディア回復が実行される。

CSQI050E

csect-name ページ・セット *psid* 値 RESETPAGE が必要です。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、ログに記録された最大値より大きい RBA 値がページ・セットに含まれていることを検出した。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動時に、再始動は完了コード X'5C6'および理由コード X'00C94525' で異常終了する。

DEFINE PSID コマンドの処理中に、コマンドが失敗しました。

システム・プログラマーの応答

メッセージに示されている 1 つまたは複数のページ・セットに対して、RESETPAGE ユーティリティを指定して CSQUTIL を実行し、失敗した操作を再試行する。

CSQI051E

csect-name キューの QDEPTHHI が QDEPTHLO より小さい *queue*

重大度

8

説明

始動時に、QDEPTHHI が QDEPTHLO の値より小さい値に設定されているキューが検出されました。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

QDEPTHHI が QDEPTHLO 以上になるようにキュー定義を訂正してください。

CSQI052E

再始動時にページ・セット *psid* に無効なスペース・マップ RBA が見つかりました。

重大度

8

説明

再始動時に、示しているページ・セットに無効な RBA を含むスペース・マップ・ページが検出されました。そのページ・セットは整合状態になっていません。

これは通常、過去のコールド・スタート操作または RESETPAGE 操作で、ページ・セットが正しく処理されなかった場合の結果として発生します。

システム・アクション

ページ・セットは中断されています。ページ・セットを使用しているキューは、キュー・マネージャーが整合状態でページ・セットを使用して再始動されるまでアクセスできません。

システム・プログラマーの応答

psid がページ・セット 0 を示す場合、IBM サービスにお問い合わせください。

ページ・セット 0 以外の場合、可能な限り早い段階でキュー・マネージャーを停止することを検討してください。次に、以下の手順にしたがって、ページ・セットを整合状態に復元してください。

- CSQUTIL を SCOPY PSID(x) とともに実行し、ページ・セットの持続メッセージをデータ・セットに保存する
- TYPE(NEW) でページ・セットをフォーマットする
- SCOPY LOAD を使用して、キュー・マネージャーを開始してデータ・セットからメッセージを再ロードする

CSQI053E

再始動時にページ・セット *psid* で無効なページ RBA が見つかりました。

重大度

8

説明

再始動時に、示しているページ・セットに無効な RBA を含むページが検出されました。そのページ・セットは整合状態になっていません。

これは通常、過去のコールド・スタート操作または RESETPAGE 操作で、ページ・セットが正しく処理されなかった場合の結果として発生します。

システム・アクション

ページ・セットは中断されています。ページ・セットを使用しているキューは、キュー・マネージャーが整合状態でページ・セットを使用して再始動されるまでアクセスできません。

システム・プログラマーの応答

psid がページ・セット 0 を示す場合、IBM サービスにお問い合わせください。

ページ・セット 0 以外の場合、可能な限り早い段階でキュー・マネージャーを停止することを検討してください。次に、以下の手順にしたがって、ページ・セットを整合状態に復元してください。

- CSQUTIL を SCOPY PSID(x) とともに実行し、ページ・セットの持続メッセージをデータ・セットに保存する
- TYPE(NEW) でページ・セットをフォーマットする
- SCOPY LOAD を使用して、キュー・マネージャーを開始してデータ・セットからメッセージを再ロードする

CSQI059E

クラスター・キャッシュを増やすことができません。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーのクラスター・キャッシュ・タスクでエラーが見つかったため、動的クラスター・キャッシュを増やすことができない。

システム・アクション

クラスター・キャッシュ・タスクは終了する。チャンネル・イニシエーターも終了する可能性がある。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQI060E

QSG 名が違います。ログ=log-name キュー・マネージャー=qmgr-name

重大度

8

説明

ログに記録されているキュー共有グループ名が、キュー・マネージャーによって使用されている名前と一致しない。

以下の原因が考えられる。

- キュー・マネージャーが別のキュー・マネージャーからのログを使用して再始動された。
- キュー・マネージャーが誤った QSGDATA システム・パラメーターで再始動された。
- キュー・マネージャーが、以前のキュー共有グループから正しく除去されていなかった。

システム・アクション

再始動は、完了コード X'5C6' および理由コード X'00C94505' で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

正しいログと BSDS を使用してキュー・マネージャーを再始動するか、QSGDATA システム・パラメーターを変更する。キュー・マネージャーが正常にシャットダウンされておらず、キュー共有グループの管理に説明されている除去のための以後の手順に従っていない場合は、キュー・マネージャーが使用するキュー共有グループの名前を変更することや、キュー共有グループからキュー・マネージャーを除去することはできない。

CSQI061E

キュー・マネージャーのキュー共有グループ番号が違います。ログ=log-num キュー・マネージャー=qmgr-num

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが別のキュー・マネージャーからのログを使用して再始動された。ログに記録されているキュー共有グループのキュー・マネージャー番号が、キュー・マネージャーによって使用されている番号と一致しない。

システム・アクション

再始動は、完了コード X'5C6' および理由コード X'00C94506' で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

正しいログと BSDS を使用してキュー・マネージャーを再始動する。正しいログが使用されているなら、Db2 CSQ.ADMIN_B_QMGR 表の中にあるこのキュー・マネージャーの項目を訂正する。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡する。

CSQI062I

キュー q-name は再始動の時に別のキュー・マネージャーで削除されました。

重大度

0

説明

再始動処理中に、キュー・マネージャーは、指定されたキューがキュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーによって削除されたことを検出した。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQI063E

キュー *q-name* は PRIVATE と SHARED の両方です。

重大度

0

説明

再始動中に、キュー・マネージャーの処理で、そのキューがそのキュー・マネージャー上のローカル定義キューとしてと、キュー共有グループ内の共有キューとしての両方で存在していることが検出された。そのため、この名前でキューをオープンすることはできない。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

キューのインスタンスの一方を削除する。詳細については、[共有キューの問題](#)を参照してください。

CSQI064E

Db2 から情報を取得できません。 *obj-type* COPY オブジェクトは更新されません。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーまたはチャンネル・イニシエーターの始動時に、タイプ *obj-type* のオブジェクトで後処理が COPY のものが、後処理が GROUP のものによってリフレッシュされた。しかし、Db2 から必要な情報を取得することができなかった。これは、Db2 が使用不能であるか使用できなくなったか、Db2 への接続が中断状態であるか、Db2 へアクセス中にエラーが起きたか、あるいは Db2 表が一時的にロックされていたためである。

システム・アクション

タイプ *obj-type* の COPY オブジェクトはリフレッシュされない。始動処理が継続される。

システム・プログラマーの応答

詳しいエラー情報を提供するメッセージについては、コンソール・ログを参照。

エラー状態が解消されたら、オブジェクトを手作業でリフレッシュするか、キュー・マネージャーまたはチャンネル・イニシエーターを再始動する。

CSQI065I

バッファース・プールの属性 ...

重大度

0

説明

このメッセージには、**DISPLAY USAGE PSID** コマンドに渡されたページ・セット番号に基づく、バッファース・プール属性の現在の状態が表示されます。このメッセージには、使用可能なバッファースの数、空きバッファース(スチール可能)に関する情報が示されます。具体的には、プール内のバッファースの個数

とパーセンテージ、および指定したバッファ・プール・メモリの LOCATION 属性に関する情報が示されます。

```
CSQI065I !MQ21 Buffer pool attributes ... 321
  Buffer  Available  Stealable  Stealable  Page      Location
  pool   buffers    buffers   percentage class
  -      0         5000     4989      99      FIXED4KB ABOVE
  -      1         5000     4995      99      4KB     ABOVE
  -      2         5000     4999      99      4KB     BELOW
  -      3         5000     4995      99      4KB     BELOW
  -      4         5000     4999      99      4KB     BELOW
  -      5         1000     999       99      4KB     BELOW
```

バッファ・プール

バッファ・プールの数。

Available buffers

指定したバッファ・プールに対して定義された使用可能なバッファの合計数。

ロケーションが SWITCHING_ABOVE または SWITCHING_BELOW である場合、値は上および下の数値の合計です。

Stealable buffers

定義されたバッファ・プールの空きバッファ (スチール可能) の数。

Stealable percentage

定義されたバッファ・プールの空きバッファ (スチール可能) の量 (パーセンテージ)。

ページ・クラス

バッファ・プールのバッファをバッキングするために使用する仮想ストレージ・ページのタイプ。ページ・クラス値は、以下のうちいずれかです。

4KB

バッファは、標準のページング可能 4 KB ページでバッキングされます。

FIXED4KB

バッファは、永続的にページ固定される 4 KB ページでバッキングされます。

ロケーション

個々のバッファ・プールによって使用されるメモリのロケーション値。ロケーション値は、以下のいずれかになります。

ABOVE

バッファ・プールのメモリは、2 GB 境界より上で使用されます。

BELOW

BELOW はデフォルトです。バッファ・プールのメモリは、2 GB 境界より下で使用されます。

SWITCHING_ABOVE

バッファ・プールは、2 GB 境界より上の場所への切り替えの処理中です。

SWITCHING_BELOW

バッファ・プールは、2 GB 境界より下の場所への切り替えの処理中です。

CSQI070I

データ・セット使用...

重大度

0

説明

このメッセージは DISPLAY USAGE コマンドへの応答である。これは、以下のような、さまざまな状況に関連するデータ・セットについての情報を提供する。

```
Data set RBA/LRSN DSName
data-set-type:
```

```
rrr          dsname
End of data set report
```

ここで、

data-set-type

以下のようなデータ・セットおよび状況のタイプ。

Log, oldest with active unit of work

キュー・マネージャーに関する活動状態の最も古い作業単位の開始 RBA を含む、ログ・データ・セット。

Log, oldest for page set recovery

キュー・マネージャーの任意のページ・セットの最も古い再始動 RBA を含むログ・データ・セット。

Log, oldest for CF structure recovery

キュー共有グループ内の任意の CF 構造の最も古い現行バックアップの時刻に一致する LRSN を含むログ・データ・セット。最も古い現行バックアップが見つからない場合は、すべての構造体をバックアップする必要がある。

rrr

状況に対応する RBA または LRSN。

dsname

コピー 1 データ・セットの名前。状況に関連するデータ・セットがない場合、これは「None (なし)」として示される。データ・セット名が判別できない場合、これは「Not found (該当なし)」として示される。

システム・プログラマーの応答

この情報は、データ・セットの管理に役立つ。詳細については、[バックアップおよび回復のヒント](#)を参照。

CSQI090E

RRS が使用できません。

重大度

8

説明

RRS スタブにリンクされた IBM MQ アプリケーションのためにインタレストを登録するように RRS が呼び出されたが、RRS は使用できない。

システム・アクション

IBM アプリケーションは、完了コード X'5C6' および理由コード X'00C94201' で異常終了する。このメッセージは、最近発行されていない場合に発行される

システム・プログラマーの応答

RRS スタブとリンクされた IBM MQ アプリケーションを使用しているときは、RRS が使用可能であることを確認してください。

CSQI965I

modulename ページ・セット *ps-name* のメッセージには逆方向の移行が必要です。

説明

キュー・マネージャーの再始動中に、接続された 1 つ以上のページ・セットが上位のバージョンのキュー・マネージャー・コードで使用されたものであることが検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは再始動中に自動的に特殊処理を実行し、示されているページ・セットに保管されたすべてのメッセージを、現行バージョンのキュー・マネージャーで読み取り可能なものに変換する。

CSQI968I

modulename TARGQ *tg-name* に対する別名キュー *aq-name* に、サポートされていない TARGTYPE *ttpe* が含まれています。 *aq-name* は削除されました。

説明

オブジェクトのマイグレーション中に、無効な **TARGETTYPE** を持つ別名キュー (例えば、トピック・オブジェクトに対する別名キュー) が検出されました。

システム・アクション

示されている別名キューは削除される。

CSQI969I

ページ・セット *ps-name* のデータ・セット *ds-name* は、上位バージョンの IBM MQ 用に使用されたものであるため、動的に追加できません。

説明

キュー・マネージャーの再始動時にオフラインになっていたページ・セットへの動的接続中に、逆方向の移行処理が必要であることが検出された。

そのページ・セットは動的に追加されません。

CSQI970E

csect-name object-type(object-name) をマイグレーションできませんでした。

説明

未確定トランザクションによってロックが保持されているため、示されているオブジェクトのマイグレーションを実行できませんでした。

このオブジェクトのマイグレーションが実行できるようになるまで、一部の機能は利用可能になりません。例えば、このオブジェクトの変更や削除はできません。また、それが伝送キューの場合、関連するチャンネルを開始することはできません。

システム・アクション

オブジェクトはマイグレーションされません。

システム・プログラマーの応答

DISPLAY CONN コマンドまたは DISPLAY THREAD コマンドを使用することにより未確定トランザクションのリストを取得し、トランザクション・コーディネーターまたは RESOLVE INDOUBT コマンドのいずれかを使用することによってそれらを解決してください。未確定トランザクションが解決されたなら、キュー・マネージャーを再始動するか、またはこのオブジェクトに対して ALTER コマンドを発行してマイグレーションを再試行してください。

オブジェクトが正常にマイグレーションされると、メッセージ CSQI971I が発行されます。

CSQI971I

csect-name object-type(object-name) MIGRATED

説明

メッセージ中に示されているオブジェクトは、現行バージョンのキュー・マネージャーが最初に始動した時点では、未確定トランザクションがロックを保持していたためにマイグレーションできませんでした (詳しくは、メッセージ CSQI970E を参照)。

このメッセージは、その後でキュー・マネージャーを再始動した時点、または後でオブジェクトが変更された時点で発行され、そのオブジェクトのマイグレーションが実行されたことを示します。

システム・アクション

オブジェクトはマイグレーションされました。

システム・プログラマーの応答

なし。

回復ログ・マネージャー・メッセージ (CSQJ...)

CSQJ001I

現在のコピー *n*、活動ログ・データ・セットは DSNAME=*dsname*, STARTRBA=*sss* ENDRBA=*ttt*

説明

このメッセージは、次のいずれかの理由で生成される。

1. キュー・マネージャーの開始時に、現行の活動ログ・データ・セット (コピー 1、および重複ログインが使用される場合はコピー 2) を識別するために、この通知メッセージが送信される。
2. 現行の活動ログ・データ・セットが満杯になると (または ARCHIVE LOG コマンドが発行されると)、MQ は次に使用可能な活動ログ・データ・セットに切り替える。このメッセージは、ログインに使用される次に使用可能な活動ログ・データ・セットを識別する。

STARTRBA で指定された値は、指定されたデータ・セット内のログ・データの最初のバイトの RBA である。ENDRBA で指定された値は、データ・セット内の最後の可能なバイトの RBA である。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。ただし、回復が必要な場合は、このメッセージの情報が、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) への入力として必要となることがある。

CSQJ002I

活動ログ・データ・セットの最後は、DSNAME=*dsname*, STARTRBA=*sss* ENDRBA=*ttt*

説明

このメッセージは、ログインが新しい空のデータ・セットに切り替わる時に送信される。このメッセージは、満杯のデータ・セットの名前とログ RBA 範囲を示している。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。ただし、回復が必要な場合は、このメッセージの情報が、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) への入力として必要となることがある。

CSQJ003I

FULL ARCHIVE LOG VOLUME DSNAME=*dsname*, STARTRBA=*sss* ENDRBA=*ttt*, STARTTIME=*ppp*
ENDTIME=*qqq*, UNIT=*unitname*, COPYnVOL=*vvv* VOLSPAN=*xxx* CATLG=*yyy*

説明

指定した保存ログ・データ・セットのオフロードは、指定ボリュームについて正常に完了した。データ・セットが複数のテープ・ボリュームにまたがっている場合、このメッセージは、各テープ・ボリュームごとに生成される。

システム・アクション

保存ログ・データ・セットが作成され、BSDS 内の保存ログ・データ・セット目録は、メッセージ中の次のような情報で更新された。

DSNAME

保存ログ・データ・セットの名前

STARTRBA

ボリュームに含まれる開始 RBA

ENDRBA

ボリュームに含まれる終了 RBA

STARTTIME

ボリューム内のログ・レコードの開始ストア・クロック値

ENDTIME

ボリューム内のログ・レコードの終了ストア・クロック値

UNIT

データ・セットが割り振られていた装置

COPYnVOL

ボリュームの名前。これは、これがコピー 1 保存ログ・データ・セットであれば COPY1VOL として、コピー 2 保存ログ・データ・セットであれば COPY2VOL として表示される。

VOLSPAN

次の 4 つの状態のいずれかを表す標識。

NO

データ・セットは、COPYnVOL で指定されたボリュームに完全に含まれる。

FIRST

これはマルチボリューム・データ・セットの最初の項目である。

MIDDLE

これはマルチボリューム・データ・セットの中間の項目である。

LAST

これはマルチボリューム・データ・セットの最後の項目である。

CATLG

次の 2 つの状態のいずれかを表す標識。

NO

保存ログ・データ・セットはカタログ化されていない。

YES

保存ログ・データ・セットはカタログ化されている。

BSDS は、このメッセージに含まれている情報で自動的に更新される。ただし、回復が必要な場合は、このメッセージの情報が、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) への入力として必要となることがある。

CSQJ004I

活動ログのコピー *n* は非活動で、単一モードです。ENDRBA=ttt

説明

このメッセージは、重複活動ロギング・オプションが選択されている場合で、コピー *n* が非活動状態になっている場合に送られる。次の活動ログ・データ・セットが必要になったときに作動可能になっていないと、ログ・コピーは非活動状態になる。ENDRBA は、コピー *n* に書き込まれたログ・データの最後のバイトである。これは、通常はオフロードの遅れが原因で起こる。

システム・アクション

コピー *n* の次のデータ・セットがロギングに作動可能になるまで、ログは単一モードに切り替えられる。

単一モードでシステム・パラメーター・オプションが重複活動データ・セットに引き続き設定された状態のときに、キュー・マネージャーがシャットダウンまたは異常終了すると、キュー・マネージャーの始動時に何が起こるかは、活動状態ログ・データ・セットの直前の状態によって決まる。

- 活動状態ログの各セットで 2 つ以下のデータ・セットが利用可能な (STOPPED としてフラグが立てられていない) 場合、キュー・マネージャーの始動は終了し、メッセージ CSQJ112E が出される。
- 活動状態ログ・データ・セットが NOTREUSABLE 状態の場合、キュー・マネージャーは単一ロギング・モードで開始することができるが、オフロード後に他の活動状態ログ・データ・セットが利用可能になったときに、重複モードが有効になる。

システム・プログラマーの応答

表示要求を実行し、ログのオフロード処理に関連して未解決の要求がないかどうかを確かめる。要求を満たすのに必要な処置を取り、オフロード処理を続行できるようにする。

オフロードに必要な資源が不足しているために、単一モードへの切り替えが行われた場合には、必要な資源を使用可能にして、オフロード処理を完了させ、重複ロギングが行われるようにしなければならない。回復が必要な場合は、このメッセージの情報が、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) への入力として必要となることがある。

CSQJ005I

活動ログでのコピー *n* は活動状態で、二重モードです。STARTRBA=sss

説明

このメッセージは、ログのコピー *n* が、前に非活動状態のフラグを立てられた後で活動状態になったときに、送られる。STARTRBA は、活動化された後でコピー *n* に書き込まれたログ・データの最初のバイトの RBA である。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。ただし、回復が必要な場合は、このメッセージの情報が、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) への入力として必要となることがある。

CSQJ006I

オペレーターは、新しい保存ログ・データ・セットの割り振りを取り消しました。

説明

このメッセージは、オペレーターがメッセージ CSQJ008E に「N」と応答した場合に送られる。

システム・アクション

割り振りが、保存ログ・データ・セットの最初のコピーに対するものである場合は、次にそれが活動化されるまで、オフロードは処理を終了する。最初のコピーがすでに割り振られており、この要求が2番目のコピーに対するものである場合、オフロードは、このデータ・セットのみの単一オフロード・モードに切り替える。

CSQJ007I

オペレーターが ARCHIVE VOL SER=*volser* の割り振りを取り消しました。

説明

オペレーターがメッセージ CSQJ009E に「N」と応答すると、このメッセージが出される。*volser* は、読み取り要求を満たすのに必要な保存ログ・ボリュームのボリューム通し番号である。保存データ・セットの名前は、後に続くメッセージ CSQJ022I によって与えられる。

システム・アクション

保存ボリュームが必要であった読み取り要求は、失敗に終わる。この要求が COND=YES パラメーターを指定して出された場合、ログ・マネージャーは、戻りコード 12 および理由コード X'00D1032B' で、その呼び出し側に戻る。そうでない場合、ログ・マネージャーの呼び出し側は、同じ理由コードで異常終了する。

CSQJ008E

mm 活動ログの *nn* は満杯です。 *qmgr-name* には保存スクラッチが必要です。

説明

IBM MQ は、活動ログ・データ・セットのオフロードのためにスクラッチ・ボリュームを必要としている。*qmgr-name* は、キュー・マネージャーの名前である。*nn* は、満杯の活動ログ・データ・セットの数である。*mm* は、活動ログ・データ・セットの合計数である。

システム・アクション

オフロード・タスクは、メッセージ CSQJ021D を出して、オペレーターの応答を待つ。

CSQJ009E

qmgr-name VOL SER=*nnnnnn* が必要です。

説明

MQ は、読み取り操作で指定された保存ボリュームを必要としている。*qmgr-name* は、キュー・マネージャーの名前である。

システム・アクション

保存ログ読み取りサービス・タスクは、メッセージ CSQJ021D を出して、オペレーターの応答を待つ。この待機は、ログ読み取りが出される対象となったエージェントと、ログ読み取りサービス・タスク・キュー上で待機している他のエージェントに影響を与える。

CSQJ010I

応答が無効です - Y や N ではありません。

説明

保存データ・セットの割り振り中に、応答メッセージが出された。ユーザーが、応答メッセージに正しく応答しなかった。「Y」または「N」を入力しなければなりません。

システム・アクション

元のメッセージが繰り返される。

CSQJ011D

再始動制御 *rrr* (*date time* で作成) が見つかりました。 使用する場合は Y、取り消す場合は N を入力してください。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、条件再始動制御レコードが BSDS データ・セットで検出された。レコード ID (4 バイトの 16 進数) および作成タイム・スタンプは、使用する条件再始動レコードを識別しやすいように表示される。そのレコードを使用して条件付き再始動を行うには、メッセージに対して「Y」と応答する。そうでない場合は、「N」と応答する。

システム・アクション

応答が「Y」の場合、キュー・マネージャーは、見つかったレコードを使用して条件付きで始動する。応答が「N」の場合、始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

指示されたとおりに応答する。

正常再始動が失敗して、ログ目録変更ユーティリティで条件再始動レコードを作成した場合は、メッセージの時刻および日付が、そのレコードを作成した時刻および日付と一致しているかどうかを確認する。そうである場合は、「Y」と応答する。そうでない場合は、「N」と応答し、不一致点を調べる。

CSQJ012E

データ・セット *dsname* で RBA *rrr* の読み取り中にエラー *ccc*。接続-ID=*xxxx* スレッド-XREF=*yyyyyy*

説明

バッファーに読み込まれたログ・レコードをスキャンしているときに、IBM MQ が、理由コード *ccc* の論理エラーを検出した。 *rrr* は、エラーが検出されたバッファー内のセグメントのログ RBA である。 *dsname* は、レコードが読み取られた活動ログ・データ・セットまたは保存ログ・データ・セットの名前である。 *dsname* がブランクである場合、データは、活動ログ出力バッファーから読み取られている。

接続 ID および THREAD-XREF は、問題が起こったユーザーまたはアプリケーションを識別する。同じ接続 ID および THREAD-XREF をもつメッセージは、同じユーザーに関連している。

システム・アクション

アプリケーション・プログラムは、理由コード *ccc* で終了する。ただし、このメッセージの情報は、その後の異常終了の診断に役立つ場合がある。

システム・プログラマーの応答

ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

CSQJ013E

活動ログへ書き込む前、バッファー *rrr* にエラー *ccc* を検出しました。

説明

ログ出力バッファーの走査で、バッファーを書き込む直前に、ログ・データ内に矛盾が検出された。 *ccc* は、作成される SDUMP に関連付けられた理由コードである。 *rrr* は、エラーが検出されたログ RBA である。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了してダンプがとられ、損傷を受けたバッファーは、コピー 1 またはコピー 2 活動ログ・データ・セットには書き込まれない。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが終了した後で、再始動する。

損傷を受けたバッファがログ・データ・セットに書き込まれていないため、キュー・マネージャーを再始動することができる。訂正処置は不要である。

CSQJ014E

活動ログへ書き込み後、バッファ *rrr* にエラー *ccc* を検出しました。

説明

ログ出力バッファの走査で、活動ログ・データ・セットの最初のコピーに書き込んだ後、2番目のコピーに書き込む前に、ログ・データ内に矛盾が検出された。ccc は、作成される SDUMP に関連付けられた理由コードである。rrr は、エラーが検出されたログ RBA である。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了してダンプがとられ、損傷を受けたバッファはコピー 2 データ・セットに書き込まれない。

システム・プログラマーの応答

示されたログ RBA を含んでいるブロックが損傷を受けている可能性がある。活動ログのコピー 1 データ・セットへの書き込みの完了時に、バッファにエラーがあることがわかった。

重複活動ログを使用している場合は、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、活動ログの両方のコピーに関する活動ログ・データ・セットをリストする。対応する RBA を持つコピー 2 データ・セットを見つけ、そのデータ・セットを (アクセス方式サービス REPRO を使用して) コピー 1 データ・セットにコピーする。キュー・マネージャーを始動します。

単一のアクティブ・ログのみが使用されている場合は、IBM サポートに連絡してください。DASD への書き込みが完了した後で、バッファの損傷が起こった場合には、キュー・マネージャーを始動すると成功することがある。

CSQJ020I

csect-name は N の応答を *msg-num* に受信しました。キュー・マネージャーの始動は終了しました。

説明

オペレーターが、*msg-num* に対して「N」と応答することにより、キュー・マネージャーの始動の終了を選択した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは再始動しない。

CSQJ021D

装置の準備ができたなら Y を、取り消す場合は N を応答してください。

説明

保存ログ・データ・セットは、先行する CSQJ008E または CSQJ009E メッセージで指示されたとおりに、割り振りを必要とする。

システム・アクション

ログ・サービス・タスクは、オペレーターの応答を待つ。

CSQJ022I

DSNAME=*dsname*

説明

dsname は、先行するメッセージが参照する保存データ・セットの名前である。

CSQJ030E

startdba から *enddba* の範囲の RBA は、活動中のログ・データ・セットでは使用できません。

説明

前のエラーにより、活動ログ・データ・セット (メッセージに示された RBA 範囲を含む) が使用不能にされた。BSDS の中でそれらのログの状況は STOPPED です。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが出力されます。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを回復可能にするには、ログ RBA 範囲を使用可能にしなければならない。前のエラーを訂正し、メッセージに示された RBA 範囲を含む活動ログ・データ・セットを復元する。

- ログ・データ・セットが回復可能である場合は、BSDS 内の活動ログ・データ・セット目録を変更し、STOPPED 状況をリセットしなければならない。ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、BSDS ログ目録のコピーを入手する。次に、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) を使用して、STOPPED のマークが付いた活動ログ・データ・セットを (DELETE ステートメントを用いて) 削除し、それらを再び (NEWLOG ステートメントを用いて) 追加する。ログ目録変更ユーティリティを使用してログを再び BSDS に追加するときは、各活動ログ・データ・セットの開始 RBA と終了 RBA を、NEWLOG ステートメントに指定しなければならない。
- ログ・データ・セットがリカバリー可能でない場合は、ログに関する問題の処理方法について [活動ログの問題](#) を参照する。

CSQJ031D

csect-name、ログ RBA 範囲をリセットする必要があります。起動を続行するには「Y」を、シャットダウンするには「N」を入力してください。

説明

キュー・マネージャーの初期化中に、現行のログ RBA が FF8000000000 以上 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFFC0000000000 以上 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) の値である場合に、キュー・マネージャーの再始動を続行する必要があるかどうかをオペレーターに確認するために、このメッセージが発行される。

システム・アクション

応答が「Y」であれば、キュー・マネージャーの始動が続行される。

応答が「N」であれば、キュー・マネージャーの始動が強制終了される。

システム・プログラマーの応答

できるだけ早くキュー・マネージャーを停止し、ログをリセットする。CSQUTIL ユーティリティ・プログラムを使用してログをリセットする方法、および [キュー・マネージャーのログをリセットする方法](#) については、[RESETPAGE](#) を参照してください。

キュー・マネージャーが 6 バイトのログ RBA を使用している場合は、8 バイトのログ RBA を使用するようキュー・マネージャーを変換することを検討してください。詳しくは、[アドレス指定可能な最大ログ範囲を広げる計画](#) を参照してください。

CSQJ032E

csect-name alert-lvl - ログ RBA 範囲の終端 *max-rba* に近づきました。現行のログ RBA は *current-rba* です。

説明

現行のログ RBA が、ログ RBA 範囲の終わりに近づいている。 *current-rba* は現行のログ RBA 値。現行のログ RBA が、ログ RBA の最大値 *max-rba* に達しないようにする必要があります。

このメッセージは、キュー・マネージャーの初期化中か、アクティブなログ・データ・セットが満杯になってキュー・マネージャーが次に使用可能なログ・データ・セットに切り替えた後に発行される。

alert-lvl は次のいずれかを示します。

警告

現行のログ RBA が F80000000000 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFFC0000000000 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) の値に達した場合に発行される。

CRITICAL

現行のログ RBA 値が FF8000000000 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFFC0000000000 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) に達した場合に発行される。

システム・アクション

RBA 値が FFF800000000 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFFFFC00000000 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) に達した場合は、キュー・マネージャーが理由コード 00D10257 で強制終了する。それ以外の場合は、処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

できるだけ早くキュー・マネージャーを停止してログをリセットする計画を立てる。CSQUTIL ユーティリティ・プログラムを使用してログをリセットする方法については、[RESETPAGE](#) および [キュー・マネージャーのログのリセット](#) を参照。

キュー・マネージャーが 6 バイトのログ RBA を使用している場合は、8 バイトのログ RBA を使用するようキュー・マネージャーを変換することを検討してください。詳しくは、[アドレス指定可能な最大ログ範囲を広げる計画](#)を参照してください。

CSQJ033I

```
FULL ARCHIVE LOG VOLUME DSNAME=dsname, STARTRBA=sss ENDRBA=ttt, STARTLRSN=ppp  
ENDLRSN=qqq, UNIT=unitname, COPYnVOL=vvv VOLSPAN=xxx CATLG=yyy
```

説明

指定した保存ログ・データ・セットのオフロードは、指定ボリュームについて正常に完了した。データ・セットが複数のテープ・ボリュームにまたがっている場合、このメッセージは、各テープ・ボリュームごとに生成される。

このメッセージはキュー共有グループ用に、CSQJ003I の代わりに発行される。

システム・アクション

メッセージ CSQJ003I を参照。STARTTIME と ENDTIME は、それぞれ次のように置き換えられる。

STARTLRSN

キュー共有グループのボリュームに含まれる開始 LRSN。

ENDLRSN

キュー共有グループのボリュームに含まれる終了 LRSN。

CSQJ034I

csect-name ログ RBA 範囲の終わりは *max-rba* です。

説明

このメッセージはキュー・マネージャーの始動中に発行され、現行のログ RBA サイズを使用してアドレス指定できるログ RBA 範囲の末尾を示す。

max-rba の値 0000FFFFFFFFFFFFFF は、6 バイト RBA を使用するようキュー・マネージャーが構成されていることを示す。値 FFFFFFFF は、8 バイト RBA を使用するようキュー・マネージャーが構成されていることを示す。

キュー・マネージャーのログは、使用量が最も高いログ RBA がログ RBA 範囲の末尾に達する前にリセットしなければならない。

システム・アクション

処理を続行

システム・プログラマーの応答

max-rba が 0000FFFFFFFFFFFFFF である場合は、キュー・マネージャーのログのリセットが必要になるまでの時間を最大にするために、8 バイトのログ RBA を使用するようキュー・マネージャーを変換することを検討してください。詳しくは、[アドレス指定可能な最大ログ範囲を広げる計画](#)を参照してください。

CSQJ060E

parm-name システム・パラメーターを使用できません。

説明

システム・パラメーター・ロード・モジュール内の *parm-name* によって設定されているパラメーターの形式が無効であるため、使用できません。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、理由コード X'00E80084' で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが正しいシステム・パラメーター・モジュール (例えば、CSQZPARM) で開始されているようにする。必要であれば、示されたパラメーターを使用するモジュールを再アSEMBルし、システム・パラメーター・ロード・モジュールを再リンク・エディットする。

CSQJ061I

parm-name システム・パラメーターは古くなっています。

説明

システム・パラメーター・ロード・モジュール *parm-name* によって設定されているパラメーターは、古くなったいくつかの値を使用している。

システム・アクション

処理を続行する。古くなったパラメーターは無視され、新しいパラメーターのデフォルト値が使用される。

システム・プログラマーの応答

システム・パラメーターの設定を検討する。必要であれば、示されたパラメーターを使用するモジュールを再アSEMBルし、システム・パラメーター・ロード・モジュールを再リンク・エディットする。

CSQJ070E

csect-name 保存ログ DSN 接頭部が正しい様式ではないために、タイム・スタンプ・データを受信できません。 *dsname* のタイム・スタンプはバイパスされます。

説明

システム・パラメーター (CSQ6ARVP によって設定される) により、保存ログ・データ・セットの作成日時を、保存ログ・データ・セット名 (DSN) の一部として含めるように指定した。これを行うには、IBM MQ では保存ログ・データ・セット名の接頭部の長さが制限されている必要がある。この接頭部に必要な条件が満たされていなかった場合は、メッセージに指定された保存ログ・データ・セットの割り振りの直前に、このメッセージが出される。

システム・アクション

保存ログ・データ・セットは、保存ログの接頭部を使用して割り振られる。ただし、保存ログ DSN には、ユーザーが要求した日時は含まれない。

システム・プログラマーの応答

ログ保存機能のシステム・パラメーターを変更しなければならない。特に、TSTAMP および ARCPFXn フィールドが互いに適合していない。この問題を取り除くのに必要な処置については、[CSQ6ARVP](#) の使用を参照。

CSQJ071E

csect-name タイマー障害のため、バイパスされる保存 *dsname* のタイム・スタンプが取られました。

説明

システム・パラメーター (CSQ6ARVP によって設定される) により、保存ログ・データ・セットの作成日時を、保存ログ・データ・セット名 (DSN) の一部として含めるように指定した。しかし、システムから現在の日時を取得できなかった。このメッセージは、メッセージに指定された保存ログ・データ・セットの割り振りの直前に出される。

システム・アクション

保存ログ・データ・セットは、保存ログの接頭部を使用して割り振られる。ただし、保存ログ DSN には、ユーザーが要求した日時は含まれない。

CSQJ072E

保存ログ・データ・セット *dsname* は非テープ装置に振り分けられ、カタログ・パラメーターをオーバーライドしてカタログされます。

説明

システム・パラメーター (CSQ6ARVP によって設定される) により、すべての保存ログ・データ・セットをカタログ化しない (CATALOG=NO) ように指定した。しかし、MQ では、非テープ装置に割り振られる保存ログ・データ・セットは、すべて登録しなければならない。 *dsname* で指定された保存ログ・データ・セットは、非テープ装置に割り振られているため、登録された。ユーザーのシステム・パラメーター CATALOG の設定 NO はオーバーライドされた。

システム・アクション

保存ログ・データ・セットは非テープ装置に割り振られているため、登録された。システム・パラメーター CATALOG=NO の設定は、オーバーライドされた。BSDS は、データ・セットが登録されたことを反映している。

システム・プログラマーの応答

保存システム・パラメーターを変更する必要がある。特に、CATALOG および UNIT パラメーターが互いに適合していない。この問題を取り除くのに必要な処置については、[CSQ6ARVP の使用](#)を参照。

CSQJ073E

ログ保存装置の割り振り障害が検出されました。理由コード=ccc、保存ログ・データ・セットの割り振りか、オフロードが失敗した可能性があります。

説明

新しい保存ログ・データ・セットを動的に割り振るための SVC99 テキスト項目を作成しているときに、装置割り振りエラーが検出された。メッセージ中の ccc で示された理由コードにより、問題は次のように明確にされる。

4-28 (X'4'-X'1C')

z/OS IEFGB4UV マクロからの戻りコード。一般的な値は、次のとおりである。

4 (X'04')

装置名が無効。

8 (X'08')

装置名に不正な装置割り当てがある。

16 (X'10')

ストレージが利用不能。

20 (X'14')

装置番号が無効。

32 (X'20')

MQ が、システム・パラメーターに指定された装置タイプ (装置名) に対応する装置のリストを取得した。しかし、このリストにテープ装置と非テープ装置が混在していると判断された。

36 (X'24')

z/OS サービスのパラメーター・リストを作成するために、取り出し保護されていないストレージを取得できませんでした。

40 (X'28')

ユーザーがシステム・パラメーターに指定した装置タイプ (装置名) は有効である。しかし、指定された装置タイプ (装置名) と関連付けられている装置が現在ない。

44 (X'2C')

ユーザーがシステム・パラメーターに指定した装置タイプ (装置名) は有効である。しかし、ストレージのボリューム使用属性をもつ使用可能な DASD ボリュームがない。

システム・アクション

このメッセージは、SVC99 テキスト項目が作成された後、新しい保存ログ・データ・セットの割り振りの前に出される。このエラーの結果として、標準のデフォルト値を使用して、保存ログ・データ・セットの動的割り振りが試みられる。標準のデフォルト値は通常受け入れられる。しかし、割り振り

が失敗したり、その後のオフロードが望ましくない処理結果をもたらすことがある。以下に例を示します。

- 理由コード 4 または 44 (X'2C') は、SVC99 が保存データ・セットに対して出された場合の、割り振りエラー (CSQJ103E) を示す。
- テープへのオフロード処理が失敗に終わる場合がある。テープへの割り振り時に、IBM MQ はボリューム・カウント 20 を使用し、非テープ装置への書き込み時には、標準 z/OS ボリューム・カウントのデフォルト 5 を使用する。上記のエラーではほとんどの場合、IBM MQ は、どの装置タイプにデータ・セットを割り振るべきかを判別することができない。したがって、標準の z/OS デフォルトが、ボリューム・カウントとして使用される。データ・セットがテープ装置に正常に割り振られても、保存データ・セットに使用されるボリュームの数が 5 つを超えるようなデータ量があると、オフロード処理は、6 番目のテープ・ボリュームに書き込みを行おうとしたときに、z/OS 完了コード X'837-08' とメッセージ IEC028I を受け取る。
- 直接アクセス装置へのオフロード処理が失敗に終わることがある。直接アクセス装置に新しい保存ログ・データ・セットを割り振るとき、IBM MQ は、マルチボリューム保存データ・セットを容易にするために、装置カウントを使用する。上記のエラーではほとんどの場合、IBM MQ は、どの装置タイプにデータ・セットを割り振るべきかを正しく判別できない。したがって、標準のデフォルト (1) が装置カウントとして使用される。データ・セットが直接アクセス装置に正常に割り振られても、オフロード処理中にデータ・セットを別の装置に拡張する必要が生じると、オフロード処理は z/OS X'B37' (スペース不足) 完了コードを受け取り、保存ログ・データ・セットは割り振り解除される。

システム・プログラマーの応答

メッセージに示された理由コードに従って、必要な処置をとる。

4-28 (X'4'-X'1C')

z/OS IEFGB4UV マクロからの戻りコードについて詳しくは、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」を参照してください。この問題の一般的な原因としては、次のことが考えられる。

4 (X'04')

保存システム・パラメーターの指定が正しくない。UNIT パラメーターを訂正する。保存システム・パラメーターからの UNIT パラメーターが正しいと思われる場合は、EDT を調べ、システム・パラメーターに指定された非公式装置名または総称装置名が実際に EDT に含まれているかどうかを確認する。その後オフロード処理を行うと、割り振りエラー (CSQJ103E) のために前に保存できなかったログ・データが保存される。

8 (X'08')

保存システム・パラメーターの指定が正しくない、または操作セットアップが正しくない。

16 (X'10')

これは通常、一時的な問題である。保存ログ・データ・セットの割り振りが成功した場合には、この状況を訂正するための処置は必要ない。この問題が繰り返し起こる場合は、十分なページ・スペースが使用可能でないので、キュー・マネージャーのアドレス・スペースの領域サイズを増やすか、または標準の z/OS 診断手順を使用して問題を訂正しなければならない。

20 (X'14')

保存システム・パラメーターの指定が正しくない、または操作が正しくない。

32 (X'20') または 40 (X'28')

この状況を訂正するには、同種装置を含む装置タイプ (装置名) を使用するように保存システム・パラメーター UNIT を変更するか、または、システム生成を使用して、装置タイプ (装置名) に関連する装置リストを変更し、同種装置のリストを与えるようにする。

44 (X'2C')

この状況を訂正するには、z/OS コマンド MOUNT を実行し、取り付けられた専用ボリュームのボリューム使用属性をストレージへ変更する。この問題が繰り返し起こる場合は、次のいずれかの処置をとる必要が生じる場合がある。

- システム生成を実行し、ストレージのボリューム使用属性をもつ永続常駐ボリュームを、非公式装置または総称装置に追加する。
- 保存システム・パラメーターを変更して、UNIT に別の非公式装置名または総称装置名を使用するようにする。

CSQJ077E

QMGR *qmgr-name* のログ・エラーまたは BSDS リード・エラー, 理由コード=ccc

説明

このメッセージは、アクセスできないログ・データを持つキュー・マネージャーを示している。キュー共有グループ内の他のキュー・マネージャーのログまたは BSDS が、RECOVER CFSTRUCT 操作中にアクセスされていたか、キュー共有グループ内のキュー・マネージャーで生じることのある、対等の管理構造の再作成中にアクセスされていた可能性がある。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

アクセスされていたデータ・セットと問題をより具体的に示す前のメッセージを探す。

理由コードの場合:

- 00D10901 は、ピア IBM MQ のピア SCA メンバー・レコードが見つからないことを示します。ピア・キュー・マネージャーを再始動することで問題を解決できます。
- 00D10905 は、ピア・キュー・マネージャーの 2 つの BSDS タイム・スタンプの間に不一致があることを示しています。ピア・キュー・マネージャーを再始動することによって問題を解決できます。

REASON CODE は、Db2 から出される場合もあります。この場合は、詳細について [Db2 理由コード](#) を参照してください。

問題を解決できない場合には、理由コードを書き留め、次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- システム・ダンプ
- メッセージで示されたキュー・マネージャーのコンソール出力
- 他のキュー・マネージャーのコンソール出力
- SYS1.LOGREC の印刷出力

CSQJ098E

csect-name 再始動制御 ENDLRSN *rrr* が既知の LRSN 範囲にありません。キュー・マネージャーの始動は終了しました。

説明

条件再始動制御レコードは切り捨てを要求するが、終了 LRSN が、活動または保存ログに通用する LRSN 値の範囲内がないので、これは実行できない。 *rrr* は活動レコードに指定された終了 LRSN である。終了 LRSN は、最新の活動ログ・データ・セットの終了 LRSN より高位か、または最も古い保存ログ・データ・セットの開始 LRSN より低位である。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了します。

システム・プログラマーの応答

条件再始動制御レコードに指定されている ENDLRSN の値を調べる。値が正しくない場合、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) を CRESTART CANCEL を使って実行し、条件再始動を取り消してから、正しい ENDLRSN を指定して新しく CRESTART を実行する。

CSQJ099I

LOG RECORDING TO COMMENCE WITH STARTRBA=sss

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの始動時に生成される。STARTRBA で指定された値は、活動ログ・データ・セットに記録されるログ・データの次のバイトの RBA である。

このメッセージの前に、1 つ (単一ログインの場合) または 2 つ (重複ログインの場合) の CSQJ001I メッセージが出される。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。ただし、回復が必要な場合は、このメッセージの情報が、ログ目録変更ユーティリティー (CSQJU003) への入力として必要となることがある。

CSQJ100E

csect-name BSDSn のオープン中にエラー。DSNAME= *dsname*、エラー状況=*ee,ii*

説明

始動時または RECOVER BSDS コマンドの処理中に、指定された BSDS を MQ がオープンできなかった。BSDS *n* は、オープンできないデータ・セットの、キュー・マネージャーが開始したタスクの JCL プロシージャ (xxxxMSTR) 内の DD 名と一致する。*n* の値は 1 または 2 です。エラー状況には、*ee* 内の VSAM オープン戻りコード、および *ii* 内の VSAM オープン理由コードが含まれています。

システム・アクション

このエラーが初期設定時に起こった場合は、BSDS なしではログ・データ・セットを判別して割り振ることができないので、始動は必ず終了する。このエラーが RECOVER BSDS の処理中に起こった場合、そのコマンドは終了し、キュー・マネージャーは単一 BSDS モードで処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

オープンできない BSDS を回復する。BSDS またはログに関する問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

CSQJ101E

csect-name 制御 ENDRBA *rrr* の再始動は、既知の RBA 範囲にありません。キュー・マネージャーの始動は終了しました。

説明

条件再始動制御レコードは切り捨てを要求するが、終了 RBA が、活動または保存ログに通用する RBA 値の範囲内がないので、これは実行できない。*rrr* は活動レコードに指定された終了 RBA である。終了 RBA は、最新の活動ログ・データ・セットの終了 RBA より高位か、または最も古い保存ログ・データ・セットの開始 RBA より低位である。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了します。

システム・プログラマーの応答

条件再始動制御レコードに指定されている ENDRBA の値を調べる。値が正しくない場合、ログ目録変更ユーティリティー (CSQJU003) を CRESTART CANCEL を使って実行し、条件再始動を取り消してから、正しい ENDRBA を指定して新しく CRESTART を実行する。

それ以外の場合は、要求された RBA を含む保存ログ・データ・セットが、ログ目録変更ユーティリティーによって、BSDS データ・セットから削除されたと思われる。古いログ・マップ印刷ユーティリティーからの出力を見つけ、欠落している RBA を含むデータ・セットを識別する。このデータ・セットが再使用されていなかった場合は、ログ目録変更ユーティリティーを実行し、このデータ・セットをログ・データ・セットの目録に戻す。キュー・マネージャーを再始動する。

CSQJ102E

ログ・データ・セット DSNAME=*dsname*、STARTRBA= *sss* ENDRBA=*ttt* が、BSDS 情報と一致していません。

説明

BSDS 内の指定されたデータ・セットについて示されたログ RBA 範囲が、データ・セットの内容と一致しない。

システム・アクション

始動処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティーとログ目録変更ユーティリティーを使用して、BSDS をログ・データ・セットと一致させる。

CSQJ103E

csect-name LOG ALLOCATION ERROR DSNAME=dsname, ERROR STATUS=eeeeiiii, SMS REASON
CODE=ssssssss

説明

DSNAME で示された活動ログ・データ・セットまたは保存ログ・データ・セットを割り振ろうとしたときに、エラーが発生した。STATUS は、z/OS 動的割り振り (SVC99) から戻されたエラーの理由コードを示す。

このメッセージの前に、メッセージ CSQJ073E が出されることがある。

システム・アクション

以降の処置は、関連するデータ・セットのタイプによって異なる。

活動ログ・データ・セットの場合、このエラーがキュー・マネージャーの初期設定時に起こったのであれば、始動は終了する。活動ログ・データ・セットのコピーが2部定義されていても、このメッセージは一度しか表示されない。

保存ログ・データ・セットの場合は、保存ログ・データ・セットのコピーが2部定義されていれば、残りの保存ログ・データ・セットで処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

このメッセージのエラー状況部分には、SVC99 要求ブロックからの2バイトのエラー・コード (eeee S99ERROR) と、その後2バイトの情報コード (iiii S99INFO) が含まれている。S99ERROR コードが SMS 割り振りエラー ('97xx') を示す場合、ssssssss には、S99ERSN から取得される追加の SMS 理由コードの情報が含まれる。

これらのコードについては、「*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide*」にアクセスし、「[Interpreting DYNALLOC return codes](#)」トピックを選択してください。

活動ログ・データ・セットの場合は、この問題がキュー・マネージャーの初期設定時に起こったのであれば、次のいずれかの方法で問題を解決できる。

- STATUS で示された、活動ログ・データ・セットに関連するエラーを解決する。
- アクセス方式サービス・プログラムを使用して、活動ログ・データ・セットの別のコピーを用意する。
- ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) を用いて BSDS を更新する。
- キュー・マネージャーを再始動します。

保存ログ・データ・セットの場合

- データ・セットへの書き込みを目的として割り振りを行っているときに、この問題が起こった場合は、ただちに処置をとる必要はない。しかし、(メッセージの STATUS 値で示された) SVC99 エラーを解決しておかないと、将来のオフロードもすべて同じエラーのため失敗することになるので、活動ログ内の使用可能なスペースが最終的には使い尽くされる (CSQJ111A) 可能性がある。
- データ・セットの読み取りを目的として割り振りを行っているときに、この問題が起こった場合は、問題を判別し、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) の DELETE 機能を使用して、BSDS 保存ログ目録から保存ログ・データ・セットを削除する。その後、NEWLOG 機能を使用し、正しいボリュームと装置を指すようにして、そのデータ・セットを保存ログ目録に戻す。

ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

このメッセージは、ユーザー・エラーの結果として出されることもある。STATUS の値が '17080000' である場合は、BSDS に1つ以上の活動ログ・データ・セットが定義されているが、それらが DASD に割り振られていないと考えられる。この状況を訂正するには、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、現在の活動ログ・データ・セット目録の内容を印刷してから、次のいずれかの処置をとる。

- アクセス方式サービス・プログラムを使用して、BSDS にはリストされているが実際には DASD に割り振られていない各活動ログ・データ・セットに対して、活動ログ・データ・セットを割り振る。活動ログ・データ・セットに対するアクセス方式サービス・プログラムのコマンド構文は、CSQ4BSDS サンプル JCL にある。

- ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) の DELETE ステートメントを使用して、エラーの活動ログ・データ・セット名を削除してから、NEWLOG ステートメントを用いて、正しい名前を活動ログ・データ・セット目録に追加する。NEWLOG ステートメントに指定する名前は、DASD に割り振られている実際の活動ログ・データ・セットの名前と同じでなければならない。

CSQJ104E

csect-name DSNAME dsname のエラー状況 nnn を macro-name から受信しました。

説明

マクロ macro-name の発行中にエラーが発生しました。エラー状況は、指定したマクロからの戻りコードで、次のとおりである。

- VSAM データ・セットの OPEN の場合は、アクセス方式サービス・プログラム制御ブロックのエラー・フィールド内の戻りコードが、エラー状況値として、このメッセージに含められる。これらの値の説明については、[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#) マニュアルを参照してください。
- VSAM 以外のデータ・セットの OPEN の場合は、エラー状況はゼロとなる。
- MMSRV エラーの場合、エラー状況には、メディア・マネージャー・サービスから戻されたエラー情報が入れられる。活動ログ・データ・セットを切り捨てようとしていて MMSRV CATUPDT エラーが起こった場合は、ログ・データ・セットは使用不能になり、BSDS 内ではこのログ・データ・セットの状況に STOPPED のフラグが立てられる。
- VSAM OPEN および MMSRV エラーの場合は、このメッセージの前に、発生したエラーを定義する IEC161I メッセージが出される。
- 保存ログ・データ・セットの PROTECT の場合、戻りコードは、DADSM PROTECT からの戻りコードである。

ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

システム・アクション

以降の処置は、エラーの発生時によって異なる。

キュー・マネージャー初期設定中、始動が終了する。

オフロード操作または入力操作にデータ・セットを使用する場合、処理は継続する。データの 2 番目のコピーが使用可能であれば、IBM MQ は 2 番目のデータ・セットの割り振りおよびオープンを試みる。

データ・セットを活動ログ・データ・セットとして使用している場合、IBM MQ は要求を再試行する。再試行が失敗に終わると、キュー・マネージャーは終了する。

チェックポイントの処理中、IBM MQ がページ・セットの再始動回復、CF 構造体の再始動回復、および CF 構造体のメディア回復に必要な最も古い活動ログ・データ・セットまたは保存ログ・データ・セットを見つけようとしていた場合、処理は継続される。このメッセージは、再始動回復か CF 構造体のメディア回復が失敗するという警告である。これは、すべての CF アプリケーション構造体が定期的にバックアップされていないときに発生しやすいため、回復のために過度に古いログ・データ・セットを必要とする。

システム・プログラマーの応答

このエラーが初期設定時に発生した場合、問題を訂正してデータ・セットを使用可能にするか、またはデータ・セットの別のコピーを指定し、新しいデータ・セットを指すように BSDS を変更する。

このエラーが始動後に起こった場合は、後でデータ・セットを使用できるように、戻りコードを調べ、適切な処置を取って問題を訂正するか、ログ目録変更ユーティリティを使用して、そのデータ・セット項目を BSDS から取り除くことができる。

PROTECT からこのエラーを受け取った場合は、PASSWORD データ・セットに問題がある場合がある。該当する DADSM 資料を参照し、問題の原因を判別する。問題が訂正されたら、このエラーを受け取った保存ログ・データ・セットが PASSWORD データ・セットに追加されているようにする。これらの保存ログ・データ・セットが PASSWORD データ・セットに追加されないと、保存読み取りで、これらのデータ・セットをオープンすることができない。指定されたマクロに関する情報がない場合は、マクロ名と戻りコードを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

チェックポイントの処理中にエラーが発生した場合、DISPLAY USAGE TYPE(DATASET) コマンドを発行してページ・セットとメディア回復に現在必要なログ・データ・セットを表示し、そのログ・データ・セットが使用可能であることを確認する。適用可能な場合は、CF 構造体に BACKUP CFSTRUCT コマンドを使用して、CF 構造体を頻繁にバックアップするように手順を設定する。

CSQJ105E

`csect-name LOG WRITE ERROR DSNAME=dsname, LOGRBA=rrr, ERROR STATUS=ccccffss`

説明

ログ・データ・セットの書き込み中にエラーが発生した。 `csect-name` が CSQJW107 であれば、活動ログ・データ・セットにログ・バッファを書き込んでいるときに、エラーが起こった。 `csect-name` が CSQJW207 の場合、ログ・データを書き込む前に次の制御域を事前フォーマットしているときにエラーが発生した。

エラー状況には、 `ccccffss` の形式で、メディア・マネージャーから戻されたエラー情報が含まれている。 `cccc` はエラーを記述する 2 バイトの戻りコード、 `ff` はエラーを検出した機能ルーチンを定義する 1 バイトのコード、 `ss` はエラーの汎用カテゴリーを定義する 1 バイトの状況コードである。

システム・アクション

重複活動ロギング・オプションが選択されている場合は、IBM MQ がこのコピーの次のデータ・セットに切り替える。次のデータ・セットが作動可能になっていない場合、IBM MQ は一時的に単一ロギング・モードに入り、エラーが検出されたデータ・セットの置換データ・セットを割り振る。可能な限り早く重複ロギングが再開される。

単一活動ロギング・オプションが選択されており、次のデータ・セットが作動可能になっていないと、IBM MQ はそのデータ・セットが使用可能になるのを待つ。この場合、置換データ・セットが出力を受け入れる準備ができるまで、ログ書き込みは禁止される。

システム・プログラマーの応答

メディア・マネージャー戻りコードについては、「[z/OS DFSMSdfp 診断](#)」を参照してください。問題を解決できない場合は、戻りコードを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQJ106E

`LOG READ ERROR DSNAME=dsname, LOGRBA=rrr, ERROR STATUS=ccccffss`

説明

活動ログ・データ・セットの読み取り中にエラーが発生した。エラー状況には、 `ccccffss` の形式で、メディア・マネージャーから戻されたエラー情報が含まれている。 `cccc` はエラーを記述する 2 バイトの戻りコード、 `ff` はエラーを検出した機能ルーチンを定義する 1 バイトのコード、 `ss` はエラーの汎用カテゴリーを定義する 1 バイトの状況コードである。(メディア・マネージャー戻りコードについては、「[z/OS DFSMSdfp 診断](#)」を参照してください。)

システム・アクション

別のログ・データ・セットにデータが含まれている場合、IBM MQ はその代替ソースからデータを読み取ろうとする。代替ソースが利用できない場合、ログ・データを要求したプログラムに読み取りエラー戻りコードが送られる。障害が発生した状況によっては、キュー・マネージャーは、重複ロギングが使用されていれば代替ログ・データ・セットを用いて処理を続行する場合もあり、異常終了する場合もある。

システム・プログラマーの応答

重複ロギングを使用していれば、要求された RBA は、対応する重複活動ログ・データ・セットからおそらく取り出されており、即時の応答は必要ない。しかし、このエラーが頻繁に起こる場合、または単一ロギングを使用している場合は、即時の処置が必要になる可能性がある。その場合は、エラー状況フィールドの内容を書き留め、IBM サポートに連絡する。

エラーのデータ・セットを、ログ・データを含む新しいデータ・セットで置き換え、次に、ログ目録変更 (CSQJU003) の NEWLOG 操作を使用して、新しいデータ・セットを反映するように BSDS を更新する場合もある。

ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

このメッセージは、ユーザー・エラーの結果として出されることもある。DSNAME で指定されているデータ・セット名が欠落していて、STATUS の値が '00180408' または '00100408' である場合には、重複ログインが使用されているが、活動ログ・データ・セットが 1 組しか BSDS に定義されていない。この状況を解決するには、次のいずれかの処置をとる。

- アクセス方式サービスを使用して 2 組目のアクティブ・ログ・データ・セットを定義し (まだ定義されていない場合)、[ログ目録変更 \(CSQJU003\)](#) の NEWLOG 操作を使用して BSDS ログ目録を更新する。
- 単一ログインを示すようにログ・システム・パラメーターをリセットする。CSQ6LOGP システム・パラメーターの TWOACTV を 'NO' に設定すると、これを実行できる。

CSQJ107E

READ ERROR ON BSDS DSNAME=*dsname* ERROR STATUS=*eee*

説明

示された BSDS の読み取り中にエラーが発生した。エラー状況には VSAM 戻りコードおよびフィードバック・コードが入る。これは 2 バイトのフィールドで、最初のバイトは 16 進数の戻りコード、2 番目のバイトは 16 進数のフィードバック・コードである。VSAM 戻りコードおよび理由コードの説明については、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。

BSDS またはログに関する問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

システム・アクション

重複 BSDS が使用可能であれば、MQ は残りの BSDS から読み取ろうとする。2 番目の BSDS からの読み取りが失敗するか、または 1 つの BSDS しかない場合には、BSDS にアクセスさせたログ要求にエラー・コードが戻される。

始動時に読み取りエラーが見つかった場合、キュー・マネージャーは終了する。

エラー・コードが予期しないものである場合、診断ダンプがとられることがあります。

システム・プログラマーの応答

読み取りエラーから生じた状況に応じて、BSDS の置換または修復が必要になることがある。BSDS を置き換えるには、まずエラーの BSDS を削除してから、同じ名前と属性を用いて新しい BSDS を定義する。新しい BSDS に新しい名前を使用した場合は、新しい BSDS 名を指定するように、キュー・マネージャーが開始したタスクの JCL プロシージャ (xxxxMSTR) を変更する。

CSQJ108E

WRITE ERROR ON BSDS DSNAME=*dsname* ERROR STATUS=*eee*

説明

示された BSDS への書き込み中にエラーが発生した。エラー状況には VSAM 戻りコードおよびフィードバック・コードが入る。これは 2 バイトのフィールドで、最初のバイトは 16 進数の戻りコード、2 番目のバイトは 16 進数のフィードバック・コードである。VSAM 戻りコードおよび理由コードの説明については、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。

システム・アクション

重複 BSDS が使用可能であれば、MQ は残りの有効な BSDS を使用して、単一 BSDS モードに入る。そうでなければ、BSDS へのアクセスを行ったログ要求にエラー・コードが戻される。

エラー・コードが予期しないものである場合、診断ダンプがとられることがあります。

システム・プログラマーの応答

重複 BSDS モードが使用されている場合は、オフラインのアクセス方式サービス・プログラム・ジョブを実行して、エラーの BSDS の名前を変更し、同じ名前と属性で新しい BSDS を定義する。その後、RECOVER BSDS コマンドを入力して、重複 BSDS モードを再設定する。

重複 BSDS モードが使用されていない場合は、キュー・マネージャーを終了し、バックアップ・コピーから BSDS を回復しなければならない。BSDS を回復するためには、ログ目録変更ユーティリティを使用する。

CSQJ109E

OUT OF SPACE IN BSDS DSNAME=*dsname*

説明

指定された BSDS に、スペースがそれ以上ない。スペース不足条件を検出した操作は、正常に完了しなかった。

システム・アクション

重複 BSDS が使用可能であれば、IBM MQ は残りの有効な BSDS を使用して、単一 BSDS モードに入る。そうでなければ、BSDS へのアクセスを行ったログ要求にエラー・コードが戻される。

システム・プログラマーの応答

重複 BSDS モードが使用されている場合は、オフラインのアクセス方式サービス・プログラム・ジョブを実行して、BSDS 全体の名前を変更し、同じ名前でもっと大きな BSDS を定義する。RECOVER BSDS コマンドを入力し、重複 BSDS モードを再確立する。

重複 BSDS モードが使用されていない場合は、キュー・マネージャーをシャットダウンし、BSDS をオフラインで回復しなければならない。この場合、上述した同じアクセス方式サービス・ジョブを実行して、データ・セット全体を名前変更し、もっと大きなデータ・セットを定義する。次に、アクセス方式サービス・プログラム REPRO ジョブを実行して、BSDS 全体を新しい BSDS にコピーする。

CSQJ110E

活動ログ・データ・セットの最新コピー *n* は *nnn* パーセントまできています。

説明

このメッセージは、最後の使用可能な活動ログ・データ・セットが 5% に達したときに出され、その後、データ・セットのスペースが 5% 増えるたびに出される。

システム・アクション

このメッセージが出されるたびに、オフロード処理が再試行される。状況が訂正されないと、活動ログ・データ・セットは容量に達し、メッセージ CSQJ111A が出され、IBM MQ の処理は停止する。

システム・プログラマーの応答

この状態を解消するには、他の待ちオフロード・タスクを完了するためのステップをとらなければならない。オフロード処理を完了させることによって、活動ログ・データ・セットが使用可能 (再使用可能) にされると、IBM MQ ログギング活動を続行できる。

表示要求を実行し、ログのオフロード処理に関連する未解決の要求を判別する。要求を満たすのに必要な処置を取り、オフロード処理を続行できるようにする。

十分なアクティブ・ログ・データ・セットがあるかどうかを確認する。必要であれば、DEFINE LOG コマンドを使用して、動的にログ・データ・セットを追加できる。

オフロードが正常終了しない、または起動できない場合は、オフロード処理エラーの原因となった問題を訂正するか、割り振られているデータ・セットのサイズを大きくするか、または、さらに活動ログ・データ・セットを追加する。後者の処置では、キュー・マネージャーを非活動状態にし、ログ目録変更ユーティリティを実行する必要がある。

活動ログ・データのスペース不足の原因としては、次のことが考えられる。

- 過度のログギング。例えば、持続メッセージ活動が多い場合。
- オフロードの遅延または低速オフロード。例えば、保存ボリュームのマウントが失敗した、オフロード・メッセージへの応答が不適切である、または装置スピードが遅い場合などに発生する。
- ARCHIVE LOG コマンドの過度の使用。このコマンドを呼び出すたびに、IBM MQ は、新しい活動ログ・データ・セットに切り替え、活動ログのオフロードを開始する。活動ログのコピーの中に活動ログ・データ・セットが 1 つしか残っていないときは、このコマンドは処理されない (CSQJ319I を参照) が、このコマンドを過度に使用すると、現行の活動ログ・データ・セットを除き、活動ログ内のすべてのスペースが使い尽くされてしまうことがある。
- オフロードの失敗。
- 活動ログ・スペースの不足。

CSQJ111A

活動ログ・データ・セットにスペースが足りません。

説明

オフロード処理の遅延のために、すべての活動ログ・データ・セットの使用可能なスペースがすべて使い尽くされた。回復ロギングを続行することができない。

システム・アクション

IBM MQ は、使用可能なデータ・セットを待つ。ロギングが必要な IBM MQ API 呼び出しを実行するタスクは、すべて停止する。

システム・プログラマーの応答

表示要求を実行し、ログのオフロード処理に関連して未解決の要求がないかどうかを確認する。要求を満たすのに必要な処置を取り、オフロード処理を続行できるようにする。

十分なアクティブ・ログ・データ・セットがあるかどうかを確認する。必要であれば、DEFINE LOG コマンドを使用して、動的にログ・データ・セットを追加できる。

オフロードに必要な資源が不足しているために遅延が生じた場合は、必要な資源を使用可能にして、オフロードを完了させ、ロギングを続行できるようにしなければならない。この状態から回復する方法については詳しくは、[アーカイブ・ログの問題](#)を参照。

保存がオフに設定されていたため、保存データ・セットを割り振ることができなかったため、またはシステム・パラメーターを変更しなければならない他の理由のために、この問題が発生した場合は、STOP MODE(QUIESCE) コマンドも STOP MODE(FORCE) コマンドも作動しないので、キュー・マネージャーを取り消さなければならない。

ロギングが必要な MQ API 呼び出しを実行したために停止しているタスクを解放するには、根底にある問題を解決するか、またはキュー・マネージャーを取り消さなければならない。

一部の資源が使用不可であるため、またはその他の理由により、オフロード処理が停止した場合、ARCHIVE LOG CANCEL OFFLOAD コマンドを使用して現在実行中のオフロード・タスクを取り消し、別のタスクを開始することで問題を解決できることがある。ハードウェア障害がある場合は、z/OS コマンドを使用して、問題のある装置を取り消す必要がある。

CSQJ112E

csect-name BSDS に定義された活動ログ・データ・セットが不十分です。

説明

キュー・マネージャーを始動するには、BSDS に定義されている活動ログ・データ・セットの数が不十分である。この状況は、通常、次のいずれかの理由で起こる。

- 活動ログ・コピー・セットの1つに定義されたデータ・セットが2つに満たない。
- CSQ6LOGP システム・パラメーターでは、TWOACTV=YES が指定されているが、活動ログの2つのコピーのデータ・セットが BSDS に定義されていない。
- 活動ログ・コピー・セットの1つに使用できる (STOPPED のフラグが立てられていない) データ・セットが2つに満たない。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ目録変更ユーティリティーを使用して、BSDS に定義する活動ログ・データ・セットの数を、CSQ6LOGP で指定されたシステム・パラメーターと一致させるか、または活動ログ・データ・セットを追加して、各活動ログ・コピーで複数の活動ログ・データ・セットを使用できるようにする。キュー・マネージャーを再始動する。

注: STOPPED のフラグを立てられたログ・データ・セットは、IBM MQ では再使用されない。キュー・マネージャーを再始動すると、STOPPED ログ・データ・セットを回復する必要がある場合がある。STOPPED 状況を取り消すには、以下の手順に従う。

1. キュー・マネージャーを停止する。
2. ログ・データ・セットを回復する (再定義するか、ログの他のコピーから回復する)。

3. ログ・データ・セットをいったん削除してから、(ログ目録変更ユーティリティを使用して)適切な RBA を指定して BSDS に再び追加する。

CSQJ113E

RBA *log-rba* が、活動または保存ログ・データ・セットにありません。CONNECTION-ID=xxxx THREAD-XREF=yyyyyy

説明

この RBA から始まるログ・レコードを読み取るように要求された。しかし、このログ・レコードが、どの活動/保存ログ・データ・セットにも見つからなかった。接続 ID および THREAD-XREF は、問題を検出したユーザーまたはアプリケーションを識別する(これは内部 IBM MQ タスクの可能性がある)。ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

システム・アクション

どのログ・レコードがどのような理由で読み取られているかに応じて、要求側は X'00D1032A' の理由コードを出して異常終了することがある。

システム・プログラマーの応答

おそらくユーザー・エラーである。要求された RBA を含む保存ログ・データ・セットが、ログ目録変更ユーティリティによって、BSDS から削除されたと思われる。古いログ・マップ印刷実行からの出力を見つけ、欠落している RBA を含むデータ・セットを識別する。このデータ・セットが再使用されていなかった場合は、ログ目録変更ユーティリティを実行し、このデータ・セットをログ・データ・セットの目録に戻す。キュー・マネージャーを再始動する。

CSQJ114I

保存データ・セットにエラーが発生し、オフロードは生成中の保存データ・セットでだけ継続します。

説明

オフロードによって作成中の保存データ・セットの 1 つにアクセスしているときに、エラーが起こった。重複保存オプションが指定されているため、他方の保存データ・セットを用いてオフロードが続行される。オフロード中の RBA 範囲に関しては、保存データ・セットの数は 2 つではなく、1 つだけにする。

システム・アクション

オフロードは、1 つの保存データ・セットを作成する。

システム・プログラマーの応答

この保存ログ・データ・セットの 2 番目のコピーを作成でき、ログ目録変更ユーティリティを用いて BSDS を更新できる。

CSQJ115E

オフロードが失敗し、保存データ・セットを割り振れませんでした。

説明

オフロードで、保存ログ・データ・セットを割り振ることができなかった。オフロードは実行されない。このメッセージの前に、メッセージ [CSQJ103E](#) または [CSQJ073E](#) が出される。

注: 重複保存オプションを使用している場合は、コピーが作成されない。

システム・アクション

後で、オフロードが試行される。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQJ103E または CSQJ073E のエラー状況情報を調べる。データ・セット割り振りエラーの原因となった状況を訂正し、再試行時にオフロードが行われるようにする。

CSQJ116E

BSDS に保存項目を追加中にエラーが発生しました。

説明

オフロードで、BSDS に保存項目を追加することができなかった。オフロードは不完全と思われる。活動ログ・データ・セットには、新しいログ・データに再使用可能であるというマークは付けられない。このメッセージの前に、メッセージ CSQJ107E、CSQJ108E、または CSQJ109E が出される。

システム・アクション

オフロードは、後で再試行される。

システム・プログラマーの応答

該当する先行メッセージから処置を調べる。

CSQJ117E

INITIALIZATION ERROR READING BSDS DSNAME=*dsname*, ERROR STATUS=*eee*

説明

示された BSDS の初期設定読み取り中にエラーが発生した。エラー状況には VSAM 戻りコードおよびフィードバック・コードが入る。これは 2 バイトのフィールドで、最初のバイトは 16 進数の戻りコード、2 番目のバイトは 16 進数のフィードバック・コードである。VSAM 戻りコードおよび理由コードの説明については、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

関連のある VSAM エラー状況情報を使用して、読み取りエラーの原因を判別する。キュー・マネージャーを再始動する。

CSQJ118E

マクロ *xxx* がログの初期化で失敗しました。RC=*ccc*

説明

ログの初期設定で、示されたマクロから戻りコードが戻された。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

指定されたマクロおよび戻りコードに関する情報を用いて、問題を判別する。必要なステップをとり、キュー・マネージャーを再始動する。指定されたマクロに関する情報がない場合は、マクロ名と戻りコードを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

CSQJ119E

アクセスのブートストラップが、初期設定処理に失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、BSDS アクセス機能はその初期設定処理を完了できなかった。BSDS またはログに関する問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージに先立って、特定のエラーを記述する 1 つ以上のエラー・メッセージが出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ120E

重複 BSDS データ・セットに異なるタイム・スタンプがあります。SYSTEM BSDS1=*sys-bsds1*、BSDS2=*sys-bsds2*、UTILITY BSDS1=*uty-bsds1*、BSDS2=*uty-bsds2*

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、重複 BSDS のタイム・スタンプが一致していなかった。システムおよびログ目録変更ユーティリティからのタイム・スタンプが、それぞれの BSDS について示されている。タイム・スタンプの形式は `date hh:mm:ss.th` です。

システム・アクション

キュー・マネージャーが、BSDS データ・セットを再同期して重複 BSDS モードを復元しようとした。再同期が正常に終了すると、メッセージ CSQJ130I が発行され、始動は続行される。再同期が正常に終了しない場合、始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

始動に失敗した場合、各 BSDS に対してログ・マップ印刷ユーティリティを実行する。出力から、どのデータ・セットが使えないかを判別し、そのデータ・セットを削除し、それに置き換わるデータ・セットを定義し、残っている BSDS をその新しいデータ・セットにコピーする。

両方のデータ・セットに対するログ・マップ印刷ユーティリティの出力が類似している場合は、タイム・スタンプが古い方のデータ・セットを削除し、最新のタイム・スタンプをもつデータ・セットをコピーする。

CSQJ121E

INITIALIZATION ERROR READING JFCB, DDNAME=*ddd*

説明

キュー・マネージャーの初期設定時 (重複 BSDS データ・セットが指定されている場合)、DD 名 BSDS1 および BSDS2 に関連するデータ・セット名を取得するために、z/OS のジョブ・ファイル制御ブロック (JFCB) が読み取られる。このエラーの原因は、DD ステートメントの欠落である。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

DD 名 BSDS1 に対する DD ステートメントが、キュー・マネージャーが開始したタスクの JCL プロシージャ xxxxMSTR に含まれているかどうかを確かめる。重複 BSDS データ・セットが使用されている場合は、DD ステートメントも、DD 名 BSDS2 に対してキュー・マネージャーが開始したタスクの JCL プロシージャ xxxxMSTR に含まれているようにする。

CSQJ122E

二重 BSDS データ・セットは同期していません。

説明

キュー・マネージャーの初期化中、またはユーティリティの実行中に、二重 BSDS のコンテンツが違うことが検出された。

システム・アクション

プログラムまたはキュー・マネージャーの始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーの初期化中にこのエラーが発生した場合は、各 BSDS に対してログ・マップ印刷ユーティリティを実行し、最初のコピーとして最後に使用されたデータ・セットを特定する。2 番目のコピー・データ・セットを削除し、削除したデータ・セットに置き換わるデータ・セットを定義し、残っている BSDS をその新しいデータ・セットにコピーする。

キュー・マネージャーが異常終了した後の BSDS 変換ユーティリティの実行中にこのエラーが発生した場合は、まずそのキュー・マネージャーを再始動してクリーン・シャットダウンを実行した後に、BSDS 変換ユーティリティを再度実行する。それでも問題が解決しない場合、各 BSDS に対してログ・マップ印刷ユーティリティを実行し、最初のコピーとして最後に使用されたデータ・セットを特定する。BSDS 変換ユーティリティを呼び出すために使用する JCL を変更して、SYSUT1 DD ステートメントにこの BSDS を指定し、SYSUT2 DD ステートメントを削除してから、ジョブを再実行依頼してください。

CSQJ123E

ログ目録変更の失敗が検出されました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、BSDS がログ目録変更ユーティリティーによって 完全には処理されていないことがわかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティーを実行し、BSDS に対するどの操作が完了していなかったかを判別する。BSDS に対してログ目録変更ユーティリティーを実行し、未終了の処理がすべて完了されるようにする。

CSQJ124E

入出力エラーのため、活動中のログのオフロードは、RBA xxxxxx から RBA xxxxxx で中断しました。

説明

オフロード時に、活動ログ・データ・セットで、回復不能な入出力エラーが検出された。エラーのデータ・セットには使用不能のマークが付けられ、そのデータ・セットへのロギングはそれ以上行われない。

システム・アクション

活動ログ・データ・セットは、満杯になった時点で、再びオフロード処理が行われる。

システム・プログラマーの応答

そのデータ・セットからデータを手操作で回復し、それを保存データ・セットにコピーし、ログ目録変更ユーティリティーを実行して新しい保存データ・セットをキュー・マネージャーに対して使用可能にし、エラーの活動ログ・データ・セットを除去する。

CSQJ125E

BSDS のコピー中にエラーが発生しました。BSDS のコピーを作成せずにオフロードを継続します。

説明

オフロード処理中に BSDS データ・セットをコピーしているときに、エラーが発生した。データ・セットは生成されず、オフロードされたデータ・セットを含むボリュームは、回復用の BSDS を含んでいない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、BSDS のコピーを作成せずに、オフロード処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

保存が行われているときは、活動ログ・データ・セットのコピーとその時点の BSDS の両方がダンプされる。この BSDS は、次の保存ログとともに再びコピーされるため、重要ではない (BSDS の欠落は、単に再始動時間が延長されることを意味する)。しかし、その後の BSDS オフロードが発生するようにするために、根底にあるデータ管理問題 (例えば、割り振られているスペースが不十分である) を解決しなければならない。

CSQJ126E

BSDS のエラーにより、強制的に単一モードになりました。

説明

入出力エラーまたは VSAM 論理エラーが BSDS で発生した。このメッセージの前に、メッセージ CSQJ107E または CSQJ108E が出される。

システム・アクション

IBM MQ は、残っている BSDS を使用して単一 BSDS モードに入る。

システム・プログラマーの応答

オフラインのアクセス方式サービス・プログラム・ジョブを実行して、エラーの BSDS の名前を変更し、同じ名前で新しい BSDS を定義する。その後、RECOVER BSDS コマンドを入力して、重複 BSDS モードを再設定する。

CSQJ127I

SYSTEM TIME STAMP FOR BSDS=*date time*

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、BSDS のシステム・タイム・スタンプが表示される。タイム・スタンプの形式は *date hh:mm:ss.th* です。このタイム・スタンプは、このキュー・マネージャーが最後に停止された時刻に近くなければならない。そうしないと、間違った BSDS を使用して再始動が行われていることになる。

これまで BSDS が使用されなかった場合、タイム・スタンプには '*****' と表示される。

システム・アクション

始動処理が継続される。

システム・プログラマーの応答

表示された時刻がこのキュー・マネージャーを最後に停止した時刻に近くなく、時刻の矛盾の説明がつかない場合は、キュー・マネージャーを取り消す。キュー・マネージャーが開始したタスクの JCL プロシージャ *xxxxMSTR* から、BSDS のデータ・セット名を判別し、ログ・マップ印刷ユーティリティを実行する。すべての活動/保存ログ・データ・セットがこのキュー・マネージャーに属しているかどうかを調べる。属していない場合は、キュー・マネージャー用の開始済みタスク JCL プロシージャ *xxxxMSTR* を変更して、正しい BSDS を使用するようにする。

CSQJ128E

活動ログ *dsname* のログ・オフロード・タスクが失敗しました。

説明

活動ログ・データ・セット *dsname* の RBA 範囲をオフロードしようとしたときに、オフロード・タスクが異常終了した。

システム・アクション

オフロード・タスクは終了し、オフロード・タスクに割り振られていた保存データ・セットは割り振り解除されて、削除される。失敗したオフロード処理に関与していた活動ログ・データ・セットの状況は、「再使用不可」に設定されたままである。

ログ・オフロード・タスクは、いくつかのイベントのいずれかによって再び開始される。最も一般的なイベントは、次のとおりである。

- 現行の活動ログ・データ・セット内のすべての使用可能なスペースが使用された (通常の場合)。
- CSQJ110E メッセージが出された。
- キュー・マネージャーのアドレス・スペースが開始されたが、活動ログのデータが保存されていなかった。
- 活動ログで入出力エラーが起こった。これにより、キュー・マネージャーは強制的に活動ログ・データ・セットを切り捨ててオフロードし、新しい活動ログ・データ・セットに切り替わる。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、オフロード・エラーの結果として出されるものであり、この前に 1 つ以上の IBM MQ メッセージ (例えば、CSQJ073E) および z/OS メッセージ (例えば、IEC030I、IEC031I、IEC032I) が出される。キュー・マネージャーが限定された活動ログ資源で動作している場合は (メッセージ CSQJ110E を参照)、この異常終了または CSQJ110E 状況が解決されるまで、ログ活動を制限するためにシステムを静止しなければならない。

キュー・マネージャーによってオフロードが再び試みられる前に、この異常終了の原因を調べ、訂正しておく。

CSQJ129E

ログの終わり RBA *eol-rba* がどの活動ログ・データ・セットにも見つかりませんでした。見つかった最高 RBA は *hi-rba* でした。

説明

BSDS 内に最高位 RBA として書き込まれたログ・レコード *eol-rba* を見つけるように要求された。この RBA が、どの活動ログ・データ・セットにも見つからなかった。すべての活動データ・セット内で見つかった最高位 RBA は、*hi-rba* である。

システム・アクション

始動処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

要求された RBA を含む活動ログ・データ・セットが、ログ目録変更ユーティリティによって BSDS から削除されていると思われる。データ・セットが再使用されていない場合は、ログ目録変更ユーティリティを実行し、このデータ・セットを BSDS に戻す。キュー・マネージャーを再始動する。

データ・セットが使用可能でない場合は、IBM サポートに連絡する。

CSQJ130I

DUAL BSDS MODE RESTORED FROM BSDS n

説明

BSDS コピー n を使用して、重複 BSDS モードが復元されました。これは、最新のシステム・タイム・スタンプを持つ BSDS データ・セットです。

システム・アクション

始動処理が継続される。

CSQJ131E

csect-name Db2 にキュー・マネージャー情報を書き込み中にエラーが発生しました。

説明

コマンド処理中に、Db2 にキュー・マネージャー情報を書き込もうとして失敗した。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

この問題に関連するメッセージがないか、コンソールを調べる。

CSQJ132E

csect-name Db2 からキュー・マネージャー情報を読み取り中にエラーが発生しました。

説明

コマンド処理中に、Db2 からキュー・マネージャー情報を読み取ろうとして失敗した。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

この問題に関連するメッセージがないか、コンソールを調べる。

CSQJ133E

LRSN *rrr* が、活動または保存ログ・データ・セットにありません。接続 ID=*xxxx* THREAD-XREF=*yyyyyy*、QMGR=*qmgr-name*

説明

示されたキュー・マネージャー (メッセージの発行元とは限らない) の、この LRSN から始まるログ・レコードを読み取るように要求された。しかし、このログ・レコードが、どの活動/保存ログ・データ・セットにも見つからなかった。接続 ID および THREAD-XREF は、問題を検出したユーザーまたはアプリ

リケーションを識別する (これは内部 IBM MQ タスクの可能性がある)。 ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

システム・アクション

どのログ・レコードがどのような理由で読み取られているかに応じて、要求側は X'00D1032A' の理由コードを出して異常終了することがある。

システム・プログラマーの応答

おそらくユーザー・エラーである。 要求された RBA を含む保存ログ・データ・セットが、ログ目録変更ユーティリティによって、BSDS から削除されたと思われる。 古いログ・マップ印刷実行からの出力を見つけ、欠落している LRSN を含むデータ・セットを識別する。 このデータ・セットが再使用されていなかった場合は、ログ目録変更ユーティリティを実行し、このデータ・セットをログ・データ・セットの目録に戻す。 キュー・マネージャーを再始動する。

CSQJ134E

RBA *log-rba* が、活動または保存ログ・データ・セットにありません。 CONNECTION-ID=xxxx THREAD-XREF=yyyyyy, QMGR=*qmgr-name*

説明

示されたキュー・マネージャーのこの RBA から始まるログ・レコードを読み取るように要求された。 しかし、このログ・レコードが、どの活動/保存ログ・データ・セットにも見つからなかった。 接続 ID および THREAD-XREF は、問題を検出したユーザーまたはアプリケーションを識別する (これは内部 IBM MQ タスクの可能性がある)。 ログの問題の処理方法については、[活動ログの問題](#)を参照。

システム・アクション

どのログ・レコードがどのような理由で読み取られているかに応じて、要求側は X'00D1032A' の理由コードを出して異常終了することがある。

システム・プログラマーの応答

この問題は、次の理由で起こる。

1. BSDS 内のログ範囲の項目が BSDS から削除された。
2. ログ範囲の項目は BSDS 内にあるが、アーカイブ・ログ・データ・セットが削除された。 アーカイブ・ログの作成時に、データ・セットを削除する時期を指定するために CSQ6ARVP パラメーター ARCRETN が使用される。 この日付を過ぎると、MVS はデータ・セットを削除するので、この日付より後にこのデータ・セットを使用しようとする、データ・セットが見つかりません。

詳しくは、[BSDS の問題](#)を参照。

CSQJ136I

磁気テープ装置を接続 ID=xxxx 相関 ID=yyyyyy に割り振れません。 *m* 個割り振られ、*n* 個許可されました。

説明

指定された接続 ID の磁気テープ装置を割り振ろうとする試みが失敗した。 指定されている現行の最大磁気テープ装置は *n* ですが、物理的には、*m* 個しか使用できない。

システム・アクション

接続 ID および相関 ID のプロセスは、割り振られた磁気テープ装置のいずれかが解放されるか、もっと多くの磁気テープ装置がオンラインに変更され、保存読み取りタスクに使用可能になるまで保留される。 この状態は、現在割り振られている磁気テープ装置が使用可能になるまで調整を繰り返す。

CSQJ139I

ログ・オフロード・タスクは終了しました。

説明

活動ログのオフロード処理が終了した。

システム・アクション

このメッセージは、z/OS コンソールに出力される。

CSQJ140I

Data set *dsname* successfully added to active log copy *n*

説明

DEFINE LOG コマンドが、新しいログ・データ・セット *dsn* を動的に追加し、それを *n* が示す活動ログ・データ・セットの LOGCOPY1 または LOGCOPY2 リングに追加した。

新しい活動ログ・データ・セットは、現在の活動ログ・データ・セットが満杯になり、ロギングがリング内の次の活動ログ・データ・セットに切り替わるときに使用できる。

データ・セットに関する情報は BSDS に保管され、キュー・マネージャーを再始動しても保持される。

CSQJ141E

Error adding new active log data set *dsname*

説明

DEFINE LOG コマンドは、新しいログ・データ・セットの追加に失敗した。この失敗についての詳細は、先行のメッセージを参照。

システム・プログラマーの応答

失敗の原因を調査して訂正してから、コマンドを再入力する。

CSQJ142I

データ・セット *dsname* は以前使用されています。

説明

オペレーター・エラーを示している可能性があるため、IBM MQ は、DEFINE LOG コマンドで追加したデータ・セットが以前にログ・データ・セットとして使用されていなかったようにする。要求したデータ・セット *dsname* が以前に使用されていたことが判明した。

システム・アクション

データ・セットはクローズされ、割り振り解除される。新しい活動ログ・データ・セットの動的追加は失敗する。

システム・プログラマーの応答

活動ログ・データ・セットとして追加されようとしているデータ・セットが新しく割り振られているかどうか、または活動ログ事前フォーマット・ユーティリティ CSQJUFMT でフォーマットされているかどうかを確認する。

CSQJ143I

BSDS 活動ログ・データ・セット・レコードがいっぱいです。

説明

活動ログ・データ・セットの最大数は決まっている。最大数に達した後で、BSDS にそれ以上項目を挿入することはできない。

システム・アクション

新しい活動ログ・データ・セットの動的追加は失敗する。

CSQJ144I

Active log data set allocation error

説明

IBM MQ は、要求したデータ・セット (次の CSQJ141E メッセージで示される) を新しい活動ログ・データ・セットとして使用するために動的に割り振ることができなかった。

システム・アクション

新しい活動ログ・データ・セットの動的追加は失敗する。

システム・プログラマーの応答

新しい活動ログ・データ・セットとして追加されようとしているデータ・セットが SHAREOPTIONS(2 3) を使用した VSAM 線形データ・セットで、他のジョブに使用されていないようにする。

CSQJ150E

ログ収集出口が異常終了し、出口が非活動化されました。

説明

インストール・システム提供のログ収集出口コード (ロード・モジュール CSQJL004 の入り口点 CSQJW117) で実行中に、異常なプログラム割り込みが検出された。この結果として、ログ収集出口は活動状態ではなくなる。ログ・データはそれ以降は出口収集/処理に使用できない。

このメッセージは、インストール・システム提供のログ収集出口 (入り口点 CSQJW117) がこのキュー・マネージャーに対して活動状態になっている場合にのみ発行される可能性がある。

システム・アクション

ログ収集出口 (入り口点 CSQJW117) は終了する。このキュー・マネージャーに対してそれ以上の呼び出しは試みられない。診断を目的として完全なダンプが提供される。

システム・プログラマーの応答

CSQJL004 ロード・モジュール (入り口点 CSQJW117) 異常終了の原因を判別し、訂正処置をとる。

注: キュー・マネージャーを始動するには、ロード・モジュール CSQJL004/入り口 CSQJW117 の正しく機能するコピーが使用可能でなければならない。このエラーの原因となった問題を訂正できない場合は、次回キュー・マネージャーを始動するとき、デフォルトの CSQJW117 入り口 (ロード・モジュール CSQJL004 - IBM MQ で提供される) を使用可能にしておかなければならない。

CSQJ151I

csect-name RBA *rrr* の読み取り中エラー。CONNECTION-ID=*xxxx* CORRELATION-ID=*yyyyyy* REASON CODE=*ccc*

説明

キュー・マネージャーは、理由コード *ccc* のために、指定された RBA の読み取りを正常に完了することができなかった。接続 ID および相関 ID は、エラーが起こったユーザーまたはアプリケーションを識別する。同じ接続 ID および相関 ID を持つメッセージは、同じアプリケーションに関連している。「0nn」で始まる相関 ID (nn は 01 から 28 の番号) で、システム・エージェントを識別する。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、エラーを回復しようとする。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーがエラーを回復し、アプリケーションを正常に完了することができた場合には、さらにとるべき処置はない。アプリケーションが異常終了するか、またはキュー・マネージャーが正常に回復することができなかった場合には、このメッセージの後に 1 つまたは複数のメッセージが続く。このメッセージおよび後続のメッセージにある情報を参照して、適切な修正処置を決定してください。

CSQJ152I

csect-name 保存ログ・ボリューム報告書の作成中にエラー。CONNECTION-ID=*xxxx* CORRELATION-ID=*yyyyyy* 理由コード=*ccc*

説明

保存ログ・ボリューム報告書の作成を試みている間にエラーが起こった。理由コード *ccc* のため、RBA 範囲は 1 つまたは複数の保存データ・セットに正常にマップできなかった。接続 ID および相関 ID は、エラーが起こったユーザーまたはアプリケーションを識別する。このメッセージの前に、1 つまたは複数の関連エラー・メッセージが出されることがある。同じ接続 ID および相関 ID を持つメッセージは、同じアプリケーションに関連している。「0nn」で始まる相関 ID (nn は 01 から 28 の番号) で、システム・エージェントを識別する。

この障害は、1 つまたは複数の脱落保存ログ・データ・セットまたはシステム・エラー (例えば、BSDS 読み取りの入出力エラー) によって引き起こされる。

システム・アクション

保存ログ・ボリューム報告書(メッセージ CSQJ330I を参照)は生成されない。さらに、磁気テープの事前マウントはできない。

ユーザーまたはアプリケーションは、処理を継続する。ユーザーまたはアプリケーションに対する物理読み取りプロセスは、ジョブが正常に完了するかまたは異常終了するまで継続される。読み取りプロセスのためにデータ・セットが物理的に必要であるときにエラーが再び起こる場合、ジョブは異常終了することができる。

システム・プログラマーの応答

ユーザーまたはアプリケーションが正常に完了する場合、さらにとるべき処置はない。ユーザーまたはアプリケーションが正常に完了しない場合には、実際の障害に関連したメッセージを調べ、適切な訂正処置を判別する。

CSQJ153I

csect-name LRSN *rrr* の読み取り中にエラーが発生しました。接続 ID=xxxx 接続 ID=yyyyyy 理由コード=ccc、QMGR=*qmgr-name*

説明

キュー・マネージャーは、理由コード *ccc* のために、示されたキュー・マネージャー(メッセージの発行元とは限らない)の示された LRSN の読み取りを正常に完了することができなかった。接続 ID および関連 ID は、エラーが起こったユーザーまたはアプリケーションを識別する。同じ接続 ID および関連 ID を持つメッセージは、同じアプリケーションに関連している。「Onn」で始まる関連 ID (nn は 01 から 28 の番号)で、システム・エージェントを識別する。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、エラーを回復しようとする。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーがエラーを回復し、アプリケーションを正常に完了することができた場合には、さらにとるべき処置はない。アプリケーションが異常終了するか、またはキュー・マネージャーが正常に回復することができなかった場合には、このメッセージの後に 1 つまたは複数のメッセージが続く。このメッセージおよび後続のメッセージの情報を調べ、適切な訂正処置を判別する。

CSQJ154I

csect-name RBA *rrr* の読み取り中エラー。CONNECTION-ID=xxxx CORRELATION-ID=yyyyyy REASON CODE=ccc、QMGR=*qmgr-name*

説明

キュー・マネージャーは、理由コード *ccc* のために、指定されたキュー・マネージャーの指定された RBA の読み取りを正常に完了することができなかった。接続 ID および関連 ID は、エラーが起こったユーザーまたはアプリケーションを識別する。同じ接続 ID および関連 ID を持つメッセージは、同じアプリケーションに関連している。「Onn」で始まる関連 ID (nn は 01 から 28 の番号)で、システム・エージェントを識別する。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、エラーを回復しようとする。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーがエラーを回復し、アプリケーションを正常に完了することができた場合には、さらにとるべき処置はない。アプリケーションが異常終了するか、またはキュー・マネージャーが正常に回復することができなかった場合には、このメッセージの後に 1 つまたは複数のメッセージが続く。このメッセージおよび後続のメッセージの情報を調べ、適切な訂正処置を判別する。

CSQJ155E

csect-name アクティブ・ログ DSNAME=xxxxx が 4GB を超えています

説明

キュー・マネージャーが開いた LOG データ・セットに割り振られたスペースが 4GB を超えている。サポートされる最大 LOG サイズは 4GB である。

システム・アクション

処理を続行する。LOG データ・セットは引き続き使用されるが、使用されるスペースは割り振られたスペースより小さくなる。割り振られる RBA の最大値は 32 ビット・ワードをオーバーフローするため、切り捨てられる。切り捨てられた最大 RBA が使用されるため、LOG データ・セットのサイズは小さくなる。

システム・プログラマーの応答

LOG データ・セットには 4GB を超えないスペースを割り振る必要がある。アクセス方式サービス・プログラムを使用して、データ・セットを最大サイズ 4 GB で定義する。LOG データ・セットのサイズを判断するには、『[ログ・データ・セットの定義](#)』を参照。

LOG データ・セットに 4GB 以下のスペースを使用して再割り振りするには、以下の手順を実行する。

1. 新しい COPY1、COPY2 (使用する場合)、アクティブ・ログ・データ・セットに最大サイズの 4GB を割り振ってフォーマットし、必要に応じて CSQJUFMT を実行する。
2. コマンド DEFINE LOG を使用して、新しいログをキュー・マネージャーに動的に追加する。
3. コマンド ARCHIVE LOG を使用して、新しいログにロールインする。
4. 新しいログのいずれかが現在のアクティブ・ログ・データ・セットの場合、キュー・マネージャーをシャットダウンする。
5. CSQJU003 ユーティリティを使用して、小さすぎるアクティブ・ログを削除する。最初に CSQJU004 を実行して BSDS のログ状況を表示し、削除対象のログが「REUSABLE」、つまり正常にアーカイブされたことを確認する。
6. キュー・マネージャーを再始動する。CSQJ115E メッセージは発行されない。

CSQJ160I

長時間実行されている UOW が見つかりました。URID=*urid* CONNECTION NAME=*name*

説明

ログ・スイッチ処理中に、3 つ以上の活動ログ・スイッチに渡るコミットされていない回復単位が検出された。回復単位 ID *urid* と接続名 *name* により、関連するスレッドが識別される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

回復単位に問題があるかどうかを判別し、アプリケーションが頻繁に作業をコミットしているかどうかを確認するために、アプリケーション・プログラマーと連絡をとる。コミットされていない回復単位は、後で問題を起こす可能性がある。

必要に応じて、コマンド DISPLAY CONN(*) WHERE(QMURID EQ *urid*) ALL を発行して、リモート接続のチャンネル名など、回復単位に関する詳細情報を表示します。

CSQJ161I

n オフロードの後、UOW が解決されませんでした。URID=*urid* CONNECTION NAME=*name*

説明

ログ・スイッチ処理中に、コミットされていない回復単位で、いくつかのログ・データ・セットに渡るアクティビティーを持つようになったものが見つかった。回復単位 ID *urid* と接続名 *name* により、関連するスレッドが識別される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

回復単位に問題があるかどうかを判別し、アプリケーションが頻繁に作業をコミットしているかどうかを確認するために、アプリケーション・プログラマーと連絡をとる。コミットされていない回復単位は、後で問題を起こす可能性がある。

必要に応じて、コマンド DISPLAY CONN(*) WHERE(QMURID EQ *urid*) ALL を発行して、リモート接続のチャンネル名など、回復単位に関する詳細情報を表示します。

CSQJ163E

COPY(2) が指定されましたが TWOACTV(NO) です

説明

DEFINE LOG コマンドで COPY(2) パラメーターが指定されたが、キュー・マネージャーの開始時に CSQ6LOGP では重複ロギング・パラメーター (TWOACTV=YES) が指定されていなかった。

システム・アクション

新しい活動ログ・データ・セットの動的追加は失敗する。

システム・プログラマーの応答

DEFINE LOG コマンドで COPY(1) を指定するか、重複ロギングを使用するようにキュー・マネージャーを構成する。

CSQJ164I

csect-name ログのアーカイブが遅延しました。使用可能なすべてのオフロード・タスクが使用中です

説明

使用可能なすべてのオフロード・タスクが使用中であるために、1つ以上のアクティブ・ログのオフロードが遅延した。

最大 31 個のオフロード・タスクが新しいアーカイブ・ログ・データ・セットを同時に書き込むことができる。MAXCNOFF パラメーター (CSQ6LOGP または SET LOG コマンドを使用して設定する) を使用してオフロード・タスクの数を調整できる。MAXCNOFF を指定して、使用可能な磁気テープ装置の数などのシステムの制約に一致するように IBM MQ ログのオフロードを調整する。

システム・アクション

処理を続行する。オフロード・タスクが使用できるようになると、オフロードは完了する。アクティブ・ログのオフロードが遅延しなくなったら、メッセージ [CSQJ168I](#) が発行される。

システム・プログラマーの応答

これはほとんどの場合、IBM MQ が突然に大量のフル・アクティブ・ログをアーカイブできるようになったことによる一時的な状態である (例えば、アーカイブに関する問題が解決された後など)。

それ以外の状況では、MAXCNOFF パラメーター設定を確認する。

アクティブ・ログとアーカイブ・ログの比率に合うように、アクティブ・ログの容量を増やすことを検討する。DEFINE LOG コマンドを使用して、アクティブ・ログの容量を追加できる。

CSQJ166E

アクティブ・ログ・コピー *n* の zHyperWrite 構成に矛盾があります

説明

アクティブ・ログの各コピー用のデータ・セットは、zHyperWrite で使用できるように一貫して構成する必要があります。

つまり、アクティブ・ログ・コピーを構成するすべてのデータ・セットを zHyperWrite 対応のボリューム上に配置するか、zHyperWrite 対応のボリューム上にデータ・セットを 1 つも配置しないかのいずれかにすることが必要です。

キュー・マネージャーは、ログ・コピー *n* を形成するデータ・セットの zHyperWrite 構成に矛盾があることを検出した。

システム・アクション

処理は続行するが、アクティブ・ログ・ボリュームの構成が矛盾しているため、ロギング・レートの不整合が見られる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

アクティブ・ログ・ボリュームの構成を確認する。

V 9.3.5 zHyper 書き込みログ機能の状況は、キュー・マネージャーの開始時に表明されるため、機能が変更されると失効する可能性があります。

CSQJ167E

ZHYWRITE(YES) が指定されているが、アクティブ・ログが zHyperWrite 対応でない

説明

V 9.3.5 IBM MQ 9.3.5 より前では、システム・パラメーター ZHYWRITE は YES に設定されていましたが、アクティブ・ログ・コピーが zHyper 書き込み可能ボリューム上にないため、キュー・マネージャーは zHyper 書き込みを利用できません。

V 9.3.5 IBM MQ 9.3.5 以降では、システム・パラメーター ZHYWRITE が YES に設定されていますが、キュー・マネージャーは、アクティブ・ログ・コピーがいずれも zHyper 書き込み可能ボリューム上にないと考えています。zHyper 書き込みログ機能の状況は、キュー・マネージャーの開始時に表明されるため、機能が変更されると失効する可能性があります。キュー・マネージャーは、zHyperWrite を有効にしてログ書き込みを発行します。アクティブ・ログ・コピーが zHyper 書き込み可能ボリューム上にあるかどうかに関係なく。詳しくは、[IBM MQ アクティブ・ログを使用した zHyper 書き込みの使用](#) を参照してください。

システム・アクション

zHyperWrite でのログ書き込みが有効化されずに処理が続行する。

V 9.3.5 IBM MQ 9.3.5 より前では、処理は続行されますが、zHyper 書き込みに対してログ書き込みは使用可能になりません。IBM MQ 9.3.5 以降、処理は続行され、zHyper 書き込みに対してログ書き込みが使用可能になります。

システム・プログラマーの応答

アクティブ・ログ・ボリュームと zHyperWrite 機能の構成を確認する。

CSQJ168I

csect-name ログ・アーカイブが遅延しなくなりました

説明

使用可能なオフロード・タスクの不足によるアクティブ・ログのオフロードの遅延が発生しなくなりました。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ169E

LAST CHECKPOINT NOT FOUND IN ACTIVE LOG COPY AND WITH STARTRBA=&, CHECKPOINT RBA=&.

説明

アクティブ・ログ切り替え処理中に、どのアクティブ・ログにも最後のチェックポイントが見つかりませんでした。これにより、再始動処理中に必要なリカバリー・ポイントを見つけるために使用できるアーカイブ・ログが不足している場合に、キュー・マネージャーがリカバリー不能状態のままになる可能性があります。

これは、チェックポイント処理が停止したか、タイムリーに完了していない可能性があります、調査する必要があります。

システム・アクション

ログ切り替え処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止して再始動することにより、チェックポイント機能を再確立できる場合があります。チェックポイント機能が停止している場合、**STOP QMGR** コマンドはキュー・マネージャーを正常にシャットダウンできない可能性があります。これが発生した場合は、キュー・マネージャーの取り消しが必要になることがあります。これを行う前に、再始動 RBA 以降のログが使用可能であることを確認してください。再始動 RBA は、**DISPLAY USAGE** コマンドを使用して見つけることができます。

チェックポイント機能が停止したと思われる場合は、キュー・マネージャー・アドレス・スペースのダンプを取り、IBM サポートに連絡して、チェックポイント機能が停止した理由を理解するための支援を受ける。

チェックポイント機能が停止していないように見える場合、この状態の代替理由として、キュー・マネージャーのアクティブ・ログが現在のワークロードに対して小さすぎるために、1つのアクティブ・ログの有効範囲内でチェックポイント処理が完了していないことが考えられます。

CSQJ200I

csect-name ユーティリティの処理が正常に完了しました。

説明

ユーティリティが正常に完了した。

CSQJ201I

csect-name ユーティリティの処理は失敗しました。

説明

ユーティリティが、処理を正しく完了できなかった。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

このユーティリティによって作成された他のメッセージを調べ、適切な処置を判別する。

CSQJ202E

INSUFFICIENT STORAGE AVAILABLE TO CONTINUE

説明

使用可能なストレージがこれ以上ないため、ストレージの要求は失敗した。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

使用可能なストレージを増やしてから、ユーティリティを再実行する。

CSQJ203E

oper 操作が無効です。

説明

ユーザーが入力したユーティリティ制御ステートメント操作 (*oper*) が、無効である。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ204E

xxxx パラメーターが無効です。

説明

ユーザーが指定したユーティリティ制御ステートメント・パラメーター (xxxx) が、無効である。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ205E

xxxx パラメーターに引数がありません。

説明

xxxx に、引数を必要とするパラメーターの名前が含まれている。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

示されたパラメーターに引数を指定し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ206E

xxxx パラメーターは引数を必要としません。

説明

xxxx に含まれているパラメーター名の後に、誤って = 記号が付いている。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ207E

パラメーターは指定された操作と矛盾しています。

説明

ユーザーが指定したユーティリティ制御ステートメント・パラメーターは、指定されたユーティリティ操作と矛盾している。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ211E

SYSIN データ・セットの中に予期されないデータの終わりがあります。

説明

追加の制御ステートメントが予期されたが、見つからなかった。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ212E

BSDS 読み取りからエラーが戻されました。RPLERRCD=yy、DDNAME=ddd

説明

VSAM GET が発行されたが、ゼロ以外の戻りコードが戻された。yy には、VSAM によって戻されたエラー・コードが含まれています。ddd には、エラーを検出した BSDS の DD 名が含まれています。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

取るべき処置は、理由コードによって示されている。RPLERRCD の理由コードについては、[RPLERRCD](#) を参照。バックアップ・コピーを使用して BSDS を回復する必要がある場合がある。

CSQJ213E

BSDS 書き込みからエラーが戻されました。RPLERRCD=yy、DDNAME=ddd

説明

VSAM PUT が発行されたが、ゼロ以外の戻りコードが戻された。yy には、VSAM によって戻されたエラー・コードが含まれています。ddd には、エラーを検出した BSDS の DD 名が含まれています。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

取るべき処置は、理由コードによって示されている。RPLERRCD の理由コードについては、[RPLERRCD](#) を参照。バックアップ・コピーを使用して BSDS を回復する必要がある場合がある。

BSDS 変換ユーティリティ (CSQJUCNV) の実行中にこのエラーが発生した場合、重複キーを使ってレコードを保管しようとしたことがその理由であると RPLERRCD に示されているならば、ユーティリティの実行前に出力 BSDS が空であることを確認する。

CSQJ214E

指定された DSNAME はすでに BSDS 内にあります。DDNAME=ddd

説明

BSDS にすでに存在するデータ・セット名を指定して、NEWLOG 操作が試みられた。指定した DSNAME が、BSDS の活動レコードまたは保存レコードのいずれかに現在ある場合、その BSDS に項目は作成されない。ddd には対象の BSDS の DDname が入る。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行するか、または BSDS から既存の DS 名を削除し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ215I

CSQJ215I modname ローカル時間帯の修正を行わずにタイム・スタンプがフォーマットされました。

説明

パラメーター TIME(RAW) がユーティリティ modname の呼び出しで指定された。可能な場合、出力内の日時としてフォーマットされるタイム・スタンプは、ローカル時間帯またはうるう秒の調整が実行されないため、ソース・システムのイベントの UTC 時刻になる。

この処理モードは、フォーマットされるログまたは BSDS が、時間帯の異なる、あるいは夏時間調整方式の異なるリモート・システム上で生成される場合に非常に有効である。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行するか、または BSDS から既存の DS 名を削除し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ216E

BSDS 活動ログ・データ・セット・レコードがいっぱいです。DDNAME=ddd

説明

活動ログ・データ・セットの最大数は決まっている。最大数に達した後で、BSDS にそれ以上項目を挿入することはできない。ddd には対象の BSDS の DDname が入る。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行し、BSDS の現在の状況を判別する。BSDS の状況に応じて、その後の処置を決めることができる。

CSQJ217E

指定された DSNAME は BSDS の中にありません。DDNAME=ddd

説明

DELETE 操作で、BSDS からは検出できない DSNAME を指定している。ddd には対象の BSDS の DDname が入る。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ218E

指定されたボリュームは BSDS の中にありません。DDNAME=ddd

説明

DELETE 操作で、BSDS からは検出できない COPY1VOL または COPY2VOL 引数を指定している。ddd には対象の BSDS の DDname が入る。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ219E

OPEN ERROR, DDNAME=ddd

説明

csect-name が、ddd という名前のデータ・セットをオープンしようとしたとき、エラーが起こった。

このエラーは、さまざまな条件によって引き起こされる可能性がある。最も一般的な条件は、次のとおりである。

1. SYSPRINT、SYSIN、または SYSUT1 データ・セットの DDname は、ユーザーのジョブ制御言語 (JCL) で指定されていなかった。
2. キュー・マネージャーが現在活動状態である。
3. BSDS が、別のジョブにより、ユーザーの JCL に指定された後処理 (DISP) と矛盾する DISP を指定して割り振られている。
4. ddd に関連付けられているデータ・セットが、おそらく以前のエラーが原因ですでにオープンしている。

5. ユーザーが、*ddd* に関連するデータ・セットへのアクセスを許可されていない。
6. OPEN 操作の実行に使用できる仮想記憶域が不十分である。
7. カタログで、*ddd* に関連するデータ・セットの物理レコード・サイズが無効であることが示されている。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

処置は、OPEN エラーの原因となった条件によって異なる。以下に、上記に述べた条件に対応する適切な処置をリストしている。

1. 欠落しているデータ定義 (DD) ステートメントを指定して、ユーティリティを再実行する。詳しくは、[実行するプログラムの作成のセクション](#)を参照。
2. キュー・マネージャーが活動状態の間はログ・ユーティリティが実行できないので、キュー・マネージャーが非活動状態になるのを待って、ユーティリティを再度実行する。
3. 後処理の矛盾を訂正し、ユーティリティを再実行する。
4. *ddd* に関連するデータ・セットに対して、アクセス方式サービス・プログラム (IDCAMS) の VERIFY ジョブを実行する。ログ・ユーティリティ・ジョブを再実行する。
5. 許可問題の場合は、許可機能 (例えば、RACF) から別のメッセージが生成されるのが普通である。許可メッセージを調べ、適切な許可を入手してから、ユーティリティを再実行する。
6. 記憶域不足の場合、通常、z/OS とは別のエラーも起きている。使用可能なストレージを増やし、ユーティリティを再実行する。
7. 適切な物理レコード・サイズを使用して、データ・セットを割り振りし直す。

CSQJ220E

BSDS は作成モードです。マップするデータはありません。DDNAME=*ddd*

説明

ユーティリティは、BSDS が作成モードであり、マップするデータを格納できないことを検出した。*ddd* にはデータ・セットの DDname が入る。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ヌルでないデータ・セットを処理できるように、JCL を訂正する。

CSQJ221I

以前のエラーのために *oper* の操作は迂回されます。

説明

ユーティリティ処理中にエラーを検出した。これらのエラーにより、その後、*oper* がバイパスされた。

このメッセージは警告目的のみで、発生したエラー (複数の場合あり) を示すメッセージの後に表示される。このようなエラーは、現行の *oper* 操作に関連していないことがある。むしろ、ログ・ユーティリティ処理のもとでは、操作で重要なエラーが起これば、その操作およびその後の操作の制御ステートメントが、構文だけしか検査されなくなる。このメッセージに示された操作に関しては、BSDS 更新は行われぬ。

システム・アクション

ログ・ユーティリティは処理を続ける。しかし、この操作およびその後のすべての操作に関しては、BSDS は更新されず、ユーティリティは制御ステートメントの構文のみを検査する。

システム・プログラマーの応答

前のメッセージを調べ、このメッセージが出される原因となったエラーを訂正する。バイパスされたすべての操作に対するログ・ユーティリティ・ジョブを再実行する。

CSQJ222E

xxxx のパラメーター引数の指定が無効です。

説明

パラメーター xxxx が指定された。このパラメーターには、引数を使用できない。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントのパラメーター引数を訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ223E

xxxx のパラメーター引数は許容できる最大長を超えています。

説明

xxxx は、最大許容長を超えた引数値を持つパラメーターの名前を示している。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントのパラメーター引数を訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ224E

xxxx のパラメーター指定が多過ぎます。

説明

xxxx には、同じ制御ステートメントに 2 度以上指定されたパラメーターの名前が示されている。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

余分のパラメーターを取り除き、ユーティリティを再実行する。

CSQJ225I

oper 操作は正常に完了しました。

説明

メッセージに示された oper は、正常に完了したログ目録変更ユーティリティ操作の名前を識別している。

CSQJ226E

指定したボリュームはすでに BSDS に存在します。DDNAME=ddd

説明

指定されたボリュームは、現在、BSDS のアーカイブ・ログ・レコード内に存在しています。ddd は、対象の BSDS の DD 名を指定します。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントのパラメーター引数を訂正するか、指定されたボリュームを削除するかして、ユーティリティを再実行する。

CSQJ227E

BSDS に追加の保存項目のスペースがありません。DDNAME=ddd

説明

保存ボリュームの最大数を超過しており、指定されたコピー内のボリューム項目のためのスペースがなくなった。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

指定されたコピー番号の中の保存項目をいくつか削除し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ228E

csect-name LOG DEALLOCATION ERROR DSNAME=dsname, ERROR STATUS=eeeeiiii, SMS REASON CODE=ssssssss

説明

データ・セットを動的に割り振り解除しようとしたときに、エラーが発生した。エラー状況は、z/OS 動的割り振りから戻されたエラーの理由コードである。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージのエラー状況部分には、SVC99 要求ブロックからの 2 バイトのエラー・コード (eeee S99ERROR) と、その後 2 バイトの情報コード (iiii S99INFO) が含まれている。S99ERROR コードが SMS 割り振りエラー (「97xx」) を示す場合、ssssssss には、S99ERSN から取得される追加の SMS 理由コードの情報が含まれる。

これらのコードについては、「z/OS MVS Authorized Assembler Services Guide」の「[Interpreting DYNALLOC return codes](#)」トピックを参照してください。

CSQJ230E

ログのオフロードの初期設定処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、オフロード機能はその初期設定処理を完了できなかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する 1 つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。先行するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ231E

ログ・コマンドでの初期設定処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、コマンド機能はその初期設定処理を完了できなかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する 1 つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ232E

出力データ・セット制御の初期設定処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、出力データ・セット制御機能はその初期設定処理を完了できなかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。先行するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ233E

保存ログ読み込みの初期設定処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、保存ログ読み取り機能はその初期設定処理を完了できなかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ234E

保存ログ・コマンドの初期設定静止処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) コマンド処理をサポートする静止機能が、その初期設定処理を完了できなかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ235E

出力バッファの書き込み機能の処理は失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定時に、出力バッファ書き込み機能はその初期設定処理を完了できなかった。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ236E

ブートストラップ・アクセスの終了処理は失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、BSDS アクセス機能はその終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ238E

ログ・オフロードを終了できませんでした。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、オフロード機能がその終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ239E

ログ・コマンドの終了処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、コマンド機能がその終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ240E

出力データ・セット制御での終了処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、出力データ・セット制御機能がその終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ241E

保存ログ読み込みでの終了処理が失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、保存ログ読み取り機能がその終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ242E

保存ログ・コマンドの静止機能が、終了に失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) コマンド処理をサポートする静止機能が、その終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ243E

出力バッファの書き込み機能が、終了に失敗しました。

説明

キュー・マネージャーの終了時に、出力バッファ書き込み機能がその終了処理を完了できなかった。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

特定のエラーを記述する1つ以上のエラー・メッセージが、このメッセージの前に出されている。該当するメッセージからエラーを分析し、適切な処置をとる。

CSQJ244E

マクロ xxx がログの終了で失敗しました。RC=ccc

説明

終了時、示されたマクロから、エラーを示す戻りコードが戻された。

システム・アクション

終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

CSQJ245D

条件再始動が RBA rrr で の切り捨てを示しています。REPLY Y TO CONTINUE, N TO CANCEL

説明

使用している条件再始動制御レコードは、指定された RBA でログを切り捨てる必要があることを指示している。

システム・アクション

「Y」であれば、キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。「N」であれば、始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) を実行して、条件再始動レコードを更新する。

CSQJ246D

条件再始動が RBA rrr で コールド・スタートを示しています。REPLY Y TO CONTINUE, N TO CANCEL

説明

使用している条件付き再始動制御レコードが、キュー・マネージャーを再始動する必要があること、およびこのメッセージで示された RBA でロギングを開始する必要があることを示している。

システム・アクション

「Y」であれば、キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。「N」であれば、始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ目録変更ユーティリティー (CSQJU003) を実行して、条件再始動レコードを更新する。

CSQJ247E

csect-name BSDS 保存ログ・レコードの処理中に I/O エラー。RC=*rc* 理由=*reason*

説明

BSDS レコードの処理中に、入出力エラーが発生した。*rc* は、入出力操作から受け取った戻りコードを示す。*reason* は、この操作から受け取った理由コードを示す。

戻りコード 4 は、IBM MQ が問題を検出したことを意味する。戻りコード 8 は、VSAM エラーを意味する。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

戻りコード 4 の場合、問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡する。戻りコードが 8 の場合は、オフラインのアクセス方式サービス・ジョブを実行し、VSAM エラーの原因を判別する。

CSQJ250I

csect-name データ・セット *dsname* の共有オプションが (2 3) より小さいです。CF 構造体の回復はできません。

説明

キュー共有グループ環境での回復操作が許可されない、共有オプションが指定された活動ログ・データ・セットが検出された。すべての活動ログ・データ・セットは、少なくとも SHAREOPTIONS(2 3) でなければならない。

これは、キュー・マネージャー独自のログ・データ・セットが始動時にチェックされたとき、または別のキュー・マネージャーのログ・データ・セットにアクセスする必要がある RECOVER CFSTRUCT コマンドが出されたときに起きる可能性がある。

システム・アクション

RECOVER CFSTRUCT コマンドが出された結果である場合、コマンドは終了する。それ以外の場合、始動は継続されるが、CF 構造体の回復はできない。

システム・プログラマーの応答

CF 構造体の回復が必要な場合、アクセス方式サービス・プログラム ALTER 機能を使用して、データ・セットに対する SHAREOPTIONS を訂正する。

```
ALTER dsname.DATA SHAREOPTIONS(2 3)
```

その後で、データ・セットを持つキュー・マネージャーを再始動する。

CSQJ295D

条件再始動が LRSN *rrr* での切り捨てを示しています。REPLY Y TO CONTINUE, N TO CANCEL

説明

使用している条件再始動制御レコードは、指定された LRSN でログを切り捨てる必要があることを指示している。

システム・アクション

「Y」であれば、キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。「N」であれば、始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログ目録変更ユーティリティー (CSQJU003) を実行して、条件再始動レコードを更新する。

CSQJ301E

`csect-name` オンライン・ブートストラップ・データ・セットの使用中にエラーが発生しました。(アクション・コード *a*)

説明

RECOVER BSDS コマンドまたは ARCHIVE LOG コマンドの処理中、BSDS に操作を行っているときに、エラーが発生した。この操作の種類は、次のように、*a* コードに示されている。

- 1 BSDS をオープンできない。
- 2 BSDS から必要なレコードを読み取ることができない。
- 3 BSDS に必要なレコードを書き込むことができない。
- 4 安定した BSDS の内容が正常に置換 BSDS にコピーされた。ただし、キュー・マネージャーは正常に二重 BSDS 操作をリストアできなかった。

システム・アクション

RECOVER BSDS コマンドの処理中にこのメッセージを受け取った場合は、キュー・マネージャーは単一 BSDS モードで続行する。ARCHIVE LOG コマンドの処理中にこのメッセージを受け取った場合は、BSDS 内の保存ログ・ヒストリー・レコードは、ARCHIVE LOG コマンドの出現を反映するように更新されることはない。ロギングおよびオフロード処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

RECOVER BSDS コマンドの処理中にこのメッセージを受け取った場合は、コマンドを再入力する前に、BSDS に対して回復処置を実行しなければならない。ARCHIVE LOG コマンドの処理中にこのメッセージを受け取った場合は、処置は必要ない。

CSQJ302E

ALLOCATION ERROR ON REPLACEMENT BSDS DSNAME=*dsname* ERROR STATUS=*eee*

説明

指定されたデータ・セットを動的に割り振ろうとしたとき、RECOVER BSDS コマンドでエラーが検出された。DSNAME は、データ・セット名である。エラー状況は、z/OS 動的割り振りから戻されたエラー・コードと情報コードである。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。キュー・マネージャーは単一の BSDS モードで続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージに含まれているエラー状況からエラーの原因を判別し、この状況を訂正する。その後、RECOVER BSDS コマンドを再入力する。

このメッセージのエラー状況部分には、SVC 要求ブロックからの 2 バイトのエラー・コード (S99ERROR) と 2 バイトの情報コード (S99INFO) が含まれている。

これらのコードについては、「*z/OS MVS Authorized Assembler Services Guide*」の「[Interpreting DYNALLOD return codes](#)」トピックを参照してください。

CSQJ303E

WRITE ERROR ON REPLACEMENT BSDS DSNAME=*dsname* ERROR STATUS=*eee*

説明

指定された BSDS に書き込みを行おうとしたとき、RECOVER BSDS コマンドでエラーが検出された。エラー状況には VSAM 戻りコードおよびフィードバック・コードが入る。これは 2 バイトのフィールドで、最初のバイトは 16 進数の戻りコード、2 番目のバイトは 16 進数のフィードバック・コードである。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。キュー・マネージャーは単一の BSDS モードで続行する。

システム・プログラマーの応答

オフラインのアクセス方式サービス・プログラム・ジョブを実行して、置換 BSDS を削除または名前変更し、同じ名前で新しい BSDS を定義する。RECOVER BSDS コマンドを再入力し、重複 BSDS モードを再確立する。

CSQJ304E

ERROR CLOSING REPLACEMENT BSDS DSNAME=*dsname* ERROR STATUS=*eee*

説明

指定された BSDS をクローズしようとしたとき、RECOVER BSDS コマンドでエラーが検出された。エラー状況には VSAM 戻りコードおよびフィードバック・コードが入る。これは 2 バイトのフィールドで、最初のバイトは 16 進数の戻りコード、2 番目のバイトは 16 進数のフィードバック・コードである。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。キュー・マネージャーは単一の BSDS モードで続行する。

システム・プログラマーの応答

オフラインのアクセス方式サービス・プログラム・ジョブを実行して、置換 BSDS を削除または名前変更し、同じ名前で新しい BSDS を定義する。RECOVER BSDS コマンドを再入力し、重複 BSDS モードを再確立する。

CSQJ305E

REPLACEMENT BSDS NOT EMPTY DSNAME=*dsname*

説明

RECOVER BSDS コマンドが実行されたが、置換 BSDS が空ではなかった。すなわち、データが含まれていた。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。キュー・マネージャーは単一の BSDS モードで続行する。

システム・プログラマーの応答

オフラインのアクセス方式サービス・プログラム・ジョブを実行して、エラーの BSDS を削除または名前変更し、同じ名前の新しい BSDS を定義する。RECOVER BSDS コマンドを再入力し、重複 BSDS モードを再確立する。

CSQJ306I

二重 BSDS モードはすでに設定されています。

説明

RECOVER BSDS コマンドが出されたが、キュー・マネージャーはすでに二重 BSDS モードであった。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQJ307I

ログは単一 BSDS モードで初期設定されています。

説明

RECOVER BSDS コマンドが出されたが、キュー・マネージャーは単一 BSDS モードで初期設定されていた。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。キュー・マネージャーは単一の BSDS モードで続行する。

CSQJ308I

保存ログ・コマンドで、ログがオフロードされませんでした。保存はオフになっています。

説明

ARCHIVE LOG コマンドが出されたが、保存がオフになっている (つまり、OFFLOAD が CSQ6LOGP システム・パラメーターで「NO」に設定されている)。

システム・アクション

現在の活動ログ・データ・セットはオフロードではない。ただし、これは切り捨てられ、ロギングは次の活動ログ・データ・セットを使用して続行される。

CSQJ309I

保存ログの静止コマンドが、WAIT(YES) で、最大 xxx 秒として開始されました。

説明

ARCHIVE LOG コマンドが、MODE(QUIESCE) および WAIT(YES) オプション付きでキュー・マネージャーに受け入れられた。静止処理が開始された。

WAIT(YES) は、静止処理がユーザーにとって同期的であることを意味する。つまり、ユーザーは追加のコマンドを入力できるが、コマンドは静止処理が終了するまで処理されない。

システム・アクション

メッセージに指定された時間枠内に、キュー・マネージャーは IBM MQ 資源に対するすべての更新を停止しようとする。キュー・マネージャーを使用するユーザーおよびジョブは、それ以上の更新活動がブロックされる前に、整合性のポイント (コミット点) にまで進むことが許可される。ユーザーとジョブは、オフロード処理の開始に続くキュー・マネージャーによって解放されるまで、使用停止となり中断される。最長の指定時間の前に、キュー・マネージャーがすべてのユーザーに対して有効に更新をブロックできる場合は、オフロードは即時に開始され、通常処理が再開される。

このメッセージの後に、メッセージ CSQJ311I または CSQJ317I が出力される。

CSQJ310I

保存ログの静止コマンドが、WAIT(NO) で、最大 xxx 秒として開始されました。

説明

ARCHIVE LOG コマンドが、MODE(QUIESCE) および WAIT(NO) オプション付きでキュー・マネージャーに受け入れられた。静止処理が開始された。

WAIT(NO) は、静止処理がユーザーにとって非同期的であることを意味する。つまり、静止処理の開始と同時にコントロールが呼び出し側へ戻される。したがって、キュー・マネージャーは、静止処理の実行中は、すべての新規コマンドを受け入れて処理する。

システム・アクション

メッセージに指定された時間枠内に、キュー・マネージャーは IBM MQ 資源に対するすべての更新を停止しようとする。キュー・マネージャーを使用するユーザーおよびジョブは、それ以上の更新活動がブロックされる前に、整合性のポイント (コミット点) にまで進むことが許可される。ユーザーとジョブは、オフロード処理の開始に続くキュー・マネージャーによって解放されるまで、使用停止となり中断される。最長の指定時間の前に、キュー・マネージャーがすべてのユーザーに対して有効に更新をブロックできる場合は、オフロードは即時に開始され、通常処理が再開される。

このメッセージの後に、メッセージ CSQJ311I または CSQJ317I が出力される。

CSQJ311I

csect-name LOG ARCHIVE (OFFLOAD) TASK INITIATED

説明

ユーザー開始の ARCHIVE LOG コマンドが、キュー・マネージャーによって受け入れられた。活動ログ・データ・セットを保存 (オフロード) するためのタスクが開始された。

システム・アクション

現行の活動ログ・データ・セットは切り捨てられ、次に使用可能な活動ログ・データ・セットに切り替えられる。開始されたタスクは非同期的に活動ログ・データ・セットを保存し、キュー・マネージャーは処理を継続する。

ARCHIVE LOG コマンドで MODE (QUIESCE) オプションが使用されていた場合は、このメッセージの後に、CSQJ312I メッセージが出される。

CSQJ312I

保存ログの静止が終了しました。更新活動が再開されました。

説明

MODE(QUIESCE) オプションが指定された ARCHIVE LOG コマンドが、キュー・マネージャーによって処理された。MODE(QUIESCE) 処理の一部として、IBM MQ 資源に対する新規の更新活動をすべて停止する試みが行われていた。このメッセージは、静止処理が終了したこと、および静止期間に阻止されていたすべてのユーザーおよびジョブに対する通常の活動が再開されたことを示している。

CSQJ311I または CSQJ317I メッセージの後に、このメッセージが出される。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、静止期間に阻止されていたすべてのユーザーおよびジョブに対する通常の活動すべてを再開した。

CSQJ314E

'kwd1' を指定するには、'kwd2' も指定する必要があります。

説明

kwd1 キーワードを指定したコマンドが入力された。ただし、このキーワードを使用するには、kwd2 キーワードも使用する必要がある。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

CSQJ315I

停止 QMGR モード(強制)はすでに進行中です。

説明

STOP QMGR MODE(FORCE) コマンドがすでに進行中であるときに、ARCHIVE LOG コマンドを実行する試みがなされた。

システム・アクション

ARCHIVE LOG コマンドのコマンド処理は終了する。STOP QMGR MODE(FORCE) 処理が継続される。

CSQJ316I

システムの静止はすでに進行しています。

説明

MODE(QUIESCE) オプションが指定された ARCHIVE LOG コマンド、または SUSPEND QMGR LOG コマンドが、システム静止の進行中に出された。システム静止は、別の ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) コマンド、または STOP QMGR MODE(QUIESCE) コマンドによる処理の結果として発生したと思われる。

システム・アクション

コマンド処理は終了する。現在進行中のシステム静止が継続される。

CSQJ317I

静止期間が *time* に未解決の URS *nn* で満了しました。保存ログの処理は終了しました。

説明

ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) コマンドがキュー・マネージャーによって処理された。しかし、キュー・マネージャーは、ユーザーが指定した静止時間間隔内に、すべての更新活動を静止することができなかった。

システム・アクション

これは通知メッセージにすぎない。キュー・マネージャーは、静止期間中に *nn* 個の回復単位が整合性ポイントに達しなかったと判断したので、その関連更新処理の続行を静止できなかった。

この結果、ARCHIVE LOG 処理は終了する。現行の活動ログ・データ・セットは切り捨てられず、次に使用可能な活動ログ・データ・セットに切り替えられることはない。ログ保存(オフロード)タスクは作成されない。静止時に中断されていたすべてのジョブおよびユーザーが再開され、IBM MQ 資源に対する通常の更新活動が開始される。

このメッセージの後に、メッセージ CSQJ312I が出される。

システム・プログラマーの応答

未解決(非静止)の回復単位が重要な作業を表すものであるかどうかを判断しなければならない。

システムのユーザーの中で、IBM MQ 資源を変更しているユーザーごとに1つの回復単位が存在する。回復単位は、内部処理のためにキュー・マネージャー自身によって作成されることもある。

MODE(QUIESCE) オプションの目的は、すべての回復単位に整合性のポイント(コミット点)に到達させることにあるので、活動ログ・データ・セットが切り捨てられてオフロードにされる前に、すべての未解決のキューに入れられていないジョブとユーザーを、DISPLAY THREAD および z/OS コマンド DISPLAY ACTIVE,LIST を使って判別する。

資源を保持している(整合性ポイントに達している)ユーザーまたはジョブと、ロックを必要としている(したがって整合性ポイントに達することができない)ユーザーまたはジョブとの間でのロック競合のために、回復単位が未解決となっていることがあるので注意する。

MODE(QUIESCE) オプションを指定した ARCHIVE LOG コマンドの再実行を要求する前に、次のいずれかの処置をとる。

- スレッドが割り振り解除されるまで待つ。
- キュー・マネージャーの使用率が低くなるまで待つ。
- 妨害しているスレッドを強制的に終了させる。
- TIME オプションを使用して、システム・パラメーターに指定されている最長静止期間をオーバーライドして長くする。
- すべての回復単位が活動ログ内の整合性ポイントに達することが、もはや重要でなくなった場合は、MODE(QUIESCE) オプションを指定せずに ARCHIVE LOG コマンドを実行する。

注: ARCHIVE LOG コマンドを MODE(QUIESCE) オプションを指定せずに使用することに決めた場合、活動ログ・データ・セットは、キュー・マネージャーの静止活動とは関係なく切り捨てられる。この結果の保存ログ・データ・セットを回復に使用する場合、一部の回復単位は、キュー・マネージャーの初期設定時に、転送中、バックアウト中、コミット中、または未確定となる場合がある。

すべての回復単位が整合点に到達する前に静止期間が満了してしまうことが問題の場合は、CSQ6ARVP システム・パラメーターの QUIESCE 値を調整することが必要な場合もある。詳細については、[CSQ6ARVP の使用](#)を参照してください。

CSQJ318I

保存ログ・コマンドはすでに進行中です。

説明

ARCHIVE LOG コマンドがすでに進行中であるときに、別の ARCHIVE LOG コマンドを実行しようとした。

システム・アクション

コマンド処理は終了する。現在進行中の ARCHIVE LOG コマンドの処理が続行される。

CSQJ319I

csect-name 現行の活動ログ・データ・セットは、使用できる最後の活動ログ・データ・セットです。処理は終了します。

説明

現行の活動ログが最後の使用可能な活動ログ・データ・セットであるために、ARCHIVE LOG コマンドが拒否された。これらの条件があるときにコマンドを処理すると、キュー・マネージャーはその使用可能な活動ログ資源を使い果たし、即時に処理を停止する原因となる。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

この状態が正されない場合、使用可能な活動ログ・データ・スペースが危機的に低いレベルに達すると、キュー・マネージャーは CSQJ110E メッセージを出す (まだ出されていない場合)。使用可能な活動ログ・データ・スペースを使い果たすと、最終的にメッセージ CSQJ111A が出され、活動ログ・スペースが使用可能になるまで処理は停止する。

システム・プログラマーの応答

この状態を解消するには、他の待機オフロード・タスクを完了するためのステップをとらなければならない。オフロード処理を完了させることによって、別の活動ログが使用可能 (再使用可能) にされると、現行の活動ログのコマンド処理を行うことができる。

表示要求を実行し、ログのオフロード処理に関連する未解決の要求を判別する。要求を満たすのに必要な処置を取り、オフロード処理を続行できるようにする。

オフロードが正常終了しない、または起動できない場合は、オフロード処理エラーの原因となった問題を訂正するか、十分な活動ログ・データ・セットがあったかどうかを検討する。必要であれば、DEFINE LOG コマンドを使用して、動的にログ・データ・セットを追加できる。

活動ログ・データのスペース不足の原因としては、次のことが考えられる。

- 過度のロギング。例えば、持続メッセージ活動が多い場合。
- オフロードの遅延または低速オフロード。例えば、保存ボリュームのマウントが失敗した、オフロード・メッセージへの応答が不適切である、または装置スピードが遅い場合などに発生する。
- ARCHIVE LOG コマンドの過度の使用。コマンドのそれぞれの呼び出しによって、キュー・マネージャーは新規の活動ログ・データ・セットに切り替えられる。結果としてのオフロードがタイミングよく処理されないと、過度の使用により、使用可能な活動ログ・データ・スペースが使い尽くされてしまう場合がある。
- オフロードの失敗。
- 活動ログ・スペースの不足。

CSQJ320E

csect-name 内部エラーのため、ログの切り捨て要求を処理できません。(エラー・データ=ddd)

説明

ARCHIVE LOG コマンドの処理中に、ログ・バッファ出力ルーチンに対して、ログ・バッファを強制的に書き出し、活動ログを切り捨てて、次に使用可能な活動ログ・データ・セットに切り替えるように求める、内部要求が出された。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

これは、キュー・マネージャーにより検出された内部エラーである。このエラーは、ログ・バッファの書き込みプロセス・コンポーネントの無関係のエラー (CSQJWxxx)、STOP QMGR MODE(FORCE) コマンド、または異常終了が原因の可能性もある。このメッセージの前のメッセージを参照。

CSQJ321E

内部エラーのため、保存ログの静止を継続できません。保存ログの処理は終了しました。

説明

MODE(QUIESCE) オプションが指定された ARCHIVE LOG コマンドが、キュー・マネージャーによって処理された。MODE(QUIESCE) 処理の一部として、IBM MQ 資源に対する新規の更新活動をすべて停止する試みが行われていた。この処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) 処理は終了する。このメッセージの後で、MODE(QUIESCE) 処理によって静止されていたすべてのユーザーおよびジョブが再開されてから、メッセージ CSQJ312I が出力される。

システム・プログラマーの応答

これは、キュー・マネージャーにより検出された内部エラーである。ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) コマンドを再試行してみる。エラーが解消されない場合は、MODE(QUIESCE) オプションなしの ARCHIVE LOG コマンドを使用して、活動ログ・データ・セットを切り替えることができる。

CSQJ322I

DISPLAY パラメーター・タイプ・レポート ...

説明

このメッセージは、DISPLAY および SET *parm-type* コマンド (*parm-type* は SYSTEM、LOG、または ARCHIVE) への応答の一部である。これは、対応するシステム・パラメーターに関する情報を提供する。以下に例を示します。

```
Parameter  Initial value  SET value
LOGLOAD    500000          400000
CMDUSER    CSQ0PR
EXCLMSG    X500,X501,X528,X208,
           X519,X599
End of parm-type report
```

ここで、

LOGLOAD

CSQ6SYSP で設定され、SET SYSTEM LOGLOAD コマンドを使って変更された。

CMDUSER

CSQ6SYSP で設定され、まだ変更されていない。

EXCLMSG

CSQ6SYSP でデフォルトに設定され、SET SYSTEM EXCLMSG コマンドを使って既に変更されている。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ325I

ARCHIVE 磁気テープ装置レポート ...

説明

このメッセージは、DISPLAY および SET ARCHIVE コマンドへの応答の一部である。これは、保存ログに使用される磁気テープ装置についての以下のような情報を提供する。

```
Addr St CorrelID VolSer DSName  addr st correlid volser dsname| End of tape unit report
```

ここで、

addr

保存ログを読み取るように割り振られた磁気テープ装置の物理アドレス。

st

磁気テープ装置の状況。

- B** 使用中。保存ログ・データ・セットを活動状態で処理中。
- P** 事前取り付け。活動状態で、事前取り付けのために割り振られている。
- A** 使用可能。非活動状態で、作業のために待機中。
- *** 不明。

correlid

処理されている磁気テープのユーザーに関連付けられた相関 ID。現行ユーザーがない場合は '*****'。

volser

マウントされたテープのボリューム通し番号。

dsname

処理されている、または最後に処理された磁気テープ・ボリューム上のデータ・セット名。

磁気テープ装置が割り振られない場合、リストは以下の記述によって置き換えられる。

No tape archive reading activity

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ330I

ARCHIVE LOG VOLUMES が接続 ID xxxx、相関 ID yyyyyy に必要です:

説明

このメッセージは、与えられている接続 ID のための指定された相関 ID に必要な保存ログ・ボリュームの名前をリストしている。保存ログ・ボリュームは、個々の行に最大 6 つリストされる。このメッセージは、その相関 ID の最初の保存ログ・テープ取り付け時の保存読み取りプロセスによって自動的に生成される。接続 ID は、スレッドを確立するために使用される接続名を表す ID である。相関 ID は、指定されたスレッドに関連した ID (ジョブ名など) である。

'*' という接頭部を持つボリューム名は、保存ログ・ボリューム上のデータが保存ログ・データ・セットによってもマップされることを意味する。可能であれば活動ログからデータが読み取られるため、ボリューム自体は読み取りプロセスに必要とされない。

以下は、メッセージ CSJ330I によって生成された出力の例である。

```
CSQJ330I: ARCHIVE LOG VOLUMES required for connection-ID xxxx,
correlation-ID yyyyyy: volume1, volume2, volume3, volume4, volume5, volume6 End of ARCHIVE
LOG VOLUMES report
```

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ334E

パラメーター値は 'kwd' では受け入れられません。

説明

指定されたパラメーター値は、指定されたキーワードでは受け入れられない値である。または、他のキーワードに設定された値と互換性がない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

CSQJ335E

無効なコマンド構文です。

説明

コマンドで、キーワードが指定されなかったか、または受諾不能なキーワードの組み合わせが指定された。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

CSQJ337I

parm-type パラメーター・セット

説明

SET コマンドは正常に完了し、指定の *parm-type* (SYSTEM、LOG、または ARCHIVE) にシステム・パラメーター値を設定する。

CSQJ364I

IMS XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname* のブリッジ機能が中断されました。

説明

これは、*gname* および *mname* で識別されるパートナー IMS システムに対する IBM MQ-IMS ブリッジ機能が中断された場合に、DISPLAY SYSTEM コマンドに対する応答の一部として発行されます。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ-IMS ブリッジを再開する準備ができたなら、RESUME QMGR FACILITY(IMSBRIDGE) コマンドを使用する。

CSQJ365I

Db2 接続が中断されています。

説明

これは、Db2 への接続が中断された場合に、DISPLAY SYSTEM コマンドへの応答の一部として発行されます。

システム・プログラマーの応答

Db2 への接続を再開する準備ができたなら、RESUME QMGR FACILITY(Db2) コマンドを使用する。

CSQJ366I

ロギングはすでに中断しています。

説明

SUSPEND QMGR LOG コマンドが出されたが、前のコマンドによってロギングはすでに中断されていた。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQJ367I

キュー・マネージャーが停止中です。

説明

SUSPEND QMGR LOG が出されたが、キュー・マネージャーは停止している。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQJ368I

ロギングは中断していません。

説明

RESUME QMGR LOG コマンドが出されたが、ロギングは中断していない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQJ369E

csect-name ロギングの中断中に障害が発生しました。

説明

SUSPEND QMGR LOG コマンドが出されたが、それは異常終了していた。

システム・アクション

このコマンドは無視され、ロギングは中断されない。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを再発行する。それでも異常終了する場合には、『問題判別』の項にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQJ370I

LOG 状況レポート ...

説明

このメッセージは、DISPLAY および SET LOG コマンドへの応答の一部である。これは、以下のようなログ・データ・セットの状況に関する情報を提供する。

```
Copy %Full zHyperWrite DSName
1    k    p          dsname
2    k    p          dsname
Restarted at date time using RBA=sss
Latest RBA=rrr
Offload task is xxx
Full logs to offload - m of n
```

```
Copy %Full zHyperWrite Encrypted DSName
1    k    p          e          dsname
2    k    p          e          dsname
Restarted at date time using RBA=sss
Latest RBA=rrr
Offload task is xxx
Full logs to offload - m of n
```

ここで、

1, 2

現在の活動ログのコピー 1 およびコピー 2 のデータ・セットについての情報。

k

使用されたアクティブ・ログ・データ・セットの割合。

p

このデータ・セットが zHyperWrite 対応かどうかを示す。

NO

このログ・データ・セットは zHyperWrite に対応していない。

CAPABLE

このログ・データ・セットは zHyperWrite 対応である。ZHYWRITE システム・パラメーターが YES に設定されている場合、zHyperWrite が有効な状態でログ書き込みが行われます。

▶ V9.3.5 YES

このデータ・セットへのすべての書き込みは、zHyperWrite を使用可能にして実行されます。

▶ V9.3.5 IBM MQ 9.3.5 より前:

- ログが可能で、値が ZHYWRITE (YES) または ZHYWRITE (NO) に設定されている場合、p は値 CAPABLE を表示します。

- ログが使用できず、値が ZHYWRITE (YES) または ZHYWRITE (NO) に設定されている場合、*p* は値 NO を表示します。

V9.3.5 IBM MQ 9.3.5

- ログが可能で、値が ZHYWRITE (YES) に設定されている場合、*p* は値 YES を示します。
- ログが機能せず、値が ZHYWRITE (YES) に設定されている場合、*p* は値 YES を示します。
- 値が ZHYWRITE (NO) に設定されている場合、*p* の値は、IBM MQ 9.3.5 より前と同じようにログの機能を反映します。

e

データ・セットが暗号化されているかどうかを示す。

NO

このデータ・セットは暗号化されていない。

YES

このデータ・セットは暗号化されている。

dsname

アクティブ・ログ・データ・セットのデータ・セット名。コピーが現在活動状態でない場合は、Inactive と表示される。

date time

キュー・マネージャーが開始された時刻。

sss

キュー・マネージャーの開始時にロギングが開始された RBA。

rrr

最も新しく書き込まれたログ・レコードの RBA。ロギングが中断すると、この行は以下によって置き換えられる。

Logging suspended at RBA=rrr

xxx

オフロード・タスクの状況。これは以下のいずれかになる。

BUSY, allocating archive data set

磁気テープマウント要求が保留状態であることを示す。

BUSY, copying BSDS

BSDS データ・セットをコピー中である。

BUSY, copying active log

活動ログ・データ・セットをコピー中である。

BUSY

その他の処理中。

AVAILABLE

作業のために待機中。

m, n

まだ保存されていない完全な活動ログ・データ・セットの数と、活動ログ・データ・セットの合計数。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ372I

qmgr-name へのロギングが RBA=*rrr* で中断しました。

説明

これは SUSPEND QMGR LOG コマンドが正常に終了した場合に発行される。

また、他のコマンドに対しても、ロギングが中断されている場合、ロギングの中断中はコマンドが処理できないことを示すために発行される。

システム・アクション

指定されたキュー・マネージャーについて、すべてのログ更新活動が中断される。*rrr* は、最後に書き込まれたログ・レコードの RBA である。

SUSPEND QMGR LOG 以外のコマンドの場合、コマンドが無視される。

システム・プログラマーの応答

ロギング再開が可能である場合は、RESUME QMGR LOG コマンドを使用する。

CSQJ373I

qmgr-name のロギングが再開しました。

説明

RESUME QMGR LOG コマンドは正常に完了した。

システム・アクション

指定されたキュー・マネージャーに対するすべてのログ更新活動は再開される。

CSQJ401E

レコードが見つかりません - *rrr*

説明

BSDS から *rrrr* レコードを読み取ろうとした。しかし、読み取りルーチン (CSQJU01B) がそのレコードを見つけることができなかった。

これは、必ずしもエラーとは限らない。例えば、CSQJU003 CRESTART をこれまで使用しなかった場合は、CRCR レコードは存在しない。したがって、RESTART CONTROL レコードに対して CSQJU004 からこのメッセージを受ける。

システム・アクション

ユーティリティ処理は続行される。

CSQJ404E

kwd は *oper* 操作には許可されていません。

説明

oper 操作中に、無効なキーワードが使用された。

システム・アクション

現行のユーティリティ処理は終了する。

CSQJ405E

キーワード *kwd1* および *kwd2* は同時に指定できません。

説明

kwd1 と *kwd2* を、同じ制御ステートメントに指定することはできない。

システム・アクション

現行のユーティリティ処理は終了する。

CSQJ406E

キーワード *kwd1* または *kwd2* のどちらかを必ず指定してください。

説明

必須キーワードが、制御ステートメントに指定されていない。制御ステートメント・タイプでは、*kwd1* または *kwd2* のいずれかを使用する。

システム・アクション

現行のユーティリティ処理は終了する。

CSQJ407E

有効なチェックポイント RBA が検出できません。

説明

資源マネージャーの状況表およびチェックポイント・キューにより検索を完了した後で、指定された範囲に有効なチェックポイント RBA が見つからなかった。

システム・アクション

現行のユーティリティ処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

BSDS には、チェックポイント範囲の STARTRBA ログおよび ENDRBA ログなど、最後の 100 チェックポイントが記録された。ユーティリティは、範囲内の有効なチェックポイントを見つけようとする。この場合、ユーティリティは、有効なチェックポイントの検出に失敗した。

ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、有効な RBA 範囲を判別し、適切な RBA 仕様のジョブを再実行する。

CSQJ408I

CHECKPOINT RBA FOUND, RBA=*rba*, TIME=*date time*

説明

資源マネージャーの状況表およびチェックポイント・キューにより検索を完了した後で、*rba* が、指定された範囲の最新チェックポイント RBA になり、*date time* がチェックポイント時刻になった。

システム・アクション

ユーティリティ処理は続行される。

CSQJ409E

レコードの読み取り処理中の入出力エラー - *yyy*

説明

レコードの読み取り時に、入出力エラーが発生した。*yyy* は、問題のレコードを示している。

システム・アクション

現行のユーティリティ処理は終了する。このメッセージに伴って、メッセージ CSQJ212E が出される。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQJ212E で与えられるエラー状況情報に基づいて、エラーの原因を判別する。

CSQJ410E

レコードの書き込み処理中の入出力エラー - *yyy*

説明

レコードの書き込み時に、入出力エラーが発生した。*yyy* は、問題のレコードを示している。

システム・アクション

現行のユーティリティ処理は終了する。このメッセージに伴って、メッセージ CSQJ213E が出される。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQJ213E で与えられるエラー状況情報に基づいて、エラーの原因を判別する。

CSQJ411I

CRESTART CREATE FOR CRCRID=*yyyy*, DDNAME=*ddd*

説明

CRESTART CREATE 要求が完了した。*yyyy* は、再始動制御レコードの 16 進数 ID であり、*ddd* は、要求に関連付けられた BSDS データ・セット (SYSUT1 または SYSUT2) である。

システム・アクション

Current® ユーティリティーの処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

今後の参照では、レコード ID に注意する。

CSQJ412E

再始動制御レコードが BSDS で検出できません。

説明

CRESTART CANCEL キーワードが指定されたが、BSDS データ・セットに条件再始動制御レコードが存在しない。

システム・アクション

現行のユーティリティー処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

CANCEL を意図していた場合は、必要なし。それ以外の場合は、制御ステートメントを訂正し、ユーティリティーを再実行する。

CSQJ413E

指定されたログ有効範囲またはチェックポイントが無効です。

説明

STARTRBA および ENDRBA キーワードによって指定された値が無効である。

システム・アクション

現行のユーティリティー処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

有効なログ範囲値を指定し、もう一方のログ範囲値として指定した値、またはそのデフォルト値と対応するようにする。STARTRBA は、ENDRBA 以下でなければならない。

CSQJ414I

この再始動制御レコードによりコールド・スタートになります。フォワードおよびバックアウトは NO に設定されます。

説明

STARTRBA と ENDRBA は等しい。この再始動制御レコードが再始動中に使用されると、コールド・スタートが発生する。転送またはバックアウト処理は実行されない。

システム・アクション

CRESTART 処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーのコールド・スタートを実行する必要があるときは、追加処置は必要ない。コールド・スタートを実行する必要があるときは、CRESTART を出し直した上で、現在の再始動制御レコードを CANCEL するか、あるいは新しい再始動制御レコードを CREATE してください。

CSQJ415E

ENDRBA=*rba* は無効です。4K の倍数である必要があります。

説明

ENDRBA に指定された値 *rba* が 4K の倍数ではない。

システム・アクション

CRESTART 処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

CRESTART ステートメントの ENDRBA 値を訂正して、ユーティリティーを再実行する。

CSQJ416I

警告 - BSDS ユーティリティ・タイム・スタンプの不一致が検出されました。処理は続行します

説明

ログ目録変更の更新の結果、SYSUT1 BSDS と SYSUT2 BSDS のタイム・スタンプが等しくないことがわかった。この不一致は、BSDS の不一致の可能性を意味する。

システム・アクション

現行のユーティリティの処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

SYSUT1 BSDS および SYSUT2 BSDS に対して、ログ・マップ印刷ユーティリティを実行する。それぞれの BSDS が現行のものかどうかを判別する。それぞれの BSDS が現行のものである場合は、この警告を無視してよい。いずれかの BSDS が現行のものでない場合は、使われなくなったデータ・セットを削除し、置換データ・セットを定義してから、現行の BSDS を置換データ・セットにコピーする。

CSQJ417E

必須の xxxx パラメーターが *oper* 操作について欠落しています。

説明

ログ・ユーティリティ操作に必要なパラメーター xxxx が、ログ・ユーティリティ制御ステートメントから抜けている。試みられた操作は、*oper* である。

システム・アクション

ログ・ユーティリティ *oper* 操作は、その機能を実行しない。その後のすべてのログ・ユーティリティ制御ステートメントは処理される。ユーティリティからは、ゼロ以外の戻りコードが出される。

システム・プログラマーの応答

指定された操作に関連する制御ステートメントに、抜けているパラメーターを追加し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ418I

BSDS ログ目録から、再使用できない活動ログを削除しました。STARTRBA=sss ENDRBA=ttt

説明

ログ目録変更ユーティリティ DELETE ステートメントの DSNAME パラメーターに指定されたデータ・セット名が、再使用不可の活動ログであった。

システム・アクション

ログ目録変更ユーティリティ処理が続行される。戻りコード 4 で終了する。

システム・プログラマーの応答

再使用不可の活動ログを削除したい場合は、追加処置は必要ない。削除したくない場合は、この警告メッセージに指定された RBA 値で NEWLOG ステートメントを使用して、削除されたログを再作成する。

CSQJ421I

CRESTART CANCEL FOR CRCRID=yyyy, DDNAME=ddd

説明

CRESTART CANCEL 要求が完了した。yyyy は、再始動制御レコードの 16 進数 ID であり、ddd は、要求に関連付けられた BSDS データ・セット (SYSUT1 または SYSUT2) である。

システム・アクション

現行のユーティリティの処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

今後の参照では、レコード ID に注意する。

CSQJ425E

xxxx パラメーター (YYYYDDHHMMSST) の値または形式が無効です。

説明

xxxx パラメーターに、日付および時刻として正しくない値または正しくない形式が含まれている。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ426E

ENDTIME 値を STARTIME の値より小さくすることはできません。

説明

STARTIME および ENDTIME パラメーターは、時間の範囲を指定する。そのため、ENDTIME 値は、STARTIME 値に等しいか、それ以上でなければならない。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ427I

キューにチェックポイント・レコードを追加しました。

説明

指定したチェックポイント・レコードは、BSDS 内のチェックポイント・キューに追加された。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ428I

キューからチェックポイント・レコードを削除しました。STARTRBA=ssss ENDRBA=ttt

説明

指定されたチェックポイント・レコードは、BSDS 内のチェックポイント・キューから削除されています。sss および ttt は、削除されたチェックポイント・レコードに示されている RBA 範囲でした。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQJ429E

RBA 範囲が既存チェックポイント・レコードの RBA 範囲と矛盾します。

説明

新しいチェックポイント・レコードに対して指定した RBA 範囲が存在する、または BSDS のチェックポイント・キューにある既存の RBA 範囲と重複する。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

SYSUT1 BSDS および SYSUT2 BSDS に対して、ログ・マップ印刷ユーティリティを実行する。正しい RBA 範囲を判別し、STARTRBA および ENDRBA パラメーターを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ430E

指定された項目を最低位の既存項目に上書きしないで追加することはできません。

説明

新しいチェックポイント・レコードに対して指定した RBA 範囲が、既存の最小の項目よりも小さい。BSDS 内のチェックポイント・キューが、現在満杯であり、最小の項目をオーバーレイしないと新しい項目を追加できない。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

SYSUT1 BSDS および SYSUT2 BSDS に対して、ログ・マップ印刷ユーティリティを実行する。最小の既存の項目を判別し、STARTRBA および ENDRBA パラメーターを変更するか、最小の既存の項目を削除して新しい低位のチェックポイント項目を追加する。次に、ユーティリティを再実行する。

CSQJ431E

チェックポイント・キューに STARTRBA の指定がありません。

説明

指定した STARTRBA は、BSDS のチェックポイント・キュー内で検出できなかった。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

SYSUT1 BSDS および SYSUT2 BSDS に対して、ログ・マップ印刷ユーティリティを実行する。正しい STARTRBA 値を判別し、STARTRBA パラメーターを訂正して、ユーティリティを再実行する。

CSQJ432E

kwd 値の末尾は 'xxx' でなければなりません。

説明

指定された *kwd* の値は無効である。末尾は 'xxx' でなければならない。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ユーティリティを再実行する。

CSQJ440I

csect-name IBM MQ for z/OS バージョン

説明

このメッセージは、ユーティリティ・プログラムによって出される報告書のヘッダーの一部として出される。

CSQJ443I

csect-name ログ目録変更ユーティリティ - *date time*

説明

このメッセージは、ユーティリティ・プログラムによって出される報告書のヘッダーとして出される。

CSQJ444I

csect-name ログ・マップ印刷ユーティリティ - *date time*

説明

このメッセージは、ユーティリティ・プログラムによって出される報告書のヘッダーとして出される。

CSQJ445I

csect-name BSDS 変換ユーティリティ - *date time*

説明

このメッセージは、ユーティリティー・プログラムによって出される報告書のヘッダーとして出される。

CSQJ451E

csect-name BSDS の CI サイズが正しくありません。DDNAME=*ddd*

説明

CI サイズが正しくないため、BSDS 変換ユーティリティーに提供されたデータ・セットを使用できない。BSDS の CI サイズは 4096 でなければならない。変数 *ddd* には、データ・セットの DD 名が入る。

システム・アクション

現在のユーティリティーは何も実行しないまま終了する。

システム・プログラマーの応答

有効な BSDS を DD ステートメントが参照していることを確認する。DD 名が出力データ・セットを参照している場合は、その出力 BSDS を削除してから再定義した後、ユーティリティーを再実行する。

CSQJ452E

csect-name BSDS ユーティリティーのタイム・スタンプの不一致が検出されました。

説明

BSDS 変換ユーティリティーの実行中に、SYSUT1 および SYSUT2 の BSDS コピーのタイム・スタンプに不一致が検出された。この不一致は、二重 BSDS の同期が失われた可能性を示している。

システム・アクション

現在のユーティリティーは何も実行しないまま終了する。

システム・プログラマーの応答

各 BSDS に対してログ・マップ印刷ユーティリティー (CSQJU004) を実行する。この出力をもとに、どのデータ・セットが廃止になっているかを判別し、それを削除し、それに代わる代替データ・セットを定義する。その後、残りのデータ・セットを代替データ・セットにコピーしてから、ユーティリティーを再試行する。

両方のデータ・セットに対するログ・マップ印刷ユーティリティーの出力が類似している場合は、タイム・スタンプが古い方のデータ・セットを削除し、最新のタイム・スタンプをもつデータ・セットを代替データ・セットにコピーする。

CSQJ453E

csect-name 入力 BSDS の形式が正しくありません。DDNAME=*ddd*

説明

BSDS 変換ユーティリティーは、入力 BSDS が変換可能な正しい形式ではないことを検出した。入力 BSDS はバージョン 1 の形式でなければならない。変数 *ddd* には、データ・セットの DD 名が入る。

システム・アクション

現在のユーティリティーは何も実行しないまま終了する。

システム・プログラマーの応答

BSDS に対してログ・マップ印刷ユーティリティー (CSQJU004) を実行し、そのバージョンを判別する。DD ステートメントがバージョン 1 形式の入力 BSDS を参照していることを確認した後、必要ならユーティリティーを再実行する。

CSQJ454E

csect-name は認識できない BSDS です。KEY=*key-value*

説明

BSDS の変換中に、不明な形式のレコードが検出された。*key-value* は、認識されなかった BSDS レコードの VSAM KSDS キーである。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

このレコードを BSDS に挿入した操作を判別するために、IDCAMS PRINT を使用し、このキー値を指定する。このレコードが必要ない場合は、それを削除して、BSDS 変換を再実行する。

CSQJ455E

無効な BSDS 変換です。

説明

このメッセージは、BSDS データ・セットにアクセスしようとしているユーティリティが無効な BSDS を検出した場合に発行される。無効な BSDS は、BSDS 変換ユーティリティを実行しようとする前に試みた際に発生した障害の結果である。

システム・アクション

現在のユーティリティは何も実行しないまま終了する。

システム・プログラマーの応答

BSDS 変換ユーティリティを実行する手順には、元の BSDS の名前を変更する操作が含まれる。データ・セットの名前を変更することにより BSDS を変換前の元のコピーに戻した後、変換を再試行する。

CSQJ456E

xxxx パラメーター引数が BSDS バージョン *n* の最大値を超えています。

説明

xxxx パラメーターでのパラメーター名の指定値が、BSDS バージョン *n* 形式で指定できる最大値を超えている。

システム・アクション

現行のユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントのパラメーター引数を訂正した後、ユーティリティを再実行する。

CSQJ491I

csect-name ログ・データ・セット事前フォーマッター・ユーティリティ - *date time*

説明

このメッセージは、ユーティリティ・プログラムによって出される報告書のヘッダーとして出される。

CSQJ492I

ログ・データ・セット名 = *dsname*

説明

これは、事前フォーマットするログ・データ・セットの名前を示す。

CSQJ493I

ログ・データ・セットは VSAM ではありません。

説明

入力ログ・データ・セットは VSAM データ・セットではない。

システム・アクション

ユーティリティ処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

SYSUT1 DD ステートメントとデータ・セット名が正しく指定されていることを検査する。アクセス方式サービス・プログラムを使用して、データ・セットを VSAM 線形データ・セットとして定義する。

CSQJ494E

VSAM OPEN failed, ACBERRFLG=ee

説明

ログ・データ・セットをオープンしたら、示されている ACB エラー・コードで失敗した。

システム・アクション

エラー・コードが 128 以上の場合は、ユーティリティ処理が終了する。それ未満の場合は、処理は続行する。

システム・プログラマーの応答

VSAM エラー・コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。

CSQJ495E

VSAM PUT failed, RPLERREG=ee reason code=reason

説明

ログ・データ・セットへの書き込みは、示されている RPL エラー・コードと理由コードで失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

VSAM エラー・コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。

CSQJ496I

ログの事前フォーマットが正常に完了しました。n レコードがフォーマットされました。

説明

活動ログ・データ・セットは正常に事前フォーマットされている。

システム・アクション

ユーティリティ処理は完了する。

CSQJ497I

ログの事前フォーマットが終了しました。

説明

活動ログ・データ・セットの事前フォーマットは正常に完了しなかった。

システム・アクション

ユーティリティ処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

詳細については、先行するエラー・メッセージを参照。

CSQJ498I

ログ・データ・セットは空ではありません。

説明

入力ログ・データ・セットは空のデータ・セットではない。

システム・アクション

ユーティリティ処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

SYSUT1 DD ステートメントとデータ・セット名が正しく指定されていることを検査する。アクセス方式サービス・プログラムを使用して、データ・セットを VSAM 線形データ・セットとして定義する。

CSQJ499I

ログ・データ・セットが4GBよりも大きい

重大度

0

説明

ログ事前フォーマット・ユーティリティーの CSQJUFMT は、フォーマットする VSAM データ・セットのサイズが4GBよりも大きいことを検出した。

システム・アクション

処理を続行する。データ・セット全体は事前にフォーマットされるが、IBM MQ for z/OS ログ・データ・セットは最大4GBに制限される。データ・セット内に他にスペースがあっても、ログ・データの保持には使用されない。

SMDS が4GBを超えることを意図して事前フォーマットされている場合、VSAM 拡張アドレッシング機能属性を持つ SMS データ・クラスを使用して定義されていると、最大4GBに制限されません。

システム・プログラマーの応答

データ・セット名が正しく指定されていることを確認する。アクセス方式サービス・プログラムを使用して、データ・セットを最大サイズ4GBで定義する。

z/OS メッセージ・マネージャー・メッセージ (CSQM...)

CSQM001E

csect-name MSTR ユーザー ID は USS 呼び出し可能サービスを呼び出せません

重大度

8

説明

IBM MQ キュー・マネージャーの MSTR アドレス・スペースを実行しているユーザー ID に、呼び出し可能な z/OS UNIX System Services (z/OS UNIX) の実行権限が構成されていない。

RACF では、UID を割り当てた OMVS セグメントがユーザー ID になければならない。

システム・アクション

このメッセージが発行され、DNS ホスト名のリバース・ルックアップのための z/OS UNIX 呼び出しのプロセスが MSTR アドレス・スペースで無効にされる。

システム・プログラマーの応答

[z/OS UNIX 環境の計画](#)を参照。その環境では、キュー・マネージャーの MSTR および CHIN アドレス・スペースに、有効な UID が定義された OMVS セグメントを持つユーザー ID が必要。

キュー・マネージャーの MSTR アドレス・スペースのユーザー ID の構成を修正して、キュー・マネージャーを再始動する。

CSQM050I

csect-name 内部グループ・キュー・エージェントが開始中です。TCB=*tcb-name*

重大度

0

説明

キュー共有グループ内にあるキュー・マネージャーの初期設定中に、内部グループ・キュー (IGQ) エージェントが開始された。エージェントは TCB *tcb-name* を使用する。

IGQ エージェントは、SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE を処理する。

システム・アクション

処理を続行する。IGQ エージェントは非同期に開始する。

CSQM051I

csect-name 内部グループ・キュー・エージェントが停止中です。

重大度

0

説明

以下の理由で、内部グループ・キュー (IGQ) エージェントが停止している。

- キュー・マネージャーが停止している。
- 繰り返し失敗する障害要求を再試行したが成功しなかった。
- 異常終了から回復することができなかった。

システム・アクション

IGQ エージェントは停止する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが停止していない場合、先行するメッセージで報告されているように、エラーの原因を調べる。IGQ エージェントを再始動するには、ALTER QMGR コマンドに IGQ(ENABLED) を指定して発行する。

CSQM052I

csect-name qmgr-name の共有チャンネル回復が終了しました。 *n* チャンネル検出されました。 *p* FIXSHARED されました。 *r* 回復されました。

重大度

0

説明

キュー・マネージャーまたはそのチャンネル・イニシエーターが異常終了したときに、キュー・マネージャーは、キュー共有グループ内のキュー・マネージャー *qmgr-name* によって所有されていた幾つかの共有チャンネルを正常に回復した。以下の場合に、この回復処理が起こることがある。

- 別のキュー・マネージャーまたはそのチャンネル・イニシエーターが異常終了した。
- その他のキュー・マネージャーによって所有されていたチャンネルについて、チャンネル・イニシエーターが開始された。
- そのキュー・マネージャー自体によって所有されていたチャンネルについて、チャンネル・イニシエーターが開始された。

回復に必要な *n* 個のチャンネルが見つかり、そのうち *p* 個は FIXSHARED として開始された。その他の活動キュー・マネージャーもチャンネルの回復処理をしており、FIXSHARED チャンネルは別のキュー・マネージャーによって回復できないため、回復された数 *r* が *n* より小さい場合がある (0 のこともある)。

共用チャンネル・リカバリーについての詳細は、[共用チャンネル](#)を参照してください。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQM053E

csect-name 共有チャンネル回復が停止しました。 DB2 が使用できません。

重大度

8

説明

Db2 が使用不可であるか、または使用可能な状態でなくなったため、キュー・マネージャーまたはそのチャンネル・イニシエーターが異常終了したときにキュー共有グループ内のキュー・マネージャーによって所有されていたいくつかの共有チャンネルを回復できなかった。以下の場合に、この回復処理が起こることがある。

- 別のキュー・マネージャーまたはそのチャンネル・イニシエーターが異常終了した。
- その他のキュー・マネージャーによって所有されていたチャンネルについて、チャンネル・イニシエーターが開始された。
- そのキュー・マネージャー自体によって所有されていたチャンネルについて、チャンネル・イニシエーターが開始された。

システム・アクション

回復処理は停止される。いくつかのチャンネルが回復されている可能性があるが、その他は回復されない。

システム・プログラマーの応答

z/OS コンソール上の先行するメッセージで Db2 が使用不能な理由を調べ、必要に応じて接続を再開するか Db2 を再始動する。回復されなかったチャンネルは、次に回復処理が実行されるときに回復される。あるいは、手動で再始動することもできる。

CSQM054E

csect-name 共有チャンネル回復が終了しました。DB2 にアクセス中にエラーが発生しました。

重大度

8

説明

Db2 へのアクセス中にエラーが発生したため、キュー・マネージャーまたはそのチャンネル・イニシエーターが異常終了したときにキュー共有グループ内のキュー・マネージャーによって所有されていたいくつかの共有チャンネルを回復できなかった。以下の場合に、この回復処理が起こることがある。

- 別のキュー・マネージャーまたはそのチャンネル・イニシエーターが異常終了した。
- その他のキュー・マネージャーによって所有されていたチャンネルについて、チャンネル・イニシエーターが開始された。
- そのキュー・マネージャー自体によって所有されていたチャンネルについて、チャンネル・イニシエーターが開始された。

システム・アクション

回復処理は停止される。いくつかのチャンネルが回復されている可能性があるが、その他は回復されない。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージで報告されているエラーを解決する。回復されなかったチャンネルは、次に回復処理が実行されるときに回復される。あるいは、手動で再始動することもできる。

CSQM055E

csect-name 共有チャンネル回復が終了しました。コマンドの書き込み中にエラー。MQRC=*mqrc-text*

重大度

8

説明

システム・コマンド入力キュー上にメッセージを入れるエラーがあったため、キュー・マネージャーまたはそのチャンネル・イニシエーターが異常終了したときに、キュー・マネージャーは、キュー共有グループ内のキュー・マネージャーによって所有されていたいくつかの共有チャンネルを回復することができなかった。以下の場合に、この回復処理が起こることがある。

- 別のキュー・マネージャーまたはそのチャンネル・イニシエーターが異常終了した。
- その他のキュー・マネージャーによって所有されていたチャンネルについて、チャンネル・イニシエーターが開始された。
- そのキュー・マネージャー自体によって所有されていたチャンネルについて、チャンネル・イニシエーターが開始された。

システム・アクション

回復処理は停止される。いくつかのチャンネルが回復されている可能性があるが、その他は回復されない。

システム・プログラマーの応答

mqrc (*mqrc-text* で示されるのはテキスト形式での MQRC) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照し、エラーを解決してください。回復されなかったチャンネルは、次に回復処理が実行されるときに回復される。あるいは、手動で再始動することもできる。

CSQM056E

csect-name mqapi-call がキュー *q-name* で失敗しました。MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

キューに対する IBM MQ API 呼び出しが失敗した。その理由、失敗した API 呼び出し、およびその対象のキューは、このメッセージに示されているとおりである。IBM MQ 理由コード (MQRC_) または信号完了コード (MQEC_) の場合がある。

システム・アクション

キューが SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT または SYSTEM.ADMIN.COMMAND.EVENT の場合は、処理は継続するがイベントは生成されない。メッセージ CSQM071E が続いて出され、最初に問題が起こったときから生成されなかったイベント・メッセージの数が示される。これらのメッセージは、最初に問題が起こったときに生成され、その後も問題が続いている間はたびたび生成される。

この呼び出しは、関係するキューおよびエラーのタイプに応じて、処理を続行するか、エラーが訂正されるまで定期的に要求を再試行するか、または終了する。

システム・プログラマーの応答

詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。信号完了コードについては、[信号機能を参照](#)。キューに関する問題を訂正するか、ALTER QMGR コマンドを使用して、イベントを使用不可にする。

CSQM057E

csect-name トリガー・メッセージの MQPUT がキュー *q-name* に対して失敗しました。MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

キュー・マネージャーは、指定された IBM MQ 理由コード (MQRC_) のため、示された開始キューにトリガー・メッセージを送達できなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、送達不能キューが定義されている場合はそこにトリガー・メッセージの書き込みを試行する。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ 理由コードの詳細、および開始キューの問題を訂正するため取るべき処置については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQM058E

csect-name チャンネル *channel-name* を開始できません

重大度

8

説明

SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE にメッセージが入ったため、クラスター・チャンネル *channel-name* を開始しようとした。内部キューイング・エラーが原因でチャンネルを開始できなかった場合、このメッセージの前に CSQM056E が出される。キュー・マネージャーでストレージ不足が発生した場合にもこのメッセージが出される。

システム・アクション

メッセージは SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE キューに入ったまま、元の MQPUT は正常に完了する。クラスター・チャンネルがまだ実行されていない場合でも、自動的に開始されることはない。

システム・プログラマーの応答

必要に応じて、START CHANNEL コマンドを使用してチャンネルを手動で開始する。チャンネル・イニシエーターまたはキュー・マネージャーを停止して再始動するか、またはこのクラスターの宛先の伝送キューに他のメッセージを入れて、別の START 要求をトリガーする。

メッセージ CSQM056E は、内部キューイング・エラーが原因で発行される。以降のチャンネル開始要求が正しく処理できるように処置が必要な場合がある。

ストレージが不足し、問題が解決しない場合には、キュー・マネージャーで使用する領域サイズを増やすか、システムで実行しているジョブの数を減らすことが必要な場合がある。

CSQM059E

csect-name キュー *q-name* に正しくない属性があります。

重大度

8

説明

内部グループ・キュー (IGQ) エージェントによって使用される名前付きキューには、正しくない属性がある。例えば、SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE には、属性 USAGE(XMITQ)、INDXTYPE(CORRELID)、QSGDISP(SHARED) がなければならない。

システム・アクション

IGQ エージェントは、エラーが訂正されるまで通常の間隔で再試行する。

システム・プログラマーの応答

正しい属性を指定してキューを再定義する。

CSQM060E

csect-name クラスター・キャッシュはいっぱいです。

重大度

8

説明

クラスター・キャッシュ域内に使用可能なスペースがない。

システム・アクション

スペース不足の結果となったアプリケーション呼び出しは、MQRC_CLUSTER_RESOURCE_ERROR で失敗する。処理は継続し、クラスター化の既存のユーザーは、アクションでクラスター・キャッシュ・スペースをさらに必要とするなどのことがない限り影響を受けない。

システム・プログラマーの応答

一時的な問題である可能性がある。問題が続く場合は、キュー・マネージャーを再始動する必要がある。これにより、クラスター・キャッシュ域により多くのスペースが割り振られるようになる。

クラスター・キャッシュ・タイプのシステム・パラメーター CLCACHE を動的に変更して、必要であれば、さらに多くのキャッシュ・スペースを自動的に取得するようにすることを考慮する。(クラスター・ワークロード出口を使用している場合は、その出口が動的クラスター・キャッシュをサポートするよ

うにする。) CSQ6SYSP マクロのシステム・パラメーターの詳細については、『[CSQ6SYSP の使用](#)』を参照。

CSQM061E

csect-name クラスター・ワークロード出口 *exit-name* は動的キャッシュをサポートしません。

重大度

8

説明

初期設定呼び出し (ExitReason MQXR_INIT を使用) に対する応答で、クラスター・ワークロード出口が ExitResponse2 フィールドに値 MQCLCT_STATIC を戻した。これは、動的クラスター・キャッシュをサポートしないことを意味する。

システム・アクション

クラスター・ワークロード出口は抑止される。

システム・プログラマーの応答

クラスター・キャッシュ・タイプのシステム・パラメーター CLCACHE を静的に変更するか、または出口を書き直して動的キャッシュと互換性があるようにする。CSQ6SYSP マクロのシステム・パラメーターの詳細については、『[CSQ6SYSP の使用](#)』を参照。

CSQM062I

csect-name INDXTYPE(*index-type*) は、共有伝送キュー *shared-xmitq* で許可されません。

重大度

4

説明

共有伝送キューは、USAGE(XMITQ) および QSGDISP(SHARED) の両方によって定義されたキューである。チャンネルに障害が発生した後に未確定になっているメッセージのリカバリーをサポートするため、共有伝送キューの索引タイプ (INDXTYPE) は NONE または MSGID でなければならない。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

共有伝送キューの INDXTYPE 属性を NONE または MSGID に変更する。

CSQM063E

csect-name 指定された送達不能キュー名は受け入れ不可です。

重大度

4

説明

内部グループ・キュー (IGQ) エージェントが、キュー・マネージャーに定義された送達不能キューに持続メッセージを書き込もうとした。指定されている送達不能キューは SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE であるか、送達不能キュー名が指定されていない。

システム・アクション

送達不能キューへのメッセージの書き込みは行われず、SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE からのメッセージの取得はバックアウトされ、内部グループ・キュー (IGQ) エージェントは再試行に入る。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーに定義された送達不能キューをブランクでも SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE でもないようにする。メッセージを調べて送達不能キューへのメッセージ配置の理由を判別する。

CSQM064I

csect-name 内部グループ・キュー・エージェントが送達不能キューにメッセージを書き込みました。

重大度

4

説明

内部グループ・キュー (IGQ) エージェントは、いくつかのメッセージを必要な宛先キューに送達できなかったため、それらのメッセージを送達不能キューに入れた。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

送達不能キューの内容を調べてください。各メッセージは、メッセージがキューに書き込まれた理由および最初にアドレス指定された場所を含む構造体に入れられます。

CSQM065E

csect-name mqapi-call が失敗しました。MQRC=*mqrc (mqrc-text)*

重大度

8

説明

示された IBM MQ API 呼び出しは、示された理由 (MQ 理由コード *mqrc (mqrc-text)* は MQRC をテキスト形式で提供する) のために失敗した。

システム・アクション

呼び出しを実行したのはグループ内のキューイング (IGQ) エージェントである。エージェントは、示された理由のために、メッセージのバッチをコミットまたはバックアウトできなかった。エラーのタイプによって、エージェントはエラーが訂正されるまで通常の間隔で要求を再試行するか、または終了する。

システム・プログラマーの応答

MQ 理由コードについては、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要な場合は、問題を訂正する。

CSQM067E

csect-name 内部グループ・キュー・エージェントが異常終了しました。再始動中です。

重大度

8

説明

先行のメッセージに報告されているように、重大なエラーが起こったため、内部グループ・キュー (IGQ) エージェントは異常終了した。

システム・アクション

IGQ エージェントは、何度か再始動しようとする。失敗が続く場合には、終了する。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージで報告されているように、異常終了の理由を調べる。

CSQM068I

csect-name *n* 個の保存パブリケーションの再ビルドに失敗しました

重大度

4

説明

保存パブリケーションを再ビルドしているときに、SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE でメッセージ・プロパティのない *n* 個のメッセージが見つかりました。

システム・アクション

関連する保存パブリケーションは再ビルドされませんでした。

システム・プログラマーの応答

最近 SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE にメッセージが移動された場合は、ソース・キューの PROPCTL 値によってメッセージ・プロパティが失われていないことを確認してください。

最近 SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE を実行してから、このメッセージを書き留め、IBM サポートに連絡してください。

CSQM070E

csect-name キュー *q-name* が再度使用可能となりました。 *n* イベントは生成されません。

重大度

4

説明

構成またはコマンド・イベント・キューへのメッセージの書き込みに関連する以前の問題が訂正された。 *n* は、最初に問題が発生したときから生成されていないイベント・メッセージの数である。

システム・アクション

処理は継続され、そのキューのイベント・メッセージが再度生成される。

システム・プログラマーの応答

キューが SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT で、完全な構成情報が必要な場合は、REFRESH QMGR TYPE(CONFIGEV) コマンドを使用して、生成されなかったイベントを置き換えるイベントを生成する。問題が発生していた期間を対象範囲とするには、INCLINT パラメーターを指定する。

キューが SYSTEM.ADMIN.COMMAND.EVENT の場合は、メッセージ CSQM072I によって報告されるように、限られた数の欠落イベント・メッセージが自動的に回復される場合がある。

CSQM071E

csect-name キュー *q-name* が使用不可になりました。 *n* イベントは生成されません。

重大度

8

説明

先行の CSQM056E メッセージで報告されたように、構成またはコマンド・イベント・キューでメッセージを書き込むときにエラーが発生した。 *n* は、最初に問題が発生したときから生成されていないイベント・メッセージの数である。

システム・アクション

処理は継続されるが、そのキューのイベント・メッセージは生成されない。このメッセージは、最初に問題が起こったときに出力され、その後も問題が続いている間はたびたび発行される。

システム・プログラマーの応答

イベント・キューの問題を訂正する。あるいは、イベントが不要であれば、ALTER QMGR コマンドを使用して CONFIGEV または CMDEV 属性を DISABLED に設定する。

CSQM072I

csect-name キュー *q-name*、 *n* イベントが回復しました。

重大度

0

説明

コマンド・イベント・キューへのメッセージの書き込みに関連する以前の問題が訂正された。生成されなかった *n* 個のイベント・メッセージが、自動的に回復および生成された。

限られた数の欠落イベント・メッセージのみ、このようにして回復できる。 *n* がメッセージ CSQM070E で報告された値より小さいと、残りのイベント・メッセージは失われ、それらを回復することはできない。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQM073I

csect-name 永続サブスクライバーのロードが開始しました。

重大度

0

説明

キュー・マネージャーの永続サブスクライバーに関する情報は、SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE キューに保管される。キュー・マネージャーの再始動中、キュー・マネージャーの永続サブスクリプションが作り直される。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQM074I

csect-name 永続サブスクライバーのロードが終了しました。

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは、すべての永続サブスクライバーの再ロードを終了した。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQM075I

csect-name 永続サブスクライバーの統合が開始しました。

重大度

0

説明

キュー・マネージャーの永続サブスクライバーに関する情報は、SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE キューに保管される。再始動処理を補助するために、およびすべての永続サブスクライバーを再ロードするのに要する時間を短縮するために、これらのメッセージは統合されてその数が減らされる。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQM076I

csect-name 永続サブスクライバーの統合が終了しました。

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは、SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE キューのメッセージの統合を終了した。後の段階で永続サブスクライバーの数が変わると、この処理が再開される場合がある。

システム・アクション

処理を続行

CSQM077I

csect-name パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンがシャットダウンしました。

重大度

0

説明

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンがシャットダウンした。

システム・アクション

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンがシャットダウンした。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが停止しかけている場合は、処置は必要ない。パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンを使用不可にしたためにそれがシャットダウンしたのであれば、PSMODE キュー・マネージャー属性を DISABLED から別の値に更新すると、エンジンが再始動される。

CSQM078E

csect-name jobname から接続タイプ *connection* のスレッド構造を作成できません。ACE ストレージが不足しています

重大度

8

説明

jobname が、新規スレッドで最初の IBM MQ API 呼び出しを発行した結果として、IBM MQ への新規接続を作成しようとして失敗しました。接続タイプはおそらく RRSBATCH になる。

接続を表す制御ブロックを作成するために使用できる共通ストレージが不十分で、接続の試行が失敗した。

システム全体で ECSA が不足している可能性がある。または、キュー・マネージャーの新規接続を作成するために使用できるストレージが ACELIM システム・パラメーターによって制限されている可能性がある。

このメッセージは、RRS アプリケーションだけでなく、CICS およびチャネル・イニシエーターの場合にも表示されることがある (例えば、Db2 ストアード・プロシージャや WebSphere Application Server)。

システム・アクション

IBM MQ API 要求が戻りコード MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE 2071 で失敗する

キュー・マネージャーの処理は続けられる。

CSQM079I

csect-name ポリシー・アクセスの試行が互換性のない AMS バージョン (ジョブ名 *jobname*) のために拒否されました

重大度

4

説明

jobname で識別される Advanced Message Security (AMS) の非互換バージョンが、ポリシー・キュー SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE。

システム・アクション

このポリシー・キューを開く要求は拒否される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーへの接続を試行しないように AMS の互換性のないバージョンを更新する。IBM MQ 8.0 から、AMS は、IBM MQ for z/OS の統合機能として提供される。AMS を統合フィーチャーとし

て構成する方法については、[IBM MQ Advanced for z/OS のインストール](#)または [IBM MQ Advanced for z/OS Value Unit Edition のインストール](#)を参照してください。

CSQM084I

csect-name 再始動/終了中に、コマンドが使用禁止になりました。

重大度

8

説明

回復可能なオブジェクトに影響するコマンドの要求が、キュー・マネージャー始動には早すぎたか、または終了には遅すぎた。

このメッセージが表示される場合は、通常、一部の禁止されているコマンドが初期設定入力データ・セット CSQINP1 で実行されている。

システム・アクション

メッセージ CSQM085I も出され、このコマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが禁止されているコマンドを再発行できる状態になるまで待機する。適切であれば、この問題が再発しないようにするために、コマンドを CSQINP1 から除去して、それを CSQINP2 に入れる。

CSQM085I

csect-name 異常完了

重大度

8

説明

このメッセージは、メッセージ CSQM084I とともに示され、要求されたコマンドが処理されなかったことを示す。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが禁止されているコマンドを使用できる状態になるまで待機する。

CSQM086E

キュー・マネージャー作成エラー。CODE=*reason-code*、再始動は不成功。

重大度

8

説明

再始動時に、キュー・マネージャー・オブジェクトの作成が失敗に終わった。この理由コードは、'00D44xxx' の形式である。

システム・アクション

キュー・マネージャーの再始動は失敗に終わる。

システム・プログラマーの応答

理由コード、および取るべき処置については、994 ページの『[メッセージ・マネージャー・コード \(X'D4'\)](#)』を参照。START QMGR コマンドを再発行して、キュー・マネージャーを再始動する。エラーを解決できない場合には、この理由コードを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQM090E

csect-name 障害理由コード *reason-code*

重大度

8

説明

コマンドが失敗した。この理由コードは、'00D44xxx'の形式である。このメッセージに伴って、障害の理由について詳しく示したメッセージが1つまたは複数出される。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

詳細については、付属のメッセージにある説明を参照。理由コード、および取るべき処置については、[994 ページの『メッセージ・マネージャー・コード \(X'D4\)』](#)を参照。理由コードが上記の項に示されていない場合は、理由コードを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQM091E

csect-name 失敗 MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

コマンドが失敗した。理由コードは IBM MQ 理由コードである。このメッセージに伴って、障害の理由について詳しく示したメッセージが1つまたは複数出される。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

詳細については、付属のメッセージにある説明を参照。*mqrc* (*mqrc-text* で示されるのはテキスト形式での MQRC) の説明および実行する処置については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQM092I

csect-name keyword(value) 値が無効または範囲外です。

重大度

8

説明

以下のいずれかを実行します。

- 境界付きの数値をとるキーワードが入力されたが、指定された値が境界の範囲外だった。
- 範囲を定義する一対の数値をとるキーワードが入力されたが、1つの値しか指定されていないか、または値が昇順ではない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを正しく指定してコマンドを再発行する。このコマンドについては、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM093I

csect-name keyword(value) 名前に無効文字が含まれています。

重大度

8

説明

指定された名前に、1つ以上の無効な文字が含まれている。該当する名前に必要な妥当性検査については、[MQSC コマンド](#)を参照し、このエラーを訂正する。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

正しい名前を指定してコマンドを再発行する。このコマンドについて詳しくは、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM094I

csect-name keyword(value) WAS NOT FOUND

重大度

8

説明

存在しないオブジェクトを参照するコマンドが実行された。つまり、オブジェクトは、指定された名前とタイプ(キューとチャンネルでは、サブタイプも)およびキュー共有グループ内の後処理で見付からなかった。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

オブジェクトの正しい名前および正しいサブタイプ(キューおよびチャンネルの場合)を指定したかどうかを調べる。キュー共有グループが使用中である場合、Db2 が使用可能で、中断状態になっていないことを確認する。必要な場合には、オブジェクトを定義する。

注:

1. キュー・オブジェクトあるいはチャンネル・オブジェクトを取り扱っている場合には、名前が同じで、サブタイプが異なるオブジェクトがすでに存在していることがある。
2. オブジェクトが最近、誰か別のユーザーによって削除されたか、またはキュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーから削除された可能性があることに注意する。

CSQM095I

csect-name keyword(value) existing-disposition ALREADY EXISTS

重大度

8

説明

DEFINE コマンドが実行されたが、指定された名前を持つそのタイプのオブジェクト(必ずしも、同じサブタイプ、またはキュー共有グループ内の同じ後処理を持っているわけではない)はすでに存在している。(同じ名前を持つグループ・オブジェクトのローカル定義のオブジェクトおよびローカル・コピーを持つことはできない。ローカル・キューの場合、その他の後処理を持つキューと同じ名前を持つ共有キューを持つことはできない。)適用可能な場合には、*existing-disposition* は既存のオブジェクトのキュー共有グループ後処理を示している。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

別の名前または REPLACE オプションを指定してコマンドを実行し直すか、適当であれば、既存のオブジェクトを使用する。

CSQM096I

csect-name keyword(value) 名前の長が無効です。

重大度

8

説明

指定された名前の長さが正しくない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

正しい長さの名前を指定してコマンドを再発行する。このコマンドについて詳しくは、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM097I

csect-name keyword(value) 名前を完全にブランクにはできません。

重大度

8

説明

指定された名前がブランクである。これは許可されません。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

非ブランクの名前を指定してコマンドを再発行する。このコマンドについて詳しくは、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM098I

csect-name keyword(value) フィールドが長過ぎます。

重大度

8

説明

数値パラメーターまたは文字パラメーターのいずれかが指定されたが、それが長すぎる、あるいは (*value* がブランクの場合は) 指定された文字パラメーターのリストの合計長が長すぎる。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

正しいフィールド長を指定してコマンドを再発行する。このコマンドについて詳しくは、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM099I

csect-name keyword(value) 名前は別のタイプとして使用されています。

重大度

8

説明

オブジェクトは1つの特定のサブタイプとして指定されているが、別のサブタイプ(必ずしも、キュー共有グループ内の同じ後処理を持っているわけではない)としてすでに存在している。(同じ名前を持つグループ・オブジェクトのローカル定義のオブジェクトおよびローカル・コピーを持つことはできな

い。ローカル・キューの場合、その他の後処理を持つキューと同じ名前を持つ共有キューを持つことはできない。)

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

正しい名前およびサブタイプを指定してコマンドを再発行する。このコマンドについて詳しくは、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM100I

csect-name keyword(value) 値が無効または範囲外です。

重大度

8

説明

値が無効であるか、範囲外である。この理由として、次のことが考えられる。

- 一連の文字値をとるキーワードが入力されたが、指定された値が有効な文字値ではなかった。
- 一連の文字値をとるキーワードが入力されたが、指定された値が特定サブタイプのオブジェクトに有効ではなかった。
- 境界付きの数値をとるキーワードが入力されたが、指定された値が境界の範囲外だった。
- 文字または 16 進値をとるキーワードが入力されたが、指定された値がそのキーワードには無効だった。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを正しく指定してコマンドを再発行する。このコマンドについて詳しくは、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM101I

csect-name keyword(value) は現在使用中です。

重大度

8

説明

指定されたオブジェクトは使用中です。この理由として、次のことが考えられる。

- オブジェクトが API を介してオープンしている。
- 現在、オブジェクトへのトリガー・メッセージの書き込み中である。
- オブジェクトが削除処理中である。
- オブジェクトがストレージ・クラスである場合に、そのストレージ・クラスを使用するように定義されたキューが存在し、現在そのキューにメッセージが入っている。
- オブジェクトが CF 構造体である場合に、その CF 構造体を使用するように定義されたキューが存在し、現在そのキューにメッセージが入っているか、キューがオープンしている。
- キューの索引タイプの変更時に、メッセージおよびコミットされていない活動に関連する必要な条件が満たされていない。
- デフォルトの伝送キューの変更時に、元のキューがデフォルトで伝送キューとして使用されている。
- FORCE オプションは、API を介してオープンするオブジェクトを克服するように指定されたが、オブジェクトは以前のバージョンの IBM MQ で作成された。
- キュー・マネージャーから構造体への接続はない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

以下のいずれかを実行します。

- オブジェクトがクローズまたは削除されるまで待機する。

注: 受信側チャンネルの MCA または内部グループ・キュー (IGQ) エージェントは、メッセージが伝送されていないときであっても、宛先キューをしばらくオープン状態にしておくことができる。これによって、そのキューは使用中であるように見える。

- ストレージ・クラスを使用するキューがすべて空になるまで待機する。
- キューが空になるまで待機する。
- キューがデフォルトの伝送キューとして使用されなくなるまで待機する。

ALTER コマンドの FORCE オプションを使用して、このメッセージの原因となる状況は解決できない。

このコマンドについて詳しくは、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM102E

csect-name SSLCIPH *sslciph* IS A WEAK OR BROKEN CIPHERSPEC

重大度

8

説明

指定した SSLCIPH パラメーターに機密保護の点で潜在的な問題がある CipherSpec が含まれているため、チャンネルを定義または変更することができなかった。

システム・アクション

指定されたチャンネルは定義または変更されない

システム・プログラマーの応答

SSLCIPH パラメーターに指定された CipherSpec を確認して、よりセキュアな CipherSpec の使用を検討する。

脆弱な CipherSpec または非推奨の CipherSpec を再び使用できるようにする場合は、[非推奨の CipherSpec の有効化 \(z/OS\)](#) を参照してください。

データ定義の変更が適さない場合、脆弱な CipherSpecs および SSLv3 サポートを強制的に再有効化するために使用できる別のメカニズムがあります。詳細については、IBM サービスに連絡してください。



重要: この方法で CipherSpecs を再有効化すると、システムを潜在的なセキュリティーの問題にさらしたままの状態にすることになります。SSLv3 ではなく TLS プロトコルのみを使用する CipherSpecs を使用してください。

CSQM103I

csect-name *keyword(value)* QSGDISP(*disposition*) には関係するメッセージがあります。

重大度

8

説明

削除するよう指定されたローカル・キューには関連するメッセージが含まれており、DELETE 要求には PURGE オプションが指定されていなかった。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

空になったときにローカル・キューを削除するか、または PURGE オプションを指定して再度要求を出す。キューがグループ・オブジェクトのローカル・コピーである場合、ローカル・コピーに明示的に PURGE を指定して要求を出さなければならない。グループ・オブジェクトを削除する要求で PURGE を指定することには効果がない。

CSQM104I

csect-name keyword(value) に据え置き削除用にフラグを立てました。

重大度

8

説明

DEFINE、ALTER、または DELETE 要求に指定されたローカル動的キューは、削除時に使用中であることがわかったため、据え置き削除のフラグが立てられていた。

システム・アクション

そのキューは、新しいユーザーには使用不能となり、既存のすべてのユーザーがそのアクセス権を放棄した時点で削除される。

CSQM105I

csect-name 'keyword' 値は QALIAS 名と同じです。

重大度

8

説明

キュー自身が TARGQ キーワードで指定されるように、別名キューを DEFINE または ALTER しようとした。キューがクラスター・キューでない場合、別名キューはローカル・キューまたはリモート・キューにしか解決されないのだからこれは許可されない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

TARGQ キーワードに別の名前を指定してコマンドを再発行する。

CSQM106I

csect-name DEFXMLTQ(q-name) は許可されていません。

重大度

8

説明

指定したキューは、クラスター化による独占的な使用に対して予約されているので、デフォルトの伝送キューとして使用できない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

異なる DEFXMLTQ 名でコマンドを再発行する。

CSQM107I

csect-name 記憶クラスが活動しているか、キューが使用中です。

重大度

8

説明

STGCLASS フィールドの変更に関連のある、ローカル・キューの ALTER、または DEFINE REPLACE 要求が出されたが、そのキューにメッセージが入っているか、または他のスレッドがそのキューをオープンさせているために、その要求は許可されない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

キューにメッセージが入っている場合は、それらを取り除かなければ、ストレージ・クラスを変更することはできない。

注: キューからすべてのメッセージを取り除いても、コマンドが正しく処理されるためには、多少の遅延が生じる場合がある。

他のスレッドがキューをオープンさせている場合は、キューがクローズされるのを待って、コマンドを再発行する。

CSQM108I

csect-name keyword(value) は許可されません。名前とタイプに互換性がありません。

重大度

8

説明

予約されているオブジェクトに対して、無効なオブジェクト・タイプまたはサブタイプを使用して、DEFINE コマンドを出そうとした。このオブジェクトには、このトピックにリストされている、あらかじめ決められたタイプのみが許可されている。

タイプ	オブジェクト
任意のキュー	SYSTEM.ADMIN.ACTIVITY.QUEUE SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT SYSTEM.ADMIN.COMMAND.EVENT SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT SYSTEM.ADMIN.PUBSUB.EVENT SYSTEM.ADMIN.TRACE.ROUTE.QUEUE
別名キュー	SYSTEM.DEFAULT.ALIAS.QUEUE
別名またはローカル・キュー	SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE SYSTEM.COMMAND.INPUT
ローカル・キュー	SYSTEM.CHANNEL.INITQ SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ SYSTEM.CHLAUTH.DATA.QUEUE SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE SYSTEM.CLUSTER.REPOSITORY.QUEUE SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE SYSTEM.DEFAULT.LOCAL.QUEUE SYSTEM.QSG.CHANNEL.SYNCQ SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE
モデル・キュー	SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE SYSTEM.JMS.TEMPQ.MODEL SYSTEM.MQEXPLORER.REPLY.MODEL
リモート・キュー	SYSTEM.DEFAULT.REMOTE.QUEUE
クラスター送信側チャンネル	SYSTEM.DEF.CLUSSDR
クラスター受信側チャンネル	SYSTEM.DEF.CLUSRCVR
送信側チャンネル	SYSTEM.DEF.SENDER

表 12. 予約済みオブジェクトからオブジェクト・タイプへのマッピング (続き)	
タイプ	オブジェクト
サーバー・チャンネル	SYSTEM.DEF.SERVER
受信側チャンネル	SYSTEM.DEF.RECEIVER
要求側チャンネル	SYSTEM.DEF.REQUESTER
クライアント接続チャンネル	SYSTEM.DEF.CLNTCONN
サーバー接続チャンネル	SYSTEM.ADMIN.SVRCONN SYSTEM.DEF.SVRCONN
認証情報	SYSTEM.DEFAULT.AUTHINFO.CRLLDAP
名前リスト	SYSTEM.DEFAULT.NAMELIST
プロセス	SYSTEM.DEFAULT.PROCESS
ストレージ・クラス	SYSTEMST

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

予約されているオブジェクトを正しいオブジェクト・タイプまたはサブタイプを使用して定義するようにする。

CSQM109E

csect-name 動的キュー *value* を削除できません。MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

通常のクローズ処理中、スレッド終了中、またはキュー・マネージャー再始動の終わりに、動的キューを削除しようとしたところエラーが起こったために、動的キューを削除できなかった。*mqrc* は、エラーの理由コードを戻す。

システム・アクション

示された動的キューは削除されない。

システム・プログラマーの応答

理由コードについては、[1129](#) ページの『API 完了コードと理由コード』を参照して、キューを削除できなかった理由を判別し、必要に応じて適切な処置を行ってください。最も一般的な理由は、次のとおりである。

- MQRC_OBJECT_IN_USE
- MQRC_PAGESET_ERROR
- MQRC_Q_NOT_EMPTY

CSQM110I

csect-name keyword(value) QSGDISP(disposition) には不完全な回復単位があります。

重大度

8

説明

ローカル・キューを参照するコマンドが発行されたが、そのキューには、そのコマンドに対して未解決となっている不完全な回復単位がある。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

このキューに対するすべての回復単位が完了するのを待って、コマンドの実行を再試行する。

CSQM111E

csect-name 送達不能キューに書き込めませんでした。MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

4

説明

メッセージを送達不能キューに入れようとしたが失敗した。*mqrc* は、エラーの理由コードを戻す。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

問題の原因を判別するには、*mqrc* (*mqrc-text* で示されるのはテキスト形式での MQRC) の情報について [1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQM112E

csect-name keyword(value) にアクセス中にエラー。

重大度

4

説明

オブジェクトに対するコマンドの処理中に、オブジェクト情報にアクセスできなかった。これは、ページ・セット 0 またはカップリング・ファシリティ情報のエラーのため、カップリング・ファシリティ構造体の障害のため、または Db2 が使用不能か中断状態のために起こることがある。これに伴ってメッセージ CSQM090E または CSQM091E が出され、これにはエラーの詳細を提供している理由コードが含まれる。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

この問題に関係している可能性のあるコンソール・ログ上のエラー・メッセージを検査する。ページ・セット 0 が正しくセットアップされていることを確認してください。これについては、[ページ・セット](#)を参照してください。キュー共有グループが使用中である場合、カップリング・ファシリティ構造体に障害が発生したかどうか、および Db2 が使用可能で、中断状態になっていないことを確認する。付随するメッセージが CSQM091E の場合、そのメッセージの *mqrc* の説明、および取るべき処置については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)で説明しています。

CSQM113E

csect-name keyword(value) QSGDISP(disposition) にスペースがありません。

重大度

8

説明

ページ・セット 0 が満杯であるか、アプリケーション構造体が満杯であるか、カップリング・ファシリティに使用可能なアプリケーション構造体がこれ以上ないため (限度は 63)、コマンドが失敗した。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

エラーの原因によって、以下のいずれかを行う。

- ページ・セット 0 のサイズ、またはアプリケーション構造体のサイズを大きくする。これを行う方法については、[ページ・セットの管理](#)を参照。
- 使用しているアプリケーション構造体の数を削減する。

CSQM114E

csect-name keyword(value) はローカル・キューの限界を超えています。

重大度

8

説明

ローカル・キューをこれ以上定義できなかったために、コマンドが失敗した。存在可能なローカル・キューの総数には、524 287 のインプリメンテーション制限がある。共用キューの場合には、カップリング・ファシリティ構造体 1 つにつきキュー数は 512 個という制限があります。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

不要な既存キューを削除してください。

CSQM115I

csect-name keyword(value) は現在使用中です。変更するには FORCE オプションが必要です。

重大度

8

説明

指定されたオブジェクトは使用中です。この理由として、次のことが考えられる。

- オブジェクトが API を介してオープンしている。
- ローカル・キューの USAGE 属性を変更する場合、現在そのキューにはメッセージがある。
- デフォルトの伝送キューの変更時に、元のキューがデフォルトで伝送キューとして使用されている。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

以下のいずれかを実行します。

- オブジェクトがクローズまたは削除されるまで待機する。

注: 受信側チャネルの MCA または内部グループ・キュー (IGQ) エージェントは、メッセージが伝送されていないときであっても、宛先キューをしばらくオープン状態にしておくことができる。これによって、そのキューは使用中であるように見える。

- キューが空になるまで待機する。
- キューがデフォルトの伝送キューとして使用されなくなるまで待機する。
- FORCE オプションで ALTER コマンドを使用する。

注: そのオブジェクトの参照以後、API 呼び出しは、MQRC_OBJECT_CHANGED の理由コードで失敗に終わる。

このコマンドについて詳しくは、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM117E

csect-name ERROR ACCESSING keyword(value) QSGDISP(disposition)

重大度

4

説明

オブジェクトに対するコマンドの処理中に、オブジェクト情報にアクセスできなかった。これは、ページ・セット 0 またはカップリング・ファシリティ情報のエラーのため、カップリング・ファシリティ構造体の障害のため、または Db2 が使用不能か中断状態のために起こることがある。これに伴ってメッセージ CSQM090E または CSQM091E が出され、これにはエラーの詳細を提供している理由コードが含まれる。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

この問題に関係している可能性のあるコンソール・ログ上のエラー・メッセージを検査する。処分が QMGR、COPY、または PRIVATE の場合は、ページ・セット 0 が正しくセットアップされていることを確認してください。これに関する情報については、[ページ・セット](#)を参照してください。*disposition* が GROUP または SHARED である場合には、カップリング・ファシリティ構造体に障害があるかどうか確認し、Db2 が使用可能で中断状態でないようにする。付随するメッセージが CSQM091E の場合は、そのメッセージ内の *mqrc* の説明、および取るべき処置については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQM118I

csect-name keyword(value) QSGDISP(disposition) レベルが非互換です。

説明

指定されたオブジェクトの定義レベルが、キュー・マネージャーのレベルまたはキュー共有グループのその他のメンバーのレベルと互換性がない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、[保守および移行](#)を参照。

CSQM119I

csect-name keyword(value) レベルが非互換です。

説明

指定されたオブジェクトの定義レベルが、キュー・マネージャーのレベルまたはキュー共有グループのその他のメンバーのレベルと互換性がない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、[保守および移行](#)を参照。

CSQM120I

csect-name keyword(value) は共有キューには許可されていません。

重大度

8

説明

オブジェクト名または属性に指定された値は、後処理が共有されるローカル・キュー、または共有される動的キューを作成するために使用されるモデル・キューには許可されない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

コマンドを正しく再発行する。

CSQM121I

csect-name keyword(value) は許可されていません。キュー共有グループにありません。

重大度

8

説明

属性に指定された値にはキュー共有グループが必要だが、キュー・マネージャーがグループ内にない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

コマンドを正しく再発行する。

CSQM122I

csect-name 'verb-name object' は QSGDISP(*disposition*) に対して完了しました。

重大度

0

説明

指定された後処理を持つオブジェクトを参照する指定されたコマンドの処理が正常に完了した。

システム・アクション

キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャー上でさらに処理を実行するために、CMDSCOPE(*) を指定してコマンドが生成される。例えば、*disposition* が GROUP である場合、対応する処理はグループ・オブジェクトのローカル・コピーに対して実行されなければならない。

CSQM123I

csect-name 'keyword' 値は変更できません。

重大度

8

説明

指定された属性の値は変更できない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

属性を変更するには、オブジェクトを削除してから、新しい値で再定義しなければならない。

CSQM124I

csect-name keyword(value) は QSGDISP(*disposition*) とでのみ許可されています。

重大度

8

説明

属性に指定された値は、指定された後処理を持つオブジェクトにのみ許可される。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

コマンドを正しく再発行する。

CSQM125I

csect-name keyword(value) QSGDISP(disposition) が見つかりませんでした。

重大度

8

説明

存在しないオブジェクトを参照するコマンドが実行された。つまり、オブジェクトは、指定された名前とタイプ(キューとチャンネルでは、サブタイプも)およびキュー共有グループ内の後処理で見付からなかった。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

オブジェクトに対し、正しい名前、正しいサブタイプ(キューおよびチャンネルの場合)、またはチャンネル定義表(チャンネルを削除する場合)を指定したかどうか調べる。*disposition* が GROUP または SHARED である場合には、Db2 が使用可能で中断状態でないようにする。必要な場合には、オブジェクトを定義する。

注:

1. 名前とタイプが同じで、後処理の異なるオブジェクトがすでに存在している可能性がある。
2. キュー・オブジェクトあるいはチャンネル・オブジェクトを取り扱っている場合には、名前が同じで、サブタイプが異なるオブジェクトがすでに存在していることがある。
3. オブジェクトが最近、誰か別のユーザーによって削除されたか、またはキュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーから削除された可能性があることに注意する。

CSQM126I

csect-name 'keyword' は LU62 プロトコルにのみ適用できます。

重大度

8

説明

指定されたキーワードは、TRPTYPE(LU62) が指定されているときにのみ指定できる。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

このキーワードを使用せずにコマンドを再発行する。

CSQM127I

csect-name keyword(value) は空、または間違ったタイプです。

重大度

8

説明

クラスターのリストを指定するために使用される名前リストに名前が含まれていないか、タイプが CLUSTER または NONE ではない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

タイプが CLUSTER または NONE の、空でない名前リストを指定してコマンドを再発行する。

CSQM128E

csect-name MQPUT がキュー *q-name* で失敗しました。理由=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

コマンドの処理中、上記の指定されたキューにメッセージを入れようとしたが、上記の理由で失敗した。

システム・アクション

通常は、コマンドは処理されない。コマンドが構成イベント用の REFRESH QMGR だった場合は、先行する CSQM169I メッセージで示されているとおり、コマンドの一部が完了している可能性がある。

システム・プログラマーの応答

mqrc の詳細については、[1129 ページ](#)の『API 完了コードと理由コード』を参照してください (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)。 *mqrc* が 2003 である場合は、メッセージをコミットできない。

CSQM129I

csect-name keyword(value) に無効なチャンネル・タイプがあります。

重大度

8

説明

使用したコマンド (または特定の後処理が行われるコマンド) は、このタイプのチャンネルに対して使用できないタイプのものなので、指定したチャンネルでは使用できない。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

このコマンドに正しいチャンネル名と後処理が指定されているかどうかを調べる。このコマンドについて詳しくは、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM130I

csect-name クラスター要求がキューに入りました。

重大度

0

説明

コマンドの初期処理が正常に完了した。コマンドでは、要求がキューに入れられたクラスター・リポジトリ・マネージャーによるこれ以上の処置が必要である。

このメッセージには、メッセージ CSQ9022I が続きます。これは、要求が送信されたという点でコマンドが正常に完了したことを示しています。クラスター要求が正常に完了したことは示されない。このような要求はクラスター・リポジトリ・マネージャーによって非同期に処理される。エラーがあれば、コマンド発行側ではなく、z/OS コンソールに報告される。

システム・アクション

クラスター・リポジトリ・マネージャーの要求がキューに入れられた。これは、非同期に処理される。

CSQM131I

csect-name チャンネル・イニシエーターが活動状態ではありません。クラスター・コマンドは使用禁止です。

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターを開始させるのに必要なコマンドが実行された。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

START CHINIT コマンドを発行してチャンネル・イニシエーターを開始させ、コマンドを再発行する。

CSQM132I

csect-name チャンネル・イニシエーターはすでに活動しています。

重大度

8

説明

START CHINIT コマンドが実行されたが、チャンネル・イニシエーターはすでに活動状態にある。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

CSQM133I

csect-name チャンネル・イニシエーターを開始できません。

重大度

8

説明

START CHINIT コマンドが実行されたが、チャンネル・イニシエーターを開始できない。

この原因は、次のいずれかである。

- ・ システムのワークロードが大きすぎるため、この時点でシステムがチャンネル・イニシエーターのアドレス・スペースを作成することができなかった。
- ・ チャンネル・イニシエーターのアドレス・スペースを開始させるのに十分なストレージがなかった。
- ・ システムが、サポートされている最大数を超えるアドレス・スペースを入手しようとした。
- ・ キュー・マネージャーが、静止状態あるいは終了状態にあった。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

システムのワークロードを小さくし、キュー・マネージャーが活動状態にあるときに、コマンドを再発行する。

CSQM134I

csect-name command keyword(value) コマンドが受け入れられました。

重大度

0

説明

コマンドの初期処理が正常に完了した。このコマンドは、さらに、要求がキューに入れられたチャンネル・イニシエーターによる処置を必要とします。続いて、処置の成功または失敗を報告するメッセージがコマンド発行側に送信される。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターの要求がキューに入れられた。コマンドが完了すると、さらにメッセージが作成される。

CSQM135I

csect-name チャンネル・イニシエーターが使用できません。

重大度

8

説明

コマンドが共有チャンネルに対して実行されたが、キュー共有グループ内の活動キュー・マネージャーに、使用可能な適切なチャンネル・イニシエーターがなかった。この理由として、次のことが考えられる。

- チャンネル・イニシエーターが実行されていない。
- 実行中のチャンネル・イニシエーターの使用率が高すぎて、チャンネルまたは特定のタイプのチャンネルを開始できない。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

新しいチャンネル・イニシエーターを (実行しているチャンネル・イニシエーターのない、活動状態のキュー・マネージャー上で) 開始するか、または実行しているチャンネルが少ないときに再試行する。

CSQM136I

コマンドは許可されていません。コマンド・サーバーは使用不可です。

説明

チャンネル・イニシエーターのコマンドが入力されたが、コマンド・サーバーが実行されていなく、使用可能にもされていないため、コマンドが処理できない。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

START CMDSERV コマンドを使用してコマンド・サーバーを開始させ、コマンドを再発行する。

CSQM137I

csect-name command keyword コマンドが受け入れられました。

重大度

0

説明

コマンドの初期処理が正常に完了した。このコマンドは、さらに、要求がキューに入れられたチャンネル・イニシエーターによる処置を必要とします。続いて、処置の成功または失敗を報告するメッセージがコマンド発行側に送信される。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターの要求がキューに入れられた。コマンドが完了すると、さらにメッセージが作成される。

CSQM138I

csect-name チャンネル・イニシエーターが開始しています。

重大度

0

説明

START CHINIT コマンドが実行され、チャンネル・イニシエーターのアドレス・スペースが正常に開始された。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーター自体が開始されると、さらにメッセージが作成される。

CSQM139I

csect-name 一時動的キューには INDXTYPE(MSGTOKEN) は許されません。

重大度

8

説明

メッセージ・トークンを使用して、メッセージを検索できる一時動的キューを定義または変更しようとした。この組み合わせは許可されない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値でコマンドを再発行する。

CSQM140I

csect-name 'keyword' は TRPTYPE(value) には許されません。

重大度

8

説明

指定したキーワードは、示されたトランスポート・タイプに対する START LISTENER コマンドで使用できない。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

正しいキーワードでコマンドを再発行する。

CSQM141I

csect-name 'LUNAME' が TRPTYPE(LU62) には必須です。

重大度

8

説明

TRPTYPE(LU62) を指定した START LISTENER コマンドが実行されたが、LUNAME キーワードがない。TRPTYPE(LU62) では、LUNAME キーワードが必要である。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

正しいキーワードでコマンドを再発行する。

CSQM142I

csect-name CLUSTER(*cluster-name*) リポジトリはこのキュー・マネージャーにはありません。

重大度

8

説明

RESET CLUSTER コマンドが出されたが、キュー・マネージャーは指定したクラスターに完全なりポジトリ管理サービスを提供しない。つまり、キュー・マネージャーの REPOS 属性が *cluster_name* ではないか、キュー・マネージャーの REPOSNL 属性で指定した名前リストに *cluster_name* が含まれていないか、名前リストのタイプが CLUSTER または NONE ではない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値を指定して、または正しいキュー・マネージャー上でコマンドを再発行する。

CSQM143I

csect-name クラスター・トピックは PSCLUS(DISABLED) が原因で禁止されます。

重大度

8

説明

PSCLUS キュー・マネージャー属性が DISABLED に設定されたときに、クラスター・トピックの定義が試行された。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスタリングを有効にする場合は、そのクラスターに含まれるすべてのキュー・マネージャーで PSCLUS 属性を ENABLED に変更する。

CSQM144I

csect-name keyword(value) はクラスター・キューにはできません。

重大度

8

説明

キューをクラスターの一部にするためにキューを定義または変更しようとした。キューが動的である場合や次の予約されたキューの1つである場合は、これは許可されない。

- SYSTEM.CHANNEL.INITQ
- SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ
- SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE
- SYSTEM.CLUSTER.REPOSITORY.QUEUE
- SYSTEM.COMMAND.INPUT
- SYSTEM.QSG.CHANNEL.SYNCQ
- SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値でコマンドを再発行する。

CSQM145I

csect-name 共有キューには 'keyword' 値が必要です。

重大度

8

説明

後処理が共有されるローカル・キュー、または共有される動的キューを作成するために使用されるモデル・キューの場合、このメッセージで示されたキーワードには非ブランク値を指定しなければならない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

追加されたキーワードに値を指定してコマンドを再発行する。

CSQM146I

csect-name keyword(value) 値が反復されています。

重大度

8

説明

値のリストをとるキーワードが入力されたが、指定された値がリストに複数回指定されている可能性がある。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを正しく指定してコマンドを再発行する。このコマンドについて詳しくは、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM147I

csect-name 'keyword1' と *'keyword2'* の値は両方ともブランクまたは両方とも非ブランクでなければなりません。

重大度

8

説明

指定されたキーワードの一方がブランク値で、もう一方が非ブランク値になるようなオブジェクトの定義または変更が試みられた。これらの値は両方ともブランクまたは非ブランクでなければならない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値でコマンドを再発行する。

CSQM148I

csect-name 'keyword' はタイプ *'value'* では指定できません。

重大度

8

説明

示されたキーワードは、示されたタイプのキューまたはチャンネルに指定できない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

このキーワードを使用せずにコマンドを再発行する。

CSQM149I

`csect-name 'keyword'` はタイプ '`value`' の場合に必須です。

重大度

8

説明

示されたキーワードが指定されなかったが、示されたタイプのキューまたはチャンネルに必要である。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

このキーワードを指定してコマンドを再発行する。

CSQM150I

値 `csect-name 'keyword1'` と '`keyword2`' には互換性がありません。

重大度

8

説明

指定のキーワードの値が非互換になるようなオブジェクトの定義または変更が試みられた。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値でコマンドを再発行する。キーワード値の制約事項については、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM151I

値 `csect-name 'keyword1'` と '`keyword2`' を両方とも非ブランクにすることはできません。

重大度

8

説明

指定のキーワードの値が両方とも非ブランクになるようなオブジェクトの定義または変更が試みられた。どちらか1つの値しか非ブランクにできない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値でコマンドを再発行する。

CSQM152I

`csect-name USAGE(XMITQ)` をクラスター・キューには指定できません。

重大度

8

説明

キューが伝送キューとなり、クラスター内に収まるように、キューを定義または変更しようとした。これは許可されません。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値でコマンドを再発行する。

CSQM153E

csect-name Db2 が使用できません。

重大度

8

説明

Db2 が使用不能であるか、今後使用不能になるため、キュー・マネージャーは CF 構造体または共有チャンネルに対するコマンドを処理できない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

z/OS コンソール上の先行するメッセージで Db2 が使用不能な理由を調べ、必要に応じて接続を再開するか Db2 を再始動する。

CSQM154E

csect-name Db2 にアクセス中にエラーが発生しました。

重大度

8

説明

Db2 にアクセス中にエラーがあったため、キュー・マネージャーは CF 構造体または共有チャンネルに対するコマンドを処理できない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージで報告されているエラーを解決する。

CSQM155I

csect-name STATUS(STOPPED) は QMNAME または CONNAME では許可されていません。

重大度

8

説明

STATUS(STOPPED) を使用してチャンネルを停止しようとしたが、キュー・マネージャー名または接続名も指定された。これは許可されません。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値でコマンドを再発行する。

CSQM156I

csect-name INDXTYPE(GROUPID) は *keyword(value)* には許可されていません。

重大度

8

説明

キューの索引タイプが GROUPID となるように、予約名を持つキューを定義または変更しようとした。これは許可されません。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値でコマンドを再発行する。

CSQM157E

csect-name keyword(value) 用のスペースがありません。

重大度

8

説明

カップリング・ファシリティに使用可能なアプリケーション構造体がこれ以上ないため (限度は 63)、IBM MQ DEFINE CFSTRUCT コマンドが失敗した。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

使用しているアプリケーション構造体の数を削減する。

CSQM158I

csect-name RECOVER(YES) は *CFLEVEL(value)* では許可されていません。

重大度

8

説明

リカバリーをサポートするように CF 構造体を定義または変更しようとしたが、CF 構造体のレベルが 3 より小さくなっていました。これは許可されません。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値でコマンドを再発行する。CF 構造体のレベルは変更できない。構造を削除して再定義する必要がある。

CSQM159I

csect-name verb-name object(obj-name) は許可されていません。キュー・マネージャー *CMDLEVEL* が非互換です。

重大度

8

説明

CF 構造体の CF レベルを変更しようとしたか、構造体を削除しようとした。このアクションでは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーが特定のコマンド・レベルである必要がある。一部のキュー・マネージャーのレベルがこれより低い。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーのコマンド・レベルが、適切なものとなるようにする。コマンドの制約事項については、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM160I

csect-name keyword(value) IS NOT UNIQUE

重大度

8

説明

キュー共有グループ内に複数の後処理を持つオブジェクトを参照するコマンドが発行されたため、使用されるオブジェクトを判別できない。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

オブジェクトの1つを削除する。

CSQM161I

csect-name キュー属性が非互換です。

重大度

8

説明

MOVE QLOCAL コマンドが発行されたが、関連するキューは、属性 DEFTYPE、HARDENBO、INDXTYPE、USAGE の1つ以上に対して異なる値を持っている。これらの属性が異なる場合、メッセージを安全に移動させることはできません。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

キュー名が正しく入力されたかどうかを調べる。必要な場合には、キュー属性を変更する。

CSQM162I

csect-name keyword(value) MAXDEPTH が小さ過ぎます。

重大度

8

説明

MOVE QLOCAL コマンドが発行されたが、ターゲット・キューの MAXDEPTH 属性値が小さすぎてすべてのメッセージを移動することはできない。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

キューに対して MAXDEPTH 値を変更する。

CSQM163I

csect-name keyword(value) の使用でエラー、MQRC=*mqrc (mqrc-text)*

重大度

8

説明

MOVE QLOCAL コマンドの処理中、指定されたキューをオープンしたり、またはそのメッセージの取得または書き込みを行おうとしたが、上記の理由で失敗した。例えば、メッセージが長過ぎる場合、ターゲット・キューへの書き込みは失敗する。

システム・アクション

コマンドは処理を停止する。一部のメッセージがすでに移動され、コミットされている場合、それらのメッセージはターゲット・キュー上に残る。残りのメッセージは移動されない。

システム・プログラマーの応答

mqrc の詳細については、1129 ページの『API 完了コードと理由コード』(*mqrc-text* で示されるのはテキスト形式での MQRC) を参照し、問題を解決するための適切な処置を取ってください。

CSQM164I

csect-name keyword(value) にはそれと関連するメッセージがあります。

重大度

8

説明

TYPE(MOVE) を指定して MOVE QLOCAL コマンドが出されたが、ターゲット・キューにはすでにそれと関連するメッセージがある。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

キュー名が正しく入力されたかどうかを調べる。キューにメッセージを追加することが安全であるかどうかを調べてから、TYPE(ADD) オプションを使用してコマンドを再発行する。

CSQM165I

csect-name n メッセージが移動しました。

重大度

0

説明

MOVE QLOCAL コマンドが実行され、示された数のメッセージを移動した。

コマンドが正常に完了し、キュー上にすべてのメッセージを移動した場合、このメッセージは、移動した数を確認する。メッセージの移動中にエラーが起こった場合、このメッセージは何個のメッセージがターゲット・キューに正常に移動され、コミットされたかを示す。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

コマンドが正常に完了しなかった場合(後続の CSQ9023E メッセージで示されているように)、先行のメッセージ内に報告されている問題を調べる。

CSQM166I

csect-name keyword(value) は許可されていません。

重大度

8

説明

指定されたオブジェクトにコマンドを使用するための正しい権限を持っていない。

システム・アクション

コマンドはそのオブジェクトに対して実行されない。

システム・プログラマーの応答

オブジェクト名が正しく入力されたかどうかを調べる。必要であれば、コマンドを実行するためのオブジェクトを使用することを許可されている人を割り当てるか、または必要な権限を自分で取得する。

CSQM167I

csect-name パフォーマンス・イベントが使用不可になりました。

重大度

8

説明

パフォーマンス・イベントを使用可能にすることを必要とするコマンドが出された。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

パフォーマンス・イベントが必要であれば、ALTER QMGR コマンドを使用して、PERFMV 属性を ENABLED に設定する。

CSQM168I

csect-name 構成イベントが使用不可になりました。

重大度

8

説明

構成イベントを使用可能にすることを必要とするコマンドが出された。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

構成イベントが必要であれば、ALTER QMGR コマンドを使用して、CONFIGEV 属性を ENABLED に設定する。

CSQM169I

csect-name object-type オブジェクト: *m* が見つかりました。 *n* イベントが生成されました。

重大度

0

説明

構成イベントに対して REFRESH QMGR コマンドが発行された。指定の選択基準(名前または変更の時刻など)と一致する、示されたタイプのオブジェクトが *m* 個見つかり、*n* 個のイベント・メッセージが生成された。特定のオブジェクト(一時動的キューや削除中のオブジェクトなど)は除外される場合があるため、イベント・メッセージの数は、見つかったオブジェクトの数より少ない場合がある。イベント・キューに問題があった場合も、イベント・メッセージの数は、見つかったオブジェクトの数より少ない場合がある。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

n が m より少ない場合でも、メッセージ CSQ9022I がこれらメッセージに続いて出され、コマンドが正常に完了したことが示される場合は、アクションは必要ない。このメッセージが出されない場合は、先行のメッセージで報告されたイベント・キューの問題を調べる。

CSQM170I

csect-name date time 以降の構成イベントをリフレッシュしています。

重大度

0

説明

INCLINT キーワードを使用してリフレッシュ間隔を指定する REFRESH QMGR コマンドが、構成イベントに対して発行された。変更日付と時刻が *date time* より後のすべてのオブジェクトについて、イベント・メッセージが生成される (オブジェクトが、名前またはタイプなどの他のすべての指定された選択基準と一致する場合)。ただし、イベント・メッセージは、その時刻より後に削除されたオブジェクトについて生成されることはない。

CSQM171I

csect-name 構成イベントのリフレッシュが必要です。

重大度

0

説明

構成イベントを使用可能にする ALTER QMGR コマンドが発行された。構成情報を完了し、最新の状態にするには、イベント・メッセージを生成する必要があります。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

完全な構成情報が必要な場合は、以下のいずれかの適切な方法を実行する。

- 構成イベントが初めて使用可能になった場合は、REFRESH QMGR TYPE(CONFIGEV) コマンドを使用して、すべてのオブジェクトの構成イベントを生成する。多くのオブジェクトがある場合は、各コマンドで異なるオブジェクトが選択されるようにし、すべてのオブジェクトを網羅するようにする。コマンドを複数使用することが望ましい。
- 構成イベントが初めて使用可能になったのではない場合は、REFRESH QMGR TYPE(CONFIGEV) コマンドを使用して、構成イベントが使用不可になっている間に生成されなかったイベントを置き換えるイベントを生成する。この期間を対象範囲とするには、INCLINT パラメーターを指定する。

CSQM172I

csect-name 'keyword' は TYPE(*value*) には許されません。

重大度

8

説明

示されたキーワードは、示された TYPE 値と一緒に指定できない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

このキーワードを使用せずにコマンドを再発行する。

CSQM173I

csect-name 期限切れメッセージのスキャンが m キューに要求されました。

重大度

0

説明

有効期限が切れたメッセージ走査に対して REFRESH QMGR コマンドが発行された。指定の選択基準と一致する *m* 個のキューが見つかった。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQM174E

csect-name 'keyword' は CFLEVEL(*cflevel*) では許可されていません - このキーワードには CFLEVEL(5) が必要です

重大度

8

説明

SMDS に関連した構造属性の値を定義または変更しようとしたが、構造のレベルが CFLEVEL(5) 未満だった。これは許可されません。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

正しい値を指定してコマンドを再度発行する。CF 構造体のレベルは変更できないため、構造を削除してから再定義する必要がある。

CSQM175E

csect-name この構造に対してデータ・セットが現在アクティブであるため、'keyword' を変更できません

重大度

8

説明

キーワード DSGROUP および DSBLOCK を変更できるのは、この構造に対して最初のデータ・セットが割り振られる前だけである。SMDS データ・セットがこの構造に対してアクティブになると、これらの属性値は変更できない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを正しく再発行する。

CSQM176E

csect-name SMDS は現在 *keyword(value)* にリセットできません。

重大度

8

説明

RESET SMDS コマンドにより、既存の状況と互換性がない状況の変更が要求された。

- オプション **STATUS(FAILED)** は、現在の状況が **ACTIVE** または **RECOVERED** である (または既に **FAILED** となっており、コマンドが無効になっている) 場合にのみ許可される。
- オプション **STATUS(RECOVERED)** は、現在の状況が **FAILED** である (または既に **RECOVERED** となっている) 場合にのみ許可される。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力を検査し、コマンドを正しく再発行する。

CSQM177I

csect-name 'keyword' はアクション 'value' では許可されません。

重大度

8

説明

示されたキーワードは、示されたアクションのチャンネル認証設定に指定できない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

このキーワードを使用せずにコマンドを再発行する。

CSQM178I

csect-name チャンネル *channel-type(channel-name)* に対するアクションは許可されていません。

重大度

8

説明

チャンネルに対して、指定したパラメーターを使用して、要求した MATCH(RUNCHECK) アクションを実行することができない。この原因は、以下のいずれかである可能性がある。

- チャンネルが SVRCONN であるのに、QMNAME パラメーターが提供された。
- チャンネルが SVRCONN でないのに、CLNTUSER パラメーターが提供された。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

指定されたパラメーターを訂正するか、チャンネルを適切なチャンネル・タイプに変更し、コマンドを再実行する。

CSQM179I

csect-name チャンネルは MCAUSER(*userid*) を使用して実行されます。

重大度

0

説明

指定されたフィールドに一致するチャンネル認証 (CHLAUTH) レコードが見つからなかった。

注:

1. 返される MCAUSER 値は、チャンネル・セキュリティー出口によって実行される可能性のあるアクションを考慮に入れていない。
2. ホスト名に一致するチャンネル認証規則が適用されるのは、キュー・マネージャーの REVDNS 属性が有効にされており、DNS サーバーが IP アドレスに対して有効なホスト名を返す場合のみである。

CSQM181I

csect-name ストレージが不十分なため、コマンドを完了できません。

重大度

8

説明

コマンドの処理を完了するための使用可能なストレージが不十分であった。

システム・アクション

コマンドは終了する。すでに完了したすべての処理は保存またはバックアウトされることがある。

システム・プログラマーの応答

付随するメッセージを参照して、どのような処理が実行されたかを判別する。必要であれば、キュー・マネージャーがビジーでないときにコマンドを再試行する。それでもまだ問題が解決されない場合には、キュー・マネージャーに使用される領域サイズを大きくするか、または、システムで実行中のジョブの数を少なくする必要がある場合がある。

CSQM182E

csect-name 永続サブスクリプションは許可されません。

重大度

8

説明

DEFINE SUB コマンドが発行されたが、永続サブスクリプションを作成できなかった。

この原因は、次のいずれかである。

- サブスクライブ先のトピックが DURSUB(NO) として定義されている。
- SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE という名前のキューを使用できない。
- CSQINP2 データ・セットの順序に誤りがある。順序は以下のとおりにする。

```
//CSQINP2 DD DSN=h1q.SCSQPROC(CSQ4INYS),DISP=SHR // DD
DSN=h1q.SCSQPROC(CSQ4INSX),DISP=SHR
// DD DSN=h1q.SCSQPROC(CSQ4INSG),DISP=SHR
```

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

永続サブスクリプションは SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE に保管されます。このキューが使用可能であるようにしてください。失敗の原因として、キューが満杯である、キューが書き込み禁止になっている、またはキューが存在しないことが考えられる。

サブスクライブ先のトピックが DURSUB(NO) として定義されている場合は、サブスクリプションの管理上の定義は行えない。トピックを DURSUB(YES) に変更することで、サブスクリプションを定義できるようになる。

CSQM183E

csect-name サブスクリプションは使用禁止です。

重大度

8

説明

DEFINE SUB コマンドが発行されたが、サブスクライブされるトピックが SUB(DISABLED) と定義されているため、サブスクリプションを作成できなかった。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

サブスクライブされるトピックが SUB(DISABLED) と定義されている場合は、サブスクリプションの管理上の定義は行えない。トピックを SUB(ENABLED) に変更することにより、サブスクリプションを定義できるようになる。

CSQM184I

`csect-name 'keyword1'` および `'keyword2'` 値は、両方ともブランクにはできません。

重大度

8

説明

指定のキーワードの値が両方ともブランクになるようなオブジェクトの定義または変更が試みられた。これらのいずれかの値を指定する必要がある。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値でコマンドを再発行する。

CSQM185E

`csect-name` サブスクリプションには固定 SUBUSER があります。

重大度

8

説明

ALTER SUB コマンドが発行されたが、ALTER を実行するユーザー ID がサブスクリプションの SUBUSER 属性と一致せず、サブスクリプションに VARUSER(FIXED) 属性が設定されているため、ターゲット・サブスクリプションを変更できなかった。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

SUBUSER 属性に示される所有ユーザー ID のみがサブスクリプションを変更できる。

CSQM186E

`csect-name DESTCLAS` 値は変更できません。

重大度

8

説明

ALTER SUB コマンドが発行されたが、要求で指定された DESTCLAS 属性が既存のサブスクリプションのものと一致しなかったため、ターゲット・サブスクリプションを変更できなかった。DESTCLAS を変更することはできない。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

DESTCLAS 属性が既存のサブスクリプションと一致するようにし、要求を再実行する。

CSQM187E

`csect-name GROUPING` 値は変更できません。

重大度

8

説明

ALTER SUB コマンドが発行されたが、要求で指定された GROUPING 属性が既存のサブスクリプションのものと一致しなかったため、ターゲット・サブスクリプションを変更できなかった。GROUPING 属性を変更することはできない。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

GROUPING 属性が既存のサブスクリプションと一致するようにし、要求を再実行する。

CSQM188E

csect-name SUBSCOPE 値は変更できません。

重大度

8

説明

ALTER SUB コマンドが発行されたが、要求で指定された SUBSCOPE 属性が既存のサブスクリプションのものと一致しなかったため、ターゲット・サブスクリプションを変更できなかった。SUBSCOPE を変更することはできない。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

SUBSCOPE 属性が既存のサブスクリプションと一致するようにし、要求を再実行する。

CSQM189E

csect-name SELECTOR 値は変更できません。

重大度

8

説明

ALTER SUB コマンドが発行されたが、要求で指定された SELECTOR 属性が既存のサブスクリプションのものと一致しなかったため、ターゲット・サブスクリプションを変更できなかった。SELECTOR を変更することはできない。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

SELECTOR 属性が既存のサブスクリプションと一致するようにし、要求を再実行する。

CSQM190E

csect-name トピック・ストリングが無効です。

重大度

8

説明

DEFINE SUB コマンドが発行されたが、トピック・ストリングが無効なため、サブスクリプションを作成できなかった。

原因として、WSHEMA 属性が CHAR に設定されていて、次のいずれかに該当する場合が考えられる。

- TOPICSTR 属性に無効なエスケープ文字が含まれている、または
- TOPICOBJ 属性が参照している TOPIC オブジェクトの TOPICSTR 属性に、無効なエスケープ文字が含まれている。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

エスケープ文字を正しく使用するように、**DEFINE SUB** コマンドの **TOPICSTR** 属性を訂正する。問題が **TOPIC** オブジェクトの **TOPICSTR** にある場合は、その **TOPIC** オブジェクトを訂正するか、または別の **TOPIC** オブジェクトを参照。 **TOPICSTR** でその文字をその方法で使用することが必要な場合は、エスケープ文字によるエラーを回避するために **WSHEMA** 属性を **TOPIC** に設定する。

CSQM191E

csect-name トピック・ストリングは変更できません

重大度

8

説明

REPLACE キーワードを使用して **DEFINE TOPIC** コマンドが実行され、既存のオブジェクト内の値とは異なる **TOPICSTR** の値が提供された。これは許可されません。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

正しい値でコマンドを再発行する。トピック・オブジェクトのトピック・ストリングは変更できない。オブジェクトを削除して再定義する必要がある。

CSQM192I

csect-name アドレス '*address*' が無効です。

重大度

8

説明

IP アドレスまたはホスト名 *address* に無効文字が含まれている。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを正しく指定してコマンドを再発行する。 **BLOCKADDR** リストには、IP アドレスしか含めることができない点に注意してください。ホスト名アドレスは許可されません。

CSQM193I

csect-name IP アドレス '*ipaddress*' に無効な範囲が含まれています。

重大度

8

説明

IP アドレス *ipaddress* に無効な範囲が含まれている。例えば、範囲の下位の数字が上位の数字より大きいか等しい場合などである。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを正しく指定してコマンドを再発行する。

CSQM194I

csect-name IP アドレス '*ipaddress1*' が既存の IP アドレス '*ipaddress2*' とオーバーラップしています。

重大度

8

説明

IP アドレス *ipaddress1* が既存の IP アドレス *ipaddress2* とオーバーラップしている。例えば、アドレス 1.2.3.4-7 と 1.2.3.6-8 はオーバーラップしている。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを正しく指定してコマンドを再発行する。

CSQM195I

csect-name MATCH RUNCHECK で *field-name* に汎用値が見つかりました

重大度

8

説明

MATCH(RUNCHECK) パラメーターを使用して DISPLAY **CHLAUTH** コマンドが発行され、*field-name* パラメーターに許可されていない汎用値が含まれていることが検出された。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

field-name に汎用値以外の値を指定して、コマンドを再発行する。

CSQM196I

csect-name keyword(value) に必要なキーワードがありません

重大度

8

説明

追加の必須キーワードが *keyword (value)* と共に指定されなかった。

このメッセージは、以下のシナリオで返される可能性がある。

- **MATCH(RUNCHECK)** を指定した **DISPLAY CHLAUTH** コマンドが、**ADDRESS** キーワード、および **CLNTUSR** または **QMNAME** のキーワードを指定しなかった。
- **USERSRC(MAP)** が指定されている場合に **SET CHLAUTH** コマンド **MCAUSER** が欠落している、または **USERSRC(MAP)** がデフォルトの場合に **USERSRC** が欠落している。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

必須キーワードのいずれかを指定してコマンドを再発行する。

CSQM197I

csect-name 'keyword' は WITH MATCH '*value*' と共に指定できません

重大度

8

説明

MATCH キーワードに特定された値と共に、示されたキーワードを **DISPLAY CHLAUTH** に対して指定できない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

このキーワードを使用せずにコマンドを再発行する。

CSQM198I

csect-name チャンネル認証プロファイル名が無効です

重大度

8

説明

コマンドで使用されたチャンネル・プロファイル名が無効である。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

プロファイルに入力した文字が有効であることを確認し、コマンドを再発行する。TYPE(BLOCKADDR)を指定している場合は、CHLAUTH(*)も指定していることを確認する。

CSQM199I

csect-name CFCONLOS (TOLERATE) は許可されていません。キュー・マネージャー CMDLEVELS が非互換です。

重大度

8

説明

CFCONLOS キュー・マネージャー属性を、カップリング・ファシリティ構造体との接続を喪失してもそれに耐えられるようにする値 **TOLERATE** に変更する試みが行われた。このアクションでは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーのコマンド・レベルが、最低でも 710 でなければならない。一部のキュー・マネージャーのレベルがこれより低い。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーのコマンド・レベルが、適切なものとなるようにする。コマンドの制約事項については、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQM201I

csect-name verb-name obj-type 詳細

重大度

0

説明

このメッセージは、コンソールまたはコマンド・サーバー初期設定サーバーのいずれかからそのコマンドが入力されたときに、属性またはオブジェクトに関するその他の情報を表示するコマンドに対する応答である。これにより、*obj-type* に対して要求された以下の属性が表示される。

```
obj-type(name) attribute-value attribute-value : END obj-type DETAILS
```

属性および値について詳しくは、特定の[コマンド](#)を参照。

コマンドを入力したときの方法にもよるが、*csect-name* にコマンド接頭部 (CPF) が組み込まれる場合もある。

例外的に、最終行は、次のようになる可能性がある。

```
obj-type TERMINATED WITH MAX LINES
```

ただし、コンソールに発行される複数行 WTO で許可される行数 (255) を超えた場合。この数字は、表示の最初の行と最後の行を含む。完全な名前リストを表示するには合計で 263 行が必要であるので、このメッセージが出される可能性のあるオブジェクトは、名前リストだけである。(このメッセージは、コマンドがコンソールから出された場合以外は表示されない。) 報告されたフィールドについて詳しくは、コマンドの説明を参照。

CSQM224I

csect-name verb-name obj-type 詳細 - 現在使用不可です。

重大度

0

説明

このメッセージは、CHLAUTH キュー・マネージャー属性が DISABLED に設定されている場合に、チャネル認証 (CHLAUTH) レコードの CSQM201I の代わりに発行される。

詳細については、メッセージ CSQM201I の説明を参照。

CSQM292I

csect-name パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは使用不可です。

重大度

0

説明

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは、使用不可にされているために、使用できません。

システム・アクション

コマンドは出されたが、パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンが使用不可であったために結果は何も返されなかった。

システム・プログラマーの応答

このメッセージが出るのは、パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンを使用不可にしてあるのにそれに対する照会を出そうとしているからである。パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンを使用するには、PSMODE キュー・マネージャー属性を DISABLED 以外の値に設定する。

CSQM293I

csect-name 要求した基準に一致する *m obj-type* が見つかりました。

重大度

0

説明

オブジェクトの属性または他の情報を表示するコマンドが発行された。指定の選択基準と一致する *m* 個のオブジェクトが見つかった。

システム・アクション

見つかったオブジェクトごとに、詳細を示すメッセージが続く。

CSQM294I

csect-name DB2 から情報を取得できません。

重大度

8

説明

後処理が GROUP または SHARED であるオブジェクトの属性または他の情報を表示するコマンドの処理中に、Db2 から情報を入手できなかった。これは、Db2 が使用不能であるか使用できなくなったためか、それが中断したためか、Db2 へのアクセス中にエラーが発生したためか、あるいは Db2 表が一時的にロックされていたためであると考えられる。

システム・アクション

後処理が GROUP または SHARED であるオブジェクトについての情報は表示されないの、表示される情報は不完全な場合がある。

システム・プログラマーの応答

詳しいエラー情報を提供するメッセージについては、コンソール・ログを参照。

CSQM295I

csect-name 表示中に予期しないエラーです。

重大度

8

説明

オブジェクトに関する属性などの情報を表示するコマンドを処理中に重大エラーが起こった。

システム・アクション

コマンドは終了する。

システム・プログラマーの応答

詳しいエラー情報を提供するメッセージについては、コンソール・ログを参照。

CSQM297I

csect-name 要求した基準に一致する *item* は見つかりませんでした。

重大度

0

説明

オブジェクトに関する属性またはその他の情報、または実行時状況を表示するコマンドが、指定された名前と一致し、要求されたその他の基準 (キュー共有グループ内のサブタイプまたは後処理など) を満たす項目がないことを検出した。

CSQM298I

csect-name コンソールで使える全メッセージ長を超えました。

重大度

8

説明

コンソールで許可されるコマンドの合計メッセージ長 (32 K) を超えた。

システム・アクション

コマンドは処理されるが、コマンドの表示は打ち切られる。

システム・プログラマーの応答

このエラーは、オブジェクトに関する属性またはその他の情報を表示するコマンドが総称名 (例えば、DIS Q(*) ALL) を使用して入力され、表示されるデータの合計量が 32 K を超えている場合に発生します。この問題を回避するには、要求する情報をさらに限定してください (例えば、DIS Q(PAY*) ALL)。

CSQM299I

csect-name 記憶域が不十分なため、表示を完了できません。

重大度

8

説明

属性またはオブジェクトに関するその他の情報を表示するコマンドの処理を完了するための使用可能なストレージが不十分であった。

システム・アクション

コマンドは処理されるが、完了前に情報の表示は打ち切られる。返されるデータは、要求された情報のサブセットである。情報が返されたオブジェクトの数はメッセージ CSQM293I に示されているので、これを参照。見つかった一致オブジェクトの数はこのメッセージに示されない。

システム・プログラマーの応答

汎用名がコマンド (例えば、DIS QUEUE(*) ALL) 内で使用されるときに、このエラーが発生した場合には、要求する情報をもう少し限定するようにする (例えば、DIS QUEUE(PAY*) ALL)。それでもまだ問題が解決されない場合には、キュー・マネージャーあるいはチャンネル・イニシエーターに使用される領域サイズを大きくするか、または、システムで実行中のジョブの数を少なくする必要がある。

CSQM4nnI

object details

重大度

0

説明

このメッセージは、オブジェクト全体、またはアプリケーションで使用できるようにフォーマットされたオブジェクト状態の詳細により構成される。これは、コマンド・サーバーから入力されたコマンドに対する応答として出される。この後にメッセージ CSQ9022I が続く。

メッセージ番号は、オブジェクトまたはオブジェクト状況のタイプによって、以下のようになる。

数値	オブジェクトまたは状況タイプ
CSQM400I	ストレージ・クラス・オブジェクト
CSQM401I	ローカル・キュー・オブジェクト
CSQM402I	モデル・キュー・オブジェクト
CSQM403I	別名キュー・オブジェクト
CSQM406I	リモート・キュー・オブジェクト
CSQM407I	名前リスト・オブジェクト
CSQM408I	プロセス・オブジェクト
CSQM409I	キュー・マネージャー・オブジェクト
CSQM410I	送信側チャンネル・オブジェクト
CSQM411I	サーバー・チャンネル・オブジェクト
CSQM412I	受信側チャンネル・オブジェクト
CSQM413I	要求側チャンネル・オブジェクト
CSQM415I	サーバー接続チャンネル・オブジェクト
CSQM416I	クライアント接続チャンネル・オブジェクト

表 13. メッセージ番号からオブジェクトまたは状況タイプへのマッピング (続き)	
数値	オブジェクトまたは状況タイプ
CSQM417I	クラスター受信側チャンネル・オブジェクト
CSQM418I	クラスター送信側チャンネル・オブジェクト
CSQM420I	送信側チャンネル状況
CSQM421I	サーバー・チャンネル状況
CSQM422I	受信側チャンネル状況
CSQM423I	要求側チャンネル状況
CSQM425I	サーバー接続チャンネル状況
CSQM427I	クラスター受信側チャンネル状況
CSQM428I	クラスター送信側チャンネル状況
CSQM430I	CF 構造体オブジェクト
CSQM431I	クラスター・キュー・オブジェクト
CSQM437I	認証情報オブジェクト
CSQM438I	トピック・オブジェクト
CSQM439I	クラスター・キュー・マネージャー・オブジェクト
CSQM440I	CF 構造体状況
CSQM441I	ローカル・キュー状況
CSQM442I	接続情報
CSQM443I	Topic status
CSQM444I	サブスクリプション
CSQM445I	サブスクリプション状況
CSQM446I	パブリッシュ/サブスクライブ状況
CSQM451I	ローカル・キュー統計
CSQM452I	共有メッセージ・データ・セット
CSQM453I	共有メッセージ・データ・セット接続
CSQM454I	チャンネル認証レコード

CSQM500I

csect-name GROUPUR エージェントが開始中です。TCB=*tcb-name*

重大度

0

説明

キュー共有グループ内にあるキュー・マネージャーの初期設定中に、グループ回復単位 (GROUPUR) エージェントが開始された。エージェントは TCB *tcb-name* を使用する。

GROUPUR エージェントは、SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE をモニターし、QSG 内の他のキュー・マネージャーからの要求を処理する。

システム・アクション

処理を続行する。GROUPUR エージェントは開始される。

CSQM501I

CSQM501I:csect-name GROUPUR エージェントが停止中です。

重大度

4

説明

グループ回復単位 (GROUPUR) エージェントが、以下の理由の 1 つによって停止中である。

- キュー・マネージャーが停止している。
- IBM MQ API エラーまたは異常終了から回復することができなかった。

システム・アクション

GROUPUR は停止する。

エラーが原因でエージェントが停止した場合は自動的に再始動する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが停止していない場合、先行するメッセージで報告されているように、エラーの原因を調べる。

CSQM502I

csect-name 未確定の UOW、URID=urid、接続名=name について、qmgr-name からの BACKOUT 要求を処理しました。

重大度

0

説明

このメッセージはキュー・マネージャーの始動中に生成されるものであり、指定された UOW のバックアウトを要求する、キュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーからの SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE 上のメッセージが、GROUPUR エージェントによって処理された場合に出される。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQM503I

csect-name 未確定の UOW、URID=urid、接続名=name について、qmgr-name からの COMMIT 要求を処理しました。

重大度

0

説明

このメッセージはキュー・マネージャーの始動中に生成されるものであり、指定された UOW のコミットを要求する、キュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーからの SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE 上のメッセージが、GROUPUR エージェントによって処理された場合に出される。

システム・アクション

始動処理が継続される。

CSQM504I

csect-name GROUPUR サポートが使用可能です。

重大度

0

説明

このメッセージは、GROUPPUR キュー・マネージャー属性が使用可能になっており、GROUPPUR エージェントによって実行されるすべての構成検査に合格した場合に、キュー・マネージャーの始動時か、ALTER QMGR コマンドに対する応答として生成される。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、アプリケーションが GROUP 回復単位の後処理とのトランザクションを確立できるようにする。

CSQM505I

csect-name GROUPPUR サポートが使用不可です。

重大度

0

説明

このメッセージは、GROUPPUR キュー・マネージャー属性が使用不可になっている場合に、キュー・マネージャーの始動時か、ALTER QMGR コマンドに対する応答として生成される。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、アプリケーションによる GROUP 回復単位の後処理とのトランザクションの確立を禁止する。

CSQM506I

csect-name GROUPPUR qmgr 属性が使用不可にされています。CODE=コード

重大度

4

説明

このメッセージは、GROUPPUR キュー・マネージャー属性が使用可能になっているが、GROUPPUR エージェントによって実行される構成検査の1つが失敗した場合、キュー・マネージャーの始動時に生成される。CODE=*code* に、失敗した構成チェックを示す ID が含まれています。

システム・アクション

GROUPPUR キュー・マネージャー属性は使用不可です。

システム・プログラマーの応答

システム・プログラマーは、指定されたコードを使用して、失敗した構成検査を識別する必要がある。グループ回復単位をサポートが必要な場合、修正アクションを行い、その後 GROUPPUR キュー・マネージャー属性を再び使用可能にする必要がある。

CSQM507E

csect-name GROUPPUR qmgr 属性が使用可能になっていませんでした。CODE=*code*

重大度

8

説明

このメッセージは ALTER QMGR コマンドに対する応答として、GROUPPUR エージェントによって行われた構成検査のいずれかに合格しなかったために GROUPPUR キュー・マネージャー属性を使用可能化が失敗した場合に生成される。CODE=*code* に、失敗した構成チェックを示す ID が含まれています。

システム・アクション

GROUPPUR キュー・マネージャー属性は使用不可のまま、ALTER QMGR コマンドが失敗する。

システム・プログラマーの応答

システム・プログラマーは、指定されたコードを使用して、失敗した構成検査を識別する必要がある。その後、修正アクションを行い、ALTER QMGR コマンドを再発行する必要がある。

グループ回復単位 (GROUPUR サポート) を使用可能にする際、構成ステップの完了を確認するためにいくつかの構成検査が実行される。検査のいずれかが失敗した場合は、このサポートを有効にすることはできません。

これらの検査は、GROUPUR キュー・マネージャー属性が使用可能になっている場合、キュー・マネージャーの始動時にも実行される。始動時にこれらの検査のうちのいずれかが失敗した場合、エラーを訂正し、GROUPUR キュー・マネージャー属性を再び使用可能にするまで、グループ回復単位は使用不可になる。

検査が失敗した場合、戻りコード (番号) によって識別される。このコードを使用し、以下のリストを使って失敗の検査を識別することができる。

1. このキュー・マネージャーはキュー共有グループのメンバーではない。
2. SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE が存在しない。
3. SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE は持続メッセージをサポートしない。
4. SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE は関連 ID によって索引付けられていない。
5. SYSTEM.QSG.UR.RESOLUTION.QUEUE がシステム・アプリケーションのカップリング・ファシリテーターの構造体 CSQSYSAPPL に存在しない。
6. キュー・マネージャー名がキュー共有グループの名前と同じである。

CSQM508E

csect-name GROUPUR エージェントが異常終了しました。再始動中です。

重大度
8

説明

先行のメッセージに報告されているように、重大なエラーが起こったため、グループ回復単位 (GROUPUR) エージェントは異常終了した。

システム・アクション

グループ回復単位 (GROUPUR) エージェントは、何度か再始動しようとする。それが持続的に失敗すると、終了します。

システム・プログラマーの応答

CSQSYSAPPL と呼ばれる CFSTRUCT が GROUPUR 操作用に構成されていることを確認する。[GROUP 回復単位の使用可能化](#)を参照。

先行するメッセージで報告されているように、異常終了の理由を調べる。

CSQM520I

csect-name PSCLUS CANNOT BE ALTERED, CLUSTER TOPICS EXIST

重大度
8

説明

キュー・マネージャー間のパブリッシュ/サブスクライブ・アクティビティーがこのクラスター内では予期されていないことを示すために、PSCLUS キュー・マネージャー属性を DISABLED に設定しようとしたが、クラスター・トピックが存在しているため、設定を変更できません。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターリングを無効にする場合は、そのクラスターに含まれるすべてのキュー・マネージャーで PSCLUS 属性を DISABLED に変更する前に、すべてのクラスター・トピック・オブジェクトを削除する。

CSQM521I

csect-name CLCHNAME MUST BE BLANK FOR DYNAMIC QUEUE

重大度

8

説明

CLCHNAME 属性の非ブランク値を持つ動的キューを定義または変更しようとしたが、許可されない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

互換性のある属性値を指定してコマンドを再発行する。

CSQM522I

csect-name NOSHARE NOT ALLOWED WITH NON-BLANK CLCHNAME

重大度

8

説明

CLCHNAME 属性の非ブランク値を持つキューを定義または変更しようとしたが、NOSHARE が指定または暗黙指定された。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

SHARE または CLCHNAME 属性のブランク値を指定して、コマンドを再発行する。

CSQM523I

csect-name CLUSTER OR CLROUTE CANNOT CURRENTLY BE ALTERED

重大度

8

説明

指定されたクラスターに現在含まれている管理対象トピックを変更しようとした。トピックがクラスター内にある場合、CLROUTE 属性を変更することはできず、CLROUTE が TOPICHOST に設定されているときは CLUSTER 属性を代替クラスター名に変更することはできない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

CLROUTE 属性または CLUSTER 属性を変更するには、以下のアクションを実行する。

1. トピックに対するパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージングを静止する。
2. クラスターからトピックを削除するために、CLUSTER 属性の値にブランクを設定する。
3. トピックがクラスターから削除された後、CLROUTE 属性および CLUSTER 属性をそれぞれ必要な値に設定する。
4. 変更がクラスター内に表示され、キュー・マネージャーがリモート・サブスクリプションのプロキシ・サブスクリプションを受け取るようになったら、パブリッシュ/サブスクライブ・メッセージングを再開する。

CSQM524I

csect-name CLROUTE CONFLICT DETECTED FOR CLUSTER TOPIC

重大度

8

説明

クラスター・トピックを定義しようとしたが、CLROUTE 属性の値が、トピック・ツリーの上または下にある既存のトピックと競合します。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

トピック・ツリーのクラスター・ルーティングの要件を確認してから、コマンドを修正して再発行します。

CSQM525I

csect-name obj-type(obj-name) DOES NOT EXIST OR IS DEFINED INCORRECTLY

重大度

8

説明

タイプ *obj-type* の *obj-name* という名前のオブジェクトが存在しないか、誤って定義されているため、キュー・マネージャーは要求された操作を完了できませんでした。

システム・アクション

操作の処理が終了します。

システム・プログラマーの応答

オブジェクトが正しく定義されていることを確認してから、操作を再試行してください。

システム・オブジェクトの定義方法については、[IBM MQ で提供されるサンプル定義](#)を参照してください。

このメッセージがモデル・キュー SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.MODEL.QUEUE に対して発行され、このキューが定義されている場合、このキューに以下の属性が指定されていることを確認してください。

- **USAGE** 属性は **XMITQ** に設定されている必要があります
- **QSGDISP** 属性は **SHARED** にすることはできません
- **DEFTYPE** 属性は **PERMDYN** に設定されている必要があります
- **INDXTYPE** 属性は **CORRELID** に設定する必要があります。
- **SHARE** 属性が設定されている必要があります

CSQM526I

csect-name CERTIFICATE LABEL NOT ALLOWED FOR SSLv3 CHANNEL

重大度

8

説明

SSL v3 CipherSpec を使用するインバウンド・チャンネルに対して証明書ラベルを指定しようとしたが、これは許可されていない。インバウンド・チャンネルの証明書ラベルがサポートされるのは TLS チャンネルのみである。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

証明書ラベルを構成する必要がある場合には TLS CipherSpec を使用するようにチャンネルを変更する。

CSQM527E

csect-name attribute(value) NOT ALLOWED WITH CHANNEL TYPE CHANNEL-TYPE

重大度

8

説明

指定されたチャンネル・タイプには適用されないチャンネル属性と値の組み合わせを指定しようとした。

CHLTYPE が SDR または SVR のチャンネルで SPLPROT(ASPOLICY) が指定されたか、CHLTYPE が RCVR または RQSTR のチャンネルで SPLPROT(REMOVE) が指定された。これらの組み合わせは無効である。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

それぞれのチャンネル・タイプに有効な属性と値の組み合わせが指定されていることを確認してください。詳細については、DEFINE CHANNEL コマンドの [SPLPROT](#) を参照してください。

CSQM528E

SSLCIPH(暗号仕様名) はサポートされていません

重大度

8

説明

指定された暗号仕様名は、このキュー・マネージャーではサポートされません。

システム・アクション

チャンネル定義の定義または変更が失敗する。

システム・プログラマーの応答

サポートされる暗号仕様のリストについては、[IBM MQ 9.2.0 からの CipherSpec の順序](#)を参照し、これらの1つを指定してください。

CSQM529E

SSLCIPH(暗号仕様名) が AllowedCipherSpecs リストにありません

重大度

8

説明

指定された暗号仕様名が、キュー・マネージャー始動プロシージャに指定されている QMINI データ・セットに定義されている AllowedCipherSpecs のリストに含まれていない。

システム・アクション

チャンネル定義の定義または変更が失敗する。

システム・プログラマーの応答

AllowedCipherSpecs のリストに含まれている暗号仕様を定義するか、暗号仕様を AllowedCipherSpecs に追加してから、キュー・マネージャーを再始動してください。

CSQM530E

AllowedCipherSpecs リストにサポートされていない暗号仕様が含まれています。(Unsupported cipher specification in AllowedCipherSpecs list.)

重大度

8

説明

QMINI データ・セットの AllowedCipherSpecs リストに、キュー・マネージャーでサポートされない暗号仕様が指定されています。指定された暗号仕様が TLS V1.3 暗号仕様であり、キュー・マネージャーが実行されている z/OS のバージョンが、TLS V1.3 機能をサポートしていない可能性があります。

TLS V1.3 機能を使用できるようにするには、z/OS オペレーティング・システムが V2.4 以上でなければなりません。

システム・アクション

チャンネル定義の定義または変更が失敗する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止させます。QMINI データ・セットの AllowedCipherSpec リストから TLS V1.3 暗号指定を除去またはコメント化するか、または TLS V1.3 をサポートする z/OS オペレーティング・システムのバージョンにアップグレードしてください。キュー・マネージャーを再始動し、サポートされている暗号仕様が指定してチャンネルを再定義します。

CSQM550I

csect-name チャンネル *channel-name* の伝送キューの *old-xmitq* から *new-xmitq* への切り替えを開始しました。

重大度

0

説明

channel-name によって識別されるチャンネル用の伝送キューの切り替えは、キュー・マネージャーのデフォルト・クラスター伝送キュー構成の変更、またはクラスター伝送キューのクラスター・チャンネル名属性への変更によって必要とされます。このメッセージは、伝送キューを *old-xmitq* から *new-xmitq* に切り替えるプロセスが開始されたときに、キュー・マネージャーによって発行されます。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQM551I

csect-name チャンネル *channel-name* の伝送キューの切り替えが完了しました。*num-msgs* メッセージが *old-xmitq* から *new-xmitq* に移動されました

重大度

0

説明

channel-name によって識別されるチャンネル用の伝送キューの切り替えは、キュー・マネージャーのデフォルト・クラスター伝送キュー構成の変更、またはクラスター伝送キューのクラスター・チャンネル名属性への変更のために、必要とされました。このメッセージは、伝送キューを *old-xmitq* から *new-xmitq* に切り替える処理が完了したときに、キュー・マネージャーによって発行されます。

切り替え処理の間、キュー・マネージャーは *num-msgs* メッセージを *old-xmitq* から *new-xmitq* に移動しました。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQM552E

csect-name チャンネル *channel-name* の伝送キューの *old-xmitq* から *new-xmitq* への切り替えが失敗しました

重大度

4

説明

channel-name によって識別されるチャンネル用の伝送キューの切り替えは、キュー・マネージャーのデフォルト・クラスター伝送キュー構成の変更、またはクラスター伝送キューのクラスター・チャンネル名属性への変更によって必要とされます。このメッセージは、伝送キューを *old-xmitq* から *new-xmitq* に切り替える処理を開始しようとしたときにエラーが発生すると発行されます。

システム・アクション

伝送キューの切り替え処理は開始されず、チャンネルは伝送キュー *old-xmitq* を引き続き使用します。

キュー・マネージャーは、次にチャンネルが開始するときに、切り替え処理の開始を再試行します。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージで報告されたように、伝送キューの切り替え処理を開始できない理由を調べます。

CSQM553I

csect-name チャンネル *channel-name* のメッセージを伝送キュー *old-xmitq* から *new-xmitq* に移動しました

重大度

0

説明

channel-name によって識別されるチャンネル用の伝送キューの切り替えは、キュー・マネージャーのデフォルト・クラスター伝送キュー構成の変更、またはクラスター伝送キューのクラスター・チャンネル名属性への変更によって必要とされます。このメッセージは、古い伝送キュー *old-xmitq* から新しい伝送キュー *new-xmitq* へのメッセージの移動プロセスが開始すると、発行されます。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQM554I

csect-name チャンネル *channel-name* の *num-msgs* 個のメッセージが伝送キュー *old-xmitq* から *new-xmitq* に移動しました - *remaining-msgs* 個のメッセージが残っています

重大度

0

説明

channel-name によって識別されるチャンネル用の伝送キューの切り替えは、キュー・マネージャーのデフォルト・クラスター伝送キュー構成の変更、またはクラスター伝送キューのクラスター・チャンネル名属性への変更によって必要とされます。伝送キューの切り替えでは、メッセージを古い伝送キュー *old-xmitq* から新しい伝送キュー *new-xmitq* に移動する必要があります。このメッセージは、この操作の進行状況について報告するために繰り返し出されます。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージが繰り返し出される場合、古い伝送キューがこのチャンネルのメッセージを移動し切ることができず、切り替え処理が完了できないことを意味する場合があります。アプリケーションは、切

り替え処理の間、順番を保持するために、メッセージを引き続き古い伝送キューに書き込みます。切り替え処理を完了できない場合、それは、切り替え処理によるメッセージの移動よりも古い伝送キューにメッセージが入れられる速度の方が速いか、そのチャンネルにおいて未コミット・メッセージが古い伝送キューに残されている可能性があります。

CSQM555E

csect-name チャンネル *channel-name* のメッセージの伝送キュー *old-xmitq* から *new-xmitq* への移動に失敗しました

重大度

8

説明

channel-name によって識別されるチャンネル用の伝送キューの切り替えは、キュー・マネージャーのデフォルト・クラスター伝送キュー構成の変更、またはクラスター伝送キューのクラスター・チャンネル名属性への変更によって必要とされます。伝送キューの切り替えでは、チャンネルのメッセージを古い伝送キュー *old-xmitq* から新しい伝送キュー *new-xmitq* に移動する必要があります。このメッセージは、これらのメッセージの移動中にエラーが発生した場合に発行されます。

システム・アクション

古い伝送キューから新しい伝送キューへのメッセージの移動が停止します。古い伝送キューにある既存のすべてのメッセージと、アプリケーションによって書き込まれる新規のメッセージは、古い伝送キューに残り、切り替え処理を再開するアクションが実行されるまで、クラスター送信側チャンネルで送信することはできません。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージを使用してエラーの原因を識別および解決できます。その後、チャンネルを停止して開始するか、[CSQUTIL ユーティリティ](#)を使用して切り替え操作を再開することによって、切り替え処理を再開します。

CSQM556E

csect-name チャンネル *channel-name* の伝送キュー *xmitq-name* を開くことができません。
MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

伝送キューの切り替えでは、チャンネルのメッセージを古い伝送キューから新しい伝送キューに移動する必要があります。このメッセージは、この操作を実行しようとしたときに、理由 *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式の MQRC) のために、古い伝送キュー *xmitq-name* が開けなかった場合に発行されます。

システム・アクション

古い伝送キューから新しい伝送キューへのメッセージの移動を完了できないため、切り替え処理操作は失敗します。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用してエラーの原因を識別および解決できます。その後、チャンネルを停止して開始するか、[CSQUTIL ユーティリティ](#)を使用して切り替え操作を再開することによって、切り替え処理を再開します。エラーを解決できない場合、または古い伝送キューが削除されている場合、[CSQUTIL ユーティリティ](#)を使用して、メッセージを古い伝送キューから新しい伝送キューに移動せずに切り替え操作を実行できます。このオプションを使用する場合、古い伝送キューのこのチャンネルのすべてのメッセージを処理するのは、IBM MQ 管理者の責任になります。

CSQM557E

csect-name チャンネル *channel-name* の新しい伝送キュー *xmitq-name* を開くことができません。
MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

伝送キューの切り替えでは、チャンネルのメッセージを古い伝送キューから新しい伝送キューに移動する必要があります。このメッセージは、この操作を実行しようとしたときに、理由 *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式の MQRC) のために、新しい伝送キュー *xmitq-name* が開けなかった場合に発行されます。

システム・アクション

古い伝送キューから新しい伝送キューへのメッセージの移動を完了できないため、切り替え処理操作は失敗します。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用してエラーの原因を識別および解決できます。その後、チャンネルを停止して開始するか、[CSQUTIL ユーティリティ](#)を使用して切り替え操作を再開することによって、切り替え処理を再開します。

CSQM558E

csect-name チャンネル *channel-name* の伝送キューの状態を保持できません。MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

キュー・マネージャーは、キュー SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ の永続メッセージを使用して、各クラスター送信側チャンネルによってどの伝送キューが使用されたかを追跡します。このメッセージは、理由 *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式の MQRC) のために、状態の情報をこのキューで更新できない場合に発行されます。

システム・アクション

永続伝送キューの状態を更新する必要がある操作が失敗します。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用してエラーの原因を識別および解決できます。その後、後続のメッセージを確認し、必要な追加のアクションを特定します。

CSQM559I

csect-name クラスター伝送キューの状態のロードが開始されました

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは、キュー SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ の永続メッセージを使用して、各クラスター送信側チャンネルによってどの伝送キューが使用されたかを追跡します。このメッセージは、この情報のロードが開始されたことを示すため、キュー・マネージャーの開始中に発行されます。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQM560I

csect-name クラスター伝送キューの状態のロードが完了しました - *num-records* 個のレコードが処理されました

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは、キュー SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ の永続メッセージを使用して、各クラスター送信側チャンネルによってどの伝送キューが使用されたかを追跡します。このメッセージは、この情報のロードが完了したことを示すため、キュー・マネージャーの開始中に発行されます。処理されたクラスター送信側チャンネルのレコード数が *num-records* によって識別されます。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQM561E

csect-name クラスター伝送キューの状態のロードに失敗しました

重大度

8

説明

キュー・マネージャーは、キュー SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ の永続メッセージを使用して、各クラスター送信側チャンネルによってどの伝送キューが使用されたかを追跡します。このメッセージは、この情報をロードするときにエラーが発生したことを示すため、キュー・マネージャーの開始中に発行されます。

システム・アクション

処理は、クラスタリング機能が制限された状態で続行されます。キュー・マネージャーは、各クラスター送信側チャンネルで使用する必要がある伝送キューを判別できません。そのため、これらのチャンネルは開始できません。リモート・クラスター・キューにメッセージを書き込むすべての要求は、MQRC_CLUSTER_RESOURCE_ERROR で失敗します。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージで報告されたように、伝送キューの状態の情報をロードできない理由を調べます。エラーを解決してから、キュー・マネージャーを再始動し、クラスタリング機能を復元します。エラーを解決できない場合、IBM サポートにお問い合わせください。

CSQM562E

csect-name 重複したクラスター伝送キューのレコードがチャンネル *channel-name* に見つかりました

重大度

8

説明

キュー・マネージャーは、キュー SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ の永続メッセージを使用して、各クラスター送信側チャンネルによってどの伝送キューが使用されたかを追跡します。このメッセージは、チャンネルで重複したレコードが見つかったことを示すため、キュー・マネージャーの開始中に発行されます。

システム・アクション

重複したレコードは無視され、処理は続行しますが、重複したレコードを使用すべきではない場合、チャンネルが正しくない伝送キューを使用する可能性があります。

システム・プログラマーの応答

この状態は、発生してはならないものです。IBM サポートにお問い合わせください。

CSQM563E

csect-name 動的クラスター伝送キュー *xmitq-name* の作成に失敗しました。MQRC=*mqrc(mqrc-text)*

重大度

4

説明

キュー・マネージャーのデフォルトのクラスター伝送キュー構成が変更されたか、クラスター伝送キューのクラスター・チャンネル名属性が変更されたため、チャンネルを永続的な動的伝送キューに切り替える必要があります。キュー・マネージャーは、理由 *mqrc* のために、永続的な動的伝送キュー *xmitq-name* を作成できませんでした。

キュー名が `SYSTEM.CLUSTER.TRANSMITchannel_name` という形式であるため、影響を受けるクラスター送信側チャンネルは、伝送キューの名前から識別できます。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用して、永続的な動的クラスター伝送キューの作成を妨げているエラーを特定して解決することができます。詳細情報を提供する、追加のメッセージが出される場合があります。理由コードが `MQRC_UNKNOWN_OBJECT_NAME` である場合、これはモデル・キュー `SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.MODEL.QUEUE` が定義されていないことを意味します。このモデル・キューの定義は、提供されているサンプル **CSQ4INSX** にあります。

mqrc の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください (*mqrc-text* はテキスト形式での `MQRC` を示す)。

CSQM564E

csect-name クラスター伝送モデル・キュー *model-xmitq* の属性が正しくありません

重大度

4

説明

モデル・キュー *model-xmitq* が正しく定義されていないため、キュー・マネージャーは、クラスター送信側チャンネルの永続的な動的伝送キューの作成に失敗しました。

モデル・キューは以下の属性がなければなりません。

- **USAGE** 属性は **XMITQ** に設定されている必要があります
- **QSGDISP** 属性は **SHARED** にすることはできません
- **DEFTYPE** 属性は **PERMDYN** に設定されている必要があります
- **INDXTYPE** 属性は **CORRELID** に設定する必要があります。
- **SHARE** 属性が設定されている必要があります

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

モデル伝送キューの定義を確認し、修正してください。モデル・キューの定義は、提供されているサンプル **CSQ4INSX** にあります。

CSQM565E

csect-name 送達遅延プロセッサの初期化に失敗しました。理由 *reason-code*

重大度

8

説明

送達遅延プロセッサ・タスクの初期化が、示されている *reason-code* で失敗した。その結果、JMS 2.0 を使用して送達遅延によって送信されたメッセージはどれも処理されず、送達遅延ステージング・キューに残される。

システム・アクション

送達遅延プロセッサ・タスクは終了し、再始動は行われぬ。この後も引き続き JMS 2.0 アプリケーションを使用して送達遅延ステージング・キューにメッセージを送信できるが、送信されたメッセージは送達遅延タスクが再始動するまで処理されない。送達遅延プロセッサを再始動する方法については、『システム・プログラマーの応答』を参照。

システム・プログラマーの応答

このメッセージの最も可能性の高い理由は、2 GB 境界より下のストレージが不足していることです。この場合、*reason-code* は 4 になります。2 GB 境界より下で使用されているストレージの量を検討し、可能な場合は、それを削減してください。送達遅延プロセッサの再始動を試みるには、送達遅延ステージング・キューの状態を「読み取り可能」から「読み取り禁止」に変更した後、再度「読み取り可能」状態に戻してみる。

CSQM566I

csect-name 送達遅延プロセッサが始動しました。

重大度

0

説明

送達遅延プロセッサが始動し、送達遅延ステージング・キューからのメッセージを処理できるようになった。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQM567I

csect-name 送達遅延プロセッサが停止しました。

重大度

0

説明

送達遅延プロセッサが停止し、送達遅延ステージング・キューからのメッセージを処理できなくなった。このメッセージは次のような状況で出力される。

- キュー・マネージャーがシャットダウン中である。
- 送達遅延ステージング・キューが削除された、または存在しない。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQM568E

csect-name 送達遅延プロセッサが異常終了しました。MQRC=*mqr*c

重大度

4

説明

送達遅延プロセッサが、*mqr*c で示されているエラーを検出し、シャットダウンした。

システム・アクション

送達遅延プロセッサ・タスクは終了し、再始動は行われぬ。この後も引き続き JMS 2 アプリケーションを使用して送達遅延ステージング・キューにメッセージを送信できるが、それらのメッセージは送達遅延タスクが再始動するまで処理されない。送達遅延プロセッサを再始動する方法については、『システム・プログラマーの応答』を参照。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは多くの理由で出力され、予期できるものと、そうでないものがある。例えば、送達遅延ステージング・キューの状態が「読み取り禁止」に変更された場合は、このメッセージが出力され、*mqrc* は *MQRC_GET_INHIBITED* になる。このメッセージが予期できる状況下で出された場合、処置は必要ない。予期せずにこのメッセージが出た場合は、*mqrc* の値を他のメッセージと照らし合わせて、この状態を修正する。送達遅延プロセッサの再始動を試みるには、送達遅延ステージング・キューの状態を「読み取り可能」から「読み取り禁止」に変更した後、再度「読み取り可能」状態に戻してみる。

CSQM569I

csect-name 送達遅延プロセッサは、相関 ID *correlid* のメッセージを読み取ろうとして失敗しました。
MQRC=mqrc (mqrc-text)

重大度

4

説明

送達遅延プロセッサが、示されている相関 ID のメッセージを送達遅延ステージング・キュー *SYSTEM.DDELAY.LOCAL.QUEUE* から破壊的に *MQGET* しようとした。そのメッセージは、キューにはもう存在しない。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

送達遅延ステージング・キューからメッセージが取り去られた理由が妥当であるかどうか調べる。例えば、誤って書き込まれたものであった、など。送達遅延ステージング・キューのセキュリティ設定を検証して、権限のあるユーザーだけがアクセスしていることを確認する。

CSQM570E

csect-name 送達遅延プロセッサが、キュー *q-name* において、相関 ID *correlid* のメッセージを、そのレポート・オプション *report-options* に従って処理しようとして失敗しました。
MQRC=mqrc (mqrc-text)

重大度

8

説明

送達遅延プロセッサが、示されているメッセージを示されているキューに書き込めなかったため、メッセージのレポート・フィールドに指定された後処理オプションに従って、メッセージを送達不能キューに送信するか、メッセージを廃棄しようとした。

そのメッセージについては、例外報告も要求された可能性がある。後処理オプション処理の一部、または報告が、示されている戻りコードを出して失敗した。

システム・アクション

メッセージは送達遅延ステージング・キュー *SYSTEM.DDELAY.LOCAL.QUEUE* にロールバックされ、システムによって決定された時刻に再処理される。

システム・プログラマーの応答

メッセージの情報を使用して問題の原因を特定する。例えば、次のような説明が考えられる。

- ・示されているキューが存在しなくなった、満杯である、または無効にされた。

- メッセージが送達不能キューに書き込まれるはずだった場合は、送達不能キューが定義されており、満杯ではなく、有効にされていることを確認する。
- 例外報告メッセージが生成されるはずだった場合は、報告の書き込み先のキューが定義されており、満杯ではなく、有効にされていることと、メッセージ内のユーザー ID がキューに対するアクセス権限を持っていることを確認する。

それ以外の場合は、送達不能キューが定義されており、満杯ではなく、有効にされていることを確認する。

CSQM571I

csect-name 送達遅延プロセッサがメッセージ ID *msgid* の予期しないメッセージを受け取りました。

重大度

4

説明

送達遅延プロセッサが送達遅延ステージング・キュー SYSTEM.DDELAY.LOCAL.QUEUE から受け取ったメッセージの形式が正しくない。

送達遅延プロセッサは、メッセージのレポート・フィールドに指定された後処理オプションに従って、メッセージを送達不能キューに送るか、破棄する。

システム・アクション

送達遅延プロセッサは、メッセージのレポート・フィールドに指定された後処理オプションに従って、メッセージを送達不能キューに送るか、破棄する。メッセージに例外報告が指定されている場合は、それが生成される。

システム・プログラマーの応答

予期されないメッセージが送達遅延ステージング・キューに送信されている理由を調査する。送達遅延ステージング・キューのセキュリティ設定を検証して、権限のあるユーザーだけがアクセスしていることを確認する。

CSQM572E

データ・セット *data set* を解析するストレージが不足しています

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、示されているデータ・セットを解析するための十分な記憶域を取得できませんでした。

システム・アクション

キュー・マネージャーは始動中に終了します。

システム・プログラマーの応答

記憶域が不足している原因を調査して解決し、キュー・マネージャーを再始動してください。

CSQM573E

データ・セット *data set* の行 *line* を構文解析できません

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、示されているデータ・セット内の示されている行を解析できませんでした。

システム・アクション

キュー・マネージャーは示されているデータ・セットを解析できませんが、初期化を続行します。TL/SSL 対応チャンネルを開始することはできません。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止し、示されているデータ・セットの内容の問題を解決してください。キュー・マネージャーを再始動し、キュー・マネージャーがデータ・セットを正常に解析できることを確認してください。

CSQM574E

line 行目あたりのデータ・セット *data set* のスタンザ *stanza* のキー *key* の値 *value* が誤っています

重大度

8

説明

示されているスタンザとデータ・セットに指定されているキー (キーワード) が無効です。

システム・アクション

キュー・マネージャーは示されているデータ・セットを解析できませんが、初期化を続行します。TL/SSL 対応チャンネルを開始することはできません。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止し、示されているデータ・セットの内容の問題を解決してください。キュー・マネージャーを再始動し、キュー・マネージャーがデータ・セットを正常に解析できることを確認してください。

CSQM575E

line 行目あたりのデータ・セット *data set* のスタンザ *stanza* に含まれているキー *key* が、誤っているか重複しています

重大度

8

説明

示されているスタンザとデータ・セットに指定されているキー (キーワード) は、無効であるかまたは複数回入力されています。

システム・アクション

キュー・マネージャーは示されているデータ・セットを解析できませんが、初期化を続行します。TL/SSL 対応チャンネルを開始することはできません。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止し、示されているデータ・セットの内容の問題を解決してください。キュー・マネージャーを再始動し、キュー・マネージャーがデータ・セットを正常に解析できることを確認してください。

CSQM576E

line 行目あたりのデータ・セット *data set* のスタンザ *stanza* のキー *key* に指定されている暗号仕様名 *name* が誤っています

重大度

8

説明

示されているデータ・セット、スタンザ、およびキーに指定されている暗号仕様が無効です。

システム・アクション

キュー・マネージャーは示されているデータ・セットを解析できませんが、初期化を続行します。TL/SSL 対応チャンネルを開始することはできません。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止し、示されているデータ・セットの内容の問題を解決してください。キュー・マネージャーを再始動し、キュー・マネージャーがデータ・セットを正常に解析できることを確認してください。

CSQM577E

line 行目あたりのデータ・セット *data set* のスタンザ *stanza* のキー *key* に指定されている暗号仕様名 *name* はサポートされていません

重大度

8

説明

示されているデータ・セット、スタンザ、およびキーに指定されている暗号仕様は、サポートされていません。

システム・アクション

キュー・マネージャーは示されているデータ・セットを解析できませんが、初期化を続行します。TL/SSL 対応チャネルを開始することはできません。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止し、示されているデータ・セットに、サポートされている暗号仕様名のみを定義してください。キュー・マネージャーを再始動し、キュー・マネージャーがデータ・セットを正常に解析できることを確認してください。

CSQM578I

データ・セット *data set* 読み取りおよび構文解析が正常に完了しました

重大度

0

説明

キュー・マネージャーが、示されているデータ・セットを正常に読み取って解析しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは初期化を続行します。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQM579E

line 行目あたりのデータ・セット *data set* のスタンザ *stanza* のキー *key* に指定されている TLS V1.3 は、z/OS のバージョンではサポートされません

重大度

8

説明

示されているデータ・セット、スタンザ、およびキーに TLS V1.3 プロパティが定義されていますが、キュー・マネージャーを実行している z/OS のバージョンでは、TLS V1.3 機能がサポートされていません。TLS V1.3 機能を使用できるようにするには、z/OS オペレーティング・システムが V2.4 以上でなければなりません。

システム・アクション

キュー・マネージャーは示されているデータ・セットを解析できませんが、初期化を続行します。TL/SSL 対応チャネルを開始することはできません。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止し、示されているデータ・セットの TLS V1.3 プロパティを削除またはコメント化するか、z/OS オペレーティング・システムを、TLS V1.3 がサポートされるバージョンにアップグレードしてください。キュー・マネージャーを再始動し、キュー・マネージャーがデータ・セットを正常に解析できることを確認してください。

CSQM580I

csect-name QMID *qmid_name* にあるクラスター・オブジェクト名 *object_name* は、キャッシュに入れられた古い情報を使用して解決されます。

重大度

0

説明

参照されるクラスター・オブジェクトが、キャッシュに入れられた古い情報を使用して解決される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQM581E

データ・セット *data set* からのデータの取得エラー

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが示されているデータ・セットからデータを読み取ることができませんでした。

システム・アクション

キュー・マネージャーは示されているデータ・セットを解析できませんが、初期化を続行します。TL/SSL 対応チャンネルを開始することはできません。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止し、データ・セットの内容の問題を解決してください。キュー・マネージャーを再始動し、キュー・マネージャーがデータ・セットを正常に解析できることを確認してください。

CSQM582E

データ・セット *data set* へのアクセス時の予期しない理由 *reason*

重大度

8

説明

示されているデータ・セットにアクセス中に、キュー・マネージャーで予期しないエラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは示されているデータ・セットを解析できませんが、初期化を続行します。TL/SSL 対応チャンネルを開始することはできません。

システム・プログラマーの応答

エラーの理由を調べて解決してください。キュー・マネージャーを再始動し、キュー・マネージャーがデータ・セットを正常に解析できることを確認してください。

必要に応じて診断データを収集し、IBM サポート・センターまで連絡してください。

CSQM583E

データ・セット *data set* のオープンまたはクローズ時のエラー

重大度

8

説明

示されているデータ・セットを開くか閉じるときに、キュー・マネージャーでエラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは示されているデータ・セットを解析できませんが、初期化を続行します。
TL/SSL 対応チャンネルを開始することはできません。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止し、データ・セットが定義されていて有効であることを確認してください。キュー・マネージャーを再始動し、キュー・マネージャーがデータ・セットを正常に解析できることを確認してください。

CSQM584E

サポートされないスタンザをスキップしました (データ・セット *data set* のスタンザ *stanza*)

重大度

8

説明

示されているデータ・セットに、サポートされないスタンザが含まれていることをキュー・マネージャーが検出しました。このスタンザは無視されました。

システム・アクション

キュー・マネージャーはこのスタンザを無視し、示されているデータ・セットの残りの部分の解析を続行します。

システム・プログラマーの応答

いずれ、このデータ・セットをキュー・マネージャーで正常に解析できるように、キュー・マネージャーを停止し、サポートされないスタンザを削除またはコメント化して、キュー・マネージャーを再始動することが必要になります。

V9.3.0

CSQM586E

csect-name キュー *queuename* のストリーミング・キュー *streamqname* をオープンできません。
mqrcc= mqrcc (mqrcc-text)

重大度

8

説明

指定されたストリーミング・キューに対して MQOPEN を実行しようとしたましたが、指定された理由で失敗しました。これは IBM MQ 理由コード *mqrcc* です (*mqrcc-text* は、テキスト形式で MQRC を提供します)。

システム・アクション

キュー属性 STREAMQ によって指定されたストリーミング・キューのオープンは行われません。

システム・プログラマーの応答

詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要な場合は、問題を訂正する。

特定のアプリケーションについて、キュー・マネージャーは、ストリーミング・キューをオープンしようとして最初に失敗したときのみ、このメッセージを発行します。理由コードが異なる場合を除き、ストリーミング・キューのオープンに失敗しても、このメッセージは発行されません。

V 9.3.0 CSQM587E

csect-name キュー *queuename* のストリーミング・キュー *streamqname* に書き込めません。mqrc=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度
8

説明

指定されたストリーミング・キューに対して MQPUT または MQPUT1 を実行しようとしたが、示された理由により失敗しました。これは、IBM MQ 理由コード *mqrc* です (*mqrc-text* テキストは、テキスト形式で MQRC を提供します)。

システム・アクション

キュー属性 STREAMQ によって指定されたストリーミング・キューへの書き込みは行われません。キュー属性 STRMQOS によって設定された規則によっては、元の書き込みが失敗する場合と失敗しない場合があります。

システム・プログラマーの応答

詳細については、1129 ページの『API 完了コードと理由コード』を参照してください。必要な場合は、問題を訂正する。

特定のアプリケーションについて、キュー・マネージャーは、ストリーミング・キューへの書き込み試行が最初に失敗したときのみ、このメッセージを発行します。理由コードが異なる場合を除き、ストリーミング・キューのオープンに失敗しても、このメッセージは発行されません。

V 9.3.0 CSQM588I

csect-name ストリーミング・キュー *qname* はサポートされていません。

重大度
4

説明

ストリーミングを有効にしてキューを定義または変更するコマンドが発行されましたが、そのキューは別のキューへのストリーミングをサポートしていません。

システム・アクション

発行されたコマンドは失敗し、有効になりません。

システム・プログラマーの応答

ストリーミング・キューの制約事項を参照してください。必要に応じて問題を訂正し、コマンドを再発行してください。

V 9.3.0 CSQM589I

csect-name ストリーミング・キュー *qname* の属性に互換性がありません。

重大度
4

説明

ストリーミングを有効にしてキューを定義または変更するコマンドが発行されましたが、そのキューにはストリーム元の互換性のない属性があります。

システム・アクション

発行されたコマンドは失敗し、有効になりません。

システム・プログラマーの応答

ストリーミング・キューの制限を参照して、キューの属性を確認してください。必要に応じて問題を訂正し、コマンドを再発行してください。

V 9.3.0 CSQM590I

csect-name STREAMQ (*streamqname*) は許可されません。

重大度

4

説明

STREAMQ に指定されたキュー名へのストリーミングが許可されないキューを、その名前に基づいて定義するコマンドが発行されました。

システム・アクション

発行されたコマンドは失敗し、有効になりません。

システム・プログラマーの応答

ストリーミング・キューの制限 を参照して、STREAMQ 属性で使用されているキューの名前を確認してください。必要に応じて問題を訂正し、コマンドを再発行してください。

V 9.3.0 CSQM591I

csect-name キュー属性は、ストリーミング・キューとして使用できません。

重大度

4

説明

STREAMQ に設定されたキュー名が、ストリーミング・キューとして機能する互換性のない属性を持つキューを参照するキューを定義または変更するコマンドが発行されました。

システム・アクション

発行されたコマンドは失敗し、有効になりません。

システム・プログラマーの応答

ストリーミング・キューの制約事項 を参照し、STREAMQ 属性で参照されるキューの属性を確認してください。必要に応じて問題を訂正し、コマンドを再発行してください。

CSQM999E

csect-name 'keyword' に対して認識できない戻りコード *ret-code* です。

重大度

8

説明

指定されたキーワードに関して、予期しない戻りコードがコマンドから発行された。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

(16 進数で表示される) 戻りコード *ret-code* を書き留めて、IBM サポートに連絡する。

z/OS コマンド・サーバー・メッセージ (CSQN...)

CSQN001I

コマンド・サーバーが始動しました。

重大度

0

説明

START CMDSERV コマンドによるコマンド・サーバーの始動要求が受け入れられた。

システム・アクション

コマンド・サーバーが起動され、始動する。

CSQN002I

コマンド・サーバーはすでに始動しています。

重大度

0

説明

START CMDSERV コマンドが入力されたが、コマンド・サーバーはすでに実行中である。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQN003I

コマンド・サーバーを使用可能にしました。

重大度

0

説明

初期設定ファイルの START CMDSERV コマンドに応じて、コマンド・サーバーが使用可能状態に置かれた。

システム・アクション

初期設定が終了すると、コマンド・サーバーは自動的に始動する。

CSQN004I

コマンド・サーバーはすでに作動可能です。

重大度

0

説明

START CMDSERV コマンドが入力されたが、コマンド・サーバーはすでに使用可能になっている。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQN005I

コマンド・サーバーは停止しました。

重大度

0

説明

STOP CMDSERV コマンドによるコマンド・サーバーの停止要求が受け入れられた。

システム・アクション

コマンド・サーバーは、現行コマンドの処理を終了した時点で終了する (または、コマンドを処理中ではない場合はただちに終了する)。このメッセージの後にメッセージ CSQN201I が出され、停止処理が開始されたことが確認される。

CSQN006I

コマンド・サーバーはすでに停止しています。

重大度

0

説明

STOP CMDSERV コマンドが入力されたが、コマンド・サーバーは実行されていない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQN007I

コマンド・サーバーを使用不能にしました。

重大度

0

説明

初期設定ファイルの STOP CMDSERV コマンドに応じて、コマンド・サーバーが使用不能状態に置かれた。

システム・アクション

初期設定が終了しても、コマンド・サーバーは自動的に始動されない。

CSQN008I

コマンド・サーバーはすでに作動不可能です。

重大度

0

説明

STOP CMDSERV コマンドが入力されたが、コマンド・サーバーはすでに使用不能になっている。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQN009I

csect-name verb-namepkw-name コマンドは使用不可になりました。

重大度

4

説明

このコマンドは、初期設定または終了のこのステージでは許可されていないために、処理されなかった。*verb-name* に、コマンド接頭部 (CPF) が含まれる可能性がある。これは、コマンドの入力方法によって異なる。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQN011I

コマンド・サーバー状況は使用可能です。

重大度

0

説明

コマンド・サーバーは、使用可能状態にある。すなわち、初期設定が終了すると、コマンド・サーバーは自動的に始動する。

CSQN012I

コマンド・サーバー状況は使用不可能です。

重大度

0

説明

コマンド・サーバーは、使用不能状態にある。すなわち、初期設定が終了しても、コマンド・サーバーは自動的に始動されない。

CSQN013I

コマンド・サーバー状況は実行中です。

重大度

0

説明

コマンド・サーバーは実行状態にある。すなわち、コマンド・サーバーは現在コマンドを処理している。

CSQN014I

コマンド・サーバー状況は待機中です。

重大度

0

説明

コマンド・サーバーは待ち状態にある。すなわち、コマンド・サーバーは、メッセージがシステム・コマンド入力キューに入れられるのを待っている。

CSQN015I

コマンド・サーバー状況は「停止」です

重大度

0

説明

コマンド・サーバーは停止状態にある。すなわち、コマンド・サーバーは、START CMDSERV コマンドが入力されるまで、コマンドを処理しない。

CSQN016I

コマンド・サーバー状況は始動中です。

重大度

0

説明

コマンド・サーバーは始動状態にある。すなわち、START CMDSERV コマンドが入力されたが、コマンド・サーバーはまだ始動されていない。

CSQN017I

コマンド・サーバー状況は停止中です。

重大度

0

説明

コマンド・サーバーは停止状態にある。すなわち、STOP CMDSERV コマンドが入力されたが、コマンド・サーバーはまだ停止していない。

CSQN018E

csect-name identifier の内部エラーです。戻りコード=*rc*

重大度

8

説明

このメッセージは、次のいずれかの原因で出される。

ID

説明

INSSRV01

初期設定の前半の部分で、キュー・マネージャーが、CSQINP1 のコマンドを処理するタスクを開始できなかった。

INSSRV02

初期設定の前半の部分で、キュー・マネージャーが、CSQINP2 のコマンドを処理するタスクを開始できなかった。

RTSSRV01

コマンド・サーバーを使用可能にして初期設定が完了された後、または START CMDSERV コマンドに応じて、キュー・マネージャーが、システム・コマンド入力キュー内のコマンドを処理するコマンド・サーバー・タスクを開始できなかった。

GRSSRV01

コマンド・サーバーを使用可能にして初期設定が完了された後、または START CMDSERV コマンドに応じて、キュー・マネージャーが、CMDSCOPE を使用してコマンドを処理するコマンド・サーバー・タスクを開始できなかった。

システム・アクション

タスクは開始されない。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止して、再始動する。コンソールから、このエラーに関する他のメッセージを探し、メッセージ番号、*identifier* および *rc* を書き留める。また、システム・ダンプ (作成された場合) を集める。IBM サポートに連絡して問題を報告する。

CSQN019E

csect-name identifier の内部エラーです。戻りコード=*rc*

重大度

8

説明

このメッセージは、次のいずれかの原因で出される。

ID

説明

INSSRV01

初期設定の前半の部分で、CSQINP1 のコマンドを処理するタスクを削除しようとしたとき、エラーが起こった。

INSSRV02

初期設定の前半の部分で、CSQINP2 のコマンドを処理するタスクを削除しようとしたとき、エラーが起こった。

RTSSRV01

コマンド・サーバーの実行中に終了させた際、または START CMDSERV コマンドへの応答として、システム・コマンド入力キュー内のコマンドを処理するコマンド・サーバー・タスクを削除しようとしたときに、エラーが起こった。

GRSSRV01

コマンド・サーバーの実行中に終了させた際、または START CMDSERV コマンドへの応答として、CMDSCOPE を使用してコマンドを処理するコマンド・サーバー・タスクを削除しようとしたときに、エラーが起こった。

システム・アクション

identifier の値が INSSRV01 または INSSRV02 であった場合、エラーは無視され、始動が続けられる。

identifier の値が RTSSRV01 または GRSSRV01 で、*csect-name* が CSQNESTP であった場合、コマンド・サーバーは、コマンド処理の途中で終了している場合がある。

システム・プログラマーの応答

このエラーに関する他のメッセージがないか、コンソールを調べる。問題を解決できない場合は、メッセージ番号、*identifier*、および *rc* を書き留め、システム・ダンプ (作成された場合) を収集してから、IBM サポートに連絡する。

CSQN020E

csect-name コマンド・サーバー *identifier* を開始できません。

重大度

8

説明

csect-name が、コマンド・サーバー・タスク *identifier* を始動できなかった。

システム・アクション

identifier が INSSRV01 または INSSRV02 である場合、初期設定は完了されず、ダンプが作成される可能性がある。その他の場合、コマンド・サーバーは始動されない。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止して、再始動する。メッセージの詳細、このエラーに関連する過去のメッセージ、およびダンプ (該当する場合) を用意して、IBM サポートに連絡する。

CSQN021E

csect-name コマンド・サーバー *identifier* は異常終了しました。

重大度

8

説明

コマンド・サーバー・タスク *identifier* が、始動中に処理を完了させることができなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は続けられる。

システム・プログラマーの応答

関連するメッセージ (おそらく CSQINPx データ・セットに関するメッセージ) がないか、z/OS コンソールを調べる。また、CSQOUTx データ・セットを調べて、エラーが発生する前にコマンド処理がどの程度まで行われていたかを判別する。必要があれば、処理されていないコマンドを再発行するか、または問題を解決してから、キュー・マネージャーを再始動する。

CSQN100I

コマンドが最大サイズを超えました。コマンドは無視されます。

重大度

4

説明

コマンド・ストリングが長すぎる。

システム・アクション

コマンドは無視され、CSQINP1 または CSQINP2 の処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

問題のコマンドは、CSQOUT1 または CSQOUT2 データ・セット内でこのメッセージの前にある。コマンド・ストリングの形成法について詳しくは、[初期設定コマンド](#)を参照。

CSQN101I

コマンドが継続マークで終了しました。コマンドは無視されます。

重大度

4

説明

CSQINP1 または CSQINP2 データ・セットの最後のコマンドが、継続マークで終了している。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

問題のコマンドは、CSQOUT1 または CSQOUT2 データ・セット内でこのメッセージの前にある。コマンド・ストリングの形成法については、[初期設定コマンド](#)を参照。

CSQN102I

コマンド・バッファが無効、不明なエラー。コマンドは無視されます。

重大度

4

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

このコマンドは無視され、次のコマンドが処理される。

システム・プログラマーの応答

問題のコマンドは、CSQOUT1 または CSQOUT2 データ・セット内でこのメッセージの前にある。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQN103I

COMMAND PROCESSOR RETURN CODE=*rc*, REASON CODE=*reason*

重大度

4

説明

CSQOUT1 または CSQOUT2 データ・セット内でこのメッセージの前に出されたコマンドの処理中に、エラーが発生した。以下が、*rc* の値として考えられる。

戻りコード

説明

00000004

内部エラー

00000008

構文エラーまたはコマンド・プロセッサ・エラー。CSQOUTx データ・セット内の後続の行を参照。

0000000C

コマンド・プロセッサ・エラー。CSQOUTx データ・セット内の後続の行を参照。

00000010

コマンド・プロセッサ異常終了

00000014

コマンドは完了したが、メッセージに必要なストレージが不十分だった。

00000018

コマンド前処理プログラムのストレージが不十分 (おそらくこのエラーに関してさらにメッセージがある)。

0000001C

コマンド・プロセッサのストレージが不十分(コマンドはおそらく一部だけ完了している)。

00000020

セキュリティー・チェック

00D50102

[1013 ページの『コマンド・サーバー・コード \(X'D5\)』](#)を参照

注: 戻りコードが '00000010' の場合は、理由コードは意味をもたない。

reason が 00000004 でかつ *rc* が 00000000 の場合、コマンドはすでに受け付けられており、完了する予定である。コマンドが完了すると、さらにメッセージが作成される。

それ以外の場合、理由コードが以下のようにコマンドの結果を示す。

理由**説明****00000000**

コマンドは完了した

00000004

一部完了

00000008

コマンドは処理されない

0000000C

コマンド・プロセッサ異常終了

FFFFFFFF

コマンドは処理されない

システム・アクション

可能であれば、次のコマンドが処理される。

システム・プログラマーの応答

reason がコマンドが完了しなかったことを示す場合、コマンドおよび関連するメッセージすべてを調べる。[266 ページの『IBM MQ for z/OS のメッセージ・コード、完了コード、および理由コード』](#)を参照し、コマンドについての詳細情報を確認する。

問題を解決できない場合は、入出力データ・セットを収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQN104I

初期化戻りコード=*rc*。理由コード=*reason*

重大度

8

説明

いずれかの初期設定データ・セットの処理中に、エラーが発生した。

システム・アクション

システムの処理は、理由コード (*reason*) によって異なる。受け取ったコードについては、[1013 ページの『コマンド・サーバー・コード \(X'D5\)』](#)を参照。

システム・プログラマーの応答

実行すべき応答は、理由コード (*reason*) によって異なる。受け取ったコードについては、[1013 ページの『コマンド・サーバー・コード \(X'D5\)』](#)を参照。

CSQN105I

ddname からのキュー・マネージャー *qmgr-name* に対するコマンド - *date time*

重大度

0

説明

このメッセージは、出力データ・セット CSQOUT1 および CSQOUT2 のヘッダーとなる。

CSQN121I

qmgr-name からの '*verb-name**pkw-name*' コマンド応答

説明

以下のメッセージは、キュー・マネージャー *qmgr-name* から、CMDSCOPE を含む指定されたコマンド (入力されたもの、または別のコマンドによって生成されたもの) への応答である。

CSQN122I

'*verb-name**pkw-name*' コマンド CMDSCOPE(*qmgr-name*) 通常終了

説明

CMDSCOPE(*qmgr-name*) を含む指定されたコマンド (入力されたもの、または別のコマンドによって生成されたもの) の処理が、要求されたすべてのキュー・マネージャー上で正常に完了した。

CSQN123E

CMDSCOPE(*qmgr-name*) に対する '*verb-name* *pkw-name*' コマンド異常終了

説明

CMDSCOPE(*qmgr-name*) を含む指定されたコマンド (入力されたもの、または別のコマンドによって生成されたもの) の処理は終了したが、正常には完了しなかった。コマンドが複数のキュー・マネージャーに送信された場合、コマンドはいくつかのキュー・マネージャー上では正常に完了し、その他のキュー・マネージャー上では正常に完了しなかった。

システム・プログラマーの応答

コマンドからの以前の応答を調べる。失敗したキュー・マネージャーに対して、必要であれば、コマンドを正しく再発行する。

CSQN127E

キュー共有グループ・エラー。理由=*reason*

重大度

8

説明

CMDSCOPE を指定したコマンドを処理中に、カップリング・ファシリティにデータを送信しようとしている間に、エラーが起こった。

システム・アクション

コマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答

実行すべき応答は、理由コード (*reason*) によって異なる。コードについては、[925 ページの『カップリング・ファシリティコード \(X'C5'\)』](#) を参照。

CSQN128E

CMDSCOPE(*qmgr-name*) の記憶域が不足しています。

説明

CMDSCOPE を指定したコマンドの処理中に、コマンド・サーバーは、必要なストレージを取得できなかった。

システム・アクション

コマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答

問題が解決しない場合、使用可能な記憶域の増加後、キュー・マネージャーの再始動が必要な場合があります。

CSQN129E

コマンド応答情報の保管中のエラー。

重大度

8

説明

CMDSCOPE を指定したコマンド、またはチャンネル・イニシエーター用のコマンドの処理中に、そのコマンドに関する情報を保管しようとしている間に、エラーが起こった。

システム・アクション

コマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答

ストレージ不足が原因であることが多い。問題が継続する場合には、さらに多くのストレージを使用可能にした後に、キュー・マネージャーを再始動する必要がある。

CSQN130E

CMDSCOPE(*qmgr-name*) のコマンドが最大サイズを超えています。

説明

CMDSCOPE(*qmgr-name*) を指定したコマンドが長過ぎる。

システム・アクション

コマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答

コマンドを正しく再発行する。

CSQN131E

CMDSCOPE(*qmgr-name*) は再始動中は使用できません。

説明

CMDSCOPE(*qmgr-name*) を指定したコマンドが、初期設定入力データ・セット CSQINP1 内で実行された。これは許可されません。

システム・アクション

コマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答

後でコマンドを再発行する。

CSQN132E

CMDSCOPE(*qmgr-name*) は後処理 *disposition* では許可されません。

説明

QSGDISP(*disposition*) または CHLDISP(*disposition*) を含む CMDSCOPE(*qmgr-name*) を指定したコマンドが実行された。この値の組み合わせは許可されない。

システム・アクション

コマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答

コマンドを正しく再発行する。

CSQN133E

CMDSCOPE(*qmgr-name*) が許可されていません。コマンド・サーバーが使用できません。

説明

CMDSCOPE(*qmgr-name*) を指定したコマンドが別のコマンドによって入力または生成されたが、コマンド・サーバーは実行されておらず、使用可能になっていない。

システム・アクション

コマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答

START CMDSERV コマンドを使用してコマンド・サーバーを開始させ、コマンドを再発行する。

CSQN135E

キュー・マネージャー *qmgr-name* がキュー共有グループ内で活動状態ではありません。

説明

CMDSCOPE(*qmgr-name*) を指定しているコマンドが別のコマンドによって入力または生成されたが、キュー・マネージャーは現在グループ内で活動状態でない。

システム・アクション

コマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを開始し、必要であれば、コマンドを再発行する。

CSQN136E

キュー共有グループ内にない。

説明

キュー共有グループを必要とするコマンドが入力されたが、キュー・マネージャーがグループに含まれていない。

システム・アクション

コマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答

コマンドを正しく再発行する。

CSQN137I

'*verb-name pkw-name*' コマンドは CMDSCOPE(*qmgr-name*) に対して受け入れられました。 *n* に送られました。

説明

CMDSCOPE を指定したコマンドが入力された。このコマンドは、処理のために、要求されたキュー・マネージャーに渡された。 *n* は、キュー・マネージャーの数である。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQN138I

'*verb-name pkw-name*' コマンドが CMDSCOPE(*qmgr-name*) 用に生成され、 *n* に送信されました。

説明

CMDSCOPE を指定したコマンドが、最初に入力されたコマンドに応じて生成された。このコマンドは、処理のために、指定されたキュー・マネージャーに渡された。 *n* は、キュー・マネージャーの数である。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQN201I

コマンド・サーバーは切断中です。

重大度

0

説明

このメッセージは、エラーの後にコマンド・サーバーが終了中であることを確認するものである。

システム・アクション

コマンド・サーバーは終了し、コマンドはそれ以上処理されない。

システム・プログラマーの応答

先行のメッセージで報告されているエラーを訂正し、START CMDSERV コマンドを使用してコマンド・サーバーを再始動する。

CSQN202I

コマンド・サーバー戻りコード=*rc*。理由=*reason*

重大度

8

説明

先行のメッセージで示されているように、コマンド・サーバーでエラーが起こった。

システム・アクション

システムの処理は、理由コード (*reason*) によって異なる。コードについては、[1013 ページの『コマンド・サーバー・コード \(X'D5'\)』](#) または [925 ページの『カップリング・ファシリティコード \(X'C5'\)』](#) を参照。

システム・プログラマーの応答

実行すべき応答は、理由コード (*reason*) によって異なる。

戻りコード *rc* は、*reason* によって異なり、IBM サービス担当員にとって役立ちます。

CSQN203I

QUEUE *queuename*、MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

先行のメッセージで示されているように、API 呼び出しが正常に完了しなかった。完了コードは *mqcc*、理由コードは *mqrc* (*mqrc-text* は MQRC をテキスト形式で提供)。

システム・プログラマーの応答

詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#) を参照してください。

問題を解決できない場合は、このエラーに関連するメッセージとコードをすべて書き留め、IBM サポートに連絡する。

8000 より上の理由コードは、キュー・マネージャーの内部エラー・コードである。このようなコードが何度も出る場合は、IBM サポートに連絡する。

CSQN205I

COUNT=*count*, RETURN=*rc*, REASON=*reason*

重大度

0

説明

このメッセージは、コマンド・プロセッサからの結果を報告する (詳細については、[IBM MQ 管理のためのプログラムの作成のセクション](#)を参照)。 *count* は、コマンドに答えて応答先キューに書き込まれるメッセージの数 (このメッセージを含む) である。可能な *rc* の値は、次のとおりである。

戻りコード

説明

00000000

正常完了。

00000004

内部エラー

00000008

構文エラーまたはコマンド・プロセッサ・エラー。後続のメッセージを参照。

0000000C

コマンド・プロセッサ・エラー。後続のメッセージを参照。

00000010

コマンド・プロセッサ異常終了

00000014

コマンドは完了したが、メッセージに必要なストレージが不十分だった。

00000018

コマンド前処理プログラムのストレージが不十分 (おそらくこのエラーに関してさらにメッセージがある)。

0000001C

コマンド・プロセッサのストレージが不十分 (コマンドはおそらく一部だけ完了している)。

00000020

セキュリティー検査。ユーザー ID 許可を調べる。

00000024

コマンドが長過ぎる。後続のメッセージを参照。

00000028

キュー共有グループ・エラー。後続のメッセージを参照。

00D5xxxx

[1013 ページの『コマンド・サーバー・コード \(X'D5\)』](#)を参照

注: 戻りコードが '00000010' の場合は、理由コードは意味をもたない。

reason が 00000004 でかつ *return code* が 00000000 の場合、応答メッセージのセットが不完全である。別の CSQN205I メッセージを含む、これ以降のメッセージが、さらに生成される。コマンドの結果は、メッセージの最後のセットに含まれている CSQN205I メッセージ内のコードによって示される。

それ以外の場合、理由コードが以下のようにコマンドの結果を示す。

理由

説明

00000000

コマンドは完了した

00000004

一部完了

00000008

コマンドは処理されない

0000000C

コマンド・プロセッサ異常終了

FFFFFFFF

コマンドは処理されない

システム・アクション

可能であれば、次のコマンドが処理される。

システム・プログラマーの応答

reason がコマンドが完了しなかったことを示す場合、コマンドおよび関連するメッセージすべてを調べる。266 ページの『[IBM MQ for z/OS のメッセージ・コード、完了コード、および理由コード](#)』を参照し、コマンドについての詳細情報を確認する。

問題を解決できない場合は、入出力データ・セットを収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQN206I

コマンド・サーバー ECBLIST。停止=*ecb1*。待機=*ecb2*

重大度

8

説明

このメッセージは、コマンド・サーバーのエラーに関連する ECB 値を報告する。

システム・アクション

コマンド・サーバーは終了する。

システム・プログラマーの応答

通常はこのメッセージの前に、メッセージ CSQN202I が出される。問題の原因についての詳細は、先行のメッセージを参照。

CSQN207I

コマンド・サーバーが応答先キューを開けません。

説明

コマンド・サーバーが、コマンドの処理中に、応答先キューをオープンできなかった。

システム・アクション

メッセージ CSQN203I が z/OS コンソールに送られ、MQOPEN 要求からの完了コードと理由コードが報告される。

可能であれば、コマンド・サーバーは応答メッセージを送達不能キューに送るが、不可能であれば応答は破棄される。

システム・プログラマーの応答

詳細については、1129 ページの『[API 完了コードと理由コード](#)』を参照してください。それによって問題を解決し、コマンド・サーバーを再始動する。問題を解決できない場合は、次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- 作成されたメッセージが示す戻りコードと理由コード
- 収集したトレース情報

CSQN208E

コマンド・サーバーは、コマンド入力キューをオープンできません。

説明

コマンド・サーバーが、始動時にシステム・コマンド入力キューをオープンできなかった。

システム・アクション

メッセージ CSQN203I が z/OS コンソールに送られ、MQOPEN 要求からの完了コードと理由コードが報告される。コマンド・サーバーは、いずれのコマンドも処理せずに停止する。

システム・プログラマーの応答

詳細については、1129 ページの『[API 完了コードと理由コード](#)』を参照してください。それによって問題を解決し、コマンド・サーバーを再始動する。問題を解決できない場合は、次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- 作成されたメッセージが示す戻りコードと理由コード

- 収集したトレース情報

CSQN209E

コマンド入力キューをクローズするときに、コマンド・サーバー・エラーが発生しました。

説明

コマンド・サーバーの終了中、システム・コマンド入力キューをクローズしていたとき、エラーが起こった。

システム・アクション

メッセージ CSQN203I が z/OS コンソールに送られ、MQCLOSE 要求からの完了コードと理由コードが報告される。シャットダウン・プロシージャが継続される。

システム・プログラマーの応答

詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。問題を解決できない場合は、次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- 作成されたメッセージが示す戻りコードと理由コード
- 収集したトレース情報

CSQN210E

キューへの応答をクローズするときに、コマンド・サーバー・エラーが発生しました。

説明

コマンド・サーバーが、コマンドの処理中に、応答先キューをクローズできなかった。

システム・アクション

メッセージ CSQN203I が z/OS コンソールに送られ、MQCLOSE 要求からの完了コードと理由コードが報告される。

コマンド・サーバーは処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQN211E

コマンド入力キューから読み取りを行っているときに、コマンド・サーバー・エラーが発生しました。

説明

コマンド・サーバーがシステム・コマンド入力キューからメッセージを入手しようとしたところ、エラーが起こった。

システム・アクション

メッセージ CSQN203I が z/OS コンソールに送られ、MQGET 要求からの完了コードと理由コードが報告される。

コマンド・サーバーは終了する。

システム・プログラマーの応答

詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。それによって問題を解決し、コマンド・サーバーを再始動する。問題を解決できない場合は、次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- コンソール・メッセージが示す戻りコードと理由コード
- 収集したトレース情報

CSQN212E

キューへの応答に書き込みを行っているときに、コマンド・サーバー・エラーが発生しました。

説明

コマンド・サーバーが、コマンドの処理中に、応答先キューに応答メッセージを入れることができなかった。

システム・アクション

メッセージ CSQN203I が z/OS コンソールに送られ、MQPUT 要求からの完了コードと理由コードが報告される。可能であれば、コマンド・サーバーは応答メッセージを送達不能キューに送るが、不可能であれば応答は破棄される。

コマンド・サーバーは処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

詳細については、1129 ページの『API 完了コードと理由コード』を参照してください。問題を解決できない場合は、次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- 作成されたメッセージが示す戻りコードと理由コード
- 収集したトレース情報

CSQN213E

コマンド・サーバー・エラーが発生しました。コマンド入力キューを使用不可能にしました。

説明

コマンドを待っている間に、システム・コマンド入力キューが使用不能にされた。

システム・アクション

要求機能からの戻りコードと理由コードを含むメッセージ CSQN203I がコンソールに送られる。コマンド・サーバーは終了する。

システム・プログラマーの応答

システム・コマンド入力キューを使用可能にし、START CMDSERV コマンドを発行する。

問題が解消されない場合は、次の項目を集め、IBM サポートに連絡する。

- 戻りコードと理由コード
- 収集したトレース・データ
- SYS1.LOGREC の印刷出力

CSQN219E

コマンド応答情報を見つけられません。

重大度

8

説明

CMDSCOPE を指定したコマンド、またはチャンネル・イニシエーター用のコマンドからの応答の処理中に、応答の送信先を判別するための情報をコマンド・サーバーが見つけれなかった。

システム・アクション

コマンドを処理できない。コマンド応答は廃棄される。コマンド・サーバーは処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

問題が解決しない場合は、メッセージの詳細、このエラーに関連する過去のメッセージ、およびダンプ (該当する場合) を用意して、IBM サポートに連絡する。

CSQN220E

CMDSCOPE コマンド・データをモニター中にエラーが発生しました。

説明

コマンド・サーバーがカップリング・ファシリティ内のコマンド・データをモニターしているときに、エラーが起こった。

システム・アクション

メッセージ CSQN202I が z/OS コンソールに送られ、その要求からの戻りコードと理由コードが報告される。

コマンド・サーバーは終了する。

システム・プログラマーの応答

理由コードについては、925 ページの『[カップリング・ファシリティコード \(X'C5'\)](#)』を参照。それによって問題を解決し、コマンド・サーバーを再始動する。問題を解決できない場合は、次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- コンソール・メッセージが示す戻りコードと理由コード
- 収集したトレース情報

CSQN221E

CMDSCOPE コマンド・データを受信中にエラーが発生しました。

説明

コマンド・サーバーがカップリング・ファシリティからコマンド・データを入手しようとしたところ、エラーが起こった。

システム・アクション

メッセージ CSQN202I が z/OS コンソールに送られ、その要求からの戻りコードと理由コードが報告される。

コマンド・サーバーは終了する。

システム・プログラマーの応答

理由コードについては、925 ページの『[カップリング・ファシリティコード \(X'C5'\)](#)』を参照。それによって問題を解決し、コマンド・サーバーを再始動する。問題を解決できない場合は、次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- コンソール・メッセージが示す戻りコードと理由コード
- 収集したトレース情報

CSQN222E

CMDSCOPE コマンド・データを送信中にエラーが発生しました。

説明

コマンド・サーバーがカップリング・ファシリティにコマンド・データを送信しようとしたところ、エラーが起こった。

システム・アクション

メッセージ CSQN202I が z/OS コンソールに送られ、その要求からの戻りコードと理由コードが報告される。

コマンド・サーバーは終了する。

システム・プログラマーの応答

理由コードについては、925 ページの『[カップリング・ファシリティコード \(X'C5'\)](#)』を参照。それによって問題を解決し、コマンド・サーバーを再始動する。問題を解決できない場合は、次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- コンソール・メッセージが示す戻りコードと理由コード
- 収集したトレース情報

CSQN223E

CMDSCOPE コマンド・データのためのストレージが不十分です。

説明

コマンド・サーバーがカップリング・ファシリティ内のコマンド・データに必要なストレージを取得できなかった。

システム・アクション

コマンド・サーバーは終了する。

システム・プログラマーの応答

START CMDSERV コマンドを使用してコマンド・サーバーを再始動する。問題が解決しない場合、使用可能な記憶域の増加後、キュー・マネージャーの再始動が必要な場合があります。

CSQN224E

グループ・コマンド・サーバーが異常終了しました。再始動しています。

重大度

8

説明

重大エラーが発生したため、グループ・コマンド・サーバーが異常終了した。

システム・アクション

グループ・コマンド・サーバーは自動的に再始動する。

システム・プログラマーの応答

異常終了の理由を調査する。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

操作および制御メッセージ (CSQO...)

CSQ0001I

'*' は最後の文字としてのみ可能です。

重大度

8

説明

「Name (名前)」フィールドに入力された文字ストリングが、最後の位置以外の位置にアスタリスク文字を含んでいる。これは許可されません。

システム・アクション

メイン・メニューが再表示される。

CSQ0002I

アクション *action* は使用できません。

重大度

8

説明

アクション・コード・フィールドに、間違ったアクション番号が入力された。番号は、パネルに示された範囲でなければならない。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0003I

機能キーの設定を表示するには ISPF コマンド PFSHOW を使用してください。

重大度

0

説明

操作および制御に入ったときは、F キーの設定は表示されない。これは、設定の表示方法を知らせるものである。操作および制御パネルを使用するには、F キーを使用する必要がある。

システム・アクション

なし。

CSQ0004I

オブジェクト・タイプ *object-type* は使用できません。

重大度

8

説明

オブジェクト・タイプ・フィールドに入力された値が無効である。

システム・アクション

メイン・メニューが再表示される。

CSQ0005I

複数の応答が返されました。表示するには、F10 を押してください。

重大度

4

説明

操作および制御からのアクションにตอบสนองして、キュー・マネージャーから複数のエラー・メッセージが戻された。

システム・アクション

メイン・メニューが再表示される。

CSQ0006I

アクション・キュー・マネージャー*にはブランク名は使用できません。

重大度

8

説明

定義アクションが選択され、「Name (名前)」フィールドはデフォルトの属性を使用して新しいオブジェクトを定義するためにブランクのままだった。アスタリスク (*) がアクション・キュー・マネージャーに対して入力されたが、この場合には許可されていない。

システム・アクション

メイン・メニューが再表示される。

CSQ0007I

'field' に値が必要です。

重大度

8

説明

指定されたフィールドに何も入力されなかった。続行するためには、この値が必要である。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。

CSQ0008I

機能キーを使用できません。

重大度

4

説明

現在使用可能でない機能キーが押された。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。

CSQ0009I

Action *action* is not allowed for object type *object-type*.

重大度

8

説明

入力されたアクション番号は、*object-type* オブジェクトでは許可されない。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。

CSQ0010I

キュー・マネージャーまたはグループが使用できません。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーへの接続が試みられたが、失敗に終わった。キュー・マネージャー名が指定された場合、キュー・マネージャーが実行していない。キュー共有グループ名が指定された場合、そのグループ内で実行しているキュー・マネージャーはない。

システム・アクション

なし。パネルが再表示される。

CSQ0011E

MQCONN が失敗しました。理由コード=*mqrc*.

重大度

8

説明

次のいずれかの理由で、キュー・マネージャーまたはキュー共有グループへの接続が失敗に終わった。

1. 使用可能な記憶域が不十分です。
2. 重大エラーが発生した。

システム・アクション

なし。パネルが再表示される。

システム・プログラマーの応答

mqrc については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQ0012I

接続名が無効または不明です。

重大度

8

説明

指定されたキュー・マネージャー名が不明であるか、無効であるために、キュー・マネージャーまたはキュー共有グループへの接続が失敗に終わった。ブランク名が指定された場合、これは、インストールのために定義されたデフォルトのキュー・マネージャーまたはグループがなかったことを意味する。

システム・アクション

なし。パネルが再表示される。

CSQ0013I

キュー・マネージャーを使用する権限がありません。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーに接続しようとしたが、接続セキュリティの確保に失敗したか、または確保する許可を与えられていないために、接続できなかった。

システム・アクション

なし。パネルが再表示される。

CSQ0014E

正常に *q-name* の MQOPEN を行えませんでした。理由コード=*mqrc*。

重大度

8

説明

q-name をオープンしようとしたが失敗した。*mqrc* は、MQOPEN によって戻される理由コードです。詳しくは、1129 ページの『API 完了コードと理由コード』を参照してください。*q-name* は、次のいずれかである。

- SYSTEM.COMMAND.INPUT
- SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL。要求された動的キュー名には、括弧が付けられる。
- 伝送キューの名前 (リモート・システムにコマンドを送信しようとしている場合)。

この問題の一般的な原因としては、次のことが考えられる。

- 必要なキューの一方または両方が、接続しているキュー・マネージャーに定義されていない。
- リモート・システムにコマンドを送信しようとしたが、トランスポート・キューが定義されていない。
- 必要なキューの1つをオープンする許可を与えられていない。メッセージが、それが SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL キュー。SYSTEM.CSQOREXX.* 動的キュー。
- 使用できるストレージが不十分である。

システム・アクション

メイン・メニューが再表示される。

CSQ0015E

コマンドが出されたが、応答はありませんでした。

重大度

8

説明

応答待ち時間が経過したため、MQGET を使用して、コマンドに対する応答を 応答先キューから取り出すことができなかった。

システム・アクション

パネルが再表示される。コマンドはキュー・マネージャーに送信されたが、正しく実行されていない可能性がある。

CSQ0016E

正常に *q-name* の MQPUT を行えませんでした。理由コード=*mqr*c.

重大度

8

説明

MQPUT を使用して、キュー (*q-name*) にコマンドを入れようとしたが失敗した。 *q-name* は、システム・コマンド入力キューの名前であるか、またはコマンドをリモート・キュー・マネージャーに送信している場合は、伝送キューの名前である。 *mqr*c は、MQPUT から返された理由コードです。詳しくは、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

この問題の一般的な原因としては、次のことが考えられる。

1. 書き込み要求が、システム・コマンド入力キューまたは伝送キュー。
2. コマンド・サーバーが実行されていないため、システム・コマンド入力キューまたは伝送キューが満杯である。
3. 使用できるストレージが不十分である。

システム・アクション

キュー・マネージャーにコマンドが送信されず、パネルが再表示される。

CSQ0017E

正常に *reply-q* からの MQGET を行えませんでした。理由コード=*mqr*c.

重大度

8

説明

MQGET を使用して、コマンドに対する応答を応答先キューから取り出すことができなかった (応答先キューは、モデル・キュー SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL. から生成されるローカル・キューである)。 *mqr*c は、MQGET から戻された理由コードです。詳しくは、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

この問題は、読み取り要求が応答先キューで使用禁止にされていることが原因で起こったと考えられる。

システム・アクション

パネルが再表示される。コマンドはキュー・マネージャーに送信されたが、正しく実行されていない可能性がある。

CSQ0018E

キュー・マネージャーが無効、不明または使用不能です。

重大度

8

説明

コマンドを送信しようとしたが、ターゲットまたはアクション・キュー・マネージャーが未知または無効であるために、または実行中でなかったために、失敗した。

システム・アクション

キュー・マネージャーにコマンドが送信されず、パネルが再表示される。

CSQ0019E

キュー・マネージャーを使用することはできません。

重大度

8

説明

使用していたキュー・マネージャーが実行中でなくなった。要求したアクションは処理されていない可能性がある。

システム・アクション

メイン・メニューが再表示される。

CSQ0020I

'field' が引用符のため打ち切られました。 Press Enter to continue.

重大度

0

説明

フィールド *field* の値に、1 つまたは複数の引用符が含まれている。これらを、ストリングの始めまたは終わりの標識ではなく引用符として取り扱わせるために、それぞれの引用符は、キュー・マネージャーに関するコマンドで二重引用符に変換される。しかし、この変換によりストリングが長くなりすぎ、切り捨てられた。

システム・アクション

その値は切り捨てられる。パネルが再表示され、切り捨てられた値に *field-name* が設定されている可能性がある。

CSQ0021I

総称名が使用できません。

重大度

8

説明

アスタリスクで終わる名前が入力されたが、総称名は「メインメニュー」パネル以外では使用できない。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0022I

Filter value invalid.

重大度

8

説明

フィルタリングを使用してオブジェクトをリストするように要求したが、使用される属性について入力された値が無効だった。

システム・アクション

メイン・メニュー・パネルまたは空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0023I

コマンド *command* を認識できません。

重大度

4

説明

パネル・コマンド域に (または機能キーを使用して) 入力されたコマンドが、無効である。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0025I

表示するメッセージはありません。

重大度

0

説明

MSGVIEW パネル・コマンドがコマンド域に入力されたか、またはメッセージ機能キーが押されたが、表示するキュー・マネージャーからのメッセージがない。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0027I

機能 *function* はオブジェクト・タイプ *object-type* には許されません。

重大度

8

説明

入力した機能は、*object-type* オブジェクトに使用できない。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。

CSQ0028I

'*field1*' か '*field2*' の 1 つだけで両方は指定できません。

重大度

0

説明

指定された 2 つのフィールドのどちらにも入力されなかったか、あるいは両方のフィールドに入力された。一方のフィールドのみに値を入力する。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。

CSQ0029I

コマンドが許可された最大長の 32762 バイトを超えています。

重大度

4

説明

名前リストの定義または変更中に、あまりにも多くの名前が追加されたため、必要なコマンドが最大許容長を超えてしまった。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0030I

name に一致するタイプ *objtype* のオブジェクトはありません。

重大度

0

説明

タイプ *objtype* および名前 *name* のオブジェクトを表示またはリストするように要求したが、一致するオブジェクトが見つからなかった。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。

CSQ0031E

データ・セット *dsname* を ALLOCATE できません。戻りコード = *rc*。

重大度

8

説明

名前リスト内の名前を編集しようとしていて、割り振られたデータ・セットの処理中に、ALLOCATE エラーが起こった。*dsname* は、データ・セットの名前であり、*userid.NAMELIST.NAMESn* の形式である (ここで、*userid* は関連する TSO ユーザー ID、*n* は数字である)。*rc* は、TSO コマンド ALLOCATE からの戻りコードである。

この問題の一般的な原因は、同じ名前をもつ別のデータ・セットがすでに存在するか、または DD 名 CSQONLn が使用中であるためである。

システム・アクション

パネルが再表示される。

システム・プログラマーの応答

このメッセージに伴って TSO から 1 つまたは複数のメッセージが出され、問題の原因に関する詳しい情報が提供される。戻りコードについては、「TSO/E コマンド解説書」を参照。

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQ0032E

重大エラーが返されました。表示するには、F10 を押してください。

重大度

12

説明

コマンドがキュー・マネージャーに送信されたが、応答として重大エラーを示すメッセージ CSQN205I が受信された。

システム・アクション

メッセージ CSQN205I が保管される。現行のパネルが再表示される。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQN205I を調べ、適切な処置をとる。

CSQ0033E

最初の応答の形式が認識できません。表示するには、F10 を押してください。

重大度

8

説明

コマンドがキュー・マネージャーに送信されたが、受信された最初の応答メッセージが CSQN205I ではない。

システム・アクション

受信したメッセージが保管される。継続することができない場合は、現行のパネルが再表示される。

CSQ0034E

応答形式を認識できません。表示するには、F10 を押してください。

重大度

8

説明

コマンドがキュー・マネージャーに送信された。受け取った最初の応答メッセージは、予期したとおり CSQN205I であったが、後続のメッセージが予期したものではなかった。

システム・アクション

この問題の原因となったメッセージおよびその後のメッセージが保管される。継続することができない場合は、現行のパネルが再表示される。

CSQ0035E

記憶域を取得できません。(戻りコード = rc)

重大度

12

説明

ストレージを入手しようとしたが失敗した。

システム・アクション

システムは十分なストレージを取得することができない。

システム・プログラマーの応答

要求を満たすために使用できる仮想記憶域が不足している理由を判別する。

CSQ0036I

List is not filtered.

重大度

0

説明

フィルタリングされたリストの 2 次リスト (例えば、キューまたはチャンネルのリストの状況) が要求された。フィルター条件が 2 次リストに適用されていない。最初に要求された名前、タイプ、および後処理に一致する項目がすべて含まれる。

CSQ0037I

ローカル定義済みのチャンネルを使用します。

重大度

4

説明

自動定義クラスター・チャンネルに対して、「リスト・クラスター・キュー・マネージャーのチャンネル」パネルから処置を選択したが、同じ名前のローカル定義チャンネルがある。この場合、この処置を行うと、この処置がローカル定義チャンネルに対して実行される。

システム・アクション

処置パネルが表示される。

CSQ0038I

この機能は再帰的です。

重大度

4

説明

要求した機能により、再帰が起こる。すなわち、直前に使用していたパネルに戻る。これは許可されません。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。

CSQ0039E

データ・セット *dsname* を EDIT できません。戻りコード = *rc*。

重大度

8

説明

名前リスト内の名前を編集しようとしていて、割り振られたデータ・セットの処理中に、EDIT エラーが起こった。*dsname* は、データ・セットの名前であり、*userid.NAMELIST.NAMESn* の形式である(ここで、*userid* は関連する TSO ユーザー ID、*n* は数字である)。*rc* は、ISPF コマンド EDIT からの戻りコードである。

システム・アクション

パネルが再表示される。

システム・プログラマーの応答

このメッセージに伴って TSO から 1 つまたは複数のメッセージが出され、問題の原因に関する詳しい情報が提供される。戻りコードについては、「TSO/E コマンド解説書」を参照。

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQ0040I

name と合う後処理 *disptype* のオープン・キューはありません。

重大度

0

説明

後処理 *disptype* および名前 *name* を持つオープン・キューをリストするように要求したが、一致するオブジェクトが見つからなかった。

システム・アクション

空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0041I

Action requires a specific object type.

重大度

4

説明

オブジェクト・タイプ QUEUE または CHANNEL に対して、定義要求が出された。

システム・アクション

2 次ウィンドウまたはメインパネルが再表示される。

CSQ0042I

最初のパネルです。

重大度

0

説明

前のパネルに後方スクロールするように要求する機能キーが押されたが、すでに最初のパネルが表示されている。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0043I

最後のパネルです。

重大度

0

説明

次のパネルに前方スクロールするように要求する機能キーが押されたが、すでに最後のパネルが表示されている。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0044I

タイプ *objtype* のオブジェクトには機能は使用できません。

重大度

0

説明

要求した機能 (例えば、状況またはクラスター情報) は、タイプ *objtype* を持つオブジェクトには使用できない。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0045I

名前はオブジェクト・タイプ *type* には長過ぎます。

重大度

8

説明

チャンネル・オブジェクトに 20 文字より長い名前、接続オブジェクトに 16 文字より長い名前、CF 構造体オブジェクトに 8 文字より長い名前または 12 文字より長い名前、あるいはストレージ・クラス・オブジェクトに 8 文字より長い名前を指定した。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0046I

No channels with saved status for *name*.

重大度

0

説明

チャンネル *name* について保管状況をリストするように要求したが、保管状況がなかった。

システム・アクション

空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0047I

name の現行のチャンネルはありません。

重大度

0

説明

チャンネル *name* について現行インスタンスをリストするように要求したが、現行のインスタンスがなかった。

システム・アクション

空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0048I

チャンネル・イニシエーターが活動状態ではありません。

重大度

0

説明

要求されたアクションでは、アクション・キュー・マネージャー上でチャンネル・イニシエーターが活動状態でなければならないが、活動状態でない。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0049I

EXEC を TSO コマンドとして呼び出すことはできません。

重大度

4

説明

操作および制御 EXEC の 1 つを TSO コマンドとして出そうとした。

システム・アクション

要求は無視される。

システム・プログラマーの応答

操作および制御パネルを呼び出すには、CSQOREXX を使用する。

CSQ0050I

タイプ *objtype* 後処理 *disptype* のオブジェクトで、*name* に一致するオブジェクトはありません。

重大度

0

説明

後処理 *disptype* および名前 *name* を持つタイプ *objtype* のオブジェクトを表示またはリストするように要求したが、一致するオブジェクトが見つからなかった。

システム・アクション

現行パネルが再表示されるか、または空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0051I

後処理 *disptype* が指定された類似オブジェクト名が見つかりません。名前はデフォルト属性を持つ新規オブジェクトの定義を想定します。

重大度

0

説明

後処理 *disptype* および名前 *name* を持つオブジェクトを基礎として使用して、タイプ *objtype* のオブジェクトを定義するように要求したが、そのようなオブジェクトが見つからなかった。

(初期のリリースでは、「メインメニュー」パネル上で定義する新しいオブジェクトの名前および定義の基礎として使用する「類似」名を指定することができた。現在では「類似」名は、「メインメニュー」パネル上の「定義」に対してのみ指定できる。「定義」パネルで新しいオブジェクト名を指定する。)

システム・アクション

「定義」パネルが表示される。このパネルは、新しいオブジェクトがデフォルトの属性で定義されることを想定して、指定した名前とそのタイプのオブジェクトのデフォルトの属性で初期設定されている。

CSQ0052I

接続名が変更されたので、キュー・マネージャー名が変更されました。

重大度

0

説明

「Connect name (接続名)」フィールドが変更されたが、「Target queue manager (ターゲット・キュー・マネージャー)」フィールドは変更されなかった。新しい接続名は、ターゲット・キュー・マネージャー名とは異なっていた。これは、ターゲット・キュー・マネージャーを変更することを忘れたと想定される。

システム・アクション

ターゲット・キュー・マネージャーは、接続先のキュー・マネージャーに変更される。アクション・キュー・マネージャーも変更されることがある。使用される新しい名前を示している「Queue Manager Names (キュー・マネージャー名)」2次ウィンドウが表示される。

CSQ0053I

接続またはキュー・マネージャー名にブランクが指定されました。

重大度

0

説明

1つまたは複数の「Connect name (接続名)」、「Target queue manager (ターゲット・キュー・マネージャー)」、または「Action queue manager (アクション・キュー・マネージャー)」フィールドがブランク (デフォルト名を使用することを指定) だった。

システム・アクション

使用される実際の名前を示している「キュー・マネージャー名」2次ウィンドウが表示される。

CSQ0054I

後処理が *disptype* のオブジェクトには機能は使用できません。

重大度

0

説明

要求した機能 (例えば、状況またはクラスター情報) は、後処理 *disptype* を持つオブジェクトには使用できない。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0055I

接続名がキュー共有グループです。

重大度

0

説明

「Connect name (接続名)」フィールドは、グループ内の任意のキュー・マネージャーに接続するために、キュー共有グループの名前を指定した。

システム・アクション

接続しているキュー・マネージャーの名前を示している「キュー・マネージャー名」2次ウィンドウが表示される。

CSQ0056I

キュー共有グループが必要です。

重大度

0

説明

要求されたアクションでは、キュー・マネージャーがキュー共有グループの一部である必要があるが、そうになっていない。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0057I

機能 *function* は後処理 *disposition* には許可されません。

重大度

8

説明

入力された機能番号は、指定した後処理では許可されない。これは、「Manage (管理)」アクションを使用している場合に作業しているオブジェクトの後処理であるか、またはチャンネル機能を実行している場合に選択する後処理である。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。

CSQ0058I

アクション *action* は後処理が *disposition* のチャンネルには許可されません。

重大度

8

説明

入力されたアクション番号は、指定された後処理ではチャンネル・オブジェクトに使用できない。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。

CSQ0059I

Disposition *disposition* is not allowed for object type *object-type*.

重大度

8

説明

入力された後処理は、*object-type* オブジェクトには許可されない。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。

CSQ0060I

宛先キュー・マネージャー *qmgr-name* のプラットフォームは z/OS でも OS/390® でもありません。

重大度

4

説明

z/OS でも OS/390 でもないプラットフォームで、ターゲット・キュー・マネージャーが実行されている。そのようなキュー・マネージャーでは、アクションは部分的に機能するか、正しく機能しないか、まったく機能しないのいずれかになり、キュー・マネージャーからの応答は認識されない。

システム・アクション

「ターゲット・キュー・マネージャーの確認」2次ウィンドウが表示される。

CSQ0061I

Target queue manager *qmgr-name* command level is not supported.

重大度

4

説明

ターゲット・キュー・マネージャーのコマンド・レベルが、「Operations and Control (操作および制御)」パネルがサポートするレベルではない。そのようなキュー・マネージャーでは、アクションは部分的に機能するか、正しく機能しないか、まったく機能しないのいずれかになり、キュー・マネージャーからの応答は認識されない。

システム・アクション

「ターゲット・キュー・マネージャーの確認」2次ウィンドウが表示される。

CSQ0062I

Action queue manager *qmgr-name* command level is not the current level.

重大度

4

説明

アクション・キュー・マネージャーのコマンド・レベルが、「Operations and Control (操作および制御)」パネルがサポートする現在のレベルではない。アクションがそのようなキュー・マネージャーに送られた場合、アクションの多くは機能するが、一部のフィールドは無視される。一部のオブジェクトおよびアクションは許可されない。

システム・アクション

「アクション・キュー・マネージャーの確認」2次ウィンドウが表示される。

CSQ0063I

Command level of some queue managers in the queue sharing group is not the current level.

重大度

4

説明

アクション・キュー・マネージャーが「*」であり、キュー共有グループ内の1つ以上のキュー・マネージャーのコマンド・レベルが、「操作および制御」パネルでサポートされる現在のレベルではない。アクションがそのようなキュー・マネージャー、またはキュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーに送られた場合、アクションの多くは機能するが、一部のフィールドは無視される。一部のオブジェクトおよびアクションは許可されない。

システム・アクション

「アクション・キュー・マネージャーの確認」2次ウィンドウが表示される。

CSQ0064I

Object type *object-type* is not allowed with command level of action or target queue manager.

重大度

4

説明

そのアクションまたはターゲット・キュー・マネージャーのコマンド・レベルでは、*object-type* オブジェクトがサポートされていない。

システム・アクション

「アクション・キュー・マネージャーの確認」2次ウィンドウが表示される。

CSQ0065I

オブジェクト名 *name* が無効です。

重大度

8

説明

「Name (名前)」フィールドに入力された値が無効である。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0066I

name に一致する CF 構造体について、このタイプの状況はありません。

重大度

0

説明

名前が *name* の CF 構造体の状況をリストするように要求したが、そのタイプの状況を持つ CF 構造体はなかった。

システム・アクション

空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0067I

キュー共有グループ内の一部のチャンネル・イニシエーターが非活動状態です。リストが不完全である可能性があります。

重大度

4

説明

要求したアクションでは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャー上のチャンネル・イニシエーターからの情報が必要だが、それらのチャンネル・イニシエーターのいくつかが活動状態ではない。そのため情報が不完全である可能性がある。

システム・アクション

リスト・パネルが表示されているが、不完全である可能性がある。

CSQ0068I

キュー共有グループ内の全チャンネル・イニシエーターが非活動状態です。

重大度

4

説明

要求したアクションでは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャー上のチャンネル・イニシエーターからの情報が必要だが、それらのチャンネル・イニシエーターのうち活動状態のものがない。そのため、情報を表示できない。

システム・アクション

空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0069I

キュー・マネージャーのコマンド・レベルが原因で、アクション、機能、またはオブジェクト・タイプが許可されません。

重大度

4

説明

アクション・キュー・マネージャーのコマンド・レベルが、「Operations and Control (操作および制御)」パネルがサポートする現在のレベルではない。選択したアクション、機能、またはオブジェクト・タイプは、そのコマンド・レベルでは許可されていない。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0070I

No field value supplied.

重大度

0

説明

フィルタリングを使用してオブジェクトをリストするように要求したが、フィルター・パネル上のフィールドのいずれにも値が入力されなかった。必要なフィルタリングを指定する場合は、フィールド(1つのみ)に値を入力しなければならない。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0071I

More than one field value supplied.

重大度

0

説明

フィルタリングを使用してオブジェクトをリストするように要求したが、フィルター・パネル上の複数のフィールドに1つの値が入力された。必要なフィルタリングを指定する場合は、1つのフィールド値のみを入力できる。

システム・アクション

パネルが再表示される。

CSQ0072I

No current channels for *name* match filter condition.

重大度

0

説明

フィルター条件を使用してチャンネル *name* について現行インスタンスをリストするように要求したが、条件を満たす現行のインスタンスがなかった。

システム・アクション

空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0073I

No channels with saved status for *name* match filter condition.

重大度

0

説明

フィルター条件を使用してチャンネル *name* について保管状況をリストするように要求したが、条件を満たす保管状況のチャンネルがなかった。

システム・アクション

空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0074I

No objects of type *objtype* match *name* and filter condition.

重大度

0

説明

フィルター条件を使用してタイプ *objtype* および名前 *name* のオブジェクトを表示またはリストするように要求したが、一致するオブジェクトで、条件を満たすものが見つからなかった。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。

CSQ0075I

タイプ *objtype* 後処理 *disptype* のオブジェクトで、*name* とフィルター条件に一致するものはありません。

重大度

0

説明

フィルター条件を使用して後処理 *disptype* および名前 *name* を持つタイプ *objtype* のオブジェクトを表示またはリストするように要求したが、一致するオブジェクトで、条件を満たすものが見つからなかった。

システム・アクション

現行パネルが再表示されるか、または空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0076I

No connections match *name*.

重大度

0

説明

名前が *name* の接続をリストするように要求したが、そのような接続はなかった。

システム・アクション

空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0077I

No open handles for connection name match *name*.

重大度

0

説明

接続 *name* のオープン・ハンドルをリストするように要求したが、そのようなハンドルは見つからなかった。

システム・アクション

空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0078I

No connections match *name* and filter condition.

重大度

0

説明

名前が *name* の接続をリストするように要求したが、条件を満たす接続がなかった。

システム・アクション

空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0079I

後処理 *disptype* を指定したオープン・キューで、*name* およびフィルター条件に一致するものではありません。

重大度

0

説明

フィルター条件を使用して後処理 *disptype* および名前 *name* を持つオープン・キューをリストするように要求したが、一致するオブジェクトで、条件を満たすものが見つからなかった。

システム・アクション

空のリスト・パネルが表示される。

CSQ0085E

pgm-name でエラーです。TBCREATE *table-name* が失敗しました。戻りコード=*rc*。

重大度

12

説明

pgm-name による ISPF TBCREATE サービス呼び出しが失敗に終わった。*table-name* は、*pgm-name* が作成しようとしていた表の名前である。

システム・アクション

内部エラーが発生しました。現行のパネルが再表示される。エラーについての詳細を示した ISPF メッセージが、最初に表示されることもある。

システム・プログラマーの応答

内部エラーが発生した場合は、メッセージ番号とその表示された値に加えて、関連する ISPF メッセージを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQ0086E

pgm-name でエラーです。TBDISPL *panel-name* が失敗しました。戻りコード=*rc*。

重大度

12

説明

pgm-name による ISPF TBDISPL サービス呼び出しが失敗に終わった。 *panel-name* は、 *pgm-name* が表示しようとしていたパネルの名前である。

システム・アクション

システムはパネルを表示することができず、(該当する場合は) 最後のパネルが再表示される。 エラーについての詳細を示した ISPF メッセージが、最初に表示されることもある。

システム・プログラマーの応答

rc=12 であれば、パネルが見つからない。「メインメニュー」パネルを表示しようとしたときにこのメッセージを受け取った場合は、パネルを含んだデータ・セットがライブラリー連結に含まれていないと考えられる。 パネルを含むデータ・セットの名前を見つけ、ISPLIB ライブラリー定義を調べる。これは、その中に ISPF LIBDEF 呼び出しを含む高レベルの EXEC または CLIST から CSQOREXX を呼び出しているのではない限り、TSO ログオン手順の一部と考えられる。

このメッセージを受け取ったときすでにパネルを使用中である場合は、パネルが ISPLIB ライブラリーから欠落しているか、内部エラーが起こった。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

rc=20 であれば、おそらく、表示しようとしていたパネルに適用されるキー・リストをシステムが見つけることができなかったことが、問題の原因である。すべてのキー・リストは、ISPF 表 (CSQOKEYS) に入っている。この ISPF 表は、ISPTLIB 連結のライブラリーになければならない。

CSQ0087E

pgm-name でエラーです。 SELECT *program* が失敗しました。 戻りコード = *rc*。

重大度

12

説明

pgm-name による ISPF SELECT サービス呼び出しが失敗に終わった。 *program* は、 *pgm-name* が選択しようとしていたプログラムの名前である。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。 エラーについての詳細を示した ISPF メッセージが、最初に表示されることもある。

システム・プログラマーの応答

システムはロード・モジュールを見つけることができなかった。 ISPLIB ライブラリー連結を調べる。

CSQ0088E

pgm-name でエラーです。 DISPLAY *panel-name* が失敗しました。 戻りコード=*rc*。

重大度

12

説明

pgm-name による ISPF DISPLAY サービス呼び出しが失敗に終わった。 *panel-name* は、 *pgm-name* が表示しようとしていたパネルの名前である。

システム・アクション

システムはパネルを表示することができず、(該当する場合は) 最後のパネルが再表示される。 エラーについての詳細を示した ISPF メッセージが、最初に表示されることもある。

システム・プログラマーの応答

rc=12 であれば、パネルが見つからない。「メインメニュー」パネルを表示しようとしたときにこのメッセージを受け取った場合は、パネルを含んだデータ・セットがライブラリー連結に含まれていないと

考えられる。パネルを含むデータ・セットの名前を見つけ、ISPPLIB ライブラリー定義を調べる。これは、その中に ISPF LIBDEF 呼び出しを含む高レベルの EXEC または CLIST から CSQOREXX を呼び出しているのではない限り、TSO ログオン手順の一部と考えられる。

このメッセージを受け取ったときすでにパネルを使用中である場合は、パネルが ISPPLIB ライブラリーから欠落しているか、内部エラーが起こった。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

rc=20 であれば、おそらく、表示しようとしていたパネルに適用されるキー・リストをシステムが見つけることができなかったことが、問題の原因である。すべてのキー・リストは、ISPF 表 (CSQOKEYS) に入っている。この ISPF 表は、ISPTLIB 連結のライブラリーになければならない。

CSQ0089E

pgm-name でエラーです。 *service* が失敗しました。戻りコード *rc*。

重大度

12

説明

pgm-name による ISPF サービス (*service*) の呼び出しが失敗に終わった。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。エラーについての詳細を示した ISPF メッセージが、最初に表示されることもある。

システム・プログラマーの応答

***service*=VDEFINE、VPUT、または TBADD**

内部エラーが発生したので、メッセージ番号とその中に含まれている値を書き留め、IBM サポートに連絡する。

service が上記以外のものであれば、メッセージ番号とその中に入っている値に加えて、関連する ISPF メッセージを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQ0090E

program で内部エラーです。アクション・フィールドが無効です。

重大度

12

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行のパネルが再表示される。

システム・プログラマーの応答

次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- メッセージの番号と *program* の値
- 関連するパネルの名前
- 問題の原因となったアクションの説明

CSQ0091E

program で内部エラーです。オブジェクト・フィールドが無効です。

重大度

12

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

最後のパネルが再表示される。

システム・プログラマーの応答

次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- メッセージの番号と *program* の値
- 関連するパネルの名前
- 問題の原因となったアクションの説明

CSQ0092E

program で内部エラーです。応答変換のエラー。

重大度

12

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

最後のパネルが再表示される。

システム・プログラマーの応答

次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- メッセージの番号と *program* の値
- 関連するパネルの名前
- 問題の原因となったアクションの説明

CSQ0093E

program で内部エラーです。コマンド要求が無効です。

重大度

12

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

最後のパネルが再表示される。

システム・プログラマーの応答

次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- メッセージの番号と *program* の値
- 関連するパネルの名前
- 問題の原因となったアクションの説明

CSQ0095E

program で内部エラーです。*service* が失敗しました。戻りコード *rc*。

重大度

12

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

最後のパネルが再表示される。

システム・プログラマーの応答

次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- メッセージの番号と、*program* および *service* の値
- 関連するパネルの名前
- 問題の原因となったアクションの説明
- 表示された関連 ISPF メッセージ

CSQ0096E

program で内部エラーです。 *att-name* がキーワード表にありません。

重大度

12

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

最後のパネルが再表示される。

システム・プログラマーの応答

次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- メッセージの番号と、*program* および *att-name* の値
- 関連するパネルの名前
- 問題の原因となったアクションの説明

CSQ0097E

program で内部エラーです。 要求されたシステム・キューを扱えません。

重大度

12

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

最後のパネルが再表示される。

システム・プログラマーの応答

次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- メッセージの番号
- 関連するパネルの名前
- 問題の原因となったアクションの説明

バッファ・マネージャー・メッセージ (CSQP...)

CSQP002I

バッファ・プール値が範囲外です。

重大度

8

説明

次のいずれかのコマンドが正しく発行されなかった。

- DEFINE BUFFPOOL(n)

- ALTER BUFFPOOL(n)
- DELETE BUFFPOOL(n)
- DEFINE PSID(x) BUFFPOOL(n)

n の値の範囲は 0 から 99 まで。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

コマンドの詳細について [MQSC コマンドのマニュアル](#)を参照して、コマンドを正しく再発行する。

CSQP003I

PSID 値が範囲外です。

重大度

8

説明

次のいずれかのコマンドが正しく発行されなかった。

- DEFINE PSID(x)
- ALTER PSID(x)
- DELETE PSID(x)

X の値は、0 から 99 までの範囲内でなければならない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

コマンドの詳細について [MQSC コマンドのマニュアル](#)を参照して、コマンドを正しく再発行する。

CSQP004E

csect-name I/O エラー状況 *ret-code* PSID *psid* RBA *rba*

重大度

8

説明

入出力エラーが発生した。*ret-code* は、メディア・マネージャーからの戻りコードである。*psid* はエラーが発生したページ・セットの ID で、*rba* はエラーが発生したレコードの RBA (16 進数) である。

システム・アクション

キュー・マネージャーを異常終了させることができる。例えば、MQGET または MQPUT が失敗した場合は、IBM MQ API 呼び出し中に CSQP004E 入出力エラーが発生しても、キュー・マネージャーは終了しない。ただし、チェックポイントの処理中に入出力エラーが発生した場合、キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

[メディア・マネージャー戻りコード](#)については、「[z/OS DFSMSdfp 診断](#)」を参照してください。参照できない場合は、IBM サポートに連絡し、メディア・マネージャーからの戻りコードについて問い合わせる。

CSQP005I

バッファ値が範囲外です。

重大度

8

説明

次のいずれかのコマンドが正しく発行されなかった。

- DEFINE BUFFPOOL(*n*) BUFFERS(*x*)
- ALTER BUFFPOOL(*n*) BUFFERS(*x*)

LOCATION パラメーターの値が BELOW である場合、バッファの最小値は 100 で、最大値は 500,000 です。LOCATION パラメーターの値が ABOVE のとき、有効値は 100 から 999999999 (9 が 9 個) までの範囲となる。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

コマンドを正しく再発行する。すべてのバッファ・プールで定義できるバッファ総数は、キュー・マネージャーのアドレス・スペースで使用可能なストレージ容量によって決定される。

CSQP006I

ログ・チェックポイント名 *log-name* がキュー・マネージャー名 *qmgr-name* に一致しません。

重大度

8

説明

別のキュー・マネージャーからのログによる再始動が検出された。検査ポイント時にログに記録された名前が、再始動にそのログを使用するキュー・マネージャーの名前と一致しない。

システム・アクション

再始動は、完了コード X'5C6' および理由コード X'00D70102' で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー用の開始済みタスク JCL プロシージャ xxxXMSTR を変更し、該当するブートストラップおよびログ・データ・セットを指定する。

CSQP007I

ページ・セット *x* はバッファ・プール *n* を使用しています。

重大度

0

説明

このメッセージは、指定したページ・セットによって使用されるバッファ・プールを示す。

DEFINE PSID(*x*) コマンドに応答して送信される。

CSQP009I

ページ・セット *psid* ページ *page-number* のページ回復を開始しました。

重大度

0

説明

ページ・セット *psid* のページ *page-number* に関する不完全な更新操作が検出された。そのページは、ログの情報を用いて、整合性のある状態に復元されつつある。

ページ回復操作が完了すると、メッセージ CSQP010I が出される。

CSQP010I

ページ・セット *psid* ページ *page-number* のページ回復が完了しました。

重大度

0

説明

ページ・セット *psid* のページ *page-number* に関する不完全な更新操作が検出された。そのページは、ログの情報を用いて、整合性のある状態に復元された。

CSQP011E

ページ・セット *psid* の接続エラー状況 *ret-code*

重大度

8

説明

ページ・セットをオープンしようとしたが失敗した。*psid* はページ・セット ID、*ret-code* はデータ機能プロダクト (DFP) CONNECT 機能からの戻りコードである。

これはキュー・マネージャー始動時に発生することがある。この原因として可能性が高いのは、キュー・マネージャーを始動したタスクの JCL、またはページ・セットの動的追加に使用された DEFINE PSID コマンドの応答に、ページ・セット用の DD ステートメントが組み込まれていないことである。

システム・アクション

キュー・マネージャー始動時に発生した場合、MQ は、ページ・セット用の DD ステートメントが欠落していると想定して、ページ・セットを動的に割り振ってオープンを再試行する。再始動の最後でのメッセージ CSQI010I に続くメッセージで、動的ページ・セット割り振りが成功したかどうか、またはこのページ・セットがまだオフラインのままかどうかを示す。

ページ・セットをオープンできない場合、キュー・マネージャーは実行を続行するが、ページ・セット内のデータにアクセスすることはできない。再始動時またはキューをオープンしようとしたときに、問題が検出される可能性がある。

システム・プログラマーの応答

該当する場合は、キュー・マネージャーの開始済みタスク JCL にページ・セットの DD ステートメントを必ず組み込む。

ページ・セットを開くことができない場合は、「[z/OS DFSMSdfp 診断](#)」マニュアルを参照して、[メディア・マネージャーの戻りコード](#)に関する情報を確認してください。参照できない場合は、IBM サポートに連絡し、メディア・マネージャーからの戻りコードについて問い合わせる。

CSQP012I

ページ・セット *psid* の切断エラー状況 *ret-code*

重大度

8

説明

ページ・セットをクローズしようとしたが失敗した。*psid* はページ・セット ID、*ret-code* はメディア・マネージャーからの戻りコードである。

システム・アクション

キュー・マネージャーの終了が継続するが、一部の情報はページ・セットから脱落している可能性がある。これは、再始動時にログの情報を用いて訂正される。

システム・プログラマーの応答

[メディア・マネージャー戻りコード](#)については、「[z/OS DFSMSdfp 診断](#)」を参照してください。参照できない場合は、IBM サポートに連絡し、[メディア・マネージャーからの戻りコード](#)について問い合わせる。

CSQP013I

csect-name ページ・セット *psid* に作成された新規エクステントです。新規エクステントは今フォーマットされます。

重大度

0

説明

ページ・セット *psid* が、新規エクステントの作成により動的に拡張された。

システム・アクション

新規エクステントがフォーマットされる。フォーマットが正常に完了すると、メッセージ CSQI031I が出される。

システム・プログラマーの応答

ページ・セットは 123 回だけ拡張できる。この後、これより大きい 1 次および 2 次エクステントを使用して、ページ・セットを再度割り振らなければならない。ページ・セットの管理については、[ページ・セットの管理](#)を参照。

CSQP014E

csect-name ページ・セット *psid* の拡張が失敗しました。これ以降の拡張要求は拒否されます。

重大度

8

説明

ページ・セットを動的に拡張しようとしたが失敗した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

要求が失敗した理由を示す VSAM または DFP からのメッセージを見つけて、必要な処置をとる。

以下のようにして、ページ・セットの拡張が必要な理由を調べる。

- [ページ・セットとバッファ・プールの計画](#)を参照して、ページ・セットの割り振りがアプリケーション・キューにとって十分大きいことを確認する。
- デッド・レター・キュー (DLQ) が深い場合は、DLQ ハンドラー CSQUDLQH を実装する。あるいは、これ以上メッセージに関する処置を行う必要がなければ CLEAR QLOCAL コマンドでキューをクリアする。同様に、SYSTEM.EVENT.* キューはページ・セットをいっぱいにすることができます。
- ジョブ・ログまたはアプリケーション・ログを参照して、読み取り側アプリケーションの実行を妨げているエラーがないか確認する。
- アプリケーションが読み取りや書き込みのコミットに失敗しているかどうかを確認する。次のコマンドを使用すると、コミットされていないメッセージがあるかどうかを調べることができる。

```
DISPLAY QSTATUS(qname) UNCOM CURDEPTH
```

注:

1. コミットされていないメッセージの数や、メッセージが読み取り用か書き込み用かはディスプレイに表示されません。
 2. コミットされていない MQGET の対象のメッセージは、キューの深さに寄与しなくなっても、ページ・セット上のスペースを占めます。
- 読み取り側アプリケーションがチャンネルである場合、そのチャンネルは開始していますか? また、そのチャンネルは正常にメッセージを移動できますか? 次のコマンドを使用すると、

```
DISPLAY CHSTATUS(channelname) ALL
```

[チャンネル状況属性 \(STATUS、SUBSTATE、INDOUBT\)](#)を確認できる。

- メッセージで MQMD.EXPIRY に整数が使用されている場合は、有効期限切れでクリーンアップが必要なメッセージがある可能性がある。QMGR 定義で EXPRINT が OFF に設定されている場合、コマンドは以下を実行します。

```
REFRESH QMGR TYPE(EXPIRY) NAME(big.queue)
```

NAME() フィールドに指定された名前と一致するキューの EXPIRY スキャンを実行します。このコマンドは、処理に時間がかかる場合があります。以下のコマンドを発行します。

```
DISPLAY USAGE PSID(n)
```

ここで、n は、進行状況をモニターするための、一定の間隔でのページ・セット番号です。

- EOVS または EXTEND 処理に関係があるサード・パーティー製品がシステム上にないか確認する。

メッセージ IEC070I を受け取った場合、*return code* (そのメッセージの最初の値) の意味は以下のとおり。

034(004):

ボリュームの終わり - 拡張アドレス不可。新規の割り振り量が 4 GB を超える。

メッセージのボリュームまたはサイズに、より大きいページ・セットが必要な場合は、4 GB より大きくするためのページ・セットの定義の手順に従う。

104

スペース割り振りに使用可能なボリュームがこれ以上はない (候補ボリュームがこれ以上はない)。

以下のコマンドを使用して、スペースを追加し、内部"ページは拡張できません"フラグをオフに切り替えます。

- ALTER ADDVOLUME コマンド。詳細については、「*z/OS DFSMS Implementing System-Managed Storage*」の「Extending data sets on new volumes」を参照してください。
- ALTER PSID() EXPAND()

有効な構文、つまりページ・セット番号と拡張値を指定する必要がある。詳しくは、ALTER PSIDを参照。

203

拡張しようとしたが、2 次スペース割り振りの数量が指定されなかった。

204

拡張しようとしたが、エクステントの最大数に達した。

ICF カタログでカタログされた VSAM データ・セットの最大エクステント数は、119 から 123 までの間になり、割り振りまたは拡張要求ごとに DADSM で割り振られるエクステントの数 (1 から 5 まで) によって異なる。

209

- 拡張しようとしたが、ユーザーのボリューム上に使用可能なスペースがなかった。
- 2 次スペース容量が指定されておらず、候補ボリュームを使用できない。

IBM MQ for z/OS では 動的ページ・セット拡張を使用可能にするか、IDCAMS ALTER ADDVOL を使用して候補ボリュームを追加できるため、ページ・セットのサイズを増やす方法の指示に従うことができます。

その後で、TIOT が再作成されるようにデータ・セットをクローズして再オープンする必要がある。そうしないと、IEC070I 211(8,306) から 221 まで、および IGD306I UNEXPECTED ERROR DURING IEFAB4C2 PROCESSING RETURN CODE 24 REASON CODE 0 が発生する可能性がある。

クローズは、次の JCL を使用すると、キュー・マネージャーをリサイクルせずに実行できる。

```
//STEP1 EXEC PGM=IDCAMS
//DSFILE DD DSN=your.dataset.name,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
VERIFY FILE(DSFILE)
/*
```

ゼロ以外の戻りコードで完了するために、JCL を 2 回実行しなければならない場合がある。1 回目の実行では一部のフラグがリセットされないことがある。

注：DFP は、1 次または 2 次エクステントの必要スペース合計を満たすため、最大 5 つの連続しないディスク域を使用する。すなわち、ディスク・スペースがかなり分断されている最悪の場合には、最大スペース限界に達する前に割り振られる 2 次スペースの 22 倍しか取得できない場合がある。

別の 2 次エクステントによって使用される可能性のあるフリー・スペースが十分にあるとわかっている場合は、IBM サポートに連絡する。

220-220

IBM MQ for z/OS が、メディア・マネージャーにページ・セット (線形データ・セット) の拡張を要求し、メディア・マネージャーに無効な拡張パラメーターを渡しました。

1 つの原因は、ページ・セットが 64GB の限界に達したことです。[ページ・セットのフォーマット \(FORMAT\)](#) を実行することは、最大 16,777,213 4K ページの 64 GB のページ・セットを作成することと等価になります。[DISPLAY USAGE](#) コマンドを使用して、ページ・セットのサイズを監視できます。

CSQP016E

csect-name ページ・セット *psid* は範囲の最大数に達しました。もう一度拡張はできません。

重大度

8

説明

ページ・セット *psid* を動的に拡張しようとしたが、エクステントの最大数がすでに使用されていたために失敗した。

システム・アクション

ページ・セットは再度拡張することはできない。全ページ・セットのメッセージが検索されると、既存のスペースが再び使用される。

システム・プログラマーの応答

ページ・セットをより大きい 1 次および 2 次エクステントをもつ新しいページ・セットにコピーする。ページ・セットをマルチボリューム・データ・セットと定義することによって、できるだけ多くのディスク・ボリュームにあるフリー・スペースを活用することができる。[z/OS での IBM MQ 環境の計画](#) を参照してください。ページ・セットの編成と管理については、[ページ・セットの管理](#) を参照。

CSQP017I

csect-name ページ・セット *psid* の拡張を開始しました。

重大度

0

説明

ページ・セット *psid* は、新しいエクステントを作成することにより、動的に拡張中である。

システム・アクション

現在メッセージをページ・セット *psid* に追加中のすべてのスレッドは、ページ・セットの拡張が完了する (これはメッセージ [CSQP013I](#) によって示される) まで中断される。

CSQP018I

csect-name チェックポイントがすべてのバッファ・プールに開始しました。

重大度

0

説明

定義されたすべてのバッファ・プールに対して、チェックポイントが設定される。

CSQP019I

csect-name バッファ・プール *n* でチェックポイントが完了しました。 *pages* ページが書き込まれました。

重大度

0

説明

バッファ・プール *n* に対して、チェックポイントが正常に設定された。

CSQP020E

csect-name バッファ・プール *n* は小さ過ぎます。

重大度

8

説明

バッファ・プール内でバッファの競合が起こっている。メッセージをページ・セットから読み込んだり、ページ・セットに書き込んだりする必要がある。その結果、アプリケーション要求を処理する時間とプロセッサの使用時間が増加する。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

必要であれば、ALTER BUFFPOOL コマンドを使用してバッファ・プールにバッファを追加する。まず、他のバッファ・プールを変更して使用中のバッファの総数を減らすことを考える。z/OS コンソールで最新の CSQY220I メッセージを参照し、仮想ストレージの空き容量と、バッファ・プールに安全に追加できるバッファ数を確認する。バッファ・プール内のバッファの数を変更する場合は、キュー・マネージャーによって使用される CSQINP1 初期設定入力データ・セットの DEFINE BUFFPOOL コマンドも変更する必要がある。

あるいは、DEFINE BUFFPOOL(X) REPLACE を指定する (このオプションはログ・チェックポイント・レコードを使用しない)。

バッファ・プールの LOCATION 値が BELOW で、2 GB 境界より下のストレージが不十分な場合は、その LOCATION 値を ABOVE に設定して 2 GB 境界より上にバッファを移動することを検討する。そのために MEMLIMIT パラメータの値の変更が必要になる場合がある。詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

CSQP021I

ページ・セット *psid* 新規メディア回復 RBA=*rcvry-rba*、チェックポイント RBA=*chkpt-rba*

重大度

0

説明

チェックポイントの処理中に、新しいメディア回復 RBA を確立して、バッファがバッファ・プールから、指定されたページ・セットにフラッシュされた。この RBA は、ページ・セットのメディア回復を実行するために必要とされるログ・データの起点である。この RBA は、チェックポイント RBA と同じでなければならない。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メディア回復とチェックポイントの RBA が異なる場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQP022I

バッファ・プール *n* が定義されていません。

重大度

8

説明

未定義のバッファ・プールを指定するコマンドが発行された。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

コマンドの詳細について [MQSC コマンドのマニュアル](#)を参照して、コマンドを正しく再発行する。

CSQP023I

バッファ・プール n の要求が完了しました。これで k バッファとなります。

重大度

0

説明

指定されたバッファ・プールのサイズは正常に変更された。

CSQP024I

バッファ・プール n の要求を開始しました。

重大度

0

説明

バッファ・プールの変更要求が受け入れられた。変更が完了すると、メッセージ CSQP023I、CSQP052I、または CSQP053I のいずれかが z/OS コンソールに送信される。

CSQP025I

ページ・セット n が定義されていないかオフラインです。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーに使用できないページ・セットを指定するコマンドが発行された。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

コマンドの詳細について [MQSC コマンドのマニュアル](#)を参照して、コマンドを正しく再発行する。

CSQP026I

ページ・セット n がストレージ・クラスで使用中です。

重大度

8

説明

指定されたページ・セットはストレージ・クラスによって参照されているため、削除できない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

ページ・セットを参照するストレージ・クラスをすべて変更または削除して、コマンドを再発行する。

CSQP027I

ページ・セット n には使用中のバッファがあります。

重大度

8

説明

指定されたページ・セットにはまだ使用中のバッファがあるため、削除できない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

3つのチェックポイントが完了するまで待って、コマンドを再発行する。

CSQP028I

ページ・セット *n* の要求を開始しました。

重大度

0

説明

ページ・セットを定義または削除する要求が受け入れられた。変更が完了すると、メッセージ [CSQP042I](#) または [CSQP032I](#) が z/OS コンソールに送信される。変更が失敗すると、メッセージ [CSQP041E](#) または [CSQP031E](#) が送信される。

CSQP030E

データ・セット *dsname* の割り振り解除が失敗しました、エラー状況=*eeeeiiii*、SMS 理由コード=*SSSSSSSS*

重大度

8

説明

ページ・セット・データ・セットを動的に割り振り解除しようとしたときに、エラーが発生した。エラー状況は、z/OS 動的割り振りから戻されたエラーの理由コードである。

システム・アクション

ページ・セットは削除され、使用できなくなる。

システム・プログラマーの応答

このメッセージのエラー状況部分には、SVC99 要求ブロックからの 2 バイトのエラー・コード (*eeee S99ERROR*) と、その後に 2 バイトの情報コード (*iiii S99INFO*) が含まれている。S99ERROR コードが SMS 割り振りエラー (「97xx」) を示す場合、*ssssssss* には、S99ERSN から取得される追加の SMS 理由コードの情報が含まれる。

[z/OSMVS Authorized Assembler Services Guide](#) に移動し、これらのコードに関する情報については [DYNALLOD 戻りコードの解釈トピック](#) を選択してください。

CSQP031E

ページ・セット *n* の削除が失敗しました。

重大度

8

説明

指定されたページ・セットの削除中にエラーが発生した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

エラーの詳細については、先行するエラー・メッセージを参照。

CSQP032I

ページ・セット *n* の削除が完了しました。

重大度

0

説明

指定されたページ・セットは正常に削除された。

CSQP033E

ページ・セット *n* の削除でエラーが発生しました、コード=*rrr*

重大度

8

説明

指定されたページ・セットの削除中にエラーが発生した。

システム・アクション

ページ・セットは削除されず、まだ使用可能である。

システム・プログラマーの応答

エラー・コードを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQP034E

ページ・セット *n* がすでに定義されています。

重大度

8

説明

指定されたページ・セットはキュー・マネージャーによってすでに使用されているので、動的に定義することはできない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

コマンドの詳細について [MQSC コマンドのマニュアル](#)を参照して、コマンドを正しく再発行する。

CSQP035E

データ・セット *dsname* の割り振りが失敗しました、エラー状況=*eeeeiiii*、SMS 理由コード=*ssssssss*

重大度

8

説明

ページ・セット・データ・セットを動的に割り振りしようとしたときに、エラーが発生した。エラー状況は、z/OS 動的割り振りから戻されたエラーの理由コードである。

システム・アクション

ページ・セットが定義されていない。

システム・プログラマーの応答

このメッセージのエラー状況部分には、SVC99 要求ブロックからの 2 バイトのエラー・コード (*eeee* S99ERROR) と、その後に 2 バイトの情報コード (*iiii* S99INFO) が含まれている。S99ERROR コードが SMS 割り振りエラー (「97xx」) を示す場合、*ssssssss* には、S99ERSN から取得される追加の SMS 理由コードの情報が含まれる。

z/OSMVASAuthorized Assembler Services Guide に移動し、これらのコードに関する情報については [DYNALLOC 戻りコードの解釈トピック](#) を選択してください。

CSQP036I

データ・セット *dsname* (ページ・セット *n* に対する) が RECOVER または REPLACE でフォーマットされていません。

重大度

8

説明

指定されたページ・セット・データ・セットは正しくフォーマットされなかった。ページ・セットを動的に追加するために使用されるデータ・セットは、新規にフォーマットされた (TYPE(RECOVER) を使用) データ・セットか、またはメッセージを保持するために以前使用されて、TYPE(REPLACE) を使用してフォーマットされたデータ・セットでなければならない。

システム・アクション

ページ・セットが定義されていない。

システム・プログラマーの応答

必要であれば、データ・セットをフォーマットする。以前に使用されなかったページ・セットをキュー・マネージャーに追加する場合は、TYPE(RECOVER) を指定してユーティリティー・プログラム CSQUTIL の FORMAT 機能を使用する。メッセージを保持するためにページ・セットが以前に使用された場合は、TYPE(REPLACE) を指定して FORMAT 機能を使用する。

後者の場合で、キュー・マネージャーが異常終了した場合は、フォーマットが失敗した可能性があり、メッセージ CSQU160E が発行される。このようなページ・セット・データ・セットを動的に追加することはできないが、キュー・マネージャーの開始済みタスク JCL プロシージャ xxxxMSTR にページ・セットを組み込んで、キュー・マネージャーを再始動することにより、ページ・セットを再度使用可能にすることができる。

CSQP037E

ページ・セット *n* の OPEN が失敗しました、VSAM 戻りコード=*rc* 理由コード=*reason*

重大度

8

説明

ページ・セット・データ・セットをオープンしようとしたときに、VSAM エラーが発生した。

システム・アクション

ページ・セットが定義されていない。

システム・プログラマーの応答

VSAM からの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。必要であれば、要求を再発行する。

CSQP038E

ページ・セット *n* の GET が失敗しました、VSAM 戻りコード=*rc* 理由コード=*reason*

重大度

8

説明

ページ・セット・データ・セットからレコードを取得しようとしたときに、VSAM エラーが発生した。

システム・アクション

ページ・セットが定義されていない。

システム・プログラマーの応答

VSAM からの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。

CSQP039E

ページ・セット n CLOSE が失敗しました、VSAM 戻りコード= rc 理由コード= $reason$

重大度

8

説明

ページ・セット・データ・セットをクローズしようとしたときに、VSAM エラーが発生した。

システム・アクション

ページ・セットが定義されていない。

システム・プログラマーの応答

VSAM からの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。必要であれば、要求を再発行する。

CSQP041E

ページ・セット n の定義が失敗しました。

重大度

8

説明

指定されたページ・セットを定義するときに、エラーが発生した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

エラーの詳細については、先行するエラー・メッセージを参照。

CSQP042I

ページ・セット n の定義が完了しました。

重大度

0

説明

指定されたページ・セットは正常に定義された。

CSQP043I

バッファ・プール n がページ・セットで使用中です。

重大度

8

説明

指定されたバッファ・プールはページ・セットによって使用されているため、削除できない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

バッファ・プールを参照するページ・セットをすべて変更または削除して、コマンドを再発行する。

CSQP045I

バッファ・プール n がページ・セットで使用されていません。

重大度

8

説明

指定されたバッファ・プールはページ・セットによって使用されていないため、バッファは追加も除去もできない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

バッファ・プールを参照するページ・セットを少なくとも 1 つ定義して、コマンドを再発行するか、またはバッファ・プールを削除する。

CSQP046I

バッファ・プール n への要求はすでに進行中です。

重大度

8

説明

指定されたバッファ・プールは、別のコマンドによって変更または削除されている。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

他のコマンドが処理を完了するまで待って、適切であればコマンドを再発行する。

CSQP047E

ページ・セットが使用不可である場合、問題が発生する可能性があります。この状態を訂正するアクションをとってください。

重大度

4

説明

先行するメッセージで報告されたように、1 つ以上のページ・セットが使用できない。以前に使用されてオフラインであるか、定義されていないか、中断されているか、またはアクセス不能である。例えば、MQ が再始動時にページ・セットをオープンしようとしたが、別のアプリケーションによって使用されていたために失敗した可能性がある。

この状況は問題を引き起こす可能性があるため、可能な限り早くこの状況を訂正する処置が必要である。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

DISPLAY USAGE コマンドを使用して、使用不可のページ・セットのリストを取得する。

以前に使用されたページ・セットが必要な場合は、オンラインにする。これはキュー・マネージャーを停止せずに行うことができる。TYPE(REPLACE) を指定して、ユーティリティ・プログラム CSQUTIL の FORMAT 機能を使用する。次に、DEFINE PSID コマンドを発行してページ・セットを使用できるようにする。オフラインのページ・セットに関連していたすべての回復単位 (未確定のものは除く) は、ページ・セットが最後に使用されたときにキュー・マネージャーによってバックアウトされて

いるということに注意する。この未確定の回復単位は、ページ・セットがキュー・マネージャーによって再び使用中となると、解決される場合がある。

ページ・セットが不要の場合は、DELETE PSID コマンドを発行して除去する。また、CSQINP1 初期設定入力データ・セットからそのページ・セットについて DEFINE PSID コマンドを除去する。

CSQP048E

ページ・セット n の PUT が失敗しました、VSAM 戻りコード= rc 理由コード= $reason$

重大度

8

説明

ページ・セット・データ・セットからレコードを取得しようとしたときに、VSAM エラーが発生した。

システム・アクション

ページ・セットが定義されていない。

システム・プログラマーの応答

VSAM からの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。必要であれば、要求を再発行する。

CSQP049I

データセット $dsname$ は別のページ・セット n 用にフォーマットされました。

重大度

8

説明

ページ・セット・データ・セットは TYPE(REPLACE) を使用してフォーマット設定されており、特定のページ・セット n に関するメッセージが含まれている可能性があります。これは、別のページ・セット ID で動的に追加することはできません。

システム・アクション

ページ・セットが定義されていない。

システム・プログラマーの応答

正しいデータ・セットおよびページ・セットを指定してコマンドを再発行する。以前に使用されなかったページ・セットを追加する場合は、TYPE(RECOVER) を指定してユーティリティー・プログラム CSQUTIL の FORMAT 機能を使用し、データ・セットを再フォーマットする。

CSQP051I

バッファ・プール n の要求のためのストレージが不十分です。

重大度

4

説明

指定されたバッファ・プールのサイズは、使用可能なストレージが不十分なため、要求どおりに変更されなかった。

システム・プログラマーの応答

DISPLAY USAGE コマンドを使用すると、システムに定義されたすべてのバッファ・プールの現在のサイズを判別できる。他のバッファ・プールのサイズを削減することで、ストレージを解放して、その後このストレージをコマンドを再発行してこのバッファ・プールに割り当てることも可能である。

メッセージ [CSQY220I](#) はストレージ情報を示す。バッファ・プールを変更する方法については、[バッファ・プールの管理](#)を参照。

CSQP052I

バッファ・プール n の要求の一部が完了しました。現在、 k バッファがあります。

重大度

4

説明

指定されたバッファ・プールのサイズが変更された。バッファ数は、例えば、使用可能なストレージが不十分などの理由で、要求された数になるとは限らない。

CSQP053I

バッファ・プール n の要求が完了しました。バッファは変更されていません。

重大度

0

説明

指定されたバッファ・プールのサイズは変更されていない。これは、要求されたバッファ数が既存のサイズと同じか、または (先行するメッセージ CSQP051I に示されているように) サイズの変更またはバッファ・プールの場所の変更で使用可能な十分なストレージがないためである。

CSQP054I

現在バッファ・プール n は 2 GB 境界より上にあります

重大度

0

説明

指定されたバッファ・プールは現在移動され、2 GB 境界より上にある。

CSQP055I

現在バッファ・プール n は 2 GB 境界より下にあります

重大度

0

説明

指定されたバッファ・プールは現在移動され、2 GB 境界より下にある。

CSQP056E

バッファ・プール n に対する ALTER BUFFPOOL コマンドが失敗しました

重大度

8

説明

ALTER BUFFPOOL コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。バッファ・プールには、エラーが発生した時点のバッファ数がそのまま保持されます。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

DISPLAY USAGE PSID(*) コマンドを使用して、バッファ・プールの現在の状態を調べてください。必要であれば、ALTER BUFFPOOL コマンドを再発行します。

何らかの異常終了が発生した場合は、異常終了コードを調べて、キュー・マネージャーのストレージ不足のためにエラーが引き起こされたかどうかを確認してください。バッファ・プールの LOCATION パラメーターを BELOW から ABOVE に変更するためには、キュー・マネージャー・ストアード・プログラマー xxxMSTR の JCL に含まれる MEMLIMIT パラメーターを大きくしなければなりません場合があります。詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

バッファ・プールを 2 GB 境界より上から 2 GB 境界より下に切り替える場合は、バッファ・プール内のバッファの数を減らさなければならないこともあります。

CSQP060E

ページ・セット 0 はバッファ・プール 0 から 15 までのいずれかを使用する必要があります

重大度

12

説明

ページ・セット 0 は、バッファ・プール 0 から 15 までを使用するように定義される必要がある。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動が失敗する。

システム・プログラマーの応答

バッファ・プール 0 から 15 までを使用するようにページ・セット 0 を定義する。通常、バッファ・プール 0 を使用する。

CSQP061I

ALTER BUFFPOOL *n* が進行中です。経過時間 *m* 分

重大度

4

説明

ALTER BUFFPOOL コマンドが、指定されたバッファ・プールに発行されています。コマンドの処理に 5 分以上かかっている場合、このメッセージはコマンドが完了するまで約 5 分ごとに出力されます。

コマンドが完了すると、メッセージ CSQP023I、CSQP051I、CSQP052I、または CSQP053I の 1 つ以上が出力されます。

このメッセージは、以下のシナリオで出力される場合があります。

- 指定されたバッファ・プールの LOCATION パラメーターが ABOVE から BELOW に変更された
- 指定されたバッファ・プールの LOCATION パラメーターが ABOVE に設定されており、バッファの数が大幅に削減された

ほとんどの場合、ALTER BUFFPOOL コマンドは非常に短時間で完了するため、このメッセージは出力されません。このメッセージが出力された場合でも、経過時間の値が大きくなる限り (30 分を超えない限り)、問題はありません。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログをモニターして、このメッセージがさらに出力されていないか、または ALTER BUFFPOOL コマンドが完了したことを示すメッセージが出力されていないかを確認します。

このメッセージが繰り返し出力され、経過時間が大きな値 (30 分を超える) になる場合、これは問題を示している可能性があるため、IBM サービス担当員に連絡してください。

CSQP062I

バッファ・プール *n* PAGECLAS が変更されました。これを有効にするには再始動が必要です。

重大度

4

説明

示されたバッファ・プールの PAGECLAS 属性が変更されました。

この変更と同時に LOCATION 属性が BELOW から ABOVE に変更されない限り、バッファ・プールで使われるページ・タイプが動的に変更されることはありません。ただし変更内容はログに記録され、キュー・マネージャーの再始動時に適用されます。

システム・アクション

処理を続行する。バッファ・プールは、以前の PAGECLAS 属性値を使用します。

システム・プログラマーの応答

なし。ただし、示されたバッファ・プールの新しい PAGECLAS 属性を直ちに有効にする必要がある場合は、応答を行う必要があります。

その場合、キュー・マネージャーを再始動するか、以下の両方の手順を実行してください。

1. バッファ・プールの LOCATION 属性を BELOW に、PAGECLAS を 4KB に設定する。その後、
2. PAGECLAS 属性を変更すると同時に、バッファ・プールの LOCATION 属性を ABOVE に変更する。

CSQP063E

LOCATION(BELOW) を指定する場合、PAGECLAS 値は 4KB でなければなりません

重大度

8

説明

LOCATION 値が ABOVE で、しかも PAGECLAS 属性が 4KB 以外であるバッファ・プールが変更され、LOCATION 値が BELOW になりました。

LOCATION 値 BELOW と共に設定できる有効な PAGECLAS 値は 4KB だけです。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

LOCATION 属性の値を BELOW に変更するのに加えて、PAGECLAS 属性の値を 4KB に変更してください。

CSQP064I

CSQINP1 データ・セット内でバッファ・プール *n* 定義が使用されています

重大度

4

説明

このメッセージは、始動時にキュー・マネージャーがログを読み取るときに出されます。

REPLACE 属性が指定された状態で CSQINP1 データ・セット内にバッファ・プールが定義されているため、キュー・マネージャーのログ内のバッファ・プールの定義は無視されます。

キュー・マネージャーが以前に実行されていたときに ALTER BUFFPOOL コマンドを使用して行ったバッファ・プールの変更は、まだ発生していません。

このメッセージは、CSQINP1 データ・セット内のバッファ・プールの定義とキュー・マネージャーのログの間で相違がある場合にのみ出力されます。

システム・アクション

示されたバッファ・プールの属性値は、キュー・マネージャーのログに保管された値を使用する代わりに、CSQINP1 データ・セットから取得されます。

システム・プログラマーの応答

CSQINP1 データ・セット内のバッファ・プール定義が適切である場合は、このメッセージを無視してください。

それ以外の場合:

- ALTER BUFFPOOL コマンドを使用してバッファ・プールの定義を変更することに加えて、それに一致するよう CSQINP1 の定義も変更します。または、
- CSQINP1 データ・セット内のバッファ・プール定義で REPLACE 属性を削除します。
なお、REPLACE 属性を削除する代わりに NOREPLACE 属性を指定することもできます。

IMS アダプター・メッセージ (CSQQ...)

CSQQ000I

IMS/TM *iiii* はキュー・マネージャー *qqqq* に接続されました。

重大度

0

説明

このメッセージは、IMS システム *iiii* の IMS 制御領域がキュー・マネージャー *qqqq* に正常に接続されたときに、IMS マスター端末で生成されます。

CSQQ001I

IMS/TM *iiii* はキュー・マネージャー *qqqq* に接続していません。Notify message accepted

重大度

0

説明

このメッセージは、IMS システム *iiii* の IMS 制御領域がキュー・マネージャー *qqqq* に接続しようとしたが、キュー・マネージャーがまだ接続を行う準備ができていない場合に、IMS マスター端末で生成されます。

システム・アクション

キュー・マネージャーは IMS からの通知メッセージを受け入れ、接続の準備ができたとき、z/OS コマンド **MODIFY IMS** を発行して、IMS が接続を再度試行できるようにする。IMS アプリケーションは、接続が行われるまで、IBM MQ 資源にアクセスすることができない。

システム・プログラマーの応答

ほかの IBM MQ 問題を解決する。

CSQQ002E

IMS/TM *iiii* failed to connect to queue manager *qqqq*, MQRC=*mqrc*

重大度

12

説明

このメッセージは、IMS システム *iiii* の IMS 制御領域がキュー・マネージャー *qqqq* への接続に失敗したときに、IMS マスター端末で生成されます。*mqrc* は、障害を示す IBM MQ 理由コードである。

システム・アクション

IMS 制御領域および従属領域は、キュー・マネージャーに接続されない。IBM MQ リソースに対する IMS アプリケーションからの要求はすべて失敗します。

システム・プログラマーの応答

エラーの性質を判別するためには、*mqrc* の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQQ003E

IMS/TM *iiii* create thread failed while connecting to queue manager *qqqq*, MQRC=*mqrc*

重大度

12

説明

このメッセージは、IMS システム *iiii* の IMS 制御領域がキュー・マネージャー *qqqq* への接続に失敗したときに、IMS マスター端末で生成されます。 *mqr*c は、IBM MQ 作成スレッド機能からの障害を示す IBM MQ 理由コードである。

システム・アクション

IMS 制御領域および従属領域は、キュー・マネージャーに接続されない。IBM MQ リソースに対する IMS アプリケーションからの要求はすべて失敗します。

システム・プログラマーの応答

問題の原因を判別するには、*mqr*c の詳細について、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQQ004E

IMS/TM *iiii* の未確定の照会は、キュー・マネージャー *qqqq* に接続中に失敗しました。MQRC=*mqr*c

重大度

12

説明

このメッセージは、IMS システム *iiii* の IMS 制御領域がキュー・マネージャー *qqqq* への接続に失敗したときに、IMS マスター端末で生成されます。 *mqr*c は、IBM MQ の未確定の照会機能からの障害を示す IBM MQ 理由コードである。

システム・アクション

IMS 制御領域および従属領域は、キュー・マネージャーに接続されない。IBM MQ リソースに対する IMS アプリケーションからの要求はすべて失敗します。

システム・プログラマーの応答

エラーの性質を判別するためには、*mqr*c の詳細について、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQQ005E

IMS/TM *iiii* の出口の確立は、キュー・マネージャー *qqqq* に接続中に失敗しました。MQRC=*mqr*c

重大度

12

説明

このメッセージは、IMS システム *iiii* の IMS 制御領域がキュー・マネージャー *qqqq* への接続に失敗したときに、IMS マスター端末で生成されます。 *mqr*c は、IBM MQ 確立出口関数からの障害を示す IBM MQ 理由コードである。

システム・アクション

IMS 制御領域および従属領域は、キュー・マネージャーに接続されない。IBM MQ リソースに対する IMS アプリケーションからの要求はすべて失敗します。

システム・プログラマーの応答

エラーの原因を特定するためには、*mqr*c の詳細について、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQQ007E

IMS/TM *iiii* の未確定の解決は、キュー・マネージャー *qqqq* に接続中に失敗しました。MQRC=*mqr*c

重大度

4

説明

このメッセージは、接続処理中に、キュー・マネージャーが未確定の回復単位を解決できなかった場合に、IMS マスター端末で作成される。mqrc は、未確定解決機能からの障害を示す IBM MQ 理由コードである。

システム・アクション

IMS 制御領域および従属領域は、キュー・マネージャーに接続される。IMS アプリケーションは、IBM MQ の資源にアクセスできます。

システム・プログラマーの応答

未確定の IMS 作業単位に関連する IBM MQ リカバリー単位の解決については、手動での IMS リカバリー単位のリカバリーを参照してください。

CSQQ008I

nn の回復単位がキュー・マネージャー qqqq において、まだ未確定です。

重大度

4

説明

このメッセージは、すべての IMS 作業単位が解決された後で、キュー・マネージャーにまだ未確定の回復単位がある場合に、IMS マスター端末で作成される。

システム・アクション

IMS 制御領域および従属領域は、キュー・マネージャーに接続される。IMS アプリケーションは、IBM MQ の資源にアクセスできます。

システム・プログラマーの応答

未確定 IMS 単位に関連する IBM MQ 単位の解決方法については、リカバリーの未確定単位が IMS から解決される方法を参照してください。

CSQQ010E

キュー・マネージャー qqqq 内で回復単位 uuuu (OASN nnnn) の解決中にエラーが発生しました。
MQRC=mqrc

重大度

4

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーが未確定の回復単位を解決できない場合に、IMS マスター端末で作成される。uuuu は、DISPLAY THREAD コマンドからの応答と同じ形式の作業単位 ID である。nnnn は、10 進数形式の IMS OASN (起点アプリケーション順序番号) である。

システム・アクション

IMS 制御領域および従属領域は、キュー・マネージャーに接続される。IMS アプリケーションは、IBM MQ の資源にアクセスできます。

システム・プログラマーの応答

未確定 IMS 単位に関連する IBM MQ リカバリー単位の解決方法については、リカバリーの未確定単位が IMS から解決される方法を参照してください。

CSQQ011E

IMS/TM iiii の識別終了は、キュー・マネージャー qqqq への接続で失敗しました。MQRC=mqrc

重大度

12

説明

このメッセージは、IMS システム *iiii* の IMS 制御領域がキュー・マネージャー *qqqq* からの切断に失敗したときに、IMS マスター端末で生成されます。*mqrc* は、IBM MQ 識別終了機能からの障害を示す戻りコードである。

システム・アクション

IMS 制御領域および従属領域は、キュー・マネージャーに接続されない。IBM MQ リソースに対する IMS アプリケーションからの要求はすべて失敗します。

システム・プログラマーの応答

エラーの原因を特定するためには、*mqrc* の詳細について、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQQ013I

MQ のコマンドは /SSR コマンドを使用して発行することはできません。

重大度

4

説明

このメッセージは、IBM MQ コマンドを発行するために /SSR IMS コマンドが使用された場合に、IMS マスター端末で生成されます。この方法で IBM MQ コマンドを発行することはできません。

システム・アクション

なし

CSQQ014E

回復単位 *uuuu* (OASN *nnnn*) はキュー・マネージャー *qqqq* でコミットされませんでした。

重大度

4

説明

このメッセージは、アプリケーションの異常終了の後、IMS の要求に従って未解決の回復単位をキュー・マネージャーがコミットできない場合に、IMS マスター端末において生成される。*uuuu* は、DISPLAY THREAD コマンドからの応答と同じ形式の作業単位 ID である。*nnnn* は、10 進数形式の IMS OASN (起点アプリケーション順序番号) である。

システム・アクション

IMS 制御領域および従属領域は、キュー・マネージャーに接続される。IMS アプリケーションは、IBM MQ の資源にアクセスできます。

システム・プログラマーの応答

未確定 IMS 単位に関連する IBM MQ 単位の解決方法については、[リカバリーの未確定単位が IMS から解決される方法を参照してください。](#)

CSQQ015E

回復単位 *uuuu* (OASN *nnnn*) はキュー・マネージャー *qqqq* でバックアウトされませんでした。

重大度

4

説明

このメッセージは、アプリケーションの異常終了の後、IMS の要求に従って未解決の回復単位をキュー・マネージャーがバックアウトできない場合に、IMS マスター端末において生成される。*uuuu* は、DISPLAY THREAD コマンドからの応答と同じ形式の作業単位 ID である。*nnnn* は、10 進数形式の IMS OASN (起点アプリケーション順序番号) である。

システム・アクション

IMS 制御領域および従属領域は、キュー・マネージャーに接続される。IMS アプリケーションは、IBM MQ の資源にアクセスできます。

システム・プログラマーの応答

未確定 IMS 単位に関連する IBM MQ 単位の解決方法については、リカバリーの未確定単位が IMS から解決される方法を参照してください。

CSQQ100I

psb-name region-id キュー・マネージャー *name* の処理中です。

重大度

0

説明

このメッセージは、IMS トリガー・モニターのこのインスタンスが接続されているキュー・マネージャーを識別している。*region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。このメッセージの後にメッセージ CSQQ110I が出され、開始キューの名前が示される。

CSQQ101E

psb-name region-id 開始キューをオープンできません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc*

重大度

8

説明

CSQQTRMN が開始キューをオープンしようとしたが (例えば、そのキューが定義されていなかったために)、失敗に終わった。*mqcc* と *mqrc* は、問題の理由を示す。*region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* に関する情報については、1129 ページの『API 完了コードと理由コード』を参照し、問題の原因を判別し、CSQQTRMN を再始動してください。

CSQQ102E

psb-name region-id IMS dl1-function 呼び出しが *pcb-status* を戻しました。

重大度

4

説明

開始する IMS トランザクションを定義する開始キューから、トリガー・メッセージが取り出された。しかし、そのトランザクションを開始することができない (例えば、そのトランザクションが見つからない)。*region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。*pcb-status* は、IMS によって戻された最後の *dl1-function* 呼び出しからの状況コードである。

システム・アクション

トリガー・メッセージは送達不能キューに送られる。CSQQTRMN は次のメッセージを処理する。

システム・プログラマーの応答

pcb-status については、IMS の資料を参照してください。送達不能キューのトリガー・メッセージを調べ、IMS トランザクション名を見つける。問題の理由を判別し、トランザクションを再始動する。

CSQQ103E

psb-name region-id CSQQTRMN は誤った MQTM-StrucID *struc-id* をもつトリガー・メッセージを読みました。

重大度

4

説明

トリガー・メッセージが検索されたが、メッセージの構造体 ID が MQTM_STRUC_ID ではないので、CSQQTRMN のこのバージョンとの互換性がない。 *region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、または空白である。

システム・アクション

トリガー・メッセージは送達不能キューに送られる。CSQQTRMN は次のメッセージを処理する。

システム・プログラマーの応答

送達不能キューにあるメッセージのヘッダーを調べる。これにより、トリガー・メッセージがどこから出されたかがわかる。トリガー・メッセージを作成したプロセスを訂正する。

CSQQ104E

psb-name region-id CSQQTRMN はバージョン *version* をサポートしません。

重大度

4

説明

トリガー・メッセージが取り出されたが、MQTM 内のバージョン ID がバージョン 1 ではないので、CSQQTRMN のこのバージョンと互換性がない。 *region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、または空白である。

システム・アクション

トリガー・メッセージは送達不能キューに送られる。CSQQTRMN は次のメッセージを処理する。

システム・プログラマーの応答

送達不能キューにあるメッセージのヘッダーを調べる。これにより、トリガー・メッセージがどこから出されたかがわかる。トリガー・メッセージを作成したプロセスを訂正する。

CSQQ105E

psb-name region-id CSQQTRMN はプロセス・タイプ *type* を開始できません。

重大度

4

説明

トリガー・メッセージが取り出されたが、MQTM 内のプロセス・タイプが IMS ではないので、CSQQTRMN のこのバージョンでは処理できない。 *region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、または空白である。

システム・アクション

トリガー・メッセージは送達不能キューに送られる。CSQQTRMN は次のメッセージを処理する。

システム・プログラマーの応答

送達不能キューにあるメッセージのヘッダーを調べる。これにより、トリガー・メッセージがどこから出されたかがわかる。トリガー・メッセージを作成したプロセスを訂正する。

CSQQ106E

psb-name region-id MQGET error, MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc*. CSQQTRMN は終了します。

重大度

8

説明

開始キューに関する MQGET 呼び出しを発行しようとしたが、失敗した。 *region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。このメッセージの後にメッセージ CSQQ110I が出され、そのキューの名前が示される。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* に関する情報については、1129 ページの『API 完了コードと理由コード』を参照して問題の原因を判別してください。CSQQTRMN を再始動する。

CSQQ107E

psb-name region-id キュー・マネージャーに接続できません。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc*

重大度

8

説明

トリガー・モニターが、メッセージ CSQQ100I に示されたキュー・マネージャーに接続しようとしたが、失敗した。 *region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* に関する情報については、1129 ページの『API 完了コードと理由コード』を参照して問題の原因を判別してください。

CSQQ108I

psb-name region-id LTERM lterm-name を使用できません。MASTER に切り替えます。

重大度

4

説明

診断メッセージを受け取るように指定された LTERM が、使用不能である。

システム・アクション

メッセージはマスター端末に送られる。

システム・プログラマーの応答

lterm-name が使用できなかった原因を解決する。

CSQQ109E

psb-name region-id MQCLOSE error, MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc*

重大度

8

説明

送達不能キューをクローズしようとしたが、MQCLOSE 呼び出しが失敗に終わった。 *region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。このメッセージの後にメッセージ CSQQ110I が出され、そのキューの名前が示される。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* に関する情報については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照して問題の原因を判別してください。

CSQQ110I

キュー名 = *q-name*

重大度

0

説明

このメッセージは、ほかのメッセージの後に続き、問題のキューの名前を識別する。付随するメッセージに、そのキューに関連するイベントまたは問題が示されている。

CSQQ111E

psb-name region-id CSQQTRMN は誤った長さ *length* をもつトリガー・メッセージを読みしました。

重大度

4

説明

このメッセージは、トランザクション CSQQTRMN が、MQTM 制御ブロックに一致しないトリガー・メッセージを受け取った場合に出される。*region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。

システム・アクション

メッセージは送達不能キューに送られる。

システム・プログラマーの応答

送達不能キューにあるメッセージを調べ、なぜ MQTM と一致しなかったかを判別する。

CSQQ112E

psb-name region-id MQOPEN エラー。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc*

重大度

8

説明

MQOPEN 呼び出しで、キューをオープンできなかった。*region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。このメッセージの後にメッセージ CSQQ110I が出され、そのキューの名前が示される。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* に関する情報については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照して問題の原因を判別してください。

CSQQ113I

psb-name region-id このメッセージを処理できません。

重大度

0

説明

IBM MQ API 呼び出しを使用したメッセージの処理に失敗したため、そのメッセージを送達不能キューに入れようとした。これもまた失敗し、*message-id* が LTERM に送信された。*region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。このメッセージの後にメッセージ CSQ118I が出され、そのメッセージ ID が示される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

送達不能キューが使用可能でない理由を示すメッセージが前に出されていないかを調べる (送達不能キューが定義されていなかった場合は、この問題に関連してほかのメッセージが出されることはない)。

CSQQ114E

psb-name region-id MQINQ error, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc*

重大度

8

説明

MQINQ 呼び出しを使用して、キューの属性を照会しようとしたが、失敗した。*region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。このメッセージの後にメッセージ CSQQ110I が出され、そのキューの名前が示される。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* に関する情報については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照して、キューで MQINQ 呼び出しを実行できなかった理由を判別してください。

CSQQ115I

psb-name region-id キュー・マネージャー接続の次の終了を終了中です。

重大度

0

説明

キュー・マネージャーとの接続が切断されたために、CSQQTRMN が終了した。

CSQQ116E

psb-name region-id キュー・マネージャーをオープンできません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc*

重大度

8

説明

キュー・マネージャーに対する MQOPEN 呼び出しが失敗に終わった。*region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* に関する情報については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照して問題の原因を判別してください。

CSQQ117E

psb-name region-id キュー・マネージャーを照会できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc*

重大度

8

説明

キュー・マネージャーに対する MQINQ 呼び出しが失敗に終わった。 *region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* に関する情報については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照して問題の原因を判別してください。

CSQQ118I

MsgID=*msg-id*

重大度

0

説明

このメッセージは、メッセージ CSQQ113I の後に出され、処理できなかったメッセージの 16 進数の ID を示す。

CSQQ119E

psb-name region-id STORAGE OBTAIN からのエラー *rc*

重大度

8

説明

CSQQTRMN がストレージを取得しようとしたが、z/OS から戻りコード *rc* を受け取った。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

STORAGE OBTAIN 要求からの戻りコードの理由を判別し、CSQQTRMN を再始動する。

CSQQ120E

psb-name region-id MQPUT error, MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc*

重大度

8

説明

MQPUT 呼び出しによってキューにメッセージを入れようとしたが、失敗した。 *region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、またはブランクである。このメッセージの後にメッセージ CSQQ110I が出され、そのキューの名前が示される。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* に関する情報については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照して、キューに対して MQPUT 呼び出しを実行できなかった理由を判別してください。

CSQQ121E

psb-name region-id キュー・マネージャーに送達不能キューが定義されていません。

重大度

4

説明

送達不能キューが、キュー・マネージャーに定義されていない。 *region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、または空白である。

システム・アクション

トリガー・メッセージは破棄され、プロセスを開始することはできない。

システム・プログラマーの応答

必要であれば、送達不能キューを定義する。

CSQQ122E

psb-name region-id キュー・マネージャーをクローズできません。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc*

重大度

8

説明

CSQQTRMN が、送達不能キューについて照会した後で、キュー・マネージャーをクローズできなかった。 *region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、または空白である。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* に関する情報については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照して問題の原因を判別してください。

CSQQ123E

psb-name region-id 送達不能キュー・タイプは QLOCAL ではありません。

重大度

4

説明

定義された送達不能キューが、ローカル・タイプのものではなかった。 *region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、または空白である。このメッセージの後にメッセージ CSQQ110I が出され、そのキューの名前が示される。

システム・アクション

このメッセージは、送達不能キューには入れられない。

システム・プログラマーの応答

送達不能キューをローカル・キューとして定義する。

CSQQ124E

psb-name region-id 送達不能キューの使用法が NORMAL ではありません。

重大度

4

説明

定義された送達不能キューが、通常使用タイプのものではない。 *region-id* は、領域 ID の最後の 4 桁、または空白である。このメッセージの後にメッセージ CSQQ110I が出され、そのキューの名前が示される。

システム・アクション

このメッセージは、送達不能キューには入れられない。

システム・プログラマーの応答

送達不能キューを通常使用タイプとして定義する。

CSQQ125E

psb-name region-id 開始キューが識別されませんでした。

重大度

8

説明

CSQQTRMN が、入力パラメーターの中に開始キュー名を見つけることができなかった。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

入力パラメーターを調べ、他のエラー・メッセージを探して障害の理由を判別する。CSQQTRMN を再始動する。

CSQQ126E

psb-name region-id IMS call 呼び出しが *pcb-status* を戻しました。

重大度

8

説明

DLI 呼び出しから、*pcb-status* の状況コードが戻された。

システム・アクション

CSQQTRMN は終了する。

システム・プログラマーの応答

状況コードの理由を判別し、CSQQTRMN を再始動する。

CSQQ150I

csect-name IBM MQ for z/OS Vn

重大度

0

説明

このメッセージは、IMS トリガー・モニター・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部として出される。

CSQQ151I

csect-name トリガー・モニター入力報告書 - *date time*

重大度

0

説明

このメッセージは、IMS トリガー・モニター・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部として出される。

CSQQ152I

csect-name CSQQOUT1 データ・セットをオープンできません。

重大度

8

説明

IMS トリガー・モニターで、入力制御ステートメントを含むデータ・セットをオープンできなかった。

システム・アクション

デフォルト値がオプションに使用される。

システム・プログラマーの応答

JES ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQQ153I

csect-name 最初のトークンが有効なキーワードではありません。

重大度

8

説明

入力制御ステートメントが、有効なキーワードで開始しない。

システム・アクション

ステートメントは無視される。

システム・プログラマーの応答

ステートメントの構文を訂正する。

CSQQ159I

csect-name トリガー・モニターのオプション

重大度

0

説明

IMS トリガー・モニターで、入力制御ステートメントの処理が終了した。使用されるオプションが次に続行される。

回復マネージャー・メッセージ (CSQR...)

CSQR001I

RESTART INITIATED

説明

このメッセージは、始動における再始動処理の始まりを示す。再始動フェーズがまもなく開始される。これらのフェーズは、前の終了時の状態に操作環境を復元し、また IBM MQ 管理の資源を整合性のある状態に戻すのに必要な回復アクションを実行するために必要とされる。

CSQR002I

RESTART COMPLETED

説明

このメッセージは、始動における再始動処理の完了を示す。

システム・アクション

始動処理が継続される。

CSQR003I

再始動 - 前のチェックポイント RBA=*rba*

説明

このメッセージは、再始動処理の最初のフェーズが進行中であることを示し、再始動処理がその初期回復情報を入手することになるチェックポイントのログ位置決め RBA を識別している。

システム・アクション

再始動処理が継続される。

CSQR004I

再始動 - UR カウント - コミット中=*nnnn*、未確定=*nnnn*、未完了=*nnnn*、バックアウト中=*nnnn*

説明

このメッセージは、再始動処理の最初のフェーズが完了したことを示す。それぞれのカウントは、前回のキュー・マネージャー終了時の実行状態を持つ回復単位の数を示している。この状態は、(MQ リソースの整合性を保つために) この再始動処理中に何らかの回復処置を取らなければならないことを示している。これらのカウントは、再始動の残りの2つのフェーズ (順方向回復と逆方向回復) を実行するのに必要な時間の目安となる。

IN COMMIT カウントは、コミット処理のフェーズ2が開始されたが完了していない回復単位の数を示す。これらに対しては順方向回復を行い、コミット処理を完了させなければならない。

未確定カウントは、コミット処理のフェーズ1とフェーズ2の間で中断された回復単位の数を示す。これらに対しては順方向回復を行い、その未確定状態が解決されるまで、これらによって変更された資源が使用可能にならないようにしなければならない。

未完了カウントは、コミット処理のフェーズ1も完了しておらず、またバックアウト処理も開始されていない回復単位の数を示す。これらに対しては逆方向回復を行い、これらによって変更された資源を前の整合性のある状態に復元しなければならない。

バックアウト中カウントは、バックアウト処理中であった回復単位の数を示す。これらに対しては逆方向回復を行い、これらによって変更された資源を前の整合性のある状態に復元しなければならない。

システム・アクション

再始動処理が継続される。

CSQR005I

再始動 - 順方向回復完了 - コミット中=*nnnn*、未確定=*nnnn*

説明

このメッセージは、順方向回復再始動フェーズが完了したことを示す。それぞれのカウントは、このフェーズで回復アクションを完了できなかった回復単位の数を示している。通常、コミット中状態の回復単位は、一部のサブコンポーネントの回復アクションが完了しなかったために、そのままの状態となっている。未確定状態の回復単位は、コミット・コーディネーターとして働くサブシステムとの接続が行われるまで、未確定のままである。

システム・アクション

再始動処理が継続される。

CSQR006I

再始動 - 逆方向回復完了 - 未完了=*nnnn*、バックアウト中=*nnnn*

説明

このメッセージは、逆方向回復再始動フェーズが完了したことを示す。それぞれのカウントは、このフェーズで回復アクションを完了できなかった回復単位の数を示している。通常、いずれの状態の回復単位も、一部のサブコンポーネントの回復アクションが完了しなかったために、そのままの状態となっている。

システム・アクション

再始動処理が継続される。

CSQR007I

UR STATUS

説明

このメッセージは、各再始動フェーズ後に回復単位 (UR) の状況を示す表に先立って出される。ネストされた各フェーズの後で、CSQR004I、CSQR005I、またはCSQR006I メッセージとともに、このメッセージと表が出される。最初のフェーズの終わりには、処理を必要とする UR の状況が示される。2番

目のフェーズ (順方向回復) と 3 番目のフェーズ (バックアウト) の終わりには、処理を必要としていたが処理されなかった UR の状況のみが示される。この表は、キュー・マネージャーが停止したとき活動状態であった UR を識別し、再始動するのに必要なログの有効範囲を判別するのに役立つ。

表の形式は、次のとおりである。

T	CON-ID	THREAD-XREF	S	URID	TIME
---	--------	-------------	---	------	------

それぞれの欄には、次のような情報が含まれている。

T

接続タイプ。値は次のいずれかです。

B

バッチ: バッチ接続を使用したアプリケーションからの場合。

R

RRS: バッチ接続を使用した RRS により調整されたアプリケーションからの場合。

C

CICS: CICS から

I

IMS: IMS から

S

システム: キュー・マネージャーの内部機能から、またはチャンネル・イニシエーターからの場合。

CON-ID

関連する UR の接続 ID。バッチ接続は、他の接続に関連していない。同じ ID をもつサブシステム接続は、同じサブシステムから開始された UR を識別している。

THREAD-XREF

スレッドに関連するリカバリー・スレッド相互参照 ID。詳しくは、[IMS 制御領域からの接続](#)を参照。

S

UR の再始動状況。キュー・マネージャーが停止したとき、UR は次のいずれかの状態にあった。

B

INBACKOUT: UR は、バックアウト未完了だが完了必須というフェーズだった。

C

INCOMMIT: UR は、コミット未完了だが完了必須というフェーズだった。

D

未確定: UR はコミットの最初のフェーズを完了したが、IBM MQ は 2 番目のフェーズの命令を受け取らなかった (所有サブシステムが再接続したときに解決できるように、その UR を保管しておかなければならない)。

F

未完了: UR は、コミットの最初のフェーズを完了しておらず、バックアウトされる。

URID

UR の ID。この回復単位の先頭のログ RBA である。これは、再始動時に UR を処理するのに必要な最も早い RBA である。

時刻

UR が作成された時刻。yyyymmdd hhmmss の形式で示される。これは、アプリケーションの最初の IBM MQ API 呼び出しまたはコミット点以降の最初の IBM MQ API 呼び出しが行われたおおよその時間である。

CSQR009E

UR 状況表の記憶域がありません。要求サイズ=xxxx, 理由コード=yyyyyyyyy

説明

回復可能 UR (回復単位) 表示表の作成時に、使用できるストレージが十分になかった。

システム・アクション

再始動は続行されるが、状況表は表示されない。

システム・プログラマーの応答

xxxxMSTR 領域の領域サイズを大きくし、キュー・マネージャーを再始動する。

CSQR010E

UR 状況表のソート/変換でエラー。ERROR LOCATION CODE=xxxx

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

再始動は続行されるが、状況表は表示されない。

システム・プログラマーの応答

メッセージ内のエラー・コードを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQR011E

UR 状況表の表示でエラー。ERROR LOCATION CODE=xxxx

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

再始動は続行されるが、状況表は表示されない。

システム・プログラマーの応答

メッセージ内のエラー・コードを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQR015E

条件付き再始動チェックポイント RBA *rba* が見つかりません。

説明

条件再始動制御レコード内のチェックポイント RBA (指定された終了 RBA または LRSN 値から推測される) が使用できない。再始動時に使用できるログ・データ・セットにその終了 RBA または LRSN が含まれていないことが原因の可能性がある。

システム・アクション

再始動は理由コード X'00D99001' で異常終了し、キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーの再始動に使用されるログ・データ・セット内の ENDRBA または ENDLRSN 値を CRESTART 制御ステートメントに指定して、ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003) を実行する。

CSQR020I

検出された古い UOW

説明

再始動時、最も古い活動ログよりも日付の古い作業単位が検出された。作業単位に関する情報が、メッセージ CSQR007I と同じ形式で表内に表示される。

古い作業単位の場合は、再始動時間が延長されることがある。これは、作業単位を正しく処理するために、再始動処理で保存ログを読み取る必要があるためである。IBM MQ では、古い作業単位を強制コミットできるようにして、この遅延を回避している。

注: 作業単位を強制コミットすると、IBM MQ と、このメッセージで示されている元の作業単位に関する他のリソース・マネージャーとの間の更新のトランザクション整合性が損なわれる可能性がある。

システム・アクション

メッセージ CSQR021D が出され、オペレーターの応答を待つ。

CSQR021D

コミットするには Y を、継続するには N を入力してください。

説明

先行するメッセージ CSQR020I に示されるように、古い作業単位が検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーはオペレーターの応答を待つ。

CSQR022I

OLD UOW COMMITTED, URID=*urid*

説明

このメッセージは、メッセージ CSQR021D にオペレーターが Y で応答した場合に送信される。

システム・アクション

示された作業単位がコミットされる。

CSQR023I

OLD UOW UNCHANGED, URID=*urid*

説明

このメッセージは、メッセージ CSQR021D に対してオペレーターが 'N' と応答した場合に送られる。

既に「バックアウト中」状態にある古い作業単位が示されている場合は、CSQR023I も送られる。「バックアウト中」状態の作業単位は、キューを使用不可にする可能性があるため、強制コミット処理には不適格である。そのような作業単位の場合は、メッセージ CSQR021D が発行されないため、このメッセージに対する応答を選択することができない。

システム・アクション

示された作業単位は、そのまま通常の再始動回復処理で処理される。

CSQR026I

長期実行 UOW が RBA=*rba* に分流しました。URID=*urid* 接続名=*name*

説明

チェックポイントの処理中に、少なくとも 3 つのチェックポイントに対して活動状態だった未コミットの回復単位が検出された。関連ログ・レコードは、ログ内のこれより後のポイント (RBA *rba*) に再書き込みされた (分流した)。回復単位 ID *urid* と接続名 *name* により、関連するスレッドが識別される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

コミットされていない回復単位により後で問題が発生することがあるため、回復単位がコミットされない問題があるかどうかを判別し、アプリケーションが頻繁に作業をコミットしているかどうかを確認するために、アプリケーション・プログラマーに連絡をとる。

CSQR027I

長期実行 UOW の分流が失敗しました。URID=*urid* 接続名=*name*

説明

チェックポイントの処理中に、少なくとも 3 つのチェックポイントに対して活動状態だった未コミットの回復単位が検出された。ただし、ログ内のこれより後のポイントに関連ログ・レコードを再書き込み (分流) できなかった。回復単位 ID *urid* と接続名 *name* により、関連するスレッドが識別される。

システム・アクション

回復単位は延期されず、将来のどのログ延期にも関与しない。

システム・プログラマーの応答

使用可能な活動ログ・データ・セットが不十分であることが原因として最も可能性が高い。この場合は、キュー・マネージャーが使用するログ・データ・セットを追加する必要がある。DISPLAY LOG コマンドを使用するか、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、存在するログ・データ・セット数とその状況を判断する。

コミットされていない回復単位により後で問題が発生することがあるため、回復単位がコミットされない問題があるかどうかを判別し、アプリケーションが頻繁に作業をコミットしているかどうかを確認するために、アプリケーション・プログラマーに連絡をとる。

CSQR029I

応答が無効です - Y や N ではありません。

説明

オペレーターが、応答メッセージ CSQR021D に正しく応答しなかった。「Y」または「N」を入力しなければなりません。

システム・アクション

元のメッセージが繰り返される。

CSQR030I

RBA=*from-rba* から RBA=*to-rba* の順方向回復ログ範囲

説明

これは、再始動中、順方向回復を実行するために読み取られる必要のあるログ範囲を示す。

システム・アクション

再始動処理が継続される。

CSQR031I

ログを順方向で読み取り中です。RBA=*rba*

説明

これは、再始動回復処理中に定期的に発行され、順方向回復フェーズおよび現行状況再ビルド・フェーズの進行状況を示す。順方向回復フェーズの場合は、読み取る必要のあるログ範囲が、先行する [CSQR030I](#) メッセージに表示される。

現行状況再ビルド・フェーズの場合は、開始ログ RBA が先行する [CSQR003I](#) メッセージに表示され、終了ログ RBA が先行する [CSQJ099I](#) メッセージに表示される。RBA は、現行状況再ビルドの順方向回復フェーズ中の回復ログの位置を表す。

システム・アクション

再始動処理が継続される。

CSQR032I

RBA=*from-rba* から RBA=*to-rba* の逆方向回復範囲

説明

これは、再始動中、逆方向回復を実行するために読み取られる必要のあるログ範囲を示す。

システム・アクション

再始動処理が継続される。

CSQR033I

ログを逆方向で読み取り中です。RBA=*rba*

説明

これは、再始動回復処理中に定期的に発行され、逆方向回復の進行状況を示す。読み取られる必要のあるログ範囲は、先行するメッセージ [CSQR032I](#) に表示される。

システム・アクション

再始動処理が継続される。

CSQR034I

逆方向の移行が検出されました。

説明

キュー・マネージャーの再始動中に、接続された1つ以上のページ・セットが上位のバージョンのキュー・マネージャー・コードで使用されたものであることが検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは再始動中に自動的に特殊処理を実行し、それらのページ・セットに保管されたすべてのメッセージを、現行バージョンのキュー・マネージャーで読み取り可能なものに変換する。この特殊処理は、再始動の終了時に未解決の作業単位が検出されないことが条件になる。したがって、再始動中にさらにメッセージが出て、作業単位のコミットを求められることがある。

再始動処理が継続される。

トピック・マネージャー・メッセージ (CSQT...)

CSQT806I

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが開始されました。

重大度

0

説明

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが開始した。

システム・アクション

なし

システム・プログラマーの応答

なし

CSQT807I

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが終了しました。

重大度

0

説明

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが終了した。

システム・プログラマーの応答

なし

CSQT809E

csect-name パブリケーションを処理できません。キューに入れられているパブリッシュ/サブスクライブ・ストリーム・キュー *queue-name* が GET(DISABLED) です。

重大度

8

説明

ストリーム・キュー *queue-name* が、キューに入れられているパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンがパブリケーション・メッセージを処理できないようにする GET(DISABLED) でした。

システム・アクション

キューに入れられているパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンは、他のストリーム・キューにあるパブリケーション・メッセージと、すべてのストリームにあるサブスクリプションの処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

パブリケーション・メッセージの処理を再開するには、ストリーム・キューが GET(ENABLED) になるよう変更します。

このストリームを静止するには、SYSTEM.QPUBSUB.QUEUE.NAMELIST からそのストリームの名前を除去します。

キューに入れられているパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンを静止するには、PSMODE(COMPAT) を持つようキュー・マネージャーを変更します。

CSQT810E

csect-name サブスクリプション要求を処理できません。キューに入れられているパブリッシュ/サブスクライブ制御キューは、GET(DISABLED) です。

重大度

8

説明

SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE が GET(DISABLED) であったため、キューに入れられているパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンがサブスクリプション要求を処理できません。

システム・アクション

キューに入れられているパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンは、ストリーム・キューにあるパブリケーション・メッセージの処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

サブスクリプション要求の処理を再開するには、GET(ENABLED) になるよう SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE を変更します。

キューに入れられているパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンを静止するには、PSMODE(COMPAT) を持つようキュー・マネージャーを変更します。

CSQT814E

csect-name 親の *queue_manager_name* を解決できません。

重大度

8

説明

パブリッシュ/サブスクライブ階層を確立しているときに、キューに入れられているパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが、親 *queue_manager_name* を解決できませんでした。

システム・アクション

パブリッシュ/サブスクライブの親接続の状況がエラーに設定されます。

システム・プログラマーの応答

親キュー・マネージャーが正しく指定されていることを確認します。

ブローカーが親ブローカーのキュー・マネージャー名を解決できることを確認します。

キュー・マネージャー名を解決するには、以下のリソースのうち最低 1 つが構成されている必要があります。

- 親キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つ伝送キュー。
- 親キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つキュー・マネージャー別名定義。

- このキュー・マネージャーと同じクラスターのメンバーである親キュー・マネージャーを持つクラスター。
- 親キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つクラスター・キュー・マネージャー別名定義。
- デフォルトの伝送キュー。親のキュー・マネージャーの名前をブランクに変更し、次に親のキュー・マネージャーの名前を用いて設定します。

CSQT816E

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・コントロール・キュー MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*) を開けません

重大度

8

説明

キュー・マネージャーがキューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・コントロール・キュー SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE のオープンに失敗した。完了コード *mqqc* および理由 *mqrc* により、キューを開く試みが失敗した。このエラーの理由として可能性の高いものは、アプリケーション・プログラムによって制御キューが排他的アクセス用にオープンされたか、制御キューの定義が誤っているかのいずれかである。

システム・アクション

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが終了する。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の情報については [1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#) を参照し、問題を修正してから、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェイスを再起動します。

CSQT817E

csect-name 無効なストリーム・キューが検出されました。キュー *queue-name*

重大度

8

説明

パブリッシュ/サブスクライブ・デーモンは、ストリーム・キューとしてキュー *queue-name* の使用を試みた。このエラーの理由として可能性の高いものは、そのキューが以下である。

- ローカル・キューではない。
- 共有可能キューである。
- 一時的動的キューである。

システム・プログラマーの応答

キュー *queue-name* に関する問題を訂正するか、それをストリーム・キューとして使用する予定でない場合は、名前リスト SYSTEM.QPUBSUB.QUEUE.NAMELIST からそれを除去する。

CSQT818E

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・ストリームを開けません。キュー *queue-name* MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、ストリーム・キュー *queue-name* のオープンに失敗した。完了コード *mqqc* および理由 *mqrc* により、キューを開く試みが失敗した。このエラーの最も一般的な原因は、次のとおりである。

1. 新しいストリーム名が SYSTEM.QPUBSUB.QUEUE.NAMELIST に追加されたが、ストリーム・キューが存在しない。
2. アプリケーションが、キューを排他的アクセス用にオープンしている。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQT819E

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・ストリーム *stream-name* が異常終了しました。理由=*mqrc*

重大度

8

説明

パブリッシュ/サブスクライブ・デーモン・ストリーム (*stream-name*) が、理由 *mqrc* により異常終了した。*mqrc* は内部戻りコードの可能性もある。キュー・マネージャーは、ストリームを再始動しようとする。ストリームが繰り返し失敗する場合、パブリッシュ/サブスクライブ・デーモンは、ストリームの再始動を試行する時間間隔を徐々に大きくする。

システム・プログラマーの応答

問題が起こった理由を調べて、問題を修正する適切な処置を取ってください。問題が発生し続ける場合は、生成された出力ファイルを保存して、解決策があるかどうか、MQ サポートのサイトを使用して調べる。一致するものが見つからない場合は、IBM サポートに連絡してください。

CSQT820E

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・ストリーム *stream-name* が再開しました。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、異常終了したストリームを再始動した。このメッセージの前には、メッセージ CSQT819E が出力される場合が多い。これらはストリーム終了の理由を示している。

システム・プログラマーの応答

問題を解決してください。

CSQT821E

csect-name 親 *queue_manager_name* に連絡できません。理由=*mqrc*

重大度

8

説明

パブリッシュ/サブスクライブ階層を確立しているときに、キューに入れられているパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが、*mqrc* という理由で、親の *queue_manager_name* にメッセージを送信できません。

システム・アクション

パブリッシュ/サブスクライブの親接続の状況がエラーに設定されます。

システム・プログラマーの応答

この問題の発生理由を調査して、解決策を判別してください。

親のキュー・マネージャーの接続を再試行するには、以下のようにします。

- 親のキュー・マネージャーの名前をブランクに設定します。

- 問題を解決するために適切なアクションを行ってください。
- 親のキュー・マネージャーの名前を再指定します。

CSQT822E

csect-name: 親 *queue_manager_name* への登録に失敗しました。理由: *mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが開始され、PARENT キュー・マネージャーがキュー・マネージャー属性で *queue_manager_name* に設定された。キュー・マネージャーは、その親の子として登録しようとしたが、そのようにできなかったことを示す例外応答を受け取った。キュー・マネージャーは、子としての登録を定期的に再試行する。子は、この登録プロセスが正常に完了するまでは、グローバルなパブリケーションまたはサブスクリプションを正しく処理することはできない。

システム・プログラマーの応答

問題が起こった理由を調べて、問題を修正する適切な処置を取ってください。この問題は親キュー・マネージャーが存在しないために生じることが多い。または親キュー・マネージャーの伝送キューに問題がある場合もある。

CSQT824I

csect-name トピック *topic-1* は、異なるパブリッシュ/サブスクライブ階層ストリームからのトピック *topic-2* の PROXYSUB(FORCE) に依存します

重大度

4

説明

トピック・オブジェクト *topic-1* は、パブリッシュ/サブスクライブの階層ストリームです。トピック・ツリーでそれより高位にあるのがトピック・オブジェクト *topic-2* で、PROXYSUB(FORCE) で構成されています。その結果、*topic-2* ストリームをサポートするパブリッシュ/サブスクライブ階層内の他の参加メンバーであるキュー・マネージャーに、単一のワイルドカード・プロキシ・サブスクリプションが送信されます。トピック・ツリーの *topic-2* より下位に作成されるサブスクリプション (トピック・オブジェクト *topic-1* の下も含む) に対しては、個々のプロキシ・サブスクリプションはこれ以上は送信されません。他の参加メンバーであるキュー・マネージャーが *topic-1* ストリームをサポートするものの、*topic-2* ストリームをサポートしない場合、このキュー・マネージャーのトピック *topic-1* へのサブスクリプションに対するパブリケーションは、他の参加メンバーであるキュー・マネージャーからは送信されません。

システム・プログラマーの応答

「説明」に示された動作を実行する場合、アクションは不要です。それを実行しない場合、トピック *topic-1* または *topic-2* の PROXYSUB 属性を変更し、両方のトピックが値 **FORCE** で構成されるように (またはいずれもその値で構成されないように) します。

CSQT826E

csect-name サブスクリプションの伝搬に失敗しました。ストリーム *stream-name*、宛先キュー・マネージャー *qm-name*、MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、理由コード *mqrc* により、キュー・マネージャー *queue_manager_name* のストリーム *stream-name* にサブスクリプションを伝搬することに失敗した。アプリケーションが、サブスクリプションをストリーム *stream-name* に登録したか、またはその登録を抹消した。キュー・マネージャーはキュー・マネージャーに対するサブスクリプション変更を伝搬しようとしたが、要求は成

功しなかった。キュー・マネージャー経由のストリームでパブリッシュされたメッセージは、このキュー・マネージャーには到達しない可能性がある。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

問題が起こった理由を調べて、問題を修正する適切な処置を取ってください。

以下のコマンドを使用して、プロキシ・サブスクリプションをリフレッシュする。

```
REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB)
```

CSQT827E

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ内部サブスクリプションが失敗しました。ストリーム *stream-name* 宛先キュー・マネージャー *queue_manager_name* 理由=*reason*
MQRC=*mqrc*

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、理由コード *mqrc* により、キュー・マネージャー *queue_manager_name* のストリーム *stream-name* にサブスクライブすることに失敗した。関連付けられたキュー・マネージャー同士は、それぞれがパブリッシュする情報にサブスクライブすることによって、互いの構成を認識する。あるキュー・マネージャーが、これらの内部サブスクリプションの1つが失敗したことを検出した。そのキュー・マネージャーは、すぐにサブスクリプションを再発行する。キュー・マネージャーは、隣接キュー・マネージャーについてある程度の情報を取得できなければ、正しく機能することはできない。このブローカーがキュー・マネージャー *queue_manager_name* に関して持っている情報が不完全で、そのためにサブスクリプションとパブリケーションがネットワークに正しく伝搬されない原因になる可能性があった。

システム・プログラマーの応答

問題が起こった理由を調べて、問題を修正する適切な処置を取ってください。この障害の原因として最も可能性が高いのは、キュー・マネージャー *queue_manager_name* の伝送キューの問題か、またはこのキュー・マネージャーとキュー・マネージャー *queue_manager_name* との間の経路の定義の問題です。

CSQT831E

csect-name サブスクリプションを作成できません。理由=*mqrc* (*mqrc-text*)、サブスクリプション名 *sub-name*、トピック *topic-string*

重大度

8

説明

サブスクリプション名 *sub-name* を使用してトピック・ストリング *topic-string* に対するサブスクライブを作成しようとしているときに、障害が発生した。関連の理由コードは *mqrc* である。*mqrc* は内部戻りコードの可能性もある。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQT833E

csect_name キュー・マネージャー *queue_manager_name* がグループをパブリッシュ/サブスクライブ階層に導入しました

重大度

8

説明

キュー・マネージャー *queue_manager_name* で、パブリッシュ/サブスクライブ階層にループが発生した。このキュー・マネージャーにおいて、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンは即時に終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー *queue_manager_name* を階層から除去する。そのためには、キュー・マネージャーを削除するか、ALTER QMGR PARENT('') コマンド (または例外的な状況では RESET QMGR TYPE(PUBSUB) PARENT(*queue_manager_name*)) を使用してキュー・マネージャーの親が持つ情報を除去する。

CSQT834E

csect-name パブリッシュ/サブスクライブ階層のキュー・マネージャー名に競合があります。

重大度

8

説明

パブリッシュ/サブスクライブ階層内のキュー・マネージャー名 *queue_manager_name* と *queue_manager_name* が、同じ 12 文字で始まっている。階層内での混乱を避け、固有メッセージ ID 割り振りを確保するために、キュー・マネージャー名の最初の 12 文字は固有にする必要がある。

CSQT835E

csect-name 親 *parent-name* に新しい関係 *queue_manager_name* を通知できません。理由=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

キュー・マネージャーは、その親であるキュー・マネージャー *parent-name* に対して、パブリッシュ/サブスクライブ階層内の関係 *queue_manager_name* を通知できなかった。親の送達不能キューに通知メッセージが入れられる。新しい関係についてのキュー・マネージャーへの通知が失敗すると、その新しい関係についてのループ検出は行えないことになる。

システム・プログラマーの応答

親キュー・マネージャーの問題について診断し、修正する。この理由の 1 つとして、親キュー・マネージャーがまだ存在していないことが考えられる。

CSQT836E

csect-name 重複したキュー・マネージャー名 *queue_manager_name* がパブリッシュ/サブスクライブ階層にあります。

重大度

8

説明

キュー・マネージャー名 *queue_manager_name* の複数のインスタンスが見つかった。これは、以前パブリッシュ/サブスクライブ階層で解決したループの結果であるか、またはパブリッシュ/サブスクライブ階層の複数のキュー・マネージャーが同一の名前を持っている結果である可能性がある。

システム・プログラマーの応答

このキュー・マネージャーが階層にループを見つけた場合 (通常はメッセージ CSQT833E により識別される) このメッセージは無視しても構わない。パブリッシュ/サブスクライブ階層内のすべてのキュー・マネージャーには、固有の名前を付けることが強く推奨される。複数のキュー・マネージャーが同じ名前を使用することは推奨されません。

CSQT839E

csect-name キュー・マネージャー *queue_manager_name* から予期しないトポロジー情報を受け取りました。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、予期しない分散パブリッシュ/サブスクライブ通信を受信した。このメッセージはキュー・マネージャー *queue_manager_name* から送信された。そのメッセージのレポート・オプションに従って、メッセージは処理されます。このメッセージの理由として可能性の高いものは、分散パブリッシュ/サブスクライブ通信メッセージが転送されていた間 (例えば、伝送キューに入れられていたなど) に、キュー・マネージャー・トポロジーが変更されたことや、以前のキュー・マネージャー・トポロジーに関連するメッセージが新しいトポロジーにあるキュー・マネージャーに到達したことである。このメッセージには、予期しない通信の詳細を含む情報 FFST が伴っていることがある。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー・トポロジーが変更され、メッセージの中で指定されたキュー・マネージャーが、このメッセージを発行したキュー・マネージャーとの関連付けを失った場合、このメッセージを無視しても構わない。 **RESET QMGR TYPE(PUBSUB)** コマンドを発行して、このキュー・マネージャーからキュー・マネージャー *queue_manager_name* の情報を一方的に除去した場合は、 **RESET QMGR TYPE(PUBSUB)** コマンドも使用して、このキュー・マネージャーの情報をキュー・マネージャー *queue_manager_name* から除去する必要があります。

CSQT844E

csect-name queue_manager_name との関係が不明です。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーの関係についてのキュー・マネージャー情報を除去しようとして、RESET QMGR TYPE(PUBSUB) コマンドが発行された。キュー・マネージャー *queue_manager_name* では、相対関係 *queue_manager_name* が不明である。親キーワードが指定されていた場合、キュー・マネージャーには現在親がない。子キーワードが指定されていた場合、キュー・マネージャーは指定された子を認識していない。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが不明である理由を調べる。

CSQT848E

csect-name キュー・マネージャー *qmgr-name*、ストリーム *stream-name*、トピック・ストリング *topic-string* のプロキシ・サブスクリプションの登録に失敗しました。理由 =*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

キュー・マネージャーがストリーム *stream-name* およびトピック *topic-string* のプロキシ・サブスクリプション要求をキュー・マネージャー *qmgr-name* から受け取った。サブスクリプションの登録試行が、理由 *mqrc* で失敗した (*mqrc-text* は MQRC をテキスト形式で提供する)。このトピックに基づいてパブリッシュされたメッセージは、関係キュー・マネージャーのサブスクリプションには配信されない。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用して障害が起こった理由を調査し、問題訂正のための適切なアクションを行ってください。関係キュー・マネージャーのプロキシ・サブスクリプションをリフレッシュするには、関係キュー・マネージャーに対してコマンド REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB) を使用する。

CSQT852E

csect-name パブリケーション削除コマンドを伝搬できません。トピック *topic-name*、ストリーム *stream-name*、宛先キュー・マネージャー *queue_manager_name*、理由=*mqrc* (*mqrc-text*)。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、理由 *mqrc* により、ストリーム *stream-name* に対するパブリケーション削除コマンドを関連のキュー・マネージャー *queue_manager_name* に伝搬することに失敗した。アプリケーションが、グローバル・パブリケーションを削除するためのパブリケーション削除コマンドを発行するとき、このコマンドは、ストリームをサポートする副階層にあるすべてのキュー・マネージャーに伝搬される必要がある。エラーを報告したキュー・マネージャーは、ストリーム *stream-name* をサポートする関連のキュー・マネージャー *queue_manager_name* にパブリケーション削除コマンドを転送することに失敗した。パブリケーションの削除コマンドが MQRO_DISCARD_MSG なしで普及し、コマンド・メッセージは送達不能キューに書き込まれている可能性があります。パブリケーション削除が失敗したトピックは *topic-name* である。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

関連のキュー・マネージャーでストリームが削除されたことが原因でパブリケーションの削除が失敗した場合は、このメッセージは無視しても構わない。パブリケーション削除が失敗した原因を調べて、失敗したコマンドを回復するために適切な処置をとる。

CSQT853E

csect-name パブリケーション削除コマンドを伝搬できません。トピック *topic-name*、ストリーム *stream-name*、関係 *relation-name*、理由 = *mqrc* (*mqrc-text*)。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、ストリーム *stream-name* に対するパブリケーション削除コマンドを、前に関連付けられたキュー・マネージャー *relation-name* に伝搬することに失敗した。場合によっては、ストリームまたは関係を判別できないために、「????」と表示されることがあります。

アプリケーションが、グローバル・パブリケーションを削除するためにパブリケーション削除コマンドを発行するとき、このコマンドはストリームをサポートする副階層内のすべてのキュー・マネージャーに伝搬される。パブリケーションが削除された後、このトポロジーの変更によって除去されたキュー・マネージャーが、伝搬されたパブリケーション削除メッセージを処理する前に、キュー・マネージャー・トポロジーが変更された。パブリケーション削除が失敗したトピックは *topic-name* である。場合によっては、トピックを判別できないため、「????」と表示されることがあります。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

RESET QMGR TYPE(PUBSUB) コマンドを使用して、キュー・マネージャー・トポロジーを変更する前にキュー・マネージャー・アクティビティーを静止するのは、ユーザーの責任である。このパブリケーション削除活動が静止されなかった理由を調べる。パブリケーション削除コマンドは、トポロジーから除去されたキュー・マネージャーにある送達不能キューに書き込まれる。この場合、RESET QMGR TYPE(PUBSUB) コマンドの発行前に静止されなかったパブリケーション削除コマンドを伝搬するために、別の処置が必要な場合がある。

CSQT854E

csect-name パブリケーション削除コマンドを伝搬できません。トピック *topic-name*、ストリーム *stream-name* 宛先キュー・マネージャー *queue_manager_name*

重大度

8

説明

アプリケーションがパブリケーション削除コマンドを発行するとき、このコマンドは、ストリームをサポートする副階層にあるすべてのキュー・マネージャーに伝搬される必要がある。パブリケーション削除が伝搬された時点では、キュー・マネージャー *queue_manager_name* は、ストリーム *stream-name* をサポートしているこのメッセージ・キューと既知の関係だった。パブリケーション削除コマンドが関連のキュー・マネージャーに到達する前にキュー・マネージャー・トポロジーが変更され、キュー・マネージャー *queue_manager_name* がストリーム *stream-name* をもはやサポートしなくなった。パブリケーション削除が失敗したトピックは *topic-name* である。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーのストリーム・トポロジーを変更する前にキュー・マネージャーの活動を静止するのは、ユーザーの責任である。このパブリケーション削除活動が静止されなかった理由を調べる。パブリケーション削除コマンドは、キュー・マネージャー *queue_manager_name* にある送達不能キューに書き込まれる。

CSQT855E

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが失敗しました。理由=*mqrc*

重大度

8

説明

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェース (キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモン) を実行しようとしたが、理由 *mqrc* によりインターフェースが終了した。

mqrc が 2000 から 3000 までの範囲の番号である場合、その番号は API 理由コードである。5*nnn* という形式の場合、それは、メッセージ CSQT *nnn*E (通常は、その前に発行されている) に関連する、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージ・コードである。

システム・プログラマーの応答

mqrc が API 理由コードである場合は、*mqrc* について詳しくは、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。*mqrc* がキューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブのメッセージ・コードの場合は、対応するメッセージから詳細情報を入手する。そのようなメッセージがない場合は、[1128 ページの『キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブのメッセージ・コード』](#)の該当するメッセージ番号を参照する。

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが終了した理由を判別する。チャンネル・イニシエーターのメッセージ・ログには、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが始動できなかった理由についての詳細が収められている場合がある。デーモンの完了を妨げている問題を解決して、チャンネル・イニシエーターを再始動する。

CSQT856E

csect-name: ストリーム *stream-name* のパブリッシュ・コマンド・メッセージを処理できませんでした。理由=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが、ストリーム *stream-name* 用のパブリッシュ・メッセージの処理に失敗した。キュー・マネージャーは、送達不能キューにパブリケーションを書き込まず、パブリケーションを破棄することも許可されなかった。キュー・マネージャーはストリームを一時的に停止し、ストリームを再開して、結果的に短い間隔を置いてパブリケーションを再試行する。

システム・プログラマーの応答

エラーが発生した理由と、送達不能キューにパブリケーションを書き込めない理由を調べる。ストリーム・キューからパブリケーションを手動で除去するか、キュー・マネージャーがパブリケーションを送達不能キューに書き込めない原因となっている問題を訂正する。

CSQT857E

`csect-name`: 制御コマンド・メッセージを処理できませんでした。理由=`mqrc (mqrc-text)`

重大度

8

説明

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが `SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE` にあるコマンド・メッセージの処理に失敗した。キュー・マネージャーが送達不能キューにコマンド・メッセージを書き込まず、このコマンド・メッセージの破棄を許可されなかった。キュー・マネージャーはストリームを一時的に停止し、ストリームを再開して、結果的に短い間隔を置いてコマンド・メッセージを再試行する。その他のキュー・マネージャー制御コマンドは、このコマンド・メッセージが正常に処理されるか、制御キューから除去されるまで処理できない。

システム・プログラマーの応答

エラーが発生した理由と、送達不能キューにコマンド・メッセージを書き込めない理由を調べる。コマンド・メッセージをストリーム・キューから手動で除去するか、ブローカーが送達不能キューにコマンド・メッセージを書き込めないようにしている問題を解決してください。

CSQT858E

`csect-name` サブスクライバー・キューにパブリケーションを送信できません。キュー `queue-name`、宛先キュー・マネージャー `queue_manager_name`、理由=`mqrc (mqrc-text)`。

重大度

8

説明

理由 `mqrc` により、パブリケーションをキュー・マネージャー `queue_manager_name` にあるサブスクライバー・キュー `queue-name` に送信することに失敗した。ブローカー構成オプションが原因で、パブリケーションの破棄や送達不能キューへの送信といった方法で、この障害から回復することができない。その代わりとして、キュー・マネージャーはパブリケーションが送信される作業単位をバックアウトして、失敗したコマンド・メッセージを指定された回数だけ再試行する。問題が解決しない場合、キュー・マネージャーは否定的な応答メッセージを出してコマンド・メッセージを失敗させることにより、回復を試みる。このコマンドの発行者により否定的な応答が要求されなかった場合、キュー・マネージャーは失敗したコマンド・メッセージを破棄するか、送達不能キューに送信する。キュー・マネージャー構成オプションが原因でこれができない場合、キュー・マネージャーは影響を受けたストリームを再始動させる。これにより、失敗したコマンド・メッセージが再処理される。この動作は、失敗が解決されるまで繰り返される。この間、ストリームはパブリケーションやサブスクリプションをそれ以上処理できない。

システム・プログラマーの応答

`mqcc` および `mqr` (`mqr` (`mqr-text` はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

通常、この障害の原因は一時的なリソースの問題である (例えばサブスクライバー・キューまたは中間伝送キューが満杯)。理由コード `mqr` を使用して、どのような改善処置が必要かを判別する。問題が長時間解決しない場合、キュー・マネージャーがストリームを継続的に再始動させることが通知される。ストリームの再始動を示す `CSQT820E` メッセージがチャネル・イニシエーター・ログに大量に書き込まれていれば、これが発生している兆候と判断できる。このような場合、失敗したパブリケーションをキュー・マネージャーが処分できるようにするには、手動による介入が必要である。これを行うには、`ALTER QMGR PSMODE(COMPAT)` を使用して、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンを終了し、該当するキュー・マネージャー属性 `PSNPMSG`、`PSNPRES`、`PSSYNCP` を変更し、`ALTER QMGR PSMODE(ENABLED)` を使用してそれを再始動する必要がある。これにより、パブリケーションをその他のサブスクライバーに送信でき、その一方でキューに入れられたパブリッ

キュー/サブスクライブ・デーモンは送信できなかったパブリケーションを破棄するか、送達不能キューに送信できる。

CSQT859E

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・ストリーム *stream-name* が終了しています。理由=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

ストリーム *stream-name* のため内部リソースが使い尽くされ、理由コード *mqrc* で終了 (*mqrc-text* で示されるのはテキスト形式での MQRC)。進行中のコマンドが同期点制御で処理されている場合、これがバックアウトされて、キュー・マネージャーによりストリームが再始動されるときに再試行される。進行中のコマンドが同期点制御以外で処理されている場合、ストリームが再始動されるときに再試行できない。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、非常に稀な状況でのみ出されます。同一のストリームに対してこのメッセージが繰り返し発行され、サブスクリプション、トピック、および保存パブリケーションが特別に多いわけではない場合は、生成された診断情報をすべて保存し、IBM MQ サポート・サイトまたは IBM サポート・アシスタント (ISA) を使用して、解決方法があるかどうかを調べる。一致するものが見つからない場合は、IBM サポートに連絡してください。

CSQT864E

csect-name 応答メッセージを書き込めません。キュー *queue-name* キュー・マネージャー (*qm-name*) MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)。

重大度

8

説明

パブリッシュ/サブスクライブ・コマンドの処理中に、MQRC=*mqrc* により、キュー・マネージャーがそのキュー・マネージャー *qm-name* にあるキュー *queue-name* に応答メッセージを送信できなかった。キュー・マネージャーは、送達不能キューにもメッセージを書き込めなかった。このコマンドは同期点制御のもとで処理されているため、キュー・マネージャーは、問題を一過性のものとみなしてコマンドを再試行する。設定された再試行回数を経過した後になっても応答メッセージを送信できない場合は、報告書オプションで許可されていれば、コマンド・メッセージが破棄される。コマンド・メッセージを破棄できない場合、ストリームが再開されて、コマンド・メッセージの処理が再開される。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

理由コード *mqrc* を使用して、どのような改善処置が必要かを判別する。障害の原因がリソースの問題 (キューがいっぱいであるなど) である場合、問題が既に解決している場合がある。解決していない場合、このメッセージはコマンドが再試行されるたびに繰り返し発行される。この場合、問題の調査中にもキューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが他のコマンドを処理できるように、応答メッセージを受信するための送達不能キューを定義しておくことが強く推奨される。コマンドの発行元であるアプリケーションを調べて、必ず応答先キューを正しく指定する。

CSQT866E

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・メッセージが破棄されました。Reason=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・メッセージの処理に失敗し、このメッセージは破棄された。キュー・マネージャーは、新しいコマンド・メッセージの処理を再開する。

システム・プログラマーの応答

前のエラー・メッセージを調べて、コマンド・メッセージの問題を突き止める。問題を訂正して、障害の再発を防ぐ。

CSQT875E

csect-name: 送達不能キューにメッセージを入れることができませんでした。理由=*mqrc* (*mqrc-text*) (DLH 理由=*mqrc2* (*mqrc2-text*))

重大度

8

説明

キュー・マネージャーにより送達不能キュー *queue-name* にメッセージを入れることが試みられたが、理由 *mqrc* のため、メッセージを送達不能キューに書き込むことができなかった (*mqrc-text* で示されるのはテキスト形式での MQRC)。このメッセージが送達不能キューに書き込まれていた理由は *mqrc2* (*mqrc2-text* で示されるのはテキスト形式での MQRC)。

システム・プログラマーの応答

メッセージを送達不能キューに書き込めない理由を判別する。また、チャンネル出口などによりメッセージを意図的に送達不能キューに書き込まれない場合は、そのメッセージが送達不能キューに書き込まれた理由を判別し、メッセージが宛先に送信されない原因となっている問題を解決する。

CSQT876E

csect-name キュー・マネージャー *queue_manager_name* とのパブリッシュ/サブスクライブ階層で親の競合が検出されました。

重大度

8

説明

キュー・マネージャー *queue_manager_name* が開始され、このキュー・マネージャーの名前が親として指定された。このキュー・マネージャーは、既にキュー・マネージャー *queue_manager_name* を親として指定している。このキュー・マネージャーは、キュー・マネージャー *queue_manager_name* に、競合が検出されたことを示す例外メッセージを送信する。このメッセージの理由として可能性の高いものは、分散パブリッシュ/サブスクライブ通信メッセージが転送されていた間 (例えば、伝送キューに入れられていたなど) に、キュー・マネージャー・トポロジーが変更されたことや、以前のキュー・マネージャー・トポロジーに関連するメッセージが新しいトポロジーにあるキュー・マネージャーに到達したことである。このメッセージには、予期しない通信の詳細を含む情報 FFST が伴っていることがある。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー・トポロジーが変更され、メッセージに示されているキュー・マネージャーがこのキュー・マネージャーをもう親として識別していない場合 (例えば、コマンド ALTER QMGR PARENT(' ') が発行された場合) は、このメッセージを無視して構わない。キュー・マネージャー *queue_manager_name* がこのキュー・マネージャーの親として定義されており、同時にこのキュー・マネージャーがキュー・マネージャー *queue_manager_name* の親として定義されている場合は、正しい PARENT を指定して ALTER QMGR コマンドを使用し、競合を解決する必要がある。

CSQT882E

csect-name 送達不能キューにメッセージが書き込まれました。理由=*mqrc* (*mqrc-text*)。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが、理由 *mqrc* によりメッセージを送達不能キューにメッセージを書き込んだ (*mqrc-text* は、MQRC をテキスト形式で提供する)。注: このメッセージは、最初にストリームに対して表示された後は、定期的書き込まれるだけである。

システム・プログラマーの応答

メッセージが送達不能キューに書き込まれた理由を判別し、メッセージが宛先に送信されない原因となっている問題を解決する。

CSQT883E

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ状態は記録されていません。

重大度

0

説明

同期点外のパブリケーションの処理中に、ストリーム *stream-name* 上の、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブの状態が記録されなかった。非永続パブリケーションが、保存メッセージまたはパブリッシャー登録の変更を要求した。キュー・マネージャー属性 PSSYNCPPT を IFPER に設定してキュー・マネージャーが構成されているため、このパブリケーションは同期点外で処理されている。パブリッシャー登録または保存パブリケーションをキュー・マネージャーのローカル・キューにハード化するところで障害が発生した。このパブリケーションの結果として試行される状態の変更は、すべてバックアウトされる。パブリケーションの処理は継続し、キュー・マネージャーはそれをすべてのサブスクライバーに配信しようとする。

システム・プログラマーの応答

障害の発生理由を調べる。これは恐らく、キュー・マネージャーで発生したリソース上の問題が原因である。この原因として最も可能性の高いものは、キューがいっぱいになったことである。パブリケーションでも状態変更が見られる場合、永続パブリケーションとして送信するか、キュー・マネージャー属性 PSSYNCPPT を YES に設定することが推奨される。この方法をとると、同期をとりながら実行でき、このような障害が発生した場合でも、キュー・マネージャーは変更を再試行できる。

CSQT884E

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ制御キューはローカル・キューではありません。

重大度

8

説明

キュー SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE が存在し、これがローカル・キューでないことをキュー・マネージャーが検出した。これにより、このキューは制御キューとしての使用に適していない。パブリッシュ/サブスクライブ・デーモン・タスクは、ただちに終了する。

システム・プログラマーの応答

既存のキューの定義を削除し、必要に応じてタイプが MQTT_LOCAL になるようにキューを再作成する。

CSQT895I

csect-name キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが、保存メッセージの欠落を検出しました。

重大度

4

説明

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンは保存メッセージを使用して、パブリッシュ/サブスクライブ階層の他のメンバーと通信する。

保存メッセージが欠落しており、リパブリッシュされた。

システム・アクション

保存メッセージが SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE から除去されたものとみられる。キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが、保存メッセージをリパブリッシュすることにより復旧を試行した。

システム・プログラマーの応答

保存メッセージが除去された理由が分からない場合、これはもっと深刻な問題の症状である可能性があり、さらに調査する必要がある。

CSQT899E

csect-name 親と子キュー・マネージャー *qmname* の関係を確立できません

重大度

8

説明

キュー・マネージャーは、キュー・マネージャー *qmname* がすでに子であるため、要求された親とそのキュー・マネージャーの関係を確立できない。

システム・アクション

キュー・マネージャー *qmname* への既存の子関係に影響はない。

システム・プログラマーの応答

このメッセージが出ないようにするには、**ALTER QMGR PARENT(' ')** MQSC コマンドを発行して、キュー・マネージャー上の親定義を除去する必要がある。必要なトポロジーを確実に確立するには、既存の親定義を検討し、適切に更新する。

CSQT960I

csect-name 分散パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・プロセッサは停止しました。

重大度

0

説明

分散パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・プロセッサが停止した。これは、以下の3通りの理由のいずれかによる場合がある。

- チャネル・イニシエーターは停止します。
- チャネル・イニシエーターが始動中だが、分散パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・プロセッサが不要であるために、分散パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・プロセッサが使用するキューが定義されていない。
- エラーが発生している。

システム・アクション

処理は続行されるが、分散パブリッシュ/サブスクライブは利用できない。

システム・プログラマーの応答

エラーが発生している場合は、先行のメッセージに報告されている問題を調べる。

CSQT961I

csect-name 分散パブリッシュ/サブスクライブ・パブリケーション・プロセッサは停止しました。

重大度

0

説明

分散パブリッシュ/サブスクライブ・パブリケーション・プロセッサが停止した。これは、以下の3通りの理由のいずれかによる場合がある。

- チャンネル・イニシエーターは停止します。
- チャンネル・イニシエーターが始動中だが、分散パブリッシュ/サブスクライブ・パブリケーション・プロセッサが不要であるために、分散パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・プロセッサが使用するキューが定義されていない。
- エラーが発生している。

システム・アクション

処理は続行されるが、分散パブリッシュ/サブスクライブは利用できない。

システム・プログラマーの応答

エラーが発生している場合は、先行のメッセージに報告されている問題を調べる。

CSQT962I

csect-name 分散パブリッシュ/サブスクライブ・プロキシー・サブスクリプション・ファンアウト・プロセッサは停止しました。

重大度

0

説明

分散パブリッシュ/サブスクライブ・プロキシー・サブスクリプションが停止した。これは、以下の3通りの理由のいずれかによる場合がある。

- チャンネル・イニシエーターは停止します。
- チャンネル・イニシエーターが始動中であり、分散パブリッシュ/サブスクライブ・プロキシー・サブスクリプション・ファンアウト・プロセッサが不要であるために、分散パブリッシュ/サブスクライブ・プロキシー・サブスクリプション・ファンアウト・プロセッサが使用するキューが定義されていない。
- エラーが発生している。

システム・アクション

処理は続行されるが、分散パブリッシュ/サブスクライブは利用できない。

システム・プログラマーの応答

エラーが発生している場合は、先行のメッセージに報告されている問題を調べる。

CSQT963E

csect-name Queued pub/sub daemon unavailable

重大度

8

説明

分散パブリッシュ/サブスクライブ・プロセスが、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンと連絡できない。問題は、これに先行するメッセージで報告される。

システム・アクション

階層型接続は、問題が修正されるまで処理できない。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。デーモンが使用できるようになったときに、REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB) コマンドを再同期サブスクリプションに発行しなければならない場合がある。

CSQT964I

csect-name パブリッシュ/サブスクライブ階層関係が接続されました (キュー・マネージャー *qmgr-name*)

重大度

0

説明

子または親キュー・マネージャー *qmgr-name* に関してパブリッシュ/サブスクライブ階層接続が確立された。

CSQT965I

csect-name パブリッシュ/サブスクライブ階層関係が切断されました (キュー・マネージャー *qmgr-name*)

重大度

0

説明

子または親キュー・マネージャー *qmgr-name* に関してパブリッシュ/サブスクライブ階層接続が終了した。

CSQT966E

csect-name 前のパブリケーションが誤って再び処理されています。

重大度

8

説明

このキュー・マネージャーで前に処理されたパブリケーションが受信された。

これは、階層とパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの無効な構成が原因で起こる。

システム・アクション

このメッセージは再度パブリッシュされず、メッセージのレポート・オプションに従って処理されます。このパブリケーションが送達不能キューに送信された場合、追加メッセージが書き込まれることがあります。

システム・プログラマーの応答

構成を訂正してループを除去してください。送達不能キューのメッセージ・プロパティを確認して、送られた経路を判別してください。

CSQT967E

csect-name プロキシ・サブスクリプションをキュー・マネージャー *queue_manager_name* に送達できません。理由=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

プロキシ・サブスクリプションをキュー・マネージャー *queue_manager_name* に送達できません。理由コード: *mqrc* (*mqrc-text* は MQRC をテキスト形式で提供)。

この結果として、サブスクリプションが *queue_manager_name* からパブリケーションを受信しない可能性があります。

システム・プログラマーの応答

queue_manager_name へのプロキシ・サブスクリプションの送達が可能になるよう、構成を修正します。問題が解決した後、**REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** を実行してサブスクリプションを再同期する必要があります。

CSQT968I

csect-name クラスター *cluster_name* の中のトピック *topic-1* はトピック *topic-2* の PROXYSUB(FORCE) に依存します

重大度

4

説明

トピック・オブジェクト *topic-1* は、クラスター *cluster_name* で定義されていて、トピック・ツリー内でトピック・オブジェクト *topic-2* の下に位置します。トピック・オブジェクト *topic-2* は **PROXYSUB(FORCE)** を指定してワイルドカード・プロキシー・サブスクリプションを生成するように構成されています。それで、トピック・ツリーの *topic-2* より下位に作成されるサブスクリプションに対しては、個々のプロキシー・サブスクリプションはこれ以上は送信されません。ただし、*topic-2* は *topic-1* と同じクラスター内にはなく、ワイルドカード・プロキシー・サブスクリプションは *topic-1* が定義されたクラスター内の近隣のキュー・マネージャーには送信されません。そのため、クラスター *cluster_name* からのパブリケーションは、このキュー・マネージャーの *topic-1* へのサブスクリプションには送信されない可能性があります。

システム・プログラマーの応答

「説明」に示された動作を実行する場合、アクションは不要です。それを実行しない場合、トピック *topic-1* または *topic-2* の **PROXYSUB** 属性を変更し、両方のトピックが値 **FORCE** で構成されるように（またはいずれもその値で構成されないように）します。

CSQT971E

csect-name task は静止に失敗しました

重大度

8

説明

示された分散パブリッシュ/サブスクライブのタスクは静止するように要求されたが、タイムアウト間隔内で静止することに失敗した。

以下の4つのクラスのタスクがある。

分散パブリッシュ/サブスクライブのパブリッシュ・タスク

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内のリモート・キュー・マネージャーからパブリケーションを受信し、ローカル・キュー・マネージャーへリパブリッシュする

分散パブリッシュ/サブスクライブのコマンド・タスク

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内のリモート・キュー・マネージャーからコマンド・メッセージを受信し、リモート・キュー・マネージャーの代わりにプロキシー・サブスクリプションを作成したり、取り消したりする。

分散パブリッシュ/サブスクライブのファンアウト・タスク

ローカル・キュー・マネージャーの状態の変更に対する応答として、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内およびパブリッシュ/サブスクライブ階層内のリモート・キュー・マネージャーにコマンド・メッセージを送信する。

分散パブリッシュ/サブスクライブ・コントローラー

チャンネル・イニシエーターの起動時とシャットダウン時、およびパブリッシュ/サブスクライブを使用可能および使用不可に設定する際に、分散パブリッシュ/サブスクライブ・タスクの開始と停止を制御する。

システム・アクション

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが強制的にクローズされる。

システム・プログラマーの応答

タスクが静止に失敗した理由について説明している可能性のある追加メッセージまたは FFST™ がいないかジョブ・ログを確認する。

CSQT972E

csect-name: 分散パブリッシュ/サブスクライブ・ファンアウト要求を *q-name* に入れることができませんでした。理由=*mqr* (*mqr-text*)

重大度

8

説明

サブスクリプション・ファンアウト要求を分散パブリッシュ/サブスクライブ・ファンアウト要求キュー *q-name* に入れようとしたが、理由コード *mqrc* で失敗した (*mqrc-text* で示されるのはテキスト形式での MQRC)。

CSQT973E

csect-name 分散パブリッシュ/サブスクライブのサブスクライブが禁止されています。トピック・ストリング *topic-string*、(キュー・マネージャー *qm-name*)。

重大度

8

説明

トピック *topic-string* は、サブスクライブには使用不可になっている。これは、トポロジー内の他のキュー・マネージャー *qm-name* の代わりに、分散パブリッシュ/サブスクライブがサブスクリプションを作成するのを妨げている。

CSQT974E

csect-name 分散パブリッシュ/サブスクライブのパブリケーションが禁止されています。トピック・ストリング *topic-string*

重大度

8

説明

トピック *topic-string* は、パブリッシュには使用不可になっている。これは、トポロジー内の他のキュー・マネージャーから受信したメッセージを、分散パブリッシュ/サブスクライブがパブリッシュするのを妨げている。このメッセージは再パブリッシュされず、メッセージ内のレポート・オプションに従って処理される。このパブリケーションが送達不能キューに送信された場合、追加メッセージが書き込まれることがあります。

CSQT975I

csect-name task が開始されました

重大度

0

説明

示された分散パブリッシュ/サブスクライブ・タスクが開始された。このメッセージは通常、チャンネル・イニシエーターの開始時またはパブリッシュ/サブスクライブを使用可能にすると出される。

以下の4つのクラスのタスクがある。

分散パブリッシュ/サブスクライブのパブリッシュ・タスク

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内のリモート・キュー・マネージャーからパブリケーションを受信し、ローカル・キュー・マネージャーへリパブリッシュする

分散パブリッシュ/サブスクライブのコマンド・タスク

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内のリモート・キュー・マネージャーからコマンド・メッセージを受信し、リモート・キュー・マネージャーの代わりにプロキシ・サブスクリプションを作成したり、取り消したりする。

分散パブリッシュ/サブスクライブのファンアウト・タスク

ローカル・キュー・マネージャーの状態の変更に対する応答として、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内およびパブリッシュ/サブスクライブ階層内のリモート・キュー・マネージャーにコマンド・メッセージを送信する。

分散パブリッシュ/サブスクライブ・コントローラー

チャンネル・イニシエーターの起動時とシャットダウン時、およびパブリッシュ/サブスクライブを使用可能および使用不可に設定する際に、分散パブリッシュ/サブスクライブ・タスクの開始と停止を制御する。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQT976I

csect-name task が停止しました

重大度

0

説明

示された分散パブリッシュ/サブスクライブ・タスクが停止した。このメッセージは通常、チャンネル・イニシエーターのシャットダウン時またはパブリッシュ/サブスクライブを使用不可にすると出される。

以下の4つのクラスのタスクがある。

分散パブリッシュ/サブスクライブのパブリッシュ・タスク

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内のリモート・キュー・マネージャーからパブリケーションを受信し、ローカル・キュー・マネージャーへリパブリッシュする

分散パブリッシュ/サブスクライブのコマンド・タスク

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内のリモート・キュー・マネージャーからコマンド・メッセージを受信し、リモート・キュー・マネージャーの代わりにプロキシ・サブスクリプションを作成したり、取り消したりする。

分散パブリッシュ/サブスクライブのファンアウト・タスク

ローカル・キュー・マネージャーの状態の変更に対する応答として、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内およびパブリッシュ/サブスクライブ階層内のリモート・キュー・マネージャーにコマンド・メッセージを送信する。

分散パブリッシュ/サブスクライブ・コントローラー

チャンネル・イニシエーターの起動時とシャットダウン時、およびパブリッシュ/サブスクライブを使用可能および使用不可に設定する際に、分散パブリッシュ/サブスクライブ・タスクの開始と停止を制御する。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQT977I

csect-name パブリッシュ/サブスクライブ階層関係を確立しています。(キュー・マネージャー *qmgr-name*)

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは、子または親キュー・マネージャー *qmgr-name* とのパブリッシュ/サブスクライブ階層接続を確立中である。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQT978E

csect-name キュー・マネージャー *queue_manager_name*、トピック・ストリング *topic-string* に対して、プロキシー・サブスクリプションの作成/取り消しができませんでした。理由 = *mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

分散パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・タスクは、理由コード *mqrc* で、トピック *topic-string* のキュー・マネージャー *queue_manager_name* のプロキシー・サブスクリプションを作成または取り消しできない (*mqrc-text* は、MQRC をテキスト形式で提供する)。

プロキシー・サブスクリプションを作成または取り消しできないために、結果としてこのキュー・マネージャーは、パブリッシュ/サブスクライブ・トポロジー内の他のキュー・マネージャーのサブスクリプションを正しく把握できなくなる。これにより、このキュー・マネージャーはパブリケーションを他のキュー・マネージャーに配信しなくなる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

示された理由コードの原因を修正する。

問題を解決してから、サブスクリプションを再同期させるために、REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB) コマンドを実行することが必要になる場合がある。

CSQT979E

PSCLUS(DISABLED) により、*qmgr-name* からの *csect-name* 分散パブリッシュ/サブスクライブ・プロキシー・サブスクリプションが拒否されました。

説明

クラスター・サブスクリプションが *qmgr-name* からチャンネルを経由してこのキュー・マネージャーに送信されましたが、キュー・マネージャー属性 PSCLUS は DISABLED に設定されており、このクラスターではキュー・マネージャー間のパブリッシュ/サブスクライブ・アクティビティーが予期されていないことを示しています。

システム・アクション

プロキシー・サブスクリプション要求は無視され、ローカルでサブスクリプションは登録されない。

システム・プログラマーの応答

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターリングを有効にする場合は、そのクラスターに含まれるすべてのキュー・マネージャーで PSCLUS 属性を ENABLED に変更する。PSCLUS 属性の資料に詳述されているとおり、REFRESH CLUSTER コマンドと REFRESH QMGR コマンドを発行する必要もある。パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターを使用しない場合は、クラスター・トピック・オブジェクトを削除し、すべてのキュー・マネージャーで PSCLUS を DISABLED にします。

CSQT980I

csect-name 分散パブリッシュ/サブスクライブ・プロキシー・サブスクリプションの再同期が完了しました。

重大度

0

説明

再始動処理中に、分散パブリッシュ/サブスクライブ・プロセスは、プロキシー・サブスクリプション状態が一貫しており、リモート・キュー・マネージャーとの再同期が実行されたことを判別できなかった。

これは通常、キュー・マネージャーがその以前のシャットダウン中にクリーンに静止しなかったか、システムがその時点で特にビジーであった場合に起きる。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQT981E

csect-name パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの中で分散パブリッシュ/サブスクライブが無効になっています

重大度

4

説明

このキュー・マネージャーは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのメンバーですが、パブリッシュ/サブスクライブが無効になっています。

システム・アクション

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内の他のキュー・マネージャーは、パブリケーションとプロキシ・サブスクリプションを引き続きこのキュー・マネージャーに送信します。それらのパブリケーションとサブスクリプションは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのシステム・キューに累積し、パブリッシュ/サブスクライブが有効になるまで処理されません。それらのキューが満杯になると、チャンネル障害が発生する可能性があります。その場合は、クラスター内の他のキュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブの操作に影響が及びます。さらに、クラスター内の他のキュー・マネージャーからこのキュー・マネージャーに送信される、パブリッシュ/サブスクライブとは無関係の他のメッセージの送達にも影響が及びます。

システム・プログラマーの応答

ALTER QMGR コマンドで **PSMODE** を **ENABLED** または **COMPAT** に設定してパブリッシュ/サブスクライブを有効にしてから、**REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** コマンドを発行してサブスクリプションを再同期する必要があります。

CSQT982E

csect-name パブリッシュ/サブスクライブ階層の中でキュー・パブリッシュ/サブスクライブが無効になっています

重大度

4

説明

このキュー・マネージャーは、パブリッシュ/サブスクライブ階層のメンバーですが、キュー・パブリッシュ/サブスクライブが無効になっています。

システム・アクション

パブリッシュ/サブスクライブ階層内の親子関係に基づいて、パブリケーションとプロキシ・サブスクリプションは、引き続きこのキュー・マネージャーに送信されます。それらのパブリケーションとサブスクリプションは、キュー・パブリッシュ/サブスクライブのシステム・キューに累積し、キュー・パブリッシュ/サブスクライブが有効になるまで処理されません。キュー・パブリッシュ/サブスクライブのシステム・キューが満杯になると、チャンネル障害が発生する可能性があります。その場合は、親子関係に基づいてこのキュー・マネージャーにメッセージを送信するパブリッシュ/サブスクライブの操作に影響が及びます。さらに、同じチャンネルを使用して送信される、パブリッシュ/サブスクライブとは無関係の他のメッセージの送達にも影響が及びます。

システム・プログラマーの応答

ALTER QMGR コマンドで **PSMODE** を **ENABLED** に設定して、キュー・パブリッシュ/サブスクライブを有効にしてください。キュー・パブリッシュ/サブスクライブが再始動したら、**DISPLAY PUBSUB ALL** コマンドを使用して、その処理が完了したことを確認してください。その後、再同期のために **REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** コマンドを実行する必要があります。

CSQT983E

csect-name task 失敗。理由 *mqrc (mqrc-text)*。 *n* 分以内に再試行してください

重大度

4

説明

task で問題が検出され、*n* 分以内にコマンドを再試行します。これより前に、キュー・マネージャーまたはシステムのエラー・ログで詳細を示すメッセージが発行されている可能性があります。

このメッセージが発行された原因として、いくつかのタスクが考えられます。

分散パブリッシュ/サブスクライブのパブリッシュ・タスク

クラスター内の他のキュー・マネージャーは、パブリケーションを引き続きこのキュー・マネージャーに送信します。パブリケーションは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのシステム・キュー (SYSTEM.INTER.QMGR.PUBS) に累積され、問題が解決されるまで処理されません。それらのキューが満杯になると、チャンネル障害が発生する可能性があります。その場合は、クラスター内の他のキュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブの操作に影響が及びます。さらに、クラスター内の他のキュー・マネージャーからこのキュー・マネージャーに送信される、パブリッシュ/サブスクライブとは無関係の他のメッセージの送達にも影響が及びます。

分散パブリッシュ/サブスクライブのコマンド・タスク

クラスター内の他のキュー・マネージャーは、プロキシ・サブスクリプションを引き続きこのキュー・マネージャーに送信します。サブスクリプションは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのシステム・キュー (SYSTEM.INTER.QMGR.CONTROL) に累積され、問題が解決されるまで処理されません。その他のキュー・マネージャーは、プロキシ・サブスクリプションがまだ処理されていないトピックに対するパブリケーションをこのキュー・マネージャーから受け取りません。パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのシステム・キューが満杯になると、チャンネル障害が発生する可能性があります。その場合は、クラスター内の他のキュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブの操作に影響が及びます。さらに、クラスター内の他のキュー・マネージャーからこのキュー・マネージャーに送信される、パブリッシュ/サブスクライブとは無関係の他のメッセージの送達にも影響が及びます。

分散パブリッシュ/サブスクライブのファンアウト・タスク

このタスクは、問題が解決されるまで、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターまたはパブリッシュ/サブスクライブ階層内の親子関係に属する他のキュー・マネージャーに、プロキシ・サブスクリプション・メッセージを送信しません。プロキシ・サブスクリプションがまだ送信されていないトピックでは、このキュー・マネージャーは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターに属する他のキュー・マネージャーまたはパブリッシュ/サブスクライブ階層内の親子関係からのパブリケーションを受信しません。

システム・アクション

なし

システム・プログラマーの応答

可能な場合は識別された問題を解決するか、IBM サポートに連絡してください。

問題が解決した場合、*task* がコマンドを再試行するのを待機してください。

CSQT984E

csect-name task がメッセージ処理試行中に、理由 *mqrc (mqrc-text)* が *n* 回発生しました

重大度

4

説明

task は、理由 *mqrc* のため、現在メッセージを処理できません (*mqrc-text* はテキスト形式の MQRC)。タスクはこれを *n* 回検出しました。問題が解決するまで、引き続きコマンドが再試行されます。

このメッセージが発行された原因として、いくつかのタスクが考えられます。

分散パブリッシュ/サブスクライブのパブリッシュ・タスク

クラスター内の他のキュー・マネージャーは、パブリケーションを引き続きこのキュー・マネージャーに送信します。パブリケーションは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのシステム・キュー (SYSTEM.INTER.QMGR.PUBS) に累積され、問題が解決されるまで処理されません。それらのキューが満杯になると、チャンネル障害が発生する可能性があります。その場合は、クラスター内の他のキュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブの操作に影響が及びます。さらに、クラスター内の他のキュー・マネージャーからこのキュー・マネージャーに送信される、パブリッシュ/サブスクライブとは無関係の他のメッセージの送達にも影響が及びます。

分散パブリッシュ/サブスクライブのコマンド・タスク

クラスター内の他のキュー・マネージャーは、プロキシ・サブスクリプションを引き続きこのキュー・マネージャーに送信します。サブスクリプションは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのシステム・キュー (SYSTEM.INTER.QMGR.CONTROL) に累積され、問題が解決されるまで処理されません。その他のキュー・マネージャーは、プロキシ・サブスクリプションがまだ処理されていないトピックに対するパブリケーションをこのキュー・マネージャーから受け取りません。パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのシステム・キューが満杯になると、チャンネル障害が発生する可能性があります。その場合は、クラスター内の他のキュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブの操作に影響が及びます。さらに、クラスター内の他のキュー・マネージャーからこのキュー・マネージャーに送信される、パブリッシュ/サブスクライブとは無関係の他のメッセージの送達にも影響が及びます。

分散パブリッシュ/サブスクライブのファンアウト・タスク

このタスクは、問題が解決されるまで、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターまたはパブリッシュ/サブスクライブ階層内の親子関係に属する他のキュー・マネージャーに、プロキシ・サブスクリプション・メッセージを送信しません。プロキシ・サブスクリプションがまだ送信されていないトピックでは、このキュー・マネージャーは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターまたはパブリッシュ/サブスクライブ階層内の親子関係に属する他のキュー・マネージャーからのパブリケーションを受信しません。

システム・アクション

なし

システム・プログラマーの応答

可能な場合は識別された問題を解決するか、IBM サポートに連絡してください。

問題が解決した場合、*task* がコマンドを再試行するのを待機してください。

CSQT987E

csect-name task は、理由 *mqrc* (*mqrc-text*) のために失敗しました。 *n* 分後に再試行してください。

重大度

4

説明

task で問題が検出されました。これより前に、キュー・マネージャーまたはシステムのエラー・ログで詳細を示すメッセージが発行されている可能性があります。タスクは *n* 分後にコマンドを再試行します。

クラスター内の他のキュー・マネージャーは、プロキシ・サブスクリプションを引き続きこのキュー・マネージャーに送信します。それらのサブスクリプションは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのシステム・キューに累積され、問題が解決されるまで処理されません。

その他のキュー・マネージャーは、プロキシ・サブスクリプションがまだ処理されていないトピックに対するパブリケーションをこのキュー・マネージャーから受け取りません。

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのシステム・キューが満杯になると、チャンネル障害が発生する可能性があります。その場合は、クラスター内の他のキュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブの操作に影響が及びます。さらに、クラスター内の他のキュー・マネージャーからこのキュー・マネージャーに送信される、パブリッシュ/サブスクライブとは無関係の他のメッセージの送達にも影響が及びます。

システム・アクション

なし

システム・プログラマーの応答

可能な場合は識別された問題を解決するか、IBM サポートに連絡してください。

問題が解決した場合、*task* がコマンドを再試行するのを待機してください。

CSQT988E

csect-name task は、理由 *mqrc (mqrc-text)* のために失敗しました。 *n* 分後に再試行してください。

重大度

4

説明

task で問題が検出されました。これより前に、キュー・マネージャーまたはシステムのエラー・ログで詳細を示すメッセージが発行されている可能性があります。タスクは *n* 分後にコマンドを再試行します。

このタスクは、問題が解決されるまで、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターまたはパブリッシュ/サブスクライブ階層内の親子関係に属する他のキュー・マネージャーに、プロキシ・サブスクリプション・メッセージを送信しません。

プロキシ・サブスクリプションがまだ送信されていないトピックでは、このキュー・マネージャーは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターまたはパブリッシュ/サブスクライブ階層内の親子関係に属する他のキュー・マネージャーからのパブリケーションを受信しません。

システム・アクション

なし

システム・プログラマーの応答

可能な場合は識別された問題を解決するか、IBM サポートに連絡してください。

問題が解決した場合、*task* がコマンドを再試行するのを待機してください。

CSQT989E

csect-name task がメッセージ処理試行中に、理由 *mqrc (mqrc-text)* が *n* 回発生しました

重大度

4

説明

task は、理由 *mqrc (mqrc-text)* のため、現在メッセージを処理できません。*(mqrc-text)* は MQRC をテキスト形式で提供することに注意してください。

タスクはこれを *n* 回検出しました。問題が解決するまで、タスクはコマンドを再試行し続けます。

クラスター内の他のキュー・マネージャーは、プロキシ・サブスクリプションを引き続きこのキュー・マネージャーに送信します。サブスクリプションは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのシステム・キューに累積され、問題が解決されるまで処理されません。

その他のキュー・マネージャーは、プロキシ・サブスクリプションがまだ処理されていないトピックに対するパブリケーションをこのキュー・マネージャーから受け取りません。

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのシステム・キューが満杯になると、チャネル障害が発生する可能性があります。その場合は、クラスター内の他のキュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブの操作に影響が及びます。

さらに、クラスター内の他のキュー・マネージャーからこのキュー・マネージャーに送信される、パブリッシュ/サブスクライブとは無関係の他のメッセージの送達にも影響が及びます。

システム・アクション

なし

システム・プログラマーの応答

可能な場合は識別された問題を解決するか、IBM サポートに連絡してください。

問題が解決した場合、*task* がコマンドを再試行するのを待機してください。

CSQT990E

csect-name task がメッセージ処理試行中に、理由 *mqrc* (*mqrc-text*) が *n* 回発生しました

重大度

4

説明

task は、理由 *mqrc* (*mqrc-text*) のため、現在メッセージを処理できません。*(mqrc-text)* は MQRC をテキスト形式で提供することに注意してください。

タスクはこれを *n* 回検出しました。問題が解決するまで、タスクはコマンドを再試行し続けます。

このタスクは、問題が解決されるまで、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターまたはパブリッシュ/サブスクライブ階層内の親子関係に属する他のキュー・マネージャーに、プロキシー・サブスクリプション・メッセージを送信しません。

プロキシー・サブスクリプションがまだ送信されていないトピックでは、このキュー・マネージャーは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターまたはパブリッシュ/サブスクライブ階層内の親子関係に属する他のキュー・マネージャーからのパブリケーションを受信しません。

システム・アクション

なし

システム・プログラマーの応答

可能な場合は識別された問題を解決するか、IBM サポートに連絡してください。

問題が解決した場合、*task* がコマンドを再試行するのを待機してください。

CSQT991I

csect-name タスクが以前のエラー状態から復旧しました

重大度

0

説明

タスクが以前に報告されたエラー状態から復旧した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQT992E

csect-name task により、送達不能キューにメッセージが書き込まれました。理由 *mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

task は、理由 *mqrc* によりメッセージを送達不能キューにメッセージを書き込んだ (*mqrc-text* はテキスト形式の MQRC)。

task が分散パブリッシュ/サブスクライブのコマンド・タスクである場合、他のキュー・マネージャーは、このメッセージがプロキシー・サブスクリプションの作成を要求しているどのトピックのパブリケーションも、このキュー・マネージャーから受け取らない。

task が分散パブリッシュ/サブスクライブのファンアウト・タスクである場合、このキュー・マネージャーは、このメッセージがプロキシ・サブスクリプションの作成を要求しているどのトピックのパブリケーションも、他のキュー・マネージャーから受け取らない。

システム・プログラマーの応答

メッセージが送達不能キューに書き込まれた理由を判別し、メッセージが宛先に送信されない原因となっている問題を解決する。

task が分散パブリッシュ/サブスクライブのコマンド・タスクまたは分散パブリッシュ/サブスクライブのファンアウト・タスクである場合、問題を解決してから、**REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** コマンドを発行してサブスクリプションの状態を他のキュー・マネージャーと再同期することが必要になる可能性がある。

CSQT996E

csect-name キュー・マネージャー *qmgr-name*、クラスター *cluster_name*、トピック・ストリング *topic-string* において、プロキシ・サブスクリプションの作成に失敗しました。理由=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

理由 *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式の MQRC) のために、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター *cluster_name* におけるトピック *topic-string* へのプロキシ・サブスクリプションをキュー・マネージャー *qmgr-name* で作成できませんでした。プロキシ・サブスクリプション作成の失敗により、キュー・マネージャー *qmgr-name* で行われるトピック *topic-string* へのパブリケーションは、このキュー・マネージャーでのサブスクリプションに送信されません。このキュー・マネージャーもパブリッシュ/サブスクライブ階層のメンバーとして参加している場合、パブリッシュ/サブスクライブ階層の他のメンバーのトピック *topic-string* へのどのサブスクリプションも、キュー・マネージャー *qmgr-name* からのパブリケーションを受け取りません。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー *qmgr-name* に関して示された理由コードの原因を修正します。問題が解決した後、**REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** コマンドをリモート・キュー・マネージャーに対して発行し、サブスクリプションの状態を他のキュー・マネージャーと再同期します。

CSQT997E

csect-name キュー・マネージャー *qmgr-name*、クラスター *cluster_name*、トピック・ストリング *topic-string* においてプロキシ・サブスクリプションの取り消しに失敗しました。理由=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

理由 *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式の MQRC) のために、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター *cluster_name* におけるトピック *topic-string* へのプロキシ・サブスクリプションをキュー・マネージャー *qmgr-name* で取り消すことができませんでした。プロキシ・サブスクリプションの取り消しの失敗により、キュー・マネージャー *qmgr-name* で行われるトピック *topic-string* へのパブリケーションは、このキュー・マネージャーに送信され続けます。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー *qmgr-name* に関して示された理由コードの原因を修正します。問題が解決した後、**REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** コマンドをリモート・キュー・マネージャーに対して発行し、サブスクリプションの状態を他のキュー・マネージャーと再同期します。

CSQT998E

csect-name キュー・マネージャー *qmgr-name*、クラスター *cluster_name* において、プロキシ・サブスクリプション再同期が失敗しました。理由=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

理由 *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式の MQRC) のために、キュー・マネージャー *qmgr-name* は、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター *cluster_name* に属する他のキュー・マネージャーとサブスクリプションの状態を再同期する要求に失敗しました。プロキシ・サブスクリプションが作成されていないトピック・ストリングが存在する可能性があります。キュー・マネージャー *qmgr-name* で行われるこれらのトピックへのパブリケーションは、このキュー・マネージャーのサブスクリプションには送信されません。このキュー・マネージャーもパブリッシュ/サブスクライブ階層のメンバーとして参加している場合、パブリッシュ/サブスクライブ階層の他のメンバーのこのようなトピックへのどのサブスクリプションも、キュー・マネージャー *qmgr-name* からのパブリケーションを受け取りません。プロキシ・サブスクリプションがキュー・マネージャー *qmgr-name* で取り消されていないトピック・ストリングも存在する可能性があります。そのキュー・マネージャーで行われるすべてのパブリケーションは、引き続きこのキュー・マネージャーに送信されます。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー *qmgr-name* に関して示された理由コードの原因を修正します。問題が解決した後、**REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB)** コマンドをリモート・キュー・マネージャーに対して発行し、サブスクリプションの状態を他のキュー・マネージャーと再同期します。

CSQT999E

csect-name タスクは、キュー *queue* で無効なメッセージを検出しました

重大度

4

説明

キュー *queue* は内部キュー・マネージャー・タスク *task* で排他使用され、分散パブリッシュ/サブスクライブ・トポロジーを保守するために使用されます。このタスクはキュー上で無効なメッセージを検出しました。

システム・アクション

メッセージは、そのレポート・オプションに従って処理されます。メッセージが送達不能キューに書き込まれる場合、追加のコンソール・メッセージが出力されることがあります。

さらに、無効なメッセージについての詳細を含む通知 FFST が生成されることもあります。

システム・プログラマーの応答

示されたキューにメッセージを直接書き込むアプリケーションが存在しないことを確認し、キューに書き込まれるシステム・メッセージがメッセージ出口によって変更されないことを確認します。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

ユーティリティー・メッセージ (CSQU...)

CSQU000I

csect-name IBM MQ for z/OS Vn

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部である。

CSQU001I

csect-name キュー・マネージャー・ユーティリティー - *date time*

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部である。

システム・アクション

このメッセージに続いて、SYSIN データ・セットからの機能ステートメントのコピーが表示される。

CSQU002E

サイズが *n* バイトの記憶域を取得できません。戻りコード=*ret-code*

説明

記憶域を取得しようとしたが失敗した。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

CSQUTIL 機能を実行する JCL を実行依頼するときにこのエラーが発生した場合は、JCL の **REGION** サイズ・パラメーターに適切な値を定義したこと、または **REGION** サイズを **0M** に設定したことを確認する。以下に例を示します。

```
//SCOPY EXEC PGM=CSQUTIL,REGION=0M //STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqua1.SCSQANLE  
//DD DISP=SHR,DSN=thlqua1.SCSQAUTH ...
```

REGION パラメーターの設定について詳しくは、[キュー・マネージャー実行中のデータ・セットへのキューのコピー \(COPY\)](#) を参照してください。

「z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書」の該当するボリュームにある、戻りコードに関する情報については、[STORAGE](#) または [GETMAIN](#) 要求を参照してください。

CSQU003E

address の記憶域を解放できません。戻りコード=*ret-code*

説明

アドレス *address* にある記憶域を解放してシステムに戻そうとしたが失敗した。

システム・アクション

プログラムは、通常、このエラーを無視してその機能を続行する。

システム・プログラマーの応答

「z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書」の該当するボリュームにある、戻りコードに関する情報については、[STORAGE](#) または [FREEMAIN](#) 要求を参照してください。

CSQU005I

COMMIT が完了しました。

説明

MQCMIT 呼び出しから完了コード MQCC_OK が戻された。

CSQU006I

BACKOUT が完了しました。

説明

MQBACK 呼び出しから、完了コード MQCC_OK が戻された。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

バックアウトの実行させたエラーの原因を調べる。

CSQU007E

MQCMIT に失敗しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

ユーティリティー・プログラムが、最後の変更をコミットできなかった。

システム・アクション

更新はバックアウトされ、機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU008E

MQBACK に失敗しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

ユーティリティー・プログラムが、最後の変更をバックアウトできなかった。

システム・アクション

なし。バックアウトの原因となったエラーのために、機能はすでに終了している。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU009E

MQCONN が *conn-id* で失敗しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

conn-id という名前のキュー・マネージャーまたはキュー共用グループへの接続が失敗に終わった。

システム・アクション

要求された機能は実行されない。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU010E

MQDISC が *conn-id* で失敗しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

conn-id という名前のキュー・マネージャーまたはキュー共用グループからの切断が失敗に終わった。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。(切断要求は、ユーティリティー・プログラムが処理する最後の機能であるため、これはエラーではない。)

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU011I

CSQINPX からのコマンド - *date time*

説明

これは、ユーティリティー・プログラムの進捗状況を示すメッセージのヘッダーの一部として、メッセージ CSQU000I の後に表示される。

これは、CSQINPX データ・セットを処理する目的でユーティリティーが分散キューイングから呼び出されたときに作成される。

CSQU012I

初期化コマンド処理が完了しました。

説明

CSQINPX コマンド・データ・セットを処理する初期化コマンド・ハンドラーが正常に完了した。

CSQU013E

初期化コマンド処理が失敗しました。RC=return-code

説明

CSQINPX コマンド・データ・セットを処理する初期設定コマンド・ハンドラーが、正常に完了しなかった。return-code は、エラーのタイプを示します。

00000008

一部のコマンドまたはすべてのコマンドが処理されなかった。

0000000C

重大エラー。これは、CSQINPX データ・セットまたは CSQOUTX データ・セットの定義が誤っていたことが原因である可能性が高い。

システム・アクション

初期化コマンド・ハンドラーは終了するが、チャンネル・イニシエーターは続行する。

システム・プログラマーの応答

このエラーの詳細については、CSQOUTX データ・セットおよび前に出されたメッセージを参照。

初期設定コマンド・ハンドラー、および CSQINPX または CSQOUTX データ・セットについて詳しくは、[初期設定および構成ファイル](#)を参照。COMMAND ステートメントについては、[IBM MQ へのコマンドの実行 \(COMMAND\)](#)を参照。

CSQU020E

Unable to OPEN ddname data set

説明

プログラムが、データ・セット ddname をオープンできなかった。

システム・アクション

SYSPRINT または SYSIN データ・セットをオープンできない場合は、ユーティリティー・プログラムは終了する。他のデータ・セットの場合、そのデータ・セットを要求する機能は実行されない。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。データ・セットのレコード長が有効であることを確認する。

CSQU021E

データ・セット ddname には VBS のレコード・フォーマットがありません。

説明

プログラムはデータ・セット ddname をオープンしたが、このデータ・セットには VBS のレコード・フォーマットがない。

システム・アクション

LOAD 入力データ・セットをオープンできない場合、ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されていることと、正しいレコード・フォーマットであることを確認する。

CSQU023E

ddname データ・セットをクローズできません。

説明

入力データ・セット ddname が、そのクローズ要求が行われた後も、オープンされたままになっている。

システム・アクション

プログラムはその終了手順を続行する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQU030E

csect-name データ・セット *ddname* のページ *nn* が無効です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、ページ・セット・データ・セット *ddname* で無効なページを検出した。ページ番号が 0 の場合、そのデータ・セットは、*DD* 名で暗黙に指定されたページ・セットではない可能性がある。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

ページ・セットが破壊されていないか、そのページ・セット番号が *DD* 名に対応しているかどうかを調べる。

CSQU031E

後処理 QMGR または COPY のあるキュー *q-name* は存在しません。

説明

指定されたキューには、後処理 QMGR または COPY を指定したものが存在しない。(後処理 SHARED のキューなどが存在する場合があるが、SCOPY 機能は共用キューでは作動しない。)

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

指定されたキュー名を調べる。

CSQU032E

ページ・セット *psid* は無効です。

説明

ユーティリティー・プログラムは無効なページ・セットを検出した。ページ・セットが矛盾した状態にあるため、スタンドアローン・ユーティリティー機能がこれを処理できない。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

これは、ファジー・バックアップ ([ページ・セットのバックアップおよび回復の方法を参照](#)) を実行したことによる結果であるか、またはキュー・マネージャーが異常終了したことが原因と考えられる。キュー・マネージャーを再始動してから、これを正常に終了する。

CSQU036E

ユーティリティーは使用できません。機能が制限されています。

説明

IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションでは、すべての機能を使用することはできないため、ユーティリティーを実行できない。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

CSQU037I

function は *version* 機能で固定化されました

説明

function によって識別されるユーティリティー機能は、バージョン *version* の機能で固定化された。

システム・アクション

処理は続けられるが、詳細を示す追加のメッセージが出力される場合がある。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティー機能の使用方法を確認する。

CSQU038I

IBM MQ 8.0 から、クライアント・チャンネル定義にはクライアント・マシンで `runmqsc -n` を使用しません。

説明

CSQUTIL の MAKECLNT ユーティリティー機能 (クライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) を生成する) は固定化された。

IBM MQ 8.0 から、代わりに `runmqsc` ユーティリティーをクライアント・マシンで使用して CCDT を生成する。

CSQU040E

`ddname` データ・セットから受信できません。

説明

プログラムが、`ddname` データ・セットからレコードを読み取ることができなかった。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQU043E

`ddname` データ・セットに書き込みできません。

説明

プログラムが、`ddname` データ・セットに次のレコードを書き込むことができなかった。そのデータ・セットがオープンされていなかったか、または QSAM エラーが発生した。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQU044I

ターゲット `qmgr-name` 以外のキュー・マネージャーに対してはコマンドを実行できません。

説明

MAKEDEF、MAKEREP、MAKEALT、または MAKEDEL を使用した COMMAND 機能の DISPLAY オブジェクト・コマンドのいくつかは、CMDSCOPE オプションを使用した。そのため、ターゲット・キュー・マネージャー `qmgr-name` 以外のキュー・マネージャーのオブジェクトについて情報が受信された。コマンドは、このようなオブジェクト用には生成されていない。

システム・プログラマーの応答

MAKEDEF、MAKEREP、MAKEALT、または MAKEDEL オプションとともに CMDSCOPE を使用することを避ける。ターゲット・キュー・マネージャーごとに別個の COMMAND 機能を使用し、生成されたコマンド・セットごとに別個のデータ・セットを使用する。

CSQU045I

n データ・レコードが読み取られました。

説明

これは、現行の機能について DATA キーワードにより指定された入力データ・セットから読み取られたデータ・レコードの数を示す。

CSQU046I

CCSID *ccsid* を使用して *ddname* データ・セットにクライアント・チャンネル定義を作成中です。

説明

これは、COMMAND 機能がクライアント・チャンネル定義をデータ・セット *ddname* に作成すること、およびそのデータのコード化文字セット ID が *ccsid* となることを示す。

CSQU047E

クライアント・チャンネル定義のデータを変換できません。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

クライアント・チャンネル定義ファイルが作成されたときに、キュー・マネージャーで使用された文字セットから、CCSID キーワードで要求された文字セットに、チャンネルまたは認証情報オブジェクトのデータを変換できなかった。

システム・アクション

チャンネルまたは認証情報定義を作成しない。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU048I

n 認証オブジェクトが組み込まれました。*m* が除外されました。

説明

これは、現行の機能について、クライアント・チャンネル定義ファイルに含まれた認証情報のセットの数、および除外された認証情報のセットの数を示す。認証情報は、以下の理由で除外される場合がある。

- LDAPUSER および LDAPPWD 属性がブランクではない。
- 情報のセットが多すぎる。
- データ変換エラーがある。

システム・プログラマーの応答

情報の一部が除外された場合、認証情報オブジェクトが正しく選択されたことを確認する。

CSQU049I

n クライアント・チャンネル定義が作成されました。

説明

これは、現行の機能により作成されたクライアント・チャンネル定義の数を示す。

CSQU050E

長さ *length* のコマンドは長すぎます。コマンドは拒否されました。

説明

COMMAND 機能において、アSEMBルされたコマンドが 32 762 文字を超えている。

システム・アクション

コマンドは無視され、コマンドはそれ以上処理されない。

システム・プログラマーの応答

コマンドが連結ルールに従った正しい書式になっていることを確認する。

CSQU051E

コマンドへの応答が n 秒以内に受信されませんでした。

説明

COMMAND 機能において、さらに応答が予期されているときに、応答を入手する処理がタイムアウトになった。

システム・アクション

これまでに起こったタイムアウトの回数が多すぎない限り、次のコマンドが処理される。

システム・プログラマーの応答

特にコマンドがリモート・キュー・マネージャーに送信中の場合、RESPTIME の値を増やし、さらにリモート・キューの定義を調べる。

問題が続く場合、システム・コマンド入力キューの定義とシステム・コマンド応答キューの定義を調べる。MQGET および MQPUT で必ず使用可能にする。定義が正しい場合には、コマンド・サーバーを停止してから再始動する。

CSQU052E

タイムアウトが多すぎます。

説明

COMMAND 機能において、応答を入手する処理が 4 回タイムアウトになった。

システム・アクション

コマンドはそれ以上処理されない。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU051E を参照。

CSQU053E

DISPLAY コマンドの応答が認識されません

説明

COMMAND 機能において、DISPLAY コマンドに対する応答が予期されたものではなかった。

システム・アクション

DISPLAY コマンド応答は、フォーマットされずに、そのまま表示される。次のコマンドが処理される。

システム・プログラマーの応答

使用したロード・ライブラリーが、使用しているキュー・マネージャーと整合していることを確認する。

IBM サポートに連絡して問題を報告する。

CSQU054I

オブジェクト・タイプ *objtyp* の function を実行中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、機能 *function* を実行し、指示されたタイプのオブジェクトを処理している。

CSQU055I

宛先キュー・マネージャーは *qmgr-name* です。

説明

これは、コマンドの送信先となるキュー・マネージャーを示す。

CSQU056I

コマンドを *ddname* データ・セットに作成中です。

説明

これは、MAKEDEF、MAKEREP、MAKEALT、または MAKEDEL を使用した COMMAND 機能、または SDEFS 機能のコマンドがデータ・セット *ddname* に作成されることを示す。

CSQU057I

n コマンドが読み取られました。

説明

これは、現行の機能によってコマンド入力データ・セットから読み取られたコマンドの数を示す。

CSQU058I

n コマンドが発行され、応答を受信しました。 *m* が失敗しました。

説明

これは、現行の機能について、送信されて応答があったコマンドの数、および正常に実行されなかったコマンドの数を示す。

CSQU059I

n cmd コマンドが作成されました。

説明

これは、現行の機能について作成されたコマンド (*cmd* と呼ばれる) の数を示す。

CSQU060E

メッセージ *msg-no* のデータ長が間違っています。 *act-length* バイトが見つかりましたが、 *exp-length* バイトが予期されていました。

重大度

8

説明

処理されているキューに対して、LOAD 関数または SLOAD 関数でメッセージ番号 *msg-no* のレコードを読み取ろうとしたときに、実際のレコード長が予期していたレコード長と異なっていることが判明した。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

データ・セットが COPY 関数によって作成されたことを確認する。

CSQU061E

メッセージ *msg-no* の *in-ddname* データ・セットへのアクセス中にエラーが発生しました。理由 =*reason-code*。

説明

LOAD、SLOAD、または ANALYZE の各関数を実行して、処理中のキューのメッセージ *msg-no* を読み取ろうとしたときに、エラーが検出された。理由コードは、以下の特定のエラーを示している。

4

データ・セット内の最初のレコードがキューを示していない

8

予期しないファイルの終わりを検出した

12

レコード・タイプが不明である

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

そのデータ・セットが COPY 機能によって作成されたものであり、壊れていないことを確認する。

CSQU062E

データ・レコードの形式が無効です。

説明

LOAD 機能において、ユーティリティー・プログラムが、入力データ・セットからの読み取り中に、認識されないレコードを検出した。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

そのデータ・セットが COPY 機能によって作成されたものであり、壊れていないことを確認する。

CSQU063E

in-ddname データ・セットは空です

重大度

8

説明

LOAD、SLOAD、または ANALYZE の関数の実行時に、入力データ・セット (DDname *in-ddname*) が空だった。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

データ・セットが COPY 関数によって正常に作成されたことを確認する。

CSQU070I

コマンドの処理が停止しました。

説明

COMMAND 機能に、FAILURE (STOP) が指定されたので、コマンドが正常に実行されなかった。

システム・アクション

コマンドはそれ以上処理されない。

CSQU071E

Incomplete command

説明

COMMAND 機能において、コマンドの作成が完了する前に入力データ・セット上のデータの終わりに達した。

システム・アクション

コマンドは無視される。処理すべきコマンドはそれ以上ない。

システム・プログラマーの応答

コマンドが連結ルールに従った正しい書式になっていることを確認する。

CSQU080E

MQCLOSE がキュー *q-name* で失敗しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

q-name に対する MQCLOSE 呼び出しが失敗に終わった。これがシステム・コマンドの入力キューに対するもので、COMMAND 機能を使用中の場合は、ターゲット・キュー・マネージャーが使用中であることを示すメッセージ CSQU055I が続いて出される。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU082E

MQGET がキュー *q-name* で失敗しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

q-name に対する MQGET 呼び出しが失敗に終わった。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU083E

MQOPEN がキュー *q-name* で失敗しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

q-name に対する MQOPEN 呼び出しが失敗に終わった。このキューがモデル・キューの場合、要求された動的キューの名前に括弧が付けられる。これがシステム・コマンドの入力キューに対するもので、COMMAND 機能を使用中の場合は、ターゲット・キュー・マネージャーが使用中であることを示すメッセージ CSQU055I が続いて出される。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU085E

MQPUT がキュー *q-name* で失敗しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

q-name に対する MQPUT 呼び出しが失敗に終わった。これがシステム・コマンドの入力キューに対するもので、COMMAND 機能を使用中の場合は、ターゲット・キュー・マネージャーが使用中であることを示すメッセージ CSQU055I が続いて出される。

システム・アクション

機能は終了し、キューの更新はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU087I

MAXUMSGS に達しました。同期点が強制実行されました。

説明

MAXUMSGS に達したため、これまでに行われたキューの変更をコミットする同期点がとられた。

システム・アクション

この機能は続行されるが、それ以上の機能は処理されない。

システム・プログラマーの応答

このメッセージの後でこの機能が何らかの理由で失敗しない限り、何の処置も取られない。失敗した場合は、一部のキュー変更がコミットされるので、ジョブを再実行する前に、適切な調整を行わなければならない。

CSQU090E

ddname データ・セットで OPEN が失敗しました。VSAM 戻りコード=*rc* 理由コード=*reason*

説明

ユーティリティー・プログラムが、処理しようとしていたページ・セット (*ddname* で示される) に関する VSAM OPEN エラーを受け取った。

システム・アクション

そのページ・セットは、処理されない。

システム・プログラマーの応答

VSAM からの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU091E

ddname データ・セットが空でない。ページ・セットはフォーマットされません。

説明

データ・セット *ddname* がオープンされたが、空ではない。

システム・アクション

そのページ・セットはフォーマットされない。

システム・プログラマーの応答

指定するデータ・セットを必ず空にし、必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU092I

ddname データ・セットの *function* が完了しました。

説明

function 機能による *ddname* データ・セットの処理が完了した。

システム・アクション

次のページ・セットを用いて処理が続けられる。

CSQU093E

ddname データ・セットで PUT が失敗しました。VSAM 戻りコード=*rc* 理由コード=*code*

説明

ユーティリティー・プログラムが、処理しようとしていた (*ddname* で示される) ページ・セットに関する VSAM PUT エラーを受け取った。

システム・アクション

このページ・セットの処理は終了し、機能は次のページ・セットを用いて処理を続ける。

システム・プログラマーの応答

VSAM からの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU094E

ddname データ・セットで CLOSE が失敗しました。VSAM 戻りコード=*rc* 理由コード=*reason*

説明

ユーティリティー・プログラムが、処理しようとしていた (*ddname* で示される) ページ・セットに関する VSAM CLOSE エラーを受け取った。

システム・アクション

このページ・セットの処理は終了し、機能は次のページ・セットを用いて処理を続ける。

システム・プログラマーの応答

VSAM からの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU095E

ページ・セットが認識されていません。 *function* は終了しました。

説明

CSQP0000 から CSQP0099 の DD 名が付いたページ・セット・データ・セットがなかったため、ページ・セットのフォーマット要求または再設定要求が失敗した。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

必要なページ・セット・データ・セットに対する DD ステートメントを追加し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU096I

csect-name FORMAT TYPE(*type*) がページ・セット *psid* でスキップされました

説明

ページ・セット *psid* のフォーマット設定の *type* は、許可されていないため、スキップされた。

ページ・セット 0 の場合は、FORMAT TYPE(REINTRODUCE) は許可されない。その他の値の場合は、問題について説明したメッセージがこの前に発行される。

システム・アクション

このページ・セットはスキップされるが、FORMAT 処理は次のページ・セットから続行される。

システム・プログラマーの応答

必要であれば、START QMGR BACKMIG コマンドを使用してページ・セット 0 をマイグレーションする (この操作が許可されている場合)。必要に応じて、これより前のメッセージを調べる。

CSQU097E

csect-name FORMAT TYPE(*type*) TARGVER(*target-vrm*) がページ・セット *psid* で失敗しました。ページ・セットは *old-vrm* で最後に使用されました

説明

FORMAT コマンドを使用して、バージョン *target-vrm* のページ・セット *psid* を再導入しようとした。このページ・セットはバージョン *old-vrm* で最後に使用され、このマイグレーションはユーティリティーでサポートされていない。サポートされる変換について詳しくは、[FORMAT](#) を参照してください。

システム・アクション

このページ・セットはスキップされるが、FORMAT 処理は次のページ・セットから続行される。

システム・プログラマーの応答

正しいバージョンのユーティリティーがサポートされている場合は、それを使用する。そうでない場合は、*target-vrm* バージョンのユーティリティーを使用して、FORMAT TYPE(NEW) または FORMAT TYPE(RECOVER) によってページ・セットを追加できる可能性がある。

CSQU100E

ddname DD ステートメントがありません。

説明

データ・セット *ddname* に対する DD ステートメントが、JCL に含まれていない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

必要なステートメントを JCL に追加し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU101E

DD ステートメントでページ・セット *psid* が欠落しています。

説明

ページ・セットには参照できるが、JCL にそれに対する DD ステートメントがない。必要な DD 名は CSQP00*nn* であり、この *nn* はページ・セット番号である。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

必要なステートメントを JCL に追加し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU102E

機能が要求されませんでした。

説明

SYSIN データ・セットに機能ステートメントが 1 つも含まれていない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

CSQU103E

キーワード *keyword1* または *keyword2* のいずれかを指定する必要があります。

説明

キーワード *keyword1* または *keyword2* を指定する必要があるが、どちらも指定されていないため、ステートメントの構文が正しくない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べた後、ジョブを再実行依頼する。

CSQU104E

キーワード *keyword* の値 *value* が無効です。

説明

キーワード *keyword* に指定された値が無効であるため、ステートメントの構文が正しくない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べ、ジョブを再実行依頼する。

CSQU105E

機能 *function* のキーワードまたは値に互換性がありません。

説明

指定したキーワードまたはその値が別のキーワードまたはその値と競合するため、ステートメントの構文が正しくない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べ、ジョブを再実行依頼する。

CSQU106E

機能 *function* が無効です。

説明

機能 *function* が認識不能なために、ステートメントの構文が正しくない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照して、有効な機能のリストを確認した後、ジョブを再実行依頼する。

CSQU107E

function ステートメント構文が無効です。

説明

function ステートメントの構文が正しくない。

- キーワードまたは値が多すぎる。
- 必須キーワードが欠落している。
- 解析できない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べ、ジョブを再実行依頼する。

CSQU108E

キーワード *keyword* の値が欠落しています。

説明

キーワード *keyword* の後に値が必要であるが、それが欠落している。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べ、ジョブを再実行依頼する。

CSQU109E

キーワード *keyword* の値は許可されていません。

説明

キーワード *keyword* の後に値は不要であるのに、それが指定された。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ステートメントに必要な正しい構文について z/OS の構成 を参照し、ジョブを再実行依頼してください。

CSQU110E

必須キーワードがキーワード *keyword* がありません。

説明

キーワード *keyword* は他の特定のキーワードも指定される場合にのみ指定できるが、その特定のキーワードが欠落しているため、ステートメントの構文は正しくない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

MQSC コマンド を参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べた後、ジョブを再実行依頼する。

CSQU111E

機能 *function* のキーワード *keyword* が無効です。

説明

機能 *function* に対するキーワード *keyword* が無効であるため、ステートメントの構文が正しくない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

MQSC コマンド を参照して、このステートメントに必要な正しい構文について調べ、ジョブを再実行依頼する。

CSQU112E

Incomplete statement

説明

ステートメントの作成が完了する前に、入力データ・セット上のデータの終わりに達した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ステートメントが連結ルールに従った正しい書式になっていることを確認する。

CSQU113E

ステートメントが連続しすぎています。

説明

ステートメントの連結が 10 を超えている。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ステートメントが連結ルールに従った正しい書式になっていることを確認する。

CSQU114E

キーワード *keyword* が繰り返されました。

説明

キーワードが繰り返されているので、ステートメントの構文は正しくない。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

入力データ・セットの構文を調べる。 [CSQUTIL](#) を参照し、ユーティリティ・プログラムについての詳細情報を確認する。

CSQU115E

ページ・セット *psid* のキューが見つかりません。コマンドの応答が受信されていません。

説明

COPY または EMPTY 機能において、コマンドへの応答が時間内に受信されなかったために、どのキューがページ・セット *psid* にあるかをキュー・マネージャーが判別できなかった。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

システム・コマンド入力キューの定義とシステム・コマンド応答キューの定義を調べる。MQGET および MQPUT で必ず使用可能にする。定義が正しい場合には、コマンド・サーバーを停止してから再始動する。

CSQU116I

ページ・セット *psid* の記憶域クラスが見つかりません。

説明

指定されたページ・セットには、ストレージ・クラスが関連付けられていない。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

そのページ・セットにストレージ・クラスを定義し、必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU117I

ページ・セット *psid* のキューが見つかりません。

説明

指定されたページ・セットに、要求された機能の実行対象となるキューが関連付けられていない。例えば、COPY 機能および EMPTY 機能の場合にはローカル・キューがない。SCOPY 機能の場合にはメッセージの入っているローカル・キューがない。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

必要な場合には、指定されたページ・セットを訂正して、ジョブを再実行する。

CSQU120I

conn-id に接続中です。

説明

ユーティリティ・プログラムは、指定されたキュー・マネージャーまたはキュー共有グループに接続中である。

CSQU121I

キュー・マネージャー *qmgr-name* に接続されました。

説明

ユーティリティー・プログラムは、キュー・マネージャー *qmgr-name* に正常に接続された。

CSQU122I

function-name を実行中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、機能 *function-name* を実行しているところである。

CSQU123I

ddname データ・セットを処理中。モード FORCE

説明

現行の機能が、FORCE オプションを使用してデータ・セット *ddname* を処理している。

CSQU124I

データ・セット *ddname* を処理中です。

説明

ユーティリティー・プログラムの現行の機能が、データ・セット *ddname* を処理している。

CSQU125I

n ページ・セットが試行されました。

説明

これは、現行の機能が処理しようとしたページ・セットの数を示す。

CSQU126I

n ページ・セットが正常に処理されました。

説明

これは、現行の機能によって正常に処理されたページ・セットの数を示す。

CSQU127I

ddname データ・セットからの入力を使用して *function* を実行中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、*ddname* からの入力を使用して機能 *function* を実行しているところである。

CSQU128I

ddname データ・セットに出力する *function* を実行中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、機能 *function* を実行し、出力を *ddname* に書き出しているところである。

CSQU129I

ページ・セット *psid* をコピー中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、ページ・セット *psid* をコピーしているところである。

CSQU130I

キュー *q-name* をコピー中です。

説明

ユーティリティー・プログラムは、キュー *q-name* をコピーしているところである。

CSQU131I

n メッセージが正しくコピーされました。

説明

これは、キューをコピーするときに正常にコピーされたメッセージの数を示す。

CSQU133I

n キューが試行されました。

説明

これは、ページ・セットをコピーするときにプログラムがコピーしようとしたキューの数を示す。

CSQU134I

n キューが正常にコピーされました。

説明

これは、ページ・セットをコピーするときに正常にコピーされたキューの数を示す。

CSQU135I

キュー *sourceq* を *targetq* にロード中です。

重大度

0

説明

LOAD 関数または SLOAD 関数の実行時に、ロードされているターゲット・キューの名前と、メッセージのコピー元の入力データ・セット上のキューの名前を示している。

CSQU136I

msg-count メッセージ (*msg-from-msg-to*) がロードされました (合計サイズ *text-length*)。

重大度

0

説明

LOAD 関数または SLOAD 関数を実行している場合、このエラー・コードは、多くのメッセージが入力データ・セットからターゲット・キューに正常にロードされたことを示している。

- *msg-count* は、ロードされたメッセージの数である。
- *msg-from-msg-to* は、入力データ・セット上のキューのメッセージにおけるメッセージ番号範囲である。
- *text-length* は、ロードされたメッセージ・テキストの合計長 (MB 単位または KB 単位) である。

CSQU137I

キュー *q-name* をスキップ中です。

説明

このメッセージは、LOAD 機能に指定された SKIPQS または FROMQ オプションのためにキュー *q-name* がバイパスされていることを示す。

CSQU138I

n キューが正常にロードされました。

説明

これは、正常にロードされたキューの数を示す。

CSQU139I

ページ・セット *psid* を空にしています。

説明

ユーティリティー・プログラムは、ページ・セット *psid* を空にしているところである。

CSQU140I

キュー *q-name* を空にしています。

説明

ユーティリティー・プログラムは、キュー *q-name* を空にしているところである。

CSQU141I

n メッセージが正常に削除されました。

説明

これは、キューを空にするときに削除されたメッセージの数を示す。

CSQU142I

n キューが正常に空にされました。

説明

これは、空にされたキューの数を示す。

CSQU143I

n function ステートメントが試行されました。

説明

これは、ユーティリティー・プログラムにより試行された *function* ステートメントの数を示す。

CSQU144I

n function ステートメントが正常に実行されました。

説明

これは、ユーティリティー・プログラムにより正常に実行された *function* ステートメントの数を示す。

CSQU145I

function ステートメントが失敗しました。

説明

ユーティリティー・プログラムが、機能 *function* を実行中にエラーを検出した。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

ほかのメッセージを調べ、エラーが発生した場所と原因を判別する。

CSQU146I

msg-count 個のメッセージ (*msg-from-msg-to*) がスキップされました (合計サイズ *text-length*)。理由 =*reason-code*。

重大度

0

説明

LOAD 関数または SLOAD 関数を実行している場合に、入力データ・セットからの多くのメッセージが無視されたことを示している。

- *msg-count* は、無視されたメッセージの数である。
- *msg-from-msg-to* は、入力データ・セット上のキューのメッセージにおけるメッセージ番号範囲である。
- *text-length* は、無視されたメッセージ・テキストの合計長 (MB 単位または KB 単位) である。

理由コードは、メッセージが無視された理由を示している。

4

メッセージは、LOAD コマンドまたは SLOAD コマンドの *skipmsgs* パラメーターによりスキップされた。

8

メッセージは、MQPUT エラーによりスキップされた。

12

メッセージは MQOPEN でのエラーによりスキップされた。

16

メッセージは、同期点のすぐ後の MQPUT エラーによりスキップされた。

20

メッセージは、MQCLOSE でのエラーによりスキップされた。

24

メッセージは、同期点を取る際にエラーによりスキップされた。

28

メッセージは、(LOAD コマンドまたは SLOAD コマンドの) MSGCOUNT 制限 に達したためにスキップされた。

CSQU147I

csect-name ユーティリティが終了しました。戻りコード = *ret-code*

説明

それ以上の機能を実行してはならないことを意味する重大エラーまたは強制同期点が発生したことにより、ユーティリティが終了した。 *ret-code* は、ユーティリティからの戻りコードである。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

922 ページの『IBM MQ for z/OS コード』を参照し、ユーティリティからの戻りコードについて確認する。

CSQU148I

csect-name ユーティリティが完了しました。戻りコード = *ret-code*

説明

ユーティリティは完了し、必要な機能はすべて試行された。 *ret-code* は、ユーティリティからの戻りコードである。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

失敗した機能がないかを調べる。

CSQU150I

データ・セット *ddname1* からデータ・セット *ddname2* への *function* が完了しました。

説明

データ・セット *ddname1* の処理が完了し、*ddname2* に出力された。

システム・アクション

次のページ・セットを用いて処理が続けられる。

CSQU151I

一致する CSQSnnnn および CSQTnnnn DD ステートメントがない。 *function* は終了しました。

説明

COPYPAGE または RESETPAGE 機能が失敗に終わった。 CSQS0000 から CSQS0099 までの名前と CSQT0000 から CSQT0099 までの名前をもつ、一致するペアのページ・セット・データ・セットがなかったためである。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

必要なページ・セット・データ・セットに対する DD ステートメントを追加し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU152I

ddname1 DD ステートメントがありません。 *ddname2* データ・セットについてアクションはとられません。

説明

ページ・セット・データ・セットのソース/ターゲットの対 (CSQSnnnn および CSQTnnnn) の一方だけしか指定されなかった。

システム・アクション

機能は処理を続ける。

システム・プログラマーの応答

必要なページ・セット・データ・セットに対する DD ステートメントを追加し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU154E

ターゲット・データ・セット *ddname* がソース・データ・セットよりも小さいです。機能は終了しました。

説明

COPYPAGE または RESETPAGE 機能がページ・セット・データ・セットを処理できなかった。ターゲット・データ・セット *ddname* が小さすぎたためである。

システム・アクション

次のページ・セットを用いて処理が続けられる。

CSQU155I

キュー *queue-name* を処理中です。

重大度

0

説明

ANALYZE 関数を実行している場合は、入力データ・セットからのキュー *queue-name* の処理の開始を示している。

CSQU156E

データ・セット *ddname* で GET が失敗しました。VSAM 戻りコード=*rc* 理由コード=*code*

説明

ユーティリティー・プログラムが、処理しようとしていたページ・セット (*ddname*) に関する VSAM GET エラーを受け取った。

システム・アクション

このページ・セットの処理は終了し、機能は次のページ・セットを用いて処理を続ける。

システム・プログラマーの応答

VSAM からの戻りコードと理由コードについては、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU157I

データ・セット *ddname1* を *ddname2* へ処理中です。

説明

現行の機能は、*ddname2* に出力しながら、データ・セット *ddname1* を処理しているところである。

CSQU158E

宛先データ・セット *ddname2* は新規にフォーマットされていません。

説明

COPYPAGE および RESETPAGE 機能は、新規にフォーマットされたターゲット・ページ・セット以外では使用できない。

システム・アクション

次のページ・セットを用いて処理が続けられる。

システム・プログラマーの応答

有効なターゲット・ページ・セットを指定し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU159E

ソース・データ・セット *ddname1* はページ・セットではありません。

説明

CSQUTIL の COPYPAGE 機能または RESETPAGE 機能は、データ・セットを IBM MQ ページ・セットとして認識することができなかった。この原因として、データ・セットが無効であるか、バックレベル・バージョンの IBM MQ ライブラリーが使用されている可能性がある。

システム・アクション

次のページ・セットを用いて処理が続けられる。

システム・プログラマーの応答

データ・セットが有効な IBM MQ ページ・セットであることを確認する。

使用されている IBM MQ ライブラリーが、キュー・マネージャーで使用されているライブラリーと同じであることを確認する。

CSQU160E

データ・セット *ddname* は機能と一緒に使用できません。

説明

この機能は、正常に終了したキュー・マネージャーのページ・セットでしか使用できない。

システム・アクション

次のページ・セットを用いて処理が続けられる。

システム・プログラマーの応答

有効なページ・セットを指定して、ジョブの再実行を要求する。

CSQU161I

ddname には *pp* ページあり、ページ・セット *nn* としてフォーマットされました。

説明

これは、データ・セット *ddname* の PAGEINFO 機能に対する応答の一部である。

ページ・セットのサイズと、フォーマットされたときに予想されたページ・セット番号を示している。この番号は、フォーマット時に使用された DD 名からのものである (つまり CSQP00*nn*)。

CSQU162I

ddname は、キュー・マネージャー *qmgr-name* 用のページ・セット *psid* として使用されています。

説明

これは、データ・セット *ddname* の PAGEINFO 機能に対する応答の一部である。

このページ・セットは、示されているキュー・マネージャーによって使用されている。メッセージ CSQU161I に示されているように、ページ・セット番号は、必ずしもフォーマットされたときの番号と同じであるわけではない。

CSQU163I

ddname にはページ・セット回復 RBA = *rba* があります。

説明

これは、データ・セット *ddname* の PAGEINFO 機能に対する応答の一部である。

CSQU164I

ddname すべてのページ・セットでシステム回復 RBA = *rba* が正常に処理されました。

説明

これは、PAGEINFO 機能に対する応答の一部である。この RBA は、これらの処理されるページ・セットにのみ関連付けられる。キュー・マネージャーのすべてのページ・セットが含まれるのでない限り、キュー・マネージャー全体に関連付けられることはない。

CSQU165I

ddname データ・セットを処理しています。TYPE(*type*)

説明

ユーティリティー・プログラムの現行の機能が、示されたオプションを使用してデータ・セット *ddname* を処理している。

CSQU166I

ddname データ・セットを処理しています。TYPE(*type*) モード FORCE

説明

ユーティリティー・プログラムの現行の機能が、示されたオプションを使用してデータ・セット *ddname* を処理している。

CSQU167I

ddname はキュー・マネージャーによって初期化されていません。

説明

これは、データ・セット *ddname* の PAGEINFO 機能に対する応答の一部である。

CSQU168E

要求されたページ・セットは、複数のキュー・マネージャー用です。

説明

情報を要求したページ・セットが複数のキュー・マネージャーに関連付けられている。そのため、システム回復 RBA を判別することができない。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

1つのキュー・マネージャーにページ・セットのセットを指定し、ジョブを再サブミットする。

CSQU169E

メッセージ *msg-no* の MQPUT に失敗しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

LOAD 関数または SLOAD 関数の実行時に、入力データで現在処理中のキューにあるメッセージ番号 *msg-no* の MQPUT に失敗した。*mqcc* および *mqrc* が、この失敗の理由を示しています (*mqrc-text* は MQRC をテキスト形式で提供)。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

メッセージ内の MQ 完了コードおよび理由コードを使用して、エラーの原因を判別し、問題を修正する。LOAD または SLOAD を再実行し、エラー発生時点で処理中だったキューから再開する。失敗する前に入力キューから正常にロードされたメッセージがある場合は、LOAD コマンドまたは SLOAD コマンドで SKIPMSGS パラメーターを使用して、そのメッセージをバイパスする。

CSQU170I

msg-count 個のメッセージ (*msg-from-msg-to*) が見つかりました (合計サイズ *text-length*)

重大度

0

説明

ANALYZE 関数の実行時に、入力データ・セットからの処理中のキューに対して、このメッセージが表示される。メッセージ数およびメッセージ・テキストの合計長が表示される。

CSQU171E

入力データ・セットにキュー *queue-name* は見つかりませんでした

重大度

8

説明

実行中の LOAD 関数または SLOAD 関数で、*queue-name* の送信元キュー名が指定されたが、それは入力データ・セットで見つからなかった。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

正しい入力ファイルを指定し、コマンド内のキュー名を修正して再試行する。

CSQU172I

データ・セット *ddname* に対して *function-name* を処理しています。 *total-pages* ページのうち *current-page* が処理されました。 *percentage%* が完了しました。

説明

ページ・セットを処理するための CSQUTIL 関数が長時間にわたって実行されている場合は、このメッセージが定期的に出され、これまでに処理されたページ数を示します。

CSQU179E

チャンネル・イニシエーターがアクティブではないために、伝送キューを切り替えることができません

重大度

8

説明

ユーティリティ・プログラムは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルにおいて、チャンネル・イニシエーターがアクティブではないため、伝送キューの切り替えを開始できませんでした。

システム・アクション

処理を続けますが、影響を受けるチャンネルの伝送キューは切り替えられません。

システム・プログラマーの応答

チャンネル・イニシエーターを開始してから、チャンネルを再始動するか、伝送キューの切り替えを開始するコマンドを再実行します。

Deprecated CSQU180E

csect-name モジュール *module-name* をロードできません。理由 = *ssssrrrr*

説明

ユーティリティー・プログラムが、要求されたチャンネル・イニシエーター・パラメーター・モジュールをロードできなかった。ssss は完了コード、rrrr は z/OS LOAD サービスからの理由コードである (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

XPARM 機能で指定されたメンバー名を調べて、DDNAME キーワードによって指定されたモジュールがライブラリーに存在するようにする。

Deprecated **CSQU181E**

csect-name module-name は無効なチャンネル・イニシエーター・パラメーター・モジュールです。

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーター・パラメーターに指定されたモジュールが、正しい形式でない。

システム・アクション

この機能は終了する。

システム・プログラマーの応答

XPARM 機能で指定されたメンバー名を確認する。

CSQU182E

チャンネルのリストを取得中にエラーが発生しました。理由 *mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

ユーティリティー・プログラムが、処理対象となるチャンネルのリストを識別できませんでした。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用してエラーを特定して解決し、必要に応じてコマンドを再実行してください。

mqrc の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)。

CSQU183I

チャンネル *channel-name*

重大度

0

説明

ユーティリティー・プログラムは、*channel-name* という名前のチャンネルの要求された機能を処理しています。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

後続メッセージを調べて、要求された機能が正常に処理されたかどうかを判別する。

CSQU184I

n 個のチャンネルが処理されました

重大度

0

説明

このメッセージは、要求された機能によって処理されたチャンネルの数を示している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU185I

このチャンネルでは、伝送キューの切り替えは必要ありません

重大度

0

説明

このメッセージは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルについて、伝送キューの切り替えが必要ないことを示します。これは、現在構成されている伝送キューをチャンネルが使用することを示しています。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU186I

このチャンネルの伝送キューの切り替えは保留中です

重大度

0

説明

このメッセージは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルについて、伝送キューの切り替えが保留中であることを示します。これは、チャンネルが最後に開始された後に、**DEFCLXQ** キュー・マネージャー属性が更新されたか、伝送キューの **CLCHNAME** 属性の値が変更されたために、チャンネル用に構成された伝送キューが変更されたことを示します。

伝送キューの切り替えは、チャンネルが開始される次の機会か、CSQUTIL 関数 **SWITCH CHANNEL** を使用して切り替えが開始される場合に行われます。

切り替え操作が以前に開始されていたものの、メッセージが古い伝送キューから新しい伝送キューに移動されている間にキュー・マネージャーが停止した場合にも、その操作は保留中として報告されます。切り替え操作を再開するには、チャンネルを開始するか、CSQUTIL を使用して切り替えを開始します。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU187I

このチャンネルの伝送キューの切り替えが進行中です

重大度

0

説明

このメッセージは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルについて、伝送キューの切り替えが進行中であることを示します。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーによって出されるコンソール・メッセージを使用して、必要に応じて切り替え操作の状況を判別してください。

CSQU188I

伝送キュー *xmit-qname* から

重大度

0

説明

このメッセージは、CSQU186I、CSQU187I、および CSQU195I などの他のメッセージとともに出される。チャンネルが切り替え中または切り替える元の伝送キューの名前を識別している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU189I

伝送キュー *xmit-qname* へ

重大度

0

説明

このメッセージは、CSQU186I、CSQU187I、および CSQU195I などの他のメッセージとともに出される。チャンネルが切り替え中または切り替える先の伝送キューの名前を識別している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU190I

xmitq-name のこのチャンネルについて、*num-msgs* 個のメッセージがキューに入れられています

重大度

0

説明

このメッセージは CSQU186I とともに出され、伝送キュー *xmitq-name* のチャンネルにおいて、現在 *num-msgs* 個のメッセージがキューに入れられており、伝送キューが切り替えられたときに移動する必要があることを示します。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU191E

伝送キュー *xmitq-name* にアクセスできません。理由 *mqrc (mqrc-text)*

重大度

8

説明

このメッセージは、現在チャンネルによって使用されている伝送キュー *xmitq-name* に、理由 *mqrc (mqrc-text)* はテキスト形式の MQRC) のためにアクセスできない場合に、CSQU186I とともに出されます。この伝送キューは、チャンネルのメッセージを新しい伝送キューに移動するためにアクセス可能でなければなりません。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用してエラーを特定して解決し、必要に応じてコマンドを再実行してください。

mqrc の詳細については、1129 ページの『API 完了コードと理由コード』を参照してください (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)。

または、CSQUTIL 関数 **SWITCH CHANNEL** に **MOVEMSGS(NO)** オプションを指定して実行し、メッセージを移動せずに伝送キューを切り替えます。このオプションが選択された場合、切り替えが完了した後、伝送キュー *xmitq-name* のチャンネルのすべてのメッセージを解決するのは、システム・プログラマーの責任になります。

CSQU192E

このチャンネルの状況は利用不可です。理由 *mqrc (mqrc-text)*

重大度

8

説明

ユーティリティー・プログラムは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルの現在の状況を識別して伝送キューの切り替えが保留中と進行中のどちらであるかを判別することができませんでした。

システム・アクション

処理を続けますが、切り替えが要求されていた場合、影響を受けるチャンネルの伝送キューは切り替えられません。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用してエラーを特定して解決し、必要に応じてコマンドを再実行してください。

mqrc の詳細については、1129 ページの『API 完了コードと理由コード』を参照してください (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)。

CSQU193E

チャンネルがアクティブであるために、伝送キューを切り替えることができません

重大度

8

説明

ユーティリティー・プログラムは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルにおいて、チャンネル状況が **STOPPED** でも **INACTIVE** でもないために、伝送キューの切り替えを開始できませんでした。

クラスター送信側チャンネルが **STOPPED** 状況を示しているにもかかわらずメッセージ CSQU193E が引き続き報告される場合は、チャンネルが直ちに停止できません。STOP CHANNEL *channel-name* を要求している間にメッセージの再割り振りが発生しています。

チャンネルはメッセージの再割り振りを続行し、このプロセスが完了するとチャンネルが停止します。このチャンネルに割り当てられたキュー上のメッセージが多い場合は、このプロセスに時間がかかることがあります。

メッセージ再割り振りが完了するまで十分な時間をかけて待った後、伝送キューを切り替えてください。

システム・アクション

処理を続けますが、影響を受けるチャンネルの伝送キューは切り替えられません。

システム・プログラマーの応答

まずチャンネルを停止し、チャンネルを再始動するか、伝送キューの切り替えを開始するコマンドを再実行します。

CSQU194E

伝送キューの切り替えが失敗しました。理由 *mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

ユーティリティー・プログラムは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルにおいて、伝送キューを切り替えることができませんでした。

システム・アクション

処理を続けますが、影響を受けるチャンネルの伝送キューは切り替えられません。

システム・プログラマーの応答

理由コードを使用してエラーを特定して解決し、必要に応じてコマンドを再実行してください。

mqrc の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)。

CSQU195I

このチャンネルの伝送キューを切り替えています

重大度

0

説明

伝送キューの切り替えが、前の CSQU183I メッセージで識別されたチャンネルに対して開始された。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

後続メッセージを使用して、伝送キューの切り替えが正常に完了したかどうかを判別する。

CSQU196I

このチャンネルのメッセージを移動中 - *num-msgs* 個のメッセージを移動しました

重大度

0

説明

伝送キューの切り替えでは、1つのチャンネルのメッセージを古い伝送キューから新しい伝送キューに移動する必要があります。このメッセージは、伝送キューの切り替え操作中に、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルについて、この操作の進行状況について報告するために定期的に出されます。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージが繰り返し出される場合、古い伝送キューがこのチャンネルのメッセージを移動し切ることができず、切り替え処理が完了できないことを意味する場合があります。アプリケーションは、切り替え処理の間、順番を保持するために、メッセージを引き続き古い伝送キューに書き込みます。

切り替え処理を完了できない場合、それは、切り替え処理によるメッセージの移動よりも古い伝送キューにメッセージが入れられる速度の方が速いか、コミットされていないメッセージがそのチャンネルの古い伝送キューに残っている可能性があります。

キュー・マネージャーによって出されるコンソール・メッセージ (CSQM554I など)、およびコマンド (DISPLAY QSTATUS など) を使用して、切り替え操作を完了できない理由を判別します。

CSQU197I

メッセージの移動が完了しました - num-msgs 個のメッセージを移動しました

重大度

0

説明

伝送キューの切り替えでは、1つのチャンネルのメッセージを古い伝送キューから新しい伝送キューに移動する必要があります。このメッセージは、先行するメッセージ CSQU183I で示されるチャンネルにおいて、メッセージの移動処理が完了したことを意味します。新しい伝送キューに移動したメッセージの数は、num-msgs で示されます。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU198I

伝送キューの切り替えが正常に行われました

重大度

0

説明

前の CSQU183I メッセージで識別されたチャンネルに対する伝送キューの切り替えが正常に完了した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQU199E

Function にはコマンド・レベル *required-cmdlevel* が必要ですが、キュー・マネージャーのコマンド・レベルは *qmgr-cmdlevel* です

重大度

8

説明

function で示される要求された関数は、接続先のキュー・マネージャーによってサポートされないため、ユーティリティー・プログラムが実行できませんでした。要求された関数を実行するには、キュー・マネージャーのコマンド・レベルが *required-cmdlevel* 以上でなければなりません。キュー・マネージャーのコマンド・レベルは *qmgr-cmdlevel* です。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティー・プログラムが接続しているキュー・マネージャーが必要なレベルであるか確認してください。実際に問題があった場合、要求された関数を使用するには、その前にキュー・マネージャーをアップグレードする必要があります。

CSQU200I

csect-name 送達不能キュー・ハンドラー・ユーティリティー - *date time*

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部である。

CSQU201I

キュー *q-name* の処理

説明

送達不能キュー・ハンドラーは、エラーを検出することもなくルール表の構文解析を終え、メッセージ中に示されたキューの処理を開始するところである。

CSQU202I

送達不能キュー・ハンドラーが終了しています。成功したアクション: *n1* 回再試行、*n2* 個転送、*n3* 個廃棄

説明

送達不能キューにこれ以上メッセージがないか、キュー・マネージャーがシャットダウン中であるか、または送達不能キュー・ハンドラーがエラーを検出したため、送達不能キュー・ハンドラーは終了中である。このメッセージは、正常に処理された送達不能キュー・メッセージの数を示す。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティーがエラーのために終了した場合は、先行するメッセージで報告されている問題を調べる。

CSQU203I

n 個のメッセージが送達不能キューに残っています。

説明

このメッセージは、送達不能キュー・ハンドラーの終了時に、その送達不能キュー上に残っているメッセージの数を示す。

CSQU210I

メッセージには有効な MQDLH がありません。

説明

送達不能キュー・ハンドラーは送達不能キューからメッセージを検索したが、そのメッセージの接頭部には、有効な送達不能キュー・ヘッダー (MQDLH) が付いていなかった。これは、通常、アプリケーションが送達不能キューに直接メッセージの書き込みを行い、それらのメッセージの接頭部に、有効な MQDLH を付けていないことが原因である。

システム・アクション

このメッセージは送達不能キューに残され、送達不能キュー・ハンドラーは送達不能キューの処理を続行する。

このメッセージは、このようなメッセージが最初に検出されたときに一度だけ出される。

システム・プログラマーの応答

無効なメッセージを送信不能キューからすべて除去する。接頭部に有効な MQDLH が付いていないメッセージは、送達不能キューに書き込んではいない。

CSQU211I

メッセージを書き込めません。行 n MQRC= $mqrc$ ($mqrc\text{-text}$)

説明

送達不能キュー・ハンドラーは、要求どおり、メッセージを他のキューにリダイレクトしようとしたが、MQPUT 呼び出しが失敗に終わった。

システム・アクション

メッセージの再試行カウントが増え、処理が継続する。

システム・プログラマーの応答

$mqrc$ の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください ($mqrc\text{-text}$ はテキスト形式での MQRC を示す)。メッセージのためのアクションを判別するために使用されるルール表の行番号 n を用いて、メッセージが書き込まれていたキューを識別することができる。

CSQU212I

送達不能キューを照会できません。MQCC= $mqcc$ MQRC= $mqrc$ ($mqrc\text{-text}$)

説明

送達不能キューに対する MQINQ 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

$mqcc$ および $mqrc$ ($mqrc\text{-text}$ はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU213I

メッセージを変換できません。MQCC= $mqcc$ MQRC= $mqrc$ ($mqrc\text{-text}$)

説明

MQGET 呼び出しでデータ変換の問題が発生した。

システム・アクション

メッセージはロールバックされ、キューにとどまる。キューの残りのメッセージの処理は続行される。代替手段でこのメッセージを送達不能キューから除去する。

システム・プログラマーの応答

$mqcc$ および $mqrc$ ($mqrc\text{-text}$ はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU220E

キュー・マネージャー $qmgr\text{-name}$ に接続できません。MQCC= $mqcc$ MQRC= $mqrc$ ($mqrc\text{-text}$)

説明

送達不能キュー・ハンドラーは、要求されているキュー・マネージャーに接続することができなかった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqr*c (*mqr*c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU221E

キュー・マネージャーをオープンできません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

説明

キュー・マネージャーに対する MQOPEN 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqr*c (*mqr*c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU222E

キュー・マネージャーを照会できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

説明

キュー・マネージャーに対する MQINQ 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqr*c (*mqr*c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU223E

キュー・マネージャーをクローズできません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

説明

キュー・マネージャーに対する MQCLOSE 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqr*c (*mqr*c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU224E

送達不能キュー *q-name* を表示できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

説明

送達不能キューをブラウズするための MQOPEN 呼び出しが失敗した。これは、一般的には以下のいずれかの理由で発生する。

- 別のプロセスが、排他的アクセス用にキューをオープンした。
- 無効なキュー名が指定された。
- 以下のいずれかのモジュールの別名が失われた。
 - CSQBSRV
 - CSQAPEPL

- CSQBCRMH
- CSQBAPPL

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU225E

送達不能キューをクローズできません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

送達不能キューに対する MQCLOSE 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU226E

Line *n*: keyword(*value*) invalid or outside permitted range

説明

ルール表の行 *n* の指定されたキーワードに与えられている値が、有効な値の範囲外、つまり無効であった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU227E

送達不能キューからメッセージを受信できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

送達不能キューに対する MQGET 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU228E

送達不能キュー・アクションをバックアウトまたはコミットできません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

送達不能キューに対する MQCMIT または MQBACK 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU229E

ルール表が無効、またはありません。

説明

ルール表に有効なメッセージ・テンプレートが含まれていなかった。または、ルール表が全くなかった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージに示されたルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU230E

記憶域を取得できません。

説明

送達不能キュー・ハンドラーがストレージを取得できなかった。

多くの場合、これは、より広範な問題の結果として生じる問題である。例えば、メッセージを送達不能キューに書き込ませる原因となる持続的な問題があり、その同じ問題 (例えば、キューが満杯であるなどの) によって、送達不能キュー・ハンドラーがメッセージで要求されたアクションを取ることが妨げられる場合は、必要なストレージ量が増え続ける。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティで使用可能なストレージを増量する。より広範な問題が存在していないかどうか、また、送達不能キューに多数のメッセージが含まれていないかどうかを調べる。

CSQU231E

行 *n*: パラメーター *keyword* は最大長を超えています。

説明

ルール表の行 *n* にある指定されたパラメーターの値が長すぎる。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU232E

行 *n*: パラメーター *keyword* は重複しています。

説明

ルール表の行 *n* に、同じタイプの複数のパラメーターがある。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU233E

行 *n*: 構文エラー

説明

ルール表の行 n に、構文エラーがある。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU234E

記憶域を解放できません。

説明

送達不能キュー・ハンドラーはストレージを解放することができなかった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQU235E

行 n : *keyword* の値が無効または許可された範囲外です。

説明

ルール表の行 n にある指定されたパラメーターに与えられている値が、有効な値の範囲外、つまり無効であった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU236E

ルール表内に n 個のエラーがあります。

説明

ルール表でエラーが検出された。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージに示されたルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU237E

行 n : 無効なキーワードの組み合わせです。

説明

ルール表の行 n に無効なパラメーターの組み合わせがある。これには、例えば、ACTION が指定されていない場合や、ACTION(FWD) が指定されているが FWDQ が指定されていない場合、および、HEADER が指定されているが ACTION(FWD) が指定されていない場合などがある。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ルール表を訂正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動する。

CSQU249E

キュー・マネージャーから切断できません。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

キュー・マネージャーに対する MQDISC 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQU300I

正しくないパラメーターが指定されました。使用方法を次に示します。(Usage information follows:)

CSQUDSPM (-m QMgrName) (-o status | -s) (-o all) (-su) (-a)

-m QMgrName: このキュー・マネージャーの情報のみを表示 (-m QMgrName: Display information for this queue manager only)

-o status : キュー・マネージャーの操作状況を表示 (-o status : Display operational status of the queue manager, or queue managers)

-s : キュー・マネージャーの操作状況を表示 (-s : Display operational status of the queue manager, or queue managers)

-o all : キュー・マネージャーのすべての詳細を表示 (-o all : Display all details of the queue manager, or queue managers)

-su : バージョンが不明なキュー・マネージャーの情報を表示しない (-su : Do not show information for queue managers that have an unknown version)

-a : 実行中のキュー・マネージャーの情報のみを表示 (-a : Display information for running queue managers only)

説明

CSQUDSPM に正しくないパラメーターが渡された。

システム・アクション

ユーティリティは処理を停止する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ユーティリティを再実行依頼する。

CSQU307I

指定された名前のキュー・マネージャーは存在しません (No queue manager with the specified name exists)

説明

CSQUDSPM ユーティリティが実行されたが、指定されたキュー・マネージャー名が見つからなかった。

システム・アクション

ユーティリティは処理を停止する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー名を訂正するか、特定のキュー・マネージャーを指定せずにユーティリティを実行する。

CSQU500I

csect-name キュー共有グループ・ユーティリティ - *date time*

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部である。

CSQU501I

function が要求されました。

説明

これは、要求されているユーティリティー機能を示す。

CSQU502I

キュー・マネージャー = *qmgr-name*

説明

これは、機能が要求されているキュー・マネージャーの名前を示す。

CSQU503I

QSG=*qsg-name*、Db2 DSG=*dsg-name*、Db2 ssid=*db2-name*

説明

これは、機能が要求されているキュー共有グループ、Db2 データ共有グループ、および Db2 サブシステムの名前を示す。

CSQU504E

Unable to LOAD *module-name*, reason=*ssssrrrr*

説明

ユーティリティーは要求されているモジュールをロードできなかった。 *ssss* は完了コード、 *rrrr* は z/OS LOAD サービスからの理由コードである (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソールから、モジュールがロードされなかった理由を示すメッセージがないかを調べる。 LOAD 要求からのコードについては、「z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書」第 2 巻を参照してください。

モジュールが必要なライブラリーにあるかどうか、さらにそのモジュールが正しく参照されているかどうかを確認する。ユーティリティーは、STEPLIB DD ステートメントのもとで、ライブラリー・データ・セットから、このモジュールのロードを試みる。

CSQU505E

EXEC PARM パラメーターがありません。

説明

ユーティリティーのパラメーターが EXEC PARM フィールドに指定されていなかった。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

必須パラメーターを指定し、ジョブを再実行する。

CSQU506E

EXEC PARM 機能パラメーターが無効です。

説明

EXEC PARM フィールドの最初のパラメーターで、ユーティリティーに要求されている機能が無効であった。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行する。

CSQU507E

関数に対する EXEC PARM パラメーターの数が間違っています。

説明

EXEC PARM フィールドに指定されているユーティリティのパラメーターの数が、要求されている関数に対して正しくなかった。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行する。

CSQU508E

EXEC PARM パラメーター n が無効です。

説明

EXEC PARM フィールドで指定されているユーティリティの n 番目のパラメーターが、要求されている機能に対して無効であったか、この機能にはこのパラメーターが必要であるのに、省略されていた。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行する。

CSQU509E

EXEC PARM パラメーターが多過ぎます。

説明

EXEC PARM フィールドに指定されているユーティリティのパラメーターの数が、要求されている機能に対して多すぎた。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行する。

CSQU510I

SQL エラー情報

説明

SQL エラーが発生した。続いて診断情報がメッセージ [CSQU511I](#) に示される。

システム・アクション

前のユーティリティのエラー・メッセージを参照する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU511I の情報を確認して、SQL エラーの理由を特定する。

CSQU511I

DSNT408I SQLCODE = -sql-code、説明

説明

このメッセージは、Db2 から直接送られた追加の診断情報を示している。以下のサンプル・ブロックのような追加の CSQU511I メッセージが続く。

```
CSQU511I  DSNT408I  SQLCODE = -805, ERROR:  DBRM OR PACKAGE NAME DSNV11P1..CSQ5B9-
CSQU511I  00.1A47B13F08B31B99 NOT FOUND IN PLAN CSQ5B900. REASON 03
CSQU511I  DSNT418I  SQLSTATE  = 51002 SQLSTATE RETURN CODE
CSQU511I  DSNT415I  SQLERRP   = DSNXEPM SQL PROCEDURE DETECTING ERROR
CSQU511I  DSNT416I  SQLERRD   = -251 0 0 -1 0 0 SQL DIAGNOSTIC INFORMATION
CSQU511I  DSNT416I  SQLERRD   = X'FFFFFF05' X'00000000' X'00000000'
CSQU511I  X'FFFFFFF' X'00000000' X'00000000' SQL DIAGNOSTIC
CSQU511I  INFORMATION
```

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

診断情報を使用して、SQL エラーの理由を特定し、問題を訂正する。

CSQU512E

ユーティリティーが終了しました。Db2 表は使用中です。

説明

キュー共有グループ・ユーティリティーが使用する Db2 表が他のジョブによって予約されているため、キュー共有グループ・ユーティリティーを実行することができない。可能性が高い理由としては、ユーティリティーの他のインスタンスが実行中であるか、キュー共有グループのキュー・マネージャーが始動中であることがある。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブを再実行する。

CSQU513E

ユーティリティーが終了しました。APF に許可されていません。

説明

キュー共有グループ・ユーティリティーが APF に許可されていない。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

STEPLIB DD ステートメントのもとにあるライブラリー・データ・セットを APF 許可のルールに準拠させ、ジョブを再実行する。

CSQU514E

RRSAF 機能 *call-name* が失敗しました。RC=*rc*

説明

call-name で示されている RRS 機能が、*rc* で示されている予期しない理由コードを戻した。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

RRSAF 理由コードの説明については、「[Db2for z/OS](#)」を参照してください。

必要に応じて訂正し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU515E

Db2 表にアクセスできません。RC=*rc* 理由=*reason*

説明

CSQ5AR02 モジュールへの呼び出しが、*rc* で示された戻りコードおよび *reason* で示された理由コードで失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブを再実行依頼してください。問題が解決しない場合は、メッセージ内のエラー・コードを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQU517I

XCF グループ *xcf-name* はすでに定義されています。

説明

xcf-name で示された XCF グループがすでに存在していることを示す通知メッセージ。

CSQU518E

XCF IXCQUERY メンバー・エラー。RC=*rc* 理由=*reason*

説明

rc で示された予期しない戻りコードと *reason* で示された理由コードが、IXCQUERY 呼び出しから戻された。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

IXCQUERY の戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS MVS シスプレックス・サービス解説書」を参照。

必要に応じて訂正し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU520I

XCF グループ *xcf-name* の要約情報。

説明

xcf-name で示された XCF の要約データが続くことを示す通知メッセージ。

CSQU521I

グループには *n* メンバーが含まれています。

説明

メッセージ CSQU517I で指定されているグループには、*n* 個のメンバーが含まれていることを示す通知メッセージ。

CSQU522I

Member=*xcf-name*, state=*sss*, system=*sys-name*

説明

xcf-name によって指定された XCF グループ・メンバーは、状態が *sss* であり、システム *sys-name* で最後に実行されたことを示す通知メッセージ。

CSQU523I

ユーザー・データ = *xxx*

説明

通知メッセージ CSQU522I に付随する、32 バイトの XCF ユーザー・データが含まれた通知メッセージ。

CSQU524I

QMGR 番号=nn

説明

通知メッセージ CSQU522I に付随する、キュー共有グループ内の QMGR の番号を含んでいる通知メッセージ。QMGR 番号は Db2 表、XCF グループ・メンバーおよび CF 構造体への接続の中に保管される。これは、CSQ5PQSG を使って QMGR がキュー共有グループに追加されるときに生成される。

CSQU525E

Db2 *db2-name* はデータ共有グループ *dsg-name* のメンバーではありません。

説明

Db2 *ssid* と EXEC PARM フィールドのデータ共有グループの名前が矛盾している。*db2-name* によって指定された Db2 *ssid* は、*dsg-name* によって指定された Db2 データ共有グループのメンバーではありません。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

表示されている Db2 *ssid* が、表示されている Db2 データ共有グループのメンバーであるようにする。コマンド DISPLAY XCF, GROUP を発行して、グループ・メンバー名を見つけます。

CSQU526I

Db2 *db2-name* に接続しました。

説明

ユーティリティ・プログラムは、Db2 サブシステム *db2-name* に正常に接続された。

CSQU527E

適格な Db2 が現在活動状態ではありません。

説明

EXEC PARM フィールドに Db2 *ssid* が指定されている場合、これは、ユーティリティ・ジョブが実行された z/OS システムで Db2 サブシステムが現在アクティブでないことを示します。

Db2 データ共有グループ名が EXEC PARM フィールドに指定されていた場合は、ユーティリティ・ジョブが実行された z/OS システムで、適格な Db2 サブシステムがアクティブになっていませんでした。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

Db2 *ssid* が EXEC PARM フィールドで指定されている場合は、これが、ユーティリティ・ジョブが実行される z/OS システム上で活動状態となるようにする。

EXEC PARM フィールドに Db2 データ共有グループ名が指定されている場合は、ユーティリティ・ジョブが実行される z/OS システムで、少なくとも 1 つの適格な Db2 サブシステムがアクティブであることを確認してください。

CSQU528I

Db2 *db2-name* から切断されました。

説明

ユーティリティ・プログラムは、Db2 サブシステム *db2-name* から正常に切断された。

CSQU529E

QSG *qsg-name* 入力が除去されませんでした。 *n* 個のメンバーがまだ定義されています。

説明

qsg-name のキュー共有グループ名を除去する要求は、*n* 個のメンバーがまだこのキュー共有グループに定義されていたために失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ自体を削除する前に、そのキュー共有グループのメンバーをすべて除去する必要がある。前に出力された CSQU522I メッセージを使用して、まだキュー共有グループに定義されているキュー共有グループのメンバーを確認する。

注：状況が ACTIVE または FAILED であるメンバーをキュー共有グループから除去することはできない。

CSQU530E

QMGR *qmgr-name* 入力はキュー共有グループ *qsg-name* から除去されませんでした。状況は *sss* です。

説明

qmgr-name で指定されたキュー・マネージャーは、*sss* によって指定された不正な XCF メンバー状態であるため、*qsg-name* によって指定されたキュー共有グループから除去することができない。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループからキュー・マネージャーを除去するためには、XCF メンバー状況が CREATED または QUIESCED でなければならない。

XCF メンバー状況が ACTIVE である場合は、STOP QMGR コマンドを使用してキュー・マネージャーを停止し、ジョブの再実行を要求する。

XCF メンバー状況が FAILED である場合は、キュー・マネージャーを始動し、STOP QMGR コマンドを使用してこれを通常どおりに停止して、ジョブの再実行を要求する。

CSQU531E

QSG *qsg-name* 入力は除去されませんでした。Db2 表 *table-name* には見つかりません。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* を除去する試みは、Db2 表 *table-name* に項目が見つからなかったために、失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ *qsg-name* が、初めから表 *table-name* に定義されているようにする。

ユーティリティ・ジョブが、正しい Db2 データ共有グループに接続しているかどうかを検査する。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU532E

QSG *qsg-name* 入力を除去できません。Db2 入力がまだ存在します。

説明

CSQ.ADMIN_B_QMGR 表にはまだキュー・マネージャーの項目が存在していたため、キュー共有グループ *qsg-name* を除去する試みには、Db2 制約の失敗が返された。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

CSQ.ADMIN_B_QMGR 表を調べて、キュー共有グループ *qsg-name* にまだ定義されているキュー・マネージャーを判別する。

CSQ5PQSG ユーティリティーの REMOVE QMGR 機能を使用してその項目を除去し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU533E

SQL error. Db2 table=*table-name*, code=*sqlcode*, state=*sss*, data=*sqlerrcd*

説明

予期しない SQL エラーが Db2 から戻された。 *table-name* で示された表での操作で、 *sqlcode* で示された SQLCODE が戻された。 *sss* はその STATE を、 *sqlerrcd* はその SQLERRCD 値を示す。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

SQL コードの説明については、「[Db2for z/OS](#)」を参照してください。

必要があれば、ジョブの再実行を要求する。

CSQU534E

SQL サービス・エラー、 Db2 table=*table-name* RC=*rc*

説明

table-name で示された表での操作中、先行する CSQU533E メッセージで報告された SQL エラーが発生し、戻りコード *rc* が内部サービス・ルーチンから戻された。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU533E を参照。

CSQU535I

QSG *qsg-name* 入力は Db2 表 *table-name* から正常に除去されました。

説明

qsg-name によって指定されたキュー共有グループが正常に除去されたことを示す通知メッセージ。

CSQU536E

キュー共有グループ *qsg-name* 入力を追加できません。入力はすでに Db2 表 *table-name* に存在しません。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* を追加する試みは、Db2 表 *table-name* にすでに項目が存在していたために、失敗した。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

CSQU537I

csect-name キュー共有グループ *qsg-name* 項目は Db2 表 *table-name* に正常に追加されました。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* を Db2 表 *table-name* に追加する要求は、正常に完了した。

CSQU538E

QMGR *qmgr-name* のメンバー・レコードが XCF グループ *xcf-name* に見つかりました。

説明

qmgr-name で指定されたキュー・マネージャーのメンバー・レコードが、*xcf-name* によって指定された XCF グループ内にすでに存在していることを示す通知メッセージ。

CSQU539E

QMGR *qmgr-name* 入力がキュー共有グループ *qsg-name* に見つかりません。

説明

qmgr-name によって指定されたキュー・マネージャーを、*qsg-name* によって指定されたキュー共有グループから除去しようとしたが、Db2 表で項目が見つからなかったために失敗した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

CSQU540E

QMGR *qmgr-name* を除去できません。正常に終了していないか、回復が必要です。

説明

qmgr-name によって指定されたキュー・マネージャーは、現在活動状態であるか、最終実行時に異常終了したか、バックアップおよび回復のために必要とされているため、キュー共有グループから除去することができない。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが活動状態である場合は、STOP QMGR コマンドを使用してキュー・マネージャーを停止し、ジョブの再実行を要求する。

キュー・マネージャーがその最後の実行中に異常終了している場合は、キュー・マネージャーを始動してから、STOP QMGR コマンドを使用してこれを正常に停止し、ジョブの再実行を要求する。

これらのいずれも当てはまらないか、除去することができない場合には、バックアップおよび回復のために必要とされている。キュー共有グループの管理を参照し、そのようなキュー・マネージャーをキュー共有グループから除去する方法について確認する。

CSQU541E

QSG array manipulation error, RC=*rc*

説明

キュー共有グループの配列データを操作中に内部エラーが発生した。

内部ルーチンは *rc* で示された完了コードを戻した。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブを再実行依頼してください。問題が解決しない場合は、メッセージ内のエラー・コードを書き留め、IBM サポートに連絡する。

CSQU542E

キュー共有グループ *qsg-name* の更新が失敗しました。RC=*rc*

説明

qsg-name で指定されたキュー共有グループの Db2 行を更新しようとしたが、戻りコード *rc* で失敗した。

rc に示される障害のタイプは、次のとおりである。

00F5000C

キュー共有グループの行が存在しない

00F50010

内部エラー

00F50018

参照制約の障害

00F50028

内部エラー

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブを再実行依頼してください。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

CSQU543E

QMGR *qmgr-name* の削除が失敗しました。RC=*rc*

説明

キュー・マネージャー *qmgr-name* を削除する試みが失敗し、戻りコード *rc* が戻された。

rc には、障害のタイプが示される。00F5000C は、キュー・マネージャー行が存在しないことを示す。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

これは、正しくない Db2 データ共有グループに対する要求が行われたか、直前に行われた試みが未完了であったことを示していると思われる。前者の場合は、正しい Db2 データ共有グループに対してユーティリティが実行されるようにする必要がある。後者の場合は、これ以上の処置を行う必要はない。

CSQU544E

QMGR *qmgr-name* への IXCDELET 要求は失敗しました。RC=*rc* 理由=*reason*

説明

キュー・マネージャー *qmgr-name* を除去する試みの際の IXCDELET 要求で、IXC 戻りコード *rc* と理由コード *reason* が戻された。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

IXCDELET の戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS MVS シスプレックス・サービス解説書」を参照。

必要に応じて訂正し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU545E

CSQU545E QMGR *qmgr-name* への IXCCREAT 要求は失敗しました。RC=*rc* 理由 = *reason*

説明

キュー・マネージャー *qmgr-name* を追加する試みの際の IXCCREAT 要求で、IXC 戻りコード *rc* と理由コード *reason* が戻された。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

IXCCREAT の戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS MVS シスプレックス・サービス解説書」を参照。

必要に応じて訂正し、ジョブの再実行を要求する。

CSQU546E

QMGR *qmgr-name* 入力を追加できません。Db2 表 *table-name* にすでに存在します。

説明

キュー・マネージャー *qmgr-name* の項目を Db2 表 *table-name* に追加する試みは、そのキュー・マネージャーの項目がすでに存在していたために、失敗した。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

table-name で指定された Db2 表を調べて、*qmgr-name* で指定されたキュー・マネージャーの項目が正しいキュー共有グループの項目であるかどうかを判別します。これが正しければ、これ以上の処置を行う必要はない。

CSQU547E

QMGR *qmgr-name* 入力を追加できません。キュー共有グループ *qsg-name* 入力が Db2 表 *table-name* に存在しません。

説明

キュー・マネージャー *qmgr-name* の追加が試行されたが、キュー共有グループ *qsg-name* のキュー共有グループ項目が Db2 表 *table-name* になかったため、この試みは失敗した。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループにキュー・マネージャーを追加するには、Db2 CSQ.ADMIN_B_QSG 表には、*qsg-name* で指定されたキュー共有グループのキュー共有グループ・レコードが含まれている必要があります。

Db2 表を調べ、必要に応じて CSQ5PQSG ユーティリティー ADD QSG 機能を実行してから、ジョブの再実行を要求する。

CSQU548E

QMGR *qmgr-name* をキュー共有グループ *qsg-name* に追加できません。割り当てられていない QMGR 番号がありません。

説明

キュー・マネージャー *qmgr-name* をキュー共有グループ *qsg-name* に追加する試みは、すべてのキュー・マネージャー番号が使用中であったために失敗した。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループには、同時に最大で 32 個のキュー・マネージャーを定義することができる。*qsg-name* によって指定されたキュー共有グループに、すでに 32 個のキュー・マネージャーがある場合の処置は、新規のキュー共有グループを作成するか、既存のキュー・マネージャーを除去するかのどちらかである。

CSQU549I

QMGR *qmgr-name* 入力は正常に QSG *qsg-name* に追加されました。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* にキュー・マネージャー *qmgr-name* を追加する要求は正常に完了した。

CSQU550I

QMGR *qmgr-name* 入力は正常に QSG *qsg-name* から除去されました。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* からキュー・マネージャー *qmgr-name* を除去する要求は正常に完了した。

CSQU551I

QSG *qsg-name* 入力 は正常に追加されました。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* を追加する要求は正常に完了した。

CSQU552I

QSG *qsg-name* 入力 は正常に除去されました。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* を除去する要求は正常に完了した。

CSQU553E

QMGR *qmgr-name* は Db2 表 *table-name* に、別のキュー共有グループ *qsg-name* のメンバーとして存在します。

説明

qmgr-name で指定されたキュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとしたが、失敗しました。これは、*table-name* で指定された Db2 表が、そのキュー・マネージャーが既に *qsg-name* で指定された別のキュー共有グループのメンバーであることを示しているためです。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーは、一度に1つのキュー共有グループのメンバーにしか入れない。

キュー・マネージャーを今のキュー共有グループから除去してバッチ・ジョブを実行依頼し直すか、追加をあきらめる。

CSQU554E

QMGR *qmgr-name* 項目はキュー共有グループ *qsg-name* から除去できません。構造体 *struc-name* に必要です。

説明

qmgr-name で指定されたキュー・マネージャーは、構造体 *struc-name* のバックアップについての情報があるため、*qsg-name* によって指定されたキュー共有グループから除去することができない。(構造体 *struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

複数の構造体でキュー・マネージャーが必要な場合、このメッセージはそれぞれの構造体ごとに出される。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループの他のキュー・マネージャーを使用して、構造体のバックアップを取る。BACKUP CFSTRUCT コマンドで使用されている EXCLINT 時刻値が、除去しようとしているキュー・マネージャーが最後に停止してからの時間よりも小さいようにする。その後、ジョブを再サブミットする。

キュー共有グループ内の最後のキュー・マネージャーを除去する際は、REMOVE ではなく FORCE オプションを使用する必要があります。これにより、リカバリーに必要なキュー・マネージャー・ログの整合性検査は実行されずに、キュー共有グループからキュー・マネージャーが除去されます。このアクションを実行する必要があるのは、キュー共有グループを削除する場合だけです。キュー共有グループの管理については、[キュー共有グループからキュー・マネージャーを除去する](#)を参照してください。

CSQU555E

QMGR *qmgr-name* リリース・レベルがキュー共有グループ *qsg-name* と Db2 表 *table-name* で非互換です。

説明

qmgr-name で指定されたキュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとしたが、失敗しました。これは、*table-name* で指定された Db2 表が、キュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーが互換性のないリリース・レベルであることを示しているためです。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

互換性のあるリリース・レベルのキュー・マネージャーだけが、同じキュー共有グループのメンバーになれる。異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、[保守および移行](#)を参照。

CSQU556I

QSG *qsg-name* may contain unexpected characters

説明

追加されるキュー共有グループ *qsg-name* で指定されたキュー共有グループ名は、「@」文字を含んでいるか、4文字より短い名前に「@」文字が付加されて4文字の長さの名前になっている。

システム・アクション

キュー共有グループを追加する処理は続行される。ユーティリティーは戻りコード4で完了する。

システム・プログラマーの応答

qsg-name で指定されたキュー共有グループ名が、キュー共有グループに使用する意図した名前であるかどうかを確認する。違っていれば、ユーティリティーを使用してキュー共有グループを除去し、キュー共有グループ名を訂正した後に、キュー共有グループを追加する要求を再実行依頼する。

'@' 文字は *qsg-name* で使用することができるが、IBM MQ オブジェクト名では文字としてはサポートされていないため、非推奨である。キュー・マネージャーの別名定義などの定義、または *qsg-name* を参照する必要があるその他のオブジェクトは、*qsg-name* を参照できなくなる。可能な場合は、これらの文字の使用を避ける。

CSQU557E

QMGR およびキュー共有グループ名は異なっている必要があります。

説明

キュー・マネージャーの名前とそれが属するキュー共有グループの名前は同じにすることができないため、キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとして失敗した。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

CSQU558E

QMGR *qmgr-name* 項目をキュー共有グループ *qsg-name* から除去できません。構造体 *struc-name* 用の SMDS が空ではありません。

説明

qmgr-name によって指定されたキュー・マネージャーを、*qsg-name* によって指定されたキュー共有グループから除去できない。理由は、空であるとしてマークされていない、構造体 *struc-name* の共有メッセージ・データ・セットをこのキュー・マネージャーが所有しており、このデータ・セットにはまだ現行のメッセージ・データが含まれている可能性があるからである。(*struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

所有されている共有メッセージ・データ・セットが空であるとしてマークされ、この共有メッセージ・データ・セットがメッセージ・データをまったく含んでいないときに、その所有者であるキュー・マネ

ージャーがこのデータ・セットを正常に閉じたことが示されるまでは、このキュー・マネージャーを除去できない。メッセージ・データを含んでいる、データ・セット内のすべての共有メッセージは、最初に読み取られているか、削除済みとしてマークされている必要があり、削除されたメッセージを除去し、データ・セットのスペースを解放するためには、所有側のキュー・マネージャーをその構造体に接続する必要がある。

この構造体の各共有メッセージ・データ・セットの現在の状況は、**DISPLAY CFSTATUS(struc-name) TYPE(SMDS)** コマンドを使用して表示できる。

CSQU559I

QMGR *qmgr-name* の CSQ_ADMIN 接続が削除されました。

説明

管理ストラクチャーへの障害持続接続が正常に削除されたことを示す通知メッセージ。

CSQU560I

管理構造体の絶対パス名は *admin-strname* です。

説明

z/OS によって使用される管理構造体の外部フルネームを示す (これにはキュー共有グループ名が含まれる)。

CSQU561E

Unable to get attributes for admin structure, IXLMG RC=*rc* reason code=*reason*

説明

キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとして失敗した。XES IXLMG サービス・エラーがあったため、管理構造体の属性を確認できなかった。管理構造体のフルネームが次の CSQ570I メッセージに示される。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。キュー・マネージャーはキュー共有グループに追加されない。

システム・プログラマーの応答

「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」に記載されている、IXLMG サービスからの戻りコードと理由コード (両方とも 16 進数) を調べてください。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQU562E

管理構造体属性が一時的に使用不可となっています。

説明

キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとして失敗した。管理構造体の属性が現在使用できないため、管理構造体の属性を確認できなかった。管理構造体のフルネームが次の CSQ570I メッセージに示される。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。キュー・マネージャーはキュー共有グループに追加されない。

システム・プログラマーの応答

ジョブを再実行する。

CSQU563I

管理構造体が CF *cf-name* で定義されています。割り振りサイズ *mm* KB、最大入力 *nn*

説明

これは、キュー共有グループの管理構造体の現在の属性を示す。 *cf-name* という名前のカップリング・ファシリティに定義されている。

CSQU564E

キュー・マネージャーをキュー共有グループ *qsg-name* に追加できません。管理構造体が小さすぎます。

説明

キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとして失敗した。要求された数のキュー・マネージャーを持つキュー共有グループには、現在の管理構造体割り振りは小さすぎる。管理構造体のフルネームが次の CSQ570I メッセージに示される。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。キュー・マネージャーはキュー共有グループに追加されない。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループで使用するカップリング・ファシリティ・ストラクチャー・サイズについては、[共用メッセージのオフロード・オプションの指定](#) を参照してください。

新規のキュー・マネージャーをキュー共有グループに追加するには、管理構造体割り振りを増やす必要がある。これには、以下のステップの1つ以上が関係することがある。

- IXLMIAPU ユーティリティを使用して管理構造体定義を更新する。
- 現在活動状態の CFRM ポリシーをリフレッシュする。
- z/OS SETXCF START,ALTER コマンドを使用して、管理構造体の現在の割り振りを動的に変更する。管理構造体割り振りを増やしたら、ジョブを再実行する。

CSQU565E

管理構造体のための属性を取得できません。CF で失敗状況です。

説明

キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとして失敗した。管理構造体の属性は失敗の状態のため、管理構造体の属性を確認できなかった。管理構造体のフルネームが次の CSQ570I メッセージに示される。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは終了する。キュー・マネージャーはキュー共有グループに追加されない。

システム・プログラマーの応答

z/OS DISPLAY XCF,STRUCTURE コマンドを使用して、現在活動状態の CFRM ポリシーですべての構造体の状態を表示する。

管理構造体が失敗した場合、キュー共有グループ内のキュー・マネージャーを開始すると、現在の CFRM ポリシーに従って構造体が割り振られる。

CSQU566I

管理構造体のための属性を取得できません。CF が見つからないか、または割り振られていません。

説明

キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加しようとして失敗した。管理構造体がまだ CFRM ポリシーに定義されていないか、または現在カップリング・ファシリティに割り振りされていないため、管理構造体の属性を確認できなかった。管理構造体のフルネームが次の CSQ570I メッセージに示される。構造体が割り振られない場合には、最初のキュー・マネージャーの開始時に構造体が割り振られる。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

z/OS コマンド DISPLAY XCF,STRUCTURE,STRNAME=<CFSTRNAME> を使用して、現在アクティブな CFRM ポリシー内のすべてのストラクチャーの状況 (サイズを含む) を表示します。

構造体定義が CFRM ポリシーにあるようにする。これは、キュー・マネージャーを開始するために必要となる。

CSQU567E

番号の不一致のため QMGR *qmgr-name* が Db2 表に追加されません。

説明

既に発行されたメッセージ CSQU568E で示されているように、QMGR 番号の不一致のために QMGR *qmgr-name* を Db2 表に追加できなかった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

"VERIFY QSG" パラメーターを使って CSQ5PQSG キュー共有グループ・ユーティリティを実行するときにメッセージ CSQU524I に示されるとおりに、XCF グループ内の QMGR 番号値に一致する順序で QMGR を追加する。

この問題が CSQ_ADMIN 構造体への接続の持続的な失敗と関連している場合には、SETXCF FORCE コマンドを使って CF 構造体をクリアすることにより問題を解決できる。

CSQU568E

キュー共有グループ *qsg-name* 内の QMGR *qmgr-name* の QMGR 番号が一致しません: Db2 value=*nn*、XCF メンバー value=*nn*、CSQ_ADMIN 接続 value=*nn*、SMDS グループ value=*nn*

説明

QMGR 番号が Db2 表、XCF グループ・メンバー、および CF 構造体への接続に保管され、それぞれの保管された値がメッセージに表示される。キュー共有グループ・ユーティリティ (CSQ5PQSG) を使って QMGR がキュー共有グループに追加されるときに QMGR 番号が作成される。

このメッセージは、キュー共有グループ *qsg-name* 内の QMGR *qmgr-name* に関する保管済みの値に不一致があるため、QMGR が開始しないことを示している。

システム・アクション

XCF グループ内のすべてのメンバーが処理された後、ユーティリティが終了する。

システム・プログラマーの応答

QMGR 番号値が -1 である場合は、その項目が存在しない。欠落している項目を追加するには "ADD QMGR" パラメーターを指定して CSQ5PQSG ユーティリティを使用する。

QMGR 番号値が 0 の場合、値は初期化されていません (XCF グループ・メンバーおよび CSQ_ADMIN 接続値のみ)。値を初期化するには、QMGR を開始する。

QMGR 番号値が 0 より大きい場合は、カップリング・ファシリティ問題判別ガイドにリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

SMDS グループ番号が -2 の場合、別のキュー・マネージャーの QMGR 番号に関する SMDS 状態情報が存在します。VERIFY QMGR パラメーターを指定した CSQ5PQSG ユーティリティを使用して SMDS 状態に関連付けられたキュー・マネージャーを識別した後、ADD QMGR を使用して関連付けられた QMGR を再追加してから、元の ADD QMGR コマンドを再試行する。

SMDS グループ番号が -1 の場合、複数の *qmids* を持つキュー・マネージャーに関する SMDS 状態情報が存在します。カップリング・ファシリティの問題判別ガイドにリストされている情報項目を収集して IBM サポートに連絡する。

CSQU569E

予期しない CSQ_ADMIN 接続が QMGR *qmgr-name* で検出されました

説明

キュー共有グループ内のそれぞれの QMGR に対して、CSQ_ADMIN 構造体への接続が 1 つだけ存在する必要があります。追加の接続が見つかるごとに、このメッセージが発行される。

システム・アクション

XCF グループ内のすべてのメンバーが処理された後、ユーティリティーが終了する。

システム・プログラマーの応答

この状態は発生してはならない。CSQ_ADMIN 構造体に関する XCF 表示コマンドを使用して、接続を表示することができる。

カップリング・ファシリティーの問題判別ガイドにリストされている情報項目を収集して IBM サポートに連絡する。

CSQU570I

QSG *qsg-name* を正常に検査しました。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* の情報を検証する要求は正常に完了した。すべての情報は整合性がある。

CSQU571E

QSG *qsg-name* 入力を検査できません。Db2 表 *table-name* には見つかりません。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* を検証する試みは、その項目が Db2 表 *table-name* に見つからなかったために、失敗した。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ *qsg-name* が、初めから表 *table-name* に定義されているようにする。ユーティリティー・ジョブが、正しい Db2 データ共有グループに接続しているかどうかを検査する。

必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU572E

マップ *map-name* と Db2 表 *table-name* の使用に不整合があります

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップ *map-name* と Db2 表 *table-name* との情報の間に矛盾が見つかった。後続のメッセージに、矛盾についての詳細が示される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティー・ジョブが、正しい Db2 データ共有グループに接続しているかどうかを検査する。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

IBM サポートに連絡する。

CSQU573E

QMGR *qmgr-name* (表項目 *entry-number* 内の)が使用マップに設定されていません。

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップとそれに対応する Db2 表との情報の間に矛盾が見つかった。矛盾はメッセージに説明されている。先行するメッセージ CSQU572E は、使用状況マップと表を示す。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU572E を参照。

CSQU574E

使用マップ内の QMGR *qmgr-name* には、表での項目がありません。

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップとそれに対応する Db2 表との情報の間に矛盾が見つかった。矛盾はメッセージに説明されている。先行するメッセージ CSQU572E は、使用状況マップと表を示す。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU572E を参照。

CSQU575E

構造体 *struc-name* (表項目 *entry-number* 内の) が使用マップに設定されていません。

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップとそれに対応する Db2 表との情報の間に矛盾が見つかった。矛盾はメッセージに説明されている。先行するメッセージ CSQU572E は、使用状況マップと表を示す。(*struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU572E を参照。

CSQU576E

使用マップ内の構造体 *struc-name* には、表での項目がありません。

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップとそれに対応する Db2 表との情報の間に矛盾が見つかった。矛盾はメッセージに説明されている。先行するメッセージ CSQU572E は、使用状況マップと表を示す。(*struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU572E を参照。

CSQU577E

キュー *q-name* (表項目 *entry-number* 内の) が構造体 *struc-name* 用の使用マップに設定されていません。

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップとそれに対応する Db2 表との情報の間に矛盾が見つかった。矛盾はメッセージに説明されている。先行するメッセージ CSQU572E は、使用状況マップと表を示す。(*struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU572E を参照。

CSQU578E

使用マップ内のキュー *q-name* (構造体 *struc-name* 用) には、表での項目がありません。

説明

キュー共有グループの検証中に、使用状況マップとそれに対応する Db2 表との情報の間に矛盾が見つかった。矛盾はメッセージに説明されている。先行するメッセージ CSQU572E は、使用状況マップと表を示す。(*struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQU572E を参照。

CSQU580I

DSG *dsg-name* は移行の準備ができています。

説明

新しい Db2 表を使用するためにデータ共有グループ *dsg-name* をマイグレーションする要求で、データ共有グループをマイグレーションする準備ができていたことが正常に検証されました。

システム・プログラマーの応答

マイグレーションを実行する。

CSQU581E

DSG *dsg-name* は QSG *qsg-name* の QMGR レベルと非互換です。

説明

データ共有グループ *dsg-name* を使用するキュー共有グループ *qsg-name* のキュー・マネージャーのレベルに互換性がないため、このデータ共有グループを移行して新しい Db2 表を使用することはできません。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

マイグレーションを実行するため、データ共有グループを使用するすべてのキュー共有グループのすべてのキュー・マネージャーでは、PTF をインストールして始動しておき、必要なレベルに引き上げておく必要がある。キュー・マネージャーのレベルおよびアップグレードする必要のあるレベルを判別するには、CSQ.ADMIN_B_QMGR Db2 表を調べる。フィールド QMGRNAME、MVERSIONL、MVERSIONH を参照し、MVERSIONH のより小さい値を持つキュー・マネージャーを調べる。

異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、[保守および移行](#)を参照。

CSQU582E

DSG *dsg-name* はすでに移行しています。

説明

データ共有グループ *dsg-name* はすでにマイグレーションされているため、そのデータ共有グループをマイグレーションして新しい Db2 表を使用することができない。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

マイグレーションの一部として、CSQ.OBJ_B_CHANNEL Db2 表は、その行のサイズを 4 KB より大きく変更する。ユーティリティーは、その行サイズがすでに存在することを確認する。マイグレーションがすでに行われていることを確認するには、CSQ.OBJ_B_CHANNEL Db2 表を調べる。

異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、[保守および移行](#)を参照。

CSQU583I

QSG *qsg-name* (DSG *dsg-name* 内) は移行の準備ができています。

説明

データ共有グループ *dsg-name* 内のキュー共有グループ *qsg-name* を、新しい Db2 表を使用するようにマイグレーションする要求は、キュー共有グループのマイグレーション準備ができていることを正常に検査した。

システム・プログラマーの応答

マイグレーションを実行する。このことは、SCSQPROC ライブラリーのサンプル・ジョブ CSQ4570T および CSQ4571T で示されているように、ユーティリティー・マイグレーション要求のときと同じジョブで使用する条件付きステップで実行するようにする。

CSQU584E

QSG *qsg-name* (DSG *dsg-name* 内) の QMGR レベルは非互換です。

説明

データ共有グループ *dsg-name* を使用するキュー・マネージャーのレベルが非互換であるため、そのデータ共有グループ内のキュー共有グループ *qsg-name* をマイグレーションして新しい Db2 表を使用することができない。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

マイグレーションを実行するため、データ共有グループを使用するすべてのキュー共有グループのすべてのキュー・マネージャーでは、PTF をインストールして始動しておき、必要なレベルに引き上げておく必要がある。キュー・マネージャーのレベルおよびアップグレードする必要のあるレベルを判別するには、CSQ.ADMIN_B_QMGR Db2 表を調べる。

異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、[保守および移行](#)を参照。

CSQU585E

QSG *qsg-name* 項目はマイグレーションできません。Db2 表 *table-name* には見つかりません。

説明

キュー共有グループ *qsg-name* は、Db2 表 *table-name* に項目が見つからなかったため、マイグレーションできない。

システム・アクション

ユーティリティー・プログラムは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ *qsg-name* が、初めから表 *table-name* に定義されているようにする。

ユーティリティー・ジョブが、正しい Db2 データ共有グループに接続しているかどうかを検査する。必要に応じて、ジョブの再実行を要求する。

CSQU586I

QMGR *qmgr-name* 項目をキュー共有グループ *qsg-name* から除去しますが、この項目は構造体 *struc-name* のバックアップに必要です。

説明

qmgr-name が示すキュー・マネージャーは、*qsg-name* が示すキュー共有グループから強制的に除去されるが、これには、構造体 *struc-name* のバックアップについての情報が含まれている。*(struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む Db2 によって使用される外部名ではない。)

キュー・マネージャー *qmgr-name* をキュー共有グループに戻した場合、構造体のバックアップを取得していないと、構造体 *struct-name* の回復が不能になる矛盾した状態になる。

このキュー・マネージャーが複数の構造体に必要な場合は、それぞれの構造体ごとにこのメッセージが出される。

システム・アクション

キュー・マネージャーがキュー共有グループから除去され、ユーティリティー・プログラムは戻りコード 4 で終了する。

システム・プログラマーの応答

CF 構造体 *struc-name* が使用できる場合は、キュー共有グループの別のキュー・マネージャーを使用して CF 構造体 *struc-name* のバックアップをできる限り早く取得する。使用できない場合に、キュー・マネージャー *qmgr-name* をキュー共有グループに戻す場合は、構造体 *struc-name* の回復が行われる前に、キュー・マネージャーを再始動する必要がある。

CSQU587I

QMGR *qmgr-name* 項目をキュー共有グループ *qsg-name* から除去しますが、構造体 *struc-name* 用の SMDS が空ではありません。

説明

qmgr-name が示すキュー・マネージャーを、*qsg-name* が示すキュー共有グループから除去するが、このキュー・マネージャーは、空のマークが付いていない構造体 *struc-name* の共有メッセージ・データ・セットを所有しており、現行のメッセージ・データが含まれている可能性がある。*(struc-name* に示される値は IBM MQ によって使用される 12 文字の名前で、キュー共有グループ名を含む z/OS によって使用される外部名ではない。)

システム・アクション

キュー・マネージャーがキュー共有グループから除去され、ユーティリティー・プログラムは戻りコード 4 で終了する。

キュー・マネージャー *qmgr-name* の SMDS 上のメッセージは、SMDS が保持されている間はアクセス可能である。

V 9.3.0 V 9.3.0 CSQU599I

QSG *qsg-name* には、リリース・レベル *min-level* より下のキュー・マネージャーが含まれています。QSG は、リリース・レベル *current-level* をサポートしません。

説明

キュー共有グループには、CSQ5PQSG を実行するために使用される IBM MQ for z/OS のリリースでサポートされる最小レベルより下のキュー・マネージャーが含まれる。このキュー共有グループ内の現行レベルでキュー・マネージャーを開始することはできません。

システム・プログラマーの応答

現行レベルのキュー・マネージャーをキュー共有グループに追加する前に、メッセージに示されている *min-level* より下にあるキュー共有グループ内のキュー・マネージャーを見つけ、それらを少なくとも *min-level* にアップグレードします。

CSQU680E

Db2 と CF 構造体は、構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* において同期していません。

重大度

8

説明

Db2 における共有キューの行が表すキューは、CF 構造体における構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* で見つかるものとは異なる。この不整合が原因で、キュー・マネージャーは 5C6-00C51053 を伴って異常終了し、メッセージ CSQE137E が出される。また、メッセージ CSQU681I および CSQU682I も出されて、詳細情報がそこで提供される。

システム・アクション

不一致が報告されて、ユーティリティーの処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

カップリング・ファシリティの問題判別と Db2 マネージャーの問題判別でリストされる項目を収集して、Db2 サポートに連絡する。

CSQU681I

構造体 *struc-name: queue-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* の Db2 エントリー

重大度

0

説明

このメッセージは、メッセージ CSQU680E と共に出される。*queue-name* は、Db2 で構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* に関して見つかるキューの名前。

システム・アクション

不一致が報告されて、ユーティリティーの処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

カップリング・ファシリティの問題判別と Db2 マネージャーの問題判別でリストされる項目を収集して、Db2 サポートに連絡する。

CSQU682I

構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* に関する CF 項目: *queue-name*

重大度

0

説明

このメッセージは、メッセージ CSQU680E と共に出される。*queue-name* は、CF で構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* に関して見つかるキューの名前。

システム・アクション

不一致が報告されて、ユーティリティーの処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

カップリング・ファシリティの問題判別と Db2 マネージャーの問題判別でリストされる項目を収集して、Db2 サポートに連絡する。

CSQU683E

構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* に関する CF 項目が欠落しています

重大度

8

説明

構造 *struc-name* のリスト・ヘッダー *list-header-number* の Db2 項目は、現行コピーが CF で使用可能であることを示していますが、コピーが見つかりません。この不整合が原因で、このキューの使用を試みているアプリケーションに対して戻りコード 2085 が出される。

システム・アクション

不一致が報告されて、ユーティリティーの処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループ内のいずれかのキュー・マネージャーを始動または再始動すると、問題が解決される。問題が解決しないようであれば、カップリング・ファシリティの問題判別と Db2 マネージャーの問題判別でリストされる項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQU684I

構造体 *struc-name* はキュー・マネージャーによってまだ割り振られていません

重大度

0

説明

CF 構造体 *struc-name* が割り振られていない。これは、構造体に対して初めて **IXLCONN** が出されるときに発生し、QSG 内のキュー・マネージャーによってのみ発行される。

システム・アクション

ユーティリティーは処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQU685I

構造体 *struc-name* が接続されました

重大度

0

説明

ユーティリティーが、CF 構造体 *struc-name* に正常に接続された。

システム・アクション

ユーティリティーは処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQU686E

構造体 *struc-name* の接続が失敗しました。 **IXLCONN RC=return-code** 理由=*reason*

重大度

8

説明

ユーティリティーが、CF 構造体 *struc-name* への接続に失敗した。

システム・アクション

ユーティリティーはこの構造体に関する後続のキューをすべてスキップし、処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

戻りコードおよび理由コードを調べ、**IXLCONN** 接続コマンドが失敗した理由を判別する。

CSQU687I

構造体 *struc-name* が切断されました

重大度

0

説明

ユーティリティーが、CF 構造体 *struc-name* から切断された。

システム・アクション

ユーティリティーは処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQU688E

構造体 *struc-name* のリスト・ヘッダー *list-header-number* の Db2 項目が欠落しています。

重大度

0

説明

構造体 *struc-name* 内のリスト・ヘッダー *list-header-number* に関する CF 項目は、Db2 内に現行コピーがあることを示しているが、コピーが見つからない。同じリスト・ヘッダーに新しいキューが定義される場合には、この不整合が原因で問題が発生する。

システム・アクション

不一致が報告されて、ユーティリティーの処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

カップリング・ファシリティの問題判別と Db2 マネージャーの問題判別でリストされる項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQU689E

構造体 *struc-name*、**IXLLSTE** に関して予期されない戻りコード。RC=*return-code* 理由=*reason*

重大度

8

説明

ユーティリティーは、CF 構造体 *struc-name* からのリスト項目の読み取りに失敗した。

システム・アクション

ユーティリティーはこの構造体に関する後続のキューをすべてスキップし、処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

戻りコードと理由コードを調べて、**IXLLSTE** 読み取りに失敗した理由を判別する。

CSQU950I

csect-name IBM MQ for z/OS Vn

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部である。

CSQU951I

csect-name データ変換出口ユーティリティー - *date time*

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの一部である。

CSQU952I

csect-name ユーティリティーが完了しました。戻りコード = *ret-code*

説明

ユーティリティーが完了した。戻りコードは、すべての入力正常に処理された場合は 0 であり、何らかのエラーが検出された場合は 8 である。

システム・アクション

ユーティリティーは終了する。

システム・プログラマーの応答

戻りコードがゼロでなければ、報告されたエラーについて調べる。

CSQU954I

n 構造体が処理されました。

説明

これは、ユーティリティー・プログラムによって処理されたデータ構造体の数を示す。

CSQU956E

行 *line-number*: 構造体配列フィールドの次元が正しくありません。

説明

構造体配列フィールドに指定されたディメンションが正しくない。

システム・アクション

処理は停止する。

システム・プログラマーの応答

フィールド指定を訂正して、ジョブの再実行を要求する。

CSQU957E

行 *line-number*: 構造体には可変長フィールドの後にフィールドがあります。

説明

示された行にエラーがあった。可変長フィールドは必ず、構造体の最後のフィールドでなければならない。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

フィールド指定を訂正して、ジョブの再実行を要求する。

CSQU958E

行 *line-number*: 構造化フィールド *name* には、サポートされないタイプ 'float' があります

説明

示された行にエラーがあった。フィールドのタイプが「float」であり、これはサポートされていません。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

フィールド指定を訂正してジョブの再実行を要求するか、このようなフィールドを変換するためのルーチンを提供する。

CSQU959E

行 *line-number*: 構造化フィールド *name* に、サポートされていないタイプ 'double' があります。

説明

示された行にエラーがあった。フィールドに、サポートされないタイプの 'double' があった。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

フィールド指定を訂正してジョブの再実行を要求するか、このようなフィールドを変換するためのルーチンを提供する。

CSQU960E

行 *line-number*: 構造化フィールド *name* に、サポートされていないタイプ 'pointer' があります。

説明

示された行にエラーがあった。フィールドに、サポートされないタイプの 'pointer' があった。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

フィールド指定を訂正してジョブの再実行を要求するか、このようなフィールドを変換するためのルーチンを提供する。

CSQU961E

行 *line-number*: 構造化フィールド *name* に、サポートされていないタイプ 'bit' があります。

説明

示された行にエラーがあった。フィールドに、サポートされないタイプの 'bit' があった。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

フィールド指定を訂正してジョブの再実行を要求するか、このようなフィールドを変換するためのルーチンを提供する。

CSQU965E

EXEC PARM が無効です。

説明

EXEC PARM フィールドがブランクではない。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

JCL を変更して、ジョブの再実行を要求する。

CSQU968E

Unable to OPEN *ddname* data set

説明

プログラムが、データ・セット *ddname* をオープンできなかった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQU970E

行 *line-number*: 構文エラー

説明

示された行に構文エラーがありました。

システム・アクション

処理は停止する。

システム・プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

CSQU971E

ddname データ・セットから受信できません。

説明

プログラムが、*ddname* データ・セットからレコードを読み取ることができなかった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQU972E

ddname データ・セットに書き込みできません。

説明

プログラムが、*ddname* データ・セットに次のレコードを書き込むことができなかった。

システム・アクション

ユーティリティは終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに送られたエラー・メッセージを調べて、エラーの理由を判別する。データ・セットが正しく指定されているかどうかを調べる。

CSQU999E

メッセージ・コード *ccc* は認識されていません。

説明

予期しないエラー・メッセージ・コードがユーティリティによって出されました。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

16 進数で表示されるコード *ccc* を書き留めて、IBM サポートに連絡を取り、問題を報告する。

z/OS

エージェント・サービス・メッセージ (CSQV...)

CSQV086E

QUEUE MANAGER ABNORMAL TERMINATION REASON=*reason-code*

説明

訂正できないエラーが発生したため、キュー・マネージャーが異常終了した。このメッセージは、オペレーター・コンソールから自動的に削除されませんが、異常終了時に出されます。理由コードは終了理由コードです。この異常終了が何度も呼び出された場合、このメッセージに伴う終了理由コードは、最初の呼び出しに関連したものである。

システム・アクション

異常終了処理が続けられる。

システム・プログラマーの応答

補足情報については、[922 ページの『IBM MQ for z/OS コード』](#)の理由コードを調べる。

このメッセージに伴って、1つ以上のダンプが作成される。キュー・マネージャーが完全に終了した後で、SYS1.LOGREC のコピーおよびダンプを入手する。IBM MQ にエラーがあることが考えられる場合は、[トラブルシューティングおよびサポート](#)を参照し、問題の識別と報告についての情報を確認する。

CSQV400I

現在活動状態の保存ログを静止します。

説明

ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) コマンドが現在活動中である。このメッセージは DISPLAY LOG または DISPLAY THREAD コマンド・レポートの一部である。

システム・アクション

このメッセージは、通知目的で出されるにすぎない。このメッセージは、ARCHIVE LOG MODE(QUIESCE) コマンドがまだ完了しておらず、このため、IBM MQ リソースに対する更新が一時中断されていることを示している。したがって、静止期間の終了を待って活動スレッドが中断されていることがある。そうでなければ、処理は正常に続けられる。

CSQV401I

DISPLAY THREAD 報告書が表示されます -

説明

このメッセージは、DISPLAY THREAD コマンド報告書出力のタイトルとして発行される。このメッセージは、このコマンドによって生成される他のメッセージに先立つ。

- メッセージ CSQV402I は、TYPE(ACTIVE) を使用して活動スレッドの詳細状況が要求されたとき、フォーマットされた報告書を提供する。
- メッセージ CSQV432I は、TYPE(REGIONS) を使用して活動スレッドの要約状況が要求されたとき、フォーマットされた報告書を提供する。
- メッセージ CSQV406I は、TYPE(INDOUBT) を使用して未確定スレッドの状況が要求されたとき、フォーマットされた報告書を提供する。
- メッセージ CSQV436I は、QMNAME を持つ TYPE(INDOUBT) を使用して別のキュー・マネージャー上の未確定スレッドの状況が要求されたとき、フォーマットされた報告書を提供する。

システム・アクション

処理は正常に続けられる。

CSQV402I

アクティブ・スレッド -

説明

このメッセージは DISPLAY THREAD TYPE(ACTIVE) コマンドへの応答である。これによって、以下のように、各活動スレッドの状況に関する情報が提供される。

```
NAME S T REQ THREAD-XREF USERID ASID URID  name s t req thread-xref userid asid urid :  
DISPLAY ACTIVE REPORT COMPLETE
```

ここで、

name

接続名で、次のいずれかである。

- z/OS バッチ・ジョブ名
- TSO ユーザー ID
- CICS アプリケーション ID
- IMS 領域名
- チャネル・イニシエーターのジョブ名

s

接続状況コード。値は次のように定義されている。

N

スレッドは、IDENTIFY 状況にある。

T

スレッドは、CREATE THREAD を出した。

Q

CREATE THREAD 要求はキューに入れられた。関連する接続タスクは、待ち状態に置かれている。

C

スレッドは、関連する接続タスクの終了の結果として、終了のためのキューに入れられた。このスレッドが、アドレス・スペースの最後(または唯一)の IBM MQ スレッドでもある場合は、関連する接続タスクは待ち状態に置かれている。

D

スレッドは、関連する接続タスクの終了の結果として、終了中である。このスレッドが、アドレス・スペースの最後(または唯一)の IBM MQ スレッドでもある場合は、関連する接続タスクは待ち状態に置かれている。

スレッドが IBM MQ 内で活動状態であればアスタリスクが付けられる。

t

接続タイプ・コード。値は次のように定義されている。

B

バッチ: バッチ接続を使用したアプリケーションからの場合。

R

RRS: バッチ接続を使用した RRS により調整されたアプリケーションからの場合。

C

CICS: CICS からの場合。

I

IMS: IMS からの場合。

S

システム: キュー・マネージャーの内部機能から、またはチャンネル・イニシエーターからの場合。

req

IBM MQ 要求の数を示す循環カウンター。

thread-xref

スレッドに関連付けられた回復スレッド相互参照 ID。

USERID

接続に関連付けられたユーザー ID。サインオンされていない場合、このフィールドは空白となる。

ASID

ホーム・アドレス・スペースの ASID を表す 16 進数。

urid

回復単位 ID。スレッドに関連付けられた現在の回復単位のログ RBA を指す。現行の回復単位が存在しない場合は、0000000000000000 と表示される。

例外的に、最終行は、次のようになる可能性がある。

```
DISPLAY ACTIVE TERMINATED WITH MAX LINES
```

z/OS コンソールからのコマンドに回答して報告書が生成された場合や、252 を超える応答メッセージが生成された場合はこのようになり、応答メッセージは、252 しか戻されない。

システム・アクション

処理は正常に続けられる。

CSQV406I

未確定スレッド -

説明

このメッセージは DISPLAY THREAD TYPE(INDOUBT) コマンドへの応答である。これによって、以下のように、各未確定スレッドの状況に関する情報が提供される。

```
NAME THREAD-XREF URID NID name thread-xref urid origin-id : DISPLAY INDOUBT REPORT  
COMPLETE
```

ここで、

name

接続名で、次のいずれかである。

- z/OS バッチ・ジョブ名
- TSO ユーザー ID
- CICS アプリケーション ID
- IMS 領域名
- チャネル・イニシエーターのジョブ名

thread-xref

スレッドに関連付けられた回復スレッド相互参照 ID。詳しくは、[IMS 制御領域からの接続を参照](#)。

urid

回復単位 ID。スレッドに関連付けられた現在の回復単位のログ RBA を指す。(これは、非特定の接続名を指定して z/OS コンソールからコマンドを実行した場合には省略される。)

origin-id

起点 ID。キュー・マネージャー内の回復単位を識別する固有のトークン。この ID は「*origin-node.origin-urid*」という形式であり、各オペランドの意味は次のとおりである。

origin-node

スレッドの開始元を識別する名前。(RRS バッチ接続の場合には省略される。)

origin-urid

開始元のシステムによって、このスレッドの回復単位に割り当てられる 16 進数の ID。

例外的に、最終行は、次のようになる可能性がある。

```
DISPLAY INDOUBT TERMINATED WITH MAX LINES
```

z/OS コンソールからのコマンドに応答して報告書が生成された場合や、252 を超える未確定スレッドが表示するのに適格とされた場合はこのようになる。

システム・アクション

処理は正常に続けられる。

CSQV410I

名前=connection-name にアクティブの接続がありません。

説明

DISPLAY THREAD コマンドが出されたが、connection-name に関連する活動状態の接続が見つからなかった。

システム・アクション

コマンド処理が続行される。

CSQV411I

名前=*connection-name* にアクティブのスレッドがありません。

説明

DISPLAY THREAD コマンドが出されたが、*connection-name* に関連する活動状態のスレッドが見つからなかった。

システム・アクション

コマンド処理が続行される。

CSQV412I

csect-name name=connection name の未確定スレッドが見つかりません。

説明

DISPLAY THREAD コマンドが出されたが、*connection name* に関連する未確定スレッドが見つからなかった。

システム・アクション

コマンド処理が続行される。

CSQV413E

csect-name 接続名がありません。

説明

コマンドに接続名が指定されておらず、デフォルトの接続名を判別できなかった。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

CSQV414I

スレッド NID=*origin-id* のコミットがスケジュールされました。

説明

回復起点 ID *origin-id* によって指定されたスレッドは、COMMIT 回復アクションが行われるようにスケジュールされる。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQV415I

スレッド NID=*origin-id* のバックアウトが予定されました。

説明

回復起点 ID *origin-id* によって指定されたスレッドは、BACKOUT 回復アクションが行われるようにスケジュールされる。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQV416E

スレッド NID=*origin-id* は無効です。

説明

RESOLVE INDOUBT コマンドは、指定されたスレッド *origin-id* の入力形式が無効であると判断した。

システム・アクション

コマンド処理が続行される。

CSQV417I

スレッド NID=*origin-id* が見つかりません。

説明

RESOLVE INDOUBT コマンドは、回復するようにスケジュールされた、回復起点 ID *origin-id* によって指定されたスレッドを見つけることができなかった。スレッド ID が正しくないか、スレッドが未確定状態でなくなったかのいずれかである。

システム・アクション

コマンド処理が続行される。

CSQV419I

活動状態の接続がありません。

説明

DISPLAY THREAD(*) TYPE(ACTIVE) または TYPE(REGIONS) コマンドがすべてのスレッドに対して実行されたが、活動状態の接続が見つからなかった。

システム・アクション

コマンド処理が続行される。

CSQV420I

未確定スレッドがありません。

説明

DISPLAY THREAD(*) TYPE(INDOUBT) コマンドがすべてのスレッドに対して実行されたが、未確定スレッドが見つからなかった。

システム・アクション

コマンド処理が続行される。

CSQV423I

cmd メッセージ・プール・サイズが超過しています。

説明

コマンド *cmd* の応答を生成するのに必要なストレージの所要量が、メッセージ・バッファ・プールの最大サイズを超えている。

システム・アクション

処理は終了する。

CSQV424I

スレッド ID=*thread-xref* のコミットがスケジュールされました。

説明

回復スレッド相互参照 ID *thread-xref* によって指定されたスレッドは、COMMIT 回復アクションが行われるようにスケジュールされる。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQV425I

スレッド ID=*thread-xref* のバックアウトが予定されました。

説明

回復スレッド相互参照 ID *thread-xref* によって指定されたスレッドは、BACKOUT 回復アクションが行われるようにスケジュールされる。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQV427I

スレッド ID=*thread-xref* が見つかりません。

説明

RESOLVE INDOUBT コマンドは、回復するようにスケジュールされた、回復スレッド相互参照 ID *thread-xref* によって指定されたスレッドを見つけることができなかった。スレッド ID が正しくないか、スレッドが未確定状態でなくなったかのいずれかである。

システム・アクション

コマンド処理が続行される。

CSQV428I

現行スレッドの限界 *nnn* を超えました。ジョブ *jobname* に後でスレッドを作成します。

説明

ジョブでキュー・マネージャーへの接続が要求されたが、現行の接続数が、キュー・マネージャーの最大許容数である。

システム・アクション

接続要求は停止され、別の接続が終了するまで待機する。

システム・プログラマーの応答

この状況が頻繁に起こる場合は、IBM サポートに連絡する。

CSQV432I

アクティブ・スレッド -

説明

このメッセージは DISPLAY THREAD TYPE(REGIONS) コマンドへの応答である。これによって、以下のように、各活動状態の接続の状況に関する情報が提供される。

```
NAME TYPE USERID ASID THREADS  name type userid asid threads :  DISPLAY ACTIVE REPORT  
COMPLETE
```

ここで、

name

接続名で、次のいずれかである。

- z/OS バッチ・ジョブ名
- TSO ユーザー ID
- CICS アプリケーション ID
- IMS 領域名
- チャネル・イニシエーターのジョブ名

タイプ

接続タイプ。

CICS

CICS からの場合。

IMS

IMS からの場合。

BATCH

バッチ接続を使用したアプリケーションからの場合。

RRSBATCH

バッチ接続を使用した RRS により調整されたアプリケーションからの場合。

CHINIT

チャネル・イニシエーターからの場合。

USERID

接続に関連付けられたユーザー ID。サインオンされていない場合、このフィールドは空白となる。

ASID

ホーム・アドレス・スペースの ASID を表す 16 進数。

threads

接続に関連した活動スレッドの数。これには、CICS アダプター・タスクまたはチャンネル・イニシエーター・リスナーなどの固定内部スレッドは除外される。

例外的に、最終行は、次のようになる可能性がある。

DISPLAY ACTIVE TERMINATED WITH MAX LINES

z/OS コンソールからのコマンドに回答して報告書が生成された場合や、252 を超える応答メッセージが生成された場合はこのようになり、応答メッセージは、252 しか戻されない。

システム・アクション

処理は正常に続けられる。

CSQV433I

'QMNAME' は許可されていません。キュー共有グループにありません。

説明

QMNAME キーワードを指定した DISPLAY THREAD TYPE(INDOUBT) または RESOLVE INDOUBT コマンドが実行されたが、要求側のキュー・マネージャー *qmgr-name* がキュー共有グループ内にないか、または要求されたキュー・マネージャー *qmgr-name* がキュー共有グループのメンバーでない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

CSQV434E

'QMNAME' は TYPE(INDOUBT) とでのみ許可されています。

説明

QMNAME キーワードを指定している DISPLAY THREAD コマンドが実行されたが、TYPE(INDOUBT) が指定されなかった。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

CSQV435I

QMNAME(*qmgr-name*) は活動状態です。コマンドは無視されます。

説明

QMNAME キーワードを指定している DISPLAY THREAD TYPE(INDOUBT) または RESOLVE INDOUBT コマンドが実行されたが、要求されたキュー・マネージャー *qmgr-name* は活動状態である。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

CSQV436I

qmgr-name の未確定スレッド -

説明

このメッセージは、QMNAME キーワードが指定されたときに、DISPLAY THREAD TYPE(INDOUBT) コマンドへの応答を構成する。このメッセージは、要求されたキュー・マネージャー上の未確定作業単位ごとに状況情報を提供する。この情報は、メッセージ CSQV406I の情報と同じ形式で表示される。

システム・アクション

処理は正常に続けられる。

CSQV437I

CANNOT RESOLVE THREAD NID=*origin-id*, SOME RESOURCES UNAVAILABLE

説明

RESOLVE INDOUBT コマンドは、回復に必要な資源のいくつかが使用できなかったため、回復するようにスケジュールされた、回復起点 ID *origin-id* によって指定されたスレッドを見つけることができなかった。

システム・アクション

示されたスレッドは未確定のままである。

CSQV450I

csect-name ddname データ・セットをオープンできません。

説明

これに先行するメッセージで報告された、*ddname* データ・セットをオープンすることができなかった。

システム・アクション

処理は続行されるが、そのデータ・セットを必要とする機能は使用禁止となる。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQV451I

csect-name 出口のための記憶域を取得できません。RC=*return-code*

説明

出口で使用するストレージを取得しようとしたができなかった。*return-code* は、z/OS STORAGE サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

処理は続行されるが、クラスター・ワークロード・ユーザー出口は使用できなくなる。

システム・プログラマーの応答

STORAGE 要求からの戻りコードについては、「z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書」資料の該当するボリュームを参照してください。

CSQV452I

csect-name クラスター・ワークロード出口が使用不可です。

説明

次のような問題があると、クラスター・ワークロード・ユーザー出口関数を使用できなくなる。

- キュー・マネージャーの開始済みタスク JCL プロシージャ xxxCHIN に CSQXLIB DD ステートメントがない。
- EXITTCB システム・パラメーターの値が 0 である。

システム・アクション

処理は続行されるが、クラスター・ワークロード・ユーザー出口は使用できなくなる。

システム・プログラマーの応答

クラスター・ワークロード管理出口を使用したい場合は、キュー・マネージャーの開始済みタスク JCL プロシージャに必要なステートメントを追加して、EXITTCB システム・パラメーターにゼロ以外の値を指定する。クラスター・ワークロード出口について詳しくは、[クラスター・ワークロード出口プログラミング](#)を参照。

CSQV453I

csect-name module-name をロードできません。理由=*ssssrrrr*

説明

キュー・マネージャーが出口を使用するのに必要なモジュールをロードできなかった。ssss は完了コード、rrrr は z/OS LOAD サービスからの理由コードである (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

処理は続行されるが、クラスター・ワークロード・ユーザー出口は使用できなくなる。

システム・プログラマーの応答

コンソールから、モジュールがロードされなかった理由を示すメッセージがないかを調べる。

LOAD 要求からのコードについては、「z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書」資料の該当するボリュームを参照してください。

モジュールが必要なライブラリーにあるかどうか、さらにそのモジュールが正しく参照されているかどうかを確認する。キュー・マネージャーは、その開始済みタスク JCL プロシージャ xxxxMSTR の STEPLIB DD ステートメントで、ライブラリー・データ・セットからこのモジュールのロードを試行する。

CSQV455E

csect-name クラスター・ワークロード出口 exit-name がタイムアウトになりました。

説明

クラスター・ワークロード・ユーザー出口が、EXITLIM システム・パラメーターにより指定された許容時間内にキュー・マネージャーに戻らなかった。

システム・アクション

CSQXLIB データ・セット内にあるこの出口のロード・モジュールを更新するまで、この出口は使用できない。

システム・プログラマーの応答

出口が時間内に戻らない原因を調査する。

CSQV456E

csect-name クラスター・ワークロード出口エラー。TCB=tcb-name 理由=sssuuu-reason

説明

クラスター・ワークロード・ユーザー出口で修正不可能なエラーが発生したため、TCB tcb-name を使用する出口サブタスクが異常終了した。sss はシステム完了コード、uuu はユーザー完了コード、また reason は関連する理由コードである (すべて 16 進表示)。

システム・アクション

サブタスクは異常終了し、通常、ダンプが発行される。CSQXLIB データ・セット内にあるこの出口のロード・モジュールを更新するまで、この出口は使用できない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー完了コードは、通常、出口によってエラーが検出されると表示される。システム完了コードが表示された場合は、出口の問題について、「z/OS MVS システム・コード」の資料を参照してください。

CSQV457E

csect-name ESTAE を確立できません。RC=return-code

重大度

8

説明

始動処理中に、クラスター・ワークロード・ユーザー出口タスクの回復環境を設定できなかった。return-code は、z/OS ESTAE サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

タスクは開始されない。1つ以上のタスクを開始すると、クラスター・ワークロード・ユーザー出口を使用できるようになる。

システム・プログラマーの応答

ESTAE 要求からの戻りコードについては、「z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書」資料の該当するボリュームを参照してください。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQV459I

csect-name 出口のための記憶域を開放できません。RC=return-code

説明

出口で使用していたストレージを解放しようとしたができなかった。return-code は、z/OS STORAGE サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

STORAGE 要求からの戻りコードについては、「z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書」資料の該当するボリュームを参照してください。

CSQV460I

csect-name クラスター・ワークロード出口は使用不可ですが、**CLWLEXIT** が設定されています。

説明

CLWLEXIT 値は開始時にキュー・マネージャー上にありますが、クラスター・ワークロード出口は使用可能になっていないため、操作できません。

システム・アクション

メッセージ CSQV461D が出されますが、**CLWLEXITs** は使用可能になっていません。

CSQV461D

csect-name

CLWLEXIT が有効になっていない状態で始動を続行する場合は Y と応答し、シャットダウンする場合は N と応答します。

説明

メッセージ CSQV460I の後に発行された。クラスター・ワークロード出口が有効になっていない状態でキュー・マネージャーに **CLWLEXIT** が設定されているため、クラスター・ワークロード出口が有効になっていない状態で始動を続行するには応答が必要です。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は、オペレーターからの応答を待機する。Y と応答すると、キュー・マネージャーは、クラスター・ワークロードが使用可能になっていない状態で始動を続行することができます。N と応答すると、キュー・マネージャーは異常終了理由 00D40039 でシャットダウンします。

クラスター・ワークロード出口が有効になっていない場合、**CLWLEXIT** 値はブランク値にのみ変更でき、出口は機能しません。IBM MQ 提供のワークロード・バランシング・アルゴリズムと属性を使用して、オブジェクトの選択方法を変更し、**CLWLEXIT** 値を削除する必要があります。詳しくは、クラスターでのワークロード・バランシングを参照してください。

詳しくは、IBM サポートにお問い合わせください。

観測機能メッセージ (CSQW...)

CSQW001I

ASYNCHRONOUSLY GATHERED DATA IS BEING FORMATTED

説明

ダンプ・フォーマット出口は、フォーマットに要約ダンプ・レコードを使用していない。フォーマットされた制御ブロックには、エラー発生時と同じ値が含まれていない可能性がある。

システム・アクション

ダンプのフォーマットが続けられる。

システム・プログラマーの応答

要約ダンプ・レコードを使用する場合は、MQ DUMP DISPLAY MAIN MENU (ダンプ表示パネルを使用している場合) においても、CSQWDMP 動詞出口 (行モード IPCS を使用している場合) においても、'SUMDUMP=NO' オペランドを指定しないようにする。

CSQW002I

SUMMARY DUMP RECORDS ARE BEING FORMATTED

説明

ダンプ・フォーマット出口は、MQ 要約ダンプ・レコードを使用して制御ブロックをフォーマット中である。

システム・アクション

ダンプのフォーマットが続けられる。

システム・プログラマーの応答

フォーマットで IBM MQ 要約ダンプ・レコードを使用しない場合、MQ DUMP DISPLAY MAIN MENU (ダンプ表示パネルを使用している場合) または CSQWDMP 動詞出口 (行モード IPCS を使用している場合) で 'SUMDUMP=NO' および 'SUBSYS=subsystem name' を指定する。両方のオペランドが必要である。

CSQW004E

ONE OR MORE OPERANDS ARE NOT VALID. FORMATTING TERMINATED

説明

MQ ダンプ表示メイン・メニュー (ダンプ表示パネルを使用している場合) または CSQWDMP 動詞出口 (行モード IPCS を使用している場合) で、無効なオペランドが指定された。

システム・アクション

ダンプ・フォーマット出口は終了する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQW007E で示されたオペランドを訂正する。

CSQW006E

THE ERLY BLOCK CANNOT BE ACCESSED OR IT IS INVALID

説明

ダンプ・フォーマット出口が、そのアンカー・ブロックを見つけることができなかった。

システム・アクション

ダンプ・フォーマット出口は終了する。

システム・プログラマーの応答

MQ DUMP DISPLAY MAIN MENU (ダンプ表示パネルを使用している場合) または CSQWDMP 動詞出口 (行モード IPCS を使用している場合) で 'SUBSYS=subsystem name' および 'SUMDUMP=NO' を指定する。

CSQW007E

OPERAND IS NOT VALID: xxxx

説明

指定されたオペランドが、有効なダンプ・フォーマット・オペランドではなかった。

システム・アクション

ダンプ・フォーマット出口は終了する。

システム・プログラマーの応答

ダンプ・フォーマット・オペランドを調べる。

CSQW008E

THE SCOM CANNOT BE ACCESSED OR IT IS INVALID

説明

SCOM を取り出そうとしたところ、エラーが見つかった。

システム・アクション

ダンプ・フォーマット出口は終了する。

システム・プログラマーの応答

MQ DUMP DISPLAY MAIN MENU (ダンプ表示パネルを使用している場合) または CSQWDMP 動詞出口 (行モード IPCS を使用している場合) で 'SUMDUMP=NO' が指定されていた場合、それを除去してから、要求を再実行する。そうでない場合は、このオペランドを指定して、要求を再実行する。

CSQW009E

THE ADDRESS SPACE REQUESTED IS NOT AVAILABLE

説明

指定されたアドレス・スペースの MQ 制御ブロックが見つからない。

システム・アクション

要求されたダンプ・セグメントがほかにあれば、そのフォーマットが続けられる。

システム・プログラマーの応答

指定された ASID を調べる。ASID は、16 進数で指定しなければならない。

CSQW010E

THE TRACE RMFT CANNOT BE ACCESSED OR IT IS INVALID

説明

MQ トレース表が見つからなかった。

システム・アクション

MQ トレース表のフォーマットはバイパスされ、要求されたダンプ・セグメントがほかにあれば、そのフォーマットが続けられる。

システム・プログラマーの応答

'SUMDUMP=NO' を指定していた場合は、このデータにアクセスするのに必要な情報が要約ダンプに含まれていることがあるので、要約ダンプを使用してもう一度ダンプをフォーマットしてみる。

'SUMDUMP=NO' を指定しておらず、かつ要約ダンプを使用していた場合には、要約ダンプ・データが破壊されている可能性があるため、このオプションを指定してもう一度ダンプをフォーマットしてみる。

CSQW011I

A LARGER REGION SIZE IS REQUIRED FOR THIS JOB

説明

ダンプ・フォーマット出口が、要約ダンプ・レコードを処理するのに必要な十分な大きさの作業バッファを手に入できなかった。

システム・アクション

ダンプ・フォーマット出口は終了する。

システム・プログラマーの応答

もっと大きな TSO 領域サイズ (バッチで実行している場合はもっと大きな領域サイズ) を指定して、ジョブを再実行する。

CSQW013I

DMPW NOT FOUND IN SUMMARY DUMP

説明

ダンプ・フォーマット出口が、ダンプ・データ・セットの要約レコード部分に、DMPW 制御ブロックを見つけることができなかった。DMPW はダンプ・フォーマッターに必要なメイン・アンカー・ブロックを提供するので、処理は終了する。

システム・アクション

ダンプ・フォーマット出口は終了する。

システム・プログラマーの応答

'SUBSYS=xxxx' を指定して、情報フォーマットの対象となるアドレス・スペースを指定する。

CSQW014I

REQUIRED SUMMARY DUMP RECORDS ARE NOT IN THIS DUMP. WILL ATTEMPT TO FORMAT FROM NON-SUMMARY DUMP

説明

予期したデータが、要約ダンプに見つからなかった。このメッセージは、通知用としてのみ出される。ダンプのフォーマットが続けられる。

システム・アクション

要約ダンプの代わりに完全ダンプからの情報を使用して、フォーマットが実行される。

CSQW015I

SSCVT NOT LOCATED, CHECK THE SUBSYSTEM NAME SPECIFIED

説明

SSCVT チェーンの探索で、SSCVT の中に、指定されたサブシステム名と一致するサブシステム名がなかった。

システム・アクション

指定されたサブシステムのフォーマットは行われない。

システム・プログラマーの応答

サブシステム名を正しく指定する。

CSQW016I

THE RMVT CANNOT BE ACCESSED OR IT IS INVALID

説明

ダンプ・フォーマット出口が、RMVT をつけることができなかった。RMVT は、MQ トレース表および他の多くの MQ 制御ブロックのフォーマットに必要である。

システム・アクション

MQ トレース表のフォーマットはバイパスされ、要求されたダンプ・セグメントがほかにあれば、そのフォーマットが続けられる。

システム・プログラマーの応答

'SUMDUMP=NO' を指定していた場合は、このデータにアクセスするのに必要な情報が要約ダンプに含まれていることがあるので、要約ダンプを使用してもう一度ダンプをフォーマットしてみる。

'SUMDUMP=NO' を指定しておらず、かつ要約ダンプを使用していた場合には、要約ダンプ・データが破壊されている可能性があるため、このオプションを指定してもう一度ダンプをフォーマットしてみる。

CSQW017E

MAXIMUM STACK LEVEL EXCEEDED

説明

この状態は、通常、MQ 制御ブロック・フォーマッターのループが原因で起こる。スタック配列がほとんど消費され、制御ブロックを収容できなくなる。

システム・アクション

ダンプのフォーマットは終了する。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートにお問い合わせください。

CSQW018I

SUBSYS= SPECIFIED INCORRECTLY OR MISSING. REQUIRED IF SUMDUMP=NO SPECIFIED

説明

'SUMDUMP=NO' オプションが指定されていたが、'SUBSYS=' オペランドが欠落しているか、または指定方法が間違っていた。

システム・アクション

ダンプのフォーマットは終了する。

システム・プログラマーの応答

'SUBSYS=' オペランドにサブシステムの名前を指定してから、要求を再実行する。

CSQW020I

UNSUCCESSFUL SEARCH FOR THE ERLY CONTROL BLOCK

説明

キー制御ブロックがダンプ内に見つからなかった。

システム・アクション

ダンプのフォーマットは終了する。

システム・プログラマーの応答

'SUBSYS=' オペランドが正しく指定されていることを確認してから、要求を再実行する。

CSQW022I

THE RESIDENT TRACE WAS NOT ACTIVE AT THE TIME OF DUMP

説明

トレース表をフォーマットしようとしたが、ダンプ時にトレース表が存在していなかった。

システム・アクション

フォーマットすべき制御ブロックがほかにあれば、それを用いてダンプのフォーマットが続けられる。

CSQW023I

THE TRACE TABLE ENTRY IS OUT OF SEQUENCE OR OVERLAID

説明

トレース項目が、異なるタイム・スタンプの別のトレース項目によってオーバーレイされている。このメッセージは、認識できないトレース項目にフラグを立てるために出される。ダンプがオペレーター・コマンドによって開始された場合は、ダンプがとられている間 MQ アドレス・スペースは実行を続けるので、このエラーが起こることがある。

システム・アクション

トレース表のフォーマットが続けられる。

CSQW024I

TRACE TABLE

説明

フォーマットされたトレース表の開始を示す。

システム・アクション

このトレース表のフォーマットが続く。

CSQW025I

ERROR ACCESSING THE TRACE TABLE

説明

トレース表にアクセスしているときに、ストレージ・アクセス・ルーチンから、ゼロ以外の戻りコードが戻された。

システム・アクション

トレース表のフォーマットはバイパスされる。

CSQW026I

CONTROL BLOCK SUMMARY (ALL ADDRESS SPACES)

説明

このメッセージは、行われているフォーマットのタイプに関する記述情報を提供する。

システム・アクション

ダンプのフォーマットが続けられる。

CSQW027I

CONTROL BLOCK SUMMARY (SINGLE ADDRESS SPACE)

説明

このメッセージは、行われているフォーマットのタイプに関する記述情報を提供する。

システム・アクション

ダンプのフォーマットが続けられる。

CSQW028I

CONTROL BLOCK SUMMARY (LONG FORM GLOBAL)

説明

このメッセージは、行われているフォーマットのタイプに関する記述情報を提供する。

システム・アクション

ダンプのフォーマットが続けられる。

CSQW029I

CONTROL BLOCK SUMMARY (SHORT FORM GLOBAL)

説明

このメッセージは、行われているフォーマットのタイプに関する記述情報を提供する。

システム・アクション

ダンプのフォーマットが続けられる。

CSQW030E

DUMP ACCESS ERROR ACCESSING THE CONTROL BLOCK STRUCTURE TABLE IN THE DUMP

説明

MQ 制御ブロックの構造体を識別する制御ブロックが見つからなかった。

システム・アクション

制御ブロックのフォーマットは終了する。

システム・プログラマーの応答

z/OS コンソールを検査し、ダンプがとられた時点で問題があったことを示すメッセージが出されていないか調べる。IBM MQ にエラーがあることが考えられる場合、[トラブルシューティングおよびサポート](#)を参照して、問題の報告方法について確認する。

CSQW032E

ERROR ACCESSING ANCHOR CONTROL BLOCK

説明

ダンプから制御ブロックにアクセスすることができない。

システム・アクション

制御ブロックのフォーマットは終了する。

システム・プログラマーの応答

z/OS コンソールを検査し、ダンプがとられた時点で問題があったことを示すメッセージが出されていないか調べる。IBM MQ にエラーがあることが考えられる場合、[トラブルシューティングおよびサポート](#)を参照して、問題の報告方法について確認する。

CSQW033I

BEGINNING FORMATTING

説明

MQ 制御ブロックのフォーマットが開始された。

CSQW034I

TRACE TABLE AND GLOBAL BLOCKS ALREADY FORMATTED

説明

示されたダンプが要求されている。MQ トレース表とグローバル・ブロックは、この異常終了ダンプ (SNAP) 呼び出しの最初のダンプ (完全ダンプ) ですすでにフォーマットされている。したがって、このタスク用にフォーマットされていない。

CSQW035I

WARNING - このタスクにはタスク関連の制御ブロックはありません。

説明

ダンプが要求されているタスクは、MQ に識別されていない。タスク関連制御ブロックはダンプされない。MQ トレース表とグローバル・ブロックがダンプされるのは、SYSABEND DD ステートメントが存在し、かつこれがこの異常終了ダンプ (SNAP) 呼び出しのダンプ (完全ダンプ) の最初のダンプである場合だけである。

システム・アクション

指定されたタスクについては、MQ のフォーマットは行われぬ。

CSQW036I

CONTROL BLOCKS FOR TASKS ASSOCIATED WITH THE ABOVE RECOVERY COORDINATOR TASK

説明

このメッセージの後に示されるフォーマット済みブロックには、MQ に対して 'recovery coordinator = no' オプション付きとして識別されているタスクが関連付けられている。これらのタスクは、SNAP を呼び出していないかもしれないが、呼び出しを行ったタスクと関連付けられている。

システム・アクション

適切な制御ブロックがフォーマットされる。

システム・プログラマーの応答

関連のある情報については、制御ブロックを調べる。

CSQW037I

TASK RELATED CONTROL BLOCKS FOR THIS TASK

説明

このメッセージの後に示されるフォーマット済みブロックは、現行のタスクに関連付けられる。

システム・アクション

適切な制御ブロックがフォーマットされる。

システム・プログラマーの応答

関連のある情報については、制御ブロックを調べる。

CSQW038I

END OF FORMATTING

説明

MQ 制御ブロックのフォーマットが完了した。

CSQW039I

FORMATTING COMPLETE FOR THIS DUMP

説明

ダンプ・フォーマット・ルーチンが、このダンプ・データ・セットの処理を完了した。

CSQW041E

THE TAB CANNOT BE ACCESSED OR IT IS INVALID

説明

MQ トレース表アンカー・ブロックが見つからなかった。

システム・アクション

MQ トレース表のフォーマットはバイパスされ、要求されたダンプ・セグメントがほかにあれば、そのフォーマットが続けられる。

システム・プログラマーの応答

'SUMDUMP=NO' を指定していた場合は、このデータにアクセスするのに必要な情報が要約ダンプに含まれていることがあるので、要約ダンプを使用してもう一度ダンプをフォーマットしてみる。

'SUMDUMP=NO' を指定しておらず、かつ要約ダンプを使用していた場合には、要約ダンプ・データが破壊されている可能性があるため、このオプションを指定してもう一度ダンプをフォーマットしてみる。

z/OS コンソールを検査し、ダンプがとられた時点で問題があったことを示すメッセージが出されていないか調べる。IBM MQ にエラーがあることが考えられる場合、[トラブルシューティングおよびサポート](#)を参照して、問題の報告方法について確認する。

CSQW042E

REQUIRED SUMMARY DUMP RECORDS ARE NOT IN THIS DUMP. RERUN SPECIFYING SUBSYS= PARAMETER

説明

要約ダンプ・レコードがダンプ内に見つからなかった。これが起こった場合、ダンプ・フォーマッターは、どのアドレス・スペースをフォーマットするかを識別できるようにサブシステム名を必要とする。

システム・アクション

ダンプのフォーマットは終了する。

システム・プログラマーの応答

サブシステム名のパラメーターを指定して ('SUBSYS=' を使用) フォーマットを再実行する。

CSQW049I

OLDEST SLOT ADDRESS INVALID, FORMATTING TRACE TABLE FROM FIRST ENTRY

説明

制御ブロックには、トレースを定義するポインターがいくつかある。トレース・データを含むストレージの始まりを指すもの、終わりを指すもの、次のフリー・レコードを指すもの、などである。次のフリー・レコードへのポインターが、ストレージの始まりと終わりへのポインターによって示された範囲内にあることを、フォーマッターが検出した。

システム・アクション

ダンプのフォーマットが続けられるが、最も古いレコードからではなく、トレース表の物理的な始まりから行われる。

システム・プログラマーの応答

時刻値が意味をもつものである場合は、フォーマットされたトレースを順番に走査し、書き込まれた最新のトレース・レコードを見つける。

CSQW050I

ssnm NO SDWA/LOGREC, ABN=*comp-reason*, U=*userid*, M=*module*, C=*compid.vrm.comp-function*

説明

このメッセージは、回復処理中に SDWA を使用できなかった場合に、SYS1.DUMP データ・セットに関連するデフォルトの SVC ダンプ・タイトル (SDUMP) を提供する。個々の変数フィールドには、次の値が入る。

フィールド

内容

ssnm

MQ サブシステム名

ABN

異常終了完了コードおよびその後に異常終了理由コード

U

個々のサブシステム・ユーザーのユーザー ID

M

ダンプの責任を負うべき機能回復ルーチン

C

コンポーネント ID

vrm

MQ のバージョン、リリース番号、および修正レベル

comp-function

コンポーネント ID の機能

システム・アクション

ダンプの処理が続けられる。

システム・プログラマーの応答

SDWA は問題判別に役立つ重要な診断情報を提供するので、エラー発生時の回復環境を調べ、この異常終了に SDWA が提供されなかった理由を判別する。

非回復環境では、SDWA が欠落していても問題ではないこともある (例えば、オペレーターがダンプを開始した場合など)。

CSQW051E

ERROR DURING DUMP PROCESSING

説明

このメッセージは、ダンプ処理中にエラーが見つかった場合に、SDUMP ダンプ・データ収集サービスの回復ルーチンによって生成される。

システム・アクション

SUMLSTA ユーザー・ストレージの処理は終了し、SVC ダンプが要求され、制御権が RTM に戻される。

システム・プログラマーの応答

このエラーは、SYS1.LOGREC レコードに記録される。このメッセージは、SDUMP の呼び出しのエラー、SDUMP 自体のエラー、または制御ブロックの検査およびアクセス時に、出されることがある。

CSQW053I

VRA DIAGNOSTIC INFORMATION REPORT

説明

可変記録域 (VRA) は、システム診断作業域 (SDWA) の一部であり、MQ 診断情報を含んでいる。VRA が取り出され、この報告書に表示されている。

この報告書については、[トラブルシューティングおよびサポート](#)を参照。

システム・アクション

ダンプのフォーマットが続けられる。

CSQW054I

NO VRA DATA RECORDED IN SDWA

説明

SYS1.DUMP データ・セットから入手された SDWA には、VRA に診断情報が入っていなかった。

システム・アクション

VRA 報告書作成は省略され、ダンプのフォーマット処理が続けられる。

CSQW055I

UNABLE TO LOCATE SDWA

説明

z/OS 要約ダンプ・データ・アクセス・サービス・ルーチン (IEAVTFRD) が、SYS1.DUMP データ・セットの要約データ部分に、SDWA を見つけることができなかった。SVC ダンプに SDWA が入れられるのは、SVC ダンプが MQ によって開始された場合だけである。ダンプが他の手段 (オペレーターなど) によって開始された場合には、SDWA は含められない。

システム・アクション

VRA は作成されず、ダンプのフォーマット処理が続けられる。

CSQW056I

VRA DIAGNOSTIC REPORT COMPLETE

説明

ダンプ・フォーマッターが、VRA 診断報告書の処理を完了した。

システム・アクション

ダンプのフォーマットが続けられる。

CSQW059I

SUMMARY OF CONNECTED JOBS

説明

この後に、接続されたジョブの情報についての要約が示される。

システム・アクション

この後に、ジョブ要約情報が示される。

CSQW060I

BEGIN SAVE AREA TRACE

説明

このメッセージは、MQ SVC ダンプのフォーマットされた部分に現れる MQ レジスタ保管域トレース報告書の開始を識別する。この報告書は、エラーのエージェント実行ブロック (EB) の保管域、およびエラー時点からトレースされて呼び出し順に表示されるすべての関連エージェント EB の保管域を含んでいるので、問題判別に役立つ。

システム・アクション

エラーのエージェント EB および関連するすべてのエージェント EB に関する保管域トレースのフォーマット処理が続けられる。

CSQW061I

SAVE AREA TRACE COMPLETE

説明

このメッセージは、MQ のフォーマット済み保管域トレース報告書 (CSQW060I) が完了したことを示す。

システム・アクション

ダンプのフォーマットが続けられる。

CSQW062I

R6 (R6-contents) DOES NOT CONTAIN A VALID EB ADDRESS

説明

MQ のフォーマット済み保管域トレース報告書 (CSQW060I) のダンプ・フォーマット処理時に、レジスタ 6 (R6) に、有効なエージェント実行ブロック (EB) のアドレスが含まれていなかった。

システム・アクション

現行エージェント EB とそれ以前のすべての EB に関する保管域トレースのフォーマット処理は終了する。

CSQW063E

name (address) ASID (*asid*) NOT FOUND IN DUMP

説明

保管域トレース報告書 (CSQW060I) の処理中に、制御ブロックまたは保管域がダンプ・データ・セット内に見つからなかった。

ダンプ・フォーマッターは、このメッセージの *name* フィールドで定義された MQ および z/OS 制御ブロックを使用して個々のレジスタ保管域を見つけるため、*named* 制御ブロックまたは保管域を使用して見つかった後続の保管域はレポートに表示されません。

name

ダンプ・データ・セットに見つからなかった制御ブロックまたは保管域の名前を示す。

SA

保管域を示す

ASCE

MQ アドレス・スペース制御エレメント

EB

MQ 実行ブロック

TCB

z/OS タスク制御ブロック

RB

z/OS 要求ブロック

XSB

z/OS 拡張状況ブロック

PSA

z/OS 接頭部保管域

SDWA

z/OS システム診断作業域

STSV

z/OS SRB 状況保管域

STKE

z/OS 仮想記憶間スタック・エレメント

アドレス

示された制御ブロックまたは保管域のアドレス。

ASID

制御ブロックまたは保管域に関連するアドレス・スペース ID。

選択された MQ および z/OS 制御構造体の実行構造体や環境上の制約により、これらの実行環境に関連する一部の制御ブロックおよび保管域は、ダンプ・データ・セットには含まれない。

システム・アクション

現行の保管域チェーンに関するレジスター保管域トレースのフォーマット処理は終了する。その後の保管域処理は、使用可能であった特定の制御ブロックまたは保管域、およびエラー発生時の MQ エージェントの実行環境によって異なる。

CSQW064I

ERROR BLOCK NOT FOUND IN DUMP

説明

ストレージが見つからなかったために、ダンプ・フォーマッターが制御ブロックをフォーマットできなかった。

システム・アクション

ダンプのフォーマットが続けられる。

CSQW065I

ERROR BLOCK LENGTH INCORRECT

説明

制御ブロックのフォーマット時に、予期された長さとダンプから判断された値が一致しないことがわかった。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、制御ブロックが破壊されたことを意味する場合がありますので、もっと重大な問題を解決する際に有用である。

CSQW066I

ERROR BLOCK ID INCORRECT

説明

それぞれの制御ブロック・タイプは、検証用に固有の ID を持つ。制御ブロックのフォーマット時に、予期された値とダンプの制御ブロックで見つけた値が一致していなかった。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、ストレージのオーバーレイや、制御ブロックの破壊を意味する場合がありますので、もっと重大な問題を解決する際に有用である。

CSQW067I

ERROR BLOCK CHAINED FROM THIS BLOCK NOT FOUND IN DUMP

説明

制御ブロックは、他の制御ブロックへのポインターを含むことができる。現行の制御ブロックによって指し示された制御ブロックが、ダンプ内に見つからない。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、ストレージのオーバーレイを意味する場合がありますので、もっと重大な問題を解決する際に有用である。示された制御ブロックに関連して、エラー・メッセージ CSQW064I が出力される。

CSQW068I

ERROR BLOCK CHAINED FROM THIS BLOCK HAS INCORRECT ID

説明

それぞれの制御ブロック・タイプは、検証用に固有の ID を持つ。現行の制御ブロックによって示された制御ブロックのフォーマット時に、予期された値とダンプの制御ブロックで見つかった値が一致していなかった。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、ストレージのオーバーレイや、制御ブロックの破壊を意味する場合がありますので、もっと重大な問題を解決する際に有用である。エラーの制御ブロックに関連して、エラー・メッセージ CSQW066I が出力される。

CSQW069I

ERROR BLOCK EYECATCHER INCORRECT

説明

それぞれの制御ブロック・タイプは、検証用に固有の目印を持つ。制御ブロックのフォーマット時に、予期された値とダンプの制御ブロックで見つかった値が一致していなかった。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、ストレージのオーバーレイや、制御ブロックの破壊を意味する場合がありますので、もっと重大な問題を解決する際に有用である。

CSQW070I

DUMP TITLE *dump-title*

説明

ダンプのタイトルを示す。

CSQW072I

ENTRY: MQ user parameter trace

説明

このメッセージは、フォーマットされた MQ トレースに挿入され、MQ に入る時点で制御ブロックがトレースされたことを示している。

CSQW073I

EXIT: MQ user parameter trace

説明

このメッセージは、フォーマットされた MQ トレースに挿入され、MQ から出る時点で制御ブロックがトレースされたことを示している。

CSQW074I

ERROR: MQ user parameter trace

説明

このメッセージは、フォーマットされた MQ トレースに挿入され、エラーであると判断されたために制御ブロックがトレースされたことを示している。

CSQW075I

WARNING - data was truncated at 256 bytes

説明

このメッセージは、制御ブロックの長さの限界である 256 バイトを超えた場合に、フォーマットされた MQ トレースに挿入される。

CSQW076I

Return code was *mqrc*

説明

このメッセージは、エラーが検出されたときに、フォーマット設定された MQ トレースに挿入されます。*mqrc* は戻りコードです。このコードについては、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQW105E

ERROR DURING LOAD OR VALIDATION OF A CONTROL BLOCK STRUCTURE TABLE MODULE

説明

MQ ダンプ・フォーマット機能を使用して、制御ブロックをフォーマットすることができない。始動処理時、MQ プログラム・ライブラリーから、制御ブロック構造体表モジュール (CSQWDST1、CSQWDST2、CSQWDST3、および CSQWDST4) の 1 つをロードしようとしたときに、エラーが起こった。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。

システム・プログラマーの応答

問題が起こると予想される場合は、キュー・マネージャーを停止させ、問題を解決したうえで、再始動する。このエラーにより問題が起こるとは考えられない場合は、随時に、キュー・マネージャーを停止し、再始動することができる。

CSQW108E

'*type*' トレースを自動開始できません

説明

システム・パラメーターでは、キュー・マネージャーの初期設定時に MQ トレースが自動的に開始されるはずであると示されていたが、キュー・マネージャーはトレースを開始できなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーの初期設定は続けられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーの初期設定が完了した後で、START TRACE コマンドを使用してトレースを開始する。

CSQW109E

'*type*' トレースに対して、トレース初期設定パラメーターが使用不可のため、デフォルトが使用されません

説明

トレース機能が、CSQ6SYSP マクロによって定義されたトレース初期設定パラメーターにアクセスできなかった。そのマクロによって定義されたデフォルト値が、トレース・パラメーターとして使用される。

システム・アクション

キュー・マネージャーの初期設定は続けられる。

システム・プログラマーの応答

システム・パラメーター・ロード・モジュール (デフォルトのバージョンは CSQZPARM と呼ばれている) が欠落しているのか、アクセス不能なのかを判別する。START TRACE コマンドを使用すれば、トレースを開始することができる。

CSQW120E

'*type*' トレースに対して、宛先値が無効です

説明

トレース・コマンドが入力されたが、指定された宛先値が、要求されたトレース・タイプには無効である。

システム・アクション

TRACE コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

START TRACE コマンドを入力した場合は、トレースの有効な宛先を指定する。それ以外の場合は、DISPLAY TRACE コマンドを出して、どのようなトレースが現在活動状態であるかを判別する。[MQSC コマンド](#)を参照して、有効な宛先について確認する。

CSQW121E

'type' トレースに対してクラス値が無効です

説明

トレース・コマンドが入力されたが、指定されたクラス値が、要求されたトレース・タイプには無効である。

システム・アクション

TRACE コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

START TRACE コマンドを入力した場合は、トレースの有効なクラスを指定する。それ以外の場合は、DISPLAY TRACE コマンドを出して、どのオプションが現在活動状態であるかを判別する。[MQSC コマンド](#)を参照して、有効なクラスについて確認する。

CSQW122E

'type' トレースに対して 'keyword' が無効です

説明

トレース・コマンドが入力されたが、*keyword* は、指定されたトレース・タイプには無効である。

システム・アクション

TRACE コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

示されたキーワードをコマンドから取り除くか、または異なるタイプのトレースを指定する必要がある。[MQSC コマンド](#)を参照して、キーワードとトレース・タイプの有効な組み合わせについて確認する。

CSQW123I

csect-name トレース記録は *dest* で再開されました。

説明

dest 宛先がエラーの後で、トレース・データの受け入れを再開した。

システム・アクション

データの記録が再開される。

CSQW124E

csect-name 'type' トレースは終了しました。RC=*code* RMID=*nn*

説明

type トレースの処理中に、エラーのために処理が終了した。トレース・タイプがブランクのときは、すべてのトレースが停止したことを表している。10 進数で表示される RMID は、リソース・マネージャーを示す。IBM MQ RMID については、[MQSC コマンド](#)の TRACE コマンドを参照。

16 進数で表示される *code* は、その処理に関連する戻りコード、理由コード、または異常終了コードを示す。これらのコードについては、922 ページの『[IBM MQ for z/OS コード](#)』を参照。

IBM MQ for z/OS によって生成されないエラーが原因で発生するコードについて詳しくは、「[z/OS システム完了コード](#)」を参照してください。

指定されたトレースのそれ以上の収集は停止される。トレースの収集を再開する場合は、START TRACE コマンドを実行する。しかし、別のエラーが起きている場合は、トレース収集を再開する前に、問題を解決しなければならない。

システム・アクション

指定されたトレース・タイプの処理は停止する。このメッセージは、機能回復ルーチンによって外面に表されることはないが、後で IFC イベントが駆動されたときに出力される。トレース・タイプがブランクのときは、すべてのトレースが停止したことを表している。

システム・プログラマーの応答

このエラーの理由を調べる。示されたトレースを収集する必要がある場合は、START TRACE コマンドを実行して、処理を再開する。

CSQW125E

MULTIPLE VALUES NOT ALLOWED FOR *keyword* AND *keyword*

説明

示されたキーワードの両方に複数の値が指定された。単独コマンド上では、これらのキーワードのうち1つだけが、複数の値を指定できる。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

有効なコマンドを入力し直す。補足情報については、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQW126E

'*type*' トレースは許可されません。アクティブ・トレース表がいっぱいです

説明

活動トレース表が、許可される活動トレースの最大数に達したため、*type* トレースを開始することができない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

DISPLAY TRACE コマンドを使用して、活動トレースを停止できるかどうかを調べる。活動トレースを停止しなければ、他のトレース開始コマンドを処理することはできない。

CSQW127I

現在のトレース・アクティビティ -

説明

このメッセージは DISPLAY TRACE コマンドに応答して出される。このメッセージは、活動状態にある各トレースに対して、トレース番号、トレース・タイプ、タイプ別のクラス、トレース項目の宛先、ユーザー ID および RMID を以下のように示す。

```
TNO TYPE CLASS DEST USERID RMID  tno type class dest userid rmid :  END OF TRACE REPORT
```

トレース番号 *tno* は次のいずれかになる。

01-03

キュー・マネージャーの始動時に自動的に開始されたトレース、または START TRACE コマンドにより開始されたトレース。

04-32

START TRACE コマンドにより開始されたトレース。

00

チャンネル・イニシエーターの始動時に自動的に開始されたグローバル・トレース。

注:

1. TRACE(S) CLASS(4) (チャンネル・イニシエーター統計) では、チャンネル・イニシエーターがアクティブでメッセージ `CSQX128I` が出力された場合のみトレースが収集される。
2. TRACE(A) CLASS(4) (チャンネル・アカウントティング) では、チャンネル・イニシエーターがアクティブでメッセージ `CSQX126I` が出力された場合のみトレースが収集される。

CSQW130I

'type' トレース開始。トレース番号 *tno* を割り当てました

説明

コマンドに対する応答として、またはキュー・マネージャーの起動時に自動的に、*type* トレースが開始され、トレース番号 *tno* が割り振られた。開始要求に複数のユーザー ID が指定されている場合は、複数のメッセージが出される可能性がある。

システム・アクション

要求の処理が継続される。指定されたトレースがチャンネル・イニシエーターに適用される場合、要求はキューに入れられる。メッセージ `CSQW152I` を参照。

CSQW131I

トレース番号 *tno*、... のトレースが正常に停止しました

説明

コマンドに対する応答として、トレース番号、*tno*、...、`have been stopped`。5 つまでのトレース番号が表示される。5 つを超えるトレースが停止された場合は、別の `CSQW131I` メッセージが送られる。

システム・アクション

要求の処理が継続される。指定されたトレースがチャンネル・イニシエーターに適用される場合、要求はキューに入れられる。メッセージ `CSQW152I` を参照。

CSQW132I

ALTER TRACE SUCCESSFUL FOR TRACE NUMBER *tno*

説明

トレース番号 *tno* が変更される。

システム・アクション

要求の処理が継続される。

CSQW133E

csect-name トレース・データが失われました。dest アクセス不能。RC=*code*

説明

示された宛先が、トレース中に、トレース・データの受け入れを停止した。外部の何らかの条件により、データ拒否が行われた。このエラーの理由は、戻りコード (RC) によって定義されている。*code* は次のいずれかになる。

- SMF からの 16 進戻りコード。具体的な値については、「[z/OS MVS システム管理機能 \(SMF\)](#)」の資料を参照してください。
- GTF 要求からの 16 進戻りコード。

04

GTF トレースまたは USR トレース (またはこの両方) が活動状態でない。

- SRV 要求からの 16 進戻りコード。

10

保守容易性ルーチンが存在していない。

xx

保守容易性ルーチンからの戻りコード。

システム・アクション

トレース処理は続けられるが、データは失われる。

システム・プログラマーの応答

GTF または SMF 機能を調べ、データが受け入れられない理由を判別する。START TRACE コマンドを実行すると、データを別の宛先に記録することができる。DISPLAY TRACE コマンドを使用すると、指定の宛先に記録されているデータのタイプが示される。

戻りコード値の説明については、「[z/OS MVS システム管理機能 \(SMF\)](#)」の資料を参照してください。

CSQW135I

'type' トレースは既にアクティブです。トレース番号 *tno*

説明

type トレースは、トレース番号 *tno* ですすでに活動中である。

システム・アクション

すでに進行中のトレースの処理が続けられる。

CSQW137I

SPECIFIED TRACE NOT ACTIVE

説明

以下のいずれかを実行します。

- コマンドが特定のトレースに対する処置を要求したが、そのトレースが活動トレース表内に見つからない。
- コマンドがすべてのトレースに対する処置を要求したが、活動中のトレースがない。

システム・アクション

コマンド処理は続行される。

システム・プログラマーの応答

修飾されていない DISPLAY TRACE コマンド (キーワードを指定しない DISPLAY TRACE(*)) を実行し、活動中のトレース項目を判別する。

CSQW138E

IFCID *ifcid-number* IS INVALID

説明

指定された IFCID 番号が、有効な IFCID 番号の範囲内でないか、またはトレース・コマンドでは許可されない IFCID 番号である。

システム・アクション

トレース機能が実行される前に、トレース・コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

TRACE コマンドの詳細を、[MQSC コマンド](#)および[回線トレース](#)で参照する。

CSQW144E

CHANNEL INITIATOR NOT ACTIVE

説明

TRACE(CHINIT) が指定されたが、チャンネル・イニシエーターは活動状態ではない。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

START CHINIT コマンドを発行してチャンネル・イニシエーターを開始させ、コマンドを再発行する。

CSQW149E

RMID 231 は廃止されました。TRACE(CHINIT) を使用してください。

説明

コマンドが RMID 231 を指定しているが、これは以前チャンネル・イニシエーターのトレースに使用されたもので、現在は使用されていない。チャンネル・イニシエーターのトレースでは、TRACE(CHINIT) を指定する。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

コマンドを正しく発行する。キュー・マネージャーとチャンネル・イニシエーターの両方のトレースが必要な場合は、2つの別々のコマンドを発行する。

CSQW152I

TRACE REQUEST FOR CHANNEL INITIATOR QUEUED

説明

トレース・コマンドの初期処理が正常に完了した。このコマンドは、さらに、要求がキューに入れられたチャンネル・イニシエーターによる処置を必要とします。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターのために要求がキューに入れられている。コマンドが完了すると、さらにメッセージが作成される。

CSQW153E

csect-name 新規トレース・テーブルの記憶域が使用可能ではありません。

説明

前の SET SYSTEM TRACTBL コマンドで要求されたときに、新しいグローバル・トレース表の ECSA には不十分な記憶域しか存在しない。

システム・アクション

既存のグローバル・トレース表を使用して処理が続けられる。

システム・プログラマーの応答

ECSA 記憶域の使用状況を調べる。もう一度 SET SYSTEM TRACTBL コマンドを発行して、トレース表のサイズを受け入れられる値に設定する。

CSQW200E

Error during STORAGE OBTAIN macro. Return code=*rc*

説明

トレース・フォーマッターに必要なストレージを用意するために、z/OS ストレージ・マクロが出された。この要求は、戻りコード *rc* で失敗に終わった。

システム・アクション

制御ブロックのフォーマットは停止し、レコードの 16 進ダンプが作成される (これは、論理レコードの一部にすぎないことがある)。

システム・プログラマーの応答

STORAGE *rc* については、「z/OS MVS アセンブラー・サービス解説書」の該当するボリュームを参照。通常は、TSO 領域またはバッチ領域のサイズを大きくすることによって、この問題を解決することができる。問題が解決されたら、操作を再試行する。

CSQW201E

Error during STORAGE RELEASE macro. Return code=*rc*

説明

ストレージを解放するために、z/OS ストレージ・マクロが出された。この要求は、戻りコード *rc* で失敗に終わった。

システム・アクション

制御ブロックのフォーマットは停止し、レコードの 16 進ダンプが作成される (これは、論理レコードの一部にすぎないことがある)。

システム・プログラマーの応答

ダンプ処理を再試行する。問題が解決しなければ、*rc* の値をメモして、IBM サポートに連絡する。

CSQW202E

Incomplete trace record detected

説明

長いトレース・レコードがセグメント化されていたが、現在処理中のレコードの開始レコードが処理されていない。

これは、ある時刻範囲内のレコードが処理に選択された場合に起こることがある。セグメント開始フラグをもつレコードは、おそらく、選択された時間間隔の開始点より前にある。また、汎用トレース機能 (GTF) が GTF データ・セットにすべてのレコードを書き込むことができなかった場合にも、このエラーが起こることがある。

システム・アクション

レコードの 16 進ダンプが作成され、次のレコードを用いてフォーマットが続けられる。(この論理レコードのその後の各部分ごとに、このメッセージを受け取ることになる。)

システム・プログラマーの応答

時間間隔として、これより若干早い (例えば 10 分の 1 秒) 開始時刻を選択し、操作を再試行する。これで成功しなかった場合は、トレース表が循環しており、開始レコードが重ね書きされている可能性がある。

CSQW204E

内部エラー

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

レコードの 16 進ダンプが作成され、次のレコードを用いてフォーマットが続けられる。このメッセージの後に、メッセージ CSQW202E が出されることがある。

システム・プログラマーの応答

ダンプ処理を再試行する。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

CSQW205E

内部エラー

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

このレコードおよびその後のすべてのレコードが 16 進数で表示される。IBM MQ のトレース・フォーマットは抑止される。

システム・プログラマーの応答

ダンプ処理を再試行する。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

CSQW206I

Accounting record

説明

このメッセージは、このレコードを会計レコードとして識別するものである。

システム・アクション

レコードの 16 進ダンプが作成され、次のレコードを用いてフォーマットが続けられる。

CSQW207I

A Null Self Defining section was detected

説明

MQ トレース・フォーマッターが、長さがゼロの自己定義セクションを検出した。

システム・アクション

次の自己定義セクションを用いてフォーマットが続けられる。

CSQW208E

Invalid address detected

説明

MQ トレース・フォーマッターに、無効なアドレスが渡された。このアドレスは、低ストレージにある。

システム・アクション

レコードのフォーマットは抑止される。次のレコードを用いてフォーマットが続けられる。

CSQW209I

A null length data item was detected

説明

MQ トレース・フォーマッターが、長さがゼロのデータ項目を検出した。

システム・アクション

次のデータ項目を用いてフォーマットが続けられる。

CSQW210E

Invalid record detected

説明

レコードのフォーマットが、IBM MQ トレース・フォーマッターが予期していたフォーマットと異なっていた。

システム・アクション

16 進ダンプが作成され、次のレコードを用いてフォーマットが続けられる。

システム・プログラマーの応答

ダンプ処理を再試行する。問題が解決しないようであれば、z/OS サポートに連絡する。

CSQW701E

csect-name ENFREQ 要求が失敗しました。RC=rc

説明

z/OS ENFREQ 要求が失敗した。rc は、要求からの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

ENFREQ コマンドからの戻りコードについては、「z/OS MVS Authorized Assembler Services Reference」資料の該当するボリュームを参照してください。

CSQX000I

IBM MQ for z/OS Vn

重大度

0

説明

このメッセージは、チャンネル・イニシエーターの始動時に発行され、そのリリース・レベルを示す。

CSQX001I

csect-name チャンネル・イニシエーターが開始中です。

重大度

0

説明

START CHINIT コマンドに回答して、チャンネル・イニシエーター・アドレス・スペースが開始中である。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターの始動処理が開始される。始動処理が完了すると、メッセージ CSQX022I が送られる。

CSQX002I

csect-name キュー共有グループは *qsg-name* です。

重大度

0

説明

これは、チャンネル・イニシエーターの使用するキュー・マネージャーがキュー共有グループにある場合に、チャンネル・イニシエーターの始動処理中に、あるいは DISPLAY CHINIT コマンドに対する応答として送出される。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQX003I

csect-name 古いパラメーター・モジュールは無視されます。

重大度

0

説明

START CHINIT コマンドが、PARM キーワードを使用してパラメーター・モジュール名を指定した。チャンネル・イニシエーター・パラメーター・モジュールの使用は現在行われておらず、この名前は無視される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

チャンネル・イニシエーター・パラメーターは、キュー・マネージャー属性によって指定される。したがって、必要な値を設定するには、ALTER QMGR コマンドを使用する。

CSQX004I

V9.3.1

チャンネル・イニシエーターのストレージ使用量:

ローカル・ストレージ: 使用済み 31-使用済み MB、空き 31-空き MB
2 GB 境界より上: 使用済み 64-使用済み、フリー 64-フリー

説明

V9.3.1

拡張専用領域および 2 GB 境界より上で現在使用されていて使用可能な仮想ストレージの量を表示します。値は近似値です。

このメッセージは、チャンネル・イニシエーターの開始時にログに記録され、その後、使用量が変わらない場合には 1 時間おき、または、メモリーの使用量が (増減いずれでも) 2% を超えて変化したときにログに記録される。

V9.3.5

現在使用されている拡張専用領域ストレージの量も、SMF 115 サブタイプ 231 レコードの *qcctstus* フィールドに表示される。64 ビット・ストレージは RMF から取得でき、SMF 115、サブタイプ 231、レコードの *qcctstab* フィールドに指定されます。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

この時点でアクションは必要ない。ただし、このメッセージが頻繁に表示される場合、システムが現行の構成に最適な領域を超えて稼働している可能性がある。

CSQX005E

csect-name チャンネル・イニシエーターの開始が失敗しました。

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターの始動処理中に、これに先行するメッセージで報告された重大エラーが発生した。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーター開始タスクは終了する。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQX006E

csect-name チャンネル・イニシエーターが停止中に失敗しました。

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターの終了処理中に、これに先行するメッセージで報告された重大エラーが発生した。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーター開始タスクは終了する。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQX007E

csect-name キュー・マネージャー *qmgr-name* に接続できません。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrctext*)

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターがキュー・マネージャーに接続しようとしたが、失敗した。

システム・アクション

このエラーがチャンネル・イニシエーターの始動手順中に発生した場合、チャンネル・イニシエーターは始動しない。また、エラーが発生したコンポーネント (メッセージ・チャンネル・エージェント、ディスパッチャー、アダプター・サブタスク、SSL サーバー・サブタスク、リポジトリ・マネージャー、またはリスナー) が開始されず、それが提供する機能が使用できない場合もあります。ほとんどの場合、結果としてチャンネル・イニシエーターが終了します。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX008E

csect-name キュー・マネージャー *qmgr-name* から切断できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)。

重大度

4

説明

チャンネル・イニシエーターがキュー・マネージャーからの切断を行おうとしたが、失敗した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX009I

csect-name チャンネル・イニシエーターが停止中です。

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターの処理中に、これに先行するメッセージで報告された重大エラーが発生した。チャンネル・イニシエーターは処理を続行することができない。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQX010I

csect-name チャンネル・イニシエーターが停止しました。

重大度

0

説明

先行するメッセージで報告されたように、チャンネル・イニシエーターがエラーの後で終了した。

システム・アクション

なし。

CSQX011I

csect-name クライアント接続機構が使用可能です

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーターにはクライアントを接続することが可能で、そこで MQI チャンネルを使用できる。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターの始動処理は続行される。

CSQX012E

csect-name ddname データ・セットをオープンできません。

重大度

4

説明

これに先行するメッセージで報告された、*ddname* データ・セットをオープンすることができなかった。

システム・アクション

処理は続行されるが、そのデータ・セットを必要とする機能は使用禁止となる。例えば、出口ライブラリー・データ・セット CSQXLIB をオープンすることができない場合、ユーザー・チャンネル出口およびチャンネル自動定義出口は利用できなくなり、それを使用するチャンネルは開始されない。エラー情報データ・セット CSQSNAP をオープンできない場合、エラー情報は失われる。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQX013I

csect-name アドレスがリスナーに対して競合しています。ポート *port* アドレス *ip-address*、*TRPTYPE*=TCP *INDISP*=*disposition*

重大度

4

説明

STOP LISTENER または START LISTENER コマンドが *TRPTYPE* (*trptype*) および *INDISP* (*disposition*) を指定して発行されましたが、そのリスナーは、要求されたポートと IP アドレスの組み合わせと競合するポートと IP アドレスの組み合わせに対して既にアクティブになっていました。 *ip-address* が '*' である場合は、すべての IP アドレスが要求された。

指定されるポートと IP アドレスの組み合わせは、リスナーが活動状態となる組み合わせと一致していなければならない。その組み合わせのスーパーセットまたはサブセットにすることはできません。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

必要に応じて、コマンドを正しく再発行する。

CSQX014E

csect-name リスナーはチャンネル限界を超えました。 TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*

重大度

8

説明

指示されている通信システム *trptype* を使用する現行のチャンネルの数が、最大許容数である。 リスナーは、着信要求を受け入れて別のチャンネルを開始できない。 最大許容数が 0 の場合は、リスナー自体が開始できない (リスナーが要求を受け入れることができなかったため、要求されたチャンネルの名前を判別できない)。 現行のチャンネルには、活動状態のチャンネルだけでなく、停止中や再試行中のチャンネルも含まれる。

disposition は、リスナーの処理していた着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

最大許容数はキュー・マネージャー属性 TCPCHL または LU62CHL に指定するが、ディスパッチャーが失敗した場合、または TCP/IP 資源が制限されている場合 (メッセージ [CSQX118I](#) で報告される)、削減されることがある。

システム・アクション

チャンネルまたはリスナーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

最大許容数が 0 の場合、指示されているシステム *trptype* を使用する通信は許可されず、このようなチャンネルを開始することができない。 リスナーも開始できない。 最大許容数がゼロ以外の場合は、いくつかの操作チャンネルが終了するのを待ってからリモート・チャンネルを再始動するか、[ALTER QMGR](#) コマンドを使用して TCPCHL または LU62CHL を増やしてください。

CSQX015I

csect-name started ディスパッチャーが開始され、*failed* が失敗しました。

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーター始動手順により、要求された数のディスパッチャーが開始された。 *started* 個のディスパッチャーは正常に開始され、*failed* 個のディスパッチャーは開始されない。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターの始動処理は続行される。 いくつかのディスパッチャーが開始されなかった場合、現行 TCP/IP および LU 6.2 チャンネルの許容数は、それに比例して削減される。

システム・プログラマーの応答

このメッセージによって一部のディスパッチャーが失敗したことが示される場合、これに先行するメッセージで報告された問題を調査する。

CSQX016I

csect-name リスナーはすでに開始しています。 TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*

重大度

0

説明

TRPTYPE (*trptype*) および INDISP (*disposition*) を指定して [START LISTENER](#) コマンドが発行されましたが、そのリスナーはすでにアクティブでした。

システム・アクション

なし。

CSQX017I

csect-name リスナーは既に開始しています。ポート *port* アドレス *ip-address*、TRPTYPE=TCP
TRPTYPE=TCP INDISP=*disposition*

重大度

0

説明

TRPTYPE (TCP) および INDISP (*disposition*) を指定して START LISTENER コマンドが発行されましたが、そのリスナーは要求されたポートおよび IP アドレスに対して既にアクティブでした。 *ip-address* が '*' である場合は、すべての IP アドレスが要求された。

システム・アクション

なし。

CSQX018I

csect-name リスナーはすでに停止しているか、停止中です。TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*

重大度

0

説明

TRPTYPE (*trptype*) および INDISP (*disposition*) を指定して STOP LISTENER または START LISTENER コマンドが発行されましたが、そのリスナーは既に停止しているか、停止処理中です。

システム・アクション

なし。

CSQX019I

csect-name リスナーはすでに停止しているか、停止中です。ポート *port* アドレス *ip-address*、
TRPTYPE=TCP INDISP=*disposition*

重大度

0

説明

STOP LISTENER または START LISTENER コマンドが TRPTYPE (*trptype*) および INDISP (*disposition*) を指定して発行されましたが、そのリスナーは既に停止しているか、要求されたポートと IP アドレスに対して停止処理中です。 *ip-address* が '*' である場合は、すべての IP アドレスが要求された。

システム・アクション

なし。

CSQX020I

csect-name 共有チャネル回復が完了しました。

重大度

0

説明

チャネル・イニシエーターの始動手順により、そのキュー・マネージャー自身が所有するチャネルと他のキュー・マネージャーが所有するチャネルに対して、共有チャネルの回復処理が正常に完了された。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーにより発行されるメッセージ [CSQM052I](#) を参照して詳細を調べる。

CSQX021E

csect-name 共有チャンネル回復エラーです。

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーターの始動手順で、エラーが発生したために共有チャンネルの回復処理が完了しなかった。

システム・アクション

リカバリー・プロセスは終了します。一部のチャンネルはリカバリーされている可能性があります、リカバリーされていないチャンネルもあります。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーにより発行されるエラー・メッセージ ([CSQM053E](#) など) を参照して詳細を調べる。問題が解決したら、回復しなかったチャンネルを手動で開始するか、チャンネル・イニシエーターを再始動する。

CSQX022I

csect-name チャンネル・イニシエーターの初期化が完了しました。

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーターの初期設定が正常に完了し、チャンネル・イニシエーターは使用可能である。ただし、[CSQINPX](#) コマンド・データ・セットの処理がまだ進行中である場合もあるので注意が必要である。その処理の完了は、メッセージ [CSQU012I](#) で示される。

システム・アクション

なし。

CSQX023I

csect-name リスナーが開始しました。port *port* アドレス *ip-address* TRPTYPE=*trptype*
INDISP=*disposition*

重大度

0

説明

TRPTYPE(*trptype*) および INDISP(*disposition*) を指定してリスナーが開始された。理由は、[START LISTENER](#) コマンドが発行されたか、またはリスナーが再試行中であると考えられる。現在リスナーは、要求されたポートと IP アドレスで活動状態にある。 *ip-address* が * である場合は、すべての IP アドレスが要求された。

システム・アクション

なし。

CSQX024I

csect-name リスナーが停止しました。port *port* アドレス *ip-address* TRPTYPE=*trptype*
INDISP=*disposition*

重大度

0

説明

TRPTYPE (*trptype*) および INDISP (*disposition*) を指定して STOP LISTENER コマンドが発行されたか、または IBM MQ が障害のためにリスナーを停止しようとしてしました。リスナーは、要求されたポートと IP アドレスで活動状態にある。 *ip-address* が * である場合は、すべての IP アドレスが要求された。

システム・アクション

なし。

CSQX026E

csect-name Unable to locate the trace header, RC=12

重大度

8

説明

トレース・フォーマット・ルーチンが、チャンネル・イニシエーター・アドレス・スペースのダンプにある、トレース・データ・スペースのトレース管理情報を見つけることができなかった。

システム・アクション

フォーマット設定は終了します。

システム・プログラマーの応答

原因としては、ダンプが正しく作成されていない場合が多い。ダンプを再作成して、再実行する。

CSQX027E

csect-name 記憶域を取得できません。RC=*return-code*

重大度

8

説明

記憶域を取得しようとしたが失敗した。 *return-code* は、z/OS STORAGE サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

エラーが発生したコンポーネント (メッセージ・チャンネル・エージェント、ディスパッチャー、アダプター・サブタスク、SSL サーバー・サブタスク、リスナー、リポジトリ・マネージャー、監視プログラム、またはトレース・フォーマッター) は通常終了します。多くの場合、結果としてチャンネル・イニシエーターが終了します。

システム・プログラマーの応答

STORAGE 要求からの戻りコードに関する情報については、z/OSMVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書 マニュアルの該当するボリュームに進んでください。

CSQX028E

csect-name 記憶域を開放できません。RC=*return-code*

重大度

8

説明

一部のストレージを解放しようとしたが、失敗した。 *return-code* は、z/OS STORAGE サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

エラーが発生したコンポーネント (メッセージ・チャンネル・エージェント、ディスパッチャー、アダプター・サブタスク、SSL サーバー・サブタスク、リポジトリ・マネージャー、またはリスナー) は、通常このエラーを無視して処理を継続する。

システム・プログラマーの応答

STORAGE 要求からの戻りコードに関する情報については、[z/OSMVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書マニュアル](#)の該当するボリュームに進んでください。

CSQX029I

csect-name キュー・マネージャー *qmgr-name* が停止中です。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)。

重大度

0

説明

MQ API 呼び出しに応答して、キュー・マネージャーは停止することをチャンネル・イニシエーターに通知する。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQX030I

csect-name 'type' トレース開始。トレース番号 *tno* を割り当てました

説明

チャンネル・イニシエーターの初期化中、*type* トレースが自動的に開始され、トレース番号 *tno* が割り当てられた。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQX031E

csect-name 初期化コマンド・ハンドラーが終了しました。理由コード=00sssuuu

重大度

8

説明

CSQINPX コマンド・データ・セットを処理する初期設定コマンド・ハンドラーが異常終了します。sss はシステム完了コード、uuu はユーザー完了コード (両方とも 16 進数) です。

システム・アクション

初期設定コマンド・ハンドラーは異常終了するが、チャンネル・イニシエーターは続行される。

システム・プログラマーの応答

システム完了コードが表示された場合は、該当する「システム・コード」マニュアルを参照して、問題に関する情報を確認してください。通常、このメッセージの前に、追加情報を提供する他のメッセージが表示されます。

CSQINPX および CSQOUTX データ・セットの定義が誤っていることがこの原因である可能性が高い。初期設定コマンド・ハンドラーおよびこれらのデータ・セットについては、[初期設定コマンド](#)を参照してください。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX032I

csect-name 初期化コマンド・ハンドラーが終了しました。

重大度

4

説明

CSQINPX コマンド・データ・セットを処理する初期設定コマンド・ハンドラーは、チャンネル・イニシエーターが停止中であるために、すべてのコマンドを完了する前に終了した。このため、これ以上のコマンド処理ができない。

システム・アクション

初期設定コマンド・ハンドラーを終了する。

システム・プログラマーの応答

処理されたコマンドについては、CSQOUTX データ・セットを参照。チャンネル・イニシエーターが STOP コマンドによって停止中でない場合には、それを停止させる問題について先に出されたメッセージを参照。

初期設定コマンド・ハンドラーについては、[初期設定コマンド](#)を参照してください。

CSQX033E

csect-name チャンネル・イニシエーターがエラーのため停止中です。

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターの処理中に、これに先行するメッセージで報告された重大エラーが発生した。チャンネル・イニシエーターは処理を続行することができない。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQX034I

csect-name キュー・マネージャーが停止中のため、チャンネル・イニシエーターは停止中です。

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは、チャンネル・イニシエーターに停止することを通知する。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

CSQX035I

csect-name キュー・マネージャー *qmgr-name* への接続が停止中、または壊れています。MQCC=*mqcc*
MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)。

重大度

0

説明

MQ API 呼び出しへの応答時に、チャンネル・イニシエーターにより、キュー・マネージャーへの接続ができなくなったことが判明した。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQX036E

csect-name object-type(name) をオープンできません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc (mqrc-text)*。

重大度

8

説明

name に対する MQOPEN 呼び出しが失敗しました。*object-type* は、*name* がキュー名、キュー・マネージャー名、名前リスト名、チャンネル名、トピック名、または認証情報名のいずれであるかを示している。(チャンネル・イニシエーターは、MQ API を使用するオブジェクトとしてチャンネル定義と認証情報にアクセスすることができる)。

システム・アクション

エラーが発生したコンポーネント(メッセージ・チャンネル・エージェント、ディスパッチャー、アダプター・サブタスク、SSL サーバー・サブタスク、リポジトリ・マネージャー、リスナー、または監視プログラム)は終了する。メッセージ・チャンネル・エージェントである場合、関連したチャンネルが停止する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc (mqrc-text)* はテキスト形式での MQRC を示す)の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

問題の原因としては、チャンネルおよびキューの定義が間違っている場合が多い。

CSQX037E

csect-name name からメッセージを GET できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc (mqrc-text)*

重大度

8

説明

キュー *name* に対する MQGET 呼び出しが失敗に終わった。

システム・アクション

エラーが発生したコンポーネント(メッセージ・チャンネル・エージェント、ディスパッチャー、アダプター・サブタスク、SSL サーバー・サブタスク、リポジトリ・マネージャー、リスナー、または監視プログラム)は終了する。メッセージ・チャンネル・エージェントである場合、関連したチャンネルが停止する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc (mqrc-text)* はテキスト形式での MQRC を示す)の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQX038E

csect-name メッセージを *name* に PUT できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc (mqrc-text)*

重大度

8

説明

キュー *name* に対する MQPUT 呼び出しが失敗に終わった。

システム・アクション

エラーが発生したコンポーネント(メッセージ・チャンネル・エージェント、ディスパッチャー、アダプター・サブタスク、SSL サーバー・サブタスク、リポジトリ・マネージャー、リスナー、または監視プログラム)は終了する。メッセージ・チャンネル・エージェントである場合、関連したチャンネルが停止する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqr*c (*mqr*c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQX039E

csect-name name をクローズできません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)。

重大度

4

説明

name に対する MQCLOSE 呼び出しが失敗した。*name* に指定できるのは、キュー名、キュー・マネージャー名、名前リスト名、チャンネル名、または認証情報名である (チャンネル・イニシエーターは、IBM MQ API を使用してチャンネル定義と認証情報をオブジェクトとして操作できる)。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqr*c (*mqr*c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQX040E

csect-name name の属性を照会できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

重大度

8

説明

name に対する MQINQ 呼び出しが失敗に終わった。*name* は、キュー名、キュー・マネージャー名、名前リスト名、チャンネル名、または認証情報名の場合がある (チャンネル・イニシエーターは、MQ API を使用するオブジェクトとしてチャンネル定義と認証情報にアクセスすることができる)。

システム・アクション

エラーが発生したコンポーネント (メッセージ・チャンネル・エージェント、ディスパッチャー、アダプター・サブタスク、SSL サーバー・サブタスク、リポジトリ・マネージャー、リスナー、または監視プログラム) は終了する。メッセージ・チャンネル・エージェントである場合、関連したチャンネルが停止する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqr*c (*mqr*c-text はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQX041E

csect-name name の属性を設定できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqr*c (*mqr*c-text)

重大度

8

説明

キュー *name* に対する MQSET 呼び出しが失敗に終わった。

システム・アクション

エラーが発生したコンポーネント (メッセージ・チャンネル・エージェント、ディスパッチャー、アダプター・サブタスク、SSL サーバー・サブタスク、リスナー、または監視プログラム) は終了する。メッセージ・チャンネル・エージェントである場合、関連したチャンネルが停止する。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQX042E

csect-name comp を CTRACE に定義できません。RC=*rc* 理由=*reason*

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターで必要な CTRACE コンポーネント定義 (コンポーネント *comp* に対する) を定義することができなかった。 *rc* は戻りコード、*reason* は z/OS CTRACE サービスからの理由コードである (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは始動しない。

システム・プログラマーの応答

CTRACE 要求からの戻りコードについては、「*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference*」マニュアルの該当するボリュームを参照してください。

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX043E

csect-name comp を CTRACE から削除できません。RC=*rc* 理由=*reason*

重大度

4

説明

チャンネル・イニシエーターで使用された CTRACE コンポーネント定義 (コンポーネント *comp* に対する) を削除することができなかった。 *rc* は戻りコード、*reason* は z/OS CTRACE サービスからの理由コードである (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターの終了処理は続行される。

システム・プログラマーの応答

CTRACE 要求からの戻りコードについては、「*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference*」マニュアルの該当するボリュームを参照してください。

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX044E

csect-name PC ルーチンを初期化できません。RC=*rc* 理由=*reason*

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターで必要な PC ルーチンを定義することができなかった。理由コード *reason* は、どの z/OS サービスが失敗したかを示す。

00E74007

LXRES 失敗

00E74008

ETCRE 失敗

00E74009

ETCON 失敗

rc は、指定されている z/OS サービスからの戻りコード (16 進数) である。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは始動しない。

システム・プログラマーの応答

以下からの戻りコードについては、「*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference*」マニュアルの該当するボリュームに進んでください。

- [LXRES](#)
- [ETCRE](#)
- [ETCON](#)

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX045E

csect-name module-name をロードできません。理由=*ssssrrrr*

説明

チャンネル・イニシエーターは、必要なモジュールをロードすることができなかった。ssss は完了コード、rrrr は z/OS LOAD サービスからの理由コードである (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

エラーが発生したコンポーネント (メッセージ・チャンネル・エージェント、ディスパッチャー、アダプター・サブタスク、SSL サーバー・サブタスク、リポジトリ・マネージャー、またはリスナー) は開始されず、それが提供する機能は利用できない。多くの場合、その終了結果として、チャンネル・イニシエーターが終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソールから、モジュールがロードされなかった理由を示すメッセージがないかを調べる。

[LOAD](#) 要求からの戻りコードについては、「*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference*」マニュアルの該当するボリュームを参照してください。

モジュールが必要なライブラリーにあるかどうか、さらにそのモジュールが正しく参照されているかどうかを確認する。チャンネル・イニシエーターは、その開始済みタスク JCL プロシージャ xxxxCHIN の STEPLIB DD ステートメントにより、ライブラリー・データ・セットからこのモジュールのロードを試行する。

CSQX046E

csect-name データ変換サービスを初期化できません。理由=*reason*

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターに必要なデータ変換サービスを初期設定できなかった。理由コード *reason* には、以下の理由が示される。

00C10002

モジュールをロードできない

00C10003

ストレージ不足

その他

内部エラー

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは始動しない。

システム・プログラマーの応答

コンソールに、モジュールがロードされなかったことを示すメッセージがないかどうかを調べる。モジュールが必要なライブラリーにあるかどうか、さらにそのモジュールが正しく参照されているかどうかを確認する。チャンネル・イニシエーターは、その開始済みタスク JCL プロシージャ xxxCHIN の STEPLIB DD ステートメントにより、ライブラリー・データ・セットからこのモジュールのロードを試行する。

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX047E

csect-name name のメッセージをコミットできません。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)。

重大度

8

説明

キュー *name* に対するメッセージを伴う MQCMIT 呼び出しに失敗した。

システム・アクション

エラーが発生しているコンポーネント (監視プログラム) は終了する。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQX048I

csect-name name のメッセージを変換できません。MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)。

重大度

0

説明

IMS ブリッジ・キュー *name* に書き込まれるメッセージはデータ変換を必要としましたが、変換が成功しませんでした。

システム・アクション

メッセージが変換なしで書き込まれ、処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQX049E

csect-name 名前 *name* のトークンを検索できません。RC=*rc*

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターが要求した名前/トークンの対のトークンを検索できなかった。*rc* は、z/OS IEANTRT サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは始動しない。

システム・プログラマーの応答

IEANTRT 要求からの戻りコードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference」マニュアルの該当するボリュームに進んでください。

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX050E

csect-name キュー・マネージャーのアクセス・リストを作成できません。RC=*rc*

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターは、キュー・マネージャーが使用するための必要なストレージ・アクセス・リストを作成できなかった。*rc* は、z/OS ALESERV サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは始動しない。

システム・プログラマーの応答

ALESERV 要求からの戻りコードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference」マニュアルの該当するボリュームに進んでください。

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX051E

csect-name 記憶域をキュー・マネージャーと共有できません。RC=*rc*

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが一部のストレージを共有できるようにするためのチャンネル・イニシエーターの要求は失敗した。*rc* は、z/OS IARVSERV サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは始動しない。

システム・プログラマーの応答

IARVSERV 要求からの戻りコードに関する情報については、z/OSMVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書マニュアルの該当するボリュームに進んでください。

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX052E

csect-name Timer task attach failed, RC=*return-code*

重大度

8

説明

リポジトリ・マネージャー・タスクに接続できなかった。*Return-code* は、z/OS ATTACH サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

ATTACH 要求からの戻りコードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference」マニュアルの該当するボリュームを参照してください。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX053E

csect-name エラー情報が CSQSNAP データ・セットに記録されました。

重大度

8

説明

内部エラーが発生しました。エラーに関する情報は、チャンネル・イニシエーターが開始したタスクの JCL プロシージャー、xxxxCHIN の CSQSNAP DD ステートメントにより識別されたデータ・セットに書き込まれる。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

『問題判別』の項に示された情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQX054E

csect-name リポジトリ・マネージャーが異常終了しました。理由=*sssuuu-reason*

重大度

8

説明

訂正できないエラーが発生したため、リポジトリ・マネージャーが異常終了している。*sss* はシステム完了コード、*uuu* はユーザー完了コード、また *reason* は関連する理由コードである (すべて 16 進表示)。

システム・アクション

リポジトリ・マネージャーが異常終了すると、通常、ダンプが送出される。チャンネル・イニシエーターは、このキュー・マネージャーを再始動しようとする。

システム・プログラマーの応答

ユーザー完了コードは、通常、Language Environment によって検出されたエラーの結果です。これらのコードについては、「[z/OS Language Environment ランタイム・メッセージ](#)」を参照してください。あるいは、IBM サポートに連絡する。

CSQX055E

csect-name リポジトリ・マネージャー・アタッチが失敗しました。RC=*return-code*

重大度

8

説明

リポジトリ・マネージャー・タスクに接続できなかった。*Return-code* は、z/OS ATTACH サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

ATTACH 要求からの戻りコードについては、「[z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference](#)」マニュアルの該当するボリュームを参照してください。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX056E

csect-name 予備の初期化サービス要求が失敗しました。機能コード=*func*, RC=*rc*

重大度

8

説明

事前初期設定サービス (CEEPIPI) 呼び出しが失敗した。*func* は使用された機能コード (10 進表示) であり、*rc* は呼び出しからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

エラーが発生したコンポーネント (メッセージ・チャネル・エージェントまたは SSL サーバー・サブタスク) は終了する。メッセージ・チャネル・エージェントである場合、関連したチャネルが停止する。

システム・プログラマーの応答

CEEPIPI 呼び出しからの戻りコードについては、「*z/OS Language Environment Vendor Interfaces*」を参照してください。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX057E

csect-name クラスター・キャッシュ・タスクの接続に失敗しました。RC=*return-code*

重大度

8

説明

チャネル・イニシエーターのクラスター・キャッシュ・タスクを生成できなかった。Return-code は、z/OS ATTACH サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

チャネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

ATTACH 要求からの戻りコードについては、「*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference*」マニュアルの該当するボリュームを参照。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

CSQX058E

csect-name 一時停止サービス *service-name* が失敗しました。RC=*return-code*

重大度

8

説明

休止エレメントの処理中にエラーが発生した。return-code は、z/OS 休止サービス *service-name* からの戻りコード (16 進数) を示す。

システム・アクション

エラーが発生したコンポーネント (メッセージ・チャネル・エージェント、リポジトリ・マネージャー、クラスター・キャッシュ拡張タスク) は通常に終了する。多くの場合、その終了結果として、チャネル・イニシエーターが終了する。このメッセージが出されても、その後異常終了で終了しないこともあるが、これはそのエラーが許容されているためである。

システム・プログラマーの応答

IEAVPSE pause service 要求からの戻りコードについては、「*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference*」マニュアルの該当するボリュームを参照してください。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。チャネル・イニシエーターが以前に異常終了で終了したことがある場合は、チャネル・イニシエーター起動時に CSQX058E が出ても、アクションは不要である。

CSQX059E

csect-name クラスター・キャッシュを増やすことができません。

重大度

8

説明

チャネル・イニシエーターのクラスター・キャッシュ・タスクでエラーが発生したために、動的クラスター・キャッシュを増やすことができない。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターはおそらく終了します。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQX060E

csect-name Queued Pub/Sub task attach failed, RC=*reason-code*

重大度

8

説明

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・タスクに接続できなかった。 *return-code* は、z/OS ATTACH サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

ATTACH 要求からの戻りコードについては、「*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference*」マニュアルの該当するボリュームを参照。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

CSQX061E

csect-name 分散パブリッシュ/サブスクライブ・オフローダー・タスクの接続に失敗しました。
RC=*return-code*

重大度

8

説明

分散パブリッシュ/サブスクライブ・オフローダー・タスクに接続できなかった。 *Return-code* は、z/OS ATTACH サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

ATTACH 要求からの戻りコードについては、「*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference*」マニュアルの該当するボリュームを参照してください。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX062E

csect-name 分散パブリッシュ/サブスクライブのタスクのコマンド権限が不十分です。

重大度

8

説明

PSMODE キュー・マネージャー属性は DISABLED 以外の値を持っているが、チャンネル・イニシエーターが持っている権限は、DISPLAY PUBSUB コマンドを実行するには不十分である。十分な権限が付与されるまで、分散パブリッシュ/サブスクライブは使用できない。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは、1 分間隔で分散パブリッシュ/サブスクライブのタスクの再始動を試みる。必要な権限が付与されるか、パブリッシュ/サブスクライブが使用不可になるまで、それ以降に試行が行われるたびにこのメッセージが発行される。

システム・プログラマーの応答

コマンド・サーバー・キューへのアクセスに必要な権限をチャンネル・イニシエーターに付与し、DISPLAY PUBSUB コマンドを実行する。必要なセキュリティ定義については、[z/OSで使用するチャンネル・イニシエーターのセキュリティに関する考慮事項](#)を参照。または、パブリッシュ/サブスクライブ操作が必要な場合は、PSMODE キュー・マネージャー属性を DISABLED に設定すると、このメッセージは発行されなくなる。

CSQX063I

csect-name 分散パブリッシュ/サブスクライブ・オフローダーが開始されました。

重大度

0

説明

分散パブリッシュ/サブスクライブ・オフローダー・タスクが正常に開始した。

システム・プログラマーの応答

なし

CSQX064I

csect-name 分散パブリッシュ/サブスクライブ・オフローダーが停止しました。

重大度

0

説明

分散パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・オフローダー・タスクが停止した。これは、以下の3通りの理由のいずれかによる場合がある。

- チャンネル・イニシエーターは停止します。
- チャンネル・イニシエーターが始動中であり、分散パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド処理が不要であるために、分散パブリッシュ/サブスクライブ・オフローダーが使用するキューが定義されていない。
- エラーが発生している。

システム・アクション

処理は続行されるが、分散パブリッシュ/サブスクライブは利用できない。

システム・プログラマーの応答

エラーが発生している場合は、先行のメッセージに報告されている問題を調べる。

CSQX065E

csect-name 分散パブリッシュ/サブスクライブ・オフローダーで予期しないエラーが発生しました。

重大度

8

説明

分散パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・オフローダーで予期しないエラーが検出された。

システム・アクション

分散パブリッシュ/サブスクライブは、もう使用できない可能性がある。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。先行メッセージがない場合、またはこの方法では問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡する。

CSQX066E

csect-name プロキシ・サブスクリプションのリフレッシュが失敗しました。

重大度

8

説明

REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB) が発行されたが、完了していない。これはチャンネル・イニシエーターのシャットダウン中であるための場合と、エラーの結果起きている場合の両方があります。

システム・アクション

処理は続行されるが、リモート・サブスクリプションは再同期されない。

システム・プログラマーの応答

エラーが発生している場合は、先行のメッセージに報告されている問題を調べる。

CSQX067E

csect-name 非永続的なリモート・サブスクリプションの削除でエラーが発生しました。

重大度

8

説明

パブリッシュ/サブスクライブ・オフローダー・タスクが終了中であるが、1つ以上のリモート・プロキシー・サブスクリプションを除去できなかった。それまでにエラーが発生していない場合は、キュー・マネージャーのシャットダウンにより引き起こされた可能性がある。

システム・アクション

処理は続行されるが、既に無効になったリモート・サブスクリプションが存在し続けている可能性がある。これにより、リモート伝送キューで、このキュー・マネージャーについてのパブリケーションが作成される可能性がある。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーをただちに再始動する場合は、クラスターとの最初の再同期が行われる時に、これらのサブスクリプションがクリーンアップされる。そうでない場合は、クラスター内の他のキュー・マネージャーで DELETE SUB を使用して、手動でプロキシー・サブスクリプションを除去しなければならぬ場合がある。これに先行するメッセージで報告された問題について調査して、再同期が失敗した理由を調べる。

CSQX068I

csect-name チャンネル・イニシエーターが *mm* MB の送信バッファをスカベンジしました

説明

チャンネル・イニシエーターの送信バッファ・スカベンジャー・タスクによって解放された仮想ストレージの容量を表示する。この仮想ストレージの値は、メガバイト (1048576 バイト) 単位で表示され、近似値である。

このメッセージは、チャンネル・イニシエーターが使用する仮想ストレージの容量が 75% を超えるとログに記録される。ストレージが解放された場合は、CSQX004I メッセージが発行される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

この時点でアクションは必要ない。ただし、このメッセージが頻繁に出る場合、システムが現行の構成に最適な領域を超えて稼働していることを示している可能性がある。

CSQX069E

csect-name 分散パブリッシュ/サブスクライブ・オフローダーが異常終了しました。理由=*sssuuu-reason*

重大度

8

説明

訂正できないエラーが発生したため、分散パブリッシュ/サブスクライブ・オフローダー・タスクが異常終了している。sss はシステム完了コード、uuu はユーザー完了コード、また reason は関連する理由コードである (すべて 16 進表示)。

システム・アクション

分散パブリッシュ/サブスクライブ・オフローダー・タスクが異常終了し、通常はダンプが生成される。分散パブリッシュ/サブスクライブは、使用できなくなる。

システム・プログラマーの応答

ユーザー完了コードは、通常、Language Environment によって検出されたエラーの結果です。これらのコードについては、「[z/OS Language Environment プログラミング・ガイド](#)」を参照してください。それ以外の場合は、IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

CSQX070I

csect-name CHINIT パラメーター ...

重大度

0

説明

メッセージ CSQX071I、CSQX072I、CSQX073I、CSQX074I、CSQX075I、CSQX076I、CSQX078I、CSQX079I、CSQX080I、CSQX081I、CSQX082I、CSQX085I、CSQX090I、CSQX091I、CSQX092I、CSQX094I、CSQX099I で示されるパラメーター値を使用して、チャンネル・イニシエーターが開始されている。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターの始動処理は続行される。

システム・プログラマーの応答

チャンネル・イニシエーター・パラメーターは、キュー・マネージャー属性によって指定される。したがって、必要な値を設定するには、[ALTER QMGR](#) コマンドを使用する。

CSQX093I

csect-name WLM/DNS のサポートが終了しています

重大度

4

説明

QMGR 属性 DNSWLM は YES に設定されている。この機能は、現在 z/OS Communications Server によってサポートされていない。

システム・アクション

処理は続行されるが、WLM/DNS サーバーへの登録は試行されない。

システム・プログラマーの応答

以下のコマンドを発行します。

```
ALTER QMGR DNSWLM(NO)
```

代わりにシスプレックス・ディストリビューターを使用することを考慮する。、[Sysplex Distributor](#) を使用した TCP 接続の確立を参照。

CSQX100E

csect-name ディスパッチャーの開始が失敗しました。TCB=tcb-name

重大度

8

説明

ディスパッチャーの始動処理中に、先行するメッセージで報告された重大エラーが発生した。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは、ディスパッチャーを再始動しようとする。現行 TCP/IP および LU 6.2 チャンネルの許容数は、それに応じて削減される。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQX101E

csect-name ディスパッチャーは必要なプロセス *process* を予定できません。

重大度

8

説明

ディスパッチャーの始動処理中に、重要なディスパッチャー処理の 1 つ(*process*) をスケジュールできなかった。

システム・アクション

ディスパッチャーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

ストレージ不足が原因である場合が多い。使用可能ストレージを増やしても問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡する。

CSQX102E

csect-name ディスパッチャー関係スタック・エラー。TCB=*tcb-name*

重大度

8

説明

TCB *tcb-name* を使用するディスパッチャーにより、リンケージ・スタックの矛盾が検出された。

システム・アクション

ディスパッチャーは、完了コード X'5C6' と理由コード X'00E7010E' を出して異常終了し、ダンプが送出される。チャンネル・イニシエーターは、このキュー・マネージャーを再始動しようとする。

システム・プログラマーの応答

最も考えられる原因は、ユーザー・チャンネル出口によるリンケージ・スタックの不正な使用である。出口は、任意の MQ API 呼び出しを実行して、その呼び出しが入力されたときと同じリンケージ・スタック・レベルで呼び出し側に戻らなければならない。出口が使用されていない場合、または出口がリンケージ・スタックを使用していない場合は、IBM サポートに連絡する。

CSQX103E

csect-name ディスパッチャーの予期しないエラーです。TCB=*tcb-name* RC=*return-code*

重大度

8

説明

TCB を使用するディスパッチャー *tcb-name* で、内部エラーが発生した。

システム・アクション

ディスパッチャーは、完了コード X'5C6' と理由コード X'00E7010F' を出して異常終了し、ダンプが送出される。チャンネル・イニシエーターは、このキュー・マネージャーを再始動しようとする。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して問題を報告する。

CSQX104E

csect-name ESTAE を確立できません。RC=*return-code*

重大度

8

説明

始動処理中に、回復環境をセットアップできなかった。*return-code* は、z/OS ESTAE サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

始動処理中のコンポーネント (ディスパッチャー、アダプター・サブタスク、SSL サーバー・サブタスク、監視プログラム、リポジトリ・マネージャー、またはチャンネル・イニシエーター自体) は開始されない。

システム・プログラマーの応答

ESTAE 要求からの戻りコードについては、「[z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書](#)」の該当するボリュームにある [ESTAE](#) の説明を参照してください。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX106E

csect-name USS を使用して TCP/IP へ接続できません。サービス '*serv*' RC=*return-code* 理由=*reason*

重大度

4

説明

z/OS UNIX System Services (z/OS UNIX) ソケット・インターフェースによる TCP/IP の使用が要求されたが、エラーが発生した。*return-code* と *reason* は、エラーを出した z/OS UNIX サービス *serv* からの戻りコードと理由コード (いずれも 16 進数) である。

最も一般的な原因は、次のとおりである。

- チャンネル・イニシエーターが使用するユーザー ID が、z/OS UNIX 用に正しく設定されていない。例えば、有効な OMVS セグメントが定義されていない場合や、そのセキュリティー・プロファイルが不完全な場合がある。
- TCPNAME キュー・マネージャー属性に有効な TCP/IP スタック名が指定されていない。このスタック名が、SYS1.PARMLIB のメンバー BPXPRMxx の SUBFILESYSTYPE NAME パラメーターに定義されている。
- SYS1.PARMLIB のメンバー BPXPRMxx 内の MAXFILEPROC または MAXPROCUSER パラメーターが小さすぎる。

システム・アクション

処理は続行されるが、z/OS UNIX ソケット・インターフェースで TCP/IP を使用する通信は実行できない。

システム・プログラマーの応答

サービス要求からのコードについては、「[z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード](#)」を参照。

CSQX110E

csect-name ユーザー・データ変換出口エラー。TCB=*tcb-name* 理由=*ssuuu-reason*

重大度

8

説明

TCB *tcb-name* を使用するディスパッチャーの処理は、訂正できないエラーがユーザー・データ変換出口で発生したために、異常終了する。sss はシステム完了コード、uuu はユーザー完了コード、また *reason* は関連する理由コードである (すべて 16 進表示)。

システム・アクション

処理は異常終了し、通常、ダンプが発行される。チャンネルは停止し、再始動するには手動で行わなければならない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー完了コードは、通常、Language Environment によって検出されたエラーの結果です。これらのコードについては、「[Language Environment for z/OS ランタイム・メッセージ](#)」を参照してください。システム完了コードが表示された場合は、出口の問題について、「[z/OS MVS システム・コード](#)」を参照。

CSQX111E

csect-name ユーザー・チャンネル出口エラー。TCB=*tcb-name* 理由=sssuuu-*reason*

重大度

8

説明

TCB *tcb-name* を使用しているディスパッチャーの処理は、訂正できないエラーがユーザー・チャンネル出口で発生したために、異常終了する。sss はシステム完了コード、uuu はユーザー完了コード、また *reason* は関連する理由コードである (すべて 16 進表示)。

システム・アクション

処理は異常終了し、通常、ダンプが発行される。チャンネルは停止し、再始動するには手動で行わなければならない。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー完了コードは、通常、Language Environment によって検出されたエラーの結果です。これらのコードについては、「[Language Environment for z/OS ランタイム・メッセージ](#)」を参照してください。システム完了コードが表示された場合は、出口の問題について、「[z/OS MVS システム・コード](#)」を参照。

CSQX112E

csect-name ディスパッチャー・プロセス・エラー。TCB=*tcb-name* 理由=sssuuu-*reason*

重大度

8

説明

訂正できないエラーが発生したので、TCB *tcb-name* を使用するディスパッチャーが実行した処理は異常終了している。sss はシステム完了コード、uuu はユーザー完了コード、また *reason* は関連する理由コードである (すべて 16 進表示)。

システム・アクション

処理は異常終了し、通常、ダンプが発行される。この処理がメッセージ・チャンネル・エージェントである場合、チャンネルは停止し、再始動するには手動で行う必要がある。

システム・プログラマーの応答

ユーザー完了コードは、通常、Language Environment によって検出されたエラーの結果です。これらのコードについては、「[Language Environment for z/OS ランタイム・メッセージ](#)」を参照してください。システム完了コードが表示され、ユーザー・チャンネル出口を使用している場合は、出口がそのパラメーター・リストを正しく設定していることを確認してください。それ以外の場合は、IBM サポートに連絡してください。

CSQX113E

csect-name ディスパッチャーが異常終了しました。TCB=*tcb-name* 理由=*sssuuu-reason*

重大度

8

説明

訂正できないエラーが発生したので、TCB *tcb-name* を使用するディスパッチャーは異常終了している。*sss* はシステム完了コード、*uuu* はユーザー完了コード、また *reason* は関連する理由コードである (すべて 16 進表示)。

システム・アクション

ディスパッチャーは異常終了し、通常、ダンプが発行される。チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

ユーザー完了コードは、通常、Language Environment によって検出されたエラーの結果です。これらのコードについては、「[Language Environment for z/OS ランタイム・メッセージ](#)」を参照してください。システム完了コードが表示され、ユーザー・チャンネル出口を使用している場合は、出口がそのパラメーター・リストを正しく設定していることを確認してください。それ以外の場合は、IBM サポートに連絡してください。

CSQX114E

csect-name ディスパッチャーが失敗しました。理由=*reason*

重大度

8

説明

前のメッセージが報告されたときに、ディスパッチャーは異常終了し、再始動することはできなかった。*reason* に示される障害のタイプは、次のとおりである。

0000000A

始動エラー

0000000B

リンケージ・スタック・エラー

0000000D

訂正不能エラー

その他

00*sssuuu* の形式の完了コード。ここで、*sss* はシステム完了コード、*uuu* はユーザー完了コード (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは、ディスパッチャーを再始動しようとする。現行 TCP/IP および LU 6.2 チャンネルの許容数は、それに応じて削減される。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQX115E

csect-name ディスパッチャーは再始動されません。障害が多すぎます。

重大度

8

説明

ディスパッチャーで障害が発生した。すでに何度も障害が発生していたため、チャンネル・イニシエーターは再始動を行わなかった。

システム・アクション

ディスパッチャーは再始動されない。現行の TCP/IP および LU 6.2 チャンネルの許容数はそれに応じて削減され、場合によってはその他の処理能力も削減される。

システム・プログラマーの応答

ディスパッチャーの障害の原因を調査する。

CSQX116I

csect-name ディスパッチャーが再始動。*number* ディスパッチャーが活動中です

重大度

0

説明

ディスパッチャーは失敗しましたが、チャンネル・イニシエーターによって正常に再始動されました。数値ディスパッチャーがアクティブになりました。

システム・アクション

処理を続行する。現行 TCP/IP および LU 6.2 チャンネルの許容数は、それに応じて増加される。

CSQX117I

csect-name 発信共用チャンネルは TCP 通信の開始に制限されています。

重大度

0

説明

共有の発信 TCP チャンネルをこのキュー・マネージャーで開始できないようにする CHISERVP() サービス・パラメーター・フラグが設定されている。このフラグの詳細については、IBM サポートにお問い合わせください。

システム・アクション

処理を続行する。このキュー・マネージャーは共有の発信 TCP チャンネルを開始できない。また、IBM MQ により負荷分散される共有チャンネルの開始時にこのキュー・マネージャーは選択されない。この制限は、フラグが無効化され、チャンネル・イニシエーターが再始動するまで継続する。

CSQX118I

csect-name TCP/IP チャンネル限界が *nn* に削減されました。

重大度

0

説明

このメッセージは、現行 TCP/IP チャンネルの最大許容数が TCPCHL キュー・マネージャー属性に指定されている数より少ない場合に、チャンネル・イニシエーターの始動処理中に、DISPLAY CHINIT コマンドの応答として出される。このエラーが発生する理由としては、以下のことが考えられる。

- TCP/IP 資源が制限されている。UNIX システム・サービスの MAXFILEPROC パラメーター (SYS1.PARMLIB の BPXPRMxx メンバーで指定される) は、各タスクに許可されるソケットの数、すなわち、各ディスパッチャーに許可されるチャンネルの数を制御する。
- 一部のディスパッチャーが異常終了し、再始動されていない。現行 TCP/IP チャンネルの許容数は、それに応じて削減される。

システム・プログラマーの応答

TCP/IP リソースが制限されている場合、現行の TCP/IP チャンネルがさらに必要であれば、UNIX システム・サービスの MAXFILEPROC パラメーター、またはディスパッチャーの数のいずれかを大きくすることを検討する。

CSQX119I

csect-name LU 6.2 チャンネル限界が *nn* に削減されました。

重大度

0

説明

このメッセージは、現行 LU 6.2 チャンネルの最大許容数が LU62CHL キュー・マネージャー属性に指定されている数より少ない場合に、チャンネル・イニシエーターの始動処理中に、[DISPLAY CHINIT](#) コマンドの応答として出される。一部のディスパッチャーが異常終了して再始動されていないために、このメッセージが出されることがある。現行 LU 6.2 チャンネルの許容数は、それに応じて削減される。

CSQX120I

csect-name 共有チャンネル回復が、このキュー・マネージャーによって所有されるチャンネルに対して開始されました

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーターの始動手順で、それ自身が所有するチャンネルに対して、共有チャンネル回復処理を開始中である。

システム・アクション

処理を続行

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーにより発行されるメッセージ [CSQM052I](#) を参照して詳細を調べる。

CSQX121I

csect-name 共有チャンネル回復が、同じ QSG の他のキュー・マネージャーによって所有されるチャンネルに対して開始されました

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーターの始動手順で、他のキュー・マネージャーが所有するチャンネルに対して、共有チャンネル回復処理を開始中である。

システム・アクション

処理を続行

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーにより発行されるメッセージ [CSQM052I](#) を参照して詳細を調べる。

CSQX122E

csect-name チャンネル・アカウントिंगの処理に失敗しました。RC=*retcode*

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーター SMF タスクで、チャンネル・アカウントिंग・データの処理中にエラーが検出された。 *retcode* には 16 進数の戻りコードが入っている。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートにお問い合わせください。

CSQX123E

csect-name チャンネル・イニシエーター統計の処理に失敗しました。RC=*retcode*

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーター SMF タスクで、チャンネル・イニシエーター統計データの処理中にエラーが検出された。*retcode* には 16 進数の戻りコードが入っている。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートにお問い合わせください。

CSQX124E

csect-name SMF タスクが異常終了しました。RC=*retcode*、理由=*reason*

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーター SMF タスクが異常終了しました。*reason* として可能な値は次のとおり。

C59592

チャンネル・イニシエーターは SMF タスクのシャットダウンを通知する操作に失敗した。*retcode* は z/OS IEAVRLS サービスからの戻りコードである。

C59593

SMF タスクが休止状態に入るとき、またはその状態から再開するときにエラーが発生した。*retcode* は z/OS IEAVPSE サービスからの戻りコードである。

C59594

SMF タスクの初期化中に休止エレメント・トークン (PET) の取得でエラーが発生した。*retcode* は z/OS IEAVAPE サービスからの戻りコードである。

C59595

SMF タスクの初期化中に、ストレージの取得中にエラーが発生した。

システム・アクション

以下の間にエラーが発生しない限り、チャンネル・イニシエーターは SMF タスクの再接続を試行する。

- チャンネル・イニシエーター遮断
- ストレージの取得 (理由 C59595)

システム・プログラマーの応答

理由が C59595 の場合は、チャンネル・イニシエーターの MEMLIMIT を検査するか、または 256MB の推奨される制限を参照してください。

他の理由の場合は、IBM サポート・センターに連絡する。

CSQX126I

csect-name チャンネル・アカウンティングの収集が開始しました

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーターがチャンネル・アカウンティング・データの収集を開始した。

システム・アクション

STATCHL (HIGH|MED|LOW) のチャンネルのチャンネル・アカウンティング・データが収集され、システム管理機能 (SMF) に書き込まれます。

CSQX127I

csect-name チャンネル・アカウンティングの収集が停止しました

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーターがチャンネル・アカウンティング・データの収集を停止した。

システム・アクション

STATCHL (HIGH|MED|LOW) のチャンネルに関して収集されたチャンネル・アカウンティング・データは、システム管理機能 (SMF) に書き込まれます。

CSQX128I

csect-name チャンネル・イニシエーター統計の収集が開始しました

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーターがチャンネル・イニシエーター統計データの収集を開始した。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーター統計データは、システム管理機能 (SMF) に収集され、書き込まれます。

CSQX129I

csect-name チャンネル・イニシエーター統計の収集が停止しました

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーターがチャンネル・イニシエーター統計データの収集を停止した。

システム・アクション

収集されたチャンネル・イニシエーター統計データは、システム管理機能 (SMF) に書き込まれます。

CSQX130E

csect-name queue-name がリカバリー不能 CF 構造体で定義されています

重大度

8

説明

共有チャンネル同期キュー *queue-name* が、リカバリーをサポートしないカップリング・ファシリティ (CF) 構造体で定義されている。つまり、構造体に障害が発生した場合、共有チャンネルがメッセージ・シーケンス・エラーを報告する可能性があり、メッセージが失われる可能性もある。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

共用チャンネル同期キューが RECOVER(YES) に定義されている CF 構造体の CFSTRUCT オブジェクトを変更する、または共用チャンネル同期キューを CSQSYSAPPL 構造体に移動するように計画してください。これは、RECOVER(YES) で定義する必要があります。

CSQX140E

csect-name アダプターの開始が失敗しました。

重大度

8

説明

アダプター・サブタスクの始動処理中に、先行するメッセージで報告された重大エラーが発生した。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは、アダプター・サブタスクの再始動を行う。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQX141I

csect-name started アダプター・サブタスクが開始され、*failed* が失敗しました。

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーター始動手順により、要求された数のアダプター・サブタスクが開始された。*started* 個のアダプター・サブタスクは正常に開始され、*failed* 個のアダプター・サブタスクは開始されなかった。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターの始動処理は続行される。

システム・プログラマーの応答

このメッセージによって一部のアダプター・サブタスクが失敗したことが示される場合、先行するメッセージで報告された問題を調査する。

CSQX142E

csect-name アダプター・サブタスクの開始が失敗しました。TCB=*tcb-name*

重大度

8

説明

アダプター・サブタスクの始動処理中に、先行するメッセージで報告された重大エラーが発生した。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは、アダプター・サブタスクの再始動を行う。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQX143E

csect-name アダプター・サブタスクが異常終了。TCB=*tcb-name* 理由=*sssuuu-reason*

重大度

8

説明

訂正できないエラーが発生したため、TCB *tcb-name* を使用するアダプター・サブタスクが異常終了している。sss はシステム完了コード、uuu はユーザー完了コード、また *reason* は関連する理由コードである (すべて 16 進表示)。

システム・アクション

アダプター・サブタスクは異常終了し、通常、ダンプが送出される。チャンネル・イニシエーターは、このキュー・マネージャーを再始動しようとする。

システム・プログラマーの応答

ユーザー完了コードは、通常、Language Environment によって検出されたエラーの結果です。これらのコードについては、「[Language Environment for z/OS ランタイム・メッセージ](#)」を参照してください。システム完了コードが表示され、ユーザー・チャンネル出口を使用している場合は、出口がそのパラメーター・リストを正しく設定していることを確認してください。それ以外の場合は、IBM サポートに連絡してください。

CSQX144E

csect-name アダプター・サブタスクの接続が失敗しました。RC=*return-code*

重大度

8

説明

アダプター・サブタスクを接続できなかった。Return-code は、z/OS ATTACH サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

アダプター・サブタスクは再始動されない。

システム・プログラマーの応答

ATTACH 要求からの戻りコードについては、「[z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference](#)」マニュアルの該当するボリュームを参照してください。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX145E

csect-name アダプター・サブタスクは再始動されません。障害が多すぎます。

重大度

8

説明

アダプター・サブタスクで障害が発生した。すでに何度も障害が発生していたため、チャンネル・イニシエーターは再始動を行わなかった。

システム・アクション

アダプター・サブタスクは再始動されない。それによって、処理能力が下がる場合がある。

システム・プログラマーの応答

アダプター・サブタスクの障害の原因を調査する。

CSQX146I

csect-name アダプター・サブタスクが再始動。active サブタスクが活動中。

重大度

0

説明

アダプター・サブタスクが失敗しましたが、チャンネル・イニシエーターによって正常に再始動されました。アクティブ・アダプター・サブタスクがアクティブになりました。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQX150E

csect-name SSL サーバーの始動に失敗しました。

重大度

8

説明

SSL サーバー・サブタスクの始動処理中に、先行するメッセージで報告された重大エラーが発生した。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは、SSL サーバー・サブタスクの再始動を行う。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQX151I

csect-name started SSL server subtasks started, *failed* failed

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーター始動手順により、要求された数の SSL サーバー・サブタスクが開始された。
started 個の SSL サーバー・サブタスクは正常に開始され、*failed* 個の SSL サーバー・サブタスクは開始されなかった。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターの始動処理は続行される。

システム・プログラマーの応答

このメッセージによって一部の SSL サーバー・サブタスクが失敗したことが示される場合、先行するメッセージで報告された問題を調査する。

CSQX152E

csect-name SSL サーバー・サブタスクの開始に失敗しました。TCB=*tcb-name*

重大度

8

説明

SSL サーバー・サブタスクの始動処理中に、先行するメッセージで報告された重大エラーが発生した。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは、SSL サーバー・サブタスクの再始動を行う。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。

CSQX153E

csect-name SSL サーバー・サブタスクが異常終了。TCB=*tcb-name* 理由=*ssuuu-reason*

重大度

8

説明

訂正できないエラーが発生したため、TCB *tcb-name* を使用する SSL サーバー・サブタスクが異常終了している。sss はシステム完了コード、uuu はユーザー完了コード、また *reason* は関連する理由コードである (すべて 16 進表示)。

システム・アクション

SSL サーバー・サブタスクは異常終了し、通常、ダンプが発行される。チャンネル・イニシエーターは、このキュー・マネージャーを再始動しようとする。

システム・プログラマーの応答

ユーザー完了コードは、通常、Language Environment によって検出されたエラーの結果です。これらのコードについては、「[Language Environment for z/OS ランタイム・メッセージ](#)」を参照してください。システム完了コードが表示され、ユーザー・チャンネル出口を使用している場合は、出口がそのパラメーター・リストを正しく設定していることを確認してください。それ以外の場合は、IBM サポートに連絡してください。

CSQX154E

csect-name SSL サーバー・サブタスクの接続に失敗しました。RC=*return-code*

重大度

8

説明

SSL サーバー・サブタスクを接続できなかった。Return-code は、z/OS ATTACH サービスからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

SSL サーバー・サブタスクは再始動されない。

システム・プログラマーの応答

ATTACH 要求からの戻りコードについては、「[z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference](#)」マニュアルの該当するボリュームを参照してください。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX155E

csect-name SSL サーバー・サブタスクは再始動されません。障害が多すぎます。

重大度

8

説明

SSL サーバー・サブタスクで障害が発生した。すでに何度も障害が発生していたため、チャンネル・イニシエーターは再始動を行わなかった。

システム・アクション

SSL サーバー・サブタスクは再始動されない。それによって、処理能力が下がる場合がある。

システム・プログラマーの応答

SSL サーバー・サブタスクの障害の原因を調査する。

CSQX156I

csect-name SSL サーバー・サブタスクを再始動。active サブタスクが活動中

重大度

0

説明

SSL サーバー・サブタスクが失敗しましたが、チャンネル・イニシエーターによって正常に再始動されました。アクティブ SSL サーバー・サブタスクがアクティブになりました。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQX160E

csect-name SSL 通信が使用できません。

重大度

4

説明

サービスとの通信には SSLKEYR が必要である。

SSL 通信が要求されたが、チャンネル・イニシエーターの始動処理中に、これに先行するメッセージで報告されたエラーが発生した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。SSL 通信を使用しない場合は、SSLTASKS キュー・マネージャー属性を 0 に設定する。

CSQX161E

csect-name SSL キー・リポジトリ名が指定されていません。

重大度

4

説明

サービスとの通信には SSLKEYR が必要である。

SSL 通信が要求されているが、SSL キー・リポジトリ名 (SSLKEYR) が指定されていない。つまり SSLTASKS キュー・マネージャー属性が非ゼロであるが、SSLKEYR キュー・マネージャー属性が空白である。

システム・アクション

処理は続行されるが、SSL を使用した通信は行うことができない。

システム・プログラマーの応答

ALTER QMGR コマンドを使用して SSLKEYR 属性に SSL キー・リポジトリの名前を指定し、チャンネル・イニシエーターを再始動する。SSL 通信を使用しない場合は、SSLTASKS キュー・マネージャー属性を 0 に設定する。

CSQX162E

csect-name SSL CRL NAMELIST が空か、そのタイプが正しくありません。

重大度

4

説明

SSL 通信が要求されているが、SSLCRLNL キュー・マネージャー属性で指定されている SSL 認証の名前リストが空であるか、そのタイプが AUTHINFO でない。

システム・アクション

このメッセージが CHINIT の始動中に表示される場合は、SSL を使用する MQ 通信は使用できない。

既存の MQ SSL 構成を変更して REFRESH SECURITY TYPE(SSL) コマンドを発行した後にこのメッセージが表示された場合、変更した MQ SSL 構成はリジェクトされ、現在の SSL 構成が引き続き適用される。これは、有効で機能する MQ SSL 定義のセットが間違った変更によって気付かずに使用不能にされてしまうのを避けるためである。

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

名前リストの定義を訂正し、チャンネル・イニシエーターを再始動する。SSL 通信を使用しない場合は、SSLTASKS キュー・マネージャー属性を 0 に設定する。

CSQX163I

csect-name SSL CRL namelist にある名前が多すぎます。最初の *n* 個が使用されます。

重大度

4

説明

SSLCRLNL キュー・マネージャー属性で指定されている SSL 認証の名前リストに、サポートされている数より多くの名前がある。サポートされている数は *n* である。

システム・アクション

処理は続行する。この数を超える名前は無視される。

システム・プログラマーの応答

名前リストの定義を訂正する。

CSQX164E

csect-name SSL キー・リポジトリにアクセスできません。

重大度

4

説明

SSLKEYR キュー・マネージャー属性によって指定された名前を持つ SSL 鍵リポジトリにアクセスできませんでした。

最も一般的な原因は、次のとおりである。

- 指定されたキー・リポジトリが存在しない。
- チャンネル・イニシエーターが、指定されたキー・リポジトリを読み取る許可を持っていない。
- チャンネル・イニシエーターが、SSL CRL 名前リストにリストされている認証情報オブジェクトで指定された LDAP サーバーに接続できなかった。
- 共有鍵リングを使用する場合、名前に 'userid/' という接頭部が付いていない。

システム・アクション

処理は続行されるが、SSL を使用した通信は行うことができない。SSL 通信を使用するチャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

次の項目について確認します。

- SSL 鍵リポジトリ名が正しく指定されている。共有鍵リングを使用している場合、'userid/' という接頭部が付いている。
- SSL 鍵リポジトリとして指定された鍵リングが存在し、チャンネル・イニシエーターがその読み取り権限を持つかどうか。
- LDAP 名が正しく指定されていて、使用可能になっているかどうか。

詳しくは、「*z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング*」マニュアルの [SSL 機能戻りコード 202](#) を参照してください。

CSQX165I

csect-name SSL 鍵リポジトリ・リフレッシュが進行中です。

重大度

0

説明

REFRESH SECURITY TYPE(SSL) コマンドが発行されたが、SSL 鍵リポジトリのリフレッシュがすでに進行中であった。

システム・アクション

コマンドは無視される。現在進行中のリフレッシュは、続行される。

CSQX166E

csect-name AuthInfo *auth-info-name* のタイプが間違っています。

重大度

4

説明

SSLCTRL キュー・マネージャー属性で指定されている SSL 認証の名前リストに AUTHTYPE が OCSP である認証情報オブジェクトの名前が含まれている。

システム・アクション

処理は続行されるが、SSL を使用した通信は行うことができない。

システム・プログラマーの応答

名前リストに指定されている定義を訂正して、AUTHTYPE が CRLLDAP である認証情報オブジェクトのみが指定されるようにし、チャンネル・イニシエーターを再始動する。SSL 通信を使用しない場合は、SSLTASKS キュー・マネージャー属性を 0 に設定する。

CSQX179I

csect-name チャンネル *channel-name* のメッセージの再割り振りが進行中で、*msg-total* 件中 *msg-progress* 件のメッセージが処理されました

重大度

0

説明

チャンネル *channel-name* は現在メッセージ再割り振り中であり、この処理の進行状況は、処理対象となる合計メッセージ数 *msg-total* 件のうち、*msg-progress* 件のメッセージ処理が完了した状態になっている。

システム・アクション

チャンネルはメッセージの再割り振りを続行する。このプロセスは、伝送キューのチャンネルに割り当てられたメッセージ数が多い場合、時間がかかることがある。この間、CPU 使用率の増加が見られる可能性がある。再割り振りプロセスが完了すると、チャンネルは停止する。

システム・プログラマーの応答

例えば、宛先キュー・マネージャーを現在使用できるなどの理由で、再割り振りが必要ない場合、コマンド STOP CHANNEL MODE(FORCE) を使用して再割り振りを中断できる。

CSQX180I

csect-name チャンネル *channel-name* がメッセージの再割り振りを完了し、*msg-processed* 件のメッセージが処理されました

重大度

0

説明

チャンネル *channel-name* はメッセージ再割り振り処理を完了し、この処理中に *msg-processed* 件のメッセージを処理した。

システム・アクション

このチャンネルでチャンネル再割り振りが終了したので、チャンネルが終了する。

システム・プログラマーの応答

メッセージが正常に再割り振りされたかどうか、およびチャンネルを再度開始できるかどうかを確認する。

CSQX181E

csect-name 無効な応答 *response* が出口 *exit-name* によって設定されました。

重大度

8

説明

ユーザー出口 *exit-name* により、無効な応答コード (*response*、16 進表示) がチャンネル出口パラメーター (MQCXP) の *ExitResponse* フィールドに戻された。

システム・アクション

詳細を示すメッセージ [CSQX190E](#) が発行されて、チャンネルは停止する。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー出口プログラムにより無効な応答コードが設定された原因を調査する。

CSQX182E

csect-name Invalid secondary response *response* set by exit *exit-name*

重大度

8

説明

ユーザー出口 *exit-name* により、無効な 2 次応答コード (*response*、16 進表示) がチャンネル出口パラメーター (MQCXP) の *ExitResponse2* フィールドに戻された。

システム・アクション

詳細を示すメッセージ [CSQX190E](#) が発行されて、チャンネルは停止する。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー出口プログラムにより無効な 2 次応答コードが設定された原因を調査する。

CSQX184E

csect-name 出口 *exit-name* に無効なバッファ・アドレス *address* が設定されました。

重大度

8

説明

チャンネル出口パラメーター (MQCXP) の *ExitResponse2* フィールドにある 2 次応答コードが *MQXR2_USE_EXIT_BUFFER* に設定されている場合に、ユーザー出口 *exit-name* により、出口バッファで無効なアドレスが戻された。

システム・アクション

詳細を示すメッセージ [CSQX190E](#) が発行されて、チャンネルは停止する。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー出口プログラムにより無効な出口バッファ・アドレスが設定された原因を調査する。原因の大半は、値が設定されていなかったため、値が 0 となっている場合である。

CSQX187E

csect-name 無効なヘッダー圧縮値が出口 *exit-name* によって設定されました。

重大度

8

説明

ユーザー出口 *exit-name* が、チャンネル開始時の折衝で受け入れ可能となった値の 1 つではないヘッダー圧縮値を戻した。

システム・アクション

詳細を示すメッセージ [CSQX190E](#) が発行されて、チャンネルは停止する。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー出口プログラムにより無効な値が設定された原因を調査する。必要であれば、チャンネル定義を変更して、必要な圧縮値が受け入れられるようにする。

CSQX188E

csect-name 無効なメッセージ圧縮値が出口 *exit-name* によって設定されました。

重大度

8

説明

ユーザー出口 *exit-name* が、チャンネル開始時の折衝で受け入れ可能となった値の 1 つではないメッセージ圧縮値を戻した。

システム・アクション

詳細を示すメッセージ [CSQX190E](#) が発行されて、チャンネルは停止する。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー出口プログラムにより無効な値が設定された原因を調査する。必要であれば、チャンネル定義を変更して、必要な圧縮値が受け入れられるようにする。

CSQX189E

csect-name 出口 *exit-name* に無効なデータ長 *length* が設定されました。

重大度

8

説明

ユーザー出口 *exit-name* により、ゼロ以下のデータ長の値が戻された。

システム・アクション

詳細を示すメッセージ [CSQX190E](#) が発行されて、チャンネルは停止する。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー出口プログラムにより無効なデータ長が設定された原因を調査する。

CSQX190E

csect-name Channel *channel-name* stopping because of error in exit *exit-name*, Id=*ExitId*
reason=*ExitReason*

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* を呼び出したユーザー出口 *exit-name* が、先行するメッセージで報告された無効な値を戻した。 *ExitId* に、出口のタイプが示される。

11

MQXT_CHANNEL_SEC_EXIT、セキュリティー出口

12

MQXT_CHANNEL_MSG_EXIT、メッセージ出口

13

MQXT_CHANNEL_SEND_EXIT、送信出口

14

MQXT_CHANNEL_RCV_EXIT、受信出口

15

MQXT_CHANNEL_MSG_RETRY_EXIT、メッセージ再試行出口

16

MQXT_CHANNEL_AUTO_DEF_EXIT、自動定義出口

また、 *ExitReason* には、それが呼び出された理由が示される。

11

MQXR_INIT、初期設定

12

MQXR_TERM、終了

13

MQXR_MSG、メッセージ処理

14

MQXR_XMIT、伝送処理

15

MQXR_SEC_MSG、セキュリティー・メッセージ受信

16

MQXR_INIT_SEC、セキュリティー交換開始

17

MQXR_RETRY、メッセージの再試行

18

MQXR_AUTO_CLUSSDR、クラスター送信側チャンネルの自動定義

28

MQXR_AUTO_CLUSRCVR、クラスター受信側チャンネルの自動定義

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー出口プログラムにより無効な値が設定された原因を調査する。

CSQX191I

csect-name チャンネル *channel-name* 開始メッセージの再割り振り

重大度

0

説明

チャンネル *channel-name* は、現在宛先キュー・マネージャーにメッセージを送達できないために、メッセージの再割り振りに入っている。

システム・アクション

特定のキュー・マネージャーにバインドされていないメッセージに、ワークロード・บาลancingが行われる。このチャンネルに割り当てられたメッセージが多い場合は、時間がかかることがある。

DISPLAY CHSTATUS(channel-name) XQMSGSA コマンドを使用して、数を確認します。

システム・プログラマーの応答

例えば、宛先キュー・マネージャーが現在使用可能であるなどの理由で、再割り振りが必要ない場合、**STOP CHANNEL MODE(FORCE)** を使用して再割り振りを中断できる。

CSQX192E

csect-name チャンネル *channel-name* を停止できません。メッセージの再割り振りが進行中です。

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* の停止要求が出されたが、メッセージの再割り振りが行われているために、チャンネルをすぐには停止できない。

システム・アクション

チャンネルはメッセージの再割り振りを続行する。このプロセスは、伝送キューのチャンネルに割り当てられたメッセージ数が多い場合、時間がかかることがある。この間、CPU 使用率の増加が見られる可能性がある。再割り振りプロセスが完了すると、チャンネルは停止する。

システム・プログラマーの応答

再割り振りされるメッセージの数は、**DISPLAY CHSTATUS(channel-name) XQMSGSA** コマンドを使用して判別できます。

チャンネルの **MONCHL** 属性をオンにして、**DISPLAY CHSTATUS(channel-name) XQMSGSA** コマンドを使用しているユーザーの数を確認します。**MONCHL** の値は、LOW、MEDIUM、または HIGH でなければなりません。詳しくは、[MONCHL](#) を参照。

例えば、宛先キュー・マネージャーが使用できないなどの理由で、再割り振りが必要ない場合、**STOP CHANNEL MODE(FORCE)** コマンドを使用して再割り振りを中断できる。

CSQX196E

csect-name 出口 *exit-name* によってセットされたデータ長 *data-length* はエージェント・バッファ長 *ab-length* より長いです。

重大度

8

説明

ユーザー出口 *exit-name* が、提供されたエージェント・バッファにデータを戻したが、指定された長さがバッファより長い。

システム・アクション

詳細を示すメッセージ **CSQX190E** が発行されて、チャンネルは停止する。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー出口プログラムにより無効なデータ長が設定された原因を調査する。

CSQX197E

csect-name 出口 *exit-name* によってセットされたデータ長 *data-length* は出口バッファ長 *eb-length* より長いです。

重大度

8

説明

ユーザー出口 *exit-name* が、提供された出口バッファにデータを戻したが、指定された長さがバッファより長い。

システム・アクション

詳細を示すメッセージ **CSQX190E** が発行されて、チャンネルは停止する。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー出口プログラムにより無効なデータ長が設定された原因を調査する。

CSQX199E

csect-name メッセージ・コード *ccc* は認識されていません。

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターによって、予期しないエラー・メッセージ・コードが発行された。

システム・アクション

次のアップロード間隔でアップロードが再試行される。

システム・プログラマーの応答

エラー・コードと説明から、問題を確認する。次のことを確認する。

- APIKey および ServiceURL は、キュー・マネージャーの CSQMQRINI DD カードの ReportingService スタンザで指定されます。
- チャンネル・イニシエーターが IBM Cloud[®] サービスへネットワーク・アクセスできる。
- チャンネル・イニシエーターに SSL 鍵リング (SSLKEYR) があり、IBM Cloud 証明書がこの鍵リングに関連付けられている。

CSQX201E

csect-name 会話を割り振れません。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id* TRPTYPE=*trptype* RC=*return-code* (*return-text*) 理由=*reason*

重大度

8

説明

接続 *conn-id* に会話を割り振ろうとしたが、失敗した。関連付けられたチャンネルは *channel-name* です。名前が判別できない場合は、「????」と表示されます。 *trptype* に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

戻りコード (16 進数表示) が、*return-code*、(テキスト表示) *return-text* だった。エラーによっては、詳しい情報を提供している関連した理由コード *reason* (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

このエラーの原因としては、チャンネル定義の中の項目が間違っているか、APPC セットアップに何らかの問題があることが考えられる。エラーを訂正して、再試行する。

また、リモート・エンドの `listen` プログラムが実行中でない可能性もある。その場合には、`trptype` のリスナーを始動するのに必要な操作を実行してから、再実行する。

通信システムから戻りコードが戻された原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。TCP/IP を使用している場合、理由コードについては、「[z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード](#)」を参照してください。

CSQX202E

`csect-name` 接続またはリモート・リスナーが使用できません。チャンネル・チャンネル名接続 `conn-id` TRPTYPE=`trptype` RC=`return-code` (`return-text`) reason=`reason`

重大度

8

説明

会話を割り振ろうとしたが、接続 `conn-id` が利用できなかったために失敗した。関連付けられたチャンネルは `channel-name` です。名前が判別できない場合は、「????」と表示されます。`trptype` に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

戻りコード (16 進数表示) が、`return-code`、(テキスト表示) `return-text` だった。エラーによっては、詳細情報を示す関連した理由コード `reason` (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャンネル開始が再試行される。

システム・プログラマーの応答

しばらくしてから再試行する。

原因としては、リモート・エンドのリスナーが実行中ではなかった、あるいは間違ったポートまたは LU 名を使用して開始されていたことが考えられる。このような場合には、適切なリスナーを始動するのに必要な操作を実行してから、再実行する。

通信システムから戻りコードが戻された原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。TCP/IP を使用している場合、理由コードについては、「[z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード](#)」を参照してください。

理由コード 468 を受け取った場合、

- 正しい IP アドレスを使用していない。
- ポートのリスナーがアクティブ状態でない可能性がある。
- ファイアウォールにより接続が許可されない。

z/OS イメージに複数のリンクが定義されている場合、そのリンクに応じてイメージに複数のホスト名を付けることができます。送信側として正しいホスト名が使用されることを確認する必要があります。イメージ上のホスト名を表示するには NETSTAT HOSTS コマンドを使用する。

CSQX203E

`csect-name` 通信構成にエラーがあります。チャンネル `channel-name` connection `conn-id` TRPTYPE=`trptype` RC=`return-code` (`return-text`) reason=`reason`

重大度

8

説明

接続 `conn-id` で会話を割り振ろうとしたが、通信構成エラーにより失敗した。関連付けられたチャンネルは `channel-name` です。名前が判別できない場合は、「????」と表示されます。`trptype` に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

戻りコード (16 進数表示) が、*return-code*、(テキスト表示) *return-text* だった。エラーによっては、詳細情報を示す関連した理由コード *reason* (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

通信システムから戻りコードが戻された原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。

考えられる原因は、次のとおりである。

- 通信プロトコルが TCP/IP の場合:
 - 指定された接続名が間違っているか、ネットワーク・アドレスを解決できないか、またはその名前がネーム・サーバーにない可能性がある。エラーを訂正し、やり直してください。
 - 戻りコードがゼロの場合、ネーム・サーバーに問題がある。通常、OMVS コマンド OPING は、同じように失敗する。障害を解決して、チャンネルを再始動する。/etc/resolv.conf ファイルを調べて、正しいネーム・サーバー・アドレスが NSINTERADDR ステートメントに指定されていることを確認してください。
- 通信プロトコルが LU 6.2 の場合:
 - サイド情報の中の伝送パラメーターの 1 つ(MODENAME、TPNAME、または PARTNER_LU) が間違っているか、接続名として指定された記号宛先名のサイド情報がない。エラーを訂正し、やり直してください。
 - おそらく、LU が使用不可であったために、LU 6.2 セッションが確立されなかった。その場合は、z/OS コマンド VARY ACTIVE を実行する。

理由コードについては、「[z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード](#)」を参照。

CSQX204E

csect-name 接続の試行が拒否されました。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id* TRPTYPE=*trptype*
RC=*return-code* (*return-text*) reason=*reason*

重大度

8

説明

接続 *conn-id* に接続しようとしたが、拒否された。関連付けられたチャンネルは *channel-name* です。名前が判別できない場合は、「????」と表示されます。 *trptype* に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

戻りコード (16 進数表示) が、*return-code*、(テキスト表示) *return-text* だった。エラーによっては、詳細情報を示す関連した理由コード *reason* (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

リモート・エンドで適切なリスナーが開始されているかどうかを調べる。

通信システムから戻りコードが戻された原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。

通信プロトコルが LU6.2 の場合、リモート LU で提供されるユーザー ID またはパスワードが間違っている可能性がある。リモート・ホストまたはリモート LU は、ローカル・ホストまたはローカル LU から接続ができるように構成することができない場合がある。

通信プロトコルが TCP/IP の場合、リモート・ホストがローカル・ホストを認識していない可能性がある。理由コードについては、「[z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード](#)」を参照。

CSQX205E

csect-name ネットワーク・アドレスを解決できません。チャンネル・チャンネル名接続 *conn-id*
TRPTYPE=TCP RC=*return-code* (*return-text*) 理由=*reason*

重大度

8

説明

指定された接続名 *conn-id* から TCP/IP ネットワーク・アドレスに分析を解決できなかった。関連付けられたチャンネルは *channel-name* です。名前が判別できない場合は、「????」と表示されます。 *trptype* に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

戻りコード (16 進数表示) が、*return-code*、(テキスト表示) *return-text* だった。エラーによっては、詳細情報を示す関連した理由コード *reason* (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

ローカル TCP/IP 構成を検査する。ネーム・サーバーにホスト名または LU 名が含まれていないか、ネーム・サーバーが利用不能になっている。

TCP/IP から戻りコードが戻された原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。理由コードについては、「[z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード](#)」を参照。

CSQX206E

csect-name データ送信中にエラー。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id* (キュー・マネージャー *qmgr-name*) TRPTYPE=*trptype* RC=*return-code* (*return-text*) 理由=*reason*

重大度

8

説明

conn-id へのデータ送信においてエラーが発生した。このエラーは通信障害が原因である可能性がある。関連付けられているチャンネルは *channel-name* で、関連付けられているリモート・キュー・マネージャーは *qmgr-name* です。名前を判別できない場合は、「????」と表示されます。 *trptype* に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

戻りコード (16 進数表示) が、*return-code*、(テキスト表示) *return-text* だった。エラーによっては、詳細情報を示す関連した理由コード *reason* (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャンネルは停止状態です。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

通信システムから戻りコードが戻された原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。TCP/IP を使用している場合、理由コードについては、「[z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード](#)」を参照してください。

このエラーは、受信ユーザー出口におけるエラーなど、なんらかの理由で、他方の端のチャンネルが停止したために発生した可能性がある。

CSQX207E

csect-name 無効なデータを受信しました。接続 *conn-id* (キュー・マネージャー *qmgr-name*)
TRPTYPE=*trptype*

重大度

8

説明

接続 *conn-id* から受信したデータが、要求された形式ではなかった。関連するリモート・キュー・マネージャーは *qmgr-name* である。この名前は判別できず、「????」と表示されることもある。送信されたデータは、キュー・マネージャーまたはクライアント以外からの場合もある。*trptype* に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

システム・アクション

データは無視される。

システム・プログラマーの応答

未知のホストまたは LU がデータを送信しようとしたために起きる場合が多い。

CSQX208E

csect-name データ受信中にエラー。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id* (キュー・マネージャー *qmgr-name*) TRPTYPE=*trptype* RC=*return-code* (*return-text*) 理由=*reason*

重大度

8

説明

接続 *conn-id* からのデータ受信においてエラーが発生した。このエラーは通信障害が原因で発生した可能性がある。関連付けられているチャンネルは *channel-name* で、関連付けられているリモート・キュー・マネージャーは *qmgr-name* です。名前を判別できない場合は、「????」と表示されます。*trptype* に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

戻りコード (16 進数表示) が、*return-code*、(テキスト表示) *return-text* だった。エラーによっては、詳細情報を示す関連した理由コード *reason* (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャンネルは停止状態です。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

通信システムから戻りコードが戻された原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。TCP/IP を使用している場合、理由コードについては、[戻りコード 00000461](#)を参照。

CSQX209E

csect-name 接続が予期せず終了しました。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id* (キュー・マネージャ - *qmgr-name*) TRPTYPE=*trptype* RC=*return-code* (*return-text*)

重大度

8

説明

接続 *conn-id* からのデータ受信においてエラーが発生した。リモート・ホストまたは LU への接続が予期せずに終了した。関連付けられているチャンネルは *channel-name* で、関連付けられているリモート・キュー・マネージャは *qmgr-name* です。名前を判別できない場合は、「????」と表示されます。*trptype* に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

しかし、このメッセージは、エラーが発生していない場合でも発行されることがある。例えば、チャンネル・イニシエーターが使用しているポートに宛先指定された TCP/IP コマンド TELNET が実行された場合である。

戻りコード (16 進数表示) が、*return-code*、(テキスト表示) *return-text* だった。エラーによっては、詳細情報を示す関連した理由コード *reason* (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャンネルに問題がある場合には、チャンネルが停止される。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

ローカルおよびリモート・コンソールのログで、ネットワーク・エラーの報告がないかを調べる。

通信システムから戻りコードが戻された原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。TCP/IP を使用している場合、理由コードについては、「[z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード](#)」を参照。

CSQX210E

csect-name バインドを完了できません。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id* TRPTYPE=LU62 RC=*return-code* (*return-text*) 理由=*reason*。

重大度

8

説明

接続 *conn-id* で着信接続要求が届いたが、ローカル・ホストまたはローカル LU が結合を完了することができなかった。関連付けられたチャンネルは *channel-name* です。名前が判別できない場合は、「????」と表示されます。

APPC/MVS 割り振りサービスからの戻りコードが、(16 進数表示) *return-code*、(テキスト表示) *return-text* だった。エラーによっては、詳細情報を示す関連した理由コード *reason* (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

APPC/MVS 構成を調べる。

APPC/MVS 割り振りサービスからの戻りコードの原因については、[1114 ページの『APPC/MVS 戻りコード』](#)を参照してください。詳細については、「[z/OS MVS プログラミング: APPC/MVS サーバーの書き方](#)」を参照してください。

CSQX212E

csect-name ソケットを割り振りできません。チャンネル *channel-name* TRPTYPE=TCP RC=*return-code* (*return-text*) 理由=*reason*

重大度

8

説明

おそらくストレージの問題により、TCP/IP ソケットを作成できなかった。関連付けられたチャンネルは *channel-name* です。名前が判別できない場合は、「????」と表示されます。

TCP/IP からの戻りコード: (16 進数) *return-code*、(テキスト) *return-text*。エラーによっては、詳細情報を示す関連した理由コード *reason* (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

TCP/IP から戻りコードが戻された原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。理由コードについては、「[z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード](#)」を参照。

CSQX213E

csect-name 通信エラーです。チャンネル *channel-name* TRPTYPE=*trptype* 機能 *func* RC=*return-code* (*return-text*) 理由=*reason*

重大度

8

説明

リスナーまたはチャンネルに対して、予期しない通信エラーが発生した。これがリスナーに対するものであれば、*csect-name* は CSQXCLMA になり、チャンネル名は「????」と表示される。これがチャンネルに対するものであれば、チャンネルは *channel-name* であるが、この名前は判別できないこともあり、その場合は「????」と表示される。

trptype に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

func はエラーを発生させた TCP/IP または APPC/MVS 機能の名前である。この名前が判別できず、「????」と表示されることもある。

return-code は、

- 通常、通信システムからの戻りコード (16 進表示) である。
- LU6.2 リスナーの場合、APPC/MVS 割り振りサービスからの理由コード (16 進表示) である。
- 形式が 10009nnn または 20009nnn の場合は、分散キューイング・メッセージ・コードである。

return-text は、テキスト形式の戻りコードである。

エラーによっては、詳細情報を示す関連した理由コード *reason* (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャンネルでエラーが発生した場合、そのチャンネルは停止する。リスナーの場合は、チャンネルが開始されないか、あるいは、リスナーが終了する場合もある。

システム・プログラマーの応答

通信システムから戻りコードが戻された原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。

ioctl 関数の場合、戻りコードが 0000007A であり、理由が 12B20381 である場合、問題は、キュー・マネージャーが TCPSTACK (MULTIPLE) で構成されており、TCPNAME パラメーターで指定された TCPIP スタックが存在しないことである可能性があります。

その場合は、指定された TCPIP スタックを開始するか、キュー・マネージャーの TCPNAME パラメーターの値を変更してください。

一般に、分散キューイング・メッセージ・コード *nnn* は、通常これより前に出されるメッセージ CSQXnnnE に関連している。詳細については、このメッセージの説明を参照。メッセージに関する記述がない場合は、[1125 ページの『分散キューイング・メッセージ・コード』](#)の該当するメッセージ番号を参照。

問題の原因が示されることがあるパートナー・システムのエラー・メッセージを調べる。

CSQX215E

csect-name 通信ネットワークが使用できません。TRPTYPE=*trptype*

重大度

8

説明

通信システムを使用しようとしたが、このシステムが開始されていなかった、または停止していた。*trptype* に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

システム・アクション

チャンネルまたはリスナーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

通信システムを開始してから、再実行する。

CSQX218E

csect-name リスナーは始動していません。バインドできません。ポート *port* アドレス *ip-address* TRPTYPE=TCP INDISP=*disposition* RC=*return-code*

重大度

8

説明

TCP/IP ソケットを指示されたリスナー・ポートに結合しようとしたが、失敗した。*ip-address* は、使用された IP アドレスであり、リスナーがすべての IP アドレスを使用している場合は、'*' である。TCP/IP からの戻りコード (16 進表示) は *return-code* である。

disposition は、リスナーの処理していた着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

システム・アクション

リスナーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

この障害は、同じポート番号を使用する別のプログラムが原因である可能性がある。

TCP/IP からの戻りコードについては、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。

CSQX219E

csect-name リスナーは停止しています。新規接続の作成エラーです。TRPTYPE=TCP
INDISP=*disposition*

重大度

8

説明

接続要求が受信されたため新規 TCP/IP ソケットを作成しようとしたが、エラーが発生した。

disposition は、リスナーの処理していた着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

システム・アクション

リスナーは停止する。チャンネル・イニシエーターは、LSTRTMR キュー・マネージャー属性で指定した間隔でリスナーを再始動しようとする。

システム・プログラマーの応答

この障害は一時的なものであることがあります。後で再試行してください。それでもこの問題が解決されない場合には、TCP/IP を使用しているほかのジョブの一部を停止させるか、TCP/IP を再始動させる必要がある。

CSQX220E

csect-name 通信ネットワークが使用できません。チャンネル *channel-name* TRPTYPE=*trptype*

重大度

8

説明

チャンネルまたはリスナーが通信システムを使用しようとしたが、このシステムが開始されていないか、または停止されていた。これがチャンネルに対するものであれば、チャンネルは *channel-name* であるが、この名前は判別できないこともあり、その場合は「????」と表示される。これがリスナーに対するものである場合も、チャンネル名は「????」と表示される。*trptype* に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

システム・アクション

チャンネルまたはリスナーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

通信システムを開始してから、再実行する。

CSQX228E

csect-name リスナーがチャンネルを開始できません。チャンネル *channel-name* TRPTYPE=*trptype*
INDISP=*disposition* 接続=*conn-id*

重大度

8

説明

着信接続要求が *conn-id* から届いたが、*trptype* のリスナーがチャンネルのインスタンスを開始して、それに応答することができなかった。関連付けられたチャンネルは *channel-name* です。名前が判別できない場合は、「????」と表示されます。

disposition は、リスナーの処理していた着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

しかし、このメッセージは、エラーが発生していない場合でも発行されることがある。例えば、チャンネル・イニシエーターが使用しているポートに宛先指定された TCP/IP コマンド TELNET が実行された場合である。

システム・アクション

チャンネルを伴う場合には、チャンネルが開始されない。

システム・プログラマーの応答

この障害は、チャンネル・イニシエーターの使用が現在多すぎるためである可能性がある。実行中のチャンネルが少ないときに、再度実行する。問題が解決されない場合は、チャンネル・イニシエーターが使用するディスパッチャーの数を増やす。

CSQX234I

csect-name リスナーが停止しました。TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*

重大度

0

説明

指定されたリスナーが終了した。これにはいくつかの理由が考えられる。すべてではないが、そのいくつかを以下のリストに挙げる。

- STOP コマンドが発行された
- リスナーが再試行していた
- 通信システム内でエラーが発生した

trptype は、トランスポート・タイプです。

disposition は、リスナーの処理していた着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

システム・アクション

処理を続行する。リスナーを慎重に停止しないと、チャンネル・イニシエーターは、LSTRTMR キュー・マネージャー属性で指定した間隔でリスナーを再始動しようとする。

システム・プログラマーの応答

リスナーが故意に停止されたのではない場合は、チャンネル・イニシエーター、TCP/IP、OMVS、または APPC アドレス・スペースに関連した先行のメッセージを調べて、原因を判別する。

CSQX235E

csect-name 無効なローカル・アドレス *local-addr*, チャネル *channel-name* TRPTYPE=*trptype*
RC=*return-code*(*return-text*) 理由=*reason*

重大度

8

説明

指定されたローカル・アドレス *local-addr* を解決して、TCP/IP ネットワーク・アドレス にすることができなかった。関連付けられたチャネルは *channel-name* です。名前が判別できない場合は、「????」と表示されます。 *trptype* に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

戻りコード (16 進数表示) が、*return-code*、(テキスト表示) *return-text* だった。エラーによっては、詳細情報を示す関連した理由コード *reason* (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

ローカル TCP/IP 構成を検査する。ネーム・サーバーにホスト名が含まれないか、またはネーム・サーバーが使用不可になっている。

TCP/IP から戻りコードが戻された原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。

CSQX239E

csect-name 通信用のローカル・ホスト名を判別できません。チャネル *channel-name* TRPTYPE=TCP
RC=*return-code*(*return-text*) 理由=*reason*

重大度

8

説明

TCP/IP を使用するチャネルまたはリスナーの開始が試行されたが、TCP/IP *gethostname* 呼び出しが失敗した。これがチャネルに対するものであれば、チャネルは *channel-name* であるが、この名前は判別できないこともあり、その場合は「????」と表示される。これがリスナーに対するものである場合も、チャネル名は「????」と表示される。

戻りコード (16 進数表示) が、*return-code*、(テキスト表示) *return-text* だった。エラーによっては、詳細情報を示す関連した理由コード *reason* (16 進数) があるものもある。

システム・アクション

チャネルまたはリスナーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

TCP/IP から戻りコードが戻された原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照。

CSQX250E

csect-name リスナーが異常終了しました。 TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*, 理由=*ssuuuu-reason*

重大度

8

説明

訂正できないエラーが発生したため、指定したリスナーは異常終了している。sss はシステム完了コード、uuu はユーザー完了コード、また *reason* は関連する理由コードである (すべて 16 進表示)。

disposition は、リスナーの処理していた着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

システム・アクション

リスナーは異常終了し、ダンプは正常に発行される。チャンネル・イニシエーターは、LSTRTMR キュー・マネージャー属性で指定した間隔でリスナーを再始動しようとする。

システム・プログラマーの応答

ユーザー完了コードは、通常、Language Environment によって検出されたエラーの結果です。これらのコードについては、「[z/OS Language Environment プログラミング・ガイド](#)」を参照してください。それ以外の場合は、IBM サポートに連絡してください。

CSQX251I

csect-name リスナーが開始しました。TRPTYPE=*trptype* INDISP=*disposition*

重大度

0

説明

指定したリスナーは、正常に開始した。これは、START LISTENER コマンドの結果である場合もあるし、エラーの後でリスナーが自動的に再始動したためである場合もある。

disposition は、リスナーの処理していた着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

システム・アクション

処理を続行する。

CSQX256E

csect-name リスナーは停止しています。新規接続の選択エラーです。TRPTYPE=TCP INDISP=*disposition*

重大度

8

説明

リスナー選択処理でエラーが発生した。リスナーが TCP/IP によって通知されたが、接続要求が受信されなかった。

disposition は、リスナーの処理していた着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

システム・アクション

リスナーは停止する。チャンネル・イニシエーターは、LSTRTMR キュー・マネージャー属性で指定した間隔でリスナーを再始動しようとする。

システム・プログラマーの応答

この障害は一時的なものであることがあります。後で再試行してください。それでもこの問題が解決されない場合には、TCP/IP を使用しているほかのジョブの一部を停止させるか、TCP/IP を再始動させる必要がある。

CSQX257I

csect-name リスナーは新規接続を作成できません。TRPTYPE=TCP INDISP=*disposition*

重大度

4

説明

接続要求が受信されたため新規 TCP/IP ソケットを作成しようとしたが、エラーが発生した。

disposition は、リスナーの処理していた着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

システム・アクション

リスナーは実行し続けるが、接続は作成されない。

システム・プログラマーの応答

この障害は一時的なものであることがあります。後で再試行してください。それでもこの問題が解決されない場合には、TCP/IP を使用しているほかのジョブの一部を停止させるか、TCP/IP を再始動させる必要がある。

CSQX258E

csect-name リスナーは停止しています。新規接続の受信エラーです。TRPTYPE=TCP INDISP=*disposition*

重大度

8

説明

リスナー受け入れ処理でエラーが発生した。リスナーが TCP/IP によって通知されたが、接続要求が受信されなかった。

disposition は、リスナーの処理していた着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

システム・アクション

リスナーは停止する。チャンネル・イニシエーターは、LSTRTMR キュー・マネージャー属性で指定した間隔でリスナーを再始動しようとする。

システム・プログラマーの応答

この障害は一時的なものであることがあります。後で再試行してください。それでもこの問題が解決されない場合には、TCP/IP を使用しているほかのジョブの一部を停止させるか、TCP/IP を再始動させる必要がある。

CSQX259E

csect-name 接続がタイムアウトになりました。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id* (キュー・マネージャー *qmgr-name*) TRPTYPE=*trptype*

重大度

8

説明

接続 *conn-id* がタイムアウトした。関連付けられているチャンネルは *channel-name* で、関連付けられているリモート・キュー・マネージャーは *qmgr-name* です。名前を判別できない場合は、「????」と表示されます。 *trptype* に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

考えられる原因は、次のとおりである。

- 通信障害。
- メッセージ・チャンネルでは、受信タイムアウト機能が使用されている場合 (RCVTIME、RCVTTYPE、および RCVTMIN キュー・マネージャー属性で設定)、この時間内にパートナーから応答が受信されなかった。
- MQI チャンネルでは、クライアント・アイドル機能が使用されている場合 (DISCINT サーバー接続チャンネル属性によって設定)、クライアント・アプリケーションがこの時間内に MQI を発行しなかった。

システム・アクション

チャンネルは停止します。

システム・プログラマーの応答

メッセージ・チャンネルでは、リモート・エンドを調べて、タイムアウトが発生した理由を確認する。再試行値が設定されている場合、リモート・エンドは自動的に再始動する。必要であれば、キュー・マネージャーの受信待ち時間をより高い値に設定する。

MQI チャンネルでは、クライアント・アプリケーションの動作が正しいかどうかを確認する。正しい場合は、チャンネルの切断間隔をより高い値に設定する。

CSQX261E

csect-name 適切な IP スタックがありません。チャンネル *channel-name*, 接続 *conn-id*

重大度

8

説明

TCP/IP 接続を使用しているチャンネル *channel-name* に対して、接続 *conn-id* での会話を割り振りしようとしたが、使用した IP スタックが接続に必要な IP アドレス・ファミリーをサポートしなかったために、成功しなかった。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

チャンネルの CONNAME 属性が解決されて IPv6 アドレスになる場合は、TCPNAME キュー・マネージャー属性とチャンネルの LOCLADDR 属性の組み合わせで使用されるスタックが IPv6 をサポートするようにする。チャンネルの CONNAME 属性が解決されて IPv4 アドレスになる場合は、TCPNAME キュー・マネージャー属性とチャンネルの LOCLADDR 属性の組み合わせで使用されるスタックが IPv4 をサポートするようにする。

CSQX262E

csect-name 通信が取り消されました。チャンネル *channel-name* TRPTYPE=*trptype*

重大度

8

説明

リスナーまたはチャンネルに対して、予期しない通信エラーが発生した。このエラーは、チャンネルがモード FORCE で停止して、通信セッションが取り消された場合に発生する。

チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。*trptype* に、この通信システムが示される。

TCP

TCP/IP

LU62

APPC/MVS

システム・アクション

チャンネルは停止状態です。

システム・プログラマーの応答

必要に応じて、チャンネルを再始動する。

CSQX293I

csect-name チャンネル *channel-name* は *old-xmitq* から *new-xmitq* への伝送キューの切り替えを開始しました

重大度

0

説明

channel-name によって識別されるチャンネル用の伝送キューの切り替えは、キュー・マネージャーのデフォルト・クラスター伝送キュー構成の変更、またはクラスター伝送キューのクラスター・チャンネル名属性への変更によって必要とされます。このメッセージは、伝送キューを *old-xmitq* から *new-xmitq* に切り替える処理が開始されると、チャンネル・イニシエーターによって発行されます。

システム・アクション

チャンネルの切り替え処理が開始されたことをキュー・マネージャーに通知します。

古い伝送キューを閉じ、代わりに新しい伝送キューの使用に切り替えた後も、チャンネルは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQX294E

csect-name 伝送キューの状況が使用不可です。チャンネル *channel-name*

重大度

8

説明

キュー・マネージャーが開始したときに、永続伝送キューの状態をキュー SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ からロードできなかったため、*channel-name* によって識別されるクラスター送信側チャンネルの伝送キューを判別できない。

システム・アクション

チャンネルは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーが始動時に永続伝送キューの状態をロードできない場合、メッセージ [CSQM561E](#) を発行する。

CSQX296E

csect-name チャンネル *channel-name* のパスワード保護ネゴシエーションが失敗しました。接続 *conn-id*

重大度

8

説明

パスワード保護アルゴリズムをリモート・マシン *conn-id* と一致させることに失敗したため、チャンネル *channel-name* を確立できなかった。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

パスワード保護設定がリモート・マシンとの相互運用を妨げているかどうかを確認する。

あるいは、パスワード保護のために SSL または TLS を代わりに使用することを検討する。パスワードの保護には、非ヌル CipherSpec を使用する必要があります。

CSQX298E

csect-name チャンネル *channel-name* に必要な AMS が使用できません。

重大度

8

説明

SPLPROT 値として REMOVE および ASPOLICY を指定するためには、このキュー・マネージャーに対して AMS がアクティブでなければなりません。AMS がアクティブでない状態でこれらの値を指定した場合、チャンネルを開始することはできません。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

このキュー・マネージャーに対して AMS をアクティブにするか、チャンネルを SPLPROT(PASSTHRU) に変更して、再試行する。

CSQX403I

csect-name チャンネル *channel-name* の自動定義は出口 *exit-name* によって抑制されました。

重大度

0

説明

定義されていないチャンネルを開始するための要求に応じて、そのチャンネルの自動定義が試行された。チャンネル自動定義出口 *exit-name* は、そのチャンネルが定義されるのを阻止した。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

CSQX404I

csect-name REFRESH CLUSTER REPOS(YES) のフェーズ 1 が完了しました。クラスター *cluster_namen* 個のオブジェクトが変更されました

重大度

0

説明

REFRESH CLUSTER のフェーズ 1 が完了した。

クラスター・リソースへのアクセスを試みるアプリケーションでは、REFRESH CLUSTER のフェーズ 2 が完了するまでクラスター・リソースの解決に失敗することがある。

フェーズ 2 は、クラスターの他のメンバーから新しい情報をすべて受け取ると完了する。

SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE をモニターし、リフレッシュ・プロセスが完了したことを示す確実に空の状態に達していることを判断する。

システム・アクション

なし。

CSQX405I

csect-name FORCEREMOVE QUEUES(YES) コマンドが処理されました。クラスター *cluster_name* 宛先 *target*

重大度

0

説明

リポジトリ・マネージャーは、示されているクラスターおよびターゲット・キュー・マネージャーに対して、QUEUES (YES) オプションを指定した RESET CLUSTER ACTION (FORCEREMOVE) コマンドを正常に処理した。

システム・アクション

なし。

CSQX406E

csect-name REFRESH CLUSTER REPOS(YES) コマンドが失敗しました。クラスター *cluster_name* - *qmgr-name* はフル・リポジトリです。

重大度

8

説明

ローカル・キュー・マネージャーがクラスターのフル・リポジトリ管理サービスを提供しているため、リポジトリ・マネージャーは、指定されたクラスターに対して、REPOS(YES) オプションが指定された REFRESH CLUSTER コマンドを処理できなかった。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

正しい値を指定して、または正しいキュー・マネージャー上でコマンドを再発行する。キュー・マネージャーを変更して、それがクラスター用のフル・リポジトリにならないようにすることが必要な場合がある。

CSQX407I

csect-name クラスター・キュー *q-name* の定義が矛盾しています。

重大度

4

説明

クラスター内の種々のキュー・マネージャーにおいて、DEFPRTY、DEFPSIST、DEFPRESP、および DEFBIND 属性に対するクラスター・キュー定義の値が異なる。

同一クラスター・キューのすべての定義は同じでなければならない。アプリケーションが、これらの属性の 1 つを使用してメッセージングの振る舞いを決定している場合は、問題が発生する可能性がある。例えば、アプリケーションがオプション MQOO_BIND_AS_Q_DEF のあるクラスター・キューをオープンする場合、キューの個々のインスタンスがそれぞれ異なる DEFBIND 値をもっていると、そのメ

メッセージ転送の動作は、キューのどのインスタンスがそのキューのオープン時に選択されるかによって異なる。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

種々のキュー・マネージャー上のキューの定義を変更し、これらの属性に対して同一の値を持つようにする。

CSQX410I

csect-name リポジトリ・マネージャーが開始しました。

重大度

0

説明

リポジトリ・マネージャーが正常に開始されました。

システム・アクション

なし。

CSQX411I

csect-name リポジトリ・マネージャーが停止しました。

重大度

0

説明

リポジトリ・マネージャーが停止した。これは、以下の3通りの理由のいずれかによる場合がある。

- チャネル・イニシエーターは停止します。
- チャネル・イニシエーターが始動中であり、クラスター化が不要であるために、リポジトリ・マネージャーが使用するキューが定義されていない。
- エラーが発生している。

システム・アクション

処理は続行されるが、クラスター化は利用できない。

システム・プログラマーの応答

エラーが発生している場合は、先行のメッセージに報告されている問題を調べる。

CSQX412E

csect-name リポジトリ・コマンドが間違っ指示されました。宛先 *target-id* 送信側 *sender-id*

重大度

8

説明

リポジトリ・マネージャーが、ID が *target-id* の別のキュー・マネージャー宛のコマンドを受信した。そのコマンドは、ID *sender-id* によりキュー・マネージャーが送信した。

システム・アクション

コマンドは無視され、エラーが送信側に報告される。

システム・プログラマーの応答

送信側のキュー・マネージャーのチャネルおよびクラスター定義を確認してください。

CSQX413E

csect-name リポジトリー・コマンド形式エラー。コマンド・コード *command*

重大度

8

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

コマンドは無視され、エラーが送信側に報告される。リポジトリー・マネージャーは処理を継続する。エラーに関する情報は、チャンネル・イニシエーターが開始したタスクの JCL プロシージャ、xxxxCHIN の CSQSNAP DD ステートメントにより識別されたデータ・セットに書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

『問題判別』の項に示された情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQX415E

csect-name リポジトリー・コマンド状態エラー。コマンド・コード *command* クラスタ・オブジェクト *object-name* 送信側 *sender-id*

重大度

8

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

コマンドは無視される。リポジトリー・マネージャーは処理を継続する。エラーに関する情報は、チャンネル・イニシエーターが開始したタスクの JCL プロシージャ、xxxxCHIN の CSQSNAP DD ステートメントにより識別されたデータ・セットに書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

『問題判別』の項に示された情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQX416E

csect-name リポジトリー・コマンド処理エラー。RC=*return-code* コマンド・コード *command* クラスタ・オブジェクト *object-name* 送信側 *sender-id*

重大度

8

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

コマンドは無視される。リポジトリー・マネージャーは処理を継続する。エラーに関する情報は、チャンネル・イニシエーターが開始したタスクの JCL プロシージャ、xxxxCHIN の CSQSNAP DD ステートメントにより識別されたデータ・セットに書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

『問題判別』の項に示された情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQX417I

csect-name 除去されたキュー・マネージャー *qmgr-name* のクラスタ送信者が残っています。

重大度

0

説明

指示されたキュー・マネージャーは削除されたか、クラスターから強制的に削除されたが、これを参照する手動定義のクラスター送信側チャンネルが存在する。このことは、リポジトリー・マネージャーが、除去されたキュー・マネージャーに引き続きクラスター情報を送信することを意味する。

システム・プログラマーの応答

qmgr-name を参照する手動定義のクラスター送信側チャンネルを削除する。

CSQX418I

csect-name クラスター *cluster_name* にリポジトリーが1つしかありません。

重大度

0

説明

リポジトリー・マネージャーは、自身が唯一のフル・リポジトリーであるクラスターについての情報を受信した。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

2番目のフル・リポジトリーが必要な場合は、指定するクラスター名のクラスター用のフル・リポジトリーを持つことになる2番目のキュー・マネージャーの REPOS または REPOSNL 属性を変更する。

CSQX419I

csect-name クラスター *cluster_name* にクラスター受信側がありません。

重大度

0

説明

リポジトリー・マネージャーは、既知のクラスター受信側チャンネルがないクラスターに関する情報を受け取りました。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

ローカル・キュー・マネージャーでクラスターのクラスター受信側チャンネルを定義します。

CSQX420I

csect-name クラスター *cluster_name* にリポジトリーがありません。

重大度

0

説明

リポジトリー・マネージャーは、フル・リポジトリーが1つも認識されないクラスターについての情報を受信した。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

クラスター用のフル・リポジトリーであるキュー・マネージャーに接続するためのクラスター送信側チャンネルを定義するか、指定するクラスター名のクラスター用のフル・リポジトリーを持つことになるキュー・マネージャーの REPOS または REPOSNL 属性を変更する。

CSQX422E

csect-name リポジトリー・マネージャー・エラー。RC=*return-code*

重大度

8

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

リポジトリー・マネージャーは、処理を続行しようとする。エラーに関する情報は、チャンネル・イニシエーターが開始したタスクの JCL プロシージャ、xxxxCHIN の CSQSNAP DD ステートメントにより識別されたデータ・セットに書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

『問題判別』の項に示された情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQX425E

csect-name リポジトリー・コマンド組み合わせエラー。コマンド・コード *command* クラスタ・オブジェクト *object-name* 送信側 *sender-id*

重大度

8

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

コマンドは無視される。リポジトリー・マネージャーは処理を継続する。エラーに関する情報は、チャンネル・イニシエーターが開始したタスクの JCL プロシージャ、xxxxCHIN の CSQSNAP DD ステートメントにより識別されたデータ・セットに書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

『問題判別』の項に示された情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQX426E

csect-name リポジトリー・コマンドが配信不能です。チャンネル *channel-name* 宛先 *target-id* コマンド・コード *command*

重大度

8

説明

リポジトリー・マネージャーは、チャンネル *channel-name* を使用してコマンドを別のキュー・マネージャーに送信しようとした。ID が *target-id* の別のキュー・マネージャーを見つけることができなかった。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

送信側および受信側のキュー・マネージャーのチャンネルおよびクラスター定義を確認してください。

CSQX427E

csect-name クラスタ送信側がリポジトリーに接続されていません。クラスター *cluster_name* チャンネル *channel-name*, 宛先 *target-id*

重大度

8

説明

チャンネルの全クラスターのフル・リポジトリであるキュー・マネージャーにクラスター送信側チャンネルが接続されていて、対応するクラスター受信側チャンネルが同じクラスター内になければならない。クラスター *cluster_name* 内のチャンネル *channel-name* は、この条件を満たしていない。 *target-id* は、チャンネルのターゲット・キュー・マネージャーの ID である。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

両方のキュー・マネージャー上のチャンネル定義を調べて、チャンネルがクラスターのフル・リポジトリに接続されていて両方のキュー・マネージャー上で同じクラスター内にあるようにする。

CSQX428E

csect-name クラスター・キューの予期しないパブリケーション。クラスター *cluster_name* クラスター・キュー *q-name* 送信側 *sender-id*

重大度

8

説明

リポジトリ・マネージャーは、クラスター *cluster_name* に関連した、クラスター・キュー *q-name* 用のパブリケーションを別のキュー・マネージャー (ID: *sender-id*) から受信した。ローカル・キュー・マネージャーは、それがクラスターのフル・リポジトリではなく、クラスター・キューと関連していないので、そのコマンドを受け入れることができない。

このことは、例えばローカル・リポジトリ・マネージャー上で **REFRESH CLUSTER** コマンドが発行されたことによって、そのクラスターのビューが変更されたために、ローカル・リポジトリ・マネージャーに宛てられたコマンドがネットワーク内で遅れ、到着時には最新のものではなくなっていたために発生することもある。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

ローカルの部分リポジトリ・キュー・マネージャーがクラスターのフル・リポジトリになる場合、**ALTER QMGR** コマンドを使用して、クラスターを格納するリポジトリまたはリポジトリ名前リストを指定する。ローカル・キュー・マネージャーがクラスターの部分リポジトリになっている場合は、リモート・キュー・マネージャーに、ローカル部分リポジトリを宛先とする手動で定義されたクラスター送信側がないことを確認する。

コマンドが最新のものではなかったためにメッセージが出された場合、そのメッセージは無視できる。

CSQX429E

csect-name クラスター・キューの予期しない削除。クラスター *cluster_name* クラスター・キュー *q-name*

重大度

8

説明

リポジトリ・マネージャーは、クラスター *cluster_name* に関連した、クラスター・キュー *q-name* 用の削除を別のキュー・マネージャー (ID: *sender-id*) から受信した。ローカル・キュー・マネージャーは、それがクラスターのフル・リポジトリではなく、クラスター・キューと関連していないので、そのコマンドを受け入れることができない。

このことは、例えばローカル・リポジトリ・マネージャー上で **REFRESH CLUSTER** コマンドが発行されたことによって、そのクラスターのビューが変更されたために、ローカル・リポジトリ・マネージャーに宛てられたコマンドがネットワーク内で遅れ、到着時には最新のものではなくなっていたために発生することもある。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

ローカルの部分リポジトリ・キュー・マネージャーがクラスターのフル・リポジトリになる場合、**ALTER QMGR** コマンドを使用して、クラスターを格納するリポジトリまたはリポジトリ名前リストを指定する。ローカル・キュー・マネージャーがクラスターの部分リポジトリになっている場合は、リモート・キュー・マネージャーに、ローカル部分リポジトリを宛先とする手動で定義されたクラスター送信側がないことを確認する。

コマンドが最新のものでなかったためにメッセージが出された場合、そのメッセージは無視できる。

CSQX430E

csect-name 予期しないキュー・マネージャー、リポジトリ・コマンドです。クラスター *cluster_name* チャンネル *channel-name* 送信側 *sender-id*

重大度

8

説明

リポジトリ・マネージャーが、ID が *sender-id* である、クラスター *cluster_name* に関連する別のキュー・マネージャーからコマンドを受信した。ローカル・キュー・マネージャーは、それがクラスターのフル・リポジトリではなく、クラスター・チャンネルと関連しておらず、対応するクラスター送信側チャンネルがないので、そのコマンドを受け入れることができない。他方のキュー・マネージャーが使用するクラスター送信側チャンネルは、*channel-name* であった。

このメッセージは、フル・リポジトリのをホストとなっていない別のキュー・マネージャーが、後でフル・リポジトリのホストとなるように変更された場合に、クラスター送信側チャンネルを定義しているキュー・マネージャーで表示される場合がある。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

送信側キュー・マネージャーのチャンネル定義を調べて、そのチャンネルがクラスターのフル・リポジトリに接続されているようにする。

CLUSTER と CLUSNL の値が整合していること、および *cluster-namelist* の指定時に *cluster_name* を指定していないことを確認してください。

CSQX431I

csect-name リポジトリが使用不能です。クラスター *cluster_name* チャンネル *channel-name* 送信側 *sender-id*

重大度

0

説明

リポジトリ・マネージャーが、ID が *sender-id* の別のキュー・マネージャーからコマンドを受信し、このキュー・マネージャーがクラスター *cluster_name* のフル・リポジトリではなくなったことが報告された。

システム・アクション

クラスターに関連した他方のキュー・マネージャーにアクセスするためにクラスター送信側チャンネル *channel-name* をこれ以降は使用できないよう、このチャンネルが変更される。

CSQX432I

csect-name 予期しないクラスター照会を受け取りました。クラスター *cluster_name* クラスター・オブジェクト *object-name* 送信側 *sender-id*

重大度

8

説明

リポジトリ・マネージャーは、クラスター *cluster_name* に関連した、クラスター・オブジェクト *object-name* 用の照会を別のキュー・マネージャー (ID: *sender-id*) から受信した。ローカル・キュー・マネージャーは、それがクラスターのフル・リポジトリではないので、そのコマンドを受け入れることができない。

このことは、例えばローカル・リポジトリ・マネージャー上で **REFRESH CLUSTER** コマンドが発行されたことによって、そのクラスターのビューが変更されたために、ローカル・リポジトリ・マネージャーに宛てられたコマンドがネットワーク内で遅れ、到着時には最新のものではなくなっていたために発生することもある。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

ローカルの部分リポジトリ・キュー・マネージャーがクラスターのフル・リポジトリになる場合、**ALTER QMGR** コマンドを使用して、クラスターを格納するリポジトリまたはリポジトリ名前リストを指定する。ローカル・キュー・マネージャーがクラスターの部分リポジトリになっている場合は、リモート・キュー・マネージャーに、ローカル部分リポジトリを宛先とする手動で定義されたクラスター送信側がないことを確認する。

コマンドが最新のものでなかったためにメッセージが出された場合、そのメッセージは無視できる。

CSQX433E

csect-name クラスター受信側とクラスター送信側が違います。クラスター *cluster_name* チャンネル *channel-name* 送信側 *sender-id*

重大度

8

説明

リポジトリ・マネージャーが、ID が *sender-id* である別のキュー・マネージャーからコマンドを受信した。そのキュー・マネージャーのクラスター送信側チャンネル *channel-name* は、クラスター *cluster_name* 内に存在しているが、これに対応するローカル・キュー・マネージャーのクラスター受信側チャンネルは、そのクラスター内に存在していない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

チャンネルが両方のキュー・マネージャーで同じクラスター内に存在するよう、チャンネルの定義を変更する。

CSQX434E

csect-name name でメッセージが認識できません。

重大度

8

説明

認識できない形式をもっていたメッセージ、またはキュー・マネージャーあるいはチャンネル・イニシエーターから発信されたのではないメッセージを、チャンネル・イニシエーターがそのキューの1つで検出した。

システム・アクション

メッセージは、送達不能キューに書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

送達不能キューのメッセージを調べて、メッセージの発信元を判別する。

CSQX435E

csect-name リポジトリ・マネージャー・メッセージを PUT できません。宛先 *target-id* MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

4

説明

リポジトリ・マネージャーが、ID が *target-id* である別のキュー・マネージャーの SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE にメッセージを送信しようとしたが、MQPUT 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

処理は続行されるが、リポジトリ情報が最新のものではない場合がある。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

ローカル・キュー・マネージャーとターゲット・キュー・マネージャーのチャンネル定義とクラスター定義を調べて、両方のキュー・マネージャー間のチャンネルが稼働しているかどうかを確認する。

問題が訂正されると、リポジトリ情報は、通常、自動的に更新される。[REFRESH CLUSTER](#) コマンドを使用すると、確実にリポジトリ情報を最新のものにすることができる。

フル・リポジトリに対して [REFRESH CLUSTER REPOS\(YES\)](#) コマンドが実行されると、そのフル・リポジトリはクラスターを再ビルドするまで一時的に他のリポジトリからの要求を満たすことができなくなるために、このエラーが発生することがある。クラスターに対するフル・リポジトリが複数存在する場合は、問題は自然に解決する。クラスターに対するフル・リポジトリが1つしか存在しない場合は、クラスター内の他のすべてのキュー・マネージャーに対して [REFRESH CLUSTER](#) コマンドを発行して、これらを再びフル・リポジトリと通信させるようにする必要がある。

CSQX436E

csect-name リポジトリ・マネージャー・メッセージを PUT できません。クラスター *cluster_name* MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)。

重大度

4

説明

指定したクラスターの完全なリポジトリをもつキュー・マネージャーの SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE に、リポジトリ・マネージャーがメッセージを送信しようとしたが、MQPUT 呼び出しが失敗した。

システム・アクション

処理は続行されるが、リポジトリ情報が最新のものではない場合がある。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

ローカル・キュー・マネージャーとターゲット・キュー・マネージャーのチャンネル定義とクラスター定義を調べて、両方のキュー・マネージャー間のチャンネルが稼働しているかどうかを確認する。

問題が訂正されると、リポジトリ情報は、通常、自動的に更新される。[REFRESH CLUSTER](#) コマンドを使用すると、確実にリポジトリ情報を最新のものにすることができる。

CSQX437E

csect-name リポジトリの変更をコミットできません。

重大度

4

説明

リポジトリ・マネージャーは、リポジトリに対する更新をコミットしようとしたが失敗した。

システム・アクション

処理は続行されるが、ローカル・リポジトリ情報が最新のものではない場合がある。

システム・プログラマーの応答

この状態が、チャンネル・イニシエーターの停止中に起きた場合、ローカル・リポジトリ情報がチャンネル・イニシエーターの再始動時に、通常、自動的に更新されるので無視してかまわない。この状態がその他の時点で孤立して起きている場合は、**REFRESH CLUSTER** コマンドを使用してローカル・リポジトリ情報を最新のものにする。

問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

CSQX438E

csect-name メッセージを再割り振りできません。チャンネル *channel-name* MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrctext*)

重大度

8

説明

リポジトリ・マネージャーは、指定したチャンネルのメッセージを別の宛先に再割り振りすることができなかった。

システム・アクション

メッセージは、伝送キューに残っている。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrctext* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

先行のエラー・メッセージとともにこの情報を使用して、問題の原因を判別する。問題が訂正されたら、チャンネルを再始動する。

CSQX439E

csect-name チャンネル *channel-name* でリポジトリ・エラー。

重大度

8

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

リポジトリ・マネージャーは、処理を続行しようとする。エラーに関する情報は、チャンネル・イニシエーターが開始したタスクの JCL プロシージャ、xxxxCHIN の CSQSNAP DD ステートメントにより識別されたデータ・セットに書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

『問題判別』の項に示された情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQX440E

csect-name FORCEREMOVE コマンドが失敗しました。クラスター *cluster_name* ターゲット *target* - リポジトリが *qmgr-name* にありません。

重大度

8

説明

ローカル・キュー・マネージャーがクラスターのフル・リポジトリ管理サービスを提供していないため、リポジトリ・マネージャーは、示されているクラスターおよびターゲット・キュー・マネージャーに対する RESET CLUSTER ACTION (FORCEREMOVE) コマンドを処理できなかった。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

正しい値を指定して、または正しいキュー・マネージャー上でコマンドを再発行する。

CSQX441I

csect-name FORCEREMOVE コマンドが処理されました。クラスター *cluster_name* 宛先 *target*

重大度

0

説明

リポジトリ・マネージャーは、示されているクラスターおよびターゲット・キュー・マネージャーに対する RESET CLUSTER ACTION (FORCEREMOVE) コマンドを正常に処理した。

システム・アクション

なし。

CSQX442I

csect-name REFRESH CLUSTER のフェーズ 1 が完了し、クラスター *cluster_namen* オブジェクトが変更されました

重大度

0

説明

REFRESH CLUSTER のフェーズ 1 が完了した。

クラスター・リソースへのアクセスを試みるアプリケーションでは、**REFRESH CLUSTER** のフェーズ 2 が完了するまでクラスター・リソースの解決に失敗することがある。

フェーズ 2 は、クラスターの他のメンバーから新しい情報をすべて受け取ると完了する。

SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE をモニターし、リフレッシュ・プロセスが完了したことを示す確実に空の状態に達していることを判断する。

システム・アクション

なし。

CSQX443I

csect-name SUSPEND QMGR コマンドが処理されました。クラスター *cluster_namen* 個のオブジェクトが変更されました。

重大度

0

説明

リポジトリ・マネージャーは、指定したクラスターに対する `SUSPEND QMGR` コマンドを正常に処理した。(このコマンドでクラスターの名前リストを指定した場合、メッセージは、名前リストの最初のクラスターについてだけ発行される。)

システム・アクション

なし。

CSQX444I

`csect-name RESUME QMGR` コマンドが処理されました。クラスター `cluster_namen` 個のオブジェクトが変更されました。

重大度

0

説明

リポジトリ・マネージャーは、指定したクラスターに対する `RESUME QMGR` コマンドを正常に処理した。(このコマンドでクラスターの名前リストを指定した場合、メッセージは、名前リストの最初のクラスターについてだけ発行される。)

システム・アクション

なし。

CSQX447E

`csect-name` リポジトリの変更をバックアウトできません。

重大度

8

説明

リポジトリ・マネージャーは、エラーの後でローカル・リポジトリに対する更新をバックアウトしようとしたが失敗した。

システム・アクション

リポジトリ・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

リポジトリ・マネージャーがその後正常に再始動した場合、またはチャンネル・イニシエーターを再始動するときにリポジトリ・マネージャーがその後正常に始動した場合は、これを無視することができる。

そうでない場合は、IBM サポートに連絡する。

CSQX448E

`csect-name` リポジトリ・マネージャーがエラーのため停止しています。 n 秒後に再始動します。

重大度

8

説明

先行のメッセージで報告された重大エラーが、リポジトリ・マネージャーの処理中に発生した。リポジトリ・マネージャーは続行することができない。

システム・アクション

リポジトリ・マネージャーは終了する。チャンネル・イニシエーターは、指定した間隔の後でリポジトリ・マネージャーを再始動しようとする。

システム・プログラマーの応答

前のメッセージで報告された問題を解決してください。

CSQX449I

csect-name リポジトリ・マネージャーが再始動されました。

重大度

0

説明

エラーのあと、リポジトリ・マネージャーが正常に再始動しました。

システム・アクション

なし。

CSQX453E

csect-name FORCEREMOVE コマンドが失敗しました。クラスター *cluster_name* ターゲット *target* は固有ではありません。

重大度

8

説明

指定された名前のキュー・マネージャーがクラスター内に複数存在するため、リポジトリ・マネージャーは、指定されたクラスターおよびターゲット・キュー・マネージャーに対する RESET CLUSTER ACTION (FORCEREMOVE) コマンドを処理できなかった。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

除去するキュー・マネージャーの名前ではなく ID (QMID) を指定してコマンドを再発行する。

CSQX455E

csect-name FORCEREMOVE コマンドが失敗しました。クラスター *cluster_name* ターゲット *target* が見つかりません。

重大度

8

説明

リポジトリ・マネージャーは、示されているクラスターおよびターゲット・キュー・マネージャーに対する RESET CLUSTER ACTION (FORCEREMOVE) コマンドを処理できませんでした。そのキュー・マネージャーに関する情報がローカル・リポジトリに見つからなかったためです。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

正しいキュー・マネージャーの名前または ID を指定してコマンドを再発行する。

V 9.3.0

CSQX456E

csect-name フル・リポジトリ更新を受信しませんでした。クラスター *cluster_name* クラスター・オブジェクト *object_name* (キュー・マネージャー *qmgr_uid*)

重大度

4

説明

リポジトリ・マネージャーは、過去 30 日間に使用され、更新された情報を受け取る必要があるクラスター・オブジェクトを検出しました。しかし、情報は受信されていない。クラスター・オブジェクトは *cluster_name* 内の *object_name* であり、そのキュー・マネージャーは *qmgr_uuid* です。

キュー・マネージャーがオブジェクトの部分リポジトリである場合は、更新された情報を完全リポジトリから送信する必要があります。キュー・マネージャーがフル・リポジトリの場合、更新された情報が、オブジェクトが定義されているキュー・マネージャーから送信されている必要があった。

システム・アクション

リポジトリ・マネージャーは、エラーが最初に発生したときからさらに 60 日間、このオブジェクトに関する情報を保持します。情報がフル・リポジトリに送信されていないと、このオブジェクトは、このフル・リポジトリに行われたクラスター・リソースに対する新規の要求を満たすためには使用されないことになる。

システム・プログラマーの応答

クラスター・オブジェクトがまだ必要な場合は、以下を確認してください。

- ・クラスターのフル・リポジトリであるキュー・マネージャーに対する送信および受信クラスター・チャンネル、およびオブジェクトが置かれているキュー・マネージャーとの間のクラスター・チャンネルが実行可能である。
- ・これらのキュー・マネージャー上のリポジトリ・マネージャーが異常終了していない。
- ・クラスター *cluster_name* のローカル・キュー・マネージャーのクラスター受信側チャンネルに、長期間続いている問題がないこと。問題がある場合は、ただちに問題を解決し、クラスターの更新が受信されるようにしてください。
- ・クラスター *cluster_name* のリモート・キュー・マネージャーのクラスター送信側チャンネルに、長期間続いている問題がないこと。問題がある場合は、ただちに問題を解決し、クラスターの更新が送信されるようにしてください。
- ・リモート・キュー・マネージャーが、バックアップからリモート・キュー・マネージャーをリストアしたなどの原因で、このキュー・マネージャーと同期されない状態になっていないこと。リモート・キュー・マネージャーが同期されていない場合は、リモート・キュー・マネージャーで REFRESH CLUSTER コマンドを発行して、クラスターの他のキュー・マネージャーと同期する必要があります。
- ・リモート・キュー・マネージャーが、災害復旧練習などで、クラスター受信側チャンネル名が同じ置換キュー・マネージャーを作成し、しばらく実行してから終了したために、このキュー・マネージャーと同期されない状態になっていないこと。これが発生した場合、リモート・キュー・マネージャー *qmgr_uuid* は REFRESH CLUSTER コマンドを発行して、クラスター内の他のキュー・マネージャーと同期する必要があります。
- ・上記の項目を確認してもこの問題が何日も続く場合は (そのために、このエラー・メッセージがローカル・キュー・マネージャーのエラー・ログに繰り返し出力される場合は)、IBM サポートに連絡してください。

CSQX457I

csect-name リポジトリが使用可能です。クラスター *cluster_name* チャンネル *channel-name* 送信側 *sender-id*

重大度

0

説明

リポジトリ・マネージャーが、ID が *sender-id* の別のキュー・マネージャーからコマンドを受信し、再びクラスター *cluster_name* のフル・リポジトリになったことが報告された。

システム・アクション

クラスターに関連した他方のキュー・マネージャーにアクセスするためにクラスター送信側チャンネル *channel-name* を使用できるよう、このチャンネルが変更される。

CSQX458E

csect-name リポジトリ・キャッシュに排他的にアクセスできず、TCB= *tcb-name* に *num-registrations* 個の未解決の登録があります

重大度

8

説明

キャッシュへの排他的なアクセスが必要な操作中に、登録しようとする他のタスクが見つかった。キュー・マネージャーは、その登録を除去するタスクを待機した後もまだ残っている登録を見つけた場合にこのメッセージを発行する。リポジトリ・キャッシュへの排他的なアクセスを阻止しているタスクには、*num-registrations* 個の未解決な登録がある。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

このタスクがまだ実行中か終了したかを判別する。タスクが実行中でない場合または問題が解決しない場合は、[z/OS](#) での問題判別の項にリストされた項目を収集し、IBM サポートに連絡する。

CSQX459E

PSCLUS(DISABLED) により *qmgr-name* からの *csect-name* クラスター・トピック *topic-name* が拒否されました。

重大度

8

説明

クラスター・トピック *topic-name* に関係する情報が *qmgr-name* からチャンネルを経由してこのキュー・マネージャーに送信されましたが、キュー・マネージャー属性 PSCLUS は DISABLED に設定されており、このクラスターではキュー・マネージャー間のパブリッシュ/サブスクライブ・アクティビティーが予期されていないことを示しています。

システム・アクション

クラスター・トピックの定義は無視され、このキュー・マネージャーからは見えなくなります。

システム・プログラマーの応答

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスタリングを有効にする場合は、そのクラスターに含まれるすべてのキュー・マネージャーで PSCLUS 属性を ENABLED に変更する。PSCLUS 属性の資料に詳述されているとおり、[REFRESH CLUSTER](#) コマンドと [REFRESH QMGR](#) コマンドを発行する必要もある。パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターを使用しない場合は、クラスター・トピック・オブジェクトを削除し、すべてのキュー・マネージャーで PSCLUS を DISABLED にします。

CSQX460E

csect-name クラスター・キャッシュはいっぱいです。

重大度

8

説明

クラスター・キャッシュ域内に使用可能なスペースがない。

システム・アクション

リポジトリ・マネージャーは終了する。チャンネル・イニシエーターは、指定した間隔の後にリポジトリ・マネージャーを再始動しようとする。

システム・プログラマーの応答

一時的な問題である可能性がある。問題が続く場合は、キュー・マネージャーを再始動する必要がある。これにより、クラスター・キャッシュ域により多くのスペースが割り振られるようになる。

クラスター・キャッシュ・タイプのシステム・パラメーター CLCACHE を動的に変更して、必要であれば、さらに多くのキャッシュ・スペースを自動的に取得するようにすることを考慮する。(クラスター・ワークロード出口を使用している場合は、その出口が動的クラスター・キャッシュをサポートするようにする。) CSQ6SYSP マクロのシステム・パラメーターの詳細については、『[CSQ6SYSP の使用](#)』を参照。

CSQX461I

csect-name クラスター・キャッシュ項目が訂正されました。クラスター・キュー・マネージャー
clusqmgr-name チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id*

重大度

4

説明

チャンネル・イニシエーターの再始動時に、リポジトリ・マネージャーがクラスター・キャッシュ内で破壊された項目を検出した。その項目は訂正された。

システム・アクション

処理を続行する。接続 *conn-id* を使用する、項目が参照するクラスター・チャンネル *channel-name* は、使用可能になる。

システム・プログラマーの応答

なし。このメッセージが発行されたキュー・マネージャー上でコマンド [DISPLAY CLUSQMGR\(*clusqmgr-name*\)](#) を発行することにより、項目が正常に訂正されたことを確認できる。

CSQX462E

csect-name クラスター・キャッシュ項目を使用できません。クラスター・キュー・マネージャー
clusqmgr-name チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id*

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターの再始動時に、リポジトリ・マネージャーが、訂正できなかったクラスター・キャッシュで破壊された項目を検出した。

システム・アクション

破壊されたエントリは無視される。接続 *conn-id* を使用する、この項目が参照するクラスター・チャンネル *channel-name* は、使用可能にはならない。

システム・プログラマーの応答

破損した項目を訂正し、コマンドを発行して再導入する必要があります。

```
ALTER CHANNEL(channel-name) CHLTYPE(CLUSRCVR)
```

クラスター・キュー・マネージャー *clusqmgr-name* 上のこのメッセージが発行されたキュー・マネージャー上でコマンド [DISPLAY CLUSQMGR\(*clusqmgr-name*\)](#) を発行することにより、項目が正常に再導入されたことを確認できる。

CSQX463E

csect-name クラスター・キャッシュ項目へのアクセスでエラーがありました。

重大度

8

説明

クラスター・キャッシュ項目にアクセス中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

エラーに関する情報は、チャンネル・イニシエーターが開始したタスクの JCL プロシージャー、xxxxCHIN の CSQSNAP DD ステートメントにより識別されたデータ・セットに書き込まれる。エラーが発生したコンポーネント (メッセージ・チャンネル・エージェント、リポジトリ・マネージャー) は通常に終了する。場合によっては、その終了結果として、チャンネル・イニシエーターが終了する。

システム・プログラマーの応答

『問題判別』の項に示された情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQX465I

csect-name 新規クラスター・トピック定義が矛盾しています。トピック *topic-name*、キュー・マネージャー ID *qmid*、属性 *attr*

重大度

4

説明

キュー・マネージャー ID *qmid* で定義されたクラスター・トピック *topic-name* の定義に、クラスター・キャッシュ内にすでに存在している 1 つ以上のクラス・トピックとは異なる *attr* 属性値がある。既存のトピック・オブジェクトがメッセージ [CSQX466I](#) で報告される。

同じクラスター・トピックのすべての定義は同一でなければならない。そうでない場合、アプリケーションがこのいずれかの属性に依存してメッセージング動作を決定する場合に問題が生じる可能性がある。例えば、アプリケーションがクラスター・トピックをオープンしてそのトピックのインスタンスによって TOPICSTR 値が異なる場合、メッセージ転送の動作はオープン時にたまたま選択されたトピックのインスタンスによって変わってしまいます。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

さまざまなキュー・マネージャー上のトピックの定義を変更して、すべての属性について同じ値が指定されるようにします。

CSQX466I

csect-name クラスター・トピックの定義が矛盾しています。トピック *topic-name*、キュー・マネージャー ID *qmid*、属性 *attr*

重大度

4

説明

キュー・マネージャー ID *qmid* で定義されたクラスター・トピック *topic-name* の定義に、クラスター・キャッシュに追加中のクラスター・トピックとは異なる *attr* 属性値がある。追加されているトピック・オブジェクトは、メッセージ [CSQX465I](#) により報告される。

同じクラスター・トピックのすべての定義は同一でなければならない。そうでない場合、アプリケーションがこのいずれかの属性に依存してメッセージング動作を決定する場合に問題が生じる可能性がある。例えば、アプリケーションがクラスター・トピックをオープンしてそのトピックのインスタンスによって TOPICSTR 値が異なる場合、メッセージ転送の動作はオープン時にたまたま選択されたトピックのインスタンスによって変わってしまいます。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

さまざまなキュー・マネージャー上のトピックの定義を変更して、すべての属性について同じ値が指定されるようにします。

CSQX467E

トピック *topic-name* のリポジトリ・エラー、MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

クラスター・リポジトリは、キュー・マネージャーでの予期しないエラーのため、トピック *topic-name* を挿入または削除できなかった。

システム・アクション

リポジトリ・マネージャーは終了する。チャンネル・イニシエーターは、間隔を置いてリポジトリ・マネージャーの再始動を試行する。詳細については、メッセージ [CSQX448E](#) を参照。

システム・プログラマーの応答

mqcc および *mqrc* 完了コード (*mqrc-text* で示されるのはテキスト形式での MQRC) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

この失敗について提供された理由コードを用意して、IBM サポートに連絡する。

CSQX468I

csect-name キュー・マネージャー *qmgr-uuid1* は、チャンネル *channel-name* の再使用のため、クラスター内のキュー・マネージャー *qmgr-uuid2* に置き換わりました

重大度

0

説明

キュー・マネージャー *qmgr-uuid1* は、クラスターの受信側チャンネルを使用して、キュー・マネージャー *qmgr-uuid2* によってすでに定義されているクラスターと同じ名前のクラスターに参加した。クラスター内で使用されているすべてのクラスター受信側チャンネルは一意に名前が付けられている必要がある。

システム・アクション

キュー・マネージャー *qmgr-uuid1* は、チャンネル *channel-name* を使用する。キュー・マネージャー *qmgr-uuid2* は、キュー・マネージャー *qmgr-uuid1* がメンバーである間は、クラスターに正常に参加できない。

システム・プログラマーの応答

クラスター内の別のキュー・マネージャーに現在関連付けられているチャンネル名の使用は意図的な場合がある。例えば、元のキュー・マネージャーを削除し、新しいキュー・マネージャーとして再作成した場合などか考えられる。ただし、複数のキュー・マネージャー間でチャンネル名が偶然重複した場合でも、結果としてこの動作になる。このアクションが意図的でなかった場合は、キュー・マネージャーの構成を検討する。

CSQX469E

csect-name クラスター *cluster_name* 中のキュー・マネージャー *qmrid* 上でホストされる CLUSRCVR チャンネル *channel-name* について更新が受信されませんでした。 *n* 日前に予期され、残り *m* 日

重大度

8

説明

リポジトリ・マネージャーは、CLUSRCVR チャンネルが、それを所有するキュー・マネージャーによってリパブリッシュされていない状態を検出しました。このリパブリッシュ・アクションは、*n* 日前、またはそのときから現在までの間に自動的に行われるべきでした。

システム・アクション

この後、リポジトリ・マネージャーはこの状態を約 1 時間ごとに、約 *m* 日間にわたって確認を続けます。この期間内に CLUSRCVR チャンネルに対する更新が受信された場合、これらのメッセージは停止

します。更新が受信されない場合、これらのメッセージの書き込みが継続されます。ただし、更新が受信されないままこの期間が過ぎてしまった場合、ローカル・キュー・マネージャーはこのチャンネルについての情報を廃棄し、これらのメッセージは停止します。ほぼその時点で、このクラスター内の部分リポジトリ・キュー・マネージャーはこのチャンネルを使用できなくなることに注意する必要があります。

システム・プログラマーの応答

いくつかの対応方法が考えられます。

1. チャンネルが意図的に削除され、もう必要ない場合、**RESET CLUSTER** コマンドを使用してチャンネルを完全に削除することを検討してください。
2. クラスター *cluster_name* 内のローカル・キュー・マネージャーの **CLUSRCVR** に、長時間実行の問題があります。この場合、問題を至急訂正し、クラスターの更新が受信されるようにしてください。
3. クラスター *cluster_name* 内のリモート・キュー・マネージャーの **CLUSDR** に、長時間実行の問題があります。この場合、問題を至急訂正し、クラスターの更新が送信されるようにしてください。
4. リモート・キュー・マネージャー上のリポジトリ・マネージャーが異常終了していないか確認してください。
5. リモート・キュー・マネージャーがこのキュー・マネージャーと同期していません。バックアップからキュー・マネージャーを復元したことが原因である可能性があります。これは、バックアップ・データからローカル・キュー・マネージャーまたはリモート・キュー・マネージャーのいずれかを復元したことが原因である可能性があります。これには、災害復旧テストの例として、キュー・マネージャーの重複インスタンスがクラスターに導入された場合も含まれます。

詳しくは、[クラスター化: 可用性、マルチインスタンス、および災害時回復](#) を参照してください。影響を受けるキュー・マネージャーは、**REFRESH CLUSTER** を発行して、クラスター内の他のキュー・マネージャーと同期する必要があります。

上記の項目を確認してもこの問題が何日も続いて、このエラー・メッセージがローカル・キュー・マネージャーのエラー・ログに繰り返し出力される場合は、IBM サポートに連絡してください。

CSQX470E

csect-name Channel *channel-name* has the wrong disposition *disposition*

重大度

8

説明

後処理が間違っていたため、要求されたアクションは、チャンネル *channel-name* では実行できない。例えば、アクションは共有チャンネルを要求したのに、その後処理が専用である場合などがある。

システム・アクション

要求されたアクションは実行されない。

システム・プログラマーの応答

チャンネル名が正しく指定されているかどうか確認してください。もし正しければ、次のことを確かめる。

- チャンネル定義が正しいか
 - 伝送キューの名前が正しいキューを識別しており、そのキューには要求されている後処理があるか
- チャンネルのインスタンスの後処理は、チャンネル定義の中で **QSGDISP** によって指定されているものとは無関係である。
- 伝送キューが共有されている場合、送信側チャンネルは共有で、そうでない場合は専用である。
 - 受信チャンネルは、キュー共有グループに直接の到着伝送への応答として開始された場合は共有であり、キュー・マネージャーに直接の到着伝送への応答として開始された場合は専用である。

CSQX471I

csect-name nn 共有チャンネルを再始動します。nn 要求が発行されました。

重大度

0

説明

チャンネル・イニシエーターが終了中であり、これには活動状態にある共有送信側チャンネルがいくつかあるが、それらには停止要求が出されておらず、他のキュー・マネージャー上でこれらのチャンネルを再始動する要求が、表示どおりに送出された。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターの終了処理は続行される。

システム・プログラマーの応答

メッセージ中の番号が異なると、チャンネル・イニシエーターは、すべてのチャンネルに対して再始動要求を発行することができない。この場合は、[DISPLAY CHSTATUS](#) コマンドを使用して、終了しようとしているチャンネル・イニシエーターのチャンネルで、まだキュー・マネージャーに所有されているために再始動されていないチャンネルを調べ、必要に応じて手動で再始動する。

CSQX475I

csect-name チャンネル *channel-name* が採用されました。接続 *conn-id*。

重大度

0

説明

通信エラーのために孤立していたチャンネル *channel-name* が、接続 *conn-id* のチャンネルの新しいインスタンスによって採用された。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQX476E

csect-name チャンネル *channel-name* は *qmgr-name* でアクティブです。共有状況項目が見つかりました。

重大度

8

説明

活動状態にあるチャンネルで操作が要求された。チャンネルが共有であるため、他のキュー・マネージャーで活動状態になっている可能性がある。チャンネルが受信側の場合、そのチャンネルの前のインスタンスが孤立していた可能性があり、そのためにまだ活動状態になっている。

システム・アクション

要求は失敗します。

システム・プログラマーの応答

チャンネル開始以外の操作を行う場合、チャンネルを手動で停止させる、またはそのチャンネルが終了してから、この操作を再試行する。Adopt MCA 機能が使用されていない場合は、MODE(FORCE) を使用して、チャンネルを手動で停止する必要がある。Adopt MCA 機能を使用すると、孤立した受信側チャンネルを処理するために手操作による介入が必要なくなる。

指定されたキュー・マネージャーでチャンネルが実行されていない場合は、孤立した共有状況項目があります。これは、Db2 への接続が失われたことが原因である可能性があります。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

CSQX477E

csect-name チャンネル *channel-name* がアクティブです。伝送キュー *queue-name* *qmgr-name* で使用中

重大度

8

説明

活動状態にあるチャンネルで操作が要求された。開始中に、送信側チャンネルは、その伝送キュー *queue-name* が、指定されたキュー・マネージャーで既に使用中であることを検出しました。

システム・アクション

要求は失敗します。

システム・プログラマーの応答

必要に応じて、チャンネルが開始されたキュー・マネージャーとは異なるキュー・マネージャーで実行する必要がある以下のことを行います。

- チャンネルがすでに実行中かどうかを調べる。
- `DISPLAY QSTATUS` コマンドを使用して、別のチャンネルがそのキューを使用しているかどうか調べる。
- チャンネル定義でキュー名が正しく指定されているかどうかを確認する。
- このキューのキュー使用法属性を伝送キューの属性に変更する。

チャンネルがすでに実行していて、チャンネル開始以外の操作を行う場合、チャンネルを手動で停止させるか、またはそのチャンネルが終了するのを待ってから、この操作を再試行する。Adopt MCA 機能を使用されていない場合は、`MODE(FORCE)` を使用して、チャンネルを手動で停止する必要がある。Adopt MCA 機能を使用すると、孤立した受信側チャンネルを処理するために手操作による介入が必要なくなる。

CSQX478E

csect-name チャンネル *channel-name* は *qmgr-name* でアクティブです。接続タグは使用中です。

重大度

8

説明

活動状態にあるチャンネルで操作が要求された。キュー共有グループ内のチャンネルを直列化するのに使用する接続タグは、現在使用中である。チャンネルが共有であるため、他のキュー・マネージャーで活動状態になっている可能性がある。チャンネルが受信側の場合、そのチャンネルの前のインスタンスが孤立していた可能性があり、そのためにまだ活動状態になっている。

共有チャンネルの CSQX478E に加えて、別の症状として「`CSQX514E: csect-name` チャンネル *channel-name* は *qmgr-name* でアクティブです」が考えられる。チャンネルの新規インスタンスは、実行中インスタンスとは異なる IP アドレスで開始する。送信側の IP アドレスが変更されたか、複数のアドレスに変換される可能性がある場合には、`ALTER QMGR` コマンドを使って `ADOPTCHK` を `QMNAME` に設定する。例えば、`/cpf ALTER QMGR ADOPTCHK(QMNAME)` のようにする。ここで、「`cpf`」は、キュー・マネージャー・サブシステムのコマンド接頭部。

システム・アクション

要求は失敗します。

システム・プログラマーの応答

チャンネル開始以外の操作を行う場合、チャンネルを手動で停止させる、またはそのチャンネルが終了してから、この操作を再試行する。Adopt MCA 機能を使用されていない場合は、`MODE(FORCE)` を使用して、チャンネルを手動で停止する必要がある。Adopt MCA 機能を使用すると、孤立した受信側チャンネルを処理するために手操作による介入が必要なくなる。

CSQX479E

csect-name Channel *channel-name* is active on *qmgr-name*, shared channel adoption failed

重大度

8

説明

通信エラーのために孤立していたチャンネル *channel-name* を借用しようとした。しかし、チャンネルを停止できなかったか、キュー・マネージャー *qmgr-name* からの応答が受信されなかったため、失敗した。

システム・アクション

要求は失敗し、孤立したチャンネルは活動状態のままになる場合がある。

システム・プログラマーの応答

借用が失敗した理由を見つけるには、先行するエラー・メッセージを調べる。チャンネルを手動で停止するか、チャンネルが終了するのを待ってから、この操作を再試行する。チャンネルを手動で停止するために、MODE(FORCE) を使用する必要がある場合がある。

CSQX482E

csect-name 共有チャンネル機能が使用できません。

重大度

8

説明

チャンネル・コマンドの実行中、または、共有チャンネル処理の間に、チャンネル・イニシエーターに必要とされる内部機能の使用が不可能であることが判明した。

システム・アクション

チャンネル・コマンドが失敗するか、チャンネルが停止する。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ に必要な Db2 表が正しく定義されていることを確認し、必要に応じてキュー・マネージャーと Db2 を再始動します。これらが正しく実行しているようなら、共有チャンネル状況 (CSQ.ADMIN_B_SCST) と共有同期キー (CSQ.ADMIN_B_SSKT) の Db2 表を表示し、IBM サポートに連絡する。さらに詳しい情報について、また Db2 表の情報を表示するサンプル・ジョブ (CSQ45STB) の詳細については、[z/OS での問題判別](#)を参照。

CSQX483E

csect-name Db2 が使用できません。

重大度

8

説明

Db2 が使用不能であるか、今後使用不能になるため、チャンネル・イニシエーターは共有チャンネルの処理を行うことができない。

システム・アクション

チャンネル・コマンドが失敗するか、チャンネルが停止する。

システム・プログラマーの応答

z/OS コンソール上の先行するメッセージで Db2 が使用不能な理由を調べ、必要に応じてこれを再始動する。

CSQX484E

csect-name Db2 にアクセス中にエラーが発生しました。

重大度

8

説明

Db2 へのアクセス中にエラーが発生したため、チャンネル・イニシエーターは共有チャンネルの処理を行うことができない。

システム・アクション

チャンネル・コマンドが失敗するか、チャンネルが停止する。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージで報告されているエラーを解決する。

CSQX485E

csect-name 共有チャンネル状況エラー。

重大度

8

説明

チャンネル・コマンドの実行中、または、共有チャンネル処理の間に、Db2 に保留されている、共有チャンネル状況や共有同期キーの情報が破壊されていることが判明しました。

システム・アクション

チャンネル・コマンドが失敗するか、チャンネルが停止する。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ が必要とする Db2 表が正しく定義されていることを確認し、必要であれば Db2 を再始動してください。Db2 が正しく稼働しているようなら、共有チャンネル状況 (CSQ.ADMIN_B_SCST) と共有同期キー (CSQ.ADMIN_B_SSKT) の Db2 表を表示し、IBM サポートに連絡する。さらに詳しい情報について、また Db2 表の情報を表示するサンプル・ジョブ (CSQ45STB) の詳細については、[z/OS での問題判別](#)を参照。

CSQX486E

csect-name 共用チャンネル *channel-name* 定義に矛盾があります。

重大度

8

説明

共有チャンネルの定義が、キュー共有グループ内の各キュー・マネージャー上で違う属性値を持っている。例えば、チャンネル・タイプが違っていると、開始または停止要求を正しく実行することができない。

システム・アクション

要求は失敗します。

システム・プログラマーの応答

チャンネルの定義を変更し、すべてのキュー・マネージャーで同じになるようにする。チャンネル・タイプを変更するには、チャンネルを削除してから再定義する必要がある。

CSQX489E

csect-name 最大インスタンス限度 *limit* を超えました。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id*

重大度

8

説明

実行中のチャンネル *channel-name* のインスタンスが多すぎて、別のインスタンスを開始できない。最大許容数は *limit* であり、MAXINST チャンネル属性で指定されている。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

動作中のチャンネルのいくつかが終了するまで待つからチャンネルを再始動するか、または [ALTER CHANNEL](#) コマンドを使用して MAXINST を大きくする。

CSQX490E

csect-name 最大クライアント・インスタンス限度 *limit* を超えました。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id*

重大度

8

説明

接続 *conn-id* から実行中のチャンネル *channel-name* のインスタンスが多すぎて、別のインスタンスを開始できない。最大許容数は *limit* であり、MAXINSTC チャンネル属性で指定されている。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

動作中のチャンネルのいくつかが終了するまで待つからチャンネルを再始動するか、または ALTER CHANNEL コマンドを使用して MAXINSTC を大きくする。

CSQX496I

csect-name リモート出口の要求によって、チャンネル *channel-name* は停止しています。

重大度

0

説明

チャンネルは、リモート側のユーザー・チャンネル出口の要求によりクローズしている。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

これにより、チャンネルが停止状態に置かれる。再始動させるには、START CHANNEL コマンドを実行する必要がある。

CSQX498E

csect-name MQCD フィールド *field-name* が無効です。値=*nnn* (Xxxx)

重大度

8

説明

チャンネル自動定義出口が戻した MQCD 構造体の指定のフィールドに無効値が入っていた。値は、10 進数 (*nnn*) および 16 進数 (*xxx*) で示される。

システム・アクション

チャンネルは定義されない。

システム・プログラマーの応答

チャンネル自動定義出口を訂正する。

CSQX500I

csect-name チャンネル *channel-name* が開始されました。接続 *conn-id*

重大度

0

説明

指定チャンネルが開始された。

channel-name がインバウンド・チャンネルである場合 (CSQXRESP を含んでいる *csect-name* によって示される)、このチャンネルは接続 *conn-id* から開始されたものである。 *channel-name* がアウトバウンド・チャンネルの場合、*conn-id* は省略される。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQX501I

csect-name チャンネル *channel-name* はもうアクティブではありません。接続 *conn-id*。

重大度

0

説明

チャンネル *channel-name* が終了した。切断間隔が満了して正常に終了した場合、このチャンネルは現在非活動状態である。あるいは、このチャンネルがエラーによってかまたは STOP CHANNEL コマンドによって終了した場合は停止する。

channel-name がインバウンド・チャンネルであった場合 (CSQXRESP を含んでいる *csect-name* によって示される)、このチャンネルは接続 *conn-id* から開始されたものである。 *channel-name* がアウトバウンド・チャンネルであった場合、*conn-id* は省略される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

チャンネルが停止した場合、エラーがあればそれを解決し、START CHANNEL コマンドを実行してチャンネルを再始動する。

CSQX502E

csect-name チャンネル *channel-type(channel-name)* に対するアクションは許可されていません。

重大度

8

説明

要求されたアクションをチャンネル *channel-name* に対して実行することはできない。いくつかのアクションは、特定のチャンネル・タイプにのみ有効である。このチャンネルは *chl-type* チャンネル・タイプである。例えば、チャンネルの ping は、メッセージを送信するエンドからのみ行えます。

システム・アクション

要求されたアクションは実行されない。

システム・プログラマーの応答

チャンネル名が正しく指定されているかどうか確認してください。もし正しければ、次のことを確かめる。

- チャンネル定義が正しいか
- 接続名は、リモート・エンドを正しく識別しているか
- クラスター受信側チャンネルの場合は、接続名に総称アドレスまたは共用リスナー・ポート (INDISP=GROUP) が指定されていません。
- TCP/IP 接続の場合、ローカル・チャンネルで指定されているポート番号が、リモート・キュー・マネージャーのリスナーで使用されているものと一致するか

csect-name を使用することにより、失敗したアクションを次のように識別できる。

表 14. *csect-name* からアクションへのマッピング

<i>csect-name</i>	action
CSQXPING	<u>PING CHANNEL</u>
CSQXRESE	<u>RESET CHANNEL</u>
CSQXRESO	<u>RESOLVE CHANNEL</u>
CSQXSTOP	<u>STOP CHANNEL</u>

CSQX503E

csect-name 折衝に失敗しました。チャンネル *channel-name*、タイプ = *last-segment-type*、データ = *xxx*、接続 *conn-id*

重大度

8

説明

ローカルのキュー・マネージャーと、接続 *conn-id* を使用するリモート・エンドとの間の折衝が失敗したため、チャンネル *channel-name* を確立できなかった。受信された最後の制御データは、*last-segment-type* タイプで、このエラーを示すデータが付随する。

値 FFFFFFFF (-1) は、リモート・エンドによってエラー・データが送信されなかったことを示します。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

リモート・エンドのコンソール・ログに、折衝障害の理由を説明するメッセージがないかを調べる。

CSQX504E

csect-name ローカル・プロトコル・エラー。チャンネル *channel-name* タイプ=*type* データ=*xxx*

重大度

8

説明

リモート・エンドとの通信中に、チャンネル *channel-name* のローカル・メッセージ・チャンネル・エージェントがプロトコル・エラーを検出した。

type には発生したエラーのタイプが示される。不正な値は *xxx* によって示される。

00000001

チャンネルが欠落しています。リモート・チャンネルを定義します。詳しくは、[CSQX520E](#) を参照してください。

00000002

チャンネル・タイプが正しくありません。定義を確認します。詳しくは、[CSQX547E](#) を参照してください。

00000003

キュー・マネージャーは利用できません。キュー・マネージャーを確認します。詳しくは、[CSQX524E](#) を参照してください。

00000004

メッセージ・シーケンス・エラーです。問題を調べてチャンネルを再設定します。詳しくは、[CSQX526E](#) を参照してください。

00000005

キュー・マネージャーを終了しています。これは単なる通知メッセージです。詳しくは、[CSQX525E](#) を参照してください。

00000006

保管できません。これは単なる通知メッセージです。詳しくは、メッセージ [CSQX527E](#) および [CSQX544E](#) を参照してください。また、リモート・システムのエラー・ログも確認します。メッセージはリモートの送達不能キューに入れられた可能性があります。

00000007

ユーザーがクローズされました。これは単なる通知メッセージです。詳しくは、[CSQX528I](#) を参照してください。STOP CHANNEL コマンドのため、あるいはチャンネル・イニシエーターが停止中であるため、チャンネルが停止しています。

00000008

タイムアウトになりました。これは単なる通知メッセージです。MQGET_WAIT 中に DISCONT がタイムアウトになったため、チャンネルが閉じます。

00000009

ターゲット・キューは不明です。IBM サポートに連絡してください。

0000000A

セグメント・タイプが正しくありません。IBM サポートに連絡してください。

0000000B

セグメント長が正しくありません。リモート・クライアントを確認します。クライアントが要求したバッファよりも大きいセグメントを送信したか、要求したバッファがペイロードとヘッダーの合計の制限を超えています。

0000000C

データが無効です。IBM サポートに連絡してください。

0000000D

予期しないセグメントです。IBM サポートに連絡してください。

0000000E

予期しない ID です。IBM サポートに連絡してください。

0000000F

予期しない MSH です。IBM サポートに連絡してください。

00000010

一般的なプロトコルの問題です。IBM サポートに連絡してください。

00000011

バッチ・エラーです。IBM サポートに連絡してください。

00000012

メッセージ長が正しくありません。IBM サポートに連絡してください。

00000013

セグメント番号が正しくありません。IBM サポートに連絡してください。

00000014

セキュリティ・エラーです。IBM サポートに連絡してください。

00000015

折り返し値のエラーです。コマンド ALTER CHANNEL SEQWRAP を使用してローカル・チャンネルまたはリモート・チャンネルのシーケンスの折り返し値を調整します。詳しくは、[CSQX505E](#) を参照してください。

00000016

チャンネルが使用できません。リモート・チャンネルが STOPPED でないか、またはそれ以外の理由で使用できないのか調べます。詳しくは、[CSQX558E](#) を参照してください。

00000017

出口によって閉じられています。IBM サポートに連絡してください。

00000018

暗号仕様のエラーです。チャンネルの SSLCIPH を確認し、リモート側が SSLFIPS(YES) に設定されている場合、その互換性も確認します。詳しくは、[CSQX635E](#) を参照してください。

00000019

ピア名のエラーです。このチャンネルの SSLPEERNAME を確認し、リモート側の証明書の識別名を一致させます。詳しくは、[CSQX636E](#) を参照してください。

0000001A

SSL/TLS クライアント証明書のエラーです。リモート・チャンネルを確認し、SSL/TLS 折衝のために証明書が指定されていることを確認します。詳しくは、[CSQX637E](#) を参照してください。

0000001B

RMT RSRCS をリカバリーしています。これは単なる通知メッセージであり、この状態は一時的です。

0000001C

SSL/TLS をリフレッシュしています。これは単なる通知メッセージであり、この状態は一時的です。

0000001D

HOBJ が無効です。IBM サポートに連絡してください。

0000001E

変換 ID のエラーです。IBM サポートに連絡してください。

0000001F

ソケット・アクション・タイプが無効です。IBM サポートに連絡してください。

00000020

スタンバイ・キュー・マネージャーが無効です。IBM サポートに連絡してください。

00000021

最大伝送サイズが無効です。リモート RECEIVER 属性の伝送単位サイズを大きくします。

00000022

FAP レベルが無効です。IBM サポートに連絡してください。

00000023

許可される最大変換サイズを超えました。SHARECNV 限度を超えました。リモート・クライアントを調べ、SHARECNV の値を大きくします。

00000024

パスワード保護エラーです。IBM サポートに連絡してください。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログを調べて、障害の原因を判別する。このエラーは、チャンネル・イニシエーターまたはキュー・マネージャーが強制終了されたり、異常終了したりした後に発生することがある。それ以外でこのエラーが発生した場合は、IBM サポートに連絡する。

CSQX505E

csect-name 順序折り返し値が異なります。チャンネル *channel-name* ローカル=*local-seqno* リモート=*remote-seqno*

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* の順序番号折り返し値は *local-seqno* であるのに、リモート・エンドで指定された値が *remote-seqno* である。チャンネルを開始するには、2つの値が同一でなければなりません。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

ローカル・チャンネル定義またはリモート・チャンネル定義のどちらかを変更して、メッセージ順序番号折り返し値に指定された値が同じになるようにする。

CSQX506E

csect-name メッセージ受信確認がチャンネル *channel-name* について未受信です。

重大度

8

説明

リモート・エンドは、最後のバッチ・メッセージを受け入れなかった。

システム・アクション

チャンネル *channel-name* は停止する。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

リモート・エンドが最後のバッチ・メッセージを受信しなかった理由を判別する。問題を解決して、チャンネルを再始動する。

CSQX507E

csect-name チャンネル *channel-name* は未確定です。接続 *conn-id* (キュー・マネージャー *qmgr-name*)

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* は、接続 *conn-id* を使用するリモート・エンドで未確定である。関連するリモート・キュー・マネージャーは *qmgr-name* である。この名前は判別できず、「????」と表示されることもある。

システム・アクション

要求された操作は完了しない。

システム・プログラマーの応答

チャンネル状況を確認し、チャンネルを再始動して未確定状態を解決するか、RESOLVE CHANNEL コマンドを使用して問題を手動で修正する。

CSQX511I

csect-name チャンネル *channel-name* が開始されました。接続 *conn-id*。

重大度

0

説明

指定した SVRCONN チャンネルが接続 *conn-id* から開始された。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQX512I

csect-name チャンネル *channel-name* はもうアクティブではありません。接続 *conn-id*。

重大度

0

説明

SVRCONN チャンネル *channel-name* が終了した。切断間隔が満了して正常に終了した場合、このチャンネルは現在非活動状態である。あるいは、このチャンネルがエラーによってかまたは STOP CHANNEL コマンドによって終了した場合は停止する。

SVRCONN *channel-name* が接続 *conn-id* から開始された。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

SVRCONN チャンネルが停止した場合、エラーがあればそれを解決し、START CHANNEL コマンドを実行してチャンネルを再始動する。

CSQX513E

csect-name 現在のチャンネル限度を超えました。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id*。

重大度

8

説明

現行のチャンネルが多すぎて、別のチャンネルを開始することができない。最大許容数は、MAXCHL キュー・マネージャー属性で指定される。現行のチャンネルには、活動状態のチャンネルだけでなく、停止中や再試行中のチャンネルも含まれる。

channel-name がインバウンド・チャンネルであった場合 (CSQXRESP を含んでいる *csect-name* によって示される)、このチャンネルは接続 *conn-id* から開始されたものである。*channel-name* がアウトバウンド・チャンネルであった場合、*conn-id* は省略される。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

動作中のチャンネルのいくつかが終了するまで待つてから、チャンネルを再始動するか、ALTER QMGR コマンドを使用して **MAXCHL** を増やす。 **MAXCHL** を増やす変更は、チャンネル・イニシエーターを停止して再始動するまで有効にならない。現在動作中のチャンネルの多くがサーバー接続チャンネルの場合は、サーバー接続チャンネルの **MAXINST** 属性または **MAXINSTC** 属性を使用して、サーバー接続チャンネルの数を制限することを検討する。詳細については、サーバー接続チャンネルの制限を参照。

CSQX514E

csect-name チャンネル *channel-name* は *qmgr-name* でアクティブです。

重大度

8

説明

活動状態にあるチャンネルで操作が要求された。共用チャンネルの場合は、他のキュー・マネージャーで活動状態になっている可能性がある。チャンネルが受信側の場合、そのチャンネルの前のインスタンスが孤立していた可能性があり、そのためにまだ活動状態になっている。

システム・アクション

要求は失敗します。

システム・プログラマーの応答

チャンネル開始以外の操作を行う場合、チャンネルを手動で停止させる、またはそのチャンネルが終了してから、この操作を再試行する。Adopt MCA 機能が使用されていない場合は、MODE(FORCE)を使用して、チャンネルを手動で停止する必要がある。Adopt MCA 機能を使用すると、孤立した受信側チャンネルを処理するために手操作による介入が必要なくなる。

CSQX515I

csect-name チャンネル *channel-name* が変更されました。

重大度

0

説明

情報が要求されているチャンネルは、チャンネルの新規インスタンスである。前のチャンネル・インスタンスは終了した。

システム・アクション

表示される情報は、新規チャンネル・インスタンスのためのものである。

CSQX516E

csect-name 同期データへのアクセス中にエラー。RC=*return-code*

重大度

8

説明

チャンネル同期データへのアクセス時にエラーが発生した。

戻りコードの形式が 10009nnn または 20009nnn の場合は、分散キューイング・メッセージ・コードである。一般に、分散キューイング・メッセージ・コードは、これより前に出されるメッセージ CSQXnnnE に関連している。

それ以外の場合、最も可能性のある原因はストレージ不足である。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

同様に、チャンネル・イニシエーターが停止することもある。

システム・プログラマーの応答

戻りコードが分散キューイング・メッセージ・コードである場合は、対応するメッセージの説明を参照。メッセージに関する記述がない場合は、[1125 ページの『分散キューイング・メッセージ・コード』](#)の該当するメッセージ番号を参照。

チャンネルまたはチャンネル・イニシエーターを再始動する。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

CSQX517E

csect-name q-name にエラー - チャンネル *channel-name* が繰り返されました。

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* のインスタンスに対して *q-name* に複数の同期情報セットが存在していた。これは、そのチャンネルが受信側チャンネルであり、それと通信している同じネットワーク・アドレス内の別々のキュー・マネージャーにそれぞれ同じ名前の 2 つの送信側チャンネルが存在していたことが原因であると考えられる。

システム・アクション

チャンネル・インスタンスに対する最初の同期情報セットを使用し、それ以外のものはすべて無視する。このチャンネルを使用すると、エラーが発生する可能性がある。

システム・プログラマーの応答

このチャンネルを使用しないようにする。チャンネル同期キューから余分な情報セットを除去し、それぞれのチャンネルが固有の名前をもつようにチャンネル名を変更する。

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQX519E

csect-name チャンネル *channel-name* は定義されていません。接続 *remote-conn-id*

重大度

8

説明

チャンネル・イニシエーターがチャンネル *channel-name* の定義を検出できなかった。

関連するリモート接続名は *remote-conn-id* である。チャンネルを使用する要求がインバウンド接続からの要求ではない場合、またはリモート接続名が判別できない場合、*remote-conn-id* は「????」として表示される。

システム・アクション

要求された操作は失敗する。

システム・プログラマーの応答

名前が正しく指定され、チャンネル定義が使用可能であることを確認します。

このメッセージは、**REFRESH CLUSTER** コマンドを発行した結果、自動的に定義されたクラスター送信者チャンネル (CLUSSDRA) が削除され、書き込みを行うアプリケーションがそのチャンネルを使用しているキュー・オブジェクトを依然として開いている場合にも出される可能性がある。

CSQX520E

csect-name リモート・チャンネル *channel-name* は定義されていません。

重大度

8

説明

リモート・エンドにチャンネル *channel-name* の定義がない。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

適切なチャンネル定義をリモート・エンドに追加して、操作を再試行する。

CSQX523E

csect-name リモート・プロトコル・エラー。チャンネル *channel-name* タイプ=*type* データ=*xxx*

重大度

8

説明

リモート・エンドとの通信中に、チャンネル *channel-name* のリモート・メッセージ・チャンネル・エージェントがプロトコル・エラーを検出した。 *type* に、発生したエラーのタイプが示される。

0000000A

セグメント・タイプ誤り

0000000B

長さ誤り

0000000C

データが無効

0000000D

無効セグメント

0000000E

無効 ID

0000000F

無効 MSH

00000010

一般エラー

00000011

バッチ・エラー

00000012

メッセージ長誤り

00000013

セグメント番号誤り

このエラー (例えば、不正な値) に関連するデータは、xxx によって示される。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

リモート・エンドのコンソール・ログを調べて、障害の原因を判別する。このエラーは、チャンネル・イニシエーターまたはキュー・マネージャーが強制終了されたり、異常終了したりした後に発生することがある。それ以外の場合にこのエラーが発生している場合は、IBM サポートに連絡する。

CSQX524E

csect-name リモート・キュー・マネージャーがチャンネル *channel-name* で使用できません。

重大度

8

説明

リモート・キュー・マネージャーが現在利用不能になっているため、チャンネル *channel-name* は開始できない。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

リモート・キュー・マネージャーを開始するか、後で操作をやり直してください。

CSQX525E

csect-name チャンネル *channel-name* が、リモート・キュー・マネージャー *qmgr-name* が停止中のためクローズしています。

重大度

8

説明

リモート・キュー・マネージャー *qmgr-name* が停止処理中であるため、チャンネル *channel-name* がクローズ中になっている。リモート・キュー・マネージャー名を判別できないために、'????' と表示される場合もある。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

リモート・キュー・マネージャーの停止が予期されないものである場合には、停止中となっている原因を調べる。

CSQX526E

csect-name チャンネル *channel-name* でのメッセージ順序エラーです。送信=*msg-seqno* 正常値=*exp-seqno*

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* に対する次のメッセージ順序番号が、ローカル・キュー・マネージャーとリモート・エンドとで一致していない。メッセージは通常、送信元と受信先の両方で発行される。送信元では *msg-seqno* と *exp-seqno* は予想できない。受信先では、メッセージの順序番号は *msg-seqno* であるが、順序番号 *exp-seqno* が予想されていた。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

不整合の原因を究明してください。同期情報が損傷しているか、以前のバージョンにバックアウトしたことも考えられる。問題が解決されない場合は、RESET CHANNEL コマンドを使用して、チャンネルの送信側で順序番号を手動でリセットすることができる。(一部のキュー・マネージャーでは、受信側でも同様に RESET CHANNEL コマンドを実行しなければならないことがある。)

CSQX527E

csect-name チャンネル *channel-name* でメッセージを送信できません。

重大度

8

説明

リモート・エンドが、チャンネル *channel-name* で送信中のメッセージを受信できない。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

リモート・エンドのコンソール・ログを調べて、メッセージが受信できない原因を判別してから、チャンネルを再始動する。

CSQX528I

csect-name チャンネル *channel-name* は停止中です。

重大度

0

説明

STOP CHANNEL コマンドが実行されたため、あるいはチャンネル・イニシエーターが停止中であるため、チャンネルがクローズしている。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

STOP CHANNEL コマンドによって、チャンネルは停止状態に置かれる。再始動させるには、START CHANNEL コマンドを実行する必要がある。

CSQX531E

csect-name channel-name 用の伝送キュー *q-name* の使用タイプが間違っています。

重大度

8

説明

キュー *q-name* は、*channel-name* のチャンネル定義では伝送キューとして指定されているが、このキューは伝送キューではない。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

チャンネル定義でキュー名が正しく指定されているかどうかを確認する。正しく指定されている場合は、キューのキュー使用属性を伝送キューのキュー使用属性に変更します。

CSQX533I

csect-name Channel *channel-name* is already in requested state

重大度

0

説明

チャンネル *channel-name* の停止要求が出されたが、チャンネルはすでに停止しているか、または停止処理中である。

システム・アクション

要求は無視される。

CSQX534E

csect-name チャンネル *channel-name* は停止されます。

重大度

4

説明

要求された操作は、チャンネルが現在停止中であるために実行することができない。

システム・アクション

要求は無視される。

システム・プログラマーの応答

START CHANNEL コマンドを実行して、チャンネルを再始動する。

CSQX535E

csect-name 出口 *exit-name* が無効なので、チャンネル *channel-name* は停止中です。

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* で指定されたユーザー出口 *exit-name* が無効である。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー出口名がチャンネル定義で正しく指定されているかどうか、また、ユーザー出口プログラムが正しく、使用可能であるかどうかを確認する。チャンネル・イニシエーターは、その開始済みタスク JCL プロシージャ xxxCHIN の CSQXLIB DD ステートメントで、ライブラリー・データ・セットから出口をロードする。

CSQX536I

csect-name 出口 *exit-name* の要求のため、チャンネル *channel-name* は停止中です。

重大度

0

説明

ユーザー・チャンネル出口 *exit-name* によってこのチャンネルが要求されたために、チャンネルはクローズしている。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。自動定義チャンネルの場合、チャンネルは始動しない。

システム・プログラマーの応答

これにより、チャンネルが停止状態に置かれる。再始動させるには、START CHANNEL コマンドを実行する必要があります。

CSQX539E

csect-name キュー *q-name* のチャンネル *channel-name* は使用できません。

重大度

8

説明

伝送キュー *q-name* を処理するために、チャンネル *channel-name* を開始するトリガー・メッセージが受信された。しかし、チャンネル・イニシエーターが、開始できる定義済みチャンネルを見つけることができなかった。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

伝送キューを処理するように定義されたチャンネルがあるか、またそのチャンネルが停止していないかを確認する。

CSQX540E

csect-name バッチをコミットできません。チャンネル *channel-name* MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrctext*)

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* に関連するキューの MQCMIT 呼び出しが、失敗に終わった。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

mqqc および *mqrc* (*mqrctext* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQX541E

csect-name データ変換の CCSID が無効です。 *ccsid1* および *ccsid2*

重大度

8

説明

ローカル・コード文字セット ID (CCSID) あるいはターゲット CCSID が無効であるか、現在サポートされていない。または関連する 2 つの CCSID 間の変換がサポートされていない (CCSID が無効であると必要なデータ変換が実行されない)ので、チャンネルの名前を判別できない。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

CCSID が有効か、またそれらの間の変換がサポートされているかを確認する。サポートされている CCSID については、コード・セット名および CCSID を参照。

CSQX544E

csect-name チャンネル *channel-name* のメッセージが送達不能キューに送られました。

重大度

4

説明

チャンネル *channel-name* の処理中に、1 つまたは複数のメッセージがリモート・キュー・マネージャーの送達不能キューに入れられた。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

送達不能キューの内容を調べてください。各メッセージは、メッセージがキューに書き込まれた理由および最初にアドレス指定された場所を含む構造体に入れられます。

CSQX545I

csect-name 切断インターバルの有効期限が切れたため、チャンネル *channel-name* はクローズ中です。

重大度

0

説明

切断間隔内に伝送キューにメッセージが届かなかったため、チャンネルはクローズする。

システム・アクション

チャンネルは正常終了する。

CSQX547E

csect-name リモート・チャンネル *channel-name* のタイプが間違っています。

重大度

8

説明

リモート・エンドのチャンネル *channel-name* のタイプが不適切なため、要求された操作は実行できない。例えば、ローカル・チャンネルが送信側として定義されている場合、リモート・キュー・マネージャーによって、対応するチャンネルを受信側または要求側として定義しておかなければならない。

システム・アクション

要求された操作は実行されない。

システム・プログラマーの応答

チャンネル名が正しく指定されていることを確認してください。もし正しければ、次のことを確かめる。

- リモート・エンドのチャンネル定義に、適切なチャンネル・タイプが含まれているか。
- ローカル・チャンネルの接続名によって、リモート・エンドが正しく識別されているか。
- クラスター受信側チャンネルの場合は、接続名に総称アドレスまたは共用リスナー・ポート (INDISP=GROUP) が指定されていません。
- TCP/IP 接続の場合、ローカル・チャンネルで指定されているポート番号が、リモート・キュー・マネージャーのリスナーで使用されているものと一致するか

CSQX548E

csect-name メッセージがローカルの送達不能キューに送られました。チャンネル *channel-name* 理由 =*mqrc* (*mqrc-text*)。

重大度

4

説明

チャンネル *channel-name* の処理中に、1つまたは複数のメッセージがローカル・キュー・マネージャーの送達不能キューに入れられた。*mqrc* は理由を示し、以下のいずれかになる。

- MQPUT または MQPUT1 呼び出しからの MQRC_* 理由コード
- MQFB_* フィードバック・コード

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

送達不能キューの内容を調べてください。各メッセージは、メッセージがキューに書き込まれた理由および最初にアドレス指定された場所を含む構造体に入れられます。

mqcc および *mqrc* (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

MQFB_* フィードバック・コードについては、[MQMD - メッセージ記述子の MQMD](#)の説明を参照。

CSQX549E

csect-name キュー *q-name* はチャンネル *channel-name* で獲得禁止です。

重大度

8

説明

伝送キューが直前に GET 使用禁止になっていたため、MQGET が失敗した。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連した伝送キューは、トリガー操作がオフにされている場合がある。

システム・プログラマーの応答

MQGET 呼び出しで禁止されないよう、伝送キューの定義を変更する。

CSQX551E

csect-name アクションはサポートされていません。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id* (キュー・マネージャー *qmgr-name*)

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* で要求された操作は、接続 *conn-id* を使用するリモート・エンドではサポートされていない。関連するリモート・キュー・マネージャーは *qmgr-name* である。この名前は判別できず、「????」と表示されることもある。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

接続名パラメーターが正しく指定されているか、また使用しているキュー・マネージャーのレベルに互換性があるかを確認する。

CSQX552E

csect-name チャンネル *channel-name* のセキュリティー出口データは受信されませんでした。接続 *conn-id*。

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* のローカル・セキュリティー・ユーザー・チャンネル出口がリモート・セキュリティー・ユーザー・チャンネル出口からデータを要求したが、データは受信されなかった。リモート接続が *conn-id* であった。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

リモート・エンドのチャンネルのセキュリティー出口が正しく定義されており、利用可能であることを確認する。これが確認された場合は、出口プログラムの操作が正しいかを確認する。

CSQX558E

csect-name Remote channel *channel-name* not available

重大度

8

説明

リモート・エンドのチャンネル *channel-name* が現在停止しているか、または利用できない。例えば、現在のチャンネルが多すぎて、開始することができない場合がある。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

これは一時的な状態である可能性があり、その場合、チャンネルは再試行する。再試行しない場合は、リモート・エンドのチャンネル状況を調べる。停止中の場合は、**START CHANNEL** コマンドを実行して再始動させる。現行のチャンネルが多すぎる場合は、動作中のチャンネルのいくつかが終了するまで待つか、いくつかのチャンネルを手動で停止させてから、チャンネルを再始動させる。

CSQX565E

csect-name *qmgr-name*、チャンネル *channel-name* に送達不能キューがありません。

重大度

8

説明

メッセージが正常に送達できなかったのに、キュー・マネージャー *qmgr-name* に対して定義された送達不能キューがない。

このメッセージは、メッセージの再割り振り中にクラスター送信側チャンネルで受け取る可能性がある。再割り振り中には、メッセージが伝送キューから取り出され、もう一度書き戻される。伝送キューがいっぱいである場合、書き込みに失敗し、メッセージを送達不能キューに書き込もうとする。送達不能キューが存在しない場合、メッセージ CSQX565E が生成され、再割り振りの変更がロールバックされる。キュー・フルの問題が解決されるまで、再割り振りは実行されない。

システム・アクション

処理を続行すると、非永続メッセージが送信されていて、チャンネルの NPMCLASS 属性が FAST に設定されている場合を除き、チャンネルが停止する。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

メッセージを正常に送達できなくなった問題を訂正するか、リモート・キュー・マネージャーの送達不能キューを定義する。

CSQX567E

csect-name リスナーは APPC/MVS に登録できません。 TRPTYPE=LU62 INDISP=*disposition*
RC=*return-code* 理由=*reason*

重大度

8

説明

開始中に、指定された LU6.2 リスナーが APPC/MVS サーバーとして登録できなかった。APPC/MVS 割り振りサービスからの戻りコードは *return-code* であり、関連する理由コードは *reason* である (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

リスナーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

APPC/MVS 割り振りサービスからの戻りコードの原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照してください。詳細については、「[z/OS MVS プログラミング: APPC/MVS サーバーの書き方](#)」を参照してください。LUNAME キュー・マネージャー属性が、リスナーに使用される APPC/MVS 記号宛先の PARTNER_LU 値と同じであることを調べる。

CSQX568E

csect-name リスナーは APPC/MVS から登録解除できません。 TRPTYPE=LU62 INDISP=*disposition*
RC=*return-code* 理由=*reason*

重大度

8

説明

停止中に、指定された LU6.2 リスナーが APPC/MVS サーバー登録を抹消できなかった。APPC/MVS 割り振りサービスからの戻りコードは *return-code* であり、関連する理由コードは *reason* である (いずれも 16 進)。

システム・アクション

リスナーは停止する。再始動ができない場合がある。

システム・プログラマーの応答

APPC/MVS 割り振りサービスからの戻りコードの原因については、[1110 ページの『z/OS の通信プロトコル戻りコード』](#)を参照してください。詳細については、「[z/OS MVS プログラミング: APPC/MVS サーバーの書き方](#)」を参照してください。

CSQX569E

csect-name チャンネル *channel-name* は TCP/IP チャンネル限界を超えています。

重大度

8

説明

現行の TCP/IP チャンネルの数が最大許容数である。別のチャンネルを開始できない。現行のチャンネルには、活動状態のチャンネルだけでなく、停止中や再試行中のチャンネルも含まれる。最大許容数はキュー・マネージャー属性 TCPCHL に指定するが、ディスパッチャーが失敗した場合、または TCP/IP 資源が制限されている場合 (メッセージ [CSQX118I](#) で報告される)、削減されることがある。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

最大許容数が 0 に設定されている場合には、TCP/IP 通信は許可されず、どの TCP/IP チャンネルも開始できない。最大許容数がゼロ以外の場合、動作中のチャンネルのいくつかが終了するまで待つてチャンネルを再始動するか、または [ALTER QMGR](#) コマンドを使用して TCPCHL を増やす。

CSQX570E

csect-name チャンネル *channel-name* は LU 6.2 チャンネル限界を超えています。

重大度

8

説明

現行の LU 6.2 チャンネルの数が最大許容数である。別のチャンネルを開始できない。現行のチャンネルには、活動状態のチャンネルだけでなく、停止中や再試行中のチャンネルも含まれる。最大許容数は LU62CHL キュー・マネージャー属性に指定されているが、ディスパッチャーが失敗した場合、削減されることがある。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

最大許容数が 0 の場合、LU 6.2 通信は許可されず、どの LU 6.2 チャンネルも開始できない。最大許容数がゼロ以外の場合、動作中のチャンネルのいくつかは終了するまで待つてチャンネルを再始動するか、または [ALTER QMGR](#) コマンドを使用して LU62CHL を増やす。

CSQX571E

csect-name PKCS #11 呼び出し可能サービス '*func*' からのエラー。RC=*return-code*、理由=*reason*

重大度

8

説明

PKCS #11 呼び出し可能サービス *func* の使用の試行が失敗した。

システム・アクション

エラーが発生したコンポーネント (メッセージ・チャンネル・エージェント、スーパーバイザー) は引き続き使用可能だが、使用しようとした機能は使用できない。

func が CSFPPRF (疑似乱数関数) である場合、パスワード保護の機能が影響を受ける。この機能を使用しない場合、このエラーは無視できる。チャンネル・イニシエーターの始動時にこれが発生した場合、パスワード保護アルゴリズムは代わりに STCK を使用する。

システム・プログラマーの応答

PKCS #11 呼び出し可能サービスからの 戻りコード および 理由 については、「[z/OS Cryptographic Services ICSF Application Programmer's Guide](#)」の「[ICSF and cryptographic coprocessor return/reason codes](#)」のセクションを参照。

Integrated Cryptographic Service Facility (ICSF) については、[ICSF の使用](#)を参照。

CSQX572E

csect-name メッセージ・ヘッダーが無効なため、チャンネル *channel-name* は停止しています。

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* の処理中に、無効なヘッダーをもつメッセージが検出された。送達不能キューが伝送キューとして定義されていたため、メッセージがそこに入れられていたらループが作成されたはずである。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

無効なメッセージ・ヘッダーの原因となった問題を訂正する。

CSQX573E

csect-name チャンネル *channel-name* は活動チャンネル限界を超えています。

重大度

8

説明

活動チャンネル(メッセージを送信している)の数が超過しているために、他のチャンネルを開始できない。最大許容数は、ACTCHL キュー・マネージャー属性で指定される。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

動作中のチャンネルのいくつかが終了するまで待つか、またはいくつかのチャンネルを手動で停止させてからチャンネルを再始動するか、あるいは [ALTER QMGR](#) コマンドを使用して ACTCHL を増やす。ACTCHL を増やす変更は、チャンネル・イニシエーターを停止して再始動するまで有効にならない。

CSQX574I

csect-name チャンネル *channel-name* が開始できるようになりました。

重大度

0

説明

活動チャンネル(メッセージを送信している)の数が超過していたために他のチャンネルを開始できなかったため、指定されたチャンネルが開始待ち状態であった。1つ以上の活動チャンネルが終了したため、このチャンネルが開始できるようになった。

注: 対応するイベントは生成されるが、このメッセージそのものは発行されない。

CSQX575E

csect-name チャンネルの折衝が失敗しました。

重大度

8

説明

折衝障害のために、ローカル・キュー・マネージャーとリモート・エンドの間にチャンネルを設定することができなかった。この障害は、チャンネル名を判別できない場合などに起きる。例えば、ローカル・エンドとリモート・エンドが使用するそれぞれのコード化文字セット ID (CCSID) の間でデータ変換を実行できなかった場合である。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

リモート・エンドのコンソール・ログに、折衝障害の理由を説明するメッセージがないかを調べる。

CSQX576E

csect-name ICSF を使用できません

重大度

8

説明

パスワード保護アルゴリズムのエントロピーを生成するために、Integrated Cryptographic Service Facility (ICSF) が使用可能でなければならない CSFPPRF (疑似乱数関数) の呼び出しが実行された。ICSF が使用できないことが検出された。

システム・アクション

パスワード保護アルゴリズムは代わりに STCK を使用する。

システム・プログラマーの応答

パスワード保護が使用されている場合、ICSF を起動する。これを使用しない場合、このエラー・メッセージは無視できる。

CSQX578E

csect-name チャンネル *channel-name* の状況を保管できません。

重大度

8

説明

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

チャンネルは停止します。関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

エラーに関する情報は、チャンネル・イニシエーターが開始したタスクの JCL プロシージャ、xxxxCHIN の CSQSNAP DD ステートメントにより識別されたデータ・セットに書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

『問題判別』の項に示された情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQX599E

csect-name チャンネル *channel-name* が異常終了しました。接続 *conn-id*。

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* は、先行するメッセージで報告された重大エラーが発生したために異常終了した。

channel-name がインバウンド・チャンネルである場合 (CSQXRESP を含んでいる *csect-name* によって示される)、このチャンネルは接続 *conn-id* から開始されたものである。 *channel-name* がアウトバウンド・チャンネルの場合、*conn-id* は省略される。 *conn-id* の後には解決済みのホスト名を続けることができる。 *conn-id* の後にネットワーク・アドレスを小括弧で囲んで続けることもできるが、これはそれが解決可能かどうか、および報告するための十分なスペースが残っているかどうかに依存する。

システム・アクション

チャンネルは停止します。 関連付けられた伝送キューは GET(DISABLED) に設定され、トリガー操作がオフにされる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。 詳しくは、[DQM の問題判別](#)を参照。

CSQX608E

csect-name チャンネル *channel-name* のリモート・リソースが回復中です。

重大度

8

説明

リモート・キュー・マネージャーの資源が回復中のため、チャンネル *channel-name* を開始できない。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

後でチャンネルを再始動してください。 問題が続くようであれば、リモート・エンドのコンソール・ログに問題の原因について説明するメッセージがないかを調べる。 これには、詳細情報を提供する [CSQX609E](#) のインスタンスが含まれる。

CSQX609E

csect-name リソースが回復中です。 チャンネル *channel-name* MQCC=*mqqc* MQRC=*mqrc* (*mqrctext*)。

重大度

8

説明

資源が回復中のため、チャンネルのメッセージ・チャンネル・エージェントがキュー・マネージャーに接続できなかった。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

MQCONNX 要求からの *mqqc* および *mqrc* (*mqrctext* で示されるのはテキスト形式での MQRC) の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください。

CSQX613I

csect-name チャンネル *channel-name* インスタンスはすでに要求状態にあります。

重大度

0

説明

接続名またはリモート・キュー・マネージャー名を指定することによって、チャンネル *channel-name* の特定のインスタンスの停止要求が出されたが、そのチャンネル・インスタンスはすでに停止しているか、または停止処理中である。

このエラーは、QMNAME パラメーターを使用して SVRCONN チャンネルを停止しようとした場合にも適用される。この場合は、QMNAME パラメーターを使用してはならない。特定の SVRCONN インスタンスを停止するには、CONNNAME パラメーターを使用する。

システム・アクション

要求は無視される。

CSQX616E

csect-name 提示された CipherSpec が有効になっていません。CipherSpec *cipherspec* チャンネル *channel* 接続 *conn-id*

重大度

8

説明

相手側から、ローカルのチャンネル・イニシエーターで有効でない CipherSpec が提示されたために、チャンネルを開始できませんでした。

システム・アクション

チャンネルは開始できない。

システム・プログラマーの応答

使用する CipherSpec に適したタイプのデジタル証明書の公開鍵があることを確認します。詳しくは、[IBM MQ におけるデジタル証明書と CipherSpec の互換性を参照してください](#)。

SSLCIPH チャンネル属性に指定されている CipherSpec を確認し、よりセキュアな CipherSpec を使用することを検討してください。

CipherSpec が TLS 1.3 用であり、TLS 1.3 が有効になっていない場合は、キュー・マネージャーの始動プロシージャで QMINI データ・セットの TransportSecurity スタンザに **AllowTLSV13=TRUE** を設定して、TLS 1.3 を有効にします。

脆弱な CipherSpec または非推奨の CipherSpec を再び使用できるようにする場合は、[非推奨の CipherSpec の有効化 \(z/OS\)](#) を参照してください。



重要: この方法で CipherSpecs を再有効化すると、システムを潜在的なセキュリティーの問題にさらしたままの状態にすることになります。SSLv3 ではなく TLS プロトコルのみを使用する CipherSpecs を使用してください。

CSQX617I

csect-name SSL キー・リポジトリの最新表示が処理されていません。SSL 通信が使用できません。

重大度

0

説明

SSL 通信が現在使用できないため、キャッシュされた SSL 鍵リポジトリを [REFRESH SECURITY TYPE\(SSL\)](#) コマンドに応答してリフレッシュすることができません。

システム・アクション

0

システム・プログラマーの応答

SSL が利用不可である理由を調べて、必要に応じてアクションをとる。チャンネル・イニシエーターを再始動して、SSL を使用できるようにしなければならない場合がある。

注: SSLTASKS がゼロ以外の値に設定されていることを確認してください。

CSQX618I

csect-name SSL キー・リポジトリの最新表示を開始しました。

重大度

0

説明

REFRESH SECURITY TYPE(SSL) コマンドに応答して、キャッシュに入れられた SSL キー・リポジトリがリフレッシュされている。

システム・アクション

リフレッシュが完了すると、メッセージ CSQX619I が出される。

CSQX619I

csect-name SSL キー・リポジトリの最新表示を処理しました。

重大度

0

説明

キャッシュに入れられた SSL キー・リポジトリのリフレッシュが完了した。

システム・アクション

必要に応じて、チャンネルが再始動される。

CSQX620E

csect-name システム SSL エラー。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id* 関数 '*func*' 戻りコード =*return-code*。

重大度

8

説明

チャンネルに対して、予期しない SSL 通信エラーが発生した。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。リモート接続は *conn-id* である。*func* は、エラーの発生元のシステム SSL 関数の名前、*return-code* は、戻りコード (10 進数、ただし *func* が「*gsk_fips_state_set*」の場合は 16 進数) である。

システム・アクション

チャンネルは停止状態です。

システム・プログラマーの応答

System SSL からの戻りコードの原因については、[1122 ページの『z/OS の場合の Transport Layer Security \(TLS\) の戻りコード』](#)を参照し、詳細については、「[z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング](#)」マニュアルの「[SSL 機能戻りコード](#)」を参照してください。

CSQX625E

csect-name システム SSL エラー、機能 '*func*' RC=*return-code*

重大度

8

説明

SSL サーバー・サブタスクに対して、予期しない SSL 通信エラーが発生した。*func* はエラーを出したシステム SSL 機能の名前であり、*return-code* は戻りコード (10 進表記) である。

システム・アクション

SSL サーバー・サブタスクは終了する。

システム・プログラマーの応答

System SSL からの戻りコードの原因については、[1122 ページの『z/OS の場合の Transport Layer Security \(TLS\) の戻りコード』](#)を参照し、詳細については、「[z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング](#)」マニュアルの「[SSL 機能戻りコード](#)」を参照してください。

CSQX629E

csect-name チャンネル *channel-name* には SSLCIPH(*ciph*) の ICSF が必要です。

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* は、ICSF (統合暗号化サービス機能) 呼び出し可能サービスを必要とする *cipherspec ciph* を使用していますが、ICSF は使用できません。チャンネル名と *cipherspec* は不明である場合があります、そのため「????」と表示されます。

4 文字の 16 進コードは、非推奨 *CipherSpecs* の *CipherSpecs* の有効化および [表 1](#) の [表 1](#) にリストされています。

このメッセージに *CipherSpec* が 4 文字の 16 進数コードとして示されている場合は、その名前を [IBM MQ 9.2.0 の CipherSpec の順序](#) で調べることができます。

GCM または一時楕円曲線アルゴリズムを使用する *cipherspec* には ICSF が必要です。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

ICSF を使用可能であることを確認するか、チャンネルが使用している *cipherspec* を ICSF を必要としないものに変更してください。ICSF を使用し、SSLFIPS(YES) でキュー・マネージャーを実行する場合は、ICSF を FIPS モードで実行するように構成してください。

詳しくは、「[z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング](#)」マニュアルの「[System SSL 機能戻りコード 455](#)」を参照してください。

CSQX630E

csect-name チャンネル *channel-name* は SSL を必要としています。

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* は、SSL が必要だが SSL 通信が現在使用できないために、開始できない。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

SSL が必要な場合は、それを使用できない原因を調べて適切な処置を取る。考えられる 1 つの原因は、チャンネル・アドレス・スペースを開始したユーザーによって所有されている使用可能な証明書が存在しないことである。これが該当する場合、**RACDCERT ID(yyyy)** コマンド (yyyy はユーザー ID) を発行することにより、正しい値の証明書を持つようユーザー ID を再構成する必要がある。

SSL キュー・マネージャーのプロパティが設定されているかを確認する (例えば、SSLTASKS は 0 より大きい必要がある)。

SSL が不要な場合は、SSL を使用しないようにチャンネル定義を変更する。

CSQX631E

csect-name 暗号仕様は異なります。チャンネル *channel-name* local=*local-ciph* remote=*remote-ciph* 接続 *conn-id*

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* の SSL 暗号仕様値は *local-ciph* ですが、リモート・エンドで (接続 *conn-id* から) 指定された値は *remote-ciph* です。

サポートされている別名 CipherSpec は、[IBM MQ TLS サポートで使用できる CipherSpec](#) にリストされています。サポートされている CipherSpec とプロトコルは、[IBM MQ 9.2.0 の CipherSpec の順序](#) にリストされています。

システム・アクション

チャンネルは開始されません。

システム・プログラマーの応答

ローカル・チャンネル定義またはリモート・チャンネル定義のどちらかを変更して、SSL 暗号仕様に指定された値が同じになるようにする。

別名 CipherSpec に ANY_* 値を使用する場合は、適切な CipherSpec をネゴシエーションできるように、チャンネルの両側で一致する CipherSpec 値を使用するようにしてください。

CSQX632I

csect-name SSL 証明書にユーザー ID が関連付けられていません。リモート・チャンネル *channel-name*、接続 *conn-id*。チャンネル・イニシエーターのユーザー ID が使用されます。

重大度

0

説明

SSL ハンドシェイク中に (接続 *conn-id* の) リモート・エンドから送信された証明書が受け入れられたが、その証明書に関連付けられているユーザー ID を見つけることができなかった。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

原因としては、証明書または一致する証明書名フィルターが外部セキュリティ・マネージャー (ESM) に対して定義されていないか、または証明書に ESM が認識していないフィールドが含まれていることが考えられます。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーター・アドレス・スペースのユーザー ID が、このチャンネルのチャンネル・ユーザー ID として使用される。

システム・プログラマーの応答

証明署名フィルターを使用している場合は、この証明書に合致するフィルターを作成できる。ユーザー ID と証明書との間の関連付けについては、[証明書名フィルターの操作 \(CNF\)](#) を参照。

チャンネルで使用するセキュリティで、SSL にマップされた証明書ユーザー ID が必要とされない場合は、**DEF** の代わりに値 **ONLYMCA** が指定された、あるいは **CTX** の代わりに値 **ALTMCA** が指定された書き込み権限 (**PUTAUT**) を使用するように、チャンネルを定義することができる。これにより、チャンネルのセキュリティ検査では、見つからない SSL にマップされた証明書ユーザー ID が使用されることがないため、このメッセージは発行されない。TCP/IP を使用する受信側チャンネルのセキュリティ検査に使用されるユーザー ID については、[TCP/IP を使用する受信側チャンネル](#) を参照。

または、**SSLPEER** チャンネル属性を変更するか、**CHLAUTH** レコードを作成して、この証明書がリモート・チャンネルから受け入れられないようにする。詳しくは、[チャンネル認証レコード](#) を参照。

CSQX633E

csect-name リモート・チャンネル *channel-name* の SSL 証明書が、ローカル検査に失敗しました。接続 *conn-id*。

重大度

8

説明

SSL ハンドシェイク中に (接続 *conn-id* の) リモート・エンドから送信された証明書を検証できなかった。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

リモート・エンドにあるキー・リポジトリに接続された SSL 証明書が有効かどうか、また署名証明書がローカル・キュー・マネージャー上の鍵リングに接続され、送信された証明書が認証できるようになっているかどうかを確認する。

SSL 証明書とキー・リポジトリについての詳細は、[セキュリティー](#)を参照してください。

このエラーは、間違った証明書を送信するようチャンネルのリモート・エンドが構成されていることを示している可能性があります。チャンネルのリモート・エンドの証明書ラベル構成を確認し、必要なすべての CA 証明書がローカル・キー・リポジトリに含まれていることを確認してください。

詳しくは、「z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング」マニュアルの「[システム SSL 機能戻りコード 8](#)」を参照してください。

CSQX634E

csect-name SSL 認証はリモート・チェックで失敗しました。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id*

重大度

8

説明

SSL ハンドシェイク中に接続 *conn-id* を使用して リモート・エンドに送信された証明書が検証できなかった。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

最初に、ローカル・キュー・マネージャー *qmgr-name* の鍵リング内の SSL 証明書が有効かどうか (例えば、TRUST 状況である、有効期限が切れていないなど) を確認する必要があります。

次に、署名証明書 (例えば、認証局からの証明書) と署名済み証明書の両方がリモート・エンドにあるキー・リポジトリに接続され、送信された証明書がそのリモート・エンドで検証できるようになっているかどうかを確認する必要もあります。

使用する証明書は、CERTLABL 属性のチャンネルで名前を付けられるか、CERTLABL 属性または CERTQSGI 属性のキュー・マネージャー (共有チャンネルの場合) で名前を付けられます。これらの属性のいずれにも証明書ラベルが見つからない場合、証明書は「ibmMQqsg-name」(共有チャンネルの場合) または「ibmMQqmgr-name」という名前になるか、鍵リング内のデフォルト証明書が使用されます。

SSL 証明書とキー・リポジトリについての詳細は、[セキュリティー](#)を参照してください。

詳しくは、「z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング」マニュアルの「[System SSL 機能戻りコード 414](#)」を参照してください。

CSQX635E

csect-name 暗号仕様 *ciph* は無効です。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id*

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* の SSL 暗号仕様値が無効である。この値は、完全な暗号ストリングとしてメッセージ内に表示される。

サポートされている CipherSpec は、[IBM MQ 9.2.0 の CipherSpec の順序](#) にリストされています。

このエラーが発生する可能性があるのは、SSLFIPS(YES) を使用するようリモート・エンドが構成されている場合である。リモート・エンドでのエラーを調べて、これがその場合に該当するのかを判別する。

このエラーは、SSLFIPS がいずれかの側で構成されていて、TLS 1.3 CipherSpec を使用してチャンネルを開始しようとした場合にも発生する可能性があります。TLS 1.3 CipherSpec はまだ FIPS 認証されていません。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

チャンネルの SSL 暗号仕様を訂正する。リモート・エンドが、FIPS 認定の暗号仕様のみを受け入れるように構成されている場合は、FIPS 認定の暗号仕様を使用するようチャンネルを変更する。[CipherSpec の指定](#)を参照して、どの暗号仕様が FIPS 認定かを確認する。

詳しくは、「[z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング](#)」資料の「[System SSL Function Return Code 402](#)」、「[System SSL Function Return Code 412](#)」、および「[System SSL Function Return Code 422](#)」を参照してください。

CipherSpec が TLS 1.3 用であり、TLS 1.3 が有効になっていない場合は、キュー・マネージャー始動プロセスの QMINI データ・セットの **TransportSecurity** スタンザで **AllowTLSV13=TRUE** を設定して、TLS 1.3 を有効にします。ただし、キュー・マネージャー属性 SSLFIPS が YES に設定されている場合、TLS V1.3 CipherSpec はまだ FIPS 認証されていないため、TLS V1.3 暗号仕様は使用できません。この場合は、SSLFIPS を NO に設定することを検討してください。

CSQX636E

csect-name 識別名がピア名に一致しません。チャンネル *channel-name* 名前=*dist-name* 接続 *conn-id*。

重大度

8

説明

(接続 *conn-id* の) リモート・エンドにある SSL 証明書で指定されている識別名 *dist-name* が、チャンネル *channel-name* の SSL ピア名に一致しない。リモート・エンドにある識別名が、指定されたピア名 (これは汎用の場合もある) と一致していないと、チャンネルを開始することはできない。チャンネル名を判別できない場合は、'????' と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

このエラーは、間違った証明書を送信するようチャンネルのリモート・エンドが構成されていることを示している可能性があります。チャンネルのリモート・エンドの証明書ラベル構成を確認し、必要なすべての CA 証明書がローカル・キー・リポジトリに含まれていることを確認してください。

このリモート・エンドを接続できるようにするには、適宜、チャンネルの SSL ピア名の指定を変更してそれがリモート・エンドにある SSL 証明書内の識別名と一致するようにするか、リモート・エンドに対する正しい証明書を取得する。

複数のさまざまなリモート SSL 証明書の、多くの異なる識別名を SSL ピア名仕様で突き合わせる必要がある場合は、チャンネル認証レコードを使用して、チャンネル定義での SSL ピア名仕様の代わりに、特定の SSL ピア名を許可またはブロックするルールを定義することを検討する。詳しくは、[チャンネル認証レコード](#)を参照。

CSQX637E

csect-name リモート・チャンネル *channel-name* の SSL 証明書がありません。接続 *conn-id*。

重大度

8

説明

(接続 *conn-id* からの) リモート・チャンネルが、SSL ハンドシェイク中に使用する証明書を提供しなかったが、証明書は必須である。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

SSL 証明書がリモート・エンドのキー・リポジトリに接続されているかどうか、その証明書に RACF が "TRUST" のマークを付けているかどうか、その証明書の有効期限が切れていないかどうか、確認してください。あるいは、必要なら、ローカル・チャンネルの定義を変更して **SSLCAUTH** 属性を **OPTIONAL** に設定してください。

SSL 証明書とキー・リポジトリについての詳細は、[セキュリティー](#)を参照してください。

詳しくは、「z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング」資料の「[System SSL 機能戻りコード 403](#)」を参照してください。

CSQX638E

csect-name チャンネル *channel-name* の SSL 通信エラー。接続 *conn-id*。

重大度

8

説明

前のメッセージで報告されているように、チャンネルで予期しない SSL 通信エラーが発生しました。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。リモート接続は *conn-id* である。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。ローカルおよびリモート・コンソールのログで、ネットワーク・エラーの報告がないかを調べる。

詳しくは、「z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング」マニュアルの「[System SSL Function Return Code 406](#)」を参照してください。

CSQX639E

csect-name リモート・チャンネル *channel-name* の暗号仕様がありません。接続 *conn-id*。

重大度

8

説明

(接続 *conn-id* からの) リモート・チャンネル *channel-name* が SSL の暗号仕様を提供しませんでした、仕様は必須です。チャンネル名を判別できない場合は、「????」と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

リモート・チャンネル定義を変更して、SSL 暗号仕様に指定された値がローカル・チャンネルのそれと同じになるようにする。

CSQX640E

csect-name ピア名が無効です。チャンネル *channel-name* 属性=*key-name*

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* の SSL ピア名に、無効か、またはサポートされていない識別名属性キー *key-name* が含まれていた。チャンネル名を判別できない場合は、'????' と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

チャンネルの SSL ピア名を訂正する。

CSQX641E

csect-name リモート・チャンネル *channel-name*、*local=local-cipher*、*remote=remote-cipher*、*connection connection-id* の暗号仕様エラーです。

重大度

8

説明

リモート・チャンネル *channel-name* の CipherSpec でエラーが発生しました (接続 *connection-id* から)。場合によっては、チャンネル名を判別できないため、「????」と表示されることがあります。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

チャンネルの両側の CipherSpec が一致していることを確認してください。

CipherSpec が TLS 1.3 用であり、TLS 1.3 が有効になっていない場合は、キュー・マネージャーの始動プロシージャで QMINI データ・セットの TransportSecurity スタンプに **AllowTLSV13=TRUE** を設定して、TLS 1.3 を有効にします。

別名 CipherSpec に ANY_* 値を使用する場合は、適切な CipherSpec をネゴシエーションできるように、チャンネルの両側で一致する CipherSpec 値を使用するようにしてください。

CSQX642E

csect-name チャンネル *channel-name* の SSL 証明書がありません。

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* は、SSL ハンドシェイク時に使用する証明書を提供しませんでした。リモート・エンドでは証明書が必要です。チャンネル名を判別できない場合は、'????' と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

ローカル・キュー・マネージャー *qmgr-name* の鍵リングに、キュー・マネージャーに関連付けられた SSL 証明書が接続されていることを確認します。証明書ラベルを構成していた場合は、その証明書が存

在するかどうか、その証明書に RACF が "TRUST" のマークを付けているかどうか、その証明書の有効期限が切れていないかどうか、確認してください。

使用する証明書は、CERTLABL 属性のチャンネルで名前を付けられるか、CERTLABL 属性または CERTQSG 属性のキュー・マネージャー (共有チャンネルの場合) で名前を付けられます。これらの属性のいずれにも証明書ラベルが見つからない場合、証明書は「ibmMQqsg-name」(共有チャンネルの場合) または「ibmMQqmgr-name」という名前になるか、鍵リング内のデフォルト証明書が使用されます。

または、必要な場合は、リモート・チャンネル定義の SSLCAUTH 属性が OPTIONAL に設定されるよう、そのリモート・チャンネル属性定義を変更する。

SSL 証明書とキー・リポジトリについての詳細は、[セキュリティ](#)を参照してください。

CSQX643E

csect-name リモート・チャンネル *channel-name* に対するピア名エラー。接続 *conn-id*。

重大度

8

説明

(接続 *conn-id* からの) リモート・チャンネル *channel-name* の SSL ピア名に関係するエラーが発生しました。チャンネル名を判別できない場合は、'????' と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されません。

システム・プログラマーの応答

リモート・コンソール・ログを調べて、ピア名エラーを判別する。

CSQX644E

csect-name リモート・チャンネル *channel-name* のピア名を決定できません。

重大度

4

説明

SSL ハンドシェイク中にリモート・エンドから送信された証明書に関連したピア名が判別できなかった。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

システム・アクション

ローカル・チャンネルが指定されたピア名を持っている場合、それは開始しない。

システム・プログラマーの応答

ローカル・キュー・マネージャー *qmgr-name* 上の鍵リング内の SSL 証明書が有効かどうか、また署名証明書がリモート・エンドにあるキー・リポジトリに接続され、送信された証明書が認証できるようになっているかどうかを確認する。

使用する証明書は、CERTLABL 属性のチャンネルで名前を付けられるか、CERTLABL 属性または CERTQSG 属性のキュー・マネージャー (共有チャンネルの場合) で名前を付けられます。これらの属性のいずれにも証明書ラベルが見つからない場合、証明書は「ibmMQqsg-name」(共有チャンネルの場合) または「ibmMQqmgr-name」という名前になるか、鍵リング内のデフォルト証明書が使用されます。

ローカル・チャンネル定義とリモート・チャンネル定義が正しいかどうかを検査する。

SSL 証明書とキー・リポジトリについての詳細は、[セキュリティ](#)を参照してください。

CSQX645E

csect-name チャンネル *channel-name* に関して証明書 *cert-label* が欠落しています

重大度

4

説明

鍵リング内に SSL/TLS 証明書 *cert-label* またはデフォルトの証明書が見つからないか、証明書が信頼されていない。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

場合によっては、このメッセージは複数回 (影響を受けるチャンネルごとに一度) 現れる場合がある。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

cert-label という名前の SSL/TLS 証明書が鍵リングに含まれ、それが有効であることを確認します。

あるいは、チャンネルで有効な証明書が使用されるよう、証明書ラベルの構成を変更してください。

使用する証明書は、CERTLABL 属性のチャンネルで名前を付けられるか、CERTLABL 属性または CERTQSG 属性のキュー・マネージャー (共有チャンネルの場合) で名前を付けられます。これらの属性のいずれにも証明書ラベルが見つからない場合、証明書は「ibmMQqsg-name」(共有チャンネルの場合) または「ibmMQqmgr-name」という名前になるか、鍵リング内のデフォルト証明書が使用されます。

使用中の鍵リングを確認するには、以下の MQSC コマンドを発行してください。

```
DISPLAY QMGR SSLKEYR
```

使用中の鍵リングに存在する証明書をリストするには、以下の RACF コマンド、または外部セキュリティー・マネージャーの相当するコマンドを発行します。

```
RACDCERT ID(chinit-user-id) LISTRING(key-ring-name)
```

詳しくは、「[z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング](#)」資料の戻りコード「[System SSL Function Return Code 6](#)」および「[System SSL Function Return Code 407](#)」を参照してください。

CSQX646E

csect-name LDAP サーバーへのアクセスがチャンネル *channel-name* でエラー。

重大度

4

説明

チャンネルの CRL の検査中に、LDAP 環境の設定または LDAP ディレクトリー項目の検索でエラーが発生した。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

必ず LDAP サーバーが指定され、正しくセットアップされ、実行中であるようにする。

詳しくは、「[z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング](#)」資料の「[System SSL Function Return Code 11](#)」を参照してください。

CSQX658E

csect-name SSL 証明書の有効期限が切れました。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id*

重大度

4

説明

現在時刻が、SSL 証明書の開始時刻より前か、または終了時刻の後である。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。接続は *conn-id* である。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

証明書の有効期限が切れた場合は、新しい証明書を取得してください。証明書がまだ有効でない場合は、有効になるまで待ってください。

詳しくは、「z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング」マニュアルの「[システム SSL 機能戻りコード 401](#)」を参照してください。

CSQX663E

csect-name SSL 証明書の署名が正しくありません。チャンネル *channel-name* 接続 *conn-id*

重大度

4

説明

接続 *conn-id* を使用してリモート・エンドから送信された SSL 証明書の署名が正しくない。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

リモート・エンドでキー・リポジトリに接続された SSL 証明書を必ず有効にする。

詳しくは、「z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング」資料の「[System SSL 機能戻りコード 413](#)」を参照してください。

CSQX665E

csect-name リモート SSL ソケットが閉じたため、チャンネル *channel-name* が停止しています。接続 *conn-id*。

重大度

4

説明

SSL 通信を使用している、(接続 *conn-id* からの) チャンネルのリモート・エンドがソケットを閉じたか、クローズ通知アラートを送信した。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは停止します。

システム・プログラマーの応答

リモート・エンドのコンソール・ログを調べて、障害の原因を判別する。

詳しくは、「z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング」マニュアルの「[System SSL Function Return Code 420](#)」を参照してください。

CSQX666E

csect-name LDAP サーバーがチャンネル *channel-name* で使用できません。

重大度

4

説明

チャンネルの CRL の検査中、必要な LDAP サーバーが利用不可であった。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

必ず LDAP サーバーを実行中であるようにする。

詳しくは、「z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング」マニュアルの「[System SSL 機能戻りコード 427](#)」を参照してください。

CSQX668I

csect-name TLS V1.2 プロトコルに基づく暗号仕様は使用不可になっています。

重大度

4

説明

TLS V1.2 プロトコルを使用する暗号仕様が有効になっていない。それらの暗号仕様を使用するように構成されたチャンネルを開始すると失敗する。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

TLS V1.2 プロトコルに基づく暗号仕様を使用する必要がない場合、操作は必要ない。

TLS V1.2 プロトコルに基づく暗号仕様を有効化する場合は、キュー・マネージャーを停止し、キュー・マネージャー始動時の QMINI データ・セットに定義されている AllowedCipherSpecs のリストを削除またはコメント化するか、TLS V1.2 プロトコルに基づく暗号仕様を AllowedCipherSpecs のリストに追加する。キュー・マネージャーを再始動する。

CSQX669I

csect-name TLS V1.2 プロトコルに基づく暗号仕様は使用可能になっています。

重大度

4

説明

TLS V1.2 プロトコルに基づく暗号仕様は使用可能になっているので、それらの暗号仕様を使用するようにチャンネルを構成できる。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

TLS V1.2 プロトコルに基づく暗号仕様を使用する必要がない場合は、キュー・マネージャーを停止し、QMINI データ・セットに、TLS V1.2 プロトコルに基づく暗号仕様が含まれていない AllowedCipherSpecs リストを定義する。キュー・マネージャーを再始動する。

CSQX670I

csect-name TLS V1.3 プロトコルに基づく暗号仕様は使用不可になっています。

重大度

4

説明

TLS V1.3 プロトコルを使用する暗号仕様が有効になっていない。それらの暗号仕様を使用するように構成されたチャンネルを開始すると失敗する。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

TLS V1.3 プロトコルに基づく暗号仕様を使用する必要がない場合、操作は必要ない。

TLS V1.3 プロトコルに基づく暗号仕様を有効にする場合は、キュー・マネージャーが z/OS 2.4 以降を実行していることを確認します。そうでない場合は、z/OS のバージョンをアップグレードする必要があります。

キュー・マネージャーが TLS 1.3 をサポートするバージョンの z/OS オペレーティング・システムで既に実行されている場合は、キュー・マネージャーを停止し、QMIMI データ・セットの **TransportSecurity** スタンザの **AllowTLSV13** プロパティを **TRUE** に設定します。デフォルトでは、TLS 1.3 は、IBM MQ 9.2.0 以降にマイグレーションされたキュー・マネージャーでは無効になっており、IBM MQ 9.2.0 以降で実行するために新しく作成されたキュー・マネージャーでは有効になっています。また、QMIMI データ・セットで **AllowedCipher** 仕様リストを定義した場合、TLS 1.3 プロトコルに基づく暗号仕様をリストに追加します。キュー・マネージャーを再始動する。

キュー・マネージャー属性 **SSLFIPS** が **YES** に設定されている場合、TLS 1.3 CipherSpecs はまだ FIPS 認証されていないため、TLS 1.3 暗号仕様は使用できません。**SSLFIPS** を **NO** に設定することを検討する。

キュー・マネージャー属性 **SSLKEYR** に空白値が含まれている場合は、**SSLKEYR** が定義済みの鍵リングを参照していることを確認してください。

CSQX671I

csect-name TLS V1.3 プロトコルに基づく暗号仕様は使用可能になっています。

重大度

4

説明

TLS V1.3 プロトコルに基づく暗号仕様は使用可能になっているので、それらの暗号仕様を使用するようにチャンネルを構成できる。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。ただし、TLS 1.3 が有効になったために無効にされた暗号仕様を使用する必要がある場合は別です。その場合は、非推奨の CipherSpec の注 3 を参照してください。

CSQX673E

csect-name チャンネル *channel-name* で証明書ラベル *cert-label* が使用されていません。リモート接続 *conn-id*

重大度

8

説明

証明書ラベル *cert-label* を使用するよう SSL または TLS チャンネル *channel-name* が構成されている。しかし、ローカル・チャンネルで正しい証明書を使用できるようにするための必要な情報がリモート・ピアから送信されなかった。リモート・ホストは *conn-id*。

このエラーは、ローカル・チャンネル定義に証明書ラベルがあるものの、リモート・ピアでは証明書の選択がサポートされていない場合に発生する。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

リモート・ピアで証明書ラベルの構成がサポートされることを確認する。証明書ラベルの要件について詳しくは、[デジタル証明書ラベルの要件に関する説明](#)を参照。あるいは、証明書ラベルが指定されないようにローカル・チャンネル定義を変更する。

CSQX674E

csect-name チャンネル *channel-name* は脆弱な、または壊れている SSL CipherSpec *sslciph* を指定しました

重大度

8

説明

チャンネルは、機密保護の点で潜在的な問題のある CipherSpec を使用するように構成されているので、開始できない。

システム・アクション

チャンネルは開始できない。

システム・プログラマーの応答

SSLCIPH チャンネル属性に指定されている CipherSpec を確認し、よりセキュアな CipherSpec を使用することを検討してください。

CipherSpec が TLS 1.3 用であり、TLS 1.3 が有効になっていない場合は、キュー・マネージャーの始動プロシージャで QMINI データ・セットの TransportSecurity スタンザに **AllowTLSV13=TRUE** を設定して、TLS 1.3 を有効にします。

脆弱な CipherSpec または非推奨の CipherSpec を再び使用できるようにする場合は、[非推奨の CipherSpec の有効化 \(z/OS\)](#) を参照してください。



重要: この方法で CipherSpecs を再有効化すると、システムを潜在的なセキュリティーの問題にさらしたままの状態にすることになります。SSLv3 ではなく TLS プロトコルのみを使用する CipherSpecs を使用してください。

CSQX675E

csect-name SSL 鍵リポジトリ・リフレッシュを完了できません。

重大度

4

説明

エラーのため、キャッシュに入れられた SSL キー・リポジトリのリフレッシュを完了できなかった。

システム・アクション

リフレッシュが不完全になる。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログに、リフレッシュを開始できなかった理由を示すメッセージがないか確認する。

CSQX676E

csect-name SSL 鍵リポジトリ・リフレッシュが完了しましたが、一部のチャンネルが再始動していません。

重大度

4

説明

キャッシュに入れられた SSL キー・リポジトリのリフレッシュが完了したため、最新の値と証明書がすべての SSL チャンネルで使用されるようになる。しかし、リフレッシュが開始されたときに実行されていた一部のアウトバウンド SSL チャンネルを、リフレッシュの完了後に再始動できなかった。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログで、再始動しなかったチャンネルを示すメッセージがないかを確認する。

CSQX677E

csect-name SSL キー・リポジトリの最新表示を終了します。チャンネル *channel-name*

重大度

4

説明

キャッシュに入れられた SSL キー・リポジトリがリフレッシュされており、それには、SSL 通信を使用するすべてのチャンネルの停止も含まれる。1つ以上のチャンネルが、停止するまでに時間がかかりすぎている。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

システム・アクション

リフレッシュは終了する。SSL を使用する一部のチャンネルは停止されることになる。

システム・プログラマーの応答

まだ停止されていないすべての SSL チャンネルを停止して、[REFRESH SECURITY TYPE\(SSL\)](#) コマンドを再発行する。

CSQX678E

csect-name チャンネル *channel-name* が開始していません。SSL キー・リポジトリの最新表示中です。

重大度

4

説明

キャッシュに入れられた SSL キー・リポジトリが現在リフレッシュ中であるため、SSL 通信を使用するチャンネルを開始できなかった。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

リフレッシュが完了して、チャンネルが再開するまで待機する。

CSQX679E

CSQX679E *csect-name* チャンネル *channel-name* が開始していません。リモート SSL キー・リポジトリの最新表示中です。

重大度

4

説明

キャッシュに入れられた SSL キー・リポジトリが現在リモート・エンドでリフレッシュ中であるため、SSL 通信を使用するチャンネルを開始できなかった。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

リフレッシュが完了して、チャンネルが再開するまで待機する。

CSQX683E

csect-name SSL キー・リポジトリには証明書がありません。

重大度

4

説明

SSL キー・リポジトリ (つまり、外部セキュリティー・マネージャーの鍵リング) に有効な証明書が含まれていない。

システム・アクション

SSL 通信を使用するチャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー証明書および必要なすべての認証局 (CA) 証明書をキー・リポジトリに追加する。既存の証明書が有効で、有効期限が切れておらず、信頼できるものとしてマークされているようにする。

詳しくは、「*z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング*」資料の「[System SSL 機能戻りコード 7](#)」を参照してください。

CSQX684E

csect-name SSL キー・リポジトリには CA 証明書がありません。

重大度

4

説明

SSL キー・リポジトリ (つまり、外部セキュリティー・マネージャーの鍵リング) に有効な認証局 (CA) 証明書が含まれていない。SSL 通信を使用するチャンネルは、クライアント認証を実行するために、少なくとも 1 つの CA または自己署名証明書を必要とする。

システム・アクション

SSL 通信を使用するチャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

ユーザー証明書および必要なすべての認証局 (CA) 証明書をキー・リポジトリに追加する。既存の証明書が有効で、有効期限が切れておらず、信頼できるものとしてマークされているようにする。

詳しくは、「*z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング*」資料の「[System SSL Function Return Code 109](#)」を参照してください。

CSQX685E

csect-name チャンネル *channel-name* の自己署名証明書がありません。接続 *conn-id*。

重大度

4

説明

自己署名証明書が SSL キー・リポジトリにないため、検証できない。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。リモート接続は *conn-id* である。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

キー・リポジトリに自己署名証明書を追加する。

注: 鍵リポジトリに対する変更はすぐに有効になりません。z/OS で証明書または鍵リポジトリに対する変更が有効になる場合を参照してください。既に自己署名証明書をキー・リポジトリに追加していた場合は、[REFRESH SECURITY TYPE\(SSL\)](#) コマンドを実行するか、CHINIT アドレス・スペースをリサイクルする。

詳しくは、「z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング」資料の「[System SSL Function Return Code 417](#)」を参照してください。

CSQX686E

csect-name チャネル *channel-name* で SSL 秘密鍵エラー。

重大度

4

説明

使用されている SSL 証明書に関連する秘密鍵がないか、または秘密鍵が ICSF に保管されていて ICSF サービスが利用不可であるために鍵を使用できない。チャネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。

使用する証明書は、CERTLABL 属性のチャネルで名前を付けられるか、CERTLABL 属性または CERTQSGI 属性のキュー・マネージャー (共有チャネルの場合) で名前を付けられます。これらの属性のいずれにも証明書ラベルが見つからない場合、証明書は「ibmMQqsg-name」(共有チャネルの場合) または「ibmMQqmgr-name」という名前になるか、鍵リング内のデフォルト証明書が使用されます。

システム・アクション

チャネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

使用されている SSL 証明書に関連付けられている秘密鍵が使用可能であることを確認する。秘密鍵が ICSF に保管されている場合は、ICSF 開始済みタスクが実行中であるようにする。鍵にアクセスするための適切なアクセス権限を CHINIT に実際に付与する方法については、[z/OS での正しいアクセス権限をチャネル・イニシエーターに付与する](#) を参照してください (ICSF の場合)。

詳しくは、「z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング」マニュアルの「[System SSL Function Return Code 428](#)」を参照してください。

CSQX687E

csect-name チャネル *channel-name* の SSL 証明書が CA によって取り消されました。接続 *conn-id*。

重大度

4

説明

SSL 証明書が認証局 (CA) によって取り消された。チャネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。リモート接続は *conn-id* である。

システム・アクション

チャネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

新しい証明書を取得して、キー・リポジトリに追加する。

詳しくは、「z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング」マニュアルの「[System SSL Function Return Code 431](#)」を参照してください。

CSQX688E

csect-name チャネル *channel-name* の SSL CA 証明書がありません。接続 *conn-id*。

重大度

4

説明

SSL キー・リポジトリに、認証局 (CA) の証明書が入っていない。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。リモート接続は *conn-id* である。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

認証局 (CA) の証明書を取得して、キー・リポジトリに追加する。

詳しくは、「[z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング](#)」資料の「[System SSL 機能戻りコード 435](#)」を参照してください。

CSQX689E

csect-name チャンネル *channel-name* の CRL を処理できません。接続 *conn-id*。

重大度

4

説明

証明書の失効リスト (CRL) が無効で、処理できない。チャンネルは *channel-name* であり、場合によってはその名前を判別できないため、「????」と表示されます。リモート接続は *conn-id* である。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

認証局に連絡をとって、取り替える CRL を取得する。

詳しくは、「[z/OS Cryptographic Services System SSL プログラミング](#)」資料の「[System SSL Function Return Code 436](#)」を参照してください。

CSQX690I

csect-name SSLv3 プロトコルに基づく暗号仕様は使用不可になっています。

重大度

4

説明

SSLv3 プロトコルに基づく暗号仕様は使用不可になっているので、それらの暗号仕様を使用するように構成されたチャンネルを開始すると失敗する。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

SSLv3 プロトコルに基づく暗号仕様を使用する必要がない場合、操作は必要ない。

脆弱な CipherSpec または非推奨の CipherSpec を再び使用できるようにする場合は、[非推奨の CipherSpec の有効化 \(z/OS\)](#) を参照してください。

デフォルトでは、TLS V1.3 プロトコルを有効にすると、SSLv3 プロトコルに基づく暗号仕様は無効になります。SSLv3 に基づく暗号仕様を使用することが確かに必要な場合は、TLS V1.3 プロトコルを無効にすることを検討してください。より強力な TLS V1.3 プロトコルを有効にするべきですが、メッセージ [CSQX671I](#) を参照してください。



重要: この方法で CipherSpecs を再有効化すると、システムを潜在的なセキュリティーの問題にさらしたままの状態にすることになります。SSLv3 プロトコルではなく、TLS V1.3 または V1.2 プロトコルのみを使用する CipherSpec を使用する必要があります。

CSQX691I

csect-name SSLv3 プロトコルに基づく暗号仕様は使用可能になっています。

重大度

4

説明

SSLv3 プロトコルに基づく暗号仕様は使用可能になっているので、それらの暗号仕様を使用するようにチャンネルを構成できる。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

SSLv3 プロトコルに基づく暗号仕様を使用する必要がある場合、操作は必要ない。

SSLv3 プロトコルに基づく暗号仕様を使用する必要がある場合、SSLv3 の使用を可能にするオーバーライドを削除する必要がある。

SSLv3 を使用可能にする方法については、メッセージ [CSQX690I](#) を参照。

CSQX692I

csect-name 脆弱な、または壊れている SSL 暗号仕様は使用不可になっています。

重大度

4

説明

脆弱な、または壊れていることが知られている暗号仕様は使用可能にならない。これにはすべての SSLv3 ベースの暗号仕様が含まれる。それらの暗号仕様を使用するように構成されたチャンネルを開始すると失敗する。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

壊れている、または脆弱な暗号仕様を使用する必要がある場合、操作は必要ない。

脆弱な CipherSpec または非推奨の CipherSpec を再び使用できるようにする場合は、[非推奨の CipherSpec の有効化 \(z/OS\)](#) を参照してください。



重要: この方法で CipherSpecs を再有効化すると、システムを潜在的なセキュリティーの問題にさらしたままの状態にすることになります。SSLv3 プロトコルではなく、TLS V1.3 または V1.2 プロトコルのみを使用する CipherSpec を使用する必要があります。

CSQX693I

csect-name 脆弱な、または壊れている SSL 暗号仕様は使用可能になっています。

重大度

4

説明

脆弱な、または壊れていることが知られている暗号仕様は使用可能になっているので、それらの暗号仕様を使用するようにチャンネルを構成できる。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

脆弱な、または壊れている暗号仕様を使用する必要がある場合、操作は必要ない。

脆弱な、または壊れている暗号仕様を使用する必要がある場合、脆弱な、または壊れている暗号仕様の使用を可能にするオーバーライドを削除する必要がある。

脆弱な、または壊れている暗号仕様を使用可能にする方法については、メッセージ [CSQX692I](#) を参照。

CSQX694I

`csect-name` TLS V1.0 プロトコルに基づく暗号仕様は使用不可になっています。

重大度

4

説明

TLS V1.0 プロトコルを使用する暗号仕様が有効になっていない。それらの暗号仕様を使用するように構成されたチャネルを開始すると失敗する。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

TLS V1.0 プロトコルに基づく暗号仕様を使用する必要がある場合、操作は必要ない。

脆弱な CipherSpec または非推奨の CipherSpec を再び使用できるようにする場合は、[非推奨の CipherSpec の有効化 \(z/OS\)](#) を参照してください。

デフォルトでは、プロトコル TLS V1.3 を有効にすると、脆弱な暗号仕様または非推奨の暗号仕様は無効になります。SSLv3 に基づく暗号仕様を使用することが確かに必要な場合は、TLS V1.3 プロトコルを無効にすることを検討してください。より強力な TLS V1.3 プロトコルを有効にするべきですが、メッセージ [CSQX671I](#) を参照してください。



重要: この方法で CipherSpecs を再有効化すると、システムを潜在的なセキュリティの問題にさらしたままの状態にすることになります。SSLv3 プロトコルではなく、TLS V1.3 または TLS V1.2 プロトコルのみを使用する CipherSpec を使用する必要があります。

CSQX695I

`csect-name` TLS V1.0 プロトコルに基づく暗号仕様は使用可能になっています。

重大度

4

説明

TLS V1.0 プロトコルに基づく暗号仕様は使用可能になっているので、それらの暗号仕様を使用するようにチャネルを構成できる。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

脆弱な、または壊れている暗号仕様を使用する必要がある場合、操作は必要ない。

TLS V1.0 プロトコルに基づく暗号仕様を使用する必要がある場合、TLS v1.0 の使用を可能にするオーバーライドを削除する必要がある。

TLS V1.0 に基づく暗号仕様の有効化方法については、メッセージ [CSQX694I](#) を参照してください。

CSQX697I

`csect-name` リスナーは、System SSL のデフォルトの暗号仕様だけでネゴシエーションを行います。

重大度

4

説明

リスナーは、**System SSL** のデフォルトの暗号仕様リストにデフォルトで表示される暗号仕様でのみネゴシエーションを行います。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

System SSL のデフォルト暗号仕様リストに記載されている暗号仕様のみを使用してリスナーとネゴシエーションするには、名前が **GSKDCIPS** であるダミーのデータ定義 (DD) ステートメントをチャンネル・イニシエーター JCL に追加することで、この動作を有効にすることができます。[非推奨の CipherSpec の有効化 \(z/OS\)](#) を参照してください。

CSQX705E

csect-name リモート・チャンネル出口のロード・エラーです。

重大度

8

説明

リモート・ホストで指定されたチャンネル出口をロードできませんでした。

システム・アクション

チャンネルは異常終了します。

システム・プログラマーの応答

リモート・ホストのエラー・ログを調べ、ユーザー出口がチャンネル定義に正しく指定されていることを確認してください。

CSQX772E

csect-name mqapi-call が失敗しました。MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

示された IBM MQ *mqapi-call* が、指定された理由コード *mqrc*、(*mqrc-text*) のために失敗した。

システム・アクション

通常、エラーが発生したコンポーネントは終了する。コンポーネントがメッセージ・チャンネル・エージェントの場合、関連したチャンネルが停止する。

システム・プログラマーの応答

mqrc の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください (*mqrc-text* で示されるのはテキスト形式での MQRC)。

CSQX774E

csect-name CHLAUTH キャッシュのロードに失敗し、インバウンド・チャンネルがすべてブロックされました

重大度

8

説明

CHLAUTH キャッシュのロードに失敗しました。問題が修正されるまで、すべてのインバウンド・チャンネルの開始がブロックされています。問題の原因については、以前のメッセージを参照してください。

システム・アクション

すべてのインバウンド・チャンネルの開始がブロックされます。

システム・プログラマーの応答

問題の原因については、前の関連メッセージを参照してください。

CSQX775I

ipaddress からの *csect-name* チャンネル *channel-name* が、ユーザー ID によってブロックされている可能性があります。詳細: *detail*

重大度

4

説明

アドレス *ipaddress* からのインバウンド・チャンネル *channel-name* は、そのチャンネルのアクティブな値がブロックする必要のあるユーザー ID にマッピングされていたため、ブロックされている。チャンネル認証レコードが警告モードであるため、アクセスが許可される。

チャンネルのアクティブな値は *detail* である。

システム・アクション

チャンネルは開始される。

システム・プログラマーの応答

チャンネル認証レコードを調べて、正しい設定が構成されていることを確認する。チャンネル認証レコードが警告モードでなかった場合は、チャンネルがブロックされる。**ALTER QMGR CHLAUTH** スイッチを使用して、チャンネル認証レコードを使用するかどうかを制御する。**DISPLAY CHLAUTH** コマンドを使用して、チャンネル認証レコードを照会することができる。

CSQX776E

ipaddress からの *csect-name* チャンネル *channel-name* が、ユーザー ID によってブロックされました。詳細: *detail*

重大度

8

説明

アドレス *ipaddress* からのインバウンド・チャンネル *channel-name* は、そのチャンネルのアクティブな値がブロックする必要のあるユーザー ID にマッピングされていたため、ブロックされた。

チャンネルのアクティブな値は *detail* である。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

チャンネル認証レコードを調べて、正しい設定が構成されていることを確認する。**ALTER QMGR CHLAUTH** スイッチを使用して、チャンネル認証レコードを使用するかどうかを制御する。**DISPLAY CHLAUTH** コマンドを使用して、チャンネル認証レコードを照会することができる。

CSQX777E

ipaddress からの *csect-name* チャンネル *channel-name* が **USERSRC(NOACCESS)** によってブロックされました。詳細: *detail*

重大度

8

説明

インバウンド・チャンネル *channel-name* は、そのチャンネルのアクティブな値が **USERSRC(NOACCESS)** で構成されたチャンネル認証レコードと一致したため、アドレス *ipaddress* からブロックされた。

チャンネルのアクティブな値は *detail* である。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

チャンネル認証レコードを調べて、正しい設定が構成されていることを確認する。

ALTER QMGR CHLAUTH スイッチを使用して、チャンネル認証レコードを使用するかどうかを制御する。
DISPLAY CHLAUTH を使用して、チャンネル認証レコードを照会することができる。

IP アドレスの隣のメッセージにホスト名が表示されず、ホスト名を使用する CHLAUTH ルールが実施されている場合、ドメイン・ネーム・サーバーが IP アドレスをホスト名に正しく解決することができることと、キュー・マネージャーが REVDNS(ENABLED) を指定して構成されていることを確認する。

CSQX782E

csect-name 一致する規則 *ip-address-pattern* により、アドレス *ipaddress* からの接続がブロックされました

重大度

8

説明

このアドレスからのインバウンド接続は、チャンネル認証テーブルのブロック対象アドレス *ip-address-pattern* のいずれかと一致したためブロックされた。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

チャンネル認証レコードを調べて、正しい設定が構成されていることを確認する。 **ALTER QMGR CHLAUTH** スイッチを使用して、チャンネル認証レコードを使用するかどうかを制御する。 **DISPLAY CHLAUTH** を使用して、チャンネル認証レコードを照会することができる。

CSQX785E

csect-name チャンネル *channel-name* は送達不能キューを使用しないように構成されています

重大度

8

説明

チャンネル *channel-name* が宛先にメッセージを送達できなかった。メッセージにレポート・オプション MQRO_DISCARD_MSG が指定されていないうえに、チャンネルは属性設定 USEDLO(NO) によって送達不能キューを使用しないように構成されていた。

システム・アクション

NPMSPPEED 属性設定に従って、チャンネルはメッセージを破棄するか、終了する。

システム・プログラマーの応答

このエラーの原因を調べ、チャンネルがメッセージを送達できない問題を修正するか、チャンネルで送達不能キューを使用できるようにする。

CSQX786I

csect-name 一致する規則 *ip-address-pattern* により、アドレス *ipaddress* からの接続がブロックされました。

重大度

4

説明

アドレス *ipaddress* からのインバウンド接続は、チャンネル認証テーブルのブロック対象アドレス *ip-address-pattern* のいずれかと一致したためブロックされた。チャンネル認証テーブルが警告モードであるため、アクセスが許可される。

システム・アクション

チャンネルは開始される。

システム・プログラマーの応答

チャンネル認証レコードを調べて、正しい設定が構成されていることを確認する。チャンネル認証レコードが警告モードでなかった場合は、チャンネルがブロックされる。**ALTER QMGR CHLAUTH** スイッチを使用して、チャンネル認証レコードを使用するかどうかを制御する。**DISPLAY CHLAUTH** コマンドを使用して、チャンネル認証レコードを照会することができる。

CSQX787I

ipaddress からの *csect-name* チャンネル *channel-name* が USERSRC(NOACCESS) によってブロックされています。詳細: *detail*

重大度

4

説明

インバウンド・チャンネル *channel-name* は、そのチャンネルのアクティブな値が USERSRC(NOACCESS) で構成されたチャンネル認証レコードと一致したため、アドレス *ipaddress* からブロックされている。これは警告モードのチャンネル認証レコードによってブロックされていなかった。

チャンネルのアクティブな値は *detail* である。

システム・アクション

チャンネルは開始される。

システム・プログラマーの応答

チャンネル認証レコードを調べて、正しい設定が構成されていることを確認する。チャンネル認証レコードが警告モードでなかった場合は、チャンネルがブロックされる。**ALTER QMGR CHLAUTH** スイッチを使用して、チャンネル認証レコードを使用するかどうかを制御する。**DISPLAY CHLAUTH** コマンドを使用して、チャンネル認証レコードを照会することができる。

CSQX788I

csect-name 機能 '*func*' を使用したアドレス *address* の DNS ルックアップに *n* 秒かかりました

重大度

4

説明

アドレス *address* を '*func*' 機能の呼び出しを使用して解決しようとしたとき、完了までに *n* 秒かかりました。これは、DNS 構成の問題である可能性があります。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

ローカル・システムで DNS が正しく構成されていることを確認してください。

アドレスが IP アドレスである場合には、遅い操作は DNS リバース・ルックアップです。DNS 構成の中には、DNS リバース・ルックアップに対応していないものもあり、有効な DNS リバース・エントリがない IP アドレスもあります。

問題が解決しない場合は、DNS の問題が解決されるまで DNS リバース・ルックアップを無効にすることを考慮してください。

CSQX790I

csect-name ユーザー *user-id* の接続認証が失敗しました。理由: CHCKCLNT(*chckclnt-value*) である CHLAUTH。詳細: *detail*

重大度

4

説明

CHCKCLNT(*chckclnt-value*) を持つチャンネル認証レコードとインバウンド接続とが一致したため、ユーザー ID *user-id* およびそのパスワードが検査された。

チャンネルのアクティブな値は *detail* である。DISPLAY CHLAUTH コマンドの MATCH(RUNCHECK) モードを使用して、関連した CHLAUTH レコードを識別することができる。

ユーザー ID およびパスワードの確認の理由を明らかにするため、前のエラーに付随してこのメッセージが出される。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

詳しくは、前のエラーを参照してください。

クライアント・アプリケーションによってパスワードが指定されていること、およびそれがユーザー ID の正しいパスワードであることを確認する。

あるいは、認証確認を回避するために、CHLAUTH レコードの CHCKCLNT 属性を変更することもできる。ただし、非認証リモート・アクセスを許可することは推奨されない。

CSQX791E

csect-name アドレス *ip-address* からのクライアント・アプリケーション *appl-name* はユーザー ID とパスワードを提供しませんでした。詳細: *detail*

重大度

8

説明

ホスト *ip-address* で実行されているクライアント・アプリケーション *appl-name* は、ユーザー ID とパスワードを提供しなかった。接続のチャンネル認証 (CHLAUTH) レコードはユーザー ID とパスワードを必要とするが、提供されなかった。

チャンネルのアクティブな値は *detail* である。DISPLAY CHLAUTH コマンドの MATCH(RUNCHECK) モードを使用して、関連した CHLAUTH レコードを識別することができる。

システム・アクション

チャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

アプリケーションが有効なユーザー ID とパスワードを提供するようにする。あるいはキュー・マネージャーの接続権限 (CONNAUTH) 構成を OPTIONAL に変更して、ユーザー ID とパスワードを提供しないクライアント・アプリケーションにも接続を許可する。

CSQX793E

csect-name アドレス *ip-address* からのクライアント・アプリケーション *appl-name* のユーザー ID とパスワードを検査できません。詳細: *detail*

重大度

8

説明

ホスト *ip-address* 上で実行されているクライアント・アプリケーション *appl-name* のユーザー ID とパスワードを検査できない。接続のチャネル認証 (CHLAUTH) レコードは認証確認を必要とするが、キュー・マネージャーはクライアントの接続認証を使用するよう構成されていない。

チャネルのアクティブな値は *detail* である。DISPLAY CHLAUTH コマンドの MATCH(RUNCHECK) モードを使用して、関連した CHLAUTH レコードを識別することができる。

システム・アクション

チャネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

クライアント認証を必要としないように CHLAUTH 構成を変更するか、キュー・マネージャー接続権限 (CONNAUTH) 構成を変更してクライアント認証確認を有効にする。

CSQX797E

csect-name チャネル *channel-name* でメッセージを送信できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

チャネル *channel-name* での送信を完了できず、メッセージを送達不能キューにリダイレクトすることもできませんでした。

システム・アクション

チャネルは停止します。

システム・プログラマーの応答

API 完了コードと理由コードを参照して *mqcc* および *mqrc* について確認し、(*mqrc-text* で示されるのはテキスト形式での MQRC) 送信が失敗した原因を判別する。

前に出されたメッセージを参照して、送達不能キューが使用できない理由を判別してください。

CSQX830I

csect-name チャネル・イニシエーターがアクティブです。

重大度

0

説明

このメッセージは、チャネル・イニシエーターが活動状態の場合に、DISPLAY CHINIT コマンドに回答して出される。

CSQX831I

csect-name nn アダプター・サブタスクが開始され、*nn* が要求されました。

重大度

0

説明

このメッセージは DISPLAY CHINIT コマンドに回答して出され、アダプター・サブタスクについて、現在活動状態にある数と、CHIADAPS キュー・マネージャー属性で要求されている数を表示する。これらの数が異なる場合、アダプター・サブタスクの中には、障害が発生してから再始動されていないものがあり、これによって処理能力が低下している可能性がある。

CSQX832I

csect-name nn ディスパッチャーが開始され、*nn* が要求されました。

重大度

0

説明

このメッセージは DISPLAY CHINIT コマンドに応答して出され、ディスパッチャーについて、現在活動状態にある数と、CHIDISPS キュー・マネージャー属性で要求されている数を表示する。これらの数が異なると、ディスパッチャーに障害が発生し、再始動されない場合がある。現行の TCP/IP および LU 6.2 チャンネルの許容数はそれに応じて削減され、場合によってはその他の処理能力も削減される。

CSQX833I

csect-name nn SSL サーバー・サブタスクを開始。nn が要求されました。

重大度

0

説明

このメッセージは DISPLAY CHINIT コマンドに응答して出され、SSL サーバー・サブタスクについて、現在活動状態にある数と、SSLTASKS キュー・マネージャー属性で要求されている数を表示する。これらの数が異なる場合、SSL サーバー・サブタスクの中には、障害が発生してから再始動されていないものがあり、これによって処理能力が低下している可能性がある。

CSQX836I

csect-name nn 最大チャンネル数 - TCP/IP nn, LU 6.2 nn

重大度

0

説明

このメッセージは、DISPLAY CHINIT コマンドに응答して出される。このメッセージは、許容されている各タイプのチャンネルの最大数を示す。

CSQX840I

csect-name nn チャンネルが現行。最大 nn

重大度

0

説明

このメッセージは、DISPLAY CHINIT コマンドに응答して出される。チャンネルの現行の数と、MAXCHL キュー・マネージャー属性で要求された、許可される合計数が表示される。

CSQX841I

csect-name nn チャンネル接続がアクティブ。最大 nn, nn 個を含んで休止となりました。

重大度

0

説明

このメッセージは、DISPLAY CHINIT コマンドに응答して出される。現行のチャンネルについて、活動状態にある(メッセージを送信している)数と、ACTCHL キュー・マネージャー属性で要求された場合に活動状態になることが許可される合計数が表示される。メッセージの書き込み再試行を待機している休止中の活動チャンネルの数も示す。

CSQX842I

csect-name nn チャンネルが開始中、nn 個停止、nn 個再試行

重大度

0

説明

このメッセージは、DISPLAY CHINIT コマンドに回答して出される。現行のチャンネルについて、以下の数を示す。

- 活動チャンネルの数が限界に達したために、活動状態になるのを待機している数
- 停止中であり、手動による介入が必要な数
- 一時エラーの後に再接続が試行されている数

CSQX843I

csect-name TCP/IP リスナー *INDISP=disposition* がポート *port* アドレス *ip-address* で再試行中です。

重大度

0

説明

このメッセージは、エラーの後に再始動しようとしている各 TCP/IP リスナーに対する DISPLAY CHINIT コマンドへの回答として出される。チャンネル・イニシエーターは、LSTRTMR キュー・マネージャー属性で指定した間隔でリスナーを再始動しようとする。

port と *ip-address* は、これが listen するポートと IP アドレスの組み合わせを示す。*ip-address* が '*' である場合は、すべての使用可能 IP アドレスで listen する。*disposition* は、リスナーの処理する着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

CSQX844I

csect-name LU 6.2 リスナー *INDISP=disposition* が LU 名 *name* で再試行しています。

重大度

0

説明

このメッセージは、エラーの後に再始動しようとしている各 LU 6.2 リスナーに対する DISPLAY CHINIT コマンドへの回答として出される。チャンネル・イニシエーターは、LSTRTMR キュー・マネージャー属性で指定した間隔でリスナーを再始動しようとする。

disposition は、リスナーの処理する着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

CSQX845I

csect-name TCP/IP システム名は *name* です。

重大度

0

説明

このメッセージは、DISPLAY CHINIT コマンドへの回答として出され、TCPNAME キュー・マネージャー属性に指定された使用中の TCP/IP システム名が表示される。

CSQX846I

csect-name TCP/IP listener *INDISP=disposition* started, for port *port* address *ip-address*

重大度

0

説明

このメッセージは、活動状態にある各 TCP/IP リスナーに対する、DISPLAY CHINIT コマンドへの応答として出される。

port と *ip-address* は、これが listen するポートと IP アドレスの組み合わせを示す。*ip-address* が '*' である場合は、すべての使用可能 IP アドレスで listen する。*disposition* は、リスナーの処理する着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

CSQX847I

csect-name LU 6.2 リスナー *INDISP=disposition* が LU 名 *name* で開始しました。

重大度

0

説明

このメッセージは、活動状態にある各 LU 6.2 リスナーに対する DISPLAY CHINIT コマンドへの応答として出される。

disposition は、リスナーの処理する着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

CSQX848I

csect-name TCP/IP listener *INDISP=disposition* not started

重大度

0

説明

このメッセージは、活動状態にない各 TCP/IP リスナーに対する DISPLAY CHINIT コマンドへの応答として出される。

disposition は、リスナーの処理する着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

システム・プログラマーの応答

リスナーが開始されていたときに故意に停止されたのではない場合は、これは、通信システムにエラーがあったことが原因である可能性がある。チャンネル・イニシエーターは、LSTRTMR キュー・マネージャー属性で指定した間隔でリスナーを再始動しようとする。

CSQX849I

csect-name LU 6.2 listener *INDISP=disposition* not started

重大度

0

説明

このメッセージは、活動状態にない各 LU 6.2 リスナーに対する DISPLAY CHINIT コマンドへの応答として出される。

disposition は、リスナーの処理する着信要求のタイプを示す。

QMGR

ターゲット・キュー・マネージャーに送信された要求

GROUP

キュー共有グループに送信された要求

システム・プログラマーの応答

リスナーが開始されていたときに故意に停止されたのではない場合は、これは、通信システムにエラーがあったことが原因である可能性がある。チャンネル・イニシエーターは、LSTRTMR キュー・マネージャー属性で指定した間隔でリスナーを再始動しようとする。

CSQX871I

csect-name クラスターのメンテナンスを実行して *num-mins* 分経過しました。フェーズ *maintenance-phase* では現在までに *num-records* レコード処理しました

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは、メンテナンス・サイクルを定期的に行い、メンバーになっているクラスターに関する状態をリフレッシュおよび除去する。このメッセージは、処理が行われている最中であることを示す。

システム・アクション

大きなクラスターの場合、このメンテナンスの処理にかなりの時間がかかる場合がある。そのような状況では、メンテナンスが完了するまでこのメッセージが定期的に繰り返され、メッセージ [CSQX872I](#) が完了時に出力される。

CSQX872I

csect-name クラスター・メンテナンスが *num-mins* 分経過して完了し、*num-records* レコード処理しました

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは、メンテナンス・サイクルを定期的に行い、メンバーになっているクラスターに関する状態をリフレッシュおよび除去する。このメッセージは、メッセージ [CSQX871I](#) の 1 つ以上のインスタンスに続き、サイクルが完了したことを示す。

システム・アクション

なし

CSQX875I

csect-name クラスター *cluster-name* に対して REFRESH CLUSTER 処理が開始されました。

重大度

0

説明

[REFRESH CLUSTER](#) コマンドがこのキュー・マネージャーに対して発行されている。

フェーズ 1 で、これはすべてのローカルにキャッシュに入れられたクラスターの情報を破棄し、必要な場合にはクラスターの他のメンバーからの新規情報を要求する。フェーズ 2 では、受け取った情報が処理されます。大規模なクラスター構成の場合、このプロセスはかなりの時間がかかる可能性がある。特にフル・リポジトリ・キュー・マネージャーではそのようになる。この時間中に、クラスター・リソースへのアクセスを試行するアプリケーションは、クラスター・リソースの解決に失敗することがある。さらに、このキュー・マネージャーに対して行われたクラスター構成変更は、リフレッシュ・プロセスが完了するまで処理されない可能性がある。

システム・アクション

両方のフェーズが完了するまで、このキュー・マネージャー上のすべてのクラスター関連作業を延期する。

メッセージ [CSQX442I](#) または [CSQX404I](#) は、フェーズ 1 の終了時に発行される。

フェーズ 2 の完了は、SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE が一貫して空の状態に達したときに判別できる。

CSQX876I

csect-name クラスター・キャッシュ圧縮が開始されました。

重大度

0

説明

定期的なクラスター管理でそのローカル・キャッシュが圧縮される。圧縮は、CLUSTER REFRESH の実行などの特定の操作にかなりの時間がかかる可能性がある。圧縮タスク中は、クラスター管理コマンドは処理されない。

圧縮タスクが完了すると、メッセージ [CSQX877I](#) が発行される。

CSQX877I

csect-name クラスター・キャッシュ圧縮が完了しました。

重大度

0

説明

メッセージ [CSQX876I](#) で示されたクラスター・キャッシュ圧縮アクティビティが完了した。

CSQX878I

csect-name リポジトリ・コマンド・エラー。コマンド *command*、クラスター・オブジェクト *object-name*、送信側 *sender-id*、理由 *reason*

重大度

8

説明

内部クラスター・リポジトリ・コマンドが正常に完了しなかった。前に出されたログ・メッセージに問題の詳細が記載されている。コマンドの正常な処理に失敗すると、クラスターが不整合状態になる可能性がある。

システム・アクション

処理を続行

システム・プログラマーの応答

問題を解決できない場合は、『問題判別』セクションにリストされている項目を収集して IBM® サポートに連絡する。

reason は、IBM サポート専用であるため、文書化されていません。

CSQX879E

csect-name キュー・マネージャー *qmgr-name* からのクラスター・トピック *topic-name* が矛盾しています。

重大度

8

説明

クラスター化されたトピック *topic-name* で矛盾が検出された。

2つのクラスター・トピックは、以下のいずれかの条件が当てはまる場合に矛盾する。

1. トピック・ストリングが同じで、トピック名が異なる
2. トピック・ストリングが同じ、またはトピック・ツリー内で一方が他方の祖先となっているが、クラスター名が異なる
3. トピック・ストリングが同じ、またはトピック・ツリー内で一方が他方の祖先となっているが、クラスター経路属性の値が互いに両立しない

システム・アクション

topic-name で識別されるクラスター・トピックの CLSTATE 属性が INVALID に設定され、トピックはもはやキュー・マネージャーで使用されなくなる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーに表示されるクラスター・トピックを確認して、エラー状態の定義を変更または削除することにより、矛盾をすべて訂正する。トピック定義を更新した後、同じクラスター内のすべてのキュー・マネージャーにおいて、すべてのクラスター・トピックの CLSTATE が ACTIVE であることを確認する。

V 9.3.3

CSQX888E

定義の不一致のため、クラスター *cluster-name* (QMID *qmid*) 内の *csect-name* クラスター・オブジェクト *object-name* の有効期限が切れます。

重大度

8

説明

クラスター *cluster-name* (QMID *qmid*) 内で共有されているオブジェクト *object-name* は、少なくとも 30 日間更新されていませんが、代替インスタンスはクラスター内でアクティブなままです。

これは、多くの場合、REFRESH CLUSTER が発行されていないクラスター・キュー・マネージャーのバックアップからのリカバリーなどの管理エラーを示しています。

アクションが実行されない場合、代替定義は、有効期限が切れる前に現行定義の代わりに受け入れられます。

システム・アクション

なし

システム・プログラマーの応答

管理手順を検討して、この QMID を持つキュー・マネージャーの単一インスタンスのみが、常にクラスター内でアクティブになるようにしてください。

このオブジェクトの「正しい」ホストのみがアクティブになっている場合は、オプションでそのキュー・マネージャーに対して REFRESH CLUSTER を発行して、その定義がこの時点以降使用されていることを確認し、それ以上のエラー・メッセージを抑止することができます。

V 9.3.3

CSQX889E

csect-name クラスター *cluster-name* (QMID *qmid*) 内のクラスター・オブジェクト *object-name* は、「古い」定義に置き換えられました。

重大度

8

説明

クラスター *cluster-name* (QMID *qmid*) で共有されているオブジェクト *object-name* が期限切れになりましたが、代替インスタンスからのパブリケーションを受信しました。有効期限が切れないようにす

るために、これらの定義が使用されますが、これはクラスターで操作エラーが発生したことを示している可能性があります。

システム・アクション

なし

システム・プログラマーの応答

「可視」定義が使用されるため、アクションは必要ありませんが、管理手順を検討して、この QMID を持つキュー・マネージャーの 1 つのインスタンスのみがクラスター内で常にアクティブになるようにすることができます。

z/OS 初期設定手順および一般サービス・メッセージ (CSQY...)

CSQY000I

IBM MQ for z/OS Vn リリース・タイプ

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの始動時に発行され、リリース・レベルとリリース・タイプを示します。

CSQY002I

キュー・マネージャーを停止中です。

説明

STOP QMGR コマンドが受け入れられた。キュー・マネージャーの終了処理が完了した時点で、メッセージ CSQ9022I が発行される。このメッセージは、STOP QMGR コマンドの開始元、または START QMGR コマンドを受け取った z/OS コンソールのいずれかに発行される。

システム・アクション

キュー・マネージャーの終了処理が開始される。

CSQY003I

キュー・マネージャーはすでにアクティブです。

説明

キュー・マネージャーはすでに活動化されているので、START QMGR コマンドが受け入れられなかった。このメッセージの後に、メッセージ CSQ9023E が発行される。

CSQY004I

キュー・マネージャーはすでに停止中です。

説明

STOP QMGR コマンドが受け入れられなかった。これは、キュー・マネージャーの終了が、指定されたオプション (QUIESCE または FORCE) で進行中であるため、またはすでに FORCE オプションが受け入れられた後で、QUIESCE オプションが指定されたためである。このメッセージの後に、メッセージ CSQ9023E が発行される。

システム・アクション

キュー・マネージャーの終了処理が続けられる。

CSQY005E

キュー・マネージャーの始動が終了しました。START コマンドが無効です。

説明

キュー・マネージャーは、START QMGR コマンドによってのみ開始することができる。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了します。

CSQY006E

csect-name ロード・モジュール *module-name* に無効な AMODE または RMODE 属性が検出されました。

説明

キュー・マネージャーの初期設定手順で、該当するモジュールがロードされた時点で無効な AMODE または RMODE 属性をもっていることが検出された。*module-name* は、アドレッシング・モードまたは常駐モードが無効なロード・モジュールの名前である。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動が異常終了する。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ に対するすべてのインストール活動と保守活動が正しく実行されているかどうかを確認する。問題を訂正できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQY007E

csect-name キュー・マネージャーの始動が終了しました。オペレーティング・システムのレベルが無効です。

説明

キュー・マネージャーの初期設定手順で、このレベルのオペレーティング・システムにはキュー・マネージャーの正しい操作に必要な機能がないことが検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動が異常終了する。

システム・プログラマーの応答

前提条件のレベル以降のオペレーティング・システムがインストールされていることを確認する。問題を訂正できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQY008I

キュー・マネージャーのシャットダウン要求は受け入れられません。

説明

終了が可能な点まで始動が完了していなかったために、STOP QMGR コマンドが受け入れられなかった。このメッセージの後に、メッセージ CSQ9023E が発行される。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動が続行され、STOP QMGR コマンドは無視される。

CSQY009I

ユーザー (*userid*)、停止モード (*mode*) から *verb-name pkw-name* コマンドを受諾しました。

説明

このメッセージは、だれが IBM MQ を停止するコマンドを実行し、またどのようなタイプの停止であったかを記録するために送付される。*verb-name* に、コマンド接頭部 (CPF) が含まれる可能性がある。これは、コマンドの入力方法によって異なる。

CSQY010E

csect-name ロード・モジュール *module-name* は正しいリリース・レベルにありません

説明

指定されたロード・モジュールが、使用されているキュー・マネージャーのバージョンに対して、正しいレベルにない。

システム・アクション

キュー・マネージャーで検出された場合は、始動処理が理由コード X'00E80161' で異常終了する。チャンネル・イニシエーター (*module-name* が CSQXJST) で検出されると、これは始動しない。

AMS 使用可能化モジュール (DRQONABL) によって検出された場合は、システム・パラメーターで SPLCAP=YES が指定されている場合のみ、キュー・マネージャーの始動が失敗する。この場合はメッセージ CSQY029E が出される

システム・プログラマーの応答

(キュー・マネージャーまたはチャンネル・イニシエーターの必要に応じて) 適切な IBM MQ プログラム・ライブラリーが使用されており、IBM MQ に対するすべてのインストール活動と保守活動が正しく実行されているかどうかを確認する。早期処理プログラムが正しくない場合 (*module-name* が CSQ3EPX) は、REFRESH QMGR TYPE(EARLY) コマンドを実行してこれを更新する。

問題を訂正できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQY011E

csect-name コマンド接頭部を登録できませんでした。CPF 内の文字が無効です。

説明

コマンド接頭部 (CPF) に無効な文字が含まれているため、コマンド接頭部の登録が失敗に終わった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

適切な CPF パラメーターを指定して、z/OS コマンド SETSSI ADD を再発行する。SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコード内の CPF パラメーターを訂正する。パラメーターについては、『[サブシステム名表の更新](#)』を参照。

CSQY012E

csect-name コマンド接頭部を登録できませんでした。キュー・マネージャー名に無効な文字があります。

説明

コマンド接頭部 (CPF) の所有者として使用されたキュー・マネージャー名に無効な文字が含まれているため、コマンド接頭部の登録が失敗に終わった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

適切な CPF パラメーターを指定して、z/OS コマンド SETSSI ADD を再発行する。SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコード内の CPF パラメーターを訂正する。パラメーターについては、『[サブシステム名表の更新](#)』を参照。

CSQY013E

csect-name コマンド接頭部を登録できませんでした。CPF は既に定義されています。

説明

コマンド接頭部 (CPF) はすでに z/OS に対して定義されているため、コマンド接頭部の登録が失敗に終わった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

適切な CPF パラメーターを指定して、z/OS コマンド SETSSI ADD を再発行する。SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコード内の CPF パラメーターを訂正する。パラメーターについては、『[サブシステム名表の更新](#)』を参照。

CSQY014E

csect-name コマンド接頭部を登録できませんでした。CPF は、すでに定義されている CPF のサブセットです。

説明

コマンド接頭部 (CPF) が、z/OS に対してすでに定義されている CPF のサブセットであるため、コマンド接頭部の登録が失敗に終わった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

適切な CPF パラメーターを指定して、z/OS コマンド SETSSI ADD を再発行する。SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコード内の CPF パラメーターを訂正する。パラメーターについては、『[サブシステム名表の更新](#)』を参照。

CSQY015E

csect-name コマンド接頭部を登録できませんでした。CPF は、すでに定義されている CPF のスーパーセットです。

説明

コマンド接頭部 (CPF) が、z/OS に対してすでに定義されている CPF のスーパーセットであるため、コマンド接頭部の登録が失敗に終わった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

適切な CPF パラメーターを指定して、z/OS コマンド SETSSI ADD を再発行する。SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコード内の CPF パラメーターを訂正する。パラメーターについては、『[サブシステム名表の更新](#)』を参照。

CSQY016E

csect-name コマンド接頭部の登録中にシステム・エラーが発生しました

説明

コマンド接頭部 (CPF) の登録中に、z/OS エラーが起こった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは開始されない。

システム・プログラマーの応答

z/OS コンソールに、この問題に関連するメッセージが他にないかを調べる。

CSQY017E

csect-name 記憶域保護キーが正しくありません。

説明

キュー・マネージャー初期設定プロシージャは、ストレージ保護キーが7ではなかったことを検出しました。最も可能性の高い原因は、CSQYASCP のプログラム・プロパティ・テーブル (PPT) 項目が正しく指定されていないか、または IBM MQ STEPLIB 内の IBM MQ プログラム・ライブラリーまたはその他のライブラリーが APF 許可されていないことです。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は理由コード X'00E80162' で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ STEPLIB に含まれるすべてのライブラリーが APF 許可を持っていることを確認する。さらに、APF リスト内のライブラリーのデータ・セット別名ではなく、実際のライブラリー名を必ず使用する。

CSQYASCP に対する PPT 項目の指定、および IBM MQ プログラム・ライブラリーに対する APF 許可については、[z/OS プログラム・プロパティ・テーブルのアップデート](#)を参照。

CSQY018E

csect-name APF 許可が正しくありません。

説明

キュー・マネージャーの初期設定手順で、それらが許可された APF でないことが検出された。最も可能性が高い原因は、//STEPLIB 連結内のデータ・セットの 1 つまたは複数が、許可された APF でないことである。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は理由コード X'00E80163' で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ STEPLIB に含まれるすべてのライブラリーに APF 許可が与えられていることを確認する。さらに、APF リスト内のライブラリーのデータ・セット別名を使用していないことを確認する。代わりに実際のライブラリー名を使用する。

IBM MQ プログラム・ライブラリーの APF 許可については、[IBM MQ ロード・ライブラリーに APF 許可を与える](#)を参照してください。

CSQY019E

csect-name キュー・マネージャーの始動が終了しました。パラメーター・モジュールのレベルが無効です。*macro-name* を再作成してください。

説明

キュー・マネージャーの初期設定手順で、(先行メッセージの CSQY001I で示された) パラメーター・モジュールのレベルが、このバージョンのキュー・マネージャーに適合するレベルでないことが検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は理由コード 00E80051 で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

パラメーター・モジュールを再作成して、キュー・マネージャーの実行に使用されるのと同じレベルのコードで *macro-name* を再コンパイルする。

パラメーター・モジュールの作成に使用するマクロについて詳しくは、[タスク 17: システム・パラメーター・モジュールの調整](#)を参照。

CSQY020E

csect-name チャンネル・イニシエーターの始動が終了しました。START コマンドが無効です。

説明

チャンネル・イニシエーターを始動できるのは、**START CHINIT** コマンドのみ。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターの始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

START CHINIT コマンドを使用して、チャンネル・イニシエーターを始動する。

CSQY021E

csect-name キュー・マネージャーの始動が終了しました。MEMLIMIT が不足しています。

説明

キュー・マネージャーの初期設定プロシージャで、構成済みの MEMLIMIT が 512MB 未満であることが検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動が異常終了する。

CSQY022I

キュー・マネージャーは初期設定が完了しました。

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーの初期設定が正常に完了して、キュー・マネージャーが使用可能になると発行される。

CSQY023A

SOME OBJECTS COULD NOT BE MIGRATED, MANUAL RESOLUTION REQUIRED. REPLY TO ACKNOWLEDGE AND CONTINUE STARTUP

説明

キュー・マネージャーが以前に旧バージョンで実行されていて、順方向マイグレーションが実行されたことが検出されました。しかし、未確定トランザクションによってロックが保持されていたことが原因で、いくつかのオブジェクトはマイグレーションできませんでした。マイグレーションできなかったオブジェクトごとにメッセージ CSQI970E も発行されます。

同じバージョンで実行されているキュー・マネージャーを、それより後に再始動した場合、このメッセージは発行されません。

システム・アクション

始動は中断され、キュー・マネージャーは、オペレーターが何か 1 文字を入力して応答するのを待機します。

システム・プログラマーの応答

このメッセージに対して肯定応答し、キュー・マネージャーの始動を継続できるようにしてください。

その後、メッセージ内に示されているオブジェクトごとに、順方向マイグレーションを完了するために付加的なアクションが必要です。

詳細については、メッセージ CSQI970E の説明を参照してください。

CSQY024I

AMS は開始されていません。製品使用状況が設定されていません。

重大度

8

説明

キュー・マネージャーの ZPARM でシステム・パラメーター SPLCAP が YES に設定されていますが、AMSPROD が設定されていないか、QMGRPROD が ADVANCEDVUE に設定されていません。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了します。

システム・プログラマーの応答

Advanced Message Security が必要な場合は、製品ライセンスに基づいて、AMSPROD または QMGRPROD に適切な値を設定する。[IBM MQ for z/OS 製品による製品の使用記録](#)を参照。

あるいは、IBM MQ Advanced Message Security が不要の場合は、キュー・マネージャーの ZPARM を更新して SPLCAP を NO に設定する。

CSQY025I

AMS は有効です。

重大度

0

説明

このメッセージは、IBM MQ Advanced Message Security が有効になっていることを示します。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は続けられる。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQY027I

csect-name AMS を開始しています

重大度

0

説明

キュー・マネージャーの ZPARM でシステム・パラメーター SPLCAP が YES に設定されているため、Advanced Message Security (AMS) アドレス・スペースが開始されました。

システム・アクション

キュー・マネージャーへの接続は許可されますが、AMS が使用可能になるまで、AMS 機能を必要とする可能性のある MQI 呼び出しは中断されます。AMS 機能が初期化されると、追加のメッセージが出力されます。

CSQY028I

csect-name AMS が開始済みです

重大度

0

説明

Advanced Message Security (AMS) の初期化が正常に完了しました。

システム・アクション

AMS 機能を待機しているアプリケーションが再開されます。

CSQY029E

csect-name キュー・マネージャーの始動が終了しました。AMS の初期化が失敗しました。

重大度

12

説明

Advanced Message Security (AMS) の初期化中に重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、異常終了コード 6C6 および理由 00F00003 を伴って異常終了する。

システム・プログラマーの応答

AMS アドレス・スペース (xxxxAMSM) に関するジョブ・ログ内の先行メッセージで報告されている問題について調べる。問題を解決した後、キュー・マネージャーを再始動する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQY030E

csect-name QUEUE MANAGER TERMINATING が使用できません。

重大度

12

説明

リカバリー不能エラーのために Advanced Message Security (AMS) アドレス・スペースが異常終了した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、異常終了コード 6C6 および理由 00F00003 を伴って異常終了する。

システム・プログラマーの応答

AMS アドレス・スペース (xxxxAMSM) に関するジョブ・ログ内の先行メッセージで報告されている問題について調べる。問題を解決した後、キュー・マネージャーを再始動する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQY031I

csect-name キュー・マネージャーは AMS の初期化を待機しています

重大度

0

説明

キュー・マネージャーの ZPARM でシステム・パラメーター SPLCAP が YES に設定されているため、Advanced Message Security (AMS) アドレス・スペースが開始されました。AMS の初期化が完了するまで、このメッセージが定期的に出されます。

システム・アクション

処理を続行する。キュー・マネージャーへの接続は許可されますが、AMS が使用可能になるまで、AMS 機能を必要とする可能性のある MQI 要求は中断されます。

システム・プログラマーの応答

AMS アドレス・スペース (xxxxAMSM) に関するジョブ・ログ内のメッセージ出力を確認することにより、Advanced Message Security の初期化の遅延について調べます。

CSQY032E

csect-name キュー・マネージャーの始動が終了しました。AMS を開始できません。

重大度

12

説明

キュー・マネージャーの ZPARM でシステム・パラメーター SPLCAP が YES に設定されているため、キュー・マネージャーは Advanced Message Security (AMS) アドレス・スペースの開始を試みた。AMS アドレス・スペース (xxxxAMSM) の開始に失敗した。その原因として、同じ名前の別のジョブがアクティブであるか、開始済みタスクの JCL にエラーが含まれている可能性がある。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、異常終了コード 6C6 および理由 00F00003 を伴って異常終了する。

システム・プログラマーの応答

AMS アドレス・スペースを開始できなかった理由を調べる。既存のアドレス・スペースがアクティブである場合、それを終了することによって問題を解決するか、必要に応じて開始済みタスクの JCL を訂正する。その後、キュー・マネージャーを再始動する。

CSQY033A

csect-name キュー・マネージャーが使用不可です。AMS 初期化エラー。

重大度

12

説明

Advanced Message Security (AMS) の初期化中に重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は中断する。キュー・マネージャーはコマンドを受け入れるが、AMS 機能を必要とする可能性のある MQI 要求は理由コード 2063 (MQRC_SECURITY_ERROR) を伴って失敗する。

システム・プログラマーの応答

AMS アドレス・スペース (xxxxAMSM) に関するジョブ・ログ内の先行メッセージで報告されている問題について調べる。問題を解決した後、キュー・マネージャーをシャットダウンして再始動する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQY034I

csect-name キュー・マネージャーは AMS のシャットダウンを待機しています

重大度

0

説明

キュー・マネージャーは停止しようとしており、Advanced Message Security (AMS) アドレス・スペース (xxxxAMSM) の終了を要求している。AMS のシャットダウンが完了するまで、このメッセージが定期的に出される。

システム・アクション

キュー・マネージャーは AMS アドレス・スペースの終了を引き続き待機する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージが繰り返し出される場合は、AMS アドレス・スペースのジョブ・ログを調べて、それが終了しない理由を判別する。問題が解決されない場合は、キュー・マネージャーのシャットダウン操作が続行されるようアドレス・スペースを強制終了する。

CSQY035I

csect-name がシャットダウンしました

重大度

0

説明

Advanced Message Security (AMS) アドレス・スペース (xxxxAMSM) が終了した。

システム・アクション

キュー・マネージャーの終了処理が続けられる。

CSQY036I

QMGRPROD= *prod-value*、*product-name*、製品 ID *product-id* の製品の使用状況を記録しています

説明

SMF 89 製品使用状況レコードをキュー・マネージャーで記録する場合、キュー・マネージャーの開始時にこのメッセージが出る。*product-name* は製品の記述名であり、*product-id* は SMF 89 データで 사용되는製品 ID。以下に例を示します。

- QMGRPROD=MQ、IBM MQ for z/OS、製品 ID 5655-MQ9 の製品の使用状況を記録しています - これは、使用状況データが IBM MQ for z/OS 製品について収集されることを示す。
- QMGRPROD=ADVANCEDVUE、IBM MQ Advanced for z/OS Value Unit Edition、製品 ID 5655-AV1 の製品の使用状況を記録しています - これは、使用状況データが IBM MQ Advanced for z/OS Value Unit Edition 製品について収集されることを示す。

製品の使用記録について詳しくは、「[z/OS MVS Product Management](#)」を参照してください。

CSQY037I

製品使用状況データは *product-name*、製品 ID *product-id* については記録されません。

説明

SMF 89 製品使用状況データをキュー・マネージャーで記録しない場合、キュー・マネージャーの開始時にこのメッセージが出る。一般には、SMF 89 の収集がシステムでアクティブにされていないことが原因である。

製品の使用記録について詳しくは、「[z/OS MVS Product Management](#)」を参照してください。

CSQY038E

`csect-name` キュー・マネージャーの始動中断、`product` は、`prod-source` の `prod-keyword` には無効です。

説明

キュー・マネージャーの初期設定手順で、`prod-source` の `prod-keyword` に対する無効な値 `product` が見つかった。

`prod-keyword` は QMGRPROD または AMSPROD にすることができ、`prod-source` は START COMMAND、JCL PARM、または CSQ6USGP にすることができます。

無効な値が複数見つかった場合は、このメッセージが複数回発行される。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は理由コード [00E80010](#) で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

無効な値を修正する。

- `prod-source` が START COMMAND の場合、詳細については [START QMGR](#) を参照してください。
- `prod-source` が JCL PARM である場合、キュー・マネージャー JCL の JCL パラメーターのコーディングについては、[MQSC](#) を使用した z/OS でのキュー・マネージャーの開始および停止を参照してください。
- `prod-source` が CSQ6USGP の場合、CSQ6USGP を使用した値の構成について、[CSQ6USGP](#) を参照してください。

CSQY039I

バージョン `v.r.m` への逆方向マイグレーションがサポートされています。

説明

キュー・マネージャーは、示されている旧バージョンの IBM MQ を使用して過去に始動されたことがある。[START QMGR BACKMIG\(VRM\)](#) コマンドを現行バージョンに対して最初に実行した場合、必要であれば、その旧バージョンを使用してキュー・マネージャーを再始動できる。

CSQY040I

バックワード・マイグレーションがサポートされていません

説明

キュー・マネージャーは旧バージョンの IBM MQ では開始できない。このメッセージは、キュー・マネージャーが以下の場合に出力される。

- 現行リリースを使用して作成された。
- 現行バージョンにマイグレーションする前に、モディフィケーション番号がゼロ以外の Continuous Delivery バージョン (IBM MQ 9.1.4 など) を使用して開始されていた。
- 現行バージョンが逆方向マイグレーションをサポートしていないバージョンの IBM MQ を使用して開始されていた。

CSQY041D

CD リリースでキュー・マネージャーを開始すると、逆方向マイグレーションが実行されなくなります。続行するには Y と応答し、取り消すには N と応答します

説明

このメッセージは、IBM MQ 9.1.0 などの LTS リリース、または IBM MQ 9.2.0CD などの 0 の修飾子値を持つ CD リリースから、IBM MQ 9.2.1 などのゼロ以外の修飾子値を持つ CD リリースにキュー・マネージャーがマイグレーションされることを検出した場合に、`write to operator with reply(WTOR)` として発行されます。

修飾子が非ゼロの CD リリースは逆方向マイグレーションをサポートしないため、このメッセージは、IBM MQ 管理者がこのことを知った上で LTS から CD へのマイグレーションを行うことを確認する目的で発行されます。



重要: キュー・マネージャーが CD で開始すると、以前のリリースに戻すマイグレーションは実行できなくなります。

WTOR への応答があるまで、キュー・マネージャーの開始は完了しません。

キュー・マネージャーを CD に移行する必要があることを確認するには、WTOR に文字 Y で応答します。その後、キュー・マネージャーは通常どおりに開始し、メッセージ [CSQY040I](#) が発行されます。

マイグレーションを取り消すには、WTOR に文字 N で応答してください。キュー・マネージャーは、異常終了コード 5C6 および理由コード [00E80171](#) を使用して異常終了し、シャットダウンします。その後、前に使用していたライブラリーを使用して、キュー・マネージャーを開始できます。

WTOR に N または Y 以外の文字で応答すると、正しい応答が受信されるまでメッセージが再発行されます。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、WTOR に有効な応答が入力されるまで待機し、有効な応答が入力された時点で、開始を続行するか終了します。

システム・プログラマーの応答

WTOR に対して、文字 Y または N を使用して応答します。

CSQY042E

v.r.m への逆方向マイグレーションはサポートされていません

説明

キュー・マネージャーがパラメーター BACKMIG(vrm) を指定して開始したが、前のバージョンへの逆方向マイグレーションはサポートされていません。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は理由コード [X'00E80084'](#) で異常終了します。

システム・プログラマーの応答

メッセージ [CSQY039I](#) またはメッセージ [CSQY040I](#) を調べて、逆方向マイグレーションが許可されているかどうかを判別します。

CSQY043E

v.r.m への逆方向マイグレーションが失敗しました

説明

キュー・マネージャーがパラメーター BACKMIG(vrm) を指定して開始しました。

前のバージョンへの逆方向マイグレーションが試行されたときに、予期せずに失敗しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は異常終了し、問題を示す理由コードが示されます。

システム・プログラマーの応答

失敗の原因を調査して訂正し、コマンドを再試行します。

CSQY044D

逆方向マイグレーションの際に 1 つ以上のページ・セットがオフラインになっています。逆方向マイグレーションを続行するには Y と応答し、取り消すには N と応答します。

説明

キュー・マネージャーがパラメーター BACKMIG(vrm) を指定して開始しました。

前のバージョンへの逆方向マイグレーションが試行されたが、使用されていた少なくとも 1 つのページ・セットが現在オフラインになっています。このメッセージの後には、オフライン・ページ・セットごとに、メッセージ [CSQI005I](#) の表示が続きます。

キュー・マネージャーは、逆方向にマイグレーションされた後は、手操作による介入がなければ、対応するページ・セットにアクセスできなくなります。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、WTOR に有効な応答が入力されるまで待機し、有効な応答が入力された時点で、逆方向マイグレーションを続行するか終了します。

システム・プログラマーの応答

逆方向マイグレーションを取り消してキュー・マネージャーを終了するには、N と応答します。1 つ以上のオフライン・ページ・セットを解決し、コマンドを再実行します。

1 つ以上のページ・セットを指定せずに逆方向マイグレーションを続行するには、Y と応答します。ページ・セットは手動でマイグレーションできる可能性があります。後で CSQUTIL FORMAT コマンドを使用して、それぞれを新しいデータ・セットに復旧することもできます。

CSQY045I

v.r.m への逆方向マイグレーションが完了しました

説明

キュー・マネージャーがパラメーター BACKMIG(vrm) で開始し、前のリリースへの逆方向マイグレーションが完了した。

システム・アクション

キュー・マネージャーはシャットダウンする。

システム・プログラマーの応答

前のリリースでキュー・マネージャーを再始動する。

CSQY100I

csect-name SYSTEM パラメーター ...

説明

システム・パラメーター値を次のメッセージで示して、キュー・マネージャーが始動する。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。

CSQY101I

CSQY102I, CSQY103I, CSQY104I, CSQY105I, CSQY106I, CSQY107I, CSQY108I, CSQY109I,
CSQY130I: csect-name parms

説明

この一連のメッセージは、キュー・マネージャーが使用しているシステム・パラメーター値を示す。(一部の値は、後に括弧に入った内部 16 進数表示が続く。) CSQ6SYSP マクロのシステム・パラメーターの詳細については、『[CSQ6SYSP の使用](#)』を参照。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。

CSQY110I

csect-name LOG パラメーター ...

説明

ログ・パラメーター値を次のメッセージで示して、キュー・マネージャーが始動する。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。

CSQY111I

CSQY112I, CSQY113I, CSQY114I: csect-name パラメーター

説明

この一連のメッセージは、キュー・マネージャーが使用しているログ・パラメーター値を示す。CSQ6LOGP マクロのログ・パラメーターについては、『[CSQ6LOGP の使用](#)』を参照。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。

CSQY120I

csect-name ARCHIVE パラメーター ...

説明

保存パラメーター値を次のメッセージで示して、キュー・マネージャーが始動する。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。

CSQY121I

CSQY122I, CSQY123I, CSQY124I: *csect-name* parms

説明

この一連のメッセージは、キュー・マネージャーが使用している保存パラメーター値を示す。CSQ6ARVP マクロの保存パラメーターについては、[CSQ6ARVP](#) の使用を参照。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。

CSQY140I

csect-name USAGE パラメーター

説明

キュー・マネージャーは、以下のメッセージで示される使用状況パラメーター値を使用して開始される。

これらの値は、キュー・マネージャー JCL または [START QMGR](#) コマンドで指定した値でオーバーライドできる。解決された値は、メッセージ [CSQY037I](#) および [CSQ0619I](#) で示される。

CSQY141I

csect-name 使用状況パラメーターが指定されていません

説明

キュー・マネージャーの使用状況パラメーターが指定されていないため、デフォルトが設定される。

これらの値は、キュー・マネージャー JCL または [START QMGR](#) コマンドで指定した値でオーバーライドできる。解決された値は、メッセージ [CSQY037I](#) および [CSQ0619I](#) で示される。

CSQY142I

csect-name parms

説明

このメッセージは、キュー・マネージャーが使用している使用状況パラメーター値を示す。CSQ6USGP マクロの使用状況パラメーターについては、[CSQ6USGP](#) の使用を参照。

CSQY200E

csect-name ARM *request-type* (要素 *arm-element* タイプ *arm-element-type*) が失敗しました。rc=*rc* 理由=*reason*

説明

指定された要素の ARM 要求 (IXCARM REQUEST=*request-type*) が失敗した。rc と *reason* はそれぞれ、この呼び出しからの戻りコードと理由コードである (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

IXCARM 呼び出しからの戻りおよび理由コードについては、[z/OSMVS プログラミング・シスプレックス・サービス解説書の資料を参照してください。](#)

問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQY201I

csect-name ARM REGISTER for element *arm-element* type *arm-element-type* successful

説明

指定されたエレメントは ARM に登録された。

システム・アクション

なし。

CSQY202E

csect-name ARM の登録が失敗しました。

説明

ARM に登録しようとしたができなかった。

システム・アクション

処理は続行されるが、自動再始動機能は使用できない。

システム・プログラマーの応答

障害の詳細については、前述の CSQY200E メッセージを参照。

CSQY203E

csect-name ARM *request-type* (要素 *arm-element* タイプ *arm-element-type*) がタイムアウトになりました。rc=*rc* 理由=*reason*

説明

ARM 要求 (IXCARM REQUEST=*request-type*) が発行されたが、ARM ポリシーに指定されたいくつかの先行するエレメントが、指定された時間内に ARM READY 要求を発行しなかった。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。ただし、前のエレメントがないとプログラムを実行できない場合は、インストール・システムで定義されたアクションの実行が必要となることがある。

CSQY204I

csect-name ARM DEREGISTER (要素 *arm-element* タイプ *arm-element-type*) が成功しました。

説明

指定されたエレメントの ARM での登録が解除された。

システム・アクション

なし。

CSQY205I

csect-name ARM 要素 *arm-element* は登録されていません。

説明

STOP QMGR コマンドにより ARM の再始動が要求されたが、キュー・マネージャーが ARM に登録されていなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは正常に停止するが、自動的には再始動されない。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを手動により再始動する。

CSQY210E

csect-name call-name 名前 *name-token* への呼び出しが失敗しました。rc=*rc*

説明

グループ接続の処理中、名前トークン・サービス呼び出しが失敗した。*rc* は、呼び出しからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

バッチ・アダプターに障害がある場合 (*csect-name* CSQBICON または CSQBDSC)、アプリケーションの呼び出しは理由コード MQRC_UNEXPECTED_ERROR で失敗する。そうでない場合 (*csect-name* CSQYGRA1)、処理は続行するが、グループ接続機能は使用不能となる。

システム・プログラマーの応答

戻りコードに関する情報については、*z/OSMVS* プログラミング: アセンブラー・サービス解説書マニュアルの該当するボリュームに移動してください。

- [IEANTRT](#)
- [IEANTCR](#)
- [IEANTDL](#)

(名前トークン・サービス呼び出しからの戻りコード)。

問題を解決できない場合は、スタンドアロンのシステム・ダンプを取り、IBM サポートに連絡する。

CSQY211I

csect-name グループ接続名テーブルに項目を入力できませんでした。(*table-addr*)

説明

グループ接続機能の初期設定の際、新規項目をそのキュー・マネージャーの名前表に追加できなかった。最も可能性のある原因として、そのグループにはすでに、最大である 32 のキュー・マネージャーが活動状態にあったことが考えられる。

システム・アクション

処理は続行するが、そのキュー・マネージャーをグループ接続に使用することはできない。

システム・プログラマーの応答

活動状態にあるキュー・マネージャーの数を減らしてから、そのキュー・マネージャーを再始動する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQY212E

csect-name グループ接続テーブルが見つかりません。

説明

グループ接続機能の初期設定時に、グループ接続テーブルが見つからなかった。この原因として、サブシステムの初期設定時にエラーが発生したか、最新のバージョンの IBM MQ 早期コードを使ってサブシステムが初期設定されなかった可能性が高い。

システム・アクション

処理は続行するが、グループ接続機能は CICS を使用不能となる。

システム・プログラマーの応答

最新のバージョン、リリース、または保守レベルの IBM MQ 早期コードを持つライブラリーが *z/OS LPA* に使用されるライブラリーにあることを確認し、IBM MQ コマンド REFRESH QMGR TYPE (EARLY) を使用してキュー・マネージャーの早期コードをリフレッシュします。作業 3: *z/OS* リンク・リストおよび *LPA* を更新するを参照。

CSQY220I

csect-name キュー・マネージャーのストレージ使用量: ローカル・ストレージ: 使用中 *mm*MB、空き *nn*MB: 2 GB 境界より上: 使用中 *aabb*、空き *cc*

説明

このメッセージには、以下の場所の仮想ストレージについて、現在使用されている量と使用可能な量が表示される。

- 拡張専用領域 (ローカル・ストレージ)。
- 2 GB 境界より上 (64 ビット・ストレージ)。

使用されているストレージの量は、バイト数に応じて最も適切な単位 (MB または GB) で、近似値で表示される。使用可能なストレージの量が 10 GB を超える場合、「>10 GB」が表示されます。それ以外のすべての場合は、使用可能なストレージの量は、最も適切な単位で表示される。使用可能なストレージ・スペースの量について、合計数は、該当する単位 (MB /GB) の整数で切り捨てられる。例えば、3 GB の値が表示されている場合、フリー・ストレージの量は 3 GB 以上 4 GB 未満になる。

このメッセージは、キュー・マネージャーの開始時にログに記録され、その後、使用量が変わらない場合には 1 時間おき、または、メモリーの使用量が (増減いずれでも) 2% を超えて変化したときにログに記録される。

このメッセージは、**ALTER BUFFPOOL** コマンドが LOCATION または BUFFERS のいずれかの値に変更を加える場合にも生成されます。

システム・アクション

処理を続行する。IBM MQ によって実行される (または実行する必要のある) 特別なアクションは、メッセージ **CSQY221I** および **CSQY222E** によって示される。

システム・プログラマーの応答

この時点でアクションは必要ない。ただし、このメッセージが頻繁に表示される場合、システムが現行の構成に最適な領域を超えて稼働している可能性がある。

CSQY221I

csect-name キュー・マネージャーがローカル・ストレージ不足です。

説明

キュー・マネージャーの拡張専用領域における仮想ストレージが不足している。

システム・アクション

処理を続行する。ストレージ縮小処理が実行されて、他のサブプールで再使用できるように、内部サブプールからの未使用のストレージの除去が試みられる。この処理は、異常に大きな作業単位が実行される場合など、大量のストレージが一時的に必要な場合で必要な場合がある。

システム・プログラマーの応答

これらのメッセージが数回だけ出力された場合、まだアクションは必要ない。ただし、このメッセージが頻繁に表示される場合は、システムが現行の構成に最適な領域を超えて稼働している可能性があるため、調べる必要がある。

CSQY222E

csect-name キュー・マネージャーのローカル・ストレージ不足が深刻です。アクションをとってください。

説明

キュー・マネージャーの拡張専用領域における仮想ストレージが大幅に不足している。この状態を緩和して、キュー・マネージャーが異常終了する可能性を回避する必要がある。

システム・アクション

処理を続行する。ストレージ縮小処理が実行されるが、割り振られていない残存仮想ストレージは、事前に指定された安全な量を下回ることになる。使用ストレージが増え続ける場合、キュー・マネージャーは、予測不能な方法で異常終了する可能性がある。

システム・プログラマーの応答

仮想ストレージが、現行の構成に割り振られ過ぎている。次のアクションによって、仮想ストレージの所要量を削減できる。

- LOCATION パラメーターが BELOW に設定されているバッファ・プールの場合、ALTER BUFFPOOL コマンドによりバッファ・プール・サイズを削減可能。バッファ・プール統計を使用して、割り振りが多すぎるバッファ・プールを判断できる。
- キュー・マネージャーへの同時接続の数を削減する。DISPLAY CONN コマンドを使用して、キュー・マネージャーの資源を消費する接続を判断できる。

上記のアクションをとった後でも問題が持続する場合は、ストレージが解放されない内部エラー(ストレージ不足)の可能性がある。この疑いがある場合は、時間間隔をおいてキュー・マネージャーの少なくとも2つのシステム・ダンプを収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQY223I

csect-name キュー・マネージャーのローカル・ストレージ不足は解消済み。

説明

キュー・マネージャーの拡張専用領域における仮想ストレージの不足が解消された。

システム・アクション

処理を続行する。ストレージ縮小処理が実行され、割り振られていない残存仮想ストレージが、事前に指定された安全な量を上回ることになる。

CSQY224I

csect-name キュー・マネージャーに 2 GB 境界より上のローカル・ストレージが不足しています。

説明

キュー・マネージャーに 2 GB 境界より上の仮想ストレージが不足している。

システム・アクション

処理を続行する。ストレージ縮小処理が実行されて、他のサブプールで再使用できるように、内部サブプールからの未使用のストレージの除去が試みられる。この処理は、大量のストレージが一時的に必要な後で必要な場合がある。例えば、通常の数を超えるメッセージが索引付きキューに保持されるか、または異常に大きな作業単位が実行される場合である。

CSQY225E

csect-name キュー・マネージャーの、2 GB 境界より上のローカル・ストレージ不足が深刻です。アクションを取ってください。

説明

キュー・マネージャーの 2 GB 境界より上の仮想ストレージ不足が深刻である。この状態を緩和して、キュー・マネージャーが異常終了する可能性を回避する必要がある。

システム・アクション

処理を続行する。ストレージ縮小処理が実行されるが、割り振られていない残存仮想ストレージは、事前に指定された安全な量を下回ることになる。使用ストレージが増え続ける場合、キュー・マネージャーは、予測不能な方法で異常終了する可能性がある。

CSQY226I

csect-name キュー・マネージャーの 2 GB 境界より上のローカル・ストレージ不足は解消されました。

説明

キュー・マネージャーの、2 GB 境界より上の仮想ストレージの不足が解消された。

システム・アクション

処理を続行する。ストレージ縮小処理が実行され、割り振られていない残存仮想ストレージが、事前に指定された安全な量を上回ることになる。

CSQY227E

csect-name IARV64 を使用して、2 GB 境界より上のストレージを割り振ることができません。戻りコード=rc、理由=reason。

説明

キュー・マネージャーによる、2 GB 境界より上へのストレージの割り振り要求が失敗した。rc は戻りコード、reason は理由コード (いずれも 16 進数) で、z/OS IARV64 サービスから返される。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、エラーを回復しようとする。復旧が不可能の場合、アプリケーションまたはキュー・マネージャーの異常終了、例えば 5C6-00A30042、5C6-00A31000、あるいは 5C6-00E20045 が発生する。

CSQY228E

ACE プールを拡張できません。ACELIM に達しました。

説明

キュー・マネージャーへの新規接続を表す制御ブロックを管理するために使用される内部ストレージ・プールが、ACELIM システム・パラメーターによって定義される制限に到達した。

システム・アクション

キュー・マネージャーの処理は続けられる。新規接続要求が失敗した可能性がある。影響を受けるジョブについて詳しくは、メッセージ [CSQ3202E](#) または [CSM078E](#) を参照。

システム・プログラマーの応答

構成されている ACELIM 値を確認する。通常サイズの ACE プールを設定するのに STATISTICS CLASS(2) トレースの使用が役立つ場合がある。

詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照。

CSQY270E

csect-name UNRECOGNIZED MESSAGE NUMBER *message-id*

重大度

8

説明

メッセージ *message-id* を出す試みが失敗に終わった。このメッセージは、要求されたメッセージが IBM MQ メッセージ・ディレクトリーに見つからなかった場合にのみ出される。

システム・アクション

要求されたメッセージが出されたものとして、処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

メッセージ番号 (*message-id*) を使用して、この製品資料でそのメッセージを調べる。米国英語以外の言語を使用している場合には、言語機能が正しくインストールされているか、また適切なロード・ライブラリー・データ・セットがジョブに連結されているかどうかを確認する。その可能性とは別に、MQ システムに問題があることも考えられる。[トラブルシューティングおよびサポート](#)を参照。

注：メッセージは、パネルや報告書を構成するためのテキストを提供するためにも使用される。このようなメッセージが見つからない場合は、メッセージ CSQY270E が (通常は省略形式で) パネルや報告書に示される。

CSQY271I

メッセージ生成プログラムの初期設定パラメーターが見つかりません。デフォルトと解釈されます。

重大度

4

説明

メッセージ生成プログラムが、CSQ6SYSP マクロによって定義された宛先コード初期設定パラメーターにアクセスできなかった。そのマクロによって定義されているデフォルトが使用される。

システム・アクション

キュー・マネージャーの初期設定は続けられる。

システム・プログラマーの応答

CSQ6SYSP マクロを変更する必要がある場合がある。CSQ6SYSP マクロのシステム・パラメーターの詳細については、『[CSQ6SYSP の使用](#)』を参照。

CSQY290E

csect-name NO STORAGE AVAILABLE

重大度

4

説明

システム・ルーチンに使用できるストレージが不足していました。*csect-name* は、システム・ルーチン機能を示しています。

CSQAXDPS, CSQVXDPS

ユーザー出口 (チャンネル以外)

CSQXARMY

チャンネル・イニシエーターの自動再開

CSQXDCTS, CSQXTRPG

チャンネル・イニシエーターのトレース

CSQXDMP5

チャンネル・イニシエーターのシステム・ダンプ

CSQXLDXS

ユーザー・チャンネル出口

CSQ2GFRR, CSQ2MFRR

IMS ブリッジ・システム・ダンプ

システム・アクション

処理は続行されるが、そのシステム・ルーチンによって提供される機能は使用禁止となる。例えば、CSQXLDXS ルーチンの場合、ユーザー・チャンネル出口は使用可能ではなくなり、その出口を使用するチャンネルは開始されない。

システム・プログラマーの応答

問題がキュー・マネージャーで起きている場合、アドレス・スペースのサイズを大きくするか、または、使用中のキュー、メッセージ、およびスレッドの数を減らす。

問題がチャンネル・イニシエーターで起きている場合、アドレス・スペースを大きくするか、使用中のディスプレイパッチャー、アダプター・サブタスク、SSL サーバー・サブタスク、および活動チャンネルの数を減らす。

CSQY291E

csect-name SDUMPX FAILED, RC=0000ssrr, *dump-identifier*

重大度

4

説明

システム・ダンプ・ルーチンが、ダンプを発行することができなかった。ダンプ ID は、メッセージに示されるとおりである。*rr* と *ss* はそれぞれ、z/OS [SDUMPX](#) サービスからの戻りコードと理由コードである (いずれも 16 進表示)。

通常、戻りコードは 08 です。最も一般的な戻りコード 08 の理由コードは次のとおりです。

02

別の SVC ダンプの取り込み段階が進行中であるために、SVC ダンプが抑止された。

04

SVC ダンプが SLIP NODUMP コマンドによって抑止された。

0B

SVC ダンプが DAE によって抑止された。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

SDUMPX 要求からの戻りコードおよび理由コードに関する情報については、*z/OSMVSAuthorized Assembler Services Reference* マニュアルの該当するボリュームを選択してください。

理由コード 0B(DAE 抑止の場合)については、抑止されたダンプの生成を参照してください。

要約すると、IPCS オプション 3.5 を使用します。つまり、Utilities -> DAE を使用して、許可したいダンプ症状(複数の場合もある)に T (TAKEDUMP) オプションを設定します。

CSQY330I

キュー・マネージャーは機能が制限されています。

説明

IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションでは、すべての機能を使用することはできない。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動処理が続けられる。

CSQY331E

parm 値は許可されていません。機能が制限されています。

説明

parm システム・パラメーターに指定された値は許可されません。これは、IBM MQ 用に選択されたインストール・オプションおよびカスタマイズ・オプションでは、すべての機能を使用できないためです。

システム・アクション

キュー・マネージャーは開始されない。

CSQY332I

IMS ブリッジは使用できません。機能が制限されています。

説明

IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションではすべての機能を使用することができないため、IBM MQ-IMS ブリッジを操作できない。

システム・アクション

MQ-IMS ブリッジが開始されない。

CSQY333E

コマンドは許可されません。機能が制限されています。

説明

IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションではすべての機能を使用することができないことが原因で、実行されたコマンドが許可されない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQY334E

csect-name keyword(value) は許可されません。機能が制限されています。

説明

IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションではすべての機能を使用することができないことが原因で、キーワードに指定された値が許可されない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

CSQY335E

csect-name チャネル *channel-name* は使用できません。機能が制限されています。

説明

IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションでは、すべての機能を使用することはできないため、チャンネルが使用できない。

システム・アクション

要求された操作は失敗する。

CSQY336E

csect-name keyword は許可されません。機能が制限されています。

説明

IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションではすべての機能を使用することができないことが原因で、キーワードが許可されない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQY337E

csect-name keyword 値の長さは許可されません。機能が制限されています。

説明

IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションではすべての機能を使用することができないことが原因で、キーワードに指定された値の長さが許可されない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQY340E

キュー・マネージャーの機能は制限されていますが、以前は全機能を持っていました。サポートされていないオブジェクトは削除され(メッセージを失う)、無効な属性は変更されます。

説明

IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションでは、すべての機能を使用することはできない。しかし、キュー・マネージャーは以前は機能の制限なしに実行されていたため、制限付きの機能では許されていないオブジェクトや属性が設定されている可能性がある。

継続するためには、これらのオブジェクトを削除し、属性を変更する必要がある(メッセージが失われる可能性がある)。キュー・マネージャーは、これを自動的に行う。

システム・アクション

メッセージ CSQY341D が出され、オペレーターの応答を待つ。

システム・プログラマーの応答

オペレーターは次の2つのオプションから選択できる。

- 'Y' と答えることにより、キュー・マネージャーにオブジェクトの削除と属性の変更を任せる。
- 'N' と答えることにより、キュー・マネージャーを取り消す。

CSQY341D

継続するには Y を、取り消すには N を入力してください。

説明

前の CSQY340E メッセージが示すように、IBM MQ 用に選択されたインストールおよびカスタマイズのオプションが変更された。

システム・アクション

キュー・マネージャーはオペレーターの応答を待つ。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQY340E を参照。

CSQY342I

オブジェクトを削除し、属性を変更中です。機能が制限されています。

説明

このメッセージは、メッセージ CSQY341D にオペレーターが Y で応答した場合に送信される。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、制限された機能では許されていないオブジェクトを削除し、属性を変更する。

CSQY343I

キュー・マネージャーを終了しています。機能の制限が受け入れられませんでした。

説明

このメッセージは、メッセージ CSQY341D にオペレーターが N で応答した場合に送信される。

システム・アクション

キュー・マネージャーは開始されない。

Advanced Message Security (CSQ0...)

CSQ0101E

csect-name 内部メッセージ保護エラー。理由 *reason*、診断: *value1*、*value2*

重大度

8

説明

メッセージ保護処理中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

PUT 操作の場合、メッセージは拒否される。

GET 操作の場合、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動する。

システム・プログラマーの応答

メッセージに有効な IBM MQ ヘッダーがあることを確認します。ない場合は、IBM のサポート・センターに連絡します。

CSQ0105E

csect-name 内部エラーが発生しました。理由 *reason*、診断: *value*

重大度

8

説明

メッセージ保護処理中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

メッセージ・キュー・インターフェース (MQI) 呼び出しは失敗する。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートにお問い合わせください。

CSQ0109E

csect-name SDUMP が失敗しました。戻りコード *rc*、理由 *reason*

重大度

8

説明

異常終了の処理中に SDUMP を発行しようとして失敗した。

システム・アクション

SDUMP 診断は生成されない。

システム・プログラマーの応答

戻りコードと理由を [SDUMP](#) 資料と一緒に検討して、問題を解決してください。

CSQ0110I

csect-name AMS 異常終了 *abend*、理由 *reason*

重大度

8

説明

メッセージ保護の処理中に、タイプ *abend* の異常終了が、理由 *reason* のために発生した。

システム・アクション

メッセージ・キュー・インターフェース (MQI) 呼び出しは失敗する。IBM MQ サブシステムが終了することもある。

システム・プログラマーの応答

異常終了コードおよび理由コードの情報を使用して問題を解決します。

問題を解決できない場合は、IBM サポート・センターに連絡します。

CSQ0111I

csect-name モジュール・オフセット *offset*、レベル *level*

重大度

0

説明

メッセージ保護処理中の異常終了の後、診断の目的で *module* および *level* が報告される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0112I

csect-name PSW SDWAE1、SDWAE1、SDWAAEC1、SDWAAEC1

重大度

0

説明

メッセージ保護処理中の異常終了の後、関連するプログラム状況ワード (PSW) フィールドが報告される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0113I

csect-name CAB value1、 value2、 value3、 value4

重大度

0

説明

メッセージ保護処理中の異常終了の後、関連する内部フィールドが報告される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0114I

csect-name R0-R3 gpr0、 gpr1、 gpr2、 gpr3

重大度

0

説明

メッセージ保護処理中の異常終了の後、汎用レジスター 0 から 3 が報告される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0115I

csect-name R4-R7 gpr4、 gpr5、 gpr6、 gpr7

重大度

0

説明

メッセージ保護処理中の異常終了の後、汎用レジスター 4 から 7 が報告される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0116I

csect-name R8-R11 gpr8、 gpr9、 gpr10、 gpr11

重大度

0

説明

メッセージ保護処理中の異常終了の後、汎用レジスター 8 から 11 が報告される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0117I

csect-name R12-R15 *gpr12*、*gpr13*、*gpr14*、*gpr15*

重大度

0

説明

メッセージ保護処理中の異常終了の後、汎用レジスター 12 から 15 が報告される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0118I

csect-name A0-A3 *ar0*、*ar1*、*ar2*、*ar3*

重大度

0

説明

メッセージ保護処理中の異常終了の後、アクセス・レジスター 0 から 3 が報告される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0119I

csect-name A4-A7 *ar4*、*ar5*、*ar6*、*ar7*

重大度

0

説明

メッセージ保護処理中の異常終了の後、アクセス・レジスター 4 から 7 が報告される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0120I

csect-name A8-A11 *ar8*、*ar9*、*ar10*、*ar11*

重大度

0

説明

メッセージ保護処理中の異常終了の後、アクセス・レジスタ 8 から 11 が報告される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0121I

csect-name A12-A15 *ar12*、*ar13*、*ar14*、*ar15*

重大度

0

説明

メッセージ保護処理中の異常終了の後、アクセス・レジスタ 12 から 15 が報告される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0137I

csect-name SDUMP は取られず、DAE によって抑止されました

重大度

0

説明

SDUMP は、ダンプ分析重複回避機能 (DAE) により抑止された。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0151E

csect-name ストレージの割り振りに失敗しました

重大度

8

説明

メッセージ保護処理中にストレージを割り振ろうとして失敗した。

システム・アクション

メッセージ・キュー・インターフェース (MQI) 呼び出しは失敗する。

システム・プログラマーの応答

使用可能なストレージの量を増やす。

CSQ0174E

csect-name モジュール *module* のロードに失敗しました。戻りコード *abncode*、理由 *rsncode*

重大度

8

説明

モジュールをストレージにロードしようとして失敗した。

システム・アクション

IBM MQ サブシステムは始動に失敗する。

システム・プログラマーの応答

異常終了コードおよび理由コードを使用し、**LOAD** マクロの資料を調べて問題を解決します。

CSQ0175E

csect-name モジュール *module* の削除に失敗しました。戻りコード *rc*

重大度

8

説明

ロードされているモジュールを削除しようとして失敗した。

システム・アクション

モジュールはロードされたままになる。

システム・プログラマーの応答

戻りコードを使用し、**DELETE** マクロの資料を調べて問題を解決します。

CSQ0201E

csect-name メッセージ・テーブルを使用できません

重大度

8

説明

メッセージ保護コンポーネントのメッセージ・ファイルをロードしようとして失敗した。

システム・アクション

IBM MQ サブシステムは始動に失敗する。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ サブシステムが正しくインストールされたことを検査する。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

CSQ0204I

csect-name AMS が使用しているローカル・ストレージは *use-size* MB、空きは *free-size* MB です

重大度

0

説明

メッセージ保護サービスに現在使用されているストレージ量は現時点で *use-size* MB で、さらに *free-size* MB の空きが残っている。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0209E

csect-name qname に対するメッセージがエラー・キューに送信されました。MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

4

説明

理由 *mqrc* のため、GET 処理中にキュー *qname* 上の保護されたメッセージを処理できず、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に送信された (*mqrc-text* は MQRC のテキスト形式)。

システム・アクション

メッセージはエラー・キューに置かれ、要求側アプリケーションにエラーが返される。

システム・プログラマーの応答

エラー・キュー上のメッセージと理由コードを調べて、メッセージを処理できなかった理由を判別する。

送信側と受信側のポリシーを確認する必要がある。例えば、ポリシーを設定するときは、以下のようになる。

- ST= を使用して都道府県を指定する。
- 以下の特殊文字にはエスケープ文字が必要です。

```
, (comma)
+ (plus)
" (double quote)
\ (backslash)
< (less than)
> (greater than)
; (semicolon)
```

- 組み込み空白が含まれている識別名は、二重引用符で囲む必要があります。

CSQ0210E

csect-name エラー・キューに対するメッセージのリダイレクトに失敗しました。MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

get 処理中に、メッセージ保護処理が理由 *mqrc* で失敗した (*mqrc-text* はテキスト形式の MQRC を提供する)。メッセージをエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に書き込もうとして失敗した。

システム・アクション

読み取り要求は失敗し、メッセージはターゲット・キュー上に残る。

システム・プログラマーの応答

ターゲット・キュー上のメッセージと理由コードを調べて、メッセージを処理できなかった理由、またはメッセージをエラー・キューに配置できなかった理由を判別する。

キュー・マネージャーおよび Advanced Message Security タスクのエラー・ログを確認し、メッセージをエラー・キューに書き込めなかったことに関連するエラー・メッセージがないか調べる。

CSQ0213E

csect-name 内部でのキューのクローズに失敗しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

保護されたキューのオープン処理中に保護の初期化に失敗し、内部でキューをクローズしようとして失敗した。

システム・アクション

オープン要求は失敗する。

システム・プログラマーの応答

完了コードと理由コードを調べて、失敗の原因を判別する。

CSQ0214E

csect-name メッセージ保護の初期化に失敗しました。戻りコード *rc*、理由 *reason*

重大度

8

説明

保護されたキューのオープン処理中に保護の初期化に失敗した。

システム・アクション

オープン要求は失敗する。

システム・プログラマーの応答

完了コードと理由コードを調べて、失敗の原因を判別する。詳しくは、z/OS 暗号サービス・システムの [SSL プログラミングの資料のメッセージおよびコード](#) を参照してください。

CSQ0215E

csect-name メッセージ保護に失敗しました。戻りコード *rc*、理由 *reason*

重大度

8

説明

PUT 処理中にメッセージを保護しようとして失敗した。

システム・アクション

メッセージはキューに書き込まれない。

システム・プログラマーの応答

完了コードと理由コードを調べて、失敗の原因を判別する。詳しくは、z/OS 暗号サービス・システムの [SSL プログラミングの資料のメッセージおよびコード](#) を参照してください。

CSQ0216E

csect-name メッセージの保護解除に失敗しました。戻りコード *rc*、理由 *reason*

重大度

8

説明

GET 処理中に、保護されたメッセージを処理しようとして失敗した。

システム・アクション

失敗した操作が破壊的な取得であった場合、メッセージは可能な限りエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動される。

システム・プログラマーの応答

完了コードと理由コードを調べて、失敗の原因を判別する。詳しくは、z/OS 暗号サービス・システムの [SSL プログラミングの資料のメッセージおよびコード](#) を参照してください。

CSQ0217E

csect-name オブジェクト '*objname*' の処理に失敗しました

重大度

8

説明

objname という名前のオブジェクトについて、保護されたメッセージを初期化、保護、または処理しようとして失敗した。

システム・アクション

オープン、GET、または PUT 要求は失敗する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージの前後のコンソール・メッセージを調べて、詳細を確認します。

CSQ0218E

csect-name qname に対するプライバシー・ポリシーが無効です。受信側がありません。

重大度

8

説明

オープンまたは PUT1 の処理中に、オブジェクト *qname* に対してプライバシー・ポリシーが規定されたが、ポリシーの受信側を識別できなかった。

システム・アクション

オープンまたは PUT1 要求は失敗する。

システム・プログラマーの応答

オブジェクト *qname* に対する保護ポリシーを変更または削除する。

CSQ0219E

csect-name qname に対するメッセージ検証エラーです

重大度

8

説明

PUT または GET 処理中にメッセージを処理しようとしたとき、予期しないヘッダー値またはオフセットのために失敗した。

システム・アクション

PUT または GET 操作は失敗する。

GET 処理の場合、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動する。

システム・プログラマーの応答

失敗したメッセージを調べて、問題の原因を判別する。

CSQ0220E

csect-name 暗号化の強度を使用できません

重大度

8

説明

GET 処理中に、保護されたメッセージが暗号化の強度を指定しなかった。

システム・アクション

読み取り要求は失敗し、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動されます。

システム・プログラマーの応答

エラー・キュー上のメッセージを調べて、メッセージの発信元と、正しく保護されなかった理由を判別する。

CSQ0221E

csect-name メッセージの暗号化強度 *encstr* は無効です

重大度

8

説明

GET 処理中に、保護されたメッセージが認識可能な暗号化強度を持っていなかった。

システム・アクション

読み取り要求は失敗し、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動されます。

システム・プログラマーの応答

エラー・キュー上のメッセージを調べて、メッセージの発信元と、有効な暗号化強度を持っていない理由を判別する。

暗号化アルゴリズムによっては、特定のプラットフォームでのみサポートされ、他のプラットフォームではサポートされないことがある。

CSQ0222E

csect-name メッセージの暗号化強度 *encstr* はポリシーと矛盾しています

重大度

8

説明

GET 処理中に、保護されたメッセージが、予期される暗号化強度と一致する暗号化アルゴリズムを使用しなかった。

システム・アクション

読み取り要求は失敗し、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動されます。

システム・プログラマーの応答

エラー・キュー上のメッセージを調べて、メッセージの発信元と、予期される暗号化強度と暗号化アルゴリズムが一致しない理由を判別する。

暗号化アルゴリズムによっては、特定のプラットフォームでのみサポートされ、他のプラットフォームではサポートされないことがある。

CSQ0223E

csect-name メッセージ・サイズ *m-size* はヘッダー・サイズ *h-size* または元のサイズ *o-size* と矛盾しています

重大度

8

説明

GET 処理中に、保護されたメッセージのヘッダー・サイズまたはメッセージ全体のサイズが、元の保護されていないメッセージと一致しないことが検出された。

システム・アクション

読み取り要求は失敗し、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動されます。

システム・プログラマーの応答

エラー・キュー上のメッセージを調べて、元の保護されていないメッセージと長さが矛盾する理由を判別する。

CSQ0224E

csect-name メッセージ・バッファの長さ *m-size* が短すぎます

重大度

8

説明

GET 処理中に、保護されたメッセージの長さが不十分で標準の保護ヘッダーを収容できず、処理できなかった。

システム・アクション

読み取り要求は失敗し、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動されます。

システム・プログラマーの応答

エラー・キュー上のメッセージを調べて、長さが不十分な理由を判別する。

CSQ0225E

csect-name メッセージ・ヘッダーを受け付けられません。構造体 ID は '*strucid*' です

重大度

8

説明

GET 処理中に、保護されたメッセージに予期される保護ヘッダー目印がなく、代わりに *strucid* がありました

システム・アクション

読み取り要求は失敗し、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動されます。

システム・プログラマーの応答

エラー・キュー上のメッセージを調べて、保護ヘッダーが無効な理由を判別する。

CSQ0226E

csect-name ヘッダーのバージョンがサポートされていません

重大度

8

説明

GET 処理中に、保護されたメッセージの保護ヘッダーが予期されるバージョンではなかった。

システム・アクション

読み取り要求は失敗し、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動されます。

システム・プログラマーの応答

エラー・キュー上のメッセージを調べて、保護ヘッダーが無効な理由を判別する。

CSQ0227E

csect-name メッセージ署名アルゴリズム *sig-alg* が無効です

重大度

8

説明

GET 処理中に、保護されたメッセージに認識可能な署名アルゴリズムが含まれていなかった。

システム・アクション

読み取り要求は失敗し、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動されます。

システム・プログラマーの応答

エラー・キュー上のメッセージを調べて、メッセージの発信元と、有効な署名アルゴリズムが含まれない理由を判別する。署名アルゴリズムによっては、特定のプラットフォームでのみサポートされ、他のプラットフォームではサポートされないことがある。

CSQ0228E

csect-name メッセージ署名アルゴリズム *sig-alg* はポリシーと矛盾しています

重大度

8

説明

GET 処理中に、保護されたメッセージが、予期される署名強度と一致する署名アルゴリズムを使用しなかった。

システム・アクション

読み取り要求は失敗し、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動されます。

システム・プログラマーの応答

エラー・キュー上のメッセージを調べて、メッセージの発信元と、予期される署名強度に署名アルゴリズムが一致しない理由を判別する。署名アルゴリズムによっては、特定のプラットフォームでのみサポートされ、他のプラットフォームではサポートされないことがある。

CSQ0229E

csect-name 送信側の識別名を検証できません

重大度

8

説明

GET 処理中に、メッセージ送信側の識別名が存在せず、検証できなかった。

システム・アクション

読み取り要求は失敗し、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動されます。

システム・プログラマーの応答

エラー・キュー上のメッセージを調べて、メッセージの送信側の識別名が存在しない理由を判別する。

CSQ0230E

csect-name 構造体 ID *strucid* は形式名 *format* に対して無効です

重大度

8

説明

メッセージ保護処理中に、示されているメッセージ形式に対して予期される値をメッセージ・ヘッダーが持っていなかった。

システム・アクション

MQI 呼び出しは失敗する。GET 要求の場合、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動されます。

システム・プログラマーの応答

失敗したメッセージの形式とヘッダーを調べて、問題の原因を判別する。

CSQ0231E

csect-name バージョン *version* は、構造体 *strucid*、形式名 *format* に対して認識されません

重大度

8

説明

メッセージ保護処理中に、示されているメッセージ形式およびヘッダーに対して予期される値をメッセージ・ヘッダー・バージョンが持っていなかった。

システム・アクション

MQI 呼び出しは失敗する。GET 要求の場合、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動する。

システム・プログラマーの応答

失敗したメッセージの形式とヘッダーを調べて、問題の原因を判別する。

CSQ0232E

csect-name バッファの長さが形式名 *format* に対して不足しています

重大度

8

説明

メッセージ保護処理中に、示されているメッセージ形式のヘッダーの長さを収容するにはメッセージの長さが不足していた。

システム・アクション

MQI 呼び出しは失敗する。GET 要求の場合、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動する。

システム・プログラマーの応答

失敗したメッセージの形式とヘッダーを調べて、問題の原因を判別する。

CSQ0233E

csect-name メッセージのサイズ *msg-size* が元のサイズ *orig-size* と一致しません

重大度

8

説明

GET 処理中に、保護されたメッセージの長さが、保護される前のメッセージの元の長さに解決されなかった。

システム・アクション

読み取り要求は失敗し、メッセージはエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に移動されます。

システム・プログラマーの応答

エラー・キュー上のメッセージを調べて、予期される長さと異なっている理由を判別する。

CSQ0234I

queue-name の *csect-name* ポリシーが定義されていないため、メッセージ保護は除去されません

重大度

0

説明

CHLTYPE が SDR または SVR のチャンネルで SPLPROT(REMOVE) が指定されましたが、伝送キューの AMS ポリシーが定義されていません。

チャンネルは開始されますが、伝送キューから取得されたメッセージから保護は除去されません。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ保護を除去する場合は、伝送キューの AMS ポリシーを定義し、AMS ポリシーをリフレッシュした後、チャンネルを停止してから再始動する。

CSQ0240E

csect-name qname のエラー・キュー処理のためのストレージがありません

重大度

8

説明

GET 処理中に、ストレージ不足のため、保護処理に失敗したメッセージをエラー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE** に書き込めなかった。

システム・アクション

GET 要求は失敗し、メッセージはキュー *qname* 上に残る。

システム・プログラマーの応答

ストレージ不足の原因を判別し、GET 操作を再試行する。

CSQ0400I

CSQ0UTIL IBM MQ AMS (z/OS *vrm* の場合)

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティー CSQ0UTIL のユーティリティー・バージョン *v*、リリース *r*、修正レベル *m* が始動中。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0401I

Queue Manager 保護ポリシー・ユーティリティー

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティー CSQ0UTIL が始動した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0402I

コマンド名: *command*

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーがポリシー・コマンド *command* を処理している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0403I

引数: *args*

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーが、現在のポリシー・コマンドについて引数 *args* を処理している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0404E

使用可能なストレージが不足していてコマンドを実行できません

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーが入力コマンドを処理するためのストレージを割り振れなかった。

システム・アクション

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、現在の入力コマンドを実行せずに終了する。

システム・プログラマーの応答

ポリシー・ユーティリティー用のストレージが不足している理由を判別し、問題を解決した後でユーティリティーを再実行する。

CSQ0405E

行 *line number* のコマンド *cmd-number* を実行中にエラーが発生しました

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーが、入力の行 *line-number* のコマンド *cmd-number* を処理中にエラーが発生した。

システム・アクション

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、行 *line-number* にある *cmd-number* によって識別されるコマンドの処理に失敗する。

システム・プログラマーの応答

失敗したコマンドと関連するメッセージを調べて、失敗の原因を判別する。

CSQ0406E

行 *line-number* のコマンドは無効です。有効なコマンドは SETMQSPL および DSPMQSPL です

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力の行 *line-number* にある入力コマンドを認識しなかった。

システム・アクション

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、行 *line-number* にあるコマンドを処理しない。

システム・プログラマーの応答

入力コマンドを **SETMQSPL** または **DSPMQSPL** のいずれかに変更する。

CSQ0407E

行 *line-number* の引用符付きストリングに終了引用符がありません

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、行 *line-number* にある入力コマンドの処理中に対応する引用符を検出できなかった。

システム・アクション

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、行 *line-number* にあるコマンドを処理しない。

システム・プログラマーの応答

行 *line-number* にあるコマンドの引数で、一致する引用符を使用するように変更する。

CSQ0408I

cmd-count 個のポリシー・コマンドが正常に完了しました

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、*cmd-count* 個のコマンドを正常に処理した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0409I

入力の末尾に到達しました。 *num-line* 行を読み取りました

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、*num-line* 行を読み取った後、入力の末尾に到達した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0410E

SYSIN データ・セットのオープン・エラーです

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力コマンドを読み取るための標準入力 (SYSIN DD) をオープンできなかった。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

SYSIN DD を使用できない理由を判別して問題を解決した後、ポリシー・ユーティリティーを再実行する。

CSQ0411E

予期しない内部エラーです

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力コマンドを認識しなかった。

システム・アクション

入力コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力を調べて、入力が有効なコマンドと有効なパラメーターを表していることを検査する。

CSQ0412I

ポリシー名: *policy-name*

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、*policy-name* によって識別されるポリシーに関する情報を表示している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0413I

暗号化アルゴリズム: *enc-alg*

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、特定のポリシーの暗号化アルゴリズム *enc-alg* を表示している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0414I

受信側の DN: *recipient-dns*

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、特定のポリシーの受信側の識別名 *recipient-dns* を表示している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0415I

署名アルゴリズム: *sig-alg*

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、特定のポリシーの署名アルゴリズム *sig-alg* を表示している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0416I

署名者の DN: *signer-dns*

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティは、特定のポリシーの署名者の識別名 *signer-dns* を表示している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0417I

保護品質: *qop*

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティは、特定のポリシーの保護品質 *qop* を表示している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0418I

容認: *toleration-flag*

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティは、特定のポリシーの容認フラグ *toleration-flag* を表示している。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0447E

EXPORT DD のオープンに失敗しました。STDOUT にエクスポートしています

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティは、*-export* 要求を処理するための EXPORT DD をオープンできなかった。

システム・アクション

ポリシー・エクスポートは STDOUT に送られる。

システム・プログラマーの応答

EXPORT DD を使用できない理由を判別して問題を解決した後、ポリシー・ユーティリティを再実行する。

CSQ0448E

コマンドが失敗しました。

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力コマンドを正常に処理できなかった。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

関連するメッセージを調べて、コマンドが失敗した理由を判別し、失敗した入力コマンドを訂正する。

CSQ0449I

コマンドが成功しました

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力コマンドを正常に処理した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0450E

構文エラーです。 使用法: setmqspl -m (qm) -p (policy) -s (sigalg) -a (signer DN) -e (encalg) -r (receiver DN)

重大度

8

説明

コマンド構文に間違いがあるため、Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーはコマンドを解釈できなかった。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

失敗したコマンドの構文を訂正した後、再試行する。

CSQ0451E

キュー・マネージャー名が無効です: *qmgr-name*

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力コマンドの処理中に無効なキュー・マネージャー名値 *qmgr-name* を検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

入力コマンドのキュー・マネージャー名値を訂正した後、再試行する。

CSQ0452E

ポリシー名が無効です: *policy-name*

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力コマンドの処理中に無効なポリシー名を検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

入力コマンドのポリシー名値を訂正した後、再試行する。

CSQ0453E

無効な暗号化アルゴリズム

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力コマンドの処理中に無効な暗号化アルゴリズムを検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

入力コマンドの暗号化アルゴリズム値を訂正した後、再試行する。

CSQ0454E

無効な署名アルゴリズム

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力コマンドの処理中に無効な署名アルゴリズムを検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

入力コマンドの署名アルゴリズム値を訂正した後、再試行する。

CSQ0455E

暗号化では署名アルゴリズムを使用する必要があります

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、暗号化アルゴリズムを指定しているが、有効な署名アルゴリズムは指定していない、無効なコマンドを検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

プライバシー保護ポリシーを定義するときは、有効な暗号化アルゴリズムと有効な署名アルゴリズムの両方を提供する。

CSQ0456E

暗号化では受信側の DN を指定する必要があります (-r)

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、暗号化アルゴリズムを指定しているが、-r パラメーターを使用して少なくとも 1 つの受信側 DN を指定してはいない、無効なコマンドを検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

プライバシー保護ポリシーを定義するときには、暗号化アルゴリズムと少なくとも 1 つの受信側 DN の両方を指定する。

CSQ0457E

指定された受信側 DN が無効です: *receiver-dn*

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力コマンドの処理中に無効な受信側識別名 *receiver-dn* を検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

入力コマンドの受信側識別名を訂正した後、再試行する。

CSQ0458E

受信側 DN が指定されていますが、暗号化が有効になっていません

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、`-e` パラメーターの処理中に、少なくとも 1 つの受信側 DN を指定しているが、暗号化アルゴリズムを指定していない、無効なコマンドを検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

プライバシー保護ポリシーを定義するときには、暗号化アルゴリズムと少なくとも 1 つの受信側 DN の両方を指定する。

CSQ0459E

指定された署名者 DN が無効です: *signer-dn*

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力コマンドの処理中に無効な署名者識別名 *signer-dn* を検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

入力コマンドの署名者識別名の値を訂正した後、再試行する。

CSQ0460E

署名者 DN が指定されていますが、署名が有効になっていません

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、`-a` パラメーターを使用して少なくとも 1 つの署名者 DN を指定しているが、`-s` パラメーターを使用して署名アルゴリズムを指定していない、無効なコマンドを検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

プライバシー保護ポリシーを定義するときには、暗号化アルゴリズムと少なくとも 1 つの受信側 DN の両方を指定する。

CSQ0461E

キュー **SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE** を使用できません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

mqcc および *mqrc* によって識別されるエラーのため、Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーはポリシー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE** をオープンできませんでした (*mqrc-text* はテキスト形式で MQRC を提供します)。

システム・アクション

処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

ポリシー・キューを使用できなかった理由を *mqcc* および *mqrc* を使用して判別し、問題を解決する。

CSQ0462E

保護ポリシーを取得できませんでした。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、*mqcc* および *mqrc* によって識別されるエラーのために、ポリシー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE** からポリシーを取得できませんでした (*mqrc-text* は MQRC をテキスト形式で提供します)。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

ポリシー・キューからポリシーを取得できなかった理由を判別し、問題を解決する。

CSQ0463E

並行更新が原因でポリシーの更新に失敗しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、ポリシーを更新または作成しようとしたときに、同じポリシーが別のプロセスによって変更されたことを検出した。この原因となったエラーは、*mqcc* および *mqrc* で識別される (*mqrc-text* は MQRC のテキスト形式)。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

ポリシーが正しいことを検査してから、必要ならポリシーを再更新する。

CSQ0464E

ポリシー定義が見つかりません。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、*mqcc* および *mqrc* によって識別されるエラーのために、ポリシーが予期されるときにポリシー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE** でポリシーを検出できませんでした (*mqrc-text* はテキスト形式で MQRC を提供します)。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

ポリシー・キューからポリシーを取得できなかった理由を判別し、問題を解決する。

CSQ0465E

予期しないエラーが発生しました。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力コマンドの処理中に、*mqcc* および *mqrc* で識別される予期しない MQI エラーを検出した (*mqrc-text* は MQRC のテキスト形式)。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

MQI エラーの理由を判別し、問題を解決する。

CSQ0466E

容認フラグに無効な値が指定されました。0 または 1 のいずれか 1 つを指定してください

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、容認パラメーターに無効な値を検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

ポリシーを作成または変更するときには、容認パラメーターに 0 (false) または 1 (true) の値を使用する。

CSQ0467E

キュー・マネージャーに接続できませんでした。MQCC=*mqcc* MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、入力コマンドの追加処理を行うために入力キュー・マネージャーに接続することができなかった。この原因となったエラーは、*mqcc* および *mqrc* で識別される (*mqrc-text* は MQRC のテキスト形式)。

システム・アクション

処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを使用できなかった理由を判別し、問題を解決する。

CSQ0468I

ポリシーが見つかりません

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、指定されたパラメーターに一致するポリシーを検索できなかった。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0469E

鍵再使用引数で無効値が指定されました

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、鍵再使用パラメーターの無効値を検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

ポリシーの作成時または変更時に鍵再使用パラメーターで有効な値を使用する。

CSQ0470E

構文エラーです。 使用法: dspmqspl -m (qm) -p (policy) -export

重大度

8

説明

構文に間違いがあるため、Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーはコマンドを解釈できなかった。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

失敗したコマンドの構文を訂正した後、再試行する。

CSQ0471E

ポリシーでは鍵再使用は無効:

重大度

8

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、対称鍵の再使用を認めないポリシーの鍵再使用パラメーターでゼロ以外の値を指定した無効なコマンドを検出した。

システム・アクション

現在のコマンドは処理されません。Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティーは、次の入力コマンドがある場合には、その処理を試みます。

システム・プログラマーの応答

鍵再使用パラメーターに値 0 を指定するか (鍵再使用は無効)、対称鍵の再使用を許可する保護品質 (機密性など) を使用するようにポリシーを変更してください。

CSQ0499I

CSQ0UTIL ユーティリティーが完了しました。戻りコード = *retcode*

重大度

0

説明

Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティー CSQ0UTIL が、戻りコード *retcode* で完了した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティーが正常に完了しなかった場合は、出力にある他のメッセージを参照して、エラーの原因を判別する。

CSQ0501I

csect-name レコード・タイプ *record-type* の SMF 記録が有効になりました

重大度

0

説明

Advanced Message Security が、レコード・タイプ *record-type* の SMF レコード生成を有効にした。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0502I

csect-name SMF 記録が無効にされました

重大度

0

説明

Advanced Message Security が SMF レコード生成を無効にした。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0503I

csect-name SMF レコードの書き込みに失敗しました。戻りコード *retcode*

重大度

8

説明

メッセージ保護処理中に SMFEWTM を使用して SMF 監査レコードを生成しようとして、戻りコード *retcode* で失敗した。

システム・アクション

SMF レコードは生成されない。

システム・プログラマーの応答

retcode および SMFEWTM マクロの資料を調べ、失敗の原因を判別する。

CSQ0600I

csect-name IBM MQ AMS for z/OS、*version*、*service-level*

重大度

0

説明

Advanced Message Security タスクが、バージョン *version* およびサービス・レベル *service-level* で実行されている。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0601I

csect-name 環境変数 *varname* の値が無効です。デフォルト値 '*value*' を使用します

重大度

8

説明

Advanced Message Security 環境変数 *varname* に無効な値が設定されたため、その変数に対してデフォルト値 *value* が使用されることになった。

システム・アクション

名前を挙げられた環境変数にデフォルト値を設定して、処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

デフォルト値を許容できない場合は、環境変数に割り当てる値を有効値に変更する。

CSQ0602I

csect-name AMS の初期化が完了しました

重大度

0

説明

Advanced Message Security タスクの初期化が完了した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0603I

csect-name AMS のシャットダウンが要求されました

重大度

0

説明

Advanced Message Security タスクがシャットダウン要求を受け取った。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0604I

csect-name 処理された LOG オプション: *log-option*

重大度

0

説明

Advanced Message Security タスクが、ログ・オプション *log-option* の LOG コマンドを処理した。

システム・アクション

新しいログ・オプションで処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0605E

csect-name 間違った LOG オプションが指定されました

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが LOG コマンドを処理しようとしたが、ログ・オプションが無効なために失敗した。

システム・アクション

LOG コマンドが有効にならない。

システム・プログラマーの応答

LOG オプションを訂正し、LOG コマンドを再試行する。

CSQ0606E

csect-name 認識できないコマンドです。次のいずれかを指定してください: **DISPLAY**、**REFRESH**、**LOG**、**SMFTYPE**、**SMFAUDIT**、または **STOP**

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクがコマンドを処理しようとしたが、コマンドを認識できないために失敗した。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

有効なコマンドを選択し、再試行する。

有効なコマンドは、 **DISPLAY**、 **REFRESH**、 **LOG**、 **SMFTYPE**、 **SMFAUDIT**、 および **STOP** です。

CSQ0607E

csect-name 使用可能なストレージが不足しています

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクがストレージを割り振れなかった。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクによって実行される機能が失敗する。

システム・プログラマーの応答

ストレージが不足している理由を判別し、必要に応じて訂正するか、増やす。

CSQ0608E

csect-name ポリシー構成をロードできませんでした。MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが、理由 *mqrc* のため、ポリシー構成をロードできなかった (*mqrc-text* は MQRC のテキスト形式)。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクは開始できません。

システム・プログラマーの応答

理由コード *mqrc* を使用して、ポリシー構成をポリシー・キュー **SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE** からロードできなかった理由を判別する。

キュー・マネージャーを開始できない場合、CSQINP2 連結内にキューを定義できます。Advanced Message Security に必要なキューの定義は、SCSQPROC メンバー CSQ4INSM 内にある。

CSQ0609I

csect-name AMS for z/OS が始動しています。バージョン *version*、レベル *service-level*

重大度

0

説明

Advanced Message Security タスクが、製品バージョン *version* およびサービス・レベル *service-level* で開始された。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0610E

csect-name ポリシー・サブタスクを開始できませんでした。エラー *errcode*、理由 *reason*

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクがポリシー構成サブタスクを開始しようとして、`errno errcode` および `errno2 reason` で失敗した。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクは開始できません。

システム・プログラマーの応答

ポリシー構成サブタスクを開始できなかった理由をエラー・コードと理由コードを使用して判別した後、訂正処置を実行する。

CSQ0611E

`csect-name` AMS アドレス・スペースをスワップ不可にすることができませんでした。エラー `errcode`

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが自身をスワップ不可にしようとして、エラー・コード `errcode` で失敗した。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクは開始できません。

システム・プログラマーの応答

`errcode` に示されているエラーは、SYSEVENT マクロからの戻りコードの可能性がある。マクロの資料を使用して SYSEVENT の失敗の原因を判別する。

CSQ0612E

`csect-name` システム機能 '`function`' が失敗しました

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが実行時呼び出し `function` を使用しようとして、失敗した。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクは、失敗の時点で提供していたサービスの処理を続行できない。

システム・プログラマーの応答

このメッセージには、失敗の時点で生成された他のメッセージが関連しています。それらのメッセージを調べて詳細を確認します。含まれているエラー・コードから失敗の原因を識別できる可能性があります。

CSQ0613E

`csect-name` AMS 初期化エラー `errno`、理由 `errno2`

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが、実行時呼び出しの失敗のため、初期化できなかった。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクは開始できません。

システム・プログラマーの応答

このメッセージには、失敗の時点で生成された他のメッセージが関連しています。それらのメッセージを調べて詳細を確認し、エラー・コードを使用して失敗の原因を判別します。

CSQ0614E

csect-name AMS 終了エラー *errno*、理由 *reason*

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが、実行時呼び出しの失敗のため、終了できなかった。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクの終了処理が継続される。

システム・プログラマーの応答

このメッセージには、失敗の時点で生成された他のメッセージが関連しています。それらのメッセージを調べて詳細を確認し、エラー・コードを使用して失敗の原因を判別します。

CSQ0615E

csect-name AMS POST/WAIT 要求が失敗しました。理由 *reason*

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが POST 要求または待ち要求を発行しようとして、理由 *reason* のために失敗した。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクは、失敗の時点で提供していたサービスの処理を続行できない。

システム・プログラマーの応答

reason に示されているエラーは、POST または WAIT マクロからの戻りコードの可能性があり、マクロの資料を使用して、失敗の原因を判別する。

CSQ0616E

csect-name AMS ランタイム環境の初期化に失敗しました

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが初期化に失敗した。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクは開始できません。

システム・プログラマーの応答

関連するメッセージを調べて失敗に関する詳細を確認し、修正処置を実行する。

CSQ0617E

csect-name AMS は既にアクティブです

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクを開始しようとしたが、そのタスクが既に実行中であったため、失敗した。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクは、既に実行中の状態では開始できない。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0618E

csect-name AMS の初期化に失敗しました。プログラムに APF 許可がありません

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクを開始しようとしたが、モジュール CSQ0DSRV に APF 許可がないため、失敗した。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクは開始できません。

システム・プログラマーの応答

AMS タスク・モジュールに APF 許可があることを確認し、再試行する。

CSQ0619I

csect-name AMSPROD=*prod-value*、*product-name* 製品 ID *product-id* の製品の使用状況を記録しています

説明

このメッセージは、AMS の開始時、および SMF 89 製品使用状況レコードが AMS によって記録される場合に発行される。

prod-value は AMSPROD に定義された値であり、ブランクにすることができます (*prod-value* の設定方法については、[START QMGR](#) を参照してください)。

product-name は製品の記述名

product-id は SMF 89 データで使用される製品 ID

以下に例を示します。

- AMSPROD=AMS、IBM MQ for z/OS AMS 製品 ID 5655-AM9 の製品の使用状況を記録しています - これは、使用状況データが IBM MQ for z/OS AMS 製品について収集されることを示す。
- AMSPROD=ADVANCEDVUE、IBM MQ Advanced for z/OS Value Unit Edition 製品 ID 5655-AV1 の製品の使用状況を記録しています - これは、使用状況データが IBM MQ Advanced for z/OS Value Unit Edition 製品について収集されることを示す。

製品の使用記録について詳しくは、「[z/OS MVS Product Management](#)」を参照してください。

CSQ0624E

csect-name SMF 監査オプションが無効です。デフォルトの 'failure' を使用しています

重大度

8

説明

`_AMS_SMF_AUDIT` 環境変数または SMFAUDIT コマンドを処理しようとして、変数またはコマンドの値を認識できなかったため、失敗した。

システム・アクション

変数への割り当てまたはコマンドが無視され、デフォルト値 'failure' が使用される。

システム・プログラマーの応答

変数またはコマンドに有効な値を指定する。有効な値は、'success'、'failure'、および 'all'。

CSQ0625E

csect-name SMF レコード・タイプが無効です

重大度

8

説明

`_AMS_SMF_TYPE` 環境変数または `SMFTYPE` コマンドを処理しようとして、変数またはコマンドの値が無効だったため、失敗した。

システム・アクション

変数への割り当てまたはコマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

変数またはコマンドに有効な値を指定する。有効な値は、0 以上、255 以下の数値である。SMFTYPE 値は、SMF レコード生成の SMF レコード・タイプを表す。値 0 は、SMF レコード生成が必要ないことを意味する。推奨値は 180。

CSQ0626I

csect-name SMF 監査タイプは *audit-type* です

重大度

0

説明

Advanced Message Security の SMF 監査タイプが *audit-type* に設定された。

システム・アクション

新しい SMF 監査タイプは直ちに有効になる。*audit-type* が 'failure' の場合は、保護されたキューに対する失敗したすべての PUT/GET が監査される。*audit-type* が 'success' の場合は、保護されたキューに対する成功したすべての PUT/GET が監査される。*audit-type* が 'all' の場合は、保護されたキューに対する PUT/GET のうち成功したものと失敗したものの両方が監査される。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0629E

csect-name ユーザー '*userid*' に対するセキュリティー環境を作成できません。理由 *errno*

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが `pthread_security_np()` を使用してユーザー *userid* に対するスレッド・レベルのセキュリティー環境を作成しようとしたが、*errno* および *errno2* によって示されている理由で失敗した。

システム・アクション

スレッド・レベルのセキュリティー環境は作成されず、処理中の AMS 機能は完了できない。MQI 呼び出しは失敗する。

システム・プログラマーの応答

errno および *errno2* 値を `pthread_security_np()` の資料と照らし合わせて、失敗の原因を判別する。

CSQ0630E

csect-name セキュリティー環境を削除できません。理由 *errno*

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが `pthread_security_np()` を使用してスレッド・レベルのセキュリティー環境を削除しようとしたが、*errno* によって示されている理由で失敗した。

システム・アクション

スレッド・レベルのセキュリティー環境は削除されない。AMS 処理は続行する。

システム・プログラマーの応答

errno 値を `pthread_security_np()` の資料と照らし合わせて、失敗の原因を判別する。

CSQ0631E

csect-name AMS は開始していません。製品が使用可能ではありません

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクがマクロ IFAEDREG を使用して自身を登録しようとして、失敗した。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクは開始できません。

システム・プログラマーの応答

提供された AMS 製品情報を使用して PARMLIB IFAPRDxx メンバーを構築したことを確認した後、再試行する。

CSQ0632E

csect-name AMS 登録解除に失敗しました。理由 *reason*

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクがマクロ IFAEDDRG を使用して自身を登録解除しようとして、失敗した。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクの登録解除を実行できない。処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

IFAEDDRG マクロから返された理由をマクロの資料と照らし合わせて、失敗の原因を判別する。

CSQ0633I

csect-name AMS 環境変数の値:

重大度

0

説明

Advanced Message Security タスクが、このメッセージの後に示す環境変数と値を識別した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0634I

csect-name variable=value

重大度

0

説明

開始中に、Advanced Message Security タスクはこのメッセージを発行して環境変数 *variable* とその値 *value* を報告する。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0635I

csect-name POLICY リフレッシュが完了しました

重大度

0

説明

Advanced Message Security タスクは、**REFRESH** コマンドへの応答として自身のポリシー構成をリフレッシュした。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0636I

csect-name POLICY リフレッシュに失敗しました

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクは、自身のポリシー構成をリフレッシュしようとして失敗した。

システム・アクション

ポリシー構成はリフレッシュされない。

システム・プログラマーの応答

関連するエラー・メッセージをコンソールで調べ、失敗の原因を判別する。

CSQ0637I

csect-name KEYSRING リフレッシュが完了しました

重大度

0

説明

Advanced Message Security タスクは、**REFRESH** コマンドへの応答として自身の鍵リング構成をリフレッシュした。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0638E

csect-name KEYRING リフレッシュに失敗しました。戻りコード *errno*

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクは、自身の鍵リング構成をリフレッシュしようとして、*errno* によって示されている理由で失敗した。

システム・アクション

鍵リング構成はリフレッシュされない。

システム・プログラマーの応答

関連するエラー・メッセージをコンソールで調べ、失敗の原因を判別する。*errno* (System SSL *gsk_status* を表している可能性がある) を使用して、さらに問題を診断する。

CSQ0639E

csect-name 正しくない **REFRESH** オプションです。KEYRING、POLICY、または ALL を指定してください

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが **REFRESH** コマンドを処理しようとして、リフレッシュ・オプションを認識できなかったために失敗した。

システム・アクション

REFRESH コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

どのオプションをリフレッシュする必要があるかに応じて、**REFRESH** オプションが KEYRING、POLICY、または ALL であることを確認する。

CSQ0640E

csect-name AMS が正しく開始していません

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが正しく開始しなかった。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクの開始が失敗する。

システム・プログラマーの応答

Advanced Message Security タスクは、内部的に IBM MQ によってのみ開始できる。

CSQ0641I

csect-name **REFRESH** コマンドが正常に完了しました

重大度

0

説明

Advanced Message Security タスクは、**REFRESH** コマンドを正常に処理した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0642I

csect-name **REFRESH** コマンドが失敗しました

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクは、**REFRESH** コマンドを正常に処理できなかった。

システム・アクション

要求された **REFRESH** コマンドは処理されない。

システム・プログラマーの応答

関連するエラー・メッセージをコンソールで調べ、問題の原因を判別する。

CSQ0648E

csect-name AMS 鍵リングをオープンできませんでした。理由 *gsk-status*

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクは、自身の鍵リングをオープンしようとして、*gsk-status* によって示されている理由で失敗した。

システム・アクション

AMS 鍵リングがオープンされておらず、AMS タスクを開始できません。

システム・プログラマーの応答

gsk_open_keyring() 呼び出しに関連するシステム SSL の資料と *gsk-status* コードを照らし合わせて、失敗の原因を判別する。

CSQ0649E

csect-name CRL の初期化に失敗しました

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクは、CRLFILE DD で提供された構成に基づいて LDAP サーバーに接続しようとして失敗した。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクは、証明書取り消しリスト (CRL) のチェックを実行できない。証明書の妥当性検査の動作は、システム SSL 環境変数 *GSK_CRL_SECURITY_LEVEL* によって決まる。詳細については、システム SSL の資料を参照。

システム・プログラマーの応答

AMS 開始済みタスク JCL 内の CRLFILE DD によって提供された構成を確認し、構成の詳細が正しいことを検査する。

CSQ0651E

csect-name CRL LDAP *ldap-name* をオープンできませんでした

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクが LDAP ディレクトリー *ldap-name* をオープンしようとして失敗した。

システム・アクション

Advanced Message Security タスクは、指定された LDAP ディレクトリーに対して証明書取り消しリスト (CRL) のチェックを実行できない。証明書の妥当性検査の動作は、システム SSL 環境変数 GSK_CRL_SECURITY_LEVEL によって決まる。詳細については、システム SSL の資料を参照。

システム・プログラマーの応答

AMS 開始済みタスク JCL 内の CRLFILE DD に提供された構成を確認し、構成の詳細が正しいことを検査する。失敗したディレクトリーが使用可能であることを検査する。

CSQ0652I

csect-name CRL チェックが有効になりました

重大度

0

説明

Advanced Message Security タスクは、証明書取り消しリスト (CRL) のチェックを正常に有効にした。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0653I

csect-name CRL チェックが無効になりました

重大度

0

説明

Advanced Message Security タスクは、証明書取り消しリスト (CRL) のチェックを正常に無効にした。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0660E

csect-name 内部バージョンが一致しません

重大度

8

説明

Advanced Message Security タスクは、データ保護サービスに対する要求を受け取ったが、要求バージョンの値が認識できない。

システム・アクション

データ保護サービスを提供できない。

システム・プログラマーの応答

このエラーは、Advanced Message Security インターセプター以外のタスクが AMS データ保護サービスを利用しようとしたことを暗黙に示しています。AMS データ保護サービスを利用するには、必ず AMS インターセプターを使用する必要があります。

CSQ0699I

csect-name AMS のシャットダウンが完了しました

重大度

0

説明

Advanced Message Security タスクがシャットダウンした。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0996I

csect-name char-diag1、*char-diag2*、*char-diag3*、*char-diag4*、*hex-diag1*、*hex-diag2*

重大度

0

説明

このメッセージは、IBM サポートの指示に従って Advanced Message Security が DEBUG モードで実行されているときに生成され、問題解決に役立つ文字および 16 進数の診断値を提供します。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0997I

csect-name char-diag1、*char-diag2*、*char-diag3*、*hex-diag1*、*hex-diag2*、*hex-diag3*

重大度

0

説明

このメッセージは、IBM サポートの指示に従って Advanced Message Security が DEBUG モードで実行されているときに生成され、問題解決に役立つ文字および 16 進数の診断値を提供します。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0998I

csect-name char-diag1, char-diag2, hex-diag1, hex-diag2, hex-diag3, hex-diag4

重大度

0

説明

このメッセージは、IBM サポートの指示に従って Advanced Message Security が DEBUG モードで実行されているときに生成され、問題解決に役立つ文字および 16 進数の診断値を提供します。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ0999I

csect-name char-diag1, hex-diag1, hex-diag2, hex-diag3, hex-diag4, hex-diag5

重大度

0

説明

このメッセージは、IBM サポートの指示に従って Advanced Message Security が DEBUG モードで実行されているときに生成され、問題解決に役立つ文字および 16 進数の診断値を提供します。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

サービス機能メッセージ (CSQ1...)

後続のサービス機能メッセージの重大度に示される値は、そのメッセージが送出されたジョブ・ステップから、ジョブ・ステップ条件コードとして戻された値です。同じジョブ・ステップ中に、もっと大きな重大度値をもつ追加のメッセージが送出された場合には、大きな値の方がジョブ・ステップ条件コードとして反映されます。

ログ・サービス戻りコード

ログ・サービスで設定されている戻りコードは以下のとおりである。

0

正常終了。

4

例外条件 (例えば、ファイルの終わり)、エラーではない。

8

パラメーター・エラーによる異常終了。

12

異常終了。有効な要求の処理中にエラーが検出された。

CSQ1000I

csect-name IBM MQ for z/OS Vn

重大度

0

説明

このメッセージは、ログ印刷ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの最初の部分として送出される。

CSQ1100I

csect-name LOG PRINT UTILITY - *date time*

重大度

0

説明

このメッセージは、ログ印刷ユーティリティー・プログラムによって発行される報告書のヘッダーの2番目の部分として送出される。

CSQ1101I

csect-name ユーティリティー処理が完了しました。戻りコード=*rc*

重大度

0

説明

ログ印刷ユーティリティーが、示された戻りコード *rc* で完了した。0 は正常終了を意味する。

CSQ1102I

SEARCH CRITERIA

重大度

0

説明

この後に、ログの印刷用に指定された探索基準が示される。

CSQ1105I

ログ印刷ユーティリティー要約 - *date time*

重大度

0

説明

これは、ログ印刷ユーティリティーによって書き出される要約データ・セットへのヘッダーとして送出される。

CSQ1106I

要約の終わり

重大度

0

説明

これは、ログ印刷ユーティリティーによって書き出される要約データ・セットの終わりを示す。

CSQ1110E

50 ステートメントの制限を超えています。

重大度

8

説明

入力ステートメントの数が、CSQ1LOGP が個々のジョブ・ステップに対して許可している 50 個の制限を超えた。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

ステートメントの数を 50 以下に減らして、ジョブを再実行する。

CSQ1111E

80 トークンの制限超過

重大度

8

説明

キーワードおよび対応する値の数が、CSQ1LOGP によって許可されている 80 個の制限を超えた。キーワードとその値は、2つのトークンと見なされる。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

トークンの数を 80 以下に減らして、ジョブを再実行する。

CSQ1112E

TOKEN xxx... EXCEEDS 48 CHARACTERS

重大度

8

説明

入力ステートメントに xxx で始まる文字列が含まれる。この長さが 48 文字を超えるため、無効である。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

有効なトークンを使用して、ジョブを再実行する。

CSQ1113E

キーワード *kwd* の構文が無効です。

重大度

8

説明

入力ステートメントにキーワード *kwd* が含まれる。このキーワードに指定された値が *kwd*(*value*) の形式でないため、無効である。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい形式のキーワードを使用して、ジョブを再実行する。

CSQ1127E

キーワード *kwd* が不明です。

重大度

8

説明

CSQ1LOGP は、キーワード *kwd* を認識することができない。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

すべてのキーワードが有効であることを確かめ、ジョブを再実行する。

CSQ1128E

開始なしで指定されたログ範囲の終わり

重大度

8

説明

探索範囲の始め (RBASTART または LRSNSTART) を指定せずに、探索範囲の終わり (RBAEND または LRSNEND) を指定することはできない。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

指定した RBAEND または LRSNEND 値に対応する RBASTART または LRSNSTART 値を与えることにより、有効な探索範囲を指定して、ジョブを再実行する。

CSQ1129E

キーワード *kwd* が 10 個の制限を超えました。

重大度

8

説明

kwd キーワードが制御ステートメント内に多すぎる。キーワードは 10 個以内に制限されている。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

キーワードの数を 10 以下に減らして、ジョブを再実行する。

CSQ1130E

キーワード *kwd* 番号 *n* の値が無効です。

重大度

8

説明

n 個目のキーワード *kwd* の値に無効な文字が含まれるか、許されている値のリストにない、または長すぎるために無効である。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値を指定して、ジョブを再実行する。

CSQ1131E

キーワード *kwd* の値が無効です。

重大度

8

説明

キーワード *kwd* の値に無効な文字が含まれるか、許されている値のリストにない、または長すぎるために無効である。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値を指定して、ジョブを再実行する。

CSQ1132E

キーワード *kwd* 番号 *n* の値がありません。

重大度

8

説明

n 個目のキーワード *kwd* の後に値が指定されていない。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値を指定して、ジョブを再実行する。

CSQ1133E

キーワード *kwd* の値がありません。

重大度

8

説明

キーワード *kwd* の後に値が指定されていない。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

正しい値を指定して、ジョブを再実行する。

CSQ1134E

キーワードの抽出には、1つ以上の DDNAME が必要です

重大度

4

説明

キーワードの抽出には、抽出するログ・レコードに対して少なくとも1つの出力 DDNAME が必要です。

システム・アクション

処理は継続しますが、ログ・レコードは抽出されません。

システム・プログラマーの応答

EXTRACT (YES) を除去するか、あるいは **CSQBACK**、**CSQCMT**、**CSQBOTH**、**CSQINFLT**、**CSQOBSJS** のリストから DDNAME を追加してください。ジョブを再実行依頼してください。詳細については、[ログ印刷ユーティリティ \(CSQ1LOGP\)](#) を参照。

CSQ1135E

キーワード *kwd* が複数回指定されています。

重大度

8

説明

キーワード *kwd* は一度しか指定できない。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

キーワードの数を 1 に減らして、ジョブを再実行する。

CSQ1137I

再始動後の最初のページ・セット・コントロール = *r-rba*

重大度

0

説明

r-rba は、レコードのログ RBA であり、この点の直前から再始動が行われたことを暗黙的に示している。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1138E

kwd1 および *kwd2* の両方を指定することはできません。

説明

kwd1 および *kwd2* を同時に制御ステートメントに入れることはできない。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行する。

CSQ1139E

SYSSUMRY DD ステートメントなし

重大度

8

説明

SUMMARY オプションが要求されたが、JCL に SYSSUMRY DD ステートメントが含まれていなかった。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

JCL に SYSSUMRY DD ステートメントを含め、ジョブを再実行する。

CSQ1145E

現在の再始動タイム・スタンプの順序が不正です。時刻=*date time* ログ RBA=*t-rba*

重大度

4

説明

このメッセージは、現行のログ・レコードのタイム・スタンプが、これまでに処理された最大タイム・スタンプより小さいことを示している。これは、潜在的な問題である可能性がある。

このメッセージの後にメッセージ CSQ1147I および CSQ1148I が出され、認識されている最新のタイム・スタンプが示される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

現行のログを調べ、複数のキュー・マネージャーが同じログに書き込みを行っていないかどうかを判別する(データが上書きされている可能性がある)。これにより、データの矛盾が生じていることがある。

CSQ1146E

現在の終了チェックポイント・タイム・スタンプの順序が不正です。時刻=*date time* ログ RBA=*t-rba*

重大度

4

説明

このメッセージは、現行のログ・レコードのタイム・スタンプが、前に処理されたタイム・スタンプより小さいことを示している。これは、潜在的な問題である可能性がある。

このメッセージの後にメッセージ CSQ1147I および CSQ1148I が出され、認識されている最新のタイム・スタンプが示される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

現行のログを調べ、複数のキュー・マネージャーが同じログに書き込みを行っていないかどうかを判別する(データが上書きされている可能性がある)。これにより、データの矛盾が生じていることがある。

CSQ1147I

LATEST TIME STAMP SEEN SO FAR - TIME=*date time* LOG RBA=*t-rba*

重大度

4

説明

このメッセージは、メッセージ CSQ1145I または CSQ1146I に続いて出され、最新のタイム・スタンプを示す。

CSQ1148I

複数のキュー・マネージャーが同一のログに書き込んでいます。

重大度

4

説明

このメッセージは、メッセージ CSQ1145I または CSQ1146I に続いて出され、タイム・スタンプ問題の考えられる原因を示す。

CSQ1150I

完了したイベントの要約

重大度

0

説明

このメッセージの後に、完了した回復単位 (UR) および検査ポイントの要約が示される。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1151I

UR 接続 ID=*cc* スレッド XREF=*bb* ユーザー ID=*aa* 時刻=*date time* 開始=*s-rba* 終了=*e-rba* DISP=*xx*
INFO=*ii*

重大度

0

説明

このメッセージは、終了した回復単位を示している。

cc

接続 ID (例えば、BATCH)

bb

スレッド相互参照 ID (例えば、JOB xxx)

aa

この UR を実行したユーザー ID

date time

この UR の開始日時

s-rba

この UR に関連する最初のログ・レコードのログ RBA (すなわち、URID)

e-rba

この UR に関連する最後のログ・レコードのログ RBA。UR が完了していない場合、*e-rba* は '****' として示される。

xx

この UR の後処理。値は次のとおりである。

- INFLIGHT
- IN BACKOUT
- IN COMMIT
- INDOUBT
- COMMITTED
- BACKED OUT

ii

データの状況。次のいずれかである。

- COMPLETE。この UR によって修正されたすべてのページ・セットが識別されたことを示す。
- PARTIAL。この UR によって修正されたページ・セットのリストが不完全であることを示す (UR に関連するすべてのレコードが使用不能で、UR が完了する前に検査ポイントが見つからない場合に、この状況が示される)。

UR 識別情報が使用可能でない場合には、'****' として示される。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1153I

チェックポイント 開始=*s-rba* 終了=*e-rba* 時刻=*date time*

重大度

0

説明

このメッセージは、ログの RBA *s-rba* から始まり、RBA *e-rba* で終わる完全な検査ポイントを示している。情報が使用可能であれば、CSQ1LOGP は、検査ポイントが完了した日付と時刻も戻す。

このメッセージは、メッセージ CSQ1157I の後に出された場合には、再始動に使用される検査ポイントを識別する。使用可能な検査ポイントがない場合は、代わりにメッセージ CSQ1158I が印刷される。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1154I

r-rba で再始動 時刻=*date time*

重大度

0

説明

ログ RBA *r-rba* から正常の再始動が行われた。CSQ1LOGP は、その再始動の日付と時刻も戻す。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1155I

CONDITIONAL RESTART AT *r-rba* TIME=*date time*

重大度

0

説明

ログ RBA *r-rba* から条件再始動が行われた。CSQ1LOGP は、その再始動の日付と時刻も戻す。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1156I

すべての URS が完了しました。

重大度

0

説明

再始動が行われていない未解決の UR はない。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1157I

RESTART SUMMARY

重大度

0

説明

このメッセージの後に、再始動時に実行される作業内容の要約が示される。この後に示される再始動情報は、走査されたログの有効範囲に基づいている。IBM MQ にエラーがあることが考えられる場合は、[z/OS での問題判別](#)を参照し、問題の識別と報告についての情報を確認する。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1158I

使用できるチェックポイントがありません。再始動要約は不完全です。

重大度

0

説明

走査されたログの有効範囲内に、使用可能な検査ポイントがない。このメッセージの後に、次の情報が示される。

- 完了しなかった UR
- これらの UR によって修正されたページ・セット
- 書き込みが保留中のページ・セット

この情報は、完全なものとは見なすことはできない。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1161E

無効な URE が *x-rba* にありました。

重大度

4

説明

SUMMARY オプションの処理中に、ログの中に無効な URE 検査ポイント・レコードが見つかった。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージに示された検査ポイント・レコードが、キュー・マネージャーの再始動に使用された場合には、再始動は失敗に終わる。キュー・マネージャーは、無効な URE によって提示された回復単位を処理することができないからである。

問題の原因を示す他のメッセージを探す。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQ1162E

無効な RURE が *x-rba* にありました。

重大度

4

説明

SUMMARY オプションの処理中に、ログの中に無効な RURE 検査ポイント・レコードが見つかった。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージに示された検査ポイント・レコードが、キュー・マネージャーの再始動に使用された場合には、再始動は失敗に終わる。キュー・マネージャーは、無効な RURE によって提示された回復単位を処理することができないからである。

問題の原因を示す他のメッセージを探す。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQ1163E

ログ・エラーのため、使用できるチェックポイントがありません。再始動要約は不完全です。

重大度

4

説明

ログ・エラーが見つかった。CSQ1LOGP は、ログ・エラーの前に検出したすべての検査ポイントに無効のマークを付ける。指定されたログ範囲の中に、ログ・エラーの後に完全な検査ポイントがなかった。このメッセージの後に、次の情報が示される。

- 完了しなかった UR
- これらの UR によって修正されたページ・セット
- 書き込みが保留中のページ・セット

この情報は、完全とは見なされない。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1165E

UR が必要とするログがエラーになっています。

重大度

0

説明

UR の処理中、ログからの情報が必要であったが、前のメッセージで示されたように、そのログにはエラーがある。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1166I

UR の情報が不完全です。ログは xx で切り捨てられます。

重大度

0

説明

走査されたログの有効範囲内に、UR に必要な完全な情報がない。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1209E

ログ範囲の終わりが開始より小さいです。

重大度

8

説明

ログ終了範囲の値 (RBAEND または LRSNEND) が、開始範囲の値 (RBASTART または LRSNSTART) より小さいか、または等しい。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

RBAEND または LRSNEND 値に対応する正しい RBASTART または LRSNSTART 値を指定して、ジョブを再実行する。

CSQ1210E

LOG READ ERROR RETCODE=*rc* REASON CODE=*reason*

重大度

8

説明

ログを読み取ろうとしたところ、エラーが検出された。

システム・アクション

処理は終了する。

CSQ1211E

不正なログ RBA が戻りました

重大度

8

説明

このトピックにリストしている次の3つの問題のうちの1つが発生している。

- 回復ログ・データ・セットが損傷を受けている。
- 回復ログ・データ・セットでないデータ・セットが指定された。
- ログ印刷ユーティリティーに問題がある。

システム・アクション

処理は終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

一般的なエラーの原因は、保存テープ上の最初のデータ・セット (Bxxxxxxx データ・セット) をログ・データ・セットとして指定してしまうことである。最初のデータ・セットは、実際には、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) である。

データ・セットをダンプし、それがログ・データ・セットであるかどうかを判別することにより、この問題がユーザー・エラーかどうかを調べる。

CSQ1212I

最初に検出されたログ RBA = *s-rba*

重大度

0

説明

これは、読み取られた最初のログ・レコードの RBA を示している。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1213I

最後に検出されたログ RBA = *e-rba*

重大度

0

説明

これは、読み取られた最後のログ・レコードの RBA を示している。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1214I

nn ログ・レコードが読み取られました。

重大度

0

説明

これは、CSQ1LOGP 処理中に読み取られた論理ログ・レコードの数 (10 進数) を示している。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1215I

ログ・レコード読み取りなし

重大度

0

説明

CSQ1LOGP は、ログ・レコードを 1 つも読み取らなかった。

次のような理由が考えられる。

- エラーのため、CSQ1LOGP が処理を続行できず、まだログ・レコードが処理されていない (この場合は、このメッセージに先立ってエラー・メッセージが送出される)。
- RBA 順序が正しくない活動ログ・データ・セットまたは保存ログ・データ・セットが指定された。
- 指定された RBASTART または LRSNSTART が、使用可能な活動データ・セットおよび保存データ・セット内のいずれの RBA または LRSN よりも大きい。
- LRSN を使ってログ範囲を指定したが、キュー・マネージャーがキュー共有グループ内にない。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1216E

LOG READ ERROR, RETCODE=*rc*, REASON CODE=*reason*, RBA=*x-rba*

重大度

4

説明

ログを読み取ろうとしたところ、エラーが検出され、ログの制御間隔 (CI) の 1 つにエラーがあること、または要求された RBA を含むデータ・セットが見つからないことが示された。メッセージ中の RBA は、エラーがどこで検出されたかを示すとともに、要求された RBA を与える。次のものが示される。

- ログ制御間隔定義 (LCID) または CI 内の一般制御情報に問題がある場合には、CI の始まり。
- ログ・レコード・ヘッダー (LRH) に問題がある場合には、CI の中のログ・レコード。

これが、このログ抽出の実行中に読み取られた最初のログ・レコードであり、LCID に問題がある場合には、RBA 指定はすべてゼロになる。

レコードを戻す前に、ユーティリティは、CI の終わりにある制御情報 (LCID) を検査し、LRH を分析して、すべてのレコードが CI 内で正しくチェーニングされているかどうかを確認する。この処理の実行中にエラーが検出された場合、CSQ1LOGP は、このメッセージを送出してから、CI 全体をダンプする。これは、CI 内の個々のレコードをフォーマットしないが、可能であれば、次の CI を読み取って処理を続ける。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1217E

RBA 範囲の警告。戻りコード=*rc*、理由コード=*reason*、PRIOR RBA=*p-rba*、CURRENT RBA=*c-rba*
RBA RANGE WARNING、REASON CODE=*reason*、PRIOR RBA=*p-rba*、CURRENT RBA=*c-rba*

重大度

4

説明

ログ RBA 範囲内でギャップが検出された。PRIOR RBA *p-rba* は、ギャップより前の最後の正常なログ RBA を示す。CURRENT RBA *c-rba* は、ギャップの後のログ・レコードを示し、このメッセージの後にフォーマットされる。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1218I

nn ログ・エラー・メッセージ

重大度

0

説明

CSQ1LOGP は、次の 3 種類のエラーを区別する。

- MQ または CSQ1LOGP に使用されるシステム・コードに存在するコード問題。この場合は、ユーザー完了コード U0153 で異常終了する。
- 誤ったキーワードの使用や DD ステートメントの欠落などによる、CSQ1LOGP の正しくない呼び出し。このような状況の場合、CSQ1LOGP は該当するエラー・メッセージを送出し、プログラムは終了する。
- CSQ1LOGP の精密調査の下での特定のログ CI におけるエラー。この精密調査は、CI 内のレコードが処理される前に実行される。これは、論理的な損傷を表すもので、ユーティリティによりエラー・メッセージが送付される。エラーの CI またはログ・レコードが印刷され、CSQ1LOGP は次の CI またはログ・レコードから処理を続ける。

nn は、ログにアクセス中に CSQ1LOGP が検出したエラーの数 (10 進数) を示している。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1219I

LOG RECORDS CONTAIN *n* BYTE RBA - QSG(*in-qsg*)

重大度

0

説明

このメッセージは、CSQ1LOGP から発行される。処理対象のログ・レコードの形式と、キュー・マネージャーがキュー共有グループ (QSG) のメンバーかどうかを確認できる。このメッセージは、ログ・レコードの出力前に発行され、ログ・レコードの形式が変更されるたびに発行される。

n の値で、処理対象のログ・レコードのログ RBA 形式を確認できる。6 または 8 のいずれかである。

in-qsg の値で、ログ・レコードが QSG のメンバーであるキュー・マネージャーによって書き込まれたかどうかを確認できる。値は以下のいずれかである。

YES

ログ・レコードは、QSG のメンバーであるキュー・マネージャーによって書き込まれた

NO

ログ・レコードは、QSG のメンバーでないキュー・マネージャーによって書き込まれた

システム・アクション

処理を続行

CSQ1220E

保存ログが xxxx で切り捨てられました。無効なログ・レコードの読み取り。

重大度

4

説明

キュー・マネージャーの再始動時に、保存ログが切り捨てられた。この保存ログ・データ・セットを物理的に変更してこの切り捨てを反映させることができなかつたため、無効なログ・レコードがまだ存在する。CSQ1LOGP はすでにこの情報を要約報告書に報告しており、取り消すことはできない。また、起こつたことを適切に要約するためにすでに読み取つた無効なログ情報を無視することもできない。したがつて、ログの中のこの点までのすべての情報が要約され、新しい要約報告書が開始される。この結果、同じ UR が、異なる後処理で、異なる修正ページ・セットによつて 2 回報告されることになる。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

このような事態を避けるには、ARCHIVE DD ステートメントの代わりに、BSDS DD ステートメントを使用する。

CSQ1221E

VSAM ERROR, RETCODE=*rc*, REASON CODE=*reason*, VSAM RETURN CODE=*aaaa*, ERROR CODE=*bbbb*

重大度

8

説明

ログを読み取ろうとしたところ、VSAM エラーが見つかつた。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1222E

ログ割り振りエラー。戻りコード=*rc*, 理由コード=*reason*, DYNALLOC INFO コード=*aaaa*、エラー・コード=*bbbb*

重大度

8

説明

ログ・データ・セットを動的に割り振っているときに、エラーが起こつた。

システム・アクション

処理は終了する。

CSQ1223E

JFCB 読み取りエラー。戻りコード=*rc*, 理由コード=*reason*、RDJFCB 戻りコード=*aaaa*

重大度

8

説明

ジョブ・ファイル制御ブロックを読み取ろうとしたときに、エラーが起こつた。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1224I

ログ・レコードの情報が不完全です。現行 RBA=*c-rba*、現行 URID=*c-urid*

重大度

0

説明

走査したログの範囲内でログ・レコードの不完全な情報が見つかった。スパン・レコードのすべてのセグメントを検出する前に、ログ条件の終了が発生した。現行 RBA *c-rba* は、問題のあるレコードのログ RBA を示す。現行 URID *c-urid* は、スパン・ログ・レコードが関連する UR を示す。ログ・レコードに関連付けられた URID が存在しない場合は (例えば、チェックポイント・レコードなど)、ゼロが表示される。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

特定されたログ・レコードの完全な情報が必要な場合は、必要なログ・データが取得可能になるまで、処理する RBA 範囲を拡張する。

CSQ1271I

ログ範囲の始まりが LRSN=*s-lrsn* に設定されました。

重大度

0

説明

ログ範囲の開始として指定された LRSN の値が、LRSN 値の最小値である *s-lrsn* より小さかった。

システム・アクション

LRSNSTART の値が *s-lrsn* であるとして処理が継続される。

CSQ1272I

最初に検出されたログ LRSN = *s-lrsn*

重大度

0

説明

これは、読み取られた最初のログ・レコードの LRSN を示している。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1273I

最後に検出されたログ LRSN = *e-lrsn*

重大度

0

説明

これは、読み取られた最後のログ・レコードの LRSN を示している。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1275I

LRSN 範囲は、キュー共有グループでのみ使用できます。

重大度

0

説明

LRSN を使ってログ範囲を指定したが、CSQ1LOGP がレコードを読み取れない。考えられる理由は、キュー・マネージャーがキュー共有グループ内でないことで、この場合、LRSN 指定を使うことはできない。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーがキュー共有グループ内でない場合、ログ範囲に関する RBA 指定を使ってジョブを再実行する。

CSQ1276E

LOG READ ERROR, RETCODE=*rc*, REASON CODE=*reason*, LRSN=*x-lrsn*

重大度

4

説明

ログを読み取ろうとしたところ、エラーが検出され、ログの制御間隔 (CI) の 1 つにエラーがあること、または要求された LRSN を含むデータ・セットが見つからないことが示された。メッセージ中の LRSN は、エラーがどこで検出されたかを示すとともに、要求された LRSN を与える。次のものが示される。

- ログ制御間隔定義 (LCID) または CI 内の一般制御情報に問題がある場合には、CI の始まり。
- ログ・レコード・ヘッダー (LRH) に問題がある場合には、CI 中のログ・レコード。

これが、このログ抽出の実行中に読み取られた最初のログ・レコードであり、LCID に問題がある場合には、LRSN 指定はすべてゼロになる。

レコードを戻す前に、ユーティリティは、CI の終わりにある制御情報 (LCID) を検査し、LRH を分析して、すべてのレコードが CI 内で正しくチェーニングされているかどうかを確認する。この処理の実行中にエラーが検出された場合、CSQ1LOGP は、このメッセージを送出してから、CI 全体をダンプする。これは、CI 内の個々のレコードをフォーマットしないが、可能であれば、次の CI を読み取って処理を続ける。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ1277E

LRSN RANGE WARNING, RETCODE=*rc*, REASON CODE=*reason*, PRIOR LRSN=*p-lrsn*, CURRENT LRSN=*c-lrsn*

重大度

4

説明

ログ LRSN 範囲内でギャップが検出された。「PRIOR LRSN」は、ギャップより前の最後の正常なログ LRSN を示す。「CURRENT LRSN」は、ギャップより後のログ・レコードを示し、このメッセージの後にフォーマットされる。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ2001I

csect-name OTMA がメッセージを拒否。アプリケーション・エラーです。センス・コード=*code*、*XCFGNAME=gname XCFMNAME=mname TPIPE=tpipename*

説明

アプリケーション・エラーがあったために、IBM MQ-IMS ブリッジが、メッセージの送信時に OTMA から否定応答 (NAK) を受け取った。メッセージで提供される情報は、次のとおりである。

gname

パートナーが所属する XCF グループ。

mname

パートナーのメンバー名。

tpipename

パートナーに使用される Tpipe の名前。

コード

パートナーから戻される IMS センス・コード (先頭の 4 文字がセンス・コードを示す)。

システム・アクション

メッセージが送達不能キューに入れられて、処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

IMS からのセンス・コードについては、[IMS 製品資料](#)を参照してください。

CSQ2002E

csect-name OTMA クライアントの BID が拒否されました。*XCFGNAME=gname XCFMNAME=mname*、センス・コード=*code*

説明

IBM MQ-IMS ブリッジからの OTMA クライアント BID コマンドが拒否された。*code* は、関連した IMS センス・コードである。*gname* および *mname* により、コマンドが宛先指定されたパートナー IMS システムが識別される。

システム・アクション

IMS システムに対して接続を行わない。他の OTMA パートナーへの接続は影響されない。

システム・プログラマーの応答

IMS-OTMA センス・コードについては、[NAK メッセージの OTMA センス・コード](#)を参照してください。

CSQ2003E

csect-name OTMA がメッセージを拒否。システム・エラーです。センス・コード=*code*、*XCFGNAME=gname XCFMNAME=mname TPIPE=tpipename*

説明

システム関連のエラーがあったために、IBM MQ-IMS ブリッジが、メッセージの送信時に OTMA から否定応答 (NAK) を受け取った。メッセージで提供される情報は、次のとおりである。

gname

パートナーが所属する XCF グループ。

mname

パートナーのメンバー名。

tpipename

パートナーに使用される Tpipe の名前。

コード

パートナーから戻される IMS センス・コード (先頭の 4 文字がセンス・コードを示す)。

システム・アクション

この問題の原因が環境エラーである場合、IMSブリッジはキューにメッセージを返す。センス・コードによって説明されているエラーに応じて、メッセージ送信が再試行されるか、キューが閉じられる。

重大エラーが発生した場合には、このメッセージがキューに戻され、IMSブリッジは完了コード X'5C6' と理由コード X'00F20059' を出して異常終了する。

システム・プログラマーの応答

IMS-OTMA センス・コードについては、[NAK メッセージの OTMA センス・コード](#)を参照してください。

CSQ2004E

csect-name キュー *q-name* の使用でエラー。MQRC=*mqrc* (*mqrc-text*)

説明

IBM MQ-IMSブリッジが、キューのオープン、キューのクローズ、キューからの読み取り、キューへの書き込み、またはキューについての照会を実行できなかった。

csect-name が CSQ2QCP0 である場合は、IMSに関連したメッセージ・キューあるいは応答先キューに問題がある。*csect-name* が CSQ2QCP1 である場合は、応答先キューに問題がある。*csect-name* が CSQ2PUTD である場合は、送達不能キューに問題がある。

CSQ2PUTD が何らかの理由で送達不能キューにメッセージを書き込むことができない場合、IMSブリッジ・キューからメッセージを取得するプロセスは終了し、IMSブリッジ・キューを無効化して再有効化するか、またはキュー・マネージャーを再始動することによってのみ再始動されます。

受け取った理由コードが 2042 である場合、これは、IBM MQ-IMSブリッジにブリッジ・キューへの排他入力アクセス (MQOO_INPUT_EXCLUSIVE) が必要であるからです (QSGDISP(QMGR) を指定して定義されている場合、または QSGDISP(SHARED) と NOSHARE オプションを指定して定義されている場合)。

システム・アクション

この問題の原因が環境エラーである場合には、処理が続行される。

重大エラーが発生した場合は、IMSブリッジは、完了コード X'5C6' と特定のエラーを示した理由コードを出して異常終了する。

システム・プログラマーの応答

mqrc の詳細については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください (*mqrc-text* はテキスト形式での MQRC を示す)。

csect-name が CSQ2PUTD の場合は、IMSブリッジ・キューを無効化して再有効化し、それでも機能しない場合はキュー・マネージャーを再始動する。

CSQ2005I

csect-name メッセージ処理エラー。FEEDBACK=*code*, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*
TPIPE=*tpipename*

説明

メッセージの処理中に、IBM MQ-IMSブリッジがエラーが検出された。*code* は、関連したフィードバック・コードであり、メッセージ記述子に設定される。メッセージで提供される情報は、次のとおりである。

gname

パートナーが所属する XCF グループ。

mname

パートナーのメンバー名。

tpipename

パートナーに使用される Tpipe の名前。

コード

パートナーにより戻される IMS センス・コード。

FEEDBACK=292 の原因となる CSQ2005I メッセージのループがある場合、次の有無を確認する。

- 正しくない形式のメッセージを書き込んでいるループ・アプリケーション。
- デッド・レター・キュー (DEADQ) などの、IMS ブリッジによる読み込みを想定していないものの、XCFGNAME パラメーターと XCFMNAME パラメーターがブランクではない STGCLASS を使用しているキュー。

システム・アクション

メッセージを処理しない。

システム・プログラマーの応答

code は、以下のいずれかである。

291 (MQFB_DATA_LENGTH_ZERO)

セグメント長フィールドが、メッセージのアプリケーション・データにおいてゼロであった。

292 (MQFB_DATA_LENGTH_NEGATIVE)

セグメント長フィールドが、メッセージのアプリケーション・データにおいて負であった。

293 (MQFB_DATA_LENGTH_TOO_BIG)

セグメント長フィールドが、メッセージのアプリケーション・データにおいて大き過ぎた。

294 (MQFB_BUFFER_OVERFLOW)

1つの長さフィールドの値が、MQ メッセージ・バッファからオーバーフローしている。

295 (MQFB_LENGTH_OFF_BY_ONE)

長さフィールドが、1バイト分だけ短かった。

296 (MQFB_IIH_ERROR)

MQMD に MQFMT_IMS が指定されたが、メッセージが有効な MQIIH 構造体から始まっていない。

298 (MQFB_NOT_AUTHORIZED_FOR_IMS)

MQMD に指定されたユーザー ID が、アクセスを拒否された。

299 (MQFB_DATA_LENGTH_TOO_SHORT)

セグメント長フィールドが、メッセージのアプリケーション・データ内で短すぎました。

3xx

IMS センス・コード xx (ここで、xx は、IMS センス・コードの 10 進表記である)。IMS-OTMA センス・コードについては、[NAK メッセージの OTMA センス・コード](#)を参照してください。

CSQ2006I

csect-name 送達不能キューが使用できません。MQRC=mqrc (mqrc-text)

説明

IBM MQ-IMS ブリッジが、送達不能キューにメッセージを書き込めなかった。

システム・アクション

このメッセージが IMS に送信されていた場合には、これはローカル IMS キューに保存され、そのキューは使用不能になる。このメッセージが IMS から出されていた場合には、NAK が IMS に送信され、IMS はメッセージを保存し、Tpipe 上でのメッセージの送信を停止するようになる。

システム・プログラマーの応答

mqrc が 0 の場合は、送達不能キューは定義されていない。定義された送達不能キューがない場合は、IBM MQ-IMS ブリッジを使用しないことが推奨される。それ以外の場合は、キュー・マネージャーからキューの名前を取得する際に問題が発生します。mqrc の情報については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)を参照してください (mqrc-text はテキスト形式での MQRC を示す)。

CSQ2007I

csect-name IMS ブリッジ・キュー q-name、XCFGNAME=gname XCFMNAME=mname
TPIPE=tpipename の処理が停止しました。

説明

csect name CSQ2PUTD が送達不能キューにメッセージを書き込めなかった場合、このメッセージはメッセージ CSQ2004E の後に出される。IMS ブリッジ・キューからメッセージを取得するプロセスは終了します。メッセージで提供される情報は、次のとおりである。

q-name

IMS ブリッジ・キューの名前。

gname

パートナーが所属する XCF グループ。

mname

パートナーのメンバー名。

tpipename

パートナーによって使用される Tpipe の名前

システム・アクション

このキューのメッセージは、このメンバーの IMS ブリッジによって処理されなくなります。

システム・プログラマーの応答

処理を再開するには、IMS ブリッジ・キューを GET-使用不可にして再度使用可能にするか、キューの Tpipe を再始動します。

CSQ2009I

csect-name IMS ブリッジの前提製品が使用できません。

説明

IBM MQ-IMS ブリッジは、以下が原因で稼働できない。

- 使用中の z/OS のバージョンが適切でない。
- 使用中の IMS のバージョンが適切でない。
- OTMA サポートが IMS で使用可能になっていない。
- 正しくないバージョンのシステム・パラメーター・モジュール (CSQZPARM) が使用されている。

システム・アクション

MQ-IMS ブリッジが開始されない。

システム・プログラマーの応答

必要な製品レベルについては、[z/OS での IBM MQ 環境の計画](#) を参照してください。

必要であれば、適切なライブラリーで CSQZPARM を再コンパイルします。

CSQ2010I

csect-name パートナーと接続しました。XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

説明

MQ-IMS ブリッジは、*gname* および *mname* で識別されるパートナー IMS システムへの接続を正常に確立しました。

システム・アクション

処理が続行される。メッセージをそのパートナーに送信できる。

CSQ2011I

csect-name パートナーとの接続が切断されました。XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

説明

gname および *mname* で識別されるパートナー IMS システムが使用できなくなり、IBM MQ-IMS ブリッジからの接続が終了しました。

システム・アクション

処理が続行される。メッセージをそのパートナーにはもう送信できない。

CSQ2012I

csect-name IMS SIGNON には UTKEN セキュリティーは不要です。XCFGNAME=*gname*
XCFMNAME=*mname*

説明

gname および *mname* によって識別されるパートナー IMS システムにサインオンした IBM MQ-IMS ブリッジ。UTKEN セキュリティーが、このセッションで要求されなかった。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ2013E

csect-name IMS SIGNON を許可されていません。XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

説明

IBM MQ-IMS ブリッジが、*gname* および *mname* によって識別されるパートナー IMS システムにサインオンしようとしていました。しかし、キュー・マネージャーには、この IMS システムへの接続を確立する許可がない。

システム・アクション

IMS システムに対して接続を行わない。他の OTMA パートナーへの接続は影響されない。

CSQ2015I

csect-name IMS ブリッジはすでに中断状態です。XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

説明

SUSPEND QMGR FACILITY (IMSBRIDGE) コマンドが発行されましたが、*gname* および *mname* で識別されるパートナー IMS システムへの IBM MQ-IMS ブリッジは既に中断されています。

システム・アクション

なし。

CSQ2016I

csect-name IMS BRIDGE NOT SUSPENDED、XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*

説明

RESUME QMGR FACILITY (IMSBRIDGE) コマンドが発行されたが、*gname* および *mname* によって識別されるパートナー IMS システムへの IBM MQ-IMS ブリッジが中断されていない。

システム・アクション

なし。

CSQ2020E

csect-name 再同期エラー

説明

再同期エラーが発生した。このメッセージで提供される情報は、次のとおりである。

```
IN TPIPE tpipename FOR QUEUE q-name, BY PARTNER, XCFGNAME=gname XCFMNAME=mname,  
QMGR SEND=sendseq PARTNER RECEIVE=otmarecvseq, QMGR RECEIVE=recuseq  
PARTNER SEND=otmasendseq, INDOUBT UNIT OF RECOVERY urid
```

ここで、

tpipename

再同期できない Tpipe の名前。

q-name

この Tpipe に対するキューの名前。

gname

Tpipe が所属する XCF グループの名前。

mname

Tpipe が所属する XCF メンバーの名前。

sendseq

IBM MQ によって最後にパートナーに送られたメッセージの回復可能な順序番号 (16 進数表示)。

otmasendseq

パートナーによって最後に IBM MQ に送られたメッセージの回復可能な順序番号 (16 進数表示)。

recvseq

パートナーから IBM MQ が最後に受け取ったメッセージの回復可能な順序番号 (16 進数表示)。

otmarecvseq

IBM MQ からパートナーが最後に受け取ったメッセージの回復可能な順序番号 (16 進数表示)。

urid

未確定回復単位の ID。値 0 は、未確定回復単位がないことを意味する。

システム・アクション

メッセージは Tpipe に送られない。

システム・プログラマーの応答

RESET TPIPE コマンドを使用して、回復可能な順序番号をリセットし、Tpipe を再始動し、必要であれば回復単位を解決する。

CSQ2023E

csect-name パートナー。XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*, 再同期化できません。センス・コード=*code*

説明

IBM MQ は、パートナーと再同期できなかつた。メッセージで提供される情報は、次のとおりである。

gname

パートナーが所属する XCF グループの名前。

mname

再同期できないパートナーのメンバー名。

コード

パートナーから戻される IMS センス・コード (先頭の 4 文字がセンス・コードを示す)。

システム・アクション

OTMA との接続が停止された。

システム・プログラマーの応答

IMS-OTMA センス・コードについては、[NAK メッセージの OTMA センス・コード](#)を参照してください。問題を解決して、OTMA 接続を再始動する。

CSQ2024E

csect-name TPIPE *tpipename* はパートナーに対して不明です。XCFGNAME=*gname*
XCFMNAME=*mname*

説明

Tpipe 名はパートナーに通用しない。メッセージで提供される情報は、次のとおりである。

tpipename

パートナーがもはや認識しない Tpipe の名前。

gname

パートナーが所属する XCF グループ。

mname

再同期しているパートナーのメンバー名。

システム・アクション

関連付けられた回復単位はバックアウトされ、処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

パートナー IMS システムがコールド・スタートされた場合、このメッセージは正常と見なすことができます。IMS システムがコールド・スタートしていなかった場合は、このメッセージをアラートと見なして、パートナーの IMS システムを調査する。

CSQ2025E

csect-name パートナー。XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*, TPIPE *tpipename* を再同期化できません。センス・コード=*code*

説明

パートナーは、Tpipe と再同期できなかつた。メッセージで提供される情報は、次のとおりである。

gname

パートナーが所属する XCF グループ。

mname

再同期しているパートナーのメンバー名。

tpipename

パートナーがもはや再同期できない Tpipe の名前。

コード

パートナーにより戻される IMS センス・コード。

システム・アクション

Tpipe が停止される。

システム・プログラマーの応答

IMS からのセンス・コードについては、[NAK メッセージの OTMA センス・コード](#) を参照してください。問題を解決して、Tpipe を再始動するかリセットする。

CSQ2026I

csect-name パートナー XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname* が TPIPE *tpipename* をコールド・スタートしました。

説明

パートナーは Tpipe をコールド・スタートさせた。メッセージで提供される情報は、次のとおりである。

gname

パートナーがメンバーである XCF グループ。

mname

再同期しているパートナーのメンバー名。

tpipename

パートナーがコールド・スタートさせた Tpipe の名前。

システム・アクション

すべての回復可能な順序番号は 1 にリセットされ、処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ2027I

csect-name パートナー XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname* 用の TPIPE*tpipename*, に未確定の回復単位がありません。

説明

MQ は、Tpipe に未確定の回復単位があることを予期した。メッセージで提供される情報は、次のとおりである。

tpipename

まだ未確定の回復単位がなければならぬ Tpipe の名前。

gname

パートナーが所属する XCF グループ。

mname

Tpipe のパートナーのメンバー名。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

次の情報を収集して、IBM サポートに連絡する。

- コンソール・ログ
- MQ ジョブ・ログ
- IMS ジョブ・ログ

CSQ2028I

csect-name キュー・マネージャーはパートナーに接続されていません。XCFGNAME=*gname*
XCFMNAME=*mname*

説明

MQ がパートナーに接続されていない。メッセージで提供される情報は、次のとおりである。

gname

パートナーのグループ名。

mname

パートナーのメンバー名。

システム・アクション

コマンドはリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ がパートナーに接続されたときに、正しい XCF グループ名を使用してコマンドの再実行を要求する。

CSQ2029I

csect-name TPIPE *tpipename* はパートナー用に見つかりませんでした。XCFGNAME=*gname*
XCFMNAME=*mname*

説明

Tpipe は検出されなかった。このメッセージで提供される情報は、次のとおりである。

tpipename

検出されない Tpipe の名前。

gname

パートナーがメンバーである XCF グループ。

mname

Tpipe のパートナーのメンバー名。

システム・アクション

コマンドはリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答

正しい Tpipe 名で RESET TPIPE コマンドを再度実行要求する。

CSQ2030I

csect-name TPIPE *tpipename* はまだパートナー用にオープンされています。XCFGNAME=*gname*
XCFMNAME=*mname*

説明

Tpipe はまだオープンしている。このメッセージで提供される情報は、次のとおりである。

tpipename

まだオープンしている Tpipe の名前。

gname

XCF グループ名。

mname

Tpipe のパートナーのメンバー名。

システム・アクション

コマンドはリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答

このメッセージの原因として最も可能性が高いのは、間違った Tpipe 名を指定して RESET TPIPE コマンドが発行されたことか、キュー共有グループ内の間違ったキュー・マネージャーでコマンドが発行されたことである。正しい Tpipe 名で RESET TPIPE コマンドを再度実行要求する。

CSQ2031I

csect-name パートナー用の TPIPE *tpipename*, XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname*, アクションが未確定の回復単位に必要です。

説明

Tpipe には未確定の回復単位があるが、回復アクションは指定されていない。メッセージで提供される情報は、次のとおりである。

tpipename

まだ未確定の回復単位がある Tpipe の名前。

gname

パートナーが所属する XCF グループ。

mname

Tpipe のパートナーのメンバー名。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

未確定の回復単位に関して、アクション (COMMIT または BACKOUT) を指定して RESET TPIPE コマンドを再び実行要求する。

CSQ2040I

csect-name OTMA メッセージあふれ状況=パートナー XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname* に対する警告。

重大度

4

説明

このメッセージは、OTMA メッセージあふれ警告条件が存在することを示す、*gname* および *mname* で識別されるパートナー IMS システムからの通知に回答して、IBM MQ-IMS ブリッジによって発行されます。

このメッセージは、IMS パートナーが、IBM MQ-IMS ブリッジを介して送られてきたトランザクション要求量を現在処理できないことを示している。

システム・アクション

処理は続行されるが、IBM MQ-IMS ブリッジは、パートナー IMS システムが累積したバックログを処理できるように、トランザクション要求の送信速度を低下させる。

システム・プログラマーの応答

パートナー IMS システムの状況を確認して、何らかのアクションが必要かどうかを判別してください。これを行うには、**/DISPLAY OTMA** コマンドと **/DISPLAY TMEBER** コマンドを使用できます。

パートナー IMS システムに対して検査を実行し、警告状態の重大度を示しているメッセージ DFS1988W が発行されていないかを判別する。

CSQ2041I

csect-name OTMA メッセージあふれ状況=パートナー XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname* に対してあふれ状況が発生しています。

重大度

8

説明

このメッセージは、OTMA メッセージあふれ状態が存在することを示す、*gname* および *mname* で識別されるパートナー IMS システムからの通知に回答して、IBM MQ-IMS ブリッジによって発行されず。

これは、IMS パートナーが、IBM MQ-IMS ブリッジを介して送られてきたトランザクション要求量を現在処理できないことを示している。IMS のあふれ状態が解消されるまで、これ以上要求を送信することはできない。

システム・アクション

識別されたパートナー IMS システムへのすべての TPIPE は、あふれ状態が解消されたことを示す IMS からの通知が受信されるまで中断される。

メッセージは、識別された IMS パートナーを指定するストレージ・クラスを持つ IBM MQ-IMS ブリッジ・キューに引き続き書き込むことができますが、TPIPES を再開できるようになるまでそこに残ります。

IBM MQ-他の IMS パートナーの IMS ブリッジ・キューは影響を受けません。

システム・プログラマーの応答

パートナー IMS システムの状態を検討し、IMS のあふれ状態の解消にどのような処置が必要であるかを検討します。これを行うには、**/DISPLAY OTMA** コマンドと **/DISPLAY TMEBER** コマンドを使用できます。

パートナー IMS システムに対して検査を実行し、あふれ状態を示しているメッセージ DFS1989E が発行されていないかを判別する。

CSQ2042I

csect-name パートナー XCFGNAME=*gname* XCFMNAME=*mname* について、OTMA メッセージあふれが解消されました。

重大度

0

説明

このメッセージは、*gname* および *mname* で識別されるパートナー IMS システムからの、OTMA メッセージ・フラッディングまたはフラッディング警告条件がもはや存在しないという通知に回答して、IBM MQ-IMS ブリッジによって発行されます。

システム・アクション

このメッセージが CSQ2041I の後に発行された場合は、あふれ状態に応じて中断された、識別されたパートナー IMS システムへのすべての TPIPE が再開される。IBM MQ-IMS ブリッジは、最大速度に達するか、パートナー IMS システムによって後続のフラッディング状態が報告されるまで、トランザクション要求が送信される速度を徐々に増加させます。

システム・プログラマーの応答

処置は不要。

CSQ3001E

csect-name - サブシステム・インターフェースから異常切断しました。

説明

キュー・マネージャーがほぼ完了しているか、またはもはや実行されていないにもかかわらず、オンライン・ルーチンがまだ SSI 呼び出し (IEFSSREQ) をサポートしている。 *csect-name* CSQ3RS00 または CSQ3RS0X の場合、これは、キュー・マネージャー・アドレス・スペースがメモリーの終わりに達し、正常終了ルーチンもオンライン・エラー回復ルーチンも、キュー・マネージャーの終了を正常に完了していなかった場合に起こる。 *csect-name* CSQ3SSTM の場合は、この条件がオンライン終了時に検出された場合に起こる。

システム・アクション

接続は終了する。すべての IEFSSREQ 要求は、キューが再始動されるまで、IBM MQ 早期処理プログラムによって処理される。 SVC ダンプが要求される。

CSQ3002I

connection-name による未確定回復が進行中です。

説明

示されているサブシステム (*connection-name*) に関連した IBM MQ リカバリー単位 (UR) が、再始動の同期化が行われた後もまだ未確定である可能性があります。(未確定の UR とは、それに対するコミットが IBM MQ によって出されているが、まだ *connection-name* によって確認されていない UR である)。

このメッセージは、*connection-name* サブシステムが、すべての未確定 UR を解決する前に、新しい作業を開始した場合に出されることがある。 *connection-name* サブシステムはまだ未確定 UR の解決処理中である。

システム・アクション

これらの未確定 UR によって保持 (ロック) されている資源は、その状況が解決されるまで、他の作業単位には使用できない。

システム・プログラマーの応答

システム・プログラマーまたはシステム管理者は、未確定状況を解決するための正しい回復アクションを判別しなければならない。これには、すべての未確定 UR のコミット確認またはバックアウト確認の決定も含まれる。

DISPLAY THREAD コマンドを使用して、まだ未確定の UR を調べる必要がある。通常、このコマンドは、すべての未確定 UR が解決されたことを示す。そうでない場合は、RESOLVE INDOUBT コマンドを使用することによって、未確定 UR を解決し、保持されている資源を解放しなければならない。

CSQ3004E

SSI DESCRIPTOR GET FAILURE, RC=*rc* REASON=*reason*

説明

初期設定または終了時に内部エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ プログラム・ライブラリーにすべての保守が適用されていることを確かめ、キュー・マネージャーを再始動する。

CSQ3006E

'*rmid*' SSI 機能の活動化を試みましたがすでに活動しています。

説明

初期設定のシーケンス・エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ プログラム・ライブラリーにすべての保守が適用されていることを確かめ、キュー・マネージャーを再始動する。

CSQ3007E

'*rmid*' SSI 機能の非活動化を試みましたがすでに活動していません。

説明

終了のシーケンス・エラーが発生した。

システム・アクション

終了処理が続けられる。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ プログラム・ライブラリーにすべての保守が適用されていることを確かめる。

CSQ3008E

csect-name - プログラム要求ハンドラーの異常切断。

説明

キュー・マネージャーの終了がほぼ完了しているか、またはもはや実行されていないにもかかわらず、1つまたはそれ以上の資源マネージャーがそのプログラム要求ハンドラーを介してアプリケーション・プログラム呼び出しをサポートしている。これは、キュー・マネージャー・アドレス・スペースがメモリーの終わりに達し、正常終了ルーチンもオンライン・エラー回復ルーチンも終了を正常に完了しなかった場合に起こる。

システム・アクション

接続は終了する。すべてのアプリケーション・プログラム・サポート要求は、キュー・マネージャーが活動状態にないという理由で拒否される。SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

問題が解消されない場合は、次の項目を集め、IBM サポートに連絡する。

- システム・ダンプ
- SYS1.LOGREC の印刷出力

CSQ3009E

エラー情報

説明

RRS 出口処理時に内部エラーが発生した。このメッセージには、問題を解決するために必要なエラー情報が入っている。

システム・アクション

処理は続行されるが、RRS の調整プログラムはキュー・マネージャーで使用できなくなる。キュー・マネージャーまたは RRS を再始動する必要があると思われる。

CSQ3011I

csect-name コーディネーター RRS がコールド・スタートしてログは失われました。IBM MQ のスレッドは手動の解決が必要です。

説明

IBM MQ は未確定スレッドの参加システムとなる必要がある。RRS (コミット・コーディネーター) からキュー・マネージャーに、IBM MQ の未確定スレッドについての情報がすべて失われたことが通知された。このキュー・マネージャーの未確定スレッドは、RESOLVE INDOUBT コマンドを使用して手動により解決する必要がある。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

RRS が調整システムとなっている未確定スレッドのリストを表示するには、`DISPLAY THREAD` コマンドを使用する。このコマンドを実行するときには、未確定というタイプのスレッドを表示するよう指定し、`RRSBATCH` という接続名を指定する。

作業論理単位をコミットするかバックアウトするかは、その他の参加システムである RRS の回復可能資源マネージャーによって調整する。他の参加システムの有無を調べるのは困難な場合がある。情報が失われた場合には RRS の回復ログで必要な情報を入手することができる。

このキュー・マネージャーの未確定スレッドのうち、RRS によって調整する未確定スレッドはすべて `RESOLVE INDOUBT` コマンドにより解決する必要がある。ロックされたデータは、スレッドが解決されるまで使用できない。このコマンドによりすでに解決されたスレッドは廃棄される。まだ解決されていないスレッドは、このコマンドにより解決されると廃棄される。

`RESOLVE INDOUBT` コマンドにより作業論理単位をコミットするかバックアウトするかを指定すると、すべてのダウンストリーム参加システム (存在する場合) にその設定が通知される。

CSQ3013I

`csect-name` キュー・マネージャーは正しくないシステム上で再始動されたため、RRS に接続できません。IBM MQ が参加すべき UR で解決されないものがあります。

説明

キュー・マネージャーに 1 つまたは複数の未確定スレッドが存在するが、キュー・マネージャーを RRS に接続して、これらの未確定の回復単位 (UR) を解決することができない。

システム・アクション

処理を続行する。

CSQ3014I

`csect-name` 未確定 RRS URID=`rrs-urid` は IBM MQ に認識されません。RRS=`mq-urid` によって IBM MQ 用に URID が記録されました。

説明

キュー・マネージャーを RRS により再始動しようとした。このとき、IBM MQ は参加システムであり、RRS は調整システムである。キュー・マネージャーが参加システムとなっている回復単位 (UR) が RRS に存在するが、そのキュー・マネージャーには、ID が `rrs-urid` である RRS 回復単位に関する情報が無い。RRS は、IBM MQ URID を `mq-urid` として記録している。

システム・アクション

RRS による再始動は続行される。

システム・プログラマーの応答

IBM MQ または RRS に問題がある場合、あるいは、次のいずれかのアクションが以前に実行された場合に、このメッセージが生成される。

- 条件再始動を実行したことにより、IBM MQ のログの一部または全部が失われた。この条件再始動は、過去のある時点において実行されたものである。
- `RESOLVE INDOUBT` コマンドにより、IBM MQ に存在した `mq-urid` という ID の回復単位 (UR) を解決した。

上記のどちらかが実行された場合は、このメッセージを無視してもかまわない。どちらも実行されなかった場合には、IBM MQ または RRS に問題があると考えられる。

`mq-urid` の値が有効なログ RBA を示す場合は、ログ印刷ユーティリティー (CSQ1LOGP) を使用する。その場合、`SUMMARY` オプションを指定し、URID オプションに `mq-urid` の値を指定する。これにより回復単位が検索された場合には、後処理時にその回復単位をコミットするかバックアウトするかを指定する。可能な場合には、その指定に合わせて、RRS の ISPF インターフェースにより RRS の URID をコミットまたはバックアウトする。

IBM MQ にエラーがあると思われる場合は、「問題判別」の項にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQ3016I

csect-name RRS はログからデータを損失しました。

説明

キュー・マネージャーを RRS により再始動しようとしたが、RRS のログの一部が失われていた。

システム・アクション

RRS による再始動は続行される。

システム・プログラマーの応答

RRS のログ・データが失われているため、IBM MQ では未確定の回復単位を RRS を使用して正しく解決できない場合がある。

CSQ3017I

csect-name RRS 機能 *call-name* が失敗しました。RC=*rc*

説明

キュー・マネージャーの再始動時に、*call-name* によって指定された RRS 機能から、失敗を示す戻りコード *rc* が発行された。

システム・アクション

処理は続行されるが、RRS 機能は使用できなくなる。例えば、RRS アダプターを使用した接続は許可されず、キュー共有グループ機能は動作しない。

システム・プログラマーの応答

指定された機能からの RRS 戻りコードを調べて、問題を解決する。その後、キュー・マネージャーを再始動します。

CSQ3018I

csect-name RRS 機能の同期が完了しました。

説明

キュー・マネージャーが RRS との同期処理を完了しました。RRS 機能を使用できます。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ3100I

csect-name - サブシステム *ssnm* は START コマンドの準備完了。

説明

キュー・マネージャーは終了し、必要なときに再始動することができる。

CSQ3101E

csect-name - 無効な早期処理パラメーター

説明

z/OS コマンド SETSSI ADD、または IBM MQ サブシステムの SYS1.PARMLIB の IEFSSNxx メンバーにあるサブシステム定義レコードが、早期処理初期設定パラメーターを誤って指定した。名前は CSQ3EPX でなければならない。

障害サブシステム名は、このメッセージの後に続くメッセージ IEF759I に示される。

システム・アクション

示された名前を持つ IBM MQ サブシステムは使用できない。

システム・プログラマーの応答

SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコードのパラメーター・フィールドを訂正する。パラメーターの詳細については、『[SYS1.PARMLIB メンバーの更新](#)』を参照。

CSQ3102E

csect-name - 無効なコマンド接頭部

説明

z/OS コマンド SETSSI ADD、または IBM MQ サブシステムの SYS1.PARMLIB の IEFSSNxx メンバーにあるサブシステム定義レコードが、コマンド接頭部初期設定パラメーターを誤って指定した。

障害サブシステム名は、このメッセージの後に続くメッセージ IEF759I に示される。

システム・アクション

示された名前を持つ IBM MQ サブシステムは使用できない。

システム・プログラマーの応答

SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコードのパラメーター・フィールドを訂正する。パラメーターの詳細については、『[SYS1.PARMLIB メンバーの更新](#)』を参照。

CSQ3104I

csect-name - 終了処理が完了しました。

説明

キュー・マネージャーは終了した。キュー・マネージャー・アドレス・スペースの実際の z/OS 終了は、これよりも前に終了している場合がある。このメッセージは、終了のたびに (正常終了であっても異常終了であっても) 出される。

CSQ3105E

csect-name - 早期処理プログラム「CSQ3EPX」をロードできません。 *ssnm* は使用できません。

説明

初期設定プログラム (CSQ3INI) が早期処理プログラム (CSQ3EPX) を見つけられなかったため、IBM MQ サブシステムのサブシステム初期設定処理または早期処理のリフレッシュは失敗した。

サブシステム初期設定の場合、プログラムは、リンク・パック域 (LPA) か、リンク・リストにあるライブラリーに存在していなければならない。早期処理のリフレッシュの場合、プログラムは LPA に存在していなければならない。

システム・アクション

サブシステム初期設定または早期処理のリフレッシュは異常終了する。IBM MQ サブシステム *ssnm* は使用できない。

CSQ3106E

csect-name - キュー・マネージャーが停止しました。コマンドを処理できません。 *command-text*

説明

コマンドを受け取ったが、次のいずれかの理由で処理することができない。

- キュー・マネージャーが始動していない (START QMGR コマンドが正しく入力されなかったことが原因であると思われる)。
- キュー・マネージャーが始動中の際、コマンドはキューに入れられていたが、始動がエラーで終了した。
- コマンドを処理する前に、キュー・マネージャーが終了した。

システム・アクション

コマンドは処理されません。

CSQ3107E

csect-name - コマンドは拒否されました。要求側に権限がありません。

説明

正しい権限を持たないコンソールからコマンドを受信した。

システム・アクション

コマンドは処理されません。このメッセージは、そのコマンドを入力したコンソールに送られる。

システム・プログラマーの応答

このコンソールを IBM MQ コマンドの入力に使用する必要があるかどうかを確認する。その場合は、z/OS サービスを使用して、IBM MQ コマンドの使用を許可します。

注: IBM MQ のセキュリティが活動化されていなくても、この検査は行われる。この許可は、z/OS コンソール許可であり、外部セキュリティ・マネージャーに関連するものではない。IBM MQ コマンドを入力したユーザー ID は、SYS、ALL、または MASTER のコンソール権限のある OPERPARM AUTH を持っていなければならない。

CSQ3108E

csect-name - コマンドは拒否されました。コマンド機能経路は使用不能です。

説明

コマンドを受信したが、z/OS コンソールから IBM MQ コマンド・プロセッサまでのパスが使用できない。それでも、別の方法でコマンドを入力することは可能である。このメッセージは、キュー・マネージャーに対する早期コードがコマンド発行の時点でリフレッシュ中であった場合にも受け取ることがある。

システム・アクション

コマンドは処理されません。このメッセージは、そのコマンドを入力したコンソールに送られる。

システム・プログラマーの応答

コンソール・コマンド機能は、次にキュー・マネージャーが始動されたときに、再び使用可能となる。

コマンドを発行した時点でキュー・マネージャーに対する早期コードがリフレッシュ中であったためにコマンドが拒否された場合は、メッセージ CSQ3110I が発行されて早期コードが正常にリフレッシュされるのを待ってから、コマンドを再発行する。

CSQ3109E

csect-name - サブシステム *ssnm* のサブシステム類似性表索引を取得できません。IEFSSREQ RC=*nn*

説明

IBM MQ が、指定されたサブシステムのサブシステム類似性表索引を入手することができなかった。z/OS は、指定されたサブシステム名を既知のサブシステムとして認識できなかった。このメッセージが送出された場合は、z/OS または IBM MQ で重大なエラーが起こっている。

メッセージの中の *nn* は、IEFSSREQ z/OS サービスからの戻りコードである。*ssnm* は、IPL 時に初期設定が行われている IBM MQ サブシステムの名前である。

システム・アクション

IBM MQ は、完了コード X'5C6' および理由コード X'00F30104' で異常終了する。示された名前を持つ IBM MQ サブシステムは、z/OS のこの IPL には使用できない。

システム・プログラマーの応答

z/OS システムの IPL を試行してみる。問題が解決しない場合は、[z/OS 上の問題判別](#)を参照して、その問題の特定と報告に関する情報を調べる。

CSQ3110I

csect-name - サブシステム *ssnm* の初期設定が完了しました。

説明

以下のいずれかを実行します。

- z/OS IPL 処理または z/OS コマンド SETSSI ADD に続いて、IBM MQ サブシステムの初期化が完了します。

- REFRESH QMGR TYPE(EARLY) コマンドの後、IBM MQ 早期処理プログラムは正常にリフレッシュされた。

CSQ3111I

csect-name - EARLY PROCESSING PROGRAM IS Vn LEVEL l

説明

このメッセージは、使用される早期処理プログラムのレベルを示す。

レベルの形式は *nnn-mmm* で、早期コードの機能を示す。

nnn は製品の新規リリースごとに増加する。*mmm* は PTF によって早期コードに保守が追加されるときに増加することがある。

使用される早期コード・レベルは、LPAR で実行する予定の最も高い製品リリースに対応する機能レベルを持つ必要がある。インストールされているレベルを確認するために *nnn* 値を使用できる。

対応する *nnn* の値は次のとおり:

- **006**: IBM WebSphere MQ for z/OS 7.1
- **007**: IBM MQ for z/OS 8.0
- **008**: IBM MQ for z/OS 9.0
- **009**: IBM MQ for z/OS 9.1
- **010**: IBM MQ for z/OS 9.2
- **010**: IBM MQ for z/OS 9.3

CSQ3112E

csect-name - 無効な CPF 有効範囲

説明

z/OS コマンド SETSSI ADD、または IBM MQ サブシステムの SYS1.PARMLIB の IEFSSNxx メンバーにあるサブシステム定義レコードが、CPF スコープの初期設定パラメーターを誤って指定した。

障害サブシステム名は、このメッセージの後に続くメッセージ IEF759I に示される。

システム・アクション

示された名前を持つ IBM MQ サブシステムは使用できない。

システム・プログラマーの応答

SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコードのパラメーター・フィールドを訂正する。パラメーターの詳細については、『[SYS1.PARMLIB メンバーの更新](#)』を参照。

CSQ3113E

csect-name - コマンド接頭部を登録できませんでした。CPF 内の文字が無効です。

説明

コマンド接頭部 (CPF) に無効な文字が含まれているため、コマンド接頭部の登録が失敗に終わった。

システム・アクション

示された名前を持つ IBM MQ サブシステムは使用できない。

システム・プログラマーの応答

SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコード内の CPF パラメーターを訂正する。パラメーターの詳細については、『[SYS1.PARMLIB メンバーの更新](#)』を参照。

CSQ3114E

csect-name - コマンド接頭部を登録できませんでした。サブシステム名に無効な文字があります。

説明

コマンド接頭部 (CPF) の所有者として使用されたサブシステム名に無効な文字が含まれているため、コマンド接頭部の登録が失敗に終わった。

システム・アクション

示された名前を持つ IBM MQ サブシステムは使用できない。

システム・プログラマーの応答

SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコード内の CPF パラメーターを訂正する。パラメーターの詳細については、『[SYS1.PARMLIB メンバーの更新](#)』を参照。

CSQ3115E

csect-name - コマンド接頭部を登録できませんでした。CPF は既に定義されています。

説明

コマンド接頭部 (CPF) はすでに z/OS に対して定義されているため、コマンド接頭部の登録が失敗に終わった。

システム・アクション

示された名前を持つ IBM MQ サブシステムは使用できない。

システム・プログラマーの応答

SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコード内の CPF パラメーターを訂正する。パラメーターの詳細については、『[SYS1.PARMLIB メンバーの更新](#)』を参照。

CSQ3116E

csect-name - コマンド接頭部を登録できませんでした。CPF は、すでに定義されている CPF のサブセットです。

説明

コマンド接頭部 (CPF) が、z/OS に対してすでに定義されている CPF のサブセットであるため、コマンド接頭部の登録が失敗に終わった。

システム・アクション

示された名前を持つ IBM MQ サブシステムは使用できない。

システム・プログラマーの応答

SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコード内の CPF パラメーターを訂正する。パラメーターの詳細については、『[SYS1.PARMLIB メンバーの更新](#)』を参照。

CSQ3117E

csect-name - コマンド接頭部を登録できませんでした。CPF は、すでに定義されている CPF のスーパーセットです。

説明

コマンド接頭部 (CPF) が、z/OS に対してすでに定義されている CPF のスーパーセットであるため、コマンド接頭部の登録が失敗に終わった。

システム・アクション

示された名前を持つ IBM MQ サブシステムは使用できない。

システム・プログラマーの応答

SYS1.PARMLIB メンバー IEFSSNxx のレコード内の CPF パラメーターを訂正する。パラメーターの詳細については、『[SYS1.PARMLIB メンバーの更新](#)』を参照。

CSQ3118E

csect-name - コマンド接頭部登録中のシステム・エラーです。

説明

コマンド接頭部 (CPF) の登録中に、z/OS エラーが起こった。

システム・アクション

示された名前を持つ MQ サブシステムは使用できない。

システム・プログラマーの応答

z/OS コンソールに、この問題に関連するメッセージが他にないかを調べる。

CSQ3119E

csect-name グループ接続テーブルへの *call-name* 呼び出しが失敗しました。rc=*rc*。

説明

グループ接続機能の初期設定の際、名前トークン・サービス呼び出しが失敗した。rc は、呼び出しからの戻りコード (16 進表示) である。

システム・アクション

処理は続行するが、グループ接続機能は CICS を使用不能となる。

システム・プログラマーの応答

[IEANTCR](#) 名前トークン・サービス呼び出しからの戻りコードについては、*z/OSMVSAuthorized Assembler Services Reference* マニュアルを参照してください。問題を解決できない場合は、スタンドアロンのシステム・ダンプを取り、IBM サポートに連絡する。

CSQ3120E

csect-name - IXCQUERY ERROR FOR XCF GROUP *group-name* APPLID= *applid*, RC= *rc* REASON= *reason*

説明

APPLID *applid* の CICS 領域が、キュー共有グループに接続しようとした。要求の処理中に、IXCQUERY 呼び出しが戻りコード *rc* および理由コード *reason* で失敗した。

IXCQUERY 要求が実行された XCF グループは、*group-name* で識別される。

システム・アクション

CICS によるキュー共有グループへの接続要求は理由コード MQRC_UNEXPECTED_ERROR で失敗する。

システム・プログラマーの応答

[IXCQUERY](#) の戻りコードと理由コードの説明については、「*z/OS MVS シスプレックス・サービス解説書*」を参照。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

CSQ3201E

異常な EOT が進行中です。ユーザー=*user* 接続 ID=*conn-id* THREAD-XREF=*thread-xref*
JOBNAME=*jobname* ASID=*asid* TCB=*tcb*

説明

メッセージに表示されたユーザー、接続 ID、THREAD-XREF、JOBNAME、ASID、および TCB の値を持つエージェントに対する異常終了処理が開始された。これらの値は、終了中のエージェントに関して、認識されている最後の ID のセットである。

接続エージェントのアドレス・スペースにおけるエラー、またはオペレーターから実行された z/OS コマンド CANCEL の結果として、この異常終了が起こったと考えられる。

ユーザー、THREAD-XREF あるいはこの両方の値はブランクとなることもある。ユーザー、接続 ID、THREAD-XREF、JOBNAME、および ASID の値は、この接続で IBM MQ に対して確立された最後の値であり、エージェントの現行の活動を表している場合がある。TCB の値は、終了する TCB のアドレスである。このエージェントによる前の IBM MQ 作業は、正常に完了していることがある。

終了処理が開始された時点で、エージェントがサービス・タスク作業キューから取り除かれた後で、このメッセージ CSQ3201E が z/OS コンソールに書き出される。

システム・アクション

エージェントは、前に、終了処理のために、サービス・タスクのキューに入れられていた。このメッセージは、エージェントが処理のためにキューから取り出されたことを示している。コミットされていない変更内容はすべてバックアウトされる。

システム・プログラマーの応答

このメッセージの『問題判別』の項を参照。z/OS コマンドの CANCEL および FORCE による影響はない。IBM MQ はキャンセルしないこと。広範囲にわたるバックアウトが進行中である場合、その後のキュー・マネージャーの再始動は、追加のログ活動が必要になるため、長時間かかる可能性がある。

CSQ3202E

CONNECTION FOR *jobname* FAILED, INSUFFICIENT ECSA STORAGE TO CREATE ACE

説明

jobname は、MQCONN (または MQCONNX) API コールを使用して IBM MQ に接続しようとした。

接続を表す制御ブロックを作成するために使用できる共通ストレージが不十分で、接続の試行が失敗した。

システム全体で ECSA が不足している可能性がある。または、キュー・マネージャーの新規接続を作成するために使用できるストレージが ACELIM システム・パラメーターによって制限されている可能性がある。

このメッセージは、RRS アプリケーションを含め、バッチ・アプリケーションの場合に表示されることがある (例えば、Db2 ストアード・プロシージャや WebSphere Application Server)。

システム・アクション

(*jobname* で使用された) MQCONN または MQCONNX の API 呼び出しが、理由コード MQRC_Q_MGR_NOT_AVAILABLE 2059 とともに MQCC_FAILED を返す。

キュー・マネージャーの処理は続けられる。

CSQ3580E

'*ssi-call*' への接続から、RC=*rc*、REASON=*reason* が返されました。

説明

サブシステム・インターフェース (SSI) 呼び出しに対する接続から、ゼロ以外の戻りコードが CSQ3AMI2 に戻された。メッセージ中の変数は、どの SSI 呼び出しが関与しているか、および関連する実際の戻りコードと理由コードを示す。

システム・アクション

現在のタスクは、システム完了コード X'5C6' と理由コード X'00F30580' とで異常終了する。キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。メッセージに示された値を書き留め、IBM サポートに連絡する。

Db2 マネージャー・メッセージ (CSQ5...)

CSQ5001I

csect-name Db2 *db2-name* に接続しました。

説明

キュー・マネージャーは、この名前の Db2 サブシステムへの接続を正常に確立した。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ5002E

csect-name connect-name を使用した Db2 への接続が失敗しました。RC=戻りコード 理由=*reason*

説明

キュー・マネージャーは、この名前の Db2 サブシステムに接続しようとしたが、失敗した。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了します。

システム・プログラマーの応答

普通これは、権限エラーである。

コードの説明について *Db2 for z/OS* の資料の [Db2 コード](#) を参照し、問題の解決を試みてください。

CSQ5003A

csect-name connect-name を使用した Db2 への接続が保留されています。アクティブな接続がありません。Db2

説明

キュー・マネージャーは、適格な Db2 サブシステムが活動状態になり、接続の確立が可能になるのを待っている。あるいは、RRS が活動状態にないか、Db2 サブシステムの後に開始された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、適格 Db2 サブシステムが活動状態になるのを待つ。

システム・プログラマーの応答

Db2 サブシステムが活動状態であるかどうかを検査する。活動状態でない場合は開始する。活動状態になっている場合は、RRS を必ず活動状態にし、これが Db2 サブシステムより前に開始しているかどうかを検査する。

CSQ5004E

キュー共有グループ *qsg-name* 内のキュー・マネージャーの *csect-name* Db2 テーブル項目が欠落しているか、または正しくありません。

説明

始動時、キュー・マネージャーは Db2 管理表の中にその項目を検出できなかったか、その項目が正しくない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50013' で終了する。

システム・プログラマーの応答

指定されている Db2 データ共有グループの Db2 表中に、キュー・マネージャー・レコードが存在しているかどうかを検査する。QSGDATA システム・パラメーターで正しい Db2 データ共有グループが指定されているかどうかを検査する。正しいデータ共有グループが指定されているなら、CSQ.ADMIN_B_QMGR 表の中にキュー・マネージャーの項目が存在するかどうかを検査する。

直前のリリースの IBM MQ からマイグレーションしようとしている場合は、Db2 表を現行リリースの形式に更新したかどうかを確かめる。異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、[保守および移行](#)を参照。

CSQ5005E

csect-name キュー・マネージャーのリリース・レベルがキュー共有グループと非互換です。

説明

開始済みキュー・マネージャーのリリース・レベルが、キュー共有グループの他のメンバーのリリース・レベルと非互換である。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50029' で終了する。

システム・プログラマーの応答

V 9.3.0 リリース間のマイグレーションと互換性については、[キュー共有グループの移行](#)を参照してください。

V 9.3.0

メッセージを発行するキュー・マネージャーによってサポートされているレベルより低いキュー共有グループ内のキュー・マネージャーを見つけ、少なくともサポートされているレベルにアップグレードしてから、キュー・マネージャーの再始動を試行してください。

リリース間の互換性については、[z/OSでのキュー共有グループの共存](#)を参照してください。

CSQ5PQSG ユーティリティの MIGRATE QSG オプションの結果に、存在しなくなったキュー・マネージャーがまだ Db2 表にあることが示されている場合は、REMOVE QMGR オプションを使用するか、必要であれば FORCE QMGR オプションを使用します。

CSQ5006E

csect-name データ共有グループが違います。

説明

QSGDATA システム・パラメーターで指定されている Db2 データ共有グループと CSQ.ADMIN_B_QMGR 表のキュー・マネージャー項目とのミスマッチが発覚した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50006' で終了する。

システム・プログラマーの応答

QSGDATA システム・パラメーターで指定されるキュー共有グループ名は、Db2 CSQ.ADMIN_B_QMGR 表でそのキュー・マネージャーが定義されているキュー共有グループ名と一致していなければならない。

CSQ5007E

csect-name RRSF 機能 *function* が失敗しました。計画 *plan-name*, RC=*return-code* 理由=*reason* 同期点コード=*sync-code*

説明

非ゼロの、または予期しない戻りコードが RRSF 要求から戻された。関係する Db2 計画は、*plan-name* であった。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動または再接続の処理中にエラーが発生した場合、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' と理由コード X'00F50016' で終了する可能性がある。それ以外の場合は、エラー・メッセージが出され、処理が再試行されます。

システム・プログラマーの応答

メッセージの RRS 戻りコードおよび理由コードから、エラーの原因を判別する。

コードの説明について [Db2 for z/OS の資料の Db2 コード](#) を参照し、問題の解決を試みてください。

CSQ5008E

csect-name Db2 *db2-name* はデータ共有グループ *dsg-name* のメンバーではありません。

説明

キュー・マネージャーが接続している Db2 サブシステムは、QSGDATA システム・パラメーターで指定されている Db2 データ共有グループのメンバーではない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50007' で終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーの接続先である Db2 サブシステムが、QSGDATA システム・パラメーターで指定されるデータ共有グループのメンバーであるようにする。

Db2 サブシステムに対して Db2 コマンド DIS GROUP を発行し、そのデータ共有グループ名が QSGDATA システム・パラメーターのデータ共有グループ名と一致していることを確認する。

CSQ5009E

csect-name 表 *table-name* で SQL エラー。コード=*SQL-code* 状態=*SQL-state*, データ=*d1 d2 d3 d4 d5*

説明

非ゼロの、または予期しない SQL 戻りコードが Db2 SQL 要求から戻された。

システム・アクション

要求された操作は失敗する。処理は続行するが、要求が失敗したことにより他のエラーが発生する可能性がある。環境によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50014' で終了する。

システム・プログラマーの応答

SQL エラーの原因を判別し、問題を訂正する。

SQL エラーの説明については、「*Db2 for z/OS*」資料の [Db2 コード](#) を参照してください。

CSQ5010E

csect-name XCF IXCQUERY メンバー・エラー。RC=return-code 理由=reason

説明

キュー・マネージャーが IXCQUERY 要求から予期しない戻りコードを受け取った。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50017' で終了する。

システム・プログラマーの応答

予期しなかったそのエラーの原因を判別し、問題を訂正する。

[IXCQUERY](#) 要求からの戻りコードと理由コードの説明については、「*z/OS MVS プログラミング: システム・サービス解説書*」を参照。

キュー共有グループ (QSG) 内の 1 つ以上のキュー・マネージャーが、QSG の XCF グループにメンバー項目を持たない場合に、このメッセージが発生する可能性がある。

xxxx を QSG 名で置き換えて次の z/OS コマンドを入力する。

```
D XCF,GRP,CSQGxxxx,ALL
```

これにより、XCF グループのメンバーがリストされる。いずれかのキュー・マネージャーが QSG のメンバーとしては定義されているが、XCF グループに項目がない場合、CSQ5PQSG ユーティリティの ADD QMGR コマンドを使用してそのキュー・マネージャーの XCF グループ項目を復元する。このユーティリティは、XCF グループに項目がないキュー・マネージャーごとに実行する必要がある。

CSQ5011E

csect-name XCF IXCJOIN グループ・エラー。RC=return-code 理由=reason

説明

キュー・マネージャーが IXCJOIN 要求から予期しない戻りコードを受け取った。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50019' で終了する。

システム・プログラマーの応答

予期しなかったそのエラーの原因を判別し、問題を訂正する。

[IXCJOIN](#) 要求からの戻りコードと理由コードの説明については、「*z/OS MVS プログラミング: システム・サービス解説書*」を参照。

CSQ5012E

csect-name XCF IXCQUIES グループ・エラー。RC=return-code 理由=reason

説明

キュー・マネージャーが IXCQUIES 要求から予期しない戻りコードを受け取った。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50021' で終了する。

システム・プログラマーの応答

予期しなかったそのエラーの原因を判別し、問題を訂正する。

IXCQUIES 要求からの戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS MVS プログラミング: システム・サービス解説書」を参照。

CSQ5013E

csect-name XCF IXCSETUS エラー。RC=*return-code* 理由=*reason*

説明

キュー・マネージャーが IXCSETUS 要求から予期しない戻りコードを受け取った。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' および理由コード X'00F50018' で終了する。

システム・プログラマーの応答

予期しなかったそのエラーの原因を判別し、問題を訂正する。

IXCSETUS 要求からの戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS MVS プログラミング: システム・サービス解説書」を参照。

CSQ5014I

csect-name db2-name への接続が失われました。Db2 は異常終了しました。

説明

キュー・マネージャーは、接続している Db2 サブシステムから異常終了の通知を受けた。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、この Db2 サブシステムへの接続を終結処理し、再接続を行う。QSGDATA システム・パラメーターで Db2 のグループ接続名が指定されている場合は、異なる Db2 に接続されることもある。

システム・プログラマーの応答

Db2 の異常終了の原因を判別する。問題を訂正し、Db2 サブシステムを再始動する。

CSQ5015I

csect-name db2-name への接続が失われました。Db2 は強制的にシャットダウンされます。

説明

キュー・マネージャーは、接続している Db2 サブシステムから STOP FORCE 終了の通知を受けた。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、この Db2 サブシステムへの接続を終結処理し、再接続を行う。QSGDATA システム・パラメーターで Db2 のグループ接続名が指定されている場合は、異なる Db2 に接続されることもある。

システム・プログラマーの応答

Db2 の強制終了の原因を判別する。Db2 サブシステムの再始動。

CSQ5016I

csect-name db2-name への接続が静止中です。Db2 は終了中です。

説明

キュー・マネージャーは、接続している Db2 サブシステムから STOP QUIESCE 終了の通知を受けた。

システム・アクション

キュー・マネージャーはすべての Db2 サーバー・タスクを静止し、Db2 サブシステムから切断して、シャットダウンする。その後、再接続する。QSGDATA システム・パラメーターで Db2 のグループ接続名が指定されている場合は、異なる Db2 に接続されることもある。

システム・プログラマーの応答

Db2 サブシステムを再始動し、共有キューの操作を再開する。

CSQ5019I

csect-name Db2 *db2-name* から切断されました。

説明

キュー・マネージャーは、Db2 サブシステムから正常に切断した。

システム・アクション

切断が Db2 STOP MODE(QUIESCE) によるものである場合、キュー・マネージャーは Db2 サブシステムへの接続を試行する。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ5020E

csect-name SQL エラー。表 *table-name* が Db2 に定義されていません。

説明

キュー・マネージャーが、Db2 表の 1 つにアクセスしようとしたが、Db2 は、SQL コードを戻し、その表が存在しないことを示した。

システム・アクション

要求は失敗するが、処理は続行する。

システム・プログラマーの応答

Db2 環境をセットアップするための MQ タスクがすべて正常に完了しており、QSGDATA システム・パラメーターに正しい Db2 データ共有グループ名が指定されているかどうかを検査する。

CSQ5021E

csect-name SQL エラー。表 *table-name* の索引が Db2 で作成されていません。

説明

キュー・マネージャーが、Db2 表の 1 つにアクセスしようとしたが、Db2 は、SQL コードを戻し、指定された表の索引が作成されていないことを示した。

システム・アクション

要求は失敗するが、処理は続行する。

システム・プログラマーの応答

Db2 環境をセットアップするためのすべての IBM MQ タスクが正常に完了したこと、および正しい Db2 データ共有グループ名が QSGDATA システム・パラメーターに指定されていることを確認してください。

CSQ5022I

csect-name connect-name を使用した Db2 への保留中の接続が終了しました。キュー・マネージャーは終了します。

説明

STOP QMGR 要求により、未解決な Db2 への接続保留要求が終了した。

システム・アクション

Db2 への接続の保留が取り消され、キュー・マネージャーの終了処理が続く。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ5023E

csect-name SQL エラーです。表 *table-name* にアクセスできません。

説明

キュー・マネージャーがその表の 1 つにアクセスしようとしたが、SQL コードが戻され、そのコードは、指定されたリソースへのアクセスが失敗したことを示した。

システム・アクション

要求は失敗するが、処理は続行する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージの後に、Db2 から返される情報の詳細を含むメッセージ CSQ5009E が続く。これを Db2 ログのメッセージとともに使用して、問題を診断する。

この問題は、Db2 資源の競合が原因である可能性が高い (特に、使用頻度の高いシステムの場合)。その場合、問題は一時的であるので、エラーが発生したアクションを再試行する。

そうでない場合に、問題が解決しないときは、関連する資源をメッセージと Db2 ログから判別し、その資源をアンロックするために必要な回復処置を行う。このような問題は、Db2 表の 1 つを更新するときに Db2 障害によって引き起こされる可能性がある (これについては、Db2 ログに示される)。

CSQ5024E

csect-name キュー・マネージャーの状況を更新できません。RC=*return-code*

説明

始動および終了処理の間に、キュー・マネージャーが CSQ.ADMIN_B_QMGR 表の中の状況を変更しようとしたが、その試みは失敗した。

システム・アクション

なし。始動/終了処理が続行される。

システム・プログラマーの応答

なし。

CSQ5025E

csect-name SQL エラー。関数 *function* コード=*SQL-code*

説明

function に示される SQL 関数への呼び出しで、*SQL-code* で示される非ゼロのコードが戻された。

システム・アクション

処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

メッセージに示された値を書き留め、IBM サポートに連絡する。

エラー・コードについて詳しくは、「*Db2 for z/OS*」資料の [Db2 コード](#) を参照してください。

CSQ5026E

csect-name Db2 にアクセスできません。RRS が使用できません。

説明

キュー・マネージャーが Db2 へアクセスしようとしたが、RRS が使用不能であった。

システム・アクション

キュー・マネージャーの初期設定の間にこれが生じた場合、キュー・マネージャーは RRS の使用が可能になるまで待つ。

その他のときに発生した場合、キュー・マネージャーは Db2 への接続を終了してから再接続を試行する。キュー共有グループの機能の中には、RRS が再始動し、Db2 への接続が再び確立するまで使用できないものがある。

システム・プログラマーの応答

RRS を始動 (または再始動) する。

CSQ5027E

csect-name 表 *table-name* で SQL エラー。デッドロックまたはタイムアウトが発生 (コード=SQL-code)

説明

SQL 呼び出しが非ゼロのコードを戻し、デッドロックまたはタイムアウト状態が発生していることを示した。

システム・アクション

要求は失敗するが、処理は続行する。

システム・プログラマーの応答

コマンドまたは関連するアプリケーションを再試行する。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

エラー・コードについて詳しくは、「*Db2 for z/OS*」資料の [Db2 コード](#) を参照してください。

CSQ5028E

csect-name Db2 にアクセスできません。RRS 接続限界を超えました。

説明

キュー・マネージャーが Db2 へアクセスしようとしたが、RRS が同時接続の限界に達している。

システム・アクション

キュー・マネージャーの初期設定中にこのメッセージが出された場合、キュー・マネージャーは RRS 接続が使用可能になるまで待機する。

このメッセージがその他のときに発生した場合、キュー・マネージャーは Db2 への接続を終了してから再接続を試行する。キュー共有グループの機能の中には、RRS が再始動し、Db2 への接続が再び確立するまで使用できないものがある。

システム・プログラマーの応答

RRS 接続の限界を調整してから、RRS を始動 (または再始動) する。

同時ユーザーおよび同時接続の最大数を制御する Db2 システム・パラメーターが正しいことを確認する。この Db2 パラメーターは、スレッド管理パネル DSNTIPE での最大バッチ接続 (CTHREAD) である。

問題を解決するためのこの Db2 パラメーターの説明については、*Db2 for z/OS* の資料を参照してください。

CSQ5029E

csect-name Db2 表 *table-name* に対する操作が失敗しました。

説明

指定された Db2 表に要求された操作が失敗した。例えば、表が満杯か、または要求を実行するために使用可能なストレージが不十分な可能性がある。

多くの場合、これが発生するのは、大きな共有メッセージを保管するために IBM MQ が使用する表の 1 つにデータを書き込むときである。

システム・アクション

メッセージ CSQ5009E が発行されて、関連する SQL エラー・コードの詳細が示される。要求された操作は失敗するが、処理は続行する。メッセージや他のデータは表に書き込まれない。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQ5009E 内の SQL コードで示される問題の原因を調査する。

この表が、大きな共有メッセージの保管に使用されている表の 1 つで、問題の原因がストレージ不足の場合、この状態は一時的なものと思われるので、後で操作を再試行する。この表が満杯であることが問題の原因である場合は、メッセージのいくつかを除去する。例えば、メッセージを取り出して処理するアプリケーションを開始する。MQ DISPLAY GROUP コマンドを使用して、使用されなくなったメッセージが表スペースにあるかどうかを調べ、あれば削除する。必要であれば、表のサイズを大きくする。

CSQ5032I

csect-name Db2 *db2-name* への接続がデータ共有グループ *dsg-name* で中断されています。

説明

これは SUSPEND QMGR FACILITY(Db2) コマンドが正常に終了した場合に発行される。

システム・アクション

指定されたキュー・マネージャーに対するすべての Db2 活動は中断されていて、Db2 への接続は切断されている。

システム・プログラマーの応答

Db2 活動の再開準備ができれば、RESUME QMGR FACILITY(Db2) コマンドを使用する。

CSQ5033I

csect-name Db2 *db2-name* への接続がデータ共有グループ *dsg-name* で再開されました。

説明

RESUME QMGR FACILITY(Db2) コマンドは正常に完了し、Db2 への接続は再確立されている。

システム・アクション

指定されたキュー・マネージャーに対する Db2 活動は再開されている。

CSQ5034I

csect-name Db2 の中断または再開要求が保留中です。

説明

SUSPEND または RESUME QMGR FACILITY(Db2) コマンドが発行されたが、そのような要求はすでに保留中である。

システム・アクション

なし。

システム・プログラマーの応答

保留中の要求が完了するまで待つ、必要であればコマンドを再発行する。

CSQ5035I

csect-name Db2 *db2-name* への接続がデータ共有グループ *dsg-name* ですでに中断状態です。

説明

SUSPEND QMGR FACILITY(Db2) コマンドが発行されたが、指定された Db2 サブシステムへの接続はすでに中断されている。

システム・アクション

なし。

CSQ5036I

csect-name Db2 *db2-name* への接続がデータ共有グループ *dsg-name* で中断されていません。

説明

RESUME QMGR FACILITY(Db2) コマンドが発行されたが、指定された Db2 サブシステムへの接続は中断されていない。

システム・アクション

なし。

CSQ5038I

csect-name サービス・タスク *service-task* が hh.mm.ss.nnnnnn 以降、応答していません。Db2 の問題を検査してください

説明

hh.mm.ss.nnnnnn に開始した要求をサービス・タスク *service-task* で処理するのに長い時間がかかりすぎているのをキュー・マネージャーが検出した。

システム・アクション

処理は続行されるが、何らかの機能を使用できない可能性がある。

システム・プログラマーの応答

Db2 または RRS の問題のために IBM MQ 要求への応答が妨げられているかどうかを調査する。例えば Db2 CTHREAD 制限を超過したか、CPU、入出力容量、ストレージなどのリソース不足のため Db2 の実行が遅くなっているか、または Db2 がログ・スペースを待機している可能性がある。

CSQ5039I

csect-name SQL エラー情報

説明

SQL エラーが発生した。Db2 から直接送られた追加の診断情報が続く。

システム・アクション

前の Db2 マネージャーのエラー・メッセージを参照。

システム・プログラマーの応答

SQL エラーの原因を判別し、問題を訂正する。

CSQ5040E

アクティブ・ログ・データ・セット xxx.DS01 は暗号化されていますが、すべての QSG メンバーによってアクティブ・ログ・データ・セットの暗号化がサポートされているわけではありません

説明

名前の示されているアクティブ・ログ・データ・セットは暗号化によって保護されており、同じキュー共有グループ内のキュー・マネージャーが、アクティブ・ログ・データ・セットの暗号化をサポートしないバージョンの IBM MQ で実行されている。

アクティブ・ログ・データ・セット暗号化は IBM MQ for z/OS 9.1.4 以降でサポートされている。

QSG 内の各キュー・マネージャーは、同じ QSG 内の他のあらゆるキュー・マネージャーのログ・データ・セットを読み取ることが可能になっている必要がある

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

QSG 内のいずれかのキュー・マネージャーに対してアクティブなデータ・セット暗号化を構成する前に、QSG 内のすべてのキュー・マネージャーが、アクティブ・ログ・データ・セットの暗号化をサポートするバージョンの IBM MQ で開始されていることを確認する。

QSG 内の各キュー・マネージャーを正しいレベルで開始するか、またはデータ・セットの暗号化なしでアクティブ・ログを再構成する。

CSQ5041E

csect-name qmgr-name から検出された QSG 通知フラッシング (未解決の要求=num)

説明

キュー・マネージャーは、処理可能な速度よりも速い速度で `qmgr-name` から通知を受信し、バックログが 10000 個の保留中要求に達しました。

システム・アクション

このメッセージは、`qmgr-name` からのバックログが 10000 を下回るまで、毎分繰り返されます。

バックログが増え続けると、最終的にストレージが使い尽くされ、キュー・マネージャーの異常終了が発生します。

システム・プログラマーの応答

指定されたキュー・マネージャー上のどのアプリケーションが通知をトリガーするかを決定します。

生成される通知の数が少ない設計を使用するようにアプリケーションを更新することを検討してください。

通常、多数の QSG 通知を生成するアプリケーション設計の例を以下に示します。

- TRIGTYPE (EVERY) で構成されている共用アプリケーション・キューを使用します。

代わりに TRIGTYPE (FIRST) を使用することを検討してください。

- アプリケーションは、共用キューの最後の入力ハンドルを繰り返しクローズします。

共用キューのオープンとクローズを繰り返すのではなく、不要になるまで共用キューのハンドルをオープンしたままにすることを検討してください。

CSQ5100I

DISPLAY GROUP レポート...

説明

このメッセージは DISPLAY GROUP コマンドへの初期応答である。この後に、そのグループ内のキュー・マネージャーのフォーマット済み報告書であるメッセージ CSQ5102I が続く。

システム・アクション

処理は正常に続けられる。

CSQ5102I

グループ `group-name` 内のキュー・マネージャー

説明

このメッセージは DISPLAY GROUP コマンドへの応答の一部である。これは、グループ内の各キュー・マネージャーに関する情報を提供する。それは次のとおりである。

```
Name Num Prefix Status Ver Db2 Connection name num cpf qmgr-stat vrm db2-id
conn-stat : End of queue managers report
```

ここで、

name

キュー・マネージャーの名前。

NUM

グループ内で最初に生成されたキュー・マネージャーの数。

cpf

キュー・マネージャーのコマンド接頭部。

qmgr-stat

キュー・マネージャーの現在の状況。これには次のようなものがある。

ACTIVE

キュー・マネージャーは実行中です。

INACTIVE

キュー・マネージャーは実行されていません。正常終了しました。

失敗

キュー・マネージャーは実行されていません。異常終了しました。

CREATED

キュー・マネージャーはグループに定義されていますが、まだ開始されていません。

不明

状況を判別できません。

vrn

キュー・マネージャーの機能レベル。3桁の数字を指定する。

V

バージョン番号

r

リリース番号

m

モディフィケーション番号

db2-id

キュー・マネージャーが接続する Db2 サブシステムまたはグループ接続の名前。

conn-stat

Db2 への接続の現行状況。これには次のようなものがある。

ACTIVE

キュー・マネージャーが実行中で、Db2 へ接続している。

PENDING

キュー・マネージャーは実行中であるが、Db2 が正常に終了したため、接続されていない。

失敗

キュー・マネージャーは実行中であるが、Db2 が異常終了したため、接続されていない。

INACTIVE

キュー・マネージャーが実行しておらず、Db2 へも接続していない。

不明

状況を判別できません。

例外的に、最終行が次のようになることもある。

```
Report terminated, too many lines
```

z/OS コンソールからのコマンドに回答して報告書が生成された場合や、253 を超える応答メッセージが生成された場合はこのようになり、253 の応答行だけが戻される。

```
Report terminated
```

情報の取得の際にエラーが発生した場合に、このようになる。後続のメッセージでそのエラーが説明される。

システム・アクション

処理は正常に続けられる。

CSQ5103I

グループ *group-name* の Db2 内の廃止されたメッセージ

説明

通常、メッセージは Db2 から自動的に削除されるが、例外的な事情では、使用されなくなったメッセージが残っていることがある。この場合、次のようなメッセージを示す。

```
LEID msg-id : End of messages report
```

ここで、

msg-id

はメッセージの識別子。

例外的に、最終行が次のようになることもある。

```
Report terminated, too many lines
```

z/OS コンソールからのコマンドに 응답して報告書が生成された場合や、253 を超える 응답メッセージが生成された場合はこのようになり、253 の 응답行だけが戻される。

```
Report terminated
```

情報の取得の際にエラーが発生した場合に、このようになる。

システム・アクション

処理は正常に続けられる。

システム・プログラマーの応答

使用されなくなったメッセージを Db2 から削除する。例えば、SPUFI を使用して SQL コマンドを発行する。

```
DELETE FROM CSQ.ADMIN_B_MESSAGES WHERE QSGNAME = 'group-name' AND LEID = 'msg-id';
```

詳しくは、「[SPUFI を使用した SQL の実行](#)」を参照してください。

CSQ5113I

キュー・マネージャーはキュー共有グループ内にありません。

重大度

0

説明

キュー共有グループを必要とするコマンドが入力されたが、キュー・マネージャーがグループに含まれていない。

システム・アクション

コマンドは処理されない。

CSQ5116E

call-name 呼び出しが失敗しました。rc=rc 理由=reason

重大度

8

説明

DISPLAY GROUP コマンドの処理中、情報を取得するためのカップリング・ファシリティサービス呼び出しに失敗した。rc と reason はそれぞれ、この呼び出しからの戻りコードと理由コードである (いずれも 16 進表示)。

システム・アクション

処理は終了する。取得しようとしていた情報のタイプを確認するための次のメッセージが発行される。

システム・プログラマーの応答

「[z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#)」を参照してください。呼び出しからの戻りコードおよび理由コードについては、マニュアルを参照してください。

CSQ5117E

グループ *group-name* には情報がありません。 - reason

重大度

8

説明

DISPLAY GROUP コマンドの処理中、表示されている *reason* でそのグループの情報を取得できなかった。

エラー

先行するメッセージ CSQ5116E に示されているようにして、カップリング・ファシリティサービス呼び出しが失敗した。

CHANGED

グループのサイズが変化した。

システム・アクション

処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

適宜問題を解決する。

汎用コマンド・プリプロセッサ・プログラム・メッセージ (CSQ9...)

CSQ9000E

keyword が 2 度以上出現します。

説明

示されたキーワードがコマンド内に 2 度以上指定されている。このメッセージは、同じキーワードの 2 回目以降の出現のたびに発行される。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを正しく再発行する。[テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行を参照し](#)、コマンド作成のルールについて確認する。

CSQ9001E

keyword が無効です。

説明

指定されたキーワードは不明または未定義である。キーワードのつづりが間違っているか、処理中のコマンドにはこのキーワードは適用できない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを正しく再発行する。コマンドについては、[MQSC コマンド](#)を参照。

CSQ9002E

'*keyword*' の後に、対応していない括弧があります。

説明

キーワード *keyword* の後に、無効な組み合わせの括弧が見つかった。左括弧の後には、別の左括弧よりも先に右括弧を指定する必要がある。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを正しく再発行する。[テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行](#)を参照し、コマンド作成のルールについて確認する。

CSQ9003E

keyword パラメーターに、対応していないアポストロフィが含まれています。

説明

奇数個のアポストロフィがキーワード *keyword* のパラメーター値に含まれている。パラメーターが引用符付き文字ストリングである場合は、ストリングの前後にアポストロフィが1つずつ必要である。ストリング内でアポストロフィを使用する必要がある場合は、2つの連続するアポストロフィを入力しなければならない。パラメーターが16進数の値の場合、X'16進文字'として入力する必要がある。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを正しく再発行する。[テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行](#)を参照し、コマンド作成のルールについて確認する。

CSQ9004E

'*keyword*' パラメーターで範囲の指定 (:) が間違っています。

説明

キーワード *keyword* のパラメーターで、値の範囲が正しく指定されていない。範囲を表すために使用される文字はコロン (:) で、形式は *lower-limit:upper-limit* である。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照して、使用しているコマンドのこのキーワードで値の範囲が許可されていることを確認する。エラーを訂正し、コマンドを再発行してください。

CSQ9005E

'*keyword*' パラメーターが総称ルールを満たしていません

説明

キーワード *keyword* の場合、パラメーター値を汎用にすることはできるが、指定された値が汎用値の規則に準拠していない。以下のいずれかの理由のため、この値が以下の規則に準拠していない。

- 値に、末尾の文字ではないアスタリスク (*) が含まれている。
- 値に、疑問符 (?) またはコロン (:) が含まれている。
- キーワードが WHERE で、値がアスタリスク 1 つである。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、キーワード・パラメーターを訂正して、コマンドを再入力する。[MQSC コマンド](#)を参照して、キーワードの説明を確認し、コマンドの入力方法について調べる。

CSQ9006E

'*keyword*' パラメーターでアスタリスク (*) の使用方法が間違っています。

説明

キーワード *keyword* で、パラメーター値にアスタリスク (*) が使用された。以下のいずれかを実行します。

- アスタリスクが値の末尾の文字でも、唯一の文字でもなかった。誤った例として NAME(BL*CK) や NAME(*LUE) がある。正しくは、NAME(BL*) や NAME(*) と指定する。
- パラメーター値のリスト (例えば、DETAIL(1,*)) がある。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照して、使用しているコマンドのこのキーワードについて、'*' の指定が許可されていることを確認する。エラーを訂正し、コマンドを再発行してください。

CSQ9007E

'keyword1' または 'keyword2' のどちらかを指定する必要があります。

説明

このコマンドには、キーワード *keyword1* または *keyword2* を指定しなければならないが、どちらのキーワードもコマンドに入力されなかった。このコマンドを処理するためには、この2つのキーワードのどちらかが必要である。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

どちらか適切なキーワードを指定して、コマンドを再発行する。[MQSC コマンド](#)を参照して、2つのキーワードの説明を確認する。[テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行](#)を参照し、コマンド作成のルールについて確認する。

CSQ9008E

'keyword' は否定できません。

説明

キーワード *keyword* の前に否定文字 (NO) が指定されているが、このキーワードの否定は許可されない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを正しく再発行する。[テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行](#)を参照し、このコマンドについての詳細を確認する。

CSQ9009E

keyword が指定されていません。

説明

キーワード *keyword* は必須であるが、入力されなかった。このコマンドを正しく処理するためには、このキーワードを必ず指定しなければならない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、指定されたキーワードを含めて、コマンドを再発行する。[MQSC コマンド](#)を参照し、このコマンドについての詳細を確認する。

CSQ9010E

keyword の必須パラメーターが指定されていません。

説明

キーワード *keyword* に関して、次のいずれかの問題がある。

- 1つ以上のパラメーターを指定する必要があるが、パラメーターが入力されなかった。
- 決まった数のパラメーターを指定する必要があるが、それより少ないパラメーターしか入力されなかった。

例えば、キーワード `USERDATA` には文字ストリングのパラメーターが必要である。 `USERDATA()` と入力しても意味はない。ストリング (例えば `USERDATA(MY_DATA)`) を入力するか、または、この属性を除去する場合は `USERDATA('')` と入力しなければならない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、指定されたキーワードに該当するパラメーターを提供して、コマンドを再発行する。 [MQSC コマンド](#) を参照し、このコマンドについての詳細を確認する。

CSQ9011E

'keyword' にパラメーターは許可されません

説明

キーワード `keyword` にはパラメーターを指定することができない。このメッセージは、無効なパラメーターが見つかるたびに発行されるので、1つのコマンドで何度も発行されることがある。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、エラーを訂正して、コマンドを再発行する。 [テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行](#) を参照し、コマンドの入力方法についての詳細を確認する。

CSQ9012E

'keyword' パラメーターが 16 進数ではありません。

説明

キーワード `keyword` のパラメーター値は、16 進値でなければならない。16 進文字は、数字 0～9 および文字 A～F である。これらは、大文字でも小文字でも構わない。値は、16 進ストリング表記 `X'16 進文字'` を使用して、任意に指定することができる。例えば、`keyword(123ABC)` と `keyword(X'123ABC')` は同じである。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、指定されたキーワードのパラメーターが 16 進値であることを確かめ、コマンドを再発行する。

CSQ9013E

'keyword' パラメーターの `parameter-value` の長さが `nn` を超えています。

説明

キーワード `keyword` のパラメーター値 `parameter-value` の長さが、`nn` 文字の制限を超えている。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查する。 [MQSC コマンド](#) を参照して、受け付けられるパラメーターのリストを確認する。エラーを訂正し、コマンドを再発行してください。

CSQ9014E

'keyword' のパラメーターが `nn` 個を超えています。

説明

キーワード *keyword* に指定されたパラメーターが多すぎる。パラメーターは *nn* 個まで指定できる。入力パラメーターが多すぎる以外にも、まだ検出されていない右括弧の欠落が原因で、このエラーが発生することもある。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、そのキーワードに指定するパラメーターの数を限度内にして、コマンドを再発行する。[MQSC コマンド](#)で詳細を確認する。[テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行](#)を参照し、コマンド作成のルールについて確認する。

CSQUTIL プログラムで接続名を使用していてこのエラーが発生した場合は、特定の変数を単一引用符で囲む必要がある。詳しくは、[CSQUTIL](#)を参照。

CSQ9015E

パラメーター '*parameter-value*' は '*keyword*' に対して受け付けられません。

説明

パラメーター値 *parameter-value* は、キーワード *keyword* では受け入れられない値である。以下のいずれかを実行します。

- キーワード・パラメーターには一連の文字値のいずれかを入力できるが、指定された値がそのいずれでもない。
- キーワード・パラメーターには境界付きの数値を入力できるが、指定された値が境界の範囲外である。
- キーワード・パラメーターには数値または一連の文字値のいずれかを入力できるが、指定された値が数値でも有効な文字値でもない。
- キーワードが WHERE で、最初のパラメーター (フィルター・キーワード) が、コマンドの受け入れ可能なキーワードのいずれでもない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを正しく再発行する。[MQSC コマンド](#)を参照して、受け付けられる値のリストを確認する。[テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行](#)を参照し、コマンド作成のルールについて確認する。

CSQ9016E

cmd コマンド要求は許可されていません。

説明

このコマンドを実行するには、コマンド自体または実行対象の資源に対する許可レベルが必要であるが、この許可がない。

システム・アクション

そのコマンドは実行されない。処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

システム・セキュリティーを担当するシステム・プログラマーから、このコマンドの使用許可を取得する。あるいは、コマンドの使用許可をもつユーザーにコマンドを実行してもらう。

CSQ9017E

'*cmd*' コマンドの処理中に失敗しました。

説明

コマンド前処理プログラムが、メッセージに示されたコマンドの処理中に異常終了した。SYS1.LOGREC にエラーが記録され、SVC ダンプが要求される。このコマンドは部分的に完了している場合がある。前に出された応答メッセージがあれば、それを調べ、何が行われたかを判別する。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを再発行する。それでも異常終了する場合には、『問題判別』の項にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

CSQ9018E

'cmd' コマンドを処理するには csect-name は不十分なストレージです。

説明

コマンド前処理プログラムが、コマンドによって生成された応答メッセージの処理を完了するための十分なストレージを入手できなかった。

システム・アクション

このコマンドの処理は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

それでもまだ問題が解決されない場合には、キュー・マネージャーあるいはチャンネル・イニシエーターに使用される領域サイズを大きくするか、または、システムで実行中のジョブの数を少なくする必要があります。

CSQ9019E

cmd コマンドが無効です。

説明

cmd で始まるコマンドが無効である。この理由として、次のことが考えられる。

- コマンド verb が不明である。
- キーワードが指定されなかったか、またはコマンドの 2 次キーワードとして有効なキーワードが指定されなかった。
- コマンドの開始時に構文エラーが発生した。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを正しく再発行する。[MQSC コマンドで正しいコマンド形式を確認する。](#) [テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行を参照し、コマンド作成のルールについて確認する。](#)

CSQ9020E

'keyword1' と 'keyword2' の両方を指定することはできません。

説明

このコマンドでは、キーワード keyword1 およびキーワード keyword2 を同時に指定することはできない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、不適切なキーワードを削除したコマンドを再発行する。MQSC コマンドを参照して、2つのキーワードの説明を確認する。[テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行を参照](#)し、コマンド作成のルールについて確認する。

CSQ9022I

`csect-name 'cmd'` は正常に終了しました。

説明

コマンドのすべての同期処理が正常に完了した。コマンドのために非同期に実行されているタスクは、このメッセージが表示されても実行されている場合がある。

システム・アクション

コマンドの同期処理は完了する。

CSQ9023E

`csect-name 'cmd'` は異常終了しました。

説明

コマンドが正常に完了しなかった。このコマンドは、このメッセージに先立って、1つ以上のエラー・メッセージを送出している。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

このエラーに関連した他のメッセージの指示に従う。

CSQ9025E

`'parameter-value'` は `'WHERE'` パラメーター `'filter-keyword'` では受け付けられません。

説明

WHERE キーワードのパラメーター値には互換性がない。WHERE キーワードには、3つのパラメーター (`filter-keyword`、`operator`、および `filter-value`) が必要である。エラーの原因は、次のいずれかである。

- 演算子パラメーターが、フィルター・キーワードに必要なパラメーター値のタイプに対して適切ではない。例えば、フィルター・キーワードには一連のパラメーター値のいずれかが必要だが、演算子が EQ でも NE でもない。
- フィルター値パラメーターが、フィルター・キーワードのパラメーター値の長さ制限を超えている。
- フィルター値パラメーターが、フィルター・キーワードの値として有効な値ではない。以下に例を示します。
 - フィルター・キーワードには数値パラメーター値が必要だが、フィルター値パラメーターが数値ではない。
 - フィルター・キーワードには一連のパラメーター値のいずれかが必要だが、フィルター値パラメーターがそのいずれでもない。
 - フィルター・キーワードには境界付きの数値パラメーター値が必要だが、フィルター値パラメーターが境界の範囲外である。
 - フィルター・キーワードにはオブジェクト名またはシステム名が必要だが、フィルター値パラメーターがそのような名前に有効な文字のみで構成されていない。

エラーによって、`parameter-value` は演算子パラメーターの場合も フィルター値パラメーターの場合もある。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを正しく再発行する。[MQSC コマンド](#)を参照し、WHERE キーワードのパラメーターについて確認する。

CSQ9026E

'keyword' パラメーターが命名規則を満たしていません。

説明

キーワード *keyword* のパラメーター値は名前であるため、特定タイプの名前、オブジェクト名、またはシステム名に有効な文字のみで構成されなければならない。有効なオブジェクト名の文字は、大文字の A から Z、小文字の a から z、0 から 9、ピリオド (.)、スラッシュ (/)、下線 (_)、およびパーセント記号 (%) です。有効なシステム名文字は、大文字の A から Z、および 0 から 9 までの数字です。先頭文字は数字であってはなりません。

指定された名前に無効文字が含まれている場合、またはすべてブランクの名前が許可されないときに名前がブランクである場合、このメッセージが発行される。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、指定されたキーワードのパラメーターが必要なタイプのものであることを確かめ、コマンドを再発行する。[MQSC コマンド](#)を参照して、キーワードの説明を確認する。[テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行](#)を参照し、コマンド作成のルールについて確認する。

CSQ9028E

'keyword' パラメーターが数値ではありません。

説明

キーワード *keyword* のパラメーター値は、数値のみで構成されていなければならない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、指定されたキーワードのパラメーターが必要なタイプのものであることを確かめ、コマンドを再発行する。[MQSC コマンド](#)を参照して、キーワードの説明を確認する。[テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行](#)を参照し、コマンド作成のルールについて確認する。

CSQ9029E

コマンドの処理で *csect-name* が失敗しました。

説明

コマンドの処理中にエラーが発生した。コマンドは実行される場合と、実行されない場合がある。システム・エラー・ログ (SYS1.LOGREC データ・セット) にこのエラーが記録され、SVC ダンプが試みられている。

ECSA が不十分であるとき、このメッセージを受け取る。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを再発行する。問題を解決できない場合は、『問題判別』の項に示された情報を収集し、IBM サポートに連絡する。

CSQ9030E

'keyword' パラメーターでは総称を使用できません。

説明

キーワード *keyword* のパラメーターがアスタリスクを使用した汎用値 (例えば、ABC*) を指定しているが、このキーワードには汎用値は許可されていない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、キーワード・パラメーターを訂正して、コマンドを再入力する。 [MQSC コマンドを参照して、キーワードの説明を確認する。](#) [テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行を参照し、コマンド作成のルールについて確認する。](#)

CSQ9031E

'*keyword*' の後に構文エラーがあります。

説明

指定されたキーワードの後に続くテキストに、無効な構文が含まれている。これは通常、誤った順序で特殊文字 (等号 (=)、コンマ (,)、コロン (:)、括弧など) を指定すると生じる。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、示されたキーワードの後のテキストを調べる。必ずコマンド入力の規則に準拠させ、コマンドを再入力する。 [テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行を参照し、コマンド作成のルールについて確認する。](#)

CSQ9032E

Requested function is not available

説明

ロードされていないコマンド・プロセッサを呼び出す試みがなされた。

システム・アクション

要求された機能は実行されない。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、エラーの原因となったコマンドを判別する。

CSQ9033E

Command exceeds allowable length

重大度

8

説明

コマンドが長すぎるため、その内部フォームが許容される最大長を超えています。コマンドの内部形式の大きさは、コマンドの長さと同様複雑さの両方の影響を受ける (例えば、操作および制御パネルを使用して、名前リストの作成が試みられたが、名前リストに含まれる名前が多すぎる)。

また、このメッセージは、次のいずれかを介して入力されたコマンドが原因で出されることもある。

- 初期設定入力データ・セット
- ユーティリティ・プログラム CSQUTIL の COMMAND 機能
- コマンドをシステム・コマンド入力キュー SYSTEM.COMMAND.INPUT に入れるユーザー作成のプログラム

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

操作および制御パネルを使用して名前リストを定義している場合は、編集機能を使用して、リスト内の名前の数を減らす。別の場所からコマンドを入力している場合は、どのコマンドがエラーの原因となっているかを調べ、[MQSC コマンド](#)で、そのコマンドの構文について確認する。コマンドを訂正してください。

CSQ9034E

Command cannot be issued using command server

重大度

8

説明

コマンド・サーバーを使ってコマンドを発行しようとした。コマンドをこのような方法で発行することはできない。

コマンド・サーバーは、以下のいずれかの方法で入力されたコマンドにより使われる。

- CSQUTIL の COMMAND 機能
- チャネル・イニシエーターの CSQINPX 初期設定入力データ・セット
- コマンドをシステム・コマンド入力キュー SYSTEM.COMMAND.INPUT に入れるユーザー作成のプログラム

システム・アクション

コマンドは無視される。

CSQ9035E

csect-name 必須キーワードがありません。

重大度

8

説明

コマンドには一連の代替キーワードのいずれかを指定する必要があるが、何も指定されなかった。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを正しく再発行する。[MQSC コマンド](#)でコマンドの正しい形式を確認する。[テキスト・ファイルからの MQSC コマンドの実行](#)を参照し、コマンド作成のルールについて確認する。

CSQ9036E

'*keyword(parameter-value)*' を指定したコマンドは、キュー・マネージャーがアクティブの場合には実行できません。

重大度

8

説明

このコマンドには、キーワード *keyword* に指定のパラメーター値があります。このキーワードおよび値を指定したコマンドは、キュー・マネージャーが活動状態にない場合にものみ実行できる。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照し、コマンドの使用方法について確認する。

CSQ9037E

コマンドは *ddname* から発行されなければなりません。

重大度

8

説明

指定した初期設定入力データ・セットからコマンドを実行する試みがなされた。このコマンドは、そのデータ・セットから実行することはできない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照し、コマンドの使用方法について確認する。

CSQ9038E

Command must be issued from console

重大度

8

説明

z/OS コンソールまたはそれと同等のもの以外から、コマンドを発行しようとした。コマンドはこの方法でのみ発行することができる。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

コマンドを z/OS コンソールから発行する。ここ以外から発行することはできない。

DEFINE PSID コマンドをコンソールから発行した場合は、正常に完了させるためコマンドに追加の DSN パラメーターを含める必要がある。

[MQSC コマンド](#)を参照し、コマンドの使用方法について確認する。

CSQ9039E

Command cannot be issued from console

重大度

8

説明

z/OS コンソールまたはそれと同等のものから、コマンドを発行しようとした。コマンドをこのような方法で発行することはできない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照し、コマンドの使用方法について確認する。

CSQ9040E

コマンドは *ddname* から発行できません。

重大度

8

説明

指定した初期設定入力データ・セットからコマンドを実行する試みがなされた。このコマンドは、そのデータ・セットから実行することはできない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照し、コマンドの使用方法について確認する。

CSQ9041E

再始動中のコマンドは許されません。

重大度

8

説明

再始動の完了前にコマンドを発行しようとしたが、この時点でコマンドを発行することはできない。これは、このコマンドが CSQINP1 初期設定入力データ・セットに入れられていたためと考えられる。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

このコマンドが CSQINP1 初期設定入力データ・セットに入れられている場合は、それを削除する。

CSQ9042E

'keyword()' を指定したコマンドは、*ddname* からは発行できません。

重大度

8

説明

コマンドが指定のキーワードで初期設定入力データ・セットから発行された。このキーワードを持つコマンドは、そのデータ・セットから実行することはできない。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

[MQSC コマンド](#)を参照し、コマンドの使用方法について確認する。

CSQ9045E

keyword' にはパラメーターがあり、'WHERE' パラメーターです

説明

コマンドに、フィルター・キーワード・パラメーター *keyword* を持つ WHERE キーワードが指定されている。このキーワードはパラメーター付きで明示的に指定されているが、許可されない。

システム・アクション

このコマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

コマンド入力进行检查し、コマンドを正しく再発行する。[MQSC コマンド](#)を参照し、WHERE キーワードのパラメーターについて確認する。

z/OS IBM MQ for z/OS コード

IBM MQ for z/OS の各コンポーネントはコードを出す場合があります。各コンポーネントはそのメッセージに固有の 2 文字の 16 進数 ID を使用します。このトピックでは、IBM MQ for z/OS コンポーネントのコードを識別して解釈することができます。

以下のコード・タイプについて説明します。

z/OS 接続マネージャー・コード (X'94')

ここにリストされていない接続マネージャー理由コードが発生する場合、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティ・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- CICS を使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。
- IBM MQ の操作および制御パネルを使用している場合は、ISPF パネル名。

00940001

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、キュー・マネージャーが終了する。

システム・プログラマーの応答

[922 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00940003

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[922 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00940004

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[922 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00940007

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[922 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00940008

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、キュー・マネージャーが終了する。

システム・プログラマーの応答

[922 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00940028

要求された診断トラップが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

これは、IBM サポートが問題診断を支援するためにダンプの収集を要求した場合にのみ発生します。

[922 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

0094002B

ALESERV 処理中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。ALESERV からの障害戻りコードはダンプのレジスター 2 に入る。

システム・プログラマーの応答

[922 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

トピック・マネージャー・コード ('X'A3')

ここにリストされていないトピック・マネージャー理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティー・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- CICS を使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

• IBM MQ の操作および制御パネルを使用している場合は、ISPF パネル名。

00A30001, 00A30002, 00A30052, 00A30053, 00A30054, 00A30061, 00A30062, 00A30064, 00A30065, 00A30066, 00A31000

コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

923 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00A30042

コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

このエラーが CSQY227E メッセージとともに発生する場合には、問題は 64 ビット・ストレージの不足である。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

923 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

MEMLIMIT パラメーターの値を引き上げることを考慮する必要がある。詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

00A30072, 00A30073, 00A30074, 00A30075, 00A30076, 00A30077

コミット処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

923 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

バッチ・アダプター・コード (X'C2')

00C20001

CSQBSRV プログラムが、存在しない機能に対する要求を検出した。CSQBSRV は、CSQBSTUB、CSQBRRSI、または CSQBRSTB のようなスタブを経由して、バッチおよび RRS バッチ・アプリケーションから呼び出される。

システム・アクション

アプリケーション・プログラムは異常終了するが、IBM MQ は処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

おそらく、CSQBSRV のバージョンとスタブのバージョンが互換性がないことが、この問題の原因である。これが問題の原因でない場合は、このトピックにリストされている診断項目を入手して、IBM サポートに連絡してください。

- アプリケーション・プログラムのリスト
- キュー・マネージャー・ジョブ・ログ
- 障害発生時の PSW およびレジスター

00C20009

非同期 IBM MQ スレッドを (非同期メッセージ・コンシュームまたは非同期イベント listen 用に) 開始したタスクが、それが開始した非同期スレッドより先に終了した。元のスレッドが割り振ったリソースが解放されてしまった後は処理を継続できないために、この異常終了は非同期 IBM MQ スレッドで発生する。

システム・アクション

アプリケーション・プログラムは異常終了するが、IBM MQ は処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

非同期スレッドを開始するのに使用されるすべての接続で、接続を作成したタスクの終了前に MQDISC が呼び出されるようにする。

00C2000A, 00C2000B, 00C2000C, 00C2000D, 00C2000E, 00C2000F

MQCRTMH 呼び出しの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

このトピックにリストされている診断項目を入手して、IBM サポートに連絡してください。

- アプリケーション・プログラムのリスト。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- 障害発生時の PSW およびレジスター。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

カップリング・ファシリティコード (X'5C5')

ここにリストされていないカップリング・ファシリティの理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティ・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- CICS を使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。
- IBM MQ の操作および制御パネルを使用している場合は、ISPF パネル名。
- カップリング・ファシリティ構造のダンプ。

00C50006

キュー・マネージャーが Db2 サブシステムに接続されていないため、CF 構造のバックアップまたはリカバリーが失敗した。

システム・アクション

CF 構造のバックアップまたはリカバリー処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

Db2 サブシステムを構成して、キュー・マネージャーから接続できるようにします。

00C50012

アクション中に CF 構造がいっぱいになるため、CF 構造の処理が失敗した。

システム・アクション

CF 構造の処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

CF 構造のサイズを大きくする。

00C50014

キュー・マネージャーが接続されている Db2 サブシステムによって、予期しない理由コードが戻された。

システム・アクション

現在の操作は終了する。

システム・プログラマーの応答

先行するメッセージで報告されているように、エラーの原因を調べる。

00C50050

CF 構造はリカバリーの途中であり、リカバリーが完了するまで使用できない。

システム・アクション

コマンドの処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

構造のリカバリーが完了するまで待機してから、コマンドを再発行してください。 **DISPLAY CFSTATUS** コマンドを使用して、CF 構造の状況を表示します。

00C50064

CF 構造のバックアップまたはリカバリーは、IBM MQ に対して選択されたインストール・オプションとカスタマイズ・オプションでは、キュー・マネージャーが必要なレベルで構造を使用できないか、または構造のレベルが現行のコマンド・レベルでサポートされていないかのいずれかで失敗する。

システム・アクション

CF 構造のバックアップまたはリカバリー処理は終了する。

00C5004F

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行される。CF 構造体に対する要求が出されたが、続くより特定のメッセージで説明されているように、その要求を実行することはできない。

重大度

4

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

続くメッセージの説明を参照。

00C5005B

キュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーの BSDS を読み取るときにエラーが発生したため、CF 構造のリカバリーが失敗した。

システム・アクション

CF 構造のリカバリー処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

ログからエラーの理由を示すリカバリー・ログ・マネージャー・メッセージを調べる。

00C50D00

必要な SMDS データ・セットが使用できないため、CF 構造のバックアップに失敗する。

システム・アクション

CF 構造のバックアップ処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

CF 構造に使用されるすべての SMDS データ・セットを使用できるようにしてから、バックアップ・コマンドを再発行する。必要に応じて、これらのデータ・セットをリストアするために **RECOVER CFSTRUCT** コマンドを使用できる。

00C51001, 00C51004, 00C51005, 00C51006, 00C5100A, 00C51019, 00C5101A, 00C5101B, 00C5101C, 00C5001D

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[925 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C51021, 00C51022, 00C51023, 00C51024, 00C50025, 00C51026, 00C51027, 00C51028, 00C51029, 00C5002A, 00C5102B, 00C5102C, 00C5102D, 00C5102E, 00C5002F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[925 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C5102F

キュー・マネージャーが管理構造体への接続に失敗した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、キュー・マネージャーは管理構造体が再び使用可能になった場合に管理構造体への接続を試行する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

管理構造体の構成を調べる。この異常終了コードは、キュー・マネージャーが管理構造体に接続されていない LPAR 上で実行されている場合、または管理構造体は暗号化されているが LPAR が暗号コプロセッサにアクセスできない場合に表示される可能性があります。

00C50030, 00C51031, 00C51032, 00C51033, 00C51034, 00C50035, 00C51036, 00C51037, 00C51038, 00C51039, 00C5003A, 00C5103A, 00C5103B, 00C5103C, 00C5103D, 00C5103E, 00C5003F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C50040, 00C51041, 00C51042, 00C51043, 00C51044, 00C50045, 00C51046, 00C51047

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C51051, 00C51052, 00C51053, 00C51054, 00C50055, 00C51056

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C51090, 00C51092, 00C51093

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C51094, 00C51095, 00C51096, 00C51097

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C510A1, 00C510A2, 00C510A3, 00C510A4, 00C500A5, 00C510A6, 00C510A7, 00C510A8, 00C510A9, 00C500AA

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。
必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C510AB

CF 構造体に障害があるか、CF 構造体への接続が失われた。

システム・アクション

これはコマンドに応答して発行されることがある。この場合、コマンドの処理は終了する。それ以外の場合は、現在の実行単位が完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。構造体を回復する。コマンドに응答してエラーが発生した場合は、コマンドを再発行する。

00C510AC, 00C510AD

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。
必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C51100, 00C51101, 00C51102, 00C51103, 00C51104, 00C51105, 00C51106, 00C51107, 00C51108, 00C51109, 00C5110A, 00C5110B, 00C5110C, 00C5110D, 00C5110E, 00C5110F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。
必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C51110, 00C51111, 00C51112, 00C51113, 00C51114, 00C51115, 00C51116, 00C51117, 00C51118, 00C51119, 00C5111A, 00C5111B, 00C5111C, 00C5111D, 00C5111E, 00C5111F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

**00C51120, 00C51121, 00C51122, 00C51123, 00C51124, 00C51125, 00C51126, 00C51127,
00C51128, 00C51129, 00C5112A, 00C5112B, 00C5112C, 00C5112D, 00C5112E, 00C5112F**

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

**00C51130, 00C51131, 00C51132, 00C51133, 00C51134, 00C51135, 00C51136, 00C51137,
00C51138, 00C51139, 00C5113A, 00C5113B, 00C5113C, 00C5113D, 00C5113E, 00C5113F**

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

**00C51140, 00C51141, 00C51142, 00C51143, 00C51144, 00C51145, 00C51146, 00C51147,
00C51148, 00C51149, 00C5114A, 00C5114B, 00C5114C, 00C5114D, 00C5114E, 00C5114F**

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

**00C51150, 00C51151, 00C51152, 00C51153, 00C51154, 00C51155, 00C51156, 00C51157,
00C51158, 00C51159, 00C5115A, 00C5115B, 00C5115C, 00C5115D, 00C5115E, 00C5115F**

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

**00C51160, 00C51161, 00C51162, 00C51163, 00C51164, 00C51165, 00C51166, 00C51167,
00C51168, 00C51169, 00C5116A, 00C5116B, 00C5116C, 00C5116D, 00C5116E, 00C5116F**

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[925 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。
必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C51170, 00C51171, 00C51172, 00C51174, 00C51175, 00C51176, 00C51177, 00C51178, 00C51179, 00C5117A, 00C5117B, 00C5117C, 00C5117D, 00C5117E, 00C5117F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[925 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。
必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C51173

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

CFSTRUCT のリカバリーを実行する内部タスクが完了コード x'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

このエラーは、多くの場合 (ただし、いつもとは限らない)、カップリング・ファシリティのスペースの問題と関係があります。

CFStructure に十分なスペースがあることを確認してください。

エラーの一般的な原因は、INITSIZE と SIZE の値が CFRM ポリシーで一致しないことです。通常の使用では、構造体は AUTOALTER 処理を介して拡張され、復元される構造体のバックアップはこのサイズを反映します。

ところが、新しい構造体に、小さ過ぎる INITSIZE 属性が割り振られました。

ストレージの問題が示されていない場合は、[925 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C51180, 00C51181, 00C51182, 00C51184, 00C51185, 00C51186, 00C51187, 00C51188, 00C51189, 00C5118A, 00C5118B, 00C5118C, 00C5118D, 00C5118E, 00C5118F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[925 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。
必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C51183

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

CFSTRUCT のリカバリーを実行する内部タスクが完了コード x'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

このエラーは、多くの場合(ただし、いつもとは限らない)、カップリング・ファシリティのスペースの問題と関係があります。

CFStructure に十分なスペースがあることを確認してください。

エラーの一般的な原因は、INITSIZE と SIZE の値が CFRM ポリシーで一致しないことです。通常の使用では、構造体は AUTOALTER 処理を介して拡張され、復元される構造体のバックアップはこのサイズを反映します。

ところが、新しい構造体に、小さ過ぎる INITSIZE 属性が割り振られました。

ストレージの問題が示されていない場合は、[925 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C51190, 00C51191, 00C51192, 00C51193, 00C51194, 00C51195, 00C51196, 00C51197, 00C51198, 00C51199, 00C5119A, 00C5119B, 00C5119C, 00C5119D, 00C5119E, 00C5119F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[925 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C511A0, 00C511A1, 00C511A2, 00C511A3, 00C511A4, 00C511A5, 00C511A6, 00C511A7, 00C511A8, 00C511A9, 00C511AA, 00C511AB, 00C511AC, 00C511AD, 00C511AE, 00C511AF

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[925 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C511B0, 00C511B1, 00C511B2, 00C511B3, 00C511B4, 00C511B5, 00C511B6, 00C511B7, 00C511B8, 00C511B9, 00C511BA, 00C511BB, 00C511BC, 00C511BD, 00C511BE, 00C511BF

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[925 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C511C0, 00C511C1, 00C511C2, 00C511C3, 00C511C4, 00C511C5, 00C511C6, 00C511C7, 00C511C8, 00C511C9, 00C511CA, 00C511CB, 00C511CC, 00C511CD, 00C511CE, 00C511CF

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C511D0, 00C511D1, 00C511D2, 00C511D3, 00C511D4, 00C511D5, 00C511D6, 00C511D7, 00C511D8, 00C511D9, 00C511DA, 00C511DB, 00C511DC, 00C511DD, 00C511DE, 00C511DF

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C511E0, 00C511E1, 00C511E2, 00C511E3, 00C511E4, 00C511E5, 00C511E6, 00C511E7, 00C511E8, 00C511E9, 00C511EA, 00C511EB, 00C511EC, 00C511ED, 00C511EE, 00C511EF

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C511F0, 00C511F1, 00C511F2, 00C511F3, 00C511F4, 00C511F5, 00C511F6, 00C511F7, 00C511F8, 00C511F9, 00C511FA, 00C511FB, 00C511FC, 00C511FD, 00C511FE, 00C511FF

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

925 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C53000

サイズが、IBM MQ に必要な最小サイズに満たないため、キュー・マネージャーは管理構造体を使用することができない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

管理構造体のサイズを大きくする。詳しくは、CSQE022E を参照してください。

00C53001

キュー・マネージャーが、Db2 表内のキュー共有グループ作成タイム・スタンプと、メッセージ CSQE029E 内の構造体名に関連付けられた作成タイム・スタンプが一致しないことを検出した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー、キュー共有グループ、およびデータ共有グループの構成を検査して、キュー・マネージャーが異なる Db2 データ共有グループに接続するように構成されていないかどうか判別する。

キュー・マネージャーおよびキュー共有グループの構成が正しい場合は、構造体を割り振り解除する必要がある。構造体に残っているのが障害のある持続接続のみであることを確認してから、z/OS コマンドを使用して構造体を割り振り解除する。

```
SETXCF FORCE,STRUCTURE,STRNAME=ext-struct-name
```

(このコマンドでは、*ext-struct-name* は、メッセージ CSQE029E の IBM MQ 構造名の前にキュー共有グループ名を付けたものです。)

00C53002

管理構造体が満杯で、スペースが使用できるようになるまで繰り返し待機したが、満杯のままであったため、キュー・マネージャーがその管理構造体の使用を試みることができない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

管理構造体のサイズを大きくする。詳しくは、[CSQE038E](#) を参照してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

z/OS メッセージ生成プログラム・コード (X'6')

00C60001

コンソール・メッセージを表示する WTO 要求を実行する際に、IBM MQ は戻りコード X'20' を受け取った。これは、複数コンソール・サポート (MCS) と JES3 のどちらかのメッセージ・バッファがないか、JES3 WTO ステージング域が超過していることを意味する。WTO 要求は終了する。問題が解決するまで、現在のコンソール・メッセージとその後のすべての通知コンソール・メッセージは無視される。

システム・アクション

SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれる。再試行が要求され、実行は継続される。状態が改善されると、IBM MQ はコンソール・メッセージの発行を再開する。

00C60004

キュー・マネージャーが、メッセージ表 (CSQFMTAB) をロードできなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ表が、要求されたライブラリー (SCSQANLx (x は各国語の文字)) 内に存在し、それが正しく参照され、連結内のすべてのライブラリーが APF に許可されているようにする。キュー・マネージャーを再始動する。

00C60005

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- キュー・マネージャー・ジョブ・ログ
- エラーの結果として生じたシステム・ダンプ

00C60006

MQ ユーティリティ・プログラムがそのメッセージ表 (CSQFSTAB) をロードできなかった。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソールで、CSQFSTAB がロードされなかった理由を示すメッセージがないかを調べる。メッセージ表が要求されたライブラリー (SCSQANLx、ここで x は各国語の文字) にあり、およびそれが正しく参照されるようにしてから、ジョブを再度実行要求する。

ユーティリティ・プログラムは、ユーティリティ・アドレス・スペースの STEPLIB DD ステートメントにあるライブラリー・データ・セットから、このモジュールをロードしようとする。

00C60007

IBM MQ CICS アダプターがそのメッセージ表 (CSQFCTAB) をロードできなかった。

システム・アクション

IBM MQ CICS アダプター・サーバー・タスクは終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソールで、CSQFCTAB がロードされなかった理由を示すメッセージがないかを調べる。メッセージ表が要求されたライブラリー (SCSQANLx または SCSQSNLx、ここで x は各国語の文字) にあり、およびそれが正しく参照されるようにする。

CSQCSERV は、CICS アドレス・スペースの STEPLIB DD ステートメントのもとで、ライブラリー・データ・セットからこのモジュールのロードを試みる。

00C60008

IBM MQ ユーティリティ・プログラムがそのメッセージ表 (CSQFLTAB) をロードできなかった。

システム・アクション

ユーティリティ・プログラムは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソールから、CSQFLTAB がロードされなかった理由を示すメッセージがないかを調べる。メッセージ表が要求されたライブラリー (SCSQANLx、ここで x は各国語の文字) にあり、およびそれが正しく参照されるようにしてから、ジョブを再度実行要求する。

ユーティリティ・プログラムは、ユーティリティ・アドレス・スペースの STEPLIB DD ステートメントにあるライブラリー・データ・セットから、このモジュールをロードしようとする。

00C6000A

IBM MQ 早期処理プログラムで、そのメッセージ・テーブル (CSQ3ECMX) をロードできなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ・テーブルが要求されたライブラリー (SCSQSNLx、ここで x は各国語の文字) にあり、およびそれが正しく参照されることを確認してから、z/OS システムの IPL を実行するか、z/OS コマンド SETSSI ADD を使用してキュー・マネージャーを再始動する。

00C6000B

分散キューイング・コンポーネントが、そのメッセージ表 (CSQFXTAB) をロードできなかった。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソールから、CSQFXTAB がロードされなかった理由を示すメッセージがないかを調べる。メッセージ表が、要求されたライブラリー (SCSQANLx (x は各国語の文字)) 内に存在し、それが正しく参照され、連結内のすべてのライブラリーが APF に許可されているようにする。チャンネル・イニシエーターを再始動する。

00C6000C

IMS トリガー・モニターで、そのメッセージ表 (CSQFSTAB) をロードできなかった。

システム・アクション

トリガー・モニターは終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソールで、CSQFSTAB がロードされなかった理由を示すメッセージがないかを調べる。メッセージ表が要求されたライブラリー (SCSQANLx、ここで x は各国語の文字) にあり、およびそれが正しく参照されるようにしてから、トリガー・モニターを再始動する。

00C600F0

Advanced Message Security コンポーネントがメッセージ・テーブルをロードできなかった (CSQF0TAB)。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動時に Advanced Message Security コンポーネントを開始できなかった。

システム・プログラマーの応答

コンソールで、CSQF0TAB がロードされなかった理由を示すメッセージがないかを調べる。メッセージ表が、要求されたライブラリー (SCSQANLx (x は各国語の文字)) 内に存在し、それが正しく参照され、連結内のすべてのライブラリーが APF に許可されているようにする。キュー・マネージャーを再始動する。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

機能回復マネージャー・コード (X'C7')

00C70010

エラーからの回復を試みていたが、内部整合性検査で、ストレージ・オーバーレイまたは内部エラーが指摘された。

システム・アクション

制御権は、z/OS 回復終了管理プログラムに回復機能委任され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ダンプを保存し、IBM サポートに連絡して支援を受けてください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C70020

重要なプロシージャー回復ルーチンが、2次異常終了を引き起こして、異常終了した。

システム・アクション

制御権は、z/OS 回復終了管理プログラムに回復機能委任され、キュー・マネージャーが異常終了する場合もある。1次エラーと2次エラーの両方に関してダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

両方のダンプを保存し、IBM サポートに連絡して支援を受けてください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00C70030

z/OS に対して ESTAE の確立が要求されたが、ゼロ以外の戻りコードが戻された。

システム・アクション

ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

z/OS からの戻りコードが、レジスター 14 に入れられる。

戻りコードの説明については、[z/OSMVS プログラミング: アセンブラー・サービス 解説書 第1巻 \(ABEND-HSPSERV\)](#) の資料を参照してください。

00C70040

この異常終了理由コードは、内部 IBM MQ エラーが原因で出される。

システム・アクション

制御権は、z/OS 回復終了管理プログラムに回復機能委任され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ダンプを保存し、IBM サポートに連絡して支援を受けてください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

セキュリティー・マネージャー・コード (X'C8')

ここにリストされていないセキュリティー・マネージャー理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティー・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- CICS を使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。
- IBM MQ の操作および制御パネルを使用している場合は、ISPF パネル名。
- エラーの前に発行されたセキュリティー・コマンド。

00C80001

セキュリティー・マネージャーに必要なストレージを入手しようとしたが、失敗した。

注:これは、システム全体のストレージの問題を示している可能性がある。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、ストレージ障害からの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

推奨される領域サイズを使用して実行しているかどうかを確認する。そうでない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因ではない場合には、以下の項目を使用して問題の原因を診断する。

- キュー・マネージャー・ジョブ・ログ
- 他のストレージ関連の問題に関する情報
- エラーの結果として生じたシステム・ダンプ

00C80002

セキュリティー・マネージャーに必要なストレージを入手しようとしたが、失敗した。

注:このエラー・コードは、システム全体のストレージの問題を示している可能性がある。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、ストレージ障害からの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

推奨される領域サイズを使用して実行しているかどうかを確認する。そうでない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因ではない場合には、以下の項目を使用して問題の原因を診断する。

- キュー・マネージャー・ジョブ・ログ
- 他のストレージ関連の問題に関する情報
- エラーの結果として生じたシステム・ダンプ

00C80003

セキュリティー・マネージャーに必要なストレージ・サブプールを入手しようとしたが、失敗した。

注:このエラー・コードは、システム全体のストレージの問題を示している可能性がある。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、ストレージ障害からの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

適切な領域サイズを使用して実行しているかどうかを確認する。そうでない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。領域サイズが問題の原因ではない場合には、以下の項目を使用して問題の原因を診断する。

- キュー・マネージャー・ジョブ・ログ
- 他のストレージ関連の問題に関する情報
- エラーの結果として生じたシステム・ダンプ

00C80004

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C8000A

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。セキュリティー構成を調べる (例えば、必要なクラスがインストールされ、活動状態になっているかどうか)。問題を解決できない場合は、937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C8000B

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、エラー発生時に検査中であつたエンティティーのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C8000C

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) への SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) 呼び出しで重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスがレジスター 2 に、エンティティーのアドレスがレジスター 3 に入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。問題を解決できない場合は、937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C8000D

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する次のいずれか 1 つの SAF 呼び出しから、予期しない戻りコードを受け取つた。

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

システム・アクション

SAF および ESM からの戻りコードを含んだメッセージ CSQH004I が作成される。キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、戻りコードのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQH004I (ジョブ・ログ内) またはダンプで示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#) を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C8000E

サブシステム・セキュリティー・スイッチの予期しない設定が検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、スイッチ設定を含む制御ブロックのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#) に示された情報を収集し、スイッチが何に設定されることを予期していたかと、それについてプロファイルを定義したかどうかを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

00C8000F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、エラー発生時に関与していたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80010

セキュリティー・マネージャーに必要なストレージを入手しようとしたが、失敗した。

注: このエラー・コードは、システム全体のストレージの問題を示している可能性がある。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、ストレージ障害からの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

推奨される領域サイズを使用して実行しているかどうかを確認する。そうでない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因ではない場合には、[937 ページの『診断』](#) に示された情報を、他のストレージ関連の問題に関する情報とともに使用して、問題の原因を診断する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

00C80011

セキュリティー・マネージャーに必要なストレージ・サブプールを入手しようとしたが、失敗した。

注: このエラー・コードは、システム全体のストレージの問題を示している可能性がある。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、ストレージ障害からの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

推奨される領域サイズを使用して実行しているかどうかを確認する。そうでない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因ではない場合には、[937 ページの『診断』](#) に示された情報を、他のストレージ関連の問題に関する情報とともに使用して、問題の原因を診断する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

00C80012

セキュリティー・マネージャーに必要なストレージを入手しようとしたが、失敗した。

注: このエラー・コードは、システム全体のストレージの問題を示している可能性がある。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、ストレージ障害からの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

推奨される領域サイズを使用して実行しているかどうかを確認する。そうでない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因ではない場合には、[937 ページの『診断』](#)に示された情報を、他のストレージ関連の問題に関する情報とともに使用して、問題の原因を診断する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

00C80013

セキュリティー要求を処理中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C80020

セキュリティー・マネージャーに必要なストレージを入手しようとしたが、失敗した。

注: このエラー・コードは、システム全体のストレージの問題を示している可能性がある。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、ストレージ障害からの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

推奨される領域サイズを使用して実行しているかどうかを確認する。そうでない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因ではない場合には、[937 ページの『診断』](#)に示された情報を、他のストレージ関連の問題に関する情報とともに使用して、問題の原因を診断する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

00C80024

コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C80025

コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C80026

コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C80027

REFRESH SECURITY コマンドの処理中に、認識されないキーワードが検出された。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、問題の原因となったキーワードのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C80028

セキュリティー・マネージャーに必要なストレージ・サブプールを入手しようとしたが、失敗した。これは、ALTER SECURITY コマンド、REFRESH SECURITY コマンドの処理中、あるいは自動セキュリティー・タイムアウト処理中に起こったと思われる。

注：これは、システム全体のストレージの問題を示している可能性がある。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、ストレージ障害からの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#) に示された情報を、他のストレージ関連の問題に関する情報とともに使用して、問題の原因を診断する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

00C80029

REFRESH SECURITY コマンドのセキュリティー・スイッチ処理中、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しを行っているときに、重大エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であったクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。セキュリティー構成を調べる (例えば、必要なクラスがインストールされ、活動状態になっているかどうか)。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80031

REFRESH SECURITY コマンドの処理中、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) 呼び出しを行っているときに、重大エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。エラー発生時に検査中であったクラスのアドレスがレジスター 2 に、エンティティーのアドレスがレジスター 3 に入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESMの資料を参照。セキュリティー構成を調べる(例えば、必要なクラスがインストールされ、活動状態になっているかどうか)。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80032

REFRESH SECURITY コマンドの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する次のいずれか 1 つの SAF 呼び出しから、予期しない戻りコードを受け取った。

- RACROUTE REQUEST=LIST (作成)
- RACROUTE REQUEST=LIST (削除)
- RACROUTE REQUEST=STAT

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、SAF および ESM からの戻りコードのアドレスが入れられる。

注: このエラーが STAT 呼び出しで起こった場合には、このエラーの前に、SAF および ESM からの戻りコードを含む CSQH004I メッセージが出される。

システム・プログラマーの応答

SAF および ESM からの戻りコードに関する情報については、ESMの資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、スイッチ・プロファイルを参照してください。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80033

REFRESH SECURITY コマンドの処理中に、サブシステム・セキュリティー・スイッチの予期しない設定が検出された。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)に示された情報を収集し、スイッチが何に設定されることを予期していたかと、それについてプロファイルを定義したかどうかを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

00C80034

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、検査時に呼び出されたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C80035

REFRESH SECURITY コマンドのセキュリティー・スイッチ処理中、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しを行っているときに、重大エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であったクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESMの資料を参照。セキュリティー構成を調べる(例えば、必要なクラスがインストールされ、活動状態になっているかどうか)。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80036

REFRESH SECURITY コマンドのセキュリティー・スイッチ処理中、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT 呼び出しを行っているときに、重大エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、エラー発生時に検査中であったエンティティーのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESMの資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80037

REFRESH SECURITY コマンドの処理中、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) 呼び出しを行っているときに、重大エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。エラー発生時に検査中であったクラスのアドレスがレジスター 2 に、エンティティーのアドレスがレジスター 3 に入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESMの資料を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80038

REFRESH SECURITY コマンドの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する次のいずれか 1 つの SAF 呼び出しから、予期しない戻りコードを受け取った。

- RACROUTE REQUEST=LIST (作成)
- RACROUTE REQUEST=LIST (削除)
- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=STAT

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、SAF および ESM からの戻りコードのアドレスが入れられる。

注: このエラーが STAT 呼び出しで起こった場合には、このエラーの前に、SAF および ESM からの戻りコードを含む CSQH004I メッセージが出される。

システム・プログラマーの応答

SAF および ESM からの戻りコードに関する情報については、ESMの資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80039

セキュリティー・マネージャーのユーザー項目ブロックに必要な記憶サブプールを入手しようとしたが、失敗した。これは、セキュリティー・タイムアウト処理中、または REFRESH SECURITY コマンドの処理中に発生したと思われる。

注: これは、システム全体のストレージの問題を示している可能性がある。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、ストレージ障害からの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

937 ページの『[診断](#)』に示された情報を、他のストレージ関連の問題に関する情報とともに使用して、問題の原因を診断する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

00C80040

セキュリティー・タイムアウト処理中に、重大エラーが発生した。IBM MQ タイマー・コンポーネントから、予期しない戻りコードを受け取った。

注: これは、システム全体にわたるタイマー・コンポーネントまたはシステム・タイマーの問題を示している可能性がある。

システム・アクション

メッセージ CSQH009I および CSQH010I が出される。現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、問題を引き起こしたタイマー・コンポーネントからの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

937 ページの『[診断](#)』に示された情報を、他のタイマー関連の問題に関する情報とともに使用して、問題の原因を診断する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

00C80041

ALTER SECURITY コマンドのセキュリティー・タイムアウト処理中に、重大エラーが発生した。IBM MQ タイマー・コンポーネントから、予期しない戻りコードを受け取った。

注: これは、システム全体にわたるタイマー・コンポーネントまたはシステム・タイマーの問題を示している可能性がある。

システム・アクション

メッセージ CSQH010I が出される。現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、問題を引き起こしたタイマー・コンポーネントからの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

937 ページの『[診断](#)』に示された情報を、他のタイマー関連の問題に関する情報とともに使用して、問題の原因を診断する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

00C80042

セキュリティーの初期設定で、セキュリティー・タイマーを開始しようとしたところ、重大エラーが発生した。IBM MQ タイマー・コンポーネントから、予期しない戻りコードを受け取った。

注: これは、システム全体にわたるタイマー・コンポーネントまたはシステム・タイマーの問題を示している可能性がある。

システム・アクション

メッセージ CSQH010I が出される。キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、問題を引き起こしたタイマー・コンポーネントからの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

937 ページの『[診断](#)』に示された情報を、他のタイマー関連の問題に関する情報とともに使用して、問題の原因を診断する。問題を解決できない場合には、IBM サポートに連絡する。

00C80043

DISPLAY SECURITY コマンドの処理中に、重大エラーが発生した。SECURITY キーワードでパラメーターが入力されたが、これは無効である。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C80044

ALTER SECURITY コマンドの処理中に、重大エラーが発生した。SECURITY キーワードでパラメーターが入力されたが、これは無効である。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C80045

最後のセキュリティー・リフレッシュが正常に完了しなかったため、重大エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、エラー理由コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

問題の原因を修正できる場合には、処理を続行する前に、セキュリティーを再度リフレッシュしなければならない。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80046

セキュリティー・マネージャーの UTOKEN ブロックに必要な記憶サブプールを入手しようとしたが、失敗した。

これは、ストレージの可用性に関連した広範囲な問題が存在する可能性があることを示している。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#) に示された情報を、他のストレージ関連の問題に関する情報とともに使用して、問題の原因を診断する。

00C80047

セキュリティー・マネージャーの UTOKEN ブロックに必要な記憶ブロックを入手しようとしたが、失敗した。

これは、ストレージの可用性に関連した広範囲な問題が存在する可能性があることを示している。

システム・アクション

現行の実行単位は、X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#) に示された情報を、他のストレージ関連の問題に関する情報とともに使用して、問題の原因を診断する。援助が必要な場合は、IBM サポートに連絡する。

00C80050

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。セキュリティー構成を調べる (例えば、必要なクラスがインストールされ、活動状態になっているかどうか)。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80051

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、エラー発生時に検査中であつたエンティティーのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80052

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) への SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) 呼び出しで重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスがレジスター 2 に、エンティティーのアドレスがレジスター 3 に入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80053

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する次のいずれか 1 つの SAF 呼び出しから、予期しない戻りコードを受け取つた。

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

システム・アクション

SAF および ESM からの戻りコードを含んだメッセージ CSQH004I が作成される。キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、戻りコードのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQH004I (ジョブ・ログ内) またはダンプで示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80054

サブシステム・セキュリティー・スイッチの予期しない設定が検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、スイッチ設定を含む制御ブロックのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

937 ページの『[診断](#)』に示された情報を収集し、スイッチが何に設定されることを予期していたかと、それについてプロファイルを定義したかどうかを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80055

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、内部ループ数が超過した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80060

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。セキュリティー構成を調べる (例えば、必要なクラスがインストールされ、活動状態になっているかどうか)。問題を解決できない場合は、937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80061

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、エラー発生時に検査中であつたエンティティーのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80062

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) への SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) 呼び出しで重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスがレジスター 2 に、エンティティーのアドレスがレジスター 3 に入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80063

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する次のいずれか 1 つの SAF 呼び出しから、予期しない戻りコードを受け取った。

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

システム・アクション

SAF および ESM からの戻りコードを含んだメッセージ CSQH004I が作成される。キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、戻りコードのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQH004I (ジョブ・ログ内) またはダンプで示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80064

サブシステム・セキュリティー・スイッチの予期しない設定が検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、スイッチ設定を含む制御ブロックのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)に示された情報を収集し、スイッチが何に設定されることを予期していたかと、それについてプロファイルを定義したかどうかを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80065

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、内部ループ数が超過した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80070

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESMの資料を参照。セキュリティー構成を調べる(例えば、必要なクラスがインストールされ、活動状態になっているかどうか)。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80071

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、エラー発生時に検査中であったエンティティーのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESMの資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80072

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) への SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) 呼び出しで重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。エラー発生時に検査中であったクラスのアドレスがレジスター 2 に、エンティティーのアドレスがレジスター 3 に入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESMの資料を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80073

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する次のいずれか 1 つの SAF 呼び出しから、予期しない戻りコードを受け取った。

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

システム・アクション

SAF および ESM からの戻りコードを含んだメッセージ CSQH004I が作成される。キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、戻りコードのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQH004I (ジョブ・ログ内) またはダンプで示される戻りコードに関する情報については、ESMの資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80074

サブシステム・セキュリティー・スイッチの予期しない設定が検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、スイッチ設定を含む制御ブロックのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

937 ページの『[診断](#)』に示された情報を収集し、スイッチが何に設定されることを予期していたかと、それについてプロファイルを定義したかどうかを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

00C80075

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、内部ループ数が超過した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80080

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。セキュリティー構成を調べる (例えば、必要なクラスがインストールされ、活動状態になっているかどうか)。問題を解決できない場合は、937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80081

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、エラー発生時に検査中であつたエンティティーのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80082

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) への SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) 呼び出しで重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスがレジスター 2 に、エンティティーのアドレスがレジスター 3 に入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。問題を解決できない場合は、937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80083

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する次のいずれか 1 つの SAF 呼び出しから、予期しない戻りコードを受け取った。

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

システム・アクション

SAF および ESM からの戻りコードを含んだメッセージ CSQH004I が作成される。キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、戻りコードのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQH004I (ジョブ・ログ内) またはダンプで示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#) を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80084

サブシステム・セキュリティー・スイッチの予期しない設定が検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、スイッチ設定を含む制御ブロックのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#) に示された情報を収集し、スイッチが何に設定されることを予期していたかと、それについてプロファイルを定義したかどうかを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

00C80090

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。セキュリティー構成を調べる (例えば、必要なクラスがインストールされ、活動状態になっているかどうか)。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80091

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、エラー発生時に検査中であつたエンティティーのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#) を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80092

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) への SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) 呼び出しで重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。エラー発生時に検査中であったクラスのアドレスがレジスター 2 に、エンティティーのアドレスがレジスター 3 に入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80093

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する次のいずれか 1 つの SAF 呼び出しから、予期しない戻りコードを受け取った。

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

システム・アクション

SAF および ESM からの戻りコードを含んだメッセージ CSQH004I が作成される。キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、戻りコードのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQH004I (ジョブ・ログ内) またはダンプで示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照してください。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80094

サブシステム・セキュリティー・スイッチの予期しない設定が検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、スイッチ設定を含む制御ブロックのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)に示された情報を収集し、スイッチが何に設定されることを予期していたかと、それについてプロファイルを定義したかどうかを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80095

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、内部ループ数が超過した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であったクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80100

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であったクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。セキュリティー構成を調べる (例えば、必要なクラスがインストールされ、活動状態になっているかどうか)。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80101

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、エラー発生時に検査中であったエンティティーのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80102

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) への SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) 呼び出しで重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。エラー発生時に検査中であったクラスのアドレスがレジスター 2 に、エンティティーのアドレスがレジスター 3 に入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80103

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する次のいずれか 1 つの SAF 呼び出しから、予期しない戻りコードを受け取った。

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

システム・アクション

SAF および ESM からの戻りコードを含んだメッセージ CSQH004I が作成される。キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、戻りコードのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQH004I (ジョブ・ログ内) またはダンプで示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)

を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80104

サブシステム・セキュリティー・スイッチの予期しない設定が検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、スイッチ設定を含む制御ブロックのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)に示された情報を収集し、スイッチが何に設定されることを予期していたかと、それについてプロファイルを定義したかどうかを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80105

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、内部ループ数が超過した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80200

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であつたクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。セキュリティー構成を調べる (例えば、必要なクラスがインストールされ、活動状態になっているかどうか)。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80201

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する SAF RACROUTE REQUEST=EXTRACT 呼び出しを処理していたところ、重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、エラー発生時に検査中であつたエンティティーのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。IBM MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80202

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) への SAF RACROUTE REQUEST=LIST (create) 呼び出しで重大エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。エラー発生時に検査中であったクラスのアドレスがレジスター 2 に、エンティティのアドレスがレジスター 3 に入れられる。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80203

キュー・マネージャー初期設定時のセキュリティー・スイッチの処理中に、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) に対する次のいずれか 1 つの SAF 呼び出しから、予期しない戻りコードを受け取った。

- RACROUTE REQUEST=EXTRACT
- RACROUTE REQUEST=LIST
- RACROUTE REQUEST=STAT

システム・アクション

SAF および ESM からの戻りコードを含んだメッセージ CSQH004I が作成される。キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、戻りコードのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQH004I (ジョブ・ログ内) またはダンプで示される戻りコードに関する情報については、ESM の資料を参照。MQ セキュリティー・スイッチの設定については、[スイッチ・プロファイル](#)を参照。問題を解決できない場合は、[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00C80204

サブシステム・セキュリティー・スイッチの予期しない設定が検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、スイッチ設定を含む制御ブロックのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)に示された情報を収集し、スイッチが何に設定されることを予期していたかと、それについてプロファイルを定義したかどうかを書き留めて、IBM サポートに連絡する。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80205

キュー・マネージャーの初期化時、セキュリティー・スイッチ処理の間に、内部ループ数が超過した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 に、エラー発生時に検査中であったクラスのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

[937 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80206

認証要求で、予期しない要求タイプの設定が見つかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、エラーになった要求タイプ入れられる。

システム・プログラマーの応答

937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C80207

認証要求で、予期しない要求タイプの設定が見つかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、エラーになった要求タイプ入れられる。

システム・プログラマーの応答

937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00C81000

REFRESH SECURITY コマンドの処理中に、重大エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、エラー理由コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。レジスター 2 には、このエラーに関連する制御ブロックのアドレスが入れられる。

システム・プログラマーの応答

937 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

データ・マネージャー・コード (X'C9')

ここにリストされていないデータ・マネージャー理由コードが発生する場合、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティ・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- CICS を使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。
- IBM MQ の操作および制御パネルを使用している場合は、ISPF パネル名。

00C90100

IBM MQ が作成しようとしていたオブジェクトは大きすぎて、保管することができない。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90200

検索されたページ・セットのページが無効であった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90201

検索されたページ・セットのページが無効であった。そのページがヘッダー・ページではなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90202

検索されたページ・セットのページが無効であった。そのページがデータ・ページではなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90300

MQ が、この実行単位に対する回復単位を開始できなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90301

現行の実行単位で、内部ロギング・エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90400

データ・マネージャーが、無効なログ・レコードを検出した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90401

データ・マネージャーが、無効なログ・レコード・サブタイプを検出した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90500

データ・マネージャーが、ページ内のあるデータを変更するように要求されたが、変更が特定のデータ項目を超えてしまうことになる。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90600

データ・マネージャーが、データ・ページから特定の論理レコードを見つけることができなかった。そのレコードは、更新のために必要であったか、またはその直後に新しいレコードを挿入するために必要であった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90700

データ・マネージャーが、その資源アクセス・リスト項目 (RALE) を見つけることができなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90800

データ・マネージャーが、キューにメッセージを入れるように要求されたが、そのメッセージに与えるように指示された優先順位が無効であった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90900

データ・マネージャーが、ページから論理レコードを取り出すように要求されたが、取り出した結果、そのレコードが無効であることがわかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90A00

データ・マネージャーが、値のロギング操作を実行するように要求されたが、長さフィールドが無効であった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90B00

スペース再利用ルーチンが、割り振り解除される状態になっていないページの割り振り解除を要求された。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90C00

データ・マネージャーに渡されたオブジェクト・タイプ記述が無効である。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90D00

本来ページ・セット n であったページ・セットは、別のページ・セットとして示される。これはおそらく、キュー・マネージャー用に開始したタスク JCL プロシージャが変更されているためである。レジスター 0 には、エラーのあるページ・セットの ID が入れられ、レジスター 2 には、以前それが関連付けられていた ID が入れられる。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー用に開始したタスク JCL プロシージャを調べ、ページ・セットを指定する CSQPnnnn DD ステートメントに変更が加えられていれば、その変更を元に戻す。キュー・マネージャーを再始動する。問題が解決しない場合、またはこれらのステートメントに変更が加えられていない場合は、957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90D01

データ・セットが、IBM MQ ページ・セットとして認識されていない。この原因は、次のいずれかである。

- データ・セットがフォーマットされていない。
- 最初に新しいバージョンの IBM MQ で START QMGR BACKMIG (*target-vm*) を実行せずに、新しいバージョンの IBM MQ から古いバージョンの IBM MQ に後方移行しようとしています。

レジスター 0 には、エラーのページ・セットの ID が入れられる。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

理由コードを調べ、次のいずれかを行う。

- ページ・セットをフォーマット設定する

- 後方移行を実行する前に、新しいバージョンの IBM MQ で START QMGR BACKMIG(*target-urm*) を実行してください。
- キュー・マネージャーを正しいレベルのコードを使って始動する

00C90D02

この理由コードは、次のいずれかの理由により出される。

- 有効な IBM MQ ページ・セットであるが、このキュー・マネージャーに属していないページ・セットを使用しようとした。
- サブシステム名を変更しようとした。

これらのアクションはいずれも許可されていない。

レジスター 0 には、エラーのページ・セットの ID が入れられる。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

別のキュー・マネージャーからページ・セットを使用しようとしていた場合には、エラーを訂正する。キュー・マネージャーの名前を変更してはならない。

00C90D03

「Mark Skip Backout (バックアウト処理をスキップするマークを付ける)」というオプション付きの MQGET 呼び出しの処理中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90D04

再始動時に、キュー・マネージャーが、ページ・セットが切り捨てられていることを検出した。これは、おそらく、バックアップの復元中に割り振られたデータ・セットが、バックアップされたデータを保持するには小さすぎるため、データが切り捨てられたことが原因と思われる。ページ・セット 0 がサポートされる最大ページ・セット・サイズより大きい場合にも発生することがある。

システム・アクション

エラーのページ・セットの ID が、レジスター 0 に入れられる。再始動は打ち切られる。

システム・プログラマーの応答

データ・セットを正しく再割り振りして、必要ならバックアップ・データを復元した上で、キュー・マネージャーを再始動する。

00C90E00

データ・マネージャーに渡されたパラメーターが、データ・ページおよびページ・セット内の論理レコードの位置を正しく記述していない。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C90F00

データ・マネージャーがページ内の論理レコードの更新を要求されたが、そのレコードは前に削除されている。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91000

データ・マネージャーが、ローカル・キューでないオブジェクトからメッセージを取り出すように要求された。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91094, 00C91095, 00C91096, 00C91097

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91101

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91102

MQ が RRS の ATRSROI サービスからエラーを示す戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

ATRSROI からの戻りコードは、レジスター 15 に入っています。戻りコードについては、「[z/OS MVS プログラミング: リソース・リカバリー](#)」を参照。

00C91104

データ・マネージャーが、メッセージのブラウズ操作を実行するように要求されたが、必要なロックが保持されていない。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91200

内部データ・マネージャーのオブジェクト探索ルーチンが、UNDO 処理中、探していたオブジェクトを見つけることができなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91300

キュー・マネージャー始動時に、長さが単一データ・ページを超えるオブジェクトを回復しようとした。しかし、中間データ・ページの 1 つが使用可能ではなかったため、IBM MQ はそのオブジェクトを回復することができなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91400

データ・マネージャーが、ページ・セットのうちの 1 つのヘッダー・ページ (ページ 0) にアクセスできなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。読み取り不能なヘッダー・ページをもつページ・セットの番号が、レジスター 2 に入れられる。

システム・プログラマーの応答

1. レジスター 2 で示されたページ・セットに関連して、前に出された IEC161I、CSQP060E、または CSQP011E メッセージを調べる。
2. 次のことを確認する。
 - レジスター 2 で示されたページ・セットに関して、該当する CSQPnnnn DD ステートメントが、キュー・マネージャー用に開始したタスク JCL プロシージャ xxxMSTR に存在しているかどうか。
 - この DD ステートメントが本当のデータ・セットを参照しているかどうか。ページ・セットに対しては DD DUMMY ステートメントを使用することができない。
 - DEFINE PSID(nn) が CSQINP1 初期設定入力データ・セットに存在しているかどうか。
3. それでも問題を解決できない場合は、957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91500

キュー・マネージャーの始動時に、データ・マネージャーが、ディスク上のオブジェクトのチェーンに従う過程で、チェーンの次のデータ・ページをバッファー・マネージャーに要求した。しかし、バッファー・マネージャーは、このページを与えることができなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91600

再始動時に、データ・マネージャーは、ページ・セット・データから、その仮想記憶域構造体を再作成する。あるオブジェクトの再作成時に、データ・マネージャーは、そのオブジェクトがすでに存在していることを検出した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91700, 00C91800

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91900

再始動時に、データ・マネージャーが、そのオブジェクト仮想記憶域構造体を再作成しているときに、エラーを検出した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91B01

再始動時に、データ・マネージャーが、新しく追加されたページ・セットに位置することが明白なメッセージを持つキューを検出した。これは、キュー・マネージャーがページ・セットをオフラインにして実行されており、新しいページ・セットが元のページ・セットを置き換えるようにフォーマットされたためであると思われる。これは、データの消失につながる。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91C00

削除除去要求が発行されたが、オブジェクト・タイプがローカル・キューでない。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91D00

長いカタログ・オブジェクトまたは長メッセージに関連するすべてのページをロックしようとしている途中で、ロック要求が失敗に終わった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91E00

CSQIPUT5 または CSQIPUT6 から発行された要求の処理中に、ページ・レベル・ロックを入手しようとしたが、失敗した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C91F00

CSQIPUT5 または CSQIPUT6 から発行された要求の処理中に、レコード・レベル・ロックを入手しようとしたが、失敗した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C92000

オブジェクトまたはメッセージに関連する所有者ページのページ・レベル・ロックを入手しようとしたが、失敗した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C92100

データを挿入しようとして、ページ・レベル・ロックを入手しようとしたが、失敗した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C92200

データを挿入しようとして、レコード・レベル・ロックを入手しようとしたが、失敗した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C92300

データを修正しようとして、レコード・レベル・ロックを入手しようとしたが、失敗した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C92400

CSQIMGE1 内のオブジェクト名と連結されたオブジェクト・タイプをロックしようとしたが、失敗した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C92500, 00C92600, 00C92700, 00C92800, 00C92900, 00C92A00, 00C92B00, 00C92C00, 00C92D00, 00C92E00, 00C92F00, 00C93000

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C93100

キー入力された読み取りキューがエラーを検出した。キューのハッシュ表構造体に問題が発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C93200, 00C93300

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C93500

IBM MQ は、以前の動的ページ・セット拡張操作からのログ・レコードに基づいて、開始時にページ・セットを拡張していました。(IBM MQ は、すべてのメディア・リカバリー操作がページ・セット内で必要な数のページを使用できるようにするために使用します。)

ページ・セットは、要求された RBA 値に拡張することができなかった。

関連するレジスターの内容は、次のとおりである。

R0

これ以上拡張することができなかったページ・セットの数。

R2

IBM MQ が拡張しようとしていたログ・ページ番号。

R3

再始動時の高位ページ番号。これは、IBM MQ が拡張していたときの基数。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

必要があれば複数のディスク・ボリュームを使用して、これより大きい 2 次エクステント値をもつ、大きいページ・セットを作成する。ページ・セットの高位ページ番号は、少なくともダンプのレジスター 2 に示される数と一致していなければならない。

00C93700

キューにメッセージが入っているが、そのキュー定義に指定されたストレージ・クラスが存在していない。これは、一種のエラーである。

この理由コードは、新しいバージョンにマイグレーションした後のキュー・マネージャーの最初の始動時でない限り、キュー・マネージャーの再始動時に発行される。

レジスター 2 には、ストレージ・クラス名の最初の 4 文字が入れられ、レジスター 3 には、第 5 文字から第 8 文字までが入れられる。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

ダンプおよびページ・セット 0 のリストを収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C93800

キューにメッセージが入っているが、そのメッセージは、キューが指定したストレージ・クラスに定義されたページ・セット以外のページ・セット上にある。

この理由コードは、新しいバージョンにマイグレーションした後のキュー・マネージャーの最初の始動時でない限り、キュー・マネージャーの再始動時に発行される。この前に、メッセージ CSQI028E の 1 つ以上のインスタンスが出される。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

ダンプおよびページ・セット 0 のリストを収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C93900

MQPUT の処理中に、IBM MQ がキューのストレージ・クラスのロックを取得できなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C93A00

MQGET の処理中に、IBM MQ は、自身が処理しているキューのロックを取得できなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C93B00

MQPUT の処理中に、IBM MQ は、自身が処理しているキューのロックを取得できなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C93C00

MQGET の処理中に、IBM MQ は、自身が処理しているキューからメッセージ・ページを検索できなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C93D00, 00C93E00, 00C93F00, 00C94000, 00C94100

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C94200

MQ が RRS の ATREINT サービスからエラーを示す戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

ATREINT からの戻りコードは、レジスター 15 に入っています。戻りコードについては、「[z/OS MVS プログラミング: リソース・リカバリー](#)」を参照。

00C94201

MQ が、RRS を使用できないことを示す戻りコードを RRS の ATREINT サービスから受け取った。RRS スタブにリンクされた IBM MQ アプリケーションの実行時に RRS が停止すると、このエラーが起こることがある。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

RRS スタブにリンクされた IBM MQ アプリケーションを使用するときに RRS が実行されていることを確認する

00C94300

MQ が RRS の ATRSIT サービスからエラーを示す戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

ATRSIT からの戻りコードは、レジスター 15 に入っています。戻りコードについては、「[z/OS MVS プログラミング: リソース・リカバリー](#)」を参照。

00C94400

MQ が RRS の ATRSPID サービスからエラーを示す戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

ATRSPID からの戻りコードは、レジスター 15 に入っています。戻りコードについては、「[z/OS MVS プログラミング: リソース・リカバリー](#)」を参照。

00C94500, 00C94501, 00C94502

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C94503

RESETPAGE 機能の対象であったページ・セットが、以前にキュー・マネージャーのシャットダウンを完了していなかった。後の IBM MQ 処理にこのページ・セットを使用するなら、データ保全性の問題につながる。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーに定義されているページ・セットを検査する。1 つまたは複数のページ・セットが RESETPAGE 操作の対象となっている。次の項目に該当するページ・セットには、RESETPAGE 操作を実行してはならない。

- ファジー・ページ・セットのバックアップ
- 異常終了したキュー・マネージャーのページ・セット

問題を解決できない場合は、[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C94505

内部エラーが発生しました。

別のキュー・マネージャーからのログによる再始動が検出された。チェックポイントの間にログに記録されたキュー共有グループ名が、そのログを使用しているキュー・マネージャーのキュー共有グループ名と一致しない。正しいログが使用されている場合は、そのキュー・マネージャーを正常シャットダウンした後、つまり、静止した後でこれを変更することができる。

このエラーが発生する前にメッセージ CSQI060E が送出される。

システム・アクション

再始動は完了コード X'5C6' で異常終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

正しいログと BSDS を使用してキュー・マネージャーを再始動するか、QSGDATA システム・パラメーターを変更する。注意点として、キュー・マネージャーを正常にシャットダウンしていないと、そのキュー・マネージャーが使用するキュー共有グループ名を変更することはできない。

ダンプの中の以下のレジスターには有用な値が含まれている。

- R0 = ログに記録されたキュー共有グループ名

- R2 = 実行中のキュー・マネージャーのキュー共有グループ名

00C94506

内部エラーが発生しました。

別のキュー・マネージャーからのログによる再始動が検出された。チェックポイントの間にログに記録された共有キューマネージャー ID が、そのログを使用しているキュー・マネージャーの共有キュー・マネージャー ID と一致しない。正しいログが使用されているとすれば、Db2 CSQ.ADMIN_B_QMGR 表中のこのキュー・マネージャーの項目が壊れている。

このエラーが発生する前にメッセージ CSQI061E が送出される。

システム・アクション

再始動は完了コード X'5C6' で異常終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

正しいログと BSDS を使用してキュー・マネージャーを再始動する。正しいログが使用されているなら、Db2 CSQ.ADMIN_B_QMGR 表の中にあるこのキュー・マネージャーの項目を訂正する。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡して支援を受けてください。

ダンプの中の以下のレジスターには有用な値が含まれている。

- R0 = ログに記録されているキュー・マネージャー ID
- R2 = 実行中のキュー・マネージャーのキュー・マネージャー ID

00C94507

「Mark Skip Backout (バックアウト処理をスキップするマークを付ける)」というオプションの処理中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C94510

IBM MQ 内のカップリング・ファシリティ資源マネージャー・サービスに対する要求が出されたが、カップリング・ファシリティ資源マネージャー・サービスが、予期しない戻りコードを戻した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C94511

データ・マネージャーが使用するためのストレージを入手しようとしたが、失敗した。これは、ストレージの可用性に関連した広範囲な問題が存在する可能性があることを示している。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

推奨される領域サイズを使用して実行しているかどうかを確認する。そうでない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが原因ではない場合には、以下の項目を使用して問題の原因を診断する。

- キュー・マネージャー・ジョブ・ログ
- 他のストレージ関連の問題に関する情報

- ・エラーの結果として生じたシステム・ダンプ

00C94512

IBM MQ 内の Db2 リソース・マネージャー・サービスに対して要求が出されました。Db2 資源マネージャー・サービスは予期しない戻りコードを戻した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C94513

IBM MQ 内のカップリング・ファシリティ資源マネージャー・サービスに対する要求が出されたが、カップリング・ファシリティ資源マネージャー・サービスが、予期しない戻りコードを戻した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C9451A

再始動時に、IBM MQ 内の Db2 リソース・マネージャー・サービスに対して要求が出されました。Db2 資源マネージャー・サービスはロックされた表条件について、予期しない戻りコードを戻した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。同時に複数のキュー・マネージャーを始動していた場合、この状態を解決するために、1 つずつ再始動する。

問題が解決しない場合は、[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C94525

内部エラーが発生しました。

RESETPAGE を実行していないページ・セットを使用した再始動の試みが検出された。

このエラーが発生する前に、メッセージ CSQI050E が出される。

システム・アクション

再始動は完了コード X'5C6' で異常終了し、ダンプが作成されます。

システム・プログラマーの応答

CSQUTIL を実行した後、CSQI050E メッセージに示されている 1 つ以上のページ・セットに RESETPAGE オプションを指定して、キュー・マネージャーを再始動する。

00C94526

MQOPEN の処理中に、IBM MQ が、重複したキュー制御ブロックの存在を検出しました。

システム・アクション

MQOPEN 呼び出しが理由コード MQRC_OBJECT_NOT_UNIQUE で失敗し、ダンプが生成されます。

システム・プログラマーの応答

[957 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00C9FEEE

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

957 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

回復ログ・マネージャー・コード (X'D1')

ここにリストされていない回復ログ・マネージャー理由コードが発生する場合、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- CICS を使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。
- SYS1.LOGREC の印刷出力 (理由コードがアクティブなキュー・マネージャーから発行された場合)
- 理由コードがアクティブなキュー・マネージャーから発行された場合は、問題に関連するログ・レコードが含まれている CSQ1LOGP 詳細レポート。
- BSDS の内容。ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を実行してリストを入手する。
- 多くの理由コードに関してシステム診断作業域 (SDWA) の SYS1.LOGREC 可変記録域 (VRA) に提供される、以下の回復ログ・マネージャー標準診断情報

MODID

エラーを出したモジュールの名前。

地位

変更レベル。

COMPONENT

回復ログ・マネージャーのサブコンポーネント ID。

REGISTERS

異常終了発生時の汎用レジスター (GPR) 0 から 15。

00D10010

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで指定されたログ終了範囲の値が、開始範囲の値より小さいか、または等しい。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

ログ印刷ユーティリティの呼び出しで指定したログ範囲入力制御パラメーターを訂正する。

ログ・サービスの詳細については、[CSQ1LOGP](#) を参照してください。

00D10011

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、要求の実行に必要なストレージを取得できなかった。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

この起動でのジョブ制御言語 (JCL) の EXEC ステートメントの REGION パラメーターの値が小さすぎることが原因と思われる。REGION サイズを大きくし、ログ印刷要求を再実行する。

ログ・サービスの詳細については、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

00D10012

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗した。これは、この呼び出しに対するジョブ制御言語 (JCL) で、ブートストラップ・データ・セット (BSDS)、または BSDS がない場合には活動ログ・データ・セットおよび保存ログ・データ・セットの使用が指定されていなかったためである。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

JCL を訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

BSDS について詳しくは、[BSDS の管理](#)を参照してください。

00D10013

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) をオープンしようとしたとき、VSAM エラーが起こった。

この理由コードと VSAM 戻りコードは、メッセージ CSQ1221E に付随して出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

VSAM OPEN エラーの意味を判別するには、「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照。該当する処置を取ったうえで、ログ印刷要求を再実行する。

00D10014

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しに対するジョブ制御言語 (JCL) で、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) の使用が指定されていたが、ユーティリティ制御ステートメントで RBASTART および RBAEND に値が指定されていなかった。

RBASTART および RBAEND 値は、活動ログまたは保存ログを使用するときには必要ではないが、BSDS を使用するときには必ず指定しなければならない。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

以下のいずれかを実行します。

- 引き続き BSDS を使用する場合には、ユーティリティ制御ステートメントを変更して、RBASTART および RBAEND に値を指定する。
- 代わりに、活動データ・セットおよび保存データ・セットを使用する場合には、JCL を訂正する。

詳しくは、[CSQ1LOGP](#)を参照してください。

00D10015

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗した。ブートストラップ・データ・セットのレコード形式が、使用されているログ印刷サービスのリリースと互換性がないためである。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

ログ印刷サービスのリリースが、該当する BSDS レコード形式に対して正しいものかどうかを確認する。

詳しくは、[CSQ1LOGP](#) を参照してください。

00D10019

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) をオープンしようとしたとき、VSAM エラーが起こった。このエラーは、VSAM アクセス方式サービス・プログラム (AMS) の VERIFY 呼び出しによって訂正できると判断されたが、VERIFY 呼び出しも失敗に終わった。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しに使用したユーザーのジョブ制御言語 (JCL) のコピー
- ユーザーが印刷しようとしていたログ・データ・セット

00D10020

データの終わりに達した (つまり、ログの終わり、ユーザー指定のデータ・セットの終わり、またはユーザー指定の RBAEND 値に達した) ため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) がこのメッセージを出した。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

これはエラーではない。この理由コードは、正常なデータ終了条件を示している。処置は必要ない。

詳しくは、[CSQ1LOGP](#) を参照してください。

00D10021

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、ログ・データ・セットを切り替えるとき、ログ RBA 範囲内でギャップが見つかった。これは、ログ・レコードが欠落している可能性があることを示す。

通常は、ユーティリティを起動するときに使用されるジョブ制御言語 (JCL) 内の ACTIVE および ARCHIVE DD 名 (または、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合は BSDS DD 名) によって、一連の連続するログ・レコードが入力として提供される。ログ・データ・セットが JCL から取り除かれていた場合に、この条件が生じる。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

ログ・データ・セットが意図的に取り除かれない場合は、JCL を調べ、ログ・データ・セットが RBA 値の昇順に指定されているかどうかを確認する。BSDS を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合には、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、BSDS に記録されている RBA の範囲を調べ、活動ログ・データ・セットまたは保存ログ・データ・セットの削除の結果として生じた可能性のある RBA ギャップを書き留めておく。

ログ・エラーが発生した可能性がある場合は、活動ログの問題を参照して、ログの問題の処理方法について確認する。

00D10022

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、ログ・データ・セットを切り替えるとき、ログ RBA 範囲内でギャップが見つかった。これは、ログ・レコードが欠落している可能性があることを示す。ギャップの後の次のレコードのログ RBA が、ユーティリティ制御ステートメントで指定した RBAEND 値より大きくなっている。

通常は、ユーティリティを起動するときに使用されるジョブ制御言語 (JCL) 内の ACTIVE および ARCHIVE DD 名 (または、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合は BSDS DD 名) によって、一連の連続するログ・レコードが入力として提供される。ログ・データ・セットが JCL から取り除かれていた場合に、この条件が生じる。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティ制御ステートメントに指定した JCL と RBAEND 値を確認する。

ログ・データ・セットが意図的に取り除かれたものではない場合は、ログ・データ・セット・セットが RBA 値の昇順に指定されているかどうかを確認する。BSDS を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合には、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、BSDS に記録されている RBA の範囲を調べ、活動ログ・データ・セットまたは保存ログ・データ・セットの削除の結果として生じた可能性のある RBA ギャップを書き留めておく。

ログ・エラーが発生した可能性がある場合は、活動ログの問題を参照して、ログの問題の処理方法について確認する。

00D10024

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、ログ RBA シーケンス・エラーが見つかった。前のログ・レコードの RBA が、現行のログ・レコードの RBA より大きい。

通常は、ユーティリティを起動するときに使用されるジョブ制御言語 (JCL) 内の ACTIVE および ARCHIVE DD 名 (または、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合は BSDS DD 名) によって、一連の連続するログ・レコードが入力として提供される。ログ・データ・セットの順序が正しくない場合に、この条件が生じる。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

JCL を調べ、ログ・データ・セットが RBA 値の昇順に指定されているかどうかを確認する。BSDS を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合には、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、それぞれの保存ログ・データ・セットおよび活動ログ・データ・セットに関連付けられている RBA の範囲を調べる。保存と活動の両方のログ・データ・セットが使用される場合には、最初の保存ログ・データ・セットに、最小のログ RBA 値が含まれていなければならない。必要であれば、JCL における保存/活動ログ・データ・セットの連結を調整し、ログ・レコードが確実に RBA の昇順で読み取られるようにしてから、ログ印刷要求を再実行する。

ログ・エラーが発生した可能性がある場合は、活動ログの問題を参照して、ログの問題の処理方法について確認する。

00D10025

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、活動ログ・データ・セットを読み取ろうとしたとき、VSAM GET エラーが起こった。

この理由コードおよび VSAM 戻りコードと理由コードは、メッセージ CSQ1221E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照して、VSAM GET エラーおよび RPL エラー・コードの意味を判別してください。該当する処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D10026

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが、失敗に終わった。RBASTART および RBAEND によって指定された範囲内にある RBA 値が、ログ・データ・セット上に見つからなかったためである。

この理由コードと見つからなかった RBA 値が、メッセージ CSQ1216E に付随して出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティ制御ステートメントを調べ、RBASTART と RBAEND の値が、JCL 内の DD 名によって定義されたすべての活動/保存ログ・データ・セットで使用できる RBA の下限または上限を超えていないかどうかを確認する。

BSDS を使用してログ・データ・セットにアクセスしている場合には、ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004) を使用して、それぞれの保存ログ・データ・セットおよび活動ログ・データ・セットに関連付けられている RBA の範囲を調べる。

必要があれば、JCL およびユーティリティ制御ステートメントを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

詳しくは、CSQ1LOGP を参照してください。

00D10027

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しで、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) を読み取ろうとしたとき、VSAM GET エラーが起こった。

この理由コードおよび VSAM 戻りコードと理由コードは、メッセージ CSQ1221E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照して、VSAM GET エラーおよび RPL エラー・コードの意味を判別してください。該当する処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D1002A

前もってオープンされていない活動ログ・データ・セット内の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。活動ログ・データ・セットをオープンしようとしたときに、VSAM OPEN エラーが発生した。

この理由コードおよび VSAM 戻りコードと理由コードは、メッセージ CSQ1221E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照して、VSAM OPEN エラーおよび ACB エラー・コードの意味を判別してください。該当する処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D1002B

前もってオープンされていない活動ログ・データ・セット内の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。活動ログ・データ・セットをオープンしようとしたときに、VSAM OPEN エラーが発生した。VSAM OPEN エラーは訂正できると判別されましたが、問題のアクティブ・ログ・データ・セットが VSAM ESDS (入力順データ・セット) であるか、VSAM LDS (線形データ・セット) であるかを判別するために z/OS TESTCB マクロを実行しているときに、システム・エラーが発生しました。

この理由コードおよび VSAM 戻りコードと理由コードは、メッセージ CSQ1221E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照して、VSAM OPEN エラーおよび ACB エラー・コードの意味を判別してください。該当する処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

問題が解決しない場合は、以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しに使用したジョブ制御言語 (JCL) のコピー
- ユーザーが印刷しようとしていたログ・データ・セット

00D1002C

前もってオープンされていない活動ログ・データ・セット内の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。活動ログ・データ・セットをオープンしようとしたときに、VSAM OPEN エラーが発生した。この VSAM OPEN エラーは、VSAM アクセス方式サービス・プログラム (AMS) の VERIFY 呼び出しによって訂正できると判断されたが、VERIFY 呼び出しも失敗に終わった。

この理由コードおよび VSAM 戻りコードと理由コードは、メッセージ CSQ1221E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照して、VSAM OPEN エラーおよび ACB エラー・コードの意味を判別してください。該当する処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D1002D

前もってオープンされていない活動ログ・データ・セット内の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。活動ログ・データ・セットをオープンしようとしたときに、VSAM OPEN エラーが発生した。この VSAM OPEN エラーは、VSAM アクセス方式サービス・プログラム (AMS) の VERIFY 呼び出しによって訂正されたが、その後、VSAM ポインターを (VSAM AMS POINT 呼び出しを使用して) 活動ログ・データ・セットの先頭に再位置付けする試みが失敗に終わった。

この理由コードおよび VSAM 戻りコードと理由コードは、メッセージ CSQ1221E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「[z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets](#)」を参照して、VSAM OPEN エラーおよび ACB エラー・コードの意味を判別してください。該当する処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D10030

ログ印刷ユーティリティの呼び出しの結果、内部エラーが発生した。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ログ印刷ユーティリティの呼び出しに使用したジョブ制御言語 (JCL) のコピー
- ユーザーが印刷しようとしていたログ・データ・セット

00D10031

前もってオープンされていないログ・データ・セット内の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。ジョブ制御言語 (JCL) では、必要なデータ・セットを決定するためのガイドとしてブートストラップ・データ・セット (BSDS) を使用するように指定されている。適切なデータ・セットを動的に (z/OS SVC 99 を使用して) 割り振ろうとしましたが、失敗しました。

この理由コードは、動的割り振り情報コードおよびエラー・コード (S99INFO および S99ERROR) とともに、メッセージ CSQ1222E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

これらのコードについての情報は、MVS 許可アセンブラー・サービス・ガイドの [DYNALLOC 戻りコードの解釈トピック](#)に進みます。適切な処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D10040

前もってオープンされていない保存ログ・データ・セット (テープ上の) の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。保存ログ・テープ上の 2 番目のファイル (通常は最初のファイルにブートストラップ・データ・セットが入っている) をオープンしようとしたが、保存ログ・データ・セットが保存ログ・テープ上の 2 番目のファイルではなかったため、オープンできなかった。その後、2 番目のファイルの再オープンを試みる前に、データ・セット順序番号をデフォルト値の 2 から 1 に変更するためにジョブ・ファイル制御ブロック読み取り (RDJFCB) マクロが呼び出されたが、マクロ呼び出しがエラーに終わった。

この理由コードおよび RDJFCB 戻りコードは、メッセージ CSQ1223E で出される。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

「z/OS DFSMSdfp 拡張サービス」を参照して、RDJFCB エラー・コードの意味を判別してください。適切な処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D10044

前もってオープンされていない保存ログ・データ・セット内の RBA 値が要求されたため、ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。保存ログ・データ・セットをオープンしようとしたが、QSAM (待機順次アクセス方式) エラーが発生した。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

QSAM エラーの原因を示すメッセージがないかをコンソールで調べる。適切な処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D10048

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。保存ログ・データ・セットの読み取り中に、QSAM (待機順次アクセス方式) 読み取りエラーが発生したためである。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

QSAM エラーの原因を示すメッセージがないかをコンソールで調べる。適切な処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。

00D10050

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しが失敗に終わった。ジョブ制御言語 (JCL) の中で、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) が誤って保存データ・セットの 1 つとして指定されていたためである。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

JCL を調べ、連結 ARCHIVE データ・セットの 1 つとして指定された BSDS データ・セットの指定を取り除く。ログ印刷要求を再実行する。

詳しくは、[保存ログの問題](#)を参照してください。

00D10061

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しは成功したが、活動または保存ログ・データ・セットのログ・レコード制御間隔 (CI) に関して、予期しない物理レコード長が検出された。

そのログ・データ・セットのデータが、IBM MQ によって書き込まれた後に破壊された可能性がある。そのログ・データ・セットのデータはまだ使用可能であるかもしれないが、注意が必要である。

活動ログ・データ・セットのログ CI の長さは、4096 バイトと予期されている。保存ログ・データ・セットのログ CI の長さは、4089 バイトと予期されている。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。ログ印刷要求は完了した。この理由コードは、警告として出される。

システム・プログラマーの応答

ジョブ制御言語 (JCL) 中の活動および保存 DD 名が、活動ログおよび保存ログを正しく参照しているかどうかを確認する。

問題が解決しない場合は、以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しに使用したジョブ制御言語 (JCL) のコピー
- ユーザーが印刷しようとしていたログ・データ・セット

00D10062

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しは成功したが、中間スパン・ログ・レコード・セグメントのための最初のログ・レコード・セグメントが見つからなかった。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。ログ印刷要求は完了した。この理由コードは、警告として出される。

システム・プログラマーの応答

この条件の原因としては、次のようないくつかの理由が考えられる。

- IBM MQ のコンポーネントである回復ログ・マネージャーが、初めからログ・レコード・ヘッダー (LRH) を正しく作成していない。
- ログ・レコード・セグメントの LRH が、IBM MQ により書き込まれた後で損傷を受けている。
- ログ RBA 値にギャップがあること (理由コード X'00D10021') を通知された後、アプリケーション・プログラムが処理を続行した。

問題のレコード・セグメントの直前および直後にあるレコード・セグメントを調べ、ログ・レコード・セグメントの LRH が実際にエラーであるかどうかを判別する。

適切な処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。問題が解決しない場合は、以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しに使用したジョブ制御言語 (JCL) のコピー
- ユーザーが印刷しようとしていたログ・データ・セット

00D10063

ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しは成功したが、最後のスパン・ログ・レコード・セグメントのための最初のログ・レコード・セグメントが見つからなかった。

システム・アクション

ログ・サービスによってエラーが出されることもなく、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。ログ印刷要求は完了した。この理由コードは、警告として出される。

システム・プログラマーの応答

この条件の原因としては、次のようないくつかの理由が考えられる。

- IBM MQ のコンポーネントである回復ログ・マネージャーが、初めからログ・レコード・ヘッダー (LRH) を正しく作成していない。
- ログ・レコード・セグメントの LRH が、IBM MQ により書き込まれた後で損傷を受けている。
- ログ RBA 値にギャップがあること (理由コード X'00D10021') を通知された後、アプリケーション・プログラムが処理を続行した。

問題のレコード・セグメントの直前および直後にあるレコード・セグメントを調べ、ログ・レコード・セグメントの LRH が実際にエラーであるかどうかを判別する。

適切な処置を行い、エラーを訂正し、ログ印刷要求を再実行する。問題が解決しない場合は、以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP) の呼び出しに使用したジョブ制御言語 (JCL) のコピー
- ユーザーが印刷しようとしていたログ・データ・セット

00D10114

IBM MQ が、キュー共有グループ・テーブル CSQ.ADMIN_B_QSG のメンバー情報の読み取りまたは書き込みに失敗した。

システム・アクション

キュー・マネージャーの初期設定は終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー・ジョブ・ログの中でこのエラーの直前に報告されている Db2 SQL エラーを調べ、原因を判別する。多くの場合、テーブルのセットアップに間違いがある、プランがバインドされていない、または Db2 のプランを実行するには権限が不十分であるなどが原因である。

00D10121

BSDS が無効である。無効な BSDS は、前に BSDS 変換ユーティリティを実行しようとして失敗した結果である。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動が終了する。

システム・プログラマーの応答

BSDS 変換ユーティリティを実行する手順には、元の BSDS の名前を変更する操作が含まれる。データ・セットの名前を変更することにより BSDS を変換前の元のコピーに戻した後、変換を再試行する。変換が正常に終了したら、エラー・メッセージを出したプログラムを再試行する。

00D10122

BSDS バージョンがこのリリースの IBM MQ でサポートされていない。

システム・アクション

キュー・マネージャー始動、または BSDS にアクセスしようとしていたプロセスが終了します。

システム・プログラマーの応答

BSDS バージョンをサポートする IBM MQ バージョンのキュー・マネージャーを開始してください。

ログ・マップ印刷ユーティリティ ([CSQJU004](#)) を実行すると、BSDS のバージョンを判別できます

00D10250

アクティブ・ログ・データ・セットの変更を反映するために BSDS または z/OS カタログのいずれかを更新しているときに、リカバリー不能エラーが発生しました。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

SYS1.LOGREC および SVC ダンプを入手する。エラーを訂正し、キュー・マネージャーを再始動する。

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。また、システム診断作業域 (SDWA) の可変記録域 (VRA) に記録される情報についての詳細は、理由コード X'00D10252' の説明を参照。

このエラーに先立って出された CSQJxxxx メッセージをコンソール・ログから探し、これが BSDS エラーであるか z/OS カタログ更新エラーであるかを判別する。問題を解決できない場合は、サポートに連絡してください。

00D10251

ログ・バッファ書き込み機能で回復不能なエラーが起こった。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

SYS1.LOGREC および SVC ダンプを入手する。このエラーは、通常、前のエラーが原因で起こる。前のエラーは、SYS1.LOGREC に記録されており、SVC ダンプが作成されているはずである。SYS1.LOGREC 項目および SVC ダンプを調べ、前に起こった 1 次エラーを判別しなければならない。

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。また、システム診断作業域 (SDWA) の可変記録域 (VRA) に記録される情報についての詳細は、理由コード X'00D10252' の説明を参照。

問題を解決できない場合は、サポートに連絡してください。

00D10252

この理由コードは、システム診断作業域 (SDWA) の可変記録域 (VRA) に記録される情報の形式を定義するために使用される。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。

システム・プログラマーの応答

SYS1.LOGREC および SVC ダンプを入手する。

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。さらに、次の情報が、SDWA の VRA に入れられる。

- 理由コード X'00D10252' が、VRA キー 6 に保管される。
- ログ・バッファ書き込み機能の回復トラッキング域が、VRA キー 10 に保管される。

00D10253

パラメーター・リストまたは他のデータを、呼び出し側のアドレス・スペースからキュー・マネージャーのアドレス・スペースに移動する MVCP 命令で、アプリケーション・プログラムのプログラム検査が発生した。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。

システム・プログラマーの応答

SYS1.LOGREC および SVC ダンプを入手する。972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

データの移動元の区域を調べる。キーが正しくないか、アドレスが問題の原因と考えられる。この正しくない命令は、DA 命令コードを含み、アドレスと移動すべき長さを示すレジスターを示している。

00D10254

データをキュー・マネージャーのアドレス・スペースから呼び出し側のアドレス・スペースに移動する MVCS 命令で、アプリケーション・プログラムのプログラム検査が発生した。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。

システム・プログラマーの応答

SYS1.LOGREC および SVC ダンプを入手する。972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

データの移動先の区域を調べる。キーが正しくないか、アドレスが問題の原因と考えられる。この正しくない命令は、DB 命令コードを含み、アドレスと移動すべき長さを示すレジスターを示している。

00D10257

ログ RBA が、FFF800000000 (6 バイトのログ RBA を使用している場合) または FFFFFFFC000000000 (8 バイトのログ RBA を使用している場合) の値に到達した、あるいはこの値を超えた。ログ RBA 範囲が CRITICAL レベルに達し、キュー・マネージャーの処理を続行するために使用可能な範囲が小さくなりすぎたため、キュー・マネージャーは強制終了されます。

システム・アクション

キュー・マネージャーは理由コード 00D10257 で終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動するためには、その前にログをリセットする必要がある。この処置を行わないと、次のログ・データ・セットの切り替えの後に、キュー・マネージャーは再び異常終了する。

CSQUTIL ユーティリティ・プログラムを使用してログをリセットする方法については、[RESETPAGE](#) を参照。

キュー・マネージャーが 6 バイトのログ RBA を使用している場合は、8 バイトのログ RBA を使用するようキュー・マネージャーを変換することを検討してください。詳しくは、[アドレス指定可能な最大ログ範囲を広げる計画](#)を参照してください。

00D10261

ログ制御間隔 (CI) のレコードおよびレコード・セグメントを走査しているときに、正方向のレコード・チェーンが壊れていることが見つかった。この条件は、ログ CI のいずれかのレコードのログ・レコード・ヘッダーに含まれているレコード長が正しくないことが原因で起こる。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10262

ログ制御間隔 (CI) の走査中に、その CI の最後のレコードまたはレコード・セグメントへのオフセットが正しくないことがわかった。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10263

ログ制御間隔 (CI) の走査中に、VSAM RDF/CIDF 制御情報が正しくないことがわかった。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10264

ログ制御間隔 (CI) を走査していたところ、その CI の開始ログ RBA は予期された RBA ではなかった。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。

- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10265

ログ制御間 (CI) のレコードおよびレコード・セグメントを走査しているときに、逆方向のレコード・チェーンが壊れていることが見つかった。この条件は、ログ CI のいずれかのレコードのログ・レコード・ヘッダーに含まれているレコード長が正しくないことが原因で起こる。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了する。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10266

ログ制御間隔 (CI) を走査していたところ、あるレコードの回復単位 ID または LINK RBA が、その CI の開始ログ RBA と矛盾していることがわかった。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。

- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10267

ログ制御間隔 (CI) を走査していたところ、中間または最後のスパン・レコード・セグメントが、そのログ CI に含まれる最初のセグメントではなかった。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10268

ログ制御間隔 (CI) を走査していたところ、最初または中間のスパン・レコード・セグメントが、そのログ CI に含まれる最後のセグメントではなかった。

システム・アクション

この理由コードは、ログ・バッファが活動ログに書き込まれる前に走査されたときには、活動キュー・マネージャーによって、あるいは、CI がユーザー指定の活動または保存ログ・データ・セットから取り出されるときには、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理プログラムによって出される可能性がある。

この理由コードが活動キュー・マネージャーによって発行された場合には、診断レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

- このエラーが CSQJOFF1 によって検出された場合には、活動ログ・データ・セットの保存は終了し、欠陥のある活動ログ・データ・セットには「停止」のマークが付けられる。
- このエラーが CSQJR005 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、呼び出し側のエージェントが終了する。
- このエラーが CSQJW009 によって検出された場合には、メッセージ CSQJ012E が発行され、キュー・マネージャーが終了する。
- このエラーが CSQJW107 によって検出された場合には、キュー・マネージャーが終了する。

この理由コードが、IBM MQ ログ・サービス読み取り処理の結果として発行された場合には、エラーは出されず、SYS1.LOGREC データ・セットに情報が書き込まれることもない。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10269

活動ログへの物理的書き込みの準備として、現行のログ・バッファを静的書き込みバッファに移動しようとしたとき、バッファの1つで回復不能なエラーが見つかった。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10270

ログ・レコード・ヘッダーの長さが予期された長さではなかったために、LOG WRITE 要求が異常終了した。これは内部エラーです。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

SYS1.LOGREC、コンソール・ログ、および SVC ダンプを調べ、LOG WRITE 処理中に起こったそれ以前のエラーに関する情報を入手する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10327

無効なログ LOGRBA があったために、LOG READ は正常に完了しなかった。要求された RBA による MODE(DIRECT) を指定したログ読み取りは、ログ・レコードの開始位置になっていない。

システム・アクション

SVC ダンプが要求され、実行単位は異常終了する。ログ読み取りエラーがキュー・マネージャーの開始時に発生した場合、そのキュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

MODE(DIRECT) を指定したログ読み取りは、ログ・データの順次(多くの場合は逆方向の)読み取りをして未確定の作業単位のロックを回復する前、または作業単位のバックアウトをする前に、作業単位の開始 RBA がログで検出可能かどうかを検査するために、キュー・マネージャーで最も一般的に使用される。このメッセージは、キュー・マネージャーが不完全なログ・データを使用して開始されていることを示す。

IBM MQ にエラーがあると思われる場合は、以下のデータを収集して、IBM サポートに連絡する。

- BSDS
- すべてのアクティブ・ログとアーカイブ・ログ
- このエラーにより作成された SVC ダンプ

00D1032A

LOG READ が正常に完了しなかった。BSDS は、指定された RBA をログ・データ・セットにマップしない。BSDS にエラーがあるか、ログ・データ・セットが削除されているかのいずれかである。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00D1032B

ログ・データ・セットを割り振ろうとしたところエラーが起こったため、LOG READ が正常に完了しなかった。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

LOGREC および SVC ダンプ情報を調べる。また、回復ログ・マネージャー割り振り処理から、接頭部が CSQJ のメッセージがそれ以前に発行されている場合には、それらを調べる。

00D1032C

ログ・データ・セットをオープンまたはクローズしようとしたところエラーが発生したため、LOG READ が正常に完了しなかった。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

LOGREC および SVC ダンプ情報を調べる。また、回復ログ・マネージャーのオープン/クローズ処理からそれ以前に発行されたメッセージを調べる。これらのメッセージは、CSQJ の接頭部をもつ。

00D1032E

内部エラーが起こったため、LOG READ が正常に完了しなかった。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。SYS1.LOGREC および SVC ダンプ情報を調べる。

00D10340

LOG READ が正常に完了しなかった。これは、回復ログ・マネージャー (RLM) の内部論理エラーを反映している。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

SYS1.LOGREC、コンソール・ログ、および SVC ダンプを調べ、LOG READ 処理中に起こったそれ以前のエラーに関する情報を入手する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10341

ログ・レコードの順方向 READ 中にエラーが検出されたため、LOG READ は正常に完了しなかった。これは内部エラーです。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

SYS1.LOGREC、コンソール・ログ、および SVC ダンプを調べ、LOG READ 処理中に起こったそれ以前のエラーに関する情報を入手する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10342

ログ・レコードの逆方向 READ 中にエラーが検出されたため、LOG READ は正常に完了しなかった。これは内部エラーです。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

SYS1.LOGREC、コンソール・ログ、および SVC ダンプを調べ、LOG READ 処理中に起こったそれ以前のエラーに関する情報を入手する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10343

CI オフセットが無効なためにエラーが発生し、ログ・レコードの READ 中にそれを検出したため、LOG READ は正常に完了しなかった。これは内部エラーです。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

SYS1.LOGREC、コンソール・ログ、および SVC ダンプを調べ、LOG READ 処理中に起こったそれ以前のエラーに関する情報を入手する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10345

保存ログ・データ・セットの CATALOG LOCATE 要求からエラーを受け取ったため、LOG READ は正常に完了しなかった。要求された保存ログ・データ・セットは、カタログ解除されているか削除されている可能性がある。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。SYS1.LOGREC および SVC ダンプを調べる。

00D10348

ログ RBA の読み取り試行中に、最大再試行数を超過した。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログを調べ、関連したエラーがないか調べる。この問題は、ユーザーが、BSDS に対して正しくない RBA 範囲で保存ログ・データ・セットまたは活動ログ・データ・セットを指定した場合に生じる可能性がある。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10354

LOG READ 要求は正常に終了したが、ログ・レコード・ヘッダーの長さが予期された長さではなかった。これは内部エラーです。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

SYS1.LOGREC、コンソール・ログ、および SVC ダンプを調べ、LOG READ 処理中に起こったそれ以前のエラーに関する情報を入手する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10406

ブートストラップ・データ・セット・アクセス・サービスが、無効な機能コードをもつ要求を受け取った。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D10410

READ BSDS RECORD が正常に完了しなかった。VSAM からエラーが戻された。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログから、VSAM からの戻りコードを調べる。

問題を解決できない場合は、これらの値をメモし、[972 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D10411

WRITE UPDATE BSDS RECORD が正常に完了しなかった。VSAM からエラーが戻された。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログから、VSAM からの戻りコードを調べる。

問題を解決できない場合は、これらの値をメモし、[972 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D10412

WRITE INSERT BSDS RECORD が正常に完了しなかった。VSAM からエラーが戻された。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログから、VSAM からの戻りコードを調べる。

問題を解決できない場合は、これらの値をメモし、[972 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D10413

DELETE BSDS RECORD が正常に完了しなかった。VSAM からエラーが戻された。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソール・ログから、VSAM からの戻りコードを調べる。

問題を解決できない場合は、これらの値をメモし、[972 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D10419

z/OS GETDSAB サービスからエラーが戻されました。

システム・アクション

現行のユーティリティーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡してください。

00D1041A

z/OS SWAREQ サービスからエラーが戻されました。

システム・アクション

現行のユーティリティーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡してください。

00D1041B

ユーティリティーの接続先となった Db2 サブシステムは、このバージョンの IBM MQ for z/OS の最小システム要件を満たしていません。

システム・アクション

現行のユーティリティーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティーのパラメーターで指定された Db2 データ共有グループ名とサブシステム ID が正しいこと、および Db2 サブシステムがこのバージョンの IBM MQ for z/OS のシステム要件を満たしていることを確認する。

IBM MQ の前提条件のリンク先 Web ページを参照して、IBM MQ for z/OS の要件を確認する。

00D10700

SETLOCK OBTAIN によって、エラーの完了コードが戻された。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。ダンプ内のレジスター 0 には、SETLOCK OBTAIN からの戻りコードが入っている。

00D10701

SETLOCK RELEASE によって、エラーの完了コードが戻された。

システム・アクション

実行単位は SYS1.LOGREC にレコードを書き込み、SVC ダンプを要求する。その後、実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

972 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。ダンプ内のレジスター 0 には、SETLOCK RELEASE からの戻りコードが入っている。

00D10905

ピア・キュー・マネージャーのリカバリー中に、ピア・キュー・マネージャーの BSDS システム・タイム・スタンプ間に矛盾が検出された。これは、ピア・キュー・マネージャーがデュアル BSDS を使用していた場合にのみ起こる。

システム・アクション

これにより、通常、ピア・キュー・マネージャーのリカバリーは続行できなくなる。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティー (CSQJU004) を使用して、ピア・キュー・マネージャーのシステム・タイム・スタンプの矛盾を確認できる。

矛盾を解決するには、ピア・キュー・マネージャーを手動で再始動する。これにより、問題の解決が試行される。

関連タスク

IBM サポートへの連絡

ロック・マネージャー・コード (X'D3')

ここにリストされていないロック・マネージャー理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティ・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- CICSを使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

00D301F1

ストレージを入手しようとしたが失敗した。この原因は、おそらく領域のストレージ不足である。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

十分に大きな領域で実行しているかどうかを調べる。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因でない場合は、[993 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D301F2

ストレージを入手しようとしたが失敗した。この原因は、おそらく領域のストレージ不足である。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

十分に大きな領域で実行しているかどうかを調べる。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因でない場合は、[993 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D301F3

ストレージを入手しようとしたが失敗した。この原因は、おそらく領域のストレージ不足である。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

十分に大きな領域で実行しているかどうかを調べる。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因でない場合は、[993 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D301F4

ストレージを入手しようとしたが失敗した。この原因は、おそらく領域のストレージ不足である。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

十分に大きな領域で実行しているかどうかを調べる。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因でない場合は、[993 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D301F5

ストレージを入手しようとしたが失敗した。この原因は、おそらく領域のストレージ不足である。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

十分に大きな領域で実行しているかどうかを調べる。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因でない場合は、[993 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

**00D302F1, 00D302F2, 00D302F3, 00D302F4, 00D302F5, 00D303F1, 00D303F2, 00D303F3,
00D304F1, 00D305F1, 00D306F1**

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[993 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D31094, 00D31095, 00D31096, 00D31097

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[993 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

メッセージ・マネージャー・コード (X'D4')

ここにリストされていないメッセージ・マネージャー理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティー・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- CICS を使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。
- IBM MQ の操作および制御パネルを使用している場合は、ISPF パネル名。

00D40001, 00D40002

コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[994 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40003, 00D40004, 00D40007

キューに対する DEFINE コマンドまたは ALTER コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40008

プロセスに対する DEFINE コマンドまたは ALTER コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40009

キューに対する DEFINE コマンドまたは ALTER コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D4000A, 00D4000B, 00D4000C

コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D4000D

コマンド・プロセッサ用の処理環境を確立しようとしたところ、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D4000E, 00D4000F

処理環境を確立しようとしたところ、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40010

コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40011, 00D40012, 00D40013, 00D40014

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40015

開始キューまたは送達不能キューにトリガー・メッセージを書き込もうとしたが、内部エラー (例えば、ストレージの重ね書き) のため、失敗に終わった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40016, 00D40017, 00D40018, 00D4001A, 00D4001B, 00D4001C, 00D4001D, 00D4001E, 00D4001F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40020, 00D40021, 00D40022, 00D40023, 00D40024, 00D40025

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40026

チャンネルに対する DEFINE CHANNEL または ALTER コマンドを処理中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40027, 00D40028, 00D40029, 00D4002A, 00D4002B, 00D4002C

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D4002D

キューにメッセージを書き込もうとしたが、内部エラー (例えば、ストレージ上書きなど) のため失敗に終わった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D4002E

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D4002F

チャンネル・コマンドの処理中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40030

メッセージで要求された報告書オプションが認識されなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

報告書オプション・フィールドの値 (指定された値はレジスター 2 にある) を訂正する。

00D40031, 00D40032

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40033

STGCLASS コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40034, 00D40035, 00D40036, 00D40037, 00D40038, 00D40039

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D4003B

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』に示された情報を収集する。また、キュー共有グループ (QSG) と活動状態にあるキュー・マネージャーについての詳細を、エラー発生時にキュー共有グループに定義されていたキュー・マネージャーについての詳細とともに収集する。この情報は、以下の z/OS コマンドを入力することによって取得できます。

```
D XCF,GRP
```

上記はカップリング・ファシリティ内のすべての QSG のリストを表示する。

```
D XCF,GRP,qsg-name,ALL
```

上記はキュー共有グループ qsg-name に定義されたキュー・マネージャーの状況を表示する。IBM サポートに連絡してください。

00D4003C, 00D4003D

DEFINE CFSTRUCT、ALTER CFSTRUCT、または DELETE CFSTRUCT コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D4003E

AUTHINFO コマンドを処理中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D4003F

DEFINE MAXSMSGS または ALTER QMGR コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40040

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40042

内部処理エラーが発生した。リポジトリが、解放するよう要求されたオブジェクトを検索できない。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40043, 00D40044, 00D40045, 00D40046, 00D40047, 00D40048

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40049

終了再始動の処理中、キュー・マネージャー・オブジェクトを作成しようとしているときに、内部処理エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40050

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。その後、IGQ エージェントが回復を試みる。

システム・プログラマーの応答

IGQ エージェントが正常な回復に失敗すると、SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE を使用不可にして IGQ エージェントを再試行するように強制する試みが行われる。これが失敗した場合は、ALTER QMGR IGQ(ENABLED) コマンドを出すか、キュー・マネージャーを再始動することによって IGQ エージェント・タスクを再始動することができる。

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40051, 00D40052

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40053

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を、共用キューが使用するよう定義されているカップリング・ファシリティ・リスト構造のダンプと共に収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40054

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』に示された情報を収集する。また、キュー共有グループ (QSG) と活動状態にあるキュー・マネージャーについての詳細を、エラー発生時にキュー共有グループに定義されていたキュー・マネージャーについての詳細とともに収集する。この情報は、以下の z/OS コマンドを入力することによって取得できます。

```
D XCF,GRP
```

上記はカップリング・ファシリティ内のすべての QSG のリストを表示する。

```
D XCF,GRP,qsq-name,ALL
```

上記はキュー共有グループ qsq-name に定義されたキュー・マネージャーの状況を表示する。IBM サポートに連絡してください。

00D40055, 00D40056

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40060

共有チャネル回復処理の実行中に、Db2 が非アクティブであることが検出された。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

Db2 関連のタスクが使用できない理由を調べる。

回復処理は停止される。いくつかのチャネルが回復されている可能性があるが、その他は回復されない。回復されなかったチャネルは、次に回復処理が実行されるときに回復される。あるいは、手動で

再始動することもできる。IBM MQ によって使用される回復と再始動のメカニズムについては、[回復と再始動](#)を参照。

00D40062, 00D40064, 00D40065, 00D40066

共有チャンネル回復中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

回復処理は停止される。いくつかのチャンネルが回復されている可能性があるが、その他は回復されない。回復されなかったチャンネルは、次に回復処理が実行されるときに回復される。あるいは、手動で再始動することもできる。IBM MQ によって使用される回復と再始動のメカニズムについては、[回復と再始動](#)を参照。

00D40067

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40068

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。場合によっては、キュー・マネージャーは完了コード X'6C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00D40069

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』に示された情報を収集する。また、キュー共有グループ (QSG) と活動状態にあるキュー・マネージャーについての詳細を、エラー発生時にキュー共有グループに定義されていたキュー・マネージャーについての詳細とともに収集する。この情報は、以下の z/OS コマンドを入力することによって取得できます。

```
D XCF,GRP
```

上記はカップリング・ファシリティ内のすべての QSG のリストを表示する。

```
D XCF,GRP,qsg-name,ALL
```

上記はキュー共有グループ qsg-name に定義されたキュー・マネージャーの状況を表示する。IBM サポートに連絡してください。

00D40070

クラスター・キャッシュが関係する内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』およびチャンネル・イニシエーターのジョブ・ログにリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00D40071, 00D40072, 00D40073, 00D40074, 00D40075, 00D40076, 00D40077, 00D40078, 00D40079, 00D4007A, 00D4007B, 00D4007C, 00D4007D, 00D4007E, 00D4007F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00D40080

クラスター・キャッシュが関係する内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』およびチャンネル・イニシエーターのジョブ・ログにリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00D40081

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00D40082

クラスター・キャッシュが関係する内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』およびチャンネル・イニシエーターのジョブ・ログにリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00D40083

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。
必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00D40084

管理宛先キューのオープン中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。
必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00D40085

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。
必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00D40086, 00D40087

サブスクリプションに対する DEFINE コマンドまたは ALTER コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D40091

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。
必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00D4009C

ALTER SMDS または **RESET SMDS** コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D4009D

START SMDSCONN または **STOP SMDSCONN** コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D400B1

メッセージの書き込み時に、メッセージ・ヘッダーのチェーニングでエラーが検出されました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

MQMD とヘッダーのチェーニング・フィールド (**CodedCharSetId**、**Encoding**、および **Format**) で問題メッセージを調べて、無効値または矛盾する値を判別する。

以下に示すように、ヘッダー・チェーンの各地点で、フィールド値がその次のヘッダー内のデータを正しく記述する必要があります。

- **Format** フィールドは、その次のヘッダーの正しいフォーマットを識別します
- **CodedCharSetId** フィールドは、その次のヘッダーのテキスト・フィールドの文字セットを識別します
- **Encoding** フィールドは、その次のヘッダーの数値フィールドの数値エンコードを識別します

00D400B9

クラスター・キャッシュの割り振り要求が、許可される最大サイズを超えています。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D400D0

QM INI (CSQMOMIN) データ・セットをオープンしようとしたときに、データ制御ブロック用に 16 MB 境界より下のストレージを取得できなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D401F1

メッセージ読み取り要求を処理していたところ、指定された探索タイプ (メッセージ ID または 相関 ID) が間違っていることが判明した。これは、データ破壊エラーを意味する。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

994 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D44001

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E の中で発行される。このコードは、指定された名前のオブジェクトは存在するが、異なるサブタイプのものであることを示す。キュー共有グループ内で必ずしも同じ後処理が行われるわけではない。これは、キューまたはチャンネル

のサブタイプでしか発生しない。エラーのあるオブジェクトを示すメッセージ CSQM099I も発行される。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

すべてのオブジェクト・サブタイプが正しいことを確かめ、コマンドを再発行する。

00D44002

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E の中で発行される。このコードは、要求で指定されたオブジェクトが見つからなかったことを示す。エラーのあるオブジェクトを示すメッセージ CSQM094I または CSQM125I も発行される。

これはメッセージ CSQM086E でも発行され、キュー・マネージャー・オブジェクトが見つからなかったことを示す。

重大度

8

システム・アクション

CSQM090E では、コマンドが無視される。CSQM086E では、キュー・マネージャーが再始動できない。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループを使用している場合は、Db2 が使用可能で中断状態でないことを確認する。問題のオブジェクトを定義する。キュー・マネージャーでは、START QMGR コマンドを再発行して、キュー・マネージャーを再始動する。

注:名前とタイプが同じで、後処理の異なるオブジェクトがすでに存在している可能性がある。キュー・オブジェクトあるいはチャンネル・オブジェクトを取り扱っている場合には、名前が同じで、サブタイプが異なるオブジェクトがすでに存在していることがある。

00D44003

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E の中で発行される。このコードは、要求で指定されたオブジェクトがすでに存在することを示す。これは、新しいオブジェクトを定義しようとした場合のみ起こる。メッセージ CSQM095I も発行される。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

該当するオブジェクトを使用する。

00D44004

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E の中で発行される。このコードは、コマンドで指定された1つ以上のキーワードが、それらに適用されるパラメーターの妥当性検査規則に従っていないことを示す。また、妥当性検査の失敗の理由について詳しく示した1つ以上の特定メッセージが別に発行される。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

エラーの内容については、関連する詳細メッセージを参照。

00D44005

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E の中で発行される。このコードは、次のいずれかの状況が発生したことを示す。

- 要求に指定されたオブジェクトは現在オープンされている。これは、オブジェクトが API を介して使用中である場合や、トリガー・メッセージがそこに書き込まれている場合に起こることが多いが、指定されたオブジェクトが削除中である場合にも起こることがある。ローカル・キューの場合、それは、現在キューにメッセージがあるので、発生する。メッセージ CSQM101I または CSQM115I も発行される。
- ローカル・キューに対して要求が発行されたが、このキューがその未解決の回復単位をまだ完了していない。メッセージ CSQM110I も発行される。
- 変更、削除、あるいは定義要求が、使用中のストレージ・クラスに対して実行された（つまり、そのストレージ・クラスを使用するように定義されたキューが存在しており、そのキューに現在メッセージが存在している）。メッセージ CSQM101I も発行される。
- ALTER CFSTRUCT コマンドが発行され、関連する共有キューにメッセージまたは未コミットのメッセージ・アクティビティーが存在する。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQM101I、CSQM110I、または CSQM115I の説明を適宜参照する。

00D44006

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E の中で発行される。このコードは、ローカル・キューを削除する要求が発行されたことを示す。PURGE オプションが指定されていないが、そのキューにはメッセージが入っている。メッセージ CSQM103I も発行される。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

メッセージが入っていても、ローカル・キューを削除する必要がある場合は、PURGE オプションを指定してコマンドを再発行する。

00D44007

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E の中で発行される。このコードは、動的なローカル・キューに対して要求が発行されたが、このキューには削除のフラグが立てられていることを示す。メッセージ CSQM104I も発行される。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

なし。ローカル・キューは可能な限り早く削除される。

00D44008

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E の中で発行される。このコードが発行された場合、要求時に指定されたオブジェクトを更新する必要があるが、現在このオブジェクトがオープンしているため、IBM MQ バージョンでは更新できないことを示している。メッセージ CSQM101I も発行される。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

オブジェクトがクローズされるまで待機してから、コマンドを再発行する。

00D44009

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にエラーのあるオブジェクトを示すメッセージ CSQM112E または CSQM117E も出される。また、これは、キュー・マネージャーの再始動時にはメッセージ CSQM086E でも発行される。

このコードは、オブジェクトに対する要求が発行されたが、ページ・セット 0 のエラーのためにオブジェクト情報へアクセスできなかったことを示している。

重大度

8

システム・アクション

コマンドが無視されるか、またはキュー・マネージャーが再始動できない。

システム・プログラマーの応答

この問題に関係している可能性のあるコンソール・ログ上のエラー・メッセージを検査する。ページ・セット 0 が正しくセットアップされていることを確認する。詳しくは、[ページ・セットの管理](#)を参照。

00D4400A

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にエラーのあるオブジェクトを示すメッセージ CSQM113E も出される。また、これは、キュー・マネージャーの再始動時にはメッセージ CSQM086E でも発行される。このコードは、オブジェクトに対する要求が発行されたが、ページ・セット 0 が満杯であったことを示している。

重大度

8

システム・アクション

コマンドが無視されるか、またはキュー・マネージャーが再始動できない。

システム・プログラマーの応答

ページ・セット 0 のサイズを大きくする。これを行う方法については、[ページ・セットの管理](#)を参照。

00D4400B

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にメッセージ CSQM114E も出される。このコードは、ローカル・キューに対する要求が発行されたが、これ以上のローカル・キューを定義できなかったことを示している。存在可能なローカル・キューの総数には、524 287 のインプリメンテーション制限がある。共有キューの場合、1つのカップリング・ファシリテーター構造中のキューの総数は 512 に制限されており、構造体の総数は 512 に制限されている。

共有キューで使用される索引 (OBJ_QUEUE_IX1 および OBJ_QUEUE_IX2) の場合、512 個のキューに 48 KB のスペース割り振りで十分。

重大度

4

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

不要な既存キューを削除してください。

00D4400C

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E の中で発行される。これは、一緒に出される詳細メッセージに示されるように、コマンドがオブジェクトの特定のサブタイプに対して許可されていないことを示している。

重大度

4

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

正しいオブジェクト名を指定してコマンドを再発行する。

00D4400D

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にメッセージ CSQM127I も出される。このコードは、クラスター名のリストを表す名前リストを指定した要求が発行されたが、名前リストに名前がなかったことを示す。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

空でない名前リストを指定する。

00D4400E

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にエラーのあるオブジェクトを示すメッセージ CSQM112E または CSQM117E も出される。また、これは、キュー・マネージャーの再始動時にはメッセージ CSQM086E でも発行される。このコードは、オブジェクトに対する要求が発行されたが、それに必要なページ・セットが定義されていないことを示している。

重大度

8

システム・アクション

コマンドが無視されるか、またはキュー・マネージャーが再始動できない。

システム・プログラマーの応答

必要なページ・セットが初期設定入力データ・セット CSQINP1 に定義されていて、キュー・マネージャーの開始済みタスク JCL プロシージャに DD ステートメントが入っているかどうかを確認する。キュー・マネージャーを再始動する。

00D4400F

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にエラーのあるオブジェクトを示すメッセージ CSQM112E または CSQM117E も出される。また、これは、キュー・マネージャーの再始動時にはメッセージ CSQM086E でも発行される。このコードは、オブジェクトに対する要求が発行されたが、それに必要なページ・セットがオープンされていないことを示している。

重大度

8

システム・アクション

コマンドが無視されるか、またはキュー・マネージャーが再始動できない。

システム・プログラマーの応答

必要なページ・セットが初期設定入力データ・セット CSQINP1 に定義されていて、キュー・マネージャーの開始済みタスク JCL プロシージャに DD ステートメントが入っているかどうかを確認する。キュー・マネージャーを再始動する。

00D44010

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E の中で発行される。このコードは、キュー・マネージャーで使用するデフォルトの伝送キューを変更する要求が発行されたが、指定されたキューが使用中であることを示す。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

そのキューが未使用になるまで待つか、別のキューを選択する。

00D44011

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にメッセージ CSQM128E も出される。このコードは、メッセージをコマンド・キューに送信する要求が発行されたが、メッセージを書き込めなかったことを示す。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

コマンド・キューの問題を解決する。

00D44013

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にエラーのあるオブジェクトを示すメッセージ CSQM160I も出される。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

詳細については、メッセージ CSQM160I を参照。

00D44014

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にメッセージ CSQM161I も出される。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

詳細については、メッセージ CSQM161I を参照。

00D44015

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にエラーのあるオブジェクトを示すメッセージ CSQM164I も出される。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

詳細については、メッセージ CSQM164I を参照。

00D44016

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にエラーのあるオブジェクトを示すメッセージ CSQM163I も出される。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは処理を停止する。

システム・プログラマーの応答

詳細については、メッセージ CSQM163I を参照。

00D44017

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にエラーのあるオブジェクトを示すメッセージ CSQM112E または CSQM117E も出される。また、これは、キュー・マネージャーの再始動時にはメッセージ CSQM086E でも発行される。

このコードは、オブジェクトに対する要求が発行されたが、カップリング・ファシリティ構造体に障害があったために、オブジェクト情報へアクセスできなかったことを示している。

重大度

8

システム・アクション

コマンドが無視されるか、またはキュー・マネージャーが再始動できない。

システム・プログラマーの応答

この問題に関係している可能性のあるコンソール・ログ上のエラー・メッセージを検査する。RECOVER CFSTRUCT コマンドを使用して、カップリング・ファシリティ構造体を回復する。

00D44018

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にエラーのあるオブジェクトを示すメッセージ CSQM112E または CSQM117E も出される。また、これは、キュー・マネージャーの再始動時にはメッセージ CSQM086E でも発行される。

このコードは、オブジェクトに対する要求が発行されたが、カップリング・ファシリティ情報にエラーまたは矛盾があったためにオブジェクト情報へアクセスできなかったことを示している。

このコードは、キューのカップリング・ファシリティ構造が満杯になった結果として発生することもあります。

重大度

8

システム・アクション

コマンドが無視されるか、またはキュー・マネージャーが再始動できない。

システム・プログラマーの応答

この問題に関係している可能性のあるコンソール・ログ上のエラー・メッセージを検査する。

キューのカップリング・ファシリティ構造が満杯でないことを確認してください。

Db2 が使用可能で中断状態でないことを確認する。問題が解決しない場合は、キュー・マネージャーを再始動する必要があります。

00D44019

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にエラーのあるオブジェクトを示すメッセージ CSQM112E または CSQM117E も出される。また、これは、キュー・マネージャーの再始動時にはメッセージ CSQM086E でも発行される。

このコードは、オブジェクトに対する要求が発行されたが、Db2 が使用不能または中断状態であったために、オブジェクト情報へアクセスできなかったことを示している。

重大度

8

システム・アクション

コマンドが無視されるか、またはキュー・マネージャーが再始動できない。

システム・プログラマーの応答

この問題に関係している可能性のあるコンソール・ログ上のエラー・メッセージを検査する。Db2 が使用可能で中断状態でないことを確認する。

00D44023

CF 構造体が使用可能でないためにコマンドを実行できない場合、この理由コードがメッセージ CSQM090E で発行され、同時にメッセージ CSQM117E も出される。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

詳しくは、理由コード [1258 ページの『2346 \(092A\) \(RC2346\): MQRC CF STRUC IN USE』](#)を参照してください。

00D4001B

この理由コードは、コマンドが失敗した場合に、メッセージ CSQM090E で発行され、同時にメッセージ CSQM182E も出される。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

詳細については、メッセージ [CSQM182E](#) を参照。

00D4001C

この理由コードは、コマンドが失敗した場合にメッセージ CSQM090E で発行され、同時にメッセージ CSQM183E も出る。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

詳細については、メッセージ [CSQM183E](#) を参照。

00D4001D

この理由コードは、コマンドが失敗した場合にメッセージ CSQM090E で発行され、同時にメッセージ CSQM185E も出る。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

詳細については、メッセージ [CSQM185E](#) を参照。

00D4001E

この理由コードは、コマンドが失敗した場合にメッセージ CSQM090E で発行され、同時にメッセージ CSQM186E も出る。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

詳細については、メッセージ [CSQM186E](#) を参照。

00D4401F

この理由コードは、コマンドが失敗した場合にメッセージ CSQM090E で発行され、同時にメッセージ CSQM190E も出る。

重大度

8

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

詳しくは、メッセージ CSQM190E を参照。

00D44020

この理由コードは、PUBSUB が使用不可であるために PUBSUB コマンドを実行できない場合に、メッセージ CSQM090E の中で発行される。

システム・アクション

コマンドは無視される。

システム・プログラマーの応答

詳しくは、メッセージ CSQM292I を参照。

00D4F001

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[994 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

関連タスク

IBM サポートへの連絡

コマンド・サーバー・コード (X'D5')

ここにリストされていないコマンド・サーバー理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティー・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。
- 収集したトレース情報。
- メッセージ [CSQN104I](#) または [CSQN202I](#) が発行された場合は、メッセージからの戻りコードと理由コードが出されます。

00D50101

初期設定中に、コマンド・サーバーがストレージを取得できなかった。この原因は、おそらく領域のストレージ不足である。

システム・アクション

この理由コードと内部記憶域マクロからの戻りコードを含むメッセージ CSQN104I が、コンソールに送られる。現在処理中の初期設定データ・セット内のコマンドは、どれも実行されない。キュー・マネージャーの始動は続けられる。

注: ストレージの問題である場合には、始動は不成功に終わる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

十分な大きさの領域で実行しているかどうかを確認する。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因でない場合は、以下の項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- CSQN104I メッセージからの戻りコードと理由コード
- 始動のトレース (使用可能な場合)

00D50102

初期設定入力データ・セット内のコマンドの処理中に、コマンド解析プログラムが異常終了した。

システム・アクション

メッセージ CSQ9029E が作成され、続いて、戻りコードとしてこのコードと、コマンドが処理されなかったことを示す -1 の理由コードをもつメッセージ CSQN103I が出され、ダンプが作成される。次のコマンドが処理される。

システム・プログラマーの応答

出力データ・セットを調べて、エラーのあるコマンドを判別する。コマンドが正しく形成されているか、有効なオブジェクトに適用されるかどうかを確認する。

コマンドが正しい場合は、[1013 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D50103

初期設定時に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

内部マクロからの戻りコードと理由コードを示すメッセージ CSQN104I が、z/OS コンソールに送られる。コマンド・サーバーは、いずれのコマンドも処理せずに停止する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログを調べ、関連する他のエラーに関するメッセージを検索する。問題を解決できない場合は、[1013 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D50104

初期設定時に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

内部マクロからの戻りコードと理由コードを示すメッセージ CSQN104I が、z/OS コンソールに送られる。コマンド・サーバーは、いずれのコマンドも処理せずに停止する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止して、再始動する。

[1013 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D50105

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

コマンド・サーバーは終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止して、再始動する。

[1013 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D50201

始動時に、コマンド・サーバーがストレージを獲得できなかった。この戻りコードは、おもに領域内のストレージが不足している場合に発生する。

システム・アクション

内部ストレージ・マクロからの戻りコードを示すメッセージ **CSQN202I** が z/OS コンソールに送られる。コマンド・サーバーは、いずれのコマンドも処理せずに停止する。

システム・プログラマーの応答

十分な大きさの領域で実行しているかどうかを確認する。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因でない場合は、[1013 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D50202

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

内部マクロからの戻りコードを示すメッセージ **CSQN202I** が z/OS コンソールに送られる。コマンド・サーバーは、いずれのコマンドも処理せずに停止する。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログを調べ、関連する他のエラーに関するメッセージを検索する。問題を解決できない場合は、[1013 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D50203

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

内部マクロからの戻りコードを示すメッセージ **CSQN202I** が z/OS コンソールに送られる。コマンド・サーバーは、いずれのコマンドも処理せずに停止する。

システム・プログラマーの応答

START CMDSERV コマンドを使用してコマンド・サーバーを再始動する。

[1013 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D50208

始動時に、コマンド・サーバーがストレージを取得できなかった。

システム・アクション

内部マクロからの戻りコードを示すメッセージ **CSQN202I** が z/OS コンソールに送られる。コマンド・サーバーは、いずれのコマンドも処理せずに停止する。

システム・プログラマーの応答

十分な大きさの領域で実行しているかどうかを確認する。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。これが問題の原因でない場合は、[1013 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D50209

コマンド・サーバーからのコマンドを処理中に、コマンド構文解析プログラムが異常終了した。

システム・アクション

メッセージ **CSQN205I** が、コマンドが処理されなかったことを示す **COUNT=1**、**RETURN=00D50209**、および **REASON=-1** で応答先キューに書き込まれる。コマンド・サーバーは、次のコマンドを処理する。

システム・プログラマーの応答

コマンドが正しく形成されているか、有効なオブジェクトに適用されるかどうかを確認する。

コマンドが正しい場合は、[1013 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D5020C

コマンドを待っているとき、コマンド・サーバーが待ち終了の理由を認識できなかった。これは、次のいずれでもなかったためである。

- メッセージの到着
- **STOP CMDSERV** コマンド

システム・アクション

メッセージ CSQN203I および CSQN206I が、要求機能からの戻りコードと理由コード、および ECB リストを含むコンソールに送られる。

コマンド・サーバーは終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

START CMDSERV コマンドを発行して、コマンド・サーバーを再始動します。

[1013 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D5020E

コマンド・プロセッサが、システム・コマンド入力キューからコマンドを読み取ろうとしたが、内部エラーのために失敗に終わった。

システム・アクション

コマンド・サーバーは処理を続行する。API 呼び出しからの戻りコードと理由コードを含むメッセージ CSQN203I が、コンソールに書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1013 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D5020F

コマンド・プロセッサが、システム・コマンド入力キューからコマンドを読み取ったが、そのメッセージのタイプが MQMT_REQUEST ではなかったため、処理できなかった。

システム・アクション

コマンド・プロセッサは、次のコマンド・メッセージを処理する。

00D50210

コマンド・プロセッサが、システム・コマンド入力キューからコマンドを読み取ろうとしたが、そのコマンド・メッセージの長さがゼロであったため、処理できなかった。

システム・アクション

コマンド・プロセッサは、次のコマンド・メッセージを処理する。

00D50211

コマンド・プロセッサが、システム・コマンド入力キューからコマンドを読み取ろうとしたが、そのコマンド・メッセージが空白文字だけから構成されているため、処理できなかった。

システム・アクション

コマンド・プロセッサは、次のコマンド・メッセージを処理する。

00D50212

コマンド・プロセッサがシステム・コマンド入力キューからコマンドを取得したが、コマンド・メッセージの長さが 32 762 文字を超えていたため、処理できなかった。

システム・アクション

コマンド・プロセッサは、次のコマンド・メッセージを処理する。

00D54000

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

コマンド・サーバーは終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

START CMDSERV コマンドを発行して、コマンド・サーバーを再始動します。

[1013 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D54nnn

コマンド・プロセッサがシステム・コマンド入力キューからコマンドを読み取ったが、コマンド・メッセージにデータ変換が必要であると指定されていたので変換を実行したところエラーが発生したため、コマンドを処理できなかった。*nnn* は、MQGET 呼び出しで戻される理由コード (16 進表示) である。

システム・アクション

コマンド・プロセッサは、次のコマンド・メッセージを処理する。

システム・プログラマーの応答

理由コード *nnn* については、[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#) を参照してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

バッファ・マネージャ・コード (X'D7')

ここにリストされていないバッファ・マネージャ理由コードが発生する場合、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティ・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャのジョブ・ログ。
- IBM MQ アクティブ・ログ・データ・セット。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- CICS を使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

00D70101

バッファ・マネージャの制御ブロックに必要なストレージを取得しようとした (PANC) が、失敗した。この原因は、おそらく領域のストレージ不足である。

システム・アクション

キュー・マネージャは終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。レジスタ 2 と 0 には、STORAGE または GETMAIN 要求からの戻りコードと理由コードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

十分な大きさの領域で実行しているかどうかを確認する。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャを再始動する。それでも問題が解決しない場合は、レジスタ値を書き留め、IBM サポートに連絡してください。

00D70102

再始動しようとしているキュー・マネージャーの名前が、前のチェックポイント・ログ・レコードに記録されている名前と一致しない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。この異常終了の前に、メッセージ CSQP006I が出される。レジスター 0 には、ログ・レコードに記録されている名前が入れられる。レジスター 2 には、再始動しようとしているキュー・マネージャーの名前が入れられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー用の開始済みタスク JCL プロシージャ xxxxMSTR を変更し、該当するブートストラップおよびログ・データ・セットを指定する。

ログ印刷ユーティリティ CSQ1LOGP を使用して、チェックポイントの中のレコードを見ることもできる。また、MQ 活動ログ・データ・セットも問題判別に役立つ場合もある。

00D70103

バッファ・マネージャーの制御ブロックに必要なストレージを取得しようとした (PSET) が、失敗した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。レジスター 2 と 0 には、STORAGE または GETMAIN 要求からの戻りコードと理由コードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

レジスター値を書き留め、IBM サポートに連絡してください。

00D70104

バッファ・マネージャーの制御ブロックに必要なストレージを取得しようとした (BHDR) が、失敗した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。レジスター 2 と 0 には、STORAGE または GETMAIN 要求からの戻りコードと理由コードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

レジスター値を書き留め、IBM サポートに連絡してください。

00D70105

動的ページ・セットの拡張中に内部エラーが発生した。

システム・アクション

現行ページ・セットの拡張タスクが終了し、項目が SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプが作成される。キュー・マネージャーが再始動されるまで、ページ・セット拡張は試行されない。他のページ・セットに対する後続の動的ページ・セットの拡張要求が処理される。

システム・プログラマーの応答

[1017 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D70106

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[1017 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D70108

バッファ・プールに必要なストレージを入手しようとしたが、失敗した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。レジスター 2 には、STORAGE 要求、GETMAIN 要求、または IARV64 GETSTOR 要求からの戻りコードが入る。レジスター 3 には、バッファ・プール番号が入れられる。

システム・プログラマーの応答

DEFINE BUFFPOOL コマンドで指定されたバッファの数の見合うだけの十分な仮想記憶域を提供する。

バッファ・プールをページ固定ストレージが保持している、つまり PAGECLAS が FIXED4KB に設定されている場合、十分な実ストレージがシステムに存在することを確認する。詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

問題を修正できない場合は、以下の手順を実行する。

- CSQINP1 データ・セットのバッファ・プール定義を変更して REPLACE 属性を指定し、バッファ・数を少なくする。または、
- PAGECLAS 属性を 4KB に変更する。

00D7010A

内部ストレージ・エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。レジスター 2 と 3 には、IARV64 GETSTOR 要求からの戻りコードと理由コードが入る。レジスター 4 には、バッファ・プール番号が入れられる。

システム・プログラマーの応答

MEMLIMIT パラメーターの値を増やす。

00D70112

キュー・マネージャーの初期設定中に、重要なプロセスを開始できなかった。この原因は、おそらく領域のストレージ不足である。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。レジスター 0 には、このエラーの理由コードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

十分に大きな領域で実行しているかどうかを調べる。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。それでも問題が解決しない場合は、完了コードと理由コードを書き留めて、IBM サポートに連絡してください。

00D70113

キュー・マネージャーの初期設定中に、重要なプロセスを開始できなかった。この原因は、おそらく領域のストレージ不足である。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。レジスター 0 には、このエラーの理由コードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

十分に大きな領域で実行しているかどうかを調べる。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。それでも問題が解決しない場合は、完了コードと理由コードを書き留めて、IBM サポートに連絡してください。

00D70114

コンポーネント間の内部整合性検査が失敗に終わった。

システム・アクション

この要求は終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。レジスター 0 には、エラーの値が入れられる。

システム・プログラマーの応答

完了コードと理由コードを書き留め、MQ アクティブ・ログ・データ・セットを収集して、IBM サポートに連絡する。

00D70116

入出力エラーが発生した。

システム・アクション

SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。レジスター 0 には、MMCALL 呼び出しからのメディア・マネージャー理由コードが入れられる。状況によっては、キュー・マネージャーは終了する。(これは、エラーの性質やエラーが発生したページ・セットに左右される)。

システム・プログラマーの応答

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

メディア・マネージャーからの戻りコードについては、「[z/OS DFSMSdfp 診断](#)」を参照してください。必要なマニュアルにアクセスできない場合は、メディア・マネージャーの理由コードを引用して、IBM サポートに連絡してください。

また、MQ 活動ログ・データ・セットも問題判別に役立つ場合もある。

00D70118

ページ・セットにページを書き込もうとしたが、形式に誤りがあることが分かった。実行スレッドは終了する。(据え置き書き出しプロセッサである場合には、キュー・マネージャーが終了する。)

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。問題が解決しない場合は、[1017 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D70120

スチールできるバッファがない。実行中のスレッドは、ページ・セットからページを取り込むためにバッファ・プール内のバッファを必要とした。バッファ・プールがオーバーコミットされています。ページ・セットへのページの書き込みなど、より多くのバッファを使用可能にしようとしても、バッファを解放できませんでした。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。API 要求は、バッファ・プールの要求を削減するために理由コード MQRC_UNEXPECTED_ERROR で終了する。

システム・プログラマーの応答

先行する CSQP019I および CSQP020E メッセージから、問題のバッファ・プールを判別する。DISPLAY USAGE コマンドを使用して、バッファ・プールのサイズを確認する。ALTER BUFFPOOL コマンドを使用して、バッファ・プールのサイズを増加することを検討する。

00D70122

チェックポイントをとっているときに、回復不能なエラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。レジスタ 0 には、このエラーの理由コードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

完了コードと理由コードを書き留め、MQ アクティブ・ログ・データ・セットを収集して、IBM サポートに連絡する。

00D70133

内部整合性検査が失敗に終わった。

システム・アクション

この要求は終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

完了コードと理由コードを書き留め、MQ アクティブ・ログ・データ・セットを収集して、IBM サポートに連絡する。

00D70136

キュー・マネージャーの初期設定中に、重要なプロセスを開始できなかった。この原因は、おそらく領域のストレージ不足である。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。レジスタ 0 には、このエラーの理由コードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

十分に大きな領域で実行しているかどうかを調べる。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。それでも問題が解決しない場合は、完了コードと理由コードを書き留めて、IBM サポートに連絡してください。

00D70137

キュー・マネージャーの初期設定中に、重要なプロセスを開始できなかった。この原因は、おそらく領域のストレージ不足である。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、ダンプが作成される。レジスタ 0 には、このエラーの理由コードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

十分に大きな領域で実行しているかどうかを調べる。十分でない場合は、システムをリセットし、キュー・マネージャーを再始動する。それでも問題が解決しない場合は、完了コードと理由コードを書き留めて、IBM サポートに連絡してください。

00D70139

内部使用のための 64 ビット・ストレージを割り振ろうとして、失敗した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

MEMLIMIT パラメーターの値を引き上げる。詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

00D7013A

内部使用のためのストレージを割り振ろうとして、失敗した。レジスター 2 には、STORAGE 要求からの戻りコードが入れられる。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

十分なストレージを提供する。詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

00D7013B

内部整合性検査が失敗に終わった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

バッファ・マネージャーの問題判別情報を収集して、IBM サポートに連絡してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

回復マネージャー・コード (X'D9')

ここにリストされていない回復マネージャー理由コードが発生する場合、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティー・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- SYS1.LOGREC の印刷出力。
- CICS を使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

00D90000

回復マネージャーのモジュールが、再試行のための FRR から制御権を受け取ったところ、無効な再試行点 ID が見つかった。エラーが起こったモジュールの名前は、レジスター 15 のこの理由コードを示している SYS1.LOGREC 項目に示されている。

システム・アクション

標準診断情報が与えられる。SYS1.LOGREC にエラーが記録され、SVC ダンプがスケジュールされ、キュー・マネージャーの終了が要求される。終了の理由コードは、再試行が試みられたが不成功に終わった機能を反映している。

システム・プログラマーの応答

これは、2 次エラーである。このエラー、および再試行が行われる原因となった元の問題に関して、SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。元のエラーと 2 次エラーの SYS1.LOGREC 情報およびダンプを調べ、回復パラメーター域が損傷を受けていないか、再試行によってメインライン・モジュールのレジスターが誤って復元されていないかを判別する。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D90002

回復マネージャーの始動通知ルーチンが、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) から回復マネージャー状況表 (RMST) レコードを読み取ろうとしたときに、次のような時点で、回復ログ・マネージャーからエラーの戻りコードを受け取った。

- RMST ヘッダーを含むレコードを読み取っているとき。最初のコピーは正しく読み取られたが、2 番目のコピーが見つからなかった。
- RMST 項目を含むレコードを読み取っているとき。すべての項目を読み取る前に、レコードが見つからない条件が発生した。
- ヘッダー・レコードまたは項目レコードのいずれかを読み取っているとき。レコードが予期された長さを超えている。

これは、IBM MQ エラーである。

システム・アクション

このエラーの発生に対して、回復マネージャーは適切な機能回復ルーチン (FRR) をもっていない。SYS1.LOGREC への記録が行われ、ダンプが要求されるかどうかは、呼び出し側の機能始動の機能によって異なる。キュー・マネージャーは X'00E80100' 理由コードで終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーは、読み取っていた BSDS が破壊されていると判断した。デュアル BSDS 環境で実行している場合、どちらの BSDS が壊れているかを調べ、BSDS の回復で説明されている手順に従って、有効な BSDS からそれを回復する。

同様に、単一 BSDS 環境で実行している場合、BSDS の回復を参照し、保存されている BSDS から BSDS を回復するために必要な手順について確認する。

00D92001

要求の処理中に回復不能なエラーが検出されたので、チェックポイント/再始動シリアル・コントローラー FRR が、キュー・マネージャー終了を呼び出した。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される。標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、関連するエラーについての SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手し、それに関連する指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D92003

再始動要求の処理中に回復不能なエラーが検出されたので、再始動要求サービス・プログラム FRR が、キュー・マネージャー終了を呼び出した。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手して、それに関連する指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D92004

チェックポイント終了要求の処理中に回復不能なエラーが検出されたので、チェックポイント終了コントローラー FRR が、キュー・マネージャー終了を呼び出した。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手して、それに関連する指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D92011

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

損傷のある URE がログに書き出されるのを防ぐために、チェックポイント処理は異常終了し、キュー・マネージャーは終了する。これは、IBM MQ 回復単位 (UR) の消失や間違った処理を避けるためである。再始動では、前のチェックポイントが使用され、問題の発生時点までのすべての IBM MQ ログ・レコードが適用される。標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプがスケジュールされる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1022 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D92012

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

損傷のある RURE がログに書き出されるのを防ぐために、チェックポイント処理は異常終了し、キュー・マネージャーは終了する。これは、IBM MQ 回復単位の消失や間違った処理を避けるためである。再始動では、前のチェックポイントが使用され、問題の発生時点までのすべての IBM MQ ログ・レコードが適用される。標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプがスケジュールされる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1022 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00D92021

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

再始動処理が異常終了し、キュー・マネージャーが終了する。これは、IBM MQ 回復単位の消失や間違った処理を避けるためである。

システム・プログラマーの応答

エラーが解決されるまで、キュー・マネージャーを再始動してはならない。

ログは破壊されている。重複ロギングで実行している場合は、損傷を受けていないログからキュー・マネージャーを開始してみる。

これを行うことができない場合は、次の手順を使用する (最後のバックアップ以降の更新がすべて失われることになる)。

1. 最後のフルバックアップ・セットからページ・セットを復元する。ページ・セットのバックアップ・コピーを取る前に、キュー・マネージャーをクリーン・シャットダウンしておく必要がある。
2. [キュー・マネージャーのログのリセット](#) に詳しく示されている手順に従ってログを消去する。

重複ロギングを使用する場合に1つのログからキュー・マネージャーを再始動する方法については、[IBM MQ for z/OS 用の CSQUTIL ユーティリティの使用](#)を参照してください。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D92022

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

再始動処理が異常終了し、キュー・マネージャーが終了する。これは、IBM MQ 回復単位の消失や間違った処理を避けるためである。

システム・プログラマーの応答

エラーが解決されるまで、キュー・マネージャーを再始動してはならない。

ログは破壊されている。重複ロギングで実行している場合は、損傷を受けていないログからキュー・マネージャーを開始してみる。

これを行うことができない場合は、次の手順を使用する(最後のバックアップ以降の更新がすべて失われることになる)。

1. 最後のフルバックアップ・セットからページ・セットを復元する。ページ・セットのバックアップ・コピーを取る前に、キュー・マネージャーをクリーン・シャットダウンしておく必要がある。
2. [キュー・マネージャーのログのリセット](#)に詳しく示されている手順に従ってログを消去する。

重複ロギングを使用する場合に1つのログからキュー・マネージャーを再始動する方法については、[IBM MQ for z/OS 用の CSQUTIL ユーティリティの使用](#)を参照してください。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D92023

6 バイトのログ RBA モードでのキュー・マネージャーの再始動中に、8 バイトのログ RBA で書き込まれたログ・レコードが検出された。

システム・アクション

再始動処理が異常終了し、キュー・マネージャーが終了する。これは、IBM MQ のリカバリー単位が失われたり、間違って処理されたりすることを防ぐためである。

システム・プログラマーの応答

エラーが解決されるまで、キュー・マネージャーを再始動してはならない。

間違ったログまたは BSDS を使ってキュー・マネージャーが開始された可能性がある。正しいログおよび BSDS データ・セットを使ってキュー・マネージャーが開始されることを確認する。これが問題の原因でない場合は、ログまたは BSDS が破損している。

ログまたは BSDS の破損からリカバリーするには、重複ロギングまたは重複 BSDS で実行している場合、損傷を受けていないログからキュー・マネージャーを開始してみる。

これを行うことができない場合は、次の手順を使用する。ただし、この手順を実行すると最後のバックアップ以降の更新がすべて失われることに注意。

1. 最後のフルバックアップ・セットからページ・セットを復元する。ページ・セットのバックアップ・コピーを取る前に、キュー・マネージャーをクリーン・シャットダウンしておく必要がある。
2. [キュー・マネージャーのログのリセット](#)に詳しく示されている手順に従ってログを消去する。

必要な場合は、ログを消去するときに BSDS 変換ユーティリティ CSQJUCNV を使用して BSDS を前のバージョンに変換する。

[IBM MQ for z/OS での CSQUTIL ユーティリティの使用](#)を参照してください。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D93001

UR コミット要求のフェーズ 2 で「完了必須」処理中にリカバリー不能なエラーが検出されたため、コミット/バックアウト FRR により、キュー・マネージャーの終了処理が呼び出された。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手して、それに関連する指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D93011

エージェントの状態がコミット UR 呼び出しには無効であるときに、IBM MQ のサブコンポーネントがコミットを呼び出した。データを修正中であったエージェントに対して、コミット UR が要求された。コミット UR またはバックアウト UR がすでに進行中であったか、あるいは回復構造体 (URE) が破壊されている。

システム・アクション

エージェントは異常終了し、前に整合性がとれていた点までその活動がバックアウトされる (バックアウト UR)。これにより、エージェントがその資源について保持していたすべてのロックが解放される。

標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプがスケジュールされる。SDWA 可変記録域 (VRA) の中で理由コード X'00D9CCCC' により識別される追加情報が VRA に追加される。

エージェントが「完了必須」状態 (コミット中またはバックアウト中) であった場合、キュー・マネージャーも理由コード X'00D93001' を伴って終了する。キュー・マネージャーが次に再始動された時点で、このエージェントの回復可能活動 (バックアウト確認またはコミット UR 確認) が処理され、コミットまたはバックアウト処理が完了される。

システム・プログラマーの応答

これは、IBM MQ エラーである。SYS1.LOGREC データおよびダンプを調べ、コミット UR が誤って呼び出されたのか、または状態を反映する制御構造体が損傷を受けているのかを判別する。

00D93012

エージェントの状態がコミット UR 呼び出しには無効であるときに、IBM MQ のサブコンポーネントがコミットを呼び出した。データを検索しているだけのエージェントに対して、コミット UR が呼び出された。コミット UR またはバックアウト UR がすでに進行中であったか、ACE 進行状況フィールドが破壊されているかである。

システム・アクション

エージェントは異常終了し、前に整合性がとれていた点までその活動がバックアウトされる (バックアウト UR)。これにより、エージェントがその資源について保持していたすべてのロックが解放される。

標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプがスケジュールされる。補足情報が、SDWA 可変記録域 (VRA) に追加される (この情報は、SDWA VRA 内では、理由コード X'00D9CCCC' によって識別される)。

システム・プログラマーの応答

これは、IBM MQ エラーである。SYS1.LOGREC データおよびダンプを調べ、コミット UR が誤って呼び出されたのか、または制御構造体が損傷を受けているのかを判別する。

00D93100

この理由コードは、フェーズ 1 (準備) 呼び出しにおいて必要なすべての作業が完了したので、IBM MQ 接続エージェントがフェーズ 2 (コミット継続) 呼び出しに参加する必要がないことを示す。

この理由コードは、最後のコミット処理が行われた以降に、IBM MQ 接続エージェントがどのような IBM MQ 資源も更新していないことが判明されたとき、回復マネージャーによって生成される。

システム・アクション

コミット・コーディネーターに「yes」が登録される。

システム・プログラマーの応答

これはエラーの理由コードではないので、処置は必要ない。この理由コードは、IBM MQ のコンポーネント相互間の連絡に使用される。

00D94001

UR バックアウト要求で「完了必須」処理中にリカバリー不能エラーが検出されたため、コミット/バックアウト FRR により、キュー・マネージャーの終了処理が呼び出された。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手して、それに関連する指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D94011

回復単位をバックアウトする機能呼び出すにはエージェントの状態が適格でないとき、IBM MQ のサブコンポーネントがバックアウトを呼び出した。バックアウト UR またはコミット UR フェーズ 2 がすでに進行中であるか、エージェント構造体が損傷を受けているかである。

システム・アクション

結果としてエージェントの異常終了となり、そのエージェントが「完了必須」状態であるため、キュー・マネージャーは理由コード X'00D94001' で終了する。キュー・マネージャーが再始動された時点で、このエージェントの回復可能活動が処理され、コミットまたはバックアウト処理が完了される。

標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプがスケジュールされる。補足情報が、SDWA 可変記録域 (VRA) に追加される (この情報は、SDWA VRA 内では、理由コード X'00D9AAAA' によって識別される)。

システム・プログラマーの応答

これは、IBM MQ エラーである。SYS1.LOGREC データおよびダンプを調べ、コミット UR が誤って呼び出されたのか、制御構造体が損傷を受けたのかを判別する。

00D94012

バックアウト中に、予期されたすべてのログ範囲を処理する前に、ログの終わりが読み取られた。このエラーに伴って、理由コード X'00D94001' で異常終了する。

これは、OFFLOAD=YES でなく OFFLOAD=NO が指定されたシステム・パラメーター・ロード・モジュールからキュー・マネージャーが開始されたことが原因であると考えられる。

システム・アクション

エージェントは完了コード X'5C6' で異常終了する。エージェントは完了必須状態にあるので、キュー・マネージャーは理由コード X'00D94001' で終了し、メッセージ CSQV086E が発行される。

標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録される。SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。エラーの発生時に、レジスター 3 と 4 には、この回復単位の先頭を示す 8 バイトの相対バイト・アドレス (RBA) が入れられる。IBM MQ は、この回復単位のバックアウトが完了する時点まで戻ってログを読み取らなければならない。

キュー・マネージャーを再始動するためには、ログ目録変更ユーティリティを使用して、欠落している保存ログ・データ・セットを BSDS に戻し、CSQ6LOGP マクロ (システム・パラメーター・モジュール・ログ初期設定マクロ) の MAXARCH パラメーターの値を大きくして、バックアウトを完了させなければならない。

欠落している保存ログが使用可能でないか、または保存が活動状態になっていない場合は、ログ・データ・セットまたはページ・セットがすべて初期設定し直されるか、またはバックアップ・コピーから復元されない限り、キュー・マネージャーを再始動することはできない。この回復処置をとると、データは失われる。

00D95001

チェックポイント処理中に回復不能なエラーが検出されたため、回復マネージャーの共通 FRR が、キュー・マネージャー終了を呼び出した。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手して、それに関連する指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D95011

チェックポイント機能を実行中に回復不能なエラーが検出されたため、回復マネージャーのチェックポイント FRR が、キュー・マネージャー終了を呼び出した。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手し、それに関連する指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D96001

再始動プロセッサの処理中に回復不能なエラーが検出されたため、回復マネージャーの再始動 FRR が、キュー・マネージャー終了を呼び出した。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手し、それに関連する指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D96011

再始動中にログ・レコードを処理していたところ、回復不能なエラーが検出されたため、再始動参加 FRR が、キュー・マネージャー終了を呼び出した。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手し、それに関連する指示に従う。
問題が訂正された時点で、キュー・マネージャーを再始動する。

00D96021

再始動中に、MODE(DIRECT) でログを順方向に読み取ろうとしたところ、エラーが起こったため、キュー・マネージャーが終了した。これに伴って、回復ログ・マネージャーのエラー X'5C6' と特定のエラーを記述する理由コードが出される。

ログの一部がスキップされるたびに、「直接読み取り」が使用され、読み取られる部分の先頭 RBA の妥当性検査が行われる。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。付随して出された回復ログ・マネージャー・エラーの指示に従う。可能であれば、元のエラーの原因を取り除いて、キュー・マネージャーを再始動する。エラーを訂正できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D96022

再始動中にログを順方向に読み取っていたところ、すべての回復ログ有効範囲を処理する前に、ログの終わりが読み取られたため、再始動 FRR が異常終了を呼び出した。これに続いて、キュー・マネージャーが同じ理由コード (X'00D96022') で異常終了する。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、エラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。エラーの発生時に、レジスター 2 と 3 (ダンプまたは SYS1.LOGREC に示されている) には、ログの終わりが検出される前に読み取られた最後のログ・レコードの相対バイト・アドレス (RBA) が入れられる。付随して出された回復ログ・マネージャー・エラーの指示に従う。エラーを訂正できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00D96031

ログを MODE(DIRECT) で逆方向に読み取ろうとしたところ、エラーが起こったために、再始動 FRR がキュー・マネージャー終了を呼び出した。これに伴って、回復ログ・マネージャーのエラー X'5C6' と特定のエラーを記述する理由コードが出される。

ログの一部がスキップされるたびに、「直接読み取り」が使用され、読み取られる部分の先頭 RBA の妥当性検査が行われる。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。付随して出された回復ログ・マネージャー・エラーの指示に従う。付随して出されたエラー理由コードを調べる。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D96032

再始動中に、予期されたすべてのログ範囲を処理する前に、ログの終わりが読み取られた。このエラーには、同じ理由コード (X'00D96032') の異常終了が付随する。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録される。SVC ダンプが要求される。キュー・マネージャーは終了し、メッセージ CSQV086E が出される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。詳しくは、BSDS に含まれる内容の検出を参照。

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。エラーの発生時に、レジスター 2 と 3 には、ログの終わりが検出される前に読み取られた最後のログ・レコードの相対バイト・アドレス (RBA) が入れられる。ログの所在を判別する。

00D97001

RECOVER-UR サービスが完了するのを待っている間に、関連するエージェントが取り消された。

システム・アクション

RECOVER-UR 機能は完了する。要求側エージェントの異常終了が起こる。標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

エージェントの取り消しの原因となった条件は、インストール・システムが起こしたものである (例えば、キュー・マネージャーの強制終了)。

00D97011

RECOVER-UR (CSQRRUPR) 回復処理中に回復不能なエラーが検出されたために、キュー・マネージャーが RECOVER-UR の途中で終了した。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。キュー・マネージャーは、メッセージ CSQV086E と戻りコード X'00D97011' を出して終了する。

システム・プログラマーの応答

元のエラーを判別する。ログ関係のエラーの場合、キュー・マネージャーを再始動する前に、活動ログの問題を参照。

00D97012

回復単位を回復しようとしたところ、回復不能なエラーが検出されたために、RECOVER-UR 要求サービス・プログラム FRR が、キュー・マネージャー終了を呼び出した。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手し、それに関連する指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D97021

順方向の処理で、ログを MODE (DIRECT) で読み取ろうとしたところ、エラーが起こったために、RECOVER-UR FRR がキュー・マネージャー終了を呼び出した。これに伴って、回復ログ・マネージャーのエラー X'5C6' と特定のエラーを記述する理由コードが出される。

ログの一部がスキップされるたびに、「直接読み取り」が使用され、読み取られる部分の先頭 RBA の妥当性検査が行われる。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。付随して出された回復ログ・マネージャー・エラーの指示に従う。付随して出されたエラー理由コードを調べる。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D97022

順方向回復ですべての範囲を処理する前に、ログの終わりに達したために、RECOVER-UR が異常終了を呼び出した。このエラーに続いて、同じ理由コード (X'00D97022') で異常終了する。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。エラーの発生時に、レジスター 2 と 3 には、ログの終わりが検出される前に読み取られた最後のログ・レコードの相対バイト・アドレス (RBA) が入れられる。付随して出された回復ログ・マネージャー・エラーの指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D97031

ログの逆方向読み取りでログを MODE (DIRECT) で読み取ろうとしたところ、エラーが起こったために、RECOVER-UR FRR がキュー・マネージャー終了を呼び出した。これに伴って、回復ログ・マネージャーのエラー X'5C6' と特定のエラーを記述する理由コードが出される。

ログの一部がスキップされるたびに、読み取り部分の開始有効範囲 RBA を検証するために「直接読み取り」が使用される。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。付随して出されたエラー理由コードを調べる。付随して出された回復ログ・マネージャー・エラーの指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D97032

逆方向回復ですべての範囲を処理する前に、ログの終わりに達したために、RECOVER-UR が異常終了を呼び出した。このエラーに続いて、同じ理由コード (X'00D97032') で異常終了する。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。エラーの発生時に、レジスター 2 と 3 には、ログの終わりが検出される前に読み取られた最後のログ・レコードの相対バイト・アドレス (RBA) が入れられる。付随して出された回復ログ・マネージャー・エラーの指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D98001

未確定 UR 処理中にリカバリー不能エラーが検出されたため、回復マネージャーの共通 FRR により、キュー・マネージャーの終了処理が呼び出された。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手し、それに関連する指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D98011

要求の処理中に回復不能なエラーが検出されたために、未確定 UR 解決要求サービス・プログラムの FRR が、キュー・マネージャー終了を呼び出した。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。付随して出されたエラー理由コードを調べる。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D98021

順方向回復でログを MODE (DIRECT) で読み取ろうとしたところ、エラーが起こったために、未確定解決 FRR がキュー・マネージャー終了を呼び出した。これに伴って、回復ログ・マネージャーのエラー X'5C6' と特定のエラーを記述する理由コードが出される。

ログの一部がスキップされるたびに、「直接読み取り」が使用され、読み取られる部分の先頭 RBA の妥当性検査が行われる。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。付随して出されたエラー理由コードを調べる。付随して出された回復ログ・マネージャー・エラーの指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D98022

順方向回復ですべての範囲を処理する前に、ログの終わりに達したために、未確定解決が異常終了を呼び出した。このエラーに続いて、同じ理由コード (X'00D98022') で異常終了する。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。エラーの発生時に、レジスター 2 と 3 には、ログの終わりが検出される前に読み取られた最後のログ・レコードの相対バイト・アドレス (RBA) が入れられる。付随して出された回復ログ・マネージャー・エラーの指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D98031

逆方向読み取りでログを MODE (DIRECT) で読み取ろうとしたところ、エラーが起こったために、未確定解決 FRR がキュー・マネージャー終了を呼び出した。これに伴って、回復ログ・マネージャーのエラー X'5C6' と特定のエラーを記述する理由コードが出される。

ログの一部がスキップされるたびに、読み取り部分の開始有効範囲 RBA を検証するために「直接読み取り」が使用される。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。付随して出されたエラー理由コードを調べる。付随して出された回復ログ・マネージャー・エラーの指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D98032

逆方向回復ですべての範囲を処理する前に、ログの終わりに達したために、未確定解決 FRR が異常終了を呼び出した。このエラーに続いて、同じ理由コード (X'00D98032') で異常終了する。

これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了が開始される前に、元のエラーに関して、標準診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ログ・マップ印刷ユーティリティを実行して、両方の BSDS の内容を印刷する。元のエラーに関する SYS1.LOGREC と SVC ダンプのコピーを入手する。エラーの発生時に、レジスター 2 と 3 には、ログの終わりが検出される前に読み取られた最後のログ・レコードの相対バイト・アドレス (RBA) が入れられる。付随して出された回復ログ・マネージャー・エラーの指示に従う。

キュー・マネージャーを再始動する。

00D99001

条件再始動制御レコード内のチェックポイント RBA (指定された終了 RBA または LRSN 値から推測される) が使用できない。再始動時に使用できるログ・データ・セットにその終了 RBA または LRSN が含まれていないことが原因の可能性がある。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQR015E を参照。

00D99104

キュー・マネージャーの再始動時に、メッセージの逆方向の移行が必要なことが検出された。逆方向の移行を可能にするには、再始動の終了時に、コミットされていない回復単位が存在してはならない。しかし、再始動時に、検出された未確定作業単位の強制コミットをしないことが決定された。この決定の根拠となっているのは、メッセージ CSQR021D に対する応答か、または CSQR021D WTOR の発行を妨げているサービス・パラメーターの存在である。

システム・アクション

キュー・マネージャーの再始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

逆方向の移行が不要になるように、もっと高いレベルのコードを使用してキュー・マネージャーを再始動するか、または再始動中の未確定作業単位の強制コミットを許可する。

00D9AAAA

この理由コードは、バックアウト UR 処理中に起こったエラーの後で、システム診断作業域 (SDWA) の可変記録域 (VRA) に保管される追加データを識別する。

システム・アクション

EBCDIC スtring 'RMC-COMMIT/BACKOUT' の後に、VRA キー 38 によって示されるフィールドにデータが格納される。この情報は、IBM サービス担当員に役立ちます。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡する際には、このコードと、キー 38 で示される VRA フィールドの内容をお知らせください。

00D9BBBB

この理由コードは、開始 UR 処理中に起こったエラーの後で、システム診断作業域 (SDWA) の可変記録域 (VRA) に保管される追加データを識別する。

システム・アクション

データは、VRA キー 38 によって示されるフィールドに保管される。この情報は、IBM サービス担当員に役立ちます。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡する際には、このコードと、キー 38 で示される VRA フィールドの内容をお知らせください。

00D9CCCC

この理由コードは、コミット UR 処理中に起こったエラーの後で、システム診断作業域 (SDWA) の可変記録域 (VRA) に保管される追加データを識別する。

システム・アクション

EBCDIC スtring 'RMC-COMMIT/ABORT' の後に、VRA キー 38 によって示されるフィールドにデータが格納される。この情報は、IBM サービス担当員に役立ちます。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡する際には、このコードと、キー 38 で示される VRA フィールドの内容をお知らせください。

00D9EEEE

この理由コードは、終了 UR 処理中に起こったエラーの後で、システム診断作業域 (SDWA) の可変記録域 (VRA) に保管される追加データを識別する。

システム・アクション

データは、VRA キー 38 によって示されるフィールドに保管される。この情報は、IBM サービス担当員に役立ちます。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡する際には、このコードと、キー 38 で示される VRA フィールドの内容をお知らせください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

ストレージ・マネージャー・コード (X'E2)

ここにリストされていないストレージ・マネージャー理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティー・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- SYS1.LOGREC の印刷出力。
- CICS を使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

00E20001, 00E20002

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20003

ストレージ要求が出されたが、専用記憶域に十分な大きさのストレージがなかった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

領域サイズを大きくする。

領域サイズを増やしても問題を解決できない場合は、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20004

ストレージ要求が出されたが、プール・サイズの制限のために、使用できるストレージが不十分であった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

プール・サイズを大きくする。

プール・サイズを増やしても問題を解決できない場合は、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20005, 00E20006, 00E20007, 00E20008, 00E20009

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E2000A

ストレージの読み取り要求が出されたが、失敗に終わった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

領域サイズを大きくする。

領域サイズを大きくしても問題が解決しない場合には、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E2000B

ストレージの読み取り要求が出されたが、失敗に終わった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

領域サイズを大きくする。

領域サイズを大きくしても問題が解決しない場合には、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E2000C

ストレージ要求が出されたが、プール・サイズの制限のために、使用できるストレージが不十分であった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

プール・サイズを大きくする。

プール・サイズを増やしても問題が解決しない場合は、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E2000D, 00E2000E

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

この問題の原因のほとんどは、ストレージ・オーバーレイか、またはキュー・マネージャーのコンポーネントからの無効なストレージ要求である。MQ 以外の製品では、ストレージ・オーバーレイの問題が発生するおそれがある。

[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E2000F, 00E20010, 00E20011, 00E20012

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20013

ストレージの読み取り要求が出されたが、失敗に終わった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

領域サイズを大きくする。

領域サイズを大きくしても問題が解決しない場合には、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20014

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20015

ストレージ要求が出されたが、サブプール 229 に 8K バイトの専用ストレージがなかった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

おそらく、問題が発生したアドレス・スペースの専用ストレージが不足していることが原因である。最大専用ストレージを大きくする。

最大専用ストレージを増やしても問題が解決しない場合は、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20016

ストレージ要求が出されたが、サブプール 229 に十分な大きさのストレージがなかった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

領域サイズを大きくする。

領域サイズを増やしても問題が解決しない場合は、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20017, 00E20018, 00E20019

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E2001A

z/OS ESTAE でエラーが起こった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。レジスタ 15 に、z/OS ESTAE からの戻りコードが入っています。

システム・プログラマーの応答

[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E2001B

SETLOCK OBTAIN 機能により、ゼロ以外の戻りコードが発行された。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E2001D, 00E2001E

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E2001F

共通サービス域 (CSA) に、ストレージ要求を満たすだけのストレージがなかった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ご使用のシステムで使用可能なモニター・ツールを実行して、CSA の使用状況を調べる。

CSA サイズを大きくする。

CSA サイズを増やしても問題が解決しない場合は、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20020

専用記憶域に、ストレージ要求を満たすだけのストレージがなかった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

領域サイズを大きくする。

領域サイズを増やしても問題が解決しない場合は、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20021

共通サービス域 (CSA) に、ストレージ要求を満たすだけのストレージがなかった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ご使用のシステムで使用可能なモニター・ツールを実行して、CSA の使用状況を調べる。

CSA サイズを大きくする。

CSA のサイズを増やしても問題が解決しない場合は、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20022

共通サービス域 (CSA) に、ストレージ要求を満たすだけのストレージがなかった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ご使用のシステムで使用可能なモニター・ツールを実行して、CSA の使用状況を調べる。

CSA サイズを大きくする。

CSA のサイズを増やしても問題が解決しない場合は、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20023

専用記憶域に、ストレージ要求を満たすだけのストレージがなかった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

領域サイズを大きくする。

領域サイズを増やしても問題が解決しない場合は、[1035 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20024

共通サービス域 (CSA) に、ストレージ要求を満たすだけのストレージがなかった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ご使用のシステムで使用可能なモニター・ツールを実行して、CSA の使用状況を調べる。

CSA サイズを大きくする。

CSA サイズを増やしても問題が解決しない場合は、[1035 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20025

共通サービス域 (CSA) に、ストレージ要求を満たすだけのストレージがなかった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ご使用のシステムで使用可能なモニター・ツールを実行して、CSA の使用状況を調べる。

CSA サイズを大きくする。

CSA サイズを増やしても問題が解決しない場合は、[1035 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20026

ストレージ要求が出されたが、サブプール 229 に 4K バイトの専用ストレージがなかった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

おそらく、問題が発生したアドレス・スペースの専用ストレージが不足していることが原因である。領域サイズを大きくする。

領域サイズを増やしても問題が解決しない場合は、[1035 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20027, 00E20028, 00E20029, 00E2002A

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1035 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E2002B

この理由コードは、ストレージ・マネージャー・コードの中でストレージ・マネージャーが繰り返し呼び出されている間に、エラーが検出された場合に、強制的に回復機能委任するために使用される。

システム・プログラマーの応答

発生元のエラー・コードを参照。

00E20042, 00E20043, 00E20044, 00E20045

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20046

64 ビット・ストレージ・プールに要求を満たすだけのストレージがなかった。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーの MEMLIM を増やし、再始動する。問題が解決しない場合は、[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E20047

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。診断情報が SYS1.LOGREC に記録され、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1035 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

タイマー・サービス・コード (X'E3)

00E30001

内部エラーが発生しました。

システム・プログラマーの応答

システム・ダンプ、収集されたトレース情報、および関連する SYS1.LOGREC 項目については、IBM サポートに連絡してください。

00E30002

z/OS マクロ STIMERM を呼び出そうとして失敗したため、この理由コードが出されました。STIMERM からの戻りコードが、レジスター 9 に入っている。

システム・プログラマーの応答

システム・ダンプを分析し、ダンプに含まれる情報を基に問題を訂正してから、キュー・マネージャーを再始動する。

STIMERM マクロについては、「[z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書](#)」第 2 巻を参照してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

エージェント・サービス・コード (X'E5)

ここにリストされていないエージェント・サービス理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティー・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- SYS1.LOGREC の印刷出力。
- CICS を使用している場合は、CICS トランザクション・ダンプの出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

00E50001, 00E50002

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求側の実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50004, 00E50005, 00E50006, 00E50007, 00E50008, 00E50009, 00E50012

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求側の実行単位は異常終了する。SYS1.LOGREC に記録が書き込まれて、SVC ダンプが要求されません。

システム・プログラマーの応答

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50013

MQ の実行単位が異常終了した。

システム・アクション

エージェント取り消し処理が続けられる。

システム・プログラマーの応答

この理由コードは、接続タスクの異常終了、または STOP QMGR MODE(FORCE) コマンドの結果として発行されることがある。このような場合、これ以上の処置は不要である。

エラーの結果としてキュー・マネージャーが終了し、問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00E50014

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

SYS1.LOGREC に項目が書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50015

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

操作が一度だけ再試行される。これが失敗した場合には、キュー・マネージャーは理由コード X'00E50054' で終了する。

SYS1.LOGREC 項目が作成され、SVC ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50029

MQ タスキング構造体を確立するエージェント・サービス機能が、31 ビットのアドレッシング能力がない状態でロードされたロード・モジュールを検出した後で、この理由コードで異常終了した。この前に、メッセージ CSQV029E が出される。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQV029E を参照してください。

00E50030, 00E50031, 00E50032, 00E50035, 00E50036

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求側の実行単位は異常終了する。SYS1.LOGREC にエラーが記録され、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50039

ACE がまだ VLCAAACE チェーン上にあるときに、その ACE を解放しようとしてしました。

システム・アクション

完了コード X'5C6' およびこの理由コードを指定して SVC ダンプが要求されます。処理を続行する。

システム・プログラマーの応答

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50040

スレッドまたは識別レベルで接続エージェント終了要求を処理中に、回復不能なエラーが起こった後で、キュー・マネージャー終了が呼び出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

システム・ログおよび SYS1.LOGREC (システム終了メッセージ CSQV086E の直前に発生した MQ エラーの場合)。そのエラーについての問題判別手順に従う。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50041

エージェント終了要求を処理中に、回復不能なエラーが起こった後で、キュー・マネージャー終了が呼び出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

システム・ログと SYS1.LOGREC の内容を走査し、システム終了メッセージ CSQV086E の直前に起こった MQ エラーを調べる。そのエラーについての問題判別手順に従う。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50042, 00E50044

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は異常終了する。SYS1.LOGREC に記録が書き込まれて、SVC ダンプが要求されます。

システム・プログラマーの応答

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50045

スレッドまたは識別レベルで接続エージェント・サービス作成要求を処理中に、回復不能なエラーが発生した後で、キュー・マネージャー終了が呼び出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

システム・ログと SYS1.LOGREC の内容を走査し、終了メッセージ CSQV086E の直前に起こった MQ エラーを調べる。そのエラーについての問題判別手順に従う。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50046

エージェント構造体作成要求を処理中に、回復不能なエラーが起こった後で、キュー・マネージャー終了が呼び出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

システム・ログおよび SYS1.LOGREC (終了メッセージ CSQV086E の直前に発生した MQ エラーの場合)。そのエラーについての問題判別手順に従う。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50047

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

システム・ログと SYS1.LOGREC の内容を走査し、終了メッセージ CSQV086E の直前に起こった MQ エラーを調べる。そのエラーについての問題判別手順に従う。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50050

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求側の実行単位は異常終了する。

キュー・マネージャー終了の責任は同期サービスにあることを示す X'00E50054' の回復理由コードが、SDWA の SDWACOMU フィールドに入れられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50051

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは X'5C6' 完了コードおよびこの理由コードで異常終了する。

キュー・マネージャー終了の責任は同期サービスにあることを示す X'00E50054' の回復理由コードが、SDWA の SDWACOMU フィールドに入れられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50052

z/OS の仮想記憶間ロック (CML) を解除できなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは X'5C6' 完了コードおよびこの理由コードで異常終了する。

キュー・マネージャー終了の責任は同期サービスにあることを示す X'00E50054' の回復理由コードが、SDWA の SDWACOMU フィールドに入れられる。

レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、SVC ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50054

中断、取り消し、再開、または SRB REDISPATCH 機能の回復処理中に回復不能なエラーが起こると、キュー・マネージャーは、同期サービス回復ルーチンによって異常終了させられる。これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

要求された機能の回復処理中に、次のいずれかの条件が検出された。

- エラーの時点で中断された SRB モード実行単位の再開処理を完了できなかった。
- 1 次回復処理中にエラーが起こったため、2 次回復ルーチンに入った。
- メインラインの中断/再開コードに対する回復開始の再試行を行うと、再試行再帰入り口が機能回復ルーチンに入ることになる。
- メインライン処理中または機能回復処理中 (例えば、理由コード X'00E50052') に、キュー・マネージャー・アドレス・スペースの仮想記憶間ロック (CML) を取得または解除できなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。この理由コードは、終了の責任が同期サービスにあることを示す X'6C6' 完了コードと関連付けられている。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

システム・ログおよび SYS1.LOGREC (システム終了メッセージ CSQV086E の直前に発生した IBM MQ エラーの場合)。そのエラーについての問題判別手順に従う。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50055

同期サービス機能回復ルーチンが、中断された TCB モード実行単位の再開処理を正常に完了させることができなかった。この再開処理は、取り消しまたは再開機能によって要求されたものである。

システム・アクション

中断された TCB モード実行単位を中断状態のままにしておくことは許されないので、回復ルーチンは、z/OS CALLRTM (TYPE=ABTERM) サービスを呼び出し、この実行単位を X'6C6' 完了コードで異常終了させる。終了させられた実行単位によっては、キュー・マネージャーが異常終了することもある。

システム・プログラマーの応答

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

システム・ログと SYS1.LOGREC の内容を走査し、この実行単位の終了の直前に起こった MQ エラーを調べる。そのエラーについての問題判別手順に従う。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50059

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

エラーを検出したモジュールが CSQVSDCO である場合には、エラーを検出したモジュールが一度再試行される。妥当性検査に失敗した場合、キュー・マネージャーは、X'00E50054' の理由コードで異常終了する。

SYS1.LOGREC 項目が作成され、SVC のダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50062

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

接続タスクは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50063

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

タスクは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50065

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

実行単位は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50069

この理由コードは、SRB モードで実行中の中断機能の回復処理時に、z/OS SRBSTAT(SAVE) サービスによって確立された回復ルーチンのもとで発行される。このサービスによって確立された回復ルーチンは、エラー発生時に FRR スタックにある唯一のルーチンなので、呼び出し資源マネージャー回復ルーチンへの通常の RTM 回復機能委任は不可能である。

初期エラーの回復処理が正しく完了した後で、元の FRR スタックを復元するルーチンを再試行すると、RTM 環境が終了する。このルーチンは、完了コード X'5C6' とこの理由コードで異常終了する。この結果として、中断初期設定時に確立された元の回復ルーチンに入ることになる。

システム・アクション

この異常終了が元の中断回復ルーチンによって代行受信されると、元のエラーを文書化するために、SYS1.LOGREC 項目と SVC ダンプが要求される。元の回復理由コードが、SDWA の SDWACOMU フィールドに入れられ、初期エラーの回復処理中に実行されたアクションが示される。その後、RTM 回復機能委任を介して、制御権が呼び出し側の資源マネージャーの回復ルーチンに戻される。

システム・プログラマーの応答

これは、初期回復理由コードを呼び出し側の資源マネージャーの回復ルーチンに転送できるようにする目的でのみ使用されるので、この理由コードについては、これ以上の回復アクションは必要ない。検出された初期エラーの診断情報は、SYS1.LOGREC および 提供された SVC ダンプ情報から入手することができる。

00E50070

内部タスク自体を終了できるようにするために、タスクが異常終了した。これは、必ずしもエラーとは限らない。

システム・アクション

タスクは異常終了する。

サービス・タスクが、X'6C6' の完了コードで異常終了した場合には、SVC ダンプはとられない。

システム・プログラマーの応答

このエラーは、単独で起こった場合には無視してかまわないが、他の問題と一緒に起こった場合には、これらの問題を解決しなければならない。

問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50071

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

内部タスクは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50072

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

1042 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50073

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は異常終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

1042 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50074

この理由コードは、内部タスクを作成する試みで、ATTACH から戻されたゼロ以外の戻りコードに対応して発行される。

システム・アクション

ATTACH が再試行される。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。問題が再び起こった場合、キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

SDWA のレジスター 2 には、ATTACH 要求からの戻りコードが入られる。問題を解決できない場合は、1042 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50075, 00E50076, 00E50077, 00E50078

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求側の実行単位は終了する。キュー・マネージャーが終了することもある。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

1042 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50079

内部エラーが発生しました。これは、接続アドレス・スペースが終了処理中である場合に起こることがある。

システム・アクション

要求側の実行単位は異常終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

問題を解決できない場合は、1042 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50080, 00E50081

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

X'5C6'の完了コードとこの理由コードを指定して、SVC ダンプが要求される。SYS1.LOGRECには何も書き込まれない。実行を継続する。

システム・プログラマーの応答

[1042 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50094, 00E50095, 00E50096, 00E50097, 00E50100

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求側の回復ルーチンは異常終了する。SYS1.LOGRECにレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1042 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50101

MQ が、ESTAE を確立できなかった。

システム・アクション

このエラーは、サブシステム・サポート・サブコンポーネント (SSS) の ESTAE に渡される。おそらくキュー・マネージャーは異常終了する。SYS1.LOGRECにレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

ESTAE を確立できないのは、通常、ローカル・システム・キュー域 (LSQA) に、ESTAE 制御ブロック (SCB) に必要なフリー・スペースがないためである。必要であれば、キュー・マネージャー・アドレス・スペースのサイズを大きくする。

キュー・マネージャーを再始動する。

関連する SVC ダンプを検査し、システム・サービス・アドレス・スペースに属する LSQA サブプールの使用状況とフリー域を調べる。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50102

STOP QMGR MODE (FORCE) コマンドの処理中に、すべてのアクティブ・エージェントを取り消しているときにリカバリー不能エラーが発生しました。これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。SYS1.LOGRECにレコードが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#)に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。SYS1.LOGREC 項目を調べ、キュー・マネージャー終了の直前に起こったエラーを探す。

00E50500

キュー・マネージャーの異常終了処理中に、z/OS の LOCAL または CML ロックを取得できなかった。

システム・アクション

実行単位は異常終了する。SYS1.LOGRECにエラーが記録され、キュー・マネージャーの異常終了は、可能であれば、別の実行単位のもとで完了される。

システム・プログラマーの応答

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#)に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E50501

キュー・マネージャーの異常終了処理中に、z/OS の LOCAL または CML ロックを解放できなかった。

システム・アクション

実行単位は異常終了する。エラーは SYS1.LOGREC に記録され、キュー・マネージャーの終了は、可能であれば、別の実行単位のもとで完了される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#)に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E50502

キュー・マネージャーの異常終了処理中に、z/OS の LOCAL ロックを取得できなかった。

システム・アクション

実行単位は異常終了する。SYS1.LOGREC にエラーが記録され、キュー・マネージャーの異常終了は、可能であれば、別の実行単位のもとで完了される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#)に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E50503

キュー・マネージャーの異常終了処理中に、z/OS の LOCAL ロックを解除できなかった。

システム・アクション

実行単位は異常終了する。SYS1.LOGREC にエラーが記録され、キュー・マネージャーの異常終了は、可能であれば、別の実行単位のもとで完了される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#)に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E50504

この理由コードは、キュー・マネージャー終了処理プログラムによって SDWA 可変記録域 (VRA) に記録される情報の形式を定義するために使用される。このコードは、モジュール CSQVATRM で検出されたエラーに関して、VRA に与えられる補足情報を識別する。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了時に検出されたエラーの記録が続けられる。

システム・プログラマーの応答

なし。

00E50505

この理由コードは、SDWA 可変記録域 (VRA) に記録される情報の形式を定義するために使用される。このコードは、モジュール CSQVATR4 で検出されたエラーに関して、VRA に与えられる補足情報を識別する。

システム・アクション

キュー・マネージャー終了時に検出されたエラーの記録が続けられる。

システム・プログラマーの応答

なし。

00E50701

コミット・フェーズ 1 で問題が起こった。これは、バックアウト、割り振り解除、および終了 UR 処理をもたらすために使用される。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50702

SRB モードで処理中に、回復できないエラーが起こった。

SRB モード処理は、データ保全性と内部状態の整合性を確保するために、キュー・マネージャーで内部的に使用されることが多い。回復が不可能な場合、キュー・マネージャーはこの理由コードで終了する。

ほとんどの場合、内部エラーが原因で発生します。これらのエラーは、さらに調査するために IBM サービスに報告する必要があります。

このエラーは、ページ・セットを再フォーマット設定せずに (したがって、まだアクティブ・データが含まれている状態で) ログ・データ・セットが再フォーマット設定された場合にも起こる。この場合はユーザーが処置することで解決できる。

システム・アクション

キュー・マネージャーはこの理由コードで異常終了する。元のエラーに関する SVC ダンプが、CSQVEUS2 の回復ルーチンによって要求され、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

SYS1.LOGREC 項目を走査し、キュー・マネージャー終了の直前に起こった 1 つまたは複数の MQ エラーを探し出す。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50703

このキュー・マネージャー終了理由コードは、中断された実行単位を再開しようとしたときに起こったエラーの後で、使用される。再開処理の正常終了は「未確定」だった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E50704

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、この理由コードで終了する。さらに、SDWA が回復ルーチンに与えられなかった場合には、ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

SYS1.LOGREC 項目を走査し、キュー・マネージャー終了の直前に起こった 1 つまたは複数の MQ エラーを探し出す。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50705

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50706

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、この理由コードで終了する。さらに、SDWA が回復ルーチンに与えられなかった場合には、ダンプが要求される。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

SYS1.LOGREC 項目は、キュー・マネージャーの終了直前に 1 つ以上の IBM MQ エラーを探します。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50707

ESTAE を確立することができなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャー・アドレス・スペースの LSQA サブプールの使用状況とフリー域を検査する。必要があれば、アドレス・スペースの専用ストレージ・サイズを大きくする。

キュー・マネージャーを再始動する。

キュー・マネージャー終了がモジュール CSQVRCT によって要求された場合には、標準 SVC ダンプが要求されている。専用ストレージの不足が問題の原因である場合は、他の MQ 資源マネージャーが異常終了している可能性がある。

問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50708

接続エージェントをキュー・マネージャー・アドレス・スペースに接続中に、エラーが起こった。接続エージェントを終了できるように、接続を完了させなければならない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、この理由コードで終了する。元のエラーの SVC ダンプが要求され、SYS1.LOGREC にレコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

SYS1.LOGREC 項目は、キュー・マネージャーの終了直前に 1 つ以上の IBM MQ エラーを探します。

00E50709

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

SYS1.LOGREC 項目をスキャンして、キュー・マネージャーの終了直前に発生した 1 つ以上の IBM MQ エラーを調べます。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50710

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、この理由コードで終了する。元のエラーの SVC ダンプが要求され、SYS1.LOGREC にレコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

SYS1.LOGREC 項目は、キュー・マネージャーの終了直前に 1 つ以上の IBM MQ エラーを探します。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50711

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、この理由コードで終了する。元のエラーの SVC ダンプが要求され、SYS1.LOGREC にレコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

SYS1.LOGREC 項目は、キュー・マネージャーの終了直前に 1 つ以上の IBM MQ エラーを探します。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50712

IBM MQ ラッチのホルダーを終了しようとして、ラッチ・マネージャー機能でエラーが発生しました。ホルダーのタスクは、z/OS によってディスパッチ不可に設定されており、このタスクを終了させるための CALLRTM が失敗に終わった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、この理由コードで終了する。このエラーの SVC ダンプが要求され、SYS1.LOGREC にレコードが入れられる。エラーの発生時点で、レジスター 3 には、ホーム・アドレ

ス・スペースにおけるラッチ・ホルダーの TCB アドレスが入れられ、レジスター 4 には、CALLRTM からの戻りコードが入れられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

1042 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。SYS1.LOGREC 項目を走査し、キュー・マネージャー終了の直前に起こった 1 つまたは複数の MQ エラーを探し出す。

00E50713

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。キュー・マネージャー終了処理プログラムによって、SVC ダンプが要求され、SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

SYS1.LOGREC 項目をスキャンして、キュー・マネージャーの終了直前に発生した 1 つ以上の IBM MQ エラーを調べます。要求された SVC ダンプを分析することが必要になる場合がある。問題を解決できない場合は、1042 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50715

SRB モード実行単位で回復不能なエラーが起こった後で、キュー・マネージャー終了が要求された。

システム・アクション

SRB から TCB への回復機能委任の結果として、SRB 関連タスクは異常終了する。キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

1042 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。SYS1.LOGREC 項目をスキャンして、キュー・マネージャーの終了直前に発生した 1 つ以上の IBM MQ エラーを調べます。

00E50717

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

SYS1.LOGREC 項目をスキャンして、キュー・マネージャーの終了直前に発生した 1 つ以上の IBM MQ エラーを調べます。キュー・マネージャー終了要求の前にエラーが起こっていた場合には、SYS1.LOGREC および SVC ダンプ情報から、診断情報を得ることができる。問題を解決できない場合は、1042 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50719

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

SYS1.LOGREC 項目をスキャンして、キュー・マネージャーの終了直前に発生した1つ以上の IBM MQ エラーを調べます。問題を解決できない場合は、[1042 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E50725

スケジュールされた SRB モード実行単位でエラーが回復されないため、キュー・マネージャーの終了が要求された。

システム・アクション

SRB から TCB への回復機能委任の結果として、SRB 関連タスクは異常終了する。キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。SYS1.LOGREC 項目をスキャンして、キュー・マネージャーの終了直前に発生した1つ以上の IBM MQ エラーを調べます。必要があれば、キュー・マネージャー終了によって要求された SVC ダンプを分析する。

00E50727

エージェント・サービス機能回復処理中に、2 次エラーが発生した。これは、キュー・マネージャー終了の理由コードである。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1042 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。SYS1.LOGREC 項目をスキャンして、キュー・マネージャーの終了直前に発生した1つ以上の IBM MQ エラーを調べます。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

観測機能コード (X'E6)

ここにリストされていない観測機能理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- SYS1.LOGREC の印刷出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

00E60008

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

トレース中の機能は異常終了する。キュー・マネージャーは、操作可能のままである。

システム・プログラマーの応答

[1055 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E60017

このコードは、ダンプ・フォーマッターによって使用される内部コードである。

システム・アクション

要求は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

[1055 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E60085, 00E60086, 00E60087, 00E60088, 00E60089

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

[1055 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E60100 から 00E60199 まで

理由コード X'00E60100' から X'00E60199' は、IBM サービス担当員が IFC 選択ダンプ保守援助機能を使用してダンプを要求したトレース・イベントが発生したときに、計測機能コンポーネント (IFC) によって使用されます。

システム・アクション

エージェントは、保守容易性ダンプ要求に応じて、再試行される場合と、終了する場合があります。

システム・プログラマーの応答

この理由コードは、指定されたトレース・イベントが発生したときに発行される。SYS1.DUMPxx データ・セットに SVC ダンプがとられる。問題判別の方法は、IBM サービス担当員がトラップしようとしている条件によって異なります。

00E60701

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1055 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E60702, 00E60703

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1055 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

分散キューイング・コード (X'E7)

ここにリストされていない分散キューイング理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティー・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- 使用中のチャンネル定義
- エラーがメッセージ・チャンネル・エージェントに影響を与えた場合、メッセージ・チャンネル・エージェントによって使用されたユーザー・チャンネル出口プログラムの一覧。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- チャンネル・イニシエーターのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

00E70001

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70002

活動状態のアダプター・サブタスクがない。障害がすでに何度も発生していたため、再始動しなかった。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

各障害に関連したメッセージで報告されたとおりに、アダプター・サブタスクの障害について調査する。

00E70003

活動状態のディスパッチャーがない。ディスパッチャーが開始に失敗したか、またはすべてのディスパッチャーがすでに何度も失敗しているため、再始動しなかった。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

各障害に関連したメッセージで報告されたとおりに、ディスパッチャーの障害について調査する。

00E70004

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70007

アダプター・サブタスクがストレージを取得しようとしたが、失敗に終わった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

チャンネル・イニシエーターのアドレス・スペースを大きくするか、使用中のディスパッチャー、アダプター・サブタスク、SSL サーバー・サブタスク、および活動チャンネルの数を減らす。

00E70008, 00E70009, 00E7000A

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70011

チャンネル・イニシエーターは、モジュール CSQXBENT をロードすることができなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソールから、CSQXBENT がロードされなかった理由を示すメッセージがないかを調べる。モジュールが必要なライブラリーにあるかどうか、さらにそのモジュールが正しく参照されているかどうかを確認する。

チャンネル・イニシエーターは、その開始済みタスク JCL プロシージャ xxxxCHIN の STEPLIB DD ステートメントにより、ライブラリー・データ・セットからこのモジュールのロードを試行する。

00E70013

複数のアダプター・サブタスクが要求されたが、いずれも接続できなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

各障害に関連してメッセージに報告された、アダプター・サブタスクの接続障害について調査する。問題を解決できない場合は、[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70015

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E7001D

始動時に、チャンネル・イニシエーターが 16M 未満のストレージを取得することができなかった。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

問題の原因を調査する。

00E7001E, 00E7001F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

チャンネル・イニシエーターを再始動する。

[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70020

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソールを調べ、先行するエラー・メッセージを見る。問題を解決できない場合は、[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70021, 00E70022, 00E70023, 00E70024, 00E70025

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70031

内部エラーが発生しました。終了したタスクによってロックされたままになっている。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

終了したタスクがロックを解放しなかった理由を調べる。このエラーは、その前に発生したエラーによるものと思われる。問題を解決できない場合は、[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70032

内部エラーが発生しました。カップリング・ファシリティに保持されている情報を更新しようとしたが、失敗した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー共有グループと活動状態にあるキュー・マネージャーについての詳細、およびその時点でキュー共有グループに定義されているキュー・マネージャーの詳細とともに、[1057 ページの『診断』](#) に示された情報を収集する。この情報は、以下の z/OS コマンドを入力することによって取得できます。

```
D XCF,GRP
```

上記はカップリング・ファシリティ内のすべてのキュー共有グループのリストを表示する。

D XCF,GRP,qsg-name,ALL

上記はキュー共有グループに定義されたキュー・マネージャーの状況を表示する。

IBM サポートに連絡してください。

00E70033

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70052

活動状態の SSL サーバー・サブタスクがない。障害がすでに何度も発生していたため、再始動しなかった。

システム・アクション

チャンネル・イニシエーターは終了する。

システム・プログラマーの応答

各障害に関連したメッセージで報告されたとおりに、SSL サーバー・サブタスクの障害について調査する。

00E70053

いくつかの SSL サーバー・サブタスクが要求されたが、いずれも接続できなかった。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

各障害に関連したメッセージで報告されたとおりに、SSL サーバー・サブタスクの接続について調査する。問題を解決できない場合は、[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E7010C

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E7010E

ディスパッチャーが、リンケージ・スタックにおける矛盾を検出した。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

原因として最も可能性が高いのは、ユーザー出口によるリンケージ・スタックの誤った使用です。出口は、IBM MQ API 呼び出しを発行し、それらが入力されたときと同じリンケージ・スタック・レベルで呼び出し元に戻る必要があります。出口が使用されていない場合、または出口がリンケージ・スタック

クを使用しない場合は、[1057 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡する。

00E7010F, 00E7014A

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E7014C

内部エラーが発生しました。これは、チャンネル・イニシエーターが、キュー・マネージャーの前のインスタンスに対する実行時に停止できず、キュー・マネージャーの後のインスタンスに接続しようとしている場合に起きる可能性がある。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集し、チャンネル・イニシエーターを終了してから再始動し、IBM サポートに連絡する。

00E7014D

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E7014F

内部エラーが発生しました。これは通常、何らかの前のエラーの結果として発生する。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

前のエラーを報告している先行のエラー・メッセージをコンソールで調べて、そのエラーを解決するための適切なアクションを行う。以前のエラーがない場合は、[1057 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E7015A, 00E70214, 00E70216, 00E70226, 00E70231, 00E70232, 00E70233, 00E70501, 00E70522, 00E70543, 00E70546, 00E70553

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70054, 00E70055, 00E70056

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70057, 00E70058

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70708

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1057 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E70802

活動状態のクラスター・ワークロード・ユーザー出口のサーバー・サブタスクがない。障害がすでに何度も発生していたため、再始動しなかった。

システム・アクション

クラスター・ワークロード出口サービスは無効である。

システム・プログラマーの応答

各障害に関連したメッセージで報告されたとおりに、クラスター・ワークロード出口のサーバー・サブタスクの障害について調査する。

00E7080B

クラスター・ワークロード・ユーザー出口が、**EXITLIM** システム・パラメーターにより指定された許容時間内にキュー・マネージャーに戻らなかった。出口を実行しているタスクは、この理由で終了する。このコードの前に、メッセージ CSQV445E が出される。

システム・アクション

処理を続行する。クラスターの宛先は通常のアлゴリズムを使用して選択される。

システム・プログラマーの応答

ユーザー出口が時間内に完了しなかった原因を調査する。メッセージ [CSQV445E](#) に、出口プログラムの名前が表示されます。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

初期設定手順および一般サービス・コード (X'E8')

ここにリストされていない初期化プロシージャ理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。

- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- SYS1.LOGREC の印刷出力。
- システム・パラメーターのロード・モジュール。
- 初期化プロシージャ。
- このキュー・マネージャーの開始済みタスク JCL プロシージャ。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

00E80001

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80002

キュー・マネージャー・アドレス・スペースが正しく開始されなかったか、z/OS IEFSSREQ 処理中にエラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。レジスター 9 には、次の診断情報が入っている 8 バイト・フィールドのアドレスが含まれている。

- バイト 1 から 4 - サブシステム名
- バイト 5 から 8 - z/OS IEFSSREQ マクロによって設定された戻りコードが入っているレジスター 15 の内容

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E80003, 00E80004, 00E80005, 00E80006

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E8000E

キュー・マネージャーのアドレス・スペース制御タスクに ESTAE を確立できなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。レジスター 9 には、ESTAE マクロからの戻りコードが入っている 4 バイト・フィールドのアドレスが含まれている。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E8000F

無効な始動パラメーターが指定されている。これは、**START QMGR** コマンド以外の何らかの方法でキュー・マネージャーを開始しようとしたことが原因と考えられます。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

問題を解決できない場合は、[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80010

無効な製品が指定されている。この異常終了の前に、メッセージ **CSQY038E** の 1 つ以上のインスタンスが出される。詳細については、そのメッセージを参照してください。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーの関連 CSQY038E メッセージを見つけ、それらの各メッセージで説明されている問題を修正します。

00E80011

アドレス・スペースをスワップ不能にすることができなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E80012

内部エラーが発生しました。

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80013, 00E8001F, 00E8002F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80031

接続アドレス・スペースの初期設定で、サポートされない入力パラメーターが検出された。

システム・アクション

呼び出し側のタスクは異常終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80032

接続アドレス・スペースの終了で、サポートされない入力パラメーターが検出された。

システム・アクション

呼び出し側のタスクは異常終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80033

この理由コードは、X'6C6' 完了コードに付随して出される。キュー・マネージャーが終了しつつあることを、このモジュールが検出した。

システム・アクション

呼び出し側のタスクは、コード X'6C6' で異常終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E8003C

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側のタスクは異常終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E8003D

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーの異常終了が開始される。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E8003E

ESTAE が、IBM MQ 接続アドレス・スペースとして初期設定されようとしているアドレス・スペースに確立できませんでした。

システム・アクション

呼び出し側のタスクは異常終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

問題を解決できない場合は、[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E8003F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側のタスクは異常終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80041

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80042, 00E8004F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80051

キュー・マネージャーを始動するために使用されたコマンドで、エラーが検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

コマンドが間違っていた場合は、コマンドを再入力する。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00E80052, 00E80053, 00E80054, 00E80055

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80057

キュー・マネージャーのアドレス・スペースを開始しようとしたところ、エラーが起こった。この問題の原因の1つは、キュー・マネージャーの開始済みタスク JCL プロシージャにエラーがあることが考えられる。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E80058

コマンド接頭部の登録中に、エラーが起こった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

問題の原因については、付随する CSQYxxx メッセージを参照。

問題の解決後、キュー・マネージャーを再始動する。

00E8005F, 00E80061, 00E8006F, 00E8007F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80081

無効なロード・モジュールが検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。レジスター 9 には、エラーのモジュールの名前が入っている 8 バイト・フィールドのアドレスが含まれている。

システム・プログラマーの応答

インストール処理が正しく行われたかどうかを調べる。

問題の解決後、キュー・マネージャーを再始動する。

問題を解決できない場合は、[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80084

キュー・マネージャー始動通知処理中に、資源マネージャーからエラーの通知が与えられた。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。レジスター 9 には、4 バイト・フィールド (ここには、キュー・マネージャー終了を要求した資源マネージャーの RMID が入っている) のアドレスが含まれている。

システム・プログラマーの応答

問題の原因を示すエラー・メッセージを調べる。

問題の解決後、キュー・マネージャーを再始動する。

問題を解決できない場合は、[1062 ページの『診断』](#)にリストされた項目を BSDS および GTF トレースの内容とともに収集して、IBM サポートに連絡する。

00E8008F, 00E80091, 00E8009F, 00E800AF, 00E800B1

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E800B2

キュー・マネージャーの初期化プロシージャが、ロードされた ZPARM のバージョンが IBM MQ の上位のリリースでコンパイルされたものであることを検出した。

システム・アクション

始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

初期化時に正しい ZPARM がロードされたか確認してください。

このバージョンの ZPARM が存在するということは、キュー・マネージャーが上位リリースの製品で実行されていたことを示します。

キュー・マネージャーが上位リリースの製品で開始されたかどうかを確認します。開始されていた場合は、気付かずに間違ったバージョンの製品ライブラリーを使用して IBM MQ を開始していたことになります。

最新リリースの製品用の SCSQMACS にあるマクロを使用して ZPARM を再作成できる場合があります。

00E800CE

ESTAE を確立することができなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。レジスター 9 には、ESTAE マクロからの戻りコードが入っている 4 バイト・フィールドのアドレスが含まれている。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#)に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E800D1

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

1062 ページの『診断』 にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E800D2

z/OS LOCAL ロックを取得しようとしたが、エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

1062 ページの『診断』 に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E800D3

z/OS LOCAL ロックを解放しようとしたが、エラーが発生した。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

1062 ページの『診断』 に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E800DF

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

1062 ページの『診断』 にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80100

キュー・マネージャーのアドレス・スペース制御タスクの ESTAE に入ったために、キュー・マネージャーが異常終了した。この理由コードは、X'5C6' 完了コードを除くすべての完了コードに対して出される。

キュー・マネージャーでは、エラーの原因を判別できない。

システム・アクション

キュー・マネージャーの終了が開始される。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

問題の解決後、キュー・マネージャーを再始動する。

エラーを引き起こしたサブコンポーネントは不明である。この理由コードは、**START QMGR** コマンドで指定したシステム・パラメーター・ロード・モジュールをキュー・マネージャーが検出できない場合に返されることがあります (デフォルト名は CSQZPARM)。指定されたモジュールが使用可能になっているかどうかを確認する。

この理由コードは、キュー・マネージャーが z/OS コマンド **CANCEL** によって取り消された場合にも出される。これが原因である場合は、キュー・マネージャーがなぜ取り消されたのかを判別する。

[1062 ページの『診断』](#)に示される情報が、BSDS および GTF トレースの内容とともに、問題の解決に役立つことがある。

00E8011D

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーの終了が開始される。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E8011E

2 次 ESTAE を確立できなかったことを、接続アドレス・スペース・タスクの 1 次 ESTAE が検出した。

システム・アクション

接続アドレス・スペースの異常終了が続けられる。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E8011F

z/OS RTM によって提供されるサブシステム診断作業域 (SDWA) を伴わずに、接続アドレス・スペース・タスクの 1 次 ESTAE に入った。

システム・アクション

接続アドレス・スペースの異常終了が続けられる。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E8012D

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーの異常終了が開始される。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E8012F

z/OS によって提供されるサブシステム診断作業域 (SDWA) を伴わずに、接続アドレス・スペース・タスクの 2 次 ESTAE に入った。

システム・アクション

接続アドレス・スペースの異常終了が続けられる。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#)に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E80130

有効な **STOP QMGR** コマンドの処理中に、**START QMGR/STOP QMGR** コマンド・プロセッサ機能を保護する FRR が入力されました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#)に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00E80140

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80150, 00E80151

無効なモジュールが検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。レジスター 9 には、次の診断情報が入っている 12 バイト・フィールドのアドレスが含まれている。

- ・ バイト 1 から 8 までには、無効な項目がある初期設定入り口点リストを含むロード・モジュールの名前が入っている。

システム・プログラマーの応答

問題の解決後、キュー・マネージャーを再始動する。

インストール処理が正しく行われたかどうかを調べる。問題を解決できない場合は、[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E8015F

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80160

キュー・マネージャーの初期設定手順で、ロード・モジュールに無効な AMODE または RMODE 属性があることが検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了します。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQY006E を参照してください。

00E80161

キュー・マネージャーの初期設定手順で、ロード・モジュールが、開始されているキュー・マネージャーのバージョンに対して、正しいレベルにないことが検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了します。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQY010E を参照してください。

00E80162

キュー・マネージャー初期設定プロシージャは、ストレージ保護キーが7ではなかったことを検出しました。最も可能性の高い原因は、CSQYASCP のプログラム・プロパティ・テーブル (PPT) 項目が正しく指定されていないことです。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了します。

システム・プログラマーの応答

問題の解決後、キュー・マネージャーを再始動する。

CSQYASCP の PPT 項目の指定については、[z/OS プログラム・プロパティ表の更新](#)を参照してください。

00E80163

キュー・マネージャーの初期設定手順で、それらが許可された APF でないことが検出された。最も可能性が高い原因は、//STEPLIB 連結内のデータ・セットの1つまたは複数が、許可された APF でないことである。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了します。

システム・プログラマーの応答

問題の解決後、キュー・マネージャーを再始動する。

IBM MQ ロード・ライブラリーの APF 許可については、[IBM MQ ロード・ライブラリーの APF 許可](#)を参照してください。

00E80170

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求は無視される。

システム・プログラマーの応答

[1062 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E80171

メッセージ CSQY041D WTOR に文字 N で応答したため、キュー・マネージャーが終了した。

システム・プログラマーの応答

詳しくは、[CSQY041D](#) を参照してください。

00E80172

メッセージ CSQY044D WTOR に文字 N で応答したため、キュー・マネージャーが終了した。

システム・プログラマーの応答

詳しくは、[CSQY044D](#) を参照してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

システム・パラメーター管理プログラム・コード (X'E9')

ここにリストされていないシステム・パラメーター管理プログラム理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- SYS1.LOGREC の印刷出力。
- システム・パラメーターのロード・モジュール。
- 初期化プロシージャ。
- このキュー・マネージャーの開始済みタスク JCL プロシージャ。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

00E90101

IBM MQ リソースを開こうとしているときにエラーが発生しました。最も可能性の高い原因は、**START QMGR** コマンドで指定されたカスタマイズされたシステム・パラメーター・ロード・モジュールが使用できないことです。

システム・アクション

SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

START QMGR コマンドで指定したシステム・パラメーター・ロード・モジュール (デフォルト名は CSQZPARM) が使用可能であることを確認する。正しい場合は、[1073 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E90201

IBM MQ リソースを開こうとしたときに内部エラーが発生しました。

システム・アクション

SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1073 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E90202

IBM MQ リソースを開こうとしているときにエラーが発生しました。最も可能性が高い原因は、START QMGR コマンドで指定された、カスタマイズされたシステム・パラメーター・ロード・モジュール (デフォルト名は CSQZPARM) が正しく作成されていなかったことである。

システム・アクション

SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

指定されたシステム・パラメーター・ロード・モジュールが使用可能になっていること、およびそれが正しくリンクされていることを確かめる。サンプルのリンク・エディット JCL については、CSQ4ZPRM を参照。システム・パラメーター・モジュールについては、[システム・パラメーター・モジュールの調整](#)を参照。

キュー・マネージャーを再始動する。問題が解決しない場合は、[1073 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E90203

IBM MQ リソース内の記述子制御情報を検査しようとしたときに、内部エラーが発生しました。

システム・アクション

SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

[1073 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00E90301

IBM MQ リソースをクローズしようとしたときに、内部エラーが発生しました。

システム・アクション

SYS1.LOGREC にレコードが書き込まれ、SVC ダンプが要求される。


システム・プログラマーの応答

[1073 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

サービス機能コード (X'F1')

00F10001, 00F10002, 00F10003, 00F10004, 00F10005, 00F10006, 00F10007, 00F10008, 00F10009, 00F10010, 00F10011, 00F10012, 00F10013, 00F10014, 00F10015, 00F10016, 00F10017, 00F10018 , 00F10019, 00F1001B, 00F1001C

CSQ1LOGP ログ印刷ユーティリティで、内部エラーが検出された。

システム・アクション

ダンプが要求される。ユーティリティは完了コード X'5C6' で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

- ユーティリティ報告書出力
- エラーから作成されたシステム・ダンプ (作成された場合)
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

V 9.3.4 00F1001A

IBM MQ ユーティリティー・プログラムが、必要なデータ変換サービスを初期設定できませんでした。失敗の理由は、レジスター 0 にあります。

00C10002, 00C1000E

モジュールをロードできない

00C10003

ストレージ不足

その他

内部エラー

システム・アクション

ダンプが要求される。ユーティリティーは完了コード X'5C6' で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

コンソールに、モジュールがロードされなかったことを示すメッセージがないかどうかを調べる。モジュールが必要なライブラリー (SCSQAUTH) 内にあり、それが正しく参照されていることを確認して、ジョブを再実行依頼してください。

ユーティリティー・プログラムは、ユーティリティー・アドレス・スペースの STEPLIB DD ステートメントにあるライブラリー・データ・セットから、このモジュールをロードしようとする。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

V 9.3.4 00F1001D

IBM MQ ユーティリティー・プログラムが、要求を実行するために必要なストレージを割り振ることができませんでした。

システム・アクション

ダンプが要求される。ユーティリティーは完了コード X'5C6' で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

この起動でのジョブ制御言語 (JCL) の EXEC ステートメントの REGION パラメーターの値が小さすぎることが原因と思われる。REGION サイズを増やして、要求を再実行依頼してください。

問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00F10100

CSQ1LOGP ログ印刷ユーティリティーで、内部エラーが検出された。

システム・アクション

ダンプが要求される。ユーティリティーは完了コード X'5C6' で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

ジョブを再実行依頼してください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

00F10101

独立型ログ読み取り機能から、無効な RBA が戻された。メッセージ CSQ1211E の説明を参照。

システム・アクション

ダンプが要求される。ユーティリティーは完了コード X'5C6' で異常終了する。

システム・プログラマーの応答

データ・セットがログ・データ・セットであり、損傷していないと判断した場合は、IBM サポートに連絡してください。

関連タスク

IBM サポートへの連絡

IBM MQ-IMS ブリッジ・コード (X'F2')

ここにリストされていない IBM MQ-IMS ブリッジ理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティー・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- IMS ジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

00F20001, 00F20002, 00F20003, 00F20004, 00F20005, 00F20006, 00F20007, 00F20008, 00F20009, 00F2000A, 00F2000B, 00F2000C, 00F2000D, 00F2000E, 00F2000F, 00F20010, 00F20011

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[1076 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F20012

IBM MQ-IMS ブリッジが、IXCQUERY マクロから不良戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

レジスター 3 と 4 には、XCF からの戻りコードと理由コードが入る。これらのコードについては、「MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照する。

00F20013

IBM MQ-IMS ブリッジが、IXCJOIN マクロから不良戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

レジスター 3 と 4 には、XCF からの戻りコードと理由コードが入る。これらのコードについては、「MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照する。

00F20014

IBM MQ-IMS ブリッジが、IXCCREAT マクロから不良戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

レジスター 3 と 4 には、XCF からの戻りコードと理由コードが入る。これらのコードについては、「MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照する。

OTMACON メンバー名が既に使用中かどうかを確認するには、IMS DIS OTMA コマンドを使用する。これは、OTMACON メンバー名に、キュー・マネージャー名の代わりに IMS システムを指定すると起きる場合がある。

00F20015, 00F20016

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[1076 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F20017

IBM MQ-IMS ブリッジが、IXCLEAVE マクロから不良戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

レジスター 3 と 4 には、XCF からの戻りコードと理由コードが入る。これらのコードについては、「MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照する。

00F20018

IBM MQ-IMS ブリッジが、IXCDELET マクロから不良戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

レジスター 3 と 4 には、XCF からの戻りコードと理由コードが入る。これらのコードについては、「MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照する。IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

00F20019, 00F2001A, 00F2001B, 00F2001C, 00F2001D, 00F2001E, 00F2001F, 00F20020, 00F20021, 00F20022

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[1076 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F20023

IBM MQ-IMS ブリッジが、IXCMSGO から不良戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

レジスター 2 と 3 には、XCF からの戻りコードと理由コードが入る。これらのコードについては、「MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照する。

00F20024, 00F20026, 00F20027, 00F20029, 00F2002A, 00F2002B

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[1076 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F2002C

IBM MQ-IMS ブリッジが、IXCMMSGO から不良戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

レジスター 2 と 3 には、XCF からの戻りコードと理由コードが入る。これらのコードについては、「MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照する。

00F2002D, 00F2002E

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[1076 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F20030

IBM MQ-IMS ブリッジが、IXCMMSGO から不良戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

レジスター 2 と 3 には、XCF からの戻りコードと理由コードが入る。これらのコードについては、「MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照する。

00F20031

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[1076 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F20032

IBM MQ-IMS ブリッジが、IXCMMSGO から不良戻りコードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

レジスター 2 と 3 には、XCF からの戻りコードと理由コードが入る。これらのコードについては、「MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照する。

**00F20035, 00F20036, 00F20037, 00F20038, 00F20039, 00F2003A, 00F2003B, 00F2003D,
00F2003E, 00F2003F, 00F20040**

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

1076 ページの『診断』 にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F20041

IBM MQ-IMS ブリッジが、MQOPEN エラーを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

00F20042

IBM MQ-IMS ブリッジが、MQCLOSE エラーを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

00F20043

IBM MQ-IMS ブリッジが、MQGET エラーを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

00F20044

IBM MQ-IMS ブリッジが、MQPUT エラーを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

00F20045

IBM MQ-IMS ブリッジが、MQOPEN エラーを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

00F20046

IBM MQ-IMS ブリッジが、MQCLOSE エラーを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

00F20047

IBM MQ-IMS ブリッジが、MQGET エラーを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

00F20048

IBM MQ-IMS ブリッジが、MQPUT エラーを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

00F20049

IBM MQ-IMS ブリッジが、MQPUT1 エラーを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

00F2004A, 00F2004B, 00F2004C, 00F2004D, 00F2004E, 00F2004F, 00F20050, 00F20051, 00F20052, 00F20053, 00F20054, 00F20055, 00F20056, 00F20057

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

[1076 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F20058

IBM MQ-IMS ブリッジが、MQPUT1 エラーを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

00F20059

IBM MQ-IMS ブリッジが、IMS 否定応答で重大なセンス・コードを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

IMS センス・コードは、メッセージ CSQ2003I に示される。

00F20069

IBM MQ-IMS ブリッジは、未確定の回復単位を解決しようとしているときに、エラーを受け取った。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して、問題を報告してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

サブシステム・サポート・コード (X'F3)

以下のほとんどの理由コードは、完了コード X'0Cx' の異常終了の発生時にレジスター 15 に戻されるもので、完了コード X'5C6' の理由コードではありません。これは、その後の記述により示されます。

ここにリストされていないサブシステム・サポート理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティー・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- SYS1.LOGREC の印刷出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

00F30003, 00F30004, 00F30005

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求は処理されません。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30006

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求は処理されません。

システム・プログラマーの応答

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30007, 00F30008

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求は処理されません。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30014

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求側のタスクは、完了コード X'5C6' で異常終了する。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30027, 00F30030, 00F30032, 00F30033, 00F30038

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求は処理されません。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30042

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30048

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求は処理されません。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30052

呼び出し側のリカバリー・コーディネーターはすでに終了しているため、呼び出し側から IBM MQ への接続は終了しています。

システム・アクション

要求は処理されません。呼び出し側から IBM MQ への接続は終了します。

リカバリー・コーディネーターが再始動されたときに、呼び出し側が IBM MQ に再接続する可能性があります。

システム・プログラマーの応答

回復コーディネーターを識別して再始動する。

この異常終了は、多くの場合、RRS の終了に関連している。RRS の終了に関連するコンソール・ログに、追加の CSQ3009E メッセージがある場合があります。

00F30053

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求は処理されません。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

1081 ページの『診断』 にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30067

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

接続要求は処理されない。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

1081 ページの『診断』 にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30070

接続処理の機能回復を確立できなかった。実行モジュールが、その ESTAE を確立することができなかった。これは、現行のアドレス・スペースに十分なストレージがない場合に起こる可能性がある。この結果として、キュー・マネージャーが異常終了することがある。

システム・アクション

接続要求は処理されない。呼び出し元は、完了コード X'5C6' およびこの理由コードで異常終了する。

システム・プログラマーの応答

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。問題分析のためにダンプをとる必要がある。

現行アドレス・スペースの専用ストレージ内の LSQA 部分の使用状況と空き区域を調べる。必要があれば、専用ストレージのサイズを拡大する。

LSQA 域を調べることができるよう、呼び出し側で SYS1.LOGREC 項目と SVC ダンプを作成しておかなければならない。1081 ページの『診断』 に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30071

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

接続要求は処理されない。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

1081 ページの『診断』 にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30075

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

1081 ページの『診断』 にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30078

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求は処理されません。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30080

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

アプリケーション・プログラムは、完了コード X'5C6' およびこの理由コードで異常終了する。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30091

アプリケーション・プログラムから RRSF の IDENTIFY 機能の要求が実行されたが、RRS が使用不能である。

システム・アクション

IDENTIFY 要求は処理されない。

00F30093

アプリケーション・プログラムが RRSF TERMINATE THREAD または TERMINATE IDENTIFY 機能要求を出しましたが、アプリケーションは SRRCMIT または SRRBACK の最後の呼び出し以降に IBM MQ API 要求を発行したため、整合点がありません。

システム・アクション

機能要求は処理されない。

00F30095

MQ または RRS で内部エラーが検出された。

システム・アクション

アプリケーションは異常終了する。SYS1.LOGREC データ・セットにエラーが記録され、SVC ダンプが要求される。

このエラーは、多くの場合、最終的にはキュー・マネージャーを異常終了させる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

これは、IBM MQ または RRS に関するエラーを示している場合があります。

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30096

内部エラーが IBM MQ または RRS コンテキスト・サービス内で検出されました。

システム・アクション

アプリケーションは異常終了する。SYS1.LOGREC データ・セットにエラーが記録され、SVC ダンプが要求される。

このエラーは、多くの場合、最終的にはキュー・マネージャーを異常終了させる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

これは、IBM MQ または RRS に関するエラーを示している場合があります。

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30101

IBM MQ (および他のサブシステム) を初期設定するために使われる IEFSSNx メンバーに含まれるパラメーターに誤りがあります。詳しくは、CSQ3101E を参照してください。

システム・アクション

メッセージ CSQ3101E を参照してください。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQ3101E を参照してください。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30102

IBM MQ (および他のサブシステム) を初期設定するために使われる IEFSSNxx メンバーに含まれるパラメーターに誤りがあります。IBM MQ コマンド接頭部 (CPF) は空白であってはなりません。詳しくは、メッセージ CSQ3102E を参照してください。

システム・アクション

メッセージ CSQ3102E を参照してください。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQ3102E を参照してください。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30103

IBM MQ (および他のサブシステム) を初期設定するために使用された IEFSSNxx メンバーに含まれているパラメーターにエラーがあるか、または指定されたモジュールが IPL 時に使用可能なライブラリーに常駐していない。詳しくは、CSQ3103E を参照してください。

システム・アクション

メッセージ CSQ3103E を参照してください。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQ3103E を参照してください。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30104

モジュール CSQ3UR00 が、指定されたサブシステムの類似性表索引を入手できなかった。z/OS は、指定されたサブシステムを認識しませんでした。詳しくは、CSQ3109E を参照してください。

システム・アクション

メッセージ CSQ3109E を参照してください。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQ3109E を参照してください。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30105

モジュール CSQ3UR00 が、早期モジュール CSQ3EPX をロードできなかった。入出力エラーがあったか、指定されたモジュールが、IPL 時に使用できるライブラリーに存在していない。詳しくは、CSQ3105E を参照してください。

システム・アクション

メッセージ CSQ3105E を参照してください。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQ3105E を参照してください。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30106

IBM MQ (および他のサブシステム) を初期設定するために 使われる IEFSSNxx メンバーに含まれるパラメーターに誤りがあります。IBM MQ コマンド接頭部 (CPF) の有効範囲が無効です。詳しくは、メッセージ CSQ3112E を参照してください。

システム・アクション

メッセージ CSQ3112E を参照してください。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQ3112E を参照してください。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30107

コマンド接頭部の登録中に、エラーが起こった。

システム・アクション

IBM MQ サブシステムは異常終了します。

システム・プログラマーの応答

問題の原因については、付随する CSQ3xxx メッセージを参照。

00F30210, 00F30211, 00F30212, 00F30213, 00F30214

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し元は異常終了する。SVC ダンプおよび関連する SYS1.LOGREC 項目が作成される。

システム・プログラマーの応答

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30216

キュー・マネージャー・アドレス・スペースを作成しようとしたが、失敗した。これは、**START QMGR** コマンドを発行したユーザーの権限が不十分であることが原因と考えられます。

システム・アクション

現在の **START** コマンド処理は終了します。SVC ダンプおよび関連する SYS1.LOGREC 項目が作成される。

システム・プログラマーの応答

ユーザーとコンソールのコマンド実行許可を検査する。コマンドを再試行する。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30217

現行コマンドが入力された z/OS コンソールのコンソール ID が、z/OS 装置制御モジュール (UCM) 構造体に見つからない。内部 z/OS コマンドが、無効な入力パラメーターを与えるアプリケーション・プログラムによって誤って出された可能性がある。

システム・アクション

呼び出し元は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

START QMGR コマンドを再試行する。コマンドが失敗した場合は、[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30218

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行タスクは異常終了する。呼び出し側のタスクが、SVC ダンプの要求または関連する SYS1.LOGREC 項目の作成を行っている可能性がある。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30219

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側のタスクは異常終了する。呼び出し側のタスクが、SVC ダンプの要求または関連する SYS1.LOGREC 項目の作成を行っている可能性がある。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを取り消す。タスク終了処理がそのまま行われる可能性があり、この方がメモリー終了処理よりもさらに完全な終結処理を行う。これで問題が解決しない場合は、キュー・マネージャーに対して z/OS コマンド **FORCE** を発行します。それでも問題が解決しない場合は、z/OS システムの IPL を実行することが必要になる場合がある。

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F3021A

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側のタスクは異常終了する。SVC ダンプおよび関連する SYS1.LOGREC 項目が作成される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを停止して、**START QMGR** コマンドを再発行します。

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F3021C

ESTAE を確立することができなかった。これは、コマンドをブロードキャストしている z/OS システム・アドレス・スペースに十分なストレージがない場合に起こることがある。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する (ダンプはとられない)。現行の START コマンド処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

コマンドを再試行する。エラーが解決しない場合は、z/OS システムの IPL を実行することが必要な場合があります。

LOGREC 項目およびコンソール・ログを調べて、z/OS エラーが示されていないかどうかを確認し、ストレージを増やしてみてください。

問題を解決できない場合は、[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F3021D

キュー・マネージャーの初期設定時または終了時に、ESTAE を確立できなかった。

これは、初期設定時に、最初のコマンド (**START** コマンドと見なされる) をブロードキャストしている z/OS システム・アドレス・スペースに十分なストレージがない場合に起こることがあります。

終了時には、現行のアドレス・スペース (通常はキュー・マネージャー・システム・アドレス・スペース、EOM ブロードキャストの場合は z/OS システム・アドレス・スペース) に十分なストレージがない場合に起こることがある。

システム・アクション

呼び出し側は、システム・ダンプをとらずに異常終了する。初期設定は停止されるが、終了は進められる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーの終了後にコマンドを再試行する。問題が解決しない場合は、z/OS システムの IPL を実行する必要がある場合がある。

LOGREC 項目およびコンソール・ログを調べて、z/OS エラーが示されていないかどうかを確認し、ストレージを増やしてみてください。

問題を解決できない場合は、[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F3021E

制御権を実際の ESTAE ルーチンに経路指定する処理中に、ESTAE を確立できなかった。呼び出し側 (RTM) は異常終了する。これにより、元のエラーはより高レベルの回復ルーチンに回復機能委任され、この理由コードが RTM 回復環境で示される。

これは、現行のアドレス・スペース (通常は接続アドレス・スペース) に十分なストレージがない場合に起こることがある。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了し、ダンプが作成される。

システム・プログラマーの応答

現行アドレス・スペースの専用ストレージ内の LSQA 部分の使用状況と空き区域を調べる。必要があれば、専用ストレージのサイズを拡大する。

[1081 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F3021F, 00F30220

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了しない。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30230

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

接続アドレス・スペースとキュー・マネージャー間の接続は切断される。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30310

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側は異常終了する。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30311

未確定解決要求の処理中に、ESTAE を確立できなかった。これは、現行のアドレス・スペースに十分なストレージがない場合に起こる可能性がある。これにより、おそらく、キュー・マネージャーの異常終了が引き起こされる可能性がある。

システム・アクション

呼び出し元は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

現行アドレス・スペースの専用ストレージのローカル・システム・キュー域 (LSQA) 部分の使用状況と空き区域を調べる。必要があれば、専用ストレージのサイズを拡大する。

LSQA 域を調べることができるように、呼び出し側で SYS1.LOGREC 項目と SVC ダンプを作成しておかなければならない。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30312

未確定 UR 解決要求の処理中に、ESTAE を確立できなかった。これは、現行のアドレス・スペースに十分なストレージがない場合に起こる可能性がある。

システム・アクション

呼び出し元は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

現行アドレス・スペースの専用ストレージのローカル・システム・キュー域 (LSQA) 部分の使用状況と空き区域を調べる。必要があれば、専用ストレージのサイズを拡大する。

呼び出し側で、SYS1.LOGREC 項目と SVC ダンプを作成する必要がある。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30313

制御ブロックを割り振ることができない。これは、ストレージ・プールに使用できるフリー・スペースがなくなった場合に起こることがある。

システム・アクション

要求は処理されません。アプリケーション・プログラムは、完了コード X'5C6' およびこの理由コードで異常終了する。

システム・プログラマーの応答

問題分析のためにダンプをとる必要がある。

推奨される領域サイズで実行しているかどうかを確かめる。そうでない場合には、システムをリセットし、再試行してみる。問題を解決できない場合は、[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30400, 00F30401, 00F30402

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求を行ったプログラムが、エラーを報告するための診断を作成すると思われる。

システム・プログラマーの応答

エラーを報告しているアプリケーション・プログラムによって作成された診断情報があれば、それを収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30406

キュー・マネージャーが、EOM (メモリー終了) になった。これは、z/OS コマンド **FORCE** が発行されたことが原因である可能性があります。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

終了が完了した後で、キュー・マネージャーを再始動することができる。

z/OS コマンド **FORCE** が発行された理由を判別してください。

00F30409, 00F3040A

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SVC ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

終了した後で、キュー・マネージャーを再始動することができる。

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F3040B

メッセージ CSQ3001E を参照してください。

システム・アクション

メッセージ CSQ3001E を参照してください。

システム・プログラマーの応答

メッセージ CSQ3001E を参照してください。

[1081 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F3040C, 00F3040D

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SVC ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

終了した後で、キュー・マネージャーを再始動することができる。

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F3040E

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動しなければならない。

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F3040F, 00F30410

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

終了した後で、キュー・マネージャーを再始動することができる。

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30411, 00F30412, 00F30413

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

終了した後で、キュー・マネージャーを再始動することができる。

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30414

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

終了した後で、キュー・マネージャーを再始動することができる。問題が解決しない場合は、スタンダアロン・ダンプを要求し、z/OS システムの IPL を実行する。

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30415

EOM SSI ブロードキャストの処理中に、ESTAE を確立できなかった。これらのモジュールは、z/OS マスター・スケジューラー・アドレス・スペースで実行されるので、これはおそらく z/OS の問題である。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

終了した後で、キュー・マネージャーを再始動することができる。問題が解決しない場合は、z/OS システムの IPL を実行する必要がある場合がある。

これは、z/OS マスター・スケジューラー・アドレス・スペースに十分な空き仮想ストレージがない場合に起こることがある。その場合、IBM MQ は SYS1.LOGREC レコードまたはダンプを要求する。z/OS マスター・スケジューラーが、これらの診断エイドを作成しているはずである。ダンプを調べて、問題が z/OS にあるのか IBM MQ にあるのかを判別してください。z/OS マスター・スケジューラー・アドレス・スペースの他の関連しないエラーは、z/OS の問題を示している可能性があります。

問題が IBM MQ の問題であると思われる場合は、[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30416

接続アドレス・スペースの EOM の処理中に、ESTAE を確立できなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

終了した後で、キュー・マネージャーを再始動することができる。問題が解決しない場合は、z/OS システムの IPL を実行する必要がある場合がある。

これは、z/OS マスター・スケジューラー・アドレス・スペースに十分な空き仮想ストレージがない場合に起こることがある。その場合、IBM MQ は SYS1.LOGREC レコードまたはダンプを要求する。z/OS マスター・スケジューラーが、これらの診断エイドを作成しているはずである。ダンプを調べて、問題が z/OS にあるのか IBM MQ にあるのかを判別してください。z/OS マスター・スケジューラー・アドレス・スペースの他の関連しないエラーは、z/OS の問題を示している可能性があります。

問題が IBM MQ の問題であると思われる場合は、[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30417, 00F30418

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

終了した後で、キュー・マネージャーを再始動することができる。

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30419

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SVC ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

終了した後で、キュー・マネージャーを再始動することができる。

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F3041A

据え置きタスク終了 (EOT) プロセッサが、ESTAE を確立できなかった。このエラーは、キュー・マネージャーの始動時にのみ起こることがある。おそらく、LSQA スペースが不足しているために、ESTAE を確立できなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

問題が解消されない場合には、キュー・マネージャー・アドレス・スペースの専用ストレージのサイズを拡大する。

[1081 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F3041B, 00F30420

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SYS1.LOGREC 項目および関連する SVC ダンプが要求されている。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30429

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、SVC ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30450

SSI 呼び出し識別の処理中に、ESTAE を確立できなかった。これは、現行のアドレス・スペースに十分なストレージがない場合に起こる可能性がある。

システム・アクション

接続アドレス・スペースは異常終了する (ダンプはとられない)。接続タスクによってダンプを作成しなければならない。

システム・プログラマーの応答

ユーザーは、識別要求を再試行することができる。ダンプが使用可能である場合には、仮想記憶管理プログラムの制御ブロックを調べ、すべての専用ストレージが割り振られているかどうかを判別する。必要があれば、接続アドレス・スペースの専用ストレージ・サイズを大きくする。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30451

SSI 呼び出し識別の処理中に、ESTAE を確立できなかった。これは、現行のアドレス・スペースに十分なストレージがない場合に起こる可能性がある。

システム・アクション

接続タスクは異常終了する (ダンプはとられない)。接続タスクによってダンプを作成しなければならない。

システム・プログラマーの応答

ユーザーは、識別要求を再試行することができる。ダンプが使用可能である場合には、仮想記憶管理プログラムの制御ブロックを調べ、すべての専用ストレージが割り振られているかどうかを判別する。必要があれば、接続アドレス・スペースの専用ストレージ・サイズを大きくする。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30452

SSI 呼び出し識別の処理中に、ESTAE を確立できなかった。これは、現行のアドレス・スペースに十分なストレージがない場合に起こる可能性がある。

システム・アクション

接続タスクは異常終了する (ダンプはとられない)。接続タスクによってダンプを作成しなければならない。

システム・プログラマーの応答

ユーザーは、識別要求を再試行することができる。ダンプが使用可能である場合には、仮想記憶管理プログラムの制御ブロックを調べ、すべての専用ストレージが割り振られているかどうかを判別する。必要があれば、接続アドレス・スペースの専用ストレージ・サイズを大きくする。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30453

FEOT、EOM、HELP、COMMAND、および IDENTIFY 以外の SSI 呼び出しの処理中に、ESTAE を確立できなかった。これは、現行のアドレス・スペースに十分なストレージがない場合に起こる可能性がある。

システム・アクション

接続タスクは異常終了する (ダンプはとられない)。接続タスクによってダンプを作成しなければならない。

システム・プログラマーの応答

ユーザーは、この要求を再試行することができる。ダンプが使用可能である場合には、仮想記憶管理プログラムの制御ブロックを調べ、すべての専用ストレージが割り振られているかどうかを判別する。必要があれば、接続アドレス・スペースの専用ストレージ・サイズを大きくする。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30454

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

接続タスクは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30455

終了要求識別の処理中に、ESTAE を確立できなかった。これは、現行のアドレス・スペースに十分なストレージがない場合に起こる可能性がある。

システム・アクション

接続タスクは異常終了する (ダンプはとられない)。接続タスクによってダンプを作成しなければならない。

システム・プログラマーの応答

ユーザーは、この要求を再試行することができる。ダンプが使用可能である場合には、仮想記憶管理プログラムの制御ブロックを調べ、すべての専用ストレージが割り振られているかどうかを判別する。必要があれば、接続アドレス・スペースの専用ストレージ・サイズを大きくする。

[1081](#) ページの『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30456

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し側のタスクは異常終了する。

システム・プログラマーの応答

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30457

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

呼び出し元は異常終了する。このエラーは、多くの場合、最終的にはキュー・マネージャーを終了させる可能性がある。

システム・プログラマーの応答

必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30459

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは、理由コード X'00F30420' で終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30461

IBM MQ または RRS のいずれかで内部エラーが発生したため、キュー・マネージャーは RRS を使用して正常に再始動することができなかった。

システム・アクション

キュー・マネージャーは RRS に接続されない。また、その接続に依存するサービスは利用できない。これは、アプリケーションが RRSF を使用してキュー・マネージャーに接続できない可能性があり、キュー・マネージャーが RRS で正常に再始動するまで、WLM が確立したアドレス・スペースが IBM MQ ストアド・プロシージャーに使用されない可能性があることを意味します。

システム・プログラマーの応答

RRS をいったん停止してから始動する。あるいは、キュー・マネージャーをいったん停止してから始動する。それでも問題が発生する場合は、RRS をコールド・スタートする。

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30501, 00F30502

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求側は異常終了し、要求は処理されない。

システム・プログラマーの応答

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30503

CSQ6SYSP が、システム・パラメーター・ロード・モジュールから欠落している。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

システム・パラメーター・ロード・モジュール (カスタマイズされたバージョンを使用している場合) を再度作成し、キュー・マネージャーを再始動する。システム・パラメーター・モジュールについて詳しくは、[システム・パラメーター・モジュールの調整](#)を参照。

00F30573, 00F30574

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求側は異常終了し、要求は処理されない。ダンプがとられ、SYS1.LOGREC にエントリーが書き込まれる。

システム・プログラマーの応答

[1081](#) ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30580

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求側は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30581

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは異常終了する。始動/終了 ESTAE により SYS1.LOGREC 項目が作成され、SVC ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30597, 00F30598

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

接続タスクは異常終了し、要求は処理されない。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30599

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

エラーに関連する接続名は、キュー・マネージャーが終了して再始動するまで、IBM MQ との通信を続行できない可能性があります。

システム・プログラマーの応答

必要があれば、キュー・マネージャーを停止し、再始動させる。

[1081 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30601

非同期イベントが発生し、スレッドの早期終了が引き起こされた。スレッドを回復することができない。

この接続ユーザーに関して、どのような非同期イベントが起きたかを示すエラーまたはメッセージが別に出される可能性がある。

システム・アクション

接続ユーザーは、完了コード X'5C6' およびこの理由コードで異常終了する。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページの『診断』](#) に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30610

「強制的作業停止終了」通知の処理中に、ESTAE を確立できなかった。これは、十分なストレージがない場合に起こることがある。この結果として、キュー・マネージャーが異常終了することがある。

システム・アクション

呼び出し元は異常終了する。SVC ダンプおよび関連する SYS1.LOGREC 項目が要求される。

システム・プログラマーの応答

必要があれば、キュー・マネージャーを再始動させる。

必要があれば、アドレス・スペースの専用ストレージ・サイズを大きくする。

1081 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30801

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了する。SVC ダンプが要求される。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

1081 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30802

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

タスクは異常終了しない。

システム・プログラマーの応答

1081 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30803

アプリケーション・プログラム・サポート呼び出しの処理中に、ESTAE を確立できなかった。これは、現行のアドレス・スペースに十分なストレージがない場合に起こる可能性がある。

システム・アクション

接続タスクは異常終了する。接続タスクが、SVC ダンプを要求している可能性がある。

システム・プログラマーの応答

ユーザーは、この要求を再試行することができる。必要があれば、アプリケーション・アドレス・スペースの専用ストレージ・サイズを大きくする。

1081 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30805

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

要求は、処理される場合と拒否される場合がある。

システム・プログラマーの応答

1081 ページの『診断』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F30901

接続相手が許可索引を解放したために、IBM MQ は、関連アドレス・スペースに対する仮想記憶間権限を失いました。

システム・アクション

接続アドレス・スペースは終了する。

システム・プログラマーの応答

1081 ページの『診断』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30902

MQ が、接続アドレス・スペースでタスクのタスク終了を処理中に、再帰的エラー条件を検出した。

システム・アクション

接続アドレス・スペースは終了する。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページ](#)の『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30903

キュー・マネージャー・アドレス・スペースに対するタスク終了を処理中に、エラーが起こった。

システム・アクション

アドレス・スペースは、この理由コードで強制的に「メモリー終了」となる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページ](#)の『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

00F30904

キュー・マネージャー・アドレス・スペースに対してタスク終了が発生し、IBM MQ はその処理を保護するための ESTAE を確立できなかった。ストレージが不足していることが、ESTAE を確立できなかった原因と思われる。

システム・アクション

アドレス・スペースは、この理由コードで強制的に「メモリー終了」となる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページ](#)の『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

1つ以上の IBM MQ アドレス・スペースにストレージの制約があるかどうか判別してください。この条件が起こる前のコンソール出力を調べると、他のメッセージや、終了アドレス・スペースがストレージの制約を受けていたことが明らかになることがある。

00F30905

接続アドレス・スペースのジョブ・ステップ・タスクのタスク終了が起こった。IBM MQ は通常、キュー・マネージャーへのアドレス・スペースの接続を終了しようとしたが、ESTAE を確立してその処理を保護することができなかった。ストレージが不足していることが、ESTAE を確立できなかった原因と思われる。

システム・アクション

アドレス・スペースは、この理由コードで強制的に「メモリー終了」となる。

システム・プログラマーの応答

[1081 ページ](#)の『[診断](#)』に示された情報が、問題を解決するのに役立つ場合もある。

1つ以上の接続アドレス・スペースがストレージの制約を受けていないかどうかを確かめる。この条件が起こる前のコンソール出力を調べると、他のメッセージや、終了接続アドレス・スペースがストレージの制約を受けていたことが明らかになることがある。

00F33100

IBM MQ スレッドは読み取り専用です。

システム・アクション

アプリケーション・プログラムから出された PREPARE は、フェーズ 1 を介して処理されている。IBM MQ は、変更されたリソースがないことを検出しました。その後、COMMIT または BACKOUT を発行する必要はありません。

システム・プログラマーの応答

これにより、通常は PREPARE の後に行われる COMMIT または BACKOUT が実行されないで、パスの長さが短くなる。回復単位を完了させるためにそれ以上の処置をとる必要はない。回復単位は完了する。

関連タスク

IBM サポートへの連絡

Db2 マネージャー・コード (X'F5')

ここにリストされていない Db2 マネージャー理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティ・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- SYS1.LOGREC の印刷出力。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。

00F50000

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

QSGDATA システム・パラメーターが正しく指定されているかどうかを確認し、キュー・マネージャーを再始動する。

問題が解決しない場合は、[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50001

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

問題が解決しない場合は、[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50002

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

タスクは異常終了する。キュー・マネージャーの処理は続行されるものの、キュー・マネージャーが正常に終了されなかったり、そのために Db2 が予告なしに終了されたりする可能性がある。

システム・プログラマーの応答

「Db2 for z/OS メッセージおよびコード」を参照し、付随するメッセージの完了コードおよび理由コードについて調べ、要求される診断情報を収集する。さらに、[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50003

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

タスクは異常終了する。キュー・マネージャーの処理は続けられる。

システム・プログラマーの応答

[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50004

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

モジュール DSNRLI、DSNHDIR、DSNWLIR、ATRCMIT および ATRBACK をリンク・リストか steplib 連結を通して使用可能にする。キュー・マネージャーを再始動する。

問題が解決しない場合は、[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50006

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

同じキュー共有グループに属するキュー・マネージャーは、すべて同じ Db2 データ共有グループに接続されなければならないため、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーで、QSGDATA システム・パラメーターに同じ Db2 データ共有グループが指定されていることを確認する。キュー・マネージャーを再始動する。

[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50007

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

QSGDATA システム・パラメーターで指定された Db2 サブシステムを同じ QSGDATA システム・パラメーターで指定された Db2 データ共有グループのメンバーにする。キュー・マネージャーを再始動する。

問題が解決しない場合、「Db2 for z/OS メッセージおよびコード」を参照し、付随するメッセージの完了コードおよび理由コードについて調べ、要求される診断情報を収集する。さらに、[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50008

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

タスクは異常終了し、処理は続行される。

システム・プログラマーの応答

[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50009

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

「[Db2 for z/OS メッセージおよびコード](#)」を参照し、付随するメッセージの完了コードおよび理由コードについて調べ、要求される診断情報を収集する。さらに、[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50010

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

エラーの説明と、収集する必要がある診断情報について、[z/OS「MVS」プログラミング: シスプレックス・サービス解説書](#)を参照する。さらに、[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50013

CSQ.ADMIN_B_QMGR 表に、このキュー・マネージャーとキュー共有グループの組み合わせでキュー・マネージャー項目が存在しないか、または項目が正しくない。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

Db2 データ共有グループの CSQ.ADMIN_B_QMGR 表を調べ、キュー・マネージャーの項目が定義され、それが正しいキュー共有グループに関連付けられているようにする。

直前のリリースの MQ からマイグレーションしようとしている場合は、Db2 表を現行リリースの形式に更新したかどうか確かめる。異なるリリース間のマイグレーションと互換性については、[保守および移行](#)を参照。

キュー・マネージャーを再始動する。問題が解決しない場合は、[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50014

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

Db2 に関連したインストールおよびカスタマイズのタスクがすべて正常に完了していたかどうかを確認する。キュー・マネージャーを再始動する。

問題が解決しない場合、「[Db2 for z/OS メッセージおよびコード](#)」を参照し、付随するメッセージの完了コードおよび理由コードについて調べ、要求される診断情報を収集する。さらに、[1099 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50015

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

問題が解決しない場合、「[Db2 for z/OS メッセージおよびコード](#)」を参照し、付随するメッセージの完了コードおよび理由コードについて調べ、要求される診断情報を収集する。さらに、[1099 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50016

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

問題が解決しない場合、「[Db2 for z/OS メッセージおよびコード](#)」を参照し、付随するメッセージの完了コードおよび理由コードについて調べ、要求される診断情報を収集する。さらに、[1099 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50017

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

付随するメッセージの完了コードおよび理由コードについて、[z/OS 「MVS」プログラミング: システム・サービス解説書](#)を参照する。

キュー・マネージャーを再始動する。問題が解決しない場合は、[1099 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー共有グループ (QSG) 内の 1 つ以上のキュー・マネージャーが、QSG の XCF グループにメンバー項目が持たない場合に、このエラーが発生する可能性がある。

xxxx をキュー共有グループ名で置き換えて次の z/OS コマンドを入力する。

```
D XCF,GRP,CSQGxxxx,ALL
```

これにより、XCF グループのメンバーがリストされる。いずれかのキュー・マネージャーが QSG のメンバーとしては定義されているが、XCF グループに項目がない場合、CSQ5PQSG ユーティリティの ADD QMGR コマンドを使用してそのキュー・マネージャーの XCF グループ項目を復元する。このユーティリティは、XCF グループに項目がないキュー・マネージャーごとに実行する必要がある。

00F50018

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

付随するメッセージの完了コードおよび理由コードについて、[z/OS「MVS」プログラミング: システム・サービス解説書](#)を参照する。

キュー・マネージャーを再始動する。問題が解決しない場合は、[1099 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50019

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

付随するメッセージの完了コードおよび理由コードについて、[z/OS「MVS」プログラミング: システム・サービス解説書](#)を参照する。

キュー・マネージャーを再始動する。問題が解決しない場合は、[1099 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F5001C

CSQ5_DB2_UNAVAILABLE

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

付随するメッセージの完了コードおよび理由コードについて、[z/OS「MVS」プログラミング: システム・サービス解説書](#)を参照する。

キュー・マネージャーを再始動する。問題が解決しない場合は、[1099 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50021

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

付随するメッセージの完了コードおよび理由コードについて、[z/OS「MVS」プログラミング: システム・サービス解説書](#)を参照する。

キュー・マネージャーを再始動する。問題が解決しない場合は、[1099 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50024

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

タスクは異常終了し、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

問題が解決しない場合は、[1099 ページの『診断』](#)にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50025

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

タスクは異常終了し、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50026

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

タスクは異常終了し、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50027

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

タスクは異常終了し、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50028

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

タスクは異常終了し、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

Db2 や RRS で障害が発生した直後には、一時的にこのような状態が生じる場合がある。問題が解決しない場合は、[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を Db2 コマンド **DISPLAY THREAD(*)** の出力とともに収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F50029

キュー・マネージャーがサポートする MQ のバージョンと、キュー共有グループの他メンバーがサポートする MQ のバージョンが一致しないことが検出された。

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答



メッセージを発行するキュー・マネージャーによってサポートされているレベルより低いキュー共有グループ内のキュー・マネージャーを見つけ、少なくともサポートされているレベルにアップグレードしてから、キュー・マネージャーの再始動を試行してください。

リリース間の互換性については、[z/OS でのキュー共有グループの共存](#)を参照してください。

正しいバージョンが実行されている場合は、Db2 にリストされた項目と、キュー・マネージャーが接続されている Db2 データ共有グループの CSQ.ADMIN_B_QMGR 表の印刷出力を収集して、IBM サポートに連絡する。

00F50033

1つ以上のアクティブ・ログ・データ・セットが暗号化されていること、また、アクティブ・ログ暗号化がキュー共有グループの1つ以上の他のメンバーによってサポートされていないことが、キュー・マネージャーによって検出されました。

この異常終了の前にメッセージ [CSQ5040E](#) が出される。障害の詳細については、そのメッセージの説明を参照

システム・アクション

キュー・マネージャーは終了し、レコードが SYS1.LOGREC に書き込まれ、ダンプがとられる。

00F50901

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

ジョブは完了コード X'5C6' で異常終了し、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F51030

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

タスクは異常終了し、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

RRS が終了している場合は、これを再始動する。RRS が終了していない場合は、[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F51031

Db2 接続スレッドで、内部エラーが発生した。

システム・アクション

タスクは異常終了し、新しいタスクが作成される。「未完了の」Db2 要求がある場合、ダンプがとられる。

システム・プログラマーの応答

なし。新しい Db2 サーバー・タスクが自動的に再作成されて、終了されたタスクを置き換える。問題が解決しない場合は、[1099 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

汎用コマンド・プリプロセッサ・コード (X'F9')

ここにリストされていないコマンド前処理プログラム理由コードが発生する場合は、内部エラーが発生しています。以下の診断項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

診断

- エラーを引き起こしたアクションの説明。該当する場合は、アプリケーション・プログラムのリスト、またはエラーの発生時に実行されていたユーティリティー・プログラムへの入力ストリングのいずれか。
- エラーが発生するまでの期間のコンソール出力。
- キュー・マネージャーのジョブ・ログ。
- エラーが原因のシステム・ダンプ。
- 適切な、IBM MQ、z/OS、Db2、CICS、および IMS のサービス・レベル。
- IBM MQ の操作および制御パネルを使用している場合は、ISPF パネル名。
- エラーが発生する前に発行されたコマンド。

00F90000

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

コマンドの実行は異常終了する。コマンドが正しく入力されていた場合には、部分的または完全に実行されていることがある。

システム・プログラマーの応答

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

CICS アダプターまたは IMS アダプターの再始動が必要な場合があります。

00F90001

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

コマンドの実行は異常終了する。コマンドが正しく入力されていた場合には、部分的または完全に実行されていることがある。

システム・プログラマーの応答

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

CICS アダプターまたは IMS アダプターの再始動が必要な場合があります。

00F90002

z/OS の複数コンソール・サポート (MCS) サービスのルーチン。初期化できませんでした。この状態は、アドレス・スペースのエラーを意味することがある。

システム・アクション

初期設定は停止し、キュー・マネージャーは終了させられる。

システム・プログラマーの応答

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

キュー・マネージャーを再始動する。

00F90003

z/OS の複数コンソール・サポート (MCS) サービスのルーチンが初期設定できなかった。

システム・アクション

このエラーがモジュール CSQ9SCNM によって出された場合には、キュー・マネージャーの初期設定は停止し、キュー・マネージャーは終了させられる。このエラーがモジュール CSQ9SCN6 によって出された場合には、関連するコンソールからのコマンドが実行され、正常に続けられる。

システム・プログラマーの応答

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F90004

z/OS の複数コンソール・サポート (MCS) サービスのルーチンが、論理エラーを検出しました。

システム・アクション

コマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F90005

z/OS の複数コンソール・サポート (MCS) サービスのルーチンが、ESTAE 回復環境を作成することができなかった。この状態は、z/OS の ESTAE サービスからゼロ以外の戻りコードが戻されたときに検出さ

れる。関連する z/OS コンソールからのコマンドは実行されない。ESTAE 戻りコードの説明については、「[z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書](#)」の第 1 巻を参照してください。

システム・アクション

コマンド処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F90006

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

エージェント割り振りは終了する。

システム・プログラマーの応答

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F90007

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

統計更新は完了されない。将来の問題を防止するために、統計ブロック・アドレスが CGDA から消去される。コマンド統計カウントはそれ以上維持されない。コマンドの処理が再試行され、正常に完了する。

システム・プログラマーの応答

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F90008

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

機能は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F90009

この理由コードは、CSQWRCRD サービスによって与えられたデータの後に、モジュール CSQ9SCN9 が SDWA 可変記録域 (VRA) に追加した情報を文書化するために使用される。CSQ9SCN9 が SYS1.LOGREC にエラーを記録しており、VRA の理由コードが X'00F9xxxx' の形式でない場合は、理由コードは X'00F90009' に変更される。これは、SYS1.LOGREC 項目を調べる場合に、理由コードから、どのような追加データが VRA に入れられたかを判別できるようにするために行われる。理由コードは、マクロ IHAVRA によってマップされる、VRA 内の最初のデータ項目である。

システム・プログラマーの応答

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F9000A

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

コマンドの実行は異常終了する。コマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F9000B

CSA ストレージを入手しようとしたところ、内部エラーが起こった。使用可能な CSA ストレージがなかったため、または過度の量のストレージが要求されたために、ストレージ要求を満足させることができなかった。要求されたストレージの量は、解析中のコマンドの長さから判別される。通常は、数百バイトである。

システム・アクション

コマンドの実行は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

CICS アダプター、IMS アダプター、またはキュー・マネージャーを再始動する必要がある場合がある。

問題が解決しない場合は、[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F9000C

内部エラーが発生しました。

呼び出されたコマンド・プロセッサが、z/OS 複数行 WTO (オペレーター宛メッセージ) に組み込むためにフォーマットされたメッセージを戻そうとしました。

システム・アクション

コマンドの実行は異常終了する。

システム・プログラマーの応答

エラーのあるコマンドは、メッセージ CSQ9017E によって識別される。CICS または IMS アダプター、あるいはキュー・マネージャーの再始動が必要になる場合があります。

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F9000D

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

キュー・マネージャーの始動は終了する。

システム・プログラマーの応答

キュー・マネージャーを再始動する。

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F9000E

内部エラーが発生しました。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

[1105 ページの『診断』](#) にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

00F9000F

MQ が、コマンド検査で使用するデフォルトのユーザー ID を突き止めることができなかった。これは、CSQ6SYSP がシステム・パラメーター・ロード・モジュールに入っていないことを示す。

システム・アクション

現行の実行単位は、完了コード X'5C6' で終了する。

システム・プログラマーの応答

CSQ6SYSP をシステム・パラメーター・ロード・モジュールに入れるようにする。必要であればキュー・マネージャーを再始動する。

00F90010

コマンドの処理中に、内部エラーが発生した。

システム・アクション

コマンドの実行は異常終了する。コマンドは実行されない。

システム・プログラマーの応答

1105 ページの『[診断](#)』にリストされた項目を収集して、IBM サポートに連絡してください。

関連タスク

[IBM サポートへの連絡](#)

▶ z/OS IBM MQ CICS アダプター異常終了コード

IBM MQ 9.0.0 以降でサポートされるすべての CICS バージョンは、CICS 提供バージョンのアダプターを使用します。詳しくは、CICS 資料の「[トランザクション異常終了コード](#)」セクションを参照してください。

▶ z/OS IBM MQ CICS ブリッジ異常終了コード

IBM MQ 9.0.0 でサポートされているすべての CICS バージョン、およびそれ以降は、CICS 提供のブリッジのバージョンを使用してください。詳しくは、CICS 資料の「[トランザクション異常終了コード](#)」セクションを参照してください。

▶ z/OS IBM MQ コンポーネント ID

IBM MQ for z/OS はコンポーネント・ベースのアーキテクチャーを採用していて、各コンポーネントは固有の ID コードを使用します。これらの ID コードは、一部の通知メッセージに表示されます。

コンポーネント	ID	16 進 ID
バッチ・アダプター	B	X'C2'
CICS アダプター	C	X'C3'
カップリング・ファシリティ管理プログラム	E	X'C5'
メッセージ生成プログラム	F	X'C6'
機能回復マネージャー	G	X'C7'
セキュリティー・マネージャー	H	X'C8'
データ・マネージャー	I	X'C9'
回復ログ・マネージャー	J	X'D1'
ロック管理プログラム	L	X'D3'
接続マネージャー	m	X'94'
メッセージ管理プログラム	M	X'D4'
コマンド・サーバー	N	X'D5'
操作および制御	O	X'D6'

表 15. IBM MQ メッセージおよびコードで使用されるコンポーネント ID (続き)

コンポーネント	ID	16 進 ID
バッファ・マネージャー	P	X'D7'
IMS アダプター	Q	X'D8'
回復マネージャー	R	X'D9'
ストレージ管理プログラム	S	X'E2'
タイマー・サービス	T	X'E3'
ユーティリティ	U	X'E4'
エージェント・サービス	V	X'E5'
観測機能	W	X'E6'
分散キュー	X	X'E7'
初期設定手順および汎用サービス	Y	X'E8'
システム・パラメーター管理プログラム	Z	X'E9'
Advanced Message Security	0 (ゼロ)	X'F0'
サービス機能	1	X'F1'
IBM MQ - IMS ブリッジ	2	X'F2'
サブシステム・サポート	3	X'F3'
Db2 マネージャー	5	X'F5'
汎用コマンド・プロセッサ	9	X'F9'

z/OS z/OS の通信プロトコル戻りコード

IBM MQ for z/OS によって使用される通信プロトコルは、独自の戻りコードを発行できます。この表は、各プロトコルで使用される戻りコードを特定するために使用します。

このトピックの表には、分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返される、TCP/IP および APPC/MVS の一般的な戻りコードを示します。

- [1110 ページの『TCP/IP z/OS UNIX System Services ソケットの戻りコード』](#)
- [APPC/MVS 戻りコード](#)

戻りコードがリストされていない場合、またはさらに詳細情報を入手する場合は、各表に示されている資料を参照してください。

受信した戻りコードが X'7D0' 以上であれば、それは IBM MQ によって出された MQRC_* 戻りコードのいずれかです。これらのコードは [1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#) にリストされています。

TCP/IP z/OS UNIX System Services ソケットの戻りコード

詳細および詳細な戻りコードについては、「[z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード](#)」を参照してください。

表 16. z/OS UNIX System Services ソケットの戻りコード	
戻りコード (16 進)	説明
0001	ドメインのエラー
0002	結果が大きすぎる

表 16. z/OS UNIX System Services ソケットの戻りコード (続き)

戻りコード (16 進)	説明
006F	許可されない
0070	資源が一時的に使用不能
0071	ファイル記述子が正しくない
0072	資源は使用中
0073	子プロセスが存在しない
0074	資源デッドロックが回避された
0075	ファイルが存在する
0076	アドレスが正しくない
0077	ファイルが大きすぎる
0078	機能呼び出しが中断された
0079	パラメーターが正しくない
007A	入出力エラーが発生した
007B	指定されたファイルはディレクトリーである
007C	このプロセス用にオープンしているファイルが多すぎる
007D	リンクが多すぎる
007E	ファイル名が長すぎる
007F	システムでオープンしているファイルが多すぎる
0080	装置が存在しない
0081	該当するファイル、ディレクトリー、または IPC メンバーが存在しない
0082	exec 呼び出しにフォーマット・エラー (DFSMS エラー) があった。
0083	ロックが利用不能
0084	十分なスペースを確保できない
0085	装置にフリー・スペースがないか、または IPC メンバー ID を作成できるだけのスペースを確保できない
0086	機能が設定されていない
0087	ディレクトリーではない
0088	ディレクトリーが空でない
0089	入出力制御オペレーターが正しくない
008A	装置またはアドレスが存在しない
008B	この操作は許可されていない
008C	パイプが切断されている
008D	指定されたファイル・システムは読み取り専用である
008E	不正シーク
008F	該当するプロセスまたはスレッドが存在しない

表 16. z/OS UNIX System Services ソケットの戻りコード (続き)

戻りコード (16 進)	説明
0090	別のファイル・システム上にあるファイルにリンクしようとした
0091	パラメーター・リストが長すぎるか、または受信するメッセージが長すぎてバッファーに入りきらない
0092	シンボリック・リンクでループが検出された
0093	バイト順序が正しくない
0095	値が大きすぎて、このデータ・タイプでは格納できない
0096	OpenMVS カーネルが活動状態でない
0097	動的割り振りエラー
0098	カタログ・ボリューム・アクセス機能のエラー
0099	カタログ取得エラー
009C	プロセス初期設定のエラー
009D	MVS の環境エラーまたは内部エラーが発生した。
009E	サービスに無効なパラメーターが渡された
009F	ファイル・システムで永続ファイル・エラーが検出された
00A2	ファイル・システムでシステム・エラーが検出された
00A3	SAF/RACF での取り出しエラー
00A4	SAF/RACF エラー
00A7	OpenMVS 版 C RTL へのアクセスが拒否された
00A8	指定された資源のパスワードの有効期限が切れている
00A9	指定された新しいパスワードが無効である
00AA	WLM サービスがエラー終了した
03EA	クライアント・インターフェース・コード (socket () および accept () に対する) により割り当てられたソケット番号が範囲外である
03EB	クライアント・インターフェース・コードにより割り当てられたソケット番号はすでに使用中である
03ED	オフロード・ボックス・エラー
03EE	オフロード・ボックス再始動
03EF	オフロード・ボックスが異常終了
03F0	すでに矛盾する呼び出しがソケット上で未解決である
03F1	SOCKcallCANCEL 要求を使用して要求が取り消された
03F3	SetIbmOpt により、設定されていない PFS または Sockets 用 PFS でない PFS の名前が指定された
044C	ブロック装置が必要
044D	テキスト・ファイルは使用中
044E	記述子に非ブロッキングを示すマークが付いているため、要求された機能を即時完了できない

表 16. z/OS UNIX System Services ソケットの戻りコード (続き)

戻りコード (16 進)	説明
044F	操作は進行中
0450	操作はすでに進行中
0451	非ソケットでのソケット操作
0452	宛先アドレスが必要
0453	1 回の送信で送ることが必要とされているが、メッセージが大きすぎるため、それができない
0454	ソケット・タイプが正しくない
0455	プロトコル・オプションまたはソケット・オプションが使用不可
0456	プロトコルがサポートされていない
0457	ソケット・タイプがサポートされていない
0458	参照されたソケットが、要求された機能をサポートするタイプでない
0459	プロトコル・ファミリーがサポートされていない
045A	アドレス・ファミリーはサポートされていない
045B	アドレスはすでに使用中である
045C	要求アドレスに割り当てられない
045D	ネットワークがダウン
045E	ネットワークが到達不能
045F	ネットワークがリセット時に接続をドロップ
0460	ソフトウェアによる接続切断
0461	接続が対等機能によりリセットされた
0462	バッファー・スペース不足
0463	ソケットはすでに接続されている
0464	ソケットは接続されていない
0465	ソケット終了後は送信できない
0466	参照が多すぎて接続できない
0467	接続タイムアウト
0468	接続しようとしたが拒否された
0469	ホストが異常終了
046A	ホストへの経路がない
046B	プロセスが多すぎる
046C	ユーザーが多すぎる
046D	ディスク割り当てが超過している
046E	NFS ファイル・ハンドルが古い
046F	経路にリモート・レベルが多すぎる
0470	装置はストリームでない

表 16. z/OS UNIX System Services ソケットの戻りコード (続き)

戻りコード (16 進)	説明
0471	タイマー満了
0472	ストリーム資源切れ
0473	必要とされるタイプのメッセージがない
0474	読み取り不能なメッセージを読み取ろうとしている
0475	ID は除去された
0476	マシンがネットワーク上にない
0477	オブジェクトがリモートである
0478	リンクが切断された
0479	公示エラー
047A	srmount エラー
047B	送信時通信エラー
047C	プロトコル・エラー
047D	プロトコル・エラー
047E	マウント間ポイント
047F	リモート・アドレス変更
0480	非同期入出力要求が取り消された
0481	ソケット送信/受信時に障害が発生した
0482	ストリーム未接続エラー
0483	ストリーム・プッシュ・オブジェクトのエラー
0484	ストリーム・クローズ・エラー
0485	ストリーム関係エラー
0486	Tcp エラー
その他	「z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード」の資料を参照

APPC/MVS 戻りコード

この節の表では、以下の戻りコードが示されています。

- [APPC 戻りコード](#)
- [APPC 割り振りサービス戻りコード](#)
- [APPC 理由コード](#)

詳しくは、「[z/OS MVS Programming: Writing Transaction Programs for APPC/MVS](#)」および「[z/OS MVS Programming: Writing Servers for APPC/MVS](#)」資料を参照してください。

APPC 戻りコード

この表では、通信プロトコルとして APPC/MVS を使用する場合に、APPC/MVS から分散キューイング・コンポーネントからのメッセージに戻される戻りコードが示されています。これらの戻りコードは、呼び出しにตอบสนองしてローカル・プログラムに戻されます。

表 17. APPC 戻りコードおよびその意味

戻りコード (16 進)	説明
00	ローカル・プログラムによって発行された呼び出しが正常に実行された。呼び出しが ECB の Notify_type を指定していた場合、呼び出し処理は非同期に実行され、その処理の完了時に ECB が通知される。
01	呼び出し側が、immediate 以外の allocate_type を指定した。APPC/MVS がパートナー LU を使ってセッションを確立できなかったか、VTAM が会話を確立できなかった。このケースでは (allocate_type が immediate である場合)、APPC/MVS はこの戻りコードを "unsuccessful" に変換します。
02	一時的な状態のため、会話をセッションに割り振ることができない。プログラムは、割り振り要求を再試行することができる。システムは、CMALLOC 動詞で指定された allocate_type が immediate 以外のとき、この戻りコードを戻す。
03	ローカル・プログラムが、Conversation_type パラメーターが Basic_conversation または Mapped_conversation のどちらかに設定された割り振り呼び出しを実行したため、パートナー LU は割り振り要求を拒否した。パートナー・プログラムは、マップ式または基本会話プロトコル境界をサポートしない。この戻りコードは、割り振り後の呼び出しで戻される。
05	パートナー・プログラムに 1 つ以上の初期設定パラメーター (PIP) 変数定義があるため、パートナー LU は、ATBALLC または ATBALC2 (割り振り) 要求を拒否した。APPC/MVS では、これらのパラメーターはサポートされない。この戻りコードは、割り振り後の呼び出しで戻される。CPI 通信を使用した割り振り要求では、このコードは戻されない。
06	アクセス・セキュリティ情報が無効であるため、パートナー LU は割り振り要求を拒否した。この戻りコードは、割り振り後の呼び出しで戻される。
08	ローカル・プログラムによって、パートナー・プログラムでサポートされていない同期レベルが (Sync_level パラメーターで) 指定されていたため、パートナー LU は割り振り要求を拒否した。この戻りコードは、割り振り後の呼び出しで戻される。
09	パートナー LU によって認識されないパートナー・プログラムがローカル・プログラムで指定されたため、パートナー LU は割り振り要求を拒否した。この戻りコードは、割り振り後の呼び出しで戻される。
0A	パートナー LU によって認識されるが開始できないパートナー・プログラムがローカル・プログラムで指定されたため、パートナー LU は割り振り要求を拒否した。この状態は一時的なものではないので、プログラムで割り振り要求を再試行してはならない。この戻りコードは、割り振り後の呼び出しで戻される。
0B	パートナー LU によって認識されるが、現在は開始できないパートナー・プログラムがローカル・プログラムで指定されたため、パートナー LU は割り振り要求を拒否した。この条件は一時的なものと思われるので、プログラムで割り振り要求を再試行することができる。この戻りコードは、割り振り後の呼び出しで戻される。
11	パートナー・プログラムが、Deallocate_abend の Deallocate_type で割り振り解除呼び出しを実行した、またはパートナー・プログラムの異常終了状態によりパートナー LU がこれを実行した。この呼び出しが実行されたときにパートナー・プログラムが受信状態であった場合、ローカル・プログラムによって送信されたが、パートナー・プログラムによってまだ受信されていない情報は除去される。この戻りコードは、プログラムが送信または受信状態で実行した呼び出しのときにローカル・プログラムに対して報告される。

表 17. APPC 戻りコードおよびその意味 (続き)	
戻りコード (16 進)	説明
12	<p>パートナー・プログラムは、Deallocate_sync_level または Deallocate_flush の Deallocate_type で基本会話またはマップ式会話に割り振り解除呼び出しを実行した。この戻りコードは、プログラムが受信状態で出した呼び出しのときにローカル・プログラムに対して報告される。</p>
13	<p>ローカル・プログラムが、無効な引数を指定した呼び出しを実行した。この戻りコードの特定の理由は、以下の呼び出し可能サービスに該当する。</p> <p>ATBALC2 または ATBALLC (LU 6.2 割り振り)</p> <ul style="list-style-type: none"> • TP 名の長さが 1 から 64 文字の範囲ではなかった。 • SYMDEST 名または TP 名のどちらかの長さが指定されていなかった。 • SNASVCMG がモード名に指定されている。 • TP 名の先頭文字に X'06' が使用されている。 • SNA サービス TP 名がマップ式会話動詞で使用されている。 • パートナー LU 名が無効である。 • モード名が無効である。 • 指定されたローカル LU 名が未定義であるか、許可されない。 <p>CMALLC (CPI-C 割り振り)</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNASVCMG がモード名に指定されている。 • TP 名の先頭文字に X'06' が使用されている。 • SNA サービス TP 名がマップ式会話動詞で使用されている。 • モード名が無効である。
14	<p>製品固有エラーが検出された。システムは、エラーを説明する症状レコードを SYS1.LOGREC に書き込む。</p>
15	<p>次のいずれかを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パートナー・プログラムがマップ式会話で Send_error 呼び出しを行い、パートナー・プログラムの会話が送信状態にあった。マップ式会話プロトコル境界での切り捨ては行われぬ。この戻りコードは、データ・レコードの受信前あるいは 1 つ以上のデータ・レコードの受信後、受信呼び出しのときにローカル・プログラムに対して報告される。 • パートナー・プログラムが、タイプ・パラメーターの値を PROG に指定して Send_error 呼び出しを行い、そのパートナー・プログラムが送信状態にあり、この呼び出しによって論理レコードが切り捨てられなかった。プログラムが論理レコードの送信前または完全な論理レコードの送信後に Send_error を実行した場合は、基本会話プロトコル境界での切り捨ては行われぬ。この戻りコードは、論理レコードの受信前あるいは 1 つ以上の完全な論理レコードの受信後に実行された受信呼び出しのときに、ローカル・プログラムに対して報告される。

表 17. APPC 戻りコードおよびその意味 (続き)

戻りコード (16 進)	説明
16	<p>パートナー・プログラムがマップ式会話で Send_error 呼び出しを行ったか、タイプ・パラメーターの値に PROG を指定した基本会話で Send_error 呼び出しを行い、そのパートナー・プログラムの会話が受信または確認状態であった。この呼び出しによって情報は除去される。情報が除去されるのは、プログラムが、パートナー・プログラムによって送られたすべての情報を受信する前に受信状態で Send_error を送出した場合である。プログラムが、確認状態または受信状態で、パートナー・プログラムによって送られたすべての情報を受信した後に呼び出しを実行する場合は、情報は除去されない。通常戻りコードは、呼び出しの種類とその実行のタイミングによって、情報の送信前に呼び出しが出されるときに、ローカル・プログラムに対して報告される。</p>
17	<p>パートナー・プログラムが、タイプ・パラメーターの値を PROG に指定して Send_error 呼び出しを行い、そのパートナー・プログラムが送信状態にあり、この呼び出しによって1つの論理レコードが切り捨てられた。プログラムが論理レコードの送信を開始して、完全な論理レコードを送信する前に Send_error 呼び出しを行った場合、基本会話プロトコル境界でこのレコードの切り捨てが起こる。この戻りコードは、切り捨てられた論理レコードの受信後に実行した受信呼び出しのときにローカル・プログラムに対して報告される。</p>

表 17. APPC 戻りコードおよびその意味 (続き)

戻りコード (16 進)	説明
18	<p>ローカル・プログラムが呼び出しを実行し、その呼び出しの 1 つまたは複数のパラメーターでプログラミング・エラーが検出された。この戻りコードの特定の理由は、以下の呼び出し可能サービスに該当する。</p> <p>ATBALC2 または ATBALLC (LU 6.2 割り振り)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 許可のない呼び出し側によってゼロ以外の TP_ID が渡された。 • Sec_pgm タイプ・セキュリティーの場合、ユーザー ID とパスワードの両方が指定されていなかった。 • Sec_Pgm タイプ・セキュリティーの場合、ユーザー ID がブランクのパスワードで指定されていたか、パスワードがブランクのユーザー ID で指定されていた。 • SYMDEST 名が関連情報で検出されなかった。 • 指定 TP_ID はアドレス・スペースに関連付けられていない。 • 許可のない呼び出し側によって Notify_Type に ECB が指定された。 <p>ATBCFM (LU 6.2 割り振り)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 許可のない呼び出し側によって Notify_type に ECB が指定された。 • 会話の「Sync_Level」フィールドが sync_level_none と同じであった。 <p>ATBDEAL (LU 6.2 割り振り)</p> <ul style="list-style-type: none"> • deallocate_confirm の Deallocate_type が指定され、会話の「Sync_Level」フィールドが sync_level_none と同じであった。 <p>ATBPTR (LU 6.2 受信準備)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Prep_to_receive_sync_level の Prepare_To_Receive_Type が指定され、会話の「Sync_Level」フィールドが sync_level_none と同じであった。 <p>ATBSEND (LU 6.2 送信)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「2-byte LL (2 バイト LL)」フィールドの値が無効であった。 • Send_and_Confirm の Send_Type が指定され、会話の「Sync_Level」フィールドが sync_level_none と同じであった。 <p>CMINIT (CPI-C 会話初期設定)</p> <p>SYMDEST 名が関連情報で検出されなかった。</p>
19	<p>ローカル・プログラムが、呼び出しが無効な状態でその呼び出しを実行した。変数には何も入れられないので、プログラムは、その呼び出しに関連したその他の戻り変数を調べる必要はない。会話の状態は変化しない。</p> <p>次の呼び出し可能サービスのいずれかでエラーが発生した場合、会話は送信状態でプログラムが開始されたが、プログラムは論理レコードの送信を終了しなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ATBCFM (LU 6.2 割り振り) • ATBDEAL (LU 6.2 割り振り) • ATBPTR (LU 6.2 割り振り) • ATBRCVW および ATBRCVI (LU 6.2 受信後待機および即時受信) • ATBSEND (LU 6.2 送信)

表 17. APPC 戻りコードおよびその意味 (続き)

戻りコード (16 進)	説明
1A	障害が発生し、会話が早期終了した。この状態は一時的なものではないので、この状態が訂正されるまで、プログラムはトランザクションを再試行してはならない。
1B	障害が発生し、会話が早期終了した。この状況は一時的なものと思われるので、プログラムでトランザクションを再試行することができる。
1C	ローカル・プログラムによって実行された呼び出しが失敗した。この戻りコードは、失敗した呼び出しで戻される。 このコードが ATBRCVI (LU6.2 即時受信) 呼び出し可能サービスによって戻された場合、戻されるデータはない。
1E	パートナー・プログラムが、 Deallocate_abend_SVC の Deallocate_type に指定して割り振り解除呼び出しを実行した。この呼び出しが実行されたときにパートナー・プログラムが受信状態であった場合、ローカル・プログラムによって送信されたが、パートナー・プログラムによってまだ受信されていない情報は除去される。この戻りコードは、プログラムが送信または受信状態で実行した呼び出しのときにローカル・プログラムに対して報告される。
1F	パートナー・プログラムが、 Deallocate_abend_timer の Deallocate_type に指定して割り振り解除呼び出しを実行した。この呼び出しが実行されたときにパートナー・プログラムが受信状態であった場合、ローカル・プログラムによって送信されたが、パートナー・プログラムによってまだ受信されていない情報は除去される。この戻りコードは、プログラムが送信または受信状態で実行した呼び出しのときにローカル・プログラムに対して報告される。
20	パートナー・プログラムが、タイプ・パラメーターの値を SVC に指定して Send_error 呼び出しを行い、そのパートナー・プログラムが送信状態にあり、この呼び出しによって論理レコードが切り捨てられなかった。この戻りコードは、受信呼び出しで戻される。CPI 通信を使用した Send_error 要求では、このコードは戻されない。
21	パートナー・プログラムが、タイプ・パラメーターの値を SVC に指定して Send_error 呼び出しを行い、そのパートナー・プログラムが送信、確認、または Sync_Point 状態にあり、この呼び出しによって情報が切り捨てられた可能性がある。この戻りコードは通常、ローカル・プログラムが情報をパートナー・プログラムに送信した後に実行した呼び出しのときに、ローカル・プログラムに対して戻される。ただし、その呼び出しを実行したタイミングによっては、ローカル・プログラムが情報を送信する前に実行した呼び出しで、戻りコードが戻される場合がある。 CPI 通信を使用した Send_error 要求の場合は、このコードは戻されない。
22	パートナー・プログラムが、タイプ・パラメーターの値を SVC に指定して Send_error 呼び出しを行い、そのパートナー・プログラムが送信状態にあり、この呼び出しによって論理レコードが切り捨てられた。プログラムが論理レコードを送信を開始して、完全なレコードを送信する前に Send_error を出した場合、このレコードの切り捨てが行われる。この戻りコードは、ローカル・プログラムが切り捨てられた論理レコードの受信後に出した受信呼び出しのときにローカル・プログラムに対して戻される。 CPI 通信を使用した Send_error 要求の場合は、このコードは戻されない。
40	APPC/MVS は現在活動状態ではない。APPC が利用可能になってから、サービスを再度呼び出す。

表 17. APPC 戻りコードおよびその意味 (続き)	
戻りコード (16 進)	説明
その他	詳しくは、「 z/OS MVS Programming: Writing Transaction Programs for APPC/MVS 」および「 z/OS MVS Programming: Writing Servers for APPC/MVS 」資料を参照してください。

APPC 割り振りサービス戻りコード

この表では、通信プロトコルとして APPC/MVS を使用する場合に、APPC/MVS 割り振りキュー・サービスから分散キューイング・コンポーネントからのメッセージに戻される戻りコードが示されています

表 18. APPC 割り振りサービス戻りコードとその意味	
戻りコード (16 進)	説明
0	サービスは要求どおりに完了した。
4	サービスは完了したが、予期したとおりでない可能性がある。警告状態の説明については、理由コード・パラメーターを参照。
8	ユーザー提供パラメーターでエラーが検出された。例えば、必須文字セット以外の文字がパラメーターに含まれている。エラーになったパラメーターを判別するには、理由コード・パラメーターを参照。
10	サービスが失敗に終わった。この原因としては、構文エラー以外のパラメーター・エラーか、環境エラーが考えられる。例えば、指定された LU 名は構文的には有効だったが、LU が APPC/MVS に対して定義されていない。環境エラーの例としては、呼び出し側がロック保留中にサービス呼び出した場合がある。特定のエラー原因については、理由コード・パラメーターを参照し、エラーが訂正可能であるか、サービスを再発行することが可能かどうかを判別する。
20	APPC/MVS サービス障害。戻りコードと理由コードを記録してシステム・プログラマーに渡し、適切な IBM サポート技術員に連絡してもらう。
40	APPC/MVS は現在活動状態ではない。APPC が利用可能になってから、サービスを再度呼び出す。
その他	詳しくは、「 z/OS MVS Programming: Writing Transaction Programs for APPC/MVS 」および「 z/OS MVS Programming: Writing Servers for APPC/MVS 」資料を参照してください。

APPC 理由コード

この表では、通信プロトコルとして APPC/MVS を使用する場合に、APPC/MVS 割り振りキュー・サービスから分散キューイング・コンポーネントからのメッセージに戻される理由コードが文書化されています

注：APPC 戻りコードには、理由コードがない場合もあります。この場合は、理由コード・フィールドの値を無視できます。詳しくは、1114 ページの『[APPC/MVS 戻りコード](#)』の文書を参照してください。

表 19. APPC 理由コードとその意味	
戻りコード (16 進)	説明
1	前の Register_For_Allocate 呼び出しと重複する Register_For_Allocates 呼び出しがアドレス・スペースから実行された (すなわち、TP 名、ローカル LU 名、パートナー LU 名、ユーザー ID、およびプロファイルに指定された値がすべて、Register_For_Allocates サービスの前の呼び出しで指定されたものと一致する)。

表 19. APPC 理由コードとその意味 (続き)	
戻りコード (16 進)	説明
2	TP 名が必要なのに、何も指定されなかった。
3	指定された TP 名に、無効な文字が含まれている。
4	指定された TP 名の長さが許容範囲外である。
5	ローカル LU 名が必要なのに、何も指定されなかった。
7	指定したパラメーターがアクセス不能と検出されたために、非同期呼び出しが失敗した。
8	サービスの呼び出し中に 1 つ以上のロックを呼び出し側が保留にした。
0A	トランザクション・スケジューラーが、使用を許可されていない Register_For_Allocate サービスを呼び出した。
0B	指定された記号宛先名が、関連情報データ・セットで検出されない。
0C	指定されたローカル LU は未定義である。
0D	指定されたローカル LU は、インバウンド割り振り要求を受信中ではない。
0E	Register_For_Allocate サービスが呼び出されたが、コール側は指定された TP 名を指定ローカル LU でサービスする許可がない。
0F	指定されたローカル LU は、呼び出し側でアクセス不能である。
10	APPC 障害により、サービスが失敗した。
11	指定された割り振りキュー・トークンは、このアドレス・スペースが登録されている割り振りキューを示していない。
12	指定された通知タイプは無効である。
13	指定されたタイムアウト値は無効である。
14	要求が、処理中に取り消された。このエラーは、Unregister_For_Allocates サービスの呼び出しか、呼び出し側のアドレス・スペース終了が原因の可能性はある。
15	Receive_Allocate 呼び出しが完了したが、受信する割り振り要求が使用可能ではなかった。
1A	指定されたイベント通知タイプは無効である。
1B	指定されたイベント・コードがサポートされないか、このサービスで無効である。
1C	関連情報データ・セットから検索されたネット ID がローカル・ネット ID と一致しない。
1D	指定されたイベント・コード修飾子が無効であるか、サポートされていない。
1E	Get_Event 呼び出しが完了したが、受信するイベント・エレメントが使用可能ではなかった。
1F	このアドレス・スペースのすべてのイベント通知要求が取り消されたため、Get_Event サービスの呼び出しが割り込まれた。
20	前の Get_Event 呼び出しが現在未解決のため、この Get_Event サービスの呼び出しが拒否された。

表 19. APPC 理由コードとその意味 (続き)	
戻りコード (16 進)	説明
21	このアドレス・スペースで有効なイベント通知がないため、Get_Event 呼び出しは拒否された。
22	指定された割り振りキュー保持時間は、許容範囲外である。
24	Unregister_For_Allocates サービスの呼び出しで、"すべて登録抹消" (つまり、allocate_queue_token が 2 進ゼロに設定されていました) を指定しましたが、このアドレス・スペースはどの割り振りキューにも登録されていません。
25	指定されたイベント GET タイプは無効である。
26	指定された受信割り振りタイプは無効である。
27	APPC/MVS は、指定されたネット ID が有効かどうか判別できない。
29	提供されたバッファが要求された情報を入れるのに十分な大きさではなかったため、サービスが失敗した。
その他	詳しくは、「 z/OS MVS Programming: Writing Transaction Programs for APPC/MVS 」および「 z/OS MVS Programming: Writing Servers for APPC/MVS 」資料を参照してください。

z/OS z/OS の場合の Transport Layer Security (TLS) の戻りコード

IBM MQ for z/OS では、さまざまな通信プロトコルと一緒に TLS を使用できます。このトピックを使用して、TLS によって返される可能性があるエラー・コードを特定します。

この付録の [1122 ページの表 20](#) では、TLS からの戻りコードを 10 進数形式で記載しています。これらの戻りコードは、分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返される場合があります。

この付録の [1125 ページの表 21](#) は TLS 関数「gsk_fips_state_set」からの戻りコードを 16 進数形式で示しています。この戻りコードは、分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返されます。

戻りコードがリストされていない場合、またはより多くの情報を必要とする場合は、z/OS 暗号サービス・システムの SSL プログラミングの [SSL 関数戻りコード](#) を参照してください。

表 20. SSL 戻りコード	
戻りコード (10 進数)	説明
1	ハンドルが無効です。
3	内部エラーが発生しました。
4	使用可能な記憶域が不十分です。
5	ハンドルの状態が不正です。
6	鍵ラベルが見つかりません。
7	使用可能な証明書がありません。
8	証明書の検証エラー。
9	暗号処理エラー。
10	ASN 処理エラー。
11	LDAP 処理エラー。
12	予期しないエラーが発生しました。

表 20. SSL 戻りコード (続き)

戻りコード (10 進数)	説明
102	鍵データベースまたは SAF 鍵リングの読み取り中にエラーが検出されました。
103	不正な鍵データベース・レコード・フォーマットです。
106	不正な鍵データベース・パスワードです。
109	認証局証明書がありません。
201	鍵データベース・パスワードが指定されていません。
202	鍵データベースのオープン中にエラーが検出されました。
203	一時鍵ペアを生成できません。
204	鍵データベース・パスワードの有効期限が切れています。
302	接続がアクティブです。
401	証明書の有効期限が切れているか、まだ有効ではありません。
402	TLS 暗号仕様がありません。
403	パートナーから証明書を受け取っていません。
405	証明書フォーマットがサポートされていません。
406	データの読み取り中または書き込み中にエラーが発生しました。
407	鍵ラベルが存在しません。
408	鍵データベース・パスワードが正しくありません。
410	TLS メッセージ・フォーマットが正しくありません。
411	メッセージ認証コードが正しくありません。
412	TLS プロトコルまたは証明書タイプがサポートされていません。
413	証明書の署名が正しくありません。
414	証明書が無効です。
415	TLS プロトコル違反。
416	許可が否認されました。
417	自己署名証明書を検証できません。
420	ソケットがリモート・パートナーによりクローズされています。
421	SSL 2.0 暗号が無効です。
422	SSL 3.0 暗号が無効です。
427	LDAP を使用できません。
428	鍵項目に秘密鍵が含まれていません。
429	SSL 2.0 ヘッダーが無効です。
431	証明書が取り消されています。
432	セッションの再折衝は許可されていません。
433	鍵が許容エクスポート・サイズを超えています。
434	証明書の鍵が暗号スイートと非互換です。

表 20. SSL 戻りコード (続き)

戻りコード (10 進数)	説明
435	認証局が不明です。
436	証明書取り消しリストが見つかりません。
437	接続がクローズされました。
438	リモート・パートナーにより内部エラーが報告されました。
439	不明なアラートをリモート・パートナーから受信しました。
440	鍵使用法が間違っています。
442	ラベルに該当する複数の証明書が存在します。
443	複数の鍵がデフォルトとしてマークされています。
444	ランダム・バイトの生成中にエラーが発生しました。
445	鍵データベースが FIPS モード・データベースではありません。
446	TLS 拡張の不一致が検出されました。
447	必要な TLS 拡張が拒否されました。
448	要求されたサーバー名が認識されません。
449	サポートされないフラグメントの長さが受信されました。
450	TLS 拡張の長さフィールドが無効です。
451	楕円曲線はサポートされていません。
452	EC パラメーターが指定されていません。
453	署名が提供されていません。
454	楕円曲線パラメーターが無効です。
455	ICSF サービスが使用不可です。
456	ICSF 呼び出し可能サービスがエラーを返しました。
457	ICSF PKCS #11 が FIPS モードで作動していません。
458	SSL 3.0 拡張暗号が無効です。
459	楕円曲線は FIPS モードではサポートされていません。
460	必要な TLS 再折衝の標識を受け取りませんでした。
461	EC ドメイン・パラメーター・フォーマットはサポートされていません。
462	楕円曲線の点形式はサポートされていません。
463	暗号化ハードウェアはサービスまたはアルゴリズムをサポートしません。
464	楕円曲線リストが無効です。
466	署名アルゴリズムのペア・リストが無効です。
467	署名アルゴリズムのペア・リストにない署名アルゴリズムです。
468	署名アルゴリズムのペア・リストにない証明書の鍵アルゴリズムです。
501	バッファ・サイズが無効です。
502	ソケット要求がブロックされます。

表 20. SSL 戻りコード (続き)

戻りコード (10 進数)	説明
503	ソケット読み取り要求がブロックされます。
504	ソケット書き込み要求がブロックされます。
505	レコード・オーバーフロー。
601	プロトコルが TLS 1.0、TLS 1.1、TLS 1.2 のいずれでもありません。
602	関数 ID が無効です。
603	指定した関数の列挙値が無効です。
604	送信シーケンス番号は、最大値に近づいています。
701	属性 ID が無効です。
702	属性の長さが無効です。
703	列挙値が無効です。
704	セッション ID のキャッシュ・コールバックが無効です。
705	数値が無効です。
706	属性パラメーターが無効です。
707	TLS 拡張タイプが無効です。
708	提供された TLS 拡張データが無効です。

表 21. SSL の「gsk_fips_state_set」からの戻りコード

戻りコード (16 進)	説明
03353050	列挙値が無効であるか、現行状態が原因で設定できません。
0335306B	System SSL は現在 FIPS モードになっていないため、FIPS モードの状態を FIPS モードに変更できません。
0335306C	Cryptographic Services Security Level 3 FMID がインストールされていないため、必要な System SSL DLL をロードできなかったことが原因で、FIPS モードでの実行要求が失敗しました。
03353067	電源オンの Known Answer Test が失敗しました。FIPS モードを設定できません。

z/OS

分散キューイング・メッセージ・コード

分散キューイングは、IBM MQ for z/OS のコンポーネントの 1 つです。このトピックでは、分散キューイング・コンポーネントから出されるメッセージ・コードの意味について取り上げます。

分散キューイングのメッセージ・コードは、s0009nnn (16 進数) という形式になっています。メッセージ・コードに対応するエラーの詳しい説明は、エラー・メッセージ CSQXnnn で確認できます (ただし、いくつかの例外があります)。次の表には、すべての対応が示されています。分散キューイング・メッセージ・コードは、一部のエラー・メッセージと、MQRC_CHANNEL_STOPPED イベントに対するイベント・データで使用されます。そのイベント・データには、メッセージ挿入も入ります。挿入の意味は、メッセージ・コードによって異なります。以下の表では、メッセージの説明で表示される形式でそれぞれの挿入の意味をまとめています。意味が示されていない場合は、挿入はメッセージ・コードと関連がなく、イベント・メッセージの値セットは予測できません。

注: trptype は、以下のさまざまな形式で示されます。

メッセージ挿入
イベント・データ

TCP

TCP/IP

LU62

LU 6.2、APPC、CPI-C

表 22. 分散キューイング・メッセージ・コード、およびそれに対応するメッセージ番号、整数挿入、文字挿入。

メッセージ・コード (nnn)	メッセージ番号	整数挿入 1	整数挿入 2	文字挿入 1	文字挿入 2	文字挿入 3
001	CSQX501I			channel-name		
181	CSQX181E	応答		出口名		
182	CSQX182E	応答		出口名		
184	CSQX184E	アドレス		出口名		
189	CSQX189E	length		出口名		
196	CSQX196E	データ長	エージェント・バッファの長さ	出口名		
197	CSQX197E	データ長	出口バッファの長さ	出口名		
201	CSQX201E	戻りコード		接続 ID	TRPTYPE	
202	CSQX202E	戻りコード		接続 ID	TRPTYPE	
203	CSQX203E	戻りコード		接続 ID	TRPTYPE	
204	CSQX204E	戻りコード		接続 ID	TRPTYPE	
205	CSQX205E	戻りコード		接続 ID	TRPTYPE	
206	CSQX206E	戻りコード		接続 ID	TRPTYPE	
207	CSQX207E			接続 ID	TRPTYPE	
208	CSQX208E	戻りコード		接続 ID	TRPTYPE	
209	CSQX209E			接続 ID	TRPTYPE	
211	CSQX027E					
212	CSQX212E	戻りコード				
213	CSQX213E	戻りコード			TRPTYPE	
237	CSQX203E	戻りコード	reason	接続 ID	TRPTYPE	
238	CSQX213E	戻りコード	reason		TRPTYPE	
403	CSQX403I			channel-name	出口名	
496	CSQX496I			channel-name		
498	CSQX498E	フィールド値		channel-name		
506	CSQX506E			channel-name		
510	CSQX037E	mqrc			名前	
511	CSQX038E	mqrc			名前	

表 22. 分散キューイング・メッセージ・コード、およびそれに対応するメッセージ番号、整数挿入、文字挿入。
(続き)

メッセージ・コード (nnn)	メッセージ番号	整数挿入 1	整数挿入 2	文字挿入 1	文字挿入 2	文字挿入 3
514	CSQX514E			channel-name		
519	CSQX519E			channel-name		
520	CSQX520E			channel-name		
525	CSQX525E			channel-name		
526	CSQX526E	msg-seqno	exp-seqno	channel-name		
527	CSQX527E			channel-name		
528	CSQX528I			channel-name		
533	CSQX533I			channel-name		
534	CSQX534E			channel-name		
536	CSQX536I			channel-name	出口名	
540	CSQX540E	mqr		チャンネル名を含むコミット ID		
542	キュー・マネージャは停止中 (対応するエラー・メッセージはない)					
544	整数挿入 1 を参照	1 - メッセージ CSQX548E を参照 2 - メッセージ CSQX544E を参照		channel-name		
545	CSQX545I			channel-name		
546	コード 00E70546					
558	CSQX558E			channel-name		
565	CSQX565E			channel-name	qmgr-name	
569	CSQX569E			channel-name		
570	CSQX570E			channel-name		
572	CSQX572E			channel-name		
573	CSQX573E			channel-name		
574	CSQX574I			channel-name		
575	CSQX575E					
613	CSQX613E			channel-name		
620	CSQX620E	戻りコード		SSL 機能		

表 22. 分散キューイング・メッセージ・コード、およびそれに対応するメッセージ番号、整数挿入、文字挿入。
(続き)

メッセージ・コード (nnn)	メッセージ番号	整数挿入 1	整数挿入 2	文字挿入 1	文字挿入 2	文字挿入 3
631	CSQX631E			channel-name	ローカル暗号 スペック	リモート暗号 スペック
633	CSQX633E			channel-name		
634	CSQX634E			channel-name		
635	CSQX635E			channel-name		暗号スペック
636	CSQX636E			channel-name	識別名	
637	CSQX637E			channel-name		
638	CSQX638E			channel-name		
639	CSQX639E			channel-name		
640	CSQX640E			channel-name		キー名
641	CSQX641E			channel-name		
642	CSQX642E			channel-name		
643	CSQX643E			channel-name		
644	CSQX644E			channel-name		
999	CSQX599E			channel-name		

z/OS キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブのメッセージ・コード

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブは、IBM MQ for z/OS のコンポーネントです。このトピックは、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・コンポーネントによって発行されたメッセージ・コードを解釈するために使用します。

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブのメッセージ・コードは、5nnn (16 進表示) という形式であり、これらのコードで識別されるエラーは、エラー・メッセージ CSQTnnn で詳しく説明されています。ただし、例外もいくつかあります。次の表には、すべての対応が示されています。キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブのメッセージ・コードは、一部のエラー・メッセージで使用されます。

メッセージ・コード (nnn)	メッセージ番号	説明
800	等価なメッセージはありません。	予期しないエラーです。
87F	CSQX036E	失敗

z/OS 他の製品からのメッセージ

z/OS プラットフォームのソフトウェア製品はメッセージを発行し、各製品は固有 ID を使用します。このトピックは、固有 ID を使用するさまざまな z/OS 製品を特定するために使用します。

次の表では、IBM MQ for z/OS の使用中に受け取る可能性のある他の製品のメッセージ接頭語が示されています。

表 24. メッセージ接頭語

接頭部	コンポーネント	手順
AMQ	IBM MQ(z/OS ではありません)	メッセージおよび理由コードを参照します
ATB	APPC	「MVS システム・メッセージ」を参照
ATR	資源回復サービス	「MVS システム・メッセージ」を参照
CBC	C/C++	「C/MVS User's Guide」を参照
CEE	Language Environment	z/OS デバッグ・ガイドおよびランタイム・メッセージの言語環境プログラムの参照
CSQ	IBM MQ for z/OS	この資料を参照
CSV	コンテンツ監視	「MVS システム・メッセージ」を参照
DFH	CICS	CICS メッセージおよびコードの参照
DFS	IMS	IMS メッセージおよびコードの参照
DSN	Db2	Db2 メッセージおよびコードの参照
EDC	Language Environment	z/OS デバッグ・ガイドおよびランタイム・メッセージの言語環境プログラムの参照
EZA, EZB, EZY	TCP/IP	「TCP/IP for MVS Messages and Codes」を参照
IBM	Language Environment	z/OS デバッグ・ガイドおよびランタイム・メッセージの言語環境プログラムの参照
ICH	RACF	RACF メッセージおよびコードの参照
IDC	アクセス方式サービス	「MVS システム・メッセージ」を参照
IEA	z/OS システム・サービス	「MVS システム・メッセージ」を参照
IEC	データ管理サービス	「MVS システム・メッセージ」を参照
IEE,IEF	z/OS システム・サービス	「MVS システム・メッセージ」を参照
IKJ	TSO	「MVS システム・メッセージ」を参照
IST	VTAM	「VTAM Messages and Codes」を参照
IWM	z/OS ワークロード管理サービス	「MVS システム・メッセージ」を参照
IXC	システム間カップリング・ファシリティ (XCF)	「MVS システム・メッセージ」を参照
IXL	システム間拡張サービス (XES)	「MVS システム・メッセージ」を参照

z/OS のメッセージ・コード接頭部の全リストについては、[メッセージ・ディレクトリー](#)を参照してください。

API 完了コードと理由コード

呼び出しが行われるたびに、その呼び出しが成功したか失敗したかを示すための完了コードと理由コードが、キュー・マネージャーまたは出口ルーチンによって戻されます。

IBM MQ API の詳細については、[アプリケーションの開発](#)、および[アプリケーションの開発リファレンス](#)にある参照情報を参照してください。

API 完了コード

IBM MQ で戻される完了コード (MQCC) のリストを次に示します。

0: 正常終了 (MQCC_OK)

呼び出しはすべて完了しました。すべての出力パラメーターが設定されました。

この場合、**Reason** パラメーターの値は常に MQRC_NONE です。

1: 警告 (部分完了) (MQCC_WARNING)

呼び出しは部分的に完了しました。 *CompCode* および *Reason* 出力パラメーターの他にも、いくつかの出力パラメーターが設定されている場合があります。

Reason パラメーターが追加情報を提供します。

2: 呼び出し失敗 (MQCC_FAILED)

呼び出しの処理は完了しませんでした。通常、キュー・マネージャーの状態は変わりません。例外は個々に示されます。 *CompCode* および *Reason* 出力パラメーターだけが設定されました。その他のパラメーターは変更されませんでした。

理由は、アプリケーション・プログラム内の障害である場合や、そのプログラムの外部の状態の結果である場合があります。例えば、アプリケーション・プログラムの許可が侵害された場合などです。

Reason パラメーターが追加情報を提供します。

API 理由コード

理由コード・パラメーター (**Reason**) は、完了コード・パラメーター (**CompCode**) を修飾するものです。

特に報告する理由がない場合には、MQRC_NONE が戻ります。呼び出しが成功した場合は、MQCC_OK および MQRC_NONE が返されます。

完了コードが MQCC_WARNING または MQCC_FAILED のいずれかである場合、キュー・マネージャーは常に、それを修飾する理由を報告します。詳細は、各呼び出しの説明で示されています。

ユーザー作成出口ルーチンが完了コードと理由を設定する場合には、これらの規則に必ず従ってください。さらに、ユーザー作成出口ルーチンによって定義された特殊な理由値は、キュー・マネージャーによって定義されている値と重複しないようにするために、ゼロ未満の値にしてください。出口ルーチンでは、該当する場合、キュー・マネージャーによってすでに定義されている理由を設定することができます。

理由コードは、以下のフィールドにも設定されます。

- MQDLH 構造体の *Reason* フィールド
- MQMD 構造体の *Feedback* フィールド

IBM MQ 9.1.0 以降、複数のクライアント接続が試行され (例えば、コンマ区切りの接続名を含むチャネルを使用)、接続シーケンスが失敗すると、理由コードがアプリケーションに返されるときに、MQRC_HOST_NOT_AVAILABLE と MQRC_STANDBY_Q_MGR 以外の理由コードが優先されるようになりました。以前のバージョンの製品では、接続シーケンスで検出された最後の理由コードが常に返されますが、これにより構成エラーが発生することがあります。例えば、接続試行の早い段階で検出された MQRC_NOT_AUTHORIZED はアプリケーションに返されません。

以下の場合を除き、IBM MQ がサポートするすべてのプラットフォームで、各理由コード全体がサポートされています。

- 理由コードの上に 1 つ以上のプラットフォーム・アイコンがある。この場合、その理由コードは表示されているプラットフォームにのみ適用されます。
- 特定のステートメントに対してプラットフォーム・アイコンが表示されている。この場合、そのステートメントはそのプラットフォームにのみ適用されます。

アイコンの説明については、[プラットフォームのアイコン](#)を参照してください。

子トピックは、以下のような理由コードのセット (番号順) であり、それらを理解するのに役立つ詳細情報を提供します。

- 該当コードを発生させる状況の説明
- 関連付けられた完了コード
- コードへの応答で推奨されるプログラマーの応答

0 (0000) (RC0): MQRC_NONE

説明

呼び出しは正常に完了しました。完了コード (*CompCode*) は MQCC_OK です。

完了コード

MQCC_OK

プログラマー応答

なし。

900 (0384) (RC900): MQRC_APPL_FIRST

説明

データ変換出口により戻されるアプリケーション定義の理由コードの最低値。データ変換出口は、MQRC_APPL_FIRST から MQRC_APPL_LAST の範囲内の理由コードを戻し、この出口が検出した特定の条件を示すことができます。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

データ変換出口の作成者が定義している処置を行ってください。

999 (03E7) (RC999): MQRC_APPL_LAST

説明

データ変換出口により戻されるアプリケーション定義の理由コードの最高値。データ変換出口は、MQRC_APPL_FIRST から MQRC_APPL_LAST の範囲内の理由コードを戻し、この出口が検出した特定の条件を示すことができます。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

データ変換出口の作成者が定義している処置を行ってください。

2001 (07D1) (RC2001): MQRC_ALIAS_BASE_Q_TYPE_ERROR

説明

別名キューを宛先として指定して MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、別名キュー定義内の **BaseQName** は、ローカル・キュー、リモート・キューのローカル定義、またはクラスター・キューではないキューに解決されます。

トピック・オブジェクトを指す別名キューが配布リスト内のキューに含まれています。

この理由コードは、REFRESH CLUSTER コマンドの実行時に発生する可能性があります。 [REFRESH CLUSTER の実行時に見られるアプリケーションの問題](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー定義を訂正してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [129 ページの『別名基本キュー・タイプ・エラー』](#)の識別にも使用されます。

2002 (07D2) (RC2002): MQRC_ALREADY_CONNECTED

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しが発行されましたが、アプリケーションはすでにキュー・マネージャーに接続されています。

- ▶ **z/OS** z/OS では、この理由コードが戻されるのはバッチ・アプリケーションおよび IMS アプリケーションの場合だけです。CICS アプリケーションの場合は戻されません。
- ▶ **Multi** マルチプラットフォームの場合、この理由コードは、非共有ハンドルが該当スレッドについて既に存在するときに、アプリケーションが非共有ハンドルを作成しようとした場合に発生します。1 つのスレッドは、複数の非共有ハンドルを保持できません。
- ▶ **Multi** マルチプラットフォームの場合、この理由コードは、MQCONN 呼び出しが MQ チャネル出口、API 交差出口、または非同期コンシューム・コールバック関数内から発行され、共有 hConn がこのスレッドにバインドされている場合に発生します。
- ▶ **Multi** マルチプラットフォームの場合、この理由コードは、MQCNO_HANDLE_SHARE_* オプションの 1 つを指定しない MQCONNX 呼び出しが、MQ チャネル出口、API 交差出口、または非同期コンシューム・コールバック関数内から発行され、共有 hConn がこのスレッドにバインドされている場合に発生します。
- ▶ **Windows** Windows の場合、キュー・マネージャーへの追加接続が許可されているため、MTS オブジェクトではこの理由コードは受け取られません。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。戻された **Hconn** パラメーターの値は、直前の MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しで戻された値と同じです。




MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しでこの理由コードが戻った場合でも、追加の MQDISC 呼び出しを発行して、そのキュー・マネージャーからの切り離しを行わなければならないということではありません。MQCONN が既に発行されている状況でアプリケーションが呼び出された場合にもこの理由コー

ドは戻ります。この場合、対応する MQDISC は発行しないでください。発行すると、元の MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しを発行したアプリケーションも切斷されます。

2003 (07D3) (RC2003): MQRC_BACKED_OUT

説明

現在の作業単位でリカバリー不能のエラーが発生したか、またはバックアウトされました。この理由コードは、以下の場合に発行されます。

- MQCMIT 呼び出しまたは MQDISC 呼び出しで、コミット操作が失敗し、作業単位がバックアウトされた場合。その作業単位に含まれるすべてのリソースは、その作業単位が開始された時点の状態に戻されます。この場合、MQCC_WARNING で MQCMIT または MQDISC 呼び出しが完了します。
 -  z/OS の場合、この理由コードが戻されるのはバッチ・アプリケーションの場合だけです。
- 同じ作業単位内部で実行されている MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しで、その作業単位に既にエラーが発生していて、そのエラーのために作業単位のコミットが妨げられている場合 (例えばログ・スペースがなくなっている場合)。アプリケーションが適切な呼び出しを発行して、作業単位をバックアウトする必要があります。(このような状況では MQCMIT 呼び出しでも同じ効果がありますが、キュー・マネージャーが調整する作業単位の場合、この適切な呼び出しとは MQBACK 呼び出しです。) この場合、MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しは、MQCC_FAILED で完了します。
 -  z/OS の場合、このような状況は発生しません。
- 非同期コンシューム・コールバック (MQCB 呼び出しで登録されたもの) で、作業単位がバックアウトされ、非同期コンシューマーで MQBACK が呼び出された場合。また、非同期コンシューマーは、提供された MQCBC (コールバック・コンテキスト) の State フィールドを調べて、接続が中斷されているかどうかを確認し、必要に応じて再開する必要があります。
 -  z/OS の場合、このような状況は発生しません。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーへの直前の呼び出しからの戻りコードを調べてください。例えば、前の MQPUT 呼び出しが失敗した可能性があります。

2004 (07D4) (RC2004): MQRC_BUFFER_ERROR

説明

Buffer パラメーターは、以下のいずれかの理由で無効です。

- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- パラメーター・ポインターが、**BufferLength** で指定された長さ全体にわたってアクセスできないストレージを指しています。
- **Buffer** が出力パラメーターである呼び出しの場合: パラメーター・ポインターは読み取り専用ストレージを指します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2005 (07D5) (RC2005): MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

説明

BufferLength パラメーターが無効、またはパラメーター・ポインターが無効です。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

また、チャンネルの折衝最大メッセージ・サイズが呼び出し構造体の固定部分より小さい場合、MQCONN または MQCONNX 呼び出しから MQ MQI クライアント・プログラムにこの理由が返されることがあります。

また、**AuthorityBuffer** パラメーターが小さすぎて、MQZ_ENUMERATE_AUTHORITY_DATA インストール可能サービス・コンポーネントの呼び出し側に返すデータを入れることができない場合にも、そのサービス・コンポーネントからこの理由が返されることがあります。

正の長さが必要なところにゼロ長のマルチキャスト・メッセージが提供されているときにも、この理由コードが戻される場合があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ゼロ以上の値を指定する。mqAddString 呼び出しと mqSetString 呼び出しの場合、特殊値 MQBL_NULL_TERMINATED も有効です。

2006 (07D6) (RC2006): MQRC_CHAR_ATTR_LENGTH_ERROR

説明

CharAttrLength が、マイナス (MQINQ 呼び出しまたは MQSET 呼び出しの場合) である、または、選択されたすべての属性を保持するには小さすぎます (MQSET 呼び出しの場合のみ)。この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

選択されたすべての属性の連結ストリングを保持するのに十分な大きさの値を指定してください。

2007 (07D7) (RC2007): MQRC_CHAR_ATTRS_ERROR

説明

CharAttrs が無効です。パラメーター・ポインターが無効であるか、MQINQ 呼び出しのための読み取り専用ストレージを指し示しているか、**CharAttrLength** によって暗黙に示された長さより短いストレージを指し示しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2008 (07D8) (RC2008): MQRC_CHAR_ATTRS_TOO_SHORT

説明

MQINQ 呼び出しの場合は、**CharAttrLength** が小さすぎるため、**Selectors** パラメーターの中に MQCA_* セレクターが指定されている文字属性をすべて入れることはできません。

それでも呼び出しは完了し、**CharAttrs** パラメーター・ストリングには、そのスペースに収まるだけの文字属性が入ります。完全な属性ストリングだけが返されます。属性全体を収めるための十分なスペースが残っていない場合は、その属性および後続の文字属性は除外されます。属性を収めるために使用されなかったストリングの終わりにあるスペースは、そのまま変わりません。

値の集合を表す属性 (例えば名前リスト **Names** 属性など) は、単一のエンティティとして扱われます。つまり、値が返される場合は、その集合に含まれているすべての値が返され、それ以外の場合は値が 1 つも返されません。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

複数値のサブセットのみ必要な場合以外は、十分な大きさの値を指定してください。

2009 (07D9) (RC2009): MQRC_CONNECTION_BROKEN

説明

キュー・マネージャーとの接続が切断された。これは、キュー・マネージャーが終了したために起こる場合がある。その呼び出しが MQGMO_WAIT オプション付きの MQGET 呼び出しである場合、待機は取り消されます。接続とオブジェクト・ハンドルは、すべて無効になっています。


MQ MQI クライアント・アプリケーションの場合は、この理由コードが MQCC_FAILED の CompCode で戻されても、呼び出しが正常に完了した可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションは、MQCONN または MQCONNX 呼び出しを発行することで、キュー・マネージャー再接続を試行できます。正常な応答を受信するまで、ポーリングが必要な場合があります。

-  z/OS for CICS アプリケーションでは、CICS アプリケーションは自動的に接続されるため、MQCONN または MQCONNX 呼び出しを発行する必要はありません。

作業単位の中でコミットされていない変更はバックアウトされる必要があります。キュー・マネージャーが調整した作業単位は自動的にバックアウトされます。

z/OS IMS の場合、サブシステムが IMS DIS SUBSYS コマンドを使用して開始されていることを確認し、必要に応じて IMS STA SUBSYS コマンドを使用して開始します。

関連概念

[IBM MQ と IMS](#)

2010 (07DA) (RC2010): MQRC_DATA_LENGTH_ERROR

説明

DataLength パラメーターが有効ではありません。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

また、**BufferLength** パラメーターがクライアント・チャネルの折衝による最大メッセージ・サイズを超えている場合にも、MQGET、MQPUT、またはMQPUT1 呼び出しから MQ MQI クライアント・プログラムにこの理由が戻されることがあります。この原因として、チャネル定義の MAXMSGL が正しく設定されていないことが考えられます ([最大メッセージ長 \(MAXMSGL\)](#) を参照)。あるいは、MQCONN を使用して MQCD を指定している場合は、そのデータ構造体の **MaxMsgLength** の設定値を大きくする必要があります ([MQCONN の使用法](#) を参照)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

MQ MQI クライアント・プログラムにエラーが発生した場合は、チャネルの最大メッセージ・サイズが、送信中のメッセージを収容できる十分な大きさであるかどうかを調べてください。十分でない場合は、チャネルの最大メッセージ・サイズを大きくしてください。

2011 (07DB) (RC2011): MQRC_DYNAMIC_Q_NAME_ERROR

説明

MQOPEN 呼び出しで、**ObjDesc** パラメーターの ObjectName フィールドにモデル・キューが指定されましたが、以下のいずれかの理由により、DynamicQName フィールドが無効です。

- DynamicQName が完全にブランクである (またはフィールド内の最初のヌル文字までがブランクである)。
- キュー名としては無効な文字がある。
- 33 文字目よりあと (しかもヌル文字の前) にアスタリスクがある。
- アスタリスクのあとに、ヌル文字でもブランクでもない文字が続いている。

この理由コードは、サーバー・アプリケーションが、サーバーが受信したメッセージの MQMD 内の ReplyToQ および ReplyToQMgr フィールドで指定された応答キューを開いたときにも発生することがあります。この場合、理由コードは、元のメッセージを送信したアプリケーションが、元のメッセージの MQMD の ReplyToQ および ReplyToQMgr フィールドに誤った値を入れたことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

2012 (07DC) (RC2012): MQRC_ENVIRONMENT_ERROR

説明

呼び出しが現行の環境では無効です。

- ▶ **z/OS** z/OS で、以下のいずれかが該当するとき。
 - MQCONN または MQCONNX 呼び出しが発行されたが、アプリケーションの実行されている環境ではサポートされていないアダプターに、アプリケーションがリンクされていた。例えば、IBM MQ classes for Java RRS アダプターとリンクされているアプリケーションが、Db2 ストアード・プロシージャ・アドレス・スペースで実行されている場合に、このようなことが発生する可能性があります。RRS は、この環境ではサポートされていません。MQ RRS アダプターを使用しようとするストアード・プロシージャは、Db2 WLM 管理下のストアード・プロシージャ・アドレス・スペースで実行される必要があります。
 - MQCMIT または MQBACK 呼び出しが出されましたが、アプリケーションが RRS バッチ・アダプター CSQBRSTB にリンクされています。このアダプターは MQCMIT および MQBACK 呼び出しをサポートしていません。
 - MQCMIT 呼び出しまたは MQBACK 呼び出しが、CICS 環境または IMS 環境で発行された。
 - アプリケーションを実行していた z/OS システムで、RRS サブシステムが運用されていなかった。
 - MQOP_START を指定した MQCTL 呼び出し、またはイベント・リスナーを登録する MQCB 呼び出しが発行されたが、アプリケーションで POSIX スレッドを作成できない。
 - IBM MQ classes for Java アプリケーションが、サポートされていない環境で、CLIENT トランスポートを使用して MQQueueManager オブジェクトのインスタンスを作成した。

z/OS 環境では、Java アプリケーション用の IBM MQ 9.0.4 (およびそれ以降の) クラスのみがサポートされます。これらのクラスは、CLIENT トランスポートを使用して、z/OS で実行されている IBM MQ 9.0.4 (およびそれ以降の) キュー・マネージャーに接続します。このキュー・マネージャーには、**ADVCAP (ENABLED)**があります。

ADVCAP について詳しくは、[DISPLAY QMGR](#) を参照してください。
 - CLIENT トランスポートを使用する IBM MQ classes for Java または IBM MQ classes for JMS アプリケーションが、Advanced Message Security for z/OS ポリシーで保護されているキューにアクセスした。CLIENT トランスポートを使用する場合、z/OS 環境は Advanced Message Security for z/OS をサポートしません。
 - **V9.3.0** CLIENT トランスポートを使用する IBM MQ classes for Java または IBM MQ classes for JMS アプリケーションで、互換モードを使用してキュー・マネージャーで認証を行う時に、12 文字を超える長さのパスワードを指定した。
- ▶ **Multi** マルチプラットフォームで、以下のいずれかが該当するとき。
 - アプリケーションがサポートされていないライブラリーにリンクされている。
 - アプリケーションが誤ったライブラリー (スレッドまたは非スレッド) にリンクされている。自動再接続を使用するように構成されている IBM MQ classes for Java クライアント・アプリケーションは、スレッド環境で実行する必要があります。
 - MQBEGIN 呼び出し、MQCMIT 呼び出し、または MQBACK 呼び出しが発行されたが、外部作業単位マネージャーが使用中である。例えば、Windows においては、MTS オブジェクトが DTC トランザクションとして実行されている場合にこの理由コードになります。また、キュー・マネージャーが作業単位をサポートしていない場合にも、この理由コードになります。
 - MQBEGIN 呼び出しが IBM MQ MQI クライアント環境で発行された。

- MQXCLWLN 呼び出しが発行されたが、その呼び出しはクラスター・ワークロード出口ルーチンからのものではなかった。
- MQCONNX 呼び出しが、MQ チャネル出口、API 出口、またはコールバック関数内から、オプション MQCNO_HANDLE_SHARE_NONE を指定して発行された。この理由コードは、共用 hConn がアプリケーション・スレッドにバインドされている場合にのみ発生します。
- IBM MQ オブジェクトがファスト・パス接続を実行できない。
- IBM MQ classes for Java アプリケーションが、CLIENT トランスポートを使用する MQQueueManager オブジェクトを作成し、その後 MQQueueManager.begin() を呼び出しました。このメソッドは、BINDINGS トランスポートを使用する MQQueueManager オブジェクト上でのみ呼び出すことができます。
- 自動再接続を使用するように構成されている MQ クライアント・アプリケーションが、SHARECNV(0) で定義されたチャネルを使用して接続しようとした。
- **V9.3.0** CLIENT トランスポートを使用する IBM MQ classes for Java または IBM MQ classes for JMS アプリケーションで、互換モードを使用してキュー・マネージャーで認証を行う時に、12 文字を超える長さのパスワードを指定した。
- MQI クライアント環境で、SHARECNV(0) で定義されたチャネルを使用して MQCTL 呼び出しまたは MQCB 呼び出しが発行されました。
- **Windows** Windows で、管理対象 .NET クライアントを使用しているときに、サポートされない以下のいずれかの機能を使用しようとした。
 - 管理対象外のチャネル出口
 - XA トランザクション
 - TCP/IP 以外の通信
 - チャネル圧縮

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかのアクションを実行します。

- On z/OS:
 - アプリケーションを正しいアダプターにリンクする。
 - MQCMIT および MQBACK 呼び出しの代わりに SRRCMIT および SRRBACK 呼び出しを使用するように、アプリケーションを変更する。別の方法としては、アプリケーションを RRS バッチ・アダプター CSQBRSI にリンクさせます。このアダプターは、SRRCMIT および SRRBACK の他に、MQCMIT および MQBACK をサポートしています。
 - CICS アプリケーションまたは IMS アプリケーションの場合、適切な CICS または IMS 呼び出しを発行し、作業単位のコミットあるいはバックアウトを実行する。
 - アプリケーションが実行されている z/OS システムで RRS サブシステムを開始する。
 - アプリケーションで Language Environment (LE) を使用している場合は、そのアプリケーションが DLL インターフェースを使用し、POSIX(ON) を指定して実行されていることを確認してください。
 - アプリケーションが z/OS UNIX System Services (z/OS UNIX) の使用を許可されていることを確認する。
 - ローカルの z/OS アプリケーションおよび WebSphere Application Server アプリケーション・サーバー・アプリケーションに対する接続ファクトリー定義が、バインディング・モード接続でトランスポート・タイプを使用していることを確認する。
- すべてのクライアント・モード接続が、サポートされるキュー・マネージャーに対して行われていて、IBM MQ Advanced Message Security for z/OS ポリシーで保護されているキューにはアクセスしないことを確認する。

- V9.3.0 クライアント・バインディングを使用している IBM MQ classes for Java アプリケーションまたは IBM MQ classes for JMS アプリケーションでは、MQCSP 認証モードを使用して、キュー・マネージャーで認証するときに 12 文字より長いパスワードを指定してください。Java クライアント・アプリケーションを使用した接続認証の詳細については、[Java クライアントを使用した接続認証](#)を参照してください。
- その他の環境の場合
 - アプリケーションを正しいライブラリー (スレッドまたは非スレッド) にリンクする。
 - サポートされていない呼び出しまたは機能をアプリケーションから除去する。
 - ファスト・パスを実行する場合は、setuid を実行するようアプリケーションを変更する。

2013 (07DD) (RC2013): MQRC_EXPIRY_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、メッセージ記述子 MQMD 内の Expiry フィールドに指定された値が無効です。

この理由コードは、以下のいずれかより大きな送達遅延値を指定する JMS アプリケーションによっても生成されます。

- アプリケーションによって指定されるメッセージ有効期限時刻。
- ターゲット・キューまたはトピックの解決で使用されるオブジェクトの **CUSTOM(CAPEXPY)** 属性によって設定される有効期限時刻。
- V9.3.1 ターゲット・キューまたはトピックの解決で使用されるオブジェクトの **CAPEXPY** 属性によって設定される有効期限時刻。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

0 より大きい値を指定するか、特殊値 MQEI_UNLIMITED を指定してください。

JMS アプリケーションによって指定される送達遅延が以下に示す値より小さいことを確認します。

- アプリケーションによって指定されるメッセージ有効期限時刻。
- ターゲット・キューまたはトピックの解決で使用されるオブジェクトの **CUSTOM(CAPEXPY)** 属性によって設定される有効期限時刻。
- V9.3.1 ターゲット・キューまたはトピックの解決で使用されるオブジェクトの **CAPEXPY** 属性によって設定される有効期限時刻。

2014 (07DE) (RC2014): MQRC_FEEDBACK_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、メッセージ記述子 MQMD 内の Feedback フィールドに指定された値が無効です。その値は MQFB_NONE ではなく、システム・フィードバック・コード用に定義された範囲にも、アプリケーション・フィードバック・コード用に定義された範囲にも入っていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQFB_NONE か、MQFB_SYSTEM_FIRST から MQFB_SYSTEM_LAST の範囲の値か、MQFB_APPL_FIRST から MQFB_APPL_LAST の範囲の値を指定してください。

2016 (07E0) (RC2016): MQRC_GET_INHIBITED

説明

そのキュー、またはこのキューの解決結果となるキューについての MQGET 呼び出しは現在禁止されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

読み取り要求が短期間禁止される可能性があるシステム設計になっている場合は、後でこの操作を再試行してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [183 ページ](#)の『読み取り禁止』の識別にも使用されます。

システム・プログラマーの処置

メッセージを取得できるようにするには、ALTER QLOCAL(...) GET(ENABLED)を使用します。

2017 (07E1) (RC2017): MQRC_HANDLE_NOT_AVAILABLE

説明

MQOPEN、MQPUT1、または MQSUB 呼び出しが発行されましたが、現行タスクの最大許容オープン・ハンドル数にすでに達していました。MQOPEN または MQPUT1 呼び出しで配布リストを指定するときには、配布リスト内の 1 つのキューが 1 つのハンドルを使用するようにしてください。

- ▶ **z/OS** z/OS における「タスク」とは、CICS タスク、z/OS タスク、または IMS 従属領域を意味します。

さらに、入力にオブジェクト・ハンドルを提供しない場合、MQSUB 呼び出しは 2 つのハンドルを割り振ります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションが、対応する MQCLOSE 呼び出しのない MQOPEN 呼び出しを発行しているかどうかを調べてください。そのような呼び出しがある場合は、アプリケーションを変更し、オープンされているオブジェクトが必要なくなった時点で、ただちに MQCLOSE 呼び出しを発行するようにしてください。

また、アプリケーションで多数のキューを含む配布リストを指定しているために、使用可能なハンドルをすべて使いきっているかを確認してください。使用可能なハンドルを配布リスト内のキューで使いきっている場合は、タスクで使用可能なハンドルの最大数を増やすか、該当する配布リストのサイズを小さくしてください。1 つのタスクで使用できるオープン・ハンドルの最大数は、**MaxHandles** キュー・マネージャー属性によって指定します。

2018 (07E2) (RC2018): MQRC_HCONN_ERROR

説明

以下のいずれかの理由により、接続ハンドル Hconn が無効です。


- パラメーター・ポインターが無効である、または (MQCONN または MQCONNX 呼び出しの場合に) パラメーター・ポインターが読み取り専用ストレージを指している。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 指定された値が、先行する MQCONN または MQCONNX 呼び出しにより返されていない。
- 指定された値が、その前の MQDISC 呼び出しによって無効になった。
- ハンドルが、MQDISC 呼び出しを発行している別のスレッドによって無効になっている共有ハンドルである。
- ハンドルが、MQBEGIN 呼び出しで使用されている共有ハンドルである (MQBEGIN では非共有ハンドルのみ有効)。
- ハンドルが、ハンドルを作成していないスレッドにより使用されている非共有ハンドルである。
- ハンドルが無効な状況で MTS 環境において呼び出しが発行された。(プロセス間あるいはパッケージ間でのハンドルの受け渡しなど。ライブラリー・パッケージ間でのハンドルの受け渡しがサポートされません。)
- CICS TS 3.2 以降で、文字変換出口プログラムを起動することにより MQXCNVN が呼び出されたときに、変換プログラムが OPENAPI として定義されていない。変換プロセスの実行時に、TCB が疑似再入可能 (QR) TCB に切り替えられ、接続が正しくなくなります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーに対して正常な MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しが実行されること、および MQDISC 呼び出しがまだ実行されていないことを確認してください。ハンドルが有効な範囲内で使用されていることを確認してください (MQCONN の詳細については、[MQCONN](#) の MQCONN の説明を参照してください)。

-  z/OS では、アプリケーションが正しいスタブにリンクされたかどうかを確認してください。正しいスタブとは、CICS アプリケーションの場合は CSQCSTUB、バッチ・アプリケーションの場合は CSQBSTUB、IMS アプリケーションの場合は CSQQSTUB です。また、使用されるスタブが所属するキュー・マネージャーのリリースが、アプリケーションを実行するリリースより新しいものであってはなりません。

CICS TS 3.2 以降のアプリケーションで実行されていて MQXCNVN を呼び出す文字変換出口プログラムが OPENAPI として定義されていることを確認します。この定義により、正しくない接続が原因で発生する 2018 MQRC_HCONN_ERROR が回避され、MQGET を完了できます。

2019 (07E3) (RC2019): MQRC_HOBJ_ERROR

説明

以下のいずれかの理由により、オブジェクト・ハンドル Hobj が無効です。

- パラメーター・ポインターが無効であるか、または (MQOPEN 呼び出しの場合) 読み取り専用ストレージを指している。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 指定された値が、その前の MQOPEN 呼び出しによって返されていない。
- 指定された値が、その前の MQCLOSE 呼び出しによって無効になった。

- ハンドルが、MQCLOSE 呼び出しを発行している別のスレッドによって無効になっている共有ハンドルである。
- ハンドルが、ハンドルを作成していないスレッドにより使用されている非共有ハンドルである。
- 呼び出しは MQGET または MQPUT であるが、ハンドルにより表されたオブジェクトがキューではない。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

該当するオブジェクトに対して正常な MQOPEN 呼び出しが実行され、しかもまだ MQCLOSE 呼び出しが実行されていないことを確認してください。ハンドルが有効な範囲内で使用されていることを確認してください (詳細については、[MQOPEN](#) の MQOPEN の説明を参照してください)。

2020 (07E4) (RC2020): MQRC_INHIBIT_VALUE_ERROR

説明

MQSET 呼び出しで、MQIA_INHIBIT_GET 属性、または MQIA_INHIBIT_PUT 属性用に指定されている値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

InhibitGet または **InhibitPut** キュー属性に有効な値を指定してください。

2021 (07E5) (RC2021): MQRC_INT_ATTR_COUNT_ERROR

説明

MQINQ 呼び出しまたは MQSET 呼び出しで、**IntAttrCount** パラメーターがマイナスになっている (MQINQ または MQSET の場合) か、または **Selectors** パラメーターに指定された整数属性セレクター (MQIA_*) の数値より小さい値になっています (MQSET の場合のみ)。この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

選択されたすべての整数属性を保存するのに十分な大きさの値を指定してください。

2022 (07E6) (RC2022): MQRC_INT_ATTR_COUNT_TOO_SMALL

説明

MQINQ 呼び出しで、**IntAttrCount** パラメーターが、**Selectors** パラメーター内に指定された整数属性セレクター (MQIA_*) の数値より小さい値になっています。

呼び出しは MQCC_WARNING で完了し、**IntAttrs** 配列には、そのスペースに収まるだけの整数属性が入っています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

複数値のサブセットのみ必要な場合以外は、十分な大きさの値を指定してください。

2023 (07E7) (RC2023): MQRC_INT_ATTRS_ARRAY_ERROR

説明

MQINQ 呼び出しまたは MQSET 呼び出しで、**IntAttrs** パラメーターが無効です。パラメーター・ポインターが無効であるか (MQINQ および MQSET の場合)、読み取り専用ストレージを指し示しているか、**IntAttrCount** パラメーターによって示されている長さより小さいストレージを示しています (MQINQ の場合のみ)。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2024 (07E8) (RC2024): MQRC_SYNCPOINT_LIMIT_REACHED

説明

現行の作業単位内にあるコミットされていないメッセージの数が、キュー・マネージャーについて定義されている限度 (**MaxUncommittedMsgs** キュー・マネージャー属性を参照) を超えたために、MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが失敗しました。コミットされていないメッセージの数は、現行の作業単位が開始されてからの以下の合計です。

- アプリケーションが MQPMO_SYNCPOINT オプションを指定して書き込んだメッセージの数
- アプリケーションが MQGMO_SYNCPOINT オプションを指定して取り出したメッセージの数
- MQPMO_SYNCPOINT オプションを指定して書き込まれたメッセージについてキュー・マネージャーが生成したトリガー・メッセージと COA レポート・メッセージの数
- MQGMO_SYNCPOINT オプションを指定して取り出されたメッセージについてキュー・マネージャーが生成した COD レポート・メッセージの数

同期点からトピックへのメッセージをパブリッシュする場合は、この理由コードを受け取ることができます。詳細については、[同期点の下のパブリケーション](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションがループしていないかどうかを調べてください。ループしていない場合には、アプリケーションをもっと単純なものに修正してください。そのほかに、1つの作業単位内のコミットされていな

いメッセージの最大数に関するキュー・マネージャーの制限を、次のようにして増加させる方法もあります。

- ▶ **z/OS** z/OS では、ALTER QMGR コマンドを使用して、コミットされていないメッセージの最大数を変更することができます。
- ▶ **IBM i** IBM i では、CHGMQM コマンドを使用して、コミットされていないメッセージの最大数を変更することができます。

2025 (07E9) (RC2025): MQRC_MAX_CONNS_LIMIT_REACHED

説明

同時接続の最大数を越えたため、MQCONN または MQCONNX 呼び出しが拒否された。

- ▶ **z/OS** z/OS の場合、接続制限は TSO でも バッチ でも 32767 です。
- ▶ **Multi** マルチプラットフォームでは、この理由コードは MQOPEN 呼び出しでも戻されることがあります。
- Java アプリケーションを使用する場合、接続マネージャーによって同時接続の最大数が定義される可能性があります。

注: IBM MQ を使用するアプリケーションは、フレームワークまたは接続プールへの接続の管理 (例えば、Java EE アプリケーション・サーバー、Spring などのアプリケーション・フレームワーク、IBM コンテナ (IBM Cloud の場合)、またはこれらの組み合わせ) を委任した可能性があります。詳しくは、[IBM MQ classess for JMS オブジェクト・プーリング](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

該当するパラメーター値のサイズを大きくするか、同時接続の数を減らしてください。

関連概念

[IBM MQ classes for Java での接続プーリング](#)

2026 (07EA) (RC2026): MQRC_MD_ERROR

説明

下記のいずれかの理由により、MQMD 構造体が無効です。

- StrucId フィールドが MQMD_STRUC_ID ではありません。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQMD 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2027 (07EB) (RC2027): MQRC_MISSING_REPLY_TO_Q

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、メッセージ記述子 MQMD 内の ReplyToQ フィールドがブランクであるが、以下のいずれかまたは両方が該当する。

- 応答が要求されました (つまり、メッセージ記述子の MsgType フィールドに MQMT_REQUEST が指定されました)。
- メッセージ記述子の Report フィールドでレポート・メッセージが要求されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

応答メッセージまたはレポート・メッセージの送信先のキューの名前を指定してください。

2029 (07ED) (RC2029): MQRC_MSG_TYPE_ERROR

説明

以下のいずれかを実行します。

- MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、メッセージ記述子 (MQMD) 内の MsgType フィールドに指定された値が無効です。
- メッセージ処理プログラムが、期待されるメッセージ・タイプではないメッセージを受信しました。例えば、IBM MQ コマンド・サーバーが、要求メッセージ (MQMT_REQUEST) ではないメッセージを受信すると、この理由コードで要求が拒否されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MsgType フィールドに対して有効な値を指定してください。メッセージ処理プログラムにより要求が拒否される場合、サポートするメッセージ・タイプの詳細について該当のプログラムの資料を参照してください。

2030 (07EE) (RC2030): MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_Q

説明

キューにメッセージを書き込む MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージがキューの最大長より大きく、MQMD 内の MsgFlags フィールドに MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED が指定されていませんでした。セグメント化が使用可能になっていない場合、メッセージの長さは、キューの **MaxMsgLength** 属性とキュー・マネージャーの **MaxMsgLength** 属性のうち、いずれか小さい方を超えてはなりません。

- ▶ **z/OS** z/OS の場合、キュー・マネージャーはメッセージのセグメント化をサポートしていません。MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED が指定されている場合、受け入れられますが、無視されます。

この理由コードは、MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED が指定されている場合に、メッセージ内にあるデータの性質が原因で、キュー・マネージャーがキューに格納できる長さのいくつかのセグメントにメッセージを分割できない場合にも戻されることがあります。

- ユーザー定義形式の場合、キュー・マネージャーが作成できる最小のセグメントは 16 バイトです。
- 組み込み形式の場合、キュー・マネージャーが作成できる最小のセグメントは、それぞれの形式によって異なりますが、MQFMT_STRING (最小セグメント・サイズは 16 バイト) 以外は、どの形式でも 16 バイトより大きくなります。

MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_Q は、レポート・メッセージのメッセージ記述子内の Feedback フィールドにも戻されることがあります。この場合は、メッセージ・チャンネル・エージェントが、リモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MaxLength パラメーターが正しく指定されているかどうかを調べてください。このパラメーターが正しく指定されている場合は、次のいずれかの処置を取ってください。

- キューの **MaxLength** 属性の値を大きくしてください。キュー・マネージャーの **MaxLength** 属性の値も大きくしなければならない場合があります。
- メッセージを複数の小さなメッセージに分割してください。
- MQMD の MsgFlags フィールドで MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED を指定してください。この値を指定すると、キュー・マネージャーでメッセージがいくつかのセグメントに分割されるようになります。

2031 (07EF) (RC2031): MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_Q_MGR

説明

キューにメッセージを書き込む MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージがキュー・マネージャーの最大長より大きく、MQMD 内の MsgFlags フィールドに MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED が指定されていませんでした。セグメンテーションが許可されない場合、メッセージの長さは、キュー・マネージャーの **MaxLength** 属性とキュー **MaxLength** 属性の小さい方を超えることはできません。

この理由コードは、MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED を指定した場合に、メッセージ内にあるデータの性質が原因で、キュー・マネージャーがキュー・マネージャーの制限に適合する長さのいくつかのセグメントにメッセージを分割できない場合にも戻されることがあります。

- ユーザー定義形式の場合、キュー・マネージャーが作成できる最小のセグメントは 16 バイトです。
- 組み込み形式の場合、キュー・マネージャーが作成できる最小のセグメントは、それぞれの形式によって異なりますが、MQFMT_STRING (最小セグメント・サイズは 16 バイト) 以外は、どの形式でも 16 バイトより大きくなります。

MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_Q_MGR は、レポート・メッセージのメッセージ記述子内の Feedback フィールドにも戻されることがあります。この場合は、メッセージ・チャンネル・エージェントが、リモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

さらに、メッセージが通過するチャンネルが、キュー・マネージャーによって実際にサポートされるよりも小さい値に最大メッセージ長を制限しており、メッセージ長がこの値より大きな場合にも、この理由コードが戻される。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

BufferLength パラメーターが正しく指定されているかどうかを調べてください。このパラメーターが正しく指定されている場合は、次のいずれかの処置を取ってください。

- キュー・マネージャーの **MaxMsgLength** 属性の値を増やします。キューの **MaxMsgLength** 属性も増やす必要がある場合があります。
- メッセージを複数の小さなメッセージに分割してください。
- MQMD の **MsgFlags** フィールドで **MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED** を指定してください。この値を指定すると、キュー・マネージャーでメッセージがいくつかのセグメントに分割されるようになります。
- チャネル定義を調べてください。

2033 (07F1) (RC2033): MQRC_NO_MSG_AVAILABLE

説明

MQGET 呼び出しが発行されましたが、MQMD (**MsgId** および **CorrelId** フィールド) および MQGMO (**Options** および **MatchOptions** フィールド) で指定された選択基準を満たすメッセージがキューにありません。MQGMO_WAIT オプションが指定されませんでした。あるいは、MQGMO の **WaitInterval** フィールドに指定された時間間隔が満了しました。この理由コードは、ブラウザのための MQGET 呼び出しで、キューの終わりに達したときにも戻されます。

この理由コードは、mqGetBag 呼び出しと mqExecute 呼び出しで戻されることもあります。mqGetBag は MQGET とほとんど同じものです。mqExecute 呼び出しの場合、完了コードは MQCC_WARNING と MQCC_FAILED のどちらかになります。

- 完了コードが MQCC_WARNING の場合、指定した待機間隔内に一部の応答メッセージは受信されましたが、全部は受信されていません。応答バッグの中には、システムが生成してネストされた、受信したメッセージのバッグがあります。
- 完了コードが MQCC_FAILED の場合、指定した待機間隔内に応答メッセージは 1 つも受信されませんでした。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

これが予期されていた条件である場合、訂正処置は不要です。

これが予期されていた条件ではない場合、下記のことを確認してください。

- テスト・メッセージが正常にキューに書きこまれたこと。
- MQPUT または MQPUT1 呼び出しのために使用された作業単位があるなら、それが正常にコミットされたこと。
- 選択基準を制御するオプションが正しく指定されていること。次のコードはすべて、MQGET 呼び出しの戻りメッセージの適格性に影響を与えます。
 - MQGMO_LOGICAL_ORDER
 - MQGMO_ALL_MSGS_AVAILABLE
 - MQGMO_ALL_SEGMENTS_AVAILABLE
 - MQGMO_COMPLETE_MSG

- MQMO_MATCH_MSG_ID
- MQMO_MATCH_CORREL_ID
- MQMO_MATCH_GROUP_ID
- MQMO_MATCH_MSG_SEQ_NUMBER
- MQMO_MATCH_OFFSET
- MQMD 中の MsgId フィールドの値
- MQMD 中の CorrelId フィールドの値

メッセージの待機時間を長くすることを検討してください。

2034 (07F2) (RC2034): MQRC_NO_MSG_UNDER_CURSOR

説明

MQGMO_MSG_UNDER_CURSOR または MQGMO_BROWSE_MSG_UNDER_CURSOR オプションを指定した MQGET 呼び出しが発行されました。しかし、ブラウザ・カーソルの位置は、取り出し可能なメッセージの位置ではありません。これは、次のいずれかの原因で起こります。

- カーソルが、論理的に先頭のメッセージの前に位置付けられている (ブラウザ・オプションを指定した最初の MQGET 呼び出しが正常に実行される前の状態)。
- ブラウズ操作が実行された後、(おそらく他のいずれかのアプリケーションによって) ブラウズ・カーソルが位置付けられたメッセージがロックされたか、そのキューから除去された。
- ブラウズ・カーソルが位置付けられていたメッセージの有効期限が切れた。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションの論理を調べてください。アプリケーションの設計上、ブラウザの後で複数のサーバーがメッセージを獲得するために競合できるようになっている場合、これは予期された理由である可能性があります。先行するブラウザのための MQGET 呼び出しで MQGMO_LOCK オプションを使用することを検討してください。

2035 (07F3) (RC2035): MQRC_NOT_AUTHORIZED

一般的な説明

説明

エラーを発生させた、アプリケーションまたはチャネルのユーザーには、以下のように、試行した操作を実行する権限がありません。

- MQCONN または MQCONNX 呼び出しで、ユーザーがキュー・マネージャーへの接続を許可されていない。これは、次のいずれかの理由で起こります。
 - ローカルでバインドされたアプリケーションの場合に、アプリケーションのユーザー ID に、キュー・マネージャーに接続する権限が付与されていません。
 - MQCONNX 呼び出しの MQCSP 構造で無効なユーザー ID またはパスワードが指定されています。
 - **V9.3.4** MQCONNX 呼び出しの MQCSP 構造で、無効な認証トークンが指定されました。
 - キュー・マネージャーは、接続時にアプリケーションが MQCSP 構造で認証資格情報を提供することを要求するように構成されていますが、アプリケーションは資格情報を提供しませんでした。

▶ **z/OS** z/OS では、CICS アプリケーションの場合、このコードの代わりに MQRC_CONNECTION_NOT_AUTHORIZED が発行されます。

- MQCONNX 呼び出しのユーザー ID またはパスワードの長さが、許可される最大長を超えています。ユーザー ID の最大長は、プラットフォームによって異なります。詳しくは、[ユーザー ID](#) を参照してください。
- IBM MQ classes for Java 内のキュー・マネージャー、またはクライアント・トランスポートを使用している IBM MQ classes for JMS アプリケーションへの接続を試行します。これは、次のいずれかの理由で起こります。
 - アプリケーションで、キュー・マネージャーとの認証に互換モードを使用しており、ユーザー ID の長さが許容最大長である 12 文字を超えている。
 - **V9.3.0** IBM MQ classes for Java または IBM MQ classes for JMS を IBM MQ 9.3.0 にアップグレードした後に、アプリケーションによって使用される認証モードが変更されました。Java クライアントが使用する認証モードの詳細については、[Java クライアントを使用した接続認証](#) を参照してください。
- ユーザーは、MQOPEN または MQPUT1 呼び出しにおいて、指定されているオプション (1 つ以上) でオブジェクトをオープンすることを許可されていません。
 - **z/OS** z/OS では、オープンされているオブジェクトがモデル・キューの場合、必要な名前での動的キューを作成する許可がユーザーにないときにも、この理由になります。
- MQCLOSE 呼び出しで、永続動的キューであるオブジェクトを削除する権限がユーザーにありません。また、MQCLOSE 呼び出しで指定された **Hobj** パラメーターが、キューを作成した MQOPEN 呼び出しによって返されたハンドルではありません。
- あるコマンドに関して、ユーザーにそのコマンドを発行する権限がないか、そのコマンドで指定されたオブジェクトにアクセスする権限がありません。
- MQSUB 呼び出しで、ユーザーは、トピックをサブスクライブすることを許可されていません。
- MQSUB 呼び出しで、非管理対象宛先キューを使用するとき、ユーザーは宛先キューを使用することを許可されていません。
- Advanced Message Security セキュリティー・ポリシーの存在。

この理由コードは、レポート・メッセージのメッセージ記述子の Feedback フィールドにも発生することがあります。この場合、メッセージ・チャネル・エージェントがリモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しいキュー・マネージャーまたはオブジェクトが指定されていること、および適切な権限が存在することを確認してください。

アプリケーションが接続時にユーザー ID とパスワード、または認証トークンを指定する場合は、資格情報が有効であることを確認してください。

システム・プログラマーまたはセキュリティ管理者に連絡して、キュー・マネージャーのログに追加情報を提供するメッセージがないか確認してもらってください。 **V9.3.4** 認証トークンの問題に関連するエラー・メッセージには、エラーの原因を説明するエラー・コードが含まれている場合があります。詳しくは、[1413 ページの『トークン認証エラー・コード』](#) を参照してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージを識別するためにも使用されます。生成されるイベント・メッセージは、失敗した操作によって異なり、以下のいずれかのメッセージです。

- MQCONN または MQCONNX [186 ページの『非許可 \(タイプ 1\)』](#)。
- MQOPEN または MQPUT1 [188 ページの『非許可 \(タイプ 2\)』](#)。

- [MQCLOSE 191 ページの『非許可 \(タイプ 3\)』](#)。
- [コマンド 193 ページの『非許可 \(タイプ 4\)』](#)。
- [MQSUB 194 ページの『不許可 \(タイプ 5\)』](#)。
- [MQSUB 宛先 196 ページの『不許可 \(タイプ 6\)』](#)。

RC2035 が生成される特定の問題

JMSWMQ2013 無効なセキュリティー認証

IBM MQ JMS アプリケーションがセキュリティー認証エラーで失敗した場合の情報については、[無効なセキュリティー認証](#) を参照してください。

キューまたはチャネルでの MQRC_NOT_AUTHORIZED

機能を実行する権限がユーザーにないために MQRC 2035 (MQRC_NOT_AUTHORIZED) が戻された場合は、[MQRC_NOT_AUTHORIZED in WMQ](#) で詳細を確認してください。どのオブジェクトにユーザーがアクセスできないかを判別し、ユーザーにそのオブジェクトへのアクセス権限を付与します。

管理者の場合の、MQRC_NOT_AUTHORIZED (クライアントでの AMQ4036)

MQRC 2035 (MQRC_NOT_AUTHORIZED) が戻され、IBM MQ 管理者であるユーザー ID を使用してクライアント接続を介してキュー・マネージャーにリモートでアクセスしようとした場合の情報については、[管理者としての MQRC_NOT_AUTHORIZED](#) を参照してください。

MQS_REPORT_NOAUTH

戻りコード 2035 (MQRC_NOT_AUTHORIZED) をより詳細に診断するための、この環境変数の使用の詳細については、[MQS_REPORT_NOAUTH](#) を参照してください。この環境変数を使用すると、キュー・マネージャーのエラー・ログにエラーが生成されますが、Failure Data Capture (FDC) は生成されません。

MQSAUTHERRORS

戻りコード 2035 (MQRC_NOT_AUTHORIZED) に関連する FDC ファイルを生成するためのこの環境変数の使用の詳細については、[MQSAUTHERRORS](#) を参照してください。この環境変数を使用すると、FDC が生成されますが、キュー・マネージャーのエラー・ログにエラーは生成されません。

WebSphere Application Server から IBM MQ に接続するアプリケーション

WebSphere Application Server から IBM MQ に接続するアプリケーションでの MQRC 2035 (MQRC_NOT_AUTHORIZED) エラーのトラブルシューティングについては、[2035 MQRC_NOT_AUTHORIZED when connecting to IBM MQ from WebSphere Application Server](#) を参照してください。

関連資料

[戻りコード=2035 MQRC_NOT_AUTHORIZED](#)

2036 (07F4) (RC2036): MQRC_NOT_OPEN_FOR_BROWSE

説明

MQGET 呼び出しは、次のいずれかのオプションを指定して発行されました。

- MQGMO_BROWSE_FIRST
- MQGMO_BROWSE_NEXT
- MQGMO_BROWSE_MSG_UNDER_CURSOR

- MQGMO_MSG_UNDER_CURSOR

しかし、キューがブラウザ用にオープンされていなかったか、IBM MQ マルチキャスト・メッセージングが使用されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、MQOO_BROWSE を指定してください。

IBM MQ マルチキャスト・メッセージングを使用している場合、MQGET 呼び出しでブラウザ・オプションを指定できません。

2037 (07F5) (RC2037): MQRC_NOT_OPEN_FOR_INPUT

説明

キューからメッセージを取り出すために MQGET 呼び出しが発行されましたが、そのキューは入力用にオープンされていませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、次のいずれかを指定してください。

- MQOO_INPUT_SHARED
- MQOO_INPUT_EXCLUSIVE
- MQOO_INPUT_AS_Q_DEF

2038 (07F6) (RC2038): MQRC_NOT_OPEN_FOR_INQUIRE

説明

オブジェクト属性を照会するために MQINQ 呼び出しが発行されましたが、オブジェクトは照会用にオープンされていませんでした。

MQINQ 呼び出しは、IBM MQ マルチキャストでのトピック・ハンドル用に発行されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトをオープンするときに、MQOO_INQUIRE を指定してください。

MQINQ は、IBM MQ マルチキャストのトピック・ハンドルではサポートされていません。

2039 (07F7) (RC2039): MQRC_NOT_OPEN_FOR_OUTPUT

説明

キューにメッセージを書き込むために MQPUT 呼び出しが発行されましたが、そのキューは出力用にオープンされていませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、MQOO_OUTPUT を指定してください。

2040 (07F8) (RC2040): MQRC_NOT_OPEN_FOR_SET

説明

キュー属性を設定するために MQSET 呼び出しが発行されましたが、そのキューは設定用にオープンされていませんでした。

MQSET 呼び出しは、IBM MQ マルチキャストでのトピック・ハンドル用に発行されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトをオープンするときに、MQOO_SET を指定してください。

MQSET は、IBM MQ マルチキャストのトピック・ハンドルではサポートされていません。

2041 (07F9) (RC2041): MQRC_OBJECT_CHANGED

説明

この呼び出しで使用された Hobj ハンドルが MQOPEN 呼び出しによって戻されて以来、このオブジェクトに影響を及ぼすオブジェクト定義が変更されました。MQOPEN 呼び出しの詳細については、[MQOPEN](#) を参照してください。

この理由コードは、REFRESH CLUSTER コマンドの実行時に発生する可能性があります。[REFRESH CLUSTER の実行時に見られるアプリケーションの問題](#)を参照してください。

この理由コードは、オブジェクト・ハンドルが MQPUT または MQPUT1 呼び出しの **PutMsgOpts** パラメータの Context フィールドに指定されている場合は発生しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE 呼び出しを発行して、ハンドルをシステムに戻してください。通常は、次にそのオブジェクトを再オープンし、操作を再試行するだけで十分です。ただし、そのオブジェクト定義がアプリケーション論理にとって重要な場合には、そのオブジェクトを再オープンしてから、MQINQ 呼び出しを使って、オブジェクトの属性の新しい値を取得することができます。

2042 (07FA) (RC2042): MQRC_OBJECT_IN_USE

説明

MQOPEN 呼び出しが発行されましたが、当該のオブジェクトは、**Options** パラメーター内に指定されているオプションと矛盾するオプションを使用して、このアプリケーションまたは別のアプリケーションによってすでにオープンされています。これが起こるのは、要求が共用入力用のものであるのに、オブジェクトが排他入力用にすでにオープンされている場合です。また、要求が排他入力用のものであるのに、オブジェクトが (任意の種類) の入力用にすでにオープンされている場合にも、このようなことが起こります。

受信側チャンネルの MCA、またはグループ内キューイング・エージェント (IGQ エージェント) は、メッセージが伝送されていないときでも宛先キューをオープンしておく場合があります。そのため、キューが「使用中」のように見えることがあります。MQSC のコマンド DISPLAY QSTATUS を使用して、キューをオープンしたままにしているユーザーを調べてください。

IBM MQ が共用入力のキューをオープンするのは、アプリケーションが MQOO_INPUT_SHARED オープン・オプションを使用している場合か、アプリケーションが MQOO_INPUT_AS_Q_DEF を使用していて、デフォルトの共用オプション・キュー属性が DEFSOPT(SHARED) に設定されている場合です。ただし、SHARE/NOSHARE オプションという形の管理オーバーライドもあります。

キュー定義で NOSHARE が設定されている場合、IBM MQ はアプリケーションで設定されているオプションにかかわらず、入力ハンドルを排他に設定します。

- ▶ **z/OS** z/OS では、オープン対象のオブジェクト (キューである場合、または MQOPEN の場合は、名前リストかプロセス・オブジェクトである) が削除処理の最中だった場合は、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しについても、この理由コードが示されることがあります。
- ▶ **z/OS** z/OS のデフォルト設定は NOSHARE です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

システム設計のときに、アプリケーションが待機して再試行するか、あるいは他の処置を取るのかを指定する必要があります。

2043 (07FB) (RC2043): MQRC_OBJECT_TYPE_ERROR

説明

MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD の objectType フィールドに無効な値が指定されています。MQPUT1 呼び出しの場合、オブジェクト・タイプは MQOT_Q でなければなりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なオブジェクト・タイプを指定してください。

2044 (07FC) (RC2044): MQRC_OD_ERROR

説明

下記のいずれかの理由により、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD が無効です。

- StrucId フィールドが MQOD_STRUC_ID でない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQOD 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2045 (07FD) (RC2045): MQRC_OPTION_NOT_VALID_FOR_TYPE

説明

MQOPEN 呼び出しまたは MQCLOSE 呼び出しで、オブジェクトのタイプとして無効であるか、オープン中またはクローズ中のキューにとって無効であるオプションが指定されています。

MQOPEN 呼び出しについては、以下の場合があります。

- オプションがオブジェクト・タイプに不適切である (例えば MQOT_PROCESS オブジェクトに対する MQOO_OUTPUT)。
- オプションがそのキュー・タイプではサポートされない (例えば、ローカル定義を持っていないリモート・キューに対する MQOO_INQUIRE)。
- 次のオプションの 1 つまたは複数が、指定されている。

- MQOO_INPUT_AS_Q_DEF
- MQOO_INPUT_SHARED
- MQOO_INPUT_EXCLUSIVE
- MQOO_BROWSE
- MQOO_INQUIRE
- MQOO_SET

ただし、以下のいずれかの場合です。

- キュー名が、セル・ディレクトリーを介して解決されている。
- オブジェクト記述子内の ObjectQMgrName は、リモート・キューのローカル定義の名前 (キュー・マネージャー別名を指定するため) を指定します。定義の RemoteQMgrName 属性で指定されたキューは、ローカル・キュー・マネージャーの名前です。

MQCLOSE 呼び出しの場合、次の場合が含まれます。

- キューが動的キューでないのに MQCO_DELETE または MQCO_DELETE_PURGE オプションが指定されている。

オープン中のオブジェクトのタイプが MQOT_NAMELIST、MQOT_PROCESS、MQOT_Q_MGR のいずれかであり、MQOD の ObjectQMgrName フィールドが空白でなくローカル・キュー・マネージャー名でもないときにも、この理由コードが MQOPEN 呼び出しで戻されることがあります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しいオプションを指定する。MQOPEN 呼び出しの場合は、ObjectQMgrName フィールドが正しく設定されているかどうかを確認してください。MQCLOSE 呼び出しの場合は、オプションを訂正するか、キューの新規作成に使用されるモデル・キューの定義タイプを変更してください。

2046 (07FE) (RC2046): MQRC_OPTIONS_ERROR

説明

Options パラメーターまたはフィールドに、無効なオプションが入っているか、または無効なオプションの組み合わせが入っています。

- MQOPEN、MQCLOSE、MQXCNVC、mqBagToBuffer、mqBufferToBag、mqCreateBag、および mqExecute の各呼び出しの場合、**Options** は、その呼び出し上の個別のパラメーターです。

この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

- MQBEGIN、MQCONN、MQGET、MQPUT、および MQPUT1 の各呼び出しの場合、Options は、関連のオプション構造体 (MQBO、MQCNO、MQGMO、または MQPMO) 内のフィールドです。
- IBM MQ マルチキャストのオプション・エラーの詳細については、[MQI の概念と、マルチキャストとの関係を参照してください](#)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なオプションを指定してください。どのオプションおよびオプションの組み合わせが有効であるか判別するために、**Options** パラメーターまたはフィールドの記述を調べてください。個々のオプションをまとめて追加することによって複数のオプションを設定している場合は、同じオプションを重複して追加しないようにしてください。詳しくは、[MQI オプションの妥当性検査に関する規則](#)を参照。

2047 (07FF) (RC2047): MQRC_PERSISTENCE_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、メッセージ記述子 MQMD 内の Persistence フィールドに指定された値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかの値を指定します。

- MQPER_PERSISTENT
- MQPER_NOT_PERSISTENT
- MQPER_PERSISTENCE_AS_Q_DEF

2048 (0800) (RC2048): MQRC_PERSISTENT_NOT_ALLOWED

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しで、MQMD 内の Persistence フィールドに指定された値 (または DefPersistence キュー属性から取得された値) が MQPER_PERSISTENT を指定していますが、メッセージが置かれているキューが持続メッセージをサポートしていません。持続メッセージは、一時動的キューに入れることができません。

この理由コードは、レポート・メッセージのメッセージ記述子の Feedback フィールドにも発生することがあります。この場合、メッセージ・チャンネル・エージェントがリモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。


完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを一時動的キューに入れる必要がある場合は、MQPER_NOT_PERSISTENT を指定してください。持続性が必要な場合には、一時動的キューではなく永続動的キューまたは事前定義キューを使用してください。

サーバー・アプリケーションでは、元の要求メッセージ (メッセージ・タイプ MQMT_REQUEST) と同じ持続性を指定して応答メッセージ (メッセージ・タイプ MQMT_REPLY) を送信してください。要求メッセージが持続メッセージである場合、メッセージ記述子 MQMD 内の ReplyToQ フィールドで指定されている応答キューを一時動的キューにすることはできません。この場合には、永続動的キューまたは事前定義キューを応答キューとして使用する必要があります。

 z/OS では、キューが使用する CFSTRUCT が RECOVER(NO) で定義されている場合は、持続メッセージを共有キューに入れることはできません。非持続メッセージだけをこのキューに入れるか、または CFSTRUCT 定義を RECOVER(YES) に変更してください。持続メッセージを、RECOVER(NO) が指定された CFSTRUCT を使用するキューに入れようとする、失敗して MQRC_PERSISTENT_NOT_ALLOWED が出されます。

2049 (0801) (RC2049): MQRC_PRIORITY_EXCEEDS_MAXIMUM

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ記述子 MQMD 内の Priority フィールドの値が、MaxPriority キュー・マネージャー属性で示されているローカル・キュー・マネージャーでサポートされている最大優先度を超えています。メッセージは、キュー・マネージャーによって受け入れられますが、そのキュー・マネージャーの最大優先順位でキューに入れられます。メッセージ記述子の Priority フィールドは、メッセージを書き込んだアプリケーションによって指定された値を保持します。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

この理由コードが、メッセージを書き込んだアプリケーションが予期していたコードの場合、処置は不要です。

2050 (0802) (RC2050): MQRC_PRIORITY_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ記述子 MQMD 内の Priority フィールドの値が無効です。キュー・マネージャーによってサポートされる最大優先順位は、MaxPriority キュー・マネージャー属性によって指定されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

0 から MaxPriority の範囲の値、または特殊値 MQPRI_PRIORITY_AS_Q_DEF を指定してください。

2051 (0803) (RC2051): MQRC_PUT_INHIBITED

説明

キューまたはこのキューが解決するキューについて、MQPUT 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しの使用が現在禁止されています。

この理由コードは、レポート・メッセージのメッセージ記述子の Feedback フィールドにも発生することがあります。この場合、メッセージ・チャネル・エージェントがリモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

システムの設計上、書き込み要求を短期間禁止できるようになっている場合は、後で操作を再試行する。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [199 ページ](#)の『書き込み禁止』の識別にも使用されます。

システム・プログラマーの処置

メッセージを書き込むことができるようにするには、ALTER QLOCAL(...) PUT(ENABLED)を使用します。

2052 (0804) (RC2052): MQRC_Q_DELETED

説明

呼び出しで指定された Hobj キュー・ハンドルが、オープンされたあとで削除された動的キューを参照しています。動的キューの削除の詳細については、[MQCLOSE](#) の MQCLOSE の説明を参照してください。

- **z/OS** z/OS では、動的キューのオープン処理中であって、そのキューが論理的に削除された状況になっていた場合にも、MQOPEN 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しでこのコードが戻されることがあります。このコードについては、MQCLOSE を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

システムにハンドルおよび関連リソースを返すために、MQCLOSE 呼び出しを発行してください (この場合、MQCLOSE 呼び出しは成功します)。エラーを引き起こしたアプリケーションの設計を調べてください。

2053 (0805) (RC2053): MQRC_Q_FULL

説明

キューがいっぱいである (つまり、キューには、**MaxQDepth** キュー属性で指定された許容される最大数のメッセージがすでに格納されている) ため、MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出し、またはコマンドが失敗しました。

この理由コードは、レポート・メッセージのメッセージ記述子の **Feedback** フィールドにも発生することがあります。この場合、メッセージ・チャネル・エージェントがリモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

操作を後で再試行する。このキューの最大サイズを増やすか、このキューを処理するためのアプリケーションのインスタンス数を増やすことを検討してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [204 ページの『キュー満杯』](#)の識別にも使用されます。

2055 (0807) (RC2055): MQRC_Q_NOT_EMPTY

説明

永続動的キューに対して、次のいずれかを指定した MQCLOSE 呼び出しが発行されましたが、キューが空でなかったか使用中であったために、その呼び出しはエラーになりました。次のいずれかが当てはまります。

- MQCO_DELETE オプションが指定されたが、キューにまだメッセージが残っている。
- MQCO_DELETE または MQCO_DELETE_PURGE オプションが指定されたが、キューに対して未処理のコミットされていない読み取り呼び出しまたは書き込み呼び出しがある。

詳しくは、MQCLOSE 呼び出しの動的キューに関する使用上の注意を参照してください。

この理由コードは、コミットされていないメッセージがキューに存在する場合に (または、除去オプションのない削除キューの場合はコミット済みメッセージ)、そのキューを消去、削除、または移動するためにコマンドからも返されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答


キュー上にメッセージが存在する理由を調べてください。そのキューに 1 つまたは複数のメッセージが存在する場合でも、**CurrentQDepth** キュー属性が 0 になる可能性があるので注意してください。まだコミットされていない作業単位の一部としてメッセージが取り出された場合に、このようなことが起こります。メッセージを廃棄できる場合は、MQCO_DELETE_PURGE オプションを指定して MQCLOSE 呼び出しを試みてください。この呼び出しをあとで再試行することを検討してください。

2056 (0808) (RC2056): MQRC_Q_SPACE_NOT_AVAILABLE

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、ディスクまたは他の記憶装置上に、キューのために使用できるスペースがありません。

この理由コードは、レポート・メッセージのメッセージ記述子の Feedback フィールドにも発生することがあります。この場合、メッセージ・チャンネル・エージェントがリモート・キューにメッセージを書き込もうとしたときにエラーを検出したことを示します。

-  z/OS 上では、この理由コードは発生しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションが無限ループにメッセージを書き込んでいるかどうかを調べてください。書き込んでいない場合には、キューに使用できるスペースを増やしてください。

2057 (0809) (RC2057): MQRC_Q_TYPE_ERROR

説明

次のいずれかが起こりました。

- MQOPEN 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD またはオブジェクト・レコード MQOR の ObjectQMgrName フィールドにリモート・キューのローカル定義の名前を指定し (キュー・マネージャーの別名を指定します)、そのローカル定義では **RemoteQMgrName** 属性にローカル・キュー・マネージャーの名前を指定します。しかし、MQOD または MQOR の ObjectName フィールドには、ローカル・キュー・マネージャー上のモデル・キューの名前が指定されており、これは許されません。詳しくは、[MQOPEN](#) を参照してください。
- 環境変数 AMQ_BLOCK_RECONN_DYN_QUEUES が均一クラスター内のキュー・マネージャーに設定されている場合、この戻りコードは、呼び出しによって新しい動的キューが作成されたときに、キュー・マネージャーへの接続が接続オプション MQCNO_RECONNECT を使用して作成されていれば、MQOPEN 呼び出しで発生する可能性があります。
- MQPUT1 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD またはオブジェクト・レコード MQOR にモデル・キューの名前が指定されています。
- 直前の MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、モデル・キューの名前がメッセージ記述子の ReplyToQ フィールドに指定されましたが、モデル・キューを応答メッセージまたはレポート・メッセージの宛先として指定することはできません。宛先として指定できるのは、事前定義キューの名前、あるいはモデル・キューから作成された動的キューの名前だけです。この状況では、応答メッセージまたはレポート・メッセージが送達不能キューに入ると、理由コード MQRC_Q_TYPE_ERROR が MQDLH 構造体の Reason フィールドに戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なキューを指定してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [210 ページ](#)の『[キュー・タイプ・エラー](#)』の識別にも使用されます。

2058 (080A) (RC2058): MQRC_Q_MGR_NAME_ERROR

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しで、**QMgrName** パラメーターに指定された値が無効か、または未知の値です。この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

- ▶ **z/OS** z/OS の場合、CICS アプリケーションで元の接続に誤った名前または認識できない名前が指定されていると、何を呼び出してもこの理由コードが戻される場合があります。

▶ **z/OS** CICS の場合、この理由コードの原因は、再同期の値の誤りである可能性があります。例えば、Groupresync が指定され、キュー・マネージャーがキュー共用グループに含まれていない場合などです。

この理由コードは、MQ MQI クライアント・アプリケーションが MQ クライアント・キュー・マネージャー・グループ内のキュー・マネージャーへの接続を試行し (**MQCONN** の **QMgrName** パラメーターを参照)、以下のいずれかの場合にも発生することがあります。

- キュー・マネージャー・グループがサポートされていない。
- 指定された名前のキュー・マネージャー・グループが存在しない。

▶ **z/OS** z/OS 上の IMS アダプターの場合、MQRC_Q_MGR_NAME_ERROR は、CSQQDEFV がロードされ、以下のいずれかの場合に発生します。

- MQCONN 呼び出しに空のキュー・マネージャー名が指定されていて、CSQQDEFX TYPE=DEFAULT エントリが存在しない。
- MQCONN 呼び出しに指定されたキュー・マネージャー名が、ロードされた CSQQDEFV テーブルに存在しない。
- 意図したものと異なる CSQQDEFV モジュールがロードされた (製品に付属するデフォルトのモジュールなど)。この状況は、CSQQDEFV モジュールを格納するライブラリーが、従属領域の STEPLIB または JOBLIB 内で SCSQAUTH データ・セットの後にあることが原因で発生する場合があります。連結の中のライブラリーを SCSQAUTH データ・セットの前に移動してください。STEPLIB/JOBLIB 内に CSQQDEFV ロード・モジュールがない場合は、LINKLIST によって何がロードされているかを確認してください。

▶ **z/OS** CICS アダプターでは、以下のような場合に MQRC_Q_MGR_NAME_ERROR が発生します。

- MQCONN 定義によって Resyncmember(Groupresync) が指定され、MQNAME によってキュー共用グループ名の代わりにキュー・マネージャー名が指定されている。

▶ **z/OS** MQRC_Q_MGR_NAME_ERROR は、既存の IBM MQ 接続で使用されているものとは異なるタイプのアダプターを使用して、同じアドレス・スペースに接続しようとしたときに返されます。具体的には、以下のような場合です。

- CICS、IMS、または RRSBATCH タイプの領域で実行されている出口が、BATCH アダプターを介して MQCONN を試みている。
- CICS 標準 Liberty プロファイル・アプリケーションは、バインディング接続ファクトリーを使用して IBM MQ に接続しようと試みますが、既に CICS 領域から同じキュー・マネージャーに確立されている既存の CICS MQCONN が存在します。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

可能なら全部ブランクの名前を使用してください。あるいは、使用されている名前が有効かどうかを検証してください。

CICS Resyncmember(Groupresync) を使用している場合、キュー・マネージャー名ではなく、MQNAME のキュー共有グループ (QSG) 名を使用してください。

2059 (080B) (RC2059): MQRC_Q_MGR_NOT_AVAILABLE

説明

このエラーは次の場合に発生します。

1. MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しでは、**QMgrName** パラメーターによって識別されるキュー・マネージャーを接続に使用することはできません。
 - **z/OS** On z/OS:
 - バッチ・アプリケーションの場合、キュー・マネージャーがインストールされていない LPAR で実行されているアプリケーションにこの理由が返されることがあります。
 - CICS アプリケーションの場合、元の接続で指定されたキュー・マネージャーの名前が認識可能であっても使用可能でないと、何を呼び出してもこの理由コードが戻される場合があります。
 - システム全体で ECSA が不足している可能性がある。または、キュー・マネージャーの新規接続を作成するために使用できるストレージが ACELIM システム・パラメーターによって制限されている可能性がある。詳しくは、メッセージ [CSQ3202E](#) を参照してください。
 - **IBM i** IBM i では、互換モードで実行しているアプリケーションにより **Hconn** パラメーターに MQHC_DEF_HCONN が指定されていると、MQOPEN 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しでもこの理由コードが戻されることがあります。
2. IBM MQ MQI client アプリケーションからの MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しの場合:
 - MQ クライアント・キュー・マネージャー・グループ内で接続に使用可能なキュー・マネージャーが存在しない場合に、グループ内のキュー・マネージャーに接続しようとした (MQCONN 呼び出しの **QMgrName** パラメーターを参照)。
 - クライアント・チャンネルで接続に失敗した場合 (原因はおそらく、クライアント接続チャンネル定義または対応するサーバー接続チャンネル定義のエラー)
3. コマンドが、**CommandScope** パラメーターを使用して、キュー共有グループでアクティブではないキュー・マネージャーを指定している場合。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーが始動したことを確認してください。クライアント・アプリケーションからの接続の場合は、チャンネル定義、チャンネル状況、エラー・ログを調べてください。

複数インストール環境では、IBM MQ ライブラリーがオペレーティング・システムによってロードされていることを確認してください。詳細については、[複数のインストール環境でのアプリケーションの接続](#)を参照してください。

2061 (080D) (RC2061): MQRC_REPORT_OPTIONS_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ記述子 MQMD 内の Report フィールドに、ローカル・キュー・マネージャーによって認識されないオプションが 1 つ以上含まれています。この理由コードが返される原因となるオプションは、そのメッセージの宛先によって異なります。詳細については、[レポート・オプションおよびメッセージ・フラグの REPORT](#) の説明を参照してください。

この理由コードは、レポート・メッセージの MQMD の Feedback フィールド、または送達不能キューのメッセージの MQDLH 構造体の Reason フィールドに戻されます。どちらの場合も、このコードは、メッセージの送信元が指定したレポート・オプションの中に、宛先キュー・マネージャーがサポートしていないものが1つ以上あることを示しています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

以下の作業を行います。

- メッセージ記述子内の Report フィールドが、そのメッセージ記述子を宣言したときの値で必ず初期設定されるか、あるいは、MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しの前に、必ずそのフィールドに値が割り当てられるようにしてください。レポート・オプションがまったく必要ない場合には、MQRO_NONE を指定してください。
- 指定されたレポート・オプションが有効であることを確認してください。有効なレポート・オプションについては、「[レポート・オプションおよびメッセージ・フラグ](#)」の MQMD の説明で説明されている Report フィールドを参照してください。
- 個々のレポート・オプションを一度に追加して複数のレポート・オプションを設定する場合は、同じレポート・オプションを重複して追加しないようにしてください。
- 矛盾するレポート・オプションを指定していないかどうかを確認してください。例えば、MQRO_EXCEPTION と MQRO_EXCEPTION_WITH_DATA の両方を Report フィールドに追加しないでください。これらのうちの一方だけを指定できます。

2062 (080E) (RC2062): MQRC_SECOND_MARK_NOT_ALLOWED

説明

MQGMO の Options フィールドに MQGMO_MARK_SKIP_BACKOUT オプションを指定した MQGET 呼び出しが発行されましたが、現在の作業単位の中ですでにメッセージがマークされています。1つの作業単位内でマークできるメッセージは1つだけです。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED


プログラマー応答

1つの作業単位の中で複数のメッセージをマークしないようにアプリケーションを修正してください。

2063 (080F) (RC2063): MQRC_SECURITY_ERROR

説明

MQCONN、MQCONNX、MQOPEN、MQSUB、MQPUT1、または MQCLOSE 呼び出しが発行されましたが、セキュリティ・エラーが発生したために失敗しました。

-  z/OS の場合、これには次の2つの理由が考えられます。
 - WebSphere Application Server または WebSphere Liberty Profile 環境内で実行されている JMS アプリケーションから BINDINGS トランスポートを使用してキュー・マネージャーに接続するために、

MQCONN または MQCONNX 呼び出しが発行され、8 文字より長いユーザー名またはパスワード、あるいはその両方が渡されました。

– 外部セキュリティー・マネージャーからセキュリティー・エラーが戻されました。

- Advanced Message Security (AMS) を使用している場合、これはセットアップの問題である可能性があります。

▶ **z/OS** AMS が有効になっているときに IBM MQ API 呼び出しが発行されましたが、AMS 処理中にセキュリティー・エラーが発生したため、呼び出しは失敗しました。

▶ **z/OS** 例えば、有効な証明書が存在しない場合、MQOPEN 呼び出しが失敗する可能性があります。

▶ **z/OS** 例えば、証明書またはポリシーが正しく構成されていないために、MQGET 呼び出しが失敗することがあります。MQGET 呼び出しが失敗すると、SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE にメッセージが配信されることがあります。

- LDAP サーバーで接続認証を使用している場合、これは、LDAP サーバーへの接続障害、または LDAP サーバーからのエラーの結果である可能性があります。

- **V 9.3.4** アプリケーションが MQCONNX 呼び出しで認証トークンを提供した場合、キュー・マネージャーの認証トークン構成にエラーがある可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

セキュリティー・マネージャーからのエラーを記録し、システム・プログラマーまたはセキュリティー管理者に連絡してください。

- Advanced Message Security を使用している場合は、キュー・マネージャーのエラー・ログを確認してください。

- **z/OS** z/OS では、指定されたユーザー名の最大長が 8 文字であり、指定されたパスワードの最大長が 100 文字であることを確認してください。

システム・プログラマーまたはセキュリティー管理者に以下を行うよう依頼してください。

- キュー・マネージャーおよび AMS ジョブ・ログに追加のメッセージがあるかどうかを確認する
- 証明書が有効であり、正しく構成されていることを確認する
- ポリシーが有効であり、正しく構成されていることを確認する
- SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE にメッセージが示されていないかを確認します。

- **IBM i** IBM i の場合、FFST ログにエラー情報が含まれています。

- LDAP を使用している場合は、[DISPLAY QMSTATUS](#) コマンドを使用して LDAP サーバーへの接続の状況を確認し、キュー・マネージャーのエラー・ログでエラー・メッセージを確認してください。

- **V 9.3.4** アプリケーションが MQCONNX 呼び出しで認証トークンを提供した場合は、キュー・マネージャーのエラー・ログで追加情報を提供するメッセージを確認するように、システム・プログラマーまたはセキュリティー管理者に依頼してください。認証トークンの問題に関連するエラー・メッセージには、エラーの原因を説明するエラー・コードが含まれている場合があります。詳細については、[1413](#) ページの『[トークン認証エラー・コード](#)』を参照してください。

V 9.3.4 ▶ **Linux** ▶ **AIX** **2064 (0810) (RC2064):**

MQRC_TOKEN_TIMESTAMP_NOT_VALID

説明

認証トークンを含む MQCONNX 呼び出しが発行されましたが、トークンがまだ有効でないか、有効期限が切れているため、失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーのエラー・ログで追加メッセージを確認するように管理者に依頼してください。有効期限が切れていない別のトークンを取得し、「not before」クレームがある場合は、「not before」時間が経過した後に接続してトークンを提示します。詳しくは、[認証トークンの要件](#)を参照してください。

関連概念

[MQCONNX - キュー・マネージャーの接続 \(拡張\)](#)

[認証トークンの処理](#)

[認証トークンの問題のトラブルシューティング](#)

関連タスク

[アプリケーションでの認証トークンの使用](#)

関連資料

[トークン認証エラー・コード](#)

2065 (0811) (RC2065): MQRC_SELECTOR_COUNT_ERROR

説明

MQINQ 呼び出しまたは MQSET 呼び出しで、**SelectorCount** パラメーターに無効な値が指定されています。この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

0 から 256 の範囲の値を指定してください。

2066 (0812) (RC2066): MQRC_SELECTOR_LIMIT_EXCEEDED

説明

MQINQ または MQSET 呼び出しで、**SelectorCount** パラメーターにサポートされる最大値 (256) より大きい値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

呼び出しに指定されているセレクターの数を減らしてください。有効な値の範囲は 0 から 256 です。

2067 (0813) (RC2067): MQRC_SELECTOR_ERROR

説明

MQINQ または MQSET 呼び出しが発行されましたが、次のいずれかの理由により、Selectors 配列に含まれるセレクターが無効なものでした。

- そのセレクターは、サポートされていない、または範囲外である。
- そのセレクターは、属性の照会または設定をしようとしているオブジェクトのタイプに適用されない。
- そのセレクターは、設定できない属性のものである。

この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

MQINQ 呼び出しは、IBM MQ マルチキャストの管理ハンドル用に発行され、**Current Depth** 以外の値を照会します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

セレクターとして指定されている値が、Hobj によって表されているオブジェクト・タイプに対して有効であることを確認してください。MQSET 呼び出しの場合には、セレクターが、設定可能な整数属性を表していることも確認してください。

IBM MQ マルチキャストの管理ハンドル用の MQINQ は、*Current Depth* 上でのみ照会できます。

2068 (0814) (RC2068): MQRC_SELECTOR_NOT_FOR_TYPE

説明

MQINQ 呼び出しで、Selectors 配列内の 1 つ以上のセレクターが、属性を照会するキューのタイプに適用されません。

この理由は、キューの解決結果がそのキューのリモート・インスタスとなる場合にも発生します。その場合に照会できるのは、属性のうちローカル・キューに対して有効なものだけです。MQINQ の詳細については、[MQINQ - オブジェクト属性の照会の MQINQ の説明](#)にある使用上の注意を参照してください。

この呼び出しは、MQCC_WARNING で完了し、適用不可能なセレクターの属性値が、次のように設定されます。

- 整数属性については、**IntAttrs** の対応するエレメントが MQIAV_NOT_APPLICABLE に設定されます。
- 文字属性の場合、**CharAttrs** スtring の該当する部分が、アスタリスク (*) だけからなる文字 String に設定されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

指定されているセレクターが、意図したものであることを確認してください。

キューがクラスター・キューの場合、MQOO_INQUIRE に加えて MQOO_BROWSE、MQOO_INPUT_*、または MQOO_SET のいずれかのオプションを指定すると、そのキューの解決結果は強制的にそのローカル・インスタスとなります。しかし、そのキューのローカル・インスタスが存在しないなら、MQOPEN 呼び出しはエラーになります。

2069 (0815) (RC2069): MQRC_SIGNAL_OUTSTANDING**説明**

MQGMO_SET_SIGNAL オプションまたは MQGMO_WAIT オプションを指定した MQGET 呼び出しが発行されましたが、キュー・ハンドル *Hobj* には、すでに未解決の信号があります。

この理由コードは、z/OS および Windows 98--> でのみ出されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションの論理を調べてください。同じキューについての未解決の信号があるときに、信号または待機を設定する必要がある場合は、別のオブジェクト・ハンドルを使用する必要があります。

2070 (0816) (RC2070):**MQRC_SIGNAL_REQUEST_ACCEPTED****説明**

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_SET_SIGNAL を指定した MQGET 呼び出しが発行されましたが、使用可能な該当するメッセージがありませんでした。呼び出しは即時に復帰します。そこでアプリケーションは、信号が送達されるのを待つことができます。

- **z/OS** z/OS では、*Signal1* フィールドが指すイベント制御ブロックをアプリケーションで待機する必要があります。
- **Windows** Windows 98--> では、アプリケーションは、Windows メッセージの信号が送達されるのを待機する必要があります。

この理由コードは、z/OS および Windows 98--> でのみ出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

信号を待機してください。信号が送達されたら、それを調べてメッセージが使用可能になったかどうかを確認してください。メッセージが使用可能になったら、MQGET 呼び出しを再発行してください。

- z/OS の場合は、*Signal1* フィールドが指す ECB で待ち、それが通知されたら、それを調べてメッセージが使用可能になっていることを確認してください。
- Windows 95 および Windows 98 の場合は、アプリケーション (スレッド) でメッセージ・ループの実行を続ける必要があります。

2071 (0817) (RC2071): MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE**説明**

使用できる主ストレージが十分でないために、呼び出しは失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アクティブ・アプリケーションが正常に作動しているかどうか (予期しないループに入っていないかどうかなど)を確認してください。問題が見つからない場合は、使用可能な主ストレージを増やしてください。

- ▶ **z/OS** z/OS の場合、アプリケーションに問題が見つからなければ、システム・プログラマーにキュー・マネージャーを実行する領域のサイズを大きくするように要請してください。
- ▶ **z/OS** z/OS では、この戻りコードは、アプリケーション・アドレス・スペース内のすべてのストレージを使い果たした結果と見なすことができます。

2072 (0818) (RC2072): MQRC_SYNCPOINT_NOT_AVAILABLE

説明

MQGET 呼び出しで MQGMO_SYNCPOINT オプションが使用されているか、MQPUT または MQPUT1 呼び出しで MQPMO_SYNCPOINT オプションが使用されていますが、ローカル・キュー・マネージャーはその要求を受け入れることができませんでした。キュー・マネージャーが作業単位をサポートしない場合、**SyncPoint** キュー・マネージャー属性の値は MQSP_NOT_AVAILABLE になります。

外部作業単位コーディネーターを使用する場合も、MQGET、MQPUT、および MQPUT1 呼び出しでこの理由コードが返される場合があります。例えば、そのコーディネーターで、作業単位を開始するために明示的な呼び出しが必要であるとします。この場合、アプリケーションが MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しを発行する前に呼び出しを発行していないと、理由コード MQRC_SYNCPOINT_NOT_AVAILABLE が戻ります。

▶ **IBM i** IBM i では、この理由コードは、IBM i コミットメント制御機能が始動されていないか、キュー・マネージャーで使用できる状態になっていないことを示しています。

この理由コードは、IBM MQ マルチキャスト・メッセージングに MQGMO_SYNCPOINT または MQPMO_SYNCPOINT オプションが使用されていた場合にも返される場合があります。トランザクションは、マルチキャストではサポートされていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQGMO_SYNCPOINT と MQPMO_SYNCPOINT のいずれか該当する指定を除去してください。

▶ **IBM i** IBM i の場合、コミットメント制御が開始されていることを確認してください。コミットメント制御が開始された後でこの理由コードが示された場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

2075 (081B) (RC2075): MQRC_TRIGGER_CONTROL_ERROR

説明

MQSET 呼び出しで、MQIA_TRIGGER_CONTROL 属性セレクターに指定した値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

2076 (081C) (RC2076): MQRC_TRIGGER_DEPTH_ERROR

説明

MQSET 呼び出しで、MQIA_TRIGGER_DEPTH 属性セレクターに指定した値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ゼロより大きい値を指定します。

2077 (081D) (RC2077): MQRC_TRIGGER_MSG_PRIORITY_ERR

説明

MQSET 呼び出しで、MQIA_TRIGGER_MSG_PRIORITY 属性セレクターに指定した値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

値は 0 から、MaxPriority キュー・マネージャー属性の値までの範囲で指定してください。

2078 (081E) (RC2078): MQRC_TRIGGER_TYPE_ERROR

説明

MQSET 呼び出しで、MQIA_TRIGGER_TYPE 属性セレクターに指定した値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

2079 (081F) (RC2079): MQRC_TRUNCATED_MSG_ACCEPTED

説明

MQGET 呼び出しで、メッセージ長が大きすぎたために、与えられたバッファーに収容できませんでした。MQGMO_ACCEPT_TRUNCATED_MSG オプションが指定されていたため、その呼び出しは完了しました。メッセージが (作業単位に関する考慮事項に従って) キューから除去されるか、またはブラウズ操作の場合には、ブラウズ・カーソルがそのメッセージまで進みます。

DataLength パラメーターが切り捨て前のメッセージの長さに設定され、**Buffer** パラメーターには、収容できる分のメッセージが入れられます。また、MQMD 構造体にデータが書き込まれます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

アプリケーションで予期されていた状態であるため、処置はありません。

2080 (0820) (RC2080): MQRC_TRUNCATED_MSG_FAILED

説明

MQGET 呼び出しで、メッセージ長が大きすぎたために、与えられたバッファーに収容できませんでした。MQGMO_ACCEPT_TRUNCATED_MSG オプションが指定されていなかったため、メッセージはキューから除去されませんでした。ブラウズ操作の場合、ブラウズ・カーソルは、呼び出しの前の場所に残ったままです。しかし、MQGMO_BROWSE_FIRST が指定されていた場合には、ブラウズ・カーソルは、論理的には、そのキュー上で最も優先順位の高いメッセージの前に置かれます。

DataLength フィールドが切り捨て前のメッセージの長さに設定され、**Buffer** パラメーターには収容できる分のメッセージが入れられます。また、MQMD 構造体にデータが書き込まれます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

少なくとも **DataLength** と同じ長さのバッファーを指定するか、すべてのメッセージ・データが必ずしも必要でない場合は、MQGMO_ACCEPT_TRUNCATED_MSG を指定してください。

2082 (0822) (RC2082): MQRC_UNKNOWN_ALIAS_BASE_Q

説明

別名のキューをターゲットとして指定している MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、別名キュー属性内の **BaseQName** がキュー名として認識されません。

BaseQName が正常に解決できないクラスター・キューの名前であるときには、この理由コードが戻されることがあります。

この理由コードは、REFRESH CLUSTER コマンドの実行時にも発生する可能性があります。REFRESH CLUSTER の実行時に見られるアプリケーションの問題を参照してください。

MQRC_UNKNOWN_ALIAS_BASE_Q は、アプリケーションが接続先キュー・マネージャーの **ObjectQmgrName**、および別名キューをホストしているキュー・マネージャーを指定していることを示す場合があります。つまり、キュー・マネージャーは指定されたキュー・マネージャーで別名宛先キューを検索するが、別名宛先キューはローカル・キュー・マネージャーにないため失敗することを意味します。**ObjectQmgrName** パラメーターはブランクのままにして、宛先となるキュー・マネージャーがクラスタリングで決まるようにします。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー定義を訂正してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [224 ページ](#)の『[不明別名基本キュー](#)』の識別にも使用されます。

IBM MQ classes for JMS を使用しているアプリケーションによって理由コードが表示される場合は、**QMGR** プロパティが空ストリング("") に設定されるように、アプリケーションによって使用される JMS キュー・オブジェクト定義を変更します。この設定により、ルーティング先のキュー・マネージャーがクラスター化によって確実に決定されます。

キューがクラスター内にある場合は、適切なオープン・オプションを使用したことを確認します。リモート・クラスター・キューからはメッセージを取得できないため、オープン・オプションは出力専用であることを確認します。

関連資料

[クラスター内のキューを開こうとしたときに、戻りコード 2082 MQRC_UNKNOWN_ALIAS_BASE_Q が返される](#)

2085 (0825) (RC2085): MQRC_UNKNOWN_OBJECT_NAME

説明

MQOPEN、MQPUT1、または MQSUB の呼び出しが発行されましたが、オブジェクト記述子 MQOD 中の ObjectName フィールドと ObjectQMGrName フィールドによって識別されるオブジェクトが見つかりません。次のいずれかが当てはまります。

- ObjectQMGrName フィールドが下記のいずれかである。
 - ブランク
 - ローカル・キュー・マネージャーの名前
 - **RemoteQMGrName** 属性がローカル・キュー・マネージャーの名前になっているリモート・キューのローカル定義の名前 (キュー・マネージャー別名)

しかし、指定された ObjectName および ObjectType を持つオブジェクトがローカル・キュー・マネージャーに存在しません。

- オープンしようとしているオブジェクトがリモート・キュー・マネージャー上でサービスを受けるクラスター・キューであるが、ローカル・キュー・マネージャーにリモート・キュー・マネージャーへの定義済み経路が存在しない。
- オープンしようとしているオブジェクトのキュー定義で、QSGDISP(GROUP) になっている。そのような定義を MQOPEN、MQPUT1、または MQSUB 呼び出しで使用することはできません。
- 障害が発生したアプリケーションの MQOD の ObjectQMGrName に、ローカル・キュー・マネージャーの名前が指定されている。そのローカル・キュー・マネージャーは、ObjectName に指定されている特定のクラスター・キューをホストしていない。

このような状況の解決策は、MQOD の ObjectQMGrName をブランクのままにすることです。

この理由コードは、REFRESH CLUSTER コマンドの実行時に発生する可能性があります。 [REFRESH CLUSTER の実行時に見られるアプリケーションの問題](#)を参照してください。

この理由コードは、存在しないオブジェクト名またはその他の項目を指定するコマンドへの応答でも発生する場合があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なオブジェクト名を指定してください。必要な場合は、この名前の最後を空白で埋めてください。そのようなになっている場合は、オブジェクト定義を調べてください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [228 ページ](#)の『不明オブジェクト名』の識別にも使用されます。

キューがクラスター内にある場合は、適切なオープン・オプションを使用したことを確認します。リモート・クラスター・キューからはメッセージを取得できないため、オープン・オプションは出力専用であることを確認します。

関連資料

[クラスター内でキューをオープンしようとしたときの戻りコード= 2085 MQRC_UNKNOWN_OBJECT_NAME](#)

2086 (0826) (RC2086): MQRC_UNKNOWN_OBJECT_Q_MGR

説明

MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD 内の ObjectQMgrName フィールドが、オブジェクトに関する命名規則に従っていません。詳しくは、[ObjectQMgrName \(MQCHAR48\)](#) を参照してください。

この理由コードは、オブジェクト記述子内の ObjectType フィールドの値が MQOT_Q_MGR で、ObjectQMgrName フィールドが空白でなく、指定された名前がローカル・キュー・マネージャーの名前でない場合にも戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED


プログラマー応答

有効なキュー・マネージャー名を指定してください。ローカル・キュー・マネージャーを指定する場合は、すべて空白の名前またはヌル文字で始まる名前を使用できます。必要な場合は、この名前の最後を空白で埋めるか、ヌル文字で終了してください。

2087 (0827) (RC2087): MQRC_UNKNOWN_REMOTE_Q_MGR

説明

MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、次のいずれかの理由からキュー名解決でのエラーが発生しました。

- ObjectQMgrName が空白またはローカル・キュー・マネージャーの名前になっていて、ObjectName がリモート・キュー (またはその別名) のローカル定義の名前であり、以下のいずれかに該当します。
 - RemoteQMgrName が空白またはローカル・キュー・マネージャーの名前になっている。このエラーは、XmitQName が空白でない場合でも発生するので、注意してください。
 - XmitQName は空白だが、RemoteQMgrName の名前で定義された伝送キューはなく、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性は空白。
 - RemoteQMgrName および RemoteQName は、正常に解決できないクラスター・キューを指定します。**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性は空白です。
 -  z/OS の場合のみ、RemoteQMgrName はキュー共用グループ内のキュー・マネージャーの名前ですが、グループ内キューイングが使用不可になっています。
- ObjectQMgrName が (キュー・マネージャー別名定義が入っている) リモート・キューのローカル定義の名前になっており、以下のいずれかが該当します。

- RemoteQName が空白でない。
 - XmitQName は空白だが、RemoteQMgrName の名前で定義された伝送キューはなく、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性は空白。
 - ObjectQMgrName が次のどれでもありません。
 - 空白
 - ローカル・キュー・マネージャーの名前
 - 伝送キューの名前
 - キュー・マネージャー別名定義 (RemoteQName が空白のリモート・キューのローカル定義) の名前
- しかし、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性が空白になっており、キュー・マネージャーが、グループ内キューイングが有効であるキュー共用グループに属していません。
- ObjectQMgrName がモデル・キューの名前です。
 - セル・ディレクトリーによって解決されるキューの名前。しかし、セル・ディレクトリーから取得されたリモート・キュー・マネージャー名と同じ名前で定義されたキューはなく、DefXmitQName キュー・マネージャー属性が空白です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectName および ObjectQMgrName に指定された値を調べてください。それらの値が正しい場合は、キュー定義を調べてください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [230 ページ](#)の『[不明リモート・キュー・マネージャー](#)』の識別にも使用されます。

2090 (082A) (RC2090): MQRC_WAIT_INTERVAL_ERROR

説明

MQGET 呼び出しにおいて、**GetMsgOpts** パラメーター内の WaitInterval フィールドに指定された値が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

無限待機が必要な場合は、0 以上の値を指定するか、特殊値 MQWI_UNLIMITED を指定してください。

2091 (082B) (RC2091): MQRC_XMIT_Q_TYPE_ERROR

説明

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しでは、メッセージはリモート・キュー・マネージャーに送られます。オブジェクト記述子の ObjectName または ObjectQMgrName フィールドは、リモート・キューのローカル定義の名前を指定しますが、定義の XmitQName 属性には以下のいずれかが適用されます。

- XmitQName は空白ではないが、ローカル・キューでないキューを指定している。
- XmitQName は空白だが、RemoteQMgrName はローカル・キューでないキューを指定している。

キュー名がセル・ディレクトリーを介して解決され、そのセル・ディレクトリーから得られたリモート・キュー・マネージャー名がキューの名前であるのに、そのキューがローカル・キューでない場合にも、この理由コードが戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectName および ObjectQMgrName に指定された値を調べてください。それらの値が正しい場合は、キュー定義を調べてください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [220 ページ](#)の『[伝送キュー・タイプ・エラー](#)』の識別にも使用されます。

2092 (082C) (RC2092): MQRC_XMIT_Q_USAGE_ERROR

説明

MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、メッセージはリモート・キュー・マネージャーへ送信されますが、次のいずれかが起こりました。

- ObjectQMgrName はローカル・キューの名前を指定していますが、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION ではありません。
- オブジェクト記述子の ObjectName または ObjectQMgrName フィールドは、リモート・キューのローカル定義の名前を指定しますが、定義の XmitQName 属性には以下のいずれかが適用されます。
 - XmitQName はブランクではないが、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION ではないキューが指定されている。
 - XmitQName はブランクだが、RemoteQMgrName に、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION でないキューが指定されている。
 - XmitQName がキュー SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE を指定しているが、IGQ キュー・マネージャー属性は IGQ が使用不可であることを示している。
- キュー名がセル・ディレクトリーを介して解決され、セル・ディレクトリーから得られたリモート・キュー・マネージャー名はローカル・キューの名前になっていますが、Usage 属性が MQUS_TRANSMISSION ではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectName および ObjectQMgrName に指定された値を調べてください。それらの値が正しい場合は、キュー定義を調べてください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [222 ページ](#)の『[伝送キュー使用エラー](#)』の識別にも使用されます。

2093 (082D) (RC2093): MQRC_NOT_OPEN_FOR_PASS_ALL

説明

PutMsgOpts パラメーターに MQPMO_PASS_ALL_CONTEXT オプションを指定して MQPUT 呼び出しが発行されましたが、そのキューは、MQOO_PASS_ALL_CONTEXT オプションを指定してオープンされていませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、MQOO_PASS_ALL_CONTEXT (またはこれを暗黙指定する別のオプション) を指定してください。

2094 (082E) (RC2094): MQRC_NOT_OPEN_FOR_PASS_IDENT

説明

PutMsgOpts パラメーターに MQPMO_PASS_IDENTITY_CONTEXT オプションを指定して MQPUT 呼び出しが発行されましたが、そのキューは、MQOO_PASS_IDENTITY_CONTEXT オプションを指定してオープンされていませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、MQOO_PASS_IDENTITY_CONTEXT (またはこれを暗黙指定する別のオプション) を指定してください。

2095 (082F) (RC2095): MQRC_NOT_OPEN_FOR_SET_ALL

説明

PutMsgOpts パラメーターに MQPMO_SET_ALL_CONTEXT オプションを指定して MQPUT 呼び出しが発行されましたが、そのキューは、MQOO_SET_ALL_CONTEXT オプションを指定してオープンされていませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、MQOO_SET_ALL_CONTEXT を指定してください。

2096 (0830) (RC2096): MQRC_NOT_OPEN_FOR_SET_IDENT

説明

PutMsgOpts パラメーターに MQPMO_SET_IDENTITY_CONTEXT オプションを指定して MQPUT 呼び出しが発行されましたが、そのキューは、MQOO_SET_IDENTITY_CONTEXT オプションを指定してオープンされていませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューをオープンするときに、MQOO_SET_IDENTITY_CONTEXT (またはこれを暗黙指定する別のオプション) を指定してください。

2097 (0831) (RC2097): MQRC_CONTEXT_HANDLE_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、MQPMO_PASS_IDENTITY_CONTEXT または MQPMO_PASS_ALL_CONTEXT が指定されましたが、**PutMsgOpts** パラメーターの Context フィールドに指定されたハンドルが有効なキュー・ハンドルではないか、有効なキュー・ハンドルではありますが、キューが MQOO_SAVE_ALL_ALL_CONTEXT でオープンされていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

参照されているキューをオープンするときに、MQOO_SAVE_ALL_CONTEXT を指定してください。

2098 (0832) (RC2098): MQRC_CONTEXT_NOT_AVAILABLE

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しで、MQPMO_PASS_IDENTITY_CONTEXT または MQPMO_PASS_ALL_CONTEXT が指定されましたが、**PutMsgOpts** パラメーターの Context フィールドに指定されたキュー・ハンドルには、それに関連したコンテキストがありません。これが発生するのは、参照されたキュー・ハンドルを使用してメッセージがまだ正しく取り出されていない場合か、または最後に成功した MQGET 呼び出しがブラウズだった場合です。

この条件は、最後に取り出されたメッセージに関連コンテキストがない場合には発生しません。

- ▶ **z/OS** z/OS では、メッセージ内のユーザー ID の許可を使用してメッセージを書き込んでいるメッセージ・チャンネル・エージェントがメッセージを受信した場合、そのメッセージに関連するコンテキストが存在しないと、例外レポートの *Feedback* フィールドにこのコードが戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

成功した非ブラウズ読み取り呼び出しが、参照されたキュー・ハンドルを使用して発行されたことを確認してください。

Windows ▶ z/OS 2099 (0833) (RC2099): MQRC_SIGNAL1_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_SET_SIGNAL を指定した MQGET 呼び出しが発行されましたが、Signal1 フィールドが無効です。

- ▶ **z/OS** z/OS の場合は、Signal1 フィールドに指定されているアドレスが無効であるか、読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- ▶ **Windows** Windows の場合は、Signal1 フィールド内のウィンドウ・ハンドルが無効です。

この理由コードは z/OS および Windows 98--> の環境でのみ返されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Signal1 フィールドの設定を訂正してください。

2100 (0834) (RC2100): MQRC_OBJECT_ALREADY_EXISTS

説明

動的キューを作成するために MQOPEN 呼び出しが発行されましたが、その動的キューと同じ名前のキューがすでに存在します。

- ▶ **z/OS** z/OS では、ごくまれに発生する「競合状態」によっても、この理由コードが戻されることがあります。詳細については、理由コード MQRC_NAME_IN_USE の説明を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

動的キューの名前を完全名で指定している場合は、それが動的キューの命名規則に準拠していることを確認してください。準拠している場合は、別の名前を指定するか、または、既存のキューがすでに不要ならそのキューを削除してください。あるいは、キュー・マネージャーに名前を生成させることもできます。

キュー・マネージャーが (部分的または全面的に) 名前を生成している場合には、MQOPEN 呼び出しを再発行してください。

2101 (0835) (RC2101): MQRC_OBJECT_DAMAGED

説明

呼び出しがアクセスするオブジェクトが損傷を受けていて、使用できない。例えば、メイン・ストレージのオブジェクトの定義に整合性がない、その定義がディスクのオブジェクトの定義と異なっている、ディスクの定義が読み取れない、などが原因として考えられる。関連したユーザー・スペースは削除できないこともあるが、オブジェクトは削除できる。

- ▶ **z/OS** z/OS では、共用キューに関連した Db2 リスト・ヘッダーまたは構造体の番号がゼロの場合に、この理由コードが出される。この状態は、MQSC コマンド DELETE CFSTRUCT を使用して、Db2 構造体定義を削除する結果として生じる。このコマンドは、削除される CF 構造体を参照する共用キューごとに、リスト・ヘッダーや構造体の番号をゼロにリセットする。

完了コード

MQCC_FAILED


プログラマー応答


キュー・マネージャーを停止して再始動するか、バックアップ・ストレージからキュー・マネージャー・データを復元する必要がある。

- 以下のプラットフォームでは、FFST の記録を調べて問題の詳細情報を得る。

-  Linux AIX AIX and Linux

-  IBM i


-  z/OS z/OS では、共有キューを削除し、MQSC コマンド DEFINE QLOCAL を使用して再定義する。こうすると、自動的に CF 構造体が定義され、リスト・ヘッダーが割り振られる。

 **V 9.3.3** ネイティブ HA キュー・マネージャー (複製ロギングを使用) は、メディア・リカバリー可能として構成されている損傷オブジェクトの非同期メディア・リカバリーを自動的に試行します。自動リカバリーが最初に失敗した場合、非同期リカバリー処理は定期的に再試行します。リカバリーを妨げた問題を解決できる場合、オブジェクトは次回の再試行時にリカバリーされるか、または **rcrmqobj** コマンドを使用してオブジェクトを手動でリカバリーすることができます。循環ロギング・キュー・マネージャーの場合、またはメディア・リカバリー可能として構成されていないオブジェクトの場合、メディア・リカバリーはできないため、オブジェクトを削除する必要があります。

2102 (0836) (RC2102): MQRC_RESOURCE_PROBLEM

説明

呼び出しを正常に完了するには、システム資源が足りない。


 z/OS z/OS では、これは共有キューの使用時に Db2 エラーが発生したか、単一のカップリング・ファシリティ・リスト構造体に定義できる共有キューの最大数に達したことを示します。

完了コード


MQCC_FAILED

プログラマー応答

システムの負荷が大きくないときに、アプリケーションを実行してください。

-  z/OS の場合、オペレーター・コンソールにおいて追加情報が含まれている可能性のあるメッセージがあるかどうかを調べてください。
- 以下のプラットフォームでは、FFST の記録を調べて問題の詳細情報を得る。

-  IBM i

-  Linux AIX AIX and Linux

2103 (0837) (RC2103): MQRC_ANOTHER_Q_MGR_CONNECTED

説明

MQCONN または MQCONNX 呼び出しは発行されましたが、スレッドまたはプロセスはすでに異なるキュー・マネージャーにすでに接続されています。スレッドまたはプロセスが一度に接続できるキュー・マネージャーは 1 つだけです。

- **z/OS** z/OS 上では、この理由コードは発生しません。
- **Windows** Windows の場合、他のキュー・マネージャーとの付加的な接続が可能なので、MTS オブジェクトがこの理由コードを受け取ることはありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQDISC 呼び出しを使用して、すでに接続されているキュー・マネージャーから切断した後、もう一度 MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しを発行して、新しいキュー・マネージャーに接続してください。

既存のキュー・マネージャーから切断すると、現在オープンされているすべてのキューがクローズされます。MQDISC 呼び出しは、コミットされていない作業単位がすべてコミットされるか、バックアウトされた後で発行することをお勧めします。

2104 (0838) (RC2104): MQRC_UNKNOWN_REPORT_OPTION

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ記述子 MQMD 内の Report フィールドに、ローカル・キュー・マネージャーによって認識されないオプションが 1 つ以上含まれています。オプションは受け入れられません。

この理由コードが返される原因となるオプションは、そのメッセージの宛先によって異なります。詳細については、[レポート・オプションおよびメッセージ・フラグの REPORT の説明](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

この理由コードが予期されていたものである場合、訂正処置は必要ありません。予期されたコードでない場合には、次のようにしてください。

- メッセージ記述子内の Report フィールドが、そのメッセージ記述子を宣言したときの値で必ず初期設定されるか、あるいは、MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しの前に、必ずそのフィールドに値が割り当てられるようにしてください。
- 指定されたレポート・オプションが有効であることを確認してください。有効なレポート・オプションについては、[MQMD-メッセージ記述子](#)の MQMD の説明に記述されている Report フィールドを参照してください。
- 個々のレポート・オプションを一度に追加して複数のレポート・オプションを設定する場合は、同じレポート・オプションを重複して追加しないようにしてください。
- 矛盾するレポート・オプションを指定していないかどうかを確認してください。例えば、MQRO_EXCEPTION と MQRO_EXCEPTION_WITH_DATA の両方を Report フィールドに追加しないでください。これらのうちの一方だけを指定できます。

z/OS 2105 (0839) (RC2105): MQRC_STORAGE_CLASS_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、このキュー用に定義された記憶域クラス・オブジェクトが存在しません。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューに必要なストレージ・クラス・オブジェクトを作成するか、キュー定義を既存のストレージ・クラスが使用されるように修正してください。キューが使用するストレージ・クラス・オブジェクトの名前は、**StorageClass** キュー属性により与えられます。

2106 (083A) (RC2106): MQRC_COD_NOT_VALID_FOR_XCF_Q

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ記述子 MQMD 内の Report フィールドに MQRO_COD_* オプションの 1 つが指定されており、宛先キューが XCF キューです。MQRO_COD_* オプションは、XCF キューについては指定できません。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

関係する MQRO_COD_* オプションを除去してください。

2107 (083B) (RC2107): MQRC_XWAIT_CANCELED

説明

MQXWAIT 呼び出しが発行されましたが、**STOP CHINIT** コマンドが発行された (またはキュー・マネージャーが停止したために同じ結果になった) ため、呼び出しが取り消されました。MQXWAIT 呼び出しの詳細については、[MQXWAIT](#) を参照してください。

MQRC_XWAIT_CANCELED 戻りコードは、分散プラットフォーム上の IBM MQ でも内部的に使用される場合があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

実行中の処理を整理して終了してください。

2108 (083C) (RC2108): MQRC_XWAIT_ERROR

説明

MQXWAIT 呼び出しが発行されましたが、この呼び出しは次のいずれかの理由により無効です。

- 待機記述子 MQXWD に無効なデータが含まれている。
- リンケージ・スタック・レベルが無効である。
- アドレッシング・モードが無効である。
- 待機中の未処理の呼び出しが多すぎる。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQXWAIT 呼び出しについての規則に従ってください。MQWAIT の詳細については、[MQXWAIT](#) を参照してください。

2109 (083D) (RC2109): MQRC_SUPPRESSED_BY_EXIT

説明

MQCONN または MQDISC 以外のいずれかの呼び出しで、API 交差出口が呼び出しを抑制しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

出口を実行する MQI 呼び出しについての規則に従ってください。規則を調べるには、その出口の作成者に連絡してください。

2110 (083E) (RC2110): MQRC_FORMAT_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションが指定された MQGET 呼び出しが発行されましたが、メッセージ形式に関してエラーがあるため、そのメッセージを正しく変換できません。エラーとして、次のことが考えられます。

- メッセージ内の形式名が MQFMT_NONE である。
- メッセージ内の Format フィールドに指定されている名前のユーザー作成出口ルーチンが見つからない。
- 形式定義と矛盾するデータがメッセージに含まれている。

メッセージは、MQGET 呼び出しを発行したアプリケーションに変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は、戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

メッセージが複数の部分で構成されており、それぞれが独自の CodedCharSetId および Encoding フィールドによって記述されている場合 (例えば、MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER という形式名のメッセージ)、一部は変換され、その他の部分は変換されないことがあります。ただし、さまざまな CodedCharSetId フィールドおよび Encoding フィールドに返される値は、常に関連するメッセージ・データを正しく記述しています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

メッセージが書き込まれたときに指定されていた形式名を調べてください。それが組み込み形式の 1 つでない場合には、その形式と同じ名前の適切な出口ルーチンをキュー・マネージャーがロードできるかどうかを調べてください。メッセージ内のデータが、出口ルーチンによって予期されている形式に対応していることを確認してください。

2111 (083F) (RC2111): MQRC_SOURCE_CCSID_ERROR

説明

文字データの変換元であるコード化文字セット ID が無効であるか、サポートされていません。

これは、MQGET 呼び出しにおいて、MQGMO_CONVERT オプションが **GetMsgOpts** パラメーターに指定されている場合に起こる可能性があります。エラーのあったコード化文字セット ID は、取り出されているメッセージ内の CodedCharSetId フィールドです。この場合、メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は、戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

メッセージに 1 つ以上の MQ ヘッダー構造体 (MQCIH、MQDLH、MQIIH、MQRMH) が含まれており、メッセージ内の CodedCharSetId フィールドに、キュー名として有効な文字のための SBCS 文字が含まれない文字セットが指定されている場合にも、MQGET 呼び出しで発生することがあります。そのような文字を含む MQ ヘッダー構造体は無効であるため、メッセージは変換なしで返されます。unicode 文字セット UTF-16 が、そのような文字セットの例です。

メッセージが複数の部分で構成されており、それぞれが独自の CodedCharSetId および Encoding フィールドによって記述されている場合 (例えば、MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER という形式名のメッセージ)、一部は変換され、その他の部分は変換されないことがあります。ただし、さまざまな CodedCharSetId フィールドおよび Encoding フィールドに返される値は、常に関連するメッセージ・データを正しく記述しています。

この理由コードは、MQXCNCV 呼び出しでも戻されることがあります。エラーのあるコード化文字セット ID は、**SourceCCSID** パラメーターです。**SourceCCSID** パラメーターに無効な値またはサポートされていない値が指定されているか、**SourceCCSID** パラメーター・ポインターが無効です。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

この理由コードは、呼び出しを発行しているアプリケーションで言語環境プログラム (LE) が使用されておらず、メッセージ・プロパティ名とストリング・プロパティ値に CCSID 値 MQCCSI_APPL (-3) が定義されている場合に、MQSETMP/MQINQMP/MQDLTMP 呼び出しで発生する場合があります。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージが書き込まれたときに指定された文字セット ID、または MQXCNCV 呼び出しで **SourceCCSID** パラメーターに指定された文字セット ID を確認してください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。指定した文字セットについてキュー・マネージャー変換がサポートされていない場合は、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

この理由コードが、CCSID を MQCCSI_APPL (-3) に指定している非 LE アプリケーション・プログラムで MQSETMP/MQINQMP/MQDLTMP 呼び出しが発行されたために発生している場合、アプリケーションを変更

して、プロパティ名またはプロパティ・ストリング値がエンコードされるように、アプリケーションで使用される CCSID 値を指定する必要があります。

アプリケーションで正しい CCSID が使用されるように MQCCSI_APPL (-3) の値がオーバーライドされるようにするか (MQCCSI_APPL の再定義を参照)、あるいは MQCHARV のテキスト・ストリングまたは同様の構造体がエンコードされるように、明示的 CCSID 値が使用されるように設定する必要があります。

2112 (0840) (RC2112): MQRC_SOURCE_INTEGER_ENC_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しで、取り出されるメッセージの Encoding 値に、認識されない整数エンコードが指定されています。メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

メッセージが複数の部分で構成されており、それぞれが独自の CodedCharSetId および Encoding フィールドによって記述されている場合 (例えば、MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER という形式名のメッセージ)、一部は変換され、その他の部分は変換されないことがあります。ただし、さまざまな CodedCharSetId フィールドおよび Encoding フィールドに返される値は、常に関連するメッセージ・データを正しく記述しています。

この理由コードは、MQXCNVC 呼び出しで、**Options** パラメーターにサポートされない MQDCC_SOURCE_* 値が含まれている場合、または UTF-16 コード・ページに MQDCC_SOURCE_ENC_UNDEFINED が指定されている場合にも発生することがあります。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを書き込んだときに指定されていた整数エンコードを調べてください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。必要な整数エンコードについてキュー・マネージャー変換がサポートされない場合には、アプリケーションによって変換を実行する必要があります。

2113 (0841) (RC2113): MQRC_SOURCE_DECIMAL_ENC_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しで、取り出されるメッセージの Encoding 値に、認識されない 10 進数エンコードが指定されています。メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

メッセージが複数の部分で構成されており、それぞれが独自の CodedCharSetId および Encoding フィールドによって記述されている場合 (例えば、MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER という形式名のメッセージ)、一部は変換され、その他の部分は変換されないことがあります。ただし、さまざまな CodedCharSetId フィールドおよび Encoding フィールドに返される値は、常に関連するメッセージ・データを正しく記述しています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

メッセージを書き込んだときに指定されていた 10 進数エンコードを調べてください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。必要な 10 進数エンコードについてキュー・マネージャー変換がサポートされない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2114 (0842) (RC2114): MQRC_SOURCE_FLOAT_ENC_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しにおいて、取り出されるメッセージの Encoding 値が、認識されない浮動小数点エンコードを指定しています。メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

メッセージが複数の部分で構成されており、それぞれが独自の CodedCharSetId および Encoding フィールドによって記述されている場合 (例えば、MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER という形式名のメッセージ)、一部は変換され、その他の部分は変換されないことがあります。ただし、さまざまな CodedCharSetId フィールドおよび Encoding フィールドに返される値は、常に関連するメッセージ・データを正しく記述しています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

メッセージを書き込んだときに指定されていた浮動小数点エンコードを調べてください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。必要な浮動小数点エンコードについてキュー・マネージャー変換がサポートされない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2115 (0843) (RC2115): MQRC_TARGET_CCSID_ERROR

説明

文字データを変換するコード化文字セット ID が無効であるか、あるいはサポートされていません。

これは、MQGET 呼び出しで、MQGMO_CONVERT オプションが **GetMsgOpts** パラメーターに指定されている場合に起こることがあります。エラーのあるコード化文字セット ID は、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId フィールドです。この場合、メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

この理由コードは、MQGET 呼び出しで、メッセージに 1 つ以上の MQ ヘッダー構造体 (MQCIH、MQDLH、MQIIH、MQRMH) が含まれており、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId フィールドに、キュー名で有効な文字の SBCS 文字が含まれていない文字セットが指定されている場合にも発生することがあります。unicode 文字セット UTF-16 が、そのような文字セットの例です。

この理由コードは、MQXCNCV 呼び出しでも戻されることがあります。エラーのあるコード化文字セット ID は、**TargetCCSID** パラメーターです。**TargetCCSID** パラメーターに無効な値またはサポートされていない値が指定されているか、**TargetCCSID** パラメーター・ポインターが無効です。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQGET 呼び出しの **MsgDesc** パラメーターの **CodedCharSetId** フィールドに指定された文字セット ID、または MQXCNCV 呼び出しの **SourceCCSID** パラメーターに指定された文字セット ID を確認してください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。指定した文字セットについてキュー・マネージャー変換がサポートされていない場合は、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2116 (0844) (RC2116): MQRC_TARGET_INTEGER_ENC_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しで、**MsgDesc** パラメーターの **Encoding** 値が、認識されない整数エンコードを指定しています。メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの **CodedCharSetId** および **Encoding** フィールドの値は、取り出されるメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

この理由コードは、MQXCNCV 呼び出しで、**Options** パラメーターにサポートされない MQDCC_TARGET_* 値が含まれている場合、または UTF-16 コード・ページに MQDCC_TARGET_ENC_UNDEFINED が指定されている場合にも発生することがあります。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

指定されている整数エンコードを調べてください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。必要な整数エンコードについてキュー・マネージャー変換がサポートされない場合には、アプリケーションによって変換を実行する必要があります。

2117 (0845) (RC2117): MQRC_TARGET_DECIMAL_ENC_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しで、**MsgDesc** パラメーターの **Encoding** 値が、認識されない 10 進数エンコードを指定しています。メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの **CodedCharSetId** および **Encoding** フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

指定されている 10 進数エンコードを調べてください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。必要な 10 進数エンコードについてキュー・マネージャー変換がサポートされない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2118 (0846) (RC2118): MQRC_TARGET_FLOAT_ENC_ERROR

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しで、**MsgDesc** パラメーターの Encoding 値が、認識されない浮動小数点エンコードを指定しています。メッセージ・データは変換されずに戻され、**MsgDesc** パラメーターの CodedCharSetId および Encoding フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

指定されている浮動小数点エンコードを調べてください。それが正しい場合には、キュー・マネージャー変換のサポートの対象となっている文字セットかどうかを調べてください。必要な浮動小数点エンコードについてキュー・マネージャー変換がサポートされない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2119 (0847) (RC2119): MQRC_NOT_CONVERTED

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定して MQGET 呼び出しが発行されましたが、メッセージ内のデータの変換中にエラーが発生しました。メッセージ・データは変換されずに戻され、CodedCharSetId パラメーターの Encoding および **MsgDesc** フィールドの値は戻されたメッセージの値に設定され、呼び出しは MQCC_WARNING で完了します。

メッセージが複数の部分で構成されており、それぞれが独自の CodedCharSetId および Encoding フィールドによって記述されている場合 (例えば、MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER という形式名のメッセージ)、一部は変換され、その他の部分は変換されないことがあります。ただし、さまざまな CodedCharSetId フィールドおよび Encoding フィールドに返される値は、常に関連するメッセージ・データを正しく記述しています。

このエラーは、データ変換サービスへのパラメーターがサポートされていないことを示している可能性もあります。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

メッセージ・データが、メッセージの書き込み時に指定された **Format**、**CodedCharSetId**、および **Encoding** パラメーターによって正しく記述されていることを確認してください。また、これらの値、および MQGET 呼び出しの **MsgDesc** パラメーターに指定された CodedCharSetId と Encoding が、キュー・マネージャー変換でサポートされていることも確認してください。必要な変換がサポートされていない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2120 (0848) (RC2120): MQRC_CONVERTED_MSG_TOO_BIG

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しで、データ変換中にメッセージ・データが拡張され、アプリケーションによって提供されたバッファのサイズを超えま

した。ただし、変換の前にメッセージ・データを切り捨てずにアプリケーション・バッファーに収容できたので、メッセージはすでにキューから除去されています。

MQGET 呼び出しの **CompCode** パラメーターが MQCC_WARNING に設定されていると、メッセージは変換されずに戻されます。メッセージはいくつかの部分から構成されており、各部分が独自の文字セットとエンコード・フィールドで記述されている場合 (例えば、フォーマット名が MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER のメッセージ)、変換される部分と変換されない部分が発生するという可能性があります。ただし、このようなメッセージの戻り値は、関連のメッセージ・データを常に正確に表しています。

この理由コードは、MQXCNCV 呼び出しで、**TargetBuffer** パラメーターが小さすぎて変換されたストリングを収容できず、バッファーに収まるようにストリングが切り捨てられた場合にも発生します。戻される有効なデータの長さは、**DataLength** パラメーターによって指定されます。DBCS ストリングまたは SBCS/DBCS 混合ストリングの場合、この長さは **TargetBuffer** の長さより短くすることができます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

MQGET 呼び出しの場合は、出口ルーチンがメッセージ・データを正しく変換し、出力長 **DataLength** を適切な値に設定していることを確認してください。その場合、MQGET 呼び出しを発行するアプリケーションは、**Buffer** パラメーター用により大きなバッファーを提供する必要があります。

MQXCNCV 呼び出しで、ストリングを切り捨てずに変換する必要がある場合は、もっと大きい出力バッファーを指定してください。

Multi

2121 (0849) (RC2121): MQRC_NO_EXTERNAL_PARTICIPANTS

説明

Multi

キュー・マネージャーで調整された作業単位を開始しようとして、MQBEGIN 呼び出しが発行されたが、関連する資源マネージャーがキュー・マネージャーに登録されていない。その結果、この作業単位内でキュー・マネージャーが調整できるのは、IBM MQ リソースに対する変更のみになります。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

アプリケーションが、非 MQ 資源が作業単位に関与することを要求しない場合、この理由コードは無視できるか、MQBEGIN 呼び出しを削除できる。そうでない場合は、システム・プログラマーに連絡して、必要な資源マネージャーがキュー・マネージャーに登録されていない理由を判別する。キュー・マネージャーの構成ファイルがエラーになっている場合がある。

Multi

2122 (084A) (RC2122): MQRC_PARTICIPANT_NOT_AVAILABLE

説明

Multi

キュー・マネージャーが調整する作業単位を開始するための MQBEGIN 呼び出しが発行されましたが、キュー・マネージャーに登録されている関与するリソース・マネージャーの中に、使用可能になっていないプログラムが 1 つ以上あります。その結果、キュー・マネージャーは、作業単位内でそれらのリソースに対する変更を調整することができません。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

アプリケーションが、非 MQ 資源が作業単位に参与することを要求しない場合、この理由コードは無視できる。そうでない場合は、システム・プログラマーに連絡して、必要な資源マネージャーが使用できない理由を判別する。資源マネージャーが一時停止されたか、キュー・マネージャーの構成ファイルにエラーが発生した可能性がある。

ALW 2123 (084B) (RC2123): MQRC_OUTCOME_MIXED

説明

キュー・マネージャーは、他のリソース・マネージャーを含む作業単位のための作業単位コーディネーターとして機能していますが、次のいずれかの状況が発生しました。

- 作業単位をコミットするための MQCMIT 呼び出しまたは MQDISC 呼び出しが発行されたが、参与するリソース・マネージャーの中に、作業単位をコミットする代わりにバックアウトしたものが 1 つ以上ある。その結果、作業単位の結果が混合している。
- 作業単位をバックアウトしようとして、MQBACK 呼び出しが発行されたが、1 つ以上の関連している資源マネージャーが、すでに作業単位にコミットしていた。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーのエラー・ログを見て、混合した結果に関するメッセージを調べる。これらのメッセージは、どの資源マネージャーが影響を受けているかを識別する。影響を受けた資源マネージャーにローカルな手順を使用して、回復を再同期する。

この理由コードが返されても、アプリケーションが後続の作業単位を開始する妨げになることはありません。

z/OS ALW 2124 (084C) (RC2124): MQRC_OUTCOME_PENDING

説明

z/OS ALW

キュー・マネージャーが、他のリソース・マネージャーを必要とする作業単位に対して作業単位のコーディネーターとして機能しているときに、その作業単位をコミットする MQCMIT 呼び出しまたは MQDISC 呼び出しが発行されましたが、作業単位に参与しているリソース・マネージャーの中に、作業単位の正常なコミットを確認していないプログラムが 1 つ以上あります。

コミット操作は今後のどこかの時点で完了しますが、出力が混合状態になる可能性は残ります。

z/OS z/OS では、この状態が発生する可能性があるのは、共用キュー上のメッセージに影響を与える作業単位がコミットまたはバックアウトされている時に、キュー・マネージャーがカップリング・ファシリティ構造体への接続を失った場合です。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

Windows **AIX** 標準のエラー報告メカニズムを使用して、出力が混合しているかどうかを判別してください。混合状態になっている場合は、リソースを再同期させるための該当する処置をとってください。

Windows **AIX** この理由コードが返されても、アプリケーションが後続の作業単位を開始する妨げになることはありません。

z/OS この理由コードが返されたのが、z/OSでのカップリング・ファシリティ構造体への接続が失われた結果である場合、この操作が完了するのは、影響を受けた構造体にそのキュー・マネージャーが再接続した場合か、または同じキュー共用グループに属する別のキュー・マネージャーがこの構造体で対等リカバリーを実行できた場合です。

2125 (084D) (RC2125): MQRC_BRIDGE_STARTED

説明

z/OS

IMSブリッジが開始しました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [131 ページの『ブリッジ開始』](#)の識別にのみ使用されます。

2126 (084E) (RC2126): MQRC_BRIDGE_STOPPED

説明

z/OS

IMSブリッジが停止しました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [132 ページの『ブリッジ停止』](#)の識別にのみ使用されます。

z/OS 2127 (084F) (RC2127): MQRC_ADAPTER_STORAGE_SHORTAGE

説明

MQCONN呼び出しで、アダプターがストレージを取得できませんでした。

この理由コードは、z/OSでのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

システム・プログラマーに通知してください。システム・プログラマーは、システムのストレージが不足している原因を判別し、該当する処置 (例えばステップまたはジョブ・カードの領域サイズを大きくするなど) をとる必要があります。

Multi 2128 (0850) (RC2128): MQRC_UOW_IN_PROGRESS

説明

Multi

キュー・マネージャーで調整される作業単位を開始しようとして、MQBEGIN 呼び出しが発行されたが、作業単位は、指定された接続ハンドル用にすでに存在している。これは、直前の MQBEGIN 呼び出しにより開始されたグローバル作業単位の場合もあり、キュー・マネージャーまたは調整を行っているリソース・マネージャーの 1 つにとってローカルの作業単位の場合もあります。1 つの接続ハンドルについて、同時に複数の作業単位が存在することはできません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーション論理を検討して、作業単位がすでに存在している理由を判別する。MQBEGIN 呼び出しをアプリケーション内の適切な場所に移動してください。

z/OS 2129 (0851) (RC2129): MQRC_ADAPTER_CONN_LOAD_ERROR

説明

MQCONN 呼び出しで、接続ハンドル・モジュールをロードできず、したがってアダプターがそれにリンクできなかった。接続ハンドル・モジュール名は、次のとおりである。

- バッチ・アプリケーションの場合、CSQBCON
- IMS アプリケーションの場合、CSQQCONN または CSQQCON2

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッチ・アプリケーション・プログラム実行 JCL およびキュー・マネージャー始動 JCL で、正しいライブラリー連結を指定したかどうかを確認してください。

z/OS 2130 (0852) (RC2130): MQRC_ADAPTER_SERV_LOAD_ERROR

説明

MQI 呼び出しで、バッチ・アダプターが以下のいずれかの API サービス・モジュールをロードできなかったため、そのモジュールにリンクできませんでした。

- CSQBSRV
- CSQAPEPL
- CSQBCRMH
- CSQBAPPL

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッチ・アプリケーション・プログラム実行 JCL およびキュー・マネージャー始動 JCL で、正しいライブラリー連結を指定したかどうかを確認してください。

2131 (0853) (RC2131): MQRC_ADAPTER_DEFS_ERROR

説明

MQCONN 呼び出しで、サブシステム定義モジュール (バッチの場合は CSQBDEFV、IMS の場合は CSQQDEFV) に、必要な制御ブロック ID が含まれていません。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ライブラリー連結を調べてください。それが正しい場合には、CSQBDEFV モジュールまたは CSQQDEFV モジュールに必要なサブシステム ID が含まれているかどうかを確認してください。

2132 (0854) (RC2132): MQRC_ADAPTER_DEFS_LOAD_ERROR

説明

MQCONN 呼び出しで、サブシステム定義モジュール (バッチの場合は CSQBDEFV、IMS の場合は CSQQDEFV) をロードすることができませんでした。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーション・プログラム実行 JCL およびキュー・マネージャー始動 JCL で、正しいライブラリー連結を指定したかどうかを確認してください。

説明

MQGET 呼び出しで、アダプター (バッチまたは IMS) がデータ変換サービス・モジュールをロードできませんでした。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッチ・アプリケーション・プログラム実行 JCL およびキュー・マネージャー始動 JCL で、正しいライブラリー連結を指定したかどうかを確認してください。

説明

MQBEGIN 呼び出しで、開始オプション構造体 MQBO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQBO_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQBO_VERSION_1 でない。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQBO 構造体内の入力フィールドの設定が正しいかを調べる。

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQDH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQDH_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQDH_VERSION_1 でない。
- StrucLength フィールドに指定されている値が小さすぎて、この構造体と MQOR および MQPMR レコードの配列の両方を組み込めない。
- CodedCharSetId フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが CodedCharSetId フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です)。

Multi

2136 (0858) (RC2136): MQRC_MULTIPLE_REASONS

説明

配布リストをオープンするため、または配布リストにメッセージを書き込むために MQOPEN、MQPUT、MQPUT1 のいずれかの呼び出しが発行されましたが、呼び出しの結果がリスト内のすべての宛先について同じではありませんでした。次のいずれかが当てはまります。

- 一部の宛先については呼び出しが成功したが、その他の宛先については失敗した。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。
- 呼び出しはすべての宛先で失敗したが、理由はさまざまである。この場合、完了コードは MQCC_FAILED です。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQRR 応答レコードを調べて、呼び出しが失敗した宛先、および失敗の理由を確認する。エラーが判別できるように、必ずアプリケーションが呼び出しに十分な応答レコードを提供できるようにする。MQPUT1 呼び出しの場合、応答レコードは、MQPMO 構造体ではなく、MQOD 構造体を使用して指定されなければならない。

Multi

2137 (0859) (RC2137): MQRC_OPEN_FAILED

説明

次のいずれかの理由により、キューまたは他の MQ オブジェクトを正常にオープンできなかった。

- MQCONN または MQCONNX 呼び出しが発行されたが、このキュー・マネージャーが内部で使用しているオブジェクトであるため、このキュー・マネージャーでオープンすることはできない。その結果、処理を継続することができません。エラー・ログには、開くことのできなかったオブジェクトの名前が書き込まれます。
- 配布リストにメッセージを書き込むために MQPUT 呼び出しが発行されたが、宛先が MQOPEN 呼び出しで正常にオープンされなかったために、メッセージは、この理由コードが設定する宛先に送信できなかった。この理由コードは、MQRR 応答レコードの Reason フィールドだけに戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかを行います。

- MQCONN または MQCONNX 呼び出しでエラーが発生した場合は、次のコマンドを実行して必要なオブジェクトが存在しているようにして、アプリケーションを再試行する。

```
STRMQM -c qmgr
```

ここで、qmgr はキュー・マネージャーの名前を表している。

- MQPUT 呼び出しでエラーが発生した場合は、MQOPEN 呼び出しに指定された MQRR 応答レコードを調べて、キューがオープンできなかった理由を判別する。エラーが判別できるように、必ずアプリケーションが呼び出しに十分な応答レコードを提供できるようにする。

2138 (085A) (RC2138): MQRC_ADAPTER_DISC_LOAD_ERROR

説明

MQDISC 呼び出しで、切断処理モジュール (バッチの場合は CSQBDSC、IMS の場合は CSQQDISC) をロードできず、したがってアダプターをそのモジュールにリンクできませんでした。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーション・プログラム実行 JCL およびキュー・マネージャー始動 JCL で、正しいライブラリー連結を指定したかどうかを確認してください。作業単位の中でコミットされていない変更はバックアウトされる必要があります。キュー・マネージャーが調整した作業単位は自動的にバックアウトされます。

2139 (085B) (RC2139): MQRC_CNO_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、接続オプション構造体 MQCNO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- *StrucId* フィールドが MQCNO_STRUC_ID でない。
- *Version* フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、パラメーター・ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合に、このような状況が発生することがあります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCNO 構造体内の入力フィールドの設定が正しいかを調べる。

2140 (085C) (RC2140): MQRC_CICS_WAIT_FAILED

説明

いずれかの MQI 呼び出しで、CICS アダプターが EXEC CICS WAIT 要求を発行しましたが、CICS がその要求を拒否しました。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

CICS トレース・データから実際の応答コードを調べてください。最も可能性の高い原因は、オペレーターまたはシステムがタスクを取り消したということです。

2141 (085D) (RC2141): MQRC_DLH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQDLH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQDLH_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQDLH_VERSION_1 でない。
- CodedCharSetId フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが CodedCharSetId フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です)。

2142 (085E) (RC2142): MQRC_HEADER_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQ ヘッダー構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが無効である。
- Version フィールドが無効である。
- StrucLength フィールドに指定されている値が小さすぎる。
- CodedCharSetId フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが *CodedCharSetId* フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です)。

2143 (085F) (RC2143): MQRC_SOURCE_LENGTH_ERROR

説明

MQXCNVNVC 呼び出しで、**SourceLength** パラメーターがゼロより小さいか、またはストリングの文字セットまたは内容と整合しない長さを指定しています (例えば、文字セットは 2 バイト文字セットですが、長さが 2 の倍数ではありません)。この理由コードは、**SourceLength** パラメーター・ポインターが無効な場合にも発生します。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

MQGMO_CONVERT オプションが指定されているときに、MQGET 呼び出しでこの理由コードが戻される場合があります。この場合これは、MQRC_SOURCE_LENGTH_ERROR 理由コードが、データ変換出口ルーチンにより発行された MQXCNVNVC 呼び出しによって戻されたことを示します。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

ゼロ以上の長さを指定してください。理由コードが MQGET 呼び出しで発行された場合は、データ変換出口ルーチンの論理が正確であるかを調べてください。

2144 (0860) (RC2144): MQRC_TARGET_LENGTH_ERROR

説明

MQXCNVNVC 呼び出しで、以下のいずれかの理由により、**TargetLength** パラメーターが無効です。

- **TargetLength** がゼロより小さいです。
- **TargetLength** パラメーター・ポインターが無効です。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- MQDCC_FILL_TARGET_BUFFER オプションが指定されていますが、**TargetLength** の値は、有効な文字でターゲット・バッファーを完全に埋めることができないようなものです。これは、**TargetCCSID** が純粋な DBCS 文字セット (UTF-16 など) ですが、**TargetLength** が奇数バイトの長さを指定している場合に発生することがあります。

MQGMO_CONVERT オプションが指定されているときに、MQGET 呼び出しでこの理由コードが戻される場合があります。この場合これは、MQRC_TARGET_LENGTH_ERROR 理由コードが、データ変換出口ルーチンにより発行された MQXCNVNVC 呼び出しによって戻されたことを示します。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

ゼロ以上の長さを指定してください。MQDCC_FILL_TARGET_BUFFER オプションが指定され、**TargetCCSID** が純粋な DBCS 文字セットである場合は、**TargetLength** に 2 の倍数の長さが指定されていることを確認してください。

理由コードが MQGET 呼び出しで発行された場合は、データ変換出口ルーチンの論理が正確であるかを調べてください。

2145 (0861) (RC2145): MQRC_SOURCE_BUFFER_ERROR

説明

MQXCNCV 呼び出しで、**SourceBuffer** パラメーター・ポインターが無効であるか、**SourceLength** で指定された長さ全体でアクセスできないストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

MQGMO_CONVERT オプションが指定されているときに、MQGET 呼び出しでこの理由コードが戻される場合があります。この場合これは、MQRC_SOURCE_BUFFER_ERROR 理由コードが、データ変換出口ルーチンにより発行された MQXCNCV 呼び出しによって戻されたことを示します。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なバッファを指定してください。理由コードが MQGET 呼び出しで発行された場合は、データ変換出口ルーチンの論理が正確であるかを調べてください。

2146 (0862) (RC2146): MQRC_TARGET_BUFFER_ERROR

説明

MQXCNCV 呼び出しで、**TargetBuffer** パラメーター・ポインターが無効であるか、読み取り専用ストレージを指しているか、または **TargetLength** で指定された長さ全体にわたってアクセスできないストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

MQGMO_CONVERT オプションが指定されているときに、MQGET 呼び出しでこの理由コードが戻される場合があります。この場合これは、MQRC_TARGET_BUFFER_ERROR 理由コードが、データ変換出口ルーチンにより発行された MQXCNCV 呼び出しによって戻されたことを示します。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なバッファを指定してください。理由コードが MQGET 呼び出しで発行された場合は、データ変換出口ルーチンの論理が正確であるかを調べてください。

2147 (0863) (RC2147): MQRC_INCOMPLETE_TRANSACTION

説明

DTC トランザクションにまだ参加している接続ハンドルを切断しようとしてしました。

これは、管理対象 IBM MQ .NET アプリケーションがトランザクションを完了する前に接続ハンドルを切断しようとしたときに発生する可能性があります。

このエラーは、非トランザクション MQI 呼び出しの場合には起こりません。

この理由コードは、Windows でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーション設計を調べて、キュー・マネージャー接続が切断される前に、キュー・マネージャー接続に関連付けられているトランザクションがコミットまたはロールバックされるようにしてください。

2148 (0864) (RC2148): MQRC_IIH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQIIH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQIIH_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQIIH_VERSION_1 でない。
- StrucLength フィールドが MQIIH_LENGTH_1 でない。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2149 (0865) (RC2149): MQRC_PCF_ERROR

説明

PCF データが組み込まれたメッセージを書き込むために、MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、メッセージの長さがメッセージの中にある PCF 構造体の長さの合計と一致しない。これは、次の形式名を持つメッセージについて起こることがある。

- MQFMT_ADMIN
- MQFMT_EVENT
- MQFMT_PCF

完了コード

MQCC_FAILED


プログラマー応答

MQPUT または MQPUT1 呼び出しに指定されたメッセージの長さが、必ずメッセージ・データ内にある PCF 構造体の長さの合計に等しくなるようにする。

2150 (0866) (RC2150): MQRC_DBCS_ERROR

説明

2 バイト文字セット (DBCS) または可変幅エンコード文字セットのストリングに変換しようとしてエラーが発生しました。これは次の場合に発生します。

- MQXCNV 呼び出しで、**SourceCCSID** パラメーターに 2 バイト文字セットまたは可変長エンコード文字セットのコード化文字セット ID が指定されていますが、**SourceBuffer** パラメーターに有効なストリングが含まれていません。理由としては、そのストリングに無効な文字が含まれているか、あるいは、そのストリングが SBCS/DBCS の混合ストリングであって、シフトアウト/シフトインの文字が正しく対になっていない可能性があります。この場合、完了コードは MQCC_FAILED です。
- MQGET 呼び出しで、MQGMO_CONVERT オプションが指定されている場合。この場合、これは、MQRC_DBCS_ERROR 理由コードが、データ変換出口ルーチンにより発行された MQXCNV 呼び出しによって戻されたことを示します。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。
-  z/OS デッド・レター・ハンドラー・ユーティリティ CSQUDLQH では、処理される規則がデフォルトの CONVERT (YES) を使用する場合があります。データを変換する必要がない場合は、CONVERT(NO) を使用するように規則を変更してください。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なストリングを指定してください。

理由コードが MQGET 呼び出しで発行された場合は、メッセージ内のデータが有効であり、データ変換出口ルーチンの論理が正確であるかを調べてください。

2152 (0868) (RC2152): MQRC_OBJECT_NAME_ERROR

説明

配布リストをオープンするために MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが (つまり、MQOD の RecsPresent フィールドがゼロより大きい)、ObjectName フィールドがブランクでもヌル・ストリングでもありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

配布リストをオープンするには、ObjectName フィールドをブランクまたはヌル・ストリングに設定します。配布リストをオープンすることが目的でない場合は、RecsPresent フィールドをゼロに設定してください。

2153 (0869) (RC2153): MQRC_OBJECT_Q_MGR_NAME_ERROR

説明

配布リストをオープンするために MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが (つまり、MQOD の RecsPresent フィールドがゼロより大きい)、ObjectQMgrName フィールドがブランクでもヌル・ストリングでもありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

配布リストをオープンするには、ObjectQMgrName フィールドをブランクまたはヌル・ストリングに設定します。配布リストをオープンすることが目的でない場合は、RecsPresent フィールドをゼロに設定してください。

Multi

2154 (086A) (RC2154): MQRC_RECS_PRESENT_ERROR

説明

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、次のいずれかの理由によって呼び出しが失敗した。

- MQOD 内の RecsPresent がゼロより小さい。
- MQOD 内の ObjectType が MQOT_Q でなく、RecsPresent がゼロでない。オープン対象のオブジェクトがキューでない場合は、RecsPresent はゼロでなければなりません。
- IBM MQ マルチキャストが使用されていて、MQOD 内の RecsPresent がゼロに設定されていない。IBM MQ マルチキャストは、配布リストを使用しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

配布リストをオープンすることが目的の場合は、ObjectType フィールドを MQOT_Q に設定し、RecsPresent をリスト内の宛先の数に設定してください。配布リストをオープンすることが目的でない場合は、RecsPresent フィールドをゼロに設定してください。

Multi

2155 (086B) (RC2155): MQRC_OBJECT_RECORDS_ERROR

説明

配布リストをオープンするために、MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行された (すなわち、MQOD の RecsPresent フィールドはゼロより大きい) が、MQOR オブジェクト・レコードが正しく指定されていない。次のいずれかが当てはまります。

- ObjectRecOffset がゼロであり、ObjectRecPtr もゼロかヌル・ポインターである。
- ObjectRecOffset がゼロでなく、ObjectRecPtr がゼロでもヌル・ポインターでもない。
- ObjectRecPtr が無効なポインターである。
- ObjectRecPtr または ObjectRecOffset が、アクセス不可能なストレージを指している。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectRecOffset と ObjectRecPtr の一方がゼロで、もう一方がゼロ以外であることを確認してください。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

Multi

2156 (086C) (RC2156): MQRC_RESPONSE_RECORDS_ERROR

説明

配布リストをオープンするために、MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行された (すなわち、MQOD の RecsPresent フィールドはゼロより大きい) が、MQRR 応答レコードが正しく指定されていない。次のいずれかが当てはまります。

- ResponseRecOffset がゼロではなく、ResponseRecPtr がゼロでもヌル・ポインターでもない。
- ResponseRecPtr が無効なポインターである。
- ResponseRecPtr または ResponseRecOffset が、アクセス不可能なストレージを指している。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ResponseRecOffset と ResponseRecPtr の少なくとも 1 つがゼロであることを確認してください。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

z/OS

2157 (086D) (RC2157): MQRC_ASID_MISMATCH

説明

MQI 呼び出しでの呼び出し側の 1 次 ASID がホーム ASID と違っていました。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションを訂正してください (MQI 呼び出しは仮想記憶間モードでは発行できません)。作業単位の中でコミットされていない変更はバックアウトされる必要があります。キュー・マネージャーが調整した作業単位は自動的にバックアウトされます。

Multi

2158 (086E) (RC2158): MQRC_PMO_RECORD_FLAGS_ERROR

説明

メッセージを書き込もうとして、MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、MQPMO 構造体の PutMsgRecFields フィールドが、次のいずれかの理由で無効である。

- フィールドに無効なフラグが含まれている。
- メッセージは配布リストに書き込まれており、書き込みメッセージ・レコードが提供されています (つまり、RecsPresent がゼロより大きく、PutMsgRecOffset または PutMsgRecPtr のいずれかがゼロ以外) が、PutMsgRecFields の値は MQPMRF_NONE です。

- MQPMRF_ACCOUNTING_TOKEN が、MQPMO_SET_IDENTITY_CONTEXT または MQPMO_SET_ALL_CONTEXT なしで指定されている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

必ず適切な MQPMRF_* フラグで *PutMsgRecFields* が設定され、書き込みメッセージ・レコードに、どのフィールドがあるのかを示すようにする。MQPMRF_ACCOUNTING_TOKEN が指定されている場合、必ず MQPMO_SET_IDENTITY_CONTEXT または MQPMO_SET_ALL_CONTEXT のいずれかを指定するようにする。別の手段としては *PutMsgRecOffset* と *PutMsgRecPtr* の両方をゼロに設定します。

Multi

2159 (086F) (RC2159): MQRC_PUT_MSG_RECORDS_ERROR

説明

配布リストにメッセージを書き込むために、MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、MQPMR 書き込みメッセージ・レコードが正しく指定されていない。次のいずれかが当てはまります。

- *PutMsgRecOffset* がゼロではなく、*PutMsgRecPtr* がゼロでもヌル・ポインターでもない。
- *PutMsgRecPtr* が無効なポインターである。
- *PutMsgRecPtr* または *PutMsgRecOffset* が、アクセス不可能なストレージを指している。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

PutMsgRecOffset と *PutMsgRecPtr* の少なくとも 1 つがゼロであることを確認してください。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

z/OS

2160 (0870) (RC2160): MQRC_CONN_ID_IN_USE

説明

MQCONN コールにおいて、CICS または IMS の関連アドレス・スペースとキューマネージャとの接続にキューマネージャが割り当てた接続 ID が、接続している他の CICS または IMS システムの接続 ID と競合しています。割り当てられる接続 ID は次のとおりです。

- CICS の場合はアプリケーション ID
- IMS の場合は、IMSCTRL (sysgen) マクロ上の IMSID パラメーター、または実行パラメーター (IMS 制御領域 JCL 内の EXEC カード) 上の IMSID パラメーター
- バッチの場合は、ジョブ名
- TSO の場合は、ユーザー ID

競合が発生するのは、CICS システムが 2 つある場合、IMS システムが 2 つある場合、または CICS と IMS の接続 ID が同じ場合のみです。バッチ接続と TSO 接続には固有の ID は必要ありません。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーに接続するさまざまなシステムで使用されている命名規則が矛盾していないことを確認します。

2161 (0871) (RC2161): MQRC_Q_MGR QUIESCING



説明

MQI 呼び出しが発行されたが、キュー・マネージャーが静止している (シャットダウンの準備をしている) ために呼び出しが失敗した。

キュー・マネージャーが静止していても、MQOPEN、MQPUT、MQPUT1、および MQGET 呼び出しをそのまま正常に完了させることは可能である。しかし、呼び出しに適切なオプションを指定することによって、アプリケーションの側からその呼び出しの失敗が要求される場合もある。例えば、それぞれの呼び出しに対して以下のようなオプションが指定される。

- MQOPEN における MQOO_FAIL_IF QUIESCING
- MQPUT または MQPUT1 における MQPMO_FAIL_IF QUIESCING
- MQGET における MQGMO_FAIL_IF QUIESCING

これらのオプションを指定すれば、キュー・マネージャーがシャットダウンの準備をしていることにアプリケーションが気付くようにすることができます。

-  On z/OS:
 - バッチ・アプリケーションの場合、キュー・マネージャーがインストールされていない LPAR で実行されているアプリケーションにこの理由が返されることがあります。
 - CICS アプリケーションの場合、この理由コードは、接続が確立されていないときに戻されることがあります。
-  IBM i 上で、互換モードで実行しているアプリケーションの場合、この理由コードは、接続が確立されていないときに戻されることがあります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションを正常終了できる状態にして停止します。アプリケーションが失敗した呼び出しにおいて MQOO_FAIL_IF QUIESCING、MQPMO_FAIL_IF QUIESCING、または MQGMO_FAIL_IF QUIESCING オプションを指定していた場合、関係のあるオプションは除去して、呼び出しを再発行することができます。これらのオプションを省略することにより、アプリケーションは作業を続行して現在の作業単位を完了しコミットできますが、新しい作業単位は開始しません。

2162 (0872) (RC2162): MQRC_Q_MGR STOPPING

説明

MQI 呼び出しが発行されましたが、キュー・マネージャーがシャットダウン中のため、この呼び出しは失敗しました。その呼び出しが MQGMO_WAIT オプション付きの MQGET 呼び出しであった場合、待機は取り消されます。これ以上 MQI 呼び出しを発行できません。

MQ MQI クライアント・アプリケーションの場合は、この理由コードが MQCC_FAILED の *CompCode* で戻されても、呼び出しが正常に完了した可能性があります。

-  z/OS では、呼び出しが完了する前にキュー・マネージャーが終了した場合はシステム・スケジューリング要因の結果として、代わりに MQRC_CONNECTION_BROKEN が戻る場合があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションを正常終了できる状態にして停止します。アプリケーションが、外部作業単位コーディネーターにより調整された作業単位の途中である場合には、アプリケーションが適切な呼び出しを発行して、作業単位をバックアウトする必要があります。キュー・マネージャーによって調整された作業単位はすべて自動的にバックアウトされます。

2163 (0873) (RC2163): MQRC_DUPLICATE_RECOV_COORD

説明

MQCONN または MQCONNX 呼び出しにおいて、アダプターが発行した接続呼び出しで指定された接続名に対してリカバリー・コーディネーターがすでに存在します。

競合が発生するのは、CICS システムが 2 つある場合、IMS システムが 2 つある場合、または CICS と IMS の接続 ID が同じ場合のみです。バッチ接続と TSO 接続には固有の ID は必要ありません。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーに接続するさまざまなシステムで使用されている命名規則が矛盾していないことを確認します。

2173 (087D) (RC2173): MQRC_PMO_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しにおいて、MQPMO 構造体が無効です。理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQPMO_STRUC_ID ではありません。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQPMO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2182 (0886) (RC2182): MQRC_API_EXIT_NOT_FOUND

説明

API 交差出口エントリー・ポイントが見つかりませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エントリー・ポイント名がライブラリー・モジュールに対して有効であることを確認してください。

2183 (0887) (RC2183): MQRC_API_EXIT_LOAD_ERROR

説明

API 交差出口モジュールにリンクできませんでした。プロセスが実行された後で API 交差出口が呼び出されたときにこのメッセージが戻された場合、プロセス自体は正しく完了した可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しいライブラリー連結が指定されていること、および API 交差出口モジュールが実行可能であり、正しく命名されていることを確認します。作業単位の中でコミットされていない変更はバックアウトされる必要があります。キュー・マネージャーが調整した作業単位は自動的にバックアウトされます。

2184 (0888) (RC2184): MQRC_REMOTE_Q_NAME_ERROR

説明

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しで、次のいずれかが発生しました。

- リモート・キュー (またはその別名) のローカル定義が指定されましたが、リモート・キュー定義の **RemoteQName** 属性が完全にブランクです。このエラーは、定義内の **XmitQName** がブランクでない場合でも発生することに注意してください。
- オブジェクト記述子の **ObjectQMgrName** フィールドはブランクではなく、ローカル・キュー・マネージャーの名前ではありませんが、**ObjectName** フィールドはブランクです。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

リモート・キューのローカル定義を変更して有効なリモート・キュー名を指定するか、オブジェクト記述子に非ブランクの **ObjectName** を適宜指定してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [218 ページの『リモート・キュー名エラー』](#)の識別にも使用されます。

2185 (0889) (RC2185): MQRC_INCONSISTENT_PERSISTENCE

説明

グループ内または論理メッセージのセグメント内のメッセージを書き込むために MQPUT 呼び出しが発行されましたが、MQMD の Persistence フィールドの指定値またはデフォルト値が、キュー・ハンドル用にキュー・マネージャーが保存していた現行グループまたはセグメントの情報と矛盾しています。パーシスタンスの値は、グループ内のすべてのメッセージと論理メッセージ内のすべてのセグメントで統一されていなければなりません。つまり、これらのすべてを持続的にするか、そうでなければすべてを非持続的にしなければなりません。

現行の呼び出しが MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定すると、呼び出しは失敗する。現行の呼び出しは MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、キュー・ハンドルの直前の MQPUT 呼び出しを指定していると、呼び出しは完了コード MQCC_WARNING で成功する。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

グループ内のすべてのメッセージまたは論理メッセージのすべてのセグメントに同じパーシスタンスの値を使用するようにアプリケーションを変更してください。

2186 (088A) (RC2186): MQRC_GMO_ERROR

説明

MQGET 呼び出しで、MQGMO 構造体が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQGMO_STRUC_ID でない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQGMO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2187 (088B) (RC2187): MQRC_CICS_BRIDGE_RESTRICTION

説明

ブリッジ出口でも MQI 呼び出しを発行する MQ/CICS bridge 環境で実行されているユーザー・トランザクションから MQI 呼び出しを発行することは許可されません。MQI 呼び出しは失敗する。これがブリッジ出口で発生すると、トランザクションは異常終了します。ユーザー・トランザクションで発生すると、トランザクションが異常終了する場合があります。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQ/CICS bridge を使用してトランザクションを実行することはできません。MQ/CICS bridge 環境での制約事項については、該当する CICS マニュアルを参照してください。

2188 (088C) (RC2188): MQRC_STOPPED_BY_CLUSTER_EXIT

説明

メッセージをオープンするため、またはクラスター・キューにメッセージを書き込むために MQOPEN、MQPUT、あるいは MQPUT1 呼び出しが発行されたが、クラスター・ワークロード出口は、その呼び出しを拒否した。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

クラスター・ワークロード出口が正しく記述されているかを確認します。呼び出しが拒否された理由を調べて、問題を解決してください。

2189 (088D) (RC2189): MQRC_CLUSTER_RESOLUTION_ERROR

説明

メッセージをオープンするため、またはクラスター・キューにメッセージを書き込むために MQOPEN、MQPUT、あるいは MQPUT1 呼び出しが発行されたが、応答がリポジトリ・マネージャーから要求されたときに応答は得られなかったため、キュー定義を正しく解決できなかった。

この理由コードは、REFRESH CLUSTER コマンドの実行時に発生する可能性があります。[REFRESH CLUSTER の実行時に見られるアプリケーションの問題](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

リポジトリ・マネージャーが実行されており、キュー定義とチャネル定義が正確であることを確認します。

関連資料

[クラスター内でキューをオープンしようとしたときの戻りコード= 2189 MQRC_CLUSTER_RESOLUTION_ERROR](#)

2190 (088E) (RC2190): MQRC_CONVERTED_STRING_TOO_BIG

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションが指定されている MQGET 呼び出しにおいて、メッセージ内の固定長フィールドのストリングがデータ変換時に拡張し、フィールド・サイズを超えました。この場合、キュー・マネージャーは、末尾のブランク空白文字および最初のヌル文字に続く文字

を廃棄して、ストリングをフィールド長に合わせます。しかし、この場合は廃棄するだけの文字がありませんでした。

この理由コードは、フォーマット名が MQFMT_IMS_VAR_STRING のメッセージの場合も発生することがあります。この場合は、IMS 可変ストリングが拡張し、その長さが IMS 可変ストリングの構造体内に含まれる 2 バイトのバイナリー長フィールドの容量を超えてしまいました (キュー・マネージャーは、IMS 変数ストリングの末尾ブランクは決して破棄しない。)

MQGET 呼び出しの **CompCode** パラメーターが MQCC_WARNING に設定されていると、メッセージは変換されずに戻されます。メッセージはいくつかの部分から構成されており、各部分が独自の文字セットとエンコード・フィールドで記述されている場合 (例えば、フォーマット名が MQFMT_DEAD_LETTER_HEADER のメッセージ)、変換される部分と変換されない部分が発生するという可能性があります。ただし、このようなメッセージの戻り値は、関連のメッセージ・データを常に正確に表しています。

この理由コードは、末尾ブランク文字を廃棄することでストリングをフィールドに合わせられる場合は発生しません。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

メッセージ内のフィールドに正しい値が含まれていること、およびメッセージの送信側と受信側が指定した文字セット ID が正しいことを確認します。これらがすべて正しい場合は、メッセージのデータ・レイアウトを変更して、変換時にストリングが拡張しても十分なスペースがあるようにフィールド長を増やす必要があります。

Multi

2191 (088F) (RC2191): MQRC_TMC_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQTMC2 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQTMC_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQTMC_VERSION_2 ではない。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2192 (0890) (RC2192): MQRC_PAGESET_FULL

説明

MQRC_STORAGE_MEDIUM_FULL の以前の名前です。

z/OS

2192 (0890) (RC2192): MQRC_STORAGE_MEDIUM_FULL

説明

オブジェクトに対して操作を実行する MQI 呼び出しまたはコマンドが発行されましたが、外部ストレージ・メディアがいっぱいであるため、呼び出しが失敗しました。次のいずれかが当てはまります。

- ページ・セット・データ・セットがいっぱいです (非共用キューのみ)。
- カップリング・ファシリティ構造体がいっぱいです (共用キューのみ)。

すべての ENTRY またはすべての ELEMENT が使用中の場合、構造は満杯です。

- カップリング・ファシリティ構造体がいっぱいです。この状態は、カップリング・ファシリティ構造体で SCM ストレージ (CFRM ポリシーで構成された SCMMAXSIZE) が使用されるように構成されていて、カップリング・ファシリティ構造体が 90% しきい値に到達したためにメッセージが SCM ストレージにオフロードされている場合に発生することがあります。追加 SCM の使用には、構造のためにさらにストレージの増加が必要であり、これをサポートするにはカップリング・ファシリティのストレージは不十分です。
- SMDS がいっぱいでした。

この理由コードは、ページ・セットまたは SMDS が拡張していたのにスペースがまだ使用可能でなかった場合に受け取ることがあります。ジョブ・ログ内のメッセージで、拡張の状況を確認してください。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージが含まれるキューをチェックし、意図せずしてキューに書き込みを行っているアプリケーションがないかを探します。ページ・セットまたはカップリング・ファシリティ構造をいっぱいにしたキューは必ずしも、MQRC_STORAGE_MEDIUM_FULL を戻した MQI 呼び出しで参照されているキューであるとは限らないことに注意してください。

通常のサーバー・アプリケーションすべてが、正常に作動しており、キュー上のメッセージを正常に処理していることを確認してください。

アプリケーションおよびサーバーが正しく作動している場合は、メッセージ・ロードを処理するためにサーバー・アプリケーションの数を増やすか、ページ・セット・データ・セット、カップリング・ファシリティ構造、または SMDS のサイズを増やすようにシステム・プログラマーに要求してください。

全構造の状態の場合は、z/OS コマンド `/DISPLAY XCF, STRUCTURE, STRNAME=structure-name` を発行して、INITSIZE、MAXSIZE、MINSIZE、および ALLOWAUTOALT の設定に関する情報を表示します。このコマンドは、現在のスペース使用量も表示するため、エレメントとエントリーの数を確認できます。

SupportPac MP16 には、これらの設定に関する情報が含まれています。MQ CFSIZER ツールを使用すると、needed- 構造サイズの見積もりに役立ちます。IBM サポート・ページのトピック [MQSeries](#) を参照してください。

2193 (0891) (RC2193): MQRC_PAGESET_ERROR

説明

ローカル定義されたキューを処理するためにページ・セットにアクセスしましたが、エラーが発生しました。キューが、存在しないページ・セット上にあることが原因と考えられます。エラーが発生したページ・セット番号を知らせるコンソール・メッセージが発行されます。例えば、TEST ジョブでエラーが発生し、ユーザー ID が ABCDEFG の場合、次のようなメッセージが表示されます。

```
CSQI041I CSQIALLC JOB TEST USER ABCDEFG HAD ERROR ACCESSING PAGE SET 27
```


MQCLOSE で動的キューを削除しようとしてこの理由コードが発生した場合、動的キューは削除されていません。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

DISPLAY Q(xx) STGCLASS、DISPLAY STGCLASS(xx)、および DISPLAY USAGE PSID コマンドを使って、キューのストレージ・クラスが有効なページ・セットにマップされたことを確認します。問題を解決できない場合は、システム・プログラマーに連絡して次の作業を行ってもらいます。

- 以下の診断情報を収集する
 - エラーの原因となったアクションの説明
 - エラー発生時に実行していたアプリケーション・プログラムのリスト
 - キュー・マネージャー用に定義されたページ・セットの詳細
- 問題が再度発生する状況を作り出し、エラー発生直後にシステム・ダンプをとる
- IBM サポートに連絡してください。

2194 (0892) (RC2194): MQRC_NAME_NOT_VALID_FOR_TYPE

説明

キュー・マネージャー定義をオープンするために MQOPEN 呼び出しが発行されましたが、**ObjDesc** パラメーターの **ObjectName** フィールドがブランクではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectName フィールドがブランクに設定されていることを確認してください。

2195 (0893) (RC2195): MQRC_UNEXPECTED_ERROR

説明


予期しないエラーが起こったために、呼び出しが拒否された。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションのパラメーター・リストを調べ、例えば、正しい数のパラメーターが渡されたか、データ・ポインターとストレージ・キーが有効かを確認する。問題を解決できない場合には、システム・プログラマーに連絡する。

-  z/OS では、ジョブ・ログと logrec を確認ディスプレイし、何らかの情報がコンソールに表示されているかどうかを調べる。このエラーが MQCONN 呼び出しや MQCONNX 呼び出しで発生した場合は、指定されたサブシステムが活動状態の MQ サブシステムであるかを調べる。特に、それが Db2 サ

ブシステムではないようにする。問題が解決されない場合は、CSQSNAP DD カードを使用してアプリケーションを再実行し (まだダンプを取得していない場合)、結果として生じたダンプを IBM に送る。

- ▶ **IBM i** IBM i では、FFST の記録を調べて問題の詳細情報を得る。
- ▶ **Linux** ▶ **AIX** AIX and Linux では、FDC ファイルを参照して、問題の詳細を確認してください。

2196 (0894) (RC2196): MQRC_UNKNOWN_XMIT_Q

説明

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しでは、メッセージはリモート・キュー・マネージャーに送られます。オブジェクト記述子の **ObjectName** または **ObjectQMgrName** は、リモート・キューのローカル定義の名前を指定していますが (後者の場合、キュー・マネージャーの別名が使用されています)、定義の **XmitQName** 属性はブランクではなく、ローカル定義のキューの名前でもありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectName および ObjectQMgrName に指定された値を調べてください。それらの値が正しい場合は、キュー定義を調べてください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [233 ページ](#)の『不明伝送キュー』の識別にも使用されます。

2197 (0895) (RC2197): MQRC_UNKNOWN_DEF_XMIT_Q

説明

リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義を指定したとき、またはキュー・マネージャーの別名が解決されようとしているときに、ローカル定義の **XmitQName** 属性はブランクです。

宛先のキュー・マネージャーと同じ名前で作られているキューは存在しないので、キュー・マネージャーはデフォルトの伝送キューを使用しようとしていました。ただし、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性で指定された名前は、ローカル定義されたキューの名前ではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー定義またはキュー・マネージャー属性を訂正します。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [226 ページ](#)の『不明デフォルト伝送キュー』の識別にも使用されます。

2198 (0896) (RC2198): MQRC_DEF_XMIT_Q_TYPE_ERROR

説明

リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義が指定されたか、キュー・マネージャーの別名が解決される予定でしたが、いずれの場合でもローカル定義内の **XmitQName** 属性がブランクです。

宛先のキュー・マネージャーと同じ名前で定義されている伝送キューは存在しないので、ローカル・キュー・マネージャーはデフォルトの伝送キューを使用しようとしていました。ただし、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性で定義されたキューが存在しますが、ローカル・キューが存在しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかを行います。

- リモート・キューのローカル定義内の **XmitQName** 属性値にローカル伝送キューを指定する。
- ローカル伝送キューを、リモート・キュー・マネージャーと同じ名前で定義する。
- **DefXmitQName** キュー・マネージャー属性の値にローカル伝送キューを指定する。

伝送キュー名の詳細については、[XmitQName](#) を参照してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [173](#) ページの『[デフォルト伝送キュー・タイプ・エラー](#)』の識別にも使用されます。

2199 (0897) (RC2199): MQRC_DEF_XMIT_Q_USAGE_ERROR

説明

リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義が指定されたか、キュー・マネージャーの別名が解決される予定でしたが、いずれの場合でもローカル定義内の **XmitQName** 属性がブランクです。

宛先のキュー・マネージャーと同じ名前で定義されている伝送キューは存在しないので、ローカル・キュー・マネージャーはデフォルトの伝送キューを使用しようとしていました。ただし、**DefXmitQName** キュー・マネージャー属性で定義されたキューには、MQUS_TRANSMISSION の **Usage** 属性はありません。

この理由コードは、キュー・マネージャーのデフォルトの伝送キューを使用しようとしている場合に MQOPEN または MQPUT1 から返されます。ただし、このキューの名前は SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE です。このキューは、クラスター化用に予約されるため、キュー・マネージャーのデフォルトの伝送キューをこの名前に設定することは無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかを行います。

- リモート・キューのローカル定義内の **XmitQName** 属性値にローカル伝送キューを指定する。
- ローカル伝送キューを、リモート・キュー・マネージャーと同じ名前で定義する。
- **DefXmitQName** キュー・マネージャー属性の値に、異なるローカル伝送キューを指定する。
- **DefXmitQName** キューの **Usage** 属性を MQUS_TRANSMISSION に変更する。

伝送キュー名の詳細については、[XmitQName](#) を参照してください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [175 ページ](#)の『デフォルト伝送キュー使用エラー』の識別にも使用されます。

z/OS 2201 (0899) (RC2201): MQRC_NAME_IN_USE

説明

動的キューを作成するために MQOPEN 呼び出しが発行されましたが、その動的キューと同じ名前のキューがすでに存在します。既存のキューは論理的に削除されるが、このキュー用に 1 つ以上のオープン・ハンドルが残っています。詳しくは、MQCLOSE の使用上の注意 [3](#) を参照してください。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

前の動的キュー用のハンドルがすべてクローズされているか、新しいキューの名前が固有かを確認します。理由コード MQRC_OBJECT_ALREADY_EXISTS の説明を参照してください。

2202 (089A) (RC2202): MQRC_CONNECTION_QUIESCING

説明

キュー・マネージャーへの接続が休止状態であり、アプリケーションが次の呼び出しのいずれかを発行した場合、この理由コードが発行されます。

- MQCONN または MQCONNX
- 接続が確立されていないか、**Options** パラメーターに MQOO_FAIL_IF_QUIESCING が指定された MQOPEN
- MQGET (**GetMsgOpts** パラメーターの **Options** フィールドに MQGMO_FAIL_IF_QUIESCING を指定)
- MQPUT または MQPUT1 (**PutMsgOpts** パラメーターの **Options** フィールドに MQPMO_FAIL_IF_QUIESCING を指定)

キュー・マネージャーが静止状態だと、メッセージ・チャンネル・エージェント (MCA) によって MQRC_CONNECTION_QUIESCING も発行されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションを正常終了できる状態にして停止します。作業単位の中でコミットされていない変更はバックアウトされる必要があります。

2203 (089B) (RC2203): MQRC_CONNECTION_STOPPING

説明

キュー・マネージャーへの接続が切断され、アプリケーションが MQI 呼び出しを発行する場合、この理由コードが発行されます。これ以上メッセージ・キューイングの呼び出しを発行できません。MQGET 呼び出しの場合、MQGMO_WAIT オプションが指定されているならば、待機が取り消されます。

呼び出しが完了する前にキュー・マネージャーを終了した場合はシステム・スケジューリング要因の結果として、代わりにMQRC_CONNECTION_BROKENが戻る場合があります。

キュー・マネージャーが終了される場合、メッセージ・チャンネル・エージェント (MCA) によってMQRC_CONNECTION_STOPPINGも発行されます。

MQ MQI クライアント・アプリケーションの場合は、この理由コードがMQCC_FAILEDのCompCodeで戻されても、呼び出しが正常に完了した可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションを正常終了できる状態にして停止します。作業単位の中でコミットされていない変更はバックアウトされる必要があります。キュー・マネージャーが調整した作業単位は自動的にバックアウトされます。

2204 (089C) (RC2204): MQRC_ADAPTER_NOT_AVAILABLE

説明

なんらかの呼び出しが発行され、CICS アダプター (タスク関連ユーザー出口) が使用不可の場合、CICS アプリケーションに対してのみこの理由コードが発行されます。

この理由コードは、z/OSでのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED


プログラマー応答

アプリケーションを正常終了できる状態にして停止します。作業単位の中でコミットされていない変更はバックアウトされる必要があります。キュー・マネージャーが調整した作業単位は自動的にバックアウトされます。

2206 (089E) (RC2206): MQRC_MSG_ID_ERROR

説明

選択基準としてメッセージ ID を使用してメッセージを検索する MQGET 呼び出しが発行されましたが、このキューではメッセージ ID による選択がサポートされないため、呼び出しが失敗しました。

 z/OS 上では、キューは共用キューですが、**IndexType** キュー属性に適切な値が指定されていません。

- 選択がメッセージ ID だけによって実行される場合は、**IndexType** に値 MQIT_MSG_ID が指定されている必要があります。
- 選択がメッセージ ID および相関 ID の組み合わせによって実行される場合は、**IndexType** に値 MQIT_MSG_ID または MQIT_CORREL_ID が指定されている必要があります。ただし、この規則の例外は、任意の値と突き合わせる値 MQCI_NONE および MQMI_NONE です。この値を使用すると、2206 MQRC_MSG_ID_ERROR 理由コードが出されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかを行います。

- メッセージ ID による選択を実行しないようにアプリケーションを変更します。すなわち、*MsgId* フィールドを MQMI_NONE に設定し、MQGMO で MQMO_MATCH_MSG_ID を指定しません。
- z/OS 上では、**IndexType** キュー属性の値を MQIT_MSG_ID に変更します。

2207 (089F) (RC2207): MQRC_CORREL_ID_ERROR

説明

選択基準として関連 ID を使用してメッセージを検索する MQGET 呼び出しが発行されましたが、このキューでは関連 ID による選択がサポートされないため、呼び出しが失敗しました。

z/OS z/OS 上では、キューは共用キューですが、**IndexType** キュー属性に適切な値が指定されていません。

- 選択が関連 ID だけによって実行される場合は、**IndexType** に値 MQIT_CORREL_ID が指定されている必要があります。
- 選択が関連 ID およびメッセージ ID の組み合わせによって実行される場合は、**IndexType** に値 MQIT_CORREL_ID または MQIT_MSG_ID が指定されている必要があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかを行います。

- z/OS 上では、**IndexType** キュー属性を MQIT_CORREL_ID に変更します。
- 関連 ID による選択を実行しないようにアプリケーションを変更します。すなわち、*CorrelId* フィールドを MQCI_NONE に設定し、MQGMO で MQMO_MATCH_CORREL_ID を指定しません。

2208 (08A0) (RC2208): MQRC_FILE_SYSTEM_ERROR

説明

キューを操作しようとしたとき、ファイル・システムから予期しない戻りコードを受け取りました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アクセスしたキューについてのファイル・システム定義をチェックします。VSAM ファイルの場合、そのキューの最大メッセージ長に対して制御インターバルが十分かどうかをチェックします。

2209 (08A1) (RC2209): MQRC_NO_MSG_LOCKED

説明

MQGMO_UNLOCK オプション付きで MQGET 呼び出しが発行されましたが、現在ロックされているメッセージはありませんでした。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

前の MQGMO_LOCK オプション付きの MQGET 呼び出しによって同じハンドルに対してメッセージがロックされたか、介入割り込み呼び出しによってメッセージがアンロックされていないかをチェックします。

2217 (08A9) (RC2217): MQRC_CONNECTION_NOT_AUTHORIZED

説明

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

Advanced Message Security を使用するようにキュー・マネージャーが構成されている場合、この理由コードは、セキュリティー処理でエラーが発生した場合に戻されます。

この理由コードは、受信者を識別しないターゲット・キューに対してプライバシー・セキュリティー・ポリシーが定義されていることを示している可能性もあります。

また、キュー・マネージャーへ接続する権限が CICS サブシステムにない場合にも、この理由コードは CICS アプリケーションに戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

そのサブシステムがキュー・マネージャーへの接続を許可されているかを確認します。

Advanced Message Security を使用する場合は、キュー・マネージャーおよび AMS タスクのエラー・ログを確認します。また、接続タスクのジョブ・ログでエラー・メッセージがないかどうか確認する必要があります。

2218 (08AA) (RC2218): MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_CHANNEL

説明

メッセージがリモート・キューに書き込みましたが、メッセージの長さがチャンネルで許可されている最大メッセージ長を超えています。この理由コードは、レポート・メッセージのメッセージ記述子内の Feedback フィールドに戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

チャンネル定義を調べてください。チャンネルが受け入れられる最大メッセージ長を増やすか、メッセージをいくつかの小さいメッセージに分割します。

2219 (08AB) (RC2219): MQRC_CALL_IN_PROGRESS

説明

その接続ですでに別の MQI 呼び出しを処理中に、アプリケーションが MQI 呼び出しを発行した。呼び出しは、アプリケーション接続ごとに一度に 1 つのみ処理できます。

並行呼び出しは、アプリケーションが複数のスレッドを使用しているときか、または MQI 呼び出しの処理の一部として出口が呼び出されるときに起こることがある。例えば、MQGET 呼び出しの処理の一部として呼び出されたデータ変換出口が、MQI 呼び出しを実行しようとすることがある。

- ▶ **z/OS** z/OS では、並行呼び出しは、バッチまたは IMS アプリケーションでしか起こらない。例えば、MQI 呼び出しの進行中 (例えば待機中の MQGET) にサブタスクが終了した場合や、別の MQI 呼び出しを発行するタスク終了出口ルーチンがある場合など。
- ▶ **Windows** Windows では、MQI 呼び出しが別の MQI 呼び出しの進行中にユーザー・メッセージに応じて発行される場合にも、並行呼び出しが起きることがある。
- アプリケーションが複数のスレッドと共用可能ハンドルを使用している場合は、呼び出しで指定されているハンドルが別のスレッドですでに使用中で、MQCONNX 呼び出しで MQCNO_HANDLE_SHARE_NO_BLOCK が指定されている場合に、MQRC_CALL_IN_PROGRESS が起きる。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

別の MQI 呼び出しの活動中には、MQI 呼び出しを発行できないようにする。データ変換出口内から MQI 呼び出しを発行しないでください。

▶ **z/OS** z/OS において、メッセージの到着を待っているアプリケーションを取り消すことができるサブタスクを提供したい場合には、MQGMO_WAIT ではなく MQGMO_SET_SIGNAL が指定された MQGET を使用して、メッセージを待機する。

2220 (08AC) (RC2220): MQRC_RMH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQRMH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- *StrucId* フィールドが MQRMH_STRUC_ID でない。
- *Version* フィールドが MQRMH_VERSION_1 でない。
- *StrucLength* フィールドに指定されている値が小さすぎて、構造体に可変長データを加えたものを構造体の末尾に含めることができません。
- *CodedCharSetId* フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答


構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが *CodedCharSetId* フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注:

MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このワールドには無効です。

2222 (08AE) (RC2222): MQRC_Q_MGR_ACTIVE

説明

キュー・マネージャーがアクティブになると、この状況が検出されます。

 z/OS では、このイベントはキュー・マネージャーの最初の起動時には生成されず、その後の再始動の時のみ生成されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [205 ページ](#)の『[キュー・マネージャーがアクティブ](#)』の識別にのみ使用されます。

2223 (08AF) (RC2223): MQRC_Q_MGR_NOT_ACTIVE

説明

キュー・マネージャーの停止または静止を要求すると、この状況が検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [206 ページ](#)の『[キュー・マネージャーが非アクティブ](#)』の識別にのみ使用されます。

2224 (08B0) (RC2224): MQRC_Q_DEPTH_HIGH

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが原因で、**QDepthHighLimit** 属性で指定した限度までキュー・サイズが増加したか、その限度を超えました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [201 ページ](#)の『[キュー・サイズ上限](#)』の識別にのみ使用されます。

2225 (08B1) (RC2225): MQRC_Q_DEPTH_LOW

説明

MQGET 呼び出しが原因で、**QDepthLowLimit** 属性で指定した限度までキュー・サイズが減少したか、その限度を下回りました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [202 ページの『キュー・サイズ下限』](#)の識別にのみ使用されます。

2226 (08B2) (RC2226): MQRC_Q_SERVICE_INTERVAL_HIGH

説明

QServiceInterval 属性で指定された制限を超える間隔内で、正常な取得または書き込みが検出されませんでした。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [207 ページの『キュー・サービス間隔上限』](#)の識別にのみ使用されます。

2227 (08B3) (RC2227): MQRC_Q_SERVICE_INTERVAL_OK

説明

QServiceInterval 属性で指定された制限以下の間隔内で、正常な取得が検出されました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [208 ページの『キュー・サービス間隔 OK』](#)の識別にのみ使用されます。

2228 (08B4) (RC2228): MQRC_RFH_HEADER_FIELD_ERROR

説明

期待される RFH ヘッダー・フィールドが見つからないか、無効な値を保持しています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

関連するエラー・メッセージを調べ、IBM MQ 要求メッセージの RFH2 セクションに必須フィールドがすべて含まれていること、およびそれらのフィールドに有効な値があることを確認してください。

2229 (08B5) (RC2229): MQRC_RAS_PROPERTY_ERROR

説明

RAS プロパティ・ファイルに関連するエラーが存在します。ファイルが欠落しているか、ファイルにアクセスできないか、あるいはファイルでのコマンドが誤っています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エラーについて詳細に説明している、関連エラー・メッセージを確認してください。エラーを訂正し、やり直してください。

2232 (08B8) (RC2232): MQRC_UNIT_OF_WORK_NOT_STARTED

説明

作業単位内でメッセージの読み取りまたは書き込みを行うために MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、TM/MP トランザクションが開始していませんでした。MQGET で MQGMO_NO_SYNCPOINT が指定されていないか、MQPUT または MQPUT1 (デフォルト) に MQPMO_NO_SYNCPOINT が指定されていないと、呼び出しには作業単位が必要です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

TM/MP トランザクションが使用可能であることを確認するか、MQGMO_NO_SYNCPOINT オプション付きの MQGET 呼び出し、あるいは MQPMO_NO_SYNCPOINT オプション付きの MQPUT 呼び出しか MQPUT1 呼び出しのいずれかを発行します。これにより、トランザクションを自動的に開始します。

Multi

2233 (08B9) (RC2233): MQRC_CHANNEL_AUTO_DEF_OK

説明

チャンネルの自動定義が正常に行われたときに、この状況が検出されます。チャンネルは MCA によって定義されました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [143 ページ](#)の『[チャンネル自動定義 OK](#)』の識別にのみ使用されます。

Multi

2234 (08BA) (RC2234): MQRC_CHANNEL_AUTO_DEF_ERROR

説明

チャンネルの自動定義が失敗したときにこの状況は検出されます。原因としては、定義処理中にエラーが発生したか、チャンネルの自動定義出口が定義を禁止したことが考えられます。失敗の理由についての追加情報が、イベント・メッセージとして戻されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [141 ページ](#)の『チャンネル自動定義エラー』の識別にのみ使用されます。

イベント・メッセージとして返された追加情報を調べて、失敗の理由を判断します。

Multi

2235 (08BB) (RC2235): MQRC_CFH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFH 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

Multi

2236 (08BC) (RC2236): MQRC_CFIL_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ・データに無効な MQCFIL または MQRCFIL64 構造体が含まれています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

Multi

2237 (08BD) (RC2237): MQRC_CFIN_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ・データに無効な MQCFIN または MQCFIN64 構造体が含まれています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

Multi 2238 (08BE) (RC2238): MQRC_CFSL_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFSL 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

Multi 2239 (08BF) (RC2239): MQRC_CFST_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFST 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2241 (08C1) (RC2241): MQRC_INCOMPLETE_GROUP

説明

未完了のメッセージ・グループを持つキュー・ハンドルを使用して、キューに操作が試行された。この理由コードは、次の場合に出される。

- MQPUT 呼び出しで、アプリケーションがグループ内に存在しないメッセージを読み込もうとし、MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定する場合。この場合、完了コードは MQCC_FAILED です。
- MQPUT 呼び出しで、アプリケーションが MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、そのキュー・ハンドルに対する前回の MQPUT 呼び出しでは MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定した場合。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。
- MQGET 呼び出しで、アプリケーションが MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、そのキュー・ハンドルに対する前回の MQGET 呼び出しでは MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定した場合。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。
- MQCLOSE 呼び出しで、アプリケーションが、未完了メッセージ・グループを持つキューをクローズしようとする。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。

未完了論理メッセージと未完了メッセージ・グループの両方がある場合は、理由コード MQRC_INCOMPLETE_MSG が MQRC_INCOMPLETE_GROUP より優先して戻される。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

この理由コードが予期されていたものである場合、訂正処置は必要ありません。そうでない場合は、グループの最終メッセージの MQPUT 呼び出しが必ず MQMF_LAST_MSG_IN_GROUP を指定するようにする。

2242 (08C2) (RC2242): MQRC_INCOMPLETE_MSG

説明

未完了の論理メッセージを持つキュー・ハンドルを使用して、キューに操作が試行された。この理由コードは、次の場合に出される。

- MQPUT 呼び出しで、アプリケーションが MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定して、セグメントではないメッセージか、直前のメッセージと異なる MQMF_LAST_MSG_IN_GROUP フラグの設定があるメッセージを書き込もうとした。この場合、完了コードは MQCC_FAILED です。
- MQPUT 呼び出しで、アプリケーションが MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、そのキュー・ハンドルに対する前回の MQPUT 呼び出しでは MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定した場合。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。
- MQGET 呼び出しで、アプリケーションが MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、そのキュー・ハンドルに対する前回の MQGET 呼び出しでは MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定した場合。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。
- MQCLOSE 呼び出しで、アプリケーションが、不完全な論理メッセージが存在するキューをクローズしようとする場合。この場合、完了コードは MQCC_WARNING です。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

この理由コードが予期されていたものである場合、訂正処置は必要ありません。そうでない場合は、最終セグメントへの MQPUT 呼び出しで、必ず MQMF_LAST_SEGMENT を指定するようにする。

Multi

2243 (08C3) (RC2243): MQRC_INCONSISTENT_CCIDS

説明

MQGMO_COMPLETE_MSG オプションを指定して MQGET 呼び出しが発行されたが、検索するメッセージは、MQMD の *CodedCharSetId* フィールドの値が異なる 2 つ以上のセグメントから構成されている。これは、ネットワークを介してセグメントのパスが異なるときに起こることがあり、これらのパスには、MCA 送信側変換が使用可能になっているものもある。呼び出しは完了コード MQCC_WARNING で成功しますが、同一の文字セット ID を持つ最初のいくつかのセグメントのみが戻されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

MQGET 呼び出しから MQGMO_COMPLETE_MSG オプションを削除して、残りのメッセージ・セグメントを1つずつ検索する。

Multi

2244 (08C4) (RC2244): MQRC_INCONSISTENT_ENCODINGS

説明

MQGMO_COMPLETE_MSG オプションを指定して、MQGET 呼び出しが発行されたが、検索するメッセージは、MQMD の *Encoding* フィールドの値が異なる 2 つ以上のセグメントから構成されている。これは、ネットワークを介してセグメントのパスが異なるときに起こることがあり、これらのパスには、MCA 送信側変換が使用可能になっているものもある。呼び出しは完了コード MQCC_WARNING で成功しますが、同一のエンコードを持つ最初のいくつかのセグメントのみが戻されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

MQGET 呼び出しから MQGMO_COMPLETE_MSG オプションを削除して、残りのメッセージ・セグメントを1つずつ検索する。

2245 (08C5) (RC2245): MQRC_INCONSISTENT_UOW

説明

次のいずれかが当てはまります。

- グループ内または論理メッセージのセグメント内のメッセージを書き込むために MQPUT 呼び出しが発行されましたが、MQPMO_SYNCPOINT オプションの指定値またはデフォルト値が、キュー・ハンドル用にキュー・マネージャーが保存していた現行グループまたはセグメントの情報と矛盾しています。

現行の呼び出しが MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定すると、呼び出しは失敗する。現行の呼び出しは MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、キュー・ハンドルの直前の MQPUT 呼び出しを指定していると、呼び出しは完了コード MQCC_WARNING で成功する。

- グループ内または論理メッセージのセグメント内のメッセージをキューから削除するために MQGET 呼び出しが発行されましたが、MQGMO_SYNCPOINT オプションの指定値またはデフォルト値が、キュー・ハンドル用にキュー・マネージャーが保存していた現行グループまたはセグメントの情報と矛盾しています。

現行の呼び出しが MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定すると、呼び出しは失敗する。現行の呼び出しは MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定しないが、キュー・ハンドルの直前の MQGET 呼び出しを指定していると、呼び出しは完了コード MQCC_WARNING で成功する。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

グループのすべてのメッセージ、または論理メッセージのすべてのセグメントで同じ作業単位指定を使用するようにアプリケーションを変更します。

Multi

2246 (08C6) (RC2246): MQRC_INVALID_MSG_UNDER_CURSOR

説明

MQGMO_MSG_UNDER_CURSOR または MQGMO_BROWSE_MSG_UNDER_CURSOR で MQGMO_COMPLETE_MSG オプションを指定して、MQGET 呼び出しが発行されたが、カーソル以下のメッセージは、論理メッセージの最初のセグメントではない (すなわち、メッセージの MQMD の *Offset* フィールドはゼロではない)。MQGMO_COMPLETE_MSG が指定されたので、メッセージは検索できません。

完了コード

MQCC_FAILED


プログラマー応答

MQMD の *Offset* フィールドがゼロになっているメッセージ上に位置するよう、ブラウザ・カーソルを位置変更する。別の方法としては、MQGMO_COMPLETE_MSG オプションを削除します。

2247 (08C7) (RC2247): MQRC_MATCH_OPTIONS_ERROR

説明

MQGET 呼び出しが発行されましたが、以下のいずれかの理由により、**GetMsgOpts** パラメーターの **MatchOptions** フィールドの値が無効です。

- 未定義のオプションが指定されている。
- 次のすべての記述が該当する。
 - MQGMO_LOGICAL_ORDER が指定されている。
 - キュー・ハンドル用に現行のメッセージ・グループまたは論理メッセージが存在する。
 - MQGMO_BROWSE_MSG_UNDER_CURSOR も MQGMO_MSG_UNDER_CURSOR も指定されていない。
 - 1 つ以上の MQMO_* オプションが指定されている。
 - 指定された MQMO_* オプションに対応する **MsgDesc** パラメーターのフィールドの値は、次に返されるメッセージに関する MQMD のフィールドの値と異なっている。
-  z/OS では、キューの索引タイプのオプションの指定のうち 1 つ以上が無効である。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

フィールドに有効なオプションのみが指定されているかを確認します。

2248 (08C8) (RC2248): MQRC_MDE_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQMDE 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- **StrucId** フィールドが MQMDE_STRUC_ID でない。
- **Version** フィールドが MQMDE_VERSION_2 でない。
- **StrucLength** フィールドが MQMDE_LENGTH_2 でない。
- **CodedCharSetId** フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。

- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが CodedCharSetId フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です)。

2249 (08C9) (RC2249): MQRC_MSG_FLAGS_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ記述子 MQMD 内の MsgFlags フィールドに、ローカル・キュー・マネージャーによって認識されないメッセージ・フラグが 1 つ以上含まれています。この理由コードが返される原因となるメッセージ・フラグは、メッセージの宛先によって異なる。詳細については、[レポート・オプションおよびメッセージ・フラグの REPORT](#) の説明を参照。


この理由コードは、レポート・メッセージの MQMD の Feedback フィールド、または送達不能キューのメッセージの MQDLH 構造体の Reason フィールドにも戻されることがあります。どちらの場合も、宛先キュー・マネージャーが、メッセージの送信側によって指定された 1 つ以上のメッセージ・フラグをサポートしていないことを示します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

以下の作業を行います。

- メッセージ記述子内の MsgFlags フィールドが、そのメッセージ記述子を宣言したときの値で必ず初期設定されるか、あるいは、MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しの前に、必ずそのフィールドに値が割り当てられるようにしてください。メッセージ・フラグが不要な場合は MQMF_NONE を指定します。
- 指定されたメッセージ・フラグが有効であることを確認してください。有効なメッセージ・フラグについては、「[MsgFlags \(MQLONG\)](#)」の MQMD の説明に記載されている MsgFlags フィールドを参照してください。
- 個々のメッセージ・フラグを同時に追加して複数のメッセージ・フラグを設定する場合は、同じメッセージ・フラグを 2 度追加していないことを確認する。
-  z/OS の場合、指定されたメッセージ・フラグがキューの索引タイプに有効かどうかを確認する。詳細については、MQMD の MsgFlags フィールドの説明を参照してください。

2250 (08CA) (RC2250): MQRC_MSG_SEQ_NUMBER_ERROR

説明

MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、MQMD または MQMDE 構造体の中の MsgSeqNumber フィールドの値が 1 より小さいか、もしくは 999 999 999 より大きい。

呼び出しの結果として `MsgSeqNumber` フィールドが 999 999 999 より大きくなった場合にも、MQPUT 呼び出しでこのエラーが発生することがある。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

1 から 999 999 999 の範囲の値を指定します。999 999 999 を超えるメッセージが入ったメッセージ・グループは作成しないようにする。

2251 (08CB) (RC2251): MQRC_OFFSET_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、MQMD または MQMDE 構造体の中の `Offset` フィールドの値がゼロより小さいか、もしくは 999 999 999 より大きくなっています。

呼び出しの結果として `Offset` フィールドが 999 999 999 より大きくなった場合にも、MQPUT 呼び出しでこのエラーが発生することがある。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

0 から 999 999 999 の範囲の値を指定する。オフセット 999 999 999 を超えて拡張するメッセージ・セグメントを作成しないようにする。

2252 (08CC) (RC2252): MQRC_ORIGINAL_LENGTH_ERROR

説明

セグメントであるレポート・メッセージを書き込むために MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、MQMD または MQMDE 構造体内の `OriginalLength` フィールドの値が次のいずれかです。

- メッセージ内のデータの長さより小さい
- 1 より小さい (最終セグメント以外のセグメントの場合)
- ゼロより小さい (最終セグメントの場合)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ゼロより大きい値を指定します。ゼロは最終セグメントの場合のみ有効です。

2253 (08CD) (RC2253): MQRC_SEGMENT_LENGTH_ZERO

説明

論理メッセージの最初または中間のセグメントを書き込もうとして MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、(現在存在する可能性のある MQ ヘッダーを除く)セグメントのアプリケーション・メッセージ・データの長さがゼロである。最初または中間セグメントの長さは最低でも 1 でなくてはなりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーション論理を調べ、セグメントが必ず 1 以上の長さで書き込まれるようにする。論理メッセージの最終セグメントだけは長さが 0 でも問題ありません。

Multi 2255 (08CF) (RC2255): MQRC_UOW_NOT_AVAILABLE

説明

作業単位外でメッセージを読み取ろうとして、または書き込もうとして、MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが出されたが、呼び出しに指定されたオプションは、キュー・マネージャーに、作業単位内で呼び出しを処理することを要求した。既存のユーザー定義の作業単位が存在していたので、キュー・マネージャーはその呼び出しを処理するために一時作業単位を作成することができませんでした。

この理由コードは、次の場合に発行される。

- MQGET 呼び出しで、MQGMO_COMPLETE_MSG オプションが MQGMO に指定されて、検索する論理メッセージが持続していて、複数のセグメントで構成される場合。
- MQPUT または MQPUT1 呼び出しで、MQMD に MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED フラグが指定されており、メッセージのセグメント化が必要である。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ユーザー定義の作業単位内で MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しを発行します。あるいは、MQPUT または MQPUT1 呼び出しの場合、キュー・マネージャーがセグメント化を要求しないように、メッセージのサイズを小さくする。

2256 (08D0) (RC2256): MQRC_WRONG_GMO_VERSION

説明

バージョン番号が MQGMO_VERSION_2 以上の MQGMO を要求するオプションを指定して MQGET 呼び出しが発行されたが、提供された MQGMO はこの条件を満たしていなかった。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バージョン 2 の MQGMO が渡されるようにアプリケーションを変更します。アプリケーションの論理を調べ、MQGMO の Version フィールドが MQGMO_VERSION_2 に設定されているかどうかを確認します。別の方法としては、バージョン 2 の MQGMO を必要とするオプションを削除します。

2257 (08D1) (RC2257): MQRC_WRONG_MD_VERSION

説明

バージョン番号が MQMD_VERSION_2 以上の MQMD を要求するオプションを指定して MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが出されたが、提供された MQMD はこの条件を満たしていなかった。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バージョン 2 の MQMD が渡されるようにアプリケーションを変更します。アプリケーションの論理を調べ、MQMD の Version フィールドが MQMD_VERSION_2 に設定されているかどうかを確認します。別の方法としては、バージョン 2 の MQMD を必要とするオプションを削除します。

Multi 2258 (08D2) (RC2258): MQRC_GROUP_ID_ERROR

説明

グループのメッセージまたはメッセージ・セグメントでもある配布リスト・メッセージ、あるいはセグメント化が許可されている配布リスト・メッセージを書き込もうとして、MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、オプションと値の無効な組み合わせが指定された。次のすべての記述が該当する。

- MQPMO 内の Options フィールドに MQPMO_LOGICAL_ORDER が指定されていない。
- MQPMO が提供する MQPMR レコードが少なすぎるか、MQPMR レコード内に GroupId フィールドが指定されていない。
- 次のフラグのうちの 1 つ以上が MQMD または MQMDE 内の MsgFlags フィールドに指定されている。
 - MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED
 - MQMF*_MSG_IN_GROUP
 - MQMF*_SEGMENT
- MQMD または MQMDE の GroupId フィールドが MQGI_NONE ではない。

オプションと値をこの組み合わせで使用すると、結果的に配布リスト内のすべての宛先に同じグループ ID が使用されます。キュー・マネージャーはこれを許可していません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQMD または MQMDE 内の GroupId フィールドに MQGI_NONE を指定します。あるいは、呼び出しが MQPUT の場合は、MQPMO の Options フィールドに MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定します。

Multi 2259 (08D3) (RC2259): MQRC_INCONSISTENT_BROWSE

説明

指定された MQGMO_BROWSE_NEXT オプションで、MQGET 呼び出しが発行されたが、呼び出しに対する MQGMO_LOGICAL_ORDER オプションの指定が、キュー・ハンドルの直前の呼び出しへのオプションの指定と異なっている。両方の呼び出しで MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定するか、両方の呼び出しで MQGMO_LOGICAL_ORDER を指定しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

必要に応じて MQGMO_LOGICAL_ORDER オプションを追加または削除します。別の方法として、論理順序と物理順序を切り替えるには、MQGMO_BROWSE_FIRST オプションを指定してキューの最初からスキャンを再び開始し、必要に応じて MQGMO_LOGICAL_ORDER を省略または指定します。

2260 (08D4) (RC2260): MQRC_XQH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQXQH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQXQH_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQXQH_VERSION_1 でない。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

Multi

2261 (08D5) (RC2261): MQRC_SRC_ENV_ERROR

説明

この理由コードは、参照メッセージを処理するチャンネル出口が、参照メッセージ・ヘッダー (MQRMH) のソース環境データでエラーを検出すると発行される。以下のいずれかが該当する。

- SrcEnvLength がゼロより小さいです。
- SrcEnvLength はゼロより大きいですが、ソース環境データがない。
- SrcEnvLength はゼロより大きいですが、SrcEnvOffset がゼロ以下であるか、MQRMH の固定部分の長さより短い。
- SrcEnvLength はゼロより大きいですが、SrcEnvOffset + SrcEnvLength は StrucLength より大きい。

出口は、この理由コードを MQCXP 構造体の Feedback フィールドに戻します。例外報告書が要求されると、その報告書に関連付けられた MQMD の Feedback フィールドにコピーされる。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

送信元の環境データを正確に指定します。

Multi

2262 (08D6) (RC2262): MQRC_SRC_NAME_ERROR

説明

この理由コードは、参照メッセージを処理するチャンネル出口が、参照メッセージ・ヘッダー (MQRMH) のソース名データでエラーを検出すると出される。以下のいずれかが該当する。

- SrcNameLength がゼロより小さいです。
- SrcNameLength はゼロより大きいですが、ソース名データがない。
- SrcNameLength はゼロより大きいですが、SrcNameOffset がゼロ以下であるか、MQRMH の固定部分の長さより短い。
- SrcNameLength はゼロより大きいですが、SrcNameOffset + SrcNameLength は StrucLength より大きい。

出口は、この理由コードを MQCXP 構造体の Feedback フィールドに戻します。例外報告書が要求されると、その報告書に関連付けられた MQMD の Feedback フィールドにコピーされる。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

送信元の名前データを正確に指定します。

2263 (08D7) (RC2263): MQRC_DEST_ENV_ERROR

説明

この理由コードは、参照メッセージを処理するチャンネル出口が、参照メッセージ・ヘッダー (MQRMH) の宛先環境データでエラーを検出すると出される。以下のいずれかが該当する。

- DestEnvLength がゼロより小さいです。
- DestEnvLength はゼロより大きいですが、宛先環境データがない。
- DestEnvLength はゼロより大きいですが、DestEnvOffset がゼロ以下であるか、MQRMH の固定部分の長さより短い。
- DestEnvLength はゼロより大きいですが、DestEnvOffset + DestEnvLength は StrucLength より大きい。

出口は、この理由コードを MQCXP 構造体の Feedback フィールドに戻します。例外報告書が要求されると、その報告書に関連付けられた MQMD の Feedback フィールドにコピーされる。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

宛先環境データを正確に指定します。

2264 (08D8) (RC2264): MQRC_DEST_NAME_ERROR

説明

この理由コードは、参照メッセージを処理するチャンネル出口が、参照メッセージ・ヘッダー (MQRMH) の宛先名データでエラーを検出すると発行される。以下のいずれかが該当する。

- DestNameLength がゼロより小さいです。

- DestNameLength はゼロより大きい、宛先名データがない。
- DestNameLength はゼロより大きい、 DestNameOffset がゼロ以下であるか、MQRMH の固定部分の長さより短い。
- DestNameLength はゼロより大きい、 DestNameOffset + DestNameLength は StrucLength より大きい。

出口は、この理由コードを MQCXP 構造体の Feedback フィールドに戻します。例外報告書が要求されると、その報告書に関連付けられた MQMD の Feedback フィールドにコピーされる。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

宛先名前データを正確に指定します。

2265 (08D9) (RC2265): MQRC_TM_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQTM 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQTM_STRUC_ID でない。
- Version フィールドが MQTM_VERSION_1 でない。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED


プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2266 (08DA) (RC2266): MQRC_CLUSTER_EXIT_ERROR

説明

メッセージをオープンするため、またはクラスター・キューにメッセージを書き込むために MQOPEN、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、キュー・マネージャーの **ClusterWorkloadExit** 属性によって定義されたクラスター・ワークロード出口が予期せず失敗したか、時間内に応答しませんでした。このキュー・ハンドルに対する後続の MQOPEN、MQPUT、および MQPUT1 呼び出しは、**ClusterWorkloadExit** 属性がブランクである場合のように処理される。

 z/OS では、エラーの詳細情報を提供する CSQV455E や CSQV456E などのメッセージがシステム・ログに書き込まれる。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

クラスター・ワークロード出口が正しく記述されているかを確認します。

2267 (08DB) (RC2267): MQRC_CLUSTER_EXIT_LOAD_ERROR

説明

キュー・マネージャーに接続するために MQCONN または MQCONNX 呼び出しが発行されたが、そのキュー・マネージャーがクラスター・ワークロード出口をロードできなかった。クラスター・ワークロード出口なしで実行が継続されます。

z/OS z/OS では、クラスター・ワークロード出口をロードできない場合に、CSQV453I などのメッセージがシステム・ログに書き込まれる。**ClusterWorkloadExit** 属性はブランクと見なされて処理が実行されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

キュー・マネージャーの **ClusterWorkloadExit** 属性に正しい値が設定されており、出口が正しいロケーションにインストールされているようにする。

2268 (08DC) (RC2268): MQRC_CLUSTER_PUT_INHIBITED

説明

MQOO_OUTPUT および MQOO_BIND_ON_OPEN オプションが有効になっている MQOPEN 呼び出しがクラスター・キューに対して発行されたが、次のすべての記述が該当するため呼び出しが失敗した。

- クラスター・キューのインスタンスがすべて、現在書き込み禁止になっている (つまり、すべてのキュー・インスタンスで **InhibitPut** 属性が MQQA_PUT_INHIBITED に設定されている)。
- キューのローカル・インスタンスがない。(ローカル・インスタンスがあれば、そのローカル・インスタンスが書き込み禁止になっていても MQOPEN 呼び出しは成功する。)
- キューに対するクラスター・ワークロード出口がない。または、クラスター・ワークロード出口はあるが、その出口でキュー・インスタンスが選択されなかった。(クラスター・ワークロード出口でキュー・インスタンスが選択されると、そのインスタンスが書き込み禁止になっていても MQOPEN 呼び出しは成功する。)

MQOO_BIND_NOT_FIXED オプションが MQOPEN 呼び出しに指定されている場合、クラスター内のすべてのキューが書き込み禁止になっていても、その呼び出しは成功する。ただし、その後に発行される MQPUT 呼び出しについては、その MQPUT 呼び出しが発行される時点でもそのまますべてのキューが書き込み禁止になっていると、失敗する可能性がある。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

システムの設計上、書き込み要求を短期間禁止できるようになっている場合は、後で操作を再試行する。問題が解決しない場合には、クラスター内のすべてのキューが書き込み禁止になっている理由を調べてください。

2269 (08DD) (RC2269): MQRC_CLUSTER_RESOURCE_ERROR

説明


クラスター・キューに対して MQOPEN、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、クラスター化に必要な資源を使おうとする際にエラーが発生した。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

以下の作業を行います。

- SYSTEM.CLUSTER.* キューは書き込み禁止または満杯ではありません。
- SYSTEM.CLUSTER.* これらのキューは、障害の性質に関するガイダンスを提供する場合があります。
- リポジトリリー・キュー・マネージャーが使用可能であることをチェックします。
-  z/OS の場合に、ページ・セットが満杯であるというような障害の兆候がないかコンソールを調べる。

2270 (08DE) (RC2270): MQRC_NO_DESTINATIONS_AVAILABLE

説明

メッセージをクラスター・キューに書き込むために、MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されたが、呼び出しの時点でクラスター内のキューのインスタンスはなくなっていた。このため、メッセージを送信できなかった。

キューをオープンする MQOPEN 呼び出しに MQOO_BIND_NOT_FIXED を指定したとき、またはメッセージを書き込むために MQPUT1 を使用したとき、この状況になることがある。

この理由コードは、REFRESH CLUSTER コマンドの実行時にも発生する可能性があります。 [REFRESH CLUSTER](#) の実行時に見られるアプリケーションの問題を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー定義とキュー状況を調べて、キューのすべてのインスタンスがクラスターから削除された理由を判断する。問題を解決して、アプリケーションを再実行します。

2271 (08DF) (RC2271): MQRC_CONN_TAG_IN_USE

説明

MQCONN 呼び出しが MQCNO_*_CONN_TAG_* オプションの 1 つを指定して発行されましたが、MQCNO 内の ConnTag によって指定された接続タグが、アクティブなプロセスまたはスレッドによって使用中であるため、またはこの接続タグを参照する未解決の作業単位があるために、呼び出しが失敗しました。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

問題はおそらく一時的なものです。アプリケーションがしばらく待ってから、操作を再試行するようにします。

2272 (08E0) (RC2272): MQRC_PARTIALLY_CONVERTED

説明

GetMsgOpts パラメーターに MQGMO_CONVERT オプションが指定されている MQGET 呼び出しにおいて、メッセージ・データ内の 1 つ以上の MQ ヘッダー構造体を指定のターゲット文字セットまたはエンコードに変換できません。この場合、MQ ヘッダー構造体はキュー・マネージャーの文字セットおよびエンコードに変換され、メッセージ内のアプリケーション・データはターゲット文字セットおよびエンコードに変換されます。呼び出しからの戻り時に、**MsgDesc** パラメーターおよび MQ ヘッダー構造体のさまざまな CodedCharSetId および Encoding フィールドに戻される値は、メッセージの各部分に適用される文字セットおよびエンコードを示します。この呼び出しは、MQCC_WARNING で完了します。

通常、この理由コードは、指定したターゲット文字セットが、MQ ヘッダー構造体内の文字ストリングをフィールド長を超えて拡張させる場合に発生します。これを発生させる文字セットの例としては、Unicode 文字セット UTF-16 があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

これが予期されていた状態である場合、訂正処置は不要です。

これが予期されていない状態である場合、MQ ヘッダー構造体に有効なデータが含まれていることを確認してください。そのようになっている場合、ターゲット文字セットとして、ストリングの拡張を発生させない文字セットを指定してください。

2273 (08E1) (RC2273): MQRC_CONNECTION_ERROR

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しが、次のいずれかの理由で失敗しました。

- IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションでは、使われているタイプのアプリケーションによる接続が許されない。
- システム・パラメーター・モジュールのリリース・レベルが、キュー・マネージャーと同じではない。
- チャンネル・イニシエーターのリリース・レベルが、キュー・マネージャーと同じではない。
- キュー・マネージャーによって内部エラーが検出されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

IBM MQ 用に選択されているインストールとカスタマイズのオプションが、すべての機能を使用することを許していない場合、なし。

そうではなく、これがチャンネル・イニシエーターの開始時に起きる場合は、キュー・マネージャーとチャンネル・イニシエーターのリリース・レベルが両方とも同じかどうかと、それらの開始済みタスク JCL プロシージャが両方とも同じレベルの IBM MQ プログラム・ライブラリーを指定しているかどうかを確認する。これがキュー・マネージャーの開始時に起きる場合は、システム・パラメーター・モジュール (CSQZPARM) を再リンク・エディットして、正しいレベルであるようにする。問題が解決しないようであれば、IBM サポートに連絡する。

z/OS

2274 (08E2) (RC2274): MQRC_OPTION_ENVIRONMENT_ERROR

説明

MQGMO_MARK_SKIP_BACKOUT オプションが指定された MQGET 呼び出しが、Db2 ストアード・プロシージャから発行されました。Db2 ストアード・プロシージャから MQGMO_MARK_SKIP_BACKOUT オプションは使用できないため、この呼び出しは失敗しました。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQGET 呼び出しから MQGMO_MARK_SKIP_BACKOUT オプションを削除します。

Multi

2277 (08E5) (RC2277): MQRC_CD_ERROR

説明

キュー・マネージャーに接続するために MQCONNX 呼び出しが発行されましたが、MQCNO の *ClientConnOffset* または *ClientConnPtr* フィールドによってアドレス指定された MQCD チャンネル定義構造に、無効なデータが含まれています。エラー・ログでエラーの種類の詳細を調べます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCD 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

Multi

2278 (08E6) (RC2278): MQRC_CLIENT_CONN_ERROR

説明

キュー・マネージャーに接続するために MQCONNX 呼び出しが発行されたが、MQCD チャンネル定義構造体が正しく指定されていない。次のいずれかが当てはまります。

- *ClientConnOffset* がゼロではなく、*ClientConnPtr* がゼロでもヌル・ポインターでもない。
- *ClientConnPtr* が無効なポインターである。
- *ClientConnPtr* または *ClientConnOffset* が、アクセス不可能なストレージを指している。

これは、チャンネル名の判別のためのクライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) が指定された場合に、そのテーブル自体が見つからないときにも Java アプリケーションで発生する。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ClientConnOffset と ClientConnPtr の少なくとも 1 つがゼロであることを確認してください。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。クライアント・チャネル定義テーブルの URL が正しいことを確認してください。

2279 (08E7) (RC2279): MQRC_CHANNEL_STOPPED_BY_USER

説明

チャネルがオペレーターによって停止されていた場合にこの状況が検出されます。理由修飾子が停止理由を示しています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [160 ページの『ユーザーによるチャネル停止』](#)の識別にのみ使用されます。

Multi

2280 (08E8) (RC2280): MQRC_HCONFIG_ERROR

説明

MQXEP 呼び出しまたは MQZEP 呼び出しで指定された構成ハンドル Hconfig が無効です。MQXEP 呼び出しが API 出口機能によって発行されます。MQZEP 呼び出しがインストール可能サービスによって発行されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーによって提供された構成ハンドルを指定します。

- MQXEP 呼び出しの場合、MQAXP 構造体の Hconfig フィールドに渡されたハンドルを使用します。
- MQZEP 呼び出しの場合、コンポーネント初期化呼び出しで、インストール可能サービスの構成機能に渡された構成ハンドルを指定します。インストール可能サービスの詳細については、[AIX, Linux, and Windows 用のインストール可能サービスとコンポーネント](#)を参照してください。

Multi

2281 (08E9) (RC2281): MQRC_FUNCTION_ERROR

説明

MQXEP または MQZEP 呼び出しが発行されましたが、呼び出しで指定された関数 ID Function が無効か、または構成されているインストール可能サービスでサポートされていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

以下の作業を行います。

- MQXEP 呼び出しの場合、MQXF_* 値のいずれかを指定します。
- MQZEP 呼び出しの場合、構成するインストール可能サービスに対して有効な MQZID_* 値を指定します。有効な値を判別するには、[MQZEP](#) を参照してください。

2282 (08EA) (RC2282): MQRC_CHANNEL_STARTED

説明

次のいずれかが発生しました。

- オペレーターが Start Channel コマンドを実行しました。
- チャンネルのインスタンスが正常に確立されました。初期データ交渉が完了し、メッセージ転送に必要なため再同期が実行された場合、この状況が検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [156 ページ](#)の『[チャンネル開始](#)』の識別にのみ使用されます。

2283 (08EB) (RC2283): MQRC_CHANNEL_STOPPED

説明

チャンネルが停止されていた場合にこの状況が検出されます。理由修飾子が停止理由を示しています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [157 ページ](#)の『[チャンネル停止](#)』の識別にのみ使用されます。

2284 (08EC) (RC2284): MQRC_CHANNEL_CONV_ERROR

説明

チャンネルがデータ変換を行えず、伝送キューからメッセージを読み取るための MQGET 呼び出しがデータ変換エラーに終わった場合に、この状況が検出されます。変換理由コードが失敗の理由を示しています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [146 ページ](#)の『チャンネル変換エラー』の識別にのみ使用されます。

Multi

2285 (08ED) (RC2285): MQRC_SERVICE_NOT_AVAILABLE

説明

この理由コードは、必要な基本サービスが使用不能なため要求されたアクションを実行できない場合に、インストール可能なサービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

基本サービスを使用可能な状態にします。

Multi

2286 (08EE) (RC2286): MQRC_INITIALIZATION_FAILED

説明

この理由コードは、コンポーネントが初期化を完了できない場合に、インストール可能なサービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エラーを訂正して操作をやり直してください。

Multi

2287 (08EF) (RC2287): MQRC_TERMINATION_FAILED

説明

この理由コードは、コンポーネントが正常に終了できない場合に、インストール可能なサービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エラーを訂正して操作をやり直してください。

Multi

2288 (08F0) (RC2288): MQRC_UNKNOWN_Q_NAME

説明

この理由コードは、**QName** パラメーターに指定された名前が認識されない場合に、インストール可能なサービス・コンポーネント、MQZ_LOOKUP_NAME から戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

なし。インストール可能サービスの詳細については、[AIX, Linux, and Windows 用のインストール可能サービスとコンポーネント](#)を参照してください。

Multi

2289 (08F1) (RC2289): MQRC_SERVICE_ERROR

説明

この理由コードは、コンポーネントに予期しないエラーが発生した場合に、インストール可能なサービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エラーを訂正して操作をやり直してください。

Multi

2290 (08F2) (RC2290): MQRC_Q_ALREADY_EXISTS

説明

この理由コードは、**QName** パラメーターに指定されたキューがすでに名前サービスに定義されている場合に、MQZ_INSERT_NAME インストール可能なサービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

なし。インストール可能サービスの詳細については、[AIX, Linux, and Windows 用のインストール可能サービスとコンポーネント](#)を参照してください。

Multi

2291 (08F3) (RC2291): MQRC_USER_ID_NOT_AVAILABLE

説明

この理由コードは、ユーザー ID を判別できない場合に、MQZ_FIND_USERID インストール可能なサービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

なし。インストール可能サービスの詳細については、[AIX, Linux, and Windows 用のインストール可能サービスとコンポーネント](#)を参照してください。

Multi

2292 (08F4) (RC2292): MQRC_UNKNOWN_ENTITY

説明

この理由コードは、**EntityName** パラメーターに指定された名前が認識されない場合に、インストール可能な許可サービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エンティティーが定義されているかを確認します。

Multi

2294 (08F6) (RC2294): MQRC_UNKNOWN_REF_OBJECT

説明

この理由コードは、**RefObjectName** パラメーターによって指定された名前が認識されない場合に、インストール可能なサービス・コンポーネント、MQZ_COPY_ALL_AUTHORITY から戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

参照オブジェクトが定義されているかを確認します。インストール可能サービスの詳細については、[AIX, Linux, and Windows 用のインストール可能サービスとコンポーネント](#)を参照してください。

2295 (08F7) (RC2295): MQRC_CHANNEL_ACTIVATED

説明

別のチャンネルからアクティブ・スロットが解放されたためアクティブになるのを待機しており、Channel Not Activated イベントが生成されたチャンネルがアクティブ状態になると、この状況が検出されます。

このイベントは、アクティブ・スロットの解放を待たずにアクティブ状態になることができるチャンネルについては生成されません。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [140 ページの『チャンネル活動化』](#)の識別にのみ使用されます。

2296 (08F8) (RC2296): MQRC_CHANNEL_NOT_ACTIVATED

説明

チャンネルが起動された、またはパートナーとの別の接続を試みようとしている、のいずれかの理由でチャンネルをアクティブ状態にする必要があるときに、この状況が検出されます。しかし、アクティブ・チャンネルの制限数に達しているため、チャンネルをアクティブ状態にすることができません。

- **z/OS** z/OS 上では、アクティブ・チャンネルの最大数は、ACTCHL キュー・マネージャー属性によって指定されます。
- **Multi** その他の環境では、アクティブ・チャンネルの最大数は、qm.ini ファイル内の MaxActiveChannels パラメーターによって指定されます。

別のチャンネルがアクティブになり解放されたアクティブ・スロットを取得できるまで待機します。アクティブ・スロットを取得できたときに、Channel Activated イベントが生成されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [148 ページ](#)の『チャンネル非活動化』の識別にのみ使用されます。

2297 (08F9) (RC2297): MQRC_UOW_CANCELED

説明

MQI 呼び出しが発行されましたが、MQ 操作に使用される作業単位 (TM/MP トランザクション) が取り消されました。これは、TM/MP 自身によるものか (例えば、トランザクションの実行期間が長すぎる、または監査証跡サイズを超えているといった理由で)、ABORT_TRANSACTION を発行したアプリケーション・プログラムによるものと考えられます。キュー・マネージャーが所有するリソースに対して行ったすべての更新はバックアウトされます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オペレーティング・システムの「*Transaction Management Operations Guide*」で、トランザクション・マネージャーを調整してシステム制限超過の問題を回避する方法を判断します。

2298 (08FA) (RC2298): MQRC_FUNCTION_NOT_SUPPORTED

説明

要求された機能は、現行の環境では利用できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションからこの呼び出しを除去してください。

CICS グループ接続でこの理由コードを受け取った場合は、キュー・マネージャー属性 **GROUPUR** が有効になっていることを確認してください。

2299 (08FB) (RC2299): MQRC_SELECTOR_TYPE_ERROR

説明

Selector パラメーターのデータ・タイプが正しくありません。Long タイプでなければなりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Selector パラメーターを Long として宣言します。

2300 (08FC) (RC2300): MQRC_COMMAND_TYPE_ERROR

説明

mqExecute 呼び出しが発行されましたが、管理バッグ内の MQIASY_TYPE データ項目の値が MQCFT_COMMAND ではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

管理バッグ内の MQIASY_TYPE データ項目の値が MQCFT_COMMAND であることを確認します。

2301 (08FD) (RC2301): MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR

説明

Selector パラメーターでシステム・セレクター (MQIASY_* 値の 1 つ) を指定していますが、**ItemIndex** パラメーターが MQIND_NONE ではありません。各システム・セレクターのインスタンスは 1 つだけをバッグ内に存在させることができます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ItemIndex パラメーターの値に MQIND_NONE を指定します。

2302 (08FE) (RC2302): MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE

説明

バッグ内のシステム・データ項目 (MQIASY_* セレクターの 1 つを持つデータ項目) の値を変更するための呼び出しが発行されましたが、そのデータ項目はアプリケーションでは変更できないため、呼び出しは失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ユーザー定義データ項目のセレクターを指定するか、呼び出しを削除します。

2303 (08FF) (RC2303): MQRC_BAG_CONVERSION_ERROR

説明

mqBufferToBag または mqGetBag 呼び出しが発行されましたが、バッファーまたはメッセージ内のデータをバッグに変換できませんでした。変換するデータが無効な PCF の場合にこの状況が発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッファーまたはメッセージを作成したアプリケーションの論理をチェックして、バッファーまたはメッセージに有効な PCF が含まれていることを確認します。

メッセージに無効な PCF が含まれている場合、そのメッセージは mqGetBag 呼び出しで検索することができません。

- MQGMO_BROWSE_* オプションの 1 つが指定されると、メッセージはキューに残り、MQGET 呼び出しで検索できます。
- その他の場合は、メッセージがキューからすでに削除され、廃棄されています。メッセージが作業単位内で検索された場合、作業単位をバックアウトし、メッセージを MQGET 呼び出しで検索できます。

2304 (0900) (RC2304): MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

説明

Selector パラメーターの値が、呼び出しにとっての有効範囲外です。バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションで作成された場合、次の条件を満たしていなければなりません。

- mqAddInteger 呼び出しでは、値は MQIA_FIRST から MQIA_LAST までの範囲内である。
- mqAddString 呼び出しでは、値は MQCA_FIRST から MQCA_LAST までの範囲内である。

バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションで作成されていない場合、値はゼロ以上でなければなりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

2305 (0901) (RC2305): MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

説明

ItemIndex パラメーターの値は MQIND_NONE ですが、バッグには **Selector** パラメーターで指定されたセレクター値を持つデータ項目が複数含まれています。パラメーター値が MQIND_NONE の場合、バッグには指定セレクターのオカレンスは 1 つだけ含めることができます。

この理由コードは、セレクターのオカレンスを 1 つしか許可しない必須パラメーター用に 2 つ以上のオカレンスが管理バッグに含まれている場合にも、mqExecute 呼び出しにおいて発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッグを作成したアプリケーションの論理をチェックします。正しい場合は、*ItemIndex* にゼロ以上の値を指定し、バッグ内のセレクターのすべてのオカレンスを処理するアプリケーション・ロジックを追加します。

発行する管理コマンドの記述を見直して、バッグ内にすべての必須パラメーターが正しく定義されていることを確認します。

2306 (0902) (RC2306): MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

説明

指定された索引が存在していません。

- バッグの場合、これは、**Selector** パラメーターで指定されたセレクター値を持つ 1 つ以上のデータ項目がバッグに含まれているが、**ItemIndex** パラメーターで指定された索引値を持つデータ項目がバッグに含まれていないことを意味します。**Selector** パラメーターおよび **ItemIndex** パラメーターによって識別されるデータ項目は、バッグ内に存在していなければなりません。
- 名前リストの場合には、これはつまり、索引パラメーター値が大きすぎて、有効な値の範囲外であるという意味です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッグまたは名前リスト内に存在するデータ項目の索引を指定します。mqCountItems 呼び出しを使って、バッグに存在する指定のセレクターを持つデータ項目の数を判断したり、nameCount メソッドを使って、名前リスト内の名前の数を判別したりします。

2307 (0903) (RC2307): MQRC_STRING_ERROR

説明

String パラメーターが有効ではありません。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2308 (0904) (RC2308): MQRC_ENCODING_NOT_SUPPORTED

説明

メッセージ記述子 MQMD 内の Encoding フィールドにサポートされない値が含まれています。

- mqPutBag 呼び出しの場合、エラーの記述に示されているフィールドは呼び出しの **MsgDesc** パラメーター内にあります。
- mqGetBag 呼び出しの場合、エラーの記述に示されているフィールドは次の場所に含まれています。
 - MQGMO_CONVERT オプションが指定された場合は、呼び出しの **MsgDesc** パラメーター。
 - MQGMO_CONVERT が指定されなかった場合は、検索するメッセージのメッセージ記述子。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

値は MQENC_NATIVE でなくてはなりません。

メッセージ内の Encoding フィールドの値が無効な場合、メッセージは mqGetBag 呼び出しで検索することはできません。

- MQGMO_BROWSE_* オプションの 1 つが指定されると、メッセージはキューに残り、MQGET 呼び出しで検索できます。
- その他の場合は、メッセージがキューからすでに削除され、廃棄されています。メッセージが作業単位内で検索された場合、作業単位をバックアウトし、メッセージを MQGET 呼び出しで検索できます。

2309 (0905) (RC2309): MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

説明

Selector パラメーターに、バッグ内に存在しないセレクターが指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッグに存在するセレクターを指定します。

2310 (0906) (RC2310): MQRC_OUT_SELECTOR_ERROR

説明

OutSelector パラメーターが有効ではありません。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2311 (0907) (RC2311): MQRC_STRING_TRUNCATED

説明

呼び出しによって戻された文字ストリングは長すぎて、与えられているバッファーに収まりません。ストリングはバッファーに収まるように切り捨てられました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ストリングの全体が必要な場合は、バッファーを大きくします。mqInquireString 呼び出しでは、**StringLength** パラメーターを設定して、切り捨てないでストリング全体が収まるバッファー・サイズを指定します。

2312 (0908) (RC2312): MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

説明

指定のセレクターを持つデータ項目がバッグ内に存在していますが、そのデータ項目のデータ・タイプが、使用する呼び出しのデータ・タイプと矛盾しています。例えば、データ項目は数字データ・タイプですが、使用する呼び出しは文字データ・タイプの mqSetString という場合があります。

mqBagToBuffer、mqExecute、および mqPutBag 呼び出しにおいても、MQIACF_INQUIRY データ項目をバッグに追加するために mqAddString または mqSetString が使用された場合に、この理由コードが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

mqSetInteger と mqSetString 呼び出しの場合、MQIND_ALL を **ItemIndex** パラメーターに指定して、必要なデータ・タイプの新規オカレンスを作成する前に指定セレクターの既存の全オカレンスがバッグから削除されるようにします。

mqInquireBag、mqInquireInteger、および mqInquireString 呼び出しの場合は、mqInquireItemInfo 呼び出しを使用して指定セレクターを持つデータ項目のデータ・タイプを決定し、次に適切な呼び出しを使用してデータ項目の値を決定します。

mqBagToBuffer、mqExecute、および mqPutBag 呼び出しの場合は、mqAddInteger または mqSetInteger 呼び出しを使用して MQIACF_INQUIRY データ項目を必ずバッグに追加します。

2313 (0909) (RC2313): MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE

説明

バッグに指定セクターの別のオカレンスを追加するために mqAddInteger または mqAddString 呼び出しが発行されましたが、このオカレンスのデータ・タイプが最初のオカレンスのデータ・タイプとは異なりました。

mqBufferToBag と mqGetBag 呼び出しにおいて、バッファーまたはメッセージ内の PCF に複数のオカレンスがあるセクターが含まれており、それらのオカレンスのデータ・タイプが矛盾している場合にも、この理由コードが発生する可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

mqAddInteger と mqAddString 呼び出しの場合は、バッグ内のそのセクターの最初のオカレンスのデータ・タイプに適した呼び出しを使用します。

mqBufferToBag と mqGetBag 呼び出しの場合は、バッファーを作成したか、またはメッセージを送信したアプリケーションの論理をチェックして、セクターの複数オカレンスのデータ・タイプが同じであることを確認します。セクターのデータ・タイプが混在しているメッセージは、mqGetBag 呼び出しでは検索されません。

- MQGMO_BROWSE_* オプションの 1 つが指定されると、メッセージはキューに残り、MQGET 呼び出しで検索できます。
- その他の場合は、メッセージがキューからすでに削除され、廃棄されています。メッセージが作業単位内で検索された場合、作業単位をバックアウトし、メッセージを MQGET 呼び出しで検索できます。

2314 (090A) (RC2314): MQRC_INDEX_ERROR

説明

呼び出したメソッドの索引パラメーターに無効な値があります。値はゼロ以上でなければなりません。バッグ呼び出しの場合は、特定の MQIND_* 値も指定することができます。

- mqDeleteItem、mqSetInteger および mqSetString 呼び出しの場合は、MQIND_ALL と MQIND_NONE が有効です。
- mqInquireBag、mqInquireInteger、mqInquireString および mqInquireItemInfo 呼び出しの場合は、MQIND_NONE が有効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

2315 (090B) (RC2315): MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

説明

バッグへデータ項目を追加する、バッグ内の既存データ項目値を変更する、またはメッセージを検索してバッグへ挿入するといった目的で呼び出しが発行されましたが、そのバッグが、前回の mqExecute 呼び出しの結果、システムが作成したバッグだったため、呼び出しは失敗しました。アプリケーションからシステム・バッグを変更することはできません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションによって作成されたバッグのハンドルを指定するか、呼び出しを削除します。

2316 (090C) (RC2316): MQRC_ITEM_COUNT_ERROR

説明

mqTruncateBag 呼び出しが発行されましたが、**ItemCount** パラメーターに無効な値が指定されています。値がゼロより小さいか、バッグ内のユーザー定義のデータ項目数より大きいです。

mqCountItems 呼び出しでも、パラメーター・ポインターが無効か、パラメーター・ポインターが読取専用ストレージを指している、この理由コードは発生します。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED


プログラマー応答

有効な値を指定してください。mqCountItems 呼び出しを使用して、バッグ内のユーザー定義のデータ項目数を判別します。

2317 (090D) (RC2317): MQRC_FORMAT_NOT_SUPPORTED

説明

メッセージ記述子 MQMD 内の *Format* フィールドにサポートされない値が含まれています。

- 管理メッセージにおいて、フォーマット値は MQFMT_ADMIN、MQFMT_EVENT、MQFMT_PCF のいずれかである必要があります。mqPutBag 呼び出しの場合、エラーの記述に示されているフィールドは呼び出しの **MsgDesc** パラメーター内にあります。mqGetBag 呼び出しの場合、エラーの記述に示されているフィールドは、検索しようとしているメッセージのメッセージ記述子に含まれています。
-  z/OS で、メッセージはフォーマット値 MQFMT_ADMIN を使用してコマンド入力キューに書き込まれましたが、使用されている IBM MQ のバージョンはコマンドの該当フォーマットをサポートしません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージの書き込み中にエラーが発生した場合は、フォーマット値を修正してください。

メッセージの読み取り中にエラーが発生した場合は、メッセージは mqGetBag 呼び出しを使用して取得できません。

- MQGMO_BROWSE_* オプションの 1 つが指定されると、メッセージはキューに残り、MQGET 呼び出しで検索できます。
- その他の場合は、メッセージがキューからすでに削除され、廃棄されています。メッセージが作業単位内で検索された場合、作業単位をバックアウトし、メッセージを MQGET 呼び出しで検索できます。

2318 (090E) (RC2318): MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

説明

Selector パラメーターにシステム・セレクターである値 (負の値) が指定されていますが、システム・セレクターが呼び出しでサポートされている値ではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

サポートされるセレクター値を指定してください。

2319 (090F) (RC2319): MQRC_ITEM_VALUE_ERROR

説明

mqInquireBag または mqInquireInteger 呼び出しが発行されましたが、**ItemValue** パラメーターが無効です。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2320 (0910) (RC2320): MQRC_HBAG_ERROR

説明

パラメーターとしてバッグ・ハンドルが指定された呼び出しが発行されましたが、ハンドルが無効です。出力パラメーターの場合、パラメーター・ポインターが無効か、パラメーター・ポインターが読取専用ストレージを指しているときも、この理由コードが発生します。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2321 (0911) (RC2321): MQRC_PARAMETER_MISSING

説明

管理メッセージには、管理バッグ内に存在しないパラメーターが必要です。この理由コードは、MQCBO_ADMIN_BAG または MQCBO_REORDER_AS_REQUIRED オプションによって作成されたバッグについてのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

発行する管理コマンドの記述を見直して、バッグ内にすべての必須パラメーターが存在することを確認します。

2322 (0912) (RC2322): MQRC_CMD_SERVER_NOT_AVAILABLE

説明

管理コマンドを処理するコマンド・サーバーが使用不能です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

コマンド・サーバーを開始してください。

2323 (0913) (RC2323): MQRC_STRING_LENGTH_ERROR

説明

StringLength パラメーターが有効ではありません。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2324 (0914) (RC2324): MQRC_INQUIRY_COMMAND_ERROR

説明

mqAddInquiry により前もって属性セクターがバッグに追加されましたが、mqBagToBuffer、mqExecute、または mqPutBag 呼び出しに使用するコマンド・コードが認識されません。その結果、正しい PCF メッセージを生成できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

mqAddInquiry 呼び出しを削除し、代わりに適切な MQIACF*_ATTRS または MQIACH*_ATTRS セレクターが指定された mqAddInteger 呼び出しを使用します。

2325 (0915) (RC2325): MQRC_NESTED_BAG_NOT_SUPPORTED

説明

呼び出しへの入力であるバッグにネスト・バッグが含まれています。ネスト・バッグは、呼び出しからの出力であるバッグの場合のみサポートされます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

別のバッグを呼び出しへの入力として使用します。

2326 (0916) (RC2326): MQRC_BAG_WRONG_TYPE

説明

Bag パラメーターに、呼び出しに対して誤ったタイプのバッグのハンドルが指定されています。バッグは管理バッグでなくてはなりません。つまり、そのバッグは MQCBO_ADMIN_BAG オプションを指定した mqCreateBag 呼び出しで作成する必要があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バッグを作成するときに MQCBO_ADMIN_BAG オプションを指定します。

2327 (0917) (RC2327): MQRC_ITEM_TYPE_ERROR

説明

mqInquireItemInfo 呼び出しが発行されましたが、**ItemType** パラメーターが無効です。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2328 (0918) (RC2328): MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_DELETABLE

説明

バッグを削除するために mqDeleteBag 呼び出しが発行されましたが、そのバッグが、前回の mqExecute 呼び出しの結果システムが作成したバッグだったため、呼び出しは失敗しました。アプリケーションでシステム・バッグを削除することはできません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションによって作成されたバッグのハンドルを指定するか、呼び出しを削除します。

2329 (0919) (RC2329): MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_DELETABLE

説明

バッグからシステム・データ項目 (MQIASY_* セレクターの 1 つを持つデータ項目) の値を削除するための呼び出しが発行されましたが、そのデータ項目はアプリケーションでは削除できないため呼び出しは失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ユーザー定義データ項目のセレクターを指定するか、呼び出しを削除します。

2330 (091A) (RC2330): MQRC_CODED_CHAR_SET_ID_ERROR

説明

CodedCharSetId パラメーターが有効ではありません。パラメーター・ポインターが無効か、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2331 (091B) (RC2331): MQRC_MSG_TOKEN_ERROR

説明

選択基準としてメッセージ・トークンを使用したメッセージ検索を行う MQGET 呼び出しが発行されましたが、MQGMO_WAIT または MQGMO_SET_SIGNAL のいずれかとともに MQMO_MATCH_MSG_TOKEN が指定されたため、指定されたオプションが無効です。

選択基準としてメッセージ・トークンを使用したメッセージ検索を行う非同期コンシューマーが登録されましたが、このコンシューマーのメッセージの配信が開始したとき、メッセージ・トークンと一致するメッセージをコンシューマーに配信できませんでした。その結果、コンシューマーは中断されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

この理由コードが MQGET 呼び出しから戻される場合、MQMO_MATCH_MSG_TOKEN 一致オプションを除去するか、MQGMO_WAIT、または指定された MQGMO_SET_SIGNAL オプションを除去します。

この理由コードが非同期コンシューム・イベント・ハンドラーに戻される場合、コンシュームは中断され、メッセージがコンシューマーに配信されなくなります。コンシューマーを登録解除するか、MQCB 呼び出しを使って別のメッセージを選択するよう変更する必要があります。

2332 (091C) (RC2332): MQRC_MISSING_WIH

説明

IndexType 属性の値が MQIT_MSG_TOKEN であるキューにメッセージを書き込むために、MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、MQMD 内の **Format** フィールドの値が MQFMT_WORK_INFO_HEADER ではありませんでした。このエラーは、宛先キュー・マネージャーにメッセージが到着したときにのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答


アプリケーションを変更して、MQWIH 構造体がメッセージ・データの最初に配置され、MQMD 内の **Format** フィールドが MQFMT_WORK_INFO_HEADER に設定されるようにします。または、宛先キューにより使用されるプロセス定義の **App1Type** 属性が MQAT_WLM になるように変更し、その **EnvData** 属性で必要なサービス名およびサービス・ステップ名を指定します。

2333 (091D) (RC2333): MQRC_WIH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQWIH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- **StrucId** フィールドが MQWIH_STRUC_ID でない。
- **Version** バージョンが MQWIH_VERSION_1 でない。
- **StrucLength** フィールドが MQWIH_LENGTH_1 でない。
- **CodedCharSetId** フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを超えて拡張されている)。


 z/OS の場合、キューの **IndexType** 属性が MQIT_MSG_TOKEN であるのに、メッセージ・データが MQWIH 構造体で始まっていない場合にも、このエラーが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが CodedCharSetId フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です)。

 z/OS で、キューが MQIT_MSG_TOKEN の IndexType を保持する場合、メッセージ・データが MQWIH 構造体で開始されることを確認してください。

2334 (091E) (RC2334): MQRC_RFH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージ・データに無効な MQRFH または MQRFH2 構造体が含まれています。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQRFH_STRUC_ID ではありません。
- Version フィールドが MQRFH_VERSION_1 (MQRFH) でも MQRFH_VERSION_2 (MQRFH2) でもありません。
- StrucLength フィールドに指定されている値が小さすぎて、構造体に可変長データを加えたものを構造体の末尾に含めることができません。
- CodedCharSetId フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて、構造体を収容できない (構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されている)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが CodedCharSetId フィールドを有効な値に設定していることを確認してください (注: MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です)。

2335 (091F) (RC2335): MQRC_RFH_STRING_ERROR

説明

MQRFH 構造体の NameValueString フィールドの内容が無効です。NameValueString は、以下の規則に忠実に従っていなければなりません。

- スtring は、1 つ以上の空白で区切られたゼロ個以上の名前/値のペアで構成する必要があります。この空白は有意ではありません。
- 名前または値に有意の空白が含まれている場合は、その名前または値を二重引用符で囲む必要があります。
- 名前または値それ自体に 1 つ以上の二重引用符が含まれている場合は、その名前または値を二重引用符で囲む必要があります、さらに、組み込まれている個々の二重引用符を二重にする必要があります。

- 名前または値には、区切り文字の役割を持つヌル以外のどの文字でも含めることができます。ヌルおよびそれに続く文字は、NameValueString に定義された長さまで無視されます。

次は有効な NameValueString です。

```
Famous_Words "The program displayed ""Hello World"""
```

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを生成したアプリケーションを変更して、このアプリケーションが NameValueString フィールドに、規則に従ったデータを配置するようにします。StrucLength フィールドが正しい値に設定されていることを確認します。

2336 (0920) (RC2336): MQRC_RFH_COMMAND_ERROR

説明

メッセージに MQRFH 構造体が含まれていますが、NameValueString フィールドに含まれているコマンド名が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを生成したアプリケーションを変更して、NameValueString フィールドに有効なコマンド名が配置されるようにします。

2337 (0921) (RC2337): MQRC_RFH_PARM_ERROR

説明

メッセージに MQRFH 構造体が含まれていますが、NameValueString フィールドに含まれているパラメーター名は、指定されたコマンドには無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを生成したアプリケーションを変更して、指定されたコマンドに有効なパラメーターのみが NameValueString フィールドに配置されるようにします。

2338 (0922) (RC2338): MQRC_RFH_DUPLICATE_PARM

説明

メッセージに MQRFH 構造体が含まれていますが、指定したコマンドにはパラメーターの出現は 1 回だけが有効であるのに、NameValueString フィールドには 2 回以上出現しています。含まれているパラメーター名は指定されたコマンドには無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを生成したアプリケーションを変更して、このアプリケーションが NameValueString フィールドにパラメーターを 1 回のみ出現させるようにします。

2339 (0923) (RC2339): MQRC_RFH_PARM_MISSING

説明

メッセージに MQRFH 構造体が含まれていますが、NameValueString フィールドに指定されたコマンドには、存在しないパラメーターが必要です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを生成したアプリケーションを変更して、指定されたコマンドに必要なすべてのパラメーターが NameValueString フィールドに配置されるようにします。

2340 (0924) (RC2340): MQRC_CHAR_CONVERSION_ERROR

説明

この理由コードは、必須文字セット変換が利用不能の場合に、Java MQQueueManager コンストラクターによって返されます。必要な変換は、2 つの非 unicode 文字セット間の変換です。

この理由コードは、環境 IBM MQ classes for Java on z/OS で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

z/OS Language Environment の「National Language Resources」コンポーネントがインストールされていること、および IBM-1047 と ISO8859-1 文字セットの間の変換を使用できることを確認してください。

2341 (0925) (RC2341): MQRC_UCS2_CONVERSION_ERROR

説明

この理由コードは、必須文字セット変換が利用不能の場合に、Java MQQueueManager コンストラクターによって返されます。必要な変換は、UTF-16 Unicode 文字セットとキュー・マネージャーの文字セットの間

の変換です。キュー・マネージャーの文字セットは、特定の値が使用できない場合はデフォルトで IBM-500 になります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

関係のある Unicode 変換テーブルが JVM で使用可能であるようにしてください。

z/OS z/OS の場合、Unicode 変換テーブルが z/OS Language Environment で使用可能であるようにしてください。それらの変換テーブルは z/OS C/C++ オプション機能の一部としてインストールされていなければなりません。UTF-16 変換の使用可能化に関する詳細については、「z/OS C/C++ プログラミングの手引き」を参照してください。

z/OS **2342 (0926) (RC2342): MQRC_DB2_NOT_AVAILABLE**

説明

MQOPEN、MQPUT1、または MQSET 呼び出しまたはコマンドが共用キューにアクセスするために発行されましたが、キュー・マネージャーが Db2 サブシステムに接続されていないため、呼び出しが失敗しました。結果として、キュー・マネージャーは共用キューに関連するオブジェクト定義にアクセスできません。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Db2 サブシステムを構成して、キュー・マネージャーから接続できるようにします。

z/OS **2343 (0927) (RC2343): MQRC_OBJECT_NOT_UNIQUE**

説明

キューにアクセスするために MQOPEN または MQPUT1 呼び出しまたはコマンドが発行されましたが、指定されているキューの解決を確定できなかったため、呼び出しは失敗しました。指定された名前の共用キューと、同一の名前の非共用キューが存在します。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューの 1 つを削除しなければなりません。削除するキューにメッセージが含まれている場合、MQSC コマンド MOVE QLOCAL を使用してそのメッセージを別のキューに移動してから、DELETE QLOCAL コマンドを使用してキューを削除します。

z/OS **2344 (0928) (RC2344): MQRC_CONN_TAG_NOT_RELEASED**

説明

接続ハンドルに対して未解決の作業単位があったときに、MQDISC 呼び出しが発行されました。CICS、IMS、および RRS 接続の場合、MQDISC 呼び出しは作業単位をコミットまたはバックアウトしません。結果として、その作業単位に関連した接続タグはまだ再利用のために使用可能ではありません。作業単位の処理が完了した場合にのみ、タグは再利用のために使用可能になります。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

即時に接続タグの再使用を試行しないでください。MQCONNX 呼び出しが同じ接続タグを使用して発行されている場合は、そのタグは使用中のままであり、呼び出しは失敗して理由コード MQRC_CONN_TAG_IN_USE が戻されます。

2345 (0929) (RC2345): MQRC_CF_NOT_AVAILABLE

説明

共用キューにアクセスするために MQI 呼び出しが発行されましたが、キュー定義に指定されたカップリング・ファシリティ (CF) 構造体が割り当てられた CF への接続が失われたか、または CF 構造体の割り当てが失敗した (アクティブ CFRM ポリシーの設定リストに基づいたその構造体を保持するために適した CF がないため) ために、この呼び出しは失敗しました。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体が割り当てられた CF への接続が失われた場合、キュー・マネージャーが失敗を許容し、構造体を再構築するように構成されているなら、必要なアクションはありません。それ以外の場合、CFRM ポリシーに指定されたいずれかの名前を持つカップリング・ファシリティを使用可能にするか、または CFRM ポリシーを変更して使用可能であるカップリング・ファシリティの名前を指定します。

2346 (092A) (RC2346): MQRC_CF_STRUC_IN_USE

説明

共用キューを操作するために MQI 呼び出しまたはコマンドが発行されましたが、キュー定義に指定されたカップリング・ファシリティ構造体が使用不能であるために、呼び出しは失敗しました。カップリング・ファシリティ構造体が使用不能である可能性があるのは、構造体ダンプが進行中であるため、またはこの構造体への新規コネクタが現在使用禁止であるため、またはこの構造体への既存のコネクタが失敗したか異常切断して整理がまだ完了していないためです。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

通常、これは一時的な問題であるため、しばらく待ってから操作を再試行してください。

問題が解決しない場合は、カップリング・ファシリティ内の構造体の回復中に接続の問題が発生した可能性があります。この場合は、エラーを報告したキュー・マネージャーを再始動します。キュー・マネージャーを再始動する前に、カップリング・ファシリティに関連する接続の問題をすべて解決してください。

2347 (092B) (RC2347): MQRC_CF_STRUC_LIST_HDR_IN_USE

説明

共用キューにアクセスするために MQGET、MQOPEN、MQPUT1、または MQSET 呼び出しが発行されましたが、キュー定義に指定されたカップリング・ファシリティ構造体に関連するリスト・ヘッダーが一時的に使用不能であるために、呼び出しは失敗しました。リスト・ヘッダーは、リカバリー処理の途中であるため使用不能です。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

問題は一時的です。しばらく待ってから操作を再試行してください。

2348 (092C) (RC2348): MQRC_CF_STRUC_AUTH_FAILED

説明

共用キューにアクセスするために MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、キュー定義に指定されたカップリング・ファシリティ構造体にアクセスする権限がユーザーにないため、呼び出しは失敗しました。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションによって使用されるユーザー ID のセキュリティー・プロファイルを変更して、キュー定義に指定されたカップリング・ファシリティ構造体にアプリケーションがアクセスできるようにします。

2349 (092D) (RC2349): MQRC_CF_STRUC_ERROR

説明

共用キューにアクセスするために MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、キュー定義に指定されたカップリング・ファシリティ構造体名が CFRM データ・セットで定義されていないか、リスト構造の名前ではないため、この呼び出しは失敗しました。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー定義を変更して、CFRM データ・セットに定義されているカップリング・ファシリティ・リスト構造体の名前を指定します。

z/OS 2350 (092E) (RC2350): MQRC_CONN_TAG_NOT_USABLE

説明

MQCONNX 呼び出しは MQCNO_*_CONN_TAG_* オプションの 1 つを指定して発行されましたが、MQCNO に ConnTag を指定した接続タグがキュー・マネージャーによってリカバリー処理のために使用されているため、およびこのリカバリー処理がカップリング・ファシリティのリカバリーの保留のために遅れているため、呼び出しは失敗しました。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

問題は持続する可能性があります。システム・プログラマーに相談して、問題の原因を特定してください。

Windows z/OS 2351 (092F) (RC2351): MQRC_GLOBAL_UOW_CONFLICT

説明

グローバル作業単位の内部で、他のグローバル作業単位に参加中の接続ハンドルを使用しようとして、異なる DTC トランザクションに関するオブジェクトの間で、アプリケーションが接続ハンドルを渡すと、このことが起こり得ます。トランザクションの完了が非同期であるため、アプリケーションが最初のオブジェクトを完結してそのトランザクションをコミットした後でこのエラーが起きることがあります。

このエラーは、非トランザクション MQI 呼び出しの場合には起こりません。

この理由コードは、Windows および z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトのクラスに定義されている **MTS Transaction Support** 属性が正しく設定されているか確認します。必要な場合には、接続ハンドルが別の作業単位内で実行中のオブジェクトによって使用されないようにアプリケーションを変更してください。

Windows z/OS 2352 (0930) (RC2352): MQRC_LOCAL_UOW_CONFLICT

説明

グローバル作業単位の内部で、キュー・マネージャーが調整するローカル作業単位に参加中の接続ハンドルを使用しようとして、アプリケーションがオブジェクト間で接続ハンドルを渡すとき、一方のオブ

ジェクトが DTC トランザクションに関係しており、他方が関係していないという場合に、このことが起こり得ます。

このエラーは、非トランザクション MQI 呼び出しの場合には起こりません。

この理由コードは、Windows および z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトのクラスに定義されている **MTS Transaction Support** 属性が正しく設定されているか確認します。必要な場合には、接続ハンドルが別の作業単位内で実行中のオブジェクトによって使用されないようにアプリケーションを変更してください。

Windows 2353 (0931) (RC2353): MQRC_HANDLE_IN_USE_FOR_UOW

説明

作業単位の外で、グローバル作業単位に参加中の接続ハンドルを使用しようとしてしました。

アプリケーションがオブジェクト間で接続ハンドルを渡すとき、一方のオブジェクトが DTC トランザクションに関係しており、他方が関係していないという場合に、このエラーが起こり得ます。トランザクションの完了が非同期であるため、アプリケーションが最初のオブジェクトを完結してそのトランザクションをコミットした後でこのエラーが起きることがあり得ます。

トランザクションとともに作成され、またトランザクションに関連付けられた単一オブジェクトが、実行中にその関連を失った場合にも、このエラーが起こり得ます。DTC が MTS とは独立してそのトランザクションを終了したときに、関連が失われます。この終了は、トランザクションがタイムアウトになったか、または DTC がシャットダウンされたためである可能性があります。

このエラーは、非トランザクション MQI 呼び出しの場合には起こりません。

この理由コードは、Windows でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトのクラスに定義されている **MTS Transaction Support** 属性が正しく設定されているか確認します。必要な場合には、別の作業単位内で実行中のオブジェクトが同じ接続ハンドルの使用を試行しないようにアプリケーションを変更してください。

Windows 2354 (0932) (RC2354): MQRC_UOW_ENLISTMENT_ERROR

説明

この理由コードはさまざまな理由で発生する可能性があり、Windows でのみ発生します。

最も可能性の高い理由は、DTC トランザクションによって作成されたオブジェクトが、DTC トランザクションがタイムアウトになるまでトランザクション MQI 呼び出しを発行しないことです。(トランザクションの MQI 呼び出しが発行された後に DTC トランザクションがタイムアウトになっても、MQI 呼び出しの失敗によって理由コード MQRC_HANDLE_IN_USE_FOR_UOW が戻されます。)

MQRC_UOW_ENLISTMENT_ERROR が発生した別の原因は、正しくないインストールです。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Windows Windows の場合は、DTC Transaction timeout 値を確認します。必要に応じて、Windows のインストール順序を確認します。

Windows 2355 (0933) (RC2355): MQRC_UOW_MIX_NOT_SUPPORTED

説明

この理由コードは、IBM WebSphere MQ 5.2 の前にキュー・マネージャーのバージョンを実行しているときに、Windows で発生します。

Windows Windows では、以下の説明が該当することがあります。

- 作業単位内で操作を実行するためにアプリケーションによって使用される呼び出しの混用がサポートされていません。特に、同一プロセス内で、キュー・マネージャーによって調整されているローカル作業単位と、DTC (分散トランザクション・コーディネーター) によって調整されているグローバル作業単位と混用することはできません。
- パッケージの一部のオブジェクトが DTC によって調整されており、その他のオブジェクトがそうではない場合に、アプリケーションによってこの混用が引き起こされる場合があります。また、MTS クライアントからのトランザクション MQI 呼び出しがライブラリー・パッケージ・トランザクション MTS オブジェクトからのトランザクション呼び出しと混用されている場合にも起こり得ます。
- すべてのトランザクション MQI 呼び出しがトランザクション MTS オブジェクトから発生しているか、またはすべてのトランザクション MQI 呼び出しが非トランザクション MTS オブジェクトから発生している場合には、問題は起こりません。しかし、混用スタイルが使用されている場合、最初に使用されるスタイルが作業単位のスタイルを固定し、同じ処理内で続けて他方のスタイルを使用しようとするとう失敗して理由コード MQRC_UOW_MIX_NOT_SUPPORTED が戻されます。
- アプリケーションが 2 度実行されると、オペレーティング・システム内のスケジュール要素としては、一方の実行でキュー・マネージャー調整のトランザクション呼び出しが失敗する可能性があり、他方の実行で DTC 調整のトランザクション呼び出しが失敗する可能性があるということを意味します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Windows Windows の場合は、オブジェクトのクラスに定義されている MTS Transaction Support 属性が正しく設定されているか確認します。必要に応じて、別の作業単位内で実行されるオブジェクトが同じ接続ハンドルの使用を試行しないようにアプリケーションを変更してください。

2356 (0934) (RC2356): MQRC_WXP_ERROR

説明

チェーン内の次のレコードのアドレスを取得するために、クラスター・ワークロード出口から MQXCLWLN 呼び出しが発行されましたが、以下のいずれかの理由により、ワークロード出口パラメーター構造体 ExitParms が無効です。

- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

- StrucId フィールドが MQWXP_STRUC_ID ではありません。
- Version フィールドが MQWXP_VERSION_2 ではありません。
- CacheContext フィールドには、キュー・マネージャーによって出口に渡される値は含まれません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ExitParms に指定するパラメーターが、出口の呼び出し時に出口に渡された MQWXP 構造体であることを確認してください。

2357 (0935) (RC2357): MQRC_CURRENT_RECORD_ERROR

説明

チェーン内の次のレコードのアドレスを取得するために、クラスター・ワークロード出口から MQXCLWLN 呼び出しが発行されましたが、**CurrentRecord** パラメーターによって指定されたアドレスが有効なレコードのアドレスではありません。CurrentRecord はクラスター・キャッシュ内にある宛先レコード (MQWDR)、キュー・レコード (MQWQR)、またはクラスター・レコード (MQWCR) でなければなりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

クラスター・ワークロード出口がクラスター・キャッシュにある有効なレコードのアドレスを渡していることを確認します。

2358 (0936) (RC2358): MQRC_NEXT_OFFSET_ERROR

説明

チェーン内の次のレコードのアドレスを取得するために、クラスター・ワークロード出口から MQXCLWLN 呼び出しが発行されましたが、**NextOffset** パラメーターによって指定されたオフセットが有効ではありません。NextOffset は、以下のフィールドのいずれかの値でなければなりません。

- MQWDR の ChannelDefOffset フィールド
- MQWDR の ClusterRecOffset フィールド
- MQWQR の ClusterRecOffset フィールド
- MQWCR の ClusterRecOffset フィールド

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

NextOffset パラメーターに指定されている値が、リストされているフィールドのいずれかの値であることを確認します。

2359 (0937) (RC2359): MQRC_NO_RECORD_AVAILABLE

説明

チェーン内の次のレコードのアドレスを取得するために、クラスター・ワークロード出口から MQXCLWLN 呼び出しが発行されましたが、現行レコードがチェーン内の最後のレコードです。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

なし。

z/OS 2360 (0938) (RC2360): MQRC_OBJECT_LEVEL_INCOMPATIBLE

説明

MQOPEN 呼び出し、MQPUT1 呼び出し、またはコマンドが発行されましたが、アクセス対象のオブジェクトの定義が、アプリケーションの接続しているキュー・マネージャーと互換性がありません。オブジェクト定義はバージョンの異なるキュー・マネージャーによって作成または変更されました。

アクセス対象のオブジェクトがキューの場合は、互換性のないオブジェクト定義が指定されたオブジェクトであるか、または指定されたオブジェクトの解決に使用されたオブジェクト定義のいずれか (例えば、別名キューが解決される基本キュー、あるいはリモート・キューまたはキュー・マネージャー別名が解決される伝送キュー) である可能性があります。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

このアプリケーションは、オブジェクト定義と互換性のあるキュー・マネージャー上で実行する必要があります。

2361 (0939) (RC2361): MQRC_NEXT_RECORD_ERROR

説明

チェーン内の次のレコードのアドレスを取得するために、クラスター・ワークロード出口から MQXCLWLN 呼び出しが発行されましたが、**NextRecord** パラメーターに指定されたアドレスが、ヌル、無効、あるいは読み取り専用記憶域のアドレスのいずれかです。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

NextRecord パラメーターに対して有効なアドレスを指定してください。

2362 (093A) (RC2362): MQRC_BACKOUT_THRESHOLD_REACHED

説明

この理由コードは、MQDLH 構造体の Reason フィールド、またはレポート・メッセージの MQMD の Feedback フィールドでのみ発行されます。

JMS ConnectionConsumer は、キューのバックアウトしきい値を超えるメッセージを検出しました。キューには、バックアウト・リキュー・キューが定義されていないため、そのメッセージは MQMD の Report フィールドの後処理オプションの指定に従って処理されました。

BackoutThreshold および **BackoutQueueName** キュー属性をサポートしないキュー・マネージャーの場合、JMS ConnectionConsumer はバックアウトしきい値として値 20 を使用します。メッセージの BackoutCount がこのしきい値に達すると、メッセージは後処理オプションの指定に従って処理されません。

Report フィールドで MQRO_EXCEPTION_* オプションのいずれかを指定した場合、この理由コードがレポート・メッセージの Feedback フィールドに表示されます。Report フィールドで MQRO_DEAD_LETTER_Q を指定するか、または後処理レポート・オプションがデフォルトのままになっている場合、この理由コードが MQDLH の Reason フィールドに示されます。

完了コード

なし

プログラマー応答

バックアウト・カウントがしきい値より大きくなる原因を調べます。それを訂正するには、関係するキューのバックアウト・キューを定義してください。

2363 (093B) (RC2363): MQRC_MSG_NOT_MATCHED

説明

この理由コードは、MQDLH 構造体の Reason フィールド、またはレポート・メッセージの MQMD の Feedback フィールドでのみ発行されます。

Point-to-Point メッセージングを実行している間に、JMS は、キューをモニターする ConnectionConsumers のセレクターがないことを示すメッセージを受け取りました。パフォーマンスを維持するため、そのメッセージは MQMD の Report フィールドの後処理オプションの指定に従って処理されました。

Report フィールドで MQRO_EXCEPTION_* オプションのいずれかを指定した場合、この理由コードがレポート・メッセージの Feedback フィールドに表示されます。Report フィールドで MQRO_DEAD_LETTER_Q を指定するか、または後処理レポート・オプションがデフォルトのままになっている場合、この理由コードが MQDLH の Reason フィールドに示されます。

完了コード

なし

プログラマー応答

これを修正するには、キューをモニターする ConnectionConsumers がセレクターの完全なセットを提供していることを確認します。あるいは、メッセージを保つように QueueConnectionFactory を設定します。

2364 (093C) (RC2364): MQRC_JMS_FORMAT_ERROR

説明

この理由コードは、以下のいずれかを使用する JMS アプリケーションによって生成されます。

- ConnectionConsumers
- アクティベーション・スペック
- WebSphere Application Server リスナー・ポート

もう1つの条件として、IBM MQ メッセージング・プロバイダー移行モードを使用して IBM MQ キュー・マネージャーに接続します。

IBM MQ classes for JMS が解析できないメッセージを検出した場合 (例えば、メッセージに無効な RFH2 ヘッダーが含まれる)、メッセージの MQMD 内の Report フィールドの後処理オプションの指定に従ってメッセージが処理されます。

Report フィールドで MQRO_EXCEPTION_* オプションのいずれかを指定した場合、この理由コードがレポート・メッセージの Feedback フィールドに表示されます。Report フィールドで MQRO_DEAD_LETTER_Q を指定するか、または後処理レポート・オプションがデフォルトのままになっている場合、この理由コードが MQDLH の Reason フィールドに示されます。

完了コード

なし

プログラマー応答

メッセージの発信元を調べてください。

2365 (093D) (RC2365): MQRC_SEGMENTS_NOT_SUPPORTED

説明

論理メッセージのセグメントを書き込むために MQPUT 呼び出しが出されましたが、メッセージの入れられるキューの MQIT_GROUP_ID が IndexType になっています。このインデックス・タイプのキューにメッセージ・セグメントを入れることはできません。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションが、セグメントではないメッセージを書き込むように変更します。MQMD の MsgFlags フィールドの MQMF_SEGMENT および MQMF_LAST_SEGMENT フラグが設定されていないこと、および Offset が 0 になっていることを確認します。あるいは、キューのインデックス・タイプを変更します。

2366 (093E) (RC2366): MQRC_WRONG_CF_LEVEL

説明

共用キューを指定した MQOPEN、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、そのキューには別の機能レベルのカプリング・ファシリティ構造体が必要です。

例えば、63 KB を超える長さのメッセージで MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、共有キューは CFLEVEL が 4 未満の IBM MQ CFSTRUCT を使用していました。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キューに使用されるカップリング・ファシリティ構造体が、キューが提供する機能をサポートするのに必要なレベルであることを確認します。

レベルを表示する場合は DISPLAY CFSTRUCT コマンド、レベルを変更する場合は ALTER CFSTRUCT() CFLEVEL() コマンドを使用できます。[MQSC コマンド](#)を参照してください。

2367 (093F) (RC2367): MQRC_CONFIG_CREATE_OBJECT

説明

この状態は、オブジェクトが作成される場合に検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [169 ページ](#)の『[オブジェクトの作成](#)』の識別にのみ使用されます。

2368 (0940) (RC2368): MQRC_CONFIG_CHANGE_OBJECT

説明

この状態は、オブジェクトが変更される場合に検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [136 ページ](#)の『[オブジェクトの変更](#)』の識別にのみ使用されます。

2369 (0941) (RC2369): MQRC_CONFIG_DELETE_OBJECT

説明

この状態は、オブジェクトが削除される場合に検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [180 ページ](#)の『[オブジェクトの削除](#)』の識別にのみ使用されます。

2370 (0942) (RC2370): MQRC_CONFIG_REFRESH_OBJECT

説明

この状態は、オブジェクトが更新される場合に検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [214 ページの『オブジェクトのリフレッシュ』](#)の識別にのみ使用されます。

2371 (0943) (RC2371): MQRC_CHANNEL_SSL_ERROR

説明

この状態は、TLS キー交換または認証の失敗のために接続が確立できない場合に検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [152 ページの『チャンネル SSL エラー』](#)の識別にのみ使用されます。

2373 (0945) (RC2373): MQRC_CF_STRUC_FAILED

説明

共用キューにアクセスするために MQI 呼び出しまたはコマンドが発行されましたが、共用キューで使われるカップリング・ファシリティ構造体が失敗したために、呼び出しは失敗しました。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オペレーターまたは管理者に問題を報告してください。構造体に対して自動回復が有効にされている場合を除き、オペレーターまたは管理者は、MQSC コマンド RECOVER CFSTRUCT を使用することで、カップリング・ファシリティ構造体の回復を開始する必要があります。

2374 (0946) (RC2374): MQRC_API_EXIT_ERROR

説明

API 出口機能が無効な応答コードを戻したか、または他の何らかの理由で失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

出口のロジックを調べ、出口が MQAXP 構造体の ExitResponse フィールドまたは ExitResponse2 フィールドに有効な値を返すことを確認してください。FFST レコードを調べて問題の詳細情報があるか確認してください。

2375 (0947) (RC2375): MQRC_API_EXIT_INIT_ERROR

説明

API 出口機能のための実行環境の初期設定中に、キュー・マネージャーでエラーが発生しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

問題についての詳しい情報を得るために、FFST レコードを調べてください。

2376 (0948) (RC2376): MQRC_API_EXIT_TERM_ERROR

説明

API 出口機能のための実行環境の終了中に、キュー・マネージャーでエラーが発生しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

問題についての詳しい情報を得るために、FFST レコードを調べてください。

2377 (0949) (RC2377): MQRC_EXIT_REASON_ERROR

説明

API 出口機能によって MQXEP 呼び出しが発行されましたが、**ExitReason** パラメーターに指定された値が無効か、または指定された機能 ID Function でサポートされていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Function に指定された値に対して有効な値を ExitReason に指定するよう、出口機能を変更してください。

2378 (094A) (RC2378): MQRC_RESERVED_VALUE_ERROR

説明

API 出口機能によって MQXEP 呼び出しが発行されましたが、**Reserved** パラメーターに指定された値が無効です。値はヌル・ポインターでなければなりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Reserved パラメーターの値としてヌル・ポインターを指定するよう出口を変更してください。

2379 (094B) (RC2379): MQRC_NO_DATA_AVAILABLE

説明

この理由コードは、サービス・コンポーネントの呼び出し側に戻す権限データが存在しない場合に、MQZ_ENUMERATE_AUTHORITY_DATA インストール可能サービス・コンポーネントから戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

なし。

2380 (094C) (RC2380): MQRC_SCO_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しにおいて、MQSCO 構造体が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- *StrucId* フィールドが MQSCO_STRUC_ID でない。
- *Version* フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSCO 構造体の定義を訂正してください。

2381 (094D) (RC2381): MQRC_KEY_REPOSITORY_ERROR

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しにおいて、キー・リポジトリの位置が指定されていないか、無効か、あるいはそれを使用してキー・リポジトリにアクセスするとエラーが発生します。

キー・リポジトリの位置は、次のいずれかによって指定されます。

- クライアント構成ファイルの SSL スタンザ内の **SSLKeyRepository** プロパティの値 (MQCONN または MQCONNX 呼び出し)。または、

- MQSSLKEYR 環境変数 (MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出し)
- MQSCO 構造体の KeyRepository フィールドの値(MQCONNX 呼び出しの場合のみ)。

MQCONNX 呼び出しで MQSSLKEYR と KeyRepository の両方が指定されている場合、後者が使用されます。

V 9.3.0 **V 9.3.0** この理由コードは、鍵リポジトリにアクセスするためのパスフレーズが指定されていないか、正しくないか、または暗号化解除できない場合にも発生することがあります。詳しくは、[IBM MQ MQI client on AIX, Linux, and Windows の鍵リポジトリ・パスワードの提供](#) を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

鍵リポジトリに有効なロケーションが指定されていることを確認してください。

クライアント・エラー・ログで、エラーの原因を示すメッセージを確認してください。

V 9.3.0 **V 9.3.0** エラー・ログに鍵リポジトリ・パスフレーズが正しくないことが示されている場合は、正しい鍵リポジトリ・パスフレーズが指定されていること、または鍵リポジトリ・スタッシュ・ファイルが存在し、アプリケーションを実行しているユーザー ID によって読み取り可能であることを確認してください。

V 9.3.0 **V 9.3.0** 鍵リポジトリ・パスフレーズが暗号化され、パスフレーズの暗号化時に **runmqicred** ユーティリティーに初期鍵が指定された場合は、パスフレーズの暗号化に使用される初期鍵がアプリケーションによって指定されていることを確認してください。

ALW **2382 (094E) (RC2382): MQRC_CRYPTO_HARDWARE_ERROR**

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しにおいて、暗号ハードウェアの構成ストリングが無効か、またはそれを使用して暗号ハードウェアを構成するとエラーが発生します。構成ストリングは、次のいずれかによって指定されます。

- MQSSLCRYP 環境変数 (MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出し)
- MQSCO 構造体の CryptoHardware フィールドの値(MQCONNX 呼び出しの場合のみ)。

MQCONNX 呼び出しで MQSSLCRYP と CryptoHardware の両方が指定されている場合、後者が使用されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

暗号ハードウェアに有効な構成ストリングを指定してください。

ALW **2383 (094F) (RC2383): MQRC_AUTH_INFO_REC_COUNT_ERROR**

説明

MQCONNX 呼び出しにおいて、MQSCO 構造体の AuthInfoRecCount フィールドに、0 より小さい値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

AuthInfoRecCount に、ゼロ以上の値を指定してください。

2384 (0950) (RC2384): MQRC_AUTH_INFO_REC_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しにおいて、MQSCO 構造体に MQAIR レコードのアドレスが正確に指定されていません。次のいずれかが当てはまります。

- AuthInfoRecCount はゼロより大きいですが、AuthInfoRecOffset がゼロであり、AuthInfoRecPtr がヌル・ポインターである。
- AuthInfoRecOffset がゼロではなく、AuthInfoRecPtr がヌル・ポインターでない。
- AuthInfoRecPtr が無効なポインターである。
- AuthInfoRecOffset または AuthInfoRecPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

AuthInfoRecOffset または AuthInfoRecPtr の一方がゼロで、もう一方がゼロ以外の数値になるようにする。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

2385 (0951) (RC2385): MQRC_AIR_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQAIR レコードが無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQAIR_STRUC_ID でない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQAIR レコードの定義を訂正します。

2386 (0952) (RC2386): MQRC_AUTH_INFO_TYPE_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQAIR レコードの *AuthInfoType* フィールドに無効な値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

AuthInfoType に MQAIT_CRL_LDAP を指定してください。

2387 (0953) (RC2387): MQRC_AUTH_INFO_CONN_NAME_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQAIR レコードの *AuthInfoConnName* フィールドに無効な値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な接続名を指定してください。

2388 (0954) (RC2388): MQRC_LDAP_USER_NAME_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQAIR レコードの LDAP ユーザー名が正しく指定されていません。次のいずれかが当てはまります。

- *LDAPUserNameLength* はゼロより大きいですが、*LDAPUserNameOffset* がゼロであり、*LDAPUserNamePtr* がヌル・ポインターである。
- *LDAPUserNameOffset* がゼロではなく、*LDAPUserNamePtr* がヌル・ポインターでない。
- *LDAPUserNamePtr* が無効なポインターである。
- *LDAPUserNameOffset* または *LDAPUserNamePtr* が、アクセス不可能なストレージを指している。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

LDAPUserNameOffset または *LDAPUserNamePtr* の一方がゼロで、もう一方がゼロ以外の数値になるようにする。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

2389 (0955) (RC2389): MQRC_LDAP_USER_NAME_LENGTH_ERR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQAIR レコードの LDAPUserNameLength フィールドにゼロより小さい値が指定されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

LDAPUserNameLength に、ゼロ以上の値を指定してください。

2390 (0956) (RC2390): MQRC_LDAP_PASSWORD_ERROR

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQAIR レコードの LDAPPassword フィールドに値が指定されていますが、このフィールドには値を指定できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ブランクまたはヌルの値を指定してください。

2391 (0957) (RC2391): MQRC_SSL_ALREADY_INITIALIZED

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しが発行されましたが、既にそのキュー・マネージャーには接続されています。以下の 3 つの理由のいずれか 1 つのために、接続の TLS オプション間に競合が発生しています。

- TLS 構成オプションが、最初の接続と 2 番目の接続間で異なっている。
- 既存の接続は TLS 構成オプションなしで指定されていたが、2 番目の接続では TLS 構成オプションが指定された。
- 既存の接続は TLS 構成オプション付きで指定されていたが、2 番目の接続では TLS 構成オプションが指定されなかった。

キュー・マネージャーとの接続は正常に完了しましたが、呼び出しに指定された TLS 構成オプションは無視されました。その代わりに、既存の TLS 環境が使用されました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しで TLS 構成オプションを定義してアプリケーションを実行する必要がある場合は、MQDISC 呼び出しを使用してキュー・マネージャーとの接続を切断し、アプリケーションを終了してください。あるいは、後で TLS 環境が初期設定されていない時点で、アプリケーションを実行してください。

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQCNO 構造体は MQSCO 構造体を正しく指定していません。次のいずれかが当てはまります。

- SSLConfigOffset がゼロではなく、SSLConfigPtr がヌル・ポインターでない。
- SSLConfigPtr が無効なポインターである。
- SSLConfigOffset または SSLConfigPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

SSLConfigOffset または SSLConfigPtr の一方がゼロで、もう一方がゼロ以外の数値になるようにする。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

説明

TLS 構成オプションが指定された MQCONN または MQCONNX 呼び出しが発行されましたが、TLS 環境の初期化中にエラーが発生しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

TLS のインストールが正しいことを確認してください。

詳細については、エラー・ログを調べてください。

説明

MQGET 呼び出しが、次のうちの 1 つ以上のオプションを指定して発行されました。

- MQGMO_ALL_MSGS_AVAILABLE
- MQGMO_ALL_SEGMENTS_AVAILABLE
- MQGMO_COMPLETE_MSG
- MQGMO_LOGICAL_ORDER

しかし、キューがグループ ID によって索引付けされていないため、呼び出しが失敗しました。それらのオプションを使用するには、キューの MQIT_GROUP_ID が **IndexType** でなければなりません。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQIT_GROUP_ID が **IndexType** であるようにキューを再定義してください。または、リストされたオプションを使用しないようにアプリケーションを変更してください。

Multi

2395 (095B) (RC2395): MQRC_CFBS_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFBS 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2396 (095C) (RC2396): MQRC_SSL_NOT_ALLOWED

説明

TLS 暗号化を指定したキュー・マネージャーへの接続が要求されました。しかし、要求された接続モードでは TLS がサポートされていません (バインディング接続など)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

クライアント接続モードが要求されるか、または TLS 暗号化が使用不可になるよう、アプリケーションを変更します。

注: NULL 以外の設定を使用し、ブランクを含めると、接続の暗号化スイートのプロパティがこのエラーを引き起こすおそれもあります。

2397 (095D) (RC2397): MQRC_JSSE_ERROR

説明

JSSE はエラーを報告しました (TLS 暗号化を使用したキュー・マネージャーとの接続中、など)。この理由コードを含む MQException オブジェクトは、JSSE の送出する Exception を参照します。これは、MQException.getCause() メソッドを使用して取得できます。JMS から、MQException はスローされた JMSEException にリンクされます。

この理由コードは、Java アプリケーションの場合のみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

原因となった例外について調べて、JSSE エラーを判別してください。

2398 (095E) (RC2398): MQRC_SSL_PEER_NAME_MISMATCH

説明

アプリケーションは TLS 暗号化を使用してキュー・マネージャーに接続しようとしたましたが、キュー・マネージャーによって示された識別名が、指定されたパターンと一致しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーの識別で使用する証明書を調べてください。また、アプリケーションによって指定されている `sslPeerName` プロパティの値も調べてください。

2399 (095F) (RC2399): MQRC_SSL_PEER_NAME_ERROR

説明

アプリケーションによって指定されたピア名の形式が正しくありませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションによって指定されている `sslPeerName` プロパティの値を調べてください。

2400 (0960) (RC2400): MQRC_UNSUPPORTED_CIPHER_SUITE

説明

TLS 暗号化を指定したキュー・マネージャーへの接続が要求されました。しかし、アプリケーションで指定されている CipherSuite はサポートされていないことが JSSE によって報告されました。

この理由コードは、Java アプリケーションの場合のみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションによって指定されている CipherSuite を調べてください。JSSE CipherSuite の名前は、キュー・マネージャーで使用される同等の CipherSpec とは異なることに注意してください。

また、JSSE が正しくインストールされているかどうかを調べてください。

2401 (0961) (RC2401): MQRC_SSL_CERTIFICATE_REVOKED

説明

TLS 暗号化を指定したキュー・マネージャーへの接続が要求されました。しかし、キュー・マネージャーによって示された証明書は、指定された CertStore の 1 つによって取り消されていました。

この理由コードは、Java アプリケーションの場合のみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーの識別で使用する証明書を調べてください。

2402 (0962) (RC2402): MQRC_SSL_CERT_STORE_ERROR

説明

TLS 暗号化を指定したキュー・マネージャーへの接続が要求されました。しかし、アプリケーションによって提供される CertStore オブジェクトの中から、キュー・マネージャーによって示される証明書を検索することができませんでした。この理由コードを含む MQException オブジェクトは、最初の CertStore の検索時に検出される Exception を参照します。これは、MQException.getCause() メソッドを使用して取得できます。JMS から、MQException はスローされた JMSEException にリンクされます。

この理由コードは、Java アプリケーションの場合のみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

原因となった例外について調べて、元になったエラーを判別してください。アプリケーションによって提供されている CertStore オブジェクトを調べてください。原因となった例外が java.lang.NoSuchElementException である場合、アプリケーションで CertStore オブジェクトの空のコレクションを指定していないことを確認してください。

2406 (0966) (RC2406): MQRC_CLIENT_EXIT_LOAD_ERROR

説明

指定された共用ライブラリーが見つからないか、指定されたエンタリー・ポイントが見つからないため、クライアント接続に必要な外部ユーザー出口をロードできません。

この理由コードは、Java アプリケーション および .NET アプリケーションでのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しいライブラリーが指定されていること、およびマシン環境のパス変数に関連ディレクトリーが指定されていることを確認します。エンタリー・ポイントが正しく指定されていること、および指定されたライブラリーがそれをエクスポートしていることも確認してください。

2407 (0967) (RC2407): MQRC_CLIENT_EXIT_ERROR

説明

クライアント接続のための非 Java ユーザー出口の実行中に障害が発生しました。

この理由コードは、Java 以外の出口を使用する Java アプリケーションでのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

非 Java ユーザー出口が、受け渡されている該当パラメーターおよびメッセージを使用できること、エラー状態を処理できること、および出口に必要な情報(ユーザー・データなど)が正しく、使用可能であることを確認してください。

2409 (0969) (RC2409): MQRC_SSL_KEY_RESET_ERROR

説明

MQCONN または MQCONNX 呼び出しで、TLS キー・リセット・カウンターの値が 0 から 999 999 999 までの有効範囲内がない。

TLS キー・リセット・カウンターの値は、MQSSLRESET 環境変数の値 (MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出し)、あるいは MQSCO 構造体の KeyResetCount フィールドの値 (MQCONNX 呼び出しのみ) のいずれかにより指定されます。MQCONNX 呼び出しで MQSSLRESET と KeyResetCount の両方が指定されている場合、後者が使用されます。MQCONN または MQCONNX

TLS 秘密鍵のリセット・カウン터를 1 バイトから 32 キロバイトの範囲で指定する場合、TLS チャンネルは 32 キロバイトの秘密鍵リセット・カウンターを使用します。これは、TLS 秘密鍵リセット値が小さいと鍵リセットが多くなりすぎてオーバーヘッドが発生するので、それを回避するためです。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドと MQSSLRESET 環境変数が正しく設定されているかどうかを調べてください。

2411 (096B) (RC2411): MQRC_LOGGER_STATUS

説明

ロガー・イベントが発生すると、この状態が検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [185 ページの『ロガー』](#)の識別にのみ使用されます。

2412 (096C) (RC2412): MQRC_COMMAND_MQSC

説明

MQSC コマンドが実行されると、この状態が検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [161 ページの『コマンド』](#)の識別にのみ使用されます。

2413 (096D) (RC2413): MQRC_COMMAND_PCF

説明

PCF コマンドが実行されると、この状態が検出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [161 ページの『コマンド』](#)の識別にのみ使用されます。

2414 (096E) (RC2414): MQRC_CFIF_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFIF 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2415 (096F) (RC2415): MQRC_CFSF_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFSF 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2416 (0970) (RC2416): MQRC_CFGR_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFGR 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2417 (0971) (RC2417): MQRC_MSG_NOT_ALLOWED_IN_GROUP

エラーの説明、完了コード、およびプログラマー応答を示します。

説明

グループへのメッセージの書き込みのために MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、このメッセージをグループに書き込むことは無効です。無効なメッセージの例は、Type が MQCFT_TRACE_ROUTE である PCF メッセージなどです。

パブリッシュ/サブスクライブでは、グループ化されたメッセージやセグメント化されたメッセージは使用できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

グループから無効なメッセージを除去してください。

2418 (0972) (RC2418): MQRC_FILTER_OPERATOR_ERROR

説明

指定された **Operator** パラメーターが無効です。

入力変数である場合、値がいずれかの MQCFOP_* 定数値ではありません。出力変数である場合、パラメーター・ポインターが無効であるか、読み取り専用記憶域を指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2419 (0973) (RC2419): MQRC_NESTED_SELECTOR_ERROR

説明

mqAddBag 呼び出しが発行されましたが、矛盾するセレクターを含むデータ項目が、ネストされるバッグに含まれています。ネスト・バッグが追加されるバッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して作成された場合のみ、この理由コードが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ネストされるバッグ内のすべてのデータ項目が、該当項目により暗黙指定されるデータ・タイプと矛盾しないセレクターを保持していることを確認してください。

2420 (0974) (RC2420): MQRC_EPH_ERROR

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQEPH 構造体が含まれている。エラーとして、次のことが考えられます。

- StrucId フィールドが MQEPH_STRUC_ID でありません。
- Version フィールドが MQEPH_VERSION_1 ではありません。
- StrucLength フィールドに指定されている値が小さすぎて、構造体に可変長データを加えたものを構造体の末尾に含めることができません。
- CodedCharSetId フィールドがゼロであるか、または無効な負の値です。
- Flags フィールドに、MQEPH_* 値の無効な組み合わせが含まれています。
- 呼び出しの **BufferLength** パラメーターの値が小さすぎて構造体を収容できないため、構造体がメッセージの終わりを越えて拡張されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。アプリケーションが CodedCharSetId フィールドに有効な値を設定していることを確認してください。MQCCSI_DEFAULT、MQCCSI_EMBEDDED、MQCCSI_Q_MGR、および MQCCSI_UNDEFINED は、このフィールドには無効です。

2421 (0975) (RC2421): MQRC_RFH_FORMAT_ERROR

説明

メッセージに MQRFH 構造体が含まれていますが、そのフォーマットが無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

IBM MQ 要求メッセージの RFH2 セクションのフォーマットを修正し、再試行してください。

説明

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが出されたが、メッセージ・データに無効な MQCFBF 構造体が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構造体のフィールドが正しく設定されているかどうかを調べてください。

2423 (0977) (RC2423): MQRC_CLIENT_CHANNEL_CONFLICT**説明**

チャンネル名の判別のためのクライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) が指定されましたが、該当の名前は既に定義されています。

この理由コードは、Java アプリケーションの場合のみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

チャンネル名をブランクに変更して再試行してください。

2424 (0978) (RC2424): MQRC_SD_ERROR**説明**

MQSUB 呼び出しで、サブスクリプション記述子が次のいずれかの理由で無効です。

- StrucId フィールドが MQSD_SCTRUC_ID でない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されている。
- パラメーター・ポインターが無効。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSD 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2425 (0979) (RC2425): MQRC_TOPIC_STRING_ERROR

説明

オブジェクト記述子 MQOD 中の MQOPEN または MQPUT1 呼び出し、またはサブスクリプション記述子 MQSD 中の MQSUB 呼び出しで、結果のフル・トピック・ストリングが無効です。

次のいずれかが当てはまります。

- ObjectName には、空のトピック・ストリングが含まれている TOPICSTR 属性を指定した TOPIC オブジェクトの名前が含まれています。
- 完全に解決されたトピック・ストリングにエスケープ文字 '%' が含まれており、後ろに文字 '*'、'?'、または '%' のいずれも続いておらず、MQSUB 呼び出しで MQSO_WILDCARD_CHAR オプションが使用されています。
- MQOPEN では、MQOD 構造体で指定された CCSID を使用して、変換を実行することはできません。
- IBM MQ マルチキャスト・メッセージングを使用しているときは、トピック・ストリングは 255 文字を超えます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectString にも ObjectName にも無効なトピック・ストリング文字が含まれていないことを確認してください。

IBM MQ マルチキャスト・メッセージングを使用している場合、トピック・ストリングが 255 文字未満であることを確認してください。

2426 (097A) (RC2426): MQRC_STS_ERROR

説明

MQSTAT 呼び出しで、MQSTS 構造体が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQSTS_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されている。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSTS 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2428 (097C) (RC2428): MQRC_NO_SUBSCRIPTION

説明

MQSO_RESUME オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われましたが、指定されているフル・サブスクリプション名が既存のどのサブスクリプションとも一致しません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

サブスクリプションが存在していること、およびフル・サブスクリプション名がアプリケーションに正しく指定されていることを確認してください。フル・サブスクリプション名は、接続時に MQCNO 構造体に指定されている ConnTag フィールド、および MQSUB 実行時に MQSD 構造体に指定されている SubName フィールドから作成されます。

2429 (097D) (RC2429): MQRC_SUBSCRIPTION_IN_USE

説明

MQSO_RESUME オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われましたが、指定されているフル・サブスクリプション名が使用中です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションでサブスクリプション名が正しく指定されていることを確認してください。サブスクリプション名は、MQSD 構造体の SubName フィールドで指定されます。

2430 (097E) (RC2430): MQRC_STAT_TYPE_ERROR

説明

STS パラメーターに、MQSTAT 呼び出しには無効なオプションが含まれています。この理由コードは、パラメーター・ポインターが無効な場合にも示されます。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

プログラマー応答

MQSTAT への呼び出しのパラメーターとして、有効な MQSTS 構造体を指定してください。

2431 (097F) (RC2431): MQRC_SUB_USER_DATA_ERROR

説明

サブスクリプション記述子 MQSD の MQSUB 呼び出しで、SubUserData フィールドが無効です。次のいずれかが当てはまります。

- SubUserData.VSLength はゼロより大きいですが、SubUserData.VSOffset がゼロで、SubUserData.VSPtr がヌル・ポインターである。
- SubUserData.VSOffset がゼロでなく、SubUserData.VSPtr がヌル・ポインターではない (つまり、片方しか使用できない場合に両方のフィールドが使用されている可能性がある)。
- SubUserData.VSPtr が無効ポインターである。
- SubUserData.VSOffset または SubUserData.VSPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。
- SubUserData.VSLength が、このフィールドに使用できる最大長を超えている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

SubUserData.VS0ffset または SubUserData.VSPtr の一方がゼロであり、もう一方がゼロでないことを確認します。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。このフィールドに使用できる最大長を超えない長さを指定する。

2432 (0980) (RC2432): MQRC_SUB_ALREADY_EXISTS

説明

サブスクリプションを作成するために MQSO_CREATE オプションを使用して MQSUB 呼び出しが発行されましたが、同じ SubName と ObjectString を使用するサブスクリプションがすでに存在します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSD 構造体の SubName および ObjectString の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。または、MQSO_RESUME オプションを使用して、すでに存在しているサブスクリプションのハンドルを取得してください。

2434 (0982) (RC2434): MQRC_IDENTITY_MISMATCH

説明

MQSO_FIXED_USERID オプションが設定されたサブスクリプションに対して、サブスクリプションの所有者として記録されているユーザー ID 以外のユーザー ID から、MQSO_RESUME または MQSO_ALTER のいずれかを使用する MQSUB 呼び出しが出されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

フル・サブスクリプション名を訂正して固有の名前にするか、既存のサブスクリプションを更新して複数の別のユーザー ID がそのサブスクリプションを使用できるようにしてください。そのためには、所有ユーザー ID の下で実行中のアプリケーションから MQSO_ANY_USERID オプションを使用します。

2435 (0983) (RC2435): MQRC_ALTER_SUB_ERROR

説明

MQSO_IMMUTABLE オプションを指定して作成されたサブスクリプションを、MQSO_ALTER オプションを使用した MQSUB 呼び出しで変更しようとした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE を使用してサブスクリプションを除去し、正しい設定の属性を指定して、MQSUB でサブスクリプションを再作成してください。

2436 (0984) (RC2436): MQRC_DURABILITY_NOT_ALLOWED

説明

MQSO_DURABLE オプションを使用する MQSUB 呼び出しが失敗しました。これは、次のいずれかの理由で起こります。


- サブスクライブ先のトピックが **DURSUB(NO)** として定義されている。
- SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE という名前のキューが使用できない。
- サブスクライブ先のトピックが、**MCAST(ONLY)** と **DURSUB(YES)** の両方として定義されている (または **DURSUB(ASPARENT)** および親が **DURSUB(YES)**)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

永続サブスクリプションは SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE に保管されます。このキューが使用可能であるようにしてください。失敗の理由としては、キューが満杯である、キューが書き込み禁止になっている、キューが存在しない、などが考えられます。

 z/OS では、失敗の別の理由として、キューで使用するよう定義されているページ・セットが存在しないことが考えられます。

サブスクライブ先のトピックが **DURSUB(NO)** として定義されている場合は、**DURSUB(YES)** を使用するように管理トピック・ノードを変更するか、または代わりに MQSO_NON_DURABLE オプションを使用します。

IBM MQ Multicast メッセージングを使用するときに、サブスクライブ先のトピックが **MCAST(ONLY)** として定義されている場合は、**DURSUB(NO)** を使用するようにトピックを変更します。

2437 (0985) (RC2437): MQRC_NO_RETAINED_MSG

説明

トピックに対して MQSUBRQ 呼び出しが行われ、このトピックのすべての保存パブリケーションをサブスクライバーに送信するよう要求されました。しかし、このトピックに関して現在保存されている保存パブリケーションはありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

トピックに対するパブリッシャーのパブリケーションに保存のマークが付けられていること、このトピックに対してパブリケーションが行われていることを確認してください。

2438 (0986) (RC2438): MQRC_SRO_ERROR

説明

MQSUBRQ 呼び出しで、サブスクリプション要求オプション MQSRO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQSRO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSRO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2440 (0988) (RC2440): MQRC_SUB_NAME_ERROR

説明

サブスクリプション記述子 MQSD の MQSUB 呼び出しで、SubName フィールドが無効であるか、または省略されている。このフィールドは、MQSD オプション MQSO_DURABLE を指定した場合は必須であるが、MQSO_DURABLE を指定しない場合にも使用できる。

次のいずれかが当てはまります。

- SubName.VSLength がゼロより大きい、SubName.VSOffset がゼロで、SubName.VSPtr がヌル・ポインターである。
- SubName.VSOffset がゼロでなく、SubName.VSPtr がヌル・ポインターではない(つまり、片方しか使用できない場合に両方のフィールドが使用されている可能性がある)。
- SubName.VSPtr が無効ポインターである。
- SubName.VSOffset または SubName.VSPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。
- SubName.VSLength がゼロであるが、このフィールドは必須である。
- SubName.VSLength が、このフィールドに使用できる最大長を超えている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

SubName を指定し、SubName.VSLength をゼロ以外に必ずする。SubName.VSOffset または SubName.VSPtr の一方をゼロに、他方をゼロ以外に必ずする。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。このフィールドに使用できる最大長を超えない長さを指定する。

このコードは、sd.Options のフラグ MQSO_CREATE および MQSO_RESUME が一緒に設定され、sd.SubName が初期化されていないときに戻される場合がある。再開するサブスクリプションがない場合でも、sd.SubName に対して MQCHARV 構造体を初期化する必要もある。詳細については、[例 2: 管理 MQ サブスクライバー](#)を参照。

2441 (0989) (RC2441): MQRC_OBJECT_STRING_ERROR

説明

オブジェクト記述子 MQOD 中の MQOPEN または MQPUT1 呼び出しか、またはサブスクリプション記述子 MQSD 中の MQSUB 呼び出しで、ObjectString フィールドが無効です。

次のいずれかが当てはまります。

- ObjectString.VSLength はゼロより大きい、ObjectString.VSOffset がゼロで、ObjectString.VSPtr がヌル・ポインターである。
- ObjectString.VSOffset がゼロでなく、ObjectString.VSPtr がヌル・ポインターではない (つまり、片方しか使用できない場合に両方のフィールドが使用されている可能性がある)。
- ObjectString.VSPtr が無効ポインターである。
- ObjectString.VSOffset または ObjectString.VSPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。
- ObjectString.VSLength が、このフィールドに使用できる最大長を超えている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectString.VSOffset または ObjectString.VSPtr の一方をゼロに、他方をゼロ以外に必ずする。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。このフィールドに使用できる最大長を超えない長さを指定する。

2442 (098A) (RC2442): MQRC_PROPERTY_NAME_ERROR

説明

無効な名前を指定してプロパティを設定しようとした。次のいずれかの設定によって、このエラーが発生します。

- 名前に無効文字が含まれている。
- 名前が「JMS」または「usr.JMS」で始まっていて、JMS プロパティが認識されない。
- 名前は、小文字または大文字の任意の組み合わせで「mq」で始まり、「mq_usr」ではなく、複数の「mq」を含んでいます。文字 (U+002E)。複数の「.」文字は、それらの接頭部を持つプロパティでは許可されません。
- メッセージ・プロパティ名において、Unicode 基本多言語面より上の文字 (U+FFFF より上)、つまり UTF-16 の場合にサロゲート・コード・ポイント (X'D800' から X'DFFF' まで) で表わされる文字、または UTF-8 の場合 4 バイトで表わされる文字はサポートされていません。
- 名前が「NULL」、「TRUE」、「FALSE」、「NOT」、「AND」、「OR」、「BETWEEN」、「LIKE」、「IN」、「IS」、「ESCAPE」であるか、または、これらのキーワードのいずれかに「usr」という接頭部が付いたものである。
- 名前が「Body」または「Root」で始まっている (「Root.MQMD.」で始まる名前を除く)。
- A "." 文字の直後に別の「.」を続けることはできません。文字。
- "." 文字をプロパティ名の最後の文字にすることはできません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なプロパティ名については、IBM MQ の資料に記述されています。メッセージのすべてのプロパティを必ず有効な名前にしてから、呼び出しを再発行してください。

2443 (098B) (RC2443): MQRC_SEGMENTATION_NOT_ALLOWED

説明

セグメント化されたメッセージまたはさらに小さいセグメントに分割できるメッセージ (MQMF_SEGMENTATION_ALLOWED) を書き込むために、MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されました。そのメッセージのメッセージ・データに、1つ以上の MQ 定義プロパティが含まれていることが検出されました。MQ 定義プロパティは、セグメント化されたメッセージのメッセージ・データでは無効です。

IBM MQ マルチキャストは、セグメント化されたメッセージを使用できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

無効なプロパティをメッセージ・データから除去するか、メッセージがセグメント化されないようにしてください。

2444 (098C) (RC2444): MQRC_CBD_ERROR

説明

MQCB 呼び出しで、MQCBD 構造体が次のいずれかの理由で無効です。

- StrucId フィールドが MQCBD_STRUC_ID でない。
- Version フィールドに、無効な、またはサポートされていない値が指定されている。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCBD 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2445 (098D) (RC2445): MQRC_CTLO_ERROR

説明

MQCTL 呼び出しで、MQCTLO 構造体が次のいずれかの理由で無効です。

- StrucId フィールドが MQCTLO_STRUC_ID でない。
- Version フィールドに、無効な、またはサポートされていない値が指定されている。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCTLO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2446 (098E) (RC2446): MQRC_NO_CALLBACKS_ACTIVE

説明

MQOP_START_WAIT 操作を指定して MQCTL 呼び出しが行われましたが、現在定義されていて中断状態でないコールバックがないために戻りました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

登録済みの再開されたコンシューマー機能が少なくとも 1 つは存在することを確認してください。

2448 (0990) (RC2448): MQRC_CALLBACK_NOT_REGISTERED

説明

現在登録済みのコールバックがないオブジェクト・ハンドルに対して MQCB 呼び出しを発行しようとした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

コールバックがオブジェクト・ハンドルに対して登録されているようにしてください。

2449 (0991) (RC2449): MQRC_OPERATION_NOT_ALLOWED

説明

MQCTL 呼び出しが行われましたが、そこに指定された操作は、hConn での非同期コンシュームの現在の状態が原因で許可されません。

操作が MQOP_RESUME の場合、hConn の非同期コンシュームの状態が STOPPED であるため、この操作は許可されません。MQOP_START 操作を指定して MQCTL を再発行してください。

操作が MQOP_SUSPEND の場合、hConn の非同期コンシュームの状態が STOPPED であるため、この操作は許可されません。hConn を SUSPENDED 状態にする必要がある場合は、MQOP_START 操作を指定した MQCTL を発行し、続いて MQOP_SUSPEND を指定した MQCTL を発行します。

操作が MQOP_START の場合、hConn の非同期コンシュームの状態が SUSPENDED であるため、この操作は許可されません。MQOP_RESUME 操作を指定して MQCTL を再発行してください。

操作が MQOP_START_WAIT の場合、この操作が許可されない理由は次のいずれかです。

- hConn での非同期コンシュームの状態が SUSPENDED である。MQOP_RESUME 操作を指定して MQCTL を再発行してください。

- hConn での非同期コンシュームの状態がすでに STARTED になっている。1つのアプリケーション内で MQOP_START と MQOP_START_WAIT を混用しないでください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しい操作を指定して MQCTL 呼び出しを再発行してください。

2457 (0999) (RC2457): MQRC_OPTIONS_CHANGED

説明

MQOO_READ_AHEAD を使用して開かれた (またはキューのデフォルト値によりその値に解決された) キュー・ハンドルに対する MQGET 呼び出しによって、複数の MQGET 呼び出し間で一貫している必要があるオプションが変更されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

すべての必須 MQGET オプションを MQGET の呼び出し間で同じになるようにするか、キューを開くときに MQOO_NO_READ_AHEAD を使用してください。詳しくは、[MQGET オプションおよび先読み](#)を参照してください。

2458 (099A) (RC2458): MQRC_READ_AHEAD_MSGS

説明

MQCLOSE 呼び出しで、オプション MQCO_QUIESCE が使用されましたが、要求側アプリケーションより先にクライアントに送信されてアプリケーションでコンシュームされていないメッセージが、クライアントの先読みバッファにまだ保管されています。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

使用可能なメッセージがなくなるまでキュー・ハンドルを使用してメッセージのコンシュームを続けた後に MQCLOSE を再発行するか、あるいは、MQCO_IMMEDIATE オプションを指定した MQCLOSE 呼び出しを発行してそれらのメッセージの廃棄を選択してください。

2459 (099B) (RC2459): MQRC_SELECTOR_SYNTAX_ERROR

説明

MQOPEN、MQPUT1、または MQSUB 呼び出しが発行されましたが、構文エラーを含む選択ストリングが指定されていました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

[メッセージ・セレクター構文](#)を参照して、選択ストリングの指定規則に正しく準拠していることを確認してください。構文エラーを訂正し、エラーが発生した MQ API 呼び出しを再実行依頼してください。

2460 (099C) (RC2460): MQRC_HMSG_ERROR

説明

MQCRTMH、MQDLTMH、MQSETMP、MQINQMP、または MQDLT 呼び出しで、指定されたメッセージ・ハンドルが次のいずれかの理由で無効です。

- パラメーター・ポインターが無効であるか、または (MQCRTMH 呼び出しの場合) 読み取り専用ストレージを指している。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 指定された値が、その前の MQCRTMH 呼び出しによって返されていない。
- 指定された値が、その前の MQDLTMH 呼び出しによって無効になった。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

接続のための MQCRTMH 呼び出しが正常に実行され、まだ MQDLTMH 呼び出しが実行されていないことを確認してください。ハンドルが有効な範囲内で使用されていることを確認してください。詳細については、[MQCRTMH - メッセージ・ハンドルの作成](#)を参照してください。

2461 (099D) (RC2461): MQRC_CMHO_ERROR

説明

MQCRTMH 呼び出しで、メッセージ・ハンドル・オプション作成構造体 MQCMHO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQCMHO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCMHO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2462 (099E) (RC2462): MQRC_DMHO_ERROR

説明

MQDLTMH 呼び出しで、メッセージ・ハンドル・オプション削除構造体 MQDMHO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQCMHO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQDMHO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2463 (099F) (RC2463): MQRC_SMPO_ERROR

説明

MQSETMP 呼び出しで、メッセージ・プロパティ設定オプション構造体 MQSMPO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQSMPO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSMPO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2464 (09A0) (RC2464): MQRC_IMPO_ERROR

説明

MQINQMP 呼び出しで、メッセージ・プロパティ照会オプション構造体 MQIMPO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQIMPO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- 呼び出しが成功であっても、変更された構造体をキュー・マネージャーがアプリケーション・ストレージにコピーすることができない。例えば、ポインターが読み取り専用ストレージを指している場合にこれが発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQIMPO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2465 (09A1) (RC2465): MQRC_PROPERTY_NAME_TOO_BIG

説明

MQINQMP 呼び出しで、IBM MQ が照会対象プロパティの名前を **InqPropOpts** パラメーターの ReturnedName フィールドで示された場所にコピーしようとしたのですが、バッファーが小さすぎて完全なプロパティ名を入れることができませんでした。呼び出しは失敗しましたが、**InqPropOpts** パラメーターの ReturnedName の VSLength フィールドは、ReturnedName バッファーに必要な大きさを示しています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

完全なプロパティ名を取得するには、返される名前のために大容量のバッファーを使用し、MQIMPO_INQ_PROP_UNDER_CURSOR オプションも指定して再び MQINQMP を呼び出します。これにより、同じプロパティについて照会されます。

2466 (09A2) (RC2466): MQRC_PROP_VALUE_NOT_CONVERTED

説明

InqPropOpts パラメーターに MQIMPO_CONVERT_VALUE オプションを指定した MQINQMP 呼び出しが発行されましたが、プロパティの値の変換中にエラーが発生しました。プロパティ値は無変換のまま返され、**InqPropOpts** パラメーターの ReturnedCCSID および ReturnedEncoding フィールドの値が、返された値の該当フィールドに設定されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

プロパティの設定時に指定された **ValueCCSID** および **ValueEncoding** パラメーターに、プロパティ値が正しく記述されているかどうかを調べてください。また、これらの値、および MQINQMP 呼び出しの **InqPropOpts** パラメーターで指定された RequestedCCSID と RequestedEncoding が IBM MQ 変換でサポートされていることも確認してください。必要な変換がサポートされていない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2467 (09A3) (RC2467): MQRC_PROP_TYPE_NOT_SUPPORTED

説明

MQINQMP 呼び出しが発行されましたが、照会対象のプロパティが、サポートされていないデータ・タイプのもので、値のストリング表現が返されているため、**InqPropOpts** パラメーターの **TypeString** フィールドを使用して、プロパティのデータ・タイプを判別できます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

プロパティ値が、**TypeString** フィールドに示されるデータ・タイプであるように意図されていたかどうかを確認してください。意図されていた場合、アプリケーションで値の解釈方法を決定する必要があります。そうでない場合は、プロパティを設定するアプリケーションを変更して、サポートされるデータ・タイプを指定してください。

2469 (09A5) (RC2469): MQRC_PROPERTY_VALUE_TOO_BIG

説明

MQINQMP 呼び出しで、プロパティ値が大きすぎたために、与えられたバッファーに収容できませんでした。 **DataLength** フィールドが切り捨て前のプロパティ値の長さに設定され、**Value** パラメーターには収容できる分の値が入れます。

MQMHBUF 呼び出しで、**BufferLength** がバッファーに収容されるプロパティのサイズより小さくなっていました。この場合は、呼び出しは失敗します。 **DataLength** フィールドは、切り捨て前のプロパティの長さに設定されます。

完了コード

MQCC_WARNING

MQCC_FAILED

プログラマー応答

プロパティ値のデータがすべて必要な場合には少なくとも **DataLength** と同じ大きさのバッファーを指定し、**MQIMPO_INQ_PROP_UNDER_CURSOR** オプションを指定して **MQINQMP** を再び呼び出してください。

2470 (09A6) (RC2470): MQRC_PROP_CONV_NOT_SUPPORTED

説明

MQINQMP 呼び出しで、**MQIMPO_CONVERT_TYPE** オプションが指定され、呼び出しが戻る前にプロパティ値を指定のデータ・タイプに変換することが要求されました。実プロパティと要求されたプロパティの間でのデータ・タイプの変換はサポートされていません。 **Type** パラメーターに、プロパティ値のデータ・タイプが示されています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQIMPO_CONVERT_TYPE を指定せずに MQINQMP を再び呼び出すか、または変換がサポートされているデータ・タイプを要求してください。

2471 (09A7) (RC2471): MQRC_PROPERTY_NOT_AVAILABLE

説明

MQINQMP 呼び出しで、指定された名前に一致するプロパティが見つかりませんでした。複数のプロパティを(多くの場合はワイルドカード文字を含む名前を使用して)繰り返し処理している場合、これは、指定の名前に一致するすべてのプロパティがすでに返されたことを意味します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しいプロパティ名が指定されたことを確認してください。名前にワイルドカード文字が含まれている場合は、MQIMPO_INQ_FIRST オプションを指定して、プロパティの繰り返し処理を再び開始します。

2472 (09A8) (RC2472): MQRC_PROP_NUMBER_FORMAT_ERROR

説明

MQINQMP 呼び出しで、プロパティ値の変換が要求されました。要求されたデータ・タイプに変換するには、プロパティの形式が無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しいプロパティ名とデータ・タイプが指定されたことを確認します。プロパティを設定しているアプリケーションで、プロパティに正しい形式が指定されていることを確認します。プロパティ値のデータ変換に必要な形式については、MQINQMP 呼び出しの資料を参照してください。

2473 (09A9) (RC2473): MQRC_PROPERTY_TYPE_ERROR

説明

MQSETMP 呼び出しで、タイプ・パラメーターに有効な MQTYPE_* 値が指定されていません。「Root.MQMD」で始まるプロパティ用。または "JMS" の場合、指定されたタイプは、一致する MQMD または JMS ヘッダー・フィールドのデータ・タイプに対応している必要があります。

- MQCHARn または Java ストリング・フィールドには MQTYPE_STRING を使用します。
- MQLONG または Java int フィールドには MQTYPE_INT32 を使用します。
- MQBYTEn フィールドには MQTYPE_BYTE_STRING を使用します。
- Java long フィールドには MQTYPE_INT64 を使用します。

MQINQMP 呼び出しで、**Type** パラメーターが無効です。パラメーター・ポインターが無効であるか、値が無効であるか、または読み取り専用ストレージを指しています。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パラメーターを修正してください。

2478 (09AE) (RC2478): MQRC_PROPERTIES_TOO_BIG

説明

キューにメッセージを入れるために MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、メッセージのプロパティーが大きすぎました。プロパティーの長さは、**MaxPropertiesLength** キュー・マネージャー属性の値を超えてはなりません。この戻りコードは、ヘッダーが 511 KB を超えるメッセージが共用キューに書き込まれる場合にも発行されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

次のいずれかの処置を考慮してください。

- メッセージに関連付けられたプロパティーの数またはサイズを減らす。そのために、一部のプロパティーをアプリケーション・データに移動することができます。
- MaxPropertiesLength キュー・マネージャー属性の値を増やしてください。

2479 (09AF) (RC2479): MQRC_PUT_NOT_RETAINED

説明

トピックに関するメッセージをパブリッシュするために MQPMO_RETAIN オプションを指定して MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、パブリケーションを保存できませんでした。一致するどのサブスクライバーにもパブリケーションはパブリッシュされません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

保存パブリケーションは SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE に保管されます。このキューがアプリケーションで使用可能であるようにしてください。失敗の原因として、キューが満杯である、キューが書き込み禁止になっている、またはキューが存在しないことが考えられる。

2480 (09B0) (RC2480): MQRC_ALIAS_TARGTYPE_CHANGED

説明

トピックに関するメッセージをパブリッシュするために MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されました。このトピックに対応するサブスクリプションの1つが、元は1つのキューを参照する別名キューであったが現在はトピック・オブジェクトを参照している宛先キューで行われました。これは許可されません。この状況では、理由コード MQRC_ALIAS_TARGTYPE_CHANGED がレポート・メッセージの MQMD の

Feedback フィールド、または送達不能キューにあるメッセージの MQDLH 構造体の Reason フィールドに返されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

トピック・オブジェクトを参照する別名キューを使用しているサブスクライバーを見つけて、再びキューを参照するようにそのサブスクライバーを変更するか、またはサブスクリプションを変更して別のキューを参照するようにしてください。

2481 (09B1) (RC2481): MQRC_DMPO_ERROR

説明

MQDLTMP 呼び出しで、メッセージ・プロパティ削除オプション構造体 MQDMPO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQDMPO_STRUC_ID でない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQDMPO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2482 (09B2) (RC2482): MQRC_PD_ERROR

説明

MQSETMP または MQINQMP 呼び出しで、プロパティ記述子構造体 MQPD が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQPD_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)
- Context フィールドに認識不能な値が含まれている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQPD 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2483 (09B3) (RC2483): MQRC_CALLBACK_TYPE_ERROR

説明

MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われましたが、CallbackType の値が正しくありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCBDO の CallbackType フィールドが正しく指定されていることを確認してください。

2484 (09B4) (RC2484): MQRC_CBD_OPTIONS_ERROR

説明

MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われましたが、MQCBD の Options フィールドの値が正しくありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Options が正しく指定されていることを確認してください。

2485 (09B5) (RC2485): MQRC_MAX_MSG_LENGTH_ERROR

説明

MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われましたが、MQCBD の MaxMsgLength フィールドの値が正しくありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MaxMsgLength が正しく指定されていることを確認してください。

2486 (09B6) (RC2486): MQRC_CALLBACK_ROUTINE_ERROR

説明

MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われたが、次のいずれかの理由で失敗しました。

- CallbackName と CallbackFunction の両方が指定されている。この呼び出しでは、どちらか1つのみを指定する必要があります。
- 呼び出しが、関数ポインターをサポートしない環境から発行された。
- プログラミング言語が関数ポインター参照をサポートしていない。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

CallbackName 値が正しく指定されていることを確認してください。

2487 (09B7) (RC2487): MQRC_CALLBACK_LINK_ERROR

説明

MQCTL 呼び出しで、コールバック処理モジュール (バッチの場合は CSQBMCSM または CSQBMCSX、CICS の場合は DFHMQMCM) をロードできず、したがってアダプターをそのモジュールにリンクできませんでした。

この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーション・プログラム実行 JCL およびキュー・マネージャー始動 JCL で、正しいライブラリー連結を指定したかどうかを確認してください。作業単位の中でコミットされていない変更はバックアウトされる必要があります。キュー・マネージャーが調整した作業単位は自動的にバックアウトされます。

2488 (09B8) (RC2488): MQRC_OPERATION_ERROR

説明

MQCTL または MQCB 呼び出しで、無効なパラメーターが指定されていた。

Operation パラメーターに指定された値が競合しています。

このエラーは、**Operation** パラメーターに無効値が指定されている場合、MQOP_START パラメーターまたは MQOP_START_WAIT パラメーターの使用時にコンシューマーが登録されていない場合、および非同期 API 呼び出しで非スレッド・ライブラリーの使用を試行した場合に発生することがあります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーション・プログラムを調べ、**Operation** パラメーター・オプションが正しいことを確認してください。非同期関数のために正しいバージョンのスレッド・ライブラリーとアプリケーションがリンク・エディットされていることを確認してください。

2489 (09B9) (RC2489): MQRC_BMHO_ERROR

説明

MQBUFMH 呼び出しで、メッセージ・ハンドル・オプション構造体 MQBMHO に対するバッファーが無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQBMHO_STRUC_ID ではない。

- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQBMHO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2490 (09BA) (RC2490): MQRC_UNSUPPORTED_PROPERTY

説明

キュー・マネージャーがサポートしないプロパティーが含まれているメッセージが検出されました。失敗した操作では、すべてのプロパティーがキュー・マネージャーでサポートされている必要があります。これが発生する可能性があるのは、MQPUT/MQPUT1 呼び出しの場合か、またはメッセージを送信しようとしているチャンネルの接続先のキュー・マネージャーがメッセージ・プロパティーをサポートしていない場合です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージのどのプロパティーがキュー・マネージャーによってサポートされていないのか判別し、そのプロパティーをメッセージから除去するか、またはそのプロパティーをサポートするキュー・マネージャーに接続するか、どちらかに決定してください。

V9.3.0.20 2491 0x000009bb MQRC_MSG_LENGTH_ERROR

説明

メッセージがリモート・キューに書き込まれましたが、合計サイズがキュー・マネージャーで許可されている最大メッセージ長を超える原因となるプロパティーがメッセージに含まれているため、チャンネルは伝送キューからの全メッセージを処理できませんでした。メッセージは送達不能キューに移動されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

可能な場合は、送達不能キュー・ハンドラーを使用して、送達不能キューからのそのようなメッセージを処理します。

送達不能キュー・ハンドラーを構成していない場合は、メッセージを処理するアプリケーションを作成できます。アプリケーションは、オプション MQGMO_PROPERTIES_IN_HANDLE を指定した MQGET を使用して、メッセージ・ハンドル内のプロパティーおよびメッセージ・バッファー内のメッセージ・ペイロードを持つメッセージを取得する必要があります。

2492 (09BC) (RC2492): MQRC_PROP_NAME_NOT_CONVERTED

説明

InqPropOpts パラメーターに指定した MQIMPO_CONVERT_VALUE オプションを使用して MQINQMP 呼び出しが発行されましたが、返されたプロパティ名の変換中にエラーが発生しました。名前は変換されずに返されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

返された名前の文字セットが、プロパティの設定時に正しく記述されていたかどうかを調べてください。また、これらの値、および MQINQMP 呼び出しの **InqPropOpts** パラメーターで指定された RequestedCCSID と RequestedEncoding が IBM MQ 変換でサポートされていることも確認してください。必要な変換がサポートされていない場合には、アプリケーションによって変換を行う必要があります。

2494 (09BE) (RC2494): MQRC_GET_ENABLED

説明

この理由コードは、前に GET が使用禁止になっていたキューが再び GET で使用可能になったときに、非同期コンシューマーに返される。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、アプリケーションにキューの状態変更を通知するために使用されます。

2495 (09BF) (RC2495): MQRC_MODULE_NOT_FOUND

説明

ネイティブ共用ライブラリーをロードできませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

この問題の原因は、次の 2 つのいずれかであると考えられます。

- MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われましたが、指定されている CallbackName が見つかりませんでした。CallbackName 値が正しく指定されていることを確認してください。
- Java IBM MQ コードが Java ネイティブ共用ライブラリーをロードできませんでした。このエラーは、Java アプリケーションが 32 ビット JRE で実行されているときに、64 ビット Java ネイティブ・ライブラリーをロードするように構成されている場合に発生することがあります。関連する例外スタックおよび FFST を確認してください。JNI 共用ライブラリーが正しく指定されていることを確認してください。Java プログラムを起動するときに、-Djava.library.path=/opt/mqm/java/lib またはそれに相当するものを指定したことも確認してください。

関連資料

[IBM MQ classes for JMS アプリケーションに必要な Java Native Interface \(JNI\) ライブラリー](#)

2496 (09C0) (RC2496): MQRC_MODULE_INVALID

説明

MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われましたが、指定されている CallbackName が有効なロード・モジュールではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

CallbackName 値が正しく指定されていることを確認してください。

2497 (09C1) (RC2497): MQRC_MODULE_ENTRY_NOT_FOUND

説明

MQOP_REGISTER 操作を指定して MQCB 呼び出しが行われましたが、CallbackName で識別されている関数名が指定のライブラリーで見つかりません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

CallbackName 値が正しく指定されていることを確認してください。

2498 (09C2) (RC2498): MQRC_MIXED_CONTENT_NOT_ALLOWED

説明

混合内容を指定してプロパティを設定しようとした。例えば、アプリケーションでプロパティ「x.y」を設定し、次にプロパティ「x.y.z」を設定しようとする、プロパティ名の階層の中で「y」に値が含まれるのか別の論理グループなのか明確ではなくなります。このような階層は「混合内容」であり、これはサポートされません。混合内容の原因となるプロパティを設定することは許可されません。プロパティ名内の階層は、「.」を使用して作成されます。文字 (U+002E)。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なプロパティ名については、[プロパティ名](#)に記載されています。混合内容が含まれないようにプロパティ名階層を変更してから、呼び出しを再発行してください。

2499 (09C3) (RC2499): MQRC_MSG_HANDLE_IN_USE

説明

メッセージ・プロパティ呼び出し (MQCRTMH、MQDLTMH、MQSETMP、MQINQMP、MQDLTMP、またはMQMHBUF) が行われましたが、指定されているメッセージ・ハンドルは別の API 呼び出しですでに使用中です。メッセージ・ハンドルは、一度に1つの呼び出しでのみ使用できます。

メッセージ・ハンドルの同時使用は、例えば、アプリケーションが複数のスレッドを使用している場合に起こることがあります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

別の呼び出しの進行中にそのメッセージ・ハンドルを使用できないようにしてください。

2500 (09C4) (RC2500): MQRC_HCONN_ASYNC_ACTIVE

説明

接続の開始中に、MQI 呼び出しを発行しようとした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCTL 呼び出しを使用して接続を停止または中断し、操作を再試行してください。

2501 (09C5) (RC2501): MQRC_MHBO_ERROR

説明

MQMHBUF 呼び出しで、バッファ・オプション構造体 MQMHBO に対するメッセージ・ハンドルが無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQMHBO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQMHBO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2502 (09C6) (RC2502): MQRC_PUBLICATION_FAILURE

説明

トピックに関するメッセージをパブリッシュするために MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されました。サブスクライバーの 1 つに対するパブリケーションの送達が失敗しました。使用された同期点オプションと以下のいずれかとの組み合わせに原因があります。

- 持続メッセージであった場合、管理 TOPIC オブジェクトの PMSGDLV 属性
- 非持続メッセージであった場合、管理 TOPIC オブジェクトの NPMSGDLV 属性

パブリケーションはどのサブスクライバーにも送達されていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

サブスクリプション・キューに問題のあるサブスクライバー (複数の場合もあります) を見つけて問題を解決してください。または、TOPIC の PMSGDLV 属性または NPMSGDLV 属性の設定を変更して、1 つのサブスクライバーの問題が他のサブスクライバーに影響しないようにします。MQPUT を再試行してください。

2503 (09C7) (RC2503): MQRC_SUB_INHIBITED

説明

MQSUB 呼び出しは、サブスクライブ先のトピックについて現在使用禁止になっています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

サブスクリプション要求が短期間禁止される可能性があるシステム設計になっている場合は、後でこの操作を再試行してください。

2504 (09C8) (RC2504): MQRC_SELECTOR_ALWAYS_FALSE

説明

MQOPEN、MQPUT1、または MQSUB 呼び出しが発行されましたが、メッセージの選択を行わない選択ストリングが指定されていました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

API で渡された選択ストリングのロジックが予期したとおりのものかどうか調べてください。ストリングのロジックに必要な訂正を加えて、このメッセージが出た原因となった MQ API 呼び出しを再実行依頼してください。

2507 (09CB) (RC2507): MQRC_XEPO_ERROR

説明

MQXEP 呼び出しで、終了オプション構造体 MQXEPO が無効であり、その理由は次のいずれかです。

- StrucId フィールドが MQXEPO_STRUC_ID ではない。
- Version フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- パラメーター・ポインターが無効である。(無効なパラメーター・ポインターを必ず検出できるわけではありません。検出されなかった場合は予測不可能な結果が発生します。)

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQXEPO 構造体内の入力フィールドが正しく設定されていることを確認してください。

2509 (09CD) (RC2509): MQRC_DURABILITY_NOT_ALTERABLE

説明

MQSO_ALTER オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われ、サブスクリプション耐久性を変更しようとした。サブスクリプション耐久性は変更できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE を使用してサブスクリプションを除去し、正しい設定の属性を指定した MQSUB でそのサブスクリプションを再作成してください。または、MQSUB 呼び出しで使用されている耐久性オプションを、既存のサブスクリプションに一致するように変更してください。

2510 (09CE) (RC2510): MQRC_TOPIC_NOT_ALTERABLE

説明

MQSO_ALTER オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われ、サブスクライブ先のトピックを指定する MQSD の 1 つ以上のフィールドを変更しようとした。これらのフィールドは、ObjectName、ObjectString、またはワイルドカード・オプションです。サブスクライブ先のトピックは変更できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE を使用してサブスクリプションを除去し、正しい設定の属性を指定した MQSUB でそのサブスクリプションを再作成してください。または、MQSUB 呼び出しで使用されている属性とオプションを、既存のサブスクリプションと一致するように変更してください。

2512 (09D0) (RC2512): MQRC_SUBLEVEL_NOT_ALTERABLE

説明

オプション MQSO_ALTER を使用した MQSUB 呼び出しが、サブスクリプションの SubLevel を変更して行われました。サブスクリプションの SubLevel は変更できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE を使用してサブスクリプションを除去し、正しい設定の属性を指定した MQSUB でそのサブスクリプションを再作成してください。または、MQSUB 呼び出しで使用されている SubLevel フィールドを、既存のサブスクリプションに一致するように変更してください。

2513 (09D1) (RC2513): MQRC_PROPERTY_NAME_LENGTH_ERR

説明

無効な名前を指定して、プロパティを設定、照会、または削除しようとした。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- プロパティ名の VSLength フィールドがゼロ以下に設定された。
- プロパティ名の VSLength フィールドが、最大許容値より大きい値に設定された (定数 MQ_MAX_PROPERTY_NAME_LENGTH を参照)。
- プロパティ名の VSLength フィールドが MQVS_NULL_TERMINATED に設定され、プロパティ名が最大許容値より大きかった。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効なプロパティ名については、IBM MQ の資料に記述されています。プロパティに有効な名前長を必ず指定してから、呼び出しを再発行してください。

2514 (09D2) (RC2514): MQRC_DUPLICATE_GROUP_SUB

説明

MQSO_GROUP_SUB オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われ、新規のグループ化サブスクリプションを作成しようとしたが、固有の SubName が指定されているにもかかわらず、グループ内の既存のサブスクリプションのフル・トピック名と一致しています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

使用されているフル・トピック名を、グループ内の既存のサブスクリプションに一致しない名前に訂正してください。あるいは、別のグループが意図されていた場合、またはサブスクリプションのグループ化が意図されていなかった場合は、グループ化属性を訂正してください。

2515 (09D3) (RC2515): MQRC_GROUPING_NOT_ALTERABLE

説明

グループ化サブスクリプションに対して、MQSO_ALTER オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われましたが、そのサブスクリプションには MQSO_GROUP_SUB オプションが指定されていました。サブスクリプションのグループ化は変更できません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCLOSE を使用してサブスクリプションを除去し、正しい設定の属性を使用して MQSUB でそのサブスクリプションを再作成してください。または、MQSUB 呼び出しで使用されている各種のグループ化フィールドを、既存のサブスクリプションに一致するように変更してください。

2516 (09D4) (RC2516): MQRC_SELECTOR_INVALID_FOR_TYPE

説明

SelectionString は、以下の条件が当てはまる場合にのみ、MQOPEN/MQPUT1 の MQOD で指定できます。

- ObjectType が MQOT_Q である。
- MQOO_INPUT_* オープン・オプションの 1 つを使用してキューを開いている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ObjectType の値を MQOT_Q に変更してください。また、MQOO_INPUT_* オプションの 1 つを使用してキューが開かれていることを確認してください。

2517 (09D5) (RC2517): MQRC_HOBJ QUIESCED

説明

HOBJ が静止しましたが、現在の選択基準に一致するメッセージが先読みバッファの中ではありません。この理由コードは、先読みバッファが空ではないことを示しています。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

この理由コードは、現在の選択基準によるすべてのメッセージの処理が終わったことを示しています。次のいずれかを行います。

- これ以上メッセージを処理する必要がない場合は、MQCO_QUIESCE オプションを指定せずに MQCLOSE を発行してください。先読みバッファの中のメッセージはすべて破棄されます。
- MQGMO の中の値を変更して現在の選択基準を緩め、呼び出しを再発行してください。すべてのメッセージがコンシュームされたら、呼び出しから MQRC_HOBJ_QUIESCED_NO_MSGS が返されます。

2518 (09D6) (RC2518): MQRC_HOBJ_QUIESCED_NO_MSGS

説明

HOBJ が静止し、先読みバッファが空になりました。この HOBJ には、もうメッセージは送達されません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

HOBJ に対して MQCLOSE を発行してください。

2519 (09D7) (RC2519): MQRC_SELECTION_STRING_ERROR

説明

SelectionString は、MQCHARV 構造体の使用方法の記述に従って指定する必要があります。このエラーが返された理由の例として、以下のようなものがあります。

- SelectionString.VSLength はゼロより大きいのが、SelectionString.VSOffset がゼロで、SelectionString.VSPtr がヌル・ポインターである。
- SelectionString.VSOffset がゼロでなく、SelectionString.VSPtr がヌル・ポインターではない(つまり、片方しか使用できない場合に両方のフィールドが使用されている可能性がある)。
- SelectionString.VSPtr が無効ポインターである。
- SelectionString.VSOffset または SelectionString.VSPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。
- SelectionString.VSLength が、このフィールドに使用できる最大長を超えている。最大長は MQ_SELECTOR_LENGTH によって決まります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

有効な MQCHARV 構造体の規則に従うように、MQCHARV のフィールドを変更してください。

2520 (09D8) (RC2520): MQRC_RES_OBJECT_STRING_ERROR

説明

オブジェクト記述子 MQOD の中の MQOPEN または MQPUT1 呼び出しか、またはサブスクリプション記述子 MQSD の中の MQSUB 呼び出しで、ResObjectString フィールドが無効です。

次のいずれかが当てはまります。

- ResObjectString.VSLength はゼロより大きい、ResObjectString.VSOffset がゼロで、ResObjectString.VSPtr がヌル・ポインターである。
- ResObjectString.VSOffset がゼロでなく、ResObjectString.VSPtr がヌル・ポインターではない (つまり、片方しか使用できない場合に両方のフィールドが使用されている可能性がある)。
- ResObjectString.VSPtr が無効ポインターである。
- ResObjectString.VSOffset または ResObjectString.VSPtr が、アクセス不可能なストレージを指している。
- ResObjectString.VSBufSize が MQVS_USE_VSLENGTH であり、ResObjectString.VSOffset または ResObjectString.VSPtr のいずれかが指定された。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ResObjectString.VSOffset または ResObjectString.VSPtr の一方がゼロであり、もう一方がゼロでないこと、およびバッファ長が ResObjectString.VSBufSize で指定されていることを確認します。使用しているフィールドがアクセス可能なストレージを指していることを確認します。

2521 (09D9) (RC2521): MQRC_CONNECTION_SUSPENDED

説明

メッセージの非同期コンシュームが中断されたために、MQOP_START_WAIT 操作を指定した MQCTL 呼び出しが戻りました。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- MQOP_SUSPEND 操作を指定した MQCTL を使用して、接続が明示的に中断された。
- すべてのコンシューマーが未登録または中断状態のいずれかになっている。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

これが予期された状態である場合、修正処置は必要ありません。予期しない状態である場合は、下記のことを確認してください。

- 少なくとも 1 つのコンシューマーが登録されていて、中断されていない。
- 接続が中断されていない。

2522 (09DA) (RC2522): MQRC_INVALID_DESTINATION

説明

パブリケーション・メッセージを送信する宛先に問題があったために、MQSUB 呼び出しが失敗しました。したがって、オブジェクト処理をアプリケーションに返すことができず、サブスクリプションは行われません。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- MQSUB 呼び出しで MQSO_CREATE、MQSO_MANAGED、および MQSO_NON_DURABLE が使用されたが、管理トピック・ノード上の MNDURMDL で参照されたモデル・キューが存在していない。
- MQSUB 呼び出しで MQSO_CREATE、MQSO_MANAGED、および MQSO_DURABLE が使用されたが、管理トピック・ノード上の MDURMDL で参照されたモデル・キューが存在していないか、TEMPDYN の DEFTYPE を使用して定義されている。

- MQSUB 呼び出しで永続サブスクリプションに対して MQSO_CREATE または MQSO_ALTER が使用されたが、提供されたオブジェクト処理は一時動的キューを参照した。これは永続サブスクリプションの適切な宛先ではありません。
- 管理目的で作成されたサブスクリプションを再開するために MQSUB 呼び出しで MQSO_RESUME と MQHO_NONE の Hobj が使用されたが、そのサブスクリプションの DEST パラメーターに指定されたキュー名が存在していない。
- 前に作成済みの API サブスクリプションを再開するために MQSUB 呼び出しで MQSO_RESUME と MQHO_NONE の Hobj が使用されたが、前に使用されたキューがもう存在していない。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MNDURMDL および MDURMDL で参照されているモデル・キューが存在し、適切な DEFTYPE があることを確認します。管理サブスクリプションで DEST パラメーターを使用している場合、DEST パラメーターで参照するキューを作成します。前に使用されたキューが存在しない場合は、既存のキューを使用するようにサブスクリプションを変更します。

2523 (09DB) (RC2523): MQRC_INVALID_SUBSCRIPTION

説明

MQSO_RESUME または MQSO_ALTER を使用した MQSUB 呼び出しは、指定されたサブスクリプションがアプリケーションで使用するには無効なものであったため、失敗しました。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- サブスクリプションが SYSTEM.DEFAULT.SUB サブスクリプションである。これは有効なサブスクリプションではなく、**DEFINE SUB** コマンドにデフォルト値を入力する場合にのみ使用されます。
- サブスクリプションがプロキシ・タイプ・サブスクリプションである。これは、アプリケーションが再開できる有効なサブスクリプションではなく、キュー・マネージャー間でパブリケーションを転送できるようにする場合にのみ使用されます。
- サブスクリプションの有効期限が切れたため、もう無効になっていて使用できない。
- サブスクリプションは JMS 2.0 共有サブスクリプションであり、これは、JMS 2.0 以外のアプリケーションの再開または変更のための有効なサブスクリプションではありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

SubName フィールドに指定されたサブスクリプションが、リストした無効なものではないようにします。サブスクリプションに対して開かれたハンドルがある場合、そのハンドルの有効期限がすでに切れています。MQCLOSE を使用してハンドルを閉じ、必要な場合には新規サブスクリプションを作成してください。

2524 (09DC) (RC2524): MQRC_SELECTOR_NOT_ALTERABLE

説明

MQSO_ALTER オプションを使用して MQSUB 呼び出しが行われましたが、MQSD に SelectionString が含まれていました。サブスクリプションの SelectionString を変更することは無効です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQSUB を呼び出すときに、MQSD の SelectionString フィールドに有効な VSPtr が含まれていないこと、および VSLength がゼロに設定されていることを確認してください。

2525 (09DD) (RC2525): MQRC_RETAINED_MSG_Q_ERROR

説明

サブスクライブするトピック・ストリング用に存在していた保存パブリケーションを SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE から取り出せなかったために、MQSO_NEW_PUBLICATIONS_ONLY オプションを使用しない MQSUB 呼び出しが、または MQSUBRQ 呼び出しが失敗しました。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- キューが損傷したか、または削除された。
- キューが GET(DISABLED) に設定された。
- メッセージがこのキューから直接除去された。

エラー・メッセージがログに書き込まれ、そこに SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE の問題に関するさらに詳しい情報が示されています。

この戻りコードが MQSUB 呼び出しで発生した場合は、発生するのは MQSO_CREATE オプションを使用した場合のみであり、この場合はサブスクリプションは作成されません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

これが MQSUB 呼び出しで発生した場合は、MQSO_NEW_PUBLICATIONS_ONLY オプションを使用した MQSUB 呼び出しを再発行してください (このオプションは、それまでに保存されたパブリケーションがこのサブスクリプションに送信されないことを意味します)。または、SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE を修正してそこからメッセージを取り出せるようにし、MQSUB 呼び出しを再発行してください。

これが MQSUBRQ 呼び出しで発生した場合は、SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE を修正してそこからメッセージを取り出せるようにし、MQSUBRQ 呼び出しを再発行してください。

2526 (09DE) (RC2526): MQRC_RETAINED_NOT_DELIVERED

説明

MQSO_NEW_PUBLICATIONS_ONLY オプションを使用しない MQSUB 呼び出し、または MQSUBRQ 呼び出しが失敗しました。サブスクライブするトピック・ストリング用に存在している保存パブリケーションをサブスクリプション宛先キューに送信できず、結果的に送達不能キューに送信できなかったためです。

この戻りコードが MQSUB 呼び出しで発生した場合は、発生するのは MQSO_CREATE オプションを使用した場合のみであり、この場合はサブスクリプションは作成されません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

宛先キューおよび送達不能キューの問題を修正して、MQSUB または MQSUBRQ 呼び出しを再発行してください。

2527 (09DF) (RC2527): MQRC_RFH_RESTRICTED_FORMAT_ERR

説明

制限付きフォーマットのフォルダーが組み込まれた MQRFH2 ヘッダーを含むメッセージがキューに書き込まれました。しかし、フォルダーが、要求されたフォーマットではありませんでした。これらの制限は次のとおりです。

- フォルダーの NameValueCCSID が 1208 の場合、フォルダー、グループ、またはエレメントの名前は、1 バイトの UTF-8 文字のみを使用できる。
- フォルダー内ではグループは使用できない。
- プロパティの値には、エスケープが必要な文字を含めることはできない。
- フォルダー内では、空白文字として処理されるのはユニコード文字 U+0020 のみである。
- フォルダー・タグには、内容属性を含めない。
- フォルダーには、ヌル値のプロパティを含めてはならない。

mq フォルダーには、この制限形式のフォーマットが必要です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

メッセージを変更して、有効な MQRFH2 フォルダーを指定してください。

2528 (09E0) (RC2528): MQRC_CONNECTION_STOPPED

説明

メッセージの非同期コンシュームを開始するために MQCTL 呼び出しが発行されましたが、接続は、メッセージのコンシューム準備ができる前に、メッセージ・コンシューマーのいずれかによって停止されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

これが予期された状態である場合、修正処置は必要ありません。予期しない状況の場合は、MQCBCT_START コールバック機能の実行中に MQOP_STOP 操作を指定した MQCTL が発行されたかどうかを調べてください。

2529 (09E1) (RC2529): MQRC_ASYNC_UOW_CONFLICT

説明

メッセージの非同期コンシュームを開始するために MQOP_START 操作を指定して MQCTL 呼び出しが発行されましたが、使用された接続ハンドルにはすでに未解決のグローバル作業単位があります。作業単位が

存在している間は、MQOP_START_WAIT 操作を使用していない限り、MQCTL を使用してメッセージの非同期コンシュームを開始することはできません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

接続ハンドルに対して MQCMIT を発行して作業単位をコミットした後で、MQCTL 呼び出しを再発行してください。または、非同期コンシューム・コールバック関数内から作業単位を使用するために、MQOP_START_WAIT 操作を使用して MQCTL 呼び出しを発行してください。

2530 (09E2) (RC2530): MQRC_ASYNC_XA_CONFLICT

説明

メッセージの非同期コンシュームを開始するために MQOP_START 操作を指定した MQCTL 呼び出しが発行されましたが、外部 XA 同期点コーディネーターがすでにこの接続ハンドルに対する xa_open 呼び出しを発行していました。XA トランザクションは、MQOP_START_WAIT 操作を使用して実行する必要があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQOP_START_WAIT を使用して MQCTL 呼び出しを再発行してください。

2531 (09E3) (RC2531): MQRC_PUBSUB_INHIBITED

説明


すべてのパブリッシュ/サブスクライブのトピックについて、MQSUB、MQOPEN、MQPUT、および MQPUT1 呼び出しの使用が現在禁止されています。これは、キュー・マネージャー属性 PSMODE によって禁止されているか、キュー・マネージャーの開始時にパブリッシュ/サブスクライブ状態の処理が失敗したか、またはその処理がまだ完了していないことが原因です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

このキュー・マネージャーが意図的にパブリッシュ/サブスクライブの使用を禁止していない場合は、キュー・マネージャー開始時の障害を説明するエラー・メッセージがないか調べるか、または開始処理が完了するまで待ってください。キュー・マネージャーがクラスターのメンバーである場合、チャンネル・イニシエーターも開始されるまで、始動は完了しません。

 z/OS では、SYSTEM.BROKER.DEFAULT.STREAM キューまたはトピックの場合、Chinit は作業の処理でビジー状態になり、pubsub タスクは後で開始されます。DISPLAY PUBSUB コマンドを使用して、パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンの状況を調べて使用準備ができているかどうかを確認します。また、z/OS では、情報メッセージ CSQM076I を受け取る場合があります。

2532 (09E4) (RC2532): MQRC_MSG_HANDLE_COPY_FAILURE

説明

メッセージのプロパティを取り出すための有効な `MsgHandle` を指定した `MQGET` 呼び出しが発行されました。キューからメッセージが除去された後で、アプリケーションは、メッセージのプロパティ用に十分なストレージを割り振ることができませんでした。メッセージ・データはアプリケーションで使用できますが、プロパティは使用できません。必要なストレージ量の詳細についてキュー・マネージャーのエラー・ログを調べてください。

完了コード

`MQCC_WARNING`

プログラマー応答

アプリケーションのメモリー限度を大きくして、プロパティを保管できるようにします。

2533 (09E5) (RC2533): MQRC_DEST_CLASS_NOT_ALTERABLE

説明

`MQSO ALTER` オプションを使用して `MQSUB` 呼び出しが行われ、サブスクリプションの `MQSO_MANAGED` オプションの指定を変更しようとしていました。サブスクリプションの宛先クラスは変更できません。`MQSO_MANAGED` オプションを使用していない場合は、指定されたキューを変更できますが、宛先のクラスは(管理対象であってもなくても)変更することができません。

完了コード

`MQCC_FAILED`

プログラマー応答

`MQCLOSE` を使用してサブスクリプションを除去し、正しい設定の属性を使用して `MQSUB` でそのサブスクリプションを再作成してください。または、`MQSUB` 呼び出しで使用されている `MQSO_MANAGED` オプションの指定を、既存のサブスクリプションと一致するように変更してください。

2534 (09E6) (RC2534): MQRC_OPERATION_NOT_ALLOWED

説明

`MQCTL` 呼び出しが行われましたが、そこに指定された操作は、`hConn` での非同期コンシュームの現在の状態が原因で許可されません。

操作が `MQOP_RESUME` の場合、`hConn` の非同期コンシュームの状態が `STOPPED` であるため、この操作は許可されません。`MQOP_START` 操作を指定して `MQCTL` を再発行してください。

操作が `MQOP_SUSPEND` の場合、`hConn` の非同期コンシュームの状態が `STOPPED` であるため、この操作は許可されません。`hConn` を `SUSPENDED` 状態にする必要がある場合は、`MQOP_START` 操作を指定した `MQCTL` を発行し、続いて `MQOP_SUSPEND` を指定した `MQCTL` を発行します。

操作が `MQOP_START` の場合、`hConn` の非同期コンシュームの状態が `SUSPENDED` であるため、この操作は許可されません。`MQOP_RESUME` 操作を指定して `MQCTL` を再発行してください。

操作が `MQOP_START_WAIT` の場合、この操作が許可されない理由は次のいずれかです。

- `hConn` での非同期コンシュームの状態が `SUSPENDED` である。`MQOP_RESUME` 操作を指定して `MQCTL` を再発行してください。
- `hConn` での非同期コンシュームの状態がすでに `STARTED` になっている。1つのアプリケーション内で `MQOP_START` と `MQOP_START_WAIT` を混用しないでください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

正しい操作を指定して MQCTL 呼び出しを再発行してください。

2535 (09E7): MQRC_ACTION_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しが発行されましたが、**PutMsgOpts** パラメーターの Action フィールドの値が有効な MQACTP_* 値ではありませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

フィールドに有効な値を指定してください。

2537 (09E9) (RC2537): MQRC_CHANNEL_NOT_AVAILABLE

説明

キュー・マネージャーに接続するためにクライアントから MQCONN 呼び出しが発行されましたが、チャンネルは現在使用できません。この理由コードの一般的な原因は次のとおりです。

- チャンネルが現在停止状態になっている。
- チャンネルがチャンネル出口により停止された。
- キュー・マネージャーが、このクライアントからこのチャンネルへの接続の許容最大限度に達した。
- キュー・マネージャーが、このチャンネルの最大許容限度に達した。
- キュー・マネージャーが、すべてのチャンネルについての最大許容限度に達した。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーとクライアントのエラー・ログで、問題の原因を説明するメッセージを調べてください。

この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [150 ページ](#)の『[チャンネルが使用不可](#)』の識別にも使用されます。

2538 (09EA) (RC2538): MQRC_HOST_NOT_AVAILABLE

説明

キュー・マネージャーに接続するためにクライアントから MQCONN 呼び出しが発行されましたが、リモート・システムへの会話を割り振る試みが失敗しました。この理由コードの一般的な原因は次のとおりです。

- リモート・システムでリスナーが開始されていない。

- クライアント・チャンネル定義の中の接続名が正しくない。
- ネットワークが現在使用できない。
- ファイアウォールがポートまたはプロトコル固有のトラフィックをブロックしている。
- IBM MQ クライアントを初期化しているセキュリティー呼び出しが、サーバーの SVRCONN チャンネルのセキュリティー出口でブロックされている。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

クライアントのエラー・ログで、問題の原因を説明するメッセージを調べてください。

Linux Linux サーバーを使用していて、キュー・マネージャーへの接続試行時に 2538 戻りコードを受け取る場合、内部ファイアウォール構成を確認してください。

- この問題を診断するには、次のコマンドを発行して、内部 Linux ファイアウォールを一時的にオフにします。

```
/etc/init.d/iptables save  
/etc/init.d/iptables stop
```

- 内部 Linux ファイアウォールをもう一度オンにするには、次のコマンドを発行します。

```
/etc/init.d/iptables start
```

- 内部 Linux ファイアウォールを永続的にオフにするには、次のコマンドを発行します。

```
chkconfig iptables off
```

2539 (09EB) (RC2539): MQRC_CHANNEL_CONFIG_ERROR

説明

キュー・マネージャーに接続するためにクライアントから MQCONN 呼び出しが発行されましたが、通信を確立する試みが失敗しました。この理由コードの一般的な原因は次のとおりです。

- サーバーとクライアントが、使用するチャンネル属性について合意できなかった。
- qm.ini 構成ファイルまたは mqclient.ini 構成ファイルのいずれかまたは両方にエラーがあります。
- クライアントが使用しているコード・ページをサーバー・マシンがサポートしていない。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーとクライアントのエラー・ログで、問題の原因を説明するメッセージを調べてください。

2540 (09EC) (RC2540): MQRC_UNKNOWN_CHANNEL_NAME

説明

キュー・マネージャーに接続するためにクライアントから MQCONN 呼び出しが発行されましたが、キュー・マネージャーがチャンネル名を認識しなかったために、通信を確立する試みが失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

クライアントが正しいチャンネル名を使用するように構成されていることを確認してください。

2541 (09ED) (RC2541): MQRC_LOOPING_PUBLICATION

説明

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターとパブリッシュ/サブスクライブ階層を組み合わせて、分散パブリッシュ/サブスクライブ・トポロジーが構成されたため、一部またはすべてのキュー・マネージャーがループ状に接続されました。ループするパブリケーションが検出され、送達不能キューに入れられました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

階層を調べて、ループを修正してください。

2543 (09EF) (RC2543): MQRC_STANDBY_Q_MGR

説明

アプリケーションが、スタンバイ・キュー・マネージャーのインスタンスに接続しようとしていました。

スタンバイ・キュー・マネージャーのインスタンスは接続を受け入れません。キュー・マネージャーに接続するには、アクティブなインスタンスに接続する必要があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションをアクティブなキュー・マネージャーのインスタンスに接続してください。

2544 (09F0) (RC2544): MQRC_RECONNECTING

説明

接続が再接続を開始しました。

イベント・ハンドラーが接続の再接続に登録されている場合に、再接続の試みが開始されると、この理由コードでそのイベント・ハンドラーが呼び出されます。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

IBM MQ で引き続き次の再接続を試行するか、再接続の前に間隔を変更するか、または再接続を停止します。再接続に依存するアプリケーション状態を変更してください。

注: アプリケーションが MQI を呼び出しているときに、再接続が開始する可能性があります。

2545 (09F1) (RC2545): MQRC_RECONNECTED

説明

接続の再接続が正常に終了し、すべてのハンドルが復元されます。

再接続が正常に行われた場合、接続に登録されているイベント・ハンドラーはこの理由コードで呼び出されます。

完了コード

MQCC_OK

プログラマー応答

再接続に依存するアプリケーション状態を設定してください。

注: アプリケーションが MQI を呼び出しているときに、再接続が終了する可能性があります。

2546 (09F2) (RC2546): MQRC_RECONNECT_QMID_MISMATCH

説明

再接続可能な接続で MQCNO_RECONNECT_Q_MGR が指定されているときに、接続が別のキュー・マネージャーに再接続しようとしてしました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

再接続可能クライアントの構成が、単一のキュー・マネージャーに解決されることを確認します。

アプリケーションが、まったく同じキュー・マネージャーへの再接続を必要としない場合は、MQCONNX オプション MQCNO_RECONNECT を使用してください。

2547 (09F3) (RC2547): MQRC_RECONNECT_INCOMPATIBLE

説明

再接続可能な接続と両立しない MQI オプションがあります。

このエラーは、そのオプションが、再接続時に失われるキュー・マネージャー内の情報に依存していることを示しています。例えば、オプション MQPMO_LOGICAL_ORDER を指定した場合、キュー・マネージャーは、論理メッセージの順序付けに関する情報を記憶している必要がありますが、その情報は再接続時に失われます。

この理由は、以下の条件で、オープンされているオブジェクトがクラスター・キューであるときの MQOPEN にも該当します。すなわち、オープン・オプションに MQOO_BIND_ON_OPEN (またはその値に相当するキューのデフォルト・バインド・オプション) が含まれ、キュー・マネージャーへの接続が MQCNO_RECONNECT オプションを使用して作成され、キュー・マネージャーが均一クラスターに含まれている場合です。

V 9.3.4 再接続オプションが指定されている場合、認証トークンを使用して IBM MQ に接続することはできません。アプリケーションが認証トークンを提供し、MQCNO 構造体に MQCNO_RECONNECT または MQCNO_RECONNECT_Q_MGR オプションを指定すると、接続は失敗し、この理由コードがアプリケーションに戻されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションを変更して両立しないオプションを除去するか、またはアプリケーションを再接続可能にしないでください。

2548 (09F4) (RC2548): MQRC_RECONNECT_FAILED

説明

再接続の後、再接続可能な接続のハンドルを復元する際にエラーが発生しました。

例えば、キューを再オープンしようとしても、接続が切断されたときにそのキューがオープンされていると、再オープンは失敗します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エラー・ログでエラーの原因を調べてください。MQSTAT API を使用して、障害をさらに詳しく調べたことを検討してください。

2549 (09F5) (RC2549): MQRC_CALL_INTERRUPTED

説明

MQPUT、MQPUT1、または MQCMIT が中断され、再接続の処理で確定結果を再確立することができません。

この理由コードは、キュー・マネージャーへの要求の送信と応答の受信の間に接続が切断された場合、および結果が不明確な場合に、再接続可能な接続を使用しているクライアントに戻されます。例えば、同期点の外側で中断されたメッセージの MQPUT には、メッセージが保管されている場合と保管されていない場合があります。あるいは、同期点の外側で中断されたメッセージの MQPUT1 によって、メッセージが保管されている場合と保管されていない場合があります。エラーのタイミングによって、メッセージがキューに残るかどうかが変わります。MQCMIT が中断された場合、トランザクションはコミットされている場合とされていない場合があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

再接続後に呼び出しを繰り返しますが、呼び出しの繰り返しは誤解を招く場合もあるため、注意が必要です。

リカバリー処理が適切かどうかは、アプリケーション設計によって決まります。多くの場合、同期点内でメッセージを取得および書き込みすると、不確定な結果が解決されます。メッセージを同期点の外部で処理する必要がある場合は、中断された操作が中断前に成功したかどうかを確認し、成功しなかった場合はその操作を繰り返すことが必要な場合があります。

2550 (09F6) (RC2550): MQRC_NO_SUBS_MATCHED

説明

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しは成功しましたが、トピックに一致するサブスクリプションがありませんでした。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

この理由コードが、メッセージを書き込んだアプリケーションが予期していたコードの場合、応答は不要です。

2551 (09F7) (RC2551): MQRC_SELECTION_NOT_AVAILABLE

説明

MQSUB 呼び出しは `SelectionString` を使用してパブリケーションにサブスクライブしました。選択ストリングの指定規則に準拠していないため、IBM MQ はその呼び出しを受け入れることができません (この規則については、[メッセージ・セレクター構文](#)を参照してください)。選択ストリングは拡張メッセージ選択プロバイダーでは受け入れられる可能性があります、選択ストリングを評価する場合に拡張メッセージ選択プロバイダーを使用できませんでした。サブスクリプションが作成中の場合、MQSUB は失敗します。それ以外の場合は、警告を発行して MQSUB は完了します。

MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しでメッセージがパブリッシュされ、少なくとも 1 つのサブスクライバーがコンテンツ・フィルターを有していましたが、パブリケーションをサブスクライバーに送達する必要があるかどうかを IBM MQ が判断できませんでした (例えば、選択ストリングを検証するために拡張メッセージ選択プロバイダーを使用できなかったなどの理由で)。MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しは失敗して MQRC_SELECTION_NOT_AVAILABLE が返され、サブスクライバーはパブリケーションを受け取れません。

完了コード

MQCC_WARNING または MQCC_FAILED

プログラマー応答

選択ストリングを拡張メッセージ選択プロバイダーによって処理する予定だった場合は、拡張メッセージ選択プロバイダーが正しく構成され、稼働していることを確認してください。拡張メッセージ選択を使用する予定ではなかった場合は、[メッセージ・セレクター構文](#)を参照し、選択ストリングの指定規則に正しく準拠していることを確認してください。

管理上定義されたサブスクリプション・セレクターが拡張メッセージ構文を使用している場合、これは値 EXTENDED を持つ **DISPLAY SUB** パラメーター **SELTYPE** によって示されます。以下のコマンドを使用し

て、拡張メッセージ・セレクターとして解釈されている管理上定義されたサブスクリイバーを識別できません。

```
DISPLAY SUB(*) WHERE(SELTYPE EQ EXTENDED)
```

サブスクリプションが再開された場合は、拡張メッセージ選択プロバイダーが使用可能になるまで、さらにメッセージが再開したサブスクリプションの SelectionString と一致するまで、サブスクリプションにメッセージは送達されません。

2552 (09F8) (RC2552): MQRC_CHANNEL_SSL_WARNING

説明

TLS セキュリティー・イベントが発生しました。これは、TLS 接続では致命的ではありませんが、管理者の注意が必要になる可能性があります。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [154 ページ](#)の『[チャンネル SSL 警告](#)』の識別にのみ使用されます。

2553 (09F9) (RC2553): MQRC_OCSP_URL_ERROR

説明

OCSPResponderURL フィールド内の HTTP URL の形式が正しくありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

OCSPResponderURL を確認し、修正してください。OCSP 応答側プログラムにアクセスする予定がない場合は、認証情報オブジェクトの **AuthInfoType** を MQAIT_CRL_LDAP に設定してください。

2554 (09FA) (RC2554): MQRC_CONTENT_ERROR

説明

理由コード 2554 には、以下の 2 つの説明があります。

1. メッセージで MQPUT 呼び出しが発行されましたが、内容を解析できず、そのメッセージを拡張メッセージ・セレクターを使用してサブスクリイバーに送達する必要があるかどうかを判別できませんでした。サブスクリイバーはパブリケーションを受け取りません。
2. メッセージの内容を選択する選択ストリングが指定されている場合、MQSUB および MQSUBRQ から MQRC_CONTENT_ERROR が返される場合があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

原因が2つあるため、理由コード 2554 に対するプログラマー応答は2つあります。

1. 理由コード 2554 が理由 [1323 ページの『1』](#) のために発行された場合、拡張メッセージ選択プロバイダーからのエラー・メッセージを確認して、操作を再試行する前にメッセージの内容が正しい形式であることを確認してください。
2. 理由コード 2554 が理由 [1323 ページの『2』](#) のために発行された場合、保存メッセージがパブリッシュされた時点でエラーが発生するので、システム管理者が保存キューをクリアする必要があります。クリアされないと、内容を選択する選択ストリングを指定できません。

2555 (09FB) (RC2555): MQRC_RECONNECT_Q_MGR_REQD

説明

MQCNO_RECONNECT_Q_MGR オプションは必須です。

MQGET 呼び出しの MQMO_MATCH_MSG_TOKEN や永続サブスクリプションをオープンするなどのオプションがクライアント・プログラムで指定され、同じキュー・マネージャーへの再接続が必要です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCNO_RECONNECT_Q_MGR を使用するよう MQCONNX 呼び出しを変更するか、競合するオプションを使用しないようにクライアント・プログラムを変更してください。

2556 (09FC) (RC2556): MQRC_RECONNECT_TIMED_OUT

説明

再接続の試行がタイムアウトになりました。

接続が再接続するように構成されている場合、MQI verb で障害が発生することがあります。MQClient.ini ファイル内のタイムアウトをカスタマイズできます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

エラー・ログで、再接続が時間制限内に完了しなかった理由を調べてください。

Multi

2557 (09FD) (RC2557): MQRC_PUBLISH_EXIT_ERROR

説明

パブリッシュ出口機能が無効な応答コードを返したか、または他の何らかの方法で失敗しました。このコードは、MQPUT、MQPUT1、MQSUB および MQSUBRQ の各機能呼び出しから返される可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

パブリッシュ出口のロジックを調べて、出口が MQPSXP 構造体の ExitResponse フィールドに有効な値を戻していることを確認してください。問題の詳細については、IBM MQ エラー・ログ・ファイルおよび FFST レコードを確認してください。

2558 (09FE) (RC2558): MQRC_COMMINFO_ERROR

説明

COMMINFO オブジェクトの名前または COMMINFO オブジェクト自体の構成が正しくありません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

TOPIC オブジェクトと COMMINFO オブジェクトの構成を確認し、操作を再試行してください。

2560 (0A00) (RC2560): MQRC_MULTICAST_ONLY

説明

非マルチキャストの方法でのみマルチキャストとして定義されたトピックの使用が試行されました。このエラーの原因として、以下が考えられます。

1. トピックに対して MQPUT1 呼び出しが発行された
2. MQOO_NO_MULTICAST オプションを使用して、MQOPEN 呼び出しが発行された
3. MQSO_NO_MULTICAST オプションを使用して、MQSUB 呼び出しが発行された
4. バインディングを介してアプリケーションが直接接続された (つまり、クライアント接続がない)
5. アプリケーションが、IBM WebSphere MQ 7.1 より前のリリースから実行されている

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

非マルチキャストを有効にするようトピック定義を変更するか、アプリケーションを変更してください。

2561 (0A01) (RC2561): MQRC_DATA_SET_NOT_AVAILABLE

説明

共用キューを操作するために IBM MQ MQI 呼び出しまたはコマンドが発行されましたが、共用メッセージのデータが、現行のキュー・マネージャーで一時的に使用不可になっている共用メッセージ・データ・セットにオフロードされているため、呼び出しは失敗しました。これは、データ・セットへのアクセスに問題がある場合か、データ・セットの損傷が以前に検出されたためにリカバリー処理の完了を待っている場合に発生します。

この戻りコードは、使用されているキュー・マネージャーに共用メッセージ・データ・セットが定義されていない場合にも発生することがあります。キュー共用グループで誤ったキュー・マネージャーを使用している可能性があります。

- この理由コードは、z/OS でのみ発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

問題は一時的です。しばらく待ってから操作を再試行してください。

DIS CFSTRUCT(...) SMDSCONN(*) を使用して、SMDS 接続の状況を表示します。

STATUS が OPEN でない場合に接続を開始するには、STA SMDSCONN(*) CFSTRUCT(...) を使用します。

DISPLAY CFSTATUS(...) TYPE(SMDS) を使用して、使用中のキュー・マネージャー上で状況がアクティブになっていることを確認します。

2562 (0A02) (RC2562): MQRC_GROUPING_NOT_ALLOWED

説明

グループ化されたメッセージを、マルチキャストを介してパブリッシュするハンドルに配置するために、MQPUT 呼び出しが発行されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

マルチキャストを無効にするようトピック定義を変更するか、グループ化されたメッセージを使用しないようアプリケーションを変更してください。

2563 (0A03) (RC2563): MQRC_GROUP_ADDRESS_ERROR

説明

誤ったグループ・アドレス・フィールドを使用して定義されたマルチキャスト・トピックに対して、MQOPEN または MQSUB 呼び出しが発行されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

TOPIC オブジェクトにリンクされている COMMINFO 定義のグループ・アドレス・フィールドを訂正してください。

2564 (0A04) (RC2564): MQRC_MULTICAST_CONFIG_ERROR

説明

MQOPEN、MQSUB、または MQPUT 呼び出しが発行され、それによってマルチキャスト・コンポーネントが呼び出されました。マルチキャストの構成が正しくないため、呼び出しに失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

マルチキャストの構成とエラー・ログを確認して、操作を再試行してください。

2565 (0A05) (RC2565): MQRC_MULTICAST_INTERFACE_ERROR

説明

MQOPEN、MQSUB、またはMQPUT呼び出しが発行され、それによってマルチキャストのネットワーク・インターフェースが試行されました。インターフェースはエラーを返しました。エラーの原因として、以下が考えられます。

1. 必要なネットワーク・インターフェースが存在しない。
2. インターフェースがアクティブではない。
3. 必要な IP のバージョンがインターフェースでサポートされていない。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

IP アドレスとシステム・ネットワークの構成が有効であることを確認してください。マルチキャストの構成とエラー・ログを確認して、操作を再試行してください。

2566 (0A06) (RC2566): MQRC_MULTICAST_SEND_ERROR

説明

MQPUT 呼び出しが発行され、それによってネットワーク経由でのマルチキャスト・トラフィックの送信が試行されました。システムは、1つ以上のネットワーク・パケットの送信に失敗しました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

IP アドレスとシステム・ネットワークの構成が有効であることを確認してください。マルチキャストの構成とエラー・ログを確認して、操作を再試行してください。

2567 (0A07) (RC2567): MQRC_MULTICAST_INTERNAL_ERROR

説明

MQOPEN、MQSUB、またはMQPUT呼び出しが発行され、それによってマルチキャスト・コンポーネントが呼び出されました。内部エラーが発生したため、操作が正常に完了しませんでした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

システム管理者に連絡してください。

2568 (0A08) (RC2568): MQRC_CONNECTION_NOT_AVAILABLE

説明

現行のインストール環境で、要求された接続タイプの接続をキュー・マネージャーが提供できない場合に、MQCONN または MQCONNX 呼び出しが行われました。サーバーのみのインストールでは、クライアント接続はできません。クライアントのみのインストールでは、ローカル接続はできません。

また、要求されたキュー・マネージャーに関連付けられているインストール環境からライブラリーをロードしようと IBM MQ が試みて失敗した場合にも、このエラーが発生する可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

要求された接続タイプがインストール環境のタイプに該当することを確認します。接続タイプがインストール環境に該当する場合は、エラー・ログでエラーの性質について詳しく調べます。

2569 (0A09) (RC2569): MQRC_SYNCPOINT_NOT_ALLOWED

説明

MCAST(ENABLED) として定義されているトピックに対して、MQPMO_SYNCPOINT を使用して MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されました。これは許可されません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQPMO_NO_SYNCPOINT を使用するようアプリケーションを変更するか、マルチキャストの使用を無効にするようトピックを変更して、操作を再試行してください。

2577 (0A11) (RC2577): MQRC_CHANNEL_BLOCKED

説明

インバウンド・チャンネルは、キュー・マネージャーに接続しようとしたますが、チャンネル認証規則と一致するため、ブロックされました。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [144 ページ](#)の『チャンネルのブロック』の識別にのみ使用されます。

2578 (0A12) (RC2578): MQRC_CHANNEL_BLOCKED_WARNING

説明

インバウンド・チャンネルがキュー・マネージャーに接続しようとしたが、チャンネル認証規則と一致するためにブロックされていましたが、規則は **WARN (YES)** で定義されているため、規則は接続をブロックしませんでした。

完了コード

MQCC_WARNING

プログラマー応答

なし。この理由コードは、対応するイベント・メッセージ [144 ページ](#)の『[チャンネルのブロック](#)』の識別にのみ使用されます。

2583 (0A17) (RC2583): MQRC_INSTALLATION_MISMATCH

説明

アプリケーションは、ロードされたライブラリーと同じ IBM MQ インストール済み環境に関連付けられていないキュー・マネージャーに接続しようとした。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

アプリケーションは、キュー・マネージャーと関連付けられているインストール済み環境のライブラリーを使用する必要があります。 **AMQ_SINGLE_INSTALLATION** 環境変数が設定されている場合、単一のインストール済み環境と関連付けられているキュー・マネージャーにのみアプリケーションが接続されていることを確認する必要があります。 そのように接続されていない場合、IBM MQ が正しいライブラリーを自動的に見つけることができなければ、アプリケーションまたはライブラリー検索パスを変更して、正しいライブラリーが確実に使用されるようにする必要があります。

2587 (0A1B) (RC2587): MQRC_HMSG_NOT_AVAILABLE

説明

MQGET、MQPUT、または MQPUT1 呼び出しでは、提供されるメッセージ・ハンドルは、キュー・マネージャーが関連付けられているインストール済み環境には無効です。 メッセージ・ハンドルは、MQHC_UNASSOCIATED_HCONN オプションを指定した MQCRTMH によって作成されました。 これは、プロセス内で使用された最初のインストール済み環境と関連付けられたキュー・マネージャーでのみ使用できます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

別のインストールと関連付けられた 2 つのキュー・マネージャー間でプロパティを受け渡すには、MQGET を使用して取り出されたメッセージ・ハンドルを、MQMHBUF 呼び出しを使用してバッファーに変換します。 次に、そのバッファーを他のキュー・マネージャーの MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出

しに渡します。あるいは、**setmqm** コマンドを使用して、キュー・マネージャーの1つを他のキュー・マネージャーが使用しているインストール済み環境と関連付けます。**setmqm** コマンドを使用すると、キュー・マネージャーが使用する IBM MQ のバージョンが変更される可能性があります。

2589 (0A1D) (RC2589) MQRC_INSTALLATION_MISSING

説明

MQCONN 呼び出しまたは MQCONNX 呼び出しで、関連付けられたインストール済み環境がすでになくなっていてキュー・マネージャーへの接続が試行されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

setmqm コマンドを使用して、キュー・マネージャーを別のインストール済み環境と関連付けてから、そのキュー・マネージャーへの接続を再試行してください。

2590 (0A1E) (RC2590): MQRC_FASTPATH_NOT_AVAILABLE

説明

MQCONNX 呼び出しで、MQCNO_FASTPATH_BINDING オプションが指定されました。しかし、キュー・マネージャーへのファースト・パス接続を作成できません。この問題は、この MQCONNX 呼び出しの前に、プロセス内でキュー・マネージャーへの非ファースト・パス接続が作成された場合に発生する可能性があります。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

プロセス内のすべての MQCONNX 呼び出しをファースト・パスに変更するか、あるいは **AMQ_SINGLE_INSTALLATION** 環境変数を使用して接続を単一のインストール済み環境に制限します。これにより、キュー・マネージャーは同じプロセスから、任意の順序でファースト・パスおよび非ファースト・パス接続を受け入れることができます。

2591 (0A1F) (RC2591): MQRC_CIPHER_SPEC_NOT_SUITE_B

説明

クライアント・アプリケーションは NSA Suite B 準拠の操作向けに構成されていますが、クライアント接続チャンネルの CipherSpec は、構成された Suite B セキュリティー・レベルでは許可されません。これは現在構成されているセキュリティ・レベルの範囲外の Suite B CipherSpec で発生する可能性があります。例えば、ECDHE_ECDSA_AES_128_GCM_SHA256 (128 ビットの Suite B) は、192 ビットの Suite B セキュリティー・レベルが構成されている場合にのみ使用されます。

どの CipherSpec が Suite B に準拠しているかの詳細については、[CipherSpec の指定](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

構成されている Suite B セキュリティ・レベルで許可されている適切な CipherSpec を選択してください。

2592 (0A20) (RC2592): MQRC_SUITE_B_ERROR

説明

Suite B の構成は無効です。例えば、認識されない値が、**MQSUITEB** 環境変数、EncryptionPolicySuiteB TLS スタンザ設定、または MQSCO EncryptionPolicySuiteB フィールドに指定されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

Suite B 構成内の障害を判別して、修正してください。

2593 (0A21)(RC2593): MQRC_CERT_VAL_POLICY_ERROR

説明

証明書妥当性検査ポリシー構成が無効です。認識されないかサポートされない値が、**MQCERTVPOL** 環境変数、CertificateValPolicy TLS スタンザ設定、または MQSCO CertificateValPolicy フィールドに指定されました。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

現行のプラットフォームでサポートされている有効な証明書妥当性検査ポリシーを指定してください。

2594 (0A22)(RC2594): MQRC_PASSWORD_PROTECTION_ERROR

説明

クライアント・アプリケーションによって MQCONN または MQCONNX 呼び出しが発行されましたが、キュー・マネージャーとパスワード保護アルゴリズムが一致しませんでした。暗号化されていないチャンネルの場合、IBM MQ 8.0 以降のクライアントは、ネットワークを介してアプリケーション資格情報をプレーン・テキストで送信することを回避するために、パスワード保護メカニズムに同意しようとしています。

このエラーの通常の原因は、mqclient.ini ファイルまたは qm.ini ファイルの **Channels** スタンザの **PasswordProtection** 属性が ALWAYS に設定されているが、リモート・システムにインストールされている IBM MQ のバージョンがパスワード保護をサポートしていないことです。

V9.3.1 接続が IBM MQ Internet Pass-Thru (MQIPT) を通過し、MQIPT 経路が TLS 暗号化を追加または削除するように構成されている場合、チャンネルの一方の側が TLS 暗号化を使用し、もう一方の側が TLS 暗号化を使用しないため、クライアントとキュー・マネージャーがパスワード保護アルゴリズムに同意しない可能性があります。

Java および JMS クライアントで **PasswordProtection** 機能を使用するには、MQCSP 認証モードを有効にする必要があります。[Java クライアントによる接続認証](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

PasswordProtection 属性を変更するか、代わりに TLS を使用してアプリケーション資格情報を保護することを検討してください。TLS を使用する場合は、ヌル暗号を使用してはなりません。ヌル暗号では、資格情報がプレーン・テキストで送信されるため、保護は提供されません。

詳しくは、エラー・ログのメッセージ AMQ9296E を参照してください。

V9.3.1 接続が MQIPT を通過し、MQIPT 経路が TLS 暗号化を追加または削除するように構成されている場合は、MQIPT 経路構成の **PasswordProtection** プロパティの値を `compatible` に設定することを検討してください。

2595 (0A23)(RC2595): MQRC_CSP_ERROR

説明

以下のいずれかの理由で MQCSP 構造体が無効であるため、接続呼び出しが失敗しました。

- `StrucId` フィールドが `MQCSP_STRUC_ID` ではない。
- `Version` フィールドに無効な値またはサポートされていない値が指定されています。
- `AuthenticationType` フィールドに、このバージョンの MQCSP 構造体では無効な値またはサポートされない値が指定されています。
- ユーザー ID の指定が正しくない。
- パスワードの指定が正しくない。
- **V9.3.4** 認証トークンが誤って指定されています。
- **V9.3.4** ユーザー ID またはパスワードが指定され、`AuthenticationType` フィールドが `MQCSP_AUTH_ID_TOKEN` に設定されている。
- **V9.3.4** 認証トークンが指定されましたが、`AuthenticationType` フィールドが `MQCSP_AUTH_ID_TOKEN` に設定されていません。
- **V9.3.4** 認証トークンは、ローカル・バインディングを使用して接続するアプリケーションによって指定されます。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQCSP 構造体が正しいことを確認してください。

z/OS On z/OS:

- STEPLIB 内の IBM MQ ライブラリーがキュー・マネージャーのレベル以上であることを確認してください。
- z/OS UNIX System Services を使用している場合は、`LIBPATH=$LIBPATH: "/mqm/V8R0M0/java/lib/"` などのように、一致するライブラリーが `LIBPATH` に指定されていることを確認してください。

2596 (0A24)(RC2596): MQRC_CERT_LABEL_NOT_ALLOWED

説明

チャンネル定義は証明書ラベルを指定していますが、証明書ラベルの構成は環境でサポートされていません。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

証明書ラベルをチャンネル定義から除去するか、ラベルを無視するよう構成を変更してください。

2598 (0A26)(RC2598): MQRC_ADMIN_TOPIC_STRING_ERROR

説明

このエラーは、MQSUB または MQOPEN の呼び出し時に発生することがあります。\$SYS/MQ/ で始まる、IBM MQ 管理トピック・ストリングへのパブリッシュは許可されません。

IBM MQ 管理トピック・ストリングにサブスクライブする場合、ワイルドカード文字の使用は制限されます。詳しくは、[モニタリングとアクティビティ・トレースのためのシステム・トピック](#)を参照してください。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

\$SYS/MQ/ から始まらない管理トピック・ストリングをパブリッシュするように構成を変更します。

Multi

2601 (0A29)(RC2601): MQRC_Q_MGR_RECONNECT_REQUESTED

説明

このコードは、アプリケーション・บาลancingが使用中の場合など、明示的な再接続要求が発行された場合に現れることがあります。

完了コード

MQCC_WARNING

V9.3.0

2602 (0A2A) (RC2602): MQRC_BNO_ERROR

説明

MQBNO がアプリケーション・コードによって提供される場合は、以下のようになります。

- バージョンが無効であるか、構造 ID が正しくありません
- 有効範囲外のその他のフィールド、または MQBNO 構造体に記載されている定数。

ただし、mqclient.ini **Application** または **ApplicationDefault** スタンザからアプリケーション・コードの代わりに MQBNO 構造体を作成される場合があることにも注意してください。したがって、アプリケーション・コードが MQBNO 構造体を直接提供しない場合でも、mqclient.ini ファイル内の値が欠落していたり誤っていたりすると、この戻りコードが返されることがあります。

完了コード

MQCC_WARNING

6100 (17D4) (RC6100): MQRC_REOPEN_EXCL_INPUT_ERROR

説明

オープンしているオブジェクトに正しい ImqObject オープン・オプションがなく、1つまたは複数の追加オプションが必要です。暗黙的な再オープンが必要ですが、閉止が防止されています。

クローズが妨げられたのは、このキューが入力専用でオープンされたものであり、クローズすると、現在アクセスしているプロセスまたはスレッドによってキューが再オープンされる前に、別のプロセスまたはスレッドによってそのキューがアクセスされてしまう可能性があるためです。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オープン・オプションをすべての状況をカバーするように明示的に設定して、暗黙的な再オープンが必要なくなるようにします。

6101 (17D5) (RC6101): MQRC_REOPEN_INQUIRE_ERROR

説明

オープンしているオブジェクトに正しい ImqObject オープン・オプションがなく、1つまたは複数の追加オプションが必要です。暗黙的な再オープンが必要ですが、閉止が防止されています。

オブジェクトの1つまたは複数の特性をクローズ前に動的に検査する必要があり、またオープン・オプションに MQOO_INQUIRE がまだ含まれていないため、クローズが妨げられました。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

MQOO_INQUIRE を組み込むようにオープン・オプションを明示的に設定します。

6102 (17D6) (RC6102): MQRC_REOPEN_SAVED_CONTEXT_ERR

説明

オープンしているオブジェクトに正しい ImqObject オープン・オプションがなく、1つまたは複数の追加オプションが必要です。暗黙的な再オープンが必要ですが、閉止が防止されています。

キューが MQOO_SAVE_ALL_CONTEXT を指定してオープンされており、以前に破壊的な GET が実行されたため、クローズが妨げられました。このため、保存されている状態情報がオープン・キューに関連付けられ、この情報がクローズによって破壊される可能性が生じました。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オープン・オプションをすべての状況をカバーするように明示的に設定して、暗黙的な再オープンが必要なくなるようにします。

6103 (17D7) (RC6103): MQRC_REOPEN_TEMPORARY_Q_ERROR

説明

オープンしているオブジェクトに正しい ImqObject オープン・オプションがなく、1つまたは複数の追加オプションが必要です。暗黙的な再オープンが必要ですが、閉止が防止されています。

キューが定義タイプ MQQDT_TEMPORARY_DYNAMIC のローカル・キューであり、そのためクローズすると破壊されてしまうため、クローズが妨げられました。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オープン・オプションをすべての状況をカバーするように明示的に設定して、暗黙的な再オープンが必要なくなるようにします。

6104 (17D8) (RC6104): MQRC_ATTRIBUTE_LOCKED

説明

オブジェクトがオープンしている間に、または ImqQueueManager オブジェクトの場合はそのオブジェクトが接続している間に、オブジェクトの属性値の変更を試行しました。これらの状況では特定の属性を変更できません。状況に応じてオブジェクトをクローズまたは切断してから、属性値を変更してください。

MQINQ 呼び出しを実行するために、オブジェクトが予期せず暗黙的に、接続されたかオープンされたか、またはその両方の可能性があります。何らかのメソッド呼び出しが結果的に MQINQ 呼び出しとなるかどうかを判別するには、[C++ と MQI の相互参照の属性相互参照表](#)を確認してください。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ImqObject オープン・オプションに MQOO_INQUIRE を指定し、早い段階で設定します。

6105 (17D9) (RC6105): MQRC_CURSOR_NOT_VALID

説明

暗黙の再オープンで最後に使用されたため、オープンされているキューのブラウズ・カーソルが無効にされました。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

ImqObject オープン・オプションをすべての状況をカバーするように明示的に設定して、暗黙的な再オープンが必要なくなるようにします。

6106 (17DA) (RC6106): MQRC_ENCODING_ERROR

説明

(次の)メッセージ項目のエンコードを、貼り付け用に MQENC_NATIVE にする必要があります。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6107 (17DB) (RC6107): MQRC_STRUC_ID_ERROR

説明

(次の)メッセージ項目の構造体 ID (データ・ポインターから始まる 4 文字から派生したものは、欠落しているか、またはその項目が貼り付けられるオブジェクトのクラスと整合していません。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6108 (17DC) (RC6108): MQRC_NULL_POINTER

説明

非ヌル・ポインターが必要または暗示されているところに、ヌル・ポインターが提供されました。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6109 (17DD) (RC6109): MQRC_NO_CONNECTION_REFERENCE

説明

接続参照がヌルです。ImqQueueManager オブジェクトへの接続は必須です。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6110 (17DE) (RC6110): MQRC_NO_BUFFER

説明

使用可能なバッファがありません。ImqCache オブジェクトの場合、オブジェクト状態に起こりえない内部矛盾を示すことによって、バッファを割り振ることはできません。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6111 (17DF) (RC6111): MQRC_BINARY_DATA_LENGTH_ERROR

説明

2 進データの長さが宛先の属性の長さとは矛盾しています。ゼロは、すべての属性の長さとして正しい値です。

- アカウンティング・トークンに適切な長さは MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH です。
- 代替セキュリティ ID に適切な長さは MQ_SECURITY_ID_LENGTH です。
- 相関 ID に適切な長さは MQ_CORREL_ID_LENGTH です。
- 機能トークンに適切な長さは MQ_FACILITY_LENGTH です。
- グループ ID に適切な長さは MQ_GROUP_ID_LENGTH です。
- メッセージ ID に適切な長さは MQ_MSG_ID_LENGTH です。
- インスタンス ID に適切な長さは MQ_OBJECT_INSTANCE_ID_LENGTH です。
- トランザクション・インスタンス ID に適切な長さは MQ_TRAN_INSTANCE_ID_LENGTH です。
- メッセージ・トークンに適切な長さは MQ_MSG_TOKEN_LENGTH です。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6112 (17E0) (RC6112): MQRC_BUFFER_NOT_AUTOMATIC

説明

ユーザー定義 (およびユーザー管理) バッファのサイズを変更することはできません。ユーザー定義バッファは置き換えまたは取り消しのみが可能です。自動 (システム管理) になっているバッファであれば、サイズ変更できます。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

6113 (17E1) (RC6113): MQRC_INSUFFICIENT_BUFFER

説明

要求を収容するデータ・ポインターより後は、使用可能なバッファ・スペースが不足しています。これはバッファをサイズ変更できないためである可能性があります。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6114 (17E2) (RC6114): MQRC_INSUFFICIENT_DATA

説明

要求を収容するデータ・ポインターより後は、データが不足しています。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6115 (17E3) (RC6115): MQRC_DATA_TRUNCATED

説明

バッファから別のバッファにコピーされたとき、データが切り捨てられました。これは、ターゲット・バッファのサイズを変更できないためか、またはいずれかのバッファへのアドレッシングに問題があったか、または置き換えサイズが小さくてバッファのサイズが縮小されたか、いずれかのためである可能性があります。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6116 (17E4) (RC6116): MQRC_ZERO_LENGTH

説明

正の値の長さの指定が必要であるか、暗黙指定される場合に、ゼロ長が指定されています。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6117 (17E5) (RC6117): MQRC_NEGATIVE_LENGTH

説明

ゼロまたは正の値の長さを指定する必要があるところに、負の値の長さが指定されています。
この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6118 (17E6) (RC6118): MQRC_NEGATIVE_OFFSET

説明

ゼロまたは正の値のオフセットを指定する必要があるところに、負の値のオフセットが指定されています。
この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6119 (17E7) (RC6119): MQRC_INCONSISTENT_FORMAT

説明

(次の) メッセージ項目のフォーマットは、その項目が貼り付けられるオブジェクトのクラスと整合していません。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6120 (17E8) (RC6120): MQRC_INCONSISTENT_OBJECT_STATE

説明

このオブジェクト (オープンしている) と参照されている ImqQueueManager オブジェクト (接続していない) の間に、不整合があります。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6121 (17E9) (RC6121): MQRC_CONTEXT_OBJECT_NOT_VALID

説明

ImqPutMessageOptions コンテキスト参照が、有効な ImqQueue オブジェクトを参照していません。オブジェクトがすでに破壊されています。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6122 (17EA) (RC6122): MQRC_CONTEXT_OPEN_ERROR

説明

ImqPutMessageOptions コンテキスト参照が、コンテキストを確立するためにオープンできない ImqQueue オブジェクトを参照しています。これは、ImqQueue オブジェクトに不適切なオープン・オプションがあるためである可能性があります。示されているオブジェクト理由コードを調べて、原因を突き止めてください。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6123 (17EB) (RC6123): MQRC_STRUC_LENGTH_ERROR

説明

データ構造体の長さがその内容と矛盾しています。MQRMH では、固定フィールドとすべてのオフセット・データを格納するには長さが不十分です。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

6124 (17EC) (RC6124): MQRC_NOT_CONNECTED

説明

キュー・マネージャーへの必須接続が利用不能であったため、メソッドが失敗し、また ImqQueueManager **behavior** クラス属性の IMQ_IMPL_CONN フラグが FALSE であったため、接続を暗黙的に確立できませんでした。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

キュー・マネージャーへの接続を確立して、再試行します。

6125 (17ED) (RC6125): MQRC_NOT_OPEN

説明

オブジェクトがオープンされていないため、メソッドが失敗しました。ImqObject **behavior** クラス属性の IMQ_IMPL_OPEN フラグが FALSE であるため、オープンが暗黙的に実行できません。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトをオープンして再試行してください。

6126 (17EE) (RC6126): MQRC_DISTRIBUTION_LIST_EMPTY

説明

参照されている ImqQueue オブジェクトがないため、ImqDistributionList が失敗しました。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

配布リスト参照が ImqDistributionList オブジェクトをアドレッシングするように指定した ImqQueue オブジェクトを少なくとも 1 つ設定して、再試行します。

6127 (17EF) (RC6127): MQRC_INCONSISTENT_OPEN_OPTIONS

説明

オブジェクトがオープンしているため、メソッドが失敗し、ImqObject オープン・オプションは必須操作と矛盾しています。このオブジェクトは、ImqObject **behavior** クラス属性の IMQ_IMPL_OPEN フラグが偽であるため、暗黙的に再オープンできません。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

オブジェクトに適切な ImqObject オープン・オプションを指定してオープンし、再試行します。

6128 (17FO) (RC6128): MQRC_WRONG_VERSION

説明

指定されたバージョン番号か検出されたバージョン番号が間違っているかまたはサポートされていないため、メソッドが失敗しました。

ImqCICSBridgeHeader クラスの場合、問題は **version** 属性にあります。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

バージョン番号を指定する場合、該当クラスがサポートするバージョン番号を使用します。別のプログラムからメッセージ・データを受信している場合、両方のプログラムが一貫性のあるサポートされているバージョン番号を使用していることを確認します。

6129 (17F1) (RC6129): MQRC_REFERENCE_ERROR

説明

オブジェクト参照が無効です。

参照されたオブジェクトのアドレスに問題があります。使用時に、オブジェクトのアドレスはヌルではありませんが、アドレスは無効であり、意図した目的には使用できません。

この理由コードは、IBM MQ C++ 環境で発生します。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

参照オブジェクトが削除されていないこと、および有効範囲内にあることを確認するか、ヌル・アドレス値を指定して参照自体を除去します。

PCF 理由コード

PCF フォーマットのコマンド・メッセージ中で使用したパラメーターによっては、そのメッセージへの応答としてブローカーから理由コードが返される場合があります。

PCF の詳細については、[プログラマブル・コマンド・フォーマットの概要](#)、[管理タスクの自動化](#)、および [プログラマブル・コマンド・フォーマットの使用](#)を参照してください。

次のリストは、PCF 理由コードを数字順で示しています。以下についても記載することで、理由コードを理解するための詳細情報を提供します。

- 該当コードを発生させる状況の説明
- 関連付けられた完了コード
- コードへの応答で推奨されるプログラマーの応答

関連概念

[266 ページの『IBM MQ for z/OS のメッセージ・コード、完了コード、および理由コード』](#)

このトピックでは、IBM MQ for z/OS で生成されるメッセージとコードの意味について取り上げます。

関連資料

[235 ページの『AMQ メッセージ \(Multiplatforms\)』](#)

このセクションには、AMQ シリーズの診断メッセージが番号順にリストされています。これらのメッセージは、発信元の IBM MQ の部分に従ってグループ化されています。

[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)

呼び出しが行われるたびに、その呼び出しが成功したか失敗したかを示すための完了コードと理由コードが、キュー・マネージャーまたは出口ルーチンによって戻されます。

[1418 ページの『Transport Layer Security \(TLS\) の戻りコード』](#)

IBM MQ では、さまざまな通信プロトコルと一緒に TLS を使用できます。このトピックを使用して、TLS によって返される可能性があるエラー・コードを特定します。

1423 ページの『WCF カスタム・チャンネル例外』

このトピックでは、診断メッセージが、発信元の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャンネルの部分に従ってグループ化された番号順にリストされています。

3001 (0BB9) (RC3001): MQRCCF_CFH_TYPE_ERROR

説明

タイプが無効です。

MQCFH *Type* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なタイプを指定してください。

3002 (0BBA) (RC3002): MQRCCF_CFH_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFH *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3003 (0BBB) (RC3003): MQRCCF_CFH_VERSION_ERROR

説明

構造体バージョン番号が無効です。

MQCFH *Version* フィールド値が無効でした。

z/OS では MQCFH_VERSION_3 が必要であることを注意してください。

プログラマー応答

有効な構造体バージョン番号を指定してください。

3004 (0BBC) (RC3004): MQRCCF_CFH_MSG_SEQ_NUMBER_ERR

説明

メッセージ順序番号が無効です。

MQCFH *MsgSeqNumber* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なメッセージ・シーケンス番号を指定してください。

3005 (0BBD) (RC3005): MQRCCF_CFH_CONTROL_ERROR

説明

制御オプションが無効です。
MQCFH *Control* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な制御オプションを指定してください。

3006 (OBBE) (RC3006): MQRCCF_CFH_PARM_COUNT_ERROR

説明

パラメーター・カウントが無効です。
MQCFH *ParameterCount* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター・カウントを指定してください。

3007 (OBBF) (RC3007): MQRCCF_CFH_COMMAND_ERROR

説明

コマンド ID が無効です。
MQCFH *Command* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なコマンド ID を指定してください。

3008 (OBC0) (RC3008): MQRCCF_COMMAND_FAILED

説明

コマンドは失敗しました。
コマンドが失敗しました。

プログラマー応答

このコマンドに関する前のエラー・メッセージを参照してください。

3009 (OBC1) (RC3009): MQRCCF_CFIN_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。
MQCFIN または MQCFIN64 *StrucLength* フィールドの値が無効です。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3010 (OBC2) (RC3010): MQRCCF_CFST_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFST *StrucLength* フィールド値が無効でした。値が 4 の倍数でなかったか、または MQCFST *StringLength* フィールド値と矛盾していました。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3011 (OBC3) (RC3011): MQRCCF_CFST_STRING_LENGTH_ERR

説明

ストリングの長さが無効です。

MQCFST *StringLength* フィールド値が無効でした。値が負の値であるか、*Parameter* フィールドに指定されたパラメーターの最大許容長を超えています。

プログラマー応答

パラメーターについて有効なストリングの長さを指定してください。

3012 (OBC4) (RC3012): MQRCCF_FORCE_VALUE_ERROR

説明

強制値が無効です。

指定された強制値が無効です。

プログラマー応答

有効な強制値を指定してください。

3013 (OBC5) (RC3013): MQRCCF_STRUCTURE_TYPE_ERROR

説明

構造タイプが無効です。

構造体 *Type* の値が無効です。

プログラマー応答

有効な構造体タイプを指定してください。

3014 (OBC6) (RC3014): MQRCCF_CFIN_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFIN または MQCFIN64 *Parameter* フィールドの値が無効です。

例えば、チャンネル状況照会要求でキューのパラメーター MQIACF_OLDEST_MSG_AGE を指定した場合などです。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3015 (OBC7) (RC3015): MQRCCF_CFST_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFST *Parameter* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3016 (OBC8) (RC3016): MQRCCF_MSG_LENGTH_ERROR

説明

メッセージ長が無効です。

メッセージ・データ長が、メッセージ内のパラメーターにより暗黙指定された長さとは矛盾しているか、あるいは定位置パラメーターのシーケンスが無効です。

プログラマー応答

有効なメッセージ長を指定し、定位置パラメーターのシーケンスが正しいことを確認してください。

3017 (OBC9) (RC3017): MQRCCF_CFIN_DUPLICATE_PARM

説明

パラメーターが重複しています。

2つの MQCFIN、MQCFIN64、MQCFIL、または MQCFIL64 構造体、あるいはこれらのタイプの構造体のいずれか2つが、同じパラメーター ID を保持しています。

プログラマー応答

重複したパラメーターを確認し、除去してください。

3018 (OBCA) (RC3018): MQRCCF_CFST_DUPLICATE_PARM

説明

パラメーターが重複しています。

2つの MQCFST 構造体、あるいは MQCFST 構造体が続く MQCFSL が、同じパラメーター ID を保持しています。

プログラマー応答

重複したパラメーターを確認し、除去してください。

3019 (OBCB) (RC3019): MQRCCF_PARM_COUNT_TOO_SMALL

説明

パラメーター・カウントが小さすぎます。

MQCFHParameterCount フィールド値が、コマンドに必要な最小値より小さい値でした。

プログラマー応答

コマンドに対して有効なパラメーター・カウントを指定してください。

3020 (OBCC) (RC3020): MQRCCF_PARM_COUNT_TOO_BIG

説明

パラメーター・カウントが大きすぎます。

MQCFHParameterCount フィールド値がコマンドの最大値を超えています。

プログラマー応答

コマンドに対して有効なパラメーター・カウントを指定してください。

3021 (OBCD) (RC3021): MQRCCF_Q_ALREADY_IN_CELL

説明

キューがすでにセルに存在します。

セル有効範囲を持つキューを定義する試行、または既存キューの有効範囲をキュー・マネージャー有効範囲からセル有効範囲に変更する試行が行われましたが、その名前のキューはすでにセルに存在しています。

プログラマー応答

次のいずれかを行います。

- 既存のキューを削除し、操作を再試行します。
- 既存のキューの有効範囲をセルからキュー・マネージャーに変更し、操作を再試行します。
- 別の名前を使用して新規キューを作成します。

3022 (OBCE) (RC3022): MQRCCF_Q_TYPE_ERROR

説明

キュー・タイプは無効です。

QType 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なキュー・タイプを指定してください。

3023 (OBCF) (RC3023): MQRCCF_MD_FORMAT_ERROR

説明

形式が無効です。

MQMD Format フィールド値が *MQFMT_ADMIN* ではありません。

プログラマー応答

有効なフォーマットを指定してください。

3024 (OBD0) (RC3024): MQRCCF_CFSL_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長が無効です。

MQCFSL StructLength フィールド値が無効でした。値が 4 の倍数ではなかったか、*MQCFSL StringLength* フィールド値と矛盾していました。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3025 (OBD1) (RC3025): MQRCCF_REPLACE_VALUE_ERROR

説明

置換値が無効です。

Replace 値が無効でした。

プログラマー応答

有効な置換値を指定してください。

3026 (OBD2) (RC3026): MQRCCF_CFIL_DUPLICATE_VALUE

説明

パラメーター値が重複しています。

MQCFIL 構造体または *MQCFIL64* 構造体において、リスト内に重複したパラメーター値が存在します。

プログラマー応答

重複したパラメーター値を確認し、除去してください。

3027 (OBD3) (RC3027): MQRCCF_CFIL_COUNT_ERROR

説明

パラメーター値のカウントが無効です。

MQCFIL または MQCFIL64 *Count* フィールド値が無効でした。値が負の値であるか、または *Parameter* フィールドに指定されたパラメーターに許可されている最大値を超えています。

プログラマー応答

パラメーターについて有効なカウントを指定してください。

3028 (OBD4) (RC3028): MQRCCF_CFIL_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFIL または MQCFIL64 *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3029 (OBD5) (RC3029): MQRCCF_MODE_VALUE_ERROR

説明

モード値が無効です。

Mode 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なモード値を指定してください。

3029 (OBD5) (RC3029): MQRCCF_QUIESCE_VALUE_ERROR

説明

MQRCCF_MODE_VALUE_ERROR の以前の名前です。

3030 (OBD6) (RC3030): MQRCCF_MSG_SEQ_NUMBER_ERROR

説明

メッセージ順序番号が無効です。

メッセージ・シーケンス番号パラメーター値が無効です。

プログラマー応答

有効なメッセージ・シーケンス番号を指定してください。

3031 (OBD7) (RC3031): MQRCCF_PING_DATA_COUNT_ERROR

説明

データ・カウントが無効です。

ping チャンネル *DataCount* 値が無効です。

プログラマー応答

有効なデータ・カウント値を指定してください。

3032 (OBD8) (RC3032): MQRCCF_PING_DATA_COMPARE_ERROR

説明

ping チャンネル・コマンドが失敗しました。

ping チャンネル・コマンドがデータ比較エラーにより失敗しました。失敗したデータ・オフセットは、メッセージ内に返されます (パラメーター ID MQIACF_ERROR_OFFSET)。

プログラマー応答

システム管理者にご相談ください。

3033 (OBD9) (RC3033): MQRCCF_CFSL_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFSL *Parameter* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3034 (OBDA) (RC3034): MQRCCF_CHANNEL_TYPE_ERROR

説明

チャンネル・タイプが無効です。

指定された *ChannelType* が無効であるか、コピー、変更、または置換されている既存のチャンネルのタイプと一致しなかったか、またはコマンドと指定された処理をそのタイプのチャンネルで使用できません。

プログラマー応答

有効なチャンネル名、タイプ、または処理を指定してください。

3035 (OBDB) (RC3035): MQRCCF_PARM_SEQUENCE_ERROR

説明

パラメーターの順序が無効です。

このコマンドに対するパラメーター・シーケンスが無効です。

プログラマー応答

コマンドに対し、有効なシーケンスで定位置パラメーターを指定してください。

3036 (OBDC) (RC3036): MQRCCF_XMIT_PROTOCOL_TYPE_ERR

説明

伝送プロトコル・タイプが無効です。

TransportType 値が無効でした。

プログラマー応答

有効な伝送プロトコル・タイプを指定してください。

3037 (OBDD) (RC3037): MQRCCF_BATCH_SIZE_ERROR

説明

バッチ・サイズが無効です。

指定されたバッチ・サイズが無効です。

プログラマー応答

有効なバッチ・サイズ値を指定してください。

3038 (OBDE) (RC3038): MQRCCF_DISC_INT_ERROR

説明

切断間隔が無効です。

指定された切断間隔が無効です。

プログラマー応答

有効な切断間隔を指定してください。

3039 (OBDF) (RC3039): MQRCCF_SHORT_RETRY_ERROR

説明

短期再試行カウントが無効です。

ShortRetryCount 値が無効でした。

プログラマー応答

有効な短期再試行カウント値を指定してください。

3040 (OBE0) (RC3040): MQRCCF_SHORT_TIMER_ERROR

説明

ショート・タイマーの値が無効です。

ShortRetryInterval 値が無効でした。

プログラマー応答

有効な短期タイマー値を指定してください。

3041 (OBE1) (RC3041): MQRCCF_LONG_RETRY_ERROR

説明

長期再試行カウントが無効です。
指定された長期再試行カウント値が無効です。

プログラマー応答

有効な長期再試行カウント値を指定してください。

3042 (OBE2) (RC3042): MQRCCF_LONG_TIMER_ERROR

説明

ロング・タイマーが無効です。
指定された長期タイマー (長期再試行の待機間隔) 値が無効です。

プログラマー応答

有効な長期タイマー値を指定してください。

3043 (OBE3) (RC3043): MQRCCF_SEQ_NUMBER_WRAP_ERROR

説明

順序折り返し番号が無効です。
SeqNumberWrap 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なシーケンス折り返し番号を指定してください。

3044 (OBE4) (RC3044): MQRCCF_MAX_MSG_LENGTH_ERROR

説明

最大メッセージ長が無効です。
指定された最大メッセージ長の値が無効です。

プログラマー応答

有効な最大メッセージ長を指定してください。

3045 (OBE5) (RC3045): MQRCCF_PUT_AUTH_ERROR

説明

書き込み権限の値が無効です。
PutAuthority 値が無効でした。

プログラマー応答

有効な書き込む権限の値を指定してください。

3046 (OBE6) (RC3046): MQRCCF_PURGE_VALUE_ERROR

説明

ページ値が無効です。

Purge 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なページ値を指定してください。

3047 (OBE7) (RC3047): MQRCCF_CFIL_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFIL または MQCFIL64 *Parameter* フィールド値が無効であるか、フィルタリングできないパラメーターを指定しているか、オブジェクトのサブセットを選択するためのパラメーターとしても指定されていません。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3048 (OBE8) (RC3048): MQRCCF_MSG_TRUNCATED

説明

メッセージが切り捨てられました。

コマンド・サーバーは、有効な最大メッセージ・サイズより大きいメッセージを受け取りました。

プログラマー応答

メッセージ内容が正しいことを確認してください。

3049 (OBE9) (RC3049): MQRCCF_CCSID_ERROR

説明

コード化文字セット ID エラー。

コマンド・メッセージで、次のいずれかが発生しました。

- コマンドのメッセージ記述子の *CodedCharSetId* フィールドが、コマンドが処理されているキュー・マネージャーのコード化文字セット ID と一致しません。または、
- コマンドのメッセージ・テキスト内のストリング・パラメーター構造体の *CodedCharSetId* フィールドが、
 - MQCCSI_DEFAULT

- コマンドが処理されているキュー・マネージャーのコード化文字セット ID。メッセージ記述子の *CodedCharSetId* フィールドに示されています。

エラー応答メッセージには正しい値が含まれています。

この理由は、コード化文字セット ID に互換性がないために ping を実行できない場合にも発生する可能性があります。この場合、正しい値は返されません。

プログラマー応答

正しいコード化文字セット ID を使用してコマンドを構成し、コマンド送信時にメッセージ記述子内で指定してください。ping の場合、適切なコード化文字セット ID を使用してください。

3050 (OBEA) (RC3050): MQRCCF_ENCODING_ERROR

説明

エンコード・エラーです。

コマンドのメッセージ記述子の *Encoding* フィールドが、コマンドが処理されているプラットフォームに必要なフィールドと一致しません。

プログラマー応答

正しいエンコードを使用してコマンドを構成し、コマンド送信時にメッセージ記述子内で指定してください。

3052 (OBEC) (RC3052): MQRCCF_DATA_CONV_VALUE_ERROR

説明

データ変換値が無効です。

DataConversion に指定された値が無効です。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3053 (OBED) (RC3053): MQRCCF_INDOUBT_VALUE_ERROR

説明

未確定値が無効です。

InDoubt に指定された値が無効です。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3054 (OBEE) (RC3054): MQRCCF_ESCAPE_TYPE_ERROR

説明

エスケープ・タイプが無効です。

EscapeType に指定された値が無効です。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3062 (0BF6) (RC3062): MQRCCF_CHANNEL_TABLE_ERROR

説明

チャンネル・テーブル値が無効です。

指定された *ChannelTable* が無効であるか、Inquire Channel コマンドまたは Inquire Channel Names コマンドで指定されたチャンネル・タイプに対して適切ではありませんでした。

プログラマー応答

有効なチャンネル・テーブル値を指定してください。

3063 (0BF7) (RC3063): MQRCCF_MCA_TYPE_ERROR

説明

メッセージ・チャンネル・エージェント・タイプが無効です。

指定された *MCAType* 値が無効です。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3064 (0BF8) (RC3064): MQRCCF_CHL_INST_TYPE_ERROR

説明

チャンネル・インスタンス・タイプが無効です。

指定された *ChannelInstanceType* が無効です。

プログラマー応答

有効なチャンネル・インスタンス・タイプを指定してください。

3065 (0BF9) (RC3065): MQRCCF_CHL_STATUS_NOT_FOUND

説明

チャンネル状況が見つかりません。

Inquire Channel Status の場合、指定されたチャンネルで有効なチャンネル状況がありません。これは、チャンネルが使用されていないことを示している可能性があります。

プログラマー応答

ありません。これが予期しない状況である場合、システム管理者に連絡してください。

3066 (0BFA) (RC3066): MQRCCF_CFSL_DUPLICATE_PARM

説明

パラメーターが重複しています。

2つのMQCFSL構造体、あるいはMQCFSL構造体が続くMQCFSTが、同じパラメーターIDを保持しています。

プログラマー応答

重複したパラメーターを確認し、除去してください。

3067 (OBFB) (RC3067): MQRCCF_CFSL_TOTAL_LENGTH_ERROR

説明

ストリングの合計長エラー。

MQCFSL構造体におけるストリングの合計長(末尾ブランクは含まない)が、該当パラメーターに許可される最大長を超えています。

プログラマー応答

構造体が正しく指定されていることを確認し、正しく指定されている場合はストリングの数を少なくしてください。

3068 (OBFC) (RC3068): MQRCCF_CFSL_COUNT_ERROR

説明

パラメーター値のカウントが無効です。

MQCFSL *Count* フィールド値が無効でした。値が負の値であるか、または *Parameter* フィールドに指定されたパラメーターに許可されている最大値を超えています。

プログラマー応答

パラメーターについて有効なカウントを指定してください。

3069 (OBFD) (RC3069): MQRCCF_CFSL_STRING_LENGTH_ERR

説明

ストリングの長さが無効です。

MQCFSL *StringLength* フィールド値が無効でした。値が負の値であるか、*Parameter* フィールドに指定されたパラメーターの最大許容長を超えています。

プログラマー応答

パラメーターについて有効なストリングの長さを指定してください。

3070 (OBFE) (RC3070): MQRCCF_BROKER_DELETED

説明

ブローカーが削除されています。

`dltmqbrk` コマンドを使用してブローカーを削除する場合、ブローカーにより作成されたすべてのブローカー・キューが削除されます。これを実行するには、すべてのコマンド・メッセージのキューが空である必要があります。検出されたものは、この理由コードで送達不能キューに配置されます。

プログラマー応答

送達不能キューに配置されたコマンド・メッセージを処理してください。

3071 (0BFF) (RC3071): MQRCCF_STREAM_ERROR

説明

ストリーム名が無効です。

ストリーム名パラメーターが無効です。ストリーム名は、IBM MQ キューの命名規則と同じ規則に従う必要があります。

プログラマー応答

有効なストリーム名パラメーターを使用してコマンドを再試行してください。

3072 (0C00) (RC3072): MQRCCF_TOPIC_ERROR

説明

トピック名が無効です。

無効なトピック名が指定されたブローカーにコマンドが送信されました。ワイルドカード・トピック名は、*Register Publisher* コマンドおよび *Publish* コマンドでは許可されないことに注意してください。

プログラマー応答

有効なトピック名パラメーターを使用してコマンドを再試行してください。該当のトピック名の 256 文字までが、エラー応答メッセージとともに返されます。トピック名にヌル文字が含まれる場合、これはストリングを終了させるものと認識され、ストリングの一部とは認識されません。ゼロ長のトピック名、および無効なエスケープ・シーケンスを含むトピック名は無効です。

3073 (0C01) (RC3073): MQRCCF_NOT_REGISTERED

説明

サブスクライバーまたはパブリッシャーが登録されていません。

パブリッシャーまたはサブスクライバーが登録されていないトピックの登録を削除するために、*Deregister* コマンドが発行されました。コマンドで複数のトピックが指定された場合で、指定されたトピックの一部にのみサブスクライバーまたはパブリッシャーが登録されており、すべてのトピックに登録されているわけではない場合、完了コード `MQCC_WARNING` で失敗します。このエラー・コードは、サブスクリプションを持っていないトピックに対して *Request Update* コマンドを発行するサブスクライバーにも返されます。

プログラマー応答

パブリッシャーまたはサブスクライバーが登録されていない理由を確認してください。サブスクライバーの場合、サブスクリプションの有効期限が切れている可能性があります。または、サブスクライバーに現在は許可がない場合はブローカーにより自動的に除去されている可能性があります。

3074 (OC02) (RC3074): MQRCCF_Q_MGR_NAME_ERROR

説明

無効または不明なキュー・マネージャー名が指定されました。

パブリッシャー ID またはサブスクライバー ID の一部として、キュー・マネージャー名が指定されました。これは、明示的なパラメーターとして、またはコマンドのメッセージ記述子の *ReplyToQMgr* フィールドに指定されている可能性があります。キュー・マネージャー名が無効です。あるいは、サブスクライバー ID の場合は、ブローカー・キュー・マネージャーがリモート・キュー・マネージャーを認識していないために、サブスクライバーのキューを解決できませんでした。

プログラマー応答

有効なキュー・マネージャー名を指定してコマンドを再試行する。キュー・マネージャー名が有効である場合、ブローカーにより、エラー応答メッセージ内にさらにエラー理由コードが組み込まれます。提供されている場合は、[234 ページの『メッセージおよび理由コード』](#)内のその理由コードのガイダンスに従って、問題を解決してください。

3075 (OC03) (RC3075): MQRCCF_INCORRECT_STREAM

説明

ストリーム名が、送信先のストリーム・キューと一致しません。

別のストリーム名パラメーターが指定されたストリーム・キューに対してコマンドが送信されました。

プログラマー応答

正しいストリーム・キューに対して送信するか、ストリーム名パラメーターが一致するようにコマンドを変更して、コマンドを再試行してください。

3076 (OC04) (RC3076): MQRCCF_Q_NAME_ERROR

説明

無効または不明なキュー名が指定されました。

パブリッシャー ID またはサブスクライバー ID の一部として、キュー名が指定されました。これは、明示的なパラメーターとして指定されたか、あるいはコマンドのメッセージ記述子の *ReplyToQ* フィールドで指定された可能性があります。キュー名が無効です。あるいは、サブスクライバー ID の場合は、ブローカーがキューのオープンに失敗しました。

プログラマー応答

有効なキュー名を使用してコマンドを再試行してください。キュー・マネージャー名が有効である場合、ブローカーにより、エラー応答メッセージ内にさらにエラー理由コードが組み込まれます。提供されている場合は、[234 ページの『メッセージおよび理由コード』](#)内のその理由コードのガイダンスに従って、問題を解決してください。

3077 (OC05) (RC3077): MQRCCF_NO_RETAINED_MSG

説明

指定されたトピックの保存メッセージが存在しません。

Request Update コマンドが発行され、特定トピックに関連する保存メッセージが要求されました。該当トピックの保存メッセージが存在しません。

プログラマー応答

該当の1つ以上のトピックに保存メッセージが存在すべきである場合、これらのトピックのパブリッシャーが、パブリケーションを保存するための正しいパブリケーション・オプションを使用してパブリッシュを実行していない可能性があります。

3078 (OC06) (RC3078): MQRCCF_DUPLICATE_IDENTITY

説明

パブリッシャー ID またはサブスクライバー ID が、すでに別のユーザー ID に割り当てられています。

各パブリッシャーおよびサブスクライバーは、キュー・マネージャー名、キュー名、およびオプションで関連 ID により構成される固有 ID を保持します。各 ID に関連するのは、パブリッシャーまたはサブスクライバーが最初に登録したユーザー ID です。特定の ID を一度に1つのユーザー ID に対してのみ割り当てることができます。ID はブローカーとともに登録されますが、これを使用するすべてのコマンドは、正しいユーザー ID を指定する必要があります。パブリッシャーまたはサブスクライバーのブローカーへの登録がなくなった場合は、その ID を別のユーザー ID で使用できます。

プログラマー応答

別の ID を使用してコマンドを再試行するか、該当 ID に関連するすべての登録を除去し、別のユーザー ID で使用できるようにしてください。ID が現在割り当てられているユーザー ID は、エラー応答メッセージ内で返されます。*Deregister* コマンドを発行すると、これらの登録を除去できます。問題のユーザー ID でそのようなコマンドを実行することができない場合は、MQOO_ALTERNATE_USER_AUTHORITY オプションを使用して SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE をオープンするために必要な権限を持っていないければなりません。

3079 (OC07) (RC3079): MQRCCF_INCORRECT_Q

説明

コマンドが無効なブローカー・キューに送信されました。

コマンドは有効なブローカー・コマンドですが、送信先のキューが正しくありません。*Publish* および *Delete Publication* コマンドはストリーム・キューに送信する必要があり、その他のすべてのコマンドは SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE に送信する必要があります。

プログラマー応答

正しいキューに送信してコマンドを再試行してください。

3080 (OC08) (RC3080): MQRCCF_CORREL_ID_ERROR

説明

ID の一部として使用された関連 ID がすべて 2 進ゼロです。

各パブリッシャーおよびサブスクライバーは、キュー・マネージャー名、キュー名、およびオプションで関連 ID により識別されます。関連 ID は、通常、複数のサブスクライバーが同じサブスクライバー・キューを共有できるようにする目的で使用されます。この場合、パブリッシャーまたはサブスクライバーは、指定されたコマンドの Registration オプションまたは Publication オプション内で、自身の ID に関連 ID が含まれるが、有効な ID が指定されていないことを示しています。<RegOpt>CorrelAsId</RegOpt> が指定されていますが、メッセージの関連 ID は NULL です。

プログラマー応答

プログラムを変更して、コマンド・メッセージのメッセージ記述子に指定された相関 ID がすべて 2 進ゼロでないことを確認し、コマンドを再試行してください。

3081 (0C09) (RC3081): MQRCCF_NOT_AUTHORIZED

説明

サブスクライバーの権限が不十分です。

パブリケーションを受け取るには、サブスクライブ先のストリーム・キューに対するブラウズ権限と、該当パブリケーションの送信先キューに対する書き込み権限の両方を、サブスクライバー・アプリケーションが保持している必要があります。サブスクライバーが両方の権限を保持していない場合、サブスクリプションは拒否されます。サブスクライバーは、ストリーム・キューのブラウズ権限に加えて、ブローカー自体が情報をパブリッシュする特定のトピックにストリーム・キューがサブスクライブするための *altusr* 権限も必要とします。これらのトピックは MQ/SA/ 接頭部で開始されます。

プログラマー応答

サブスクライバーが必要な権限を保持していることを確認し、要求を再発行してください。ブローカーがサブスクライバーのユーザー ID を認識していない場合、問題が発生する可能性があります。エラー応答メッセージ内にさらに MQRCCF_UNKNOWN_ENTITY のエラー理由コードが返される場合、これを識別できません。

3082 (0C0A) (RC3082): MQRCCF_UNKNOWN_STREAM

説明

ブローカーがストリームを認識していないか、作成できません。

不明なストリームについて、コマンド・メッセージが SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE に書き込まれました。このエラー・コードは、動的ストリーム作成が有効であり、ブローカーが SYSTEM.BROKER.MODEL.STREAM キューを使用して新規ストリームのストリーム・キューの作成に失敗した場合も返されます。

プログラマー応答

ブローカーがサポートするストリームについてコマンドを再試行してください。ブローカーが該当ストリームをサポートしているべきである場合、ストリーム・キューを手動で定義するか、ブローカーがストリーム・キュー自体を作成できない問題を解決してください。

3083 (0C0B) (RC3083): MQRCCF_REG_OPTIONS_ERROR

説明

無効な登録オプションが指定されました。

コマンドに指定した登録オプション (<RegOpt> と </RegOpt> の間) が無効です。

プログラマー応答

有効なオプションの組み合わせを使用してコマンドを再試行してください。

3084 (0C0C) (RC3084): MQRCCF_PUB_OPTIONS_ERROR

説明

無効なパブリケーション・オプションが指定されました。

Publish コマンドに指定したパブリケーション・オプションが無効です。

プログラマー応答

有効なオプションの組み合わせを使用してコマンドを再試行してください。

3085 (OC0D) (RC3085): MQRCCF_UNKNOWN_BROKER

説明

不明なブローカーからコマンドを受信しました。

複数のブローカー・ネットワーク内では、関連するブローカーは、一連のコマンド・メッセージとして相互にサブスクリプションおよびパブリケーションを受け渡します。検出ブローカーに関連しない(または関連しなくなった)ブローカーから、そのようなコマンド・メッセージを受信しました。

プログラマー応答

ネットワークに対してトポロジー変更が行われている間にブローカー・ネットワークが静止していないと、この問題が発生する可能性があります。

キュー・マネージャーが非アクティブのときにトポロジーからブローカーを削除する場合、キュー・マネージャーの再始動時に変更は伝搬されます。

キュー・マネージャーがアクティブのときにトポロジーからブローカーを削除する場合、変更が即時に伝搬されるように、チャンネルもアクティブであることを確認してください。

3086 (OC0E) (RC3086): MQRCCF_Q_MGR_CCSID_ERROR

説明

キュー・マネージャーのコード化文字セット ID エラー。

キュー・マネージャーのコード化文字セット値が無効です。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3087 (OC0F) (RC3087): MQRCCF_DEL_OPTIONS_ERROR

説明

無効な削除オプションが指定されました。

Delete Publication コマンドで指定されたオプションが無効です。

プログラマー応答

有効なオプションの組み合わせを使用してコマンドを再試行してください。

3088 (OC10) (RC3088): MQRCCF_CLUSTER_NAME_CONFLICT

説明

`ClusterName` 属性と `ClusterNamelist` 属性が競合しています。

`ClusterName` 属性と `ClusterNamelist` 属性の両方が非空白になるため、コマンドは拒否されました。少なくともいずれか1つの属性は空白にする必要があります。

プログラマー応答

コマンドがこれらの属性のいずれか1つのみを指定した場合、空白の値を使用してもう一方も指定する必要があります。コマンドが両方の属性を指定した場合、いずれか1つが空白の値を保持することを確認してください。

3089 (OC11) (RC3089): MQRCCF_REPOS_NAME_CONFLICT

説明

`RepositoryName` 属性と `RepositoryNamelist` 属性が競合しています。

以下のいずれかを実行します。

- `RepositoryName` 属性と `RepositoryNamelist` 属性の両方が非空白になるため、コマンドは拒否されました。少なくともいずれか1つの属性は空白にする必要があります。
- `Reset Queue Manager Cluster` コマンドの場合、キュー・マネージャーは、指定したクラスターの完全なリポジトリ管理サービスを提供しません。つまり、キュー・マネージャーの `RepositoryName` 属性が指定されたクラスター名ではないか、`RepositoryNamelist` 属性で指定された名前リストにクラスター名が含まれていません。

プログラマー応答

正しい値を指定して、または正しいキュー・マネージャー上でコマンドを再発行する。

3090 (OC12) (RC3090): MQRCCF_CLUSTER_Q_USAGE_ERROR

説明

キューがクラスター・キューになることができません。

クラスター・キューが伝送キューにもなってしまうため(これは許可されない)、または該当のキューがクラスター・キューになることができないため、コマンドが拒否されました。

プログラマー応答

コマンドが次のいずれかを指定していることを確認してください。

- `MQUS_NORMAL` の値を使用した `Usage` パラメーター
- 空白の値を使用した `ClusterName` パラメーターおよび `ClusterNamelist` パラメーター
- 次の予約済みキューのいずれでもない値を使用した `QName` パラメーター
 - `SYSTEM.CHANNEL.INITQ`
 - `SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ`
 - `SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE`
 - `SYSTEM.CLUSTER.REPOSITORY.QUEUE`
 - `SYSTEM.COMMAND.INPUT`
 - `SYSTEM.QSG.CHANNEL.SYNCQ`
 - `SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE`

3091 (0C13) (RC3091): MQRCCF_ACTION_VALUE_ERROR

説明

アクション値が無効です。

Action に指定された値が無効です。有効な 1 つの値のみ存在します。

プログラマー応答

Action パラメーターの値として MQACT_FORCE_REMOVE を指定してください。

3092 (0C14) (RC3092): MQRCCF_COMMS_LIBRARY_ERROR

説明

要求通信プロトコルのライブラリーをロードできません。

要求通信プロトコルに必要なライブラリーをロードできません。

プログラマー応答

必要な通信プロトコルのライブラリーをインストールするか、すでにインストール済みの通信プロトコルを指定してください。

3093 (0C15) (RC3093): MQRCCF_NETBIOS_NAME_ERROR

説明

NetBIOS リスナー名が定義されていません。

NetBIOS リスナー名が定義されていません。

プログラマー応答

構成ファイルにローカル名を追加して操作をやり直してください。

3094 (0C16) (RC3094): MQRCCF_BROKER_COMMAND_FAILED

説明

ブローカー・コマンドを完了できません。

ブローカー・コマンドが発行されましたが、完了できません。

プログラマー応答

提示される情報を確認して問題を診断し、正しいコマンドを発行してください。

詳しくは、IBM MQ のエラー・ログを参照してください。

3095 (0C17) (RC3095): MQRCCF_CFST_CONFLICTING_PARM

説明

パラメーターが競合しています。

エラー応答で識別されたパラメーターがコマンド内の別のパラメーターと競合しているため、コマンドが拒否されました。

プログラマー応答

識別されたパラメーターの説明を確認して競合の原因を特定し、コマンドを修正してください。

3096 (0C18) (RC3096): MQRCCF_PATH_NOT_VALID

説明

パスが無効です。

指定されたパスが無効です。

プログラマー応答

有効なパスを入力してください。

3097 (0C19) (RC3097): MQRCCF_PARM_SYNTAX_ERROR

説明

パラメーターに指定された値に構文エラーがあります。

値が、以下の一般的な構文規則の 1 つに準拠していない可能性があります。

- 値に、末尾の文字ではないアスタリスク (*) が含まれている。
- 値に、疑問符 (?) またはコロン (:) が含まれている。
- キーワードが WHERE で、値がアスタリスク 1 つである。

プログラマー応答

該当パラメーターの構文を確認してください。

3098 (0C1A) (RC3098): MQRCCF_PWD_LENGTH_ERROR

説明

パスワードの長さがエラーです。

パスワード・ストリング長は、最近傍の 8 バイト単位の長さに切り上げられます。この切り上げにより、*SSLCryptoHardware* ストリングの全長がその最大長を超えます。

プログラマー応答

パスワード、または *SSLCryptoHardware* ストリングの前のフィールド・サイズを減少させてください。

3150 (0C4E) (RC3150): MQRCCF_FILTER_ERROR

説明

フィルターが無効です。次のいずれかが原因である場合があります。

1. 照会コマンド・メッセージ内のフィルターの指定が無効です。

2. パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・メッセージに指定されたコンテンツ・ベースのフィルター式に無効な構文が含まれており、使用できません。

プログラマー応答

1. 照会コマンド・メッセージ内のフィルター・パラメーター構造体の指定を修正してください。
2. パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・メッセージ内のフィルター式の構文を修正してください。フィルター式は、MQRFH2 構造体の `psc` フォルダーの `Filter` タグの値です。有効な構文の詳細については、「*WebSphere MQ Integrator V2 Programming Guide*」を参照してください。

3151 (0C4F) (RC3151): MQRCCF_WRONG_USER

説明

不正なユーザー。

更新するサブスクリプションはすでに別のユーザーにより所有されているため、要求ユーザーの代わりにパブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・メッセージを実行することはできません。サブスクリプションは、元々サブスクリプションを登録したユーザーのみ更新または登録の解除を実行できます。

プログラマー応答

既存のサブスクリプションに対してコマンドを発行する必要があるアプリケーションが、元々サブスクリプションを登録したユーザー ID により稼働していることを確認してください。または、別のユーザーについて別のサブスクリプションを使用してください。

3152 (0C50) (RC3152): MQRCCF_DUPLICATE_SUBSCRIPTION

説明

サブスクリプションがすでに存在します。

一致するサブスクリプションがすでに存在します。

プログラマー応答

新規サブスクリプション・プロパティを変更して既存のサブスクリプションと区別するか、既存のサブスクリプションを登録解除してください。その後、コマンドを再発行してください。

3153 (0C51) (RC3153): MQRCCF_SUB_NAME_ERROR

説明

サブスクリプション名パラメーターにエラーがあります。

サブスクリプション名が無効なフォーマットであるか、一致するサブスクリプション (サブスクリプション名を保持しない) がすでに存在します。

プログラマー応答

サブスクリプション名を修正するか、コマンドから除去してコマンドを再発行してください。

3154 (0C52) (RC3154): MQRCCF_SUB_IDENTITY_ERROR

説明

サブスクリプション ID パラメーターでエラーが検出されました。

指定された値が最大許可長を超えているか、サブスクリプション ID が現在はサブスクリプションの ID セットのメンバーではなく、Join 登録オプションが指定されていません。

プログラマー応答

ID 値を修正するか、Join 登録オプションを指定して、該当 ID をサブスクリプションの ID セットに追加してください。

3155 (0C53) (RC3155): MQRCCF_SUBSCRIPTION_IN_USE

説明

サブスクリプションが使用中です。

サブスクリプションの変更または登録解除が、該当セットの唯一のメンバーではない ID セットのメンバーにより試行されました。

プログラマー応答

ID セットの唯一のメンバーである場合にコマンドを再発行してください。ID セット確認を省略して変更または登録解除を強制するには、コマンド・メッセージからサブスクリプション ID を除去してコマンドを再発行してください。

3156 (0C54) (RC3156): MQRCCF_SUBSCRIPTION_LOCKED

説明

サブスクリプションがロックされています。

現在、別の ID によってサブスクリプションに排他ロックがかけられています。

プログラマー応答

この ID が排他ロックを解放するまで待機してください。

3157 (0C55) (RC3157): MQRCCF_ALREADY_JOINED

説明

この ID は、該当サブスクリプションのエントリーをすでに保持しています。

Join 登録オプションが指定されましたが、そのサブスクライバー ID は、既にサブスクリプションの ID セットのメンバーでした。

プログラマー応答

なし。コマンドは完了しており、この理由コードは警告です。

3160 (0C58) (RC3160): MQRCCF_OBJECT_IN_USE

説明

オブジェクトは、別のコマンドにより使用中です。

別のコマンドによりオブジェクトが変更されている間に、オブジェクトの変更が試行されました。

プログラマー応答

コマンドを再試行する。

3161 (0C59) (RC3161): MQRCCF_UNKNOWN_FILE_NAME

説明

ファイルが CICS に定義されていません。

ファイル名パラメーターにより、CICS に定義されていないファイルが識別されました。

プログラマー応答

有効なファイル名を指定するか、必要なファイルについて CSD 定義を作成してください。

3162 (0C5A) (RC3162): MQRCCF_FILE_NOT_AVAILABLE

説明

CICS がファイルを使用できません。

ファイル名パラメーターにより、CICS に定義されたファイルが識別されましたが、使用できません。

プログラマー応答

該当ファイルの CSD 定義が正しく、有効であることを確認してください。

3163 (0C5B) (RC3163): MQRCCF_DISC_RETRY_ERROR

説明

切断再試行カウントが無効です。

DiscRetryCount 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なカウントを指定してください。

3164 (0C5C) (RC3164): MQRCCF_ALLOC_RETRY_ERROR

説明

割り振り再試行カウントが無効です。

AllocRetryCount 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なカウントを指定してください。

3165 (0C5D) (RC3165): MQRCCF_ALLOC_SLOW_TIMER_ERROR

説明

割り振り低速再試行タイマー値が無効です。
AllocRetrySlowTimer 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なタイマー値を指定してください。

3166 (0C5E) (RC3166): MQRCCF_ALLOC_FAST_TIMER_ERROR

説明

割り振り高速再試行タイマー値が無効です。
AllocRetryFastTimer 値が無効でした。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3167 (0C5F) (RC3167): MQRCCF_PORT_NUMBER_ERROR

説明

ポート番号の値が無効です。
PortNumber 値が無効でした。

プログラマー応答

有効なポート番号値を指定してください。

3168 (0C60) (RC3168): MQRCCF_CHL_SYSTEM_NOT_ACTIVE

説明

チャンネル・システムがアクティブではありません。
チャンネル・システムがアクティブでないのに、チャンネルの始動が試行されました。

プログラマー応答

チャンネルを始動する前にチャンネル・システムをアクティブにしてください。

3169 (0C61) (RC3169): MQRCCF_ENTITY_NAME_MISSING

説明

必要なエンティティ名が欠落しています。
エンティティ名を指定するパラメーターを指定する必要があります。

プログラマー応答

必要なパラメーターを指定してください。

3170 (0C62) (RC3170): MQRCCF_PROFILE_NAME_ERROR

説明

プロファイル名が無効です。

プロファイル名が無効です。プロファイル名にワイルドカード文字が含まれているか、プロファイル名が明示的に指定されている可能性があります。プロファイル名を明示的に指定する場合、プロファイル名により識別されるオブジェクトが存在する必要があります。このエラーは、プロファイル名に複数の二重アスタリスクを指定した場合にも発生する可能性があります。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

3171 (0C63) (RC3171): MQRCCF_AUTH_VALUE_ERROR

説明

権限值が無効です。

AuthorizationList パラメーター、**AuthorityRemove** パラメーター、または **AuthorityAdd** パラメーターの値が無効でした。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

3172 (0C64) (RC3172): MQRCCF_AUTH_VALUE_MISSING

説明

必要な権限值が欠落しています。

権限值を指定するパラメーターを指定する必要があります。

プログラマー応答

必要なパラメーターを指定してください。

3173 (0C65) (RC3173): MQRCCF_OBJECT_TYPE_MISSING

説明

必要なオブジェクト・タイプ値が欠落しています。

オブジェクト・タイプを指定するパラメーターを指定する必要があります。

プログラマー応答

必要なパラメーターを指定してください。

3174 (0C66) (RC3174): MQRCCF_CONNECTION_ID_ERROR

説明

接続 ID パラメーターにエラーがあります。
指定された *ConnectionId* が無効です。

プログラマー応答

有効な接続 ID を指定してください。

3175 (0C67) (RC3175): MQRCCF_LOG_TYPE_ERROR

説明

ログ・タイプが無効です。
指定されたログ・タイプ値が無効です。

プログラマー応答

有効なログ・タイプ値を指定してください。

3176 (0C68) (RC3176): MQRCCF_PROGRAM_NOT_AVAILABLE

説明

プログラムを使用できません。
プログラムを始動する要求が失敗したため、サービスを開始または停止する要求が失敗しました。これは、プログラムが指定した場所に存在しないか、始動するためのシステム・リソースが現在不足していることが原因である可能性があります。

プログラマー応答

要求を再試行する前に、正しい名前がサービスの定義に指定されていること、およびプログラムが適切なライブラリーに存在することを確認してください。

3177 (0C69) (RC3177): MQRCCF_PROGRAM_AUTH_FAILED

説明

プログラムを使用できません。
指定した場所でプログラムを始動するための十分なアクセス権限をユーザーが保持していないため、サービスを開始または停止する要求が失敗しました。

プログラマー応答

要求を再試行する前に、プログラム名、場所、およびユーザーの権限を修正してください。

3200 (0C80) (RC3200): MQRCCF_NONE_FOUND

説明

要求基準に一致する項目が見つかりません。
Inquire コマンドにより、指定された名前に一致する項目、および要求された他の基準を満たす項目が見つかりません。

3201 (OC81) (RC3201): MQRCCF_SECURITY_SWITCH_OFF

説明

セキュリティー・リフレッシュまたは再検証が処理されません。セキュリティー・スイッチが OFF に設定されています。

どちらも

- Reverify Security コマンドが発行されましたが、サブシステムのセキュリティー・スイッチが OFF であるため、再検証のフラグを立てる内部制御テーブルが存在しません。
- Refresh Security コマンドが発行されましたが、要求されたクラスのセキュリティー・スイッチまたはサブシステム・セキュリティー・スイッチが OFF です。

該当するスイッチは、メッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_SECURITY_SWITCH)。

3202 (OC82) (RC3202): MQRCCF_SECURITY_REFRESH_FAILED

説明

セキュリティー・リフレッシュが行われませんでした。

外部セキュリティー・マネージャー (ESM) への SAF RACROUTE REQUEST=STAT 呼び出しがゼロ以外の戻りコードを返しました。これにより、要求されたセキュリティー・リフレッシュを実行できませんでした。影響されるセキュリティー項目は、メッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_SECURITY_ITEM)。

この問題の考えられる原因は以下のとおりです。

- クラスが未インストール
- クラスが非アクティブ
- 外部セキュリティー・マネージャー (ESM) が非アクティブ
- RACF z/OS ルーター表が正しくない。

プログラマー応答

この問題の解決方法については、メッセージ CSQH003I と CSQH004I の説明を参照してください。

3203 (OC83) (RC3203): MQRCCF_PARM_CONFLICT

説明

パラメーターまたはパラメーター値が対応していません。

コマンドのパラメーターまたはパラメーター値が非互換です。次のいずれかが起こりました。

- 別のパラメーターまたはパラメーター値に必要なパラメーターが指定されていません。
- 他の一部のパラメーターまたはパラメーター値では許可されないパラメーターまたはパラメーター値が指定されています。
- 指定された 2 つのパラメーターの値が両方ともブランクまたは非ブランクではありません。
- 指定された 2 つのパラメーターの値が非互換です。
- 指定された値は構成と矛盾しています。

該当するパラメーターは、メッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

プログラマー応答

正しいパラメーターと値でコマンドを再発行する。

3204 (0C84) (RC3204): MQRCCF_COMMAND_INHIBITED

説明

現在コマンドは許可されません。

再始動中または終了中であるか、コマンド・サーバーが稼働していないため、キュー・マネージャーは現在コマンドを受け入れることができません。

3205 (0C85) (RC3205): MQRCCF_OBJECT_BEING_DELETED

説明

オブジェクトは削除中です。

コマンドで指定されたオブジェクトは削除処理中であるため、コマンドは無視されます。

3207 (0C87) (RC3207): MQRCCF_STORAGE_CLASS_IN_USE

説明

記憶域クラスがアクティブであるか、キューが使用中です。

ローカル・キューに対するコマンドで *StorageClass* 値が変更されましたが、キューにメッセージがあるか、他のスレッドがキューをオープンしています。

プログラマー応答

キューからメッセージを除去するか、他のスレッドがキューをクローズするまで待機してください。

3208 (0C88) (RC3208): MQRCCF_OBJECT_NAME_RESTRICTED

説明

非互換のオブジェクト名およびタイプ。

コマンドが、不正なオブジェクト・タイプまたはサブタイプを指定して予約済みオブジェクト名を使用しました。メッセージ CSQM108I の説明でリストされているように、オブジェクトには所定のタイプのみ指定できます。

3209 (0C89) (RC3209): MQRCCF_OBJECT_LIMIT_EXCEEDED

説明

ローカル・キューの制限を超えました。

これ以上ローカル・キューを定義できないため、コマンドは失敗しました。存在可能なローカル・キューの総数には、524 287 のインプリメンテーション制限がある。共有キューの場合には、カップリング・ファシリティ構造体 1 つにつきキュー数は 512 個という制限があります。

プログラマー応答

不要な既存キューを削除してください。

3210 (0C8A) (RC3210): MQRCCF_OBJECT_OPEN_FORCE

説明

オブジェクトは使用中ですが、*Force* に MQFC_YES を指定して変更することができます。

指定されたオブジェクトは使用中です。これは、API を使用してオープンしていること、あるいは特定のパラメーター変更の場合はキューに現在メッセージが存在することが原因である可能性があります。要求された変更は、Change コマンドで *Force* に MQFC_YES を指定することによって行うことができます。

プログラマー応答

オブジェクトが使用されなくなるまで待機してください。あるいは、変更コマンドの場合は、*Force* に MQFC_YES を指定します。

3211 (0C8B) (RC3211): MQRCCF_DISPOSITION_CONFLICT

説明

パラメーターと属性指定が対応していません。

コマンドのパラメーターまたはパラメーター値が、オブジェクトの処理と非互換です。次のいずれかが起こりました。

- オブジェクト名または他のパラメーターに指定された値は、処理が共用されているローカル・キュー、または共用されている動的キューの作成に使用するモデル・キューに対して許可されません。
- パラメーターに指定された値は、該当の処理を行うオブジェクトに対して許可されません。
- パラメーターに指定された値は、該当の処理を行うオブジェクトに対して非ブランクである必要があります。
- **CommandScope** を **QSGDisposition** または **ChannelDisposition** パラメーター値と一緒に指定することはできません。
- チャンネルの属性指定が適切でないため、チャンネルに対して要求されたアクションを実行できません。

問題のパラメーターと属性指定がメッセージ内に返されているはずですが (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID と MQIA_QSG_DISP)。

プログラマー応答

正しいパラメーターと値でコマンドを再発行する。

3212 (0C8C) (RC3212): MQRCCF_Q_MGR_NOT_IN_QSG

説明

キュー・マネージャーがキュー共用グループ内にない。

キュー・マネージャーがキュー共用グループに存在しない場合、このコマンドまたはパラメーターは許可されません。該当するパラメーターは、メッセージで返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

プログラマー応答

コマンドを正しく再発行する。

3213 (0C8D) (RC3213): MQRCCF_ATTR_VALUE_FIXED

説明

パラメーター値を変更できません。

パラメーターの値を変更できません。該当するパラメーターは、メッセージで返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

プログラマー応答

パラメーターを変更するには、オブジェクトを削除し、新しい値を使用して再作成する必要があります。

3215 (0C8F) (RC3215): MQRCCF_NAMELIST_ERROR

説明

名前リストが空であるか、不正なタイプです。

クラスター・リストの指定に使用する名前リストに名前が存在しないか、タイプが MQNT_CLUSTER または MQNT_NONE ではありません。

プログラマー応答

空でなく、適切なタイプの名前リストを指定してコマンドを再発行してください。

3217 (0C91) (RC3217): MQRCCF_NO_CHANNEL_INITIATOR

説明

チャンネル・イニシエーターがアクティブではありません。

このコマンドでは、チャンネル・イニシエーターが始動している必要があります。

3218 (0C93) (RC3218): MQRCCF_CHANNEL_INITIATOR_ERROR

説明

チャンネル・イニシエーターを開始できないか、適切なチャンネル・イニシエーターが使用できない。

これは、次の理由で発生する場合があります。

- チャンネル・イニシエーターを次の理由で開始できない。
 - すでにアクティブである
 - システム・リソースが不十分である
 - キュー・マネージャーがシャットダウン中である
- キュー共有グループ内のアクティブなキュー・マネージャーが使用可能である適切なチャンネル・イニシエーターが存在しないため、共有チャンネルを始動できません。この理由として、次のことが考えられる。
 - チャンネル・イニシエーターが稼働していない
 - 実行中のチャンネル・イニシエーターの使用率が高すぎて、チャンネルまたは特定のタイプのチャンネルを開始できない。

3222 (0C96) (RC3222): MQRCCF_COMMAND_LEVEL_CONFLICT

説明

キュー・マネージャーのコマンド・レベルが非互換です。

CF 構造体の **CFLevel1** パラメーターを変更したり、CF 構造体を削除したりするには、キュー共有グループのすべてのキュー・マネージャーが少なくとも 530 のコマンド・レベルを保持している必要があります。一部のキュー・マネージャーのレベルが、530 未満になっています。

3223 (OC97) (RC3223): MQRCCF_Q_ATTR_CONFLICT

説明

キュー属性が非互換です。

Move Queue コマンドに関するキューは、*DefinitionType*、*HardenGetBackout*、*Usage* の 1 つ以上の属性に対して異なる値を持っています。これらの属性が異なる場合、メッセージを安全に移動することはできません。

3224 (OC98) (RC3224): MQRCCF_EVENTS_DISABLED

説明

イベントを使用できません。

このコマンドでは、パフォーマンス・イベントまたは構成イベントが使用可能である必要があります。

プログラマー応答

必要に応じて、Change Queue マネージャー・コマンドを使用してイベントを使用可能にしてください。

3225 (OC99) (RC3225): MQRCCF_COMMAND_SCOPE_ERROR

説明

キュー共有グループ・エラー。

CommandScope パラメーターを使用したコマンドの処理中に、カップリング・ファシリティにデータを送信しようとしたときにエラーが発生しました。

プログラマー応答

システム・プログラマーに通知してください。

3226 (OC9A) (RC3226): MQRCCF_COMMAND_REPLY_ERROR

説明

コマンド応答情報の保管でエラーが発生しました。

CommandScope パラメーターを使用したコマンド、またはチャンネル・イニシエーターのコマンドの処理中に、コマンドに関する情報を保管しようとしたときにエラーが発生しました。

プログラマー応答

ストレージ不足が原因である場合が多い。問題が継続する場合には、さらに多くのストレージを使用可能にした後に、キュー・マネージャーを再始動する必要がある。

3227 (OC9B) (RC3227): MQRCCF_FUNCTION_RESTRICTED

説明

制限付きのコマンドまたはパラメーター値が使用されました。

選択したインストール・オプションおよびカスタマイズ・オプションではすべての機能の使用が許可されるわけではないため、このコマンド、またはそのパラメーターの1つに指定された値は許可されません。該当するパラメーターは、メッセージで返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

3228 (0C9C) (RC3228): MQRCCF_PARM_MISSING

説明

必須パラメーターが指定されていません。

コマンドで、必要なパラメーターまたはパラメーター値が指定されていません。これは、次のいずれかの理由で発生する場合があります。

- 常に必要なパラメーター。
- 複数の代替必須パラメーター・セットの1つであるパラメーター。
- 他の一部のパラメーターが指定されたために必要なパラメーター。
- 値の数が不足している値リストであるパラメーター。

該当するパラメーターは、メッセージで返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

プログラマー応答

正しいパラメーターと値でコマンドを再発行する。

3229 (0C9D) (RC3229): MQRCCF_PARM_VALUE_ERROR

説明

パラメーター値が無効です。

パラメーターに指定された値は使用できません。これは、次のいずれかの理由で発生する場合があります。

- 該当パラメーターに使用可能な数値範囲を超えている。
- 該当パラメーターに使用可能な値のリストの1つではない。
- 該当パラメーターに対して無効な文字を使用している。
- 完全にブランクであり、これが該当パラメーターには使用できない。
- 該当パラメーターに対して無効なフィルター値がフィルタリングされている。

該当するパラメーターは、メッセージで返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_PARAMETER_ID)。

プログラマー応答

正しいパラメーターと値でコマンドを再発行する。

3230 (0C9E) (RC3230): MQRCCF_COMMAND_LENGTH_ERROR

説明

コマンドが許容される長さを超えています。

コマンドが長すぎるため、その内部フォームが許容される最大長を超えています。コマンドの内部形式の大きさは、コマンドの長さと同様の影響を受ける

z/OS この戻りコードは、CMDSCOPE の使用時に応答の内部形式がサポートされているサイズより大きい場合、z/OS でも戻されます。

3231 (OC9F) (RC3231): MQRCCF_COMMAND_ORIGIN_ERROR

説明

コマンドが不正に発行されました。

コマンド・サーバーを使用してコマンドを発行できません。これは内部エラーです。

プログラマー応答

システム・プログラマーに通知してください。

3232 (OCA0) (RC3232): MQRCCF_LISTENER_CONFLICT

説明

リスナーのアドレスが競合しています。

リスナーは、Start Channel Listener コマンドまたは Stop Channel Listener コマンドによって指定された *Port* 値および *IPAddress* 値と競合するポートと IP アドレスの組み合わせに対して既にアクティブになっていました。指定する *Port* 値と *IPAddress* 値の組み合わせは、リスナーがアクティブになっている組み合わせと一致している必要があります。その組み合わせのスーパーセットまたはサブセットにすることはできません。

プログラマー応答

必要に応じて、正しい値を使用してコマンドを再発行してください。

3233 (OCA1) (RC3233): MQRCCF_LISTENER_STARTED

説明

リスナーが始動しています。

リスナーの始動が試行されましたが、要求された *TransportType*、*InboundDisposition*、*Port*、および *IPAddress* 値についてリスナーがすでにアクティブです。該当する場合、要求されたパラメーター値はメッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE、MQIACH_INBOUND_DISP、MQIACH_PORT_NUMBER、MQCACH_IP_ADDRESS)。

3234 (OCA2) (RC3234): MQRCCF_LISTENER_STOPPED

説明

リスナーが停止しています。

リスナーの停止が試行されましたが、要求された *TransportType*、*InboundDisposition*、*Port*、および *IPAddress* 値についてリスナーがアクティブでないか、あるいはすでに停止しています。該当する場合、要求されたパラメーター値はメッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE、MQIACH_INBOUND_DISP、MQIACH_PORT_NUMBER、MQCACH_IP_ADDRESS)。


3235 (OCA3) (RC3235): MQRCCF_CHANNEL_ERROR

説明

チャンネル・コマンドが失敗しました。

チャンネル定義、チャンネルのリモート・エンド、または通信システムのエラーにより、チャンネル・コマンドが失敗しました。エラー ID 値 *nnn* は、メッセージ内に返される場合があります(パラメーター ID MQIACF_ERROR_ID)。

プログラマー応答

エラーについては、該当するエラー・メッセージの説明を参照してください。通常、エラーの *nnn* はメッセージ CSQX の *nnn* に一致します(一部例外もあります)。  詳しくは、[1125 ページの『分散キューイング・メッセージ・コード』](#)を参照してください。

3236 (OCA4) (RC3236): MQRCCF_CF_STRUC_ERROR

説明

CF 構造体エラー。

カップリング・ファシリティまたは CF 構造体のエラーにより、コマンドを処理できません。次のいずれかの可能性があります。

- CF 構造体の状況が不適切である場合の Backup CF Structure コマンドまたは Recover CF Structure コマンドである。この場合、CF 構造体名とともに、メッセージ内に CF 構造体状況が返される場合があります(パラメーター ID MQIACF_CF_STRUC_STATUS および MQCA_CF_STRUC_NAME)。
- カップリング・ファシリティ情報のエラーにより、または CF 構造体に障害が発生したことにより、コマンドがオブジェクトにアクセスできない。この場合、関連するオブジェクト名がメッセージ内に返される場合があります(パラメーター ID MQCA_Q_NAME など)。
- 共用チャンネルを指定するコマンドが、チャンネル状況情報または同期キー情報にアクセスできない。

プログラマー応答

Backup CF Structure コマンドまたは Recover CF Structure コマンドの場合、報告された CF 構造体状況に適切なアクションを実行してください。

それ以外の場合、コンソール・ログで、問題に関連する可能性があるエラー・メッセージを確認してください。カップリング・ファシリティ構造体に障害があるかどうか、および Db2 が使用可能であるかどうかを確認してください。

3237 (OCA5) (RC3237): MQRCCF_UNKNOWN_USER_ID

説明

ユーザー ID が見つかりません。

内部制御テーブルで該当する項目が見つからないため、Reverify Security コマンドに指定されたユーザー ID は無効です。これは、コマンドで入力された ID が誤っているか、テーブルに存在しないこと(タイムアウトなどにより)が原因である可能性があります。該当するユーザー ID は、メッセージ内に返される場合があります(パラメーター ID MQCACF_USER_IDENTIFIYER)。

3238 (OCA6) (RC3238): MQRCCF_UNEXPECTED_ERROR

説明

予期しないエラーまたは重大エラー。

予期しないエラー、重大エラー、またはその他の障害が発生しました。エラーに関連するコードは、メッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQIACF_ERROR_ID)。

プログラマー応答

システム・プログラマーに通知してください。

3239 (OCA7) (RC3239): MQRCCF_NO_XCF_PARTNER

説明

MQ が XCF パートナーに接続されていない。

MQ が XCF パートナーに接続されていないため、IMS ブリッジに関連するコマンドを処理できません。該当する XCF パートナーのグループおよびメンバーの名前は、メッセージ内に返される場合があります (パラメーター ID MQCA_XCF_GROUP_NAME および MQCA_XCF_MEMBER_NAME)。

3240 (OCA8) (RC3240): MQRCCF_CFGR_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFGR *Parameter* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3241 (OCA9) (RC3241): MQRCCF_CFIF_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFIF *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3242 (OCAA) (RC3242): MQRCCF_CFIF_OPERATOR_ERROR

説明

パラメーター・カウントが無効です。

MQCFIF *Operator* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なオペレーター値を指定してください。

3243 (OCAB) (RC3243): MQRCCF_CFIF_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFIF *Parameter* フィールド値が無効であるか、フィルタリングできないパラメーターを指定しているか、オブジェクトのサブセットを選択するためのパラメーターとしても指定されています。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3244 (OCAC) (RC3244): MQRCCF_CFSF_FILTER_VAL_LEN_ERR

説明

フィルター値の長が無効です。

MQCFSF *FilterValueLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な長さを指定してください。

3245 (OCAD) (RC3245): MQRCCF_CFSF_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長が無効です。

MQCFSF *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3246 (OCAE) (RC3246): MQRCCF_CFSF_OPERATOR_ERROR

説明

パラメーター・カウントが無効です。

MQCFSF *Operator* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なオペレーター値を指定してください。

3247 (OCAF) (RC3247): MQRCCF_CFSF_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFSF *Parameter* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3248 (OCB0) (RC3248): MQRCCF_TOO_MANY_FILTERS

説明

フィルターが多すぎます。

許可される最大数を超えるフィルター構造がコマンドに含まれています。

プログラマー応答

コマンドを正しく指定してください。

3249 (OCB1) (RC3249): MQRCCF_LISTENER_RUNNING

説明

リスナーが稼働しています。

リスナーでの操作の実行が試行されましたが、現在アクティブです。

プログラマー応答

必要に応じてリスナーを停止してください。

3250 (OCB2) (RC3250): MQRCCF_LSTR_STATUS_NOT_FOUND

説明

リスナー状況が見つかりません。

Inquire Listener Status の場合、指定されたリスナーで有効なリスナー状況がありません。これは、リスナーが使用されていなかったことを示している可能性があります。

プログラマー応答

ありません。これが予期しない状況である場合、システム管理者に連絡してください。

3251 (OCB3) (RC3251): MQRCCF_SERVICE_RUNNING

説明

サービスが実行されています。

サービスでの操作の実行が試行されましたが、現在アクティブです。

プログラマー応答

必要に応じてサービスを停止してください。

3252 (OCB4) (RC3252): MQRCCF_SERV_STATUS_NOT_FOUND

説明

サービス状況が見つかりません。

Inquire Service Status の場合、指定されたサービスで有効なサービス状況がありません。このサービスは使用されていない可能性があります。

プログラマー応答

ありません。これが予期しない状況である場合、システム管理者に連絡してください。

3253 (OCB5) (RC3253): MQRCCF_SERVICE_STOPPED

説明

サービスが停止しています。

サービスの停止が試行されましたが、アクティブでないか、すでに停止しています。

3254 (OCB6) (RC3254): MQRCCF_CFBS_DUPLICATE_PARM

説明

パラメーターが重複しています。

2つの MQCFBS 構造体と同じパラメーター ID を保持しています。

プログラマー応答

重複したパラメーターを確認し、除去してください。

3255 (OCB7) (RC3255): MQRCCF_CFBS_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFBS *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3256 (OCB8) (RC3256): MQRCCF_CFBS_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFBS *Parameter* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3257 (OCB9) (RC3257): MQRCCF_CFBS_STRING_LENGTH_ERR

説明

ストリングの長さが無効です。

MQCFBS *StringLength* フィールド値が無効でした。値が負の値であるか、*Parameter* フィールドに指定されたパラメーターの最大許容長を超えています。

プログラマー応答

パラメーターについて有効なストリングの長さを指定してください。

3258 (OCBA) (RC3258): MQRCCF_CFGR_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFGR *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3259 (OCBB) (RC3259): MQRCCF_CFGR_PARM_COUNT_ERROR

説明

パラメーター・カウントが無効です。

MQCFGR *ParameterCount* フィールド値が無効でした。値が負の値であるか、または *Parameter* フィールドに指定されたパラメーター ID に許可されている最大値を超えています。

プログラマー応答

パラメーターについて有効なカウントを指定してください。

3260 (OCBC) (RC3260): MQRCCF_CONN_NOT_STOPPED

説明

接続が停止されませんでした。

Stop Connection コマンドを実行できなかったため、接続が停止されませんでした。

3261 (OCBD) (RC3261): MQRCCF_SERVICE_REQUEST_PENDING

説明

Suspend コマンド、Resume Queue Manager コマンド、または Refresh Security コマンドが発行されましたが、このようなコマンドは現在進行中です。

プログラマー応答

現在の要求が完了するまで待機し、必要に応じてコマンドを再発行してください。

3262 (OCBE) (RC3262): MQRCCF_NO_START_CMD

説明

開始コマンドが指定されていません。

開始コマンドがサービス定義に指定されていないため、サービスを開始できません。

プログラマー応答

サービスの定義を修正してください。

3263 (OCBF) (RC3263): MQRCCF_NO_STOP_CMD

説明

停止コマンドが指定されていません。

停止コマンドがサービス定義に指定されていないため、サービスを停止できません。

プログラマー応答

サービスの定義を修正してください。

3264 (OCC0) (RC3264): MQRCCF_CFBF_LENGTH_ERROR

説明

構造体の長さが無効です。

MQCFBF *StrucLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な構造体の長さを指定してください。

3265 (OCC1) (RC3265): MQRCCF_CFBF_PARM_ID_ERROR

説明

パラメーター ID が無効です。

MQCFBF *Parameter* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なパラメーター ID を指定してください。

3266 (OCC2) (RC3266): MQRCCF_CFBF_FILTER_VAL_LEN_ERR

説明

フィルター値の長さが無効です。

MQCFBF *FilterValueLength* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効な長さを指定してください。

3267 (OCC3) (RC3267): MQRCCF_CFBF_OPERATOR_ERROR

説明

パラメーター・カウントが無効です。

MQCFBF *Operator* フィールド値が無効でした。

プログラマー応答

有効なオペレーター値を指定してください。

3268 (OCC4) (RC3268): MQRCCF_LISTENER_STILL_ACTIVE

説明

リスナーがまだアクティブです。

リスナーの停止が試行されましたが、失敗し、リスナーはアクティブのままになっています。例えば、まだアクティブなチャンネルがリスナーに存在する可能性があります。

プログラマー応答

リスナーへのアクティブな接続が完了してから、要求を再試行してください。

3269 (OCC5) (RC3269): MQRCCF_DEF_XMIT_Q_CLUS_ERROR

説明

指定したキューは、クラスター化による独占的な使用に対して予約されているので、デフォルトの伝送キューとして使用できない。

プログラマー応答

デフォルトの伝送キューの値を変更して、コマンドを再試行してください。

3300 (OCE4) (RC3300): MQRCCF_TOPICSTR_ALREADY_EXISTS

説明

指定されたトピック・ストリングは、別のトピック・オブジェクト内に既に存在します。

プログラマー応答

使用されたトピック・ストリングが正しいことを確認してください。

3301 (OCE5) (RC3301): MQRCCF_SHARING_CONVS_ERROR

説明

チャンネル定義の *SharingConversations* パラメーターに無効な値が指定されました。

プログラマー応答

PCF *SharingConversations* (MQCFIN) パラメーターに使用された値を訂正してください。詳細については、[Change Channel](#)、[Copy Channel](#)、および [Create Channel](#) を参照してください。

3302 (OCE6) (RC3302): MQRCCF_SHARING_CONVS_TYPE

説明

このチャンネル・タイプに対して、SharingConversations パラメーターは使用できません。

プログラマー応答

[Change Channel](#)、[Copy Channel](#)、および [Create Channel](#) を参照し、チャンネル・タイプが SharingConversations パラメーターと互換性があることを確認してください。

3303 (OCE7) (RC3303): MQRCCF_SECURITY_CASE_CONFLICT

説明

Refresh Security PCF コマンドが発行されましたが、現在使用されている大/小文字がシステムの設定と異なります。リフレッシュすると、異なる大/小文字の設定を使用するクラス・セットになります。

プログラマー応答

使用されたクラスが正しくセットアップされており、システムの設定が正しいことを確認してください。大/小文字の設定を変更する必要がある場合は、REFRESH SECURITY(*) コマンドを発行してすべてのクラスを変更してください。

3305 (OCE9) (RC3305): MQRCCF_TOPIC_TYPE_ERROR

説明

無効な TopicType パラメーターを指定した PCF コマンド Inquire Topic または Delete Topic が発行されました。

プログラマー応答

TopicType パラメーターを訂正し、コマンドを再発行してください。TopicType の詳細については、[Change Topic](#)、[Copy Topic](#)、および [Create Topic](#) を参照してください。

3306 (OCEA) (RC3306): MQRCCF_MAX_INSTANCES_ERROR

説明

チャンネル定義において、サーバー接続チャンネルの同時インスタンスの最大数 (MaxInstances) に対して、無効な値が指定されました。

プログラマー応答

詳細について、[Change Channel](#)、[Copy Channel](#)、および [Create Channel](#) を参照し、PCF アプリケーションを修正してください。

3307 (OCEB) (RC3307): MQRCCF_MAX_INSTS_PER_CLNT_ERR

説明

MaxInstancesPerClient プロパティに無効な値が指定されました。

プログラマー応答

値の範囲について、[Change Channel](#)、[Copy Channel](#)、および [Create Channel](#) を参照し、アプリケーションを修正してください。

3308 (OCEC) (RC3308): MQRCCF_TOPIC_STRING_NOT_FOUND

説明

Inquire Topic Status コマンドの処理時に、指定されたトピック・ストリングがトピック・ツリー内のどのトピック・ノードにも一致しませんでした。

プログラマー応答

トピック・ストリングが正しいことを確認してください。

3309 (OCED) (RC3309): MQRCCF_SUBSCRIPTION_POINT_ERR

説明

サブスクリプション・ポイントが無効です。有効なサブスクリプション・ポイントは、SYSTEM.QPUBSUB.SUBPOINT.NAMELIST にリストされているトピック・オブジェクトのトピック・ストリングです。

プログラマー応答

SYSTEM.QPUBSUB.SUBPOINT.NAMELIST にリストされているトピック・オブジェクトのトピック・ストリングと一致するサブスクリプション・ポイントを使用してください (または、サブスクリプション・ポイント・パラメーターを除去すると、デフォルトのサブスクリプション・ポイントが使用されます)。

3311 (OCEF) (RC2432): MQRCCF_SUB_ALREADY_EXISTS

説明

Copy Subscription コマンドまたは Create Subscription コマンドを処理するときに、宛先の *Subscription ID* が存在しています。

プログラマー応答

既存のサブスクリプションをコピーしている場合は、*ToSubscriptionName* パラメーターに固有値が指定されていることを確認してください。サブスクリプションを作成している場合は、*SubName* パラメーターと、*TopicObject* パラメーターまたは *TopicString* パラメーターの組み合わせが固有であることを確認してください。

3314 (OCF2) (RC3314): MQRCCF_DURABILITY_NOT_ALLOWED

説明

MQSO_DURABLE オプションを使用する MQSUB 呼び出しが失敗しました。これは、次のいずれかの理由で起こります。

- サブスクライブ先のトピックが DURSUB(NO) として定義されている。
- SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE という名前のキューが使用できない。
- サブスクライブ先のトピックが、MCAST(ONLY) と DURSUB(YES) の両方として定義されている (または DURSUB(ASPARENT) および親が DURSUB(YES))。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

永続サブスクリプションは SYSTEM.DURABLE.SUBSCRIBER.QUEUE に保管されます。このキューが使用可能であるようにしてください。失敗の理由としては、キューが満杯である、キューが書き込み禁止になっている、キューが存在しない、または (z/OS の場合) キューが使用するよう定義されているページ・セットが存在しない、などが考えられます。

サブスクライブ先のトピックが DURSUB(NO) として定義されている場合は、DURSUB(YES) を使用するよう管理トピック・ノードを変更するか、または代わりに MQSO_NON_DURABLE オプションを使用します。

IBM MQ マルチキャスト・メッセージングを使用しているときにサブスクライブ先のトピックが MCAST(ONLY) として定義されている場合、DURSUB(NO) を使用するようトピックを変更します。

3317 (OCF5) (RC3317): MQRCCF_INVALID_DESTINATION

説明

Change、Copy、Create、または Delete の各 PCF コマンドで使用されたサブスクリプション・オブジェクトまたはトピック・オブジェクトが無効です。

プログラマー応答

使用している特定のコマンドの必須パラメーターを調べて、訂正してください。詳細については、[Change Subscription](#)、[Copy Subscription](#)、および [Create Subscription](#) を参照してください。

3318 (OCF6) (RC3318): MQRCCF_PUBSUB_INHIBITED

説明

すべてのパブリッシュ/サブスクライブのトピックについて、MQSUB、MQOPEN、MQPUT、および MQPUT1 呼び出しの使用が現在禁止されています。これは、キュー・マネージャー属性 PSMODE によって禁止されているか、キュー・マネージャーの開始時にパブリッシュ/サブスクライブ状態の処理が失敗したか、またはその処理がまだ完了していないことが原因です。

完了コード

MQCC_FAILED

プログラマー応答

このキュー・マネージャーが意図的にパブリッシュ/サブスクライブの使用を禁止していない場合は、キュー・マネージャー開始時の障害を説明するエラー・メッセージがないか調べるか、または開始処理が完了するまで待ってください。DISPLAY PUBSUB コマンドを使用して、パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンの状況を調べて、そのエンジンを使用可能にします。また、z/OS では情報メッセージ CSQM076I を受け取ります。

3326 (OCFE) (RC3326): MQRCCF_CHLAUTH_TYPE_ERROR

説明

チャンネル認証レコード・タイプが無効です。

set コマンドで指定された **type** パラメーターが無効です。

プログラマー応答

有効なタイプを指定してください。

3327 (OCFF) (RC3327): MQRCCF_CHLAUTH_ACTION_ERROR

説明

チャンネル認証レコード・アクションが無効です。

set コマンドで指定された **action** パラメーターが無効です。

プログラマー応答

有効なアクションを指定してください。

3335 (OD07) (RC3335): MQRCCF_CHLAUTH_USRSRC_ERROR

説明

チャンネル認証レコード・ユーザー・ソースが無効です。

set コマンドで指定された **user source** パラメーターが無効です。

プログラマー応答

有効なユーザー・ソースを指定してください。

3336 (OD08) (RC3336): MQRCCF_WRONG_CHLAUTH_TYPE

説明

このチャンネル認証レコード・タイプでは許可されないパラメーターです。

設定されているタイプのチャンネル認証レコードではこのパラメーターは許可されません。エラーになったパラメーターの説明を参照し、このパラメーターが有効なレコード・タイプを判別してください。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

3337 (OD09) (RC3337): MQRCCF_CHLAUTH_ALREADY_EXISTS

説明

チャンネル認証レコードは既に存在しています。

チャンネル認証レコードを追加しようとしたが、チャンネル認証レコードは既に存在しています。

プログラマー応答

アクションに MQACT_REPLACE を指定してください。

3338 (OD0A) (RC3338): MQRCCF_CHLAUTH_NOT_FOUND

説明

チャンネル認証レコードが見つかりません。

指定されたチャンネル認証レコードが存在しません。

プログラマー応答

存在するチャンネル認証レコードを指定してください。

3339 (0D0B) (RC3339): MQRCCF_WRONG_CHLAUTH_ACTION

説明

チャンネル認証レコードのこのアクションでは許可されないパラメーターです。

チャンネル認証レコードに適用されているアクションではこのパラメーターは許可されません。エラーになったパラメーターの説明を参照し、このパラメーターが有効なアクションを判別してください。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

3340 (0D0C) (RC3340): MQRCCF_WRONG_CHLAUTH_USERSRC

説明

このチャンネル認証レコードのユーザー・ソース値では許可されないパラメーターです。

user source フィールドに含まれている値を持つチャンネル認証レコードではこのパラメーターは許可されません。エラーになったパラメーターの説明を参照し、このパラメーターが有効なユーザー・ソースの値を判別してください。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

3341 (0D0D) (RC3341): MQRCCF_CHLAUTH_WARN_ERROR

説明

チャンネル認証レコードの **warn** 値が無効です。

set コマンドで指定された **warn** パラメーターが無効です。

プログラマー応答

warn に有効な値を指定してください。

3342 (0D0E) (RC3342): MQRCCF_WRONG_CHLAUTH_MATCH

説明

このチャンネル認証レコードの **match** 値では許可されないパラメーターです。

match フィールドに含まれている値の **inquire channel authentication record** コマンドではこのパラメーターは許可されません。エラーになったパラメーターの説明を参照し、このパラメーターが有効な **match** 値を見つけてください。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

3343 (0D0F) (RC3343): MQRCCF_IPADDR_RANGE_CONFLICT

説明

既存の範囲とオーバーラップする範囲の IP アドレスがチャンネル認証レコードに含まれます。範囲は、同じチャンネル・プロファイル名の既存範囲のスーパーセットまたはサブセットであるか、完全に分離した範囲である必要があります。

プログラマー応答

既存範囲のスーパーセットまたはサブセットの範囲を指定するか、すべての既存範囲とは完全に分離した範囲を指定してください。

3344 (OD10) (RC3344): MQRCCF_CHLAUTH_MAX_EXCEEDED

説明

チャンネル認証レコードが設定されましたが、単一のチャンネル・プロファイルでそのタイプのエントリー総数が、許可される最大数を超過しました。

プログラマー応答

新しく設定できるように、いくつかのチャンネル認証レコードを削除してください。

3345 (OD11) (RC3345): MQRCCF_IPADDR_ERROR

説明

無効な IP アドレス、または IP アドレスに突き合わせるワイルドカードの無効なパターンがチャンネル認証レコードに含まれています。

プログラマー応答

有効な IP アドレスまたは有効なパターンを指定してください。

関連資料

[汎用 IP アドレス](#)

3346 (OD12) (RC3346): MQRCCF_IPADDR_RANGE_ERROR

説明

無効な範囲の IP アドレスがチャンネル認証レコードに含まれます。例えば、範囲の中の小さい方の数値が、大きい方の数値より大きいか等しくなっています。

プログラマー応答

有効な範囲の IP アドレスを指定してください。

3347 (OD13) (RC3347): MQRCCF_PROFILE_NAME_MISSING

説明

プロファイル名がありません。

コマンドにプロファイル名が必要ですが、指定されていません。

プログラマー応答

有効なプロファイル名を指定してください。

3348 (OD14) (RC3348): MQRCCF_CHLAUTH_CLNTUSER_ERROR

説明

チャンネル認証レコードの **client user** 値が無効です。

client user 値にワイルドカード文字が含まれていますが、それは許可されていません。

プログラマー応答

クライアント・ユーザー・フィールドに有効な値を指定してください。

3349 (OD15) (RC3349): MQRCCF_CHLAUTH_NAME_ERROR

説明

チャンネル認証レコードのチャンネル名が無効です。

チャンネル認証レコードで IP アドレスのブロック化を指定する場合、**channel name** 値は単一アスタリスク (*) にする必要があります。

プログラマー応答

チャンネル名に単一アスタリスクを入力してください。

3350 (OD16) (RC3350): MQRCCF_CHLAUTH_RUNCHECK_ERROR

Runcheck コマンドが汎用値を使用しています。

説明

MQMATCH_RUNCHECK を使用して Inquire Channel Authentication Record コマンドが発行されましたが、そのコマンドの 1 つ以上の入力フィールドに、許可されていない汎用値が入力されました。

プログラマー応答

チャンネル名、アドレス、クライアント・ユーザー ID またはリモート・キュー・マネージャーのいずれか、および TLS ピア名 (使用される場合) には、汎用値ではない値を入力してください。

3353 (OD19) (RC3353): MQRCCF_SUITE_B_ERROR

無効な値が指定されています。

説明

MQIA_SUITE_B_STRENGTH パラメーターに対して無効な組み合わせの値が指定されています。

プログラマー応答

入力した組み合わせを確認し、適切な値で再試行してください。

3363 (OD23) (RC3363): MQRCCF_CLUS_XMIT_Q_USAGE_ERROR

説明

ローカル・キュー属性 **CLCHNAME** が設定されている場合、属性 **USAGE** を XMITQ に設定してください。

z/OS では、ローカル・キュー属性 **CLCHNAME** が設定されている場合、属性 **INDXTYPE** を **CORRELID** に設定する必要があります。伝送キューは共用キューにしないでください。

CLCHNAME 属性は、クラスター送信側チャンネル総称名です。これは、伝送キューのメッセージを別のキュー・マネージャーに転送するクラスター送信側チャンネルを識別します。

プログラマー応答

伝送キュー以外のキューで **CLCHNAME** をブランクに設定するか、**CLCHNAME** 属性を設定しないようにアプリケーションを変更します。

z/OS では、伝送キューを関連 ID で索引付けし、キューを共用キューにしないでください。

3364 (OD24) (RC3364): MQRCCF_CERT_VAL_POLICY_ERROR

説明

MQIA_CERT_VAL_POLICY 属性に、無効な証明書妥当性検査ポリシー値が指定されました。指定された値が不明であるか、または現行のプラットフォームでサポートされていません。

プログラマー応答

指定された値を確認し、適切な証明書妥当性検査ポリシーを指定して再試行してください。

3366 (OD26) (RC3366): MQRCCF_REVDNS_DISABLED

説明

runcheck コマンドが正常に完了し、使用されるレコードが返されました。ただし、ホスト名を含むいくつかのチャンネル認証レコードが存在し、ホスト名の逆参照が現在無効になっているため、それらのレコードに対するマッチングは行われていません。この理由コードは MQCC_WARNING として返されます。

プログラマー応答

逆参照が無効になっていることが正しい場合には、ホスト名を含むいくつかのチャンネル認証レコードが存在するとしても、この警告は無視できます。

ホスト名を含むチャンネル認証レコードに対してマッチングを行う必要があり、それゆえにホスト名の逆参照が現在無効であってはならない場合には、Change Queue Manager コマンドを発行して、再びそれを有効にしてください。

ホスト名の逆参照が無効になっていることが正しく、ホスト名を含むチャンネル認証レコードがあってはならない場合には、Set Channel Authentication Record を発行して、それらのレコードを削除してください。

3370 (OD2A) (RC3370): MQRCCF_CHLAUTH_CHKCLI_ERROR

説明

チャンネル認証レコードの check client が無効です。

set コマンドで指定された check client パラメーターが無効です。

プログラマー応答

有効なユーザー・ソースを指定してください。

3377 (OD31) (RC3377): MQRCCF_TOPIC_RESTRICTED

説明

このエラーは、トピック・オブジェクトを作成または変更するときに発生することがあります。トピック・オブジェクトの1つ以上の属性が IBM MQ 管理トピックでサポートされていません。

プログラマー応答

説明されている制限に従うように構成を変更します。

4001 (OFA1) (RC4001): MQRCCF_OBJECT_ALREADY_EXISTS

説明

オブジェクトがすでに存在します。

オブジェクトの作成が試行されましたが、オブジェクトはすでに存在しており、**Replace** パラメーターに **MQRP_YES** が指定されていません。

プログラマー応答

Replace に **MQRP_YES** を指定するか、作成するオブジェクトに別の名前を使用してください。

4002 (OFA2) (RC4002): MQRCCF_OBJECT_WRONG_TYPE

説明

オブジェクトのタイプが異なるか、処理方法が異なります。

同じ名前のオブジェクトがすでに存在しますが、コマンドにより指定されたサブタイプまたは処理方法と異なります。

プログラマー応答

指定されたオブジェクトが同じサブタイプおよび処理方法であることを確認してください。

4003 (OFA3) (RC4003): MQRCCF_LIKE_OBJECT_WRONG_TYPE

説明

新規オブジェクトと既存オブジェクトのサブタイプが異なります。

既存のオブジェクト定義に基づいてオブジェクトの作成が試行されましたが、新規オブジェクトと既存オブジェクトのサブタイプが異なります。

プログラマー応答

新規オブジェクトが、基本となるオブジェクトのサブタイプと同じであることを確認してください。

4004 (OFA4) (RC4004): MQRCCF_OBJECT_OPEN

説明

オブジェクトはオープンしています。

使用中のオブジェクトで操作が試行されました。

プログラマー応答

オブジェクトが使用されなくなるまで待機してから、操作を再試行してください。あるいは、変更コマンドの場合は、*Force* に **MQFC_YES** を指定します。

4005 (OFA5) (RC4005): MQRCCF_ATTR_VALUE_ERROR

説明

属性値が無効であるか、繰り返されています。

指定された 1 つ以上の属性値が無効であるか、繰り返されています。エラー応答メッセージ内に、問題のある属性セレクターが示されています (パラメーター ID **MQIACF_PARAMETER_ID**)。

プログラマー応答

属性値を正しく指定する。

4006 (OFA6) (RC4006): MQRCCF_UNKNOWN_Q_MGR

説明

キュー・マネージャーが不明です。
指定されたキュー・マネージャーが不明です。

プログラマー応答

コマンドの送信先となるキュー・マネージャー名を指定するか、ブランクにしてください。

4007 (OFA7) (RC4007): MQRCCF_Q_WRONG_TYPE

説明

指定されたタイプのキューに対して無効なアクションです。
誤ったタイプのキューに対するアクションが試行されました。

プログラマー応答

正しいタイプのキューを指定してください。

4008 (OFA8) (RC4008): MQRCCF_OBJECT_NAME_ERROR

説明

名前が無効です。
オブジェクト名またはその他の名前が、無効な文字を使用して指定されました。

プログラマー応答

名前に有効な文字のみを指定してください。

4009 (OFA9) (RC4009): MQRCCF_ALLOCATE_FAILED

説明

割り振りに失敗しました。
会話をリモート・システムに割り振ろうとして失敗しました。エラーの原因は、無効なチャネル定義に項目があることか、またはリモート・システムの listen プログラムが稼働していなかったことである可能性があります。

プログラマー応答

チャネル定義が正しいことを確認し、必要に応じて listen プログラムを始動してください。エラーが解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

4010 (OFAA) (RC4010): MQRCCF_HOST_NOT_AVAILABLE

説明

リモート・システムを使用できません。

会話をリモート・システムに割り振ろうとして失敗しました。このエラーは一時的なものである可能性があります。後で割り振りを実行すると成功することがあります。これは、リモート・システムで listen プログラムが稼働していないことが原因で発生する場合があります。

プログラマー応答

listen プログラムが稼働していることを確認し、操作を再試行してください。

4011 (OFAB) (RC4011): MQRCCF_CONFIGURATION_ERROR

説明

構成エラー。

チャンネル定義または通信サブシステムに構成エラーがあります。会話を割り振ることができませんでした。これは、次のいずれかの原因で発生します。

- LU 6.2 の場合、*ModeName* または *TpName* のいずれかが正しくありません。*ModeName* がリモート・システム上のものと一致する必要があり、*TpName* が指定される必要があります (IBM i では、これらは通信サイド・オブジェクトで保持されます)。
- LU 6.2 の場合、セッションが確立されていない。
- TCP の場合、チャンネル定義の *ConnectionName* をネットワーク・アドレスに解決できない。これは、名前が正しく指定されていないか、ネーム・サーバーを使用できないことが原因である可能性があります。
- 要求された通信プロトコルが該当プラットフォームでサポートされない。

プログラマー応答

問題を特定して、適切なアクションを実行してください。

4012 (OFAC) (RC4012): MQRCCF_CONNECTION_REFUSED

説明

接続は拒否されました。

リモート・システムへの接続を確立しようとして拒否されました。リモート・システムが、このシステムからの接続を受け入れる設定になっていない可能性があります。

- LU 6.2 の場合、リモート・システムに対して指定されたユーザー ID またはパスワードが正しくない。
- TCP の場合、リモート・システムがローカル・システムを有効と認識していない、または TCP リスナー・プログラムが始動していない。

プログラマー応答

エラーを修正するか、リスナー・プログラムを再始動してください。

4013 (OFAD) (RC4013): MQRCCF_ENTRY_ERROR

説明

接続名が無効です。

チャンネル定義の接続名をネットワーク・アドレスに解決できません。ネーム・サーバーに項目が含まれていないか、ネーム・サーバーが利用不能です。

プログラマー応答

接続名が正しく指定されているか、またネーム・サーバーが使用可能であることを確認します。

4014 (OFAE) (RC4014): MQRCCF_SEND_FAILED

説明

送信が失敗しました。

リモート・システムへのデータの送信中にエラーが発生しました。通信障害が原因である可能性があります。

プログラマー応答

システム管理者にご相談ください。

4015 (OFAF) (RC4015): MQRCCF_RECEIVED_DATA_ERROR

説明

データ・エラーを受信しました。

リモート・システムからのデータの受信中にエラーが発生しました。通信障害が原因である可能性があります。

プログラマー応答

システム管理者にご相談ください。

4016 (OFB0) (RC4016): MQRCCF_RECEIVE_FAILED

説明

受信に失敗しました。

受信操作が失敗しました。

プログラマー応答

エラーを訂正して操作をやり直してください。

4017 (OFB1) (RC4017): MQRCCF_CONNECTION_CLOSED

説明

接続がクローズされました。

リモート・システムからのデータの受信中にエラーが発生しました。リモート・システムへの接続は突然終了しました。

プログラマー応答

システム管理者に連絡してください。

4018 (OFB2) (RC4018): MQRCCF_NO_STORAGE

説明

使用可能な記憶域が不十分です。

使用可能な記憶域が不十分です。

プログラマー応答

システム管理者にご相談ください。

4019 (OFB3) (RC4019): MQRCCF_NO_COMMS_MANAGER

説明

コミュニケーション・マネージャーを使用できません。

通信サブシステムを使用できません。

プログラマー応答

通信サブシステムが始動していることを確認してください。

4020 (OFB4) (RC4020): MQRCCF_LISTENER_NOT_STARTED

説明

リスナーが始動していません。

リスナー・プログラムを始動できません。通信サブシステムが始動していないか、通信サブシステムを使用している現行チャンネル数が最大許容数であるか、あるいはキューで待機しているジョブが多すぎます。

プログラマー応答

通信サブシステムが始動していることを確認し、後で操作を再試行してください。必要に応じて、許可される現行チャンネル数を増加させてください。

4024 (OFB8) (RC4024): MQRCCF_BIND_FAILED

説明

バインドが失敗しました。

セッション折衝中にリモート・システムに対するバインドが失敗しました。

プログラマー応答

システム管理者にご相談ください。

4025 (OFB9) (RC4025): MQRCCF_CHANNEL_INDOUBT

説明

チャンネルが未確定です。

チャンネルが未確定であるため、要求された操作を完了できません。

プログラマー応答

チャンネル状況を確認し、チャンネルを再始動して未確定状態を解決するか、チャンネルを解決します。

4026 (OFBA) (RC4026): MQRCCF_MQCONN_FAILED

説明

MQCONN 呼び出しが失敗しました。

プログラマー応答

キュー・マネージャーがアクティブであるかどうか確認してください。

4027 (OFBB) (RC4027): MQRCCF_MQOPEN_FAILED

説明

MQOPEN 呼び出しが失敗しました。

プログラマー応答

キュー・マネージャーがアクティブであるかどうか、また関連するキューが正しくセットアップされているかどうかを確認してください。

4028 (OFBC) (RC4028): MQRCCF_MQGET_FAILED

説明

MQGET 呼び出しが失敗しました。

プログラマー応答

キュー・マネージャーがアクティブであるかどうか、また関連するキューが正しくセットアップされており、MQGET のために有効であるかどうかを確認してください。

4029 (OFBD) (RC4029): MQRCCF_MQPUT_FAILED

説明

MQPUT 呼び出しが失敗しました。

プログラマー応答

キュー・マネージャーがアクティブであるかどうか、また関連するキューが正しくセットアップされており、書き込みが禁止されていないかどうかを確認してください。

4030 (OFBE) (RC4030): MQRCCF_PING_ERROR

説明

ping エラーです。

ping 操作は、送信側またはサーバー・チャンネルについてのみ発行できます。ローカル・チャンネルが受信側チャンネルである場合、リモート・キュー・マネージャーから ping を実行する必要があります。

プログラマー応答

正しいタイプの別のチャンネルについて ping 要求を再実行するか、別のキュー・マネージャーから受信側チャンネルについて ping 要求を再実行してください。

4031 (OFBF) (RC4031): MQRCCF_CHANNEL_IN_USE

説明

チャンネルが使用中です。

チャンネルに対する操作を実行しようとしたますが、そのチャンネルは現在アクティブです。

プログラマー応答

チャンネルを停止するか、チャンネル使用の終了を待ってください。

4032 (OFC0) (RC4032): MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

説明

チャンネルが見つかりません。

指定されたチャンネルが存在しません。

プログラマー応答

存在するチャンネル名を指定してください。

4033 (OFC1) (RC4033): MQRCCF_UNKNOWN_REMOTE_CHANNEL

説明

リモート・チャンネルが不明です。

リモート・システムには、参照されたチャンネルの定義がありません。

プログラマー応答

ローカル・チャンネルが正しく定義されていることを確認してください。正しく定義されている場合、適切なチャンネル定義をリモート・システムに追加してください。

4034 (OFC2) (RC4034): MQRCCF_REMOTE_QM_UNAVAILABLE

説明

リモート・キュー・マネージャーを使用できません。

リモート・キュー・マネージャーを使用できないため、チャンネルを開始できません。

プログラマー応答

リモート・キュー・マネージャーを始動してください。

4035 (OFC3) (RC4035): MQRCCF_REMOTE_QM_TERMINATING

説明

リモート・キュー・マネージャーが終了中です。

リモート・キュー・マネージャーが終了中であるため、チャンネルが終了しています。

プログラマー応答

リモート・キュー・マネージャーを再始動してください。

4036 (OFC4) (RC4036): MQRCCF_MQINQ_FAILED

説明

MQINQ 呼び出しが失敗しました。

プログラマー応答

キュー・マネージャーがアクティブであるかどうか確認してください。

4037 (OFC5) (RC4037): MQRCCF_NOT_XMIT_Q

説明

キューが伝送キューではありません。

チャンネル定義で指定したキューが、伝送キューでないか、使用中です。

プログラマー応答

キューがチャンネル定義で正しく指定されていること、またキュー・マネージャーに対して正しく定義されていることを確認してください。

4038 (OFC6) (RC4038): MQRCCF_CHANNEL_DISABLED

説明

チャンネルが無効です。

チャンネルの使用が試行されましたが、チャンネルが無効です (停止しています)。

プログラマー応答

チャンネルを始動してください。

4039 (OFC7) (RC4039): MQRCCF_USER_EXIT_NOT_AVAILABLE

説明

ユーザー出口を使用できません。

指定されたユーザー出口が存在しないため、チャンネルは終了されました。

プログラマー応答

ユーザー出口が正しく指定されていること、またプログラムが使用可能であるようにしてください。

4040 (0FC8) (RC4040): MQRCCF_COMMIT_FAILED

説明

コミットが失敗しました。

作業単位のコミットが試行されたときにエラーを受信しました。

プログラマー応答

システム管理者にご相談ください。

4041 (0FC9) (RC4041): MQRCCF_WRONG_CHANNEL_TYPE

説明

パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

このパラメーターは、作成中、コピー中、または変更中のチャンネルのタイプに使用できません。問題のあるパラメーターの説明を参照し、そのパラメーターが有効なチャンネル・タイプを判別してください。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4042 (0FCA) (RC4042): MQRCCF_CHANNEL_ALREADY_EXISTS

説明

チャンネルがすでに存在します。

チャンネルを作成しようとしたのですが、チャンネルは既に存在しており、*Replace* に *MQR_YES* が指定されていませんでした。

プログラマー応答

Replace に *MQR_YES* を指定するか、作成するチャンネルに別の名前を使用してください。

4043 (0FCB) (RC4043): MQRCCF_DATA_TOO_LARGE

説明

データが大きすぎます。

送信データが、コマンドでサポートされる最大サイズを超えています。

プログラマー応答

データのサイズを削減してください。

4044 (0FCC) (RC4044): MQRCCF_CHANNEL_NAME_ERROR

説明

チャンネル名エラー。

ChannelName パラメーターに、チャンネル名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4045 (OFCD) (RC4045): MQRCCF_XMIT_Q_NAME_ERROR

説明

伝送キュー名のエラー。

XmitQName パラメーターに、キュー名に使用できない文字が含まれています。この理由コードは、送信側またはサーバー・チャンネルの作成中にパラメーターが指定されておらず、デフォルト値を使用できない場合にも発生します。

プログラマー応答

有効な名前を指定するか、パラメーターを追加してください。

4047 (OFCE) (RC4047): MQRCCF_MCA_NAME_ERROR

説明

メッセージ・チャンネル・エージェント名のエラー。

MCAName 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4048 (OFD0) (RC4048): MQRCCF_SEND_EXIT_NAME_ERROR

説明

チャンネル送信出口名のエラー。

SendExit 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4049 (OFD1) (RC4049): MQRCCF_SEC_EXIT_NAME_ERROR

説明

チャンネル・セキュリティー出口名のエラー。

SecurityExit 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4050 (OFD2) (RC4050): MQRCCF_MSG_EXIT_NAME_ERROR

説明

チャンネル・メッセージ出口名のエラー。

MsgExit 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4051 (OFD3) (RC4051): MQRCCF_RCV_EXIT_NAME_ERROR

説明

チャンネル受信出口名のエラー。

ReceiveExit 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4052 (OFD4) (RC4052): MQRCCF_XMIT_Q_NAME_WRONG_TYPE

説明

伝送キュー名は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

XmitQName パラメーターは、送信側またはサーバーのチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4053 (OFD5) (RC4053): MQRCCF_MCA_NAME_WRONG_TYPE

説明

メッセージ・チャンネル・エージェント名は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MCAName パラメーターは、送信側、サーバー、または要求側のチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4054 (OFD6) (RC4054): MQRCCF_DISC_INT_WRONG_TYPE

説明

切断間隔は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

DiscInterval パラメーターは、送信側またはサーバーのチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4055 (OFD7) (RC4055): MQRCCF_SHORT_RETRY_WRONG_TYPE

説明

短期再試行パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

ShortRetryCount パラメーターは、送信側またはサーバーのチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4056 (OFD8) (RC4056): MQRCCF_SHORT_TIMER_WRONG_TYPE

説明

ショート・タイマー・パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

ShortRetryInterval パラメーターは、送信側またはサーバーのチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4057 (OFD9) (RC4057): MQRCCF_LONG_RETRY_WRONG_TYPE

説明

長期再試行パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

LongRetryCount パラメーターは、送信側またはサーバーのチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4058 (OFDA) (RC4058): MQRCCF_LONG_TIMER_WRONG_TYPE

説明

ロング・タイマー・パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

LongRetryInterval パラメーターは、送信側またはサーバーのチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4059 (OFDB) (RC4059): MQRCCF_PUT_AUTH_WRONG_TYPE

説明

書き込み権限パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

PutAuthority パラメーターは、受信側または要求側のチャンネル・タイプに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4061 (OFDD) (RC4061): MQRCCF_MISSING_CONN_NAME

説明

接続名パラメーターは必須ですが、欠落しています。

ConnectionName パラメーターは、送信側または要求側のチャンネル・タイプには必須ですが、存在しません。

プログラマー応答

パラメーターを追加してください。

4062 (OFDE) (RC4062): MQRCCF_CONN_NAME_ERROR

説明

接続名パラメーターにエラーがあります。

ConnectionName パラメーターには、名前の先頭に1つ以上の空白が含まれています。

プログラマー応答

有効な接続名を指定してください。

4063 (OFDF) (RC4063): MQRCCF_MQSET_FAILED

説明

MQSET 呼び出しが失敗しました。

プログラマー応答

キュー・マネージャーがアクティブであるかどうか確認してください。

4064 (OFE0) (RC4064): MQRCCF_CHANNEL_NOT_ACTIVE

説明

チャンネルがアクティブではありません。

チャンネルの停止が試行されましたが、チャンネルはすでに停止しています。

プログラマー応答

アクションは不要です。

4065 (OFE1) (RC4065): MQRCCF_TERMINATED_BY_SEC_EXIT

説明

セキュリティー出口によりチャンネルが終了されました。

チャンネル・セキュリティー出口によってチャンネルが終了されました。

プログラマー応答

チャンネルが正しいキュー・マネージャーに接続しようとしていることを確認してください。接続試行先が正しいキュー・マネージャーである場合、両方の終端において、セキュリティー出口が正しく指定されていること、また正常に機能していることを確認してください。

4067 (OFE3) (RC4067): MQRCCF_DYNAMIC_Q_SCOPE_ERROR

説明

動的キュー有効範囲のエラー。

キューの **Scope** 属性は MQSCO_CELL になりますが、これは動的キューには許可されません。

プログラマー応答

セルの有効範囲を指定する場合は、キューを事前定義してください。

4068 (OFE4) (RC4068): MQRCCF_CELL_DIR_NOT_AVAILABLE

説明

セル・ディレクトリーを使用できません。

キューの **Scope** 属性は MQSCO_CELL になりますが、セル・ディレクトリーをサポートするネーム・サービスが構成されていません。

プログラマー応答

適切なネーム・サービスを使用してキュー・マネージャーを構成してください。

4069 (OFE5) (RC4069): MQRCCF_MR_COUNT_ERROR

説明

メッセージ再試行カウントが無効です。

MsgRetryCount 値が無効でした。

プログラマー応答

0 から 999 999 999 の範囲で値を指定してください。

4070 (OFE6) (RC4070): MQRCCF_MR_COUNT_WRONG_TYPE

説明

メッセージ再試行カウント・パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MsgRetryCount パラメーターは、受信側および要求側のチャンネルに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4071 (0FE7) (RC4071): MQRCCF_MR_EXIT_NAME_ERROR

説明

チャンネル・メッセージ再試行出口名のエラー。

MsgRetryExit 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4072 (0FE8) (RC4072): MQRCCF_MR_EXIT_NAME_WRONG_TYPE

説明

メッセージ再試行出口パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MsgRetryExit パラメーターは、受信側および要求側のチャンネルに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4073 (0FE9) (RC4073): MQRCCF_MR_INTERVAL_ERROR

説明

メッセージ再試行間隔が無効です。

MsgRetryInterval 値が無効でした。

プログラマー応答

0 から 999 999 999 の範囲で値を指定してください。

4074 (0FEA) (RC4074): MQRCCF_MR_INTERVAL_WRONG_TYPE

説明

メッセージ再試行間隔パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MsgRetryInterval パラメーターは、受信側および要求側のチャンネルに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4075 (OFEB) (RC4075): MQRCCF_NPM_SPEED_ERROR

説明

非持続メッセージ速度が無効です。
NonPersistentMsgSpeed 値が無効でした。

プログラマー応答

MQNPM_NORMAL または MQNPM_FAST を指定してください。

4076 (OFEC) (RC4076): MQRCCF_NPM_SPEED_WRONG_TYPE

説明

非持続メッセージの速度パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

NonPersistentMsgSpeed パラメーターは、送信側、受信側、サーバー、要求側、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルについてのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4077 (OFED) (RC4077): MQRCCF_HB_INTERVAL_ERROR

説明

ハートビート間隔が無効です。
HeartbeatInterval 値が無効でした。

プログラマー応答

0 から 999 999 の範囲の値を指定します。

4078 (OFEE) (RC4078): MQRCCF_HB_INTERVAL_WRONG_TYPE

説明

ハートビート間隔パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。
HeartbeatInterval パラメーターは、受信側および要求側のチャンネルに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4079 (OFEF) (RC4079): MQRCCF_CHAD_ERROR

説明

チャンネル自動定義エラー。
ChannelAutoDef 値が無効でした。

プログラマー応答

MQCHAD_ENABLED または MQCHAD_DISABLED を指定してください。

4080 (OFF0) (RC4080): MQRCCF_CHAD_WRONG_TYPE

説明

チャンネル自動定義パラメーターはこのチャンネル・タイプには許可されていません。

ChannelAutoDef パラメーターは、受信側チャンネルおよびサーバー接続チャンネルに対してのみ使用できません。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4081 (OFF1) (RC4081): MQRCCF_CHAD_EVENT_ERROR

説明

チャンネル自動定義イベント・エラー。

ChannelAutoDefEvent 値が無効でした。

プログラマー応答

MQEVR_ENABLED または MQEVR_DISABLED を指定してください。

4082 (OFF2) (RC4082): MQRCCF_CHAD_EVENT_WRONG_TYPE

説明

チャンネル自動定義イベント・パラメーターはこのチャンネル・タイプには許可されていません。

ChannelAutoDefEvent パラメーターは、受信側チャンネルおよびサーバー接続チャンネルに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4083 (OFF3) (RC4083): MQRCCF_CHAD_EXIT_ERROR

説明

チャンネル自動定義出口名エラー。

ChannelAutoDefExit 値に、当該プラットフォーム上のプログラム名に使用できない文字が含まれています。

プログラマー応答

有効な名前を指定してください。

4084 (OFF4) (RC4084): MQRCCF_CHAD_EXIT_WRONG_TYPE

説明

チャンネル自動定義出口パラメーターはこのチャンネル・タイプには許可されていません。

ChannelAutoDefExit パラメーターは、受信側チャンネルおよびサーバー接続チャンネルに対してのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4085 (OFF5) (RC4085): MQRCCF_SUPPRESSED_BY_EXIT

説明

出口プログラムによりアクションが抑止されました。

チャンネルの自動定義が試行されましたが、これはチャンネル自動定義出口により禁止されています。

AuxErrorDataInt1 パラメーターには、チャンネル定義が禁止された理由を示す、出口からのフィードバック・コードが含まれます。

プログラマー応答

AuxErrorDataInt1 パラメーターの値を調べて、該当するアクションを実行してください。

4086 (OFF6) (RC4086): MQRCCF_BATCH_INT_ERROR

説明

バッチ間隔が無効です。

指定されたバッチ間隔が無効です。

プログラマー応答

有効なバッチ間隔値を指定してください。

4087 (OFF7) (RC4087): MQRCCF_BATCH_INT_WRONG_TYPE

説明

バッチ間隔パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

BatchInterval パラメーターは、送信側およびサーバーのチャンネルについてのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4088 (OFF8) (RC4088): MQRCCF_NET_PRIORITY_ERROR

説明

ネットワーク優先順位の値が無効です。

プログラマー応答

有効な値を指定してください。

4089 (OFF9) (RC4089): MQRCCF_NET_PRIORITY_WRONG_TYPE

説明

このチャンネル・タイプに対して、ネットワーク優先順位パラメーターは使用できません。

NetworkPriority パラメーターは、送信側チャンネルとサーバー・チャンネルでのみ使用できます。

プログラマー応答

パラメーターを除去してください。

4090 (OFFA) (RC4090): MQRCCF_CHANNEL_CLOSED

説明

チャンネルがクローズしています。

チャンネルがすでにクローズしています。これは、チャンネルの稼働中にユーザーがチャンネルを停止したか、チャンネル出口がチャンネルをクローズしたことで発生する可能性があります。

プログラマー応答

チャンネルがすでにクローズしている原因を判別してください。必要に応じて、チャンネルを再始動してください。

4092 (OFFC) (RC4092): MQRCCF_SSL_CIPHER_SPEC_ERROR

説明

TLS 暗号仕様が無効です。

指定された *SSLCipherSpec* が無効です。

プログラマー応答

有効な暗号仕様を指定してください。

4093 (OFFD) (RC4093): MQRCCF_SSL_PEER_NAME_ERROR

説明

TLS ピア名が無効です。

指定された *SSLPeerName* が無効です。

プログラマー応答

有効なピア名を指定してください。

4094 (OFFE) (RC4094): MQRCCF_SSL_CLIENT_AUTH_ERROR

説明

TLS クライアント認証が無効です。
指定された `SSLClientAuth` が無効です。

プログラマー応答

有効なクライアント認証を指定してください。

4095 (OFFF) (RC4095): MQRCCF_RETAINED_NOT_SUPPORTED

説明

保存メッセージが制限付きストリームで使用されました。

JMS の使用に制限定義されたパブリッシュ/サブスクライブ・ストリームで、保存メッセージの使用が試行されました。JMS は保存メッセージの概念をサポートしていないため、要求は拒否されました。

プログラマー応答

アプリケーションが保存メッセージを使用しないように変更するか、ブローカー `JmsStreamPrefix` 構成パラメーターを変更して、このストリームが JMS ストリームとして処理されないようにしてください。

V 9.3.4

Linux

AIX

トークン認証エラー・コード

コードと説明を使用して、認証トークンの使用時に発生する可能性があるエラーを理解し、修正します。

これらの表は、メッセージ `AMQ5783E`、`AMQ5784E`、および `AMQ5786E` に表示されるエラー・コードを 10 進数形式で示しています。

エラー・コード (10 進数)	説明	応答
101	必要なクレームまたはヘッダー・パラメーターが認証トークンから欠落しています。欠落しているクレームまたはヘッダー・パラメーターの名前がメッセージの説明に含まれています。	認証トークンに必要なすべてのヘッダー・パラメーターとクレームが含まれていることを確認してください。IBM MQ に提供される認証トークンの要件について詳しくは、 認証トークンの処理 を参照してください。
102	認証トークン内のクレーム・パラメーターまたはヘッダー・パラメーターのデータ・タイプが正しくありません。例えば、ストリングが、整数として指定する必要があるクレームの値として指定されました。誤ったデータ・タイプを持つクレームまたはヘッダー・パラメーターの名前が、メッセージの説明に含まれています。	指定されたヘッダー・パラメーターまたはクレームの値が、IBM MQ に必要なデータ・タイプであることを確認してください。IBM MQ に提供される認証トークンの要件について詳しくは、 認証トークンの処理 を参照してください。
103	認証トークンのタイプ・ヘッダー・パラメーターの値が正しくありません。トークンの "typ" (タイプ) ヘッダー・パラメーターの値は "JWT" でなければなりません。	タイプ・ヘッダー・パラメーターに正しい値を指定して認証トークンを取得してください。

表 25. 認証トークンのフォーマット・エラーまたは検証エラーのエラー・コード (続き)

エラー・コード (10 進数)	説明	応答
104	認証トークンの形式が JSON Web Signature (JWS) 標準に準拠していません。	トークン発行者から、JSON Web Signature (JWS) 標準に準拠する認証トークンを取得します。つまり、デジタル署名またはメッセージ認証コード (MAC) で保護されている JSON Web トークン (JWT) です。
105	認証トークンのヘッダーまたはペイロードが有効な JSON ではありません。	トークン発行者から正しい形式の JWT を入手してください。
106	認証トークンの署名の検証が失敗しました。	キュー・マネージャーのトークン認証鍵リポジトリに、認証トークン発行者の公開鍵証明書、または認証トークンの署名に使用される対称鍵のいずれかが含まれていることを確認してください。qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ内の CertLabel 属性は、証明書または対称鍵のラベルを参照する必要があります。 REFRESH SECURITY TYPE (CONNAUTH) MQSC コマンドを発行して、キュー・マネージャーのトークン認証構成に対する変更を有効にします。
107	キュー・マネージャーは、認証トークン内のユーザー ID をアプリケーションのコンテキストとして採用するように構成されます。qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ内の UserClaim 属性は、採用されるユーザー ID を含むクレームの名前を指定します。しかし、このクレームは、アプリケーションによって提供される認証トークンには存在しません。	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザに指定されている UserClaim 属性の名前を持つクレームを含む認証トークンを取得します。クレームの値は、アプリケーションのコンテキストとして採用されるユーザー ID に設定する必要があります。
108	キュー・マネージャーは、認証トークン内のユーザー ID をアプリケーションのコンテキストとして採用するように構成されます。qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ内の UserClaim 属性は、採用されるユーザー ID を含むクレームの名前を指定します。ただし、認証トークン内のこのクレームの値は、認証トークン内のユーザー ID の要件を満たしていません。	トークン・ユーザー・クレームの値が、認証トークン内のユーザー ID の制限を満たしていることを確認してください。詳しくは、 認証トークン内のユーザー ID を参照してください。
109	トークンの署名に使用されたアルゴリズムはサポートされていません。トークンに署名するために使用されるアルゴリズムを指定する、トークンの「alg」ヘッダー・パラメーターの値が、メッセージの説明に含まれています。	IBM MQ がサポートするアルゴリズムで署名されたトークン発行者からトークンを取得します。サポートされる署名アルゴリズムについて詳しくは、 認証トークンの処理 を参照してください。

表 26. トークン認証構成エラーのエラー・コード

エラー・コード (10進数)	説明	応答
201	<p>キュー・マネージャーがトークン認証用に構成されていないか、キュー・マネージャーのトークン認証構成にエラーがあります。このエラーは、以下のいずれかの問題が原因で発生した可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • qm.ini ファイルに AuthToken スタンザが指定されていません。 • qm.ini ファイルで AuthToken スタンザが複数回指定されています。 • AuthToken スタンザに必須属性が指定されていません。 • AuthToken スタンザの属性に無効な値が指定されています。 	<p>qm.ini ファイルの AuthToken スタンザに、有効なトークン認証構成を指定します。AuthToken スタンザについて詳しくは、qm.ini ファイルの AuthToken スタンザを参照してください。 REFRESH SECURITY TYPE (CONNAUTH) MQSC コマンドを発行して、キュー・マネージャーのトークン認証構成に対する変更を有効にします。</p>
202	<p>接続認証構成にトークン認証との互換性がありません。例えば、キュー・マネージャーが LDAP 認証用に構成されているとします。</p>	<p>キュー・マネージャー接続認証構成がトークン認証と互換性があることを確認してください。キュー・マネージャーの CONNAUTH 属性によって参照される AUTHINFO オブジェクトのタイプは IDPWOS でなければなりません。 REFRESH SECURITY TYPE (CONNAUTH) MQSC コマンドを発行して、キュー・マネージャーの接続認証構成に対する変更を有効にします。</p>

表 26. トークン認証構成エラーのエラー・コード (続き)

エラー・コード (10進数)	説明	応答
203	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの KeyStore 属性で指定されている鍵リポジトリにアクセスしているときにエラーが発生しました。	<p>AuthToken スタンザの KeyStore 属性が有効な CMS または PKCS#12 キー・リポジトリ・ファイルへのパスを指定していること、および mqm ユーザーがそのファイルに対する読み取り権限を持っていることを確認してください。鍵リポジトリ・ファイルのアクセス権の設定について詳しくは、AIX および Linux システムでの鍵データベース・ファイルへのアクセスと保護を参照してください。</p> <p>キュー・マネージャーは、以下のいずれかの場所にある鍵リポジトリ・パスワードにアクセスできなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • runqmcred コマンドを使用して暗号化されたパスワードを含むファイル。暗号化されたパスワードを含むファイルへのパスは、qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの KeyStorePwdFile 属性を使用して指定する必要があります。 • キー・リポジトリと同時に作成される stash ファイルです。stash ファイルを使用する場合は、その stash ファイルがキー・リポジトリと同じディレクトリにあり、キー・リポジトリと同じ名前を持ち、ファイル拡張子が .sth である必要があります。 <p>AuthToken スタンザで KeyStorePwdFile 属性を指定する場合は、有効な暗号化パスワードを含むファイルへのパスを指定する必要があります。この属性が指定されている場合、stash ファイルは使用されません。</p>
204	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザに CertLabel 属性で指定されている証明書を、鍵リポジトリからロードできません。	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ内の各 CertLabel 属性が、 KeyStore 属性を使用して指定されている鍵リポジトリ内の証明書または対称鍵の正しいラベルを参照していることを確認します。トークン認証の構成に使用される AuthToken スタンザについては、 qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ を参照してください。

表 26. トークン認証構成エラーのエラー・コード (続き)

エラー・コード (10 進数)	説明	応答
205	qm.ini ファイルの Service スタンザの SecurityPolicy 属性を使用して指定されているキュー・マネージャーのセキュリティー・ポリシー構成は、トークン認証と互換性がありません。キュー・マネージャーがトークン認証用に構成されている場合、セキュリティー・ポリシーは自動的に UserExternal に設定されます。ただし、qm.ini ファイルの Service スタンザの SecurityPolicy 属性が明示的に group に設定されている場合は、セキュリティー・ポリシーを変更できません。	qm.ini ファイルの Service スタンザから SecurityPolicy 属性を削除します。 SecurityPolicy 属性について詳しくは、 SecurityPolicy を参照してください。
206	キュー・マネージャーの接続認証構成は、接続されたアプリケーションのコンテキストとして認証済みユーザーのコンテキストを採用するように設定されています。ただし、認証トークン内のユーザー ID を含むクレームを指定する UserClaim 属性は、qm.ini ファイルの AuthToken スタンザには指定されません。	認証トークン内のクレームに指定されているユーザーを、接続されているアプリケーションのコンテキストとして採用するには、採用するユーザー ID が含まれているクレームの名前を、qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ内の UserClaim 属性に指定します。 UserClaim 属性について詳しくは、 UserClaim を参照してください。 接続アプリケーションによって提供される資格情報で指定されたユーザーをアプリケーションのコンテキストとして採用しない場合は、キュー・マネージャーの CONNAUTH 属性によって参照される AUTHINFO オブジェクトを変更して、 ADOPTCTX(NO) を指定します。 REFRESH SECURITY TYPE (CONNAUTH) MQSC コマンドを発行して、キュー・マネージャーのトークン認証および接続認証の構成に対する変更を有効にします。
207	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの CertLabel 属性に、証明書ラベルの最大数を超える数が指定されています。 CertLabel 属性を使用して、最大 32 個の証明書ラベルを指定できます。	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの CertLabel 属性を使用して、トークン認証に使用する証明書ラベルを最大 32 個指定します。 REFRESH SECURITY TYPE (CONNAUTH) MQSC コマンドを発行して、キュー・マネージャーのトークン認証構成に対する変更を有効にします。
208	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの KeyStorePwdFile 属性で指定されている、暗号化された鍵リポジトリ・パスワードを含むファイルを読み取ることができないか、ファイルの内容が無効です。	qm.ini ファイルの AuthToken スタンザの KeyStorePwdFile 属性で指定された鍵リポジトリ・パスワード・ファイルが存在することを確認してください。mqm ユーザーはファイルの読み取り権限を持っている必要があります。また、ファイルには、 runqmc cred コマンドによって暗号化されたパスワード出力である単一行のテキストが含まれている必要があります。

表 27. 予期しないトークン認証エラーのエラー・コード

エラー・コード (10進数)	説明	応答
301	認証トークンの処理中に予期しないエラーが発生しました。	キュー・マネージャーのエラー・ログで先行するエラー・メッセージを確認してください。問題に関する詳細が含まれている FDC ファイルを確認してください。問題を解決できない場合は、IBM サポートに連絡してください。

関連概念

[認証トークンの処理](#)

[認証トークンの問題のトラブルシューティング](#)

関連タスク

[アプリケーションでの認証トークンの使用](#)

[AuthTokens を受け入れるためのキュー・マネージャーの構成](#)

関連資料

[qm.ini ファイルの AuthToken スタンザ](#)

Transport Layer Security (TLS) の戻りコード

IBM MQ では、さまざまな通信プロトコルと一緒に TLS を使用できます。このトピックを使用して、TLS によって返される可能性があるエラー・コードを特定します。

この付録の表では、TLS からの戻りコードを 10 進数形式で記載しています。これらの戻りコードは、分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返される場合があります。

表 28. TLS 戻りコード

戻りコード (10進数)	説明
1	ハンドルが無効です。
3	内部エラーが発生しました。
4	使用可能な記憶域が不十分です。
5	ハンドルの状態が不正です。
6	鍵ラベルが見つかりません。
7	使用可能な証明書がありません。
8	証明書の検証エラー。
9	暗号処理エラー。
10	ASN 処理エラー。
11	LDAP 処理エラー。
12	予期しないエラーが発生しました。
102	鍵データベースまたは SAF 鍵リングの読み取り中にエラーが検出されました。
103	不正な鍵データベース・レコード・フォーマットです。
106	不正な鍵データベース・パスワードです。

表 28. TLS 戻りコード (続き)

戻りコード (10 進数)	説明
109	認証局証明書がありません。
201	鍵データベース・パスワードが指定されていません。
202	鍵データベースのオープン中にエラーが検出されました。
203	一時鍵ペアを生成できません。
204	鍵データベース・パスワードの有効期限が切れています。
302	接続がアクティブです。
401	証明書の有効期限が切れているか、まだ有効ではありません。
402	TLS 暗号仕様がありません。
403	パートナーから証明書を受け取っていません。
404	証明書が正しくありません。
405	証明書フォーマットがサポートされていません。
406	データの読み取り中または書き込み中にエラーが発生しました。
407	鍵ラベルが存在しません。
408	鍵データベース・パスワードが正しくありません。
410	TLS メッセージ・フォーマットが正しくありません。
411	メッセージ認証コードが正しくありません。
412	TLS プロトコルまたは証明書タイプがサポートされていません。
413	証明書の署名が正しくありません。
414	証明書が無効です。
415	TLS プロトコル違反。
416	許可が否認されました。
417	自己署名証明書を検証できません。
420	ソケットがリモート・パートナーによりクローズされています。
421	SSL 2.0 暗号が無効です。
422	SSL 3.0 暗号が無効です。
427	LDAP を使用できません。
428	鍵項目に秘密鍵が含まれていません。
429	SSL 2.0 ヘッダーが無効です。
431	証明書が取り消されています。
432	セッションの再折衝は許可されていません。
433	鍵が許容エクスポート・サイズを超えています。
434	証明書の鍵が暗号スイートと非互換です。
435	認証局が不明です。
436	証明書失効リストを処理できません。

表 28. TLS 戻りコード (続き)

戻りコード (10 進数)	説明
437	接続がクローズされました。
438	リモート・パートナーにより内部エラーが報告されました。
439	不明なアラートをリモート・パートナーから受信しました。
501	バッファ・サイズが無効です。
502	ソケット要求がブロックされます。
503	ソケット読み取り要求がブロックされます。
504	ソケット書き込み要求がブロックされます。
505	レコード・オーバーフロー。
601	プロトコルが TLS 1 ではありません。
602	関数 ID が無効です。
701	属性 ID が無効です。
702	属性の長さが負ですが、これは無効です。
703	指定された列挙タイプの列挙値が無効です。
704	SID キャッシュ・ルーチンを置き換えるためのパラメーター・リストが無効です。
705	値は無効な数値です。
706	追加の証明書妥当性検査のために競合するパラメーターが設定されています。
707	AES 暗号アルゴリズムはサポートされていません。
708	PEERID の長さが正しくありません。
1501	GSK_SC_OK
1502	GSK_SC_CANCEL
1601	トレースが正常に開始されました。
1602	トレースが正常に停止しました。
1603	前にトレース・ファイルは開始されていないので、トレース・ファイルを停止することはできません。
1604	トレース・ファイルは開始済みであるので、再び開始することはできません。
1605	トレース・ファイルをオープンできません。gsk_start_trace() の最初のパラメーターは有効な絶対パス・ファイル名でなければなりません。

場合によっては、セキュア・ソケット・ライブラリーが AMQ9633 エラー・メッセージで証明書妥当性検査エラーを報告することがあります。表 2 に、分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返される場合がある証明書妥当性検査エラーをリストします。

表 29. 証明書妥当性検査エラー.

分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返される場合がある証明書妥当性検査エラーの戻りコードおよび説明をリストした表。

戻りコード (10 進数)	説明
575001	内部エラー
575002	誤った形式の証明書が原因の ASN エラー
575003	暗号エラー
575004	鍵データベース・エラー
575005	ディレクトリー・エラー
575006	実装ライブラリーが無効です
575008	適切なバリデーターがありません
575009	ルート CA は信頼されていません
575010	証明書チェーンがビルドされていません
575011	デジタル署名アルゴリズムが一致しません
575012	デジタル署名が一致しません
575013	この X.509 バージョンでは キー ID を使用することができません
575014	この X.509 バージョンでは拡張を使用できません
575015	不明な X.509 証明書バージョン
575016	証明書の有効期間の範囲が無効です
575017	証明書がまだ有効ではありません
575018	証明書の有効期限が切れています
575019	証明書に不明なクリティカルな拡張が含まれています
575020	証明書に重複する拡張が含まれています
575021	発行者のディレクトリー名が発行者の発行者と一致していません
575022	「権限キー ID」 シリアル番号値が発行者のシリアル番号と一致しません
575023	「権限キー ID」と「所有者キー ID」が一致しません
575024	発行者代替名が認識されません
575025	証明書の「基本制約」により CA としての使用が禁止されています
575026	証明書は、「基本制約」パス長さが非ゼロですが、CA ではありません。
575027	証明書の「基本制約」の最大パス長さを超えています
575028	証明書で他の証明書に署名することは許可されていません
575029	証明書が CA によって署名されていません
575030	所有者代替名が認識されません
575031	証明書チェーンが無効です
575032	証明書は取り消されます
575033	CRL 配布ポイントが認識されません

表 29. 証明書妥当性検査エラー.

分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返される場合がある証明書妥当性検査エラーの戻りコードおよび説明をリストした表。

(続き)

戻りコード (10 進数)	説明
575034	名前チェーニングが失敗しました
575035	証明書はチェーンに入っていません
575036	CRL がまだ有効ではありません
575037	CRL の有効期限が切れました
575038	この証明書のバージョンではクリティカルな拡張を使用できません
575039	不明な CRL 配布ポイント
575040	CRL 配布ポイントの CRL がありません
575041	間接 CRL はサポートされていません
575042	発行側の CRL 配布ポイント名が欠落しています
575043	配布点が一致しません
575044	使用可能な CRL データ・ソースがありません
575045	CA 所有者名がヌルです
575046	識別名がチェーニングしていません
575047	「所有者代替名」が欠落しています
575048	固有 ID が一致しません
575049	名前が許可されていません
575050	名前が除外されました
575051	CA 証明書には「クリティカル基本制約」が欠落しています
575052	名前制約がクリティカルではありません
575053	名前制約最小サブツリー値 (設定されている場合) が、ゼロではありません
575054	名前制約最大サブツリー値 (設定されている場合) が、許可されていません
575055	サポートされない名前制約
575056	ポリシー制約が空です
575057	証明書ポリシーが正しくありません
575058	証明書ポリシーは受け入れ不能です
575059	受け入れ可能な証明書ポリシーが正しくありません
575060	証明書ポリシー・マッピングがクリティカルです
575061	失効状況を判別できませんでした
575062	拡張キー使用エラー
575063	OCSP バージョンが不明です
575064	OCSP 応答が不明です

表 29. 証明書妥当性検査エラー.

分散キューイング・コンポーネントからのメッセージで返される場合がある証明書妥当性検査エラーの戻りコードおよび説明をリストした表。

(続き)

戻りコード (10 進数)	説明
575065	OCSP キー使用拡張が正しくありません
575066	OCSP nonce が正しくありません
575067	OCSP nonce が欠落しています
575068	使用可能な OCSP クライアントがありません
575069	重要でないポリシー
575070	OCSP は古い、良いです
575071	OCSP 古いが取り消されました
575072	正しくない曲線
575073	正しくない鍵サイズ
575074	正しくない署名アルゴリズム

戻りコード 575074 で出されるエラー・メッセージについて考えられる説明は、クライアントが選択した唯一の CipherSpec で、楕円曲線シグニチャーを使用したサーバー証明書の使用を要求するが、サーバー証明書が RSA シグニチャーを使用していることです。逆に、サーバーには楕円曲線の証明書があるが、唯一の CipherSpec が RSA であることが考えられます。

関連概念

266 ページの『[IBM MQ for z/OS のメッセージ・コード、完了コード、および理由コード](#)』

このトピックでは、IBM MQ for z/OS で生成されるメッセージとコードの意味について取り上げます。

関連資料

235 ページの『[AMQ メッセージ \(Multiplatforms\)](#)』

このセクションには、AMQ シリーズの診断メッセージが番号順にリストされています。これらのメッセージは、発信元の IBM MQ の部分に従ってグループ化されています。

1129 ページの『[API 完了コードと理由コード](#)』

呼び出しが行われるたびに、その呼び出しが成功したか失敗したかを示すための完了コードと理由コードが、キュー・マネージャーまたは出口ルーチンによって戻されます。

1342 ページの『[PCF 理由コード](#)』

PCF フォーマットのコマンド・メッセージ中で使用したパラメーターによっては、そのメッセージへの応答としてブローカーから理由コードが返される場合があります。

1423 ページの『[WCF カスタム・チャネル例外](#)』

このトピックでは、診断メッセージが、発信元の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャネルの部分に従ってグループ化された番号順にリストされています。

WCF カスタム・チャネル例外

このトピックでは、診断メッセージが、発信元の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャネルの部分に従ってグループ化された番号順にリストされています。

メッセージの読み取り

各メッセージごとに、次の情報が示されています。

- 次の 2 つの部分から成るメッセージ識別子

1. IBM MQ の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャネルからのメッセージであることを示す文字「WCFCH」
 2. 4 桁の 10 進数コード。このコードの後に、文字「E」が続きます。
- メッセージのテキスト
 - メッセージに関する詳細情報を示すための説明
 - ユーザーによる必要な対応。場合によっては、これは「なし」の場合があります (特に、情報メッセージの場合)。

メッセージ変数

一部のメッセージでは、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が表示されます。それらの状況をメッセージ変数と呼ばれます。メッセージ変数は、{0} または {1} のように示されます。

メッセージによっては、説明または対応の項に変数が含まれていることもあります。メッセージ変数の値を見つけるには、エラー・ログを調べてください。エラー・ログには、完全な形のメッセージと、説明および対応が含まれています。

以下のメッセージ・タイプについて説明します。

[1424 ページの『WCFCH0001E-0100E: 一般/状態メッセージ』](#)

[1426 ページの『WCFCH0101E-0200E: URI プロパティ・メッセージ』](#)

[1427 ページの『WCFCH0201E-0300E: ファクトリー/リスナー・メッセージ』](#)

[1428 ページの『WCFCH0301E-0400E: チャネル・メッセージ』](#)

[1430 ページの『WCFCH0401E-0500E: バインディング・メッセージ』](#)

[1431 ページの『WCFCH0501E-0600E: バインディング・プロパティ・メッセージ』](#)

[1431 ページの『WCFCH0601E-0700E: 非同期操作メッセージ』](#)

関連概念

[266 ページの『IBM MQ for z/OS のメッセージ・コード、完了コード、および理由コード』](#)

このトピックでは、IBM MQ for z/OS で生成されるメッセージとコードの意味について取り上げます。

関連資料

[235 ページの『AMQ メッセージ \(Multiplatforms\)』](#)

このセクションには、AMQ シリーズの診断メッセージが番号順にリストされています。これらのメッセージは、発信元の IBM MQ の部分に従ってグループ化されています。

[1129 ページの『API 完了コードと理由コード』](#)

呼び出しが行われるたびに、その呼び出しが成功したか失敗したかを示すための完了コードと理由コードが、キュー・マネージャーまたは出口ルーチンによって戻されます。

[1342 ページの『PCF 理由コード』](#)

PCF フォーマットのコマンド・メッセージ中で使用したパラメーターによっては、そのメッセージへの応答としてブローカーから理由コードが返される場合があります。

[1418 ページの『Transport Layer Security \(TLS\) の戻りコード』](#)

IBM MQ では、さまざまな通信プロトコルと一緒に TLS を使用できます。このトピックを使用して、TLS によって返される可能性があるエラー・コードを特定します。

[1423 ページの『WCF カスタム・チャネル例外』](#)

このトピックでは、診断メッセージが、発信元の Microsoft Windows Communication Foundation (WCF) カスタム・チャネルの部分に従ってグループ化された番号順にリストされています。

WCFCH0001E-0100E: 一般/状態メッセージ

以下の情報は、WCFCH0001E-0100E 一般/状態メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0001E

オブジェクトの状態が '{0}' であるため、そのオブジェクトを開けません。

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。 [IBM MQ サポート Web ページ](#)、または [IBM Support Assistant Web ページ](#) のいずれかを使用して解決策が既に利用可能かどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

WCFCH0002E

オブジェクトの状態が '{0}' であるため、そのオブジェクトを閉じることができません。

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。 [IBM MQ サポート Web ページ](#)、または [IBM Support Assistant Web ページ](#) のいずれかを使用して解決策が既に利用可能かどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

WCFCH0003E

オブジェクトの状態が '{0}' であるため、そのオブジェクトを使用できません。

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。 [IBM MQ サポート Web ページ](#)、または [IBM Support Assistant Web ページ](#) のいずれかを使用して解決策が既に利用可能かどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

WCFCH0004E

指定された 'Timeout' 値 '{0}' は範囲外です。

説明

値が範囲外です。この値は、'TimeSpan.Zero' 以上でなければなりません。

応答

範囲内の値を指定するか、'TimeSpan.MaxValue' 値を指定してタイムアウトを使用不可にしてください。

WCFCH0005E

エンドポイント・アドレス '{1}' の操作が、指定された時間の '{0}' 内に完了しませんでした。

説明

タイムアウトが発生しました。

応答

タイムアウトの原因を調査してください。

WCFCH0006E

パラメーター '{0}' は予期されたタイプ '{1}' のパラメーターではありません。

説明

予期しないタイプのパラメーターがメソッド呼び出しに渡されました。

応答

例外スタック・トレースを参照し、詳細情報を確認してください。

WCFCH0007E

パラメーター '{0}' をヌルにすることはできません。

説明

必須パラメーターがヌル値に設定されたメソッドが呼び出されました。

応答

このパラメーターの値を指定するようにアプリケーションを変更してください。

WCFCH0008E

エンドポイント・アドレス '{0}' の操作を処理中にエラーが発生しました。

説明

操作を完了できませんでした。

応答

詳細については、リンクされている例外およびスタック・トレースを調べてください。

WCFCH0101E-0200E: URI プロパティ・メッセージ

以下の情報は、WCFCH0101E-0200E URI プロパティ・メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0101E

エンドポイント URI は、有効な文字ストリング '{0}' で開始する必要があります。

説明

エンドポイント URI が間違っています。有効な文字ストリングで開始する必要があります。

応答

有効な文字ストリングで始まるエンドポイント URI を指定してください。

WCFCH0102E

エンドポイント URI には、値が指定された '{0}' パラメーターが含まれている必要があります。

説明

エンドポイント URI が間違っています。パラメーターとその値が欠落しています。

応答

値を持つエンドポイント URI をこのパラメーターに指定してください。

WCFCH0103E

エンドポイント URI には、値 '{1}' が指定された '{0}' パラメーターが含まれている必要があります。

説明

エンドポイント URI が間違っています。パラメーターには正しい値が含まれていなければなりません。

応答

正しいパラメーターと値を持つエンドポイント URI を指定してください。

WCFCH0104E

エンドポイント URI に、無効な値 '{1}' が指定された '{0}' パラメーターが含まれています。

説明

エンドポイント URI が間違っています。有効なパラメーター値を指定する必要があります。

応答

正しい値を持つエンドポイント URI をこのパラメーターに指定してください。

WCFCH0105E

エンドポイント URI に、無効なキューまたはキュー・マネージャー名が指定された '{0}' パラメーターが含まれています。

説明

エンドポイント URI が間違っています。有効なキューおよびキュー・マネージャー名を指定する必要があります。

応答

キューおよびキュー・マネージャーの有効な値を持つエンドポイント URI を指定してください。

WCFCH0106E

'{0}' プロパティは必須プロパティであり、エンドポイント URI の最初のプロパティとして表示される必要があります。

説明

エンドポイント URI が間違っています。パラメーターが欠落しているか、間違った位置にあります。

応答

このプロパティを最初のパラメーターとして含むエンドポイント URI を指定してください。

WCFCH0107E

バイディング・プロパティが '{0}' に設定されている場合、プロパティ '{1}' を使用できません。

説明

エンドポイント URI の connectionFactory パラメーターが間違っています。無効な組み合わせのプロパティが使用されています。

応答

有効な組み合わせのプロパティまたはバイディングを含むエンドポイント URI connectionFactory を指定してください。

WCFCH0109E

プロパティ '{0}' が指定されている場合、プロパティ '{1}' も指定する必要があります。

説明

エンドポイント URI の connectionFactory パラメーターが間違っています。無効な組み合わせのプロパティが含まれています。

応答

有効な組み合わせのプロパティを含むエンドポイント URI connectionFactory を指定してください。

WCFCH0110E

プロパティ '{0}' に、無効な値 '{1}' が指定されています。

説明

エンドポイント URI の connectionFactory パラメーターが間違っています。プロパティに有効な値が含まれていません。

応答

有効なプロパティ値を含むエンドポイント URI connectionFactory を指定してください。

WCFCH0111E

バイディング・モード・プロパティでは値 '{0}' はサポートされていません。XA 操作はサポートされていません。

説明

エンドポイント URI の connectionFactory パラメーターが間違っています。このバイディング・モードはサポートされていません。

応答

バイディング・モードの有効な値を含むエンドポイント URI connectionFactory を指定してください。

WCFCH0112E

エンドポイント URI '{0}' のフォーマットが間違っています。

説明

エンドポイント URI は、文書で説明されているフォーマットに従う必要があります。

応答

エンドポイント URI を検討して、それに有効な値が含まれていることを確認してください。

WCFCH0201E-0300E: ファクトリー/リスナー・メッセージ

以下の情報は、WCFCH0201E-0300E ファクトリー/リスナー・メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0201E

チャンネル形状 '{0}' はサポートされていません。

説明

ユーザー・アプリケーションまたは WCF サービス・コントラクトが、サポートされていないチャンネル形状を要求しました。

応答

チャンネルによってサポートされているチャンネル形状を特定して、使用してください。

WCFCH0202E

'{0}' MessageEncodingBindingElements が指定されました。

説明

アプリケーションによって使用されている WCF バインディング構成には、複数のメッセージ・エンコーダーが含まれています。

応答

バインディング構成には MessageEncodingBindingElement を 1 つだけ指定してください。

WCFCH0203E

サービス・リスナーのエンドポイント URI アドレスは、指定されたとおり正確に使用する必要があります。

説明

エンドポイント URI アドレスのバインディング情報では、'listenUriMode' パラメーターには値 'Explicit' を指定する必要があります。

応答

パラメーター値を 'Explicit' に変更してください。

WCFCH0204E

TLS は管理対象クライアント接続 [エンドポイント URI: '{0}'] ではサポートされていません。

説明

エンドポイント URI は、非管理対象クライアント接続のためにのみサポートされている TLS 接続タイプを指定しています。

応答

チャンネルのバインディング・プロパティを、非管理クライアント接続モードを指定するように変更してください。

関連概念

[WCF カスタム・チャンネルの形状](#)

WCFCH0301E-0400E: チャンネル・メッセージ

以下の情報は、WCFCH0301E-0400E チャンネル・メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0301E

URI スキーム '{0}' はサポートされていません。

説明

要求されたエンドポイントには、チャンネルでサポートされていない URI スキームが含まれています。

応答

チャンネルに有効なスキームを指定してください。

WCFCH0302E

受信されたメッセージ '{0}' は、JMS バイト・メッセージまたは JMS テキスト・メッセージではありませんでした。

説明

メッセージが受信されましたが、正しいタイプではありません。これは、JMS バイト・メッセージか JMS テキスト・メッセージのいずれかである必要があります。

応答

メッセージの発信元と内容を確認して、メッセージが正しくない原因を判別してください。

WCFCH0303E

'ReplyTo' 宛先が欠落しています。

説明

元の要求に 'ReplyTo' 宛先が含まれていないため、応答を送信できません。

応答

宛先値が欠落している原因を調査してください。

WCFCH0304E

キュー・マネージャー '{0}' への接続の試行がエンドポイント '{1}' で失敗しました

説明

指定されたアドレスでキュー・マネージャーに接続できませんでした。

応答

詳しくは、リンクされている例外を調べてください。

WCFCH0305E

デフォルトのキュー・マネージャーへの接続の試行がエンドポイント '{0}' で失敗しました

説明

指定されたアドレスでキュー・マネージャーに接続できませんでした。

応答

詳しくは、リンクされている例外を調べてください。

WCFCH0306E

エンドポイント '{0}' からデータを受信しようとしたときにエラーが発生しました。

説明

操作を完了できませんでした。

応答

詳しくは、リンクされている例外を調べてください。

WCFCH0307E

エンドポイント '{0}' にデータを送信しようとしたときにエラーが発生しました

説明

操作を完了できませんでした。

応答

詳しくは、リンクされている例外を調べてください。

WCFCH0308E

エンドポイント '{0}' のチャンネルを閉じようとしたときにエラーが発生しました

説明

操作を完了できませんでした。

応答

詳しくは、リンクされている例外を調べてください。

WCFCH0309E

エンドポイント '{0}' のチャンネルを開こうとしたときにエラーが発生しました

説明

操作を完了できませんでした。

応答

エンドポイントがダウンしたか、使用不可であるか、到達不能である可能性があります詳細については、リンクされている例外を検討してください。

WCFCH0310E

タイムアウト '{0}' が、エンドポイント '{0}' からデータを受信しようとしたときに超過しました

説明

許容時間内に操作が完了しませんでした。

応答

システムの状況および構成を確認して、必要に応じてタイムアウトの値を増やしてください。

WCFCH0311E

タイムアウト '{0}' が、エンドポイント '{0}' にデータを送信しようとしたときに超過しました

説明

許容時間内に操作が完了しませんでした。

応答

システムの状況および構成を確認して、必要に応じてタイムアウトの値を増やしてください。

WCFCH0312E

タイムアウト '{0}' が、エンドポイント '{0}' のチャンネルを閉じようとしたときに超過しました

説明

許容時間内に操作が完了しませんでした。

応答

システムの状況および構成を確認して、必要に応じてタイムアウトの値を増やしてください。

WCFCH0313E

タイムアウト '{0}' が、エンドポイント '{0}' のチャンネルを開こうとしたときに超過しました

説明

許容時間内に操作が完了しませんでした。

応答

エンドポイントがダウンしたか、使用不可であるか、到達不能である可能性があります。システム状況と構成を検討して、必要であればタイムアウトを増やしてください。

WCFCH0401E-0500E: バインディング・メッセージ

以下の情報は、WCFCH0401E-0500E バインディング・メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0401E

コンテキストなし

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。IBM Support Portal for IBM MQ (https://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/WebSphere/WebSphere_MQ (英語) を参照)、または IBM Support Assistant (https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) のいずれかを使用して、解決策が既に示されているかどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

WCFCH0402E

チャンネル・タイプ '{0}' はサポートされていません。

説明

ユーザー・アプリケーションまたは WCF サービス・コントラクトが、サポートされていないチャンネル形状を要求しました。

応答

チャンネルによってサポートされているチャンネル形状を特定して、使用してください。

WCFCH0403E

エクスポートがありません。

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。IBM Support Portal for IBM MQ (https://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/WebSphere/WebSphere_MQ (英語) を参照)、または IBM Support Assistant (https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) のいずれかを使用して、解決策が既に示されているかどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

WCFCH0404E

WS-Addressing バージョン '{0}' はサポートされていません。

説明

指定されたアドレッシング・バージョンはサポートされていません。

応答

サポートされているアドレッシング・バージョンを指定してください。

WCFCH0405E

インポーターがありません。

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。IBM Support Portal for IBM MQ (https://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/WebSphere/WebSphere_MQ (英語) を参照)、または IBM Support Assistant (https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) のいずれかを使用して、解決策が既に示されているかどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

WCFCH0406E

エンドポイント 'Binding' 値が欠落しています。

説明

内部エラーが発生しました。

応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。IBM Support Portal for IBM MQ (https://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/WebSphere/WebSphere_MQ (英語) を参照)、または IBM Support Assistant (https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) のいずれかを使用して、解決策が既に示されているかどうかを確認してください。一致するものが見つからない場合、IBM サポート・センターに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

関連概念

[WCF カスタム・チャンネルの形状](#)

WCFCH0501E-0600E: バインディング・プロパティ・メッセージ

以下の情報は、WCFCH0501E-0600E バインディング・プロパティ・メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0501E

バインディング・プロパティ '{0}' に無効な値 '{1}' が指定されています。

説明

バインディング・プロパティに無効な値が指定されています。

応答

プロパティに有効な値を指定してください。

WCFCH0601E-0700E: 非同期操作メッセージ

以下の情報は、WCFCH0601E-0700E 非同期操作メッセージについて理解するために使用します。

WCFCH0601E

非同期結果パラメーター '{0}' のオブジェクトは、この呼び出しでは無効です。

説明

無効な非同期結果オブジェクトが指定されました。

応答

パラメーターに有効な値を指定してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

IBM 本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権(特許出願中のものを含む)を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

U.S.A.

For license inquiries regarding double-byte (DBCS) information, contact the IBM Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

Intellectual Property Licensing

Legal and Intellectual Property Law

〒 103-8510

19-21, Nihonbashi-Hakozakicho, Chuo-ku

Tokyo 103-8510, Japan

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 INTERNATIONAL BUSINESS MACHINES CORPORATION は、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。"" 国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム(本プログラムを含む)との間での情報交換、および(ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

Software Interoperability Coordinator, Department 49XA

3605 Highway 52 N

Rochester, MN 55901

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っていません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報 (提供されている場合) は、このプログラムで使用するアプリケーション・ソフトウェアの作成を支援することを目的としています。

本書には、プログラムを作成するユーザーが WebSphere MQ のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースに関する情報が記載されています。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

重要: この診断、修正、およびチューニング情報は、変更される可能性があるため、プログラミング・インターフェースとして使用しないでください。

商標

IBM、IBM ロゴ、ibm.com[®]は、世界の多くの国で登録された IBM Corporation の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、"Copyright and trademark information" www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標です。

この製品には、Eclipse Project (<https://www.eclipse.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。



部品番号:

(1P) P/N: